

The IBM logo is centered on a white background. It consists of the letters 'IBM' in a bold, blue, sans-serif font. The letters are composed of horizontal stripes, with the 'I' having three stripes, the 'B' having six stripes, and the 'M' having three stripes. The logo is framed by a large, light blue circular graphic that is partially visible at the top and bottom edges of the page.

IBM

目次

ようこそ	1
IBM Cast Iron スタートアップ・ガイド	1
このリリースの新機能	1
概要	4
開発環境	4
開発プロセス例	6
統合アプライアンス	7
Web 管理コンソール	7
Studio	8
「プロジェクト」タブ	9
「アクティビティー」タブ	11
「変数」タブ	12
「関数」タブ	12
「検査」タブ	13
ノードおよびマッピングの理解	15
パラメーターの理解	16
インストールおよび構成	17
デプロイメントの概念	18
構成について	19
プロジェクトを開発する前に	20
統合プロジェクトの計画	21
プロジェクト要件から Studio コンポーネントへの変換	22
統合アプライアンスの構成のヒント	23
Studio のベスト・プラクティス	24
用語集	25
リーガル情報	28
特記事項	28
インフォメーション・センターの使用条件	31
Cast Iron Studio	32
IBM Cast Iron Studio	32
プロジェクトの操作	33
Studio の基礎	35
新規プロジェクトの作成	41
プロジェクトをパスワードで保護する	41
プロジェクトに関連するパスワードの変更	42
プロジェクトに関連するパスワードの削除	43
プロジェクトを開く	44
プロジェクトの保存	44
プロジェクト名の変更	45

プロジェクトの公開	46
プロジェクトのエクスポート	47
プロジェクト設定の構成	48
プリファレンスの設定	49
プロジェクトの設定	50
オーケストレーションの設定	52
その他の設定	53
構成プロパティの作成	56
構成プロパティの編集	58
グローバル構成プロパティの作成	59
テンプレート統合プロジェクト (TIP) の検索	60
モジュール・プロバイダー・ライブラリーのインストール	61
プロジェクトへのファイルのアップロード	62
マウスを使用した、プロジェクトへのファイルのアップロード	63
「文書の追加」ボタンを使用した、プロジェクトへのファイルのアップロード	64
組み込まれている XML スキーマのアップロード	65
アップロードするファイルのロケーションの指定	70
プロジェクトで有効な外部ファイル・タイプ	70
有効な名前について	71
「元に戻す」および「やり直し」	73
変更された XML スキーマの更新	74
プロジェクト・エクスプローラーの使用	76
HTTP Post ユーティリティの使用	76
オーケストレーション	77
オーケストレーション間の接続の構成	79
オーケストレーションの作成	80
オーケストレーションの名前変更	80
オーケストレーションのビルド	81
オーケストレーションの検査	82
Studio での SSL の使用	84
エンド・エンティティ証明書のインポート	86
認証局 (CA) 証明書のインポート	87
SSL サーバー認証	88
SSL サーバー接続のテスト	89
SSL クライアント認証	90
ログ・ビューアーの使用	90
オーケストレーションの表示	91
オーケストレーションの妥当性検査	93
オーケストレーション内のアクティビティの処理	95
オーケストレーションの印刷	97
オーケストレーション・ジョブを順に処理	97
パーシスタンスを使用可能にする	98
グローバル例外ハンドラーのオーケストレーションへの追加	100
オーケストレーションのイメージの保存	101
接続アクティビティ	102
エンドポイントの作成	103

プラグイン・コネクターのダウンロード	104
プラグイン・コネクターのアンインストール	105
既存のエンドポイントの使用	106
ポーリング間隔の動作	106
シフト JIS エンコードの使用	107
テンプレート統合プロセス (TIP)	108
テンプレート統合プロジェクト (TIP) 構成エディターについて	109
テンプレート統合プロジェクト (TIP) の作成	110
テンプレート統合プロジェクト (TIP) の変更	111
テンプレート統合プロジェクト (TIP) の検査	112
テンプレート統合プロジェクト (TIP) の検索	60
テンプレート統合プロジェクト (TIP) のレーティングおよびレビュー	114
「パブリッシュ・レビュー」 ダイアログ・ボックスによるテンプレート統合プロジェクト (TIP) のレーティングおよびレビュー	115
テンプレート統合プロジェクト (TIP) を Cast Iron ソリューション・リポジトリにアップロード	116
変換アクティビティ	117
「変数のマップ」 アクティビティ	118
「MIME の読み取り」 アクティビティ	119
「MIME の読み取り」 アクティビティのオーケストレーションへの追加	121
アクティビティの入力のマッピング	121
アクティビティへの出力のマッピング	123
「MIME の書き込み」 アクティビティ	124
「MIME の書き込み」 アクティビティのオーケストレーションへの追加	125
アクティビティの入力のマッピング	126
アクティビティへの出力のマッピング	129
「XML の読み取り」 アクティビティ	129
「XML の読み取り」 アクティビティ構成	130
「XML の読み取り」 の入力のマッピング	131
「XML の読み取り」 の出力のマッピング	132
「XML の書き込み」 アクティビティ	133
「XML の書き込み」 アクティビティ構成	134
「XML の書き込み」 の入力のマッピング	134
「XML の書き込み」 の出力のマッピング	135
XML 検証アクティビティ	136
「XML 検証」 アクティビティのオーケストレーションへの追加	137
「XML 検証」 アクティビティの構成	138
アクティビティへの入力のマッピング	139
アクティビティへの出力のマッピング - XML 検証	139
「JSON の読み取り」 アクティビティ	140
「JSON の読み取り」 アクティビティ構成	141
「JSON の読み取り」 の入力のマッピング	142
「JSON の読み取り」 の出力のマッピング	143
「JSON の書き込み」 アクティビティ	144
「JSON の書き込み」 アクティビティ構成	145
「JSON の書き込み」 の入力のマッピング	146
「JSON の書き込み」 の出力のマッピング	147

JSON 検証アクティビティ	147
「JSON 検証」アクティビティのオーケストレーションへの追加	149
「JSON 検証」アクティビティの構成	149
アクティビティへの入力のマッピング - JSON 検証	150
アクティビティへの出力のマッピング - JSON 検証	151
「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティ	152
「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティ構成	153
「フラット・ファイルの読み取り」の入力のマップ	154
「フラット・ファイルの読み取り」の出力のマップ	155
「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティ	156
「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティ構成	157
「フラット・ファイルの書き込み」マップの入出力	158
「XSLT の適用」アクティビティ	159
ロジック・アクティビティ	160
ロジック・アクティビティの概要	161
「終了」アクティビティ	162
「選出」アクティビティ	162
「If..Then」アクティビティ	164
「Try」アクティビティ	166
「グループ」アクティビティ	167
While ループ・アクティビティ	168
For Each アクティビティ	169
Split アクティビティ	170
「ループのブレイク」アクティビティ	171
「継続」アクティビティ	173
「If..Then」アクティビティへのブランチの追加	173
ブランチの移動	174
条件の定義	175
基本条件構文	176
bpws:getVariableData 関数	177
基本 XPath 式	177
XPath 式のテスト	180
ユーティリティ・アクティビティ	183
「ジョブ・キーの作成」アクティビティ	183
ジョブ・キーの作成	184
「ログ・メッセージ」アクティビティ	185
「ジョブのスケジュール」アクティビティ	186
アーカイブ・アクティビティ	188
「アーカイブ」アクティビティ	188
「アーカイブ」アクティビティの追加	189
「アーカイブ」アクティビティの構成	189
「アーカイブ」アクティビティの入力のマッピング	191
「アーカイブ」アクティビティの出力のマッピング	193
「解凍」アクティビティ	194
「解凍」アクティビティの追加	195
「解凍」アクティビティ入力のマップ	196

「解凍」アクティビティー出力のマップ	197
Cryptoservice アクティビティー	199
PGP アクティビティーの概要	199
「PGP 暗号化」アクティビティーの使用	200
「PGP 暗号化解除」アクティビティーの使用	202
PGP 鍵のインポート	203
トラブルシューティングとサポート	204
データ品質アクティビティー	205
データ品質アクティビティーについて	206
「フィルターおよびプロファイル」アクティビティー	207
「フィルターおよびプロファイル」アクティビティーの構成	207
フィルターおよびプロファイル・アクティビティーの出力のマッピング	208
プロファイル要約の作成	208
フィルター式	210
フィルター式の作成	210
フィルター式条件の追加	211
フィルター式条件の削除	212
フィルター式条件の編集	212
フィルター式条件の処理順序の変更	213
「ルックアップ」アクティビティー	213
「ルックアップ」アクティビティーの使用	214
「ルックアップ」アクティビティー出力のマッピング	217
「ソート」アクティビティー	217
「マージ」アクティビティー	218
ソートされた2つの入力のマージ	220
データベース・アクティビティー	222
データベース・アクティビティー・エンドポイントの作成または編集	223
データベース表の表示	228
文字エンコード	229
データベース・エンティティーおよびアクティビティー	230
更新において古い値に対して列を定義	232
MaxPooledStatements パラメーター	234
Oracle、Sybase、DB2、および Informix のパラメーター	235
インバウンド・データベース・アクティビティーの再試行オプション	236
アウトバウンド・データベース・アクティビティーの再試行オプション	238
SequeLink パラメーター	240
単一表インバウンド・データベース・アクティビティー	241
単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティー	245
データベース・アクティビティーのための「配信ルール」の指定	250
列の詳細の表示	253
データベース・パラメーターの操作	254
「プロシーチャーの呼び出し」アクティビティー	255
「照会の実行」アクティビティー	258
「表のポーリング」アクティビティー	261
SSL データベース接続のテスト	266
Domino アクティビティー	266

IBM Domino コネクターの概要	268
Lotus Domino アクティビティのエンドポイントの作成または編集	269
Lotus Domino 文書の作成	270
Lotus Domino 文書の更新	274
Lotus Domino 文書の取得	277
IBM Domino 文書の照会	280
ビューでの Lotus Domino 文書の照会	285
Lotus Domino 文書の削除	287
Lotus Domino アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定	290
Lotus Domino インバウンド・アクティビティを使用するための前提条件	292
「作成済み文書の取得」アクティビティ	294
「更新済み文書の取得」アクティビティ	295
「削除済み文書の取得」アクティビティ	297
日時データ型およびタイム・ゾーン・データ型の処理	299
Lotus Domino コネクタでのリッチ・テキスト・サポート	300
トラブルシューティングとサポート	301
E メール・アクティビティ	302
E メール・エンドポイントの作成または編集	302
「Eメールの取得」アクティビティ	306
「Eメールの送信」アクティビティ	311
SSL Eメール接続のテスト	315
Force.com Bulk API アクティビティ	316
Force.com Bulk API コネクタ用のデータの準備	317
Force.com Bulk API エンドポイントの作成	318
Force.com Bulk API アクティビティの再試行オプションの指定	319
Force.com Bulk API バッチ挿入アクティビティの使用	320
Force.com Bulk API バッチ更新アクティビティの使用	322
Force.com Bulk API バッチ Upsert アクティビティの使用	323
Force.com Bulk API バッチ削除アクティビティの使用	325
Force.com Bulk API バッチ状況の取得アクティビティの使用	326
Force.com Bulk API バッチ結果の取得アクティビティの使用	327
FTP アクティビティ	328
FTP エンドポイントの作成または編集	330
ディレクトリー・リストの解析の例に合わせた FTP エンドポイントの構成	332
「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティ	335
「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティ	343
「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティ	350
「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティ	356
「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティ	361
「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティ	368
ディレクトリー・リストの解析の例	374
FTPS サーバー接続のテスト	376
HTTP アクティビティ	377
HTTP エンドポイントの作成または編集	378
「HTTP 受信要求」アクティビティ	385
「HTTP 受信要求」アクティビティによる圧縮解除	389

「HTTP 応答送信」 アクティビティ	392
「HTTP 応答送信」 アクティビティによる圧縮/圧縮解除	396
「HTTP: POST 要求」 アクティビティ	398
「HTTP GET 要求」 アクティビティ	406
「HTTP HEAD 要求」アクティビティ	414
「HTTP INVOKE 要求」 アクティビティ	422
「HTTP PUT 要求」 アクティビティ	430
「HTTP DELETE 要求」アクティビティ	438
「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」 アクティビティによる圧縮/圧縮解除	446
トラブルシューティングとサポート	451
JDE アクティビティ	452
JD Edwards (JDE) コネクタの概要	453
JDE アクティビティのエンドポイントの作成または編集	454
JDE ライブラリーのインポート	455
JDE サーバーに接続する JAR ファイルのインストール	456
JDE 「ビジネス関数の呼び出し」 アクティビティの使用	457
JDE 「リアルタイム・イベントのポーリング」 アクティビティの使用	459
JDE アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定	460
JMS アクティビティ	462
JMS エンドポイントの作成または編集	463
JMS アクティビティのための「配信ルール」パラメーターと「再試行」パラメーターの指定	465
JMS アクティビティのための「配信ルール」パラメーターの指定	466
JMS アクティビティのための「再試行」パラメーターの指定	467
「メッセージの取得」アクティビティ	467
JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加	468
アクティビティ名の変更	469
JMS エンドポイントの選出	469
「メッセージの取得」アクティビティの構成	470
入力のマッピング	470
出力のマッピング	471
「メッセージのポーリング」アクティビティ	472
JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加	473
アクティビティ名の変更	474
JMS エンドポイントの選出	474
「メッセージのポーリング」アクティビティの構成	474
出力のマッピング	475
「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ	476
JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加	477
アクティビティ名の変更	477
JMS エンドポイントの選出	478
「メッセージのパブリッシュ」アクティビティの構成	478
入力のマッピング	479
「メッセージの送信」アクティビティ	480
JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加	481
アクティビティ名の変更	481
JMS エンドポイントの選出	482

「メッセージの送信」アクティビティの構成	482
入力のマッピング	483
「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ	484
JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加	484
アクティビティ名の変更	485
JMS エンドポイントの選出	485
「メッセージのサブスクライブ」アクティビティの構成	486
出力のマッピング	487
WebLogic サーバーへの JMS エンドポイントの作成	488
MQ アクティビティ	489
MQ アクティビティ・エンドポイントの作成または編集	490
MQ システムに接続する JAR ファイルのインストール	492
MQRFH2 ヘッダーの XML スキーマの定義およびロード	493
「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティ	494
「MQ メッセージの書き込み (MQ Put Message)」アクティビティ	499
「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」アクティビティ	502
MQRFH2 XML データおよびスキーマの例	505
NetSuite アクティビティ	508
NetSuite エンドポイントの作成または編集	510
「レコードの追加」アクティビティ	512
「レコードの追加」アクティビティの使用	512
「レコードの追加」アクティビティの入力のマッピング	514
「レコードの追加」アクティビティの出力のマッピング	514
「レコードの接続」アクティビティ	515
「レコードの接続」アクティビティの使用	516
「レコードの接続」アクティビティの入力のマッピング	517
「レコードの接続」アクティビティの出力のマッピング	517
「レコードの削除」アクティビティ	518
「レコードの削除」アクティビティの使用	518
「レコードの削除」アクティビティの入力のマッピング	520
「レコードの削除」アクティビティの出力のマッピング	520
「レコードの切り離し」アクティビティ	521
「レコードの切り離し」アクティビティの使用	522
「レコードの切り離し」アクティビティの入力のマッピング	523
「レコードの切り離し」アクティビティの出力のマッピング	524
「レコードの取得」アクティビティ	524
「レコードの取得」アクティビティの使用	525
「レコードの取得」アクティビティの入力のマッピング	526
「レコードの取得」アクティビティの出力のマッピング	527
「レコードの初期化」アクティビティ	527
「レコードの初期化」アクティビティの使用	528
「レコードの初期化」アクティビティの入力のマッピング	530
「レコードの初期化」アクティビティの出力のマッピング	530
「レコード内の検索」アクティビティ	531
「レコード内の検索」アクティビティの使用	532
「レコード内の検索」アクティビティの入力のマッピング	533

「レコード内の検索」 アクティビティの出力のマッピング	534
「レコードの更新」 アクティビティ	534
「レコードの更新」 アクティビティの使用	535
「レコードの更新」 アクティビティの入力のマッピング	536
「レコードの更新」 アクティビティの出力のマッピング	537
「レコードのアップサート」 アクティビティ	537
「レコードのアップサート」 アクティビティの使用	538
「レコードのアップサート」 アクティビティの入力のマッピング	539
「レコードのアップサート」 アクティビティの出力のマッピング	540
Oracle CRM On Demand アクティビティ	541
Oracle CRM On Demand エンドポイントの作成または編集	541
Oracle CRM On Demand アクティビティの再試行オプションの指定	542
Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの挿入」 アクティビティの使用	544
Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの更新」 アクティビティの使用	546
Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの照会」 アクティビティの使用	547
Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用	549
Oracle E-Business Suite アクティビティ	550
Oracle E-Business Suite コネクターの概要	551
Oracle E-Business Suite に接続する JAR ファイルのインストール	551
Oracle E-Business Suite アクティビティのエンドポイントの作成または編集	552
Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用	554
Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの更新」 アクティビティの使用	555
Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用	557
Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの取得」 アクティビティの使用	558
Oracle E-Business Suite アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定	560
PeopleSoft アクティビティ	561
PeopleSoft コネクターの概要	562
PeopleSoft アクティビティのエンドポイントの作成または編集	563
PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール	565
PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの作成」 アクティビティの使用	566
PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの更新」 アクティビティの使用	567
PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの削除」 アクティビティの使用	569
PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの取得」 アクティビティの使用	571
PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの検索」 アクティビティの使用	572
イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイル	574
PeopleSoft 「作成済みコンポーネント・インターフェースの取得」 アクティビティの使用	577
PeopleSoft 「更新済みコンポーネント・インターフェースの取得」 アクティビティの使用	579
PeopleSoft 「削除済みコンポーネント・インターフェースの取得」 アクティビティの使用	580
PeopleSoft アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定	582
RightNow SOAP API アクティビティ	584
RightNow SOAP API コネクターの概要	585
RightNow SOAP API エンドポイントの作成および編集	586
RightNow SOAP API 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用	587
RightNow SOAP API 「オブジェクトの取得」 アクティビティの使用	589
RightNow SOAP API 「オブジェクトの更新」 アクティビティの使用	590
RightNow SOAP API 「オブジェクトの破棄」 アクティビティの使用	592

RightNow SOAP API 「オブジェクトの照会」 アクティビティの使用	593
RightNow SOAP API アクティビティのための再試行パラメーターの指定	595
Salesforce.com アクティビティ	596
Salesforce.com エンドポイントの作成または編集	598
Salesforce.com アクティビティの構成	600
Salesforce.com プロジェクトのマイグレーション	601
Salesforce.com 構成プロパティの設定	602
Salesforce.com アクティビティのための「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定	602
Salesforce.com Connector のポーリング・プリファレンスの理解および設定	603
「リードの変換」 アクティビティ	605
「リードの変換」 アクティビティの入力をマップする	605
「リードの変換」 アクティビティの出力をマップする	606
「パスワードの設定」 アクティビティ	607
「パスワードのリセット」 アクティビティ	608
「Eメールの送信」 アクティビティ	609
「オブジェクトの作成」 アクティビティ	611
「オブジェクトの作成」 アクティビティの入力をマップする	611
「オブジェクトの作成」 アクティビティの出力をマップする	612
「オブジェクトの削除」 アクティビティ	613
「オブジェクトの削除」 アクティビティの入力をマップする	614
「オブジェクトの削除」 アクティビティの出力をマップする	614
削除済みオブジェクトの取得	615
「削除済みオブジェクトの取得」 アクティビティの入力をマップする	615
「削除済みオブジェクトの取得」 アクティビティの出力をマップする	616
更新済みオブジェクトの取得	617
「更新済みオブジェクトの取得」 アクティビティの入力をマップする	618
「更新済みオブジェクトの取得」 アクティビティの出力をマップする	618
「ユーザー情報の取得」 アクティビティ	619
「ユーザー情報の取得」 アクティビティの出力をマップする	620
「サーバー・タイム・スタンプの取得」 アクティビティ	620
「サーバー・タイム・スタンプの取得」 アクティビティの出力をマップする	621
「オブジェクトのマージ」 アクティビティ	621
「オブジェクトのマージ」 アクティビティの入力をマップする	622
「オブジェクトのマージ」 アクティビティの出力をマップする	623
「削除対象オブジェクトのポーリング」 アクティビティ	624
「削除対象オブジェクトのポーリング」 アクティビティの出力をマップする	625
「更新対象オブジェクトのポーリング」 アクティビティ	625
「更新対象オブジェクトのポーリング」 アクティビティの出力をマップする	626
「オブジェクトの照会」 アクティビティ	627
「オブジェクトの照会」 アクティビティの構成	629
「オブジェクトの取得」 アクティビティ	631
「オブジェクト内の検索」 アクティビティ	633
「オブジェクトの削除を取り消す」 アクティビティ	634
「オブジェクト内の検索」 アクティビティの構成	635
「オブジェクトの更新」 アクティビティ	637
「オブジェクトのアップサート」 アクティビティ	639

SAP アクティビティ	640
SAP コネクターの概要	641
SAP エンドポイントの作成または編集	642
SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール	645
SAP コネクターのためのシングル・サインオン (SSO) とセキュア・ネットワーク通信 (SNC) の構成	646
「SAP: BAPI の呼び出し」 アクティビティ	647
「SAP: RFC の呼び出し」 アクティビティ	651
「SAP: IDOC の受信」 アクティビティ	656
「SAP: IDOC の送信」 アクティビティ	657
「SAP: RFC の受信」 アクティビティ	661
SAP 「RFC 応答の送信」 アクティビティ	663
トラブルシューティングとサポート	664
ServiceMax アクティビティ	670
ServiceMax エンドポイントの作成または編集	672
ServiceMax アクティビティの構成	674
ServiceMax 構成プロパティの設定	675
ServiceMax アクティビティのための「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定	675
ServiceMax コネクターのポーリング・プリファレンスの理解および設定	676
「更新対象オブジェクトのポーリング」 アクティビティ	678
更新済みオブジェクトの取得	679
「削除対象オブジェクトのポーリング」 アクティビティ	681
削除済みオブジェクトの取得	682
「オブジェクトの作成」 アクティビティ	683
「オブジェクトの更新」 アクティビティ	685
「オブジェクトのアップサート」 アクティビティ	687
「オブジェクトの削除」 アクティビティ	688
「オブジェクトの削除を取り消す」 アクティビティ	690
「オブジェクトの取得」 アクティビティ	691
「オブジェクトの照会」 アクティビティ	627
「オブジェクトの照会」 アクティビティの構成	694
「オブジェクト内の検索」 アクティビティ	697
「オブジェクト内の検索」 アクティビティの構成	698
「リードの変換」 アクティビティ	700
「オブジェクトのマージ」 アクティビティ	702
「ユーザー情報の取得」 アクティビティ	704
「サーバー・タイム・スタンプの取得」 アクティビティ	705
「Eメールの送信」 アクティビティ	706
「パスワードの設定」 アクティビティ	707
「パスワードのリセット」 アクティビティ	708
Siebel アクティビティ	710
Siebel コネクターの概要	711
Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール	712
Siebel エンドポイントの作成または編集	713
Siebel 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用	716
Siebel 「オブジェクトの更新」 アクティビティの使用	718
Siebel 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用	720

Siebel 「オブジェクトの照会」 アクティビティーの使用	722
Siebel 「ビジネス・サービスの実行」 アクティビティーの使用	725
Siebel のスターター・アクティビティーの前提条件	726
Siebel 「作成済みオブジェクトの取得」 アクティビティーの使用	729
Siebel 「更新済みオブジェクトの取得」 アクティビティーの使用	730
Siebel 「削除済みオブジェクトの取得」 アクティビティーの使用	732
Siebel アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定	734
Siebel プロパティー・ファイル	737
セキュリティー・トークン・サービス (STS) アクティビティー	738
STS エンドポイントの作成または編集	739
STS 「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティーの使用	742
SugarCRM アクティビティー	745
SugarCRM エンドポイントの作成および編集	746
SugarCRM 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティーの使用	747
SugarCRM 「レポートの取得」 アクティビティーの使用	749
SugarCRM 「オブジェクトの削除」 アクティビティーの使用	750
SugarCRM 「オブジェクトの取得」 アクティビティーの使用	751
SugarCRM 「オブジェクトの照会」 アクティビティーの使用	753
SugarCRM 「ServerInfo の取得」 アクティビティーの使用	754
SugarCRM 「UserInfo の取得」 アクティビティーの使用	755
SugarCRM 「検索」 アクティビティーの使用	756
SugarCRM 「関係の設定」 アクティビティーの使用	757
SugarCRM 「関係の削除」 アクティビティーの使用	759
SugarCRM 「関係の取得」 アクティビティーの使用	760
SugarCRM アクティビティーの再試行オプションの指定	762
Taleo アクティビティー	763
Taleo エンドポイントの作成および編集	764
Taleo 「添付ファイルの作成 (Create Attachments)」 アクティビティーの使用	766
Taleo 「オブジェクトの作成」 アクティビティーの使用	767
Taleo 「オブジェクトの取得」 アクティビティーの使用	768
Taleo 「オブジェクト内の検索」 アクティビティーの使用	770
Taleo 「オブジェクトの削除」 アクティビティーの使用	771
Taleo 「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」 アクティビティーの使用	772
Taleo 「バイナリー・レジユメの設定 (Set Binary Resume)」 アクティビティーの使用	774
Taleo 「候補者の送信 (Submit Candidates)」 アクティビティーの使用	775
Taleo 「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」 アクティビティーの使用	776
Taleo 「オブジェクトの更新」 アクティビティーの使用	777
Taleo 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティーの使用	779
Taleo アクティビティーの再試行パラメーターの指定	780
Web サービス・アクティビティー	781
Web サービス・エンドポイントの作成または編集	782
「サービスの呼び出し」 アクティビティーのエンドポイントの作成または編集	783
「サービスの提供」 アクティビティーのエンドポイントの作成または編集	786
変更された WSDL の更新	788
変更された WSDL の更新	793
Web サービス 「サービスの呼び出し」 アクティビティー	794

アクティビティの追加	796
エンドポイントの作成	796
アクティビティの構成	797
再試行オプションの指定	798
アクティビティの入力のマッピング	799
アクティビティの出力のマッピング	800
Web サービス「サービスの提供」スターター・アクティビティを含むオーケストレーションの呼び出し	801
Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティによる圧縮/圧縮解除	802
Web サービス「サービスの提供」アクティビティ	806
アクティビティの追加	808
エンドポイントの作成	808
アクティビティの構成	809
アクティビティの出力のマッピング	810
Web サービス「サービスの提供」アクティビティによる圧縮解除	811
Web サービス「応答の送信」アクティビティ	814
アクティビティの追加	815
アクティビティの構成	816
アクティビティの入力のマッピング	816
Web サービス「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティ	817
必要なフォールト名の作成	818
アクティビティの構成	819
アクティビティの入力のマップ	819
Web サービス「応答の送信」アクティビティによる圧縮	820
トラブルシューティングとサポート	822
Workday アクティビティ	823
Workday コネクターの概要	823
Workday エンドポイントの作成および編集	824
「Workday の呼び出し」アクティビティの使用	826
Workday アクティビティの再試行オプションの指定	828
Zuora アクティビティ	829
Zuora コネクターの概要	830
Zuora エンドポイントの作成および編集	830
Zuora「オブジェクトの作成」アクティビティの使用	832
Zuora「オブジェクトの更新」アクティビティの使用	833
Zuora「オブジェクトの削除」アクティビティの使用	834
Zuora「オブジェクトの照会」アクティビティの使用	836
Zuora「サブスクリプションの修正」アクティビティの使用	837
Zuora「サブスクリプションの作成」アクティビティの使用	839
Zuora「Invoice の生成」アクティビティの使用	840
Zuora アクティビティの再試行オプションの指定	841
セキュア・コネクターの使用	843
変数	844
変数について	844
変数の作成	848
「新規変数の作成」オプションを使用した新規変数の作成	848

「入力の選択」または「出力の選択」ボタンを使用した新規変数の作成	849
ツールバー・メニューを使用した新規変数の作成	850
「コピー (Copy)」メニュー・オプションを使用した新規変数の作成	851
「コピー (Copy)」ボタンを使用した新規変数の作成	852
プリミティブ・データ型	852
変数プロパティの構成	853
変数の除去	854
デフォルト値の指定	855
スキーマ・エレメントの参照	856
変数の置換型の選択	856
フラット・ファイル・スキーマ	859
フラット・ファイル・スキーマ・エディターの概要	860
区切りデータについて	862
固定長データ(「定位置」データ)について	864
定位置および区切りの混合の例	866
フラット・ファイル・スキーマの作成	873
フラット・ファイル・スキーマのテスト	875
入力テスト・データのロード	875
フラット・ファイル・スキーマのテスト	876
テスト出力データのファイルへの保存	877
ルート・ノード・プロパティ	878
フィールドまたはフィールド・タイプの追加	886
フィールド・プロパティ	888
レコードまたはレコード・タイプの追加	897
レコード・プロパティ	899
グループまたはグループ・タイプの追加	903
グループ・プロパティ	906
グループの例	907
「スキーマ」タブ内のノードの処理	913
ノードのコピー	914
ノードの削除	915
ノードの名前変更	916
ノードの移動	917
複数の子の追加	917
有効なノード名	918
「タイプ・ライブラリー」タブ	919
オプションのフィールドおよびレコードの指定	920
IDOCからのフラット・ファイル・スキーマの生成	921
フラット・ファイル・ウィザードの使用	923
マッピング	924
マップについて	925
マップの作成	926
入力のマップ	928
出力のマッピング	929
スタンドアロン・マップの作成	930
スタンドアロン・マップのソース・スキーマの選択	931

スタンドアロン・マップの宛先スキーマの選択	932
「変数のマップ」 アクティビティからのスタンドアロン・マップの作成	933
スタンドアロン・マップからの「変数のマップ」 アクティビティの作成	934
マッピング・ペインに変数を追加する	934
パラメーターのコピー	936
マップで使用される変数の置換	936
ノードの検索	938
宛先ノードのデフォルト値の割り当て	939
マッピング手法	941
1つのソースから1つの宛先へのマッピング	941
複数のソースから1つの宛先へのマッピング	942
1つのソースから複数の宛先へのマッピング	942
繰り返しノードの条件付きマッピング	943
一致ノードの自動マップ	943
ノードのバルク・マッピング	944
繰り返しノードのマッピング	944
すべてのオカレンスのマッピング	945
特定のオカレンスのマッピング	946
ソースのオカレンスを選択	947
宛先のオカレンスを展開	947
宛先のオカレンスを省略	948
宛先のオカレンスを追加	949
宛先のオカレンスを削除	949
マッピング・ペインでの置換タイプの選択	950
宛先ノードのマップ	951
置換タイプの選択	952
マッピング・ペインでの置換タイプの選択	950
ノードに関連付けられた派生型の削除	956
自動的に削除されるマッピング・ルール	957
オカレンスのカウントの割り当て	958
マッピング・ルールの削除	958
リンクを含むマッピング・ルールの削除	959
リンクが表示されていないマッピング・ルールの削除	959
すべてのマッピング・ルールの削除	960
サンプルまたは結果の内容の検索	960
サンプル・メッセージのロード	961
マップのテスト	962
変換結果の保存またはクリア	963
「CDATA の出力」 オプション	964
サポートされないXML スキーマ機能	964
非マップ宛先ノードについて	966
繰り返しノードのフィルタリング	966
カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用	968
ルックアップ・テーブルについて	969
ルックアップ・テーブルの定義	969
ルックアップ・テーブルの編集	970

カスタム関数について	972
カスタム関数の定義	972
カスタム関数の編集	973
カスタム関数のパラメーターおよび戻りのデータ型	974
ソース・ノード・リンクを使用しない関数の割り当て	975
マップ作成時の関数の割り当て	976
既存のマッピング・ルールへの関数の追加	977
例: 複数の関数のチェーニング	978
マッピング・ルールへの関数の割り当て	979
マッピング・ルールからの関数の削除	979
ノード・セット制約のある数学関数	980
パラメーターの追加	981
パラメーターの編集	981
パラメーターの削除	982
パラメーターの再配列	982
繰り返しノードを入力として受け入れる関数のデフォルト値の指定	983
マッピング関数参照	984
マッピング関数の概要	987
マッピング関数の構文およびデータ型	989
Absolute Value 関数	992
Add 関数	992
AES 暗号化解除関数	993
AES 暗号化関数	993
Align Center 関数	994
Align Left 関数	994
Align Right 関数	995
Average 関数	995
Base64 Encode および Decode 関数	996
Boolean 関数	997
Ceiling 関数	998
Concatenate 関数	998
Cast From Base64Binary 関数	999
「HexBinary からのキャスト (Casts From HexBinary)」機能	1000
Cast To Base64Binary 関数	1000
Cast To HexBinary 関数	1001
CopyOf 機能	1001
Count 関数	1002
タイプ・パスワードの構成プロパティのデコード	1003
Digest/Hash 関数	1004
Divide 関数	1005
「HTTP ヘッダー・フィールドの抽出」関数	1005
「照会パラメーターの抽出」関数	1006
「URI パスの抽出」関数	1006
Floor 関数	1007
Format Date String 関数	1007
Format Number 関数	1009

RFC2104 HMAC 準拠署名の生成	1010
Get Current Date and Time 関数	1011
Get Current Date 関数	1012
Get Current Time 関数	1012
Length 関数	1013
Lowercase 関数	1013
Maximum 関数	1014
Minimum 関数	1014
Modulo 関数	1015
Multiply 関数	1016
Not 関数	1016
Number 関数	1017
Padding String 関数	1018
Position 関数	1019
Read Date String 関数	1019
Replace 関数	1021
Round 関数	1024
Starts With 関数	1025
String 関数	1025
Substring 関数	1026
Substring After 関数	1027
Substring Before 関数	1027
Subtract 関数	1028
Sum 関数	1029
Trim 関数	1029
Uppercase 関数	1030
用語集	1031
用語集	1031

Cast Iron Express	1035
Cast Iron Express: 始めに	1035
アカウントの登録	1037
使用開始のヘルプ	1038
アカウント・プロフィールの管理	1039
ユーザーの管理	1040
Cast Iron Express ヘルプ・センター	1040
Express アカウントへの機能の追加	1041
Cast Iron Express の最新情報の確認	1042
Cast Iron Express との統合	1043
サポートされるソース・システムとターゲット・システム	1044
FTP ソース用にサポートされているファイル・タイプ	1045
セキュア・コネクターの管理	1045
セキュア・コネクターの作成	1046
セキュア・コネクターのインストール	1046
セキュア・コネクターの開始と停止	1047
セキュア・コネクターの削除	1048

統合の作成	1048
統合エディターの使用	1049
接続の構成	1051
MySQL データベースへの接続	1052
操作の選択	1052
データベース・トリガー表	1053
オブジェクトの選択	1054
フィールドの選択	1055
salesforce.com への接続時の外部 ID の使用	1056
「アップサート (Upsert)」操作での外部 ID の使用	1057
関連オブジェクトでの外部 ID の使用	1057
ソース・オブジェクトのフィルター処理	1058
統合のセットアップ	1059
マッピングの定義	1060
関数の定義	1061
関数の構成	1063
複合関数	1064
複合関数での作業	1064
関数のリスト	1066
統合の管理	1070
統合の変更	1071
統合の削除	1071
統合アクティビティのモニター	1072
使用状況グラフ	1072
チュートリアル	1074
チュートリアル: ローカル・ファイルから salesforce.com への統合の作成	1074
用語集	1081
バンドル (Bundle)	1082
接続 (Connection)	1083
エンドポイント (Endpoint)	1083
フィールド (Field)	1083
関数 (Function)	1084
統合 (Integration)	1084
操作 (Operations)	1084
ソース (Source)	1085
ターゲット (Target)	1085
変換 (Transformation)	1085
Cast Iron Live	1086
Cloud について	1086
環境ダッシュボードについて	1086
Cloud について	1087
技術サポートへの連絡	1089
管理コンソールのナビゲート	1089
サポート情報	1090
Cloud インスタンスの管理	1090

SAP JAR ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール	1091
ベンダー提供ライブラリーのインストール	1092
ダウン時間のスケジュール	1093
オーケストレーションの管理	1095
オーケストレーション設定について	1096
オーケストレーション設定の編集	1097
プロジェクトの管理	1099
プロジェクトおよび構成の命名について	1099
プロジェクト構成について	1100
プロジェクトについて	1102
プロジェクト構成のクローン作成	1102
プロジェクトのコピー	1103
最初からのプロジェクトの作成	1104
テンプレートからのプロジェクトの作成	1105
プロジェクト構成の削除	1105
プロジェクトの削除	1106
プロジェクト構成のデプロイ	1107
プロジェクト構成プロパティの編集	1108
プロジェクトの編集	1109
プロジェクトの公開	1110
TIP のレビュー	1111
プロジェクト構成の停止	1111
プロジェクト構成のアップロード	1112
プロジェクト構成の処理	1113
モニター	1115
環境ダッシュボードについて	1115
通知レベルの選択	1116
通知ポリシーの作成	1116
通知ポリシーの削除	1117
通知ポリシーの編集	1118
Eメール通知ポリシーの使用可能化	1118
オーケストレーション・ジョブの検索	1119
オーケストレーション・ジョブ・ログの表示	1121
許可	1121
組み込みグループについて	1122
ライブラリー環境について	1124
ユーザー・プロファイルについて	1124
グループへのユーザーの割り当て	1125
パスワードの変更	1125
ユーザー・パスワードの変更	1126
新規グループの作成	1127
新規ユーザーの作成	1128
グループの削除	1129
ユーザーの削除	1129
プロジェクト構成許可の付与	1130
セキュア・コネクタの使用	1131

セキュア・コネクターについて	1132
セキュア・コネクターの最小要件	1133
セキュア・コネクターの作成	1133
セキュア・コネクター構成ファイルのダウンロード	1134
セキュア・コネクターのインストール	1135
セキュア・コネクター用のベンダー提供ライブラリーのインストール	1137
SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール	1139
セキュア・コネクターのアンインストール (Windows)	1140
セキュア・コネクターのアンインストール (Linux)	1141
セキュア・コネクターの開始および停止	1142
Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 (Windows サービスとしてインストールした場合)	1143
Windows サービスで対話モードを使用可能にする	1144
Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 (Windows アプリケーションとしてインストールした場合)	1144
Linux でのセキュア・コネクターの開始および停止	1145
セキュア・コネクターのアップグレード	1146
セキュア・コネクターのトラブルシューティング	1147
セキュリティ	1148
証明書について	1148
セキュリティ設定の編集	1149
証明書のエクスポート	1150
証明書署名要求の生成	1150
自己署名証明書の生成	1151
証明書のインポート	1152
証明書別名の名前変更	1153
証明書のアップロード	1153
ログの処理	1154
システム・ログ設定の指定	1154
システム・ログの表示	1155

Cast Iron Web 管理コンソール	1156
Web 管理コンソールについて	1156
管理コンソール設定について	1157
技術サポートへの連絡	1159
管理コンソールのナビゲート	1159
ローカル・ステージング・データベース	1160
ローカル・ステージング・データベースについて	1160
ローカル・ステージング・データベースの開始	1162
ローカル・ステージング・データベースの停止	1162
メモリー管理のベスト・プラクティス	1163
統合アプライアンスの管理	1166
コネクターについて	1167
システムの要約	1167
SAP ライブラリー・ファイルのダウンロードおよびインストール	1168
SAP コネクター用のセキュア・ネットワーク通信 (SNC) の構成	1169

コマンドの実行	1170
リポジトリのエクスポート	1171
リポジトリのインポート	1171
他のベンダーのライブラリーのインストール	1173
ダウン時間のスケジュール	1174
ネットワーク設定の指定	1176
システム・コマンドの実行	1178
Dell 統合アプライアンスのアップグレード	1180
DataPower 統合アプライアンスのアップグレード	1181
ネットワーク経路の処理	1182
オーケストレーションの管理	1183
オーケストレーション設定について	1184
オーケストレーション設定の編集	1185
オーケストレーション・モニター・データのエクスポート	1186
プロジェクトの管理	1187
資産について	1188
プロジェクトおよび構成の命名について	1188
プロジェクト構成について	1189
プロジェクトについて	1191
プロジェクト構成のクローン作成	1192
プロジェクトのコピー	1193
最初からのプロジェクトの作成	1193
テンプレートからのプロジェクトの作成	1194
プロジェクト構成の削除	1195
プロジェクトの削除	1196
プロジェクト構成のデプロイ	1197
プロジェクト構成プロパティの編集	1198
プロジェクトの編集	1199
データベース資産について	1200
プロジェクトの公開	1202
データベース資産の再作成	1203
資産テーブル名に必要な引用符	1203
TIP のレビュー	1204
プロジェクト構成の停止	1204
プロジェクト構成のアップロード	1205
Web サービス資産の表示および保存	1206
プロジェクト構成の処理	1206
モニター	1208
Web 管理コンソールについて	1210
通知レベルの選択	1210
通知ポリシーの作成	1211
通知ポリシーの削除	1212
通知ポリシーの編集	1213
Eメール通知ポリシーの使用可能化	1213
オーケストレーション・ジョブの検索	1214
ハードウェア状況の表示	1215

オーケストレーション・ジョブ・ログの表示	1216
SNMP の基礎	1217
SNMP レシーバーのセットアップ	1220
通知ポリシーの追加	1221
「リソース使用状況 (Resource Utilization)」 グラフについて	1223
ハードウェアの正常性	1225
システムのテスト	1226
許可	1226
組み込みグループについて	1227
ライブラリー環境について	1229
ユーザー・プロファイルについて	1230
グループへのユーザーの割り当て	1230
パスワードの変更	1231
ユーザー・パスワードの変更	1232
新規グループの作成	1232
新規ユーザーの作成	1233
グループの削除	1234
ユーザーの削除	1235
プロジェクト構成許可の付与	1236
ローカル・ステージング・データベース許可	1237
セキュア・コネクタの使用	1237
セキュア・コネクタについて	1238
セキュア・コネクタの最小要件	1239
セキュア・コネクタの作成	1239
セキュア・コネクタ構成ファイルのダウンロード	1240
セキュア・コネクタのインストール	1242
セキュア・コネクタのトラストストア/鍵ストアへの証明書の追加またはインポート	1245
セキュア・コネクタ用のベンダー提供ライブラリーのインストール	1245
SAP ライブラリーのダウンロードおよびインストール	1247
セキュア・コネクタのアンインストール (Windows)	1248
セキュア・コネクタのアンインストール (Linux)	1249
セキュア・コネクタの開始および停止	1250
Windows でのセキュア・コネクタの開始および停止 (Windows サービスとしてインストールした場合)	1251
Windows サービスで対話モードを使用可能にする	1252
Windows でのセキュア・コネクタの開始および停止 (Windows アプリケーションとしてインストールした場合)	1253
Linux でのセキュア・コネクタの開始および停止	1253
セキュア・コネクタのアップグレード	1254
セキュア・コネクタのトラブルシューティング	1255
セキュリティ	1256
証明書について	1256
Kerberos の構成	1257
LDAP メカニズム・プロパティの構成	1258
セキュリティ設定の編集	1260
LDAP ディレクトリー・サーバーの有効化	1261

証明書のエクスポート	1263
証明書署名要求の生成	1264
自己署名証明書の生成	1264
証明書のインポート	1265
証明書別名の名前変更	1266
証明書のアップロード	1266
ログの処理	1267
アーカイブされたログについて	1268
アーカイブされたログについて	1268
オーケストレーション・モニター・ログのページ	1271
システム・ログ設定の指定	1275
システム・ログの表示	1276
システム・ログおよびジョブ・ログ内の列のカスタマイズ	1278
アプライアンスの管理	1279
アプライアンスの登録、編集、および登録抹消	1280
Cast Iron アプライアンスのアップグレード	1281

Cast Iron コマンド・ライン・インターフェース・リファレンス 1282

コマンド・ライン・インターフェースについて	1282
セキュア・シェル・セッション接続を使用した CLI へのログイン	1284
シリアル接続を使用した CLI へのログイン	1285
Telnet 接続を使用した CLI へのログイン	1286
コマンド・ライン・インターフェースのモード	1286
コマンド・ライン・インターフェースのコマンド	1288
許可コマンド	1289
auth set user コマンド	1289
auth set recovery コマンド	1290
auth show recovery コマンド	1290
構成コマンド	1291
config load コマンド	1291
config save コマンド	1292
デバッグ・コマンド	1292
debug postmortem export コマンド	1293
debug postmortem generate all コマンド	1295
debug postmortem generate full logs コマンド	1295
debug postmortem generate new logs コマンド	1296
debug postmortem generate store コマンド	1296
debug show stacks コマンド	1297
debug system コマンド	1297
debug tail file コマンド	1298
debug top コマンド	1298
debug job コマンド	1298
高可用性コマンド	1299
ha active コマンド	1300
ha conncheck コマンド	1300

ha disconnect コマンド	1301
ha power off standby コマンド	1301
ha power on standby コマンド	1302
ha reboot コマンド	1302
ha show lastaccess コマンド	1303
ha show pairstatus コマンド	1303
ha switch コマンド	1304
管理コマンド	1304
ネットワーク・コマンド	1307
net set コマンド	1310
net show コマンド	1312
ネットワーク・イントロスペクション・コマンド	1316
状況コマンド	1322
システム・コマンド	1322
時間コマンド	1325

Cast Iron 高可用性ペア	1326
高可用性ペアについて	1326
統合アプライアンスの状態について	1327
高可用性ペアを構成するための要件	1328
高可用性ペアのセットアップ	1329
高可用性ペアの操作	1332
高可用性コマンドの実行	1333
高可用性コマンド	1333
高可用性ペアのトラブルシューティング	1334

WebSphere Cast Iron Hypervisor Edition	1335
仮想アプライアンスについて	1335
IBM WebSphere Cast Iron Hypervisor Edition の概要	1336
要件	1337
リソース・マッピング	1337
アプライアンス・パッチのアップロード	1339
OVF テンプレートのデプロイ	1340
Xen の実行	1341
DHCP アドレス指定を使用するための構成	1342
静的アドレス指定を使用するための構成	1343
仮想アプライアンスのバックアップおよびリカバリー	1345
仮想アプライアンス・リポジトリのエクスポート	1345
仮想アプライアンス・リポジトリのインポート	1346

Cast Iron Notifications Reference	1347
Integration Appliance Monitoring Options	1347
About the Cast Iron SNMP MIB	1348
Downloading the Cast Iron SNMP MIB	1349
Reading the Cast Iron SNMP MIB	1349

SNMP Items Available Using SNMP Get	1352
Using Traps to Monitor Appliance Health	1353
Archive Module	1354
Archive Operation Notifications	1355
ArchiveDone	1356
ArchiveEntryBlank	1357
ArchiverCreated	1359
ErrorIdentifyArchive	1360
ErrorUnZipOperation	1361
ErrorZipOperation	1363
IncorrectParameters	1364
InvalidArchiveEntry	1365
InvalidArchiveFormat	1367
InvalidBzipEntry	1368
InvalidDateTime	1369
InvalidGzipEntry	1371
InvalidNumInArchEntry	1372
InvalidUnArchFormat	1373
InvalidUnarchiveInput	1374
UnArchiverCreated	1376
UnarchiveDone	1377
ValidationError	1378
ValidationFine	1380
Crypto Service Module	1381
Crypto Service Operation Notifications	1382
DecryptDone	1383
DecryptStarted	1385
EncryptDone	1386
EncryptStarted	1387
FoundPrivateKey	1388
FoundPublicKey	1390
IOException	1391
InputEntryCount	1392
IntegrityCheckFailed	1393
IntegrityCheckPassed	1395
InvalidAlgorithm	1396
InvalidContent	1397
InvalidDateFormat	1398
InvalidFormat	1400
InvalidKeyOrPwd	1401
InvalidKeyStore	1402
InvalidKeyhandle	1404
InvalidPassword	1405
NoIntegrityCheck	1406
PGPException	1407
Data Module	1409
Data Operation Notifications	1409
BadEncoding	1410

MissingEncParse	1411
MissingEncSerialize	1413
ParsingError	1414
SerializeError	1415
SerializeIOError	1417
Data Quality Module	1418
Data Quality Operation Notifications	1419
BadPreloadQuery	1420
FilterError	1421
InputEntryCount	1423
LeftMergeInputEntry	1424
LookUpEntryCount	1426
LookUpError	1427
MergeError	1428
NoAssetsError	1430
NoPreloadedCache	1431
OutputEntryCount	1432
PreloadedCache	1434
RightMergeInputEntry	1435
SortError	1436
SortInputEntryCount	1438
Data Quality Internal Notifications	1439
DQLookupFuzzyOnCloud	1440
Database Module	1441
Database Connection Notifications	1443
ConnectionError	1443
ConnectionRetry	1445
JDBCConnectionClose	1447
SetQueryTimeout	1448
Database Operation Notifications	1449
ActivateError	1451
DataSourceHashCode	1452
DataSourceRegistered	1454
DateTimeParseError	1455
DeleteRowsError	1456
DeleteRowsFailure	1458
DeleteSQL	1459
DeleteSQLWithId	1461
ErrorDeletePost	1462
ErrorSingleTableJob	1463
InboundOperationError	1465
InsertTableStatement	1466
MaxRowExceeded	1468
MethodNotFound	1469
OperationNameAbsent	1471
OutboundActivateError	1472
ParamQueryActivate	1473
ParamQueryError	1475

ParameterizedQuery	1476
PollTblActivateError	1478
QueryString	1479
RedeliverSkip	1480
SelectStatement	1482
StoredProcException	1483
StoredProcQuery	1485
UpdateQuery	1486
Database Internal Notifications	1487
StoredProcActivate	1488
UnexpectedEmptyRows	1489
Domino Module	1490
Domino Operation Notifications	1492
ActivateFailureBlank	1492
ActivateSuccess	1494
ActivityCreateSuccess	1495
ActivityFailure	1497
ActivitySuccessful	1498
RetryCount	1499
RunningInfo	1501
RunningMessages	1502
SchemaInvoke	1504
StopSuccess	1505
Domino Internal Notifications	1507
ConnectError	1507
InitializationError	1509
UnmarshalError	1510
Email Module	1511
Email Connection Notifications	1514
ConPoolReleaseError	1515
ConnectError	1517
ConnectErrorRetry	1518
ConnectHeaderAbsent	1520
ConnectHeaderPresent	1521
ConnectionPoolReturn	1523
DisconnectException	1524
EndpointData	1525
IncorrectPort	1527
IncorrectSmtpPort	1528
IncorrectSmtpTimeout	1530
IncorrectTimeout	1531
MakeConPoolError	1533
NewConnectEverytime	1534
Pop3Connected	1535
SetTimeout	1537
SmtpConnectFailed	1538
SmtpConnectRetry	1540
SmtpConnected	1541

SmtpDisconnectError	1543
SmtpEndpointData	1544
SmtpTimeout	1546
Email Operation Notifications	1547
CouldNotGetHostIP	1548
EmailMatched	1550
EmailSent	1551
InvalidAddressFormat	1553
InvalidEmailID	1554
MailHeaderAbsent	1555
MailHeaderPresent	1557
MailsDeleted	1558
MailsToBeDeleted	1559
NoEmailMatched	1561
NoMailOnServer	1562
PatternIncorrect	1563
Pop3ConfigParams	1565
Pop3DataError	1566
Pop3MailSent	1567
Pop3NumMails	1569
Pop3ServerError	1570
SaveStateError	1571
SetBCCFieldValue	1573
SetCCFieldValue	1574
SetFromFieldValue	1575
SetSubjectFieldValue	1577
SetToFieldValue	1578
SmtpConfigParams	1580
SmtpDataError	1582
SmtpSendEmail	1583
SubjectPatternError	1584
Email Internal Notifications	1586
BodyNull	1586
Pop3InternalError	1587
SmtpInternalError	1589
ToAndCCEmpty	1590
FTP Module	1591
FTP Connection Notifications	1594
ConnectionFailure	1594
ConnectionRetry	1596
FTP Operation Notifications	1598
AppendAfter	1600
AppendBefore	1601
DeleteAfter	1603
DeleteBefore	1604
DeleteDupListEntry	1606
DeleteInfoSummary	1607
DirChangeAfter	1609

DirChangeBefore	1610
DuplicateFile	1611
EndpointInfoSummary	1613
FileNotMoved	1615
FileProcessed	1617
FileProcessingError	1618
FtpPatternConversion	1619
GetAfter	1621
GetBefore	1622
GetInfoSummary	1624
ListAfter	1625
ListBefore	1627
ListFileSummary	1628
NListAfter	1630
NListBefore	1631
OperationError	1633
PutAfter	1634
PutBefore	1636
PutDuplicateFileName	1637
PutEmptyFileName	1638
PutInfoSummary	1640
RenameAfter	1642
RenameBefore	1643
RenameDupError	1645
RenameInfoSummary	1646
SshFingerprintInfo	1648
SshModeInfo	1649
TimeStampError	1651
TimestampCommand	1652
UnableToDelete	1653
UnableToMove	1655
FTP Internal Notifications	1656
EncodingError	1657
InternalException	1658
HTTP Module	1660
HTTP Connection Notifications	1663
ClientConMgrTimeout	1664
ClientIdleTimeout	1665
ClientMaxTotalConn	1666
ClientReclaimPeriod	1668
ConnectionRetry	1669
EndpointInformation	1671
HttpLoopBackValues	1672
ReadConnectionParam	1674
ReceiveActivate	1675
ReceiveDeActivate	1676
ReceiveIOError	1678
ReceiveSendReplyError	1679

ReplyConnectionError	1681
SendRequestConnection	1682
StaleConnectionCheck	1683
HTTP Operation Notifications	1685
AcceptEncodingType	1686
CommonHandlerError	1688
CompressFormat	1689
ContentEncodingType	1690
DecompressedEncoding	1692
HttpListenerStop	1693
IncomingContentEnc	1695
ReadInputHeaders	1696
ReceiveOperationError	1697
ReceiveResponseBody	1699
ReceiveURIPortInfo	1700
RegisterKeyStore	1701
ReplyCompressFormat	1703
ReplyUnMarshalHeader	1704
RequestActivate	1706
RequestIgnoredHeader	1707
RequestParamsDetails	1708
ResponseBodyBinary	1710
ResponseBodyNotBinary	1711
ResponseDefinition	1712
SendRequestOperation	1714
ServerResponseCode	1715
UnsupportedMedia	1717
UnsolicitedEncoding	1718
UnsupportedEncoding	1719
HTTP Internal Notifications	1721
GeneralRequestFailed	1722
IdleConTimeoutStart	1723
IdleConTimeoutStop	1724
LoopBackInitialize	1726
ReceiveInternalError	1727
ReplyGeneralError	1728
ReplyHandlerNull	1730
ReplyUnknownError	1731
SockCollectorFinish	1732
SockCollectorRunInfo	1734
SockCollectorSched	1735
JD Edwards Module	1736
JD Edwards Connection Notifications	1738
ActivateUnSuccessful	1738
CloseConnectionError	1740
ConnectException	1741
ConnectPoolRelease	1743
DisconnectException	1744

GetConnectionError	1745
JDEConnectError	1747
JDERetryError	1748
MakeConnectionError	1750
JD Edwards Operation Notifications	1752
ActivateSuccessful	1752
ActivityError	1754
ActivitySuccessful	1755
ClassesMissing	1757
CreateSchemaError	1758
DataStructureError	1760
NumberFormatError	1762
ResourceCleanError	1763
ResponseSchemaError	1765
SetUpInfo	1767
UnsupportedEncoding	1768
JD Edwards Internal Notifications	1769
JDEInternalerror	1770
JMS Module	1771
JMS Connection Notifications	1773
ConnectionPoolError	1774
FactoryUnknownError	1775
GetConnectRetry	1777
MakeConnectError	1779
PollMessageRetry	1780
PoolFactoryError	1782
PoolReleaseError	1784
PooledConnException	1785
RecoveryInfo	1787
RestartError	1788
SendConnectRerty	1789
SubscriberConnect	1791
JMS Operation Notifications	1793
FirstID	1794
NamingException	1795
NoMessage	1797
RecoveryInfo	1798
SendMessageError	1799
SendNamingException	1801
SubscriberConfigError	1802
SubscriberError	1804
SubscriberNameError	1805
SubscriberStartInfo	1806
UnsubscribeError	1808
JMS Internal Notifications	1810
GetMarshallError	1810
JMSError	1811
LibraryNotInstalled	1813

PollMessageError	1814
SendMarshallError	1816
JSON Module	1817
JSON Operation Notifications	1818
JSONParseError	1818
JSONSerializeError	1820
TransformError	1821
Log Module	1823
Log Operation Notifications	1823
FailLogMessage	1824
MIME Module	1825
MIME Operation Notifications	1827
AttachmentNumber	1828
AttachmentsFound	1830
AutoGeneratedBody	1831
BoundaryAbsent	1832
BoundaryInfo	1834
BoundaryMoreThan70	1835
BoundarySpecified	1836
DefaultContentType	1838
EmptyParts	1839
FoundBoundary	1840
HeaderAbsent	1842
MainAndSubType	1843
MainType	1844
MimeHeaderMapped	1846
MimeHeaderNotMapped	1847
NoAttachments	1848
NoBoundaryFound	1849
NoPartBody	1851
NumberOfParts	1852
ParseActivityDone	1853
SerialActivityDone	1855
SerializeException	1856
SubType	1857
TransferEncChanged	1859
TransferEncLimit	1860
TransferEncMissing	1862
TransferEncodingError	1863
TransferEncodingValue	1864
MIME Internal Notifications	1866
InputBodyNull	1866
ParseException	1867
Maestro Module	1869
Maestro Operation Notifications	1873
AbandonedJobs	1876
ActInvalidLicense (Deprecated)	1878
ActivityFailedError	1879

AlreadyDeployed	1881
CallContext	1882
CallContextDestroy	1884
CatchExpression	1885
CleanUpFailed	1886
CloseInputStream	1888
CloseOutputStream	1889
CloseReader	1890
CloseWriter	1891
DeactivateFailed	1893
DebugFailed	1894
DeleteObject	1895
DestroyFailed	1897
EnqueueFailed	1898
EntryPath	1899
ErrorMap	1901
ErrorTwoPhase	1902
ExecuteError	1903
FaultInfo	1905
ForEach	1906
InitializeJobInfo	1908
InputMap	1909
InputMapXPath	1910
InputMapXSLT	1912
InvokeError	1913
KeyLog	1914
LargeInputParam	1916
LargeNonpersistentVar	1917
LargeOutputParam	1919
LargeTotalVarSize	1920
LargeVariable	1922
LicenseExpireImminent (Deprecated)	1923
LicenseExpireSoon (Deprecated)	1925
LicenseExpired (Deprecated)	1926
LicenseInvalid (Deprecated)	1928
LoaderCancel	1929
LoaderDelete	1931
LoaderDeploy	1933
LoaderPublish	1934
LoaderStart	1936
LoaderStop	1937
LoaderSuspend	1939
LoaderunDeploy	1940
MBeanRegister	1942
MBeanUnregister	1943
MaxSeqNum	1945
ModuleConfig	1946
MonitorQuery	1947

MonitorVariable	1948
MonitorVariables	1950
MontiorEvents	1951
MultipleActFactory	1952
NoActivityFactory	1954
NotDeployed	1955
NotDocParameter	1957
NotDocVariable	1958
NotStopped	1959
NotSuspend	1961
NullParam	1962
NullVariable	1964
OSGISyntaxError	1965
OrchCompileError	1966
OutputMap	1968
OutputMapXPath	1969
OutputMapXSLT	1971
ParamIndex	1972
ProgramDestroy	1973
ProgramStart	1975
SocketNoReply	1976
SplitError	1977
SwitchExpEmpty	1979
SwitchExpression	1980
TaskCancelled	1982
TaskEnd	1983
TaskFound	1984
TaskRemove	1986
TaskStart	1987
TaskState	1989
TaskStateTransition	1990
TaskStatusChanged	1992
TooManyWaitingJobs	1993
VariableNull	1994
WhileExpEmpty	1996
WhileExpression	1997
WrongActFactory	1999
Maestro Internal Notifications	2000
IOError	2001
UnCaughtError	2002
UnexpectedError	2003
NetSuite Module	2005
NetSuite Connection Notifications	2006
ConnectionFailed	2006
ConnectionPoolError	2008
ConnectionRetry	2009
NetSuite Operation Notifications	2011
CustomFieldError	2012

TransformationError	2013
NetSuite Internal Notifications	2014
IOError	2015
SoapError	2016
StreamError	2018
UnknownError	2019
PeopleSoft Module	2020
PeopleSoft Connection Notifications	2023
ActivateUnsuccessful	2023
ConnectionError	2025
ConnectionPoolError	2026
ConnectionRetry	2028
MakeConnectError	2030
PoolReleaseError	2031
ReceiveActivate	2032
ReceiveDeActivate	2034
ReceiveIOError	2035
PeopleSoft Operation Notifications	2036
ActivateFailureBlank	2038
ActivateSuccess	2039
ActivityFailure	2040
ActivitySuccessful	2042
ConfigURI	2043
CreateOnlyKeys	2045
DataLengthMore	2046
DeleteFail	2048
GetNoReturn	2049
ItemNumberBlank	2051
MessageNameVersion	2052
NoOperationOnRecord	2054
OutOfRange	2055
ReceiveError	2056
ReceiveGeneralError	2058
ReceiveInfo	2059
ReceiveProcess	2061
ReceiveSuccessful	2063
RunningInfo	2064
RunningMessages	2065
PeopleSoft Internal Notifications	2067
MissingLibraries	2067
SetupInfo	2069
Platform Module	2070
Platform Hardware Notifications	2073
FanFailed	2075
FanRestored	2076
HighAvailFailover	2078
HighAvailNotReady	2079
HighAvailReady	2080

IntrusionInform	2081
IntrusionSevere	2082
PowerInterrupted	2084
PowerRestored	2085
RaidArrayDegraded	2086
RaidArrayOffline	2087
RaidArrayOptimal	2088
RaidDiskFailed	2089
RaidDiskOnline	2091
RaidDiskRebuilding	2092
SystemInitComplete	2093
SystemInitStarted	2094
SystemRecoveryReboot	2096
SystemRecoveryRestart	2097
TemperatureOutOfRange	2098
TemperatureRestored	2100
UpgradeComplete	2101
UpgradeFailed	2103
Platform Network Notifications	2104
NetworkAutohost	2105
NetworkInvalidRoute	2106
NetworkLinkDown	2107
NetworkLinkUp	2109
Platform Resources Notifications	2110
DiskUsageCritOk	2111
DiskUsageCritical	2113
DiskUsageWarnOk	2114
DiskUsageWarning	2115
HighAvailVersionError	2117
LargeFileWarning	2118
OrcmonArchiveError	2119
OrcmonDatabaseError	2120
OrcmonDiskFull	2121
OrcmonDiskFullNoPurge	2122
OrcmonDiskTrigger	2123
OrcmonExportCdError	2124
OrcmonExportError	2125
OrcmonExportFTP	2127
OrcmonExportLocal	2128
OrcmonExportStoreErr	2129
OrcmonExportedJobs	2130
OrcmonPurgeByCompl	2131
OrcmonPurgeByErrored	2132
OrcmonPurgeByTime	2133
OrcmonPurgeByTimeNP	2134
OrcmonPurgeFailed	2135
SwapUsageCritOk	2136
SwapUsageCritical	2138

SwapUsageWarnOk	2139
SwapUsageWarning	2140
Platform Security Notifications	2141
AccessViolation	2142
AuthFailure	2143
AuthLogOut	2145
AuthSuccess	2146
GrantRole	2147
GroupCreated	2148
GroupDeleted	2149
RevokeRole	2151
UpdateStatus	2152
UpdateUser	2153
UserCreated	2154
UserDeleted	2156
SAP Module	2157
SAP Connection Notifications	2160
ConnectError	2160
ConnectRetry	2162
PoolAddInfo	2164
PoolExistInfo	2165
RemoveInfo	2167
SAP Operation Notifications	2168
AddingServerInfo	2170
BAPIActivationError	2172
BAPIParseError	2173
BAPIReturnError	2175
CompleteFunctionExec	2177
CreateTID	2178
CreateTrcDirFailed	2179
FuncRetStructNotFound	2181
FunctionLookup	2182
FunctionLookupComp	2184
GatewayCommWarning	2185
GatewayRegisterError	2187
GatewayRemoveInfo	2188
IDOCExtensionError	2190
IDOCSentInfo	2191
IDOCTypeError	2192
InvalidRFCName	2194
ListenerInstanceInfo	2195
ListenerStartInfo	2197
ListenerStopWarning	2198
NoHandlerError	2200
NoSegmentWarning	2202
NonReturnStruct	2203
ParseError	2204
ProcessDocError	2206

RFCActivationError	2207
ReceiveTIDNotFound	2209
RollbackWarning	2210
SAPActivityError	2211
SAPValidationError	2213
SapLibNotFound	2214
SendIDOCActivation	2216
SendIDOCCreateInfo	2217
SendIDOCValidation	2219
StartFunctionExec	2220
StartWarning	2221
TIDCheck	2223
TIDCommit	2224
TIDCommitUnknown	2225
TIDCommittedInfo	2227
TIDCommittingInfo	2228
TIDConfirmed	2229
TIDRollback	2231
TIDSentInfo	2232
TIDUnknown	2234
TransactionalError	2235
UnicodeGateway	2236
ValidationError	2237
ValidationInfo	2239
SAP Internal Notifications	2240
ConnectionPoolError	2241
InitializationError	2242
InvalidTIDError	2243
SerializingError	2245
STS Module	2246
STS Operation Notifications	2247
ActivationFailed	2248
AssertionEmpty	2249
InputBodyConsidered	2250
RequestLocation	2251
UriDeprecated	2253
Salesforce.com Module	2254
Salesforce.com Connection Notifications	2256
ConnectionFailed	2257
ConnectionRetry	2259
ConnectionTryAgain	2260
LoginFailure	2262
OptionalInputError	2263
SessionInvalid	2264
StillRun	2266
Salesforce.com Operation Notifications	2267
ActivateError	2268
ActivityOutput	2270

BatchPollStart	2271
ConnectFailed	2273
ExecuteError	2274
ExecuteProblem	2276
InitializeProblem	2277
InputParamMapped	2278
InputParamNotMapped	2280
InvalidQuery	2281
InvalidSFDCField	2282
InvalidSFDCObject	2284
LargeData	2285
LargeDataError	2286
MetadataError	2288
MetadataObjectError	2289
NoDatafound	2291
ParameterOutput	2292
ParameterResults	2294
PollActivateError	2295
PollOutput	2296
PollReturnedNothing	2298
PollReturnedResults	2299
ShortPoll	2301
TimeTooClose	2303
UnexpectedSFDCFault	2304
Salesforce.com Internal Notifications	2305
EndpointNull	2306
MarshalError	2307
SfdcErrorInternal	2309
UnmarshalError	2310
Scheduler Module	2311
Scheduler Operation Notifications	2312
ActivityException	2312
SchedulerUnknownType	2314
SchedulerWarning	2315
Siebel Module	2316
Siebel Connection Notifications	2318
ConnectError	2318
ConnectionRetry	2320
IOError	2322
Siebel Operation Notifications	2323
ActivateError	2324
ConfigURI	2325
ConnectionPoolError	2327
DataException	2329
InvokeActivate	2330
InvokeDeactivateError	2332
InvokeException	2333
InvokeSuccessful	2334

ReceiveDeactivateErr	2336
ReceiveError	2337
ReceiveSuccessful	2339
RepositoryError	2340
UnsupportedEncoding	2341
Siebel Internal Notifications	2343
GeneralError	2343
InternalError	2345
MissingLibraries	2346
Web Service Module	2347
Web Service Connection Notifications	2349
ConnectFailed	2349
ConnectRetry	2351
Web Service Operation Notifications	2353
AlreadyRegistered	2353
CleanUpMessage	2355
DataMessageAccepted	2356
MissingProtocol	2358
NotRegistered	2359
OperationNameNull	2361
TransportInfo	2362
UriDeprecated	2364
WSFaultString	2365
WebServiceException	2366
Web Service Internal Notifications	2368
TaskContextError	2368
WebSphere MQ Module	2370
WebSphere MQ Connection Notifications	2371
ConnectRetry	2372
ConnectionError	2374
MQConnectionInfo	2375
WebSphere MQ Operation Notifications	2377
DetailsOpen	2378
DuplicateFound	2380
FormatError	2381
FormatWarning	2382
GetFailure	2384
MQMDFormatError	2385
MQProtocolWarning	2387
MQPutDetails	2388
MQPutFailure	2389
MQRFHHeaderError	2391
MessageDelievered	2392
MessageRetrieved	2394
NoMessage	2395
NoMessageFailure	2397
NoMessageRetry	2398
PollFailure	2400

RFHFormatError	2402
ReasonCode	2403
WebSphere MQ Internal Notifications	2404
InputParamNull	2405
InternalFailure	2406
Workday Module	2407
Workday Connection Notifications	2409
ConnectFailed	2409
ConnectRetry	2411
Workday Operation Notifications	2413
AlreadyRegistered	2413
CleanUpMessage	2415
DataMessageAccepted	2416
MissingProtocol	2418
NotRegistered	2419
OperationNameNull	2421
TransportInfo	2422
UriDeprecated	2424
WDFaultString	2425
WorkdayException	2426
Workday Internal Notifications	2428
TaskContextError	2428
XML Module	2430
XML Operation Notifications	2430
TransformError	2431
ValidateInitialize	2432
XMLParseError	2434
XMLQueryError	2435
XMLSerializeError	2437
Uncategorized Notifications	2438
Log Message Reference	2443

Cast Iron 管理 API ガイド	2539
IBM WebSphere DataPower Cast Iron 管理 API ガイド	2539
概要	2539
管理 API の概要	2541
WSDL ファイル	2545
用語集	2546
セキュリティー	2547
addRoleToRoleGroup	2548
changePassword	2549
clearPrivileges	2550
createRole	2551
createUser	2552
currentScope	2553
deleteRole	2554
deleteUser	2555

disableUser	2556
enableUser	2557
filterNewUsers	2558
filterUsers	2558
getGrantedRoles	2559
getImpliedRoles	2560
getKerberosRealm	2560
getKerberosServer	2560
getRole	2561
getRoleById	2563
getRoleGroups	2564
getRoles	2565
getRolesInRoleGroup	2567
getRoleUsers	2567
getScope	2568
getScopeById	2569
getScopesByParentId	2570
getUser	2572
getUserById	2574
getUsers	2576
grantPrivilege	2578
grantPrivileges	2579
grantRole	2579
hasPrivilege	2580
isRealmUser	2581
isUserEnabled	2582
listAvailableActions	2583
listGrantableRoles	2583
listPrivileges	2584
listRoles	2584
listUsers	2585
login	2586
logout	2587
removeKerberosConfiguration	2588
removeRoleFromRoleGroup	2588
revokePrivilege	2589
revokeRole	2589
roleExists	2590
setCurrentScope	2591
setCurrentScopeById	2592
setKerberosConfiguration	2592
setLdapConfiguration	2593
updateRole	2593
updateUser	2594
userExists	2595
デプロイメント	2596
cancelJob	2597
cloneConfiguration	2598

createAssets	2599
createConfiguration	2600
createRepeatingRule	2602
createRule	2602
createUserConfiguration	2604
deleteConfiguration	2604
deleteProject	2605
deleteRule	2606
deleteUserConfiguration	2607
downloadProject	2608
exportRepository	2609
getAllProjects	2609
getAssetGroupDisplayString	2611
getAssetGroupScript	2612
getAssetGroupWarnings	2613
getAssetProperties	2614
getAssetPropertiesBindings	2614
getConfiguration	2615
getConfigurationGroups	2617
getProject	2618
getRule	2620
getRules	2621
getUserConfiguration	2622
getUserConfigurations	2623
importRepository	2623
publishProject	2624
resume	2625
saveOrchestrationValues	2626
saveProperties	2627
setConfigurationGroups	2628
start	2628
stopAndCancel	2629
stopAndWait	2631
suspend	2632
undeploy	2633
Orcmon	2634
getJobCount	2634
getJobDetails	2636
getMonitoringProperties	2636
purgeJobs	2637
searchJobs	2638
setMonitoringProperties	2640
Lognotif	2640
createNotificationPolicy	2641
deleteNotificationPolicy	2642
getEmailEndpoint	2643
getLogCount	2644
getLogLevel	2645

getNotificationPolicies	2646
getNotificationPolicy	2647
getSnmpEndpoint	2648
searchLogs	2649
setEmailEndpoint	2651
システム	2652
downloadPostmortem	2653
executeCommand	2653
getApplianceName	2654
getNetworkConfiguration	2655
getResourceUtilizationData	2657
setApplianceName	2658
setNetworkConfiguration	2659
ステージング	2661
isStagingDatabaseStarted	2662
startStagingDatabase	2663
stopStagingDatabase	2664

CDK 開発者ガイド 2664

概要	2664
設計上の考慮事項	2665
本書の構成	2666
CDK コネクタ・ウィザード: 始めに	2667
「コネクタ情報」 ウィンドウ	2668
「接続フィールドの追加」 ウィンドウの使用	2669
「アクティビティの追加」 ウィンドウの使用	2670
「最終の要約」 ウィンドウ	2673
オーケストレーションの完了	2674
Cast Iron のコネクタ・インターフェース	2675
コネクタ・インターフェースのオーケストレーションの完了	2677
TestConnection オーケストレーションの完了	2678
ListObjects オーケストレーションの完了	2679
DescribeObjects オーケストレーションの完了	2681
ローカル・リポジトリへの公開	2684
テストとデバッグ	2685
コネクタ・コンポーネントの単体テスト	2685
コネクタ・サービスとアクティビティの統合テスト	2687
コネクタ・プロジェクトのエクスポートとインポート	2689
コネクタ・プロジェクトのエクスポート	2689
コネクタ・プロジェクトのインポート	2690
Cast Iron CDK のコンポーネント	2691
Cast Iron CDK のスキーマ・ファイル	2692
Cast Iron CDK の XML ファイル	2710
Cast Iron CDK の WSDL ファイル	2710
Cast Iron CDK の .par ファイル	2711
よくある質問	2711

IBM WebSphere Cast Iron バージョン 7.0 インフォメーション・センター

IBM® WebSphere® Cast Iron® バージョン 7.0 を使用するために必要な、主要な作業についての情報を提供します。

始めに

[このリリースの新機能](#)

[IBM Cast Iron Studio](#)

[IBM Cast Iron Express®](#)

[IBM Cast Iron Live](#)

[IBM Cast Iron Web Management Console \(WMC\)](#)

[IBM Cast Iron コマンド・ライン・インターフェース \(CLI\) リファレンス](#)

[IBM Cast Iron 高可用性 \(HA\) ペア・リファレンス](#)

[IBM Cast Iron Hypervisor Edition](#)

[IBM Cast Iron 通知リファレンス](#)

[IBM Cast Iron 管理 API ガイド](#)

[IBM Cast Iron Connector Developer Kit \(CDK\) 開発者ガイド](#)

[🔗 IBM Education Assistant](#)

一般的なタスク

[トラブルシューティングとサポート](#)

追加情報

[🔗 IBM WebSphere Cast Iron サポート](#)

[🔗 IBM Cast Iron Community Forums](#)

[🔗 IBM Education Assistant](#)

[🔗 Global WebSphere community](#)

[🔗 コンシューマビリティに関するお客様経験アンケートに参加できます。](#)

Copyright IBM Corporation 2003, 2013. All Rights Reserved.

このリリースの新機能

IBM® WebSphere® Cast Iron® バージョン 7.0 には、新しい機能および拡張された機能が含まれています。

IBM WebSphere Cast Iron バージョン 7.0 には、以下のコンポーネントに関する新機能および更新が含まれています。

- Studio
- コネクター
- 管理コンソール
- Maestro

注: Cast Iron バージョン 7.0 からは、Cast Iron に IBM Java 7 が使用されます。

SP800-131a 準拠

- Cast Iron バージョン 7.0 は、National Institute of Standards and Technology (NIST) の Special Publications 800-131a によって定義された要件をサポートしています。SP 800-131a は、使用できるア

ルゴリズムおよび最小強度を定義することにより、セキュリティーを強化しています。

- Cast Iron に保管されたパスワードはすべて、より強固な SHA256 ハッシュ・アルゴリズムを使用してエンコードされます。
- 鍵と証明書の強度は、112 ビットと同等であるか、それ以上になっています。つまり、Cast Iron によって生成される新しい RSA/DSA 証明書は、少なくとも 2048 の長さの鍵を持っています。
- SP800-131a 準拠の暗号スイートが Cast Iron によってサポートされています。
- WMC、コネクタ、および Studio によって TLSv1.2 プロトコルをサポートしています。

注:

- Cast Iron の Studio およびコネクタは、TLS v1.2 セキュア・プロトコルのみを使用するように構成できます。
- 後方互換性のためや、外部エンドポイントをサポートするために、デフォルトの動作は、従来のバージョンの Cast Iron と同じになっています。

Studio

このセクションでは、Studio の新機能および更新について説明します。コネクタの新機能および更新について詳しくは、「コネクタ」セクションを参照してください。

- 1つのネットワーク上のファイアウォールの背後にあるエンドポイント、および別のネットワークで稼働中のアプライアンスとの接続をサポートしています。これは、Cast Iron Studio のセキュア・コネクタ・サポートによって実現されます。
- バージョン 7 からは、2つのバージョンの Studio インストーラーがあります。1つは 32 ビット JRE 1.7 を使用し、もう 1つは 64 ビット JRE 1.7 を使用します。
- 暗号アクティビティ
 - オーケストレーション・レベルで PGP 暗号化/暗号化解除をサポートします。
 - AES 暗号化/暗号化解除をマッピング関数としてサポートします。
- 新規コネクタがダウンロードして使用可能です。新規コネクタについて詳しくは、「コネクタ」セクションを参照してください。
- 登録なしで Studio から TIP をダウンロードできます。ログイン・ページですでにハードコーディングされているデフォルトのユーザー名とパスワードを使用してログオンします。

コネクタ

既存のコネクタに対する更新に加えて、Studio は以下のものをサポートするようになりました。

- リストに追加された新規コネクタは以下のとおりです。
 - ServiceMax コネクタ - ServiceMax コネクタを使用すると、ServiceMax アプリケーション内でオブジェクトを作成、変更、および取得できます。このコネクタは、更新されたオブジェクトおよび削除されたオブジェクトのポーリングもサポートします。
- セキュリティー・トークン・サービス - WS-Trust 仕様に準拠した SAML 2.0 トークン/アサーションに対する要求の送信を可能にします。
- Force.com Bulk API コネクタ・バージョン 2.1 での機能強化:
 - Salesforce.com SOAP/ReST API バージョン 28.0 をサポートします。
 - `encryptedtext` や `geolocation` などの追加の Salesforce.com データ型をサポートします。
 - 標準オブジェクトおよびカスタム・オブジェクトの関係フィールドをサポートします。
- Lotus Domino® コネクタが以下の機能をサポートするようになりました。
 - バージョン 9.0 の Lotus Domino サーバー。
 - ビューの照会 - Lotus Domino データベースからのビューを照会するために使用される新規アウトバウンド・アクティビティ。
 - サブフォーム (フォーム設計時にメインフォームに静的に組み込まれたフォーム)

- 動的に追加されたフィールド (Lotus Domino 文書の一部であるが、「入力のマップ」および「出力のマップ」に生成されないフィールド) の処理。
 - 「文書の照会」アクティビティーでの最終変更日時/作成日時のタイム・スタンプに基づくデータベースの照会。
 - インバウンド・アクティビティーでの複数のデータベースのポーリング。
 - 要求の一部としての接続パラメーターの動的引き渡し
- データベース・コネクターは、Google Cloud SQL データベースをサポートするようになりました。
- SAP コネクターは以下のものをサポートするようになりました。
 - シングル・サインオン (SSO) - 1 つのトークンで複数の SAP アプリケーションへのアクセスを許可するユーザー認証プロセス。
 - セキュア・ネットワーク通信 (SNC) - SAP システムのセキュリティを強化します。
 - 要求の一部としての接続パラメーターの動的引き渡し
- HTTP コネクターは以下のものをサポートします。
 - OAuth 2.0 認証 - OAuth 2.0 認証アクセスを通じてリソース・サーバー・エンドポイントに接続します。
 - 「HTTP 受信要求」アクティビティー用に基本認証サポートが追加されました。
- 「Web サービス」コネクター - 「サービスの提供」アクティビティー用に基本認証サポートが追加されました。
- JD Edwards (JDE) コネクターは、「ビジネス関数の呼び出し」アクティビティー用に JDE ツールのバージョン 9.1 をサポートするようになりました。

管理コンソール

以下のセクションでは、Web 管理コンソール (WMC) の新機能および更新について説明します。

- 他のアプライアンスを管理するための WMC 内の単一の統合ユーザー・インターフェース。
- 拡張された構成詳細 - 構成詳細には「要約」セクションにパブリッシャーの名前が表示されるようになりました。
- 拡張された構成フィルター - 「プロジェクト構成」ページの「構成フィルター」を使用して、排他的に公開されたプロジェクトを表示できるようになりました。
- 公開されたプロジェクト詳細 - アプライアンス管理者は、すべてのプロジェクト、プロジェクトを公開したユーザー、およびプロジェクトが公開された日時を表示できるようになりました。
- プロジェクト・アクセス権 - アプライアンス管理者は、一定のプロジェクトにアクセスするためのアクセス権を特定のユーザーに付与できるようになりました。
- ログイン履歴 - アプライアンス管理者は、すべてのユーザーの履歴、そのログオン回数、ログオン日時、およびログアウト日時を確認できます。
- システム・ログおよびジョブ・ログ - 表示したい「システム・ログ」ページおよび「ジョブ・ログ」ページの列をカスタマイズ/編集できるようになりました。

Maestro


以下のセクションでは、新機能および更新について説明します。

- 異なるネットワーク上のファイアウォールの背後にあるエンドポイント、および別のネットワークで稼働中のアプライアンスとの接続をサポートしています。これは、Cast Iron Appliance のセキュア・コネクター・サポートによって実現されます。
- セキュア・コネクター・クライアント・インストーラーは、64 ビットのマシンをサポートします (linux と Windows の両方)。現在では、32 ビットのセキュア・コネクター・インストーラーに加えて 64 ビットのセキュア・コネクター・インストーラーがあります。
- 保守性の改良 - 追加のシステム・ログがオーケストレーション・デプロイメント時に生成されます。ユーザーおよびグループに固有な、オーケストレーションに関連しないイベントもシステム・ログに生成

されます。

- アプライアンスのリソース使用状況詳細を取得するための新規管理 API が追加されています。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/whatsnew.html>

概要

このセクションでは、統合アプライアンス、Studio、および Web 管理コンソールの概要について説明します。また、テンプレート統合プロジェクトへのアクセスについての情報と、インストールおよび構成についての情報もあります。

- **開発環境**
統合アプライアンスは、データの統合、変換、ルーティング、モニター、および管理機能を単一製品に結合したものです。実行時、統合アプライアンスはデータおよび処理を、データベース、エンタープライズ・アプリケーション、レガシー・システム、およびビジネス・アプリケーションの間で共有します。
- **統合アプライアンス**
統合アプライアンスは、冗長でホット・スワップ可能なコンポーネントで構成されるラック・マウント可能なアプライアンスです。
- **Web 管理コンソール**
Web 管理コンソール (WMC) は、統合アプライアンスによってホストされるブラウザ・ベースのアプリケーションです。
- **Studio**
Studio は、統合プロジェクトを設計およびビルドするための開発ツールです。
- **インストールおよび構成**
このトピックでは、統合プロジェクトをビルドおよび実行する前に完了する必要があるインストールおよび構成のステップについて説明します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_introduction.html

開発環境

統合アプライアンスは、データの統合、変換、ルーティング、モニター、および管理機能を単一製品に結合したものです。実行時、統合アプライアンスはデータおよび処理を、データベース、エンタープライズ・アプリケーション、レガシー・システム、およびビジネス・アプリケーションの間で共有します。

機能

- 以下の業界標準フォーマットを幅広くサポート
 - XML (W3C XML スキーマ、DTD、および XML 文書)
 - フラット・ファイル、未加工のテキスト、および未加工の 2 進データ・タイプ
 - UTF-8、US-ASCII、ISO-8859-1、SHIFT_JIS、EBDIC-XML-US、EUC-JP などの多くの文字エンコードをサポート
 - Informix®、Sybase、DB2®、MySQL、Oracle、および Sequelink を介したその他の商用データベース・システム。
 - SAP IDOC や IBM® MQ Series などのシステム固有プロトコル
 - Web サービス (Web Services)
- あるフォーマットから別のフォーマットに (例えばフラット・ファイル・データから XML データに) データを簡単に変換する機能。
- 統合アプライアンスで処理されるすべてのメッセージを保持する、組み込みメッセージ・リポジトリを用いたメッセージ送達の保証。
- 同期および非同期といった様々なアプリケーション・プログラミング・スタイルのサポート (要求/応答、ストア・アンド・フォワード、パブリッシュ/サブスクライブ)。
- HTTP、セキュア HTTP (HTTPS)、FTP、セキュア FTP (SFTP) 用の構成可能なポートを介したデータ転送のサポート。
- クライアント・サイド PKI 認証のサポート (統合アプライアンスからセキュア・サーバーに接続する機能)。
- Web 管理コンソール (WMC) およびコマンド・ライン・インターフェース (CLI) を使用して、ネットワーク上の任意の場所からリモート側で管理される機能。
- ネットワークの SMTP ベースの E メール・システムと Simple Network Management Protocol (SNMP) トラップを使用した、E メール・ベースの通知のサポート。

コンポーネント

開発環境には、以下のハードウェア・コンポーネントおよびソフトウェア・コンポーネントが含まれます。

Studio

Windows 開発環境で統合プロジェクトを作成するために使用するグラフィック・ツール。統合プロジェクトを Studio から統合アプライアンスに公開します。

統合アプライアンス

ネットワークに直接接続し、Studio を使用して作成した統合プロジェクトを実行するアプライアンス。

Web 管理コンソール (WMC)

統合アプライアンス上のプロジェクトの管理に使用する、ブラウザ・ベースのコンソール。

コマンド・ライン・インターフェース (CLI)

統合アプライアンス上でプロジェクトを管理するために使用できるコマンド・セット。

- [開発プロセス例](#)
このトピックのステップでは、統合プロジェクトの開発プロセス例について説明します。

親トピック: [概要](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_dvlpmentenv.html

開発プロセス例

このトピックのステップでは、統合プロジェクトの開発プロセス例について説明します。

手順

1. 標準の Windows 2000/XP マシン上で Studio を使用して統合プロジェクトを開発します。
2. Studio で、オーケストレーションが有効であることを確認します。
3. 統合プロジェクトを統合アプライアンスに公開します。
4. Windows 2000/XP マシン上でブラウザを開きます。ブラウザで、Web 管理コンソール (WMC) を開始します。WMC から、統合プロジェクトのオーケストレーション・ジョブ (インスタンス) をデプロイする要求を統合アプライアンスに発行します。
5. イベントによって、オーケストレーション・ジョブの作成と、オーケストレーションを構成するアクティビティの処理の開始がトリガーされます。例えば、FTP サーバーの特定のディレクトリーにファイルが配置されることによって、オーケストレーション・ジョブの作成と処理の開始をトリガーすることができます。
6. WMC から、オーケストレーション・ジョブが完了したこと、およびエラーが発生していないことを確認します。
7. Studio 内で統合プロジェクトを変更します。例えば、元の統合プロジェクトで FTP サーバー上の特定ディレクトリーにファイルが存在するかどうかの検査を行う場合、この統合プロジェクトを変更して、FTP ソース・ディレクトリーから FTP 出力ディレクトリーにファイルを移動するようにします。
8. Studio で「検査」タブを使用して、影響を受ける各オーケストレーションを実行することによって、プロジェクトの更新が妥当であることを確認します。
9. WMC から、元の統合プロジェクトをアンデプロイします。
10. 変更された統合プロジェクトを統合アプライアンスに公開します。
11. WMC から、変更された統合プロジェクトをデプロイします。
12. イベントによって、オーケストレーション・ジョブの作成と、オーケストレーション内のアクティビティの処理の開始がトリガーされます。
13. WMC から、統合プロジェクトが実行されたことを確認します。

親トピック: [開発環境](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_developmentprocessexample.html

統合アプライアンス


統合アプライアンスは、冗長でホット・スワップ可能なコンポーネントで構成されるラック・マウント可能なアプライアンスです。

統合アプライアンスに使用できるコンポーネントには、ネットワーク・ポート、ハード・ディスク・ドライブ、RAM、冷却ファン、およびその他の重要なコンポーネントがあり、フォールト・トレラントな運用を保証します。

統合アプライアンスを管理するには Web 管理コンソール (WMC) およびコマンド・ライン・インターフェース (CLI) を使用します。

親トピック: [概要](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_integrationappliance.html

Web 管理コンソール

Web 管理コンソール (WMC) は、統合アプライアンスによってホストされるブラウザ・ベースのアプリケーションです。

WMC では Web ブラウザーを使用して、統合アプライアンスのハードウェア、オーケストレーション、およびネットワーク状況を構成および監視できます。

システム管理者は WMC を次のモニター・タスク用に使用できます。

- 統合アプライアンスの状況情報の取得 (メモリー使用統計、ディスク・スペース統計、CPU 状況、ファン状況、および電源機構状況など)。
- 処理情報全体の一覧を取得した後、特定のオーケストレーションをドリルダウンして、特定のメッセージ、アクティビティ、エラー、およびその他の詳細に関する包括的な情報の取得。
- ログおよびエラー通知の表示。

WMC に加えて、コマンド・ライン・インターフェース (CLI) を使用して多くの管理タスクおよびモニター・タスクを実行することもできます。CLI について詳しくは、コマンド・ライン・インターフェースのリファレンスを参照してください。

親トピック: [概要](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

Studio

Studio は、統合プロジェクトを設計およびビルドするための開発ツールです。

Studio では、ビジネス・プロセス・ソリューションおよびデータ統合ソリューションをモデル化したオーケストレーションを作成します。Studio では、Studio ワークスペースにドラッグして構成できるアクティビティのパレットが提供されています。実行時にこれらのアクティビティは、データベース表内の INSERT イベントのポーリングなどのアクションを実行します。オーケストレーションは1つ以上のアクティビティで構成されます。1つの統合プロジェクトに1つ以上のオーケストレーションを含めることができます。

単純な Point-to-Point オーケストレーションや、複数のエンドポイントを含む複雑なオーケストレーションを、コードを記述することなく設計できます。

統合プロジェクトをビルドした後、統合プロジェクトを統合アプライアンスに公開します。

Studio のレイアウト

Studio のメイン・ペインには次の2つのセクションがあります。

ワークスペース

メインの Studio ペインの左側に表示されます。エンドポイントやフラット・ファイル・スキーマなどのコンポーネントを作成すると、そのコンポーネントのプロパティ・ペインがワークスペースに表示されます。新規オーケストレーションを作成すると、空のオーケストレーションがワークスペースに表示されます。「アクティビティ」タブのアクティビティを、ワークスペースに表示されているオーケストレーションにドラッグします。オーケストレーションのアクティビティを構成すると、アクティビティの構成ペインもこのワークスペースに表示されます。

タブ

メインの Studio ペインの右側では、以下のタブが利用できます。

- プロジェクト (Project)
 - アクティビティ
 - 変数
 - 関数
 - 検査
-
- **「プロジェクト」タブ**
「プロジェクト」タブには各コンポーネント用のフォルダーが含まれています。
 - **「アクティビティ」タブ**
アクティビティはオーケストレーションにおける特定の操作を実行し、「アクティビティ」タブの各カテゴリーに編成されています。
 - **「変数」タブ**
現在のオーケストレーションで使用されている変数が「変数」タブにリストされます。
 - **「関数」タブ**
アクティビティの入力パラメーターと出力パラメーターの間のマップに追加できる関数は、「関数」タブにリストされています。

- 「検査」タブ

DataPower® Cast Iron® オペレーティング・システムをシミュレートすることによって、「検査」タブではプロジェクトを統合アプライアンスにデプロイする前にプロジェクト内のオーケストレーションをテストして問題を解決することができます。

- ノードおよびマッピングの理解


Studio を使用してビルドする統合プロジェクトは、BPEL4WS (Business Process Execution Language for Web Services)、WSDL (Web サービス記述言語)、およびその他の XML ベースの標準を含む業界標準に基づいています。

- パラメーターの理解

パラメーターは、オーケストレーションからアクティビティに、またはアクティビティからオーケストレーションに受け渡される値です。パラメーターからの値は、オーケストレーションを構成する変数を初期化するために使用されます。

親トピック: 概要

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_studio.html

「プロジェクト」タブ

「プロジェクト」タブには各コンポーネント用のフォルダーが含まれています。

「プロジェクト」タブから以下のコンポーネント・フォルダーにアクセスできます。

- オーケストレーション
- エンドポイント
- フラット・ファイル・スキーマ
- スタイル・シート
- 変換
- WSDL
- XML スキーマ

「プロジェクト」タブ・コンポーネントの新規インスタンスを作成すると、これらのインスタンスは対応するコンポーネント・フォルダー内に表示されます。

「プロジェクト」タブ内でいずれかのコンポーネントの新規インスタンスを作成するには、フォルダー（「エンドポイント」など）を右クリックしてメニューを表示し、作成オプションを選択します。その後、コンポーネントが作成されて該当するフォルダーの下に表示され、Orchestration、Orchestration1 などの汎用名が付与されます。すべてのコンポーネントは、ユーザーの統合プロジェクトのコンテキストに合わせて意味のある名前に変更する必要があります。

これらのコンポーネントは任意の順序で作成できます。すべてのコンポーネントが使用できるようにするには、フラット・ファイル・スキーマを作成し、XML スキーマ、WSDL、およびスタイル・シートをアップロードした後、オーケストレーションの定義を開始してください。

オーケストレーション

オーケストレーションは、統合プロジェクトの中心的なコンポーネントです。オーケストレーションには、特定のビジネス・プロセスを実行する一連のアクティビティが含まれます。例えば、あるオーケストレーションでは FTP サーバーからフラット・ファイルを取得し、フラット・ファイルからデータを取り込み、データを変換して、結果をデータベースに保存することができます。統合プロジェクトには少なくとも 1 つのオーケストレーションが入っていなければなりません。

エンドポイント

エンドポイント・コンポーネントは「プロジェクト」タブの「エンドポイント」フォルダーに表示され、様々な外部システムまたはエンドポイントへの接続に必要な接続情報を指定します。統合アプリケーションは、E メール (SMTP、POP)、FTP、SFTP、HTTP、HTTPS、JDE、JMS、MQ、NetSuite、PeopleSoft、Salesforce.com、SAP、Siebel、Web サービス、および多くの商用データベース・システムなど、多種多様なタイプのエンドポイントへの接続をサポートしています。

それぞれのタイプのエンドポイントには関連付けられた構成ペインがあり、その構成ペインでエンドポイント接続情報を指定できます。例えばデータベース・エンドポイントの場合、データベース名、サーバー名、ユーザー・アカウント、およびパスワードを指定する必要があります。ただし、テスト環境から実稼働環境に移動するとき、異なる一連の構成情報を指定する場合があります。構成情報を定義する構成プロパティ (または名前と値のペア) を Studio で定義することによって、ある接続情報のセットから別のセット (例えば、あるデータベースから別のデータベース) に移動するプロセスを簡素化することができます。

フラット・ファイル・スキーマ

フラット・ファイル・スキーマでは、フラット・ファイルの構文解析規則、内容、および構造を定義します。フラット・ファイルとは、コンマ区切りおよびタブ区切りのファイル、EDI、業界固有のテキスト・フォーマット (健康管理業界の Health Level 7 (HL7) フォーマットなど) など、XML 以外のテキスト・データです。

あるレコードまたはフィールドと別のレコードまたはフィールドを区別するのに区切り文字を使用する可変長フラット・ファイル・フォーマットをサポートする以外に、Studio では COBOL コピーブック・フォーマットなどの固定長レコードおよびフィールドもサポートします。Studio ではフラット・ファイル・スキーマ・エディターを使用して、いずれかのタイプのテキスト・ファイルおよびグループを作成することができます。

スタイル・シート

XSLT スタイル・シートは、XML データを 1 つのフォーマットから別のフォーマットに変換する方法を定義します。XSLT スタイル・シートを Studio にアップロードして、「XSLT の適用」アクティビティを、実行時に XSLT スタイル・シートを使用するオーケストレーションに追加できます。

変換

変換フォルダーにはスタンドアロン・マップが含まれています。スタンドアロン・マップは、ソース・ノードと宛先ノード間の 1 つ以上のマッピングのセットを表します。

例えば、IncomingOrder という名前のソース XML スキーマと ShippingOrder という名前の宛先 XML スキーマの間のマッピングのセットを含む、myMap という名前のスタンドアロン・マップを作成できます。スタンドアロン・マップを使用して、同じオーケストレーション内、または同じプロジェクトの別のオーケストレーション内に、任意の数の「変数のマップ」アクティビティを作成できます。「変換」フォルダーからオーケストレーションの空のノードにスタンドアロン・マップをドラッグすることによって、スタンドアロン・マップから「変数のマップ」アクティビティを作成することができます。スタンドアロン・マップに基づく「変数のマップ」アクティビティが作成されます。

WSDL


WSDL (Web サービス記述言語) は、Web サービスについて記述する XML 文書です。Web サービスへのアクセス方法と、その Web サービスで使用できる操作を定義します。

XML スキーマ

XML スキーマは、XML データの内容と構造を定義します。XML スキーマは、通常は .xsd 拡張子で終わるファイルに保管されます。XML スキーマをプロジェクトにアップロードすると、その XML スキーマを使用して、オーケストレーションのアクティビティーで使用する変数を作成できます。

親トピック: [Studio](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_theprojecttab.html

「アクティビティー」 タブ

アクティビティーはオーケストレーションにおける特定の操作を実行し、「アクティビティー」タブの各カテゴリに編成されています。

アクティビティーは、次の一般的なカテゴリに編成されます。

変換アクティビティー

変換アクティビティーは、あるフォーマットから別のフォーマットにデータを変換します。例えば、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーは、フラット・ファイル・データを XML データに変換します。変換アクティビティーは、「アクティビティー」タブの「変換」フォルダーの下にリストされます。

ロジック・アクティビティー

ロジック・アクティビティーは、制御フロー・ロジック、ブランチ、またはループ (例えば「For Each」および「while ループ」アクティビティー) などのオーケストレーションのプロセス・フローに影響します。ロジック・アクティビティーは、「アクティビティー」タブの「ロジック」フォルダーの下にリストされます。

ユーティリティー・アクティビティー

ユーティリティー・アクティビティーは、現在のオーケストレーション・ジョブ (またはオーケストレーションのインスタンス) を開始するか操作するユーティリティーです。ユーティリティー・アクティビティーは、「アクティビティー」タブの「ユーティリティー」フォルダーの下にリストされます。

コネクター・アクティビティー


コネクター・アクティビティーは、オーケストレーションに関連付けられた様々な外部システム上で操作を実行します。コネクション指向アクティビティーは、データベース、Eメール、FTP、HTTP、JMS、Salesforce.com、Siebel、MQ、SAP、Web サービスなど、システムのタイプに合わせて名前が付けられた様々なフォルダーにグループ化されます。

アクティビティーを使用するには、「アクティビティー」タブのアクティビティー・アイコンをワークスペース内のオーケストレーションにドラッグします。アクティビティーの特性を構成するには、オーケストレーション内でこのアイコンをクリックします。オーケストレーションの下に構成ペインが表示されます。

構成ペインには、各アクティビティの構成をガイドするアクティビティ固有のチェックリストが含まれています。大半のアクティビティの構成における重要な部分は、入力パラメーターと出力パラメーターのマッピングに関連します。

親トピック: [Studio](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_theactivitiestab.html

「変数」 タブ


現在のオーケストレーションで使用されている変数が「変数」タブにリストされます。

変数は、データ・ソースをオーケストレーションにバインドし、オーケストレーション処理の結果として作成されたデータ値を受け渡す (または操作する) ための特定のオーケストレーションのコンテキストで使用されます。オーケストレーションの変数は通常、オーケストレーションを構成する特定のアクティビティからのパラメーターによって初期化されます。

変数は、文字列または整数値などのプリミティブ・データを保管したり、XML スキーマ全体や XML スキーマのフラグメントを表すことができます。Studio では、マッピング・エディターの「コピー」ボタンを使用して、オーケストレーションに対する変数を自動的に作成できます。Studio の「変数」タブでは、「スキーマ」ペインから XML スキーマのフラグメント (またはサブノード) を「変数」ペインにドラッグすることによって、XML スキーマのフラグメントに基づく変数を作成できます。

親トピック: [Studio](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_thevariablestab.html

「関数」 タブ

アクティビティの入力パラメーターと出力パラメーターの間のマップに追加できる関数は、「関数」タブにリストされています。

オーケストレーションを通過するデータを変更するために、アクティビティの入力パラメーターと出力パラメーターの間のマッピングに関数を追加できます。「関数」タブで使用可能な関数を使用して、以下のアクシ

ョンを実行できます。


- 計算
- データ型の変換
- データの再フォーマット設定
- 複数のデータ・フィールドから単一フィールドへの結合

Studio で使用可能な関数のリストと、各関数の入出力パラメーターを含む参照情報については、Studio のオンライン・ヘルプの『マッピング関数リファレンス』セクションを参照してください。

「関数」タブから、マッピング・エディターの入力ノードと出力ノードの間のリンク上に必要な関数をドラッグします。必要な機能が標準の Studio 関数にない場合、独自のカスタム関数を作成できます。詳しくは、Studio のオンライン・ヘルプの『マッピング・カスタム関数 (Mapping Custom Functions)』セクションを参照してください。

親トピック: [Studio](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_thefunctionstab.html

「検査」タブ

DataPower® Cast Iron® オペレーティング・システムをシミュレートすることによって、「検査」タブではプロジェクトを統合アプライアンスにデプロイする前にプロジェクト内のオーケストレーションをテストして問題を解決することができます。

テストの実行を開始する際、プロジェクト内の単一のオーケストレーションまたはすべてのオーケストレーションを開始できます。その際、Studio はオーケストレーションごとに1つのオーケストレーション・ジョブを実行します。オーケストレーションの開始や停止、およびオーケストレーション・モニター・ログの表示は、Studio ツールバーまたは「検査」タブから行うことができます。

オーケストレーションが無効な場合、メッセージ・ダイアログに、考えられる解決策が表示されます。ワークスペースにおいて、Studio は、データを処理しているオーケストレーション内の各アクティビティを強調表示します。Studio がオーケストレーションを実行すると、「検査」タブにはアクティビティ名、処理状況、変数/パラメーター名、変数/パラメーター・データなどのオーケストレーション・ジョブの詳細がツリー表示で示されます。エラーが発生すると、Studio はエラー発生ノードを強調表示します。そのノードをクリックすると、エラーのある場所に移動します。そこで、オーケストレーションの別のインスタンスを実行する前に問題を解決できます。

ツリー表示でノードをクリックすると、Studio は、そのノードに対応するチェックリスト・タスクを「プロパティ」ペインに表示します。例えば、アクティビティ・ノードをクリックすると、Studio ではアクティビティの「構成」パネルが「プロパティ」ペインに表示されます。「出力のマッピング」ノードをクリックすると、Studio では「出力のマッピング」パネルが「プロパティ」ペインに表示されます。マッピング変数またはマ

ッピング・パラメーターをクリックすると、データは「検査」タブの「変数/パラメーター・メッセージ・データ」セクションに表示されます。

Studio が実行するオーケストレーション・ジョブはオーケストレーションごとに 1 つのみですが、同じオーケストレーションを複数回開始できます。「検査」タブに、同じオーケストレーションを別個のインスタンスで実行したときの実行ごとの結果が表示されます。例えば、「インスタンス #1」、「インスタンス #2」のように表示されます。同じオーケストレーションの別のインスタンスを実行するには、その前にオーケストレーション・ジョブを完了させる必要があります。

注: Studio はランタイム・テストの結果を保持しません。オーケストレーション・タブを閉じると、オーケストレーションのランタイム結果は失われます。

追加要件

オーケストレーションのアクティビティーによっては、Studio はオーケストレーション・ジョブを実行するために入力をさらに要求する場合があります。




例えば、データベース・アクティビティーを含むオーケストレーションでは、Studio でオーケストレーションを実行する前にデータベース資産を生成する必要があります。これは、統合アプライアンスでオーケストレーションを実行する前に WMC で行わなければならない作業と同じです。オーケストレーションに「HTTP」の「受信要求」アクティビティーが含まれている場合、指定の URL にメッセージを送信する必要があります。Studio にはメッセージのポストを支援するための HTTP Post ユーティリティーが提供されています。オーケストレーションに「FTP ポーリング」アクティビティーが含まれている場合、Studio がオーケストレーションを実行する前に、指定の場所にファイルを配置しておく必要があります。Studio はオーケストレーションを実行する前に、この情報を示すプロンプトを出します。

「検査」タブによって統合アプライアンスでのランタイムをシミュレートできるため、統合アプライアンスに実際にデプロイする前に、Studio で Kerberos プロトコル設定を指定して、その設定をテストすることも可能です。このような設定を Studio に指定しても、統合アプライアンスでのランタイムは影響を受けません。統合アプライアンスに通信相手のサーバーを認証させるには、Kerberos プロトコル設定を WMC で指定する必要があります。統合アプライアンスに対して Kerberos プロトコル設定を指定する方法については、WMC のオンライン・ヘルプを参照してください。

「検査」タブ・ツールバーのナビゲート

以下の表で、「検査」タブのツールバーについて説明します。

表 1.

アイコン	説明
	開かれたオーケストレーションを開始します。Studio でオーケストレーション・ジョブを実行するには、オーケストレーションを有効にしておく必要があります。
	実行中のオーケストレーション・ジョブを直ちに停止します。Studio では、オーケストレーション・ジョブを停止前に完了させることはできません。
	まだ実行されていないプロジェクト内の有効なオーケストレーションをすべて開始します。このアイコンをクリックしたときにすでに実行されているオーケストレーションについては、Studio はそのオーケストレーションを再実行しません。

アイコン	説明
	実行中のすべてのオーケストレーション・ジョブを直ちに停止します。Studio では、オーケストレーション・ジョブを停止前に完了させることはできません。
	表形式またはテキスト形式でオーケストレーション・モニター・データを表示します。
	「ワークスペース」で、オーケストレーション・ジョブの実行パスにあるアクティビティを強調表示します。これにより、Studio がオーケストレーション・ジョブを完了するために使用したロジックをたどることができます。入力およびオーケストレーション・ロジックによって、インスタンスごとにパスが異なる可能性があります。このアイコンをクリックするたびに、パスを強調表示する処理と、実行パスを強調表示しない処理が切り替わります。
	選択されたインスタンスからの結果を「入力のマップ」および「出力のマップ」に割り当てます。これにより、「プロパティ」ペインからテストを実行したときに、Studio がオーケストレーション・ジョブの結果を入力および出力に取り込むようになります。
	選択された 1 つ以上のインスタンスをオーケストレーション詳細ツリーから削除します。複数のインスタンスを削除するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、削除するインスタンスを選択し、このアイコンをクリックします。
	オーケストレーション詳細ツリーで選択されたノードの下にあるすべてのノードを展開します。
	オーケストレーション詳細ツリーで選択されたノードの下にあるすべてのノードを省略します。
	オーケストレーション詳細ツリーで選択されたノードの下にある単一ノードを展開します。
	オーケストレーション詳細ツリーで選択されたノードの下にある単一ノードを省略します。

親トピック: [Studio](#)

フィードバック | 特記事項

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_theverifytab.html

ノードおよびマッピングの理解

Studio を使用してビルドする統合プロジェクトは、BPEL4WS (Business Process Execution Language for Web Services)、WSDL (Web サービス記述言語)、およびその他の XML ベースの標準を含む業界標準に基づいています。

製品を使用するにあたり、これらの標準の技術的な詳細を知っておく必要はありません。しかし、Studio を使って作業すると、入出力の XML 内容が表示されます。統合アプライアンス上で実行するオーケストレーションは、最適化された XML フォーマットでメッセージを使用、処理、および配信するため、すべてのデータとその定義は、XML 文書のようにノードの階層として表示されます。

例えば、データベース表の列はノードとして表現されます。別の例として、フラット・ファイル・スキーマは Studio 内で、一連のレコード、フィールド、またはグループ・ノードとして、子孫(子、孫など)を含むルート・ノードで構成されるツリー構造で定義されます。

Studio のノード・タイプには、次の 2 つの基本的な区別があります。

- 構造ノードは、構造に関する情報のみ伝達するノードです。構造ノードの例として、レコード定義(フラット・ファイル・スキーマについて定義される)があります。構造ノードには、別の構造ノードや、データを含むノードを含めることができます。
- データ・ノードはデータを含めることができるノードです。

典型的な完全ノード表記では、先頭ノードはルート・ノードと呼ばれ、他のすべてのノードを含むということを意味します。後続のノードは、構造ノードとデータ・ノードの両方で構成される子孫ノードです。

オーケストレーションの設計の重要な部分は、ノード間のマッピングを指定すること、つまり、オーケストレーションの処理におけるノードとノードに含まれるデータの使用方法と変換方法を定義することです。

XML 固有のいくつかの特性をノードに関連付けることができます。これらの特性は、ツリー内のノードの横に追加アイコンとして表示されます。これらのプロパティには、以下が含まれています。


- 繰り返し - ノードが反復できることを表します (指定回数または無制限回数)。繰り返しノードの各反復は、ノードの 1 回のオカレンスになります。
- ヌル可能 - このプロパティが関連付けされるデータ・ノードが、アプリケーションによって属性を「nil」に設定できるかどうかを示す boolean プロパティ。ヌル可能メカニズムは、必須でないデータ・エレメントのうち空のエレメントと null データ値を示すエレメントを識別する手段として XML スキーマ勧告によって定義されています。
- オプション - オプション・ノードが存在するかどうかを示します。

Studio アクティビティには、実パラメーターを変数にマップする方法、および変数をオーケストレーションで処理する方法を定義するために、オーケストレーションのコンテキストで設計時に構成する必要がある組み込みマップが含まれています。

マッピング・エディターの左ペインにあるノード・ツリーの特性とノード構造によって、左ペインのノードが右ペインにマップできるかどうかが決まります。

親トピック: [Studio](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_understandingnodesandmappings.html

パラメーターの理解

パラメーターは、オーケストレーションからアクティビティに、またはアクティビティからオーケストレーションに受け渡される値です。パラメーターからの値は、オーケストレーションを構成する変数を初期化するために使用されます。

パラメーターは、入力パラメーターまたは出力パラメーターのいずれかにできます。アクティビティーは、入力パラメーターのみ、出力パラメーターのみ、あるいはその両方を含むことができます。

「入力のマップ」タスクで、オーケストレーションの変数をアクティビティーの入力パラメーターにマップします。実行時に、変数の値はアクティビティーの入力パラメーターに受け渡され、アクティビティーによって使用されます。例えば実行時に FTP のファイルの書き込みアクティビティーにおいて、filename という入力パラメーターで指定された名前と、data という入力パラメーターで指定されたデータを使用してファイルを作成します。filename および data の入力パラメーターの値には、オーケストレーションの変数のデータが取り込まれます。


出力パラメーターはアクティビティーからの戻り値です。例えば「FTP」の「ディレクトリーのポーリング」アクティビティーでは、以下の表に示すように 3 つの出力パラメーターがオーケストレーションに渡され、各パラメーターがオーケストレーションの変数の初期化に使用できます。出力パラメーターはアクティビティーからオーケストレーションにマップすることができます。

表 1.

アクティビティー	パラメーター	説明
FTP でディレクトリーをポーリング (FTP Poll Directory)	filename	FTP サーバーから取得されたファイルの名前。
FTP でディレクトリーをポーリング (FTP Poll Directory)	data	ファイルの内容を含むストリング。
FTP でディレクトリーをポーリング (FTP Poll Directory)	timestamp	ファイルのタイム・スタンプ。

親トピック: [Studio](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_understandingparameters.html

インストールおよび構成

このトピックでは、統合プロジェクトをビルドおよび実行する前に完了する必要があるインストールおよび構成のステップについて説明します。

統合アプライアンス

統合アプライアンスは、DataPower® Cast Iron® オペレーティング・システムがプリインストールされた状態で出荷されます。ただし、統合プロジェクトを統合アプライアンスに公開およびデプロイする前に、統合アプライアンスをセットアップおよび構成する必要があります。セットアップには、追加のコネクター・ライセンスのインストールが含まれる場合もあります。詳しくは、「インストール・ガイド」を参照してください。統合アプライアンスがセットアップおよび構成されて、ネットワークから使用可能になると、ブラウザーのアドレス・フィールドに URL <https://hostname> を入力して Web 管理コンソールを起動することができます。

hostname は統合アプライアンスの名前です。この名前はインストール・プロセス中に統合アプライアンスに割り当てられたものです。

Web 管理コンソールによって、ブラウザ・ウィンドウ内にログイン画面が開きます。デフォルトのログイン・アカウントおよびパスワードは admin/!n0r1t5@C です。

統合アプライアンスへはコマンド・ライン・インターフェースを介してアクセスすることもできます。

Studio


統合アプライアンス上で実行する統合プロジェクトの作成を開始するには、Windows 開発ワークステーションに Studio をインストールする必要があります。ご使用の Windows 開発ワークステーションは、最小のハードウェアおよびソフトウェア要件を満たす必要があります。詳しくは、「インストール・ガイド」を参照してください。

Studio をインストールしたら、ソリューション・リポジトリにログインして、テンプレート統合プロジェクト (TIP) のリポジトリにアクセスできます。各 TIP は固有の統合プロジェクト・シナリオを扱っています。例えば、Salesforce.com エンドポイントからデータベース・エンドポイントにデータを統合するための TIP を見つけることができます。ソリューション・リポジトリから TIP を選択して TIP をワークステーションにダウンロードすると、ウィザードが開いて構成ステップ全体をガイドします。

注: ソリューション・リポジトリには、認証済みの TIP と認証済みでない TIP が格納されています。ソリューション・リポジトリへのアクセス権限を持つすべてのユーザーが TIP をアップロードできます。TIP の作成、変更、および検索については、Studio のオンライン・ヘルプを参照してください。

親トピック: [概要](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_installationandconfiguration.html

デプロイメントの概念

Studio を使用して統合プロジェクトを作成し、管理コンソールを使用してクラウドにデプロイするか、Web 管理コンソールを使用して統合アプライアンスにデプロイします。プロジェクトのデプロイメントには、そのプロジェクトのオーケストレーションに定義された処理を実行するために必要なすべてのランタイム・コンポーネントが含まれます。

デプロイメントについては、プロジェクトの開発時に以下の 2 つの重要な概念を念頭に置く必要があります。

- 公開とデプロイは 2 つの別のステップです。公開は、プロジェクトを Studio から統合環境 (クラウドまたは統合アプライアンス) あるいは別の中間ロケーションにプロモートする行為です。プロジェクトはデプロイされない限り統合環境内で実行されません。
- プロジェクトは、全く異なる環境 (開発、テスト、実動) をサポートする複数の構成を持つことができます。Studio を使用して、各プロジェクト用の構成プロパティを作成しておく、それらのプロパティを別々の環境にバインドできるため、デプロイメント時の柔軟性が高くなります。

統合アプライアンスでは、プロジェクトを Studio から統合アプライアンスに提供するための以下の 2 つのオプションが提供されています。


- プロジェクトを統合アプライアンスに直接公開できる。
- プロジェクトを Studio からステージング・ロケーションにエクスポートした後で、統合アプライアンスにアップロードできる。

プロジェクトを Studio からエクスポートした後で統合アプライアンスにアップロードしても、Studio から統合アプライアンスに直接公開しても、プロジェクトはデプロイしない限り統合アプライアンス上で実行されません。

- **構成について**

プロジェクトを統合アプライアンスに公開します。次に WMC はプロジェクトの構成を実行します。プロジェクトを統合アプライアンスに公開すると、WMC はデフォルトのプロジェクト構成を作成します。デフォルトのプロジェクト構成設定によって、プロジェクト内のすべてのオーケストレーションが使用可能になり、プロジェクトを素早くデプロイできるようになります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_deploymentconcepts.html

構成について

プロジェクトを統合アプライアンスに公開します。次に WMC はプロジェクトの構成を実行します。プロジェクトを統合アプライアンスに公開すると、WMC はデフォルトのプロジェクト構成を作成します。デフォルトのプロジェクト構成設定によって、プロジェクト内のすべてのオーケストレーションが使用可能になり、プロジェクトを素早くデプロイできるようになります。

統合アプライアンス上では同じプロジェクトに対して多数の構成を作成することができます。エンドポイントの接続情報を指定するために構成プロパティを使用している場合、各構成によって異なるエンドポイントに接続できます。例えば、ある構成ではテスト・データベースに接続でき、別の構成では実動データベースに接続できます。プロジェクト構成は WMC を使用して作成され、デフォルトでは作成時にはデプロイされません。

公開

公開は、特定の統合プロジェクト (Studio 内で指定されたプロジェクト) のバンドル化と、統合アプライアンス上へのプロジェクトのデプロイメントのための準備のプロセスです。プロジェクトを公開すると、Studio はプロジェクトの実行可能なバージョンを作成し、指定する統合アプライアンスにプロジェクトを送信します。

エクスポート

エクスポートはプロジェクトを圧縮するという点では公開と非常に似たプロセスですが、結果を統合アプライアンスに配信する代わりに、ファイルに名前を付けて、統合アプライアンスへの今後のアップロード用にファイルを保存します。例えば、この方法によって、品質管理チームによる追加のテストが可能になります。

アップロード

アップロードは、Studio からエクスポートされたプロジェクトを統合アプライアンスに移動するプロセスです。WMC では、このタスク用のメニュー選択が可能です。

デプロイ

デプロイは、必要なすべてのランタイム・コンポーネントをインスタンス化して、統合アプライアンスが実際の統合を実行できるようにするプロセスです。デプロイでは、プロジェクトが統合アプライアンスに公開またはアップロードされていると想定されます。Web 管理コンソールを使用して、プロジェクト構成をデプロイします。

構成プロパティーの理解

構成プロパティーによって、デプロイメント・プロセスでの開発環境から実稼働環境への移動が簡素化されます。構成の詳細をエンドポイント・プロパティーにハードコーディングする代わりに、構成プロパティーを作成し、エンドポイントの構成ページでこれらのプロパティー名を使用できます。


この理由は、Studio で作成されるエンドポイントは、具体的なアドレス情報 (ホスト名、IP アドレス) およびその他の詳細情報 (ユーザー・アカウント、パスワード) で構成されるためです。これらの詳細情報は、プロジェクトが実行される実際の環境の仕様に合わせてデプロイメント時に変更が必要な場合もあります (開発環境、テスト環境、および実稼働環境で異なるサーバーとシステムを使用することを想定した場合)。

デプロイメント時には、プロパティーに関連付けられた値を適切なホスト名や IP アドレスなどに変更できます。

構成プロパティーの作成について詳しくは、Studio のオンライン・ヘルプを参照してください。

親トピック: [デプロイメントの概念](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_aboutconfigurations.html

プロジェクトを開発する前に

このセクションでは、独自の統合プロジェクトを開発する前に知っておく必要がある情報について説明します。

- [統合プロジェクトの計画](#)
統合プロジェクトの開発プロセスを開始する場合、Studio を使用してプロジェクト要件をオーケストレーションに変換する前に統合シナリオを定義する必要があります。
- [プロジェクト要件から Studio コンポーネントへの変換](#)
統合プロジェクトの上位目標を特定した後、統合プロジェクトのより具体的な側面について分析し、目標を達成するために使用できる Studio コンポーネントを識別する作業を開始します。


- [統合アプライアンスの構成のヒント](#)

統合アプライアンスの構成を変更することが必要な場合があります。このトピックでは、パスワードの変更、ユーザーおよびグループの作成、および最適なパフォーマンス構成について扱います。

- [Studio のベスト・プラクティス](#)

Studio の能力を完全に引き出して使用するための手引きを示します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_beforedevelopingyourprojects.html

統合プロジェクトの計画

統合プロジェクトの開発プロセスを開始する場合、Studio を使用してプロジェクト要件をオーケストレーションに変換する前に統合シナリオを定義する必要があります。

統合シナリオの定義

統合シナリオを定義するときは、明確な目標を指定します。この目標を念頭に置いて、以下の上位プロジェクト要件を特定します。


- エンドポイント - データを移動させるソース・システムおよびターゲット・システムは何か。
- フォーマット - ソース・システムからのデータのフォーマットは何か。ターゲット・システムが受け入れるデータ・フォーマットは何か。
- 変換 - ソース・データとターゲット・データのフォーマットまたは構造が異なる場合、どのようなタイプのデータ変換が必要か。特殊な処理ルールが存在するか。

例えば、目標が複数の発注書を統合して、統合された発注書を供給業者のデータベースに配置することだと仮定します。上位プロジェクト要件として、以下のようなものが考えられます。

- エンドポイント - ソース・システムは FTP サーバーです。ターゲット・システムは Oracle データベースです。
- フォーマット - ソース・データは、FTP サーバーに保管されている CVS フラット・ファイルから取得されます。ターゲット・データベースでは、表形式のデータが必要です。
- 変換 - フラット・ファイルから表への変換が必要です。また、消費税ありのロケーションからの注文は、消費税なしのロケーションからの注文とは異なる方法で処理する必要があります。
- 統合プロジェクトの全体目標。例えば、フラット・ファイルの発注書を XML の発注書と結合して単一の大規模な発注書とし、供給業者のデータベースに保管します。

例えば、複数の発注書を統合し、発注書が特定のフォーマットに準拠することを確認してから、以下を実行します。

- いくつかのフラット・ファイル・ソースをターゲットの XML ファイルに統合する必要があります。
- ある FTP サイトのファイルを別のサイトに移動する必要があります。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_planninganintegrationproject.html

プロジェクト要件から Studio コンポーネントへの変換


統合プロジェクトの上位目標を特定した後、統合プロジェクトのより具体的な側面について分析し、目標を達成するために使用できる Studio コンポーネントを識別する作業を開始します。

作業は、統合プロジェクトの以下の特性を分析することから開始できます。

- データを取得する 1 つ以上のソースと、データの送信先となるターゲット。これらのソースおよびターゲット (データベース、FTP サーバー、HTTP サーバー、E メールなど) は、Studio 内でプロジェクトの一部として作成されるエンドポイントを構成します。
- ソース・データのフォーマットと、必要なターゲット・データのフォーマット。EDI フォーマットや CSV フォーマットなどのテキスト・ベース・ファイルは、データを統合アプライアンス用の適切なフォーマットに変換できるフラット・ファイル・スキーマとして Studio 内で定義できます。さらに、フラット・ファイル・スキーマを使用して、統合アプライアンスの外部で使用できるフラット・ファイル・フォーマットのデータを生成することもできます。XML ベースのデータは、適切な XML スキーマ (.xsd) または文書タイプ定義 (.dtd) を Studio にアップロードすることによって、統合プロジェクトに組み込むことができます。
- データ・フォーマットまたはデータ構造は、ソースとターゲットの間で変更する必要があるか、またある場合の変更方法。処理の一部が内容そのものに基づく必要があるか?

これらの要件を識別することによって、データの変換などの一連のアクティビティを構成する 1 つ以上のオーケストレーションを (Studio 内で) 定義するのに必要な情報が指定されます。変換では、あるフォーマットから別のフォーマットにデータを変換します。例えば、CSV (コンマ区切り値) フォーマットのフラット・ファイル・データを XML データに変換します。変換では、データの抑制、データの追加、データ型の変更、および計算の実行も可能です。

親トピック: [プロジェクトを開発する前に](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_translatingprojectrequirements.html

統合アプライアンスの構成のヒント

統合アプライアンスの構成を変更することが必要な場合があります。このトピックでは、パスワードの変更、ユーザーおよびグループの作成、および最適なパフォーマンス構成について扱います。

デフォルト・パスワードの変更

Web 管理コンソールを使用する場合、以下のようにします。

1. WMC の右上隅で、ユーザー名をクリックします。
2. 「パスワードの変更」を選択します。
3. これまでのパスワードと新規パスワードを入力し、新規パスワードを確認します。
4. 「保存」をクリックします。

コマンド・ライン・インターフェースを使用する場合、以下のようにします。

1. PuTTY などのアプリケーションを開始して、SSH 接続を使用して CLI にログインします。
2. アプライアンス・ホスト名を入力します。
3. 必要な場合、接続プロトコルとして SSH を選択するか、アプリケーションによって提供された他の接続パラメーターを設定します。
4. 接続を開始します。最初のアクセス時にログイン・プロンプトが表示されます。
5. デフォルトのユーザー名とパスワードを使用して統合アプライアンスにログインします (ユーザー名 = admin、パスワード = ! n0r1t5@C)。
6. 以下のコマンドを実行します。 `auth set user admin <old_password> <new_password>`

ユーザーとグループの作成と適切な特権の定義

あらゆるマルチユーザー・デバイスについて行うように、ユーザーおよびグループを作成し、統合アプライアンスへのアクセス権限を指定します。このとき、「最低限の特権」の規則、つまりユーザーは自らの作業を行うのに必要な特権以上の特権を持ってはならないという規則を使用するようにしてください。特権の設定について詳しくは、Web 管理コンソールのオンライン・ヘルプを参照してください。


最適なパフォーマンスを得るための統合アプライアンスの構成

より良いパフォーマンスを得るためには、統合プロジェクトが実動環境にデプロイされて予想どおり稼働しているときに、以下のパラメーターを調整します。

- 各オーケストレーションについて、ロギング・レベルを「すべて」オプションから「エラー値 (Error Values)」オプションに変更します。
- 各通知について、「超過レベル (Level exceeds)」フィールドを「クリティカル (Critical)」オプションに設定します。

親トピック: [プロジェクトを開発する前に](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

Studio のベスト・プラクティス

Studio の能力を完全に引き出して使用するための手引きを示します。

組織での命名規則を設定する

すべての Studio プロジェクトと、ファイル、フォルダー、プロジェクト、オーケストレーション、エンドポイントなどの関連するコンポーネントに対して、(解決すべきビジネス問題というコンテキストで) 意味のある固有の名前を指定します。名前は次のようにする必要があります。

- 固有の名前 - Studio は大/小文字の区別があり、filename1、FILENAME1、および FileName1 は 3 つの異なるファイルになります。ただし、Studio プロジェクトを区別するために大文字化に依存しないでください。大文字化に依存すると混乱を招くことがあります。
- 記述的な名前 - 例えば、供給業者と在庫システムを統合するプロジェクトは「SupplyChainIntegration」などと呼ぶことができます。

プロジェクトを頻繁にバックアップする

特にマルチユーザー環境ではプロジェクトを頻繁にバックアップするようにしてください。内容の圧縮ファイルをプロジェクトの特定ディレクトリーに作成するだけで、すべての Studio プロジェクト・コンポーネントを素早くバックアップできます。圧縮ファイルは他の安全な場所に保管しておいてください。プロジェクトの変更内容を追跡できるバージョン管理システム内が理想的です。

プロジェクトを中央の場所に保管する

すべてのプロジェクト・ファイルを中央の場所に配置する (できればバージョン管理ソフトウェアを使用する) と、プロジェクトの検索が簡単になり、以前の反復を容易に回復することができます (これは、同じプロジェクトで多数の開発者が作業中の場合に特に重要です)。

最適なパフォーマンスを実現するためのオーケストレーションを設計する

可能な場合、ソース・システムのネイティブ機能を使用して、できるだけ多くの入力データを統合前に前処理します。ソース・システム外部でデータを変換すると、処理オーバーヘッドが追加されます。パフォーマンスが問題になる場合、統合プロジェクトのオーケストレーションにおいて「アクティビティのマップ」の使用を最小化する方法を検討します。

例えば、複数の異なるデータベース・システムからのデータを統合する場合、異なるデータ型の間におけるすべての差異をオーケストレーション内で解決しようとする代わりに、データを前処理する抽出表を作成することを検討します。

エンドポイント定義の構成プロパティを使用する

プロジェクト・エンドポイントの詳細をハードコーディングする代わりに、詳細の一部についてプロパティを使用することができます。これらの構成プロパティを Studio で定義した後、管理コンソールを使用して様々なランタイム値を指定します。プロジェクトをデプロイする前に、実稼働環境の実際のエンドポイントに合わせてプロパティを構成する必要があります。詳しくは、オンライン・ヘルプを参照してください。

設計時にアクティビティとすべての定義を Studio 内でテストする

Studio を使用してオーケストレーションのすべてのエレメントを設計するとき、適切である場合は必ずテスト・データを使用して、マッピングが期待通りに動作することを確認するようにします。プロジェクトを公開する前に、Studio を使用してすべてのマッピングおよびフラット・ファイル・スキーマをテストします。

開発環境およびテスト環境をセットアップする

実稼働環境をミラーリングした開発環境およびテスト環境をセットアップすることが理想的です (テスト環境でのデータ・ソースおよびターゲットの複製を含む)。

- 開発環境とテスト環境に実動データを抽出 (または複製) します。

プロジェクトをデプロイする前に、構成プロパティーを変更して、実稼働環境の実際のエンドポイントに合わせてプロパティーを構成する必要があります。詳しくは、管理コンソールのオンライン・ヘルプを参照してください。

親トピック: [プロジェクトを開発する前に](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_studiobestpractices.html

用語集

用語集

アクティビティー (Activity)

オーケストレーション内の処理の完全な機能単位。アクティビティーには、フロー制御 (ロジック) アクティビティー、データの消費と送信を容易にするデータ・アクティビティー、およびデータベース・システム、エンタープライズ・システム、Web サーバー、E メール・サーバーなどのシステムとの統合を可能にするアクティビティーがあります。オーケストレーションには一連のアクティビティーが含まれています。

資産 (Assets)

特定のアクティビティーに関連付けられた、補足的な構成ファイル、スクリプト、またはその他の素材。例えば、データベース挿入アクティビティーのために作成されるバッファー・テーブル・スクリプトは資産です。資産は Web 管理コンソールによって制御されます。資産へのアクセス権は、WMC のユーザー以外のユーザーにも付与できます。例えば、DBA には、必要な表またはトリガーを作成できるように、データベース・アクティビティーに関連付けられた資産に対する特権を付与できます。

バッファー・テーブル (Buffer table)

単一表の挿入、更新、または削除のデータベース・モジュール・アクティビティーなど、さまざまなデータベース・アクティビティーとともに使用される補助表。データベース DML (データ操作言語) アクティビティーの 1 つを構成すると、Studio は、データベース表で適切なトリガーを作成するために使用可能な SQL スクリプトを生成します。バッファー・テーブルには、トリガー・イベント (INSERT、UPDATE、DELETE) の発生時にデータが取り込まれます。バッファー・テーブルにより、データベース変更を取り込み、オーケストレーションによる処理を開始するための手段が提供されます。

コマンド・ライン・インターフェース (Command-line interface)

統合アプライアンスを構成、管理、および照会するための、Web 管理コンソールに代わるテキスト・ベースのインターフェース。

コントロール表 (Control table)

統合において、データベース・エンドポイントの使用を容易にするデータベース表。バッファー・テーブルの場合と同様に、Studio は、特定の表への挿入、更新、および削除が一度だけ行われるようにするために使用可能なコントロール表を作成するためのスクリプトを生成します。

デプロイ (Deploy)

統合アプライアンスにプロジェクト構成のインスタンスを作成します。

文書 (Document)

統合プロジェクトを構成する XML スキーマ・ファイル、DTD、およびその他の構成ファイル。

動的区切り文字 (Dynamic delimiters)

一揃いの電子カルテを含むファイルで新規レコードの先頭を示す HL7 PID (患者 ID) メッセージ・ヘッダーなど、メッセージ自体のフィールド内から取得される区切り文字。

空プレースホルダー (Empty placeholder)

複数のブランチを持つアクティビティーに、当該ブランチでのアクティビティーの初期プレースホルダーとして置かれます。このアイコン上に他のアクティビティーをドロップすると、そのアクティビティーは削除されます。

エンドポイント (Endpoint)

実行時にデータを取得するかデータを返すために統合アプライアンスが接続する、データベース・サーバー、FTP サーバー、E メール・システム、エンタープライズ・アプリケーションなどの外部システム。

フラット・ファイル (Flat file)

XML 以外のデータを含むファイル。フラット・ファイルには通常、2つのタイプがあります。コンマ、タブ、空白、またはその他の区切り文字を使用して可変長フィールドおよびレコードを区切る「区切り」と、フィールドおよびレコードの幅が固定である「定位置」です。

For Each

データが反復するメッセージ構造に対して繰り返されるアクティビティー。

フラット・ファイル・スキーマ (Flat File Schema)

特定のフラット・ファイルのセットを解釈する方法を定義します。Studio は、「メッセージ定義」ペインで定義された構成に基づいてフラット・ファイル・スキーマ (XML スキーマ) を作成します。フラット・ファイル・スキーマは、ソース・フラット・ファイルを XML に変換するために「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーと組み合わせて使用されます。

関数 (Function)

オーケストレーションでの処理の定義に使用可能な、Studio によって提供されるストリング関数、数学関数、および各種関数。事前作成の関数に加えて、Studio では、ユーザー独自のカスタム関数およびルックアップ・テーブルを作成できます。

統合プロジェクト (Integration project)

Studio で設計され、統合アプライアンスにデプロイされた、統合ソリューションからなる、さまざまな入力、出力 (エンドポイント)、マッピングとスキーマ定義 (変換、メッセージ形式)、オーケストレーション、および構成情報。

ジョブ (Job)

オーケストレーションの特定のランタイム・インスタンス。

マップ (Map)

入力パラメーターを変数にバインドし、変数をオーケストレーションにバインドするための構成要素。多くの Studio アクティビティーには、実パラメーターを変数にマップする方法、および変数をオーケストレーションで処理する方法を定義するために、オーケストレーションのコンテキストで設計時に構成する必要がある組み込みマップが含まれています。組み込み済みのアクティビティー・マップに加えて、Studio には、オーケストレーションへの任意のタイプの入出力をバインドするために使用できるスタンドアロンの「アクティビティーのマップ」があります。

ノード (Node)

統合アプライアンスに対するデータ入出力はすべて、ツリー状の階層構造における一連のノードとして Studio に具体化されます。多くの場合、ノードは XML 文書の構造および内容を表しますが、そうではない場合もあります (例えば、データベース表の行はノードとして表示されます)。Studio でのノードは、構造に関する情報、サポート可能なコンテンツのタイプに関する情報、またはデータの追加特性に関する情報を伝達します。

オーケストレーション (Orchestration)

Studio を使用して定義および構成され、統合アプライアンスで実行するためにデプロイされる、処理アクティビティー (データ・マッピング、変換、制御ロジック・アクティビティーなど)、エンドポイント、およびデータ型の特定シーケンス。

パラメーター (Parameter)

アクティビティーまたはオーケストレーションに渡される値。例えば、ファイル名およびデータは、FTP エンドポイントからオーケストレーションに渡すことができるパラメーターのうちの 2 つです。

選出 (Pick)

発生したアクションに基づいて起動するスターター・アクティビティーを決定するアクティビティー。例えば、「選出」アクティビティーに 3 つのブランチ（「挿入済み行の取得」アクティビティーが入っているブランチ、「削除済み行の取得」アクティビティーが入っているブランチ、および「更新済み行の取得」アクティビティーが入っているブランチ）があるとします。データベースで UPDATE イベントが発生すると、オーケストレーションのインスタンスが作成され、「更新済み行の取得」アクティビティーが入っているブランチが呼び出されます。

プロジェクト (Project)

Cast Iron® Studio を使用して定義および作成されるプロジェクト。プロジェクトにはそれぞれ、プロパティー・ファイル (filename.sp3) と、すべての統合エレメント (オーケストレーション、エンドポイント、XML スキーマ、フラット・ファイル) とそれらの固有の構成 (変数、パラメーター) からなるいくつかの追加メタデータ・ファイルおよびフォルダーがあります。

公開 (Publish)

後のランタイム構成および特定環境へのデプロイのために、すべてのプロジェクト・ファイルを Studio から統合アプライアンスに、または中間ステージング域 (ファイル・サーバー上の共用ディレクトリーなど) にコピーします。「公開」プロセスには、プロジェクトの妥当性検査、プロジェクト構成文書の .par ファイルの作成、および指定された統合アプライアンスへのパッケージの送信が含まれます。

レコード ID (Record identifier)

EDI (電子データ交換) または HL7 (Health Level 7) ファイルなど、特定のタイプのフラット・ファイルでレコードを区切るための特殊フィールド。例えば、HL7 PID (患者 ID) 番号はレコード ID です。

反復区切り文字 (Repetition delimiters)

データにレコード ID などの固有値がない場合に、あるレコードを別のレコードと区別するために使用される、フラット・ファイルにおける区切り文字。

置換 (Replace)

「選出」および他のアクティビティー・ブランチに、そのブランチのメッセージを受信するエンドポイント・アクティビティーの初期プレースホルダーとして置かれます。このアイコンに「受信」エンドポイント・アクティビティーをドロップすると、削除されます。

ストアード・プロシージャ (Stored procedure)

データベース内にあり、その名前を指定して明示的に実行される機能コード単位。ストアード・プロシージャは、特定の挿入、更新、または削除アクティビティーが特定のデータベース表で実行されるときに、バッファー・テーブルにデータを取り込むために使用できます。

Studio

統合プロジェクトと、それらを構成するオーケストレーションを作成、構成、および公開するための、統合開発環境 (IDE)。Studio プロジェクトは、Cast Iron 統合アプライアンス上で実行されます。

終了 (Terminate)

オーケストレーション処理を停止します。

変換 (Transformation)

あるフォーマットから別のフォーマットにデータを変換します。例えば、CSV (コンマ区切り値) フォーマットのフラット・ファイル・データを XML データに変換します。変換では、データの抑制、データの追加、データ型の変更、および計算の実行も可能です。

トリガー (Trigger)

トリガー・イベントの発生時に、暗黙的に呼び出されるデータベース・ストアード・プロシージャの 1 タイプ。データベース・モジュールでは、「トリガー・イベント」は表に対する INSERT、UPDATE、または DELETE です。


変数 (Variable)

オーケストレーションによって処理されるデータ値を渡すために使用されます。変数は、ソースおよびターゲットを識別するためにマップで使用されます。一部のアクティビティーでは、変数が自動的に作成されます。

while ループ (While loop)

子アクティビティを開始し、指定された条件が true である間はそのアクティビティの処理を続けます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/getstart_glossary.html

リーガル情報

- [特記事項](#)
- [インフォメーション・センターの使用条件](#)

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/legal.html>

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM® の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM United Kingdom Laboratories,
Mail Point 151,
Hursley Park,
Winchester,
Hampshire,
England
SO21 2JN

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年).このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _ 年を入れる _ . All rights reserved.

親トピック: [リーガル情報](#)

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](#)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Intel Inside (ロゴ)、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項


サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品(「ソフトウェア・オフリング」)では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オフリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オフリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オフリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認してください。

この「ソフトウェア・オフリング」は、展開される構成に応じて、セッション管理および機能上の目的のために、それぞれのユーザーのセッション ID を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、『IBM プライバシー・ポリシー』 (<http://www.ibm.com/privacy>) および『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details>) の『クッキー、Web ビーコン、その他のテクノロジー』のセクションと『IBM ソフトウェア製品と Software-as-a-Service Privacy ステートメント』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/notices.html>

インフォメーション・センターの使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用度

これらのご使用条件は、IBM® Web サイトのご利用条件に追加されるものです。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。


資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態 で提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

親トピック: [リーガル情報](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.gettingstarted.doc/termsandconditions.html>

IBM Cast Iron Studio

IBM® Cast Iron® Studio は、統合プロジェクトを設計、テストして、IBM Cast Iron 統合アプライアンスに公開するために使用される開発ツールです。Studio には多数のエンティティーが用意されていて、これらをワークスペースにドラッグして、統合プロジェクトを構成する 1 つ以上のビジネス・プロセス・オーケストレーションの一部として構成します。

開始する前に、『[Studio の基礎](#)』を一読して Studio 環境と使用される用語に習熟してください。その後、ヘルプの各トピックを参照して、特定のタスクの実行方法を確認してください。

プロジェクトのデプロイや、統合アプライアンス上で実行されているプロジェクトの操作について詳しくは、『[Web 管理コンソール](#)』のヘルプを参照してください。

Studio の概念の概要 (プロジェクトを作成、テスト、および公開する方法の段階的サンプルを含む) については、『[概要](#)』のセクションを参照してください。

IBM Cast Iron Studio の概要ペイン


初めて Studio を起動すると、IBM Cast Iron Studio の概要ペインが表示されます。既存プロジェクトの編集中に Studio を閉じた場合、Studio は自動的に最後に編集していたプロジェクトをロードします。ロードされたプロジェクトを編集するには、「プロジェクト」タブのエンティティーをクリックします。

IBM Cast Iron Studio の概要ペインから、以下のオプションが選択できます。

- **プロジェクトの作成** - 「新規 Studio プロジェクト」ダイアログ・ボックスを起動します。新しい空のプロジェクトをデフォルトの空のオーケストレーションで作成する場合は、「新規 Studio プロジェクト」ダイアログ・ボックスを使用します。
- **プロジェクトを開く** - 「開く」ダイアログ・ボックスを起動します。既存のプロジェクト・ファイルを参照して開く場合は、この「開く」ダイアログ・ボックスを使用します。Studio プロジェクト・ファイルは、末尾が拡張子 .sp3 になっています。

- **最近のプロジェクト** - 最近開いたプロジェクトを表示するには、「最近のプロジェクト」フォルダーでプロジェクト名を直接クリックします。
- **ヘルプの表示** - Studio のヘルプを起動します。
- **ソリューションの検索** - テンプレート統合プロジェクト (TIP) ダイアログ・ボックスを開きます ([テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) の検索](#))。これにより Cast Iron ソリューション・リポジトリから TIP を検索できます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_welcome.html

プロジェクトの操作


このページは、IBM® Cast Iron® Studio を使用したプロジェクトの処理に関する情報を見つけるための出発点です。

- **Studio の基礎**
Studio ではワークスペースと呼ばれる環境が用意され、そこで統合プロジェクトの設計や構成を行うことができます。ツールボックスとはワークスペースの隣の領域で、複数のタブに、統合プロジェクトの作成に使用する各種のコンポーネント (エンドポイント、スキーマ、オーケストレーション、スタイル・シート、変換、WSDL、アクティビティ、変数、関数など) が入っています。
- **新規プロジェクトの作成**
プロジェクトを作成するたびに、プロジェクトの名前でそのプロジェクトのプロパティ・ファイルも作成されます。プロパティ・ファイルは、プロジェクトをエクスポートしたり公開したりするときに使用します。
- **プロジェクトをパスワードで保護する**
Studio では、プロジェクトにパスワードを割り当てることによってそれを保護できます。
- **プロジェクトを開く**
Studio を最初に起動すると、前回作業を行っていたプロジェクトがデフォルトで開きます。別のプロジェクトを開くには、いくつかの方法があります。
- **プロジェクトの保存**
Studio ツールバーを使用して、プロジェクトを保存できます。
- **プロジェクト名の変更**
Studio ツールバーを使用して、プロジェクト名を変更できます。
- **プロジェクトの公開**
プロジェクトを公開すると、Studio が統合アプライアンスに接続し、プロジェクトに含まれている文書によって統合アプライアンスを直接更新します。Studio でプロジェクトが完成し、検証とテストが済んだら、そのプロジェクトを公開します。検証が成功しなかったプロジェクトは公開できません。
- **プロジェクトのエクスポート**
エクスポートを実行すると、プロジェクトに関連するすべてのオーケストレーション、エンドポイント、スキーマ、およびその他の項目が、末尾が .par 拡張子の 1 つのファイルに保存されます。
- **プロジェクト設定の構成**
「プロジェクト設定」ダイアログ・ボックスを使用して、プロジェクトに固有のバージョン番号を割り当てることができます。

- プリファレンスの設定**
 「設定」ダイアログ・ボックスでは、プロジェクト、オーケストレーション、フラット・ファイル、SSL/Kerberos、セッション・ログイン、XML スキーマに関する設定を指定できます。設定内容は、いつでも変更できます。
- 構成プロパティの作成**
 プロジェクトの構成プロパティ (名前/値のペア) を作成します。構成プロパティを使用して、マッピング・エディターでの、マップの宛先ノードのデフォルト値を設定します。
- 構成プロパティの編集**
 Studio と Web 管理コンソール (WMC) で構成プロパティを編集できます。
- グローバル構成プロパティの作成**
 グローバル構成プロパティを作成すると、そのグローバル構成プロパティをプロジェクトの構成プロパティとしてプロジェクト内にインポートできます。
- テンプレート統合プロジェクト (TIP) の検索**
 テンプレート統合プロジェクト (TIP) は、Cast Iron ソリューション・リポジトリに保管されます。TIP は、構成ウィザードを使用して、統合シナリオの構成手順をガイドします。TIP はローカル・マシンにダウンロードできます。ログイン・ウィンドウにはユーザー名とパスワードがあらかじめ入力されているので、登録せずにヒントをダウンロードしやすくなっています。
- モジュール・プロバイダー・ライブラリーのインストール**
 IBM Cast Iron Studio および統合アプライアンスでは、特定のコネクタ・タイプのインスタンスに関連付けられたライブラリー・ファイル (.jar および .dll) をインポートする必要があります。例えば、データベース・コネクタ、JDE、JMS、MQ、PeopleSoft、および SAP コネクタでは、追加のライブラリーが必要です。これらのコネクタのいずれかを使用するエンドポイントおよびオーケストレーションを構成できるようにするには、これらのファイルが Studio 内に存在する必要があります。
- プロジェクトへのファイルのアップロード**
 プロジェクトには、特定タイプのファイルだけをアップロードできます。例えば、XML データ (特定の XML スキーマに対して有効なデータ) にストリングをマップしようとする場合、まず XML スキーマ・ファイル (拡張子が .xsd のファイル) をプロジェクトにアップロードしてから、XML スキーマ内のノードをマップする必要があります。
- 組み込まれている XML スキーマのアップロード**
 XML スキーマまたは WSDL 文書では、「スキーマの組み込み (Schema Inclusion)」、「再定義によるスキーマの組み込み (Schema Inclusion with Redefinition)」、または「名前空間のインポート (Importing a Namespace)」を使用してメイン文書に他の XML スキーマを組み込むことができます。
- アップロードするファイルのロケーションの指定**
 ファイルは Web ロケーション (HTTP または FTP サーバー) またはローカル・ファイル・システムからプロジェクトにアップロードできます。
- プロジェクトで有効な外部ファイル・タイプ**
 オーケストレーションを作成する場合、XML スキーマその他のファイルをプロジェクトにアップロードして、構成タスクを完了することができます。外部ファイルは、Studio が自動で XML スキーマを生成できないというメッセージが出る接続アクティビティやオーケストレーションで使用されます。そのメッセージを変換する必要がある場合、またはそのメッセージにジョブ・キーを定義する必要がある場合は、XML スキーマまたは DTD を提供する必要があります。
- 有効な名前について**
 プロジェクト、エンドポイント、オーケストレーション、スタイル・シート、フラット・ファイル・スキーマ、XML スキーマ、WSDL、および変換の名前を有効にするには、42 文字以内で指定する必要があります。予約文字または予約語を含んではいけません。
- 「元に戻す」および「やり直し」**
 Studio では、新しい方から最大 100 個までのアクションが保管され、これらのアクションは元に戻したり、やり直したりすることが可能です。取り消しや再実行ができるのは、UI のフィールド、オーケストレーション・ビュー、マッピング・エディター、プロジェクト・ツリー、構成プロパティ、変数パネル・アクティビティで実行するアクションです。

- **変更された XML スキーマの更新**
XML スキーマを使用するプロジェクトを作成した後で、その XML スキーマが変更された場合、既存の XML スキーマを新規 XML スキーマで更新を試みることができます。
- **プロジェクト・エクスプローラーの使用**
「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスには、プロジェクトに既に定義されている現行タイプのエンティティのセットがリストされます。
- **HTTP Post ユーティリティーの使用**
このユーティリティーは、HTTP サーバーへメッセージ/要求を送信するために使用できる、シンプルな HTTP クライアント・インターフェースを備えています。このインターフェースは、「HTTP: 要求の受信」アクティビティーをスターター・アクティビティーとして使用するオーケストレーションに役立ちます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>









http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_workingwithprojects.html









Studio の基礎

Studio ではワークスペースと呼ばれる環境が用意され、そこで統合プロジェクトの設計や構成を行うことができます。ツールボックスとはワークスペースの隣の領域で、複数のタブに、統合プロジェクトの作成に使用する各種のコンポーネント (エンドポイント、スキーマ、オーケストレーション、スタイル・シート、変換、WSDL、アクティビティー、変数、関数など) が入っています。

ツールバー・アイコン

Studio ツールバー・メニュー・オプションのすぐ下には、次の Studio ツールバー・アイコンがあります。

- 新規プロジェクト:  **プロジェクトの作成**
- プロジェクトを開く:  **プロジェクトを開く**
- プロジェクトの保存:  **プロジェクトの保存**
- プロジェクトを閉じる:  『**プロジェクトの保存**』を参照してください。
- 元に戻す:  直前のアクションを取り消すことができます。
- やり直し:  直前に取り消したアクションを再実行できます。
- 切り取り:  エンティティーを削除しますが、そのエンティティーのコピーがクリップボードに保存され、あとで貼り付けアクションに使用できます。例えば、オーケストレーションからアクティビティーを削除して、クリップボードに保管することができます。詳しくは、『**オーケストレーション内のアクティビティーの処理**』を参照してください。
- コピー:  選択したエンティティーのコピーがクリップボードに保存され、あとで貼り付けアクションに使用できます。

- 貼り付け:  保管されたエンティティをクリップボードからコピーします。
- 削除:  エンティティを削除します。このアクティビティはクリップボードに保存されません。
- プロジェクトの妥当性検査:  プロジェクト内のすべてのオーケストレーションを検証します。オーケストレーションが無効の場合は、「プロジェクト」タブのそのオーケストレーションの横に、無効なオーケストレーションのアイコン  が表示されます。オーケストレーションが無効の場合、そのオーケストレーションをクリックして、「妥当性検査結果」ウィンドウでエラーを表示します。
- プロジェクトの公開:  「プロジェクトの公開」ダイアログ・ボックスを開きます。「プロジェクトの公開」ダイアログ・ボックスから、プロジェクトを統合アプライアンスに公開できます。
- プロジェクトのエクスポート:  「保存」ダイアログ・ボックスを開きます。「保存」ダイアログ・ボックスから、プロジェクトに関連するすべてのオーケストレーション、エンドポイント、スキーマ、およびその他のオブジェクトを、末尾が .par 拡張子である 1 つのファイルに保存できます。
- プロジェクト・ドキュメンテーションの生成 (Project Documentation Generation): プロジェクト・ドキュメンテーションを HTML ファイルとして生成し、保存します。
- 設定:  「設定」ダイアログ・ボックスを開きます。「設定」ダイアログ・ボックスからは、「プロジェクト」、「オーケストレーション」、「フラット・ファイル・プロパティ (Flat File Properties)」、「SSL/Kerberos」、「セッション・ログイン」、「XML スキーマ」の各設定項目を指定できます。
- ヘルプ:  Studio のヘルプを開きます。メインの「ヘルプ」メニューからオプションを選択して、**WebSphere Cast Iron Community** に接続することもできます。

オーケストレーションとワークスペース

オーケストレーションを選択すると、選択したエンティティのタブ・ビューが、ワークスペースの上半分に表示されます。例えば、「プロジェクト」タブのオーケストレーションをダブルクリックすると、そのオーケストレーションのグラフィック・ビューがタブとして表示されます。オーケストレーションまたはワークフローには、統合の論理フローが含まれています。統合の論理フローを視覚的に定義するには、「アクティビティ」タブのアクティビティをオーケストレーション上にドラッグ・アンド・ドロップします。ワークスペースの上半分から構成可能な他のエンティティのリストについては、「プロジェクト」タブを参照してください。

ワークスペースの下半分は、オーケストレーションに追加したアクティビティを定義または構成する領域です。これは、そのときに実行している操作によって、それぞれ異なる名前で参照されます。マップを作成している場合、この領域はマッピング・エディターと呼ばれます。エンドポイントやアクティビティを構成している場合は、「プロパティ」ペインとして参照されます。

ツールボックスのタブ

ツールボックスは、縦に並んだ 5 つのタブ（「プロジェクト」、「アクティビティ」、「変数」、「関数」、および「検査」）で構成されています。

注: ワークスペースとツールボックスの間には通常は表示されないスライダーがあり、これを移動することでツールボックスを大きくしたり小さくしたりできます。

プロジェクト・タブ

「プロジェクト」タブには、統合プロジェクトを構成する基本エンティティを格納するフォルダーが入っています。これらのフォルダーは最初は空です。「プロジェクト」タブには以下のフォルダーが含まれています。

エンドポイント

さまざまな外部システムへの接続に必要な接続情報を指定します。統合アプライアンスは、FTP、SFTP、HTTP、HTTPS、Eメール(SMTP、POP)、SAP、MQ、Webサービス、多くの商用データベース・システムなど、多種多様なタイプのエンドポイントへの接続をサポートしています。

フラット・ファイル・スキーマ

フラット・ファイルの内容と構造を定義します。フラット・ファイルとは、コンマ区切りおよびタブ区切りのファイル、EDI、業界固有のテキスト・フォーマット(健康管理業界の Health Level 7 (HL7) フォーマットなど)など、XML以外のテキスト・データです。

オーケストレーション

ここでは、特定のビジネス・プロセスを実行する一連のアクティビティが含まれます。オーケストレーションは、統合プロジェクトの中心的なエンティティです。

スタイル・シート

XMLデータを1つのフォーマットから別のフォーマットに変換する方法を定義します。XSLTスタイル・シートをStudioにアップロードして、「XSLTの適用」アクティビティを、実行時にXSLTスタイル・シートを開始するオーケストレーションに追加できます。

変換

ソース・ノードと宛先ノード間の1つ以上のマッピングのセットを表すスタンドアロン・マップが含まれます。







WSDL

WSDLは、Webサービスについて記述するXML文書です。Webサービスへのアクセス方法と、そのWebサービスで使用できる操作を定義します。

XMLスキーマ

XMLデータの内容と構造を定義します。XMLスキーマは、通常は.xsd拡張子で終わるファイルに保管されます。XMLスキーマをプロジェクトにアップロードすると、そのXMLスキーマを使用して、オーケストレーションのアクティビティが使用する変数を作成できます。

さらに、以下のアイコンが備えられています。

- 新規オーケストレーション:  オーケストレーションを作成するには、このアイコンをクリックします。
- 新規エンドポイント:  エンドポイントを作成するには、このアイコンをクリックします。
- 新規フラット・ファイル・スキーマ:  新規フラット・ファイル・スキーマを作成するには、このアイコンをクリックします。
- 新規スタンドアロン・マップ:  スタンドアロン・マップを作成するには、このアイコンをクリックします。
- 文書の追加:  現行プロジェクトにファイルをアップロードするには、このアイコンをクリックします。
- プロジェクトの再妥当性検査:  現行プロジェクトでオーケストレーションを検証するには、このアイコンをクリックします。


「プロジェクト」タブを構成するエンティティをリスト・ビューで表示するには、次のようにします。

1. Studioのツールバー・メニューから、「編集」>「設定」を選択します。「設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「「プロジェクト」タブのエンティティをリストとして表示する」チェック・ボックスを選択します。

「プロジェクト」タブに既存のエンティティを表示して構成するには、以下のオプションのいずれかを選択しエンティティを開きます。

- 「プロジェクト」タブのエンティティをダブルクリックする

- 「プロジェクト」タブのエンティティを選択して、Return キーを押す

「プロパティ」ペインに、そのエンティティのプロパティが表示されます。「プロジェクト」タブのオーケストレーションをクリックして、オーケストレーションを検証します。オーケストレーションが無効である場合は、オーケストレーションの警告アイコン  が表示され、「妥当性検査結果」ウィンドウが「プロジェクト」タブの隣りに開きます。ウィンドウのエラー・メッセージをクリックすると、該当するパネルが開いてエラーを修正することができます。

「プロジェクト」タブのエンティティを名前変更または削除するには、そのエンティティを右クリックして、リストから「名前変更」または「削除」を選択します。

「プロジェクト」タブでエンティティのコピーおよび貼り付けを行うには、次のようにします。

1. 「プロジェクト」タブのいずれかのフォルダーでエンティティを選択します。
2. エンティティをコピーするには、キー・シーケンス CTRL+C を入力します。
3. エンティティを貼り付けるには、キー・シーケンス CTRL+V を入力します。エンティティのコピーが「プロジェクト」タブに表示されます。

「プロジェクト」タブのエンティティをリストとして表示するには、Studio の「設定」ペインで「「プロジェクト」タブのエンティティをリストとして表示する」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『[ブリアランスの設定](#)』を参照してください。

「プロジェクト」タブが開くと、デフォルトでは「プロジェクト」タブ内に「依存関係」ペインが表示されます。「プロジェクト」タブでエンティティを選択すると、プロジェクト内でこのエンティティに直接依存しているエンティティ（このエンティティが削除されるとプロジェクト内での依存関係が不完全になるエンティティ）が表示されます。

例えば、BatchOrder オーケストレーションの「FTP ディレクトリーのポーリング」アクティビティと「FTP ファイルの書き込み」アクティビティで使用する FTP エンドポイントがある場合、「プロジェクト」タブの FTP エンドポイントをクリックすると、「依存関係」ペインに BatchOrder オーケストレーションが表示されます。このエンドポイントがこのオーケストレーションで使用されるためです。FTP エンドポイントを削除すると、BatchOrder オーケストレーションは不完全になります。BatchOrder オーケストレーションを選択しても、「依存関係」ペインには FTP エンドポイントは表示されません。これは、BatchOrder オーケストレーションを削除しても FTP エンドポイントには影響しないためです。

デフォルトでは、「依存関係」ペインは「プロジェクト」タブの下に表示されます。「依存関係」ペインを非表示にするには、「設定」ペインで、プロジェクトの「依存関係のあるプロジェクト・ノードを表示する (Show dependant project nodes)」チェック・ボックスの選択を解除します。プロジェクトの設定を表示するには、ツールバー・メニューから「編集」>「設定」を選択して、左側のペインで「プロジェクト」を選択します。プロジェクトの設定が表示されます。

「アクティビティ」タブ

アクティビティは、オーケストレーションで特定の操作を実行します。アクティビティは、「アクティビティ」タブで以下の一般的なカテゴリーに整理されます。

- Transform
- 論理 (Logic)
- ユーティリティ
- アーカイブ
- Cryptoservice
- データベース
- データ品質

- Lotus Domino
- E メール
- Force.com Bulk API
- FTP
- HTTP
- JDE
- JMS
- MQ
- NetSuite
- PeopleSoft
- SAP
- Salesforce.com
- ServiceMax
- Siebel
- STS
- Web サービス (Web Services)
- Workday

「変数」タブ

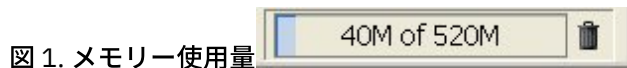
変数は、オーケストレーション用のツールです。それらは、データ・ソースをオーケストレーションにバインドし、データ・ソースがオーケストレーションを通過する際にデータ値を渡したり、操作したりするために使用します。「変数」タブには、変数の作成や編集ができる領域が用意されています。

「関数」タブ

関数は、マッピング・エディターで使用されるツールです。このツールを使用して、データがオーケストレーションを通過する際に、そのデータを変換する方法を指定できます。「関数」タブに用意されている関数がニーズに合わない場合は、独自のカスタム関数を作成できます。

メモリー使用量およびガーベッジ・コレクション

「設定」ダイアログ・ボックスで「ステータス・バーにメモリー使用量を表示する」オプションが選択されていると、メモリー・バーとごみ箱アイコンが表示されます(下図参照)。このメモリー・バーには、Studio が現在使用しているメモリーの量が、オペレーティング・システムから現在 Studio に割り振られているメモリーの総量 (520 MB) と比較する形で表示されます (図 1 参照)。




Studio でガーベッジ・コレクションの試行を要求して Studio 内で未使用のメモリーを再利用するには、メモリー・バーの右側にあるごみ箱アイコンをクリックします。ガーベッジ・コレクションのごみ箱アイコンをクリックすると、Studio が現在内部で使用しているメモリーの量を削減できるため、大容量プロジェクトを処理している場合は Studio のパフォーマンスが向上する可能性があります。ガーベッジ・コレクションのごみ箱をクリックしても、Studio がオペレーティング・システムから使用するメモリーが減少するわけではなく、このメモリーは、Studio に割り振られる初期定数サイズである 520 MB のままです。

エンティティー・タブ

「エンティティー」タブを管理するには、次のようにします。すなわち、ワークスペースの上半分で、「プロジェクト」タブから選択したエンティティーがタブ(「オーケストレーション」や「エンドポイント」など)と

して表示されます。これらのタブを管理するには、タブを右クリックして、メニューから該当するアクションを選択します。

- 閉じる: メニューを開くために右クリックしたタブを閉じます。
- その他のタブを閉じる: メニューを開くために右クリックしたエンティティ・タブ以外の、開いているすべてのエンティティ・タブを閉じます。
- すべてのタブを閉じる: 現在開いているエンティティ・タブをすべて閉じます。
- 現在のタブを除くすべてのタブを閉じる: 現在選択されているエンティティ・タブ以外の、開いているすべてのエンティティ・タブを閉じます。

「プロジェクト」タブから多数のエンティティを開いている場合は、隠れているエンティティ・タブにナビゲートするために、非表示タブを示すアイコン  が表示されます (図 2 を参照)。

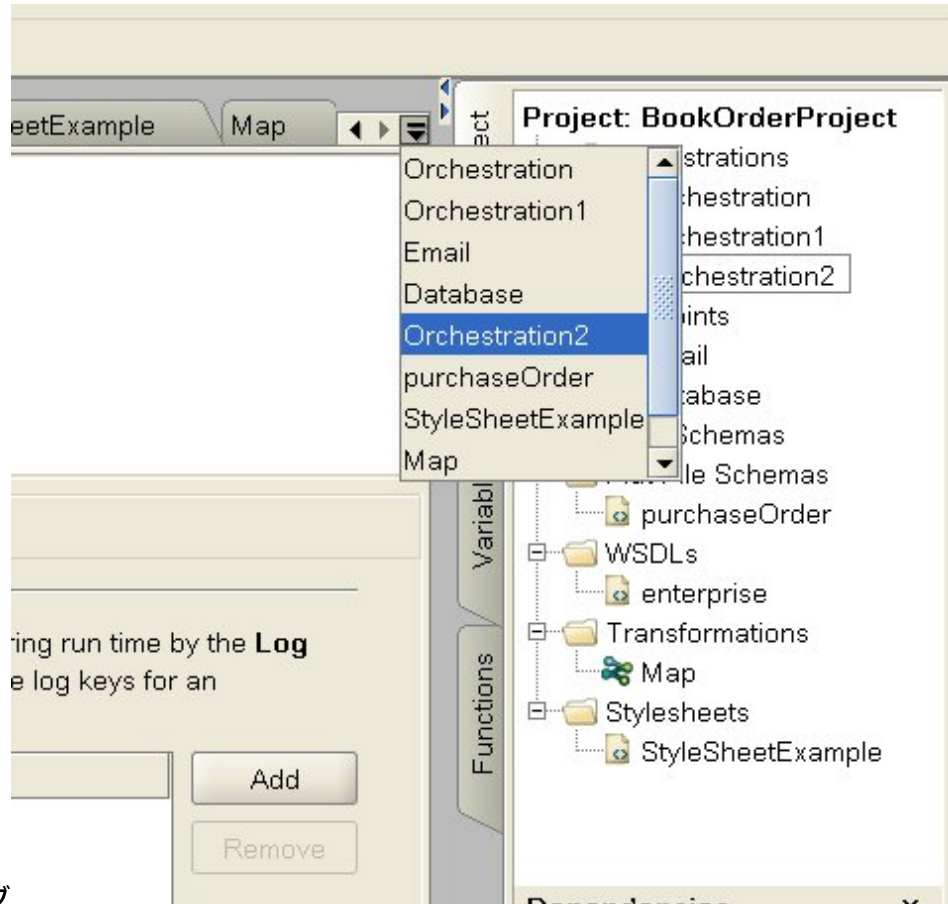




図 2. 非表示タブ

非表示のエンティティ・タブにアクセスするには、非表示タブのアイコン「」をクリックします。現在開いているすべてのタブのリストが表示されます。メニューから、いずれかのタブを選択します。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Studio_Basics.html

新規プロジェクトの作成


プロジェクトを作成するたびに、プロジェクトの名前でそのプロジェクトのプロパティ・ファイルも作成されます。プロパティ・ファイルは、プロジェクトをエクスポートしたり公開したりするときに使用します。

手順

1. 「ファイル」 > 「新規プロジェクト」を選択します。
2. CTRL+N を押すか、「新規プロジェクト」ツールバー・アイコンをクリックします。「新規 Studio プロジェクト」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「プロジェクト名」フィールドに名前を入力します。42 文字の長さを超えるプロジェクト名を使用することはできません。プロジェクト名に予約文字または予約語を組み込むこともできません。予約文字と予約語のリストについては、『[有効な名前について](#)』を参照してください。
4. 「プロジェクト・ディレクトリー」フィールドで [...] をクリックし、プロジェクトを保存するフォルダーを表示して選択します。「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. フォルダーを選択し、「開く」をクリックします。
6. 「OK」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Creating_a_New_Project.html

プロジェクトをパスワードで保護する

Studio では、プロジェクトにパスワードを割り当てることによってそれを保護できます。

始める前に

Studio からエクスポートしたプロジェクトや統合アプライアンスに公開したプロジェクトは、このパスワードによって保護されるわけではありません。このパスワードは、統合アプライアンスでは使用されません。

手順

1. Studio のツールバー・メニューから「プロジェクト」 > 「許可」 > 「保護」を選択します。「プロジェクト・パスワードの入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「パスワードの入力」フィールドに有効なパスワードを入力します。パスワードは、4 文字から 15 文字の長さでなければならず、少なくとも 1 つの文字と 1 つの数字を組み込む必要があります。有効なパスワードを入力すると、ダイアログ・ボックスの下部に表示されるメッセージが「パスワードの入力」から「確認パスワード」に変わります。
3. 「確認パスワード」フィールドに同じパスワードを入力します。「確認パスワード」フィールドに正しいパスワードを入力すると、ダイアログ・ボックスの下部に表示されるメッセージが「パスワードがー

- 致しません」から「パスワードが一致しました」に変わります。
4. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクトがパスワードで保護された状態になります。


次のタスク

注: パスワードは、Studio に格納されません。プロジェクトのパスワードを忘れた場合、そのプロジェクトが Studio で開いた状態になっていなければ、プロジェクトを再作成する必要があります。プロジェクトが開いた状態になっていれば、以下のトピックで説明されている手順で、現在のパスワードを変更できます。

- **プロジェクトに関連するパスワードの変更**
プロジェクトがパスワードで保護されている場合は、Studio のツールバー・メニューからパスワードを変更できます。
- **プロジェクトに関連するパスワードの削除**
プロジェクトがパスワードで保護されている場合は、Studio のツールバー・メニューからパスワードを削除できます。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_setting_project_security.html

プロジェクトに関連するパスワードの変更

プロジェクトがパスワードで保護されている場合は、Studio のツールバー・メニューからパスワードを変更できます。

このタスクについて

パスワードを変更するオプションが有効になるのは、プロジェクトが既にパスワードで保護されている場合に限られます。

手順

1. Studio のツールバー・メニューから「プロジェクト」 > 「許可」 > 「パスワードの変更」を選択します。「プロジェクト・パスワードの入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「古いパスワード (Old Password)」フィールドに、プロジェクトに割り当てられている既存のパスワードを入力します。
3. 「新規パスワード」フィールドに新しい有効なパスワードを入力します。パスワードは、4 文字から 15 文字の長さでなければならず、少なくとも 1 つの文字と 1 つの数字を組み込む必要があります。有効な

パスワードを入力すると、エラーが「無効なパスワードが選択されました (Invalid password selected)」から「パスワードが一致しません」に変わります。


4. 「確認パスワード」フィールドに同じ新規パスワードを入力します。「確認パスワード」フィールドに同じパスワードを入力すると、ダイアログ・ボックスに表示されるメッセージが「パスワードが一致しません」から「パスワードが一致しました」に変わります。
5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクトのパスワードが変更されます。

親トピック: [プロジェクトをパスワードで保護する](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_changing_project_security.html

プロジェクトに関連するパスワードの削除

プロジェクトがパスワードで保護されている場合は、Studio のツールバー・メニューからパスワードを削除できます。

このタスクについて

パスワードを削除するオプションが有効になるのは、プロジェクトが既にパスワードで保護されている場合に限られます。

手順


1. Studio のツールバー・メニューから、「プロジェクト」 > 「許可」 > 「無保護」を選択します。「プロジェクト・パスワードの入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「パスワード」フィールドに、プロジェクトに割り当てられている既存のパスワードを入力します。
3. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクトがパスワードで保護された状態ではなくなります。

親トピック: [プロジェクトをパスワードで保護する](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


プロジェクトを開く

Studio を最初に起動すると、前回作業を行っていたプロジェクトがデフォルトで開きます。別のプロジェクトを開くには、いくつかの方法があります。

このタスクについて

以下のステップでは、メニュー・ツールバーを使用してプロジェクトを開く方法について説明します。プロジェクトは、一度に1つしか開けません。

手順

1. 「ファイル」 > 「プロジェクトを開く」を選択するか、「プロジェクトを開く」 ツールバー・アイコンを選択します。
2. 開くプロジェクトの場所に移動します。
3. 開くプロジェクトを選択します。以下のいずれかを実行します。
 - .sp3 拡張子で終わるプロジェクト・ファイルを選択して、「開く」をクリックします。
 - 最近開いたプロジェクトを表示する場合は、「ファイル」 > 「プロジェクトの再オープン」 > 「OldProjectName」を選択します (OldProjectName は、最近開いたプロジェクトの名前です)。セキュア・プロジェクトの場合は、そのプロジェクトを開くために有効なパスワードを入力する必要があります。


次のタスク

Studio の概要ペインまたはキーボードを使用して、プロジェクトを開くこともできます。

- Studio の概要ペインで「プロジェクトを開く」をクリックして、「開く」ダイアログ・ボックスを表示します。
- キーボードで CTRL+o を押して、.sp3 拡張子で終わるプロジェクト・ファイルを選択します。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Opening_a_Project.html

プロジェクトの保存

Studio ツールバーを使用して、プロジェクトを保存できます。

このタスクについて

デフォルトのプロジェクト名を使用してプロジェクトをファイル・システムに保存する場合は、以下のいずれかのオプションを選択します。

- Studio ツールバーから「ファイル」 > 「プロジェクトの保存」を選択します。
- CTRL+S を押します。
- 「プロジェクトの保存」 ツールバー・アイコン  をクリックします。

手順


1. 以下のオプションのいずれかから 1 つ選択します。
 - Studio ツールバーから「ファイル」 > 「別名保存」を選択します。
 - CTRL+A を押します。「別名保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「プロジェクト名」フィールドにプロジェクトの新規名を入力します。
3. オプション: デフォルトでは、「設定」ダイアログ・ボックスの「デフォルト作成パス」フィールドで指定されているディレクトリー・ロケーションに、プロジェクトが保存されます。別のディレクトリー・ロケーションを指定する場合は、「参照」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

現在のプロジェクトが新規名で保存されている処理の間、「プロジェクトの保存」進行状況ダイアログ・ボックスが表示されます。新しいプロジェクトがローカル・ファイル・システムのディレクトリーに保存されます。さらに、新しいプロジェクトが開いて、「プロジェクト」タブに表示されます。元のプロジェクトは、ローカル・ファイル・システムに最後に保存された時点の状態から変わらずに残ります。


次のタスク

現在のプロジェクトを閉じる場合は、以下のいずれかのオプションを選択します。

- Studio ツールバーから「ファイル」 > 「プロジェクトを閉じる」を選択します。
- 「プロジェクトを閉じる」 ツールバー・アイコン  をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_saving_closing_a_project.html

プロジェクト名の変更

Studio ツールバーを使用して、プロジェクト名を変更できます。

手順

1. 以下のオプションのいずれかから 1 つ選択します。
 - Studio ツールバーから「ファイル」 > 「プロジェクトの名前変更」を選択します。
 - CTRL+R を押します。「プロジェクトの名前変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「プロジェクト名」フィールドにプロジェクトの新規名を入力します。
3. オプション: デフォルトでは、「設定」ダイアログ・ボックスの「デフォルト作成パス」フィールドで指定されているディレクトリー・ロケーションに、名前を変更したプロジェクトが保存されます。別のディレクトリー・ロケーションを指定する場合は、「参照」をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。


タスクの結果

プロジェクトが最後の保存時以降に変更されていた場合は、現在のプロジェクトが保存されてから、プロジェクト名が変更されます。

現在のプロジェクトの名前が変更され、新規名でローカル・ファイル・システムのディレクトリーに保存されている処理の間、「プロジェクトの保存」進行状況ダイアログ・ボックスが表示されます。新規名になった現在のプロジェクトが開いて、「プロジェクト」タブに表示されます。古い名前が付いた元のプロジェクトは、ローカル・ファイル・システムから存在しなくなります。


次のタスク

現在のプロジェクトを閉じる場合は、以下のいずれかのオプションを選択します。

- Studio ツールバーから「ファイル」 > 「プロジェクトを閉じる」を選択します。
- 「プロジェクトを閉じる」ツールバー・アイコン  をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_renaming_closing_a_project.html

プロジェクトの公開

プロジェクトを公開すると、Studio が統合アプライアンスに接続し、プロジェクトに含まれている文書によって統合アプライアンスを直接更新します。Studio でプロジェクトが完成し、検証とテストが済んだら、そのプロジェクトを公開します。検証が成功しなかったプロジェクトは公開できません。

このタスクについて

統合アプライアンスに複数のプロジェクトを公開できます。


注: Studio から統合アプライアンスにプロジェクトを公開しようとしたときに、同じ名前のプロジェクトが既に統合アプライアンスに存在する場合、そのプロジェクトが公開されるかどうかは、統合アプライアンスに存在するプロジェクトの状況によって以下のように異なります。

- プロジェクトに含まれているいずれかのオーケストレーションが統合アプライアンスにデプロイされていると、新しいプロジェクトは、統合アプライアンスで更新されません。
- プロジェクトに含まれているすべてのオーケストレーションが統合アプライアンスから削除されていると、Studio から公開する新しいプロジェクトによって、統合アプライアンスに存在する同じ名前の既存のプロジェクトがオーバーライドされます。

プロジェクトを公開する代わりに方法として、プロジェクトをエクスポートすることも選択できます。通常、エクスポート操作を使用するのは、管理者がデプロイメントのタイミングと影響を制御しなければならない実稼働環境にプロジェクトを公開するときです。エクスポートについて詳しくは、『[プロジェクトのエクスポート](#)』を参照してください。


注: プロジェクトを公開するために、Studio は、「SSL/Kerberos - 設定」ウィンドウで有効にされたサポート対象の SSL プロトコルと TLS プロトコルを信頼します。TLSv2 プロトコルまたは TLSv1.2 プロトコルを選択できます。デフォルトは TLSv2 です。

手順

1. 「ファイル」 > 「プロジェクトの公開」を選択するか、「プロジェクトの公開」ツールバー・ボタンを選択します。  「プロジェクトの公開」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「ホスト名」フィールドに、プロジェクトの公開先の統合アプライアンスのホスト名または IP アドレスを入力します。これは、管理インターフェース (mgmt) のために指定するホスト名です。
3. この統合アプライアンスの Web 管理コンソール (WMC) アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。デフォルトのアカウント名は admin、デフォルトのパスワードは !n0r1t5@C です。
4. オプション: プロジェクトの文書を HTTPS 経由で統合アプライアンスに送信する場合は、「セキュリティ」チェック・ボックスを選択します。
5. 「OK」をクリックします。Studio が統合アプライアンスに接続し、プロジェクトに含まれている文書によって統合アプライアンスを更新します。
6. 公開を確認したら、「OK」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Publishing_a_Project.html


プロジェクトのエクスポート

エクスポートを実行すると、プロジェクトに関連するすべてのオーケストレーション、エンドポイント、スキーマ、およびその他の項目が、末尾が .par 拡張子の 1 つのファイルに保存されます。

このタスクについて

通常、エクスポート操作を使用するのは、管理者がデプロイメントのタイミングと影響を制御しなければならない実稼働環境にプロジェクトを公開するときです。(Studio で) プロジェクトを PAR ファイルにエクスポートした後に、管理者は、Web 管理コンソール (WMC) を使用して、そのプロジェクトを統合アプライアンスにアップロードできます。この 2 段階のプロセス (PAR ファイルにエクスポートしてから、WMC でプロジェクトをアップロードする操作) は、Studio から統合アプライアンスにプロジェクトを直接公開する操作と同じ結果になります。

手順


1. ツールバー・メニューから「ファイル」 > 「プロジェクトのエクスポート」を選択するか、「プロジェクトのエクスポート」ツールバー・ボタン  を選択します。「保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. エクスポートするプロジェクトの保存先のディレクトリーに移動します。
3. オプション: エクスポートするファイルの名前を変更します。 .par 拡張子はそのまま残してください。
4. 「保存」をクリックします。
 - エクスポートが成功すると、指定したディレクトリーにプロジェクト・ファイルが表示されます。ファイル名は、プロジェクトの現在の名前と同じで、.par 拡張子が付きます。例えば、*MySimpleProject* という名前のプロジェクトをエクスポートすると、そのプロジェクトは、*MySimpleProject.par* というファイルに保存されます。エクスポート処理が成功したことを示すダイアログ・ボックスが表示されます。
 - プロジェクトに問題があると、そのプロジェクトはエクスポートされません。修正しなければならない問題のリストが「エクスポート結果」ダイアログ・ボックスに表示されます。問題を解決したら、プロジェクトを正常にエクスポートできるようになります。
5. 「OK」をクリックします。

次のタスク

WMC を使用したプロジェクトの統合アプライアンスへのエクスポートについて詳しくは、WMC のオンライン・ヘルプを参照してください。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Exporting_a_Project.html

プロジェクト設定の構成

「プロジェクト設定」ダイアログ・ボックスを使用して、プロジェクトに固有のバージョン番号を割り当てることができます。

このタスクについて


プロジェクトを統合アプライアンスに公開すると、プロジェクトに関連付けられているバージョン番号が Web 管理コンソール (WMC) に表示されます。「バージョン」フィールドでバージョン番号を変更することによって、プロジェクト自体は変わっていても、別々のバージョンのプロジェクトを公開できます。WMC では、プロジェクトの各バージョンが別々にリストに表示されます。各バージョンを個別にデプロイすることも可能です。

手順

1. メニュー・ツールバーから「プロジェクト」 > 「プロジェクト設定」を選択します。「プロジェクト設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「バージョン」フィールドにバージョン番号を入力します。
3. 「説明」フィールドにプロジェクトの説明を入力します。
4. 「コメント」フィールドにプロジェクトのコメントを入力します。
5. 「OK」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Configuring_Project_Settings.html

プリファレンスの設定

「設定」ダイアログ・ボックスでは、プロジェクト、オーケストレーション、フラット・ファイル、SSL/Kerberos、セッション・ログイン、XML スキーマに関する設定を指定できます。設定内容は、いつでも変更できます。

手順

1. ツールバーから「編集」 > 「設定」オプションを選択します。「設定」ダイアログ・ボックスが開きます。
2. 左のペインで、変更する設定のタイプを選択します。
 - 外観
 - プロジェクト
 - オーケストレーション
 - フラット・ファイル (Flat File)
 - SSL/Kerberos
 - セッション・ログイン
 - XML スキーマ
 - 現行プロジェクト
3. ダイアログ・ボックスで、設定を指定したり、選択したり、クリアしたりする操作を実行します。

4. 「OK」をクリックします。

タスクの結果


以下の各トピックでは、「設定」ダイアログ・ボックスで操作できる設定(外観、プロジェクト、オーケストレーション、フラット・ファイル、SSL/Kerberos、セッション・ログイン、XML スキーマに関する設定)をそれぞれの表にまとめています。

外観設定を使用すると、アプリケーションの表示およびフォントを変更できます。

- **プロジェクトの設定**
プロジェクトの設定は、「設定」ダイアログ・ボックスで行うことができます。
- **オーケストレーションの設定**
オーケストレーションの設定は、「設定」ダイアログ・ボックスで行うことができます。
- **その他の設定**
外観、フラット・ファイル、SSL/Kerberos、セッション・ログイン、XML スキーマ、および現行プロジェクトに関する設定はすべて、「設定」ダイアログ・ボックスを使用して設定できます。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_setting_preferences.html

プロジェクトの設定

プロジェクトの設定は、「設定」ダイアログ・ボックスで行うことができます。

表 1.

ボタンまたはオプションのラベル	説明
新規オーケストレーションの場合はエディターを自動的に開く	<ul style="list-style-type: none">• このチェック・ボックスが選択されていると、オーケストレーションを作成する場合に、そのオーケストレーションが Studio のメイン・ペインに自動的に表示されます。• このチェック・ボックスを選択解除すると、オーケストレーションを作成する場合に、そのオーケストレーションは Studio のメイン・ペインに自動的に表示されません。
Studio の開始時に最後のプロジェクトを再オープンする	<ul style="list-style-type: none">• このチェック・ボックスが選択されていると、Studio を再始動した場合に、Studio で最後に開いたプロジェクトが再び開きます。• このチェック・ボックスの選択を解除すると、Studio を再始動した場合にプロジェクトは開きません。

ボタンまたはオプションのラベル	説明
常に既存のプロジェクトを上書きする	<ul style="list-style-type: none"> このチェック・ボックスが選択されていると、既にデフォルト・ディレクトリーに保存されている既存プロジェクトと同じ名前のプロジェクトを作成する場合に、新規プロジェクトは既存のプロジェクトを上書きして作成され、警告のダイアログ・ボックスも表示されません。 このチェック・ボックスの選択を解除すると、既にデフォルト・ディレクトリーに保存されている既存プロジェクトと同じ名前のプロジェクトを作成する場合に、既存のプロジェクトを上書きしてもよいか確認する警告ダイアログ・ボックスが表示されます。
閉じる前にプロジェクトの保存を常に確認する	<ul style="list-style-type: none"> このチェック・ボックスが選択されていると、プロジェクトを閉じる場合に、そのプロジェクトが変更されていない場合でも、プロジェクトを保存するかどうかを確認するダイアログ・ボックスが表示されます。 このチェック・ボックスの選択を解除すると、プロジェクトを閉じるときにそのプロジェクトに変更が加えられていない場合は、プロジェクトの保存を確認するダイアログ・ボックスは表示されません。
従属するプロジェクト・ノードを表示する	<ul style="list-style-type: none"> このチェック・ボックスが選択されていると、「プロジェクト」タブの下に「依存関係」ペインが表示されます。詳しくは、『「プロジェクト」タブの「依存関係」ペイン』を参照してください。 このチェック・ボックスの選択を解除すると、「プロジェクト」タブの下に「依存関係」ペインは表示されません。
ステータス・バーにメモリー使用量を表示する	<ul style="list-style-type: none"> このチェック・ボックスを選択すると、縦に並んだ4つのタブ(「プロジェクト」、「アクティビティー」、「変数」、「関数」)の下にメモリー・バーが表示されます。詳細については、『メモリー使用量およびガーベッジ・コレクション』を参照してください。 このチェック・ボックスの選択を解除すると、縦に並んだ4つのタブ(「プロジェクト」、「アクティビティー」、「変数」、「関数」)の下にメモリー・バーは表示されません。詳細については、『メモリー使用量およびガーベッジ・コレクション』を参照してください。
「プロジェクト」タブのエンティティをリストとして表示する	<ul style="list-style-type: none"> このチェック・ボックスが選択されていると、「プロジェクト」タブ内のエンティティがリストとして表示されます。 このチェック・ボックスの選択を解除すると、「プロジェクト」タブ内のエンティティはフォルダーにグループ分けされます。
最近のプロジェクトをクリア	<p>「最近のプロジェクトをクリア」をクリックすると、「ファイル」>「プロジェクトの再オープン」ツールバー・メニュー・オプションを選択したときに、最近開いてリストしたプロジェクトのキャッシュがクリアされます。</p>
デフォルト作成パス	<p>「参照...」をクリックして、新規プロジェクトを保存するデフォルトのディレクトリー・パスを選択します。</p>

親トピック: [プリファレンスの設定](#)

オーケストレーションの設定

オーケストレーションの設定は、「設定」ダイアログ・ボックスで行うことができます。


表 1.

ボタンまたはオプションのラベル	説明
デフォルトでオーケストレーション・ビューをアニメーションにする (By Default Animate Orchestration Views)	<p>これは、すべてのオーケストレーションの動作を決定するグローバル・オプションです。デフォルトではこのオプションが選択され、Studio ワークスペースで実行されるすべてのアクションがアニメーションで表示されます。</p> <p>ワークスペースのアニメーションをオフにするには、このオプションの選択を解除します。このオプションが選択されていないときにワークスペースでアクション (アクティビティの追加など) を実行すると、その結果は直ちにワークスペースに反映されます。</p> <p>「グラフのアニメーション表示 (Animate Graph)」オーケストレーション・ビュー・アイコンを使用すれば、このオプションを個々のオーケストレーション・レベルでオーバーライドできます。ただし、個々のオーケストレーションにこのオプションを設定した後でグローバル・オプションを変更すると、それ以前に設定した個々のオーケストレーション設定がグローバルの変更でオーバーライドされます。</p>
旧バージョンのオーケストレーション・ビューを使用 (Use Old Orchestration View)	<p>オーケストレーションを Studio 3.X の場合と同様に表示するには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、Studio 4.X でのオーケストレーション・ビューの新機能は使用できなくなります。4.X でのオーケストレーション・ビューの新機能の完全なリストについては、Studio のリリース・ノート Notes® を参照してください。</p>
表示されるジョブ・インスタンスの最大数 (Maximum Job Instances to be displayed)	<p>「検査」タブに表示できるジョブの最大数を決定します。例えば 2 と指定すると、2 個のジョブ (インスタンス #1 とインスタンス #2) の状況が表示されます。オーケストレーションをもう一度実行すると、「検査」タブにはインスタンス #2 とインスタンス #3 が表示されます。</p>
アクティビティ ID の表示 (Show Activity ID)	<p>このオプションを選択すると、オーケストレーションのアクティビティに ID 番号が表示されます。</p>
応答アクティビティに厳格な妥当性検査を実施 (Enforce Strict Validation for Reply activities)	<p>デフォルトでは、このオプションが選択されています。このオプションの選択を解除すると、Studio は、実行パス上に 2 つよりも多い応答アクティビティを許可します。応答アクティビティには、Web サービスの「応答の送信」、Web サービスの「フォールトを伴う応答の送信」、HTTP の「応答の送信」などがあります。</p>

ボタンまたはオプションのラベル	説明
WS 提供 - 3.6.x バージョンと互換性のある WSDL の生成 (WS Provide - Generate WSDL compatible with 3.6.x version)	通常、Web サービスの「サービスの提供」アクティビティが含まれるプロジェクトをアップグレードする場合、Studio は新しい名前空間で WSDL を生成します。Studio が 3.6X の WSDL を保持する必要がある場合は、このオプションを選択してください。 このオプションを選択すると、Studio は WSDL を最新の名前空間で生成しません。
CDK ログを有効/無効にする (CDK Log Enable/Disable)	「検査」ペインで CDK コネクタ・アクティビティ・ログ (またはフロー) を表示するには、このオプションを選択します。

親トピック: [プリファレンスの設定](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basis_orchestrationpreferences.html

その他の設定

外観、フラット・ファイル、SSL/Kerberos、セッション・ログイン、XML スキーマ、および現行プロジェクトに関する設定はすべて、「設定」ダイアログ・ボックスを使用して設定できます。

表 1. 外観設定

ボタンまたはオプションのラベル	説明
アプリケーション	
ネイティブ・アプリケーション・フレームを使用	このチェック・ボックスが選択されている場合は、オペレーティング・システムのルック・アンド・フィールがアプリケーション・ウィンドウに適用されることを示します。
カラー・スキームを使用	アプリケーション表示をカスタマイズするために使用できるカラー・スキームを示します。このオプションは、「ネイティブ・アプリケーション・フレームを使用」が選択されていない場合にのみ使用できます。
フォント	
ユーザー・インターフェース	ユーザー・インターフェースのフォントを変更するために使用できるフォント・タイプをリストします。「リセット」ボタンを使用すると、デフォルトのフォントを設定できます。
データ・フィールド	データ・フィールドのフォントを変更するために使用できるフォント・タイプをリストします。「リセット」ボタンを使用すると、デフォルトのフォントを設定できます。

表 2. フラット・ファイル設定

ボタンまたはオプションのラベル	説明
サンプル・ファイルの最大プレビュー・サイズ (KB)	<p>このフィールドでは、フラット・ファイル・スキーマをテストするときに、「テスト」タブの左側にある「ソース」ペインに表示するデータの量を KB 単位で指定します。フラット・ファイル・スキーマを設計するために、大きなソース・データ・ファイルの先頭の部分だけを表示すれば十分な場合に、このフィールドは便利です。</p> <p>このフィールドは、「テスト」タブで「テスト」アイコンをクリックしたときに変換されるファイルのサイズとは無関係です。「サンプル・ファイルの最大サイズ (KB)」フィールドで、ソース・データ・ファイル全体をロードできるだけの大きなサイズが設定されていれば、ファイル全体が変換されます。</p>
サンプル・ファイルの最大サイズ (KB)	<p>このフィールドでは、フラット・ファイル・スキーマをテストするときに、そのテストのために Studio にロードするテスト・データのサイズの制限値を KB 単位で指定します。サンプル・データでサポートされている最大のサイズは、2000 KB です。このフィールドで 2000 KB より大きい値を指定すると、Studio によって値が 2000 KB にリセットされます。</p>

表 3. SSL/Kerberos 設定

ボタンまたはオプションのラベル	説明
Kerberos レルム	Kerberos レルムを指定します。
Kerberos サーバー名	Kerberos サーバー名を指定します。
鍵ストア・パスワード	鍵ストアにアクセスするためのパスワードを指定します。
鍵ストア・パス	ローカル Java™ 鍵ストアのパスを指定します。
トラストストア・パスワード	トラストストアにアクセスするためのパスワードを指定します。
トラストストア・パス	ローカル Java トラストストアへのパスを指定します。
SSL プロトコル	ドロップダウン・メニューを使用して SSL プロトコルを指定します。TLSv2 がデフォルトであり、これにより SSL ネゴシエーションに対してすべての SSL および TLS プロトコル (TLSv1.2 を含む) が有効になります。TLSv1.2 は TLSv1.2 プロトコルのみを使用する SSL 通信を有効にします。

表 4. セッション・ログイン設定

ボタンまたはチェック・ボックスのラベル	説明

ボタンまたはチェック・ボックスのラベル	説明
ユーザー名	Studio は、このユーザー名を使用して Cast Iron® TIP リポジトリにログインします。
パスワード	Studio は、このパスワードを使用して Cast Iron TIP リポジトリにログインします。
URL	Cast Iron サービスのログインの URL を指定します。 注: デフォルト値を変更しないでください。
ホスト名	プロキシ・ホストを使用する場合に、そのプロキシ・ホストを指定します。
ポート	プロキシ・サーバーのポート。デフォルト値は 8080 です。

表 5. XML スキーマ設定. 現時点で開いた状態になっているプロジェクトの XML スキーマ (WSDL も含む) ごとに Studio が割り振ったり表示したりする子レベルの数を以下の設定で指定します。

ボタンまたはチェック・ボックスのラベル	説明
メモリー内に割り振るスキーマの子ノード・レベルの数	メモリー内に割り振る XML スキーマの子ノード・レベルの数を指定します。これはつまり、XML スキーマのメタデータを格納する Studio の内部ツリーに割り振る子ノードの数です。 注: 子ノード・レベルの数として大きな数を指定すると、Studio のパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。この設定の推奨値は 6 です。
再帰的ノード・レベルの数	再帰的ノード・レベルの数を指定します (この値の対象になるのは、作成とグラフィカル表示の両方です)。 注: 再帰的ノード・レベルの数として大きな数を指定すると、Studio のパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。この設定の推奨値は 3 です。
スキーマをグラフィカル表示するときに最初に展開する子ノード・レベルの数	XML スキーマをグラフィカル表示するときに最初に展開する子ノード・レベルの数を指定します。例えば、設定でこの制限値を 6 に設定し、「入力のマップ」タスクの「オーケストレーションから」ペインのために選択した変数に格納されているノード・レベルが 8 である場合 (<i>input/po/purchase/widgetId/price/discount/special/december</i>)、最初の 6 レベル (<i>input/po/purchase/widgetId/price/discount</i>) のみが「入力のマップ」タスクに表示されます。展開されていない子ノードの横にある + 記号をクリックすると、その子ノードを手動で展開できます。 注: 子ノード・レベルの数として大きな数を指定すると、Studio のパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。この設定の推奨値は 4 です。
メモリー内に割り振るスキーマの代替タイプの子ノード・レベルの数	メモリー内に割り振る XML スキーマの代替タイプの子ノード・レベルの数を指定します。これはつまり、Studio で XML スキーマの代替タイプのメタデータを格納する内部ツリーに割り振る子ノードの数です。デフォルト値は 10 です。最小値は 4 です。 注: この値を小さくすると、Studio の子ノード・レベルのメモリー要件が減少します。


注: メモリー消費について一言: Studio は、「変数」または「マッパー」ペインに表示される変数またはパラメーターごとにメモリーを割り振り、各ノードが特定の element/complexType に関する情報を含むツリー構造でメタデータを生成します。エレメントや複合タイプはそれら自身への参照を持つため、それらのエレメントのツリーの深さが 10 レベルを超えることがあり、その場合は OutOfMemory エラーとなります。これを回避するには、XML スキーマ設定パラメーターを使用してメモリー消費を改善します。例えば、「再帰的ノード・レベルの数」関数を使用すると、ツリー構造に自己参照ノードを追加する回数を制限できます。さらに、「メモリー内に割り振るスキーマの子ノード・レベルの数」関数を使用して、ツリーの深さを制御し、Studio が一定の限界を超えないようにすることができます。

表 6. 現行プロジェクトの設定. 現時点で開いた状態になっているプロジェクトのパスワードを暗号化するかどうかを以下の設定で指定します。

チェック・ボックスのラベル	説明
4.5 以前のプロジェクトとの後方互換性は不要です	チェック・マークを付けると、公開時にパスワードが暗号化されます。Cast Iron 4.5 リリース以降は、この設定がデフォルトです。4.5 リリースより前は、パスワードを対称モードでエンコードする、という動作でした。現行プロジェクトから 4.5 より前のプロジェクトにパスワードを送信する予定がある場合は、このチェック・ボックスをクリアしてください。そうすれば、4.5 より前のプロジェクトでパスワードを取り込むときに、エラーが発生する事態を回避できます。

親トピック: [プリファレンスの設定](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html



http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_otherpreferences.html

構成プロパティーの作成

プロジェクトの構成プロパティー (名前/値のペア) を作成します。構成プロパティーを使用して、マッピング・エディターでの、マップの宛先ノードのデフォルト値を設定します。

このタスクについて

Studio のツールバー・メニューの「プロジェクト」 > 「構成プロパティー」 オプションを使用して、プロジェクトに構成プロパティーを追加すると、それらのプロパティーのいずれかを選択して、エンドポイントのいくつかのフィールドの値や、マップの宛先ノードのデフォルト値を設定することができます。

例えば、Studio で「string」タイプの *myDatabaseName* という名前の構成プロパティーを作成するとします。データベース・エンドポイントを構成するときに、「データベース名」フィールドをクリックすると、フィールドの右側に  アイコンが表示されます (少なくとも 1 つの「string」タイプの構成プロパティーが既に作成されていたためです)。 アイコンをクリックして、メニューから *myDatabaseName* 構成プロパティーを選択します。エンドポイントのデータベース名は、Studio による設計時にも統合アプライアンスに

よる実行時にも、`myDatabaseName` 構成プロパティによって設定されます。構成プロパティは、「ストリング」タイプまたは「パスワード」タイプのいずれかになります。

マップの宛先ノードは、マッピング・エディターの右のペインに表示されます。詳しくは、『[宛先ノードのデフォルト値の割り当て](#)』を参照してください。

構成プロパティを作成する場合は、「構成プロパティ」ダイアログ・ボックスまたはクイック作成方式のいずれかを使用できます。

「構成プロパティ」ダイアログ・ボックスを使用して構成プロパティを作成するには、以下のようにします。

手順

1. 「プロジェクト」を開きます。
2. ツールバー・メニューから「プロジェクト」 > 「構成プロパティ」を選択します。「構成プロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「名前の追加 (Add Name)」フィールドに、作成するプロパティの名前を入力します。
4. 「タイプ」リストで、「ストリング」または「パスワード」を選択します。
5. 「作成」をクリックします。プロパティ・リストに新しいプロパティの名前とタイプが表示されます。
6. 新しく作成したプロパティの「値」列をクリックします。
7. プロパティの値を入力します。タイプが「パスワード」の場合は、値がマスクされます。
8. Enter キーを押すか、「値」表セルの外をクリックして、編集作業を停止します。
9. 必要に応じて、さらにプロパティを追加する作業を続けます。終了したら、「OK」をクリックします。

例


「構成プロパティ」ダイアログ・ボックスで構成プロパティを作成する代わりに、クイック作成オプションを使用して、Studio のテキスト・フィールドから構成プロパティを直接定義することもできます。クイック作成オプションが有効になっているフィールドでは、緑色の小さな地球のアイコンが右下隅に表示されます。

「構成プロパティ」ダイアログ・ボックスで作成した構成プロパティと同じく、これらの構成プロパティの値も、プロジェクトの公開後に Web 管理コンソール (WMC) を使用して変更できます。

WMC で構成プロパティの値を更新しても、Studio で定義した構成プロパティの元の値は影響を受けません。

クイック作成オプションで構成プロパティを作成するには、以下のようにします。

1. 「有効にする (Enabled)」フィールドで、緑色の地球のアイコンをクリックします。「構成プロパティの作成」ウィンドウが表示されます。
2. テキスト・フィールドに、このプロパティの名前を入力します。
3. 「作成」をクリックして、その項目を再使用可能なプロパティとして保存します。

そのプロパティが現在のテキスト・フィールドに表示され、 アイコンが緑色の地球のアイコンに置き換えられ、そのプロパティが「構成プロパティ」ダイアログ・ボックスに保存されます。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Creating_Configuration_Properties.html

構成プロパティーの編集

Studio と Web 管理コンソール (WMC) で構成プロパティーを編集できます。

このタスクについて

Studio での構成プロパティーの編集

「構成プロパティー」ダイアログ・ボックスを開いて、項目をダブルクリックすることによって、既存のプロパティーの特定の情報を編集できます。これにはタイプの変更は含まれません。変更を加えてから「OK」をクリックすると、そのプロパティーのすべてのアプリケーションが自動的に更新されます。オーケストレーションで使用されているプロパティーを削除することはできません。削除できるのは、使用されていないプロパティー、またはアクティブなオーケストレーションから削除されたプロパティーに限られます。

WMC での構成プロパティーの編集

プロジェクトを統合アプライアンスに公開すると、WMC から構成プロパティーの値を変更できるようになります。例えば、データベース・エンドポイントのデータベース接続情報 (ホスト名、IP アドレス、ユーザー名、パスワード) を格納する構成プロパティーを Studio で作成するとします。プロジェクトを統合アプライアンスに公開し、プロジェクトをデプロイし、開発データベースでテストします。テストが完了したら、別のデータベース (実動データベースなど) に接続します。WMC を使用して、統合アプライアンスで公開されているプロジェクトの構成プロパティーの値を更新して、参照先を実動データベースに変更できます。

タスクの結果

WMC からプロジェクト構成の構成プロパティーを変更した場合、その変更内容は、Studio で指定した構成プロパティーの値からは独立しています。Studio でプロジェクトの構成プロパティーを作成し、そのプロジェクトを WMC に公開すると、WMC には「デフォルト」のプロジェクト構成が表示されます。そのプロジェクト構成や、その公開済みのプロジェクトから生成したすべてのプロジェクト構成については、プロジェクトを公開する前に、WMC を使用して、Studio で指定した構成プロパティーの値を変更できます。

プロジェクトをアンデプロイした場合は、Studio で構成プロパティーの値を更新してから、そのプロジェクトを WMC に再び公開します。既存のプロジェクト構成には、その変更内容は反映されません。(Studio を使用した) 構成プロパティーへの直前の変更を表示するには、WMC を使用して、新しいプロジェクト構成を作成する必要があります。その新しいプロジェクト構成に、Studio で指定したプロジェクトの構成プロパティーの値が表示されます。

次のタスク

詳細については、「Getting Started Guide」の『Enhancing the Simple Project』を参照してください。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Editing_Configuration_Properties.html

グローバル構成プロパティーの作成

グローバル構成プロパティーを作成すると、そのグローバル構成プロパティーをプロジェクトの構成プロパティーとしてプロジェクト内にインポートできます。

このタスクについて

グローバル・プロパティーを使用して、エンドポイントのいくつかのフィールドの値や、マップの宛先ノードのデフォルト値を設定することができます。Studio でグローバル構成プロパティーを作成する場合は、Studio のツールバー・メニューの「編集」 > 「グローバル構成プロパティーの管理」 オプションを使用します。例えば、Studio で「パスワード」タイプの dbPassWord という名前のグローバル構成プロパティーを作成するとします。その dbPassWord をインポートすれば、プロジェクトの構成プロパティーを作成できます。

グローバル構成プロパティーは、「ストリング」タイプまたは「パスワード」タイプのいずれかになります。

手順

1. Studio で「編集」 > 「グローバル構成プロパティーの管理」をクリックします。
2. 「グローバル・プロパティー・リスト」 ペインで「新規作成」をクリックします。「新規グローバル・プロパティー」ダイアログが表示されます。
3. 新しいグローバル構成プロパティー・リストの名前を入力して、「OK」をクリックします。リストごとに1つ以上のグローバル構成プロパティーを作成できます。
4. 作成するグローバル構成プロパティーの名前を入力します。
5. 「タイプ」リストから「ストリング」または「パスワード」を選択します。「パスワード」を選択すると、値がマスクされます。
6. 「作成」をクリックします。
7. 「値」フィールドにプロパティーの値を入力します。
8. 「OK」をクリックします。リストにさらにプロパティーを追加する場合は、手順4から8を繰り返します。

次のタスク

プロジェクト・プロパティーをグローバル・プロパティーのリストにインポートするには、「インポート」をクリックし、グローバルにするプロジェクト・プロパティーを選択し、「追加」をクリックして実行します。

グローバル・プロパティーのリストからグローバル・プロパティーを削除するには、プロパティーを選択して、「削除」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Creating_Global_Configuration_Properties.html

テンプレート統合プロジェクト (TIP) の検索

テンプレート統合プロジェクト (TIP) は、Cast Iron® ソリューション・リポジトリに保管されます。TIP は、構成ウィザードを使用して、統合シナリオの構成手順をガイドします。TIP はローカル・マシンにダウンロードできます。ログイン・ウィンドウにはユーザー名とパスワードがあらかじめ入力されているので、登録せずにヒントをダウンロードしやすくなっています。

手順


1. 「ソリューション」メニューから「TIP の検索 (Search For TIPs)」を選択します。ログイン・ウィンドウは、あらかじめユーザー名とパスワードが入力された状態で表示されます。この資格情報は、ヒントをダウンロードするためだけのアクセス権限を持ちます。
注: 右側のメモリー・バーの近くにある「ログイン」リンクをクリックすることによってもログオンできます。
2. ログオン用の資格情報をすでに持っている場合は、そのユーザー名とパスワードを指定してください。「設定」ダイアログで中央リポジトリに対してデフォルト・ログイン設定を指定できます。
3. 「OK」をクリックします。「検索」ウィンドウが表示され、Studio のメインウィンドウ下部に確認メッセージが表示されます。
4. 「検索」ウィンドウで、TIP の検索方法として「キーワード」、「フィルター」、または「マイ TIP」を選択します。
 - 「キーワード」検索オプションを選択した場合、「キーワード」フィールドが表示されます。
 - a. 検索キーワードを入力します。
 - b. 「実行」をクリックします。結果が「結果」テーブルに表示され、「検索」ウィンドウの下部に「検索中 ... 完了しました (Searching ... completed)」メッセージが表示されます。例えば、キーワード USECASES を入力した場合、Cast Iron ソリューション・リポジトリ内の USECASES カテゴリーの下にある TIP がすべて返されます。
 - 「フィルター」検索オプションを選択した場合、「ソース・エンドポイント」、「ターゲット・エンドポイント」、「統合パターン」、および「検索可能キーワード」というフィルター・オプションが表示されます。
 - a. 少なくとも 1 つのフィルター・オプションに値を指定する必要があります。オプション・リストには、有効な値が示されます。
 - b. 「照会」をクリックします。結果が「結果」テーブルに表示され、「検索」ウィンドウの下部に「検索中 ... 完了しました (Searching ... completed)」メッセージが表示されます。
 - 「マイ TIP」を選択した場合、自分で作成した TIP がすべて「結果」テーブルに表示されます。
5. 「結果」テーブルで TIP を検索します。プロジェクトの詳細が、詳細セクションに表示されます。
6. オプション: 自分で作成した TIP はレーティングできます。
 - a. 「レビューの編集」リンクをクリックします。「パブリッシュ・レビュー」ウィンドウが表示されます。

- b. 適切な数の星印が強調表示されるまでスライダーを移動させます。1 から 5 の尺度で TIP をレーティングします。5 が最高のレーティングです。
 - c. 「マイ・タイトル」フィールドにレビューの要旨を追加します。
 - d. 「マイ・サマリー」フィールドにプロジェクトのレビューに関する詳細を追加します。
 - e. 「OK」をクリックします。Studio がレビューを Cast Iron ソリューション・リポジトリに送信します。
7. 「検索」ウィンドウで「ダウンロード」をクリックします。「TIP を保存するディレクトリーの選択 (Select directory where to save the TIP)」ウィンドウが表示されます。
 8. ダウンロード・ディレクトリーを指定し、「開く」をクリックします。指定したディレクトリーにプロジェクトが保存され、そのプロジェクト用の構成ウィザードが Studio から開かれます。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

親トピック: [テンプレート統合プロセス \(TIP\)](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PIP_Searching_for_PIPs.html

モジュール・プロバイダー・ライブラリーのインストール

IBM® Cast Iron® Studio および統合アプライアンスでは、特定のコネクター・タイプのインスタンスに関連付けられたライブラリー・ファイル (.jar および .dll) をインポートする必要があります。例えば、データベース・コネクター、JDE、JMS、MQ、PeopleSoft、および SAP コネクターでは、追加のライブラリーが必要です。これらのコネクターのいずれかを使用するエンドポイントおよびオーケストレーションを構成できるようにするには、これらのファイルが Studio 内に存在する必要があります。

このタスクについて

Web 管理コンソールを使用して、必要なライブラリー・ファイルを統合アプライアンスにインストールする方法については、WMC オンライン・ヘルプを参照してください。

ご使用の Studio ワークステーション上またはネットワーク上にある、コネクター固有のライブラリー・ファイルにアクセスする必要があります。


手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」を選択します。「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 関連するプロバイダー名の下に「追加 (plus)」ボタンをクリックします。テキスト入力フィールドと参照ボタンが右側に表示されます。
3. 「参照」をクリックし、「参照」ダイアログ・ボックスを使用してファイルを見つけて選択します。複数のファイルを選択するには、CTRL キーまたは SHIFT キーを押しながら選択します。
4. 「開く」をクリックして、ファイルのコンテンツをインポートします。ライブラリー・ファイルが「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスに表示されます。

5. 「OK」をクリックします。ライブラリーがインストールまたは削除されると、変更を適用するために Cast Iron Studio をシャットダウンするかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。
6. 変更を適用するには、「はい」をクリックした後、手動で Cast Iron Studio を再始動します。ライブラリー・ファイルがインストールされ、エンドポイントの構成に進むことができます。変更を適用せずに「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスに戻るには、「いいえ」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Installing_Module_Provider_Libraries.html

プロジェクトへのファイルのアップロード

プロジェクトには、特定タイプのファイルだけをアップロードできます。例えば、XML データ (特定の XML スキーマに対して有効なデータ) にストリングをマップしようとする場合、まず XML スキーマ・ファイル (拡張子が .xsd のファイル) をプロジェクトにアップロードしてから、XML スキーマ内のノードをマップする必要があります。

このタスクについて

有効な外部ファイル・タイプの完全なリストについては、『[プロジェクトで有効な外部ファイル・タイプ](#)』を参照してください。

ファイル・システムからプロジェクトにファイルをアップロードするには、次の3つの方法があります。

- ファイルを「プロジェクト」タブにドラッグして、ファイルをプロジェクトにアップロードする
- 「プロジェクト」タブの適切なフォルダーを右クリックして、ファイルをプロジェクトにアップロードする
- 「プロジェクト」タブの「文書の追加」をクリックして、ファイルをプロジェクトにアップロードする

以下の手順では、ファイルを「プロジェクト」タブにドラッグしてアップロードする方法について説明します。


手順

1. Windows のローカル・ファイル・システムで任意のフォルダーからファイルを選択し、「プロジェクト」タブにドラッグします。
 - そのファイルのタイプがサポートされていて、末尾の拡張子が正しければ、「プロジェクト」タブの適切なフォルダーの下に、デフォルト名のノードが表示されます。例えば、PurchaseOrder.xsd という XML スキーマ・ファイルをファイル・システムから「プロジェクト」タブにドラッグすると、PurchaseOrder という名前の新しいノードが、「プロジェクト」タブの「XML スキーマ」フォルダーに表示されます。サポートされるファイル・タイプのリストについては、『[プロジェクトで有効な外部ファイル・タイプ](#)』を参照してください。

- アップロードするファイルが他の XML スキーマを含む XML スキーマまたは WSDL である場合は、「組み込まれた XML スキーマのアップロード」ダイアログ・ボックスが自動的に表示されます。詳しくは、『[組み込まれた XML スキーマのアップロード](#)』を参照してください。
 2. オプション: デフォルト名を変更します。
 3. Return キーを押します。
- **マウスを使用した、プロジェクトへのファイルのアップロード**
ファイル・システムからプロジェクトにファイルをアップロードするには 3 つの方法があります。この手順では、「プロジェクト」タブの適切なフォルダーを右クリックしてファイルをプロジェクトにアップロードする方法について説明します。
 - **「文書の追加」ボタンを使用した、プロジェクトへのファイルのアップロード**
ファイル・システムからプロジェクトにファイルをアップロードするには 3 つの方法があります。この手順では、「プロジェクト」タブの「文書の追加」ボタンをクリックしてファイルをプロジェクトにアップロードする方法について説明します。

親トピック: プロジェクトの操作

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_uploading_files_into_a_project.html

マウスを使用した、プロジェクトへのファイルのアップロード

ファイル・システムからプロジェクトにファイルをアップロードするには 3 つの方法があります。この手順では、「プロジェクト」タブの適切なフォルダーを右クリックしてファイルをプロジェクトにアップロードする方法について説明します。

手順

1. 「プロジェクト」タブで、アップロードするファイルのタイプに該当するフォルダーを右クリックして、リストから「文書の追加」を選択します。例えば XML スキーマ・ファイルをアップロードする場合は、「プロジェクト」タブの「XML スキーマ」フォルダーを選択します。「文書の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「ロケーション」フィールドで、[外部の Web ロケーションまたはファイル・システムからファイルのロケーションを指定します](#)。
3. オプション: 「名前」フィールドに、Studio に表示するエンティティーの名前を入力します。入力する名前は 42 文字を超えてはならず、予約文字を使用することはできません。予約文字のリストについては、『[有効な名前について](#)』を参照してください。
4. 「OK」をクリックします。

タスクの結果


アップロードするファイルが他の XML スキーマを含む XML スキーマまたは WSDL である場合は、「組み込まれた XML スキーマのアップロード」ダイアログ・ボックスが自動的に表示されます。詳しくは、『[組み込まれ](#)

[た XML スキーマのアップロード](#)』を参照してください。

ファイルがプロジェクトにアップロードされます。

親トピック: [プロジェクトへのファイルのアップロード](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_uploading_files_into_a_project_mouse.html

「文書の追加」ボタンを使用した、プロジェクトへのファイルのアップロード

ファイル・システムからプロジェクトにファイルをアップロードするには3つの方法があります。この手順では、「プロジェクト」タブの「文書の追加」ボタンをクリックしてファイルをプロジェクトにアップロードする方法について説明します。

手順

1. 「プロジェクト」タブで、「文書の追加」 をクリックします。「文書の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「ロケーション」フィールドで、[外部の Web ロケーション](#)または[ファイル・システムからファイルのロケーション](#)を指定します。
3. オプション: 「名前」フィールドに、Studio に表示するエンティティの名前を入力します。入力する名前は42文字を超えてはならず、予約文字を使用することはできません。予約文字のリストについては、『[有効な名前について](#)』を参照してください。
4. 「OK」をクリックします。


タスクの結果

アップロードするファイルが他の XML スキーマを含む XML スキーマまたは WSDL である場合は、「[組み込まれた XML スキーマのアップロード](#)」ダイアログ・ボックスが自動的に表示されます。詳しくは、『[組み込まれた XML スキーマのアップロード](#)』を参照してください。

ファイルがプロジェクトにアップロードされます。

親トピック: [プロジェクトへのファイルのアップロード](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_uploading_files_into_a_project_button.html

組み込まれている XML スキーマのアップロード

XML スキーマまたは WSDL 文書では、「スキーマの組み込み (Schema Inclusion)」、「再定義によるスキーマの組み込み (Schema Inclusion with Redefinition)」、または「名前空間のインポート (Importing a Namespace)」を使用してメイン文書に他の XML スキーマを組み込むことができます。

このタスクについて

スキーマの組み込み (Schema Inclusion)

次の例で示すように、`include` エレメントを使用してメインの XML スキーマまたは WSDL に他の XML スキーマ・フラグメントを組み込むことができます: `<xsd:include schemaLocation="myTypes.xsd"/>`

再定義によるスキーマの組み込み (Schema Inclusion with Redefinition)

XML スキーマ仕様では、現行の XML スキーマまたは WSDL において他の XML スキーマ・フラグメントによって組み込まれた定義を再定義できます。例えば、`myTypes.xsd` XML スキーマ・フラグメントは、複合タイプ `PurchaseOrderType` を定義します。別の XML スキーマ `PurchaseOrder.xsd` は、`redefine` エレメントを使用して `myTypes.xsd` XML スキーマ・フラグメントを組み込み、複合タイプ `PurchaseOrderType` を再定義します。

次の例で示すように、`redefine` エレメントを使用してメインの XML スキーマまたは WSDL に他の XML スキーマ・フラグメントを組み込むことができます: `<xsd:redefine schemaLocation="myTypes.xsd"/>`

名前空間のインポート (Importing a Namespace)

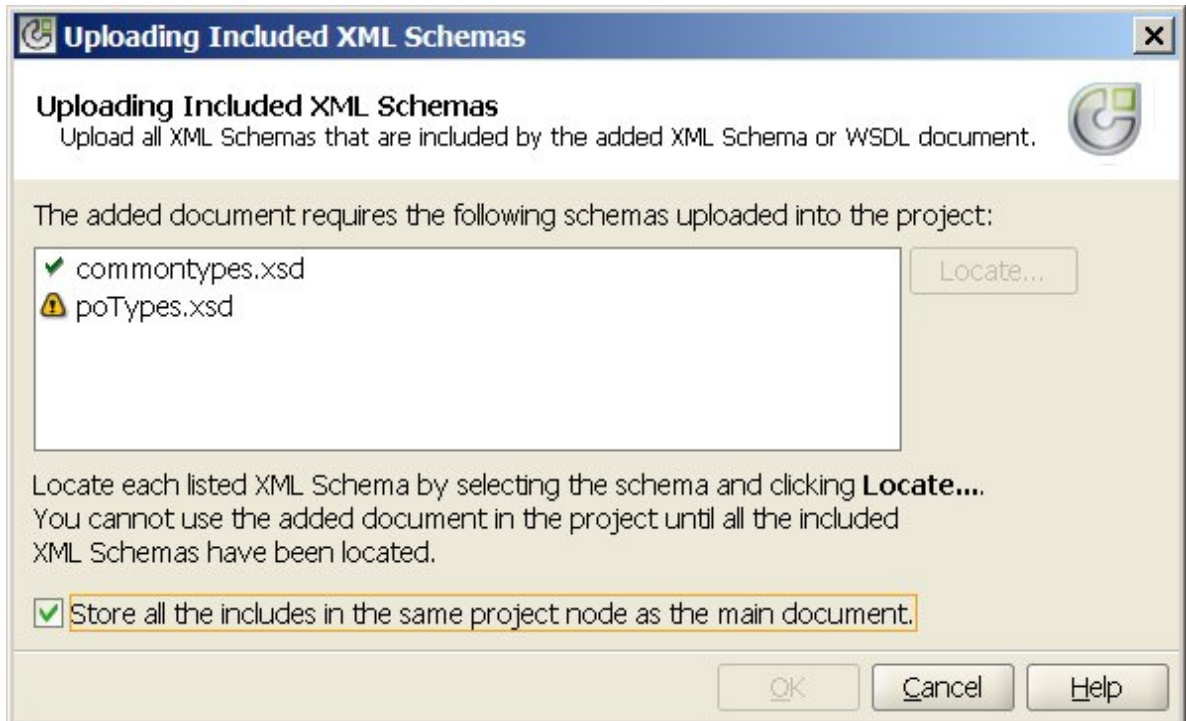
次の例に示すように、`import` エレメントを使用して現行文書に名前空間を組み込むことができます: `<xs:import namespace="http://acme.com/ns/example schemaLocation="mySchema.xsd"/>`



「文書の追加」ダイアログ・ボックスを使用してメイン XML スキーマ/WSDL をプロジェクトに追加またはアップロードするとき、以下の手順に示すように、プロジェクトに組み込まれる XML スキーマ (複数可) を位置指定するように促すプロンプトが出されます。メイン XML スキーマ/WSDL 文書が「プロジェクト」タブに表示されてプロジェクトで使用可能になる前に、組み込み対象の XML スキーマがすべて位置指定されていなければなりません。

手順

1. 現行のプロジェクトに XML スキーマ/WSDL 文書をアップロードします。XML スキーマ/WSDL 文書に他の XML スキーマが組み込まれている場合は、「組み込まれた XML スキーマのアップロード」ダイアログ・ボックスが表示され、組み込まれている XML スキーマがすべてリストされます (図 1 を参照)。

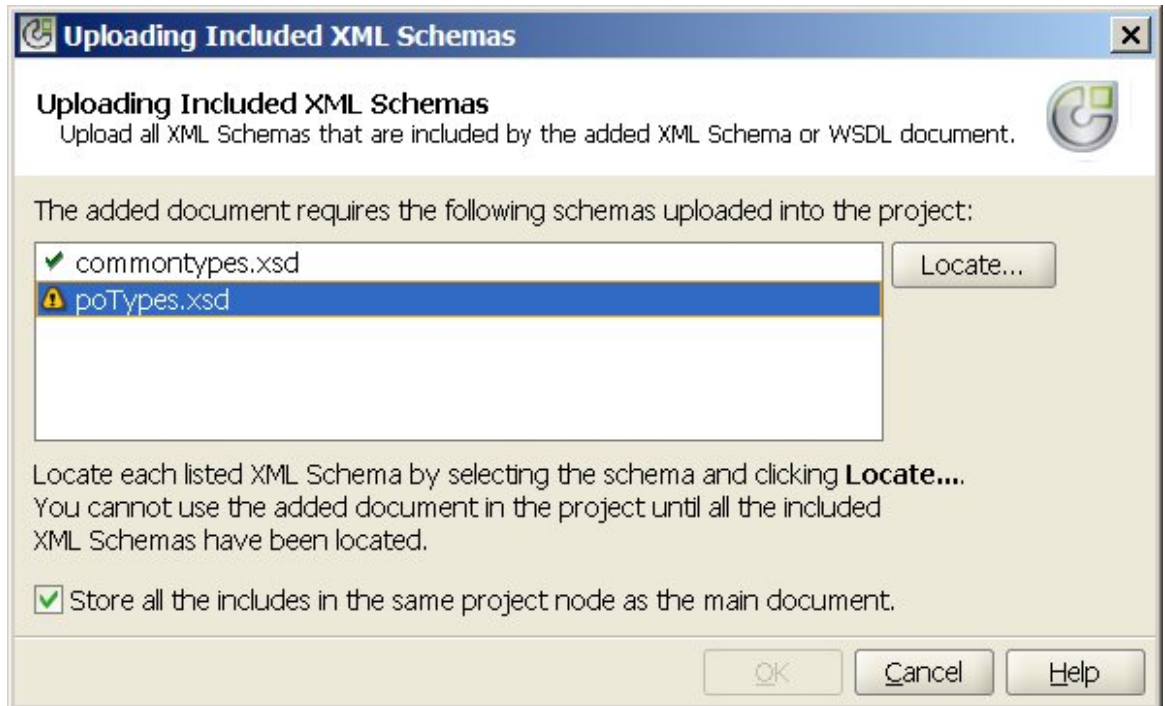
図 1. 組み込まれている XML スキーマのアップロード




組み込まれている XML スキーマが自動的に位置指定される場合は、前の図の `commonTypes.xsd` スキーマに示されているように、チェック・マーク・アイコン  が「組み込まれた XML スキーマのアップロード」ダイアログ・ボックスの XML スキーマの横に表示されます。メインの XML スキーマ/WSDL がローカル・ファイル・システムに配置された場合、Studio は、組み込まれた XML スキーマを同じディレクトリーで探し、自動的にそれらを位置指定します。例えば、`C:\temp` ディレクトリーから `mySchema.xsd` をアップロードした場合に、`mySchema.xsd` に `commonTypes.xsd` XML スキーマが組み込まれているときは、Studio が `C:\temp` ディレクトリーで `commonTypes.xsd` XML スキーマを自動的に位置指定します。組み込まれている XML スキーマが自動的に位置指定されない場合は、図 1 の `poTypes.xsd` XML スキーマに示されているように、警告アイコン  が、「組み込まれた XML スキーマのアップロード」ダイアログ・ボックスの XML スキーマの横に表示されます。

2. 位置指定されていない XML スキーマをすべて位置指定するには、以下の手順を繰り返します。
 - a. 「組み込まれた XML スキーマのアップロード」ダイアログ・ボックスで XML スキーマを選択します。図 2 に示すように、テーブルで XML スキーマが強調表示されます。

図 2. XML スキーマのアップロード



- b. 「位置指定」をクリックします。「選択した XML スキーマの位置指定」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - c. 「ロケーション」フィールドで、組み込まれている XML スキーマのロケーションを外部 Web ロケーションまたはファイル・システムから指定します。
 - d. 「OK」をクリックします。XML スキーマが位置指定されると、チェック・マーク・アイコン  が「組み込まれた XML スキーマのアップロード」ダイアログ・ボックスの XML スキーマの横に表示されます。
3. デフォルトでは、「組み込まれたものすべてをメイン文書と同じプロジェクト・ノード内に保管します。(Store all the includes in the same project node as the main document)」チェック・ボックスが選択されています。このチェック・ボックスが選択されている場合、組み込まれている XML スキーマおよびメイン XML スキーマ/WSDL は、単一のプロジェクト・ノードとしてアップロードされます。このチェック・ボックスがクリアされている場合、組み込まれている XML スキーマおよびメイン XML スキーマ/WSDL はすべて、「プロジェクト」タブに個別に表示されます。リストされているすべての XML スキーマの横にチェック・マーク・アイコンが表示され、組み込まれているすべての XML スキーマが位置指定されたことが示されます。
 4. 「OK」をクリックします。

例

「組み込まれたものすべてをメイン文書として同じプロジェクト・ノード内に保管します」チェック・ボックスが選択されている場合、[図 3](#) に示すように、メイン XML スキーマ/WSDL のみが「プロジェクト」タブに表示されます。

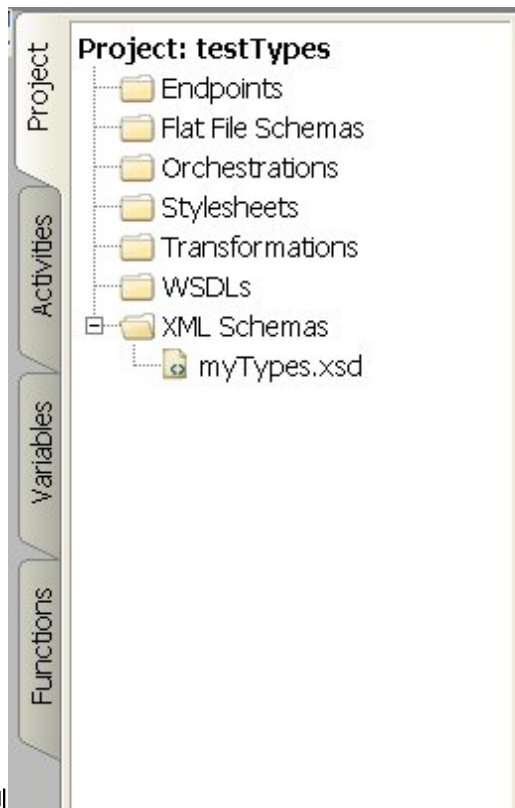


図 3. 例

このチェック・ボックスが選択されている場合、組み込まれている XML スキーマが引き続きプロジェクトにアップロードされますが、「プロジェクト」タブには表示されないため、このような XML スキーマは『[組み込まれている XML スキーマのアップロード](#)』で説明されているようにプロジェクトで個別に更新することはできません。

「組み込まれたものすべてをメイン文書として同じプロジェクト・ノード内に保管します」チェック・ボックスがクリアされている場合、[図 4](#) に示すように、メイン XML スキーマ/WSDL が表示され、組み込まれている XML スキーマがすべてプロジェクトにアップロードされ、「プロジェクト」タブに表示されます。

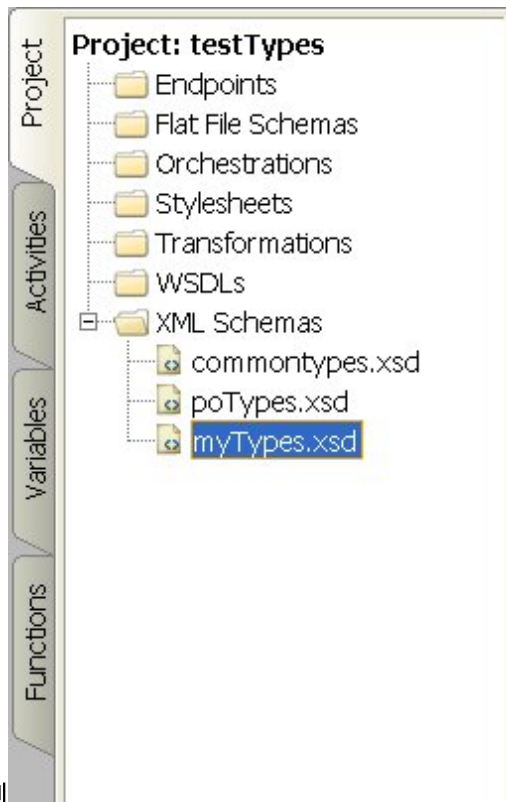


図 4. 例

このチェック・ボックスがクリアされている場合は、『[組み込まれている XML スキーマのアップロード](#)』で説明されているように、組み込まれているいずれの XML スキーマも個別に更新できます。

注: XML スキーマ間で発生する可能性がある従属関係の競合を軽減するために、可能な限り常にこのチェック・ボックスを選択して、メイン XML スキーマ/WSDL を (1 つのプロジェクト・ノードとして) ロードしてください。例えば、「組み込まれたものすべてをメイン文書として同じプロジェクト・ノード内に保管します。」チェック・ボックスをクリアしてメイン *myTypes.xsd* ファイルをプロジェクトにアップロードすると、以下の XSD ファイルもアップロードされて「プロジェクト」タブに表示されます。

- *commonTypes.xsd*
- *poTypes.xsd*

commonTypes.xsd ファイルで定義されたタイプまで組み込んで使用する 3 番目の XSD ファイル (*myTypesTwo.xsd*) を作成およびアップロードし、その後、*commonTypes.xsd* で定義されていて、*myTypes.xsd* で使用されていたタイプの名前を Studio の外で変更し、これらの新しいバージョンのファイルをアップロードした場合、プロジェクト内の *myTypesTwo.xsd* ファイルは引き続きそのタイプのオリジナル名を参照するため、この時点では無効となります。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Uploading_Included_XML_Schemas.html

アップロードするファイルのロケーションの指定

ファイルは Web ロケーション (HTTP または FTP サーバー) またはローカル・ファイル・システムからプロジェクトにアップロードできます。

手順

1. ファイルのロケーションをローカル・ファイル・システムから指定するには、次のいずれかを選択します。
 - 「参照」をクリックし、ファイルを参照して「開く」をクリックします。
 - 「ロケーション」フィールドに、ローカル・ファイル・システム上のファイルの URI を入力します (例: file:/C:/temp/mySchema.xsd)。
2. ファイルのロケーションを外部 Web ロケーション (FTP または HTTP サーバー) から指定するには、「ロケーション」フィールドに、次のいずれかの形式記述を使用してファイルの URI を入力します。
 - `http://[username:password@]hostname[:portNumber]/location`
 - `https://[username:password@]hostname[:portNumber]/location`
 - `ftp://[username:password@]hostname[:portNumber]/location`上記の形式記述には、次の表記が含まれています。
 - 大括弧 [] - オプション・パラメーターを表し、URI に含めないようにします。
 - username - HTTP または FTP サーバーに接続するユーザー名を指定します。
 - password - HTTP または FTP サーバーに接続する指定されたユーザー名のパスワードを指定します。
 - portNumber - HTTP または FTP サーバーへの接続に使用するポート番号を指定します。
 - location - ファイルを検索する URL パスを指定します。URL には、次の例に示すようにファイル名を含める必要があります。


例

ユーザー名 `bob` とパスワード `snippy1` を使用して、FTP サーバー `acme.com` の `/input` ディレクトリーから `mySchema.xsd` ファイルをアップロードするには、「ロケーション」フィールドに次のストリングを指定します。

- `ftp://bob:snippy1@acme.com/input/mySchema.xsd`

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Specifying_the_Location_of_a_File_to_Upload.html`

プロジェクトで有効な外部ファイル・タイプ

オーケストレーションを作成する場合、XML スキーマその他のファイルをプロジェクトにアップロードして、構成タスクを完了することができます。外部ファイルは、Studio が自動で XML スキーマを生成できないというメッセージが出る接続アクティビティやオーケストレーションで使用されます。そのメッセージを変換する必要がある場合、またはそのメッセージにジョブ・キーを定義する必要がある場合は、XML スキーマまたは DTD を提供する必要があります。


プロジェクトにアップロードできるファイルのタイプと、そのファイルに必要な拡張子は次のとおりです。

表 1.

タイプ	ファイル拡張子	説明
XML DTD	*.dtd	XML 文書タイプ定義 (DTD) は、非 XML 構文を使用して XML メッセージ形式を定義します。Studio は、DTD をプロジェクトにロードする際に自動的に XML スキーマに変換します。
Web サービス記述言語	*.wsdl	W3C Web サービス記述言語を定義する XML 文書。Studio は、WSDL を使用して統合トランザクション内のすべてのメッセージを記述します。
XML スキーマ	*.xsd	W3C XML スキーマ言語を使用する XML メッセージ形式の定義。Studio は、XML スキーマを使用して統合トランザクション内のすべてのメッセージを記述します。 注: Studio では、スキーマ・タイプとしてグローバル・エレメントのみが表示されます。グローバル・エレメントは、スキーマ・エレメントの直接の子です。スキーマ・ファイルにグローバル・エレメントが含まれない場合、Studio ではスキーマが空のように見えます。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Valid_Types_of_External_Files_for_a_Project.html

有効な名前について

プロジェクト、エンドポイント、オーケストレーション、スタイル・シート、フラット・ファイル・スキーマ、XML スキーマ、WSDL、および変換の名前を有効にするには、42 文字以内で指定する必要があります、予約文字または予約語を含んではいけません。

次の表に、予約文字または予約語を示します。

アクティビティの名前は 30 文字以内でなければならず、[表 3](#) の表に示されている予約文字を含んではいけません。

表 1. 予約文字

予約文字	説明
&	アンパーサンド
{ } [] < >	あらゆる括弧
*	アスタリスク
\	円記号
^	脱字記号
:	コロン
\$	ドル記号
/	スラッシュ
#	番号記号
()	小括弧
	パイプ
.	ピリオド
?	疑問符
;	セミコロン
	スペース
~	波形記号

表 2. Windows の
予約語

Windows の予約語
AUX
COM1
COM2
COM3
COM4
CON
LPT1
LPT2
LPT3
PRN
NUL


表 3. アクティビティ
名の予約文字.

アクティビティーの名前は 30 文字以内でなければならず、次の表に示されている予約文字を含んでいてはいけません。

予約文字	説明
&	アンパーサンド
{ } [] < >	あらゆる括弧
*	アスタリスク
\	円記号
:	コロン
\$	ドル記号
/	スラッシュ
	パイプ
.	ピリオド
?	疑問符
;	セミコロン
~	波形記号

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_About_Valid_Names.html

「元に戻す」および「やり直し」

Studio では、新しい方から最大 100 個までのアクションが保管され、これらのアクションは元に戻したり、やり直したりすることが可能です。取り消しや再実行ができるのは、UI のフィールド、オーケストレーション・ビュー、マッピング・エディター、プロジェクト・ツリー、構成プロパティ、変数パネル・アクティビティーで実行するアクションです。

始める前に

注: Studio を閉じると、実行したアクションの履歴が消去され、Studio を閉じる前に行ったアクションの取り消しや再実行はできなくなります。

手順

1. 「編集」メニューを選択します。
2. 最後のアクションを取り消すには、「元に戻す」を選択します。
3. 最後のアクションを再実行するには、「やり直し」を選択します。


タスクの結果

以下のキーボード・ショートカットでも、アクションの取り消しや再実行ができます。

- Ctrl + Z: 最後のアクションを元に戻す
- Ctrl + Y: 最後のアクションのやり直し

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/basics_Undo_and_Redo_Operations.html

変更された XML スキーマの更新

XML スキーマを使用するプロジェクトを作成した後で、その XML スキーマが変更された場合、既存の XML スキーマを新規 XML スキーマで更新することを試みることができます。

このタスクについて

新規 XML スキーマに更新すると、XML スキーマと連動するいずれかのプロジェクト・エンティティーが変更の影響を受ける可能性があります。以下のプロジェクト・エンティティーが XML スキーマの変更の影響を受ける可能性があります。

- XML スキーマを参照するマップ (アクティビティーにおけるスタンドアロン・マップとインライン・マップの両方)
- XML スキーマを参照する変数。
- オーケストレーションにおける XPath 式。
- ジョブ・キーで使用される XPath 式。
- 一部のエンドポイント構成。
- オーケストレーションで定義された条件。

更新プロセスの途中で、変更のコミット前に変更の影響を受けるプロジェクト・エンティティーが Studio から報告されます。

例えば、XML スキーマは、「変数のマップ (Map Variables)」アクティビティーに対する入力パラメーターを定義します。「変数のマップ (Map Variables)」アクティビティーの「オーケストレーションから」ペインには、入力パラメーターのノードから出力パラメーターのノードまでの間にリンクがあります。入力パラメーターを

定義する XML スキーマが新規 XML スキーマに更新されたときに、新規 XML スキーマで入力ノードが名前変更されたり除去されたりすると、リンクは無効となる可能性があります。オーケストレーションを再び有効にするには、リンクを作成し直す必要があります。

場合によっては、Studio が以下の理由により新規 XML スキーマのアップロードを完全に阻止することがあります。

- 新規 XML スキーマが無効である。
- 新規 XML スキーマをアップロードして既存の XML スキーマを置き換えると、プロジェクトが無効になる。

注: 既存の XML スキーマを更新する (以下の手順で説明) ことは、ファイルを「プロジェクト」タブにドラッグしたり「プロジェクト」タブで「XML スキーマ」フォルダーを右クリックして「文書の追加」を選択したりしてプロジェクトに複数の XML スキーマをロードすることとは異なります。既存の XML スキーマを更新した場合、プロジェクト内の既存の XML スキーマが置き換えられます。一方、同じファイルを「プロジェクト」タブにアップロードした場合、プロジェクトに XML スキーマのインスタンスが 2 つ作成されます。


手順

1. プロジェクトですでに使用されている XML スキーマのうち、新規 XML スキーマで置き換えるものを開きます。グラフィカル表現を開きます。
 - a. 「プロジェクト」タブを開き、「XML スキーマ」ディレクトリーにある XML スキーマをダブルクリックします。XML スキーマのノードが「XML スキーマ」タブに表示されます。
 - b. 「XML スキーマ」タブで任意の XML スキーマ・ノードをクリックします。
2. 以下のいずれかのオプションを使用して、既存の XML スキーマを置き換える新規 XML スキーマを選択します。
 - グラフィック表示で、ローカル・ファイル・システムの XML スキーマ・ファイルを、「XML スキーマ」タブで開いている XML スキーマにドラッグします。
 - Studio の ツールバー・メニューで「ファイル」>「更新」オプションを選択します。「現行スキーマ文書の更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。「ロケーション」フィールドで新規 XML スキーマのロケーションを外部 Web ロケーションまたはファイル・システムから指定します。
3. 「OK」をクリックします。「XML スキーマの更新は、リストされた従属するプロジェクト・エンティティに影響します」ダイアログ・ボックスが表示され、新規 XML スキーマでオリジナルの XML スキーマを置き換えることによって影響を受ける可能性があるプロジェクト・エンティティがすべてリストされます。
4. オプション: このダイアログ・ボックスで、リストされたいずれかの従属エンティティをクリックして、影響を受けるエンティティを Studio で表示します。
5. 「更新」をクリックします。Studio が、新規 XML スキーマでプロジェクトを更新しようとします。試行した更新の結果は、以下の条件によって異なります。
 - XML スキーマを変更した結果、更新後にプロジェクトが壊れる場合や、新規 XML スキーマが無効である場合は、その XML スキーマに関する問題が記述された「エラー」ダイアログ・ボックスが表示されます。「OK」をクリックします。更新が取り消され、XML スキーマはオリジナルの XML スキーマに戻り、プロジェクトは変更されません。
 - XML スキーマを変更してもプロジェクトが壊れず、XML スキーマが有効である場合は、更新が行われ、オリジナルの XML スキーマが新規 XML スキーマで置き換えられます。一部のプロジェクト・エンティティは、更新後に無効となったり、クリーンアップを必要としたりする可能性があります。例えば、「入力のマップ」ペインおよび「出力のマップ」ペインにあるリンクは、更新後に作成し直す必要があると考えられます。妥当性検査エラーを検出するには、オーケストレーションを開き、Studio の ツールバー・メニューから「オーケストレーション」>「妥当性検査」を選択します。

6. 「閉じる」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/updating_a_changed_xml_schema.html

プロジェクト・エクスプローラーの使用


「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスには、プロジェクトに既に定義されている現行タイプのエンティティのセットがリストされます。

手順

1. 項目を選択します。
2. 「OK」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Using_the_Project_Explorer.html

HTTP Post ユーティリティーの使用

このユーティリティーは、HTTP サーバーへメッセージ/要求を送信するために使用できる、シンプルな HTTP クライアント・インターフェースを備えています。このインターフェースは、「**HTTP: 要求の受信**」アクティビティをスターター・アクティビティとして使用するオーケストレーションに役立ちます。

このタスクについて


このユーティリティーを使用するには、Studio または統合アプライアンスが、HTTP クライアント・インターフェースからメッセージを受信可能な Web サーバーであることが必要です。

手順

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron Studio」 > 「HTTP Post ユーティリティ」を選択します。Web ブラウザーが開き、「文書の送信 (Post a Document)」ページが表示されます。
注: Internet Explorer 8 で HTTP Post ユーティリティを使用している場合、重複するフォームが表示されないようにするには、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」を選択する必要があります。
2. 「インバウンド・コネクターの URL」フィールドに、HTTP サーバーのホスト名と、それに続けて HTTP パスを指定します。
3. 「送信する文書 (Document to Post)」フィールドに次の 2 つのオプションがあります。
 - 「参照」をクリックし、既存のファイルを開きます。
 - テキスト・フィールドにメッセージを入力します。
4. 「サブミット」をクリックして、メッセージを送信します。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Using_the_HTTP_Post_Utility.html

オーケストレーション

- [オーケストレーション間の接続の構成](#)
同じプロジェクト内で、統合アプライアンスに格納された別の Web サービス・オーケストレーションを呼び出すように、Web サービス・エンドポイントを構成できます。
- [オーケストレーションの作成](#)
完全なオーケストレーションを作成する手順は次の 3 つです。新規オーケストレーションの作成、オーケストレーションの名前変更、オーケストレーションのビルド。
- [オーケストレーションの名前変更](#)
オーケストレーションは、作成時にはデフォルト名が付与されます。その名前は「プロジェクト」タブで名前変更できます。
- [オーケストレーションのビルド](#)
Studio は、ワークスペースでビジュアルなキューを提供し、これによって、オーケストレーション内でのアクティビティの配置の確認や制御がより簡単になります。Studio ツールボックスからワークスペースにアクティビティをドラッグ・アンド・ドロップすると、緑の円アイコンが、アクティビティが配置されるオーケストレーション内のターゲット・ロケーションに表示されます。アクティビティを論理アクティビティのブランチに追加すると、Studio はターゲット・ブランチを強調表示します。
- [オーケストレーションの検査](#)
プロジェクトを統合アプライアンスにデプロイする前にプロジェクト内でオーケストレーションをテストして問題を解決できるように、Studio では Cast Iron® オペレーティング・システム (CIOS) ランタイムをシミュレートすることができます。
- [Studio での SSL の使用](#)
Secure Sockets Layer (SSL) は、サーバーとクライアントの間で暗号化されたリンクを確立するための標準セキュリティ・テクノロジーです。暗号化されたリンクは、サーバーとクライアントの間で、すべてのデータが秘密情報として、変更されることなく送受信されることを保証します。SSL 接続を作成するために、サーバーは SSL 証明書を必要とします。このセクションでは、Studio での SSL の使用の概要

を説明するとともに、Transport Layer Security (TLS) と SSL セキュリティーおよび証明書について説明します。また、SSL クライアント認証を検査するとき使用する認証局 (CA) 証明書、エンド・エンティティー証明書、および秘密鍵を適切にインポートするために必要な手順についても説明します。

- **エンド・エンティティー証明書のインポート**

エンド・エンティティー証明書は、認証局によって個人またはシステムに対して発行される、デジタル署名された証明書です。この証明書は、公開鍵を特定の識別情報にバインドし、暗号化、認証、デジタル署名などの目的で使用されます。「エンド・エンティティー」という用語は、認証局証明書と区別するために使用されています。証明書の署名者が発行者になり、証明書内に記述されたエンティティーがサブジェクトになります。

- **認証局 (CA) 証明書のインポート**

認証局 (省略形は CA) は、デジタル署名および公開鍵と秘密鍵のペアの作成に使用される証明書を発行する、信頼のおける第三者機関の組織または会社です。CA は、情報を交換する 2 つのエンティティーについて、それぞれが表明する識別情報が適正であることを保証するため、データ・セキュリティおよび電子商取引における重要なコンポーネントです。ほとんどの場合、CA 相互の間の関係は階層的ですが、2 つの異なる公開鍵インフラストラクチャー (PKI) 階層に属する CA の間で信頼関係を確立するために、CA 証明書を使用することもできます。PKI とは、特定のユーザー、ポリシー、手順、ハードウェア、およびソフトウェアのセットであり、デジタル ID の作成、配布、管理、および利用のために使用されます。これらのすべての場合に、CA 証明書は、PKI で使用するために発行されるすべてのエンド・エンティティー証明書の証明書パスおよび使用制限を定義する上で重要な役割を果たします。

- **SSL サーバー認証**

SSL サーバー認証では、通信相手のサイトが表明する識別情報が適正であることを検査します。認証では、公開鍵暗号方式の標準的な手法を使用して、サーバーの識別情報を確認します。これにより、サーバーの証明書とパブリック ID が有効であること、およびクライアント側にあるトラステッド CA のリストに記載されている認証局によってその証明書と ID が発行されたことが保証されます。

- **SSL サーバー接続のテスト**

SSL を使用してサーバーに接続するエンドポイントを作成したら、SSLサーバー接続をテストできます。

- **SSL クライアント認証**

クライアント認証は、サーバー認証と似ていますが、サーバー認証と異なる点は、クライアントが表明する識別情報が適正であることを確認するために、サーバーがクライアントからの証明書を要求するという点です。証明書は、X.509 証明書でなければならず、サーバーによって信頼された認証局によって署名されなければなりません。クライアント認証を使用できるのは、サーバーがクライアントからの証明書を要求する場合だけです。すべてのサーバーがクライアント認証をサポートするわけではありません。

- **ログ・ビューアーの使用**

オーケストレーション・モニター・データは、表形式またはテキスト形式でログ・ビューアーに表示されます。

- **オーケストレーションの表示**

ワークスペースのオーケストレーション・ビューを操作するには、ワークスペースのオーケストレーション・ビュー・アイコン、および Studio ツールバー・メニューの「表示」オプションを使用できます。

- **オーケストレーションの妥当性検査**

オーケストレーションは、統合アプライアンスに公開する前に、有効になっている (完成して正確である) 必要があります。Studio の妥当性検査機能を使用して、オーケストレーションの妥当性検査を行います。

- **オーケストレーション内のアクティビティーの処理**

アクティビティーの切り取り、コピー、貼り付けを行い、オーケストレーション内のアクティビティーをドラッグし、新しいアクティビティーを追加および削除することができます。

- **オーケストレーションの印刷**

オーケストレーションは、直接印刷することも、その印刷プレビューを表示することもできます。


- **オーケストレーション・ジョブを順に処理**

「オーケストレーション・ジョブを順に処理」オプションは、複数インスタンスのオーケストレーションの実行時に、相互に競合する可能性があるアクティビティーがオーケストレーションに含まれている

場合に使用できます。オーケストレーションのインスタンスは、オーケストレーション・ジョブとも呼ばれます。

- **パーシスタンスを使用可能にする**
「オーケストレーション」ペインでは、「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスがデフォルトで選択されています。「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスの設定は、障害発生後にオーケストレーション・ジョブが再開される方法に影響を与えます。
- **グローバル例外ハンドラーのオーケストレーションへの追加**
実行時にオーケストレーションのアクティビティーのいずれかが例外をスローする場合、グローバル例外ハンドラーが有効になっていれば、グローバル CatchAll ブランチが実行されます。
- **オーケストレーションのイメージの保存**
現行オーケストレーションのグラフィカル・イメージを jpg ファイルとして保存できます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_orchestrations.html

オーケストレーション間の接続の構成

同じプロジェクト内で、統合アプライアンスに格納された別の Web サービス・オーケストレーションを呼び出すように、Web サービス・エンドポイントを構成できます。

このタスクについて

エンドポイント・ロケーションへのトランスポート・プロトコルを、従来の `http://` ではなく `local://` と指定することで、オーケストレーション間の接続を構成できます。

このオプションは、「呼び出し」または「提供」エンドポイント・タイプのいずれかに適用されます。

手順


1. 新規または既存の Web サービス・エンドポイントを開きます。
2. 「タイプ」セクションで、「呼び出し」オプションまたは「提供」オプションを選択します。デフォルトでは、「呼び出し」が選択されます。
 - 「呼び出し」オプションを選択する場合は、次のステップを実行します。
 - a. 「ロケーション」ドロップダウン・リストで、「ローカル」を選択します。
 - b. 「オーケストレーション」ドロップダウン・リストで、呼び出すオーケストレーションを選択します。
 - c. 「WS 提供アクティビティー」ドロップダウン・リストで、アクティビティーを選択します。

注: このアクティビティーは、選択したオーケストレーションが、「Web サービスのサービス提供」スターター・アクティビティーを持ち、関連するエンドポイントが「ローカル」である場合にのみ表示されます。「Web サービスのサービス提供」スターター・アクティビティーがないオーケストレーションを選択した場合、「WS 提供アクティビティー」メニューは空になります。

- 「提供」 オプションを選択する場合は、次のステップを実行します。
 - a. 「トランスポート」 ドロップダウン・リストで、「ローカル」を選択します。
 - b. 「パス」 フィールドに、「提供」 アクティビティの呼び出しに使用するパスを入力します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Configuring_an_Orchestration_to_Orchestration_Connection.html

オーケストレーションの作成


完全なオーケストレーションを作成する手順は次の3つです。新規オーケストレーションの作成、オーケストレーションの名前変更、オーケストレーションのビルド。

手順

1. 新規オーケストレーションを作成するには、以下の3つのステップのいずれかを実行します。
 - ツールバー・メニューからオーケストレーションを作成するには、「プロジェクト」 > 「新規オーケストレーション」を選択します。新規オーケストレーションがワークスペースで開きます。新規オーケストレーション名が、「プロジェクト」 タブの Orchestrations フォルダーに追加されます。
 - 「プロジェクト」 タブの「新規オーケストレーション」 ボタン  をクリックします。
 - 「オーケストレーション」 フォルダーを右クリックして、「新規オーケストレーション」を選択します。新規オーケストレーションがメインの Studio ペインで開きます。デフォルト名の新規オーケストレーションが、「プロジェクト」 タブの Orchestrations フォルダーに追加されます。
2. オプション: デフォルト名を変更します。
3. Return キーを押します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_creating_an_orchestration.html

オーケストレーションの名前変更


オーケストレーションは、作成時にはデフォルト名が付与されます。その名前は「プロジェクト」タブで名前変更できます。

手順

1. 「プロジェクト」タブをクリックします。
2. 「オーケストレーション」フォルダーをオープンします。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - 名前変更するオーケストレーションを右クリックして、「名前変更」を選択します。
 - 「プロジェクト」タブ内でオーケストレーション名を3回クリックします。
4. オーケストレーションの新規名を入力します。オーケストレーション名は42文字以下でなければならず、予約文字を含めることはできません。予約文字のリストについては、『[有効な名前について](#)』を参照してください。
5. オーケストレーションの名前が変更されます。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_renaming_an_orchestration.html

オーケストレーションのビルド

Studio は、ワークスペースでビジュアルなキューを提供し、これによって、オーケストレーション内でのアクティビティの配置の確認や制御がより簡単になります。Studio ツールボックスからワークスペースにアクティビティをドラッグ・アンド・ドロップすると、緑の円アイコンが、アクティビティが配置されるオーケストレーション内のターゲット・ロケーションに表示されます。アクティビティを論理アクティビティのブランチに追加すると、Studio はターゲット・ブランチを強調表示します。

手順

1. 「アクティビティ」タブから適切なアクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
2. アクティビティを構成します。オーケストレーションを完成させるには、少なくとも1つのインバウンド・アクティビティ (または1つのスケジュール) と、1つのアウトバウンド・アクティビティを追加する必要があります。詳しくは、『[オーケストレーションの妥当性検査](#)』の基本妥当性検査要件に関するセクションを参照してください。
3. オーケストレーションが構築された後に、「プロパティ」ペインにオーケストレーション・オプションを設定します。詳しくは、『[オーケストレーション・ジョブを順に処理](#)』および『[パーシスタンスを有効にする](#)』を参照してください。
4. オーケストレーションを保存し、妥当性検査します。
5. 「妥当性検査結果」ダイアログ・ボックスに表示される妥当性検査で示された問題があれば、それらを修正します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_building_an_orchestration.html

オーケストレーションの検査

プロジェクトを統合アプライアンスにデプロイする前にプロジェクト内でオーケストレーションをテストして問題を解決できるように、Studio では Cast Iron® オペレーティング・システム (CIOS) ランタイムをシミュレートすることができます。

始める前に

テストの実行を開始する前に、プロジェクト内で単一のオーケストレーションまたはすべてのオーケストレーションを開始できます。その際、Studio はオーケストレーションごとに1つのオーケストレーション・ジョブを実行します。オーケストレーションの開始や停止、およびオーケストレーション・モニター・ログの表示は、Studio ツールバーまたは「検査」タブから行うことができます。

オーケストレーションが無効な場合、メッセージ・ダイアログに、考えられる解決策が表示されます。ワークスペースにおいて、Studio は、データを処理しているオーケストレーション内の各アクティビティを強調表示します。Studio がオーケストレーションを実行すると、「検査」タブに、アクティビティ名、処理状況、変数/パラメーター名、変数/パラメーター・データなど、オーケストレーション・ジョブの詳細がツリー表示で示されます。エラーが発生すると、Studio はエラー発生ノードを強調表示します。そのノードをクリックすると、エラーのある場所にリンクします。そこで、オーケストレーションの別のインスタンスを実行する前に問題を解決できます。

ツリー表示でノードをクリックすると、Studio は、そのノードに対応するチェックリスト・タスクを「プロパティ・ペイン (Properties Pane)」に表示します。例えば、アクティビティ・ノードをクリックすると、そのアクティビティの「構成」パネルが「プロパティ・ペイン」に表示されます。「出力のマッピング」ノードをクリックすると、「出力のマッピング」パネルが「プロパティ・ペイン」に表示されます。マッピング変数またはマッピング・パラメーターをクリックすると、「検査」タブの「変数/パラメーター・メッセージ・データ (Variable/Parameter Message Data)」セクションにデータが表示されます。

Studio が実行するオーケストレーション・ジョブはオーケストレーションごとに1つのみですが、同じオーケストレーションを複数回開始できます。「検査」タブに、同じオーケストレーションを別個のインスタンスで実行したときの実行ごとの結果が表示されます。例えば、「インスタンス #1」、「インスタンス #2」のように表示されます。同じオーケストレーションの別のインスタンスを実行するには、その前に現行オーケストレーション・ジョブが完了していなければなりません。

注: Studio はランタイム・テストの結果を保持しません。オーケストレーション・タブを閉じると、オーケストレーションのランタイム結果は失われます。

このタスクについて

オーケストレーションのアクティビティによっては、Studio はオーケストレーション・ジョブを実行するために入力をさらに 要求する場合があります。例えば、データベース・アクティビティを含むオーケストレーションでは、Studio でオーケストレーションを実行する前に データベース資産を生成する必要があります。これは、統合アプライアンスでオーケストレーションを実行する前に WMC で行わなければならない作業と同じです。オーケストレーション内のアクティビティで Secure Sockets Layer (SSL) を使用する場合は、オーケストレーションを検査する前に、SSL に関連する概念を理解し、証明書をインポートする必要が生じることがあります。詳しくは、『[Studio での SSL の使用](#)』を参照してください。

オーケストレーションに「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティが含まれている場合、指定の URL にメッセージを送信する必要があります。「HTTP Post ユーティリティ」を使用して、メッセージを送信します。オーケストレーションに「FTP ポーリング」アクティビティが含まれている場合、オーケストレーションを実行するには、Studio から出されるプロンプトに従って、指定の場所にファイルを配置しておく必要があります。

「検査」タブを使用すれば統合アプライアンスでのランタイムをシミュレートできるため、統合アプライアンスにデプロイする前に、Studio で Kerberos プロトコル設定を指定して、その設定をテストすることも可能です。このような設定を Studio に指定しても、統合アプライアンスでのランタイムは影響を受けません。統合アプライアンスに通信相手のサーバーを認証させるには、Kerberos プロトコル設定を WMC で指定する必要があります。統合アプライアンスに対して Kerberos プロトコル設定を指定する方法について詳しくは、WMC のオンライン・ヘルプを参照してください。

手順





Studio で Kerberos プロトコル設定を指定するには、以下のようになります。

1. Studio で「編集」 > 「設定...」を選択します。「設定」ダイアログが表示されます。
2. ナビゲーション・ペインで「SSL」 > 「Kerberos」を選択します。
3. Kerberos サーバー名を指定します。
4. Kerberos レalmを指定します。
5. 「OK」をクリックします。

例

これで、Studio 内で Kerberos プロトコルを使用してオーケストレーションをテストできます。

表 1. 「検査」タブ・ツールバーのナビゲート

アイコン	説明
	開かれたオーケストレーションを開始します。Studio でオーケストレーション・ジョブを実行するには、オーケストレーションを有効にしておく必要があります。
	まだ実行されていないプロジェクト内の有効なオーケストレーションをすべて開始します。このアイコンをクリックしたときにすでに実行されているオーケストレーションについては、Studio はそのオーケストレーションを再実行しません。
	実行中のオーケストレーション・ジョブを直ちに停止します。Studio では、オーケストレーション・ジョブを停止前に完了させることはできません。
	実行中のすべてのオーケストレーション・ジョブを直ちに停止します。Studio では、オーケストレーション・ジョブを停止前に完了させることはできません。

アイコン	説明
	表形式またはテキスト形式でオーケストレーション・モニター・データを表示します。ログ・ビューアーについて詳しくは、『 ログ・ビューアーの使用 』を参照してください。
	「ワークスペース」で、オーケストレーション・ジョブの実行パスにあるアクティビティを強調表示します。これにより、Studio がオーケストレーション・ジョブを完了するために使用したロジックをたどることができます。入力およびオーケストレーション・ロジックによって、インスタンスごとにパスが異なる可能性があります。このアイコンをクリックするたびに、パスを強調表示する処理と、実行パスを強調表示しない処理が切り替わります。
	選択されたインスタンスからの結果を「入力のマップ」および「出力のマップ」に割り当てます。これにより、「プロパティ・ペイン」からテストを実行したときに、Studio が、実行されたオーケストレーション・ジョブの結果を入力および出力に取り込むようになります。
	選択された 1 つ以上のインスタンスをオーケストレーション詳細ツリーから削除します。複数のインスタンスを削除するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら、削除するインスタンスを選択し、このアイコンをクリックします。
	オーケストレーション詳細ツリーで選択されたノードの下にあるすべてのノードを展開します。
	オーケストレーション詳細ツリーで選択されたノードの下にあるすべてのノードを省略します。
	オーケストレーション詳細ツリーで選択されたノードの下にある単一ノードを展開します。
	オーケストレーション詳細ツリーで選択されたノードの下にある単一ノードを省略します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

フィードバック | 特記事項

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Verifying_Orchestrations.html

Studio での SSL の使用

Secure Sockets Layer (SSL) は、サーバーとクライアントの間で暗号化されたリンクを確立するための標準セキュリティ・テクノロジーです。暗号化されたリンクは、サーバーとクライアントの間で、すべてのデータが秘密情報として、変更されることなく送受信されることを保証します。SSL 接続を作成するために、サーバーは SSL 証明書を必要とします。このセクションでは、Studio での SSL の使用の概要を説明するとともに、Transport Layer Security (TLS) と SSL セキュリティおよび証明書について説明します。また、SSL クライアント認証を検査するときに使用する認証局 (CA) 証明書、エンド・エンティティ証明書、および秘密鍵を適切にインポートするために必要な手順についても説明します。

SSL と Transport Layer Security

TLS 1.0 は、SSL 3.0 をアップグレードしたプロトコルです。例えば、クライアント/サーバー認証の確立および暗号化のための TLS ハンドシェイク・プロトコルは、SSL ハンドシェイク・プロトコルと異なります。さらに、TLS では拡張性が向上しています。両者を併用することはできませんが、TLS が提供するメカニズムを使用すると、TLS 1.0 実装環境を SSL 3.0 実装環境に戻すことができます。

TLS プロトコルでは、公開鍵および対称鍵による暗号テクノロジーを使用します。公開鍵暗号方式では、公開鍵と秘密鍵を使用します。一方の鍵で暗号化された情報は、他方の鍵でのみ暗号化解除することができます。例えば、公開鍵で暗号化された情報は、秘密鍵でのみ暗号化解除することができます。

各サーバーの公開鍵は公開されていますが、秘密鍵は秘密にされています。セキュア・メッセージをサーバーに送信するために、クライアントは、サーバーの公開鍵を使用してメッセージを暗号化します。サーバーは、メッセージを受信すると、その秘密鍵を使用してメッセージを暗号化解除します。

対称鍵暗号方式では、同じ鍵を使用してメッセージを暗号化および暗号化解除します。クライアントは、すべてのセッション・データを暗号化するために使用する対称鍵をランダムに生成します。この鍵がサーバーの公開鍵によって暗号化され、サーバーに送信されます。

TLS は、以下の 3 つの基本セキュリティー・サービスを提供します。

- メッセージ・プライバシー - 公開鍵と対称鍵の暗号化を組み合わせることにより実現します。クライアントとサーバーの間のすべてのトラフィックは、1 つの鍵と、セッション・セットアップ時のネゴシエーションにより決定された暗号化アルゴリズムを使用して、暗号化されます。
- メッセージ保水性 - セッション・トラフィックがその最終宛先までの経路上で変更されないようにします。TLS および SSL では、公開/秘密鍵とハッシュ関数の組み合わせを使用して、メッセージ保水性を確保します。
- 相互認証 - 公開鍵証明書を使用した識別情報の交換。クライアントとサーバーの識別情報は、公開鍵証明書内でエンコードされています。公開鍵証明書には、以下のコンポーネントが含まれます。
 - サブジェクトの識別名
 - 発行者の識別名
 - サブジェクトの公開鍵
 - 発行者の署名
 - 有効期間
 - シリアル番号

セキュア HTTP (HTTPS) も使用できます。これにより、サーバーからダウンロードされるときに、クライアントのセキュリティー情報の漏えいを確実に避けることができます。

証明書

SSL では、デジタル証明書を使用して、サーバーの識別情報およびクライアントの識別情報 (オプション) を認証します。デジタル証明書は、認証局 (CA) によって発行されます。CA は、信頼のおける第三者機関として、要求側の識別情報および妥当性を検査した後で、デジタル証明書の発行、更新、および取り消しを行う権限を持ちます。CA 証明書は、ルート CA 証明書または従属 CA 証明書のいずれかであり、CA の署名および有効期間が記述されています。CA は、1 つの鍵と別の CA またはエンド・エンティティーとの間の接続を保証します。エンド・エンティティーとは、特定の個人、ロール、組織、ハンドル・ネーム、ハードウェア、またはソフトウェアのことです。


暗号化と認証は、公開鍵および秘密鍵を使用して実行されます。公開鍵は、サイト証明書またはサーバー証明書と呼ばれる証明書に組み込まれています。この証明書には、いくつかの情報項目があります。主な項目は、証明書を発行した CA の名前、サーバーまたはクライアントの名前と公開鍵、CA の署名、証明書の日付とシリアル番号などです。秘密鍵は、ユーザーが自己署名証明書または CA 証明書要求を作成するときに作成され、クライアントからのメッセージを暗号化解除するために使用されます。

SSL または TLS セッションは、以下の手順で確立されます。

1. クライアントとサーバーは、ハロー・メッセージを交換して、セッションで使用する暗号化アルゴリズムとハッシュ関数(メッセージ保全性のため)についてのネゴシエーションを行います。
2. クライアントは、識別情報を証明するための *ITU-T 標準 X.509* 証明書をサーバーに要求します。オプションで、サーバーがクライアントに証明書を要求することもできます。証明書を検査するために、証明書のフォーマットと有効期間の日付が正しいかどうか、および証明書にトラステッド認証局の署名が含まれているか(あるいは自己署名されているか)どうかを確認されます。
3. クライアントは、暗号化に使用する鍵のセットをランダムに生成します。これらの鍵はサーバーの公開鍵によって暗号化され、サーバーまで安全に送信されます。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SSL_overview.html

エンド・エンティティー証明書のインポート

エンド・エンティティー証明書は、認証局によって個人またはシステムに対して発行される、デジタル署名された証明書です。この証明書は、公開鍵を特定の識別情報にバインドし、暗号化、認証、デジタル署名などの目的で使用されます。「エンド・エンティティー」という用語は、認証局証明書と区別するために使用されています。証明書の署名者が発行者になり、証明書内に記述されたエンティティーがサブジェクトになります。

このタスクについて

エンド・エンティティー証明書と秘密鍵をインポートするには、`Java keytool -importkeystore` コマンドを使用して、PKCS#12 フォーマットのファイルをインポートする必要があります。Microsoft が提供する PFX の後継フォーマットである PKCS #12 は、*X.509* 秘密鍵とそれに付属する公開鍵証明書(パスワード・ベースの対称鍵で保護されています)を保管するために一般的に使用されるファイル・フォーマットを定義します。通常、PKCS #12 フォーマット・ファイルのファイル拡張子は、.pfx または .p12 です。

以下のステップは、エンド・エンティティー証明書をインポートする方法の例を示しています。

手順

1. Studio セキュリティー・ディレクトリーにナビゲートします。例: `C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio 6.0\security`
2. PKCS #12 フォーマット・ファイルを Studio セキュリティー・ディレクトリー(例えば、`C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio 6.0\security\certificate.p12`)にコピーします。
3. `keytool -importkeystore` コマンドを使用して、証明書と秘密鍵を Studio 鍵ストアにインポートします。例: `keytool -importkeystore -deststorepass "keystore admin" -destkeystore certs -srckeystore certificate.p12 -srcstoretype PKCS12 -srcstorepass <certificatePswd> -srcalias <certificateAlias>`

タスクの結果

上記のステップを完了すると、証明書が Studio セキュリティー・ディレクトリーにインポートされます。
keytool -importkeystore コマンドについて詳しくは、
<http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/security/60/secguides/keytoolDocs/keytool.html#importKeyStore> を参照してください。
親トピック: [オーケストレーション](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SSL_import_a_end_entity_certif.html

認証局 (CA) 証明書のインポート

認証局 (省略形は CA) は、デジタル署名および公開鍵と秘密鍵のペアの作成に使用される証明書を発行する、信頼における第三者機関の組織または会社です。CA は、情報を交換する 2 つのエンティティーについて、それぞれが表明する識別情報が適正であることを保証するため、データ・セキュリティーおよび電子商取引における重要なコンポーネントです。ほとんどの場合、CA 相互の間関係は階層的ですが、2 つの異なる公開鍵インフラストラクチャー (PKI) 階層に属する CA の間で信頼関係を確立するために、CA 証明書を使用することもできます。PKI とは、特定のユーザー、ポリシー、手順、ハードウェア、およびソフトウェアのセットであり、デジタル ID の作成、配布、管理、および利用のために使用されます。これらのすべての場合に、CA 証明書は、PKI で使用するために発行されるすべてのエンド・エンティティー証明書の証明書パスおよび使用制限を定義する上で重要な役割を果たします。

このタスクについて

CA 証明書をインポートするには、以下のステップを実行します。

手順

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. サーバーにナビゲートし、サーバーに保管されている証明書ファイル `ca-cert` を見つけます。
3. `ca-cert` ファイルをコピーして、Studio がインストールされているワークステーションにナビゲートします。
4. コマンド・ウィンドウを使用して、Studio のホーム・ディレクトリー `C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio x.x.x` に CA 証明書のコピーを貼り付けます。
5. Studio のセキュリティー・ディレクトリー `C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio x.x.x\security` にナビゲートします。
6. 以下のコマンドを実行して、CA 証明書ファイルを Studio にインポートします (`alias_name` はサーバー CA 証明書の別名です)。

```
..%jre%bin%keytool.exe -import -v -keystore cacerts -storepass changeit -file ..%castiron_ca_cert.pem -alias alias_name
```
7. `yes` または `no` の入力を求めるプロンプトが出されたら、`yes (Y)` を入力して **Enter** を押します。
8. コマンド・ウィンドウを終了します。

タスクの結果

上記のステップを完了すると、証明書が Studio セキュリティー・ディレクトリーにインポートされます。
keytool -import コマンドについて詳しくは、『[keytool - Key and Certificate Management Tool](#)』を参照してください。

親トピック: [オーケストレーション](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SSL_import_a_certif_authority_certif.html

SSL サーバー認証

SSL サーバー認証では、通信相手のサイトが表明する識別情報が適正であることを検査します。認証では、公開鍵暗号方式の標準的な手法を使用して、サーバーの識別情報を確認します。これにより、サーバーの証明書とパブリック ID が有効であること、およびクライアント側にあるトラステッド CA のリストに記載されている認証局によってその証明書と ID が発行されたことが保証されます。

セキュアな環境を確立するには、認証局によって発行された認証証明書を所有する「信頼できる」サーバーと通信することが重要です。認証証明書は、公開鍵を秘密鍵所有者の識別情報にバインドする、デジタル署名された文書です。認証は、接続時に実行され、アプリケーションまたはアプリケーション・プロトコルに依存しません。SSL では、認証は証明書の交換によって実行されます。これらの証明書は、**X.509 ITU-T 標準** に記述されているフォーマットを持つデータのブロックです。**X.509** 証明書は、認証局によって発行およびデジタル署名されます。

ただし、SSL を使用しても、クライアントが適切なサーバーと通信するという保証はありません。以下のシナリオを考えます。ここでは、「Server1」と「Server2」は両方とも、クライアント（「Client」）が信頼する CA によって発行された有効な証明書を持っています。Client は Server1 とのセキュア・セッションを確立しようとしませんが、Server2 はその通信を傍受しようとしていて、物理的にそれが可能な場所に位置しています。

1. Client が SSL セッションの要求を Server1 に送信します。しかし、その要求（および後続のすべてのトランフィック）は、実際には Server2 を経由します。Client の要求を Server1 に転送する代わりに、Server2 は、所有している証明書を Client に送信することにより、要求に直接応答します。
2. Client は、Server2 の証明書を受信し、トラステッド CA のリストと証明書を照合して検査します。Server2 の証明書は、Server1 の証明書と同じ CA によって署名されているため、Client は証明書を受け入れ、Server2 とのセキュア・セッションを作成します。
3. Client とのセキュア・セッションが作成された後で、Server2 は、Server1 との別個の SSL セッションを要求および作成します。この時点から、Client は、暗号化された情報を Server2 に送信します。Server2 は、その情報を暗号化解除し、再度暗号化し、Server1 に送信します。Server2 は、反対方向の情報フローも同様に処理します。その結果、インターネット経由のフローですべてのデータが暗号化されているにもかかわらず、Server2 は情報を読み取ることができ、それを変更することもできます。


SSL サーバー認証は、このような結果を防止できるように設計されています。サーバー認証が使用可能である場合、クライアントは、サーバーの証明書が信頼できることを確認した後で、証明書内のインターネット名がサーバーのインターネット名と一致するかどうかを検査します。一致する場合は、SSL ネゴシエーションが続行されます。一致しない場合は、接続が終了します。

サーバー認証が使用可能である場合、上記のセキュリティー・シナリオの手順は、以下のようになります。

1. Client が SSL セッションの要求を Server1 に送信します。その要求 (および後続のすべてのトラフィック) は、実際には Server2 を経由します。Client の要求を Server1 に転送する代わりに、Server2 は、所有している証明書を Client に送信することにより、Client の要求に直接応答します。
2. Client は、Server2 の証明書を受信し、トラステッド CA のリストと証明書を照合して検査します。Server2 の証明書は、Server1 の証明書と同じ CA によって署名されているため、Client は証明書を受け入れ、Server2 とのセキュア・セッションを作成します。
3. セキュア・セッションが作成された後で、実際のデータが送受信される前に、Client は、受信した証明書内のインターネット名を、通信したいサーバーの名前と比較します。名前が一致しないため、Client は、接続を続行するべきではないと判断し、接続を切断します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SSL_server_authentication.html

SSL サーバー接続のテスト

SSL を使用してサーバーに接続するエンドポイントを作成したら、SSLサーバー接続をテストできます。

このタスクについて

サーバーへの SSL 接続をテストするには、以下の手順を実行します。

手順

1. [認証局 \(CA\) 証明書のインポート](#)に記載されている手順に従って、サーバー CA 証明書をインポートします。
2. サーバーのエンドポイントを開きます。
3. FTPS 接続、SSL E メール接続、および SSL データベース接続では、サーバー接続のためのログイン資格情報 (サーバー、ポート、ユーザー、およびパスワード)を確認します。
4. SSL を使用する HTTP 接続および Web サービス接続では、HTTP または Web サービスのサーバーがクライアント認証を必要とする場合、[HTTP エンドポイントの作成または編集](#)に記載されている手順に従って、クライアント証明書別名を構成します。
5. 「[接続のテスト](#)」をクリックします。
6. 接続が成功したら、Studio オーケストレーションでこのエンドポイントを使用し、「[検査](#)」タブの機能でオーケストレーションを評価します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SSL_testing_a_SSL_server_connection.html

SSL クライアント認証

クライアント認証は、サーバー認証と似ていますが、サーバー認証と異なる点は、クライアントが表明する識別情報が適正であることを確認するために、サーバーがクライアントからの証明書を要求するという点です。証明書は、**X.509** 証明書でなければならず、サーバーによって信頼された認証局によって署名されなければなりません。クライアント認証を使用できるのは、サーバーがクライアントからの証明書を要求する場合だけです。すべてのサーバーがクライアント認証をサポートするわけではありません。

サーバーが証明書を要求した場合、クライアントは、証明書を送信するか、証明書なしで接続を試行するかを選択できます。サーバーは、クライアントの証明書が信頼できる場合、接続を許可します。クライアントが証明書なしで接続を試行したときには、サーバーは、より低いセキュリティー・レベルでクライアント・アクセスを許可することがあります。以下にイベントの手順を示します。

1. クライアントが SSL セッションの要求をサーバーに送信します。
2. クライアントは、サーバーの証明書を受信し、トラステッド CA のリストと証明書を照合して検査します。サーバーの証明書はトラステッド認証局によって署名されているため、クライアントはこの証明書を受け入れます。次に、サーバーは、クライアントを識別する証明書を送信するようにクライアントに要求します。
3. クライアントは、応答として、証明書を送信するか、証明書なしでセッションの確立を試行します。
4. クライアントが証明書を送信した場合、サーバーは、信頼できる証明書のリストと証明書を照合して検査します。クライアントを信頼できる場合は、セキュア・セッションが確立されます。クライアントが証明書を送信しなかった場合、通常、サーバーはセッションを終了します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SSL_client_authentication.html

ログ・ビューアーの使用

オーケストレーション・モニター・データは、表形式またはテキスト形式でログ・ビューアーに表示されません。

デフォルトでは、次のオーケストレーション・モニター・データがログ・ビューアーによって表形式で表示されます。

時刻

指定されたイベントの発生時のタイム・スタンプを提供します。

レベル

特定イベントのロギング・レベルを指定します。ロギング・レベルには、「オフ (Off)」、「重大 (Severe)」、「警告 (Warning)」、「情報 (Info)」、および「すべて (All)」があります。

タイプ

イベントを生成したアクティビティのタイプを識別します。例えば、「スケジューラー (Scheduler)」、「Mime」、「JMS」、「HTTP」などがあります。

メッセージ

特定イベントに関する詳細を提供します。

「レベル」および「タイプ」リストから、それぞれロギング・レベルまたはアクティビティ・タイプを指定して、表に表示されるログ・イベントをフィルターに掛けることができます。タイプによってログ・イベントをフィルターに掛ける場合は、Shift キーを押して複数のタイプを選択またはクリアすることができます。


テキスト形式と表形式を切り替えるには、「テキストとして表示」オプションを選択またはクリアします。

すべてのオーケストレーション・モニター・データを削除するには、「クリア」をクリックします。

一度ログがクリアされると、オーケストレーション・モニター・データをログに復元することはできません。

親トピック: [オーケストレーション](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Using_the_Log_Viewer.html

オーケストレーションの表示



ワークスペースのオーケストレーション・ビューを操作するには、ワークスペースのオーケストレーション・ビュー・アイコン、および Studio ツールバー・メニューの「表示」オプションを使用できます。

このタスクについて



ワークスペースでは、ソースとターゲットのエンドポイントを、それぞれ青と緑の区切り線を使用して示します。表示されるエンドポイントについて、ワークスペースではエンドポイントと特定のアクティビティを関連付けるために、データ・フロー線が使用されます。これによって、アクティビティとそのエンドポイントとを関連付けることができます。

以下のアイコンを使用して、ワークスペース内のオーケストレーション・ビューを操作できます。



オーケストレーションの向き

オーケストレーションでは、水平  または垂直  のいずれかのビュー表示を選択できます。



「オーケストレーション」アクティビティの展開または省略

オーケストレーションのアクティビティを展開  または省略  します。



エンドポイントの向き

エンドポイントでは、オーケストレーションとの相対位置で、水平  または垂直  のいずれかのビュー表示を選択できます。


エンドポイントの表示/非表示

オーケストレーションのエンドポイントをワークスペースで表示するかどうかを選択できます。水平の向きのエンドポイントの表示/非表示を指定します 。垂直の向きのエンドポイントの表示/非表示を指定します 。

オーケストレーションの展開または省略

オーケストレーション全体 (アクティビティーだけでない) を展開 、または省略  します。

グラフのアニメーション表示

 ワークスペースで実行されるアクションをアニメーション表示します。デフォルトでは、ワークスペースのオーケストレーション・グラフィックスはアニメーション表示され、Studio はユーザーがオーケストレーションに行った変更を、オーケストレーションにスムーズに移行させます。アイコンをクリックすると、アニメーションは無効になり、アクションの動作はさらに速くなります。例えば、アクティビティーをオーケストレーションに追加すると、新規アクティビティーが所定の位置に表示されます。

サテライト・ビューのナビゲート

 オーケストレーション全体を表示したり、特定の領域を選択して表示したりすることができます。


ズームアウト

 オーケストレーションのビューを最小化します。

ズームイン

 オーケストレーションのビューを拡大します。

ビューを 100% に復元

 オーケストレーション・ビューに行ったズームアウトおよびズームイン変更をリセットします。

表示サイズに合わせる

オーケストレーションがワークスペースに収まるようにサイズ変更します。


表 1. Studio のツールバー・メニュー・オプション. ツールバー・メニューの「表示」オプションから以下のオプションのいずれかを選択することで、オーケストレーションを表示する拡大率レベルを制御できます。

オプション	説明
ズームイン	オーケストレーションを表示する拡大率レベルを引き上げます。
ズームアウト	オーケストレーションを表示する拡大率レベルを引き下げます。
ズーム 100%	オーケストレーションのビューを通常の拡大率レベルに戻します。
ツリー・フローとして表示 (View as Tree Flow) またはフローとして表示 (View as Flow)	「ツリー・フローとして表示 (View as Tree Flow)」オプションは、オーケストレーションのアクティビティーをトップからボトムのビューでリストします。実行時に、フローはトップ・アクティビティーから開始し、ボトムに向かって下向きに実行を続行します。このビューは、大規模なオーケストレーションを表示する場合に役立ちます。 「フローとして表示 (View as Flow)」オプションは、オーケストレーションのアクティビティーを左から右のビューでリストします。実行時に、フローは左側のアクティビティーから開始し、右側に向かって実行を続行します。これはデフォルト・ビューです。
状況ビュー	ステータス・バーをメインの Studio ペインの下部に表示するかどうかを定義するチェック・ボックスです。ステータス・バーには、メニュー・オプションの説明が表示されます。

オーケストレーションの任意の箇所を右クリックして (オーケストレーションがフローで表示されている場合)、ショートカット・メニューから以下のいずれかのオプションを選択することもできます。


- ズームイン
- ズームアウト
- ズーム 100%

手順

1. 大規模なオーケストレーションをナビゲートするために、トップレベルの縮小されたオーケストレーションの概要を表示するには、概要  アイコンをダブルクリックします。トップレベルの縮小されたオーケストレーションの概要が、「オーケストレーション」タブの小さなペインに表示されます。
2. カーソルをその小さなペインに移動させると、「オーケストレーション」タブの大きめの詳細ペインに表示されるオーケストレーションのセクションが変わります。
3. 小さなペインをダブルクリックすると、その小さなトップレベルでのオーケストレーションの概要は除去されます。

親トピック: [オーケストレーション](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>



http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Viewing_an_Orchestration.html

オーケストレーションの妥当性検査

オーケストレーションは、統合アプライアンスに公開する前に、有効になっている (完成して正確である) 必要があります。Studio の妥当性検査機能を使用して、オーケストレーションの妥当性検査を行います。


始める前に

有効なオーケストレーションであるには、以下の要件を満たしている必要があります。

- 最初のアクティビティとして、スターター・アクティビティまたは「選出」アクティビティがある。スターター・アクティビティは、「アクティビティ」タブに、青のオーケストレーション・アイコンと下向き矢印  で示されています。「選出」アクティビティの各ブランチの最初のアクティビティは、スターター・アクティビティでなければなりません。
注: すべてのスターター・アクティビティは、「ジョブのスケジュール」アクティビティを除いて、Studio ではインバウンド・アイコン  で表されます。
- 変数は使用前に初期化する必要がある。その中には、「If.. Then」アクティビティのブランチで初期化する変数も含まれます。変数は、すべてのブランチで初期化される必要があります。

手順

1. 「プロジェクト」タブを選択し、Orchestration フォルダを展開します。





2. Orchestration フォルダーからオーケストレーションを選択して開きます。「オーケストレーション」タブに、オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
3. 以下のオプションのいずれかを使用して、オーケストレーションを妥当性検査します。
 - メニュー・ツールバーから「オーケストレーション」 > 「妥当性検査」を選択します。「妥当性検査結果」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - ALT+F8 を押します。「妥当性検査結果」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 「プロジェクト」タブ内のオーケストレーションをクリックします。オーケストレーションが無効である場合、「プロジェクト」タブの隣りに「妥当性検査結果」ポップアップが表示され、無効なオーケストレーションのアイコン  が、「プロジェクト」タブ内のオーケストレーションの隣りに表示されます。

「妥当性検査結果」ダイアログ・ボックスに、オーケストレーションの問題領域がリストされます。先頭に青色アイコンが付いている問題は通知です。問題を修正するには、その領域までナビゲートする必要があります。先頭に赤色アイコンが付いている問題はエラーです。ダイアログ・ボックス内のエラー・メッセージをクリックして、問題を修正するための適切なパネルを開きます。

妥当性検査により、オーケストレーションのすべての基本要件が満たされていることが確認されます。オーケストレーションを統合アプライアンスに公開する前に、妥当性検査で指摘されたすべての問題点を解決する必要があります。

例

プロジェクト内のすべてのオーケストレーションを妥当性検査するには、以下のステップを実行します。

1. 「プロジェクト」タブで、「プロジェクトの再妥当検査」  をクリックします。これによりプロジェクト内のすべてのオーケストレーションが妥当性検査されます。オーケストレーションが無効である場合、無効なオーケストレーションのアイコン  が、「プロジェクト」タブのオーケストレーションの隣りに表示されます。オーケストレーションが無効の場合、そのオーケストレーションをクリックして、「妥当性検査結果」リストでエラーを表示します。
2. 「プロジェクトの妥当性検査」  ツールバー・ボタンを選択します。これによりプロジェクト内のすべてのオーケストレーションが妥当性検査されます。オーケストレーションが無効である場合、無効なオーケストレーションのアイコン  が、「プロジェクト」タブのオーケストレーションの隣りに表示されます。オーケストレーションが無効の場合、そのオーケストレーションをクリックして、「妥当性検査結果」リストでエラーを表示します。

次のタスク

「妥当性検査」アイコンはオーケストレーションのさまざまな箇所に表示され、潜在的な問題領域について、視覚的ヒントや詳細情報を提供します。

Studio では、以下の「妥当性検査」アイコンが表示されます。

警告アイコン

警告アイコンをクリックすると、ペインのエンティティの構成を完了するために必要な情報を理解できます。例えば、アクティビティのチェックリストで、エンドポイントが指定されていない場合に、警告アイコンはエンドポイントの隣りに表示されます。


情報アイコン

情報アイコンをクリックすると、ペイン内のエンティティに関する詳細 (例えばボタンが無効になっている理由など) を理解できます。

チェック・マーク・アイコン


チェック・マーク・アイコンは、ペイン内のすべてのエンティティの情報が指定されている場合に表示されます。例えば、アクティビティのチェックリストで、有効なエンドポイントが指定されている

場合に、チェック・マーク・アイコンはエンドポイントの隣りに表示されます。

警告アイコン  は、メイン・ペインの右上隅に表示されます (例えば、「エンドポイント」構成ペイン)。ペインに表示される警告アイコンの ON/OFF を切り替えるには、このアイコンをクリックします。OFF にすると、警告アイコンはペインに表示されなくなります。

親トピック: [オーケストレーション](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_validating_the_orchestration.html

オーケストレーション内のアクティビティの処理

アクティビティの切り取り、コピー、貼り付けを行い、オーケストレーション内のアクティビティをドラッグし、新しいアクティビティを追加および削除することができます。



このタスクについて



次のいずれかの方法を使用して、アクティビティの切り取り、コピー、貼り付け、削除、および名前変更を実行できます。

- キーボード・ショートカット
- アクティビティを右クリックして、ドロップダウン・リストからオプションを選択する
- アクティビティを選択して、「編集」ツールバー・メニューからオプションを選択する
- アクティビティを選択して、ツールバー・ボタンを選択する

キーボード・ショートカットと、対応するメニュー・オプションを、次の表に示します。

表 1. キーボード・ショートカットと対応するメニュー・オプション

キーボード・ショートカット	右クリック・メニュー・オプション	ツールバー・メニュー・オプション	ツールバー・ボタン	アクション
CTRL + X	切り取り	「編集」 > 「切り取り」		アクティビティを削除し、アクティビティのコピーを、後で貼り付けアクションによって使用できるクリップボードに保存します。
CTRL + C	コピー	「編集」 > 「コピー」		アクティビティのコピーを、後で貼り付けアクションによって使用できるクリップボードに保存します。

キーボード・ショートカット	右クリック・メニュー・オプション	ツールバー・メニュー・オプション	ツールバー・ボタン	アクション
CTRL + V	貼り付け	「編集」 > 「貼り付け」		保管されたアクティビティをクリップボードからオーケストレーションにコピーします。
Delete	削除	「編集」 > 「削除」		アクティビティを除去します。このアクティビティはクリップボードに保存されません。
F2	名前変更	「編集」 > 「名前変更」		フィールドを開いて、オーケストレーション内のアクティビティの名前を変更できるようにします。

注: 上の表にリストされているキーボード・ショートカットとメニュー・オプションは、オーケストレーションがフローとして表示された場合のみ使用でき、オーケストレーションがツリーとして表示された場合は使用できません。詳しくは、『[オーケストレーションの表示](#)』を参照してください。

アクティビティの切り取り、コピー、または貼り付けは、同じオーケストレーション内でも、同じプロジェクト内のオーケストレーション間でも実行できます。

アクティビティを選択して新しいロケーションにドラッグすることで、オーケストレーション内の1つのロケーションからオーケストレーション内の別のロケーションにアクティビティをドラッグできます。

アクティビティをコピーするには、コピーするアクティビティを選択し、CTRL キーを押したまま、アクティビティを新しいロケーションにドラッグします。アクティビティのコピーが新しいロケーションに作成されます。

注: ドラッグ機能は、オーケストレーションがフローとして表示される場合のみ使用でき、オーケストレーションがツリーとして表示される場合は使用できません。詳しくは、『[オーケストレーションの表示](#)』を参照してください。

手順


1. アクティビティを「アクティビティ」タブからオーケストレーション内の緑色のいずれかのターゲットにドラッグします。
2. 「プロパティ」ペインにアクティビティのプロパティを入力します。
3. オプション: アクティビティを名前変更するには、ツールバー・メニューの「編集」 > 「名前変更」オプションを選択します。「アクティビティ名」フィールドがアクティブになります。表 1 に示されている、いずれかの代替方法も使用できます。

次のタスク

アクティビティを削除するには、ツールバー・メニューの「編集」 > 「削除」オプションを選択します。表 1 に示されている、いずれかの代替方法も使用できます。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Working_with_Activities_in_an_Orchestration.html

オーケストレーションの印刷


オーケストレーションは、直接印刷することも、その印刷プレビューを表示することもできます。

手順

1. 「プロジェクト」タブを選択し、Orchestrations フォルダーを展開します。
2. オーケストレーションを開くには、Orchestrations フォルダーでオーケストレーションをダブルクリックします。オーケストレーションが表示されます。
3. オプション: 印刷プレビューを表示するには、CTRL+SHIFT+P を押します。
4. オーケストレーションを印刷するには、CTRL+P を押します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Printing_an_Orchestration.html

オーケストレーション・ジョブを順に処理

「オーケストレーション・ジョブを順に処理」オプションは、複数インスタンスのオーケストレーションの実行時に、相互に競合する可能性があるアクティビティがオーケストレーションに含まれている場合に使用できます。オーケストレーションのインスタンスは、オーケストレーション・ジョブとも呼ばれます。

このタスクについて

例えば、オーケストレーションに「選出」アクティビティがあり、それに「挿入済み行の取得」、「更新済み行の取得」、および「削除済み行の取得」アクティビティへのブランチが含まれているとします。以下のステップは、このオーケストレーションの、「オーケストレーション・ジョブを順に処理」チェック・ボックスを選択していない場合の実行時シナリオの例を示しています。

1. データベースへの挿入が実行され、オーケストレーションの最初のインスタンスの作成が起動します。
2. オーケストレーションのこの最初のインスタンスは、「選出」アクティビティの挿入ブランチの処理を開始します。
3. 「挿入済み行の取得」アクティビティが最初のオーケストレーション・インスタンスで完了する前に、データベース内で削除が実行され、オーケストレーションの2番目のインスタンスの作成が起動されます。
4. オーケストレーションのこの2番目のインスタンスは、「選出」アクティビティの削除ブランチの処理を開始します。

これは望ましくない動作です。なぜなら、データベースでの潜在的な1次キー例外を避けるためには、オーケストレーションの最初のインスタンス（「挿入済み行の取得」アクティビティを処理中）が完了してから、2番目のインスタンスが「挿入済み行の取得」アクティビティの処理を開始する必要があるためです。これらのデータベース・アクションは順次実行する必要があります。オーケストレーションのインスタンスを順に実行するように強制するには、オーケストレーションの「オーケストレーション・ジョブを順に処理」チェック・ボックスを選択します。このオプションを設定すると、オーケストレーションのインスタンスは一度に1つずつ実行され、1次キー例外などの競合は回避されます。

すべてのジョブを単一のインスタンス・チェック・ボックスで実行するように設定するには、次のステップを実行します。


注: このオプションを選択すると、プロジェクトのパフォーマンスは低下します。

手順

1. 「プロジェクト」タブを選択し、Orchestrations フォルダーを展開します。
2. オーケストレーションを開くには、Orchestrations フォルダーでオーケストレーションをダブルクリックします。オーケストレーションが表示されます。
3. オーケストレーション・オプションが「オーケストレーション」タブの下部に表示されない場合は、ツールバー・メニューから「オーケストレーション」>「プロパティ」を選択します。
4. 「オーケストレーション・ジョブを順に処理」チェック・ボックスを選択します。オーケストレーションに共有変数が含まれている場合は、このオプションは自動的に選択されます。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Processing_Orchestration_Jobs_Sequentially.html

パーシスタンスを使用可能にする

「オーケストレーション」ペインでは、「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスがデフォルトで選択されています。「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスの設定は、障害発生後にオーケストレーション・ジョブが再開される方法に影響を与えます。

このタスクについて

「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスの設定の効果について以下の2つのオプションで説明します。

「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスが選択されている

実行時に、オーケストレーション・ジョブが実行されていて、障害が発生したためにジョブが停止した場合、オーケストレーションが再開されたときに元のジョブは停止した位置から処理を続行し、未完了のメッセージが失われることはありません。

「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスがクリアされている

実行時に、オーケストレーション・ジョブが実行されていて、障害が発生したためにジョブが停止した場合、オーケストレーションが再開されたときに、現行ジョブは完了せず、未完了のメッセージが失われます。

「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスがクリアされている場合、実行時のパフォーマンスが向上します。

「FTP でディレクトリーをポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーに対してパーシスタンスを使用可能にしなければならない場合があります。例えば、パーシスタンスを使用不可にして、「FTP でディレクトリーをポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーで「所定位置に保持」オプションを選択してオーケストレーション・ジョブを指定した場合、実行時に、障害が発生してジョブが停止すると、オーケストレーションが再開されたときに、ファイルが再度処理されます。ジョブの状態は失われ、統合アプライアンスはファイルがすでに処理されたことを認識しません。

以下のアクティビティーでは、「1 回のみ」オプションがアクティビティーの「配信ルール」で選択されている場合に、パーシスタンスが使用可能になっていなければなりません。

データベース

- 表のポーリング
- 挿入済み行の取得
- 更新済み行の取得
- 削除済み行の取得
- 行の挿入
- 行の更新 (Update Rows)
- 行の削除
- プロシージャの呼び出し

E メール

- Eメールの取得

FTP

- ディレクトリーのポーリング

JMS

- メッセージのサブスクライブ
- メッセージのポーリング

MQ

- メッセージのポーリング

SAP

- IDOC の受信
- IDOC の送信

SFDC

- 削除対象オブジェクトのポーリング
- 更新対象オブジェクトのポーリング

Lotus Domino®

作成済み文書の取得
削除済み文書の取得
更新済み文書の取得

手順

1. 「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスの設定を変更するには、 ツールバー・メニューから「オーケストレーション」 > 「プロパティー」 を選択します。「オーケストレーション」 ペインが表示されます。
2. 「パーシスタンスを有効にする」チェック・ボックスを選択します。

親トピック: [オーケストレーション](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

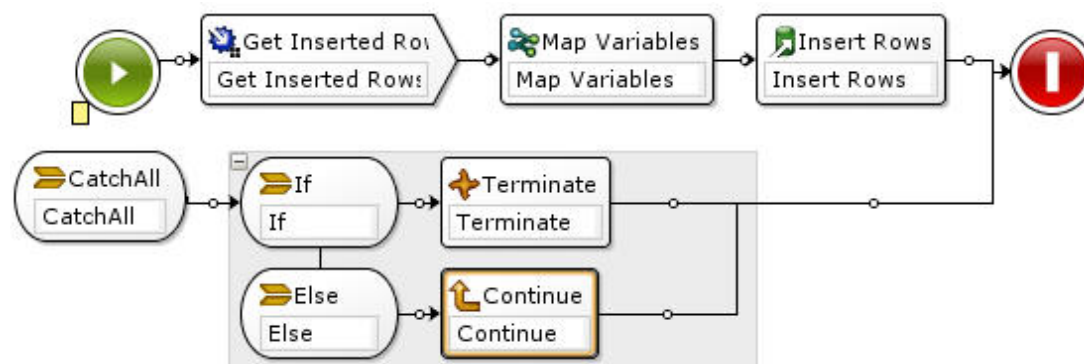
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/enabling_persistence.html

グローバル例外ハンドラーのオーケストレーションへの追加

実行時にオーケストレーションのアクティビティーのいずれかが例外をスローする場合、グローバル例外ハンドラーが有効になっていれば、グローバル CatchAll ブランチが実行されます。


このタスクについて

オーケストレーションの例を以下の図に示します。



この例では、「データベースへの挿入 (Database Get Inserted)」アクティビティーまたは「データベース行の挿入 (Database Insert Rows)」アクティビティーが失敗して例外をスローすると、CatchAll ブランチの「If..Then」アクティビティーが実行されます。

手順

1. オーケストレーションの「開始」アイコン  を右クリックして、メニューから「catchAll ブランチの追加」オプションを選択します。オーケストレーションに CatchAll ブランチが追加され、以下の変数が自動的に作成されます。
 - faultName - 実行時に、オーケストレーションのアクティビティからスローされた例外の名前が faultName 変数に含まれます。
 - faultData - 実行時に、例外に関連するエラー・メッセージが faultData 変数に含まれます。この追加情報が返されるのは、現時点では Web サービス・アクティビティの場合に限られます。Web サービス・アクティビティでは、faultData 変数に障害が含まれます。
 - faultInfo - 実行時に、以下のノードが faultInfo 変数から返されます。
 - name - 実行時に、オーケストレーションのアクティビティからスローされた例外の名前が faultInfo/name ノードに含まれます。faultInfo/name ノードは、xsd:QName 型です。
 - message - 実行時に、例外に関連するエラー・メッセージが faultInfo/message ノードに含まれます。faultInfo/message ノードは、xsd:string 型です。
 - activityId - 実行時に、例外が発生したアクティビティを一意的に識別するアクティビティ ID が faultInfo/activityId ノードに含まれます。faultInfo/activityId ノードは、xsd:int 型です。
 - activityName - 実行時に、例外が発生したアクティビティの名前が faultInfo/activityName ノードに含まれます。faultInfo/activityName ノードは、xsd:string 型です。
 - faultTime - 実行時に、エラーが発生した時刻が faultInfo/faultTime ノードに含まれます。faultInfo/faultTime ノードは、xsd:dateTime 型です。


注: アクティビティから faultName 変数と faultInfo/name ノードに返される例外名は、今後のリリースで変更される可能性があります。
2. 前の図で示すように、「アクティビティ」タブから CatchAll ブランチにアクティビティをドラッグ・アンド・ドロップして、CatchAll ブランチを構成します。

タスクの結果

注: faultName、faultData、faultInfo の各変数のスコープは、CatchAll ブランチに限定されています。このスコープ制限からすると、これらの変数の値が有効であることが保証されているのは、CatchAll ブランチの中に限られます。例えば、faultName 変数をテストする「If...Then」アクティビティを追加する場合は、前の図にあるように、その「If...Then」アクティビティを CatchAll ブランチの中に配置する必要があります。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Adding_a_Global_Exception_Handler_to_an_Orchestration.html


オーケストレーションのイメージの保存

現行オーケストレーションのグラフィカル・イメージを jpg ファイルとして保存できます。

1. オーケストレーションを作成するか、または既存のオーケストレーションを開くには、「プロジェクト」タブの「オーケストレーション」フォルダーをダブルクリックします。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. オーケストレーション内のアクティビティをクリックし、「Studio」ツールバー・メニューから「オーケストレーション」 > 「イメージとして保存」オプションを選択します。「オーケストレーション・フローをイメージに保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. ディレクトリーの場所を参照します。
4. 「ファイル名」フィールドに、jpg 拡張子を含むファイルの完全な名前を入力します。例えば、*ProcessPO.jpg* のような名前を入力します。
5. 「保存」をクリックします。イメージ・ファイルがファイル・システムに保存されます。

親トピック: [オーケストレーション](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Saving_an_Image_of_an_Orchestration.html

接続アクティビティ

- [エンドポイントの作成](#)

エンドポイントは、「アクティビティ」タブまたは「プロジェクト」タブのいずれかから作成できます。「アクティビティ」タブは、オーケストレーションをビルド中であって、エンドポイントをすぐに使用したい場合に使用します。「プロジェクト」タブは、後で使用する一連のエンドポイントを構成するために使用します。

- [プラグイン・コネクターのダウンロード](#)

プラグイン・コネクターは、Studio 内にダウンロードできる追加コネクターです。このコネクターには、組み込みコネクターのようにアクセスできます。ダウンロードしたプラグイン・コネクターは、他のすべての組み込みのコネクターとともに「アクティビティ」タブに表示されます。この時点で、プラグイン・コネクター・アクティビティを Studio ワークスペース内にドラッグすれば、オーケストレーションを作成できます。

- [プラグイン・コネクターのアンインストール](#)

プラグイン・コネクターは、Studio 内にダウンロードできる追加コネクターです。このコネクターには、組み込みコネクターのようにアクセスできます。これらは、ダウンロードしたロケーションと同じロケーションからアンインストールできます。

- [既存のエンドポイントの使用](#)

エンドポイントを定義して、そのエンドポイントを同じプロジェクト内の接続アクティビティに対して再利用できます。


- [ポーリング間隔の動作](#)

一部のスターター・アクティビティでは、指定のポーリング間隔で状態の変化についてポーリングが行われます。ポーリングが行われ、状態の変化が検出されると、処理を開始するためのオーケストレーション・ジョブが開始されます。

- **シフト JIS エンコードの使用**

実行時に、シフト JIS エンコードが指定された場合、統合アプライアンスは 2 バイト文字の一部を変換しません。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_connectionactivities.html

エンドポイントの作成

エンドポイントは、「アクティビティー」タブまたは「プロジェクト」タブのいずれかから作成できます。

「アクティビティー」タブは、オーケストレーションをビルド中であって、エンドポイントをすぐに使用したい場合に使用します。「プロジェクト」タブは、後で使用する一連のエンドポイントを構成するために使用します。

「アクティビティー」タブからのエンドポイントの作成

1. 接続アクティビティーを「アクティビティー」タブからオーケストレーション上にドラッグします。「チェックリスト」がペインの左下部に表示されます。要約情報が右側に表示されます。
2. デフォルトでは、表示されるアクティビティー名は、接続アクティビティーの名前です (例えば、FTP Poll Directory)。名前を変更するには、新規名をフィールドに入力します。
3. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」を選択します。「エンドポイント」ペインが右側に表示されます。
4. 「新規作成」をクリックします。「エンドポイントの作成」ダイアログが表示されます。
注: ダイアログの内容は、作成する接続アクティビティーのタイプに応じて異なります。

「プロジェクト」タブでの右クリックによるエンドポイントの作成

1. 「プロジェクト」タブで Endpoints フォルダーを右クリックします。
2. 「エンドポイントの作成」 > 「EndpointType」を選択します。「EndpointType」はエンドポイントのタイプです。「プロジェクト」タブの「エンドポイント」フォルダーの下に、新しいエンドポイントがデフォルト名で作成されて表示されます。「エンドポイント」タブが、メインの Studio ペインに表示されます。
3. デフォルト名を変更します。
4. Return キーを押します。
5. 「エンドポイント」タブに値を指定して、エンドポイントを構成します。
注: このタブのフィールドは、「アクティビティー」タブから作成された同じタイプのエンドポイントに対して表示されるフィールドと同じです。

「プロジェクト」タブでの新規エンドポイント・アイコンのクリックによるエンドポイントの作成

1. 「プロジェクト」タブをクリックします。


2. 「プロジェクト」タブで、「新規エンドポイント」アイコンをクリックします。すべてのタイプのエンドポイントのリストが表示されます。
3. エンドポイントのタイプを選択します。
4. デフォルト名を変更します。
5. Return キーを押します。

「プロジェクト」タブでの右クリックによるエンドポイントの作成

1. 「プロジェクト」タブで Endpoints フォルダーを右クリックします。
2. 「エンドポイントの作成」 「EndpointType」を選択します。「EndpointType」はエンドポイントのタイプです。「プロジェクト」タブの「エンドポイント」フォルダーの下に、新しいエンドポイントがデフォルト名で作成されて表示されます。「エンドポイント」タブが、メインの Studio ペインに表示されます。
3. デフォルト名を変更します。
4. Return キーを押します。
5. 「エンドポイント」タブに値を指定して、エンドポイントを構成します。
注: このタブのフィールドは、「アクティビティー」タブから作成された同じタイプのエンドポイントに対して表示されるフィールドと同じです。

親トピック: [接続アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_endpoint.html

プラグイン・コネクターのダウンロード

プラグイン・コネクターは、Studio 内にダウンロードできる追加コネクターです。このコネクターには、組み込みコネクターのようにアクセスできます。ダウンロードしたプラグイン・コネクターは、他のすべての組み込みのコネクターとともに「アクティビティー」タブに表示されます。この時点で、プラグイン・コネクター・アクティビティーを Studio ワークスペース内にドラッグすれば、オーケストレーションを作成できます。

このタスクについて

プラグイン・コネクターをダウンロードするとき、インストールされている使用可能なプラグイン・コネクターを表示できます。ダウンロードできるすべてのプラグイン・コネクターの名前とバージョンを表示するには、「使用可能」タブをクリックします。Studio 上にすでにダウンロードおよびインストールされているすべてのプラグイン・コネクターの名前およびバージョンを表示するには、「インストール済み」タブをクリックします。始動時に、または毎日、毎週、隔週、毎月のいずれかの間隔で、これらのリストに対する更新がないかを確認できます(間隔は「なし」にも設定できます)。更新間隔を選択し、「今すぐ確認」をクリックして、リストを最新表示します。


プラグイン・コネクターをダウンロードするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ソリューション」 > 「プラグイン・コネクター」を選択します。「ログイン」ウィンドウが表示されます。
注: IBM® Cast Iron® サービスに既にログインしている場合は、「プラグイン・コネクター (Plugin Connector)」ウィンドウが表示されるため、ステップ 2 および 3 は省略できます。
2. IBM サポートから提供されたユーザー名およびパスワードを指定します。ログイン情報がない場合は、IBM サポートにログイン情報を要求します。
3. 「OK」をクリックします。「プラグイン・コネクター」ウィンドウが表示されます。
4. 「使用可能」タブでコネクターを選択します。
5. 「インストール」をクリックします。プラグイン・コネクターが「インストール済み」タブに表示されます。

親トピック: [接続アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/downloading_plugin_connectors.html

プラグイン・コネクターのアンインストール

プラグイン・コネクターは、Studio 内にダウンロードできる追加コネクターです。このコネクターには、組み込みコネクターのようにアクセスできます。これらは、ダウンロードしたロケーションと同じロケーションからアンインストールできます。

手順

1. 「ソリューション」 > 「プラグイン・コネクター」を選択します。「ログイン」ウィンドウが表示されます。
注: IBM® Cast Iron® サービスに既にログインしている場合は、「プラグイン・コネクター (Plugin Connector)」ウィンドウが表示されるため、ステップ 2 および 3 は省略できます。
2. IBM サポートから提供されたユーザー名およびパスワードを指定します。ログイン情報がない場合は、IBM サポートにログイン情報を要求します。
3. 「OK」をクリックします。「プラグイン・コネクター」ウィンドウが表示されます。
4. 「インストール済み」タブでコネクターを選択します。
5. 「アンインストール (Uninstall)」をクリックします。プラグイン・コネクターが Studio の「アクティビティ」タブに表示されなくなります。

親トピック: [接続アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

既存のエンドポイントの使用

エンドポイントを定義して、そのエンドポイントを同じプロジェクト内の接続アクティビティーに対して再利用できます。

手順

1. オーケストレーション内から接続アクティビティーを選択します。
2. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。
3. 「参照」をクリックします。「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. リストからエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。エンドポイントの情報が表示されます。

親トピック: [接続アクティビティー](#)

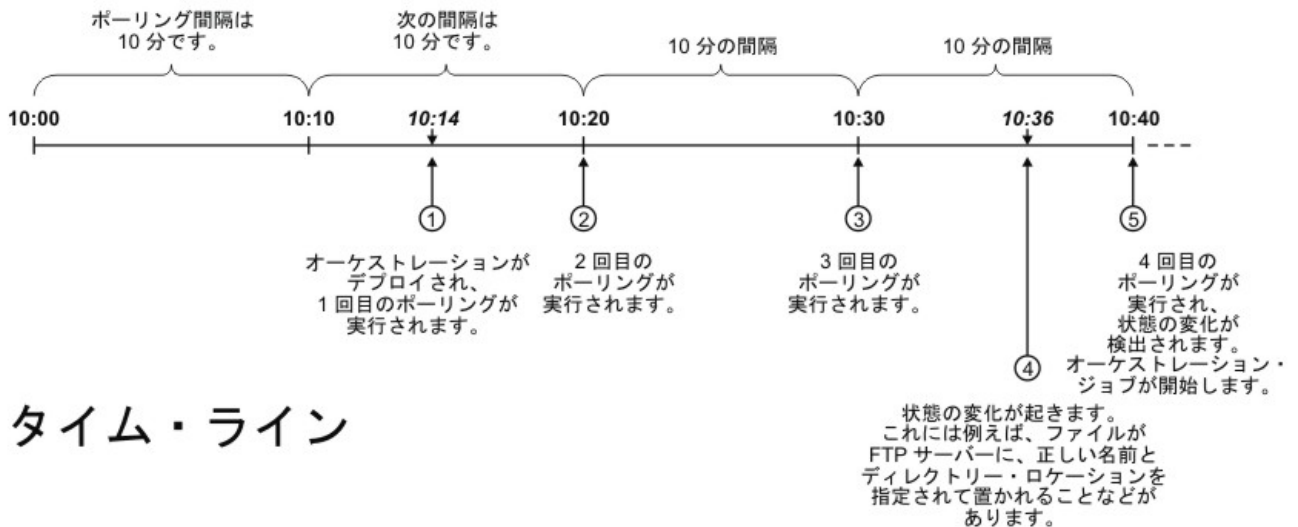
[フィードバック](#) | [特記事項](#)

ポーリング間隔の動作

一部のスターター・アクティビティーでは、指定のポーリング間隔で状態の変化についてポーリングが行われます。ポーリングが行われ、状態の変化が検出されると、処理を開始するためのオーケストレーション・ジョブが開始されます。

例えば、実行時に、「**FTP でディレクトリーをポーリング (FTP Poll Directory)**」アクティビティーでは、FTP サーバー上の指定の場所に指定のファイルがあるかどうかについて指定のポーリング間隔でポーリングが行われます。

スターター・アクティビティーのポーリング間隔は、そのアクティビティーのチェックリストの「配信ルール」タスクで指定します。このポーリング間隔は、状態が変化していないかを調べるためにポーリングが行われる頻度を決定します。ポーリング・スターター・アクティビティーで開始されるオーケストレーションが公開およびデプロイされると、そのオーケストレーションがデプロイされた時点で最初のポーリングが行われ、2 回目のポーリングは、ポーリング・スケジュールにおける次の時間間隔が経過した時点で行われます。例えば、次の図に示すように、ポーリング間隔が 10 分の場合にオーケストレーションが午後 10 時 14 分にデプロイされると、最初のポーリングは午後 10 時 14 分に行われ、2 回目のポーリングは午後 10 時 20 分 (次の 10 分の間隔) に行われます。



タイム・ライン

間隔は毎正時 (この例では午後 10 時) に開始されます。

注: ポーリング間隔を日単位で指定する場合、統合アプライアンスはローカル時間帯でなく UTC タイム・ゾーンを使用して、いつポーリングが行われるのかを決定します。「配信ルール」タスクでポーリング間隔が「日」に設定された場合、統合アプライアンスは、統合アプライアンスに対して指定されたローカル時間帯ではなく、UTC タイム・ゾーンを使用して、一日の最初 (00:00) にポーリングを行います。例えば、協定世界時 (UTC) より 8 時間遅い太平洋標準時 (PST) に統合アプライアンスが設定されているときに、ポーリング間隔が 1 日に設定された場合、ポーリングは UTC タイム・ゾーンの 00:00 に実行されます。UTC タイム・ゾーンの 00:00 は、PST タイム・ゾーンの午後 4 時 (24 時間表記では 16:00) に相当します。

次のスターター・アクティビティーで、状態の変化についてポーリングが行われます。

- データベース挿入済み行の取得 (Database Get Inserted Rows)
- データベース更新済み行の取得 (Database Get Updated Rows)
- データベース削除済み行の取得 (Database Get Deleted Rows)
- データベース表のポーリング (Database Poll Table)
- Eメールの取得
- FTP でディレクトリーをポーリング (FTP Poll Directory)
- MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)

親トピック: [接続アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Polling_Interval_Behavior.html

シフト JIS エンコードの使用

実行時に、シフト JIS エンコードが指定された場合、統合アプライアンスは 2 バイト文字の一部を変換しません。

このタスクについて


統合アプライアンスは、次の表に示されている 2 バイト文字を変換しません。

16 進シフト JIS 文字コード	16 進 Unicode 文字コード	説明
0x815C	U+2014	エム・ダッシュ
0x8160	U+301C	ウェーブ・ダッシュ
0x8161	U+2016	二重縦線
0x817C	U+2212	負符号
0x8191	U+00A2	セント記号
0x8192	U+00A3	ポンド記号
0x81CA	U+00AC	否定記号

シフト JIS エンコードではなく CP943 エンコードを使用してください。

親トピック: [接続アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Using_the_Shift-JIS_Encoding.html


テンプレート統合プロセス (TIP)

- [テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) 構成エディターについて](#)
TIP 構成エディターを使用すると、Studio から TIP 構成エディター・ワークスペースにオブジェクトをドラッグして、テンプレート統合プロジェクト (TIP) を作成したり変更したりできます。TIP は、他のユーザーがアクセスできるように Cast Iron® ソリューション・リポジトリにアップロードできます。
- [テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) の作成](#)
テンプレート統合プロジェクト (TIP) を作成および変更するには、TIP 構成エディターを使用して Studio から TIP 構成エディターにオブジェクトをドラッグします。
- [テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) の変更](#)
Studio メニューからテンプレート統合プロジェクト (TIP) を変更できます。
- [テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) の検査](#)
オーケストレーションを検査する場合と同じプロセスを使用して、Studio メニューからテンプレート統合プロジェクト (TIP) を検査できます。
- [テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) の検索](#)
テンプレート統合プロジェクト (TIP) は、Cast Iron ソリューション・リポジトリに保管されます。TIP は、構成ウィザードを使用して、統合シナリオの構成手順をガイドします。TIP はローカル・マシン

にダウンロードできます。ログイン・ウィンドウにはユーザー名とパスワードがあらかじめ入力されているので、登録せずにヒントをダウンロードしやすくなっています。

- [テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) のレーティングおよびレビュー](#)
ダウンロードしたすべてのテンプレート統合プロジェクト (TIP) についてレーティングおよびレビューを行うことができます。
- [テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) を Cast Iron ソリューション・リポジトリにアップロード](#)
作成したテンプレート統合プロジェクト (TIP) を Cast Iron ソリューション・リポジトリにアップロードできます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_TIPsandPIPs.html

テンプレート統合プロジェクト (TIP) 構成エディターについて

TIP 構成エディターを使用すると、Studio から TIP 構成エディター・ワークスペースにオブジェクトをドラッグして、テンプレート統合プロジェクト (TIP) を作成したり変更したりできます。TIP は、他のユーザーがアクセスできるように Cast Iron® ソリューション・リポジトリにアップロードできます。

TIP を作成したら、構成ウィザードを使用して、プロジェクトを統合シナリオに合わせて構成できます。

TIP 構成エディターが閉じられるときに、すべての変更内容が保存されます。ただし、変更内容を TIP 構成エディターで保存する前に Studio でプロジェクトを閉じると、TIP 構成エディターで変更した内容は保存されません。

「Studio」メニューから TIP 構成エディターを起動できます。「ツール」 > 「TIP 構成エディター」を選択します。

TIP 構成エディター・ワークスペース

TIP 構成エディター・ワークスペースには、「編集」タブと「プレビュー」タブが含まれています。

「編集」タブでは、インターフェースを使用して TIP のステップごとにページを作成できます。このインターフェースを使用して、「説明」フィールドおよび「サマリー・コンテンツ」フィールドにイメージを直接ドラッグできます。タブの下部にある「マークアップの表示」オプションを選択すれば、そのページを構成している HTML ソースを編集することができます。

「プレビュー」オプションを使用すると、構成ウィザードにおける TIP ステップのページを表示できます。

TIP 構成エディター・モード

TIP 構成エディターには、「ステップ」リストのみをパネルに表示するコンパクト・モードがあります。「ステップ」リストの右上隅のコンパクト・モード・アイコンをクリックすれば、TIP 構成エディターを省略したり展開したりできます。「ステップ」リストの下部にある「同期選択」オプションを選択すると、Studio アプ

リケーションが開いて、編集中の TIP 構成エディターのステップに対応するエンティティに自動的にナビゲートします。

親トピック: [テンプレート統合プロセス \(TIP\)](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/TIPPIP_About_the_TIP_Configuration_Editor.html

テンプレート統合プロジェクト (TIP) の作成

テンプレート統合プロジェクト (TIP) を作成および変更するには、TIP 構成エディターを使用して Studio から TIP 構成エディターにオブジェクトをドラッグします。

このタスクについて

他のユーザーがアクセスする Cast Iron® ソリューション・リポジトリへのアップロードが可能です。TIP 構成エディターを使用して TIP を作成した後に、構成ウィザードを使用して、プロジェクトを統合シナリオに合わせて構成できます。

重要: TIP を変更できるのは、TIP の作成者のみです。ただし、TIP を Cast Iron ソリューション・リポジトリにアップロードし、その TIP が IBM® によって認証されると、その TIP は Cast Iron ソリューション・リポジトリから削除できなくなります。

手順

1. Studio メニューから「ツール」 > 「TIP 構成エディター」を選択します。「TIP 構成エディター」ウィンドウが表示されます。
2. 以下のいずれかの方法を使用して TIP のステップを定義します。

TIP 構成エディターの事前定義ステップ・タイプの 1 つを追加する

- a. 「追加」をクリックします。「タイプの選択」ウィンドウが開きます。
- b. 適切なオプションを選択して、「OK」をクリックします。新規ステップが、「ステップ」リストで強調表示されたステップの下に表示されます。ステップの順序をシャッフルするには、ステップを選択してリスト上の適切な位置に移動します。

Studio オブジェクトを TIP 構成エディターにドラッグする

- a. Studio オブジェクトを選択します。
- b. そのオブジェクトを、「ステップ」リスト上の適切な位置にドラッグします。リストの順序をシャッフルするには、ステップを選択してリスト上の必要な位置に移動します。
- c. オプション: イメージを各種ステップの「説明」フィールドおよび「サマリー・コンテンツ」フィールドに直接ドラッグすることができます。

ステップを削除する

- a. 「ステップ」リストでステップを選択します。選択したステップが太字で示されます。
- b. 「削除」をクリックします。

ステップ名を変更する

- a. 「ステップ」リストでステップをダブルクリックします。ステップ名が編集可能フィールドになります。
- b. 必要なステップ名を入力します。

または

- a. 「ステップ」リストでステップを選択します。選択したステップが太字で示されます。
- b. 「編集」タブで「名前」フィールドの値を編集します。

3. 「編集」タブでステップごとにプロパティを定義します。
 - a. 「ステップ」リストでステップを選択します。選択したステップが太字で示されます。選択したステップのプロパティを表示したフォームが「編集」タブに示されます。
 - b. オプション: オプション: 「マークアップの表示」オプションを選択し、フォームの「説明」および「サマリー・コンテンツ」セクションの HTML マークアップを表示します。これらのセクションを右クリックして、使用可能な HTML スタイルのリストを参照します。

HTML ソース・ビューで、「説明」フィールドまたは「サマリー・コンテンツ」フィールドにイメージをドロップすれば、これらのフィールドにイメージを追加できます。イメージは「.b64」拡張子のファイルに変換されます。このファイルは、相対パスとして参照できます。例えば、`` のように指定します。


完全修飾 HTTP パスを使用すれば、プロジェクト構造の外部にあるイメージを参照できます。例えば、`` のように指定します。

注: 「マークアップの表示」オプションを選択した場合、選択したステップの HTML マークアップのみが表示されます。

- c. フォームを完成させます。
 - d. 「プレビュー」タブで結果をプレビューします。
4. 「閉じる」をクリックします。TIP 構成エディターがすべての変更内容を保存して閉じられます。

親トピック: [テンプレート統合プロセス \(TIP\)](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/TIPPIP_Creating_TIPs.html

テンプレート統合プロジェクト (TIP) の変更

Studio メニューからテンプレート統合プロジェクト (TIP) を変更できます。

このタスクについて


手順

1. Studio メニューから「ツール」 > 「TIP 構成エディター」を選択します。「TIP 構成エディター」ウィンドウが開きます。

2. 該当するステップまたは構成を更新します。
3. 「閉じる」をクリックします。TIP 構成エディターがすべての変更内容を保存して閉じられます。

親トピック: [テンプレート統合プロセス \(TIP\)](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/TIPPIP_Modifying_TIPs.html

テンプレート統合プロジェクト (TIP) の検査

オーケストレーションを検査する場合と同じプロセスを使用して、Studio メニューからテンプレート統合プロジェクト (TIP) を検査できます。


このタスクについて

手順

1. Studio メニューから「ソリューション」 > 「TIP 構成エディター」を選択します。「構成ウィザード」が表示されます。
2. TIP に「オーケストレーションの検査」ステップがない場合は、そのステップを「終了」ステップの前に追加します。「オーケストレーションの検査」ステップを追加するには、「ツール」 > 「構成の編集」ウィザード」を選択し、「オーケストレーションの検査」ステップを追加します。
3. 「次へ」をクリックして、オーケストレーションをステップスルーします。
4. 「オーケストレーションの検査」ステップに達したら、「オーケストレーションの開始」をクリックします。

親トピック: [テンプレート統合プロセス \(TIP\)](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/TIPPIP_Verifying_TIPs.html

テンプレート統合プロジェクト (TIP) の検索

テンプレート統合プロジェクト (TIP) は、Cast Iron® ソリューション・リポジトリに保管されます。TIP は、構成ウィザードを使用して、統合シナリオの構成手順をガイドします。TIP はローカル・マシンにダウンロード

できます。ログイン・ウィンドウにはユーザー名とパスワードがあらかじめ入力されているので、登録せずにヒントをダウンロードしやすくなっています。

手順

1. 「ソリューション」メニューから「TIPの検索 (Search For TIPs)」を選択します。ログイン・ウィンドウは、あらかじめユーザー名とパスワードが入力された状態で表示されます。この資格情報は、ヒントをダウンロードするためだけのアクセス権限を持ちます。
注: 右側のメモリー・バーの近くにある「ログイン」リンクをクリックすることによってもログオンできます。
2. ログオン用の資格情報をすでに持っている場合は、そのユーザー名とパスワードを指定してください。「設定」ダイアログで中央リポジトリに対してデフォルト・ログイン設定を指定できます。
3. 「OK」をクリックします。「検索」ウィンドウが表示され、Studioのメインウィンドウ下部に確認メッセージが表示されます。
4. 「検索」ウィンドウで、TIPの検索方法として「キーワード」、「フィルター」、または「マイTIP」を選択します。
 - o 「キーワード」検索オプションを選択した場合、「キーワード」フィールドが表示されます。
 - a. 検索キーワードを入力します。
 - b. 「実行」をクリックします。結果が「結果」テーブルに表示され、「検索」ウィンドウの下部に「検索中 ... 完了しました (Searching ... completed)」メッセージが表示されます。例えば、キーワード USECASES を入力した場合、Cast Iron ソリューション・リポジトリ内の USECASES カテゴリーの下にある TIP がすべて返されます。
 - o 「フィルター」検索オプションを選択した場合、「ソース・エンドポイント」、「ターゲット・エンドポイント」、「統合パターン」、および「検索可能キーワード」というフィルター・オプションが表示されます。
 - a. 少なくとも1つのフィルター・オプションに値を指定する必要があります。オプション・リストには、有効な値が示されます。
 - b. 「照会」をクリックします。結果が「結果」テーブルに表示され、「検索」ウィンドウの下部に「検索中 ... 完了しました (Searching ... completed)」メッセージが表示されます。
 - o 「マイTIP」を選択した場合、自分で作成したTIPがすべて「結果」テーブルに表示されます。
5. 「結果」テーブルでTIPを検索します。プロジェクトの詳細が、詳細セクションに表示されます。
6. オプション: 自分で作成したTIPはレーティングできます。
 - a. 「レビューの編集」リンクをクリックします。「パブリッシュ・レビュー」ウィンドウが表示されます。
 - b. 適切な数の星印が強調表示されるまでスライダーを移動させます。1から5の尺度でTIPをレーティングします。5が最高のレーティングです。
 - c. 「マイ・タイトル」フィールドにレビューの要旨を追加します。
 - d. 「マイ・サマリー」フィールドにプロジェクトのレビューに関する詳細を追加します。
 - e. 「OK」をクリックします。StudioがレビューをCast Iron ソリューション・リポジトリに送信します。
7. 「検索」ウィンドウで「ダウンロード」をクリックします。「TIPを保存するディレクトリーの選択 (Select directory where to save the TIP)」ウィンドウが表示されます。
8. ダウンロード・ディレクトリーを指定し、「開く」をクリックします。指定したディレクトリーにプロジェクトが保存され、そのプロジェクト用の構成ウィザードがStudioから開かれます。

親トピック: [プロジェクトの操作](#)

親トピック: [テンプレート統合プロセス \(TIP\)](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PIP_Searching_for_PIPs.html

テンプレート統合プロジェクト (TIP) のレーティングおよびレビュー

ダウンロードしたすべてのテンプレート統合プロジェクト (TIP) についてレーティングおよびレビューを行うことができます。

このタスクについて

レーティングは 1 から 5 までの尺度で指定されます (5 が最高のレーティングです)。TIP のレーティングとレビューを送信すると、Studio が Cast Iron® ソリューション・リポジトリに情報をアップロードします。送信したレーティングは、他のレビューアーが送信した他のレーティングと結合され、その平均が特定の TIP の「詳細」ペインに表示されます。


TIP のレーティングとレビューを行うには、構成ウィザードで TIP 構成を完成させるか、または「パブリッシュ・レビュー」ダイアログ・ボックスにアクセスします。

手順

構成ウィザードで TIP を開いた場合は、最後のステップで TIP のレーティングおよびレビューを行うことができます。

1. 「ソリューション」 > 「構成ウィザードの開始 (Start Configuration Wizard)」を選択します。構成ウィザードが開きます。
 2. このウィザードの各ステップを実行するか、または単に「終了」をクリックしてレーティングおよびレビューのページに直接移動します。
 3. レーティングおよびレビューのページで、適切な数の星印が強調表示されるまでマイ・レーティング・スライダーを移動します。レーティングは 1 から 5 までの尺度で示されます。1 が最も低いレーティングで、5 が最も高いレーティングです。
 4. 「マイ・タイトル」フィールドにレビューの要旨を追加します。
 5. 「マイ・サマリー」フィールドにプロジェクトのレビューに関する詳細を追加します。
 6. 「レビューの送信」をクリックします。Studio がレビューを Cast Iron ソリューション・リポジトリに送信します。
 7. 「閉じる」をクリックします。
- [「パブリッシュ・レビュー」ダイアログ・ボックスによるテンプレート統合プロジェクト \(TIP\) のレーティングおよびレビュー](#)
ダウンロードしたすべてのテンプレート統合プロジェクト (TIP) についてレーティングおよびレビューを行うことができます。

親トピック: [テンプレート統合プロセス \(TIP\)](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/TIPPIP_Rating_and_Reviewing_TIPs_and_PIPs.html

「パブリッシュ・レビュー」ダイアログ・ボックスによるテンプレート統合プロジェクト (TIP) のレーティングおよびレビュー

ダウンロードしたすべてのテンプレート統合プロジェクト (TIP) についてレーティングおよびレビューを行うことができます。

このタスクについて

「パブリッシュ・レビュー」ダイアログ・ボックスを使用すれば、構成ウィザードにリストされる構成ステップを完成させなくても、TIP のレーティングおよびレビューを行うことができます。


手順

1. Studio で「ソリューション」 > 「レビューの作成」を選択します。「パブリッシュ・レビュー」ウィンドウが開きます。
2. 適切な数の星印が強調表示されるまでマイ・レーティング・スライダーを移動します。レーティングは 1 から 5 までの尺度で示されます。1 が最も低いレーティングで、5 が最も高いレーティングです。
3. 「マイ・タイトル」フィールドにレビューの要旨を追加します。
4. 「マイ・サマリー」フィールドにプロジェクトのレビューに関する詳細を追加します。
5. 「OK」をクリックします。Studio がレビューを Cast Iron® ソリューション・リポジトリに送信します。

次のタスク

「レビューの編集」リンクをクリックすれば、レビューを編集できます。「パブリッシュ・レビュー」ウィンドウが開きます。上記の手順に示されているステップ 3 から 5 までを実行してください。

親トピック: [テンプレート統合プロジェクト \(TIP\) のレーティングおよびレビュー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/TIPPIP_Rating_and_Reviewing_TIPs_Publishreviewdialog.html

テンプレート統合プロジェクト (TIP) を Cast Iron ソリューション・リポジトリにアップロード

作成したテンプレート統合プロジェクト (TIP) を Cast Iron® ソリューション・リポジトリにアップロードできます。

手順

1. Studio メニューから「ソリューション」 > 「プロジェクトをリポジトリにアップロード」を選択します。「プロジェクトのアップロード」ウィザードが開きます。
2. 以下の要約情報を入力します。

オプション	説明
パラメーター	説明
名前	TIP の名前。
パス	Studio が TIP をアップロードするときのアップロード先となる Cast Iron ソリューション・リポジトリ内の場所を指定します。
カテゴリー	作成される TIP のタイプを指定します: <ul style="list-style-type: none">○ ユース・ケース (Usecases)○ ベスト・プラクティス (Best Practices)○ ユーティリティ○ その他
説明	TIP の要旨を入力します。

3. 「次へ」をクリックします。
4. プロジェクトに関するソース・エンドポイント情報とターゲット・エンドポイント情報を入力します:

オプション	説明
ソース・エンドポイント・パラメーター (Source Endpoint Parameter)	説明
名前	ソース・エンドポイントの名前。
説明	ソース・エンドポイントの要旨を入力します。
バージョン	ソース・エンドポイント構成のバージョン番号を指定します。
オプション	説明
ターゲット・エンドポイント・パラメーター (Target Endpoint Parameter)	説明
名前	ターゲット・エンドポイントの名前。
説明	ターゲット・エンドポイントの要旨を入力します。
バージョン	ターゲット・エンドポイント構成のバージョン番号を指定します。


5. 「次へ」をクリックします。
6. プロジェクト・パターンに関する詳細を入力します。

オプション	説明
パラメーター	説明
名前/説明 (Name/Description)	プロジェクト・パターンの名前/値ペア。 該当するフィールドをクリックして、プロジェクト・パターンの名前と説明を指定します。 追加パターンを指定するには、「追加」をクリックします。 指定のパターンを削除するには、「削除」をクリックします。
検索可能タグ	このストリング値は、プロジェクトを検索するために後で使用できます。
作成者	プロジェクトを作成した個人またはエンティティを識別します。例えば、John Smith または IBM® と入力します。
バージョン	Cast Iron ソリューション・リポジトリにアップロードする TIP のバージョンを指定します。

7. 「終了」をクリックします。Studio が TIP を Cast Iron ソリューション・リポジトリにアップロードします。

親トピック: [テンプレート統合プロセス \(TIP\)](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/TIPPIP_Uploading_TIPs.html

変換アクティビティ

- 「[変数のマップ](#)」アクティビティ
オーケストレーション内に新しい「変数のマップ」アクティビティを作成できます。
- 「[MIME の読み取り](#)」アクティビティ
実行時に、「MIME の読み取り」アクティビティにより、MIME ヘッダーとメッセージの本文が読み取られます。また、「MIME の読み取り」アクティビティにより、メッセージの本文に含まれる添付ファイルが分割され、その結果が parts XML 出力パラメーターに配置されます (下の図を参照)。
- 「[MIME の書き込み](#)」アクティビティ
実行時、「MIME の書き込み」アクティビティは、MIME ヘッダーとメッセージの本文を、parts XML 入力パラメーターに含まれる複数の添付ファイルと、オプションの mimeheader 入力パラメーターから作成します (下図参照)。
- 「[XML の読み取り](#)」アクティビティ
「XML の読み取り」アクティビティは、XML 文書を取得し、その文書を定義済みのスキーマと比較して解析します。このアクティビティからは、出力パラメーターとして XML データが返されます。このデータは、後続のアクティビティで使用することができます。

- 「XMLの書き込み」アクティビティ
「XMLの書き込み」アクティビティは、複合 (XML) 変数を受け入れ、複合変数内に保持されたデータを含むストリングを XML フォーマットで出力します。このストリングをファイルまたはデータベースに書き込むことができます。
- XML 検証アクティビティ
実行時、「XML 検証」アクティビティは、指定された XML スキーマまたは WSDL に対して入力 XML データが有効であるかどうかを判別します。
- 「JSONの読み取り」アクティビティ
「JSONの読み取り」アクティビティは、JSON または XML メッセージを取得し、それを定義済みのスキーマと比較して解析して、オーケストレーションで使用できる出力構造を生成します。このアクティビティは、実行時に、JSON メッセージを解析して、他の Studio アクティビティにマップできる同等の XML を生成します。
- 「JSONの書き込み」アクティビティ
「JSONの書き込み」アクティビティは、JSON と同等の構造を入力として取得し、複合変数内に保持されたデータを含むストリングを JSON フォーマットで出力します。このストリングは、ファイルに書き込むか、または HTTP を使用してポストすることができます。
- JSON 検証アクティビティ
実行時、「JSON 検証」アクティビティは、指定された XML スキーマに対して入力 JSON または XML データが有効であるかどうかを判別します。
- 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティ
「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティは、指定されたフラット・ファイル・スキーマを適用して、フラット・ファイル・データ (非 XML データ) を XML データに変換します。XML データは、このアクティビティから出力パラメーターとして返されます。
- 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティ
「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティは、オーケストレーションからのデータを、指定されたフラット・ファイル・スキーマで有効なフラット・ファイル・データ (非 XML データ) に変換します。
- 「XSLTの適用」アクティビティ
「XSLTの適用」アクティビティは、指定された XSLT スタイル・シートを使用して、ある XML 変数に格納された XML データを別の XML 変数に格納された XML データに変換するために使用できます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_transformactivities.html

「変数のマップ」アクティビティ

オーケストレーション内に新しい「変数のマップ」アクティビティを作成できます。

このタスクについて

「変数のマップ」アクティビティを使用すると、変数を変換および初期化できます。1つ以上のソース変数のデータを変換して、1つ以上の宛先変数にデータを保管できます。詳細については、『[マップについて](#)』を

参照してください。

以下の手順のいずれか 1 つを実行すると、新規の「変数のマップ」アクティビティーを作成できます。

手順

1. [オーケストレーションを作成するか、または開きます。](#)
2. アクティビティーで、特定の XML スキーマまたは DTD に準拠した変数をマッピングしている場合は、[プロジェクトへのファイルのアップロード](#)を使用して、XML スキーマまたは DTD ファイルをプロジェクトにアップロードします。
3. 「アクティビティー」タブを開きます。
4. 「変数のマップ」アクティビティーを「アクティビティー」タブからオーケストレーション上にドラッグします。
5. まだ選択していない場合は、「設計」をクリックします。ペインの下部にマッピング・エディターが表示されます。
6. 「オーケストレーションから」ペインに[変数を追加](#)します。
7. 「オーケストレーションへ」ペインに[変数を追加](#)します。
8. 「オーケストレーションから」ペイン内のソース・ノードを「オーケストレーションへ」ペイン内の宛先ノードにドラッグします。マッピングが有効な場合、ソース・ノードから宛先ノードへのリンク (線) が表示され、マッピング・ルールが確立されたことが示されます。必要なすべてのノードがマップされるまで、このステップを繰り返します。
9. 可能であれば、期待どおりの出力が得られることを確認するため、マッピングをテストします。詳しくは、『[マップのテスト](#)』を参照してください。


注: Extensible Markup Language (XML) の仕様では、ユニコード制御の非印刷文字の使用は禁止されています。使用可能な文字の範囲は以下のとおりです。

```
Char      :=      #x9 | #xA | #xD | [#x20-#xD7FF] | [#xE000-#xFFFF] |  
              [#x10000-#x10FFFF]
```

注: マップのリンクを変更せずに、マップに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。

親トピック: [変換アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

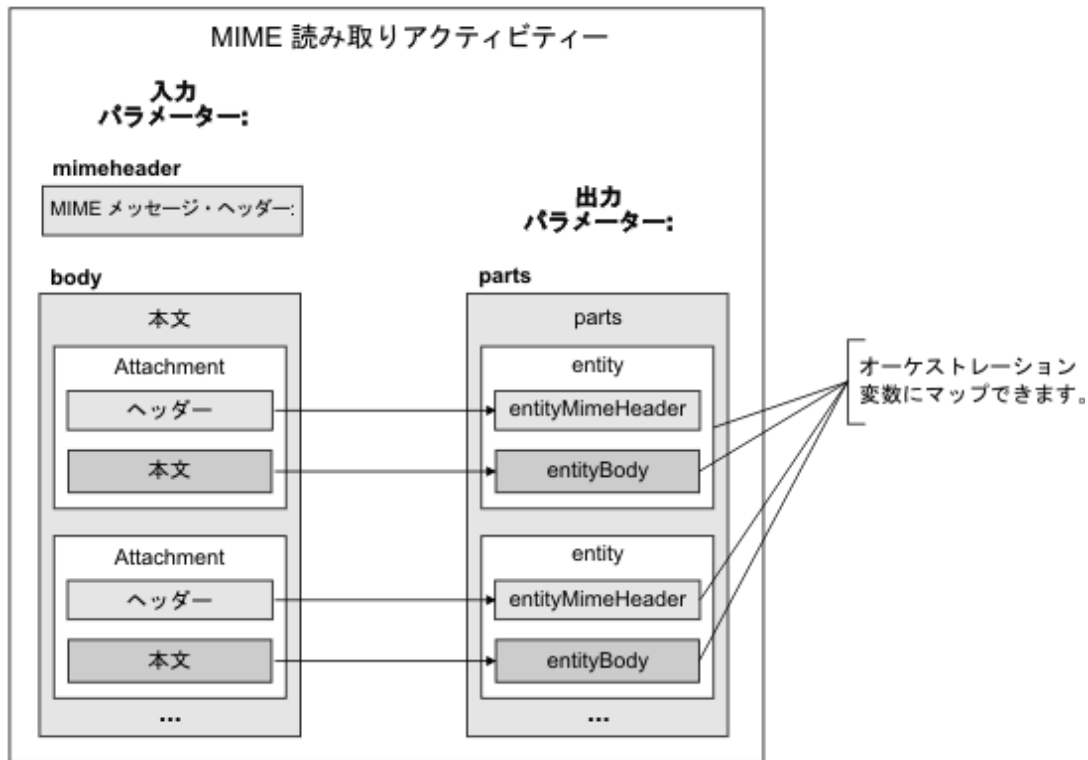
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Map_Activity.html

「MIME の読み取り」アクティビティー

実行時に、「MIME の読み取り」アクティビティーにより、MIME ヘッダーとメッセージの本文が読み取られます。また、「MIME の読み取り」アクティビティーにより、メッセージの本文に含まれる添付ファイルが分割され、その結果が parts XML 出力パラメーターに配置されます (下の図を参照)。

例えば、オーケストレーションに「E メール取得」アクティビティーを含めると、このアクティビティーは、実行時、POP3 エンドポイントから E メール・メッセージを取得して、その E メール・メッセージを XML

変数とストリング変数に格納します (XML 変数にはメール・ヘッダーを格納し、ストリング変数には E メール・メッセージの本文を格納します)。オーケストレーションの次のアクティビティを「**MIME の読み取り**」アクティビティにすると、このアクティビティは、メール・ヘッダーの変数と本文の変数の内容をその入力パラメーターにマップします。メール・メッセージに添付ファイルが含まれる場合、「**MIME の読み取り**」アクティビティにより、メッセージの本文に含まれる添付ファイルが分割され、その結果が parts XML 出力パラメーターに配置されます。



- 「MIME の読み取り」アクティビティのオーケストレーションへの追加**
 このセクションの手順を実行して、「**MIME の読み取り**」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
- アクティビティの入力のマッピング**
 このタスクでは、メール・ヘッダーの MIME ヘッダー・パートを含む XML 変数と、メッセージの本文を含むストリング変数を、それぞれ「**MIME の読み取り**」アクティビティの mimeheader 入力パラメーターと body 入力パラメーターにマップします。変数は、mimeheader 入力パラメーターと body 入力パラメーターにマップする必要があります。これらの入力パラメーターは、両方とも必須です。mimeheader 入力パラメーターは XML 型であり、body 入力パラメーターはストリング型です。
- アクティビティへの出力のマッピング**
 このタスクでは、parts XML 出力パラメーターの要素を変数にマップします。

親トピック: [変換アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_Mime_activity.html

「MIME の読み取り」 アクティビティのオーケストレーションへの追加


このセクションの手順を実行して、「MIME の読み取り」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
3. 「MIME の読み取り」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。「MIME の読み取り」アクティビティは、メッセージを取得するアクティビティ（「Eメールの取得」アクティビティなど）の後に配置します。
4. 「MIME の読み取り」アクティビティを選択し、次のセクションの説明に従って、アクティビティを構成します。

親トピック: 「MIME の読み取り」アクティビティ

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Add_Read_MIME_to_Orchestration.html

アクティビティの入力のマッピング

このタスクでは、メール・ヘッダーの MIME ヘッダー・パートを含む XML 変数と、メッセージの本文を含むストリング変数を、それぞれ「MIME の読み取り」アクティビティの mimeheader 入力パラメーターと body 入力パラメーターにマップします。変数は、mimeheader 入力パラメーターと body 入力パラメーターにマップする必要があります。これらの入力パラメーターは、両方とも必須です。mimeheader 入力パラメーターは XML 型であり、body 入力パラメーターはストリング型です。

このタスクについて

以下の表は、mimeheader 入力パラメーターの要素を示しています。

表 1.

エレメント名	デフォルト
mimeVersion	現在は使用されていません。

エレメント名	デフォルト
contentType/mainType	現在は使用されていません。「MIME の読み取り」アクティビティは、指定された境界区切り文字を使用してメッセージを解析することにより、メッセージがマルチパートであるかどうかを判別します。
contentType/subType	現在は使用されていません。
contentType/charset	現在は使用されていません。
contentType/attribute/name – contentType/attribute/value	この属性エレメントには、一連の属性が名前/値ペアとして含まれます。 boundary 属性を指定すると、メッセージのマルチパート・エンティティ間の境界区切り文字を指定できます。 boundary 属性を指定した場合は、メッセージ自体に設定されているデフォルトの boundary がオーバーライドされます。メッセージ自体に boundary 属性が指定されていない場合、または属性エレメントを使用している場合は、実行時に例外がスローされます。
contentTransferEncoding	現在は使用されていません。
otherMimeHeaders	現在は使用されていません。

メッセージ本文には、1 つ以上の MIME パートを含めることができます。複数の MIME パートを含める場合は、mimeheader 入力パラメーターの **contentType/attribute** エレメントに指定した boundary 値で MIME パート間を区切ります。各パートには、関連するパート本文の各種の属性が記述された MIME ヘッダーが含まれています。個々のパートがどのように解析されるのかは、エンティティ本文の entityMimeHeader の以下のパラメーターに割り当てられた値に応じて異なります。

- Content-Type ヘッダー
- Content-Type ヘッダー内の Charset 属性
- Content-Transfer-Encoding

パート本文がどのように解析されるのかは、Content-Transfer-Encoding と Content-Type の設定に応じて以下のように異なります。

Content-Type が「text」に等しい場合:

- Content-Type が「text」であり、Content-Transfer-Encoding が「7-bit」/「8-bit」または「binary」である場合、パート本文は、UTF8 エンコード・ストリングに変換され、**parts** 出力パラメーターの **entityBody** エレメントにコピーされます。
- Content-Type が「text」であり、Content-Transfer-Encoding が「quoted-printable」である場合、パート本文は、quoted-printable でデコードされ、charset 属性に基づいて UTF8 エンコード・ストリングに変換され、**parts** 出力パラメーターの **entityBody** エレメントにコピーされます。
- Content-Type が「text」であり、Content-Transfer-Encoding が「base64」である場合、パート本文は、base64 でデコードされ、charset 属性に基づいて UTF8 エンコード・ストリングに変換され、**parts** 出力パラメーターの **entityBody** エレメントにコピーされます。


MIME パート・ヘッダーで明示的に指定されていない場合、charset は UTF8 にデフォルト設定されます。このデフォルト動作に対する唯一の例外は、Content-Disposition が「attachment」に等しく、Content-Type が「text」に等しい場合です。この場合、パートは、テキストとして処理されません。なぜなら、データの文字セットを認識できないからです。また、Content-Transfer-Encoding は「binary」に設定されます。

Content-Type が「text」に等しくない場合:

- Content-Type が「text」に等しくなく、Content-Transfer-Encoding が「7bit」 / 「8bit」 または「binary」である場合、パート本文は、UTF8 エンコード・ストリングに変換され、**parts** 出力パラメーターの **entityBody** エlement にコピーされます。
- Content-Type が「text」に等しくなく、Content-Transfer-Encoding が「quoted-printable」である場合、パート本文は、quoted-printable でデコードされ、base64 でエンコードされ、**parts** 出力パラメーターの **entityBody** エlement にコピーされます。
- Content-Type が「text」に等しくなく、Content-Transfer-Encoding が「base64」である場合、パート本文は、そのまま (base64 データ)、**parts** 出力パラメーターの **entityBody** エlement にコピーされません。

親トピック: [「MIME の読み取り」 アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Map_Activity_Input_Read_MIME.html

アクティビティへの出力のマッピング

このタスクでは、parts XML 出力パラメーターのエlement を変数にマップします。

parts 出力パラメーターの entity/entityBody エlement には、メール・メッセージの本文と添付ファイルが含まれています。メール・メッセージの本文と添付ファイルにアクセスするには、「For Each」アクティビティまたは「while ループ」アクティビティを使用して、entity エlement のインスタンスを繰り返す必要があります。

entity エlement での添付ファイルと本文の順序は、メッセージを送信した E メール・クライアントおよびメッセージのタイプ (プレーン・テキストまたは HTML のいずれか) によって異なります。例えば、Microsoft Outlook クライアントから送信されたプレーン・テキストの E メール・メッセージの場合、parts 出力パラメーターは、以下の entity エlement から構成されます。

- 最初の **entityBody** エlement には、メッセージの本文が含まれます。
- メッセージに添付ファイルが含まれていた場合は、2 番目の **entityBody** エlement に最初の添付ファイルが含まれます。
- メッセージに 2 番目の添付ファイルが含まれていた場合は、3 番目の entityBody エlement に 2 番目の添付ファイルが含まれます。

以降の添付ファイルも同様に処理されます。

添付ファイルの内容を解析する前に、添付ファイルのデコードが必要になる場合があります。例えば、添付ファイルが base64 エンコードでエンコードされている場合、その内容を「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティで解析するには、添付ファイルをデコードする必要があります。添付ファイルがテキストの場合は、デコードせずに解析できます。

注: E メールおよび MIME に関するアクティビティでは、UTF8 文字セットを使用した 8 ビット・データまたはバイナリー・データのみを処理できます。サポートされるのは、MIME 1.0 準拠の E メール・メッセージのみ

です。「MIME の読み取り」アクティビティーでは、MIME 1.0 準拠の E メール・サーバーから送信された E メール・メッセージのみを解析できます。「MIME の読み取り」アクティビティーで解析するメッセージが、「Eメールの取得」アクティビティーではなく、「HTTP 受信要求」アクティビティーなどの別のアクティビティーから提供された場合は、フラット・ファイル・スキーマを作成して、ペイロードからの MIME ヘッダーを解析する必要があります。

親トピック: 「MIME の読み取り」アクティビティー

関連概念:

「MIME の読み取り」アクティビティー

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

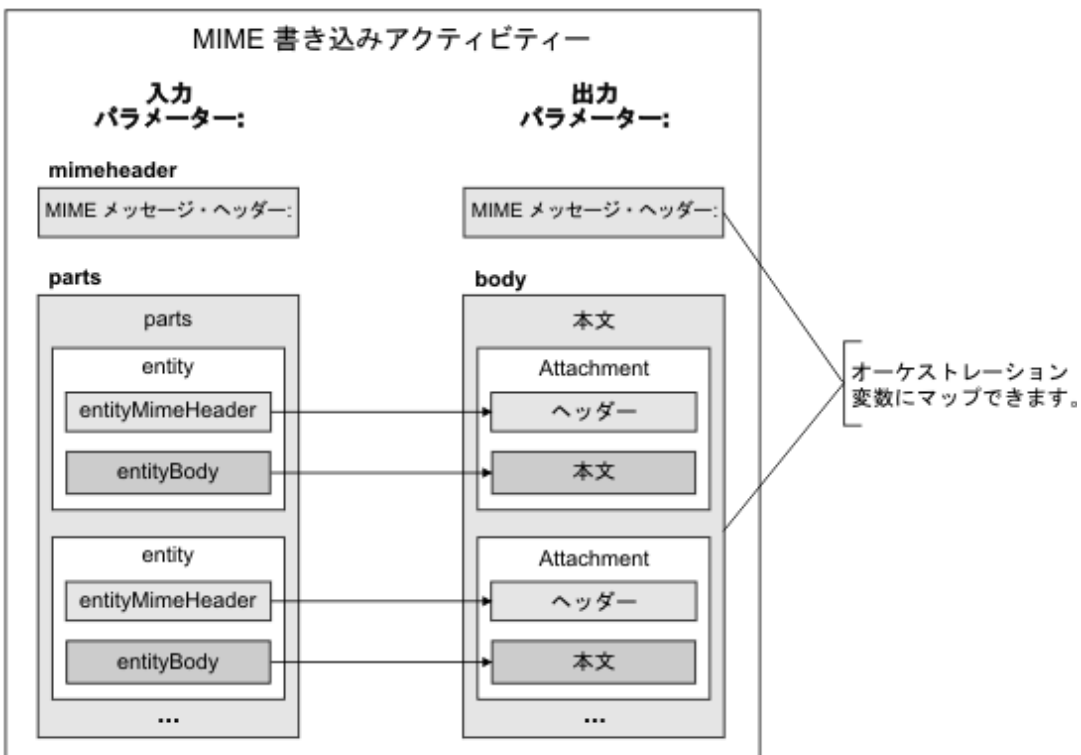
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Map_Activity_Output_Read_MIME.html

「MIME の書き込み」アクティビティー

実行時、「MIME の書き込み」アクティビティーは、MIME ヘッダーとメッセージの本文を、parts XML 入力パラメーターに含まれる複数の添付ファイルと、オプションの mimeheader 入力パラメーターから作成します (下図参照)。

例えば、オーケストレーションに「MIME の書き込み」アクティビティーを含めると、このアクティビティーは、実行時、MIME ヘッダーとメッセージの本文を作成し、その結果を 2 つのオーケストレーション変数に格納します。次にオーケストレーションは、この 2 つのオーケストレーション変数を入力として取り込む「Eメールの送信」アクティビティーを呼び出して、メール・メッセージを作成します。その後、作成されたメール・メッセージを、指定の SMTP エンドポイントに送信します。



オーケストレーションに「**MIME の書き込み**」アクティビティを追加して構成する手順については、「**MIME の書き込み**」アクティビティのオーケストレーションへの追加を参照してください。

- **「MIME の書き込み」アクティビティのオーケストレーションへの追加**
このセクションの手順を実行して、「MIME の書き込み」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
- **アクティビティの入力のマッピング**
このタスクでは、MIME ヘッダーを含む XML 変数とパート (添付ファイルを含む) を含む XML 変数を、それぞれ「**MIME の書き込み**」アクティビティの mimeheader 入力パラメーターと parts 入力パラメーターにマップします。変数は、parts 入力パラメーターにマップする必要があります。parts 入力パラメーターは必須です。mimeheader 入力パラメーターはオプションです。mimeheader 入力パラメーターの要素のデフォルト値にマップしていない場合、またはこのデフォルト値を定義していない場合は、以下の表のデフォルト値が使用されます。
- **アクティビティへの出力のマッピング**
このタスクでは、mimeheader (XML 型) 出力パラメーターおよび body (ストリング型) 出力パラメーターを変数にマップします。

親トピック: [変換アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_Mime_activity.html

「MIME の書き込み」アクティビティのオーケストレーションへの追加

このセクションの手順を実行して、「MIME の書き込み」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
3. 「MIME の書き込み」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。「MIME の書き込み」アクティビティは、実行時にメッセージをエンドポイントにプッシュするアクティビティの前に配置します。例えば、「MIME の書き込み」アクティビティは、オーケストレーションの「Eメールの送信」アクティビティの前に配置します。実行時に、「Eメールの送信」アクティビティは、Eメール・メッセージを POP3 サーバーに送信します。
4. 「**MIME の書き込み**」アクティビティを選択し、次のセクションの説明に従って、アクティビティを構成します。

親トピック: [「MIME の書き込み」アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Add_Write_MIME_to_Orchestration.html

アクティビティーの入力のマッピング

このタスクでは、MIME ヘッダーを含む XML 変数とパート (添付ファイルを含む) を含む XML 変数を、それぞれ「**MIME の書き込み**」アクティビティーの mimeheader 入力パラメーターと parts 入力パラメーターにマップします。変数は、parts 入力パラメーターにマップする必要があります。parts 入力パラメーターは必須です。mimeheader 入力パラメーターはオプションです。mimeheader 入力パラメーターの要素のデフォルト値にマップしていない場合、またはこのデフォルト値を定義していない場合は、以下の表のデフォルト値が使用されます。

このタスクについて

mimeheader 入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインにリストされていない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、「アクティビティーへ」ペインを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内の要素をクリックして、このオプションをアクティブにします。

以下の表は、mimeheader 入力パラメーターの要素を示しています。

表 1.

mimeheader 入力パラメーターの子要素	デフォルト値
mimeVersion	標準 MIME バージョン 1.0 が割り当てられます。生成される MIME ヘッダーは、MIME-Version: 1.0 という設定に等しくなります。
contentType	生成される MIME ヘッダーの Content-Type 設定の値は、Content-Type: multipart/mixed という設定に等しくなります。

mimeheader 入力パラメーターの子エレメント	デフォルト値
contentType/attribute/name contentType/attribute/value	この属性エレメントには、一連の属性が名前/値ペアとして含まれます。添付ファイル間の境界は、boundary 属性エレメントを使用して指定できます。boundary 属性が指定されていない場合は、デフォルト値が生成されます。
contentType/transferEncoding	生成される MIME ヘッダーの Content-Transfer-Encoding の値は、Content-Transfer-Encoding: 7-bit という設定に等しくなります。注: メイン MIME ヘッダーのこのエレメントに指定した Content-Transfer-Encoding を、エンティティ MIME ヘッダーの Content-Transfer-Encoding よりも制限的にすることはできません。例えば、メイン MIME ヘッダーの Content-Transfer-Encoding が 7 ビットであることを指定したが、エンティティ MIME ヘッダーに指定された Content-Transfer-Encoding が 8 ビットである場合、メイン MIME ヘッダーの Content-Transfer-Encoding は 8 ビットに変更されます。

parts 入力パラメーターのいくつかの子エレメントに値を指定しない場合、デフォルト値は以下の表のようになります。

表 2.

parts 入力パラメーターの子エレメント	デフォルト値
mimeVersion	標準 MIME バージョン 1.0 が割り当てられます。生成される MIME ヘッダーには、MIME-Version: 1.0 という設定が含まれます。

content Type	生成される MIME ヘッダーの Content-Type の値には、Content-Type: text/plain; charset=US-ASCII という設定が含まれます。
content TransferEncoding	生成される MIME ヘッダーの Content-Transfer-Encoding の値は、Content-Type 設定に応じて異なります。Content-Type が multipart に等しい場合、生成される MIME ヘッダーには、Content-Transfer-Encoding: 7-bit という設定が含まれます。Content-Type が text に等しく、charset が not-us-ascii に等しい場合 (not-us-ascii は、US-ASCII を除くすべてのタイプです)、生成される MIME ヘッダーには、Content-Transfer-Encoding: quoted-printable という設定が含まれます。Content-Type が non-text に等しい場合、生成される MIME ヘッダーには、Content-Transfer-Encoding: base64 という設定が含まれます。注: Content-Disposition が attachment に等しい場合、エンティティ・パートはテキストとして処理されません。

parts 入力パラメーターには、1 つ以上のパートを含めることができます。各パートには、関連するパート本文の各種の属性が記述された MIME ヘッダーが含まれています。個々の MIME パートがどのようにシリアルライズされるのかは、MIME ヘッダーの以下のパラメーターに割り当てられた値に応じて異なります。

- Content-Type ヘッダー
- Content-Type ヘッダー内の Charset 属性
- Content-Transfer-Encoding

パート本文がどのようにシリアルライズされるのかは、Content-Transfer-Encoding と Content-Type の設定に応じて以下のように異なります。

Content-Type が「text」に等しい場合:

- Content-Type が「text」であり、Content-Transfer-Encoding が「7-bit」/「8-bit」または「binary」である場合、パート本文は、UTF8 文字セットから、指定された文字セットに変換され、body 出力パラメーターにコピーされます。
- Content-Type が「text」であり、Content-Transfer-Encoding が「quoted-printable」である場合、パート本文は、UTF8 文字セットから、指定された文字セットに変換され、quoted-printable でエンコードされ、body 出力パラメーターにコピーされます。
- Content-Type が「text」であり、Content-Transfer-Encoding が「base64」である場合、パート本文は、UTF8 文字セットから、指定された文字セットに変換され、base64 でエンコードされ、body 出力パラメーターにコピーされます。

MIME パート・ヘッダーで明示的に指定されていない場合、charset は「UTF8」にデフォルト設定されます。このデフォルト動作に対する唯一の例外は、Content-Disposition が「attachment」に等しく、Content-Type が「text」に等しい場合です。この場合、パートは、テキストとして処理されません。なぜなら、データの文字セットを認識できないからです。また、この場合、Content-Transfer-Encoding は「binary」に設定されます。


Content-Type が「text」に等しくない場合:

- Content-Type が「text」に等しくなく、Content-Transfer-Encoding が「7bit」/「8bit」または「binary」である場合、パート本文は、body 出力パラメーターにそのままコピーされます。
- Content-Type が「text」に等しくなく、Content-Transfer-Encoding が「quoted-printable」である場合、パート本文は、base64 でデコードされ、quoted-printable でエンコードされ、body 出力パラメーターにコピーされます。
- Content-Type が「text」に等しくなく、Content-Transfer-Encoding が「base64」である場合、パート本文は、そのまま (base64 データ)、body 出力パラメーターにコピーされます。

マッピングの一般的な説明については、[スタンドアロン・マップの作成](#)を参照してください。

親トピック: [「MIME の書き込み」 アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Map_Activity_Input_Write_MIME.html

アクティビティーへの出力のマッピング

このタスクでは、**mimeheader** (XML 型) 出力パラメーターおよび **body** (ストリング型) 出力パラメーターを変数にマップします。

E メール・メッセージにメッセージ本文がなく、テキスト・ファイルが 1 つ添付されている場合は、そのテキストの添付ファイルがメッセージの本文になります。

E メールおよび MIME に関するアクティビティーでは、UTF8 文字セットを使用した 8 ビット・データまたはバイナリー・データのみを処理できます。

親トピック: [「MIME の書き込み」 アクティビティー](#)


関連概念:

[「MIME の読み取り」 アクティビティー](#)

関連情報:

[「Eメールの取得」 アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Map_Activity_Output_Write_MIME.html

「XML の読み取り」 アクティビティー

「XML の読み取り」アクティビティーは、XML 文書を取得し、その文書を定義済みのスキーマと比較して解析します。このアクティビティーからは、出力パラメーターとして XML データが返されます。このデータは、後続のアクティビティーで使用することができます。

このタスクについて

「XML の読み取り」アクティビティーの入力パラメーターは、XML テキストを必要とします。このデータは、XML データを含むファイルを読み取る「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーや「HTTP 受信要求」アクティビティーなどの各種のエンドポイント・アクティビティーから取得できます。入力データは、整形 XML 文書でなければなりません。そうでない場合は、アクティビティーでエラーが

発生します。「構成」タスクで XML スキーマを使用するには、事前に XML 変数を作成する必要があります (「変数」タブを参照)。XML 変数は、XML スキーマをプロジェクトに追加するか、または既存の変数を使用して定義できます。

注: 「XML の読み取り」アクティビティの「出力のマッピング」で関数が定義されておらず、ストレートなマッピングがある場合、「オーケストレーション」への「アクティビティから」では、XML 変数で指定されたスキーマに対する検証を行わずに XML データが出力アクティビティに渡されます。

注: 「XML の読み取り」アクティビティの「出力のマッピング」に関数またはマッピングへの他の変更があり、その内容がスキーマに一致しない場合は、「XML の読み取り」アクティビティの出力として、空の XML 文書が提供されます。

オーケストレーションに「XML の読み取り」アクティビティを追加するには、以下のようになります。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
3. 「XML の読み取り」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。このアクティビティを、オーケストレーションによる XML データの取得先となるアクティビティ (例えば「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)) の右側に配置します。
4. 「XML の読み取り」アクティビティを選択し、「XML の読み取り」アクティビティ構成の説明に従って、アクティビティを構成します。
 - 「XML の読み取り」アクティビティ構成
「XML の読み取り」入力パラメーターに適用する XML スキーマを指定できます。
 - 「XML の読み取り」の入力のマッピング
XML データを含むストリング変数を、「XML の読み取り」アクティビティの XMLText という入力パラメーターにマップできます。
 - 「XML の読み取り」の出力のマッピング
XML データ (ストリングとして保管された) を含む OutputXml 出力パラメーターを、指定された XML スキーマに対して有効な変数にマップできます。


親トピック: [変換アクティビティ](#)

関連タスク:

[「XML の読み取り」アクティビティ構成](#)

[「XML の読み取り」の入力のマッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_xml_Activity.html

「XML の読み取り」アクティビティ構成

「XML の読み取り」入力パラメーターに適用する XML スキーマを指定できます。

このタスクについて


このタスクを開始する前に、スキーマを定義する XML 変数を作成する必要があります。

手順

1. 解析対象の XML スキーマを定義する「XML 変数」で、「参照」をクリックします。「解析する変数を選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 適切な XML 変数を選択して、「OK」をクリックします。
3. 以下から適切なオプションを 1 つ選択して、実行時に XMLText 入力パラメーターに渡されるデータの読み取り方法を指定します。
 - a. 入力データがデコードの不要なテキストである場合は、「データはテキスト - デコード不要」オプションを選択します。
 - b. 入力データが、指定されたエンコード・タイプを使用してデコードする必要があるバイナリー・データである場合は、「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」オプションを選択します。「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」リストからデフォルト・エンコード・タイプを選択することによりエンコード・タイプを設定するか、「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを指定します。
4. 「OK」をクリックします。

親トピック: 「XML の読み取り」アクティビティー

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_xml_Activity_conf.html

「XML の読み取り」の入力のマップ

XML データを含むストリング変数を、「XML の読み取り」アクティビティーの XMLText という入力パラメーターにマップできます。

このタスクについて

XMLText は、ストリング型または base64Binary 型の入力パラメーターです。「XML の読み取り」アクティビティーを実行するには、実行時にこのストリング変数に整形 XML データが含まれていなければなりません。Encoding 入力パラメーターはオプションです。(この入力パラメーターをマップする必要はありません)。Encoding 入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインにリストされていない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、「アクティビティーへ」ペインを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。Encoding 入力パラメーターは、読み取り時に入力データをデコードする方法を指定します。

手順


1. デコードが不要な場合は、`string text` を指定します。
2. デコードが必要な場合は、入力データのデコードに使用するエンコード・タイプを指定します。例: UTF-8、US-ASCII、ISO-8859-1、EBCDIC-XML-US、または SHIFT_JIS。

例

オプションで、実行時に「チェックリスト」の「構成」タスクで動的に指定した Encoding 設定を、Encoding 入力パラメーターを使用してオーバーライドできます。例えば、「構成」タスクで Encoding が UTF-8 に設定されているにもかかわらず、実行時に Encoding の設定として Shift_JIS が渡されたとします。実行時に動的に指定された Encoding 設定は、「構成」ペインで指定した元の設定をオーバーライドします。この例では、Encoding は Shift_JIS に設定されています。この動的オーバーライド動作には、例外が 1 つあります。「構成」タスクで「XML テキストはテキスト - デコード不要 (XMLText is text-Needs no decoding)」オプション、または「エンコード」オプションが選択されている場合、実行時に動的に設定された Encoding は無視され、デコードは実行されません。

親トピック: [「XML の読み取り」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_xml_Map_Inputs.html

「XML の読み取り」の出力のマッピング

XML データ (string として保管された) を含む `OutputXml` 出力パラメーターを、指定された XML スキーマに対して有効な変数にマッピングできます。

マッピングの一般的な説明については、[スタンドアロン・マップの作成](#)を参照してください。

実行時、オーケストレーションは以下の一連のアクティビティーを呼び出すことができます。

1. FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory) アクティビティーは、フラット・ファイルの内容を `XMLRawContent` という string 変数に割り当てます。
2. 「XML の読み取り」アクティビティーは `XMLRawContent` 変数の内容を `XMLText` という string 入力パラメーターに割り当てます。
3. 「XML の読み取り」アクティビティーは、`XMLTesta` を XML データに変換し、出力パラメーターを介して、XML データをオーケストレーションに返します。出力パラメーターの内容が、XML スキーマで有効な変数に割り当てられます。これで、データ XML 入力文書をオーケストレーション内で使用およびマッピングできます。

親トピック: [「XML の読み取り」アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/read_xml_map_output.html

「XML の書き込み」 アクティビティ

「XML の書き込み」 アクティビティは、複合 (XML) 変数を受け入れ、複合変数内に保持されたデータを含む文字列を XML フォーマットで出力します。この文字列をファイルまたはデータベースに書き込むことができます。

このタスクについて

文字列が出力パラメーターとして返されます。オーケストレーションからのデータは、複合変数から取得する必要があります。「変数」タブでは、複合変数は XML アイコンによって示されます。スキーマを定義する入力 XML 変数を作成する必要があります。

オーケストレーションに「XML の書き込み」 アクティビティを追加するには、以下のようになります。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。詳しくは、『[オーケストレーションのビルド](#)』を参照してください。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
 2. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
 3. 「XML の書き込み」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
 4. 「XML の書き込み」アクティビティを選択し、「XML の書き込み」アクティビティ構成の説明に従って、アクティビティを構成します。
- [「XML の書き込み」アクティビティ構成](#)
このタスクのために、インバウンド・データ用の XML スキーマを指定します。インバウンド・データは、スキーマを定義する XML 変数によって定義される必要があります。入力パラメーターに適用される XML スキーマを指定します。
 - [「XML の書き込み」の入力のマップ](#)
オーケストレーションの変数からのデータを、「構成」タスクで指定された XML スキーマで定義された InputXML パラメーターにマップすることができます。
 - [「XML の書き込み」の出力のマップ](#)
XML データを含む XMLText 出力パラメーターを文字列変数にマップすることができます。

親トピック: [変換アクティビティ](#)

関連概念:

[「XML の書き込み」の出力のマップ](#)

関連タスク:

[「XML の書き込み」アクティビティ構成](#)

[「XML の書き込み」の入力のマップ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_xml_Activity.html

「XML の書き込み」 アクティビティ構成

このタスクのために、インバウンド・データ用の XML スキーマを指定します。インバウンド・データは、スキーマを定義する XML 変数によって定義される必要があります。入力パラメーターに適用される XML スキーマを指定します。

手順

1. シリアライズ対象の XML スキーマを定義する「XML 変数」で、「参照」をクリックします。「シリアライズする変数を選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 適切な XML 変数を選択して、「OK」をクリックします。
3. OutputXML 出力パラメーターによって定義されるデータをエンコードする方法を指定します。
 - a. データがエンコードの不要なテキストである場合は、「データはテキスト - デコードもエンコードも不要 (Data is text-Needs no decoding or encoding)」オプションを選択します。
 - b. 出力データが、指定されたエンコード・タイプを使用してエンコードする必要があるバイナリー・データである場合は、「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコードまたはエンコード」オプションを選択します。
4. 以下のいずれかのオプションを使用して、エンコード・タイプを設定します。
 - a. 「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコードまたはエンコード」リストで、デフォルト・エンコード・タイプを 1 つ選択します。
 - b. 「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコードまたはエンコード (Decode or encode data using encoding type)」フィールドを直接クリックし、エンコード・タイプを入力します。
5. 「OK」をクリックします。

親トピック: 「XML の書き込み」 アクティビティ

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_xml_Activity_conf.html

「XML の書き込み」の入力のマップ

オーケストレーションの変数からのデータを、「構成」タスクで指定された XML スキーマで定義された InputXML パラメーターにマップすることができます。

このタスクについて

Encoding 入力パラメーターはオプションです。この入力パラメーターをマップする必要はありません。Encoding 入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインにリストされていない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、「アクティビティへ」ペインを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。Encoding 入力パラメーターは、この手順での出力データのエンコード方法を指定します。

手順


1. デコードが不要な場合は、**文字列 text** を指定します。
2. エンコードが必要な場合は、出力データのエンコードに使用するエンコード・タイプを指定します。例えば、UTF-8、US-ASCII、ISO-8859-1、EBCDIC-XML-US、または SHIFT_JIS を指定します。

例

オプションで、実行時に「チェックリスト」の「構成」タスクで動的に指定した Encoding 設定を、Encoding 入力パラメーターを使用してオーバーライドできます。例えば、「構成」タスクで Encoding が UTF-8 に設定されているにも関わらず、実行時に Encoding の設定として **Shift_JIS** が渡されたとします。実行時に動的に指定された Encoding 設定は、「構成」ペインで指定した元の設定をオーバーライドします。この例では、Encoding は **Shift_JIS** に設定されています。この動的オーバーライド動作には 1 つ例外があります。「構成」タスクで「データはテキスト - デコードもエンコードも不要 (**Data is text-Needs no decoding or encoding**)」オプションが選択された場合、実行時に動的に設定された Encoding は無視されます。詳しくは、『[オーケストレーションの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「XML の書き込み」アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_xml_Map_Inputs.html


「XML の書き込み」の出力のマップ

XML データを含む XMLText 出力パラメーターを文字列変数にマップすることができます。

マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「XML の書き込み」アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

XML 検証アクティビティ

実行時、「XML 検証」アクティビティは、指定された XML スキーマまたは WSDL に対して入力 XML データが有効であるかどうかを判別します。

「XML 検証」アクティビティには、以下の制限があります。

- 「XML 検証」アクティビティは、XML スキーマの選択されたルート・エレメントの検証のみをサポートしています。XML スキーマ・フラグメントの検証はサポートされません。XML スキーマにルート (またはグローバル・エレメント) が複数含まれる場合は、いずれか一つのルート・エレメントを選択する必要があります。
- 「XML 検証」アクティビティは、DTD と比較した XML データの検証をサポートしていません。

注: 「XML 検証」アクティビティを構成する前に、XML スキーマを含む XSD ファイル (末尾が .xsd 拡張子) をプロジェクトにアップロードする必要があります。実行時に XML データを検証するために使用する XML スキーマをプロジェクトにアップロードします。

以下の表は、「XML 検証」アクティビティが XML データを XML スキーマと比較して解析中にエラーまたは警告が発生した場合の結果を示しています。

表 1.

エラー/警告タイプ	説明	例	結果
致命的エラー	重大な問題が原因で XML データの解析が失敗し、解析を続行できません。例えば、XML データが XML スキーマに対して有効ではありません。	XML データが XML スキーマに対して有効ではありません。例えば、<d> という名前のルート・エレメントが必要であると XML スキーマに定義されているのに、XML データに <a> という名前のルート・エレメントが含まれています。	致命的エラーが発生すると、「XML 検証」アクティビティの処理が完了していなくても、現在のオーケストレーション・ジョブが処理を停止します。また、オーケストレーション内の「XML 検証」アクティビティの後にあるアクティビティは処理されません。success 出力パラメーターに対して「XML 検証」アクティビティから返される値は false ですが、アクティビティが完了しないので何も返されません。
エラー (リカバリー可能)	XML データの解析中にエラーが発生しましたが、残りの XML データの解析は妨げられません。	整数の XML エレメントの値が以下のようにストリングで提供されています。<a><count>two</count>	解析中にリカバリー可能エラーまたは警告のみが発生した場合、「XML 検証」アクティビティの処理は完了し、オーケストレーション内の「XML 検証」アクティビティの後のアクティビティが処理されます。success 出力パラメーターから false の値が返されません。

エラー/警告タイプ	説明	例	結果
警告	XML データの解析中に警告が発生しましたが、残りの XML データの解析は妨げられません。		解析中に警告のみが発生した場合、「XML 検証」アクティビティの処理は完了し、オーケストレーション内の「XML 検証」アクティビティの後のアクティビティが処理されます。success 出力パラメーターから true の値が返されます。

- [「XML 検証」アクティビティのオーケストレーションへの追加](#)
このセクションの手順を実行して、「XML 検証」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
- [「XML 検証」アクティビティの構成](#)
このセクションの手順を実行して、「XML 検証」アクティビティを構成します。
- [アクティビティへの入力のマッピング](#)
入力を「XML 検証」のアクティビティにマップするには、このセクションのステップを実行します。
- [アクティビティへの出力のマッピング - XML 検証](#)
出力を「XML 検証」のアクティビティにマップするには、このセクションのステップを実行します。


親トピック: [変換アクティビティ](#)

関連概念:

[アクティビティへの入力のマッピング](#)

[アクティビティへの出力のマッピング - XML 検証](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Validate_XML_activity.html

「XML 検証」アクティビティのオーケストレーションへの追加

このセクションの手順を実行して、「XML 検証」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
3. 「XML 検証」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. 「XML 検証」アクティビティを選択します。

親トピック: [XML 検証アクティビティ](#)

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Add_Validate_XML_Activity_to_Orchestration.html

「XML 検証」 アクティビティの構成

このセクションの手順を実行して、「XML 検証」アクティビティを構成します。

手順

1. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。
2. 「XML スキーマ」フィールドで、「参照」をクリックします。「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。実行時に解析する XML スキーマを選択します。スキーマ・フラグメントではなくルートまたはグローバルの要素を選択する必要があります。選択した XML スキーマは、「入力のマップ」タスクの **InputXml** 入力パラメーターを構成するノードを定義します。
3. 「最初のリカバリー可能エラー後に XML データの解析を続行」チェック・ボックスを選択またはクリアします。(このチェック・ボックスは、リカバリー可能エラーが発生したときの実行時の動作を定義するものです)。

タスクの結果

「最初のリカバリー可能エラー後に XML データの解析を続行」チェック・ボックスが選択されている場合、リカバリー可能エラーと警告のみが発生し、致命的エラーは発生しないときは、最初のリカバリー可能エラーの後に「XML 検証」アクティビティの処理が完了し、**success** 出力パラメーターから **false** の値が返されます。**errors** 出力パラメーターでは、最初のエラーのみが返されます。オーケストレーション内の「XML 検証」アクティビティの後にあるアクティビティが処理されます。

「最初のリカバリー可能エラー後に XML データの解析を続行」チェック・ボックスがクリアされている場合、リカバリー可能エラーと警告のみが発生し、致命的エラーは発生しないときは、「XML 検証」アクティビティの処理によって、リカバリー可能エラーがすべて処理され、**success** 出力パラメーターから **false** の値が返されます。すべてのリカバリー可能エラーに関するメッセージが、**errors** 出力パラメーターの **Message** 反復ノードに返されます。オーケストレーション内の「XML 検証」アクティビティの後にあるアクティビティが処理されます。

親トピック: [XML 検証アクティビティ](#)

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

アクティビティへの入力のマッピング

入力を「XML 検証」のアクティビティにマップするには、このセクションのステップを実行します。

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「XML 検証」アクティビティの構成の手順で選択した XML スキーマがアクティビティの入力パラメーターになります。アクティビティの入力パラメーターが、「オーケストレーションから」ペインに表示されます。
2. 入力パラメーターの XML スキーマのノードをマップします。マッピングの一般的な説明については、[スタンドアロン・マップの作成](#)を参照してください。

親トピック: [XML 検証アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Map_Activity_Input_ValidateXML.html

アクティビティへの出力のマッピング - XML 検証

出力を「XML 検証」のアクティビティにマップするには、このセクションのステップを実行します。

アクティビティの出力をマップするには、以下のようにします。

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。このアクティビティの出力パラメーターが、以下の表で説明するとおり、「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 1.

出力ノード	説明
success	実行時、解析が成功した場合は、 true の値が返されます。解析が失敗した場合は、 false の値が返されます。解析中に致命的エラーが発生した場合は、 false の値が返されます。解析中にリカバリ可能エラーが発生した場合は、 false の値が返されます。解析中に警告のみが発生した場合は、 true の値が返されます。また、解析中に警告もエラーも発生しなかった場合は、 true の値が返されます。 success 出力パラメーターから文字列型の変数にマップします。XPath 式で、文字列変数の値を文字列値 true および false と比較します。

出力ノード	説明
errorType	実行時に発生した最後のエラーまたは警告におけるエラー/警告のタイプ。
errorsMessage	実行時に発生した各エラーおよび警告が記述された文字列を含む反復構造。すべての解析警告、致命的エラー、およびリカバリー可能エラーが返されます。


- 必要な出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの一般的な説明については、『[スタンドアロン・マップの作成](#)』を参照してください。このアクティビティに関しては、出力パラメーターをマップする必要はありません。

親トピック: [XML 検証アクティビティ](#)

関連タスク:

[「XML の読み取り」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Map_Activity_Output_ValidateXML.html

「JSON の読み取り」アクティビティ

「JSON の読み取り」アクティビティは、JSON または XML メッセージを取得し、それを定義済みのスキーマと比較して解析して、オーケストレーションで使用できる出力構造を生成します。このアクティビティは、実行時に、JSON メッセージを解析して、他の Studio アクティビティにマップできる同等の XML を生成します。

このタスクについて

「JSON の読み取り」アクティビティーの入力パラメーターは、サンプル JSON または同等のサンプル XML テキストを必要とします。(同等の JSON または XML テキストは、JSON/REST API ドキュメンテーションから入手できます。) 入力データは、整形済み JSON または XML メッセージでなければなりません。そうでない場合は、アクティビティーが失敗します。スキーマを使用しない場合、「構成」タスクで XML スキーマを使用するには、事前に JSON 変数を作成する必要があります(「変数」タブを参照)。変数は、XML スキーマをプロジェクトに追加するか、または既存の変数を使用して定義できます。JSON/REST サンプルが提供されると、このアクティビティーは JSON/XML の同等の構造を生成します。この XML は、オーケストレーションで使用できるアクティビティー出力にマップされます。このアクティビティーは、実行時に、JSON メッセージを取り込んで、他の Studio アクティビティーにマップできる同等の XML を生成します。

オーケストレーションに「JSON の読み取り」アクティビティーを追加するには、以下のようになります。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
3. 「JSON の読み取り」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。このアクティビティーを、オーケストレーションによる JSON データの取得先となるアクティビティー (例えば「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory) 」) の右側に配置します。
4. 「JSON の読み取り」アクティビティーを選択し、「JSON の読み取り」アクティビティーの説明に従って、アクティビティーを構成します。

- 「JSON の読み取り」アクティビティー構成

サンプル JSON または XML メッセージを「JSON の読み取り」入力パラメーターに適用することができます。このステップでは、スキーマの使用はオプションです。

- 「JSON の読み取り」の入力のマップ

JSON データを含むストリング変数を、「JSON の読み取り」アクティビティーの JSONText という入力パラメーターにマップできます。

- 「JSON の読み取り」の出力のマップ

JSON データ (ストリングとして保管された) を含む OutputJSON 出力パラメーターを、指定された XML スキーマに対して有効な変数にマップできます。


親トピック: [変換アクティビティー](#)

関連タスク:

[「JSON の読み取り」アクティビティー構成](#)

[「JSON の読み取り」の入力のマップ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_json_Activity.html

「JSON の読み取り」アクティビティー構成

サンプル JSON または XML メッセージを「JSON の読み取り」入力パラメーターに適用することができます。このステップでは、スキーマの使用はオプションです。

このタスクについて

JSON または XML メッセージを「JSON の読み取り」入力パラメーターに適用する場合には、以下のステップに従ってください。


注: 必ずしもすべての JSON メッセージにルート・ノードが含まれているわけではないため、Studio は、デフォルトで、「JSON の書き込み」アクティビティー時に仮想ルート・エレメントをすべての JSON メッセージに追加します。(仮想ノードを使用すると、Studio でのルートレス・メッセージの処理が容易になります)。ルート・ノードが存在するかどうか判別するには、「構成」パネルでメッセージを表示してください。メッセージにルート・エレメントが含まれていない場合、Studio は「JSON の書き込み」アクティビティー時にルート・エレメントを自動的に生成し、ルート・エレメント・ファイルにそれを表示します。ルート・エレメントを削除するには、「構成」パネルからそれを削除して、出力メッセージを必要な構造に一致させてください。

手順

1. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ウィンドウが表示されます。
2. 「構成」ウィンドウで、JSON または XML メッセージをテキスト域にコピーして、「出力マップの生成」をクリックします。「JSON の読み取り」入力パラメーターに適用する XML スキーマを指定する場合、次の追加ステップを行ってください。(a) 「XML スキーマの選択」ペインで「XML スキーマの選択」ボタンをクリックして XML スキーマを参照し、(b) 実行時に解析の比較対象とする XML スキーマを選択して「OK」をクリックします。(スキーマ・フラグメントではなくルートまたはグローバルのエレメントを選択する必要があります。)
3. 以下から適切なオプションを 1 つ選択して、実行時に JSONText 入力パラメーターに渡されるデータの読み取り方法を指定します。
 - a. 入力データがデコードの不要なテキストである場合は、「データはテキスト - デコード不要」オプションを選択します。
 - b. 入力データが、指定されたエンコード・タイプを使用してデコードする必要があるバイナリー・データである場合は、「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」オプションを選択します。「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」リストからデフォルト・エンコード・タイプを選択することによりエンコード・タイプを設定するか、「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを指定します。
4. 「OK」をクリックします。

親トピック: 「JSON の読み取り」アクティビティー

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_json_Activity_conf.html

「JSON の読み取り」の入力のマップ

JSON データを含む文字列変数を、「JSON の読み取り」アクティビティの JSONText という入力パラメーターにマップできます。

このタスクについて

JSONText は、文字列型または base64Binary 型の入力パラメーターです。「JSON の読み取り」アクティビティを実行するには、実行時にこの文字列変数に整形された JSON データが含まれていなければなりません。Encoding 入力パラメーターはオプションです。(このパラメーターをマップする必要はありません)。Encoding 入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインにリストされていない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、「アクティビティへ」ペインを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。Encoding 入力パラメーターは、読み取り時に入力データをデコードする方法を指定します。

手順


1. デコードが不要な場合は、文字列 text を指定します。
2. デコードが必要な場合は、入力データのデコードに使用するエンコード・タイプを指定します。例: UTF-8、US-ASCII、ISO-8859-1、EBCDIC-XML-US、または SHIFT_JIS。

例

オプションで、実行時に「チェックリスト」の「構成」タスクで動的に指定した Encoding 設定を、Encoding 入力パラメーターを使用してオーバーライドできます。例えば、「構成」タスクで Encoding が UTF-8 に設定されているにもかかわらず、実行時に Encoding の設定として Shift_JIS が渡されたとします。実行時に動的に指定された Encoding 設定は、「構成」ペインで指定した元の設定をオーバーライドします。この例では、Encoding は Shift_JIS に設定されています。この動的オーバーライド動作には、例外が 1 つあります。「構成」タスクで「JSON テキストはテキスト - デコード不要 (JSONText is text-Needs no decoding)」オプション、または「エンコード」オプションが選択されている場合、実行時に動的に設定された Encoding は無視され、デコードは実行されません。

親トピック: [「JSON の読み取り」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_json_Map_Inputs.html

「JSON の読み取り」の出力のマップ

JSON データ (文字列として保管された) を含む OutputJSON 出力パラメーターを、指定された XML スキーマに対して有効な変数にマップできます。


マッピングの一般的な説明については、[スタンドアロン・マップの作成](#)を参照してください。

実行時、オーケストレーションは以下の一連のアクティビティーを呼び出すことができます。

1. 「HTTP 受信 (HTTP Receive)」アクティビティーは、受信した本文を **JSONRawContent** というストリング変数に割り当てます。
2. 「**JSON の読み取り**」アクティビティーは **JSONRawContent** 変数の内容を JSONText というストリング入力パラメーターに割り当てます。
3. 「**JSON の読み取り**」アクティビティーは、JSON データを XML データに変換し、出力パラメーターを介して、XML をオーケストレーションに返します。出力パラメーターの内容が、XML スキーマで有効な変数に割り当てられます。これで、データ JSON 入力文書をオーケストレーション内で使用およびマップできます。

親トピック: 「[JSON の読み取り](#)」アクティビティー

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/read_json_map_output.html

「JSON の書き込み」アクティビティー

「**JSON の書き込み**」アクティビティーは、JSON と同等の構造を入力として取得し、複合変数内に保持されたデータを含むストリングを JSON フォーマットで出力します。このストリングは、ファイルに書き込むか、または HTTP を使用してポストすることができます。

このタスクについて

JASON ストリングは出力パラメーターとして返されます。(これは、スキーマを使用した場合にのみ適用されます。)オーケストレーションのデータは、複合変数から取得する必要があります。複合変数は、「変数」タブで XML アイコンによって示されます。アクティビティーの構成は、「構成」パネルに (JSON/REST API ドキュメンテーションに用意された) JSON または XML サンプル・メッセージを貼り付けることによって行います。これにより、入力データをマップするための互換性のある入力構造が生成され、その入力構造が JSON メッセージに変換されます。

オーケストレーションに「**JSON の書き込み**」アクティビティーを追加するには、以下のようにします。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。詳しくは、『[オーケストレーションのビルド](#)』を参照してください。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
 2. 「アクティビティー」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
 3. 「**JSON の書き込み**」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
 4. 「**JSON の書き込み**」アクティビティーを選択し、「[JSON の書き込み](#)」**アクティビティー構成**の説明に従って、アクティビティーを構成します。
- 「[JSON の書き込み](#)」**アクティビティー構成**
この手順では、サンプル JSON または XML メッセージを「**JSON の書き込み**」の入力パラメーターに適

用します。必要に応じて、このタスク用のスキーマを使用することもできます。

- 「JSON の書き込み」の入力のマップ
オーケストレーションの変数からのデータを、「構成」タスクで指定された XML スキーマで定義された InputJSON パラメーターにマップすることも、サンプル JSON/REST XML および「構成」パネルを使用して入力構造を生成することもできます。
- 「JSON の書き込み」の出力のマップ
JSON データを含む JSONText 出力パラメーターを文字列変数にマップすることができます。

親トピック: [変換アクティビティ](#)

関連概念:


[「JSON の書き込み」の出力のマップ](#)

関連タスク:

[「JSON の書き込み」アクティビティ構成](#)

[「JSON の書き込み」の入力のマップ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_json_Activity.html

「JSON の書き込み」アクティビティ構成

この手順では、サンプル JSON または XML メッセージを「JSON の書き込み」の入力パラメーターに適用します。必要に応じて、このタスク用のスキーマを使用することもできます。

このタスクについて

注: 必ずしもすべての JSON メッセージにルート・ノードが含まれているわけではないため、Studio は、デフォルトで、「JSON の書き込み」アクティビティ時に仮想ルート・エレメントをすべての JSON メッセージに追加します。(仮想ノードを使用すると、Studio でのルートレス・メッセージの処理が容易になります)。ルート・ノードが存在するかどうか判別するには、「構成」パネルでメッセージを表示してください。メッセージにルート・エレメントが含まれていない場合、Studio は「JSON の書き込み」アクティビティ時にルート・エレメントを自動的に生成し、ルート・エレメント・ファイルにそれを表示します。ルート・エレメントを削除するには、「構成」パネルからそれを削除して、出力メッセージを必要な構造に一致させてください。


手順

1. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ウィンドウが表示されます。
2. 「構成」ウィンドウで、JSON または XML メッセージをテキスト域にコピーして、「マップの生成」をクリックします。「JSON の書き込み」の入力パラメーターに適用する XML スキーマを指定する場合、次の追加ステップを行ってください。(a) 「XML スキーマの選択」フィールドで「XML スキーマの選択」ボタンをクリックして XML スキーマを参照し、(b) 実行時に解析の比較対象とする XML スキーマを選択して「OK」をクリックします。
3. OutputJSON 出力パラメーターによって定義されるデータをエンコードする方法を指定します。

- a. データがエンコードの不要なテキストである場合は、「データはテキスト - デコードもエンコードも不要 (Data is text-Needs no decoding or encoding)」オプションを選択します。
 - b. 出力データが、指定されたエンコード・タイプを使用してエンコードする必要があるバイナリー・データである場合は、「次のエンコード・タイプを使用してデータをエンコード」オプションを選択します。
4. 以下のいずれかのオプションを使用して、エンコード・タイプを設定します。
 - a. 「次のエンコード・タイプを使用してデータをエンコード」リストで、デフォルト・エンコード・タイプを1つ選択します。
 - b. 「次のエンコード・タイプを使用してデータをエンコード」フィールドを直接クリックし、エンコード・タイプを入力します。
 5. 「OK」をクリックします。

親トピック: 「JSON の書き込み」 アクティビティー

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_json_Activity_conf.html

「JSON の書き込み」の入力のマップ

オーケストレーションの変数からのデータを、「構成」タスクで指定された XML スキーマで定義された InputJSON パラメーターにマップすることも、サンプル JSON/REST XML および「構成」パネルを使用して入力構造を生成することもできます。

このタスクについて

Encoding 入力パラメーターはオプションであり、マップする必要はありません。Encoding 入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインにリストされていない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、「アクティビティーへ」ペインを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。Encoding 入力パラメーターは、この手順での出力データのエンコード方法を指定します。

手順

1. デコードが不要な場合は、ストリング **text** を指定します。
2. エンコードが必要な場合は、出力データのエンコードに使用するエンコード・タイプを指定します。例えば、UTF-8、US-ASCII、ISO-8859-1、EBCDIC-XML-US、または SHIFT_JIS を指定します。


例

オプションで、実行時に「チェックリスト」の「構成」タスクで動的に指定した Encoding 設定を、Encoding 入力パラメーターを使用してオーバーライドできます。例えば、「構成」タスクで Encoding が UTF-8 に設定さ

れているにも関わらず、実行時に Encoding の設定として **Shift_JIS** が渡されたとします。実行時に動的に指定された Encoding 設定は、「構成」ペインで指定した元の設定をオーバーライドします。この例では、Encoding は **Shift_JIS** に設定されています。この動的オーバーライド動作には 1 つ例外があります。「構成」タスクで「データはテキスト - デコードもエンコードも不要 (**Data is text-Needs no decoding or encoding**)」オプションが選択された場合、実行時に動的に設定された Encoding は無視されます。詳しくは、『[オーケストレーションの作成](#)』を参照してください。

親トピック: 「[JSON の書き込み](#)」アクティビティ

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_json_Map_Inputs.html


「JSON の書き込み」の出力のマップ

JSON データを含む JSONText 出力パラメーターをストリング変数にマップすることができます。

マッピングの一般的な説明については、[スタンドアロン・マップの作成](#)を参照してください。

親トピック: 「[JSON の書き込み](#)」アクティビティ

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_json_map_output.html

JSON 検証アクティビティ

実行時、「**JSON 検証**」アクティビティは、指定された XML スキーマに対して入力 JSON または XML データが有効であるかどうかを判別します。

「**JSON 検証**」アクティビティには、以下の制限があります。

- 「**JSON 検証**」アクティビティは、XML スキーマの選択されたルート・エレメントの検証のみをサポートしています。XML スキーマ・フラグメントの検証はサポートされません。XML スキーマにルート (またはグローバル・エレメント) が複数含まれる場合は、いずれか一つのルート・エレメントを選択する必要があります。
- 「**JSON 検証**」アクティビティは、DTD と比較した JSON または XML データの検証をサポートしていません。

注: 「**JSON 検証**」アクティビティを構成する前に、XML スキーマを含む XSD ファイル (末尾が .xsd 拡張子) をプロジェクトにアップロードする必要があります。実行時に JSON データを検証するために使用する XML ス

キーマをプロジェクトにアップロードします。

以下の表は、「JSON 検証」アクティビティが JSON または XML データを XML スキーマと比較して解析中にエラーまたは警告が発生した場合の結果を示しています。

表 1.

エラー/警告タイプ	説明	例	結果
致命的エラー	重大な問題が原因で JSON データの解析が失敗し、解析を続行できません。例えば、JSON または XML データが XML スキーマに対して有効ではありません。	JSON または XML データが XML スキーマに対して有効ではありません。例えば、<d> という名前のルート・エレメントが必要であると XML スキーマに定義されているのに、JSON または XML データに <a> という名前のルート・エレメントが含まれています。	致命的エラーが発生すると、「JSON 検証」アクティビティの処理が完了していなくても、現在のオーケストレーション・ジョブが処理を停止します。また、オーケストレーション内の「JSON 検証」アクティビティの後にあるアクティビティは処理されません。success 出力パラメーターに対して「JSON 検証」アクティビティから返される値は false ですが、アクティビティが完了しないので何も返されません。
エラー (リカバリー可能)	JSON データの解析中にエラーが発生しましたが、残りのデータの解析は妨げられません。	整数の JSON エレメントの値が以下のようにストリングで提供されています。<a><count>two</count>	解析中にリカバリー可能エラーまたは警告のみが発生した場合、「JSON 検証」アクティビティの処理は完了し、オーケストレーション内の「JSON 検証」アクティビティの後のアクティビティが処理されます。success 出力パラメーターから false の値が返されます。
警告	JSON データの解析中に警告が発生しましたが、残りのデータの解析は妨げられません。		解析中に警告のみが発生した場合、「JSON 検証」アクティビティの処理は完了し、オーケストレーション内の「JSON 検証」アクティビティの後のアクティビティが処理されます。success 出力パラメーターから true の値が返されます。

- [「JSON 検証」アクティビティのオーケストレーションへの追加](#)
このセクションの手順を実行して、「JSON 検証」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
- [「JSON 検証」アクティビティの構成](#)
このセクションの手順を実行して、「JSON 検証」アクティビティを構成します。
- [アクティビティへの入力のマッピング - JSON 検証](#)
入力を「JSON 検証」のアクティビティにマップするには、このセクションのステップを実行します。
- [アクティビティへの出力のマッピング - JSON 検証](#)
出力を「JSON 検証」のアクティビティにマップするには、このセクションのステップを実行します。


親トピック: [変換アクティビティ](#)

関連概念:

[アクティビティへの入力のマッピング](#)

[アクティビティへの出力のマッピング - XML 検証](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Validate_json_activity.html

「JSON 検証」 アクティビティのオーケストレーションへの追加


このセクションの手順を実行して、「JSON 検証」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
3. 「JSON 検証」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. 「JSON 検証」アクティビティを選択します。

親トピック: [JSON 検証アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Add_Validate_JSON_Activity_to_Orchestration.html

「JSON 検証」 アクティビティの構成

このセクションの手順を実行して、「JSON 検証」アクティビティを構成します。

手順

1. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ウィンドウが表示されます。
2. 「XML スキーマ」フィールドで、「参照」をクリックします。「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。実行時に解析する XML スキーマを選択します。スキーマ・

- フラグメントではなくルートまたはグローバルの要素を選択する必要があります。選択した XML スキーマは、「入力のマップ」タスクの **InputJSON** 入力パラメーターを構成するノードを定義します。
3. 「最初のリカバリー可能エラー後に JSON データの解析を続行」チェック・ボックスを選択またはクリアします。(このチェック・ボックスは、リカバリー可能エラーが発生したときの実行時の動作を定義するものです)。


タスクの結果

「最初のリカバリー可能エラー後に JSON データの解析を続行」チェック・ボックスが選択されている場合、リカバリー可能エラーと警告のみが発生し、致命的エラーは発生しないときは、最初のリカバリー可能エラーの後に「JSON 検証」アクティビティの処理が完了し、**success** 出力パラメーターから **false** の値が返されます。**errors** 出力パラメーターでは、最初のエラーのみが返されます。オーケストレーション内の「JSON 検証」アクティビティの後にあるアクティビティが処理されます。

「最初のリカバリー可能エラー後に JSON データの解析を続行」チェック・ボックスがクリアされている場合、リカバリー可能エラーと警告のみが発生し、致命的エラーは発生しないときは、「JSON 検証」アクティビティの処理によって、リカバリー可能エラーがすべて処理され、**success** 出力パラメーターから **false** の値が返されます。すべてのリカバリー可能エラーに関するメッセージが、**errors** 出力パラメーターの **Message** 反復ノードに返されます。オーケストレーション内の「JSON 検証」アクティビティの後にあるアクティビティが処理されます。

親トピック: [JSON 検証アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Configure_Validate_json_Activity.html

アクティビティへの入力のマッピング - JSON 検証

入力を「JSON 検証」のアクティビティにマップするには、このセクションのステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。上記「JSON 検証」アクティビティの構成の手順で選択した XML スキーマがアクティビティの入力パラメーターになります。アクティビティの入力パラメーターが、「オーケストレーションから」ペインに表示されます。
2. 入力パラメーターの XML スキーマのノードをマップします。マッピングの一般的な説明については、[スタンドアロン・マップの作成](#)を参照してください。

親トピック: [JSON 検証アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

アクティビティへの出力のマッピング - JSON 検証

出力を「JSON 検証」のアクティビティにマップするには、このセクションのステップを実行します。

アクティビティの出力をマップするには、以下のようにします。

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。このアクティビティの出力パラメーターが、以下の表で説明するとおり、「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 1.

出力 ノ ー ド	説明
success	実行時、解析が成功した場合は、 true の値が返されます。解析が失敗した場合は、 false の値が返されます。解析中に致命的エラーが発生した場合は、 false の値が返されます。解析中にリカバリー可能エラーが発生した場合は、 false の値が返されます。解析中に警告のみが発生した場合は、 true の値が返されます。また、解析中に警告もエラーも発生しなかった場合は、 true の値が返されます。 success 出力パラメーターからストリング型の変数にマップします。XPath 式で、ストリング変数の値をストリング値 true および false と比較します。
error /error Type	実行時に発生した最後のエラーまたは警告におけるエラー/警告のタイプ。
error /Messages	実行時に発生した各エラーおよび警告が記述されたストリングを含む反復構造。すべての解析警告、致命的エラー、およびリカバリー可能エラーが返されます。


2. 必要な出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの一般的な説明については、[スタンドアロン・マップの作成](#)を参照してください。このアクティビティに関しては、出力パラメーターをマップする必要はありません。

親トピック: [JSON 検証アクティビティ](#)

関連概念:

[JSON 検証アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Map_Activity_Output_ValidateJSON.html

「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティ

「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティは、指定されたフラット・ファイル・スキーマを適用して、フラット・ファイル・データ (非XML データ) を XML データに変換します。XML データは、このアクティビティから出力パラメーターとして返されます。

このタスクについて

「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの入力パラメーターは、フラット・ファイル・データを必要とします。フラット・ファイル (非XML) データには、コンマ区切り値 (.csv) およびその他のタイプの区切り文字で区切られたファイルに加えて、多くの EDI システムを構成する固定長テキスト・ファイルが含まれます。フラット・ファイル・データは、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティ、「HTTP 受信要求」アクティビティ、または「Eメールの取得」アクティビティなど、さまざまなエンドポイント・アクティビティを通じて取得されます。

オーケストレーションでの「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの使用例については、「*Getting Started Guide*」の『*Developing a Simple Project*』を参照してください。

「構成」タスクの「フラット・ファイル・スキーマの選択」フィールドでフラット・ファイルを選択するには、[フラット・ファイル・スキーマを作成する](#)必要があります。

オーケストレーションに「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティを追加するには、以下のようにします。


手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。詳しくは、『[オーケストレーションの作成](#)』を参照してください。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
3. 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。このアクティビティを、オーケストレーションによるフラット・ファイル・データの取得先となるエンドポイント・アクティビティ (例えば「[FTP ディレクトリーのポーリング \(FTP Poll Directory\)](#)」アクティビティ) の右側に配置します。
4. 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティを選択し、『[「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの構成](#)』の説明に従って、アクティビティを構成します。

- 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティー構成
「フラット・ファイルの読み取り」入力パラメーターに適用するフラット・ファイル・スキーマを指定できます。
- 「フラット・ファイルの読み取り」の入力のマップ
フラット・ファイル・データを含むストリング変数を、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーの Data という入力パラメーターにマップできます。
- 「フラット・ファイルの読み取り」の出力のマップ
XML データ (ストリングとして保管された) を含む Xml 出力パラメーターを、指定されたフラット・ファイル・スキーマで有効な変数にマップできます。

親トピック: [変換アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Flat_File_to_XML_Activity.html

「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティー構成

「フラット・ファイルの読み取り」入力パラメーターに適用するフラット・ファイル・スキーマを指定できます。

始める前に

このタスクを開始する前に、[フラット・ファイル・スキーマを作成する](#)必要があります。

このタスクについて

「構成」タスクを完了するには、以下のようにします。

手順

1. 「フラット・ファイル・スキーマの選択」フィールドで、「参照...」をクリックします。「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「フラット・ファイル・スキーマ」フォルダーから該当するフラット・ファイル・スキーマを選択して、「OK」をクリックします。
3. 以下から適切なオプションを 1 つ選択して、実行時に Data 入力パラメーターに渡されるデータの読み取り方法を指定します。
 - a. 入力データがデコードの不要なテキストである場合は、「データはテキスト - デコード不要」オプションを選択します。
 - b. 入力データが、指定されたエンコード・タイプを使用してデコードする必要があるバイナリー・データである場合は、「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」オプションを選択します。以下のいずれかのオプションを使用して、エンコード・タイプを設定します。
 - 「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」リストで、デフォルト・エンコード・タイプを 1 つ選択します。

- 「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコード」フィールドをクリックし、エンコード・タイプを入力します。
4. 「OK」をクリックします。

親トピック: 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティ

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_Flat_File_Activity_Configuration.html

「フラット・ファイルの読み取り」の入力のマップ

フラット・ファイル・データを含む文字列変数を、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの Data という入力パラメーターにマップできます。

このタスクについて

Data は、string 型または base64Binary 型の入力パラメーターです。実行時、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの実行前に、この文字列変数にフラット・ファイル・データが含まれている必要があります。詳細については、次の実行時の例を参照してください。

Encoding 入力パラメーターはオプションです。この入力パラメーターをマップする必要はありません。Encoding 入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインにリストされていない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、「アクティビティへ」ペインを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

Encoding 入力パラメーターは、読み取り時に入力データをデコードする方法を指定します。

手順

- デコードが不要な場合は、文字列 `text` を指定します。
- デコードが必要な場合は、入力データのデコードに使用するエンコード・タイプを指定します。例: UTF-8、US-ASCII、ISO-8859-1、EBCDIC-XML-US、または SHIFT_JIS。

例


オプションで、実行時に「チェックリスト」の「構成」タスクで動的に指定した Encoding 設定を、Encoding 入力パラメーターを使用してオーバーライドできます。例えば、「構成」タスクで Encoding が UTF-8 に設定されているにも関わらず、実行時に Encoding の設定として Shift_JIS が渡されたとします。実行時に動的に指定された Encoding 設定は、「構成」ペインで指定した元の設定をオーバーライドします。この例では、Encoding は Shift_JIS に設定されます。この動的オーバーライド動作には 1 つ例外があります。「構成」タ

スクで「Data はテキスト - デコードもエンコードも不要 (Data is text-Needs no decoding or encoding)」オプションが選択された場合、実行時に動的に設定された Encoding は無視され、デコードは行われません。

マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Read_Flat_File_Map_Inputs.html

「フラット・ファイルの読み取り」の出力のマップ

XML データ (ストリングとして保管された) を含む Xml 出力パラメーターを、指定されたフラット・ファイル・スキーマで有効な変数にマップできます。

このタスクについて

マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

実行時の例

実行時、オーケストレーションは以下の一連のアクティビティを呼び出すことができます。

手順

1. 「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティは、フラット・ファイルの内容を *flatFileRawContent* というストリング変数に割り当てます。
2. 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティは、*flatFileRawContent* 変数の内容を Data というストリング入力パラメーターに割り当てます。
3. 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティは、フラット・ファイルを XML データに変換し、出力パラメーターを介して、XML データをオーケストレーションに返します。出力パラメーターの内容が、フラット・ファイル・スキーマで有効な変数に割り当てられます。

次のタスク

オーケストレーションでの「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの使用例については、「[Getting Started Guide](#)」の『[Developing a Simple Project](#)』を参照してください。

親トピック: [「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティ

「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティは、オーケストレーションからのデータを、指定されたフラット・ファイル・スキーマで有効なフラット・ファイル・データ (非 XML データ) に変換します。

このタスクについて

フラット・ファイル・データは、ストリング出力パラメーターとして返されます。オーケストレーションからのデータは、タイプの異なる複数の変数から取得できます。例えば、オーケストレーションからのデータには、2つの異なる XML スキーマで有効な XML データの2つのセットと、1つのストリングが含まれる場合があります。

フラット・ファイル (非 XML) データには、コンマ区切り値 (.csv) およびその他のタイプの区切り文字で区切られたファイルに加えて、多くの EDI システムを構成する固定長テキスト・ファイルが含まれます。

「構成」タスクの「フラット・ファイル・スキーマの選択」フィールドでフラット・ファイルを選択するには、フラット・ファイル・スキーマを作成する必要があります。詳しくは、『[フラット・ファイル・スキーマの作成](#)』を参照してください。

オーケストレーションに「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティを追加するには、以下のようになります。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。詳しくは、『[オーケストレーションの作成](#)』を参照してください。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
 2. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
 3. 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
 4. 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティを選択し、『[「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティ構成](#)』の説明に従って、アクティビティを構成します。
- 「[フラット・ファイルの書き込み](#)」アクティビティ構成
アウトバウンド・データに適用する必要があるフラット・ファイル・スキーマを指定できます。
 - 「[フラット・ファイルの書き込み](#)」マップの入出力
オーケストレーションの変数からのデータを、「構成」タスクで指定されたフラット・ファイル・スキーマで定義された Xml 入力パラメーターにマップすることができます。

親トピック: [変換アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティ構成

アウトバウンド・データに適用する必要があるフラット・ファイル・スキーマを指定できます。

始める前に

このタスクを開始する前に、[フラット・ファイル・スキーマを作成する](#)必要があります。

このタスクについて


入力パラメーターに適用するフラット・ファイル・スキーマを指定できます。「構成」タスクを完了するには、以下のようにします。

手順

1. 「フラット・ファイル・スキーマの選択」フィールドで、「参照...」をクリックします。「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「フラット・ファイル・スキーマ」フォルダーから該当するフラット・ファイル・スキーマを選択して、「OK」をクリックします。
3. 以下から適切なオプションを1つ選択して、実行時に Data 出力パラメーターから返されるデータの書き込み方法を指定します。
 - a. 出力データがエンコードの不要なテキストである場合は、「データはテキスト - デコードもエンコードも不要 (Data is text-Needs no decoding or encoding)」オプションを選択します。
 - b. 出力データが、指定されたエンコード・タイプを使用してエンコードする必要があるバイナリー・データである場合は、「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコードまたはエンコード (Decode or encode data using encoding type)」オプションを選択します。以下のいずれかのオプションを使用して、エンコード・タイプを設定します。
 - 「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコードまたはエンコード」リストで、デフォルト・エンコード・タイプを1つ選択します。
 - 「次のエンコード・タイプを使用してデータをデコードまたはエンコード (Decode or encode data using encoding type)」フィールドを直接クリックし、エンコード・タイプを入力します。
4. 「OK」をクリックします。

親トピック: [「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Write_Flat_File_Activity_Configuration.html

「フラット・ファイルの書き込み」マップの入出力

オーケストレーションの変数からのデータを、「構成」タスクで指定されたフラット・ファイル・スキーマで定義された Xml 入力パラメーターにマップすることができます。

このタスクについて

Encoding 入力パラメーターはオプションです。この入力パラメーターをマップする必要はありません。「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインで Encoding 入力パラメーターがリストされない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

Encoding 入力パラメーターは、出力データのエンコード方法を指定します。

手順

- エンコードが不要な場合は、文字列 `text` を指定します。
- エンコードが必要な場合は、出力データのエンコードに使用するエンコード・タイプを指定します。例えば、UTF-8、US-ASCII、ISO-8859-1、EBCDIC-XML-US、または SHIFT_JIS を指定します。

例

オプションで、実行時に「チェックリスト」の「構成」タスクで動的に指定した Encoding 設定を、Encoding 入力パラメーターを使用してオーバーライドできます。例えば、「構成」タスクで Encoding が UTF-8 に設定されているにも関わらず、実行時に Encoding の設定として `Shift_JIS` が渡されたとします。実行時に動的に指定された Encoding 設定は、「構成」ペインで指定したオリジナル設定をオーバーライドします。この例では、Encoding は `Shift_JIS` に設定されます。この動的オーバーライド動作には 1 つ例外があります。「構成」タスクで「データはテキスト - デコードもエンコードも不要 (Data is text-Needs no decoding or encoding)」オプションが選択された場合、実行時に動的に設定された Encoding は無視されます。

マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: 「[フラット・ファイルの書き込み](#)」アクティビティー


「フラット・ファイルの書き込み」マップ出力

フラット・ファイル・データを含む Data 出力パラメーターを文字列変数にマップすることができます。

このタスクについて

マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

「XSLT の適用」 アクティビティ

「XSLT の適用」 アクティビティは、指定された XSLT スタイル・シートを使用して、ある XML 変数に格納された XML データを別の XML 変数に格納された XML データに変換するために使用できます。

このタスクについて

「XSLT の適用」 アクティビティは、指定された XSLT スタイル・シートを使用して、ある XML 変数に格納された XML データを別の XML 変数に格納された XML データに変換します。XSLT スタイル・シートは Studio の外部で作成されます。

例えば、ある XML スキーマに対して有効な XML データを、別の XML スキーマに対して有効な XML データに変換する XSLT スタイル・シートがある場合、この XSLT スタイル・シートを呼び出す「XSLT の適用」アクティビティを作成して、実行時にオーケストレーション内でこの変換を実行できます。

「XSLT の適用」 アクティビティを作成するには、次のようにします。

手順

1. XSLT スタイル・シートをプロジェクトに[アップロード](#)します。
2. 入力および出力 XML 変数を定義する XML スキーマまたは DTD ファイルを[アップロード](#)します。
3. 以下の 2 つの XML 変数を[作成](#)します。
 - o XML スキーマまたは DTD に基づく入力 XML データを保持する変数
 - o 別の XML スキーマまたは DTD に基づく出力 XML データを保持する変数
4. 「XSLT の適用」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
 - a. オーケストレーションを[作成](#)するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
 - b. 「アクティビティ」タブを選択して、「変換」フォルダーを展開します。
 - c. 「XSLT の適用」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
5. 「XSLT の適用」アクティビティを構成します。
 - a. 「スタイル・シートの選出」タスクで、「スタイル・シート」フィールドの「参照」をクリックします。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 適切なスタイル・シートを選択して、「OK」をクリックします。スタイル・シートが表示されず。
 - c. 「チェックリスト」で、「入力および出力の設定」を選択します。
 - d. 「入力」ペインで「参照」を選択します。「変数の選択」ペインが表示されます。
 - e. 変数を選択し、「OK」をクリックします。
 - f. 「出力」ペインで「参照」を選択します。「変数の選択」ペインが表示されます。
 - g. 変数を選択し、「OK」をクリックします。

親トピック: [変換アクティビティ](#)

ロジック・アクティビティー

- **ロジック・アクティビティーの概要**

ロジック・アクティビティーは、オーケストレーションのフローを制御します。

- **「終了」アクティビティー**

「終了」アクティビティーは、現在のブランチ内のそれ以降のすべてのオーケストレーション・ジョブ処理を停止します。

- **「選出」アクティビティー**

「選出」アクティビティーは、実行時に行ったアクションに基づいて起動するスターター・アクティビティーを決定します。

- **「If..Then」アクティビティー**

「If..Then」アクティビティーは If ブランチ内の Where 式をテストして、「If..Then」アクティビティーのどのブランチを実行するかを決定します。

- **「Try」アクティビティー**

「Try...」アクティビティーは、メインの Try ブランチでアクティビティー (複数可) を実行しようとしません。

- **「グループ」アクティビティー**

このアクティビティーは、オーケストレーション内のアクティビティーのセットをグループ化するために使用します。グループにすることで、アクティビティーのブロックを 1 つのエンティティーとして名前を付け、コメントを追加し、省略表示できます。

- **While ループ・アクティビティー**

「While ループ」アクティビティーは、関連アクティビティーを開始し、指定された条件が true と評価される限り、その処理を続行します。

- **For Each アクティビティー**

「For Each」アクティビティーは変数の繰り返しエレメントを反復し、各繰り返しサイクル中に他のアクティビティーも実行します。

- **Split アクティビティー**

「Split」アクティビティーは「For Each」アクティビティーのバリエーションで、これを使用すると、非常に大きいメッセージを分割してパフォーマンスを向上させることができます。

- **「ループのブレイク」アクティビティー**

実行時に、「ループのブレイク」アクティビティーが処理されるときに、プロセス・フローは現在の「ループ」アクティビティーからブレイクし、オーケストレーションの次のアクティビティーまで続きます。

- **「継続」アクティビティー**

「継続」アクティビティーは、ループ内の次の処理対象項目にジャンプし、一般には「If..Then」アクティビティーの If の後に置かれます。

- **「If..Then」アクティビティーへのブランチの追加**

「If..Then」アクティビティーは、さまざまな条件を処理する複数のブランチをサポートします。

- **ブランチの移動**

ブランチの位置は、「If..Then」アクティビティーまたは「選出」アクティビティー内で変更できます。

- **条件の定義**


「If..Then」アクティビティーおよび「While Loop」アクティビティー内で条件を指定して、オーケストレーションがそのブランチの処理を続行するために合致する必要がある基準を定義できます。

- **基本条件構文**

XPath 式の評価に使用できる条件には、さまざまなタイプがあります。

- [bpws:getVariableData 関数](#)
変数データにアクセスするための条件を作成するには、bpws:getVariableData 関数を使用します。
- [基本 XPath 式](#)
XPath 式は、データにアクセスするために、または条件を満たしたかどうかを判別するために、メッセージまたは変数内の 1 つ以上のノードを識別する必要がある場合に、オーケストレーションおよびフラット・ファイル・スキーマ定義で使用されます。
- [XPath 式のテスト](#)
XPath エバリュエーターを使用して、テスト XML 文書に対して XPath 式をテストします。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_logicactivities.html

ロジック・アクティビティの概要

ロジック・アクティビティは、オーケストレーションのフローを制御します。


論理アクティビティは、次の表に示されている機能を提供します。

アクティビティ	説明
ループの中断 (Break Loop)	「For Each」、「Split」、または「While ループ」アクティビティを中断します。
続行	「For Each」、「Split」、または「While ループ」アクティビティで処理する次の項目へジャンプします。
For Each	変数の反復ノード全体を繰り返し、各反復サイクル中に 1 つ以上のアクティビティを実行します。
If..Then	条件に基づいてメッセージを異なるブランチに経路指定します。
選出	1 つ以上のアクティビティからメッセージを受信し、それらの 1 つを選択して、オーケストレーションを開始します。
Split アクティビティ	変数の反復セクション全体を繰り返し、各反復サイクル中に 1 つ以上のアクティビティを実行します。「Split」アクティビティは「For Each」アクティビティのバリエーションで、これを使用すると、非常に大きいメッセージを分割してパフォーマンスを向上させることができます。
終了	現行オーケストレーション・ジョブのそれ以降の処理をすべて停止します。

アクティビティ	説明
「Try」アクティビティ...	メインの「試行」 ブランチでアクティビティ (複数可) の実行を試行します。メインの「Try」 ブランチでのアクティビティ (複数可) の実行時に例外が発生した場合は、「CatchAll」 ブランチが実行されます。
While ループ	子アクティビティを開始し、指定された条件が true である間はそのアクティビティの処理を続けます。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Logic_Activities_Overview.html

「終了」アクティビティ


「終了」アクティビティは、現在のブランチ内のそれ以降のすべてのオーケストレーション・ジョブ処理を停止します。

このタスクについて

このアクティビティは一般に、エラー発生後のオーケストレーション処理を停止するために、「If..Then」アクティビティの If および Else ブランチで使用されます。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Terminate_Activity.html

「選出」アクティビティ

「選出」アクティビティは、実行時に行ったアクションに基づいて起動するスターター・アクティビティを決定します。

このタスクについて

例えば、「選出」アクティビティに3つのブランチがあり、1つには「挿入済み行の取得」アクティビティ、もう1つには「削除済み行の取得」アクティビティ、および残りの1つには「更新済み行の取得」アクティビティが含まれているとします。データベース上で更新イベントが起きた場合、オーケストレーションのインスタンスが作成され、「更新済み行の取得」アクティビティを含むブランチが呼び出されます。

「選出」アクティビティをオーケストレーションに追加した場合、2つの受信ブランチが自動的に追加されます。さらに別の receiveEvent ノードを「選出」アクティビティに追加することができます。「選出」アクティビティは常にスターター・アクティビティであり、「選出」アクティビティの各ブランチでは、最初のアクティビティはスターター・アクティビティでなければなりません。

受信ブランチには、receiveEvent ノードと空のプレースホルダーが含まれます。各メッセージは、その特定のメッセージを処理する他のアクティビティを含めることができる受信ブランチで定義されます。

受信操作を「選出」アクティビティの一部としたい場合には、受信ブランチを削除します。受信ノードを削除すると、受信ブランチ全体が除去されます。

重要: 変数が「選出」アクティビティのすべてのブランチで初期化されていない場合、その変数は「選出」アクティビティの有効範囲外では使用できません。すべてのブランチで初期化されていない変数を「選出」アクティビティの有効範囲外で使用しようとすると、オーケストレーションは無効という結果になります。例えば、「選出」アクティビティには2つのブランチがあり、1つには「更新済み行の取得」アクティビティ、もう1つには「挿入済み行の取得」アクティビティが含まれているとします。「更新済み行の取得」アクティビティは、データを updateResult という名前の変数に返し、「挿入済み行の取得」アクティビティは、データを insertResult という名前の変数に返します。それらの変数は、「選出」アクティビティ内でのみ使用でき、オーケストレーション内のその「選出」アクティビティの後に続くアクティビティでは使用できません。各アクティビティの出力が同じスキーマをベースにしている場合でも、両方のアクティビティが初期化する1つの変数を定義できます。「選出」アクティビティ内のすべてのブランチがその変数を初期化する場合、変数の有効範囲には「選出」アクティビティの後のすべてのアクティビティが含まれ、「選出」アクティビティの有効範囲に限定されません。

「選出」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「選出」アクティビティを、「アクティビティ」タブの Logic フォルダーからオーケストレーション上にドラッグします。
2. インバウンド・アクティビティまたは「ジョブ・スケジュール」アクティビティを選択し、それを receiveEvent プレースホルダー上にドラッグします。
3. アクティビティをブランチに追加するには、アクティビティを空のプレースホルダーにドラッグします。

条件ブランチの追加、編集、または削除

「選出」アクティビティは、複合条件を処理するいくつかのブランチを持つことができます。

ブランチを「選出」アクティビティに追加するには、以下のようになります。

1. Pick ノードをクリックします。
2. リストから「受信ブランチの追加」を選択します。

ブランチまたはアクティビティの名前を編集するには、以下のステップを実行します。

1. アクティビティーまたはブランチを選択します
2. リストから「編集」を選択します。名前がボックス内に表示されます。
3. 現行名を選択し、次いで新規名を入力します。
4. Enter キーを押します。


アクティビティーまたはブランチを削除するには、以下のステップを実行します。

1. アクティビティーまたはブランチを選択します
2. リストから「削除」を選択します。

注: 条件ブランチを削除した場合、その条件ブランチ内のすべてのアクティビティーも削除されます。

親トピック: [ロジック・アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Pick_Activity.html

「If..Then」アクティビティー

「If..Then」アクティビティーは If ブランチ内の Where 式をテストして、「If..Then」アクティビティーのどのブランチを実行するかを決定します。

このタスクについて

デフォルトでは、各「If..Then」アクティビティーには If ブランチと Else ブランチが含まれています。

「If..Then」アクティビティーには、[さらに If ブランチを追加](#)できます。

If ブランチの Where 式が true に等しい場合、処理はオーケストレーションのその If ブランチから先に進みます。「If..Then」アクティビティーに複数の If ブランチが含まれている場合、それらの If ブランチ内の Where 式が順次テストされます。If ブランチ内の Where 式のいずれも条件を満たさない場合、処理は Else ブランチから先に進みます。

別の「If..Then」アクティビティーから、[ブランチをコピー](#)するか、または [Else ブランチをコピー](#)するというオプションもあります。

「If..Then」アクティビティーを使用するには、次のステップを実行します。

プロシージャ

1. 「アクティビティー」タブおよび「ロジック」フォルダーを開きます。
2. 「If..Then」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
3. 必要に応じてさらに If ブランチを追加します。
4. If および Else ブランチを構成します。

IF ブランチの構成

1. If ブランチを選択します。式ビルダーが開きます。

2. ブランチの条件を定義します。
3. アクティビティを、「アクティビティ」タブから空のプレースホルダー上にドラッグします。

Else ブランチの構成

1. アクティビティを、「アクティビティ」タブから空のプレースホルダー上にドラッグします。

If ノードのコピーと貼り付け

1. If ブランチをクリックして、リストから「コピー (Copy)」を選択します。
2. オーケストレーションで「If..Then」アクティビティをクリックして、リストから「貼り付け」を選択します。

注: If および Else ブランチは、「If..Then」アクティビティの外部に貼り付けることはできません。If ブランチを Else ブランチと置き換えることはできません。

Else ノードのコピーと貼り付け

Else ブランチは、「If..Then」アクティビティにまだ Else ブランチが含まれていない場合にのみ、「If..Then」アクティビティ内に貼り付けることができます。

1. Else ブランチをクリックして、リストから「コピー (Copy)」を選択します。
2. 「If..Then」アクティビティをクリックして、リストから「貼り付け」を選択します。

ブランチの追加

1. 「If..Then」アクティビティをクリックして、「Add If」を選択します。
2. ブランチの条件を定義し、アクティビティを定義します。

アクティビティまたはブランチの編集

1. 既存のプロパティを編集するアクティビティまたはブランチを選択します。
2. リストから「編集」を選択します。


アクティビティまたはブランチの削除

1. 既存のプロパティを編集するアクティビティまたはブランチを選択します。
2. リストから「削除」を選択します。

注: 条件ブランチを削除した場合、その条件ブランチ内のすべてのアクティビティも削除されます。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Switch_Activity.html

「Try」 アクティビティ

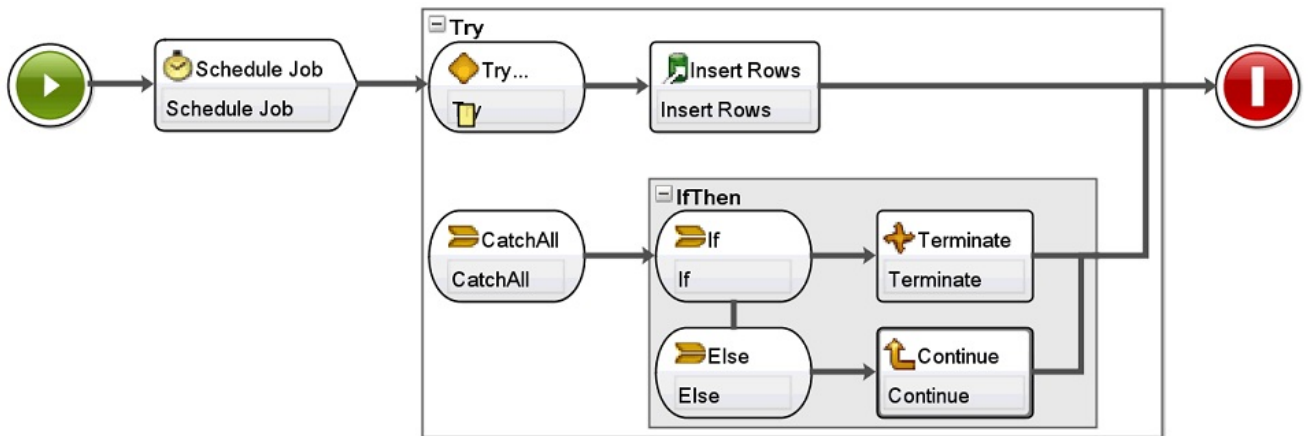
「Try...」 アクティビティは、メインの Try ブランチでアクティビティ (複数可) を実行しようとします。

このタスクについて

メインの「Try」 ブランチでのアクティビティ (複数可) の実行時に例外が発生した場合は、「CatchAll」 ブランチが実行されます。

バックグラウンドでマウスを右クリックすると、新しい「CatchAll」 ブランチが作成されます。

例えば、メインの Try ブランチは「データベース: 行の挿入 (Database Insert Rows)」 アクティビティを呼び出すことができます (次の図を参照)。



「データベース: 行の挿入 (Database Insert Rows)」 アクティビティが失敗して例外をスローした場合は、CatchAll ブランチ内のアクティビティ (複数可) が実行されます。このオーケストレーション例では、「データベース: 行の挿入 (Database Insert Rows)」 アクティビティによって例外がスローされると、「終了」アクティビティが実行され、現在のオーケストレーション・ジョブは終了します。

「Try...」 アクティビティを追加および構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブおよび「ロジック」フォルダーを開きます。
2. 「Try...」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。「Try...」アクティビティが以下のブランチとともに表示されます。
 - Try... ブランチ
 - CatchAll ブランチ

最初の CatchAll ブランチの作成時には、以下の変数が自動的に作成されます。

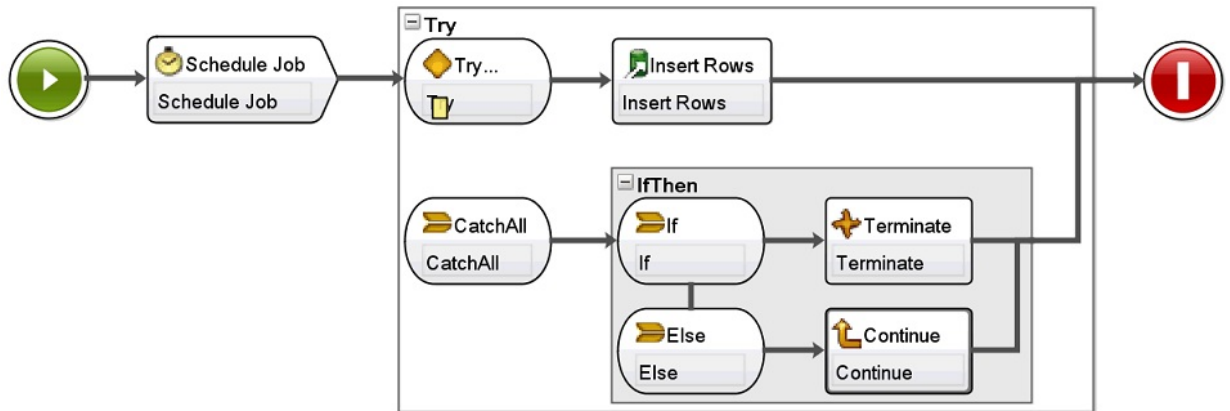
- faultName - 実行時、faultName 変数には、Try ブランチのアクティビティからスローされた例外の名前が含まれます。
- faultData - 実行時、faultData 変数には、例外に関連するエラー・メッセージが含まれます。この追加情報が返されるのは、現時点では Web サービス・アクティビティの場合に限られます。Web サービス・アクティビティでは、faultData 変数に障害が含まれます。
- faultInfo - 実行時、faultInfo 変数は以下のノードを返します。
 - name - 実行時、faultInfo/name ノードには、Try ブランチのアクティビティからスローされた例外の名前が含まれます。faultInfo/name ノードは、xsd:QName 型です。
 - message - 実行時、faultInfo/message ノードには、例外に関連するエラー・メッセージが含まれます。faultInfo/message ノードは、xsd:string 型です。

- activityId - 実行時に、例外が発生したアクティビティを一意的に識別するアクティビティ ID が faultInfo/activityId ノードに含まれます。 faultInfo/activityId ノードは、xsd:int 型です。
- activityName - 実行時に、例外が発生したアクティビティの名前が faultInfo/activityName ノードに含まれます。 faultInfo/activityName ノードは、xsd:string 型です。
- faultTime - 実行時、faultInfo/faultTime ノードには、エラーが発生した時刻が含まれません。 faultInfo/faultTime ノードは、xsd:dateTime 型です。

注: アクティビティから faultName 変数と faultInfo/name ノードに返される例外名は、今後のリリースで変更される可能性があります。

3. Try... ブランチと CatchAll ブランチを構成するには、「アクティビティ」タブのアクティビティを「Try...」アクティビティのブランチにドロップします(上および下の図を参照)。

重要: faultName、faultData、faultInfo の各変数のスコープは、「Try...」アクティビティの CatchAll ブランチに限定されています。このスコープ制限からすると、これらの変数の値が有効であることが保証されているのは、CatchAll ブランチの中に限られます。例えば、faultName 変数の値をテストする「If...Then」アクティビティを追加する場合は、次の図にあるように、その「If...Then」アクティビティを、「Try...」アクティビティの CatchAll ブランチ内部に配置する必要があります。



親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_try_activity.html

「グループ」アクティビティ

このアクティビティは、オーケストレーション内のアクティビティのセットをグループ化するために使用します。グループにすることで、アクティビティのブロックを1つのエンティティとして名前を付け、コメントを追加し、省略表示できます。

このタスクについて

グループに CatchAll ブランチを追加すると、アクティビティのグループ内で例外が発生した場合に、CatchAll ブランチが実行されます。


「グループ」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. Studio ツールボックスで、「アクティビティ」タブをクリックします。
2. Logic ディレクトリーを展開します。
3. 「グループ」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. オプション: CatchAll ブランチを追加します。
 - a. 「グループ」アクティビティを右クリックします。オプション・メニューが開きます。
 - b. 「catchAll ブランチの追加」を選択します。「グループ」アクティビティに CatchAll ブランチが表示されます。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Group_Activity.html

While ループ・アクティビティ

「While ループ」アクティビティは、関連アクティビティを開始し、指定された条件が true と評価される限り、その処理を続行します。

このタスクについて

While ループ・アクティビティを定義するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「while ループ」アクティビティを、「アクティビティ」タブの「ロジック (Logic)」フォルダーからオーケストレーション上にドラッグします。「[式ビルダー](#)」が表示されます。
2. 式ビルダーを使用して、「while ループ」アクティビティの[条件を定義](#)します。ループを確実に終了させるには、false に評価される条件を定義する必要があります。指定した条件を反復するために必要な変数は、自動的に作成されます。
3. アクティビティを、「アクティビティ」タブから「While ループ」アクティビティ内の空のプレーズホルダー上にドラッグします。これは一般に、「For Each」、「While ループ」、または「Split」のいずれかです。「ループのブレイク」または「継続」アクティビティを使用して、これらのアクティビティの反復を制御します。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_While_Loop_Activity.html

For Each アクティビティ

「For Each」アクティビティは変数の繰り返しエレメントを反復し、各繰り返しサイクル中に他のアクティビティも実行します。

このタスクについて

「For Each」アクティビティをオーケストレーション上にドロップすると、Studio は以下の 2 つの変数を作成します。

- loopvalue_X - 実行時に、「For Each」アクティビティが一連の繰り返しエレメントをループすると、loopvalue_X 変数には現行エレメントの値が入ります。
- loopcounter_X - 実行時に、「For Each」アクティビティが一連の繰り返しエレメントをループすると、loopcounter_X 変数には「For Each」アクティビティによって処理された繰り返しサイクル数の現在カウントが入ります。

ここで X は、オーケストレーション上にドロップされた「For Each」アクティビティの数と等しくなります。例えば、最初の「For Each」アクティビティがオーケストレーション上にドロップされると、loopvalue_1 および loopcounter_1 という変数が作成されます。

重要: loopvalue_X および loopcounter_X 変数は、「For Each」アクティビティの外部では使用しないでください。これらの変数の有効範囲は、「For Each」アクティビティに限定されています。

「For Each」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブおよび「ロジック」フォルダーを開きます。
2. 「For Each」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
3. 「変数名」フィールドで、「For Each」アクティビティでループさせる繰り返しエレメントが含まれる変数を選択します。
4. 「エレメント名」フィールドで、[...] をクリックして、「For Each」アクティビティでループさせる繰り返しエレメントを参照します。「繰り返しエレメントの選択」ウィンドウが表示されます。
5. 繰り返しエレメントを選択して「OK」をクリックします。


タスクの結果

繰り返しエレメントを参照する XPath 式が、「エレメント名」フィールドに表示されます。「変数名」フィールドに、この「For Each」アクティビティで作成された loopvalue_X 変数が自動的に取り込まれます。生成された XPath 式は、「エレメント名」フィールドで編集できます。

他のアクティビティを For Each ループ内に追加できます。「ループのブレイク」および「継続」アクティビティを使用して、For Each ループの反復を制御します。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_For_Each_Activity.html

Split アクティビティ

「Split」アクティビティは「For Each」アクティビティのバリエーションで、これを使用すると、非常に大きいメッセージを分割してパフォーマンスを向上させることができます。

実行時に「Split」アクティビティは変数の繰り返しエレメントを反復し、反復のたびにアクティビティを処理します。「Split」アクティビティでは、各グループで返される繰り返しエレメントの数を定義しますが、一方「For Each」アクティビティでは、各グループごとに返される繰り返しエレメントは常に1つです。

「Split」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

1. 「アクティビティ」タブを開きます。
2. 「アクティビティ」タブの「ロジック (Logic)」フォルダーを開きます。
3. 「Split」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. 「要約」ペインに表示されるプロパティ・フィールドに入力します。

必要に応じて、他のアクティビティを Split ループ内に追加できます。「ループの切断」または「続行」アクティビティを使用して、Split ループの反復を制御します。

プロパティ


「Split」アクティビティでこれらのフィールドを完成させるには、以下のようにします。

フィールド	説明
アクティビティ名	アクティビティの名前を指定します。
変数名	オーケストレーションに定義されている変数のリストを表示します。ループさせる繰り返しエレメントを含む変数を選択します。
エレメント名	ループさせる繰り返しエレメントを指定します。繰り返しエレメントを参照するには、[...] をクリックします。「繰り返しエレメントの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。繰り返しエレメントを選択して「OK」をクリックします。繰り返しエレメントを参照する XPath 式が、「エレメント名」フィールドに表示されます。生成された XPath 式は、「エレメント名」フィールドで編集できます。

フィールド	説明
ループごとに __ 個の繰り返しエレメントを返す (Return __ Recurring Elements Per Loop)	各ループで返される繰り返しエレメントの数を指定します。繰り返しエレメントは、loopvalue_X 変数に保管されます。
結果を保管する変数	
変数名	各ループで返される繰り返しエレメントのセットを保持する変数を指定します。「変数名」フィールドには、このアクティビティーで自動的に作成される loopvalue_X 変数が取り込まれます。 重要: loopvalue_X 変数は、「Split」アクティビティーの外では使用しないでください。これらの変数の有効範囲は、「Split」アクティビティーに限定されています。

親トピック: [ロジック・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_split_activity.html

「ループのブレイク」アクティビティー

実行時に、「ループのブレイク」アクティビティーが処理されるたびに、プロセス・フローは現在の「ループ」アクティビティーからブレイクし、オーケストレーションの次のアクティビティーまで続きます。

このタスクについて

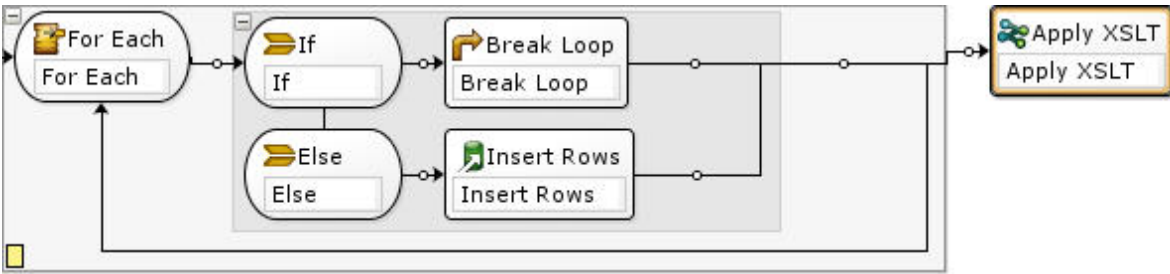
「ループの切断」アクティビティーは、ループ・アクティビティー「For Each」、「Split」、「while ループ」のいずれかでのみ使用できます (以下の例を参照)。

ブレイク・アクティビティーを使用する場合

プロシージャ

- 「アクティビティー」タブおよび「ロジック」フォルダーを開きます。
- 「For Each」、「Split」、または「while ループ」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
- 「ループのブレイク」アクティビティーを「ループ」アクティビティーにドロップします。これについては続く例で示しています。
 - 条件が真の場合にループからブレイクするには、例 1 を参照してください。
 - 1 回の反復の後にループからブレイクするには、例 2 を参照してください。

例 1 - 条件が真の場合にループからブレイク



1. 「If..Then」アクティビティを、セットアップした「ループ」アクティビティにドラッグします (上の図を参照)。
2. 「アクション」アクティビティ (例えば、「行の挿入」アクティビティ) を、Else ノードの右にある空のプレースホルダー上にドラッグします。
3. アクション・アクティビティを構成します。
4. If ノードをクリックして、「式ビルダー」に条件を入力します。
5. 「ループの切断」アクティビティを If ノードの右にある空のプレースホルダー上にドラッグします。

実行時に、以下のようにします。

- 「If」アクティビティの条件が true に評価される場合、ループのブレイクは「ループ」アクティビティを終了します。
- 「If」アクティビティの条件が false に評価される場合、Else ブランチが呼び出され、アクション・アクティビティ (例えば「行の挿入」アクティビティ) が実行されます。

例 2 - 1 回の反復の実行後にループからブレイク



1. アクション・アクティビティ (例えば、「行の挿入」アクティビティ) を、選択した「ループ」アクティビティの内側の空のプレースホルダー上にドラッグします。
2. アクション・アクティビティを構成します。
3. 「ループのブレイク」アクティビティを、「ループ」アクティビティの内側の空のプレースホルダー上にドラッグします。

実行時に、以下のようにします。

- アクション・アクティビティ (例えば、「行の挿入」アクティビティ) は、「ループのブレイク」が「ループ」アクティビティを終了する前に一度だけ実行します。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Break_Loop_Activity.html

「継続」 アクティビティー

「継続」 アクティビティーは、ループ内の次の処理対象項目にジャンプし、一般には「If..Then」 アクティビティーの If の後に置かれます。

このタスクについて

「続行」 アクティビティーは、ループ・アクティビティー「For Each」、「Split」、「while ループ」のいずれかの内部でのみ使用できます。

「続行」 アクティビティーを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティー」 タブおよび「ロジック」 フォルダーを開きます。
2. 「For Each」、「Split」、または「while ループ」 アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
3. 「ループ」 アクティビティーを、処理を続行するようにセットアップします。これについては続く例で示しています。

例 - 条件が true の場合に処理を続行する


- a. 「If..Then」 アクティビティーを、ステップ 1 でセットアップした「ループ」 アクティビティーにドラッグします。
- b. 「アクション」 アクティビティー (例えば、「行の挿入」 アクティビティー) を、If ノードの右にある空のプレースホルダー上にドラッグします。
- c. アクション・アクティビティーを構成します。
- d. If ノードをクリックして、「[式ビルダー](#)」に条件を入力します。
- e. 「継続」 アクティビティーを Else ノードの右にある空のプレースホルダー上にドラッグします。

実行時に、以下のようにします。

- If の条件が true に評価される場合、アクション・アクティビティーは実行します。
- If の条件が false に評価される場合、Else ブランチの「継続」 アクティビティーは実行し、「ループ」 アクティビティーの次の項目にジャンプします。

親トピック: [ロジック・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Continue_Activity.html

「If..Then」 アクティビティーへのブランチの追加

「If..Then」 アクティビティーは、さまざまな条件を処理する複数のブランチをサポートします。

このタスクについて


さらに If および Else ブランチを追加するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「If..Then」アクティビティをオーケストレーションで選択します。
2. 以下のいずれかのオプションを右クリックして選択します。
 - Add If - 別の条件付きブランチを追加します。
 - Add Else - メッセージが If 文のどの条件とも一致しない場合に使用する、最終のキャッチ・オール・ブランチを追加します。(このオプションは、Else ブランチが表示されていない場合にのみ選択可能です。)
 - 「If」アイコンをダブルクリックして、ブランチの名前を入力します。
 - 式ビルダーを使用して、ブランチの条件を定義します。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Adding_Case_Conditions_to_the_Switch_Activity.html

ブランチの移動

ブランチの位置は、「If..Then」アクティビティまたは「選出」アクティビティ内で変更できます。

このタスクについて

ブランチを「If..Then」アクティビティまたは「選出」アクティビティ内で移動させるには、以下のステップを実行します。

手順

1. 移動したいブランチを選択します。「If..Then」アクティビティの場合、If ノードの 1 つを選択し、「選出」アクティビティの場合、receiveEvent ノードの 1 つを選択します。
2. ブランチを移動させるには、以下のいずれかのアクションを使用します。
 - ツールバー・メニューから、「オーケストレーション」 > 「上へ移動」または「オーケストレーション」 > 「下へ移動」を選択します。
 - ブランチを右クリックし、リストから「上へ移動」または「下へ移動」を選択します。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Moving_Branches.html

条件の定義

「If..Then」アクティビティおよび「While Loop」アクティビティ内で条件を指定して、オーケストレーションがそのブランチの処理を続行するために合致する必要がある基準を定義できます。

多くの場合、条件は、オーケストレーション内で定義されたメッセージまたは他の変数にあるデータの値をテストします。式ビルダーを使用して、条件を定義してください。

式ビルダー

式ビルダーは、「If..Then」アクティビティおよび「While Loop」アクティビティの条件を定義するために使用します。これは、オーケストレーション内の「If..Then」アクティビティまたは「While Loop」アクティビティを選択すると、「プロパティ」ペインのオーケストレーションの下に表示されます。

これらの条件は、統合アプライアンスがメッセージに対して比較する基準を記述するブール式です。実行時に、この比較の結果により、オーケストレーション全体を通じての実行パスが決定されます。式ビルダーで使用できる演算子の完全なリストについては、『[条件の有効な演算子](#)』を参照してください。式ビルダーでの条件の優先順位については、<http://www.w3.org/TR/xpath#booleans> を参照してください。

式ビルダーを使用すると、条件を追加、削除、および編集でき、それらの処理順序を変更できます。

条件を追加するには、以下のようにします。

1. 「追加」をクリックします。新しい条件が、条件の既存のリストの下に表示されます。
2. 新しい条件をリンク内の前の条件と or の関係にするには、右クリックし、ドロップダウン・リストから「or」を選択します。

条件を削除するには、以下のようにします。

- 条件を選択し、「削除」をクリックします。

条件を編集するには、以下のようにします。

- 式ビルダーでいずれかのフィールドを選択し、編集します。式ビルダーが表示されていない場合は、「ビルダーの使用」をクリックします。左側の式を編集し、演算子を選択して、右側の式を編集できます。


または

- 「拡張」をクリックして、条件を定義する XPath 式を直接編集します。詳細については、『[基本条件構文](#)』、『[基本 XPath 式](#)』、および『[bpws:getVariableData 関数](#)』を参照してください。

注: XPath エバリュエーターを使用して、XPath 式をテストします。

条件の処理順序を変更するには、以下のようにします。

- 式ビルダーで条件を選択し、上下の矢印をクリックします。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Defining_Conditions.html

基本条件構文

XPath 式の評価に使用できる条件には、さまざまなタイプがあります。

式を評価するために使用される最も一般的な演算子は = (等号) ですが、有効な XPath 演算子はいずれも使用できます。有効な XPath 演算子のリストについては、『[基本 XPath 式](#)』を参照してください。

以下の例は、XPath 式を評価するための各種条件の使用方法を示しています。

例 1: スtring・リテラルの使用

String・リテラルは、次の例のように引用符で囲む必要があります。

```
bpws:getVariableData('PatientInfo')/PV1/Department = 'ICU'
```

例 2: 変数データへのアクセス

変数データにアクセスするには、[bpws:getVariableData 関数](#)を使用します。

getVariableData 関数での String・リテラルの使用:

次の例は、2 つの変数の String・ノードを評価します。bpws:getVariableData 関数内の変数名は String・リテラルです。

```
bpws:getVariableData('PatientInfo')/PV1/Department =  
bpws:getVariableData('Orders')/PID/PtDept
```

getVariableData 関数での数値リテラルの使用:

数値リテラルを評価するには、式の片側または両側をキャストする必要があります。例:

```
number(bpws:getVariableData('PatientInfo')/PV1/Department) =  
bpws:getVariableData('Orders')/PID/PtDept
```

- または -

```
number(bpws:getVariableData('PatientInfo')/PV1/Department) =  
number(bpws:getVariableData('Orders')/PID/PtDept)
```

例 3: 数値リテラル

数値リテラルには引用符は不要です。数値リテラルを引用符で囲むと、String・リテラルに変換されます。

有効な数式の例:


```
number(bpws:getVariableData('PurchaseOrder')/PurchaseOrder/POTotal) >= 5000.00
```

無効な数式の例:

```
number(bpws:getVariableData('PurchaseOrder')/PurchaseOrder/POTotal) >= '5000.00'
```

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Basic_Condition_Syntax.html

bpws:getVariableData 関数

変数データにアクセスするための条件を作成するには、bpws:getVariableData 関数を使用します。


XPath 式と結合して、変数内の特定のノードを識別することができます。

例:

- PurchaseOrder という変数内の POTotal ノードにあるデータにアクセスするには、
bpws:getVariableData('PurchaseOrder')/PurchaseOrder/POTotal と入力します。
- ItemCount というプリミティブ変数内のデータにアクセスするには、
bpws:getVariableData('ItemCount') と入力します。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_bpws_getVariableData_Function.html

基本 XPath 式

XPath 式は、データにアクセスするために、または条件を満たしたかどうかを判別するために、メッセージまたは変数内の 1 つ以上のノードを識別する必要がある場合に、オーケストレーションおよびフラット・ファイル・スキーマ定義で使用されます。

XPath は、XML 文書内のノードまたはノードのセット (ノード・セットと呼ばれます) を識別するための文法を定義する XML 標準です。

以下のペインで生成される、デフォルトの XPath 式を編集できます。

- 「For Each」アクティビティおよび「Split アクティビティ」アクティビティの「構成」ペインでは、繰り返しエレメントを定義するための XPath 式が生成されます。「エレメント名」フィールドに表示されるデフォルト XPath 式を編集できます。
- 「While ループ」アクティビティおよび「If..Then」アクティビティの「構成」ペインでは、条件を定義するための XPath 式が式ビルダーで生成されます。「拡張」をクリックすると、表示されたデフォルト XPath 式を編集できます。

XPath 2.0 がサポートされています。

パスによるノードの選択

XPath は、URL またはローカル・ファイル・システム上のディレクトリーに類似したパスとして、XML エレメントおよび属性のロケーションを記述します。各エレメントまたは属性は、ルート・ノードで始まるツリー内のノードです。ルート・ノードにはツリー全体が含まれるため、ツリー内のノードはいずれも、ブランチまでのパスをたどることによって見つけることができます。

基本的な構文は次のとおりです。

```
/root-node/child-node/.../final-element-node
```

```
/root-node/child-node/.../final-element-node/@attribute-node
```

メッセージを記述する XML スキーマからこのパスを判別します。

XPath は、属性を識別するために、省略表現として @ シンボルを使用します。@、または attribute:: 接頭部分のないパスは、デフォルトでエレメントを識別します。例:

```
/PackingSlip/PONumber/Item
```

PackingSlip ルート・ノード内の PONumber で検出された「Item」エレメントを識別します。

ノード名および XML 名前空間

ノード名は、tns:OrderNumber や *:Item などの名前空間とともに示される場合もあります。名前のコロンまでの部分は名前空間を識別する接頭部で、コロンは名前空間とノードのローカル名を区切る文字です。

名前空間は、文書が複数のスキーマからのコンテンツを共有する際に、エレメントまたは属性を一意的に識別するために使用される XML 標準です。Cast Iron® Studio では、構成文書で使用される XML スキーマの名前空間を自動的に割り当て、管理します。

注: WSDL 定義内の各スキーマは、名前空間によって定義できます。

述部の条件に応じたノードの選択

何らかの条件に適合した時にのみノードを選択することが必要な場合があります。このような選択条件は述部と呼ばれます。

述部は次のように大括弧で囲んで定義します。

```
/PV1/PatientDepartment[text()='Nursery']
```

この式は、ノード内のデータが Nursery である場合にのみ、PatientDepartment ノードを選択します。

```
/Order/OrderDetail/Item[5]
```

この式は、OrderDetail 内の 5 番目の Item ノードを選択します。

条件の有効な演算子

XPath 式は、true または false に評価されるブール条件にすることもできます。このような式は、特定のノードを選択するため、または単に適合する必要がある条件を識別するために使用できます。式ビルダーを使用すると、条件の定義に役立ちます。式に使用できる XPath 演算子は以下のとおりです。

- = 等号
- != 不等号
- < より小
- > より大
- <= 以下
- >= 以上

XPath 式内の関数

XPath には、ノードからのデータを操作可能な関数を含めることもできます。これは、何らかの定数テキストに加えてメッセージからの動的データを含むサブジェクト行の作成に役立ちます。XPath 関数を使用すると、スペースのトリミングや、ジョブ・キーがストリング・データ型であることの確認などの要件を処理することもできます。一般的な XPath 関数には以下のようなものがあります。

concat()

任意数のストリングとノードからのデータを、パラメーターの指定順序で結合できます。XPath パスをパラメーターとして指定できます。定数テキスト・ストリングは引用符で囲んで指定します。例:

```
concat('New Order # ',/Orders/Order/OrdNumber)
```

count()

指定するパラメーター内のノード数をカウントできます。一般的には、パラメーターは、複数のノード (PODetail の子であるすべての Item ノードなど) を識別する XPath パス式です。例:

```
count (/Orders/Order)
```

normalize-space()

すべての先行スペース文字と末尾スペース文字を入力パラメーターからトリムし、入力内のすべてのスペースを単一スペース文字および単一改行に正規化します。例:

```
normalize-space (/Job/Address/Line1)
```

number()

パラメーターを数値データ型に変換します。この関数を使用すると、ストリングを数値として扱うことができます。例:

```
number (/PurchaseOrder/POTotal)
```

string()

パラメーターをストリング・データ型に変換します。この関数を使用すると、数値ノードまたは日付ノードをストリングとして扱うことができます。例:

```
string (/PurchaseOrder/VendorID)
```

translate()

個々の文字を、最初のパラメーターで指定した他の文字に置き換えます。2番目のパラメーターは置換対象の文字(複数可)で、3番目のパラメーターは差し替える文字です。この関数は、例えばジョブ・キーをすべて大文字にする場合などに役立ちます。

```
translate (/Issue/ShortDescr,  
'abcdefghijklmnopqrstuvwxyz',  
'ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ')
```


XPath 関数の完全なリストについては、XPath 仕様 (<http://www.w3.org/TR/xpath>) を参照してください。

XPath 式のテスト

XPath エバリュエーターを使用して、XML テスト・データに対して XPath 式をテストできます。

親トピック: [ロジック・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Basic_XPath_Expressions.html

XPath 式のテスト

XPath エバリュエーターを使用して、テスト XML 文書に対して XPath 式をテストします。

「XPath エバリュエーター」ウィンドウを表示するには、「Studio」ツールバー・メニューから「ツール」 > 「XPath エバリュエーター」オプションを選択します。

XPath エバリュエーターを使用して、XML ファイルに対して XPath 式をテストすることができます。以下のペインで生成される、デフォルトの XPath 式を編集できます。

- 「For Each」アクティビティおよび「Split」アクティビティの「構成」ペインでは、繰り返しエレメントを定義するための XPath 式が生成されます。「エレメント名」フィールドに表示されるデフォルト XPath 式を編集できます。
- 「While ループ」アクティビティおよび「If..Then」アクティビティの「構成」ペインでは、条件を定義するための XPath 式が式ビルダーで生成されます。「拡張」をクリックすると、表示されたデフォルト XPath 式を編集できます。

注: XPath 2.0 がサポートされています。

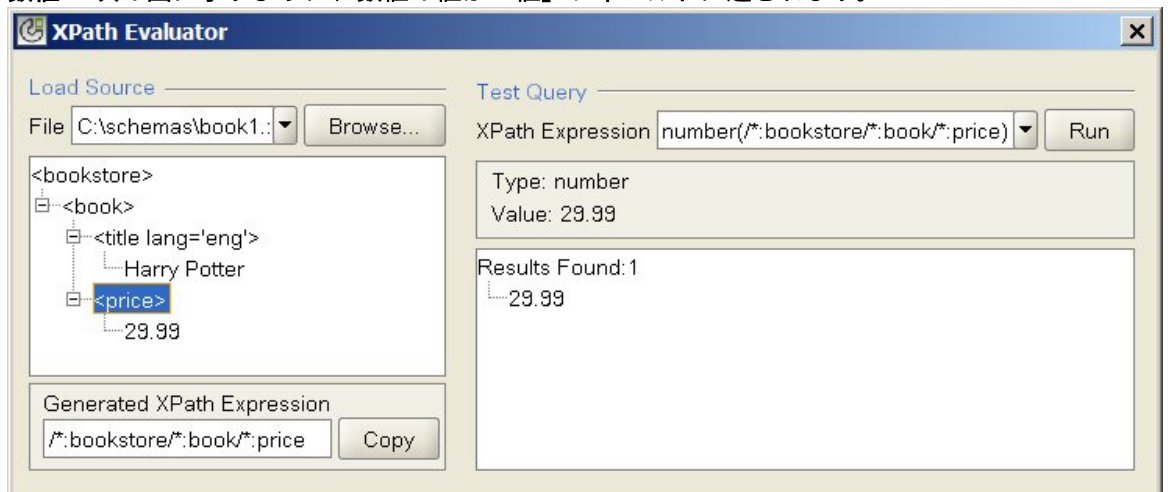
次の表に、「XPath エバリュエーター」ダイアログ・ボックスの機能の説明があります。

フィールド	説明
ファイル	選択したテスト XML ファイルのディレクトリー・ロケーションを指定します。以前にロードされた XML ファイルのセットから選択するには、下矢印を選択してください。
参照..	ファイル・システムから XML ファイルの内容をロードするには、「参照...」をクリックします。

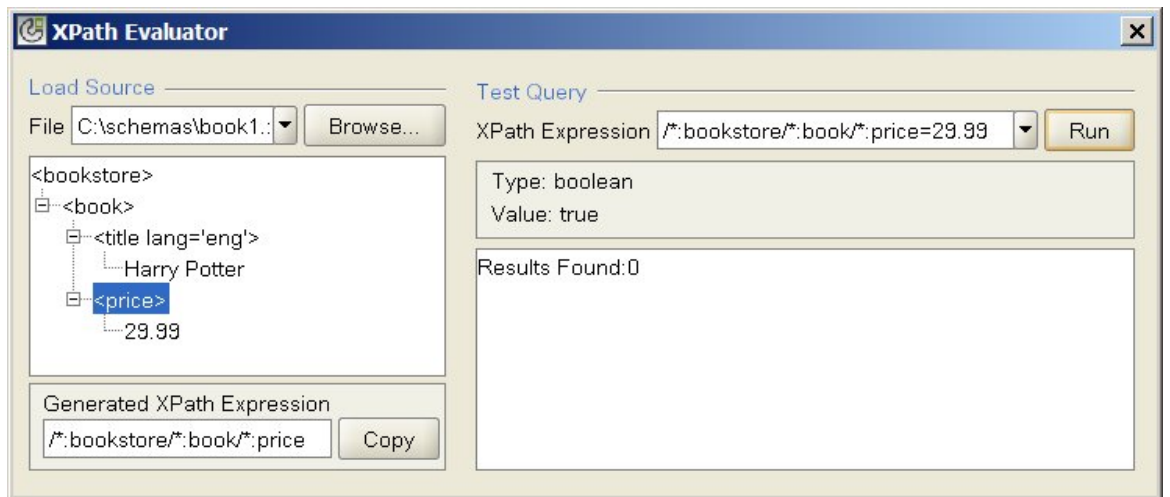
フィールド	説明
ソースのロード	テストに使用するソース XML エLEMENT のグラフィカル表現。このテキスト・ボックスにあるノードを選択すると、この XPath 式が特定の XML データに対して評価される際に、この ELEMENT のすべてのオカレンスを検出する XPath 式が生成されます。
生成された XPath 式	「ソースのロード」テキスト・ボックスで XML ELEMENT が選択された場合に生成される XPath 式。
コピー	XPath 式を「生成された XPath 式」フィールドから「XPath 式」フィールドにコピーします。
XPath 式	XML データを評価またはテストするために使用する XPath 式を指定します。
実行	ソース XML テスト・データに対して XPath 式を評価するには、「実行」を選択します。評価の結果は、ペインの右側にあるテキスト・ボックスに表示されます。

XPath 式を評価するには、以下の手順に従ってください。

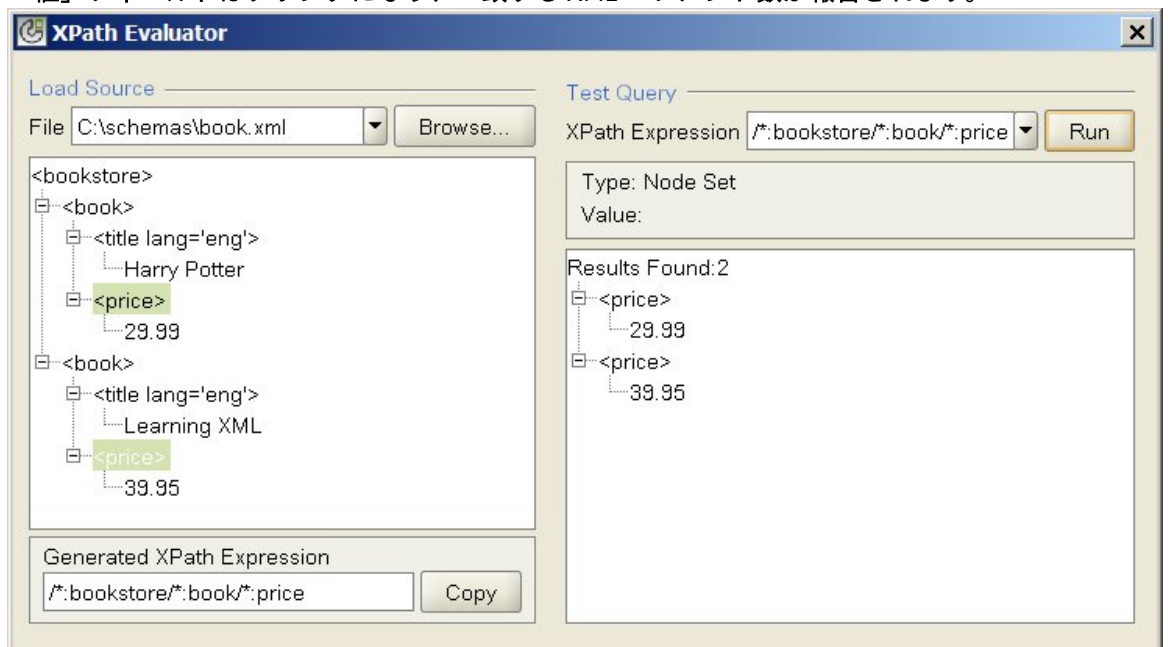
1. 「Studio」ツールバー・メニューから「ツール」 > 「XPath エバリュエーター」オプションを選択します。「XPath エバリュエーター」ウィンドウが開きます。
2. 「参照...」をクリックして、ファイル・システムからテスト XML ファイルをロードします。テキスト XML ELEMENT のグラフィカル表現が「ソースのロード」テキスト・ボックスに表示されます。
3. XPath 式を指定するには、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - XPath 式を直接、「XPath 式」フィールドに入力します。
 - 「ソースのロード」テキスト・ボックスで XML ELEMENT を選択し、「コピー」をクリックして、XPath 式を「生成された XPath 式」フィールドから「XPath 式」フィールドにコピーします。
4. 「実行」をクリックします。XPath 式に対して XML データを実行した結果が、右下のペインに表示されます。以下の型が返されます。
 - 数値 – 次の図に示すように、数値の値が「値」フィールドに返されます。



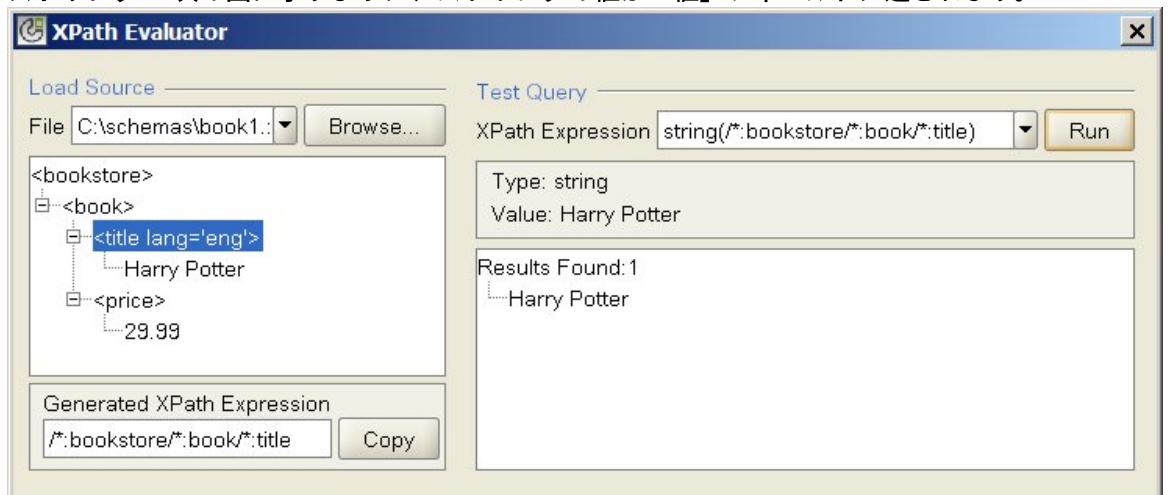
- ブール – 次の図に示すように、ブールの値が「値」フィールドに返されます。



- ノード・セット – 次の図に示すように、一致する XML エレメントが XPath 式に表示され、「値」フィールドは空白になり、一致する XML エレメント数が報告されます。



- スtring – 次の図に示すように、String の値が「値」フィールドに返されます。



親トピック: [ロジック・アクティビティー](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_testing_xpath_expressions.html

ユーティリティー・アクティビティー

- 「[ジョブ・キーの作成](#)」アクティビティー
「ジョブ・キーの作成」アクティビティーは、実行時に動的にジョブ・キーの値を設定します。
- [ジョブ・キーの作成](#)
ジョブ・キー (または ID キー) は、特定のオーケストレーション・ジョブと関連付けることができます。
- 「[ログ・メッセージ](#)」アクティビティー
「ログ・メッセージ」アクティビティーを使用すると、アラート・レベルとメッセージ・テキストを指定できます。これらは統合アプライアンス・オーケストレーション・モニター・ログおよびシステム・ログに表示されます。
- 「[ジョブのスケジュール](#)」アクティビティー
「ジョブのスケジュール」アクティビティーは、指定された日時にオーケストレーションのインスタンスを作成するスターター・アクティビティーです。

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_utilitiesactivities.html

「ジョブ・キーの作成」アクティビティー

「ジョブ・キーの作成」アクティビティーは、実行時に動的にジョブ・キーの値を設定します。

このタスクについて

オーケストレーション・ジョブを統合アプライアンス上で実行した後は、ジョブ・キーの値を、Web 管理コンソール (WMC) の「[ジョブ詳細 \(Jobs detail\)](#)」ペインで表示できます。さらに、オーケストレーション・ジョブは WMC の 1 次キーを使用して検索できます。詳しくは、WMC オンライン・ヘルプを参照してください。

「ジョブ・キーの作成」アクティビティーを作成および構成するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「ジョブ・キーの作成」アクティビティーを構成する前に、『[ジョブ・キーの作成](#)』トピックを使用してジョブ・キーを作成します。


2. 「ジョブ・キーの作成」アクティビティをオーケストレーションに追加するには、以下のようになります。
 - a. 『[オーケストレーションの作成](#)』トピックを使用してオーケストレーションを作成するか、または既存のオーケストレーションを開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
 - b. 「アクティビティ」タブを選択して、Utilities フォルダを展開します。
 - c. 「ジョブ・キーの作成」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
3. 「ジョブ・キーの作成」アクティビティを構成するには、以下のようになります。
 - a. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。
 - b. ステップ 4 および 5 の説明に従って、ジョブ・キーのデフォルト値を設定するか、または変数をジョブ・キーにマップします。
4. ジョブ・キーのデフォルト値を設定するには、以下のようになります。
 - a. 「出力のマップ」タスクの「アクティビティへ」ペインで、ジョブ・キーを右クリックして、リストから「デフォルト値の定義」を選択します。「デフォルト値の定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - b. 「デフォルト値」フィールドに必要な値を入力します。
 - c. 「OK」をクリックします。

実行時に、ジョブ・キーの値は「デフォルト値」フィールドに指定された値に設定されます。
5. 変数をジョブ・キーにマップするには、以下のようになります。
 - a. 「オーケストレーションから」ペインで、「追加」をクリックします。「変数の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。ジョブ・キーが作成されると、それらは「アクティビティへ」ペインに表示されます。
 - b. 変数を選択します。それらの変数は、実行時にジョブ・キーの値を提供します。
 - c. 「OK」をクリックします。
 - d. 各ジョブ・キーのマッピングを作成します。「オーケストレーションから」ペインで、各変数を「アクティビティへ」ペイン内の対応するジョブ・キーにドラッグします。

実行時に、ジョブ・キーの値は対応する変数の値に設定されます。

親トピック: [ユーティリティ・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Log_Keys_Activity.html

ジョブ・キーの作成

ジョブ・キー (または ID キー) は、特定のオーケストレーション・ジョブと関連付けることができます。

このタスクについて

ジョブ・キーは Studio の「ジョブ ID」ペインで作成します。「ジョブ ID」ペインを起動するには、Studio ツールバー・メニューの「オーケストレーション」 > 「プロパティ」オプションを選択します。「ジョブ ID」ペインで、ジョブ・キーの名前とタイプを定義します。1 つのジョブ・キーを、1 次キーとして指定することもできます。

実行時に、「ジョブ・キーの作成」アクティビティは、オーケストレーション・ジョブが統合アプライアンスで実行するときに、ジョブ・キーの値を動的に設定します。オーケストレーション・ジョブの完了後は、Web 管理コンソール (WMC) でジョブ・キーの値を表示できます。WMC では、キーの値を検索することもできます。その値を持つキーを含むすべてのオーケストレーション・ジョブが表示されます。

注: オーケストレーションの設計時に、一般には1つの「ジョブ・キーの作成」アクティビティのみをオーケストレーションに追加するのが最善です。オーケストレーションの最初の「ジョブ・キーの作成」アクティビティにジョブ・キーへのマップがある場合、実行時に、オーケストレーションの2番目の「ジョブ・キーの作成」アクティビティは、最初の「ジョブ・キーの作成」アクティビティにより設定されたジョブ・キーの値をリセットしません。2番目の「ジョブ・キーの作成」アクティビティのアクションは無視されます。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。詳しくは、『[オーケストレーションの作成](#)』を参照してください。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「オーケストレーション」 > 「プロパティ」を選択して、「オーケストレーション」ペインを開きます。
3. 「追加」をクリックします。デフォルト値を持つ新しいキーは、「キー」リストに追加されます。
4. 以下の表での説明どおりに、新しいジョブ・キーに構成情報を入力します。


フィールド / 列	説明
名前 (必須)	ジョブ・キーの名前を指定します。
タイプ (必須)	ジョブ・キーのタイプを指定します。
プライマリー	キーを1次キーとして指定します。1次キーとして選択できるのは1つのキーだけです。

次のタスク

キーを除去するには、除去するキーを選択して、「除去」をクリックします。

親トピック: [ユーティリティ・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/create_job_keys.html

「ログ・メッセージ」アクティビティ

「ログ・メッセージ」アクティビティを使用すると、アラート・レベルとメッセージ・テキストを指定できます。これらは統合アプライアンス・オーケストレーション・モニター・ログおよびシステム・ログに表示されます。

このタスクについて


「ログ・メッセージ」アクティビティを構成するには、このタスクを使用します。統合アプライアンス・オーケストレーション・モニター・ログおよびシステム・ログは、Web 管理コンソールから表示できます。

手順

1. Studio ツールボックスで、「アクティビティ」タブをクリックします。
2. Utilities フォルダーの内容を展開し、「ログ・メッセージ」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。「ユーティリティ・ログ・メッセージのチェックリスト (Utilities Log Message Checklist)」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. オプション: 「アクティビティ名」フィールドで説明を変更します。
5. 「入力のマップ」をクリックします。「入力のマップ」ワークスペースが表示されます。デフォルト・パラメーター (level と message) が、「アクティビティへ」列に表示されます。
6. 「入力の選択」をクリックします。オーケストレーションに関連した変数が表示されます。
ヒント: 必要な場合は、『[変数の作成](#)』の手順に従って、「ソース」列または「宛先」列にカスタム・マッピング変数を作成できます。
7. 変数を選択して、「OK」をクリックします。変数とパラメーターは、「オーケストレーションから」列に表示されます。
8. アクティビティをリンクするには、「オーケストレーションから」リストの変数を「アクティビティへ」リストにリストされているパラメーターにドラッグします。リンクを確立できる場合は、この2つがラインにより接続されます。
9. この手順を繰り返して、他のオーケストレーション変数とこのアクティビティをリンクさせます。

親トピック: [ユーティリティ・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Log_Message_Activity.html

「ジョブのスケジュール」アクティビティ

「ジョブのスケジュール」アクティビティは、指定された日時にオーケストレーションのインスタンスを作成するスターター・アクティビティです。

このタスクについて

このタスクは、「ジョブのスケジュール」アクティビティをオーケストレーションに追加するために使用します。

手順

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「ユーティリティー」フォルダーを展開します。
3. 「ジョブのスケジュール」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. 次の表の説明に従って、「構成」ペインで「スケジュール」設定を指定します。

オプション	説明
5 秒	オーケストレーションを、5 秒に一度実行するように指定します。
10 秒	オーケストレーションを、10 秒に一度実行するように指定します。
20 秒	オーケストレーションを、20 秒に一度実行するように指定します。
30 秒	オーケストレーションを、30 秒に一度実行するように指定します。
60 秒	オーケストレーションを、60 秒に一度実行するように指定します。
5 分	オーケストレーションを、5 分に一度実行するように指定します。
時	1 時間に一度、指定された時にオーケストレーションを実行することを指定します。
日	1 日に一度、指定された時にオーケストレーションを実行することを指定します。時刻は GMT タイム・ゾーンの 24 時間クロックに基づきます。
週	1 週間に一度、指定された曜日 (日曜 - 土曜) の、GMT タイム・ゾーンに基づいて指定された時刻 (24 時間クロック) にオーケストレーションを実行することを指定します。
月	1 カ月に一度、指定された日 (1 日 - 31 日) の、GMT タイム・ゾーンに基づいて指定された時刻 (24 時間クロック) にオーケストレーションを実行することを指定します。
年	1 年に一度、指定された日付 (月および日) の、GMT タイム・ゾーンに基づいて指定された時刻 (24 時間クロック) にオーケストレーションを実行することを指定します。

注: 「ジョブのスケジュール」アクティビティーは、GMT タイム・ゾーンに基づいて指定された日時にオーケストレーションを開始します。ご使用のタイム・ゾーンに応じて指定日時を調整する必要があります。

5. アクティビティーの出力をマップするには、以下のようになります。
 - a. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。時間出力パラメーターが「アクティビティーから」ペインに表示されます。これはオプション・パラメーターで、実行時に、オーケストレーションが処理を開始した日時 (XML スキーマ xsd:dateTime データ型) を返します。
 - b. 必要に応じて、時間出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

注: 2 つの異なる日付 (例えば 2011 年 2 月 13 日と 2011 年 4 月 21 日など) に開始されるオーケストレーションを作成するとします。この場合、「選出 (Pick)」アクティビティーをスターター・アクティビティーとしてオーケストレーション上にドロップし、2 つの「ジョブのスケジュール」アクティビティー (2011 年 2 月 13 日に開始されるアクティビティーと 2011 年 4 月 21 日に開始されるアクティビティー) を「選出 (Pick)」ブランチ上にドロップします。

親トピック: [ユーティリティー・アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Schedule_Activity.html

アーカイブ・アクティビティー

- 「アーカイブ」アクティビティー

「アーカイブ」アクティビティーでは、実行時に入力ファイルとディレクトリーを受け取って1つのアーカイブに追加します。「アーカイブ」アクティビティーでは、入力ファイルとディレクトリーを圧縮することもできます。オーケストレーションに「アーカイブ」アクティビティーを追加して構成したり、入力と出力を「アーカイブ」アクティビティーにマップするには、続くいくつかのトピックの手順を実行します。

- 「解凍」アクティビティー

実行時に、「解凍」アクティビティーによって、渡されたアーカイブから入力ファイルおよびディレクトリーが解凍されます。実行時に、「解凍」アクティビティーによって、アーカイブ/圧縮タイプが判別され、アーカイブが適切に解凍/圧縮解除されます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_archivesactivities.html

「アーカイブ」アクティビティー

「アーカイブ」アクティビティーでは、実行時に入力ファイルとディレクトリーを受け取って1つのアーカイブに追加します。「アーカイブ」アクティビティーでは、入力ファイルとディレクトリーを圧縮することもできます。オーケストレーションに「アーカイブ」アクティビティーを追加して構成したり、入力と出力を「アーカイブ」アクティビティーにマップするには、続くいくつかのトピックの手順を実行します。

- [「アーカイブ」アクティビティーの追加](#)
- [「アーカイブ」アクティビティーの構成](#)
- [「アーカイブ」アクティビティーの入力のマッピング](#)
- [「アーカイブ」アクティビティーの出力のマッピング](#)

親トピック: [アーカイブ・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「アーカイブ」アクティビティーの追加

このタスクについて

オーケストレーションに「アーカイブ」アクティビティーを追加するには、次のステップを実行します。


手順

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択して、「アーカイブ」フォルダーを展開します。
3. 「アーカイブ」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。「要約」タスクが表示されます。

次のタスク

「アーカイブ」アクティビティーを**構成**します。
親トピック: [「アーカイブ」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/archive_activity_adding.html

「アーカイブ」アクティビティーの構成

このタスクについて

「アーカイブ」アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」タスクが表示されます。
2. 以下の表を参考にして、フォーマット・タイプを選択します。

フォーマット	アーカイブ	圧縮	説明
--------	-------	----	----

フォーマット	アーカイブ	圧縮	説明
TAR	あり	なし	入力ファイルとディレクトリーを archive 出力パラメーターで単一値として返す前に、tar フォーマットを使用してアーカイブに保存する、という動作を指定します。戻り値は、UNIX tar -cf コマンドで生成されるアーカイブ・フォーマットに対応する値になります。このオプションを指定すると、.tar 拡張子で終わるファイルに対応する値が返されます。
TAR+GZIP	あり	あり	入力ファイルとディレクトリーを archive 出力パラメーターに単一値として返す前に、tar フォーマットでアーカイブに保存し、gzip フォーマットで圧縮する、という動作を指定します。戻り値は、UNIX tar -cf コマンドで生成されるアーカイブ・フォーマットと、GNU gzip コマンドで生成される圧縮フォーマットに対応する値になります。このオプションを指定すると、.tar.gz 拡張子で終わるファイルに対応する値が返されます。

フォーマット	アーカイブ	圧縮	説明
ZIP	あり	あり	入力ファイルとディレクトリーを archive 出力パラメーターに単一値として返す前に、.zip フォーマットで圧縮してアーカイブに保存する、という動作を指定します。戻り値は、専用の圧縮製品により生成される圧縮/アーカイブ・フォーマットに対応する値になります。このオプションを指定すると、.zip 拡張子で終わるファイルに対応する値が返されます。
GZIP	なし	あり	1つの入力ファイルを、archive 出力パラメーターに返す前に gzip フォーマットで圧縮する、という動作を指定します。戻り値は、GNU gzip コマンドで生成される圧縮フォーマットに対応する値になります。このオプションを指定すると、.gz 拡張子で終わるファイルに対応する値が返されます。

次のタスク

このアクティビティーの入力をマップします。
 親トピック: 「アーカイブ」アクティビティー

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/archive_activity_configuring.html

「アーカイブ」アクティビティーの入力のマッピング

このタスクについて

「アーカイブ」アクティビティの入力をマッピングするには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクが表示されます。「アクティビティへ」ペインに archiveEntries 入力パラメーターが表示されます。
2. archiveEntries 入力パラメーターのノードに変数を対応付けます。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。archiveEntries/entry ノードは、繰り返し出現するノードであり、それぞれの entry ノードがアーカイブの1つのファイルまたはディレクトリーに対応します。archiveEntries/entry ノードの各ノードについて以下の表で説明します。


ノード名	必須	xsd 型	説明
name	あり	string	アーカイブに追加するディレクトリーまたはファイルの名前を指定します。ファイルまたはディレクトリーがサブディレクトリーに存在する場合は、ファイル名とファイルのディレクトリー・パスを組み合わせた値を name ノードに格納する必要があります。例えば、cat というディレクトリーに存在する file1.txt というファイルの場合は、cat/file1.txt という値を指定します。
datetime	なし	dateTime	アーカイブに追加するファイルまたはディレクトリーの作成日時を指定します。
isdirectory	なし	boolean	現行のエンティティーがディレクトリーであるのかファイルであるのかを指定します。 <ul style="list-style-type: none">○ true は、エンティティーがディレクトリーであることを指定します。○ false は、エンティティーがファイルであることを指定します。

ノード名	必須	xsd 型	説明
content	なし	base64Binary	ファイルまたはディレクトリーの内容を指定します。
size	なし	decimal	ファイルまたはディレクトリーのサイズを指定します。
userid	なし	string	ファイルまたはディレクトリーのユーザー ID を指定します。
groupid	なし	string	ファイルまたはディレクトリーのグループ ID を指定します。
permissions	なし	string	ファイルまたはディレクトリーの許可を指定します。

次のタスク

このアクティビティーの出力をマップします。
親トピック: 「アーカイブ」アクティビティー

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/archive_activity_mapping_input.html

「アーカイブ」アクティビティーの出力のマッピング

このタスクについて

「アーカイブ」アクティビティーの出力をマッピングするには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。「出力のマップ」タスクが表示されます。「アクティビティーから」ペインに archive 出力パラメーターが表示されます。archive 出力パラメーターには、アーカイブに保存されたファイルとディレクトリーが格納されます。
2. archive 出力パラメーターに変数を対応付けます。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。例えば、archive 出力パラメーターを、自分で作成した *outdata* という変数に対応付けるとします。さらに、その *outdata* 変数を「FTP ファイル配置 (FTP Put File)」アクティビティ

一の data 入力パラメーターに対応付けます。そうすれば、実行時に、「FTP ファイル配置 (FTP Put File)」アクティビティーが FTP サーバーでアーカイブ・ファイルを作成するようになります。

親トピック: 「アーカイブ」アクティビティー

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/archive_activity_mapping_output.html

「解凍」アクティビティー

実行時に、「解凍」アクティビティーによって、渡されたアーカイブから入力ファイルおよびディレクトリーが解凍されます。実行時に、「解凍」アクティビティーによって、アーカイブ/圧縮タイプが判別され、アーカイブが適切に解凍/圧縮解除されます。

このタスクについて

以下の表に、サポートされる解凍/圧縮解除形式をリストします。

圧縮解除 / 解凍形式	説明
tar	実行時に、アーカイブ・タイプが tar であると「解凍」アクティビティーによって判別された場合、渡されるアーカイブは、コンポーネント・パーツ (ファイルおよびディレクトリー) に解凍され、archiveEntries 出力パラメーターでこのアクティビティーから戻されます。「解凍」アクティビティーによって実行時に行われる解凍は、UNIX tar -xf コマンドによりコマンド行で行われる解凍と同じです。
untar および gunzip	実行時に、アーカイブ・タイプが tar であり、圧縮タイプが gzip であると「解凍」アクティビティーによって判別された場合、渡されるアーカイブは、最初に gzip 形式から圧縮解除されてからコンポーネント・パーツ (ファイルおよびディレクトリー) に解凍され、archiveEntries 出力パラメーターでこのアクティビティーから戻されます。「解凍」アクティビティーによって実行時に行われる解凍は、.tar 拡張子が付くファイルに対して発行される UNIX tar -xf コマンドによりコマンド行で行われる解凍と同じです。「解凍」アクティビティーによって実行時に行われる圧縮解除は、.gz 拡張子が付くファイルに対して GNU gunzip コマンドによりコマンド行で行われる圧縮解除と同じです。

圧縮解除 / 解凍形式	説明
zip	実行時に、アーカイブ/圧縮タイプが zip であると「解凍」アクティビティーによって判別された場合、渡されるアーカイブは圧縮解除され、コンポーネント・ファイルおよびディレクトリーに解凍され、archiveEntries 出力パラメーターでこのアクティビティーから戻されます。「解凍」アクティビティーによって実行時に行われる圧縮解除および解凍は、.zip 拡張子が付くファイルに対して独自の圧縮製品を使用して行われる圧縮解除および解凍と同じです。
gzip	実行時に、圧縮タイプが gzip であると「解凍」アクティビティーによって判別された場合、渡されるアーカイブは、gzip 形式から圧縮解除され、archiveEntries 出力パラメーターでこのアクティビティーから戻されます。「解凍」アクティビティーによって実行時に行われる圧縮解除は、.gz 拡張子が付くファイルに対して GNU gunzip コマンドによりコマンド行で行われる圧縮解除と同じです。

実行時に、渡されるアーカイブ形式がサポートされていない場合は、「解凍」アクティビティーから ActivityFailedException エラーが生成され、以下のメッセージが発行されます。

アーカイブ形式が無効であるか、またはサポートされていません (Invalid or unsupported archive format)

実行時に、渡されるアーカイブの形式が正しくない場合は、「解凍」アクティビティーから ActivityFailedException エラーが生成され、以下のメッセージが発行されます。


アーカイブを読み取る時にエラーが発生しました (Error while reading archive)

オーケストレーションで「解凍」アクティビティーを追加および構成するには、以下の手順の各ステップを実行します。

- 「解凍」アクティビティーの追加
- 「解凍」アクティビティー入力のマップ
- 「解凍」アクティビティー出力のマップ

親トピック: [アーカイブ・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Unarchive_Activity.html

「解凍」アクティビティーの追加

このタスクについて

「解凍」アクティビティーをオーケストレーションに追加するには、以下のステップを実行します。


手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択して、「アーカイブ」フォルダーを展開します。
3. 「アーカイブ」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。「要約」タスクが表示されます。

次のタスク

「解凍」アクティビティーへの[入力のマップ](#)。
親トピック: [「解凍」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/unarchive_activity_adding.html

「解凍」アクティビティー入力のマップ

このタスクについて


「解凍」アクティビティーの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクが表示されます。archive 入力パラメーターが「アクティビティーへ」ペインに表示されます。
2. archive 入力パラメーターのノードに変数をマップします。この変数には、入力ファイルおよびディレクトリーの解凍元のアーカイブが含まれていなければなりません。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「解凍」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「解凍」 アクティビティ出力のマッピング

このタスクについて

「解凍」 アクティビティの出力をマッピングするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」から、「出力のマッピング」タスクを選択します。「入力のマッピング」タスクが表示されます。

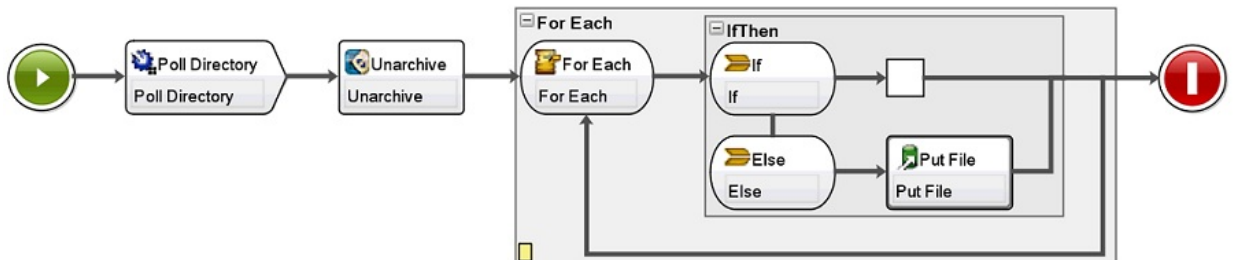
archiveEntries 出力パラメーターが「アクティビティから」ペインに表示されます。

archiveEntries/entry ノードは繰り返しノードです。それぞれの entry は、アーカイブ内の単一のファイルまたはディレクトリーを表しています。archiveEntries/entry ノードの各ノードについて以下の表で説明します。


ノード名	必須	xsd 型	説明
name	あり	string	アーカイブから解凍されたディレクトリーまたはファイルの名前を指定します。ファイルまたはディレクトリーがサブディレクトリーにある場合、実行時に name ノードによって返される値には、そのファイルまたはディレクトリーの相対ディレクトリー・パスが含まれます。例えば、cat というディレクトリー内にある file1.txt というファイルがアーカイブに含まれている場合は、値 cat¥file1.txt が返されます。
datetime	なし	dateString	アーカイブ内のファイルまたはディレクトリーの作成日時を指定します。

ノード名	必須	xsd 型	説明
isdirectory	なし	boolean	<p>現行のエントリがディレクトリーであるのかファイルであるのかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ true は、エントリがディレクトリーであることを指定します。 ◦ false は、エントリがファイルであることを指定します。
content	なし	base64Binary	ファイルまたはディレクトリーの内容を指定します。
size	なし	long	ファイルまたはディレクトリーのサイズを指定します。
userid	なし	string	ファイルまたはディレクトリーのユーザー ID を指定します。
groupid	なし	string	ファイルまたはディレクトリーのグループ ID を指定します。
permissions	なし	string	ファイルまたはディレクトリーの許可を指定します。

2. archiveEntries 出力パラメーターに変数をマップします。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。例えば、archiveEntries 出力パラメーターを archiveEntries 変数にマップしてから、「解凍」アクティビティーの後に「For Each」アクティビティーを追加して、archiveEntries 変数のインスタンス全体を繰り返すことができます。archiveEntries 変数の各インスタンスは、ファイルまたはディレクトリーを表します。isdirectory ノードの値をテストする「If.Then」アクティビティーを「For Each」ループに追加したり、エントリがディレクトリーではない場合に「FTP でファイルを書き込む (FTP Put File)」アクティビティーを使用して解凍済みのファイルを FTP サーバーに置いたりできます。このサンプル・オーケストレーションを次の図に示します。



親トピック: 「解凍」アクティビティー

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/unarchive_activity_mapping_output.html

Cryptoservice アクティビティ

- [PGP アクティビティの概要](#)

WebSphere® Cast Iron® Studio は PGP 暗号化および暗号化解除をサポートします。PGP アクティビティに使用される鍵と証明書をインポート、格納、および取得することができます。

- [「PGP 暗号化」アクティビティの使用](#)

実行時に、「PGP 暗号化」アクティビティはコンテンツを暗号化します。以下のステップを実行し、「PGP 暗号化」アクティビティの入力と出力をオーケストレーションに追加してマップします。

- [「PGP 暗号化解除」アクティビティの使用](#)


実行時に、「PGP 暗号化解除」アクティビティは、オーケストレーションの他のアクティビティや変数から受け取った内容を暗号化解除します。以下のステップを実行し、「PGP 暗号化解除」アクティビティの入力と出力をオーケストレーションに追加してマップします。

- [PGP 鍵のインポート](#)

このトピックで説明する `commandLine` ユーティリティーは、PGP/GPG 鍵ストアから、セキュアおよび公開のリング・ファイルに含まれる秘密鍵と公開鍵を取り出します。

- [トラブルシューティングとサポート](#)

トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。このトピックでは、暗号アクティビティで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_cryptoserviceactivities.html

PGP アクティビティの概要

WebSphere® Cast Iron® Studio は PGP 暗号化および暗号化解除をサポートします。PGP アクティビティに使用される鍵と証明書をインポート、格納、および取得することができます。

PGP は鍵を管理するための独自の鍵ストアを持っています。この鍵ストアの場所は使用するツールによって異なります。PGP の公開鍵および秘密鍵の鍵リングが暗号方式用です。Cryptoservice は、PGP 鍵を使用して、コンテンツの暗号化と暗号化解除を行います。

Cryptoservice には、PGP 鍵を抽出して、同じものを PKCS12 鍵ストアに保管するユーティリティーが付いています。

Cast Iron Studio の場合は、コマンド・ライン・ユーティリティーを使用して、抽出した PKCS12 を Studio 鍵ストアにインポートする必要があります。


オンプレミス・アプライアンスの場合は、Web 管理コンソールから、抽出した PKCS12 をアプライアンス鍵ストアにインポートする必要があります。

上記の手順を完了したならば、コンテンツの暗号化と暗号化解除を行うことができます。

- コンテンツを暗号化するには、人間が読めるコンテンツを base64 にエンコードしてから、base64 コンテンツを「PGP 暗号化」アクティビティーに渡す必要があります。その後、入力を構成し、公開鍵を、暗号化されたデータを返すアクティビティーに提供します。
- コンテンツを暗号化解除するには、暗号化されたデータを「PGP 暗号化解除」アクティビティーに渡し、秘密鍵とパスワードを使用して入力を構成する必要があります。出力は base64 です。元のコンテンツを取得するには、base64 データをデコードする必要があります。

親トピック: [Cryptoservice アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PGP_overview.html

「PGP 暗号化」アクティビティーの使用

実行時に、「PGP 暗号化」アクティビティーはコンテンツを暗号化します。以下のステップを実行し、「PGP 暗号化」アクティビティーの入力と出力をオーケストレーションに追加してマップします。

親トピック: [Cryptoservice アクティビティー](#)

「PGP 暗号化」アクティビティーの追加

このタスクについて

「PGP 暗号化」アクティビティーをオーケストレーションに追加するには、次のステップを実行します。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「Cryptoservice」フォルダーを展開します。
3. 「PGP 暗号化」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。アクティビティー構成チェックリストの要約が表示されます。

次のタスク

「PGP 暗号化」 アクティビティの入力をマップします。

アクティビティの入力のマッピング

このタスクについて

「PGP 暗号化」 アクティビティの入力をマップするには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクが表示されます。`cryptoserviceEntry` 入力パラメーターが「アクティビティへ」ペインに表示されます。
2. `cryptoserviceEntry` 入力パラメーターのノードに変数をマップします。`cryptoserviceEntry/entry` ノードの各ノードについて以下の表で説明します。

表 1. `cryptoserviceEntry` のノード

ノード名	必須	xsd 型	説明
content	あり	base64Binary	暗号化が必要な実際の base64Binary コンテンツを示します。
keyhandle	あり	String	コンテンツの暗号化に使用する GPG 鍵の名前を示します。
password	オプション	String	keyhandle の暗号化解除に使用する必要があるパスワードを示します。
armored	オプション	Boolean	ASCII Armored 出力のために設定する必要がある値を示します。デフォルト値は False です。

アクティビティの出力のマッピング

このタスクについて

アクティビティの出力をマッピングするには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。「出力のマップ」タスクが表示されます。PGP 暗号化出力パラメーターが「アクティビティから」ペインに表示されます。PGP 暗号化出力パラメーターには暗号化したコンテンツを格納する変数が含まれていて、これはオーケストレーションで使用できます。
2. PGP 暗号化出力パラメーターからの変数を オーケストレーションの他の変数またはアクティビティにマップします。

「PGP 暗号化解除」アクティビティーの使用

実行時に、「PGP 暗号化解除」アクティビティーは、オーケストレーションの他のアクティビティーや変数から受け取った内容を暗号化解除します。以下のステップを実行し、「PGP 暗号化解除」アクティビティーの入力と出力をオーケストレーションに追加してマップします。

親トピック: [Cryptoservice アクティビティー](#)

「PGP 暗号化」アクティビティーの追加

このタスクについて

「PGP 暗号化解除」アクティビティーをオーケストレーションに追加するには、次のステップを実行します。

手順

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「Cryptoservice」フォルダーを展開します。
3. 「PGP 暗号化解除」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。アクティビティー構成チェックリストの要約が表示されます。

次のタスク

「PGP 暗号化解除」アクティビティーの入力をマップします。

アクティビティーの入力のマッピング

このタスクについて

「PGP 暗号化解除」アクティビティーの入力をマップするには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクが表示されます。`cryptoserviceEntry` 入力パラメーターが「アクティビティーへ」ペインに表示されます。
2. `cryptoserviceEntry` 入力パラメーターのノードに変数をマップします。`cryptoserviceEntry/entry` ノードの各ノードについて以下の表で説明します。

表 1. `cryptoserviceEntry` のノード

ノード名	必須	xsd 型	説明
content	あり	base64Binary	暗号化が必要な実際の base64Binary コンテンツを示します。

ノード名	必須	xsd 型	説明
keyhandle	あり	String	コンテンツの暗号化に使用する GPG 鍵の名前を示します。
password	あり	String	keyhandle の暗号化解除に使用する必要があるパスワードを示します。
armored	オプション	Boolean	ASCII Armored 出力のために設定する必要がある値を示します。デフォルト値は <code>False</code> です。

次のタスク

「PGP 暗号化解除」アクティビティーの出力をマップします。

アクティビティーの出力のマッピング


このタスクについて

アクティビティーの出力をマップするには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。「出力のマップ」タスクが表示されます。PGP 暗号化解除出力パラメーターが「アクティビティーから」ペインに表示されます。PGP 暗号化解除出力パラメーターには暗号化解除したコンテンツを格納する変数が含まれていて、これはオーケストレーションで使用できます。
2. PGP 暗号化解除出力パラメーターからの変数をオーケストレーションの他の変数またはアクティビティーにマップします。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PGP_Decrypt.html

PGP 鍵のインポート

このトピックで説明する `commandLine` ユーティリティーは、PGP/GPG 鍵ストアから、セキュアおよび公開のリング・ファイルに含まれる秘密鍵と公開鍵を取り出します。

手順

`commandLine` ユーティリティーは、PGP/GPG 鍵ストアから鍵を取り出すために 次のパラメーターを使用します。

1. commandLine ユーティリティーは、秘密鍵と公開鍵を取り出すために、次のパラメーターを受け入れます。

```
extractPKCS12AndPublicKey.bat -privateKeyRingFile <file name of the secret
key ring file> -publicKeyRingFileName <file name of the pub key ring file> -
passphrase <password for the gpg keys> -keyStoreLocation <keyStore Location> -
keyStorePassword <keystore password> -privateCertificateName <private
certificate name> -issuerName <name of the certificate issuer> -
certificateStartDate <start date> -certificateExpiryDate <end date> -
algorithmName SHA256withRSA
```

例:

```
extractPKCS12AndPublicKey.bat -privateKeyRingFile
C:\Users\IBM_ADMIN\Documents\gpg\secring.gpg -publicKeyRingFile
C:\Users\IBM_ADMIN\Documents\gpg\pubring.gpg -passphrase castiron -
keyStoreLocation C:\mykeystore.p12 -keyStorePassword changeit -
privateCertificateName myKey -issuerName "C=US, ST=CA, L=Mountain View, O=Cast
Iron Systems, CN=Cast Iron Appliance VMWSULXJE23SK6HO" -certificateStartDate
01-01-2013 -certificateExpiryDate 01-01-2015 -algorithm SHA256withRSA
```

2. commandLine ユーティリティーは、秘密鍵と公開鍵を Studio 鍵ストア・ファイル にインポートするために、次のパラメーターを受け入れます。

```
importPKCS12IntoJKS.bat -privateCertificateName <private certificate name> -
pkcsKeyStoreLocation < PKCS12 keystore store that we created in step1 > -
pkcsKeyStorePassword < password for the keystore>
```


例:

```
importPKCS12IntoJKS.bat -privateCertificateName myKey -pkcsKeyStoreLocation
C:\mykeystore.p12 -pkcsKeyStorePassword changeit
```

注: ステップ 2 はアプライアンスには不要です。「Web 管理コンソール」ダッシュボードの「セキュリティー」メニューを使用すると、生成された PKCS12 鍵ストアをアプライアンスにインポートできます。証明書のインポートの詳細については、Cast Iron® Web 管理コンソールの資料を参照してください。

親トピック: [Cryptoservice アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PGP_Importing_keys.html

トラブルシューティングとサポート

トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。このトピックでは、暗号アクティビティで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

OutOfMemoryError 例外がスローされた

問題: .zip ファイルまたは .tar.gz ファイルの FTP 転送の場合は、「PGP 暗号化」アクティビティを使用すると次の例外がスローされます。

```
Internal error: java.lang.OutOfMemoryError: Java heap space (data size is over 10MB)
```


原因: Cast Iron Studio の開始時のデフォルト・ヒープ割り振りが足りません。

解決策: 次のコマンドを使用して、Cast Iron Studio 開始時のヒープ割り振りを増やしてください。

```
CastIronStudio.exe -J-Xmx1024m
```

親トピック: [Cryptoservice アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項


 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PGP_troubleshooting.html

データ品質アクティビティ

- [データ品質アクティビティについて](#)
Studio のデータ品質アクティビティを使用すると、新しいシステムへのデータのマイグレーションまたはロード、または既存のシステムの間でデータの同期処理 (あるいはその両方) を行うことができます。
- [「フィルターおよびプロファイル」アクティビティ](#)
このアクティビティは、ユーザーが作成したブール式に基づいてデータをフィルタリングし、クレンジングされたデータのプロファイル要約を生成します。
- [プロファイル要約の作成](#)
統合アプライアンスでプロファイルを作成するデータを決定するパラメーターを指定するには、「プロファイル要約」ペインを使用します。
- [フィルター式](#)
フィルター式は、統合アプライアンスがさまざまな出力へのデータの送付に使用する、特定の条件 (ブール式) を指定する XPath 照会です。「フィルターおよびプロファイル」アクティビティを使用してフィルター式を作成できます。
- [「ルックアップ」アクティビティ](#)
「ルックアップ」アクティビティは、選択したデータベース・エンドポイントからデータの行を取得し、それらの行からの値を現在の繰り返しエレメントと置き換えたり、またはそれに追加したりする場合に使用します。これは、ルックアップを実行するキーとして使用される現在の繰り返しエレメントの値との厳密な一致または近似一致に基づいて行われます。
- [「ソート」アクティビティ](#)
このアクティビティでは、入力をソートできます。
- [「マージ」アクティビティ](#)
「マージ」アクティビティを使用して、ソートされた 2 つの入力を結合します。左と右の両方の入力には、マージまたは結合する前に、指定されたソート・キーに基づいてソートされている必要があります。左と右の両方の入力に対して少なくとも 1 つのソート・キーを指定する必要があります。「マージ」アクティビティは、すべての重複を解決します。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_dataqualityactivities.html

データ品質アクティビティーについて

Studio のデータ品質アクティビティーを使用すると、新しいシステムへのデータのマイグレーションまたはロード、または既存のシステムの間でデータの同期処理 (あるいはその両方) を行うことができます。

Studio ツールボックスの「アクティビティー」タブから「データ品質」ディレクトリーを選択します。データ品質アクティビティーには、以下のアクティビティーがあります。

- 「フィルターおよびプロファイル」 - 作成したブール式に基づいてデータをフィルターに掛け、クレンジングしたデータのプロファイル要約を生成します。
- 「ルックアップ」 - データベース・エンドポイントから選択したデータ行を取得します。
- 「ソート」 - 指定したソート・キーに基づいて入力をソートします。
- 「マージ」 - ソートした 2 つの入力を結合します。


統合アプライアンスには、ローカル・ステー징・データベースがあります。このデータベースでデータのステー징を実行できます。ローカル・ステー징・データベースを使用すれば、ジョブ間でデータを共有することによって、反復的なデータ・クレンジング・プロセスをより円滑に実行できるようになります。ローカル・ステー징・データベースのデータの表示および編集は、Web 管理コンソール (WMC) から実行できます。

WMC からローカル・ステー징・データベースに対して実行できる操作は、以下のとおりです。

- データベース・サーバーの開始と停止
- ローカル・ステー징・データベースへの接続
- 表作成
- 表の削除
- 表の表示と列によるソート
- 行の追加
- 行の削除

これらの操作を実行する方法の詳細については、WMC のオンライン・ヘルプを参照してください。

親トピック: [データ品質アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/aboutdataqualityactivities.html>

「フィルターおよびプロファイル」 アクティビティ

このアクティビティは、ユーザーが作成したブール式に基づいてデータをフィルタリングし、クレンジングされたデータのプロファイル要約を生成します。

- 「フィルターおよびプロファイル」 アクティビティの構成
- フィルターおよびプロファイル・アクティビティの出力のマッピング

親トピック: データ品質アクティビティ

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/filter_and_profile_activity.html

「フィルターおよびプロファイル」 アクティビティの構成

このタスクについて

「フィルターおよびプロファイル」 アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」 タブで、「データ品質」 ディレクトリーを開いて、「フィルターおよびプロファイル」 アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
3. 「チェックリスト」から、「構成」を選択し、以下の情報を指定します。
 - a. アクティビティのループ対象となる、繰り返しエレメントを含む変数の変数名。
 - b. アクティビティのループ対象となる、変数内の繰り返しエレメントのエレメント名。

参照ボタンをクリックして、「繰り返しエレメントの選択」ウィンドウを開きます。ここで、選択した変数のすべてのエレメントを表示できます。

4. 「チェックリスト」から「フィルター式」を選択し、統合アプライアンスがデータのフィルター処理に使用する式を**作成**します。

注: 統合アプライアンスは、フィルター式を渡すデータのプロファイルのみを作成します。すべてのデータのプロファイルを作成するには、以下のタスクのいずれかを実行します。


 - 「拡張」をクリックし、次の式を入力します。 `true()`

または

- 次の式を入力します。 `1 = 1`
5. 「チェックリスト」から「プロファイルの要約」を選択して、要約するデータのパラメーターを**定義**します。
 6. このアクティビティの**出力**をマップします。

親トピック: [「フィルターおよびプロファイル」 アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/filter_and_profile_activity_configure.html

フィルターおよびプロファイル・アクティビティの出力のマッピング

このタスクについて


フィルターおよびプロファイル・アクティビティの出力をマッピングするには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」を選択します。次のエレメントが「アクティビティから」ペインに表示されます。goodXML、badXML、summary、および summaryCharts.pdf。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マッピングの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマッピングします。一般的なマッピングについての説明は、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「フィルターおよびプロファイル」 アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/filter_and_profile_activity_map_outputs.html

プロファイル要約の作成

統合アプライアンスでプロファイルを作成するデータを決定するパラメーターを指定するには、「プロファイル要約」ペインを使用します。

このタスクについて


プロファイル要約を作成するには、以下の手順に従ってください。

手順

1. 「アクティビティ」タブで、「データ品質」ディレクトリーを開いて、「フィルターおよびプロファイル」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
3. 「チェックリスト」で「プロファイル要約」を選択します。「プロファイル要約」ペインが表示されます。
4. 「追加」をクリックします。
5. 以下のパラメーターの値を指定します。

プロファイル要約パラメーター	説明
XPath	プロファイルを作成するデータを指定する、選択した繰り返しエレメントに関連するXPath 式。
名前	プロファイルの名前。デフォルトは選択した XPath 式です。
データ型	text または number のデータ型を指定します。 デフォルトのデータ型は「text」です。 数値データ型の場合は、一般統計の min、max、mean、count、sum、standardDeviation、variance が生成されます。 テキスト・データ型の場合は、一般統計の min と max が生成されます。 両方のデータ型において、ヒストグラムを生成すると、特定の値または値の範囲の頻度を表示できます。
ヒストグラム?	ヒストグラムを生成するかどうかを指定します。デフォルトは false で、ヒストグラムは生成されません。ヒストグラムを生成するには、「ヒストグラム?」フィールドを選択し、「ヒストグラムの生成」を選択します。フィールドに値 true が表示されます。
ビンの最大数	ヒストグラムのビンの最大数を指定します。 重要: このパラメーターの値は、データ型として number を指定した場合にのみ指定してください。デフォルト値は 0 で、最大数が存在しないことを示します。
値の最大数	ヒストグラムに使用する値の最大数を指定します。デフォルト値は 0 で、最大数が存在しないことを示します。
最小頻度	ヒストグラムに組み込む値の最小頻度を指定します。これは、0 から 1 の範囲内の数値で、指定された値の出現回数のすべての値に対する比率を示します。デフォルトは 0.0 です。
グラフ	指定するグラフ・タイプの PDF を生成します。 <ul style="list-style-type: none">○ 棒グラフ○ 円グラフ○ なし デフォルトでは、統合アプライアンスはグラフを生成しません。

親トピック: [データ品質アクティビティ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_creating_profile_summaries.html

フィルター式

フィルター式は、統合アプライアンスがさまざまな出力へのデータの送付に使用する、特定の条件 (ブール式) を指定する XPath 照会です。「フィルターおよびプロファイル」アクティビティを使用してフィルター式を作成できます。


このタスクについて

以下を実行するには、Studio Builder ツールを使用します。

- フィルター式の作成
- 条件の追加
- 条件の削除
- 条件の編集
- 条件の処理順序の指定

- [フィルター式の作成](#)
- [フィルター式条件の追加](#)
- [フィルター式条件の削除](#)
- [フィルター式条件の編集](#)
- [フィルター式条件の処理順序の変更](#)

親トピック: [データ品質アクティビティ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/filtering_expressions.html

フィルター式の作成

このタスクについて

Builder を使用してフィルター式を作成するには、次のステップを実行します。

手順


1. オーケストレーションで、「フィルターおよびプロファイル」アクティビティを選択して、「チェックリスト」を開きます。
2. 「チェックリスト」で、「フィルター式」を選択します。Builder が「フィルター式」ペインで表示されます。
3. 「左辺の式」フィールドをクリックし、パラメーターを入力するかまたは (...) をクリックして、選択した変数のエレメントを表示します。(B) をクリックして、新規変数を選択します。
4. 「演算子」リストをクリックして、条件の演算子を選択します。

Builder で使用できる演算子の完全なリストについては、『有効な条件の演算子』を参照してください。

5. 「右辺の式」フィールドをクリックしパラメーターを入力するか、または (...) をクリックして、選択した変数のエレメントを表示します。(B) をクリックして、新規変数を選択します。

親トピック: [フィルター式](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/filtering_expressions_create.html

フィルター式条件の追加

このタスクについて


条件を追加するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「追加」をクリックします。新規条件のためのフィールドが表示されます。デフォルトでは、新規条件は包括的であり、AND 論理を使用します。
2. オプション: 最初の列で、リストから OR を選択して、OR 論理を使用します。
3. 「左辺の式」を指定します。
4. 条件の演算子を指定します。
5. 「右辺の式」を指定します。

親トピック: [フィルター式](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

フィルター式条件の削除

このタスクについて


条件を削除するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「フィルター式」 ペインで、条件を選択します。
2. 「削除」 をクリックします。

親トピック: [フィルター式](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/filtering_expressions_delete.html

フィルター式条件の編集

このタスクについて

フィルター式条件を編集するには、次のステップを実行します。

手順

- Filter Builder で任意のフィールドを選択して、編集を行います。Filter Builder が表示されない場合は、「ビルダーの使用」 をクリックします。左辺の式を編集し、演算子を選択し、さらに右辺の式を編集できます。

または

- 「拡張」 をクリックして、条件を定義する XPath 式を直接編集します。
注: XPath エバリュエーターを使用して、XPath 式をテストします。

親トピック: [フィルター式](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/filtering_expressions_edit.html

フィルター式条件の処理順序の変更

このタスクについて

条件の処理順序を変更するには、次のステップを実行します。

条件を Filter Builder で選択し、上矢印または下矢印をクリックします。

親トピック: [フィルター式](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/filtering_expressions_change_processing_order.html

「ルックアップ」アクティビティ

「ルックアップ」アクティビティは、選択したデータベース・エンドポイントからデータの行を取得し、これらの行からの値を現在の繰り返しエレメントと置き換えたり、またはそれに追加したりする場合に使用します。これは、ルックアップを実行するキーとして使用される現在の繰り返しエレメントの値との厳密な一致または近似一致に基づいて行われます。

ファジー・ルックアップ機能を使用するには、統合アプライアンスでローカル・ステージング・データベースを使用する必要があります。非ファジー・ルックアップの場合は、Studio がサポートするどのデータベース・エンドポイントでも使用できます。

注: 「ルックアップ」アクティビティを Studio から実行する場合、ルックアップの結果はキャッシュに入りません。

「ルックアップ」アクティビティには、パラメーター化された SQL 照会、繰り返しエレメントを示す XPath 照会、およびルックアップのキーとして使用する値を示す XPath 照会が必要です。一連のルックアップ値は、データベース結果セットからの列値を、現在のコンテキスト・ノードのエレメントまたは属性にマップする方法を指定します。

ファジー・ルックアップを実行し、キーに近似一致させるために、「ルックアップ」アクティビティは編集距離アルゴリズムを使用します。

例:

以下の名前前の表で、ラストネーム Stark に対して照会を実行します。データベースには次のレコードが含まれます。

FirstName	LastName
Tony	Stark
Bruno	Star
Georgia	States
Howard	Stark

次の照会を発行します。 `select * from Names where Col_LastName='Stark'`

この例では、`key_length = length("Stark") = 5` です。


しきい値に照らした比較では、値 $(1 - (\text{edit_distance} / \text{key_length}))$ を使用します。

編集距離は、`edit_distance("Stark", "Stark") = 0` および `edit_distance("Stark", "Star") = 1` です。

- Starkのみを選出するには、しきい値 $(1 - (0/5)) = 1$ を使用します。
- StarkとStarの両方を選出し、Statesは選出しないようにするには、しきい値 $(1 - (1/5)) = 0.8$ を使用します。
- 「ルックアップ」アクティビティの使用
- 「ルックアップ」アクティビティ出力のマッピング

親トピック: [データ品質アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/lookup_activity.html`

「ルックアップ」アクティビティの使用

このタスクについて

「ルックアップ」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで、Data Quality ディレクトリーを開き、「ルックアップ」アクティビティを検索します。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
3. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」を選択し、データベース・エンドポイントを選択します。データベース・エンドポイントの作成または編集についての説明は、『データベース・アクティビティ・エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

注: ファジー・ルックアップを実行するには、ローカル・ステージング・データベースを選択する必要があります。ローカル・ステージング・データベースにアクセスするには、以下のようにします。

- a. 「データベース・タイプ」リストで、「ローカル」を選択します。「データベース名」フィールドで「ステージング (Staging)」が開きます。
 - b. 「ネットワーク・ロケーション・サーバー (Network Location Server)」フィールドで、ローカル・ステージング・データベースの開始元になる統合アプライアンスのデータ IP アドレスを指定します。「ポート」は 1526 に固定されています。
 - c. 「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。
重要: このログイン情報は、統合アプライアンスに対する管理者またはパブリッシャー特権を持つユーザーのものでなければなりません。
 - d. 追加のすべてのパラメーターを指定します。データベース・パラメーターの詳細については、『データベース・アクティビティ・エンドポイントの作成または編集』を参照してください。
 - e. 「OK」をクリックします。「データベース」エンドポイントが Studio ツールボックスの Endpoints ディレクトリーに表示されます。
4. 「チェックリスト」から、「構成」を選択し、以下の情報を指定します。
- a. アクティビティのループ対象となる、繰り返しエレメントを含む変数の変数名。
 - b. アクティビティのループ対象となる、変数内の繰り返しエレメントのエレメント名。

参照ボタン (...) をクリックして、「繰り返しエレメントの選択」ウィンドウを開きます。ここで、選択した変数のすべてのエレメントを表示できます。

5. 「チェックリスト」で、「照会の入力」を選択します。
- a. ルックアップ・テーブルの照会を指定します。
 - ファジー・ルックアップの場合は、厳密に 1 パラメーターを指定する必要があります。
 - 非ファジー・ルックアップの場合は、1 つ以上のパラメーターを指定できます。
 - b. 「エンコード」リストから、エンコード・タイプを選択します。
 - c. 「照会の妥当性検査」をクリックします。
注: ローカル・データベース・エンドポイントを使用する場合、列の表示または照会の妥当性検査を行う前に、統合アプライアンスでローカル・ステージング・データベースを開始する必要があります。ローカル・ステージング・データベースを開始するには、Web 管理コンソール (WMC) で、「ステージング (Staging)」 > 「ステージング・データベースの開始/停止 (Staging Database Start/Stop)」を選択します。
 - d. 「列の表示」をクリックし、表を選択すると、選択した表の詳細な列情報が表示されます。デフォルトでは、「バッファー・テーブルおよびコントロール表の非表示」オプションが選択されています。
6. 「チェックリスト」で、「セットアップ入力パラメーター」を選択します。前のステップで入力した照会が表示されます。

XPath 列の各入力パラメーターに入力 XPath を指定します。入力 XPath とは、照会が使用するルックアップ・キー値を指定する繰り返しエレメントと関連する XPath 式のことです。

7. 「チェックリスト」で、「セットアップ結果セット」を選択します。
- a. 結果セットの各行に出力 XPath を指定します。出力 XPath は、出力値を保持する繰り返しエレメントに関連したエレメントまたは属性を指定します。
 - b. 属性を指定するには、XPath 式の先頭でアットマーク (@) を使用します。
 - エレメントまたは属性の名前が既に存在している場合、Studio は既存の値を置き換えます。そうでない場合、Studio は新しい名前でもエレメントまたは属性を作成します。
 - ルックアップで一致するものが検出できない場合、その行は badXML エレメントに送信されます。
8. 「チェックリスト」で「配信ルール」を選択し、以下の配信ルールを指定します。

配信ルール	説明
-------	----

配信ルール	説明
アクティビティ・タイムアウト	統合アプライアンスがエンドポイントの応答を待機する時間の長さを秒単位で指定します。デフォルト設定は 300 秒です。
ファジー・ルックアップ	ルックアップをファジーにするかどうかを決定します。ファジー・ルックアップを実行するには、このオプションを選択します。 重要: ファジー・ルックアップは、ローカル・データベース・エンドポイントに対してのみ実行できます。 注: オーケストレーションを実行する前に、WMC でデータベース資産生成ツールを使用して、索引表を作成します。
ファジー・ルックアップごとの一致数の出力上限 (Output at most __ match(es) per fuzzy lookup)	ファジー・ルックアップごとに出力する一致の最大数を指定します。
ファジー・ルックアップの場合の類似度しきい値 (The similarity threshold __ for a fuzzy lookup)	ファジー・ルックアップ時の一致を判別するための、類似度しきい値を指定します (0 から 1 の範囲)。1 は完全一致突き合わせを意味します。
大/小文字を区別しない (ファジー・ルックアップのみ)	大/小文字を区別しないルックアップを選択します。
先行および末尾の空白を無視	選択した場合、「ルックアップ」アクティビティではデータの前後にある空白は無視されます。非ファジー・ルックアップの場合、このオプションは入力値にのみ適用できます。ファジー・ルックアップの場合、このオプションは入力値とルックアップ・テーブル・キーの両方に適用できます。
プリロード・キャッシュ	ルックアップ・キャッシュをプリロードするには、このオプションを選択します。
ルックアップ結果のキャッシュ上限 __ (Cache at most __ lookup results)	キャッシュに入れるルックアップの最大数を指定します。

次のタスク

このアクティビティの出力をマップします。
親トピック: 「ルックアップ」アクティビティ

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/use_the_lookup_activity.html

「ルックアップ」 アクティビティ出力のマッピング

このタスクについて


「ルックアップ」 アクティビティの出力をマップするには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。「アクティビティから」ペインに、エレメント goodXML および badXML が表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「ルックアップ」 アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_outputs_of_the_lookup_activity.html

「ソート」 アクティビティ

このアクティビティでは、入力をソートできます。

このタスクについて

重要: 「ソート」 アクティビティは、「マージ」 アクティビティでデータのマージを試行する前に、データをソートするために使用します。

入力データをソートするには、次のステップを実行します。

手順


1. 「アクティビティ」 タブで、Data Quality ディレクトリーを開き、「ソート」 アクティビティを検索します。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティのチェックリストおよび要約がオーケストレーションの下に表示されます。
3. 「チェックリスト」 から、「構成」 を選択し、以下の情報を指定します。
 - a. アクティビティのループ対象となる、繰り返しエレメントを含む変数の変数名。
 - b. アクティビティのループ対象となる、変数内の繰り返しエレメントのエレメント名。参照ボタン (...) をクリックして、「繰り返しエレメントの選択」 ウィンドウを開きます。ここで、選択し

た変数のすべてのエレメントを表示できます。

4. 「チェックリスト」から、「ソート・プロパティ」を選択し、以下の情報を指定します。
 - a. オプション: 「重複の除去」を選択すると、アクティビティは重複を remainderXml エレメントに送信します。
 - b. 「追加」をクリックします。新規行が「ソート・キー」表に表示されます。
 - c. 「XPath」列で、繰り返しエレメントを指定します。
 - d. リストから「ソート・タイプ」フィールドを選択します。リストのソート順を「昇順」または「降順」から選択します。デフォルトのソート・タイプは「昇順」です。
 - e. 「データ型」フィールドを選択し、リストから「テキスト」または「数値」データ型のいずれかを選択します。デフォルトのデータ型は「テキスト」です。
 - f. オプション: 「大/小文字を区別しない」オプションを選択します。このオプションを選択すると、ソート処理中にデータの大/小文字は区別されません。
 - g. オプション: 「先行および末尾の空白を無視」オプションを選択します。デフォルトでは、ソート処理ではデータの前後のすべての空白を読み取ります。このオプションを選択すると、「ソート」アクティビティはマージの結果に影響を与える可能性がある空白を無視します。
5. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」を選択します。次のエレメントが、「アクティビティから」ペインに表示されます。sortedXml および remainderXml。
 - a. 「出力の選択...」をクリックして、マッピングの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
 - b. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマッピングします。マッピングの説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [データ品質アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/sort_activity.html

「マージ」アクティビティ

「マージ」アクティビティを使用して、ソートされた 2 つの入力を結合します。左と右の両方の入力、マージまたは結合する前に、指定されたソート・キーに基づいてソートされている必要があります。左と右の両方の入力に対して少なくとも 1 つのソート・キーを指定する必要があります。「マージ」アクティビティは、すべての重複を解決します。

各入力の繰り返しエレメントを指定するには、XPath 照会を使用します。マージには、以下の 6 つのタイプがあります。

マージ・タイプ	説明
マージして重複を除去	左と右の両方の入力で発生する重複を除去します。Studio は、すべての重複を RemainderXML エレメントに送信します。

マージ・タイプ	説明
マージして左の重複を保持	左の入力からの重複を RemainderXML エlement に送信します。
マージしてすべての重複を保持	両方の入力からの重複を保持します。
内部結合	指定されたキーに基づいて入力を結合します。結合に参加していないすべての行は、RemainderXML エlement に送信されます。
左外部結合	指定されたキーに基づいて入力を結合します。左の入力からの行は、それが結合に参加していない場合でも、マージされる出力に保持されます。Studio は、結合に参加していない右の入力からのすべての行を、RemainderXML エlement に送信します。
完全外部結合	指定されたキーに基づいて入力を結合します。結合に関係がない行も、マージされる出力に保持されます。

マージの例:

表 1 は、この例での左と右の入力を示しています。表 2 は、「マージ」アクティビティがサポートする各タイプのマージ操作の、予期される結果です。

以下の例では、x がキー変数です。Studio は、マージまたは結合された項目を mergeXML エlement に送信し、マージにも結合にも参加していないすべての項目を RemainderXML エlement に送信します。

表 1. 左および右の入力

左の入力	右の入力
<pre><entries> <entry x="1" y="10"/> <entry x="2" y="20"/> <entry x="2" y="21"/> <entry x="3" y="30"/> </entries></pre>	<pre><entries> <entry x="0" z="00"/> <entry x="2" z="22"/> <entry x="2" z="23"/> <entry x="4" z="40"/> </entries></pre>

表 2. 各マージ・タイプのマージ結果


マージ・タイプ	マージ結果
マージして重複を除去	<pre><entries> <entry x="0" z="00"/> <entry x="1" y="10"/> <entry x="3" y="30"/> <entry x="4" z="40"/> </entries></pre>
マージして左の重複を保持	<pre><entries> <entry x="0" z="00"/> <entry x="1" y="10"/> <entry x="2" y="20"/> <entry x="2" y="21"/> <entry x="3" y="30"/> <entry x="4" z="40"/> </entries></pre>

マージ・タイプ	マージ結果
マージしてすべての重複を保持	<pre><entries> <entry x="0" z="00"/> <entry x="1" y="10"/> <entry x="2" y="20"/> <entry x="2" y="21"/> <entry x="2" z="22"/> <entry x="2" z="23"/> <entry x="3" y="30"/> <entry x="4" z="40"/> </entries></pre>
内部結合	<pre><entries> <entry x="2" y="20" z="22"/> <entry x="2" y="20" z="23"/> <entry x="2" y="21" z="22"/> <entry x="2" y="21" z="23"/> </entries></pre>
左外部結合	<pre><entries> <entry x="1" y="10"/> <entry x="2" y="20" z="22"/> <entry x="2" y="20" z="23"/> <entry x="2" y="21" z="22"/> <entry x="2" y="21" z="23"/> <entry x="3" y="30"/> </entries></pre>
完全外部結合	<pre><entries> <entry x="0" z="00"/> <entry x="1" y="10"/> <entry x="2" y="20" z="22"/> <entry x="2" y="20" z="23"/> <entry x="2" y="21" z="22"/> <entry x="2" y="21" z="23"/> <entry x="3" y="30"/> <entry x="4" z="40"/> </entries></pre>

- ソートされた2つの入力のマージ

親トピック: [データ品質アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/merge_activity.html

ソートされた2つの入力のマージ


このタスクについて

ソートされた2つの入力をマージするには、次のステップを実行します。

1. 「アクティビティ」タブで、Data Quality ディレクトリーを開き、「マージ」アクティビティを検索します。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
3. 「チェックリスト」から、「構成」を選択し、以下の情報を指定します。
 - a. アクティビティのループ対象となる、繰り返しエレメントを含む左の変数の変数名。
 - b. アクティビティのループ対象となる、左の変数内の繰り返しエレメントのエレメント名。参照ボタン (...) をクリックして、「繰り返しエレメントの選択」ウィンドウを開きます。ここで、選択した変数のすべてのエレメントを表示できます。
 - c. アクティビティのループ対象となる、繰り返しエレメントを含む右の変数の変数名。
 - d. アクティビティのループ対象となる、右の変数内の繰り返しエレメントのエレメント名。参照ボタン (...) をクリックして、「繰り返しエレメントの選択」ウィンドウを開きます。ここで、選択した変数のすべてのエレメントを表示できます。
4. 「チェックリスト」から、「マージ・プロパティ」を選択し、以下の情報を指定します。
 - a. リストから**マージ・タイプ**を選択します。
 - b. 「左ソート・キー」セクションで、「追加」をクリックします。新規行が「ソート・キー」表に表示されます。
 - c. 「XPath」列で、繰り返しエレメントを指定します。
 - d. リストから「ソート・タイプ」フィールドを選択します。リストをソートするために「昇順」または「降順」のいずれかを選択します。デフォルトのソート・タイプは「昇順」です。
 - e. 「データ型」フィールドを選択し、リストから「テキスト」または「数値」データ型のいずれかを選択します。デフォルトのデータ型は「テキスト」です。
 - f. 前述のステップ (b から e) を、「右ソート・キー」に対して繰り返します。
 - g. オプション: 「大/小文字を区別しない」オプションを選択します。このオプションを選択すると、マージ処理中にデータの大/小文字は区別されません。
 - h. オプション: 「先行および末尾の空白を無視」オプションを選択します。デフォルトでは、マージ処理ではデータの前後のすべての空白を読み取ります。このオプションを選択すると、「マージ」アクティビティはマージの結果に影響を与える可能性がある空白を無視します。
5. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」を選択します。次のエレメントが、「アクティビティから」ペインに表示されます。mergedXml および remainderXml。
 - a. 「出力の選択...」をクリックして、マッピングの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
 - b. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマッピングします。マッピングの説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「マージ」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/merge_activity_merge_two_sorted_inputs.html

データベース・アクティビティー

- **データベース・アクティビティー・エンドポイントの作成または編集**
エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスがデータベースに接続するために使用するデータベース接続情報を提供します。
- **データベース表の表示**
エンドポイントで指定されたデータベース内の表の現行リストから動的に表を選択するには、「データベース表の表示」ダイアログ・ボックスを使用します。
- **文字エンコード**
文字エンコードは、データベース・レベル、表レベル、あるいは列またはパラメーター・レベルで設定します。
- **データベース・エンティティーおよびアクティビティー**
- **更新において古い値に対して列を定義**
- **MaxPooledStatements パラメーター**
すべてのタイプのデータベース・エンドポイントについて、MaxPooledStatements パラメーターは自動的に定義され、デフォルト値に設定されます。
- **Oracle、Sybase、DB2、および Informix のパラメーター**
データベース・エンドポイントの「追加パラメーター」表では、Oracle、Sybase、DB2®、または Informix® の各データベースに対して接続パラメーターを定義します。
- **インバウンド・データベース・アクティビティーの再試行オプション**
このセクションには、インバウンド・データベース・アクティビティー（「挿入対象行の取得」アクティビティー、「更新対象行の取得」アクティビティー、「削除対象行の取得」アクティビティー、および「表のポーリング」アクティビティー）の再試行オプションを構成する手順が記載されています。
- **アウトバウンド・データベース・アクティビティーの再試行オプション**
このセクションには、アウトバウンド・データベース・アクティビティー（「照会の実行」アクティビティー、「行の挿入」アクティビティー、「行の更新」アクティビティー、「行の削除」アクティビティー、および「プロシージャの呼び出し」アクティビティー）の再試行オプションを構成する手順が記載されています。
- **SequeLink パラメーター**
- **単一表インバウンド・データベース・アクティビティー**
実行時に、単一表インバウンド・データベース・アクティビティーは、データベース表の指定された列のいずれかの行でデータベース操作が行われたかどうかを、指定された時間間隔でポーリングします。
- **単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティー**
このセクションでは、以下の単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティーを構成するための手順について説明します。
- **データベース・アクティビティーのための「配信ルール」の指定**
「配信ルール」ペインでメッセージの配信方法を指定します。
- **列の詳細の表示**
「列の表示」ダイアログ・ボックスでは、「照会の実行」アクティビティーに対してチェックリストの「照会の入力」タスクで SQL ステートメントを入力するときに、表に関する詳細列情報を参照できます。このタスクは、「列の詳細の表示 (View Column Details)」ダイアログ・ボックスへのアクセス方法を説明しています。
- **データベース・パラメーターの操作**
パラメーターは、エンドポイントに関するデータベース固有の接続情報を提供します。
- **「プロシージャの呼び出し」アクティビティー**
実行時に、「プロシージャの呼び出し」アクティビティーによって、データベースでストアド・プロシージャが実行されます。「プロシージャの呼び出し」アクティビティーの構成を Studio で実行する前に、ストアド・プロシージャを作成して、データベースにインストールしておく必要があります。

- 「照会の実行」アクティビティー
実行時に、「照会の実行」アクティビティーによって Select SQL ステートメントが実行されます。
- 「表のポーリング」アクティビティー
「表のポーリング」アクティビティーは、指定された時間間隔で特殊なフラグ列の状況を検査することによって、データベース表のいずれかの行で、データベース操作 (挿入または更新) が発生したかどうかを検査します。
- SSL データベース接続のテスト

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_databasesactivities.html

データベース・アクティビティー・エンドポイントの作成または編集

エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスがデータベースに接続するために使用するデータベース接続情報を提供します。

データベース・エンドポイントを選択または編集する

1. 「エンドポイントの作成」または「エンドポイントの編集」ペインで、次の表に示すようにフィールドを構成します。
注: エンドポイントの構成プロパティーを変更すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルとなります。
2. 「接続のテスト」をクリックして、データベースに接続できることを確認します。「OK」をクリックします。

データベース・オプション

表 1. データベース・オプション

フィールド	説明

フィールド	説明
データベース・タイプ	<p>データベース・タイプを指定します。汎用 JDBC ドライバーまたは MySQL を選択する場合は、モジュール・プロバイダーを Studio にインストールする必要があります。JDBC ドライバーを Studio に追加するには、そのドライバーを Web 管理コンソールに追加してから、WMC で以下のステップを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「設定」に移動します。 2. 「設計」を選択します。 3. 「ライブラリー環境」を選択し、これを圧縮ファイルをロードした環境に設定します。 4. Studio を再始動します。 <p>注: JDBC ドライバーが Cast Iron® 汎用 JDBC サポートのためにデータベース・エンドポイントにアクセスするには、JDBC ドライバーが以下の条件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイプ 4 である。 • JDBC 2.0 以上の仕様を実装している。 • DataSource 機能 API のサポートを提供している。 <p>汎用 JDBC ドライバーのために、追加パラメーターが必要になることがあります。追加パラメーターが必要かどうかを確認するには、使用するドライバーの資料を参照してください。JDBC ライブラリーを WMC にインストールする方法については、WMC のオンライン・ヘルプを参照してください。</p>
データベース名	<p>接続先のデータベースの名前を指定します。Oracle RAC に接続している場合は、『Oracle RAC の場合』を参照してください。</p> <p>注: AS/400® DB2® データベースでは、これはインストール中に定義されたコレクション名です。</p>
ネットワーク・ロケーション: サーバー	<p>データベース・サーバーがあるマシンの名前または IP アドレスを指定します。Informix® の場合は、Informix Server Administrator にログインして、「構成 (Configuration)」 > 「SQLHOST」メニュー・オプションを選択してホスト名を見つけます。Sequelink の場合は、Sequelink Server の名前または IP アドレスを入力します。</p>
ネットワーク・ロケーション: ポート	<p>データベース・サーバー・リスナーのポート番号を指定します。Sequelink の場合は、Sequelink Server リスナーのポート番号を入力します。</p>
ユーザー名	<p>統合アプライアンスがデータベースへの接続に使用するユーザー名を指定します。</p> <p>注: DB2 の場合、ユーザーには、パッケージを作成するための許可が必要です。</p>
パスワード	<p>指定されたユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。</p>
追加パラメーター	<p>エンドポイントに関するデータベース固有の情報を指定します。詳しくは、『データベース・パラメーターの操作』を参照してください。デフォルトでは、すべてのタイプのデータベース・エンドポイントについて、MaxPooledStatements パラメーターは自動的に定義され、デフォルト値に設定されます。</p>

注: エンドポイントの一部のフィールドでは、フィールドに値を指定するための構成プロパティを定義できます。構成プロパティをサポートするフィールドをクリックしたときに、同じタイプの構成プロパティがプロジェクトで既に構成されている場合は、



アイコンが表示されます。

Informix データベースの場合

Informix データベースのポート番号を検索するには、以下のようにします。

1. エディターで、ファイル `$INFORMIXSERVER/etc/sqlhosts` を開きます。
2. SERVER 列にある `servicename` を書き留めます。
3. エディターで、ご使用のシステムに適したファイルを開きます。
 - UNIX - `/etc/services`
 - Windows - `¥Winnt¥system32¥drivers¥etc¥services`
4. ファイルで、`servicename` を検索して、関連付けられたポート番号を見つけます。

DB2 AS/400 データベースの場合

DB2 AS/400 の一部の EBCDIC-US 列では、Studio は正しいサイズとタイプを判別できません。

EBCDIC-US エンコードのパラメーターを渡すには、以下のようにします。

1. Studio で、データベース・コネクタ・アクティビティが含まれているオーケストレーションを開きます。
2. CHAR 型の列を VARBINARY 型に変更します。EBCDIC エンコードの列は、アウトバウンド・コネクタのデータ型では CHAR 型の列として表示されます。
3. データベース・コネクタの前にマップを使用して EBCDIC エンコードのパラメーターにスペースを埋め込み、パラメーターの値が列の長さと同しくなるようにします。

例えば、列の長さが 10 で、値が「abc」の場合は、列に 7 個のスペースを埋め込みます。

EBCDIC エンコードの値にスペースが埋め込まれない場合は、データベース・コネクタによって値にヌルが埋め込まれます。これによって矛盾するデータが作成され、エラーが発生する可能性があります。

結果セットから EBCDIC-US エンコードの列を読み取るには、以下のようにします。

1. Studio は、データベース・コネクタのパラメーター化照会操作が含まれているオーケストレーションを開きます。

パラメーター化照会を使用して、データベースから EBCDIC エンコードの列を選択するときに、値が列の長さより短い場合は、データベース・コネクタによって、スペースが埋め込まれた値が返されます。

例えば、列の長さが 10 で、値が「abc」の場合は、データベース・コネクタによって列に 7 個のスペースが埋め込まれます。

2. 埋め込まれたスペースを XML 結果セットからトリムするには、パラメーター化照会操作の後でマップを作成します。

Oracle RAC の場合

IBM Cast Iron では、Oracle RAC 接続を使用可能にする追加のプロパティが接続ストリングでサポートされます。Oracle RAC と接続するには、以下の追加のプロパティを使用します。

1. `AlternateServers=(servername1[:port1]
[:property=value[;...]],`

```
servername2[:port2]
[;property=value[;...]],...
```

各部の意味は、次のとおりです。

servername は、サーバーの IP アドレスです。

port は、サーバーのポート番号です。

property=value には、データベース名として使用される *ServiceName* を入力します。SID の入力はオプションです。

2. LoadBalancing=true|false

ドライバーが、リストのデータベース・サーバー (プライマリーおよび代替) への接続の試行時にクライアント・ロード・バランシングを使用するかどうかを判別します。代替サーバーのリストは、AlternateServers プロパティによって指定されます。true に設定すると、クライアント・ロード・バランシングが使用され、ドライバーは、リストのデータベース・サーバー (プライマリーおよび代替サーバー) への接続をランダムな順序で試行します。false (デフォルト) に設定すると、クライアント・ロード・バランシングは使用されず、ドライバーは、各サーバーに順次 (最初にプライマリー・サーバー、次に代替サーバーに、指定された順序で) 接続します。

3. エンドポイントの「データベース名」でサービス名を使用します。

接続プール、エンコード、タイムアウト、およびセキュリティー・オプション

接続プール・オプションにはデフォルト値が指定されています。必要に応じて変更してください。

表 2.


フィールド	説明
接続プール・オプション	
初期プール・サイズ	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができるデータベース接続の初期数を指定します。
最小接続数	統合アプライアンスが接続プールで常に開いておくデータベース接続の数を指定します。0 も指定できます。
最大接続数	統合アプライアンスが接続プールで開くことができるデータベース接続の最大数を指定します。0 を指定した場合、接続数の制限はありません。
最大アイドル時間	統合アプライアンスによって閉じられるまで、データベース接続が開いていてアイドル状態であることができる時間 (分) を指定します。0 を指定した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間はありません)。

フィールド	説明
接続の再利用	<p>統合アプライアンスが接続プールを検査して、接続を閉じる必要があるかどうかを判別する頻度を指定します。例えば、「接続の再利用」が6分に設定されている場合は、統合アプライアンスは、接続プールを6分ごとに検査して、プールで開いている接続の総数が接続の最小数を超過しているかどうかを判別します。開いている接続の数が指定された最小数を超過している場合は、統合アプライアンスは、「最大アイドル時間」を超えた接続のうち、「最小接続数」を超えた余分な接続を閉じます。</p> <p>例えば、「最小接続数」が2、「最大接続数」が6、「接続の再利用」が6分、「最大アイドル時間」が2分に設定されているとします。現在、合計5つの接続が接続プールで開いています。「接続の再利用」で指定された6分が経過すると、統合アプライアンスは接続プールを検査して、1つの接続が3分間アイドル状態になっていること、1つの接続が4分間アイドル状態になっていること、3つの接続がまだアクティブであることを判別します。統合アプライアンスは、2つのアイドル状態の接続を閉じます。さらに6分後に、統合アプライアンスは接続プールを再度検査します。</p>
デフォルト・エンコード	
エンコード	<p>このデータベースへの接続時に使用するデフォルトの文字エンコードを指定します。エンコード・タイプを設定するには、以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「エンコード」ドロップダウン・リストから、デフォルトのエンコード・タイプを選択します。 • 「エンコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。 <p>注: 一部の2バイト文字は、SHIFT-JIS エンコードで変換されません。詳しくは、『シフト JIS エンコードの使用』を参照してください。</p>
引用符で囲まれた ID	
表、列、およびオブジェクトの ID を引用符で囲みます。	<p>統合アプライアンスおよび Studio がデータベースと通信するために使用する、生成された SQL ステートメント内のデータベース表、列、およびオブジェクトの ID を引用符で囲むかどうかを指定します。ID を引用符で囲むと、ID では大/小文字が区別されます。例えば、myTable という ID ストリングは、mytable または MYTABLE という名前の表を指している可能性があります。引用符で囲まれた ID ストリング "myTable" は、myTable という名前の表のみを指します。また、ID を引用符で囲むと、通常データベース名では見つからないスペースなどの文字が使用できるようになります。</p>
セキュリティー	
暗号化を使用可能にする	<p>接続で SSL を使用する必要があることを指定します。</p>

フィールド	説明
サーバー証明書の妥当性検査	クライアントがデータベース・サーバー証明書を妥当性検査する必要があることを指定します。 『 SSL データベース接続のテスト 』を参照してください。
クライアント認証が必要	クライアントがデータベース・サーバーに証明書を提供することを指定します。
接続タイムアウト	
エンドポイントへの接続を確立しているとき、___秒後にタイムアウトになります。	<p>統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答するまでに要する時間の間で、タイムアウトが発生するまでの時間(秒単位)を指定します。データベース・アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前にデータベースへの接続の確立を試行する時間です。アクティビティー・タイムアウトはエンドポイントへの接続が既に確立された後に発生するため、接続タイムアウトとアクティビティー・タイムアウトは異なります。アクティビティー・タイムアウトは、アクティビティーがエンドポイントで要求を呼び出してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間(秒)を指定します。アクティビティー・タイムアウトは、次のデータベース・アクティビティーの「再試行」タスクに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「照会の実行」アクティビティー。『「照会の実行」アクティビティー』を参照してください。 単一表インバウンド・データベース・アクティビティー。『単一表インバウンド・データベース・アクティビティー』を参照してください。 単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティー。『単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティー』を参照してください。 「表のポーリング」アクティビティー呼び出し。『「表のポーリング」アクティビティー』を参照してください。 プロシージャー・アクティビティー。『「プロシージャーの呼び出し」アクティビティー』を参照してください。

親トピック: [データベース・アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_creating_editing_a_database_activity_endpoint.html

データベース表の表示

エンドポイントで指定されたデータベース内の表の現行リストから動的に表を選択するには、「データベース表の表示」ダイアログ・ボックスを使用します。

Studio はデータベースに接続され、データベースから表の現行リストを取得します。

表を選択するには、以下のいずれかのオプションを選択します。


- リスト内の表をクリックし、「OK」をクリックします。
- リスト内の表をダブルクリックします。

選択可能な表のリストを変更するには、以下のオプションを使用します。

- 異なるスキーマに関連付けられた表を確認するには、「ユーザー・スキーマによるフィルタリング」リストからスキーマを選択します。
- すべてのスキーマの表を確認するには、「クリア」をクリックします。
- 実行時に統合アプライアンスによって内部的に使用される、Web 管理コンソール (WMC) を使用して作成されたバッファ・テーブルまたは制御テーブルをフィルターで除外するには、「バッファ・テーブルおよびコントロール表の非表示」チェック・ボックスを選択します。これらの表の列名には、慣例により次のストリングの前書きが付けられます。IH

親トピック: [データベース・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Browsing_Database_Tables.html

文字エンコード

文字エンコードは、データベース・レベル、表レベル、あるいは列またはパラメーター・レベルで設定します。

例えば、データベースのデフォルト・エンコードが UTF-8 に設定されているときに、そのデータベースの 1 つの表で、エンコードが明示的に SHIFT-JIS に設定されているとします。この表の 1 つの列ではエンコードが明示的に ISO-8859-1 に設定されているのに対し、その他すべての列にはエンコードが指定されていません。そのため、その他の列ではデフォルト・エンコードである SHIFT-JIS が表から継承されます。

統合アプライアンスは、実行時にエンコードのタイプを別のタイプに変換する場合があります。例えば、オーケストレーションは、エンコードが ISO-8859-1 に設定されている表の入力データを読み取ってから、UTF-8 に設定された列にそのデータを書き込むことがあります。

文字エンコードを設定するには、以下のようにします。

- データベース・レベルで設定 - 「エンドポイントの編集」または「エンドポイントの作成」ダイアログ・ボックスの「エンコード」リストからエンコード・タイプを選択します。
- 表レベルで設定 - 「表の選出 (Pick Table)」ペインの「エンコード」リストからエンコード・タイプを選択します。
- 列レベルで設定 - 「表の選出 (Pick Table)」ペインで必要な列の「エンコード」フィールドをクリックして、リストから選択します。

デフォルトの文字エンコード・タイプの説明については、以下を参照してください。

注: 以下に示すバイナリー・データ型では、「エンコード」フィールドを空白のままにする必要があります。

- Blob
- バイナリー
- Varbinary

エンコード・タイプを設定するには、以下のいずれかのオプションを選択します。

- 「エンコード」リストから、デフォルトのエンコード・タイプを選択します。
- 「エンコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。

以下の表に、一部のデフォルトのエンコード・タイプをリストします。

表 1.

エンコード	説明
UTF-8	UTF-8 は、ユニコードまたは ISO-10646 の標準の文字エンコードです。これらの標準はどちらも、現代の言語で使用される各文字に、単一の固有の数値を割り当てます。これはデフォルト・エンコードです。
US-ASCII	これは ASCII と呼ばれ、Windows および UNIX コンピューターで使用される基本的な文字エンコードです。
ISO-8859-1	Latin1 と呼ばれるこのエンコードには、ASCII と、多数の西ヨーロッパ言語用の文字が含まれています。
EBCDIC-C-XML-US	これは、IBM® コンピューターで使用される基本的な文字エンコードです。EBCDIC-US は、ASCII のように、米国ベースの文字エンコードです。
SHIFT-JIS	カタカナとも呼ばれ、日本語を指定します。 注: 一部の 2 バイト文字は、SHIFT-JIS エンコードで変換されません。詳しくは、『 シフト JIS エンコードの使用 』を参照してください。

親トピック: [データベース・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_character_encodings.html

データベース・エンティティおよびアクティビティ

以下の表は、データベース・エンティティと、さまざまなタイプのデータベース・アクティビティとの関係を示したものです。また、この表では、データベースでデータベース・エンティティを作成する方法につ

いても説明されています。


注: DB2® UDB では、資産生成スクリプトにより、バッファ表および制御表の名前が9文字に制限されます。
 注: 汎用 JDBC ドライバ接続の場合、資産の生成に使用されるスクリプトは、データベースから使用可能な情報に基づいたテンプレートのみです。スクリプトを分析して、SQL 構文およびデータ型がターゲット・データベースでサポートされることを確認する必要があります。これらがサポートされない場合、別のメカニズムを使用してスクリプトを変更してから実行して、そのデータベース用の必要な資産を作成する必要があります。

データベース・エンティティ	関連付けられているアクティビティの説明	作成方法
バッファ表	<p>インバウンド単一表アクティビティ（「挿入済み行の取得」、「更新済み行の取得」、および「削除済み行の取得」）で使用されます。バッファ表には、データベース操作の結果が含まれます。</p> <p>例えば、「挿入済み行の取得」アクティビティでは、データベースでの挿入についてポーリングが行われます。データベースで挿入が行われると、バッファ表には、挿入されたデータが追加されます。</p>	<p>インバウンド単一表アクティビティで使用されるバッファ表は、以下の手順で作成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web 管理コンソール (WMC) で、「アセット (Assets)」画面に移動し、スクリプトを実行します。 2. WMC から、プロジェクトをデプロイします。
制御表	<p>メッセージが一度のみ配信されるように指定されている場合に、以下のアクティビティで使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 行の挿入 • 行の更新 (Update Rows) • 行の削除 • プロシージャの呼び出し <p>他の配信オプションが指定されている場合、制御表は不要です。配信オプションは、アクティビティのチェックリストの「配信ルール (Deliver Rules)」タスクで指定します。</p>	<p>アクティビティで使用される制御表は、以下の手順で作成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web 管理コンソール (WMC) で、「アセット (Assets)」画面に移動し、スクリプトを実行します。 2. WMC から、プロジェクトをデプロイします。

データベース・エンティティ	関連付けられているアクティビティの説明	作成方法
トリガー	バッファ表にデータを追加するために、インバウンド単一表アクティビティ（「挿入済み行の取得」、「更新済み行の取得」、および「削除済み行の取得」）で使用されます。	<p>インバウンド単一表アクティビティで使用されるトリガーは、以下の手順で作成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web 管理コンソール (WMC) で、「アセット (Assets)」画面に移動し、スクリプトを実行します。 2. WMC から、プロジェクトをデプロイします。
ストアード・プロシージャ	ストアード・プロシージャは、「プロシージャの呼び出し」アクティビティで必要となります。	<p>「プロシージャの呼び出し」アクティビティの構成を Studio で実行する前に、ストアード・プロシージャを作成して、データベースにインストールしておく必要があります。ストアード・プロシージャは、WMC からは作成されません。ストアード・プロシージャは、データベース管理者がデータベースに直接作成する必要があります。</p>
シーケンス	Oracle データベースの場合にのみ、インバウンド単一表アクティビティ（「挿入済み行の取得」、「更新済み行の取得」、および「削除済み行の取得」）で使用されます。	<p>Oracle のみ - インバウンド単一表アクティビティで使用されるシーケンスは、以下の手順で作成されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インバウンド単一表アクティビティが含まれているオーケストレーションを持つプロジェクトを Studio から統合アプライアンスにパブリッシュします。 2. Web 管理コンソール (WMC) を使用して、オーケストレーションで使用されるシーケンスを Oracle データベースに作成します。 3. WMC から、プロジェクトをデプロイします。

親トピック: [データベース・アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

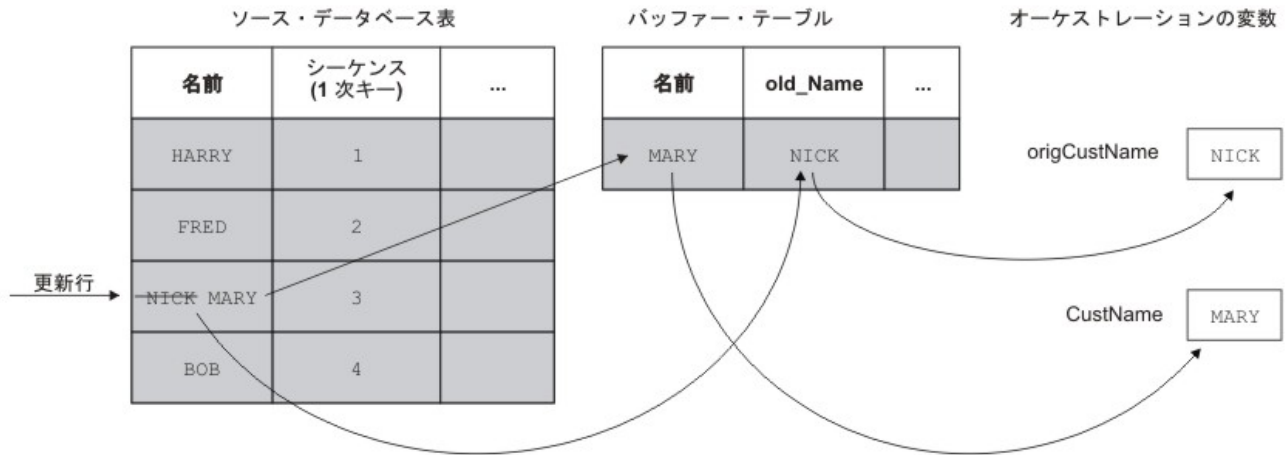
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/conn_ref_Connector_Prerequisites_for_Database_Operations.html

更新において古い値に対して列を定義

このタスクについて

「更新済み行の取得」(インバウンド) および「行の更新」(アウトバウンド) アクティビティーは、実行時に指定の列の新しい値と元の値を両方とも保管できます。例えば、「更新済み行の取得」アクティビティーは、「名前」列の元の値と、「名前」列の新しい値を両方とも保管するように構成できます。図 1 は、「更新済み行の取得」アクティビティーが、更新トリガー・イベント発生後に統合アプライアンスによって処理されるときサンプル・データの転送を示しています。

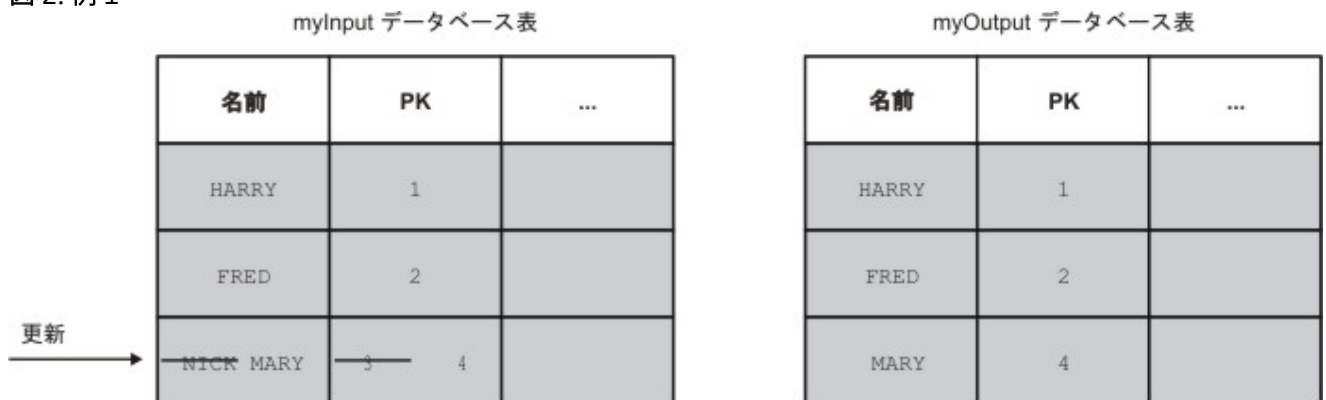
図 1. 古い列の更新



「更新用の古い値の列」ダイアログ・ボックスで、元の値を保管する列を選択します。「更新用の古い値の列」ダイアログ・ボックスを使用可能にするには、「更新対象行の取得」アクティビティーおよび「行の更新 (Update Rows)」アクティビティーに対してチェックリストの「表の選択」タスクで「古い値 (Old Values)」をクリックします。デフォルトでは、元の値の保管に使用される列の名前は、元の列名の先頭にストリング old_ が付いたものになります。例えば、元の列名が `FirstName` である場合、更新操作の元の値を保管するために使用される列の名前は、デフォルトでは `old_FirstName` となります。このデフォルト名は変更できます。

プロジェクトによっては、1次キーの元の値も保管しなければならない場合があります。例えば、図 2 に示すように、ご使用のアプリケーションで更新操作時に1次キー値が実際に変更される場合などです。

図 2. 例 1

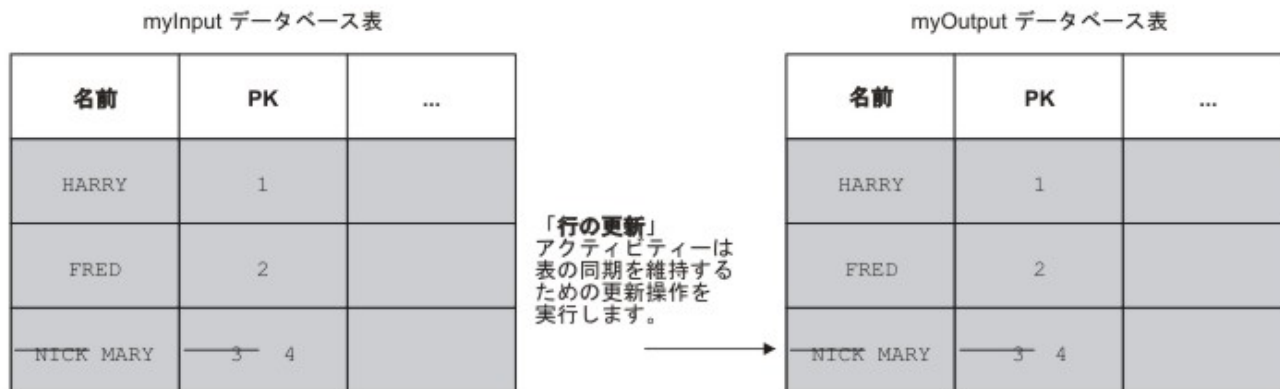


サンプル・オーケストレーションの目的は、myInput データベース表と myOutput データベース表を同期させておくことです。サンプル・オーケストレーションには、myInput 表で更新イベントについてポーリングする「更新対象行の取得」アクティビティーと、myOutput 表を更新する「行の更新」アクティビティーが含まれています。

実行時に、myInput データベース表に対して更新操作が行われ、「名前」列の値と、対象となる行の 1 次キー値が両方とも変更されます。この更新操作は、統合プロジェクトの外で行われます。オーケストレーションは、myInput データベース表と myOutput データベース表を同期させておくために、元の 1 次キーにアクセスして、myOutput データベース表のどの行を新規 1 次キーと「名前」の新規値で更新するのかを認識します。

図 3 に示すように、古い 1 次キーは、「更新済み行の取得」アクティビティで変数に保存し、後で myOutput データベース表を更新するときに「行の更新」アクティビティで使用できます。

図 3. 例 2



親トピック: データベース・アクティビティ

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/conn_db_Defining_Columns_for_Old_Values_in_Updates.html

MaxPooledStatements パラメーター

すべてのタイプのデータベース・エンドポイントについて、MaxPooledStatements パラメーターは自動的に定義され、デフォルト値に設定されます。

重要: MaxPooledStatements パラメーターのデフォルト設定を変更すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

MaxPooledStatements パラメーターは、データベース・エンドポイントによってキャッシュに保管される準備されたステートメントの最大数を指定します。MaxPooledStatements パラメーターの値がゼロよりも大きい場合、データベース・エンドポイントは準備されたステートメントのプールを作成して、後で再利用するため、PreparedStatement オブジェクトを保管します。新規 PreparedStatement オブジェクトの作成に伴うパフォーマンス・コストは高いものになる可能性があるため、PreparedStatement オブジェクトをプールに保管し、プールの既存のオブジェクトを再利用することで、パフォーマンスが向上する可能性があります。

親トピック: データベース・アクティビティ

関連タスク:

[データベース・パラメーターの操作](#)

関連資料:

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/MaxPooledStatements_Parameter.html

Oracle、Sybase、DB2、および Informix のパラメーター

データベース・エンドポイントの「追加パラメーター」表では、Oracle、Sybase、DB2®、または Informix® の各データベースに対して接続パラメーターを定義します。

:

Oracle

結果セットを返す Oracle ストアド・プロシージャが「プロシージャの呼び出し」アクティビティで呼び出される場合、対象となるコネクタに対してのみエンドポイントを定義して、パラメーター `procedureretresult` を追加する必要があります。このパラメーターの値は、1 でなければなりません。

Nchar データ型または Nvarchar データ型が、Oracle データベースに接続するデータベース・アクティビティで使用される場合、`enablencharsupport` パラメーターを定義して、データベース・エンドポイントでそのパラメーターに値 1 を割り当てる必要があります。

Oracle データベース表名が数字で始まる場合、Studio は「無効なトリガー指定 (Invalid Trigger Specification)」エラーをスローします。

プロジェクトで Oracle 8.1.6 データベースとのデータベース・リンクが使用される場合、`supportLinks` パラメーターを定義して、データベース・エンドポイントでそのパラメーターに値 `true` を割り当てる必要があります。デフォルトでは、[MaxPooledStatements パラメーター](#)が自動的に定義され、Oracle データベース・エンドポイントに対してデフォルト値で設定されます。

DB2

DB2 データベースの場合、以下の 2 つのパラメーターを定義する必要があります。

- LocationName - AS/400® DB2 データベースのインストール時に定義されるロケーション名を入力します。UDB には不要です。
- PackageCollection - このフィールドの値は、DB2 データベースのシステム・タイプによって異なります。
 - AS/400 - コレクション名を入力します。
 - UDB - DB2 データベースの名前を入力します。

注: DB2 ユーザーには、パッケージを作成するための許可が必要です。

デフォルトでは、[MaxPooledStatements パラメーター](#)が自動的に定義され、DB2 データベース・エンドポイントに対してデフォルト値で設定されます。

Informix

InformixServer パラメーターを定義する必要があります。

Informix Server 名を見つけるには、onconfig ファイルから DBSERVERNAME を検索し、その値を InformixServer パラメーターに指定します。

デフォルトでは、[MaxPooledStatements パラメーター](#)が自動的に定義され、Informix データベース・エンドポイントに対してデフォルト値で設定されます。

Sybase

Sybase エンドポイントの場合、OverwriteCharLimits パラメーターは自動的に定義され、32768 の値に設定されます。このパラメーターは、例えば vchar や char などの文字カラムのサイズを定義します。

デフォルトでは、[MaxPooledStatements パラメーター](#)は自動的に定義され、Sybase データベース・エンドポイントに対してデフォルト値で設定されます。

親トピック: [データベース・アクティビティ](#)

関連タスク:


[データベース・パラメーターの操作](#)

関連資料:

[MaxPooledStatements パラメーター](#)

[SequeLink パラメーター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/conn_ref_Oracle,_DB2,_and_Informix_Parameters.html

インバウンド・データベース・アクティビティの再試行オプション

このセクションには、インバウンド・データベース・アクティビティ（「挿入対象行の取得」アクティビティ、「更新対象行の取得」アクティビティ、「削除対象行の取得」アクティビティ、および「表のポーリング」アクティビティ）の再試行オプションを構成する手順が記載されています。

インバウンド・データベース・アクティビティの再試行オプションを指定する

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. データベースに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表で、データベースに接続するための再試行オプションについて説明します。

表 1.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに__秒待機します。	データベースへの接続の確立を試行するまでに、統合アプライアンスが待機する時間 (秒) を指定します。
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスがデータベースへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ このパラメーターを「0」に設定すると、Studio は再接続を試行しません。 ○ このパラメーターを「0」より小さい値に設定すると、Studio は再接続を無期限に再試行します。 <p>インバウンド・データベース・アクティビティから開始されるオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定のデータベースに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスはシステム・ログにエラーを記録し、接続エラー回数をゼロにリセットして、データベースへの接続を引き続き確立しようとしています。</p> <p>例えば、再試行回数を3に設定すると、第1、第2、第3の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第4の接続エラーをエラーとしてログに記録し、接続エラー回数をゼロにリセットします。そのため、第5の接続エラーは、システム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、データベースへの接続を引き続き確立しようとしています。</p>
アクティビティ・タイムアウト	
3) エンドポイントが要求に応答しないとき、__秒後にタイムアウトになります。	<p>アクティビティがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答するまでに要する時間の中で、タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。例えば、INSERT トリガー・イベントについてのデータベース・ポーリングを要求した後で、統合アプライアンスがタイムアウト・エラーを出すまでに、統合アプライアンスがデータベースからの応答を待機する時間です。アクティビティ・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトは「データベース・エンドポイント」タブで設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『データベース・アクティビティ・エンドポイントの作成または編集』を参照してください。</p>

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_retry_options_for_inbound_database_activities.html

アウトバウンド・データベース・アクティビティの再試行オプション

このセクションには、アウトバウンド・データベース・アクティビティ（「照会の実行」アクティビティ、「行の挿入」アクティビティ、「行の更新」アクティビティ、「行の削除」アクティビティ、および「プロシージャの呼び出し」アクティビティ）の再試行オプションを構成する手順が記載されています。

アウトバウンド・データベース・アクティビティの再試行オプションを指定する

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. データベースに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表で、データベースに接続するための再試行オプションについて説明します。


表 1.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに__秒待機します。	データベースへの接続の確立を試行するまでに、統合アプライアンスが待機する時間 (秒) を指定します。

フィールド	説明
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスがデータベースへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>アウトバウンド・データベース・アクティビティーが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定のデータベースに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を3に設定すると、第1、第2、第3の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第4の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>注: 「データベースの照会の実行 (Database Execute Query)」アクティビティーでは、このパラメーターをゼロに設定すると、統合アプライアンスは接続を無期限に再試行します。</p>
アクティビティー・タイムアウト	
3) エンドポイントが要求に 응답しないとき、__秒後にタイムアウトになります。	<p>アクティビティーがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答するまでに要する時間の間で、タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。例えば、挿入を要求した後で、統合アプライアンスがタイムアウト・エラーを出すまでに、統合アプライアンスがデータベースからの応答を待機する時間です。アクティビティー・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に 응답せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトは「データベース・エンドポイント」タブで設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『データベース・アクティビティー・エンドポイントの作成または編集』を参照してください。</p>

親トピック: [データベース・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_retry_options_for_outbound_database_activities.html

SequeLink パラメーター

このセクションでは、Sequelink エンドポイントの各種パラメーターをリストします。一部のパラメーターでは、パラメーター値を指定する必要があります。また、パラメーターを追加することもできます。

注: エンドポイントに対してデータベース・タイプとして SequeLink Server を指定した場合、このセクションで太字でリストされているパラメーターが、「エンドポイント」ペインの「追加パラメーター」表に表示されます。

MaxPooledStatements:

デフォルトでは、**MaxPooledStatements** パラメーターは自動的に定義され、SequeLink データベース・エンドポイントに対してデフォルト値で設定されます。

ServerDataSource:

このパラメーターは必須です。「パラメーター値」フィールドにデータ・ソース名を入力する必要があります。このデータ・ソース名は、Sequelink Manager の「Data Source Settings」に指定されます。

BaseDatabaseType:

OTHERS というストリングを入力します。

DBLogonId:

このデータベースへのアクセスに使用するユーザー・アカウントの名前を入力します。これは、エンドポイントの「ユーザー名」プロパティを複製するオプション・パラメーターです。このパラメーターは、ご使用の SequeLink Server で必要となる場合に使用します。また、DBPassword パラメーターも指定する必要があります。

DBPassword:

DBLogonId で指定したアカウントのパスワードを入力します。これは、エンドポイントの「パスワード」プロパティを複製するオプション・パラメーターです。このパラメーターは、ご使用の SequeLink Server で必要となる場合に使用します。

HLogonID:

SequeLink Server がインストールされているホストにアクセスするために使用するログインまたはユーザー名を入力します。これは、SequeLink Server でホスト認証が必要となる場合にのみ要求されるオプション・パラメーターです。また、HPassword パラメーターも指定する必要があります。

HPassword:

SequeLink Server がインストールされているホストにアクセスするために使用するパスワードを入力します。これは、SequeLink Server でホスト認証が必要となる場合にのみ要求されるオプション・パラメーターです。

親トピック: [データベース・アクティビティ](#)

関連タスク:

[データベース・パラメーターの操作](#)

関連資料:

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/conn_ref_SequeLink_Parameters.html

単一表インバウンド・データベース・アクティビティー

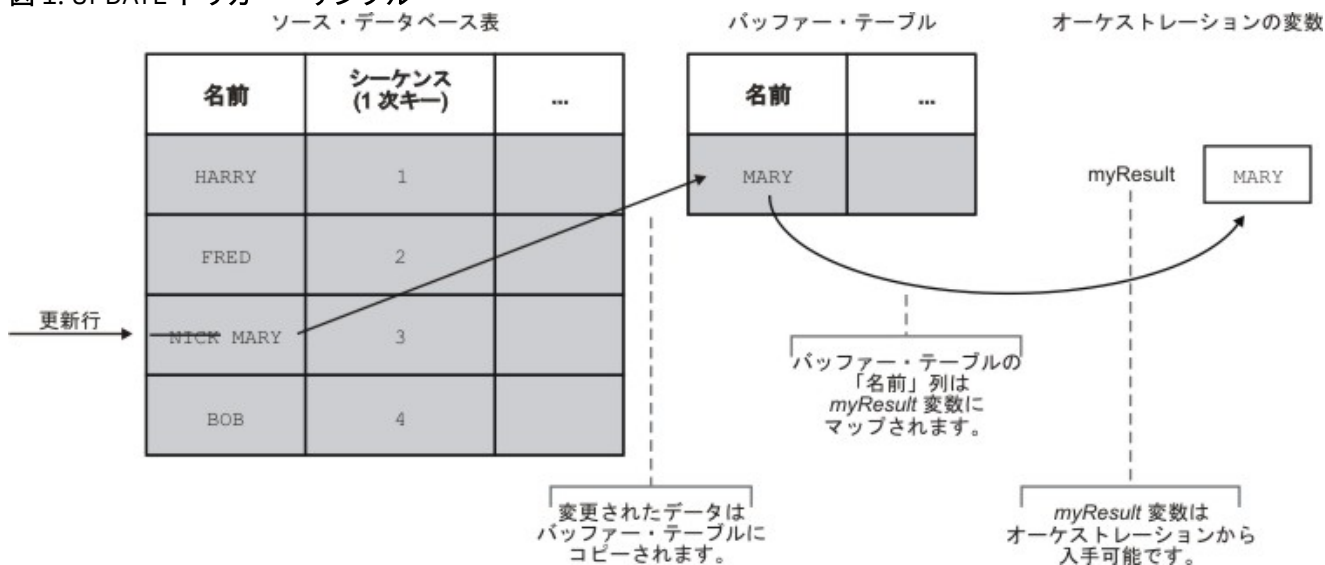
実行時に、単一表インバウンド・データベース・アクティビティーは、データベース表の指定された列のいずれかの行でデータベース操作が行われたかどうかを、指定された時間間隔でポーリングします。

このセクションでは、以下の単一表インバウンド・データベース・アクティビティーを構成するための手順について説明します。

- **挿入対象行の取得** - 実行時に、「挿入対象行の取得」アクティビティーは INSERT トリガー・イベントからバッファ・テーブルに追加される行をポーリングします。次に「挿入対象行の取得」アクティビティーは、バッファ・データを変数 (複数可) にマップします。
- **更新対象行の取得** - 実行時に、「更新対象行の取得」アクティビティーは UPDATE トリガー・イベントからバッファ・テーブルに追加される行をポーリングします。次に「更新対象行の取得」アクティビティーは、バッファ・データを変数 (複数可) にマップします。
- **削除対象行の取得** - 実行時に、「削除対象行の取得」アクティビティーは DELETE トリガー・イベントからバッファ・テーブルに追加される行をポーリングします。次に「削除対象行の取得」アクティビティーは、バッファ・データを変数 (複数可) にマップします。

図 1 は、UPDATE トリガー・イベントと「更新済み行の取得」アクティビティーにおけるサンプル・データの転送を示しています。

図 1. UPDATE トリガー・サンプル



インバウンド・データベース・アクティビティーでオーケストレーションを統合アプライアンスに公開した後、そのオーケストレーションをデプロイするには、Web 管理コンソール (WMC) を使用してバッファ・テーブルとトリガーを作成する必要があります。Oracle データベースの場合、WMC を使用してシーケンスも作成する必要があります。

対象の操作に対するアクティビティーがない場合の実行時エラー

オーケストレーションが、そのオーケストレーションに現在存在しないアクティビティーの行を含むバッファ－・テーブルにアクセスすると、オーケストレーションは失敗し、実行時に次のエラーが報告されます。

バッファ－・テーブルに *OperType* 操作が含まれますが、その操作に対するアクティビティーはオーケストレーションにありません。(The buffer table contains the *OperType* operation but there is no activity in the orchestration for that operation.)

ここで、*OperType* は操作のタイプです (例えば、INSERT)。オーケストレーションのバッファ－・テーブルにある IH_OPERATION_NAME 列の値は、オーケストレーションのデータベース・アクティビティーと整合している必要があります。例えば、バッファ－・テーブルの行で、INSERT という値が IH_OPERATION_NAME 列に含まれているときに、オーケストレーションに「挿入済み行の取得」アクティビティーが含まれていない場合、このエラーが報告されます。各オーケストレーションには、別個のバッファ－・テーブルが必要です。さらに、ソース表内のトリガーは、バッファ－・テーブルに指定されているデータベース操作と整合している必要があります。例えば、オーケストレーションに単一のインバウンド「更新済み行の取得」アクティビティーのみが含まれる場合、ソース・データベース表には UPDATE トリガーのみが含まれるようにする必要があります。

単一表インバウンド・データベース・アクティビティーをオーケストレーションに追加する

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「データベース」フォルダーを展開します。
3. 必要な単一表インバウンド・データベース・アクティビティー(「挿入済み行の取得」、「削除済み行の取得」、または「更新済み行の取得)をオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。

データベース・エンドポイントを作成、選択、または編集する

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. HTTP エンドポイントを作成または編集します。『[HTTP エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

実行時に統合アプライアンスが変更をポーリングするソース・データベース表で列を選択する

1. 「チェックリスト」で「表の選出 (Pick Table)」をクリックします。「表の選出 (Pick Table)」ペインが表示されます。
2. 「参照...」をクリックして、インバウンド・メッセージのソースとなるデータベース表を選択します。「データベース表の表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. リストから表を選択し、「OK」をクリックします。選択した表の列情報が「表の選出 (Pick Table)」ペインに表示されます。
4. この表の文字エンコードがデータベースのエンコードと異なる場合、以下のオプションのいずれかを使用して、別のエンコードを入力します。
 - 「エンコード」リストから、デフォルトのエンコード・タイプの1つを選択します。
 - 「エンコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。

これにより、結果として生成されるバッファ・テーブルのすべての列にそのエンコードが設定されます。

注: 一部の2バイト文字は、SHIFT-JIS エンコードで変換されません。詳しくは、『[シフト JIS エンコードの使用](#)』を参照してください。

5. デフォルトで、ソース表内のすべての列が選択されます。結果として生成されるバッファ・テーブルから列を削除するには、「使用」チェック・ボックスをクリアします。「すべて使用」をクリックすると、すべての列がもう一度選択されます。
6. 列見出しをクリックすると、その列の値で行がソートされます。例えば、列名で行をソートするには、列の「列名」見出しをクリックします。列見出し名の右側に矢印が表示されます。上矢印は、列が a で始まり z へと続くアルファベット順でソートされていることを示します。下矢印は、列が z で始まり a へと続く逆のアルファベット順でソートされていることを示します。矢印をクリックすると、アルファベットの順序が逆になります。
7. 「更新済み行の取得」アクティビティの場合のみ - 結果として生成されるバッファ・テーブルに、更新された列の新しい値と元の値の両方が含まれるようにするには、以下の手順に従います。
 - a. 「古い値 (Old Values)」をクリックします。「更新用の古い値の列」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - b. 元の値を保存するデータベース列の「保管 (Store)」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 元の値を保管する列に割り当てられているデフォルトの名前を変更することができます。該当する「古い値を保管する列の名前」セルをダブルクリックします。
 - d. 「OK」をクリックします。選択した列の先頭に `old_` というストリングが付けられたものが、「出力のマップ」ペインの「アクティビティから」に表示されます。「出力のマップ」ペインから、新しい値と元の値の両方をマップすることができます。

注: 詳細については、『[更新において古い値に対して列を定義](#)』を参照してください。

8. 必要に応じて、「データ型」、「エンコード」、または「ヌル可能」値の設定を変更します。新しく選択を行うフィールドをクリックします。
 - データ型 - デフォルトでは、ソース・データベース表内の列のデータ型。バッファ・テーブル内の列の必要なデータ型がソース表のデータ型と異なる場合は、「データ型」セルをクリックして、リストから別のデータ型を選択します。「UNSUPPORTED」のマークが付けられているデータ型については、適切なデータ型を選択する必要があります。

注: Oracle データベースの XMLTYPE データ型と、SQL Server データベースの MONEY データ型については、Studio によって自動的に正しいデータ型が関連付けられないため、ユーザーが適切なデータ型を手動で選択する必要があります。

重要: 実行時に無効なデータが生じないようにするため、ソース・データ型と互換性のあるデータ型を選択する必要があります。例えば、ソース・データ型が INTEGER である場合、バッファ・テーブルに SMALLINT データ型を選択しないでください。これは、実行時に INTEGER 列に保管された大きい数値が SMALLINT データ型に正しく変換されないためです。
 - サイズ - 表で定義された列のサイズ。このサイズはデータベース表から取得され、構成することはできません。
 - エンコード - デフォルトでは、データベース・レベルまたは表レベルのいずれかで設定された現在のデフォルト・エンコード。列に必要なエンコードが現在のデフォルト・エンコードと異なる

場合は、「エンコード」セルをクリックして、リストから別のエンコードを選択することによって、別のエンコードを選択します。

- ヌル可能 - デフォルトでは、ソース・データベース表内の列に対してヌル可能の設定。
nullable=false である場合は、列の「使用」チェック・ボックスが選択されている必要があります。 nullable=false とマークが付けられている列に、実行時にヌルを含めることはできません。
- 9. 「リセット」をクリックすると、すべての列プロパティがデフォルトに再設定されます。 これにより、すべての列の「使用」チェック・ボックスも再設定されます。
- 10. 「最新表示」をクリックして、列のリストをソース・データベースの最新の状態に応じて更新します。 ソースに対する最近の変更が、このペインで更新されます。
- 11. **データベース・アクティビティーのための「配信ルール」の指定**を構成します。
注: 「配信ルール」タスクで「1 回のみ」オプションを選択する場合は、実行時に統合アプライアンスで使用されるコントロール表を作成する必要があります。 Studio から統合アプライアンスにオーケストレーションを公開した後で、コントロール表を作成します。 プロジェクトをデプロイする前に、Web 管理コンソール (WMC) を使用して、コントロール表を作成します。
注: 「1 回のみ」オプションを選択する場合は、パーシスタンスを使用可能にする必要があります。 詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。
- 12. 再試行オプションを構成します。 詳しくは、『[インバウンド・データベース・アクティビティーの再試行オプション](#)』を参照してください。

アクティビティーの出力をマップする

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。

アクティビティーの出力パラメーターが、「アクティビティーから」ペインの rows エLEMENTの下に表示されます。「アクティビティーから」ペインに表示される出力パラメーターは、「**表の選出 (Pick Table)**」タスクで選択した列に対応します。「配信ルール」で「バッチ」オプションを選択した場合、複数オカレンスのシンボルが row エLEMENTの横に表示されます。


注: 「更新済み行の取得」アクティビティーの場合のみ、「表の選出 (Pick Table)」タスクの「更新用の古い値の列」ダイアログ・ボックスで列が選択されると、これらの追加出力パラメーター (デフォルトで old_ という文字列が接頭部として付けられます) も rows エLEMENTの下に表示されます。「出力のマップ」ペインに表示される古い値の列をすべてマップする必要があります。

2. 必要な出力パラメーターを変数 (複数可) にマップします。 マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。 これらのアクティビティーに関しては、出力パラメーターをマップする必要はありません。

注: インバウンド・データベース・アクティビティーでオーケストレーションを統合アプライアンスに公開した後、そのオーケストレーションをデプロイするには、Web 管理コンソール (WMC) を使用してバッファ・テーブルを作成する必要があります。

親トピック: [データベース・アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_singletable_inbound_database_activities.html

単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティ

このセクションでは、以下の単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティを構成するための手順について説明します。

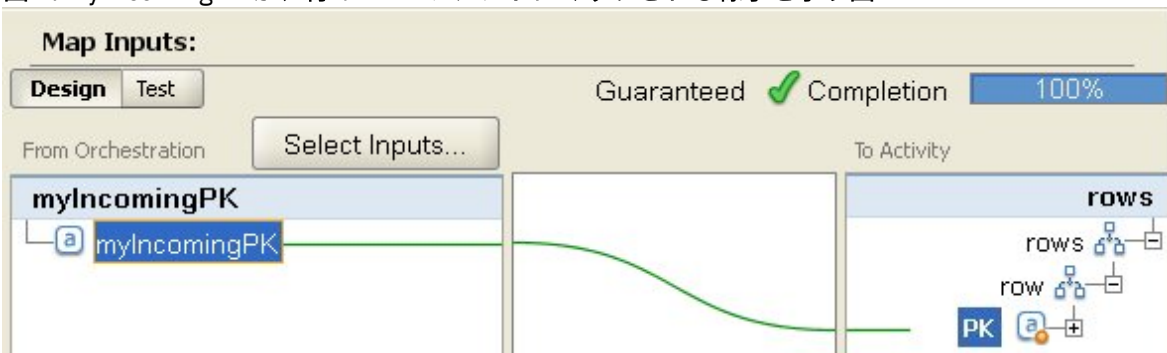
アクティビティには、以下が含まれます。

- 行の挿入 - このアクティビティは、アクティビティの入力パラメーターにマップされている変数からデータを取得し、指定したデータベース表にそのデータを行として挿入します。
- 行の更新 - このアクティビティは、アクティビティの入力パラメーターにマップされている変数からデータを取得し、その新規データで、指定されたデータベース表の行を更新します。
- 行の削除 - このアクティビティは、アクティビティの入力パラメーターにマップされている変数からデータを取得し、そのデータに基づいて、指定されたデータベース表の行を削除します。

「行の更新」アクティビティおよび「行の削除」のアクティビティでは、統合アプライアンスがデータベース表を統合して、表内のどの列が1次キー列であるのかを判別します。「行の更新」アクティビティまたは「行の削除」アクティビティが実行時に開始されると、統合アプライアンスは、1次キー番号を含む入力変数の値を使用して、更新または削除する行を判別します。

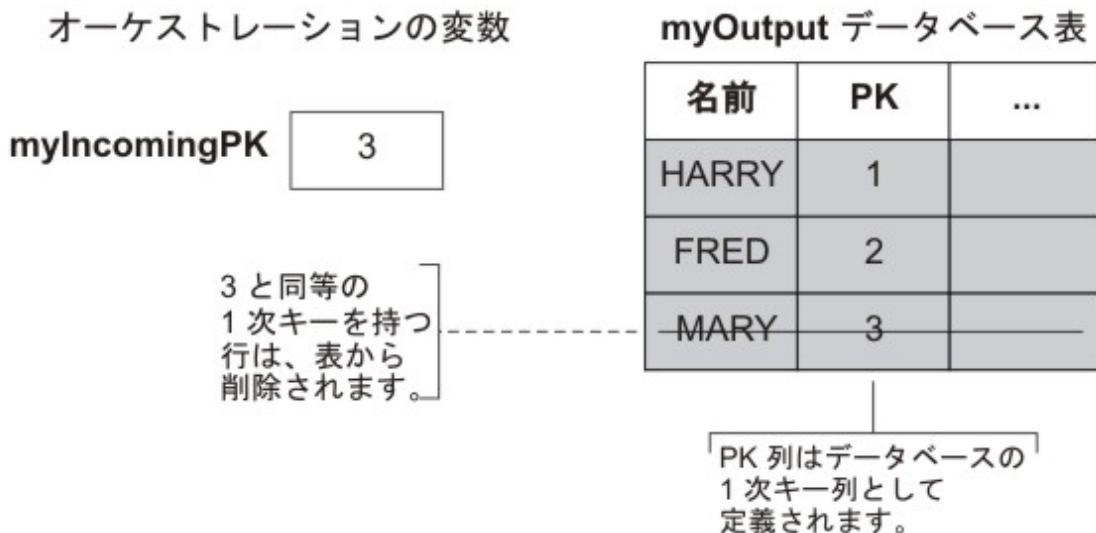
例えば、PK列がデータベース表の1次キー列としてデータベースに定義されているとします。「行の削除」アクティビティ用の「チェックリスト」の「表の選出 (Pick Table)」タスクで、PK列に対して「使用」チェック・ボックスが選択されます。次の図1に示されているように、「行の削除」アクティビティの「入力のマップ」ペインで、myIncomingPKという名前の変数が行のPKエレメントにマップされます。

図1. myIncomingPK が、行の PK エレメントにマップされる様子を示す図



次の図2に示されているように、実行時に、myIncomingPK 変数の値が3である場合、値が3のPKを持つ行は表から削除されます。

図2. 1次キーが3である行が削除される様子を示す図



「チェックリスト」の「表の選出 (Pick Table)」タスクで1次キー列が指定されていない場合、1次キーのように機能する列を少なくとも1つ指定してください。「1次キーの構成」ダイアログ・ボックスを使用して1次キーとして機能する列(複数可)を指定するには、「行の削除」アクティビティーおよび「行の更新」アクティビティー用の「チェックリスト」の「表の選出 (Pick Table)」タスクで「キー」をクリックします。データベース表で1次キーが指定されていない場合、あるいは「1次キーの構成」ダイアログ・ボックスで1次キーとして機能するようにキーが選択されていない場合、データベース表のすべての行は、削除操作または更新操作によって影響を受けます。

また、「1次キーの構成」ダイアログ・ボックスを使用して、1次キー列のように機能する列をさらに指定することもできます。例えば前の図の表では、1次キー列としてデータベースに定義された PK 1 次列に加えて、Name 列が1次キー列のように機能するように定義することもできました。

単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティーをオーケストレーションに追加する

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「データベース」フォルダーを展開します。
3. 必要な単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティー(「行の挿入」、「行の削除」、または「行の更新」)をオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。

データベース・エンドポイントを作成、選択、または編集する

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - エンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. HTTP エンドポイントを作成または編集します。『HTTP エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

実行時に統合アプライアンスが変更をポーリングするソース・データベース表で列を選択する

1. 「チェックリスト」で「表の選出 (Pick Table)」をクリックします。「表の選出 (Pick Table)」ペインが表示されます。
2. 「参照…」をクリックして、インバウンド・メッセージのソースとなるデータベース表を選択します。「データベース表の表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. リストから表を選択し、「OK」をクリックします。選択した表の列情報が「表の選出 (Pick Table)」ペインに表示されます。

4. この表の文字エンコードがデータベースのエンコードと異なる場合、以下のオプションのいずれかを使用して、別のエンコードを入力します。
 - 「エンコード」リストから、デフォルトのエンコード・タイプの1つを選択します。
 - 「エンコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。

これにより、結果として生成されるバッファ・テーブルのすべての列にそのエンコードが設定されます。

注: 一部の2バイト文字は、SHIFT-JIS エンコードで変換されません。詳しくは、『[シフト JIS エンコードの使用](#)』を参照してください。

5. デフォルトで、ソース表内のすべての列が選択されます。結果として生成されるバッファ・テーブルから列を削除するには、「使用」チェック・ボックスをクリアします。「すべて使用」をクリックすると、すべての列がもう一度選択されます。
6. 列見出しをクリックすると、その列の値で行がソートされます。例えば、列名で行をソートするには、列の「列名」見出しをクリックします。列見出し名の右側に矢印が表示されます。上矢印は、列が a で始まり z へと続くアルファベット順でソートされていることを示します。下矢印は、列が z で始まり a へと続く逆のアルファベット順でソートされていることを示します。矢印をクリックすると、アルファベットの順序が逆になります。
7. 「更新済み行の取得」アクティビティーの場合のみ - 結果として生成されるバッファ・テーブルに、更新された列の新しい値と元の値の両方が含まれるようにするには、以下の手順に従います。
 - a. 「古い値 (Old Values)」をクリックします。「更新用の古い値の列」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - b. 元の値を保存するデータベース列の「保管 (Store)」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 元の値を保管する列に割り当てられているデフォルトの名前を変更することができます。該当する「古い値を保管する列の名前」セルをダブルクリックします。
 - d. 「OK」をクリックします。選択した列の先頭に `old_` というストリングが付けられたものが、「出力のマップ」ペインの「アクティビティーから」に表示されます。「出力のマップ」ペインから、新しい値と元の値の両方をマップすることができます。

注: 詳細については、『[更新において古い値に対して列を定義](#)』を参照してください。

8. 必要に応じて、「データ型」、「エンコード」、または「ヌル可能」値の設定を変更します。新しく選択を行うフィールドをクリックします。
 - データ型 - デフォルトでは、ソース・データベース表内の列のデータ型。バッファ・テーブル内の列の必要なデータ型がソース表のデータ型と異なる場合は、「データ型」セルをクリックして、リストから別のデータ型を選択します。「UNSUPPORTED」のマークが付けられているデータ型については、適切なデータ型を選択する必要があります。

注: Oracle データベースの XMLTYPE データ型と、SQL Server データベースの MONEY データ型については、Studio によって自動的に正しいデータ型が関連付けられないため、ユーザーが適切なデータ型を手動で選択する必要があります。

重要: 実行時に無効なデータが生じないようにするため、ソース・データ型と互換性のあるデータ型を選択する必要があります。例えば、ソース・データ型が INTEGER である場合、バッファ・テーブルに SMALLINT データ型を選択しないでください。これは、実行時に INTEGER 列に保管された大きい数値が SMALLINT データ型に正しく変換されないためです。
 - サイズ - 表で定義された列のサイズ。このサイズはデータベース表から取得され、構成することはできません。
 - エンコード - デフォルトでは、データベース・レベルまたは表レベルのいずれかで設定された現在のデフォルト・エンコード。列に必要なエンコードが現在のデフォルト・エンコードと異なる場合は、「エンコード」セルをクリックして、リストから別のエンコードを選択することによって、別のエンコードを選択します。
 - ヌル可能 - デフォルトでは、ソース・データベース表内の列に対してヌル可能の設定。`nullable=false` である場合は、列の「使用」チェック・ボックスが選択されている必要があります。`nullable=false` とマークが付けられている列に、実行時にヌルを含めることはできません。

9. 「リセット」をクリックすると、すべての列プロパティがデフォルトに再設定されます。これにより、すべての列の「使用」チェック・ボックスも再設定されます。
10. 「最新表示」をクリックして、列のリストをソース・データベースの最新の状態に応じて更新します。ソースに対する最近の変更が、このペインで更新されます。
11. **データベース・アクティビティーのための「配信ルール」の指定**を構成します。
注: 「配信ルール」タスクで「1 回のみ」オプションを選択する場合は、実行時に統合アプライアンスで使用されるコントロール表を作成する必要があります。Studio から統合アプライアンスにオーケストレーションを公開した後で、コントロール表を作成します。プロジェクトをデプロイする前に、Web 管理コンソール (WMC) を使用して、コントロール表を作成します。
注: 「1 回のみ」オプションを選択する場合は、パーシスタンスを使用可能にする必要があります。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。
12. 再試行オプションを構成します。詳しくは、『[インバウンド・データベース・アクティビティーの再試行オプション](#)』を参照してください。

アクティビティーに対してターゲット・データベース表を指定する

1. 「チェックリスト」で「表の選出 (Pick Table)」をクリックします。「表の選出 (Pick Table)」ペインが表示されます。
2. 「参照...」をクリックして、ターゲット・データベース表を選択します。「データベース表の表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. リストから表を選択し、「OK」をクリックします。選択した表の列情報が「表の選出 (Pick Table)」ペインに表示されます。
4. この表の文字エンコードがデータベースのエンコードと異なる場合、以下のオプションのいずれかを使用して、別のエンコードを入力します。
 - 「エンコード」リストから、デフォルトのエンコード・タイプの 1 つを選択します。
 - 「エンコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。これにより、結果として生成されるバッファ・テーブルのすべての列にそのエンコードが設定されます。
注: 一部の 2 バイト文字は、SHIFT-JIS エンコードで変換されません。詳しくは、『[シフト JIS エンコードの使用](#)』を参照してください。
5. デフォルトで、ソース表内のすべての列が選択されます。結果として生成されるバッファ・テーブルから列を削除するには、「使用」チェック・ボックスをクリアします。選択されていない列は「入力のマップ」ペインに表示されず、実行時に更新されません。「すべて使用」をクリックすると、すべての列がもう一度選択されます。
6. 列見出しをクリックすると、その列の値で行がソートされます。例えば、列名で行をソートするには、列の「列名」見出しをクリックします。列見出し名の右側に矢印が表示されます。上矢印は、列が a で始まり z へと続くアルファベット順でソートされていることを示します。下矢印は、列が z で始まり a へと続く逆のアルファベット順でソートされていることを示します。矢印をクリックすると、アルファベットの順序が逆になります。
7. 必要に応じて、「データ型」、「エンコード」、または「ヌル可能」値の設定を変更します。新しく選択を行うフィールドをクリックします。
 - データ型 - デフォルトでは、ソース・データベース表内の列のデータ型。バッファ・テーブル内の列の必要なデータ型がソース表のデータ型と異なる場合は、「データ型」セルをクリックして、リストから別のデータ型を選択します。「UNSUPPORTED」のマークが付けられているデータ型については、適切なデータ型を選択する必要があります。
注: Oracle データベースの XMLTYPE データ型と、SQL Server データベースの MONEY データ型については、Studio によって自動的に正しいデータ型が関連付けられないため、ユーザーが適切なデータ型を手動で選択する必要があります。

重要: 実行時に無効なデータが生じないようにするため、ソース・データ型と互換性のあるデータ型を選択する必要があります。例えば、ソース・データ型が INTEGER である場合、バッファ・テーブルに SMALLINT データ型を選択しないでください。これは、実行時に INTEGER 列に保管された大きい数値が SMALLINT データ型に正しく変換されないためです。

- サイズ - 表で定義された列のサイズ。このサイズはデータベース表から取得され、構成することはできません。
 - エンコード - デフォルトでは、データベース・レベルまたは表レベルのいずれかで設定された現在のデフォルト・エンコード。列に必要なエンコードが現在のデフォルト・エンコードと異なる場合は、「エンコード」セルをクリックして、リストから別のエンコードを選択することによって、別のエンコードを選択します。
 - ヌル可能 - デフォルトでは、ソース・データベース表内の列に対してヌル可能の設定。
nullable=false である場合は、列の「使用」チェック・ボックスが選択されている必要があります。nullable=false とマークが付けられている列に、実行時にヌルを含めることはできません。
8. 「リセット」をクリックすると、すべての列プロパティがデフォルトに再設定されます。これにより、すべての列の「使用」チェック・ボックスも再設定されます。
 9. 「最新表示」をクリックして、列のリストをソース・データベースの最新の状態に応じて更新します。ソースに対する最近の変更が、このペインで更新されます。
 10. 「**行の更新**」アクティビティの場合のみ - 実行時に、「**行の更新**」アクティビティをまず試行して、指定した行を更新する場合に、その行が存在しないときは、「行がまだ存在していない場合に行を挿入」チェック・ボックスを選択して、データベース表に行を挿入します。
 11. 「**行の更新**」アクティビティの場合のみ - データベース内の新しい値と元の値の両方を保存する場合、以下の手順に従います。
 - a. 「古い値 (Old Values)」をクリックします。「更新用の古い値の列」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - b. 元の値を保存するデータベース列の「保管 (Store)」チェック・ボックスを選択します。
 - c. 実行時に元の値を保管する列に割り当てられているデフォルトの名前を変更することができます。該当する「古い値を保管する列の名前」セルをダブルクリックします。
 - d. 「OK」をクリックします。選択した列の先頭に `old_` という文字列が付けられたものが、「出力のマップ」ペインの「アクティビティへ」に表示されます。「出力のマップ」ペインから、新しい値と元の値の両方にマップすることができます。

注: 詳細については、『[更新において古い値に対して列を定義](#)』を参照してください。

12. 「**行の更新**」アクティビティまたは「**行の削除**」アクティビティの場合のみ - データベースによって既に定義されている 1 次キー列に加えて、1 次キー列のように機能する列を指定するには、以下の手順に従います。
 - a. 「キー」をクリックします。「1 次キーの構成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - b. 1 次キー列のように機能する列を指定するには、列をクリックしてから、「>>」をクリックします。
 - c. 「OK」をクリックします。

注: 「チェックリスト」の「**表の選出 (Pick Table)**」タスクで 1 次キー列が (データベースによって定義されて) 指定されていない場合、1 次キー列のように機能する列として少なくとも 1 つの列を指定する必要があります。

1 次キー列のように機能する列をさらに指定するには、この手順を繰り返してください。

13. **データベース・アクティビティのための「配信ルール」の指定**を構成します。

注: 「配信ルール」タスクで「1 回のみ」オプションを選択する場合は、実行時に統合アプライアンスで使用されるコントロール表を作成する必要があります。Studio から統合アプライアンスにオーケストレーションを公開した後で、コントロール表を作成します。プロジェクトをデプロイする前に、Web 管理コンソール (WMC) を使用して、コントロール表を作成します。

注: 「1 回のみ」オプションを選択する場合は、パーシスタンスを使用可能にする必要があります。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。

14. 再試行オプションを構成します。詳しくは、『[アウトバウンド・データベース・アクティビティの再試行オプション](#)』を参照してください。

アクティビティの入力をマップする


1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。
アクティビティの入力パラメーターが、「アクティビティへ」ペインの row エLEMENTの下に表示されます。「アクティビティから」ペインに表示される入力パラメーターは、「表の選出 (Pick Table)」タスクで選択した列に対応します。「配信ルール」で「複数の行を 1 つのメッセージにまとめる」チェック・ボックスを選択した場合、複数オカレンスのシンボルが row エLEMENTの横に表示されます。
注: 「更新済み行の取得」アクティビティの場合のみ、「表の選出 (Pick Table)」タスクの「更新用の古い値の列」ダイアログ・ボックスで列が選択されると、これらの追加出力パラメーター (デフォルトで old_ というストリングが接頭部として付けられます) も rows エLEMENTの下に表示されます。
2. すべての入力パラメーターをマップします。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。アクティビティのすべての入力パラメーターをマップする必要があります。

アクティビティの出力をマップする

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。
「GetRowCount」チェック・ボックスによって、以下のように「出力のマップ」ペインに表示される内容が決まります。
 - 「配信ルール」で「行カウントの取得」チェック・ボックスをクリアすると、「出力のマップ」ペインはブランクになります。
 - 「配信ルール」で「行カウントの取得」チェック・ボックスを選択すると、「出力のマップ」ペインに rowCount エLEMENTが表示されます。「配信ルール」で「複数の行を 1 つのメッセージにまとめる」チェック・ボックスを選択すると、複数オカレンスのシンボルが rowCount エLEMENTの横に表示されます。
2. RowCount 出力パラメーターが表示される場合、必要に応じて RowCount 出力パラメーターをマップします。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。アクティビティの出力パラメーターをマップする必要はありません。

親トピック: [データベース・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_singletable_outbound_database_activities.html

データベース・アクティビティのための「配信ルール」の指定

「配信ルール」ペインでメッセージの配信方法を指定します。

以下のセクションで説明するように、インバウンド・アクティビティとアウトバウンド・アクティビティの配信ルールは異なります。

インバウンド・データベース・アクティビティの配信ルールを指定する

1. 「チェックリスト」から、「配信ルール」タスクを選択します。
2. インバウンド・データベース・アクティビティ（「挿入済み行の取得」、「更新済み行の取得」、「削除済み行の取得」、および「表のポーリング」）の配信ルールについて説明した以下の表に従って、配信ルールを構成します。

表 1.

名前	説明
ポーリング間隔	データベースでの変更についてポーリングを行う時間間隔を指定します。例えば、「挿入済み行の取得」アクティビティは、指定された時間間隔で INSERT トリガー・イベントについてのポーリングを行います。詳しくは、『 ポーリング間隔の動作 』を参照してください。
フェッチ・サイズ (Fetch size)	アクティビティがバッファ・テーブルから一度に取得する必要がある行数を指定します。デフォルトは、ポーリングあたり 500 行です。範囲は 1 から 10,000 です。 注: パフォーマンスを向上させるには、「フェッチ・サイズ (Fetch Size)」を、バッファ・テーブルから取得する行の最大数に設定します。
バッチ	単一のメッセージにまとめる行数を指定します。デフォルトでは、バッチ処理はオフになっています（「バッチ」チェック・ボックスは選択されていません）。バッチ処理をオンにするには、「バッチ」チェック・ボックスを選択してから、まとめる行数を指定します。範囲は 1 から 10,000 です。「配信ルール」で「バッチ」チェック・ボックスを選択した場合、複数オカレンスのシンボルが、インバウンド・アクティビティの「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインにある row エLEMENTの横に表示されます。

名前	説明
メッセージの配信	<p>「メッセージの配信」プルダウン・メニューで以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1回以上 - メッセージが少なくとも1回は配信されることを指定します (複数回の配信も可能)。通常、この配信オプションは、受信システムが重複メッセージを検出または許容できる場合に使用されます。 ○ 1回のみ - メッセージが1回のみ配信されることを指定します。「1回のみ」オプションを選択した場合に、データベースが Sybase であれば、OverwriteCharLimits パラメータをエンドポイントで設定する必要があります。詳しくは、『Oracle、Sybase、DB2、および Informix のパラメータ』を参照してください。 <p>注: 「1回のみ」オプションを選択した場合は、実行時に統合アプライアンスによって使用されるコントロール表をいくつか作成する必要があります。Studio から統合アプライアンスにオーケストレーションを公開した後で、コントロール表を作成します。プロジェクトをデプロイする前に、Web 管理コンソール (WMC) を使用して、コントロール表を作成します。</p> <p>注: 「1回のみ」オプションを選択する場合は、パーシスタンスを使用可能にする必要があります。詳しくは、『パーシスタンスを使用可能にする』を参照してください。</p>
処理後に行を削除	<p>このチェック・ボックスは、「カスタム・ポーリング (Custom Poll)」アクティビティの場合のみ表示されます。「処理後に行を削除」チェック・ボックスは、「表のポーリング」アクティビティの実行中に、削除要求に対するアクションを統合アプライアンスが判別するために使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チェック・ボックスを有効にすると、統合アプライアンスは、実行時にフラグ列を M に設定してから、行を削除します。 ○ チェック・ボックスをクリアすると、統合アプライアンスは、実行時にフラグ列を M に設定してから P に設定しますが、行は削除されません。

アウトバウンド・データベース・アクティビティの配信ルールを指定する

1. 「チェックリスト」から、「配信ルール」タスクを選択します。
2. アウトバウンド・データベース・アクティビティ (「行の挿入」、「行の更新」、「行の削除」、「プロシージャの呼び出し」) の配信ルールについて説明した以下の表に従って、配信ルールを構成します。


表 2.

名前	説明
メッセージの配信	<p>「メッセージの配信」メニューで以下のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1回以上 - メッセージが少なくとも1回は配信されることを指定します (複数回の配信も可能)。通常、この配信オプションは、受信システムが重複メッセージを検出または許容できる場合に使用されます。 ○ 1回のみ - メッセージが1回のみ配信されることを指定します。 <p>注: 「1回のみ」オプションを選択した場合は、実行時に統合アプライアンスによって使用されるコントロール表をいくつか作成する必要があります。Studio から統合アプライアンスにオーケストレーションを公開した後で、コントロール表を作成します。プロジェクトをデプロイする前に、Web 管理コンソール (WMC) を使用して、コントロール表を作成します。</p>

名前	説明
一度に __ 行をまとめる (Batch __ rows at a time)	<p>行に対するデータベース操作をまとめる必要があるかどうか、およびデータベース操作で一度に処理する行数を指定します。例えば、バッチのサイズが 20 に設定されていて、100 行がデータベースの挿入によって処理される場合は、サイズが 20 の 5 つのメッセージが統合アプライアンスからデータベースに送信され、その後で最後のデータベースのコミット・メッセージが送信されます。</p> <p>「配信ルール」で「一度に __ 行をまとめる (Batch __ rows at a time)」チェック・ボックスを選択した場合、複数オカレンスのシンボルが、アウトバウンド・アクティビティの「入力のマップ」タスクの「アクティビティへ」ペインにある row エLEMENTの横に表示されます。</p>
行カウントの取得	<p>「プロシージャーの呼び出し」アクティビティでは選択できません。このチェック・ボックスはアクティビティが、トランザクションあたりに処理された行数を実行時に返すことを指定します。「行カウントの取得」チェック・ボックスを選択すると、rowCount がアウトバウンド・アクティビティの「出力のマップ」ペインの「アクティビティから」ペインで選択可能になります。</p>

親トピック: [データベース・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_specifying_delivery_rules_for_database_activities.html

列の詳細の表示

「列の表示」ダイアログ・ボックスでは、「照会の実行」アクティビティに対してチェックリストの「照会の入力」タスクで SQL ステートメントを入力するときに、表に関する詳細列情報を参照できます。このタスクは、「列の詳細の表示 (View Column Details)」ダイアログ・ボックスへのアクセス方法を説明しています。


手順

1. 「照会の実行」アクティビティを作成するか、または開きます。
2. 「チェックリスト」から、「照会の入力」タスクを選択します。「照会の入力」ペインが表示されます。
3. 「列の表示」をクリックします。「列の表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「列の表示」ダイアログ・ボックスに表示されているデータを変更するには、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 詳細列情報を参照するには、リストで表を選択します。列名、データ型、サイズ、およびヌル可能プロパティが右ペインに表示されます。
 - 別のスキーマの表を参照するには、「ユーザー・スキーマによるフィルタリング」リストからスキーマを選択します。
 - すべてのスキーマの表を確認するには、「クリア」をクリックします。

- 統合アプライアンスにより内部で使用される、Web 管理コンソール (WMC) で作成されたバッファ表や制御表をフィルターで除外するには、「バッファ・テーブルおよびコントロール表の非表示」オプションを選択します。
注: このフィルターは、Studio からスクリプトで生成される標準名を使用するバッファ表および制御表のみを非表示にします。

親トピック: [データベース・アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/conn_db_Viewing_Column_Details.html

データベース・パラメーターの操作

パラメーターは、エンドポイントに関するデータベース固有の接続情報を提供します。

このタスクについて

データベース・パラメーターを追加したり削除したりできます。また、パラメーター値を編集できます。方法については、以下の手順で説明します。

パラメーターをエンドポイントに追加するには、以下のようになります。

手順

1. 「プロジェクト」タブで、エンドポイントをクリックします。
2. 「追加」をクリックします。「データベース・エンドポイント・パラメーター」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 新規パラメーターの名前を「パラメーター名」フィールドに入力します。
4. パラメーターの値を「パラメーター値」フィールドに入力します。
5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

エンドポイントからパラメーターを削除するには、以下のようになります。

1. 「プロジェクト」タブで、エンドポイントをクリックします。
2. 削除するパラメーターのパラメーター名をクリックします。
3. 「削除」をクリックします。

パラメーター値を編集するには、以下のようになります。

1. 「プロジェクト」タブで、エンドポイントをクリックします。
2. 変更するパラメーター値をクリックし、フィールドに新しい値を入力します。
3. Enter キーを押します。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/conn_db_Working_with_DB_Parms.html

「プロシージャーの呼び出し」アクティビティー

実行時に、「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーによって、データベースでストアード・プロシージャーが実行されます。「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーの構成を Studio で実行する前に、ストアード・プロシージャーを作成して、データベースにインストールしておく必要があります。

注: Informix® データベースでのストアード・プロシージャーに対する関数名の多重定義はサポートされません。ストアード・プロシージャーには、その署名が固有な場合でも、Informix で同じ名前を付けることはできません。

「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーをオーケストレーションに追加して構成するためのステップは、以下の手順で説明されています。

- [「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーをオーケストレーションに追加する](#)
- [データベース・エンドポイントを作成、選択、または編集する](#)
- [「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーを構成する](#)
- [アクティビティーの入力をマップする](#)
- [アクティビティーの出力をマップする](#)

「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーをオーケストレーションに追加する

1. オーケストレーションを[作成](#)するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が開きます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「データベース」フォルダーを展開します。
3. 「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. 「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーを選択します。

データベース・エンドポイントを作成、選択、または編集する

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が開きます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『[「プロシージャーの呼び出し」アクティビティーを構成する](#)』アクティビティー手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が開きます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。

- o 新しいエンドポイントを作成します。
 - a. 「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが開きます。
- 2. データベース・エンドポイントを作成または編集します。

「プロシーチャーの呼び出し」アクティビティを構成する

1. 「チェックリスト」から、「ストアード・プロシーチャー」をクリックします。「ストアード・プロシーチャー」ペインが開きます。
2. 「参照...」をクリックします。「ストアード・プロシーチャーの表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 選択したユーザー・スキーマを持つ、表示されたストアード・プロシーチャーのみでなく、データベース内のすべてのストアード・プロシーチャーを表示するには、「クリア」をクリックします。
4. リストから「ストアード・プロシーチャー」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。選択したストアード・プロシーチャーのパラメーター情報が「ストアード・プロシーチャー」ペインに表示されます。

注: パラメーター・リストの内部にあるストアード・プロシーチャー呼び出しパラメーターの削除はサポートされていません。リストに表示されているのとは異なる順序でパラメーターを指定する場合は、パラメーター間にギャップのない(つまり、必要なパラメーターのみのサブセットが含まれている)ラッパー・ストアード・プロシーチャー(例: *WrapperStoredProcedure1*)を作成できます。その後、Microsoft SQL Server によってサポートされる `@parameter = value` の形式を使用して、新しいストアード・プロシーチャーに、基礎となるストアード・プロシーチャー(例: *BackendStoredProcedure1*)を呼び出させることができます。こうすると、オーケストレーションで、必要なパラメーターのみを含むラッパー・ストアード・プロシーチャーを使用できます。あるいは、元の基礎となるストアード・プロシーチャー(例: *BackendStoredProcedure1*)に対して、Studio 内の完全なパラメーター・セットおよびそのデフォルト値を省略しないで指定できます。パラメーター・リストの内部にあるストアード・プロシーチャー呼び出しパラメーターの削除はサポートされていませんが、パラメーター・リストの末尾に表示されているパラメーターは削除できます。

6. (最初にデータベース・エンドポイントから取得された)現在の文字エンコードを変更するには、「エンコード」リストから別のエンコード・オプションを選択します。これによって、ストアード・プロシーチャーのすべての入力パラメーターについてデフォルトの文字エンコードが変更されます。
7. デフォルトでは、ストアード・プロシーチャーのすべての入出力(IN、INOUT、RETURN、OUT)パラメーターが選択されます。ストアード・プロシーチャーに対して定義された入力パラメーターと出力パラメーターをすべて含める必要はありません。出力パラメーター(INOUT、RETURN、OUT)の「使用」チェック・ボックスをクリアすると、「入力のマップ」タスクで出力パラメーターが使用できなくなることを意味します。入力パラメーター(IN、INOUT)の「使用」チェック・ボックスをクリアすると、「入力のマップ」タスクで入力パラメーターが使用できなくなることを意味します。「使用」チェック・ボックスは、実行時に入力値を指定する必要がない入力パラメーターの場合のみクリアしてください。ストアード・プロシーチャーの一部の入力パラメーターにはデフォルト値が存在することがあります。

ほとんどのデータベースは単一の戻りパラメーターのみを返します。これらのデータベースでは、戻りパラメーターの「使用」チェック・ボックスを選択すると、戻り値は、「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインで単一の `results/result/RETURN_VALUE` ノードに返されます。ただし、Informix データベースでは複数の戻りパラメーターがサポートされ、Informix データベースでは、戻りパラメーターは反復 `results/result/result/resultsSets/any` ノードに返されます。1つのパラメーターがストアード・プロシーチャーから返される場合でも、戻りパラメーターは `results/result/result/resultsSets/any` ノードに返されます。result ノード(resultSet という子ノードを含む)の内容を変数にコピーするには、マップで CopyOf 機能を使用します。CopyOf 機能がソース・ノードの値を宛先ノードに正しくコピーするには、宛先変数の XML スキーマがソース・ノードの XML スキーマと一致しなければなりません。詳しくは、『CopyOf 機能』を参照してください。

8. 行を列値でソートするには、列の見出しをクリックします。例えば、列名で行をソートするには、列の「列名」見出しをクリックします。列見出しの右側に矢印が表示されます。上矢印は、列が a で始まり z へと続くアルファベット順でソートされていることを示します。下矢印は、列が z で始まり a へと続く逆のアルファベット順でソートされていることを示します。アルファベット順を逆にするには矢印をクリックします。
9. 必要に応じて、各照会用入力パラメーターの「データ型」、「エンコード」、または「ヌル可能」値の設定を変更します。新しく選択を行うフィールドをクリックします。
 - データ型 - デフォルトでは、パラメーターのデータ型。パラメーターに代替のデータ型を選択するには、「データ型」セルをクリックして、対応するセルのリストから別の「データ型」を選択します。「UNSUPPORTED」と示されているデータ型は変更する必要があります。
注: (MONEY および XMLTYPE データ型の場合) Oracle データベースの XMLTYPE データ型と SQL Server データベースの MONEY データ型については、Studio によって自動的に正しいデータ型が関連付けられないため、ユーザーが適切なデータ型を手動で選択する必要があります。
 - エンコード - デフォルトでは、データベース・レベルまたは表レベルのいずれかで設定された現在のデフォルト・エンコード。パラメーターに必要なエンコードが、現在のデフォルト・エンコードと異なる場合は、「エンコード」セルをクリックして、リストから別のエンコードを選択することによって、別のエンコードを選択します。
 - サイズ - 表で定義された列のサイズ。このサイズはデータベース表から取得され、構成することはできません。
10. パラメーターのプロパティをすべてデフォルトに再設定するには、「リセット」をクリックします。これによって、すべてのパラメーターの「使用」オプションも選択されます。
11. 『[配信ルール](#)』を構成します。
注: 「配信ルール」タスクで「1 回のみ」オプションを選択する場合は、実行時に統合アプライアンスで使用されるコントロール表を作成する必要があります。Studio から統合アプライアンスにオーケストレーションを公開した後で、コントロール表を作成します。プロジェクトをデプロイする前に、Web 管理コンソール (WMC) を使用して、コントロール表を作成します。
注: 「1 回のみ」オプションを選択する場合は、パーシスタンスを使用可能にする必要があります。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。
12. [再試行オプション](#)を構成します。

アクティビティの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクを選択します。このアクティビティの入力パラメーターが、「アクティビティへ」ペインの calls エレメントの下に表示されます。「アクティビティへ」ペインに表示される入力パラメーターは、「ストアード・プロシージャー」タスクで選択した IN および INOUT パラメーターに対応します。「配信ルール」で「複数の行を 1 つのメッセージにまとめる」チェック・ボックスが選択されている場合、複数オカレンスのアイコンが call エレメントの横に表示されます。
2. 表示されるすべての入力パラメーターをマップします。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。このアクティビティの出力パラメーターが、「アクティビティから」ペインの results エレメントの下に表示されます。「アクティビティから」ペインに表示される出力パラメーターは、「ストアード・プロシージャー」タスクで選択した OUT、RETURN、および INOUT パラメーターに対応します。

「配信ルール」で「複数の行を1つのメッセージにまとめる」チェック・ボックスが選択されている場合、複数オカレンスのアイコンが result エLEMENTの横に表示されます。


ストアード・プロシージャーに戻りパラメーターがない場合でも、「プロシージャーの呼び出し」アクティビティの「アクティビティから」ペインには resultSet という反復ノードが表示されます。実行時に、このアクティビティから開始されたストアード・プロシージャーが結果セットを返す場合は、この結果セットは、resultSet ノードのアクティビティから返されます。例えば、ストアード・プロシージャーが Select ステートメントを開始する場合は、Select ステートメントからの結果セットは、resultSet ノードに返されます。result ノード (resultSet という子ノードを含む) の内容を変数にコピーするには、マップで CopyOf 機能を使用します。

重要: CopyOf 機能がソース・ノードの値を宛先ノードに正しくコピーするには、宛先変数の XML スキーマがソース・ノードの XML スキーマと一致しなければなりません。詳しくは、『CopyOf 機能』を参照してください。

2. 必要な出力パラメーターを変数にマップします。マッピングについての一般的な説明は、『マップの作成』を参照してください。このアクティビティに関しては、出力パラメーターをマップする必要はありません。

親トピック: データベース・アクティビティ

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_call_procedure_activity.html

「照会の実行」アクティビティ

実行時に、「照会の実行」アクティビティによって Select SQL ステートメントが実行されます。

「照会の実行」アクティビティはパラメーター化照会 (入力パラメーターまたは入力パラメーターと出力パラメーターが含まれる照会) をサポートします。照会で入力パラメーターを指定すると、実行時にパラメーターの値が指定されます。次の Select ステートメントの例の ? 文字は、入力パラメーターが1つあることを指定します。

```
select * from myUserSchema.mySourceTable where  
myUserSchema.mySourceTable.myColumn=?
```

上記の Select ステートメントで * 文字は、mySourceTable 表で見つかった1つ以上の列が、照会によって1つ以上の出力パラメーターとして返されることを指定します。例えば、mySource table に CHAR 型の列と VARCHAR 型の列の2つの列が含まれている場合、「照会の実行」アクティビティは、CHAR 型の出力パラメーターと VARCHAR 型の出力パラメーターの2つの出力パラメーターを返します。

注: Select SQL ステートメントのみが「照会の実行」アクティビティでサポートされます。Insert SQL ステートメントは「照会の実行」アクティビティではサポートされません。

「照会の実行」アクティビティをオーケストレーションに追加して構成するためのステップは、以下の手順で説明されています。

- オーケストレーションで「照会の実行」を追加する
- データベース・エンドポイントを作成、選択、または編集する

- 照会 SQL ステートメントを指定する
- 照会の入力パラメーターを構成する
- 出力パラメーターを構成する
- 照会の再試行オプションを指定する
- アクティビティーの入力をマップする
- アクティビティーの出力をマップする

オーケストレーションで「照会の実行」を追加する

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「データベース」フォルダーを展開します。
3. 「照会の実行」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. 「照会の実行」アクティビティーを選択します。

データベース・エンドポイントを作成、選択、または編集する

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が開きます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『[照会 SQL ステートメントを指定する](#)』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が開きます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが開きます。
 - エンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが開きます。
2. [データベース・エンドポイントを作成または編集します](#)。

照会 SQL ステートメントを指定する

1. 「チェックリスト」から、「照会の入力」タスクを選択します。「照会の入力」ペインが開きます。
2. ペインに表示される空白に照会を入力します。照会の末尾にセミコロンを入力しないでください。
3. SQL ステートメントを作成する際に有効な表名と列を入力できるように、選択した表の列の詳細を確認するには、「[列の表示](#)」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを使用して、必要なエンコードがデータベースのデフォルト・エンコードと異なる場合に入力パラメーターと出力パラメーターに代替の文字[エンコード](#)設定を選択します。
 - 「エンコード」リストから、デフォルトのエンコード・タイプの1つを選択します。
 - 「エンコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。

注: 一部の 2 バイト文字は、SHIFT-JIS エンコードで変換されません。詳しくは、『[シフト JIS エンコードの使用](#)』を参照してください。

5. 「照会の妥当性検査」をクリックします。このアクションによって、照会が有効かどうか検査され、「入力のマップ」および「出力のマップ」タスクで入力パラメーターと出力パラメーターに値が追加されます。
6. 「MaxRows」フィールドに値を入力します。「MaxRows」フィールドは、実行時に照会から返す行の最大数を指定します。

注: 同じデータに対して同じ照会を複数回開始すると、同じ行セットが返されます。例えば、「MaxRows」が 1 と等しい場合は、照会を開始するたびに常に同じ行 (最初の行) が返されます。行セットを通じての反復はありません。

照会の入力パラメーターを構成する

1. 「チェックリスト」から、「セットアップ入力パラメーター」タスクを選択します。「セットアップ入力パラメーター」ペインに、照会の入力パラメーターが表示されます。
2. SQL ステートメントを作成する際に有効な表名と列を入力できるように、選択した表の列の詳細を確認するには、「列の表示」をクリックします。
3. 列見出しをクリックすると、その列の値で行がソートされます。例えば、列名で行をソートするには、列の「列名」見出しをクリックします。列見出し名の右側に矢印が表示されます。上矢印は、列が a で始まり z へと続くアルファベット順でソートされていることを示します。下矢印は、列が z で始まり a へと続く逆のアルファベット順でソートされていることを示します。アルファベット順を逆にするには矢印をクリックします。
4. 必要に応じて、各照会用入力パラメーターの「データ型」、「エンコード」、または「ヌル可能」値の設定を変更します。新しく選択を行うフィールドをクリックします。
 - パラメーター名 - デフォルトの名前をより意味のある名前に変更できます。パラメーターは、照会に指定された順序でリストされます。
 - データ型 - このパラメーターのデータ型を選択します。
注: (MONEY および XMLTYPE データ型の場合) Oracle データベースの XMLTYPE データ型と SQL Server データベースの MONEY データ型については、Studio によって自動的に正しいデータ型が関連付けられないため、ユーザーが適切なデータ型を手動で選択する必要があります。
 - エンコード - 必要なエンコードがデータベースのデフォルト・エンコードと異なる場合に、パラメーターに代替の文字エンコード設定を選択します。
 - サイズ - 表で定義された列のサイズ。このサイズはデータベース表から取得され、構成することはできません。
5. データベースを検索して、データベースからデータ型とサイズを取得するには、「値のリセット」をクリックします。これによって、ペインで手動で設定したデータ型とサイズが指定変更されます。

出力パラメーターを構成する

1. 「チェックリスト」から、「セットアップ結果セット」タスクを選択します。「セットアップ結果セット」ペインが開き、照会の出力パラメーターのデフォルトがリストされます。
2. SQL ステートメントを作成する際に有効な表名と列を入力できるように、選択した表の列の詳細を確認するには、「列の表示」をクリックします。
3. 必要に応じて、各照会用出力パラメーターの「データ型」、「エンコード」、または「ヌル可能」値の設定を変更します。
 - パラメーター名 - デフォルトの名前をより意味のある名前に変更できます。パラメーターは、照会に指定された順序でリストされます。
 - データ型 - このパラメーターのデータ型を選択します。
 - エンコード - 必要なエンコードがデータベースのデフォルト・エンコードと異なる場合に、パラメーターに代替の文字エンコード設定を選択します。
 - サイズ - 表で定義された列のサイズ。このサイズはデータベース表から取得され、構成することはできません。
4. データベースを検索して、データベースからデータ型とサイズを取得するには、「値のリセット」をクリックします。これによって、ペインで手動で設定したデータ型とサイズが指定変更されます。

照会の再試行オプションを指定する

照会の再試行オプションを指定するには、以下のようにします。

1. **再試行オプション**を構成します。

注: 「データベースの照会の実行 (Database Execute Query)」アクティビティーでは、再試行オプションをゼロに設定すると、統合アプライアンスは接続を無期限に再試行します。

アクティビティーの入力をマップする


1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクを選択します。照会に指定された入力パラメーターは、アクティビティーの入力パラメーターです。このアクティビティーの入力パラメーターが、「アクティビティーへ」ペインの parameters エレメントの下に表示されます。
2. アクティビティーのすべての入力パラメーターをマップする必要があります。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティーの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。Select ステートメントによって返される列は、「アクティビティーから」ペインの rows/row エレメントの下に表示されるエレメントです。
2. アクティビティーの出力パラメーターをマップする必要はありません。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [データベース・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_execute_query_activity.html

「表のポーリング」アクティビティー

「表のポーリング」アクティビティーは、指定された時間間隔で特殊なフラグ列の状況を検査することによって、データベース表のいずれかの行で、データベース操作 (挿入または更新) が発生したかどうかを検査します。

挿入および更新操作の実行時に、「表のポーリング」アクティビティーはデータベース表で変更されたデータを返し、そのデータをオーケストレーション内の変数に直接マップするのに対して、「挿入対象行の取得」および「更新対象行の取得」アクティビティーは変更されたデータをバッファー・テーブルに返し、そのバッファー・テーブルがオーケストレーション内の変数にマップされます。

注: 「挿入対象行の取得」、「削除対象行の取得」、および「更新対象行の取得」アクティビティーの代わりに「表のポーリング」アクティビティーを使用するのは、データベースへのトリガーの追加を回避する必要がある場合のみにしてください。

Studio で「表のポーリング」アクティビティーを構成する前に、最初にソース・データベース表で 2 つの追加のデータベース列を作成するか、データベース表にある 2 つの適切な既存のデータベース列を使用する必要があります。ソース・データベース表には以下のデータベース列が必要です。

- INTEGER 型のシーケンス列 - この列には、1 次キー (一連の固有の番号: 1、2、3...) が含まれています。
- CHAR(1) 型のフラグ列 - この列には、統合アプライアンスが行を処理する必要があるかどうかを判別するために実行時に使用するフラグが含まれています。

「表のポーリング」アクティビティーを含むオーケストレーションを統合アプライアンスで実行する前に、データベース表のこれらの列にデータを追加する必要もあります。実行時に統合アプライアンスによって行を処理しない場合は、このフラグ列を P に設定します。実行時に統合アプライアンスで行を処理する場合は、このフラグ列を null に設定します。

以下のデータベース表の例では、次の図に示すように、「フラグ」列の値は最初はすべて P に設定されています。

以下に、「表のポーリング」アクティビティーで必要になる追加の列を持つソース・データベース表の初期状態を示します。

名前	シーケンス (1 次キー)	フラグ
HARRY	1	P
FRED	2	P
NICK	3	P
BOB	4	P

- 1) 「表のポーリング」アクティビティーがあるオーケストレーションがデプロイされます。この「表のポーリング」アクティビティーは、データベース表の変更を 1 分ごとにポーリングするように設定されています。
- 2) 「表のポーリング」アクティビティーは、「フラグ」列で null 値を検索することにより、データベース表の変更をポーリングします。何も変更されていない場合、「表のポーリング」アクティビティーによるデータ処理は実行されず、ポーリングが継続されます。
- 3) 以下の図に示すように、外部のソースから、データベース表の 3 行目に対して更新が実行されます。
注: この外部ソースにより、3 行目の「フラグ」列の値も、「P」から「null」に変更されます。

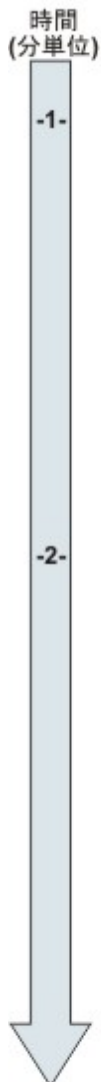
名前	シーケンス (1 次キー)	フラグ
HARRY	1	P
FRED	2	P
MARY	3	null
BOB	4	P



- 4) 「表のポーリング」アクティビティーは、すべての行について「フラグ」列の値が null に設定されているかどうかを確認することにより、データベース表の変更をポーリングします。この例では、統合アプライアンスによって 3 行目が処理され、指定された変数にマップされるデータとして 3 行目が返されます。また、統合アプライアンスにより、3 行目の「フラグ」列の値が、処理済みであることを表す「p」に変更されます。

名前	シーケンス (1 次キー)	フラグ
HARRY	1	P
FRED	2	P
MARY	3	null
BOB	4	P

- 5) オーケストレーション内の「表のポーリング」アクティビティーの次のアクティビティーが、統合アプライアンスで実行されます。



重要: フラグ列の状態を管理する必要があります。以下のシナリオの例で説明するように、統合アプライアンスは行の処理後にフラグ列を、処理済みを表す *P* に変更します。

1. 行がデータベースに挿入されます。その行のフラグ列は *null* に設定されます。
2. 「表のポーリング」アクティビティーが初めて実行され、この行のフラグ値が *P* に設定されます。
3. 同じ行が更新され、「表のポーリング」アクティビティーが再度実行されます。アクティビティーの戻りデータでは行は返されません。これは、統合アプライアンスがフラグ列を検査したときに、この行が既に処理されていたことをフラグが示していたためです。

統合アプライアンスが行を再度処理するためには、フラグ列を *null* に再設定してから、同じソース・データベース表にアクセスする「表のポーリング」アクティビティーを含むオーケストレーション・ジョブを実行する必要があります。

「表のポーリング」アクティビティーをオーケストレーションに追加して構成するためのステップは、以下の手順で説明されています。

- [オーケストレーションで「表のポーリング」アクティビティーを追加する](#)
- [データベース・エンドポイントを作成、選択、または編集する](#)
- [データベース操作についてのポーリングを行うソース表の列を指定する](#)
- [シーケンス列およびフラグ列を選択する](#)
- [アクティビティーの出力をマップする](#)

オーケストレーションで「表のポーリング」アクティビティーを追加する

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が開きます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「データベース」フォルダーを展開します。
3. 「表のポーリング」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. 「表のポーリング」アクティビティーを選択します。

データベース・エンドポイントを作成、選択、または編集する

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が開きます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『[データベース操作についてのポーリングを行うソース表の列を指定する](#)』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が開きます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。
 - a. 「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが開きます。
2. [データベース・エンドポイントを作成または編集します](#)。

データベース操作についてのポーリングを行うソース表の列を指定する

1. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」ペインが開きます。
2. 「参照」をクリックします。「単一ソース表の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。

3. 実行時に「表のポーリング」アクティビティがデータベース操作についてのポーリングを行う表を選択します。
4. 「ユーザー・スキーマによるフィルタリング」リストからユーザー・スキーマを選択します。
5. 統合アプライアンスによって使用されるバッファー・テーブルまたはコントロール表をフィルターで除外するには、「バッファー・テーブルおよびコントロール表の非表示」を選択します。
注: このフィルターは、Studio からスクリプトで生成される標準名を使用するバッファー表および制御表のみを非表示にします。
6. リストから単一の表を選択します。
 - 表を追加するには、「>>」をクリックします。
 - 表を削除するには、「<<」をクリックします。
7. ソース表の 1 次キー列に対してのみデータベース操作のポーリングを行うには、「表から 1 次キーのみを選択」チェック・ボックスを選択します。
8. 「OK」をクリックします。表の列が「表の選出 (Pick Table)」ペインに表示されます。（「表から 1 次キーのみを選択」チェック・ボックスを選択した場合は、1 次キー列のみが表示されます。）
9. この表の文字エンコードが、データベースのエンコードと異なる場合は、以下のいずれかのオプションを使用して、別のエンコードを入力します。
 - 「エンコード」リストから、デフォルトのエンコード・タイプの 1 つを選択します。
 - 「エンコード」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。
10. 実行時に「表のポーリング」アクティビティによってデータベース操作 (挿入、削除、または更新) のポーリングを行う必要がある、表の列を選択します。デフォルトでは、すべての列が選択されています。不要な列の「使用」チェック・ボックスをクリアします。「すべて使用」をクリックすると、すべての列がもう一度選択されます。
11. 行を列値でソートするには、列の見出しをクリックします。例えば、列名で行をソートするには、列の「列名」見出しをクリックします。列見出しの右側に矢印が表示されます。上矢印は、列が a で始まり z へと続くアルファベット順でソートされていることを示します。下矢印は、列が z で始まり a へと続く逆のアルファベット順でソートされていることを示します。アルファベット順を逆にするには矢印をクリックします。
12. 必要に応じて、各照会用入力パラメーターの「データ型」、「エンコード」、または「ヌル可能」値の設定を変更します。新しく選択を行うフィールドをクリックします。
 - データ型 - デフォルトでは、ソース・データベース表内の列のデータ型。バッファー・テーブル内の列の必要なデータ型がソース表のデータ型と異なる場合は、「データ型」セルをクリックして、リストから別のデータ型を選択します。「UNSUPPORTED」のマークが付けられているデータ型については、適切なデータ型を選択する必要があります。
注: (MONEY および XMLTYPE データ型の場合) Oracle データベースの XMLTYPE データ型と SQL Server データベースの MONEY データ型については、Studio によって自動的に正しいデータ型が関連付けられないため、ユーザーが適切なデータ型を手動で選択する必要があります。
 - サイズ - 表で定義された列のサイズ。このサイズはデータベース表から取得され、構成することはできません。
 - エンコード - デフォルトでは、データベース・レベルまたは表レベルのいずれかで設定された現在のデフォルト・エンコード。列に必要なエンコードが、現在のデフォルト・エンコードと異なる場合は、「エンコード」セルをクリックして、リストから別のエンコードを選択することによって、別のエンコードを選択します。
 - ヌル可能 - デフォルトでは、ソース・データベース表内の列に対してヌル可能の設定。nullable = false の場合は、メッセージに列を含める必要があります。nullable=false である場合は、列の「使用」チェック・ボックスが選択されている必要があります。nullable=false とマークが付けられている列に、実行時にヌルを含めることはできません。

シーケンス列およびフラグ列を選択する

1. 「チェックリスト」から、「列の選択」を選択します。
2. リストから「シーケンス列」を選択します。これは INTEGER 型のシーケンス列です。この列には、ソース・データベース表に追加したか、ソース・データベース表の既存の列を使用できると判断した 1 次キー (一連の固有の番号: 1、2、3...) が含まれています。
3. リストから「フラグ列」を選択します。これは CHAR 型のフラグ列です。この列には、統合アプライアンスが行を処理したときに統合アプライアンスによって P に設定されるフラグが含まれています。統合アプライアンスは、シーケンス列とフラグ列を使用して、重複するメッセージの有無を検査します。さらに、統合アプライアンスは、削除要求のアクションを判別するために、両方の列および「配信ルール」ペインの「処理後に行を削除」チェック・ボックスの設定を使用します。
 - 「処理後に行を削除」チェック・ボックスを選択すると、統合アプライアンスは、フラグを M に設定してから、行を削除します。
 - 「処理後に行を削除」チェック・ボックスをクリアすると、統合アプライアンスは、フラグを M に設定してから P に設定しますが、行は削除されません。統合アプライアンスが行を再度処理するためには、フラグ列を null に再設定してから、同じソース・データベース表にアクセスする「表のポーリング」アクティビティーを含むオーケストレーション・ジョブを実行する必要があります。
4. **配信ルール**を構成します。

注: 「配信ルール」タスクで「1 回のみ」オプションを選択する場合は、実行時に統合アプライアンスで使用されるコントロール表を作成する必要があります。Studio から統合アプライアンスにオーケストレーションを公開した後で、コントロール表を作成します。プロジェクトをデプロイする前に、Web 管理コンソール (WMC) を使用して、コントロール表を作成します。

注: 「1 回のみ」オプションを選択する場合は、パーシスタンスを使用可能にする必要があります。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。
5. **再試行オプション**を構成します。


アクティビティーの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。このアクティビティーの出力パラメーターが、「アクティビティーから」ペインの row エレメントの下に表示されます。「アクティビティーから」ペインに表示される出力パラメーターは、「表の選出 (Pick Table)」タスクで選択した列に対応します。「配信ルール」で「バッチ」オプションを選択した場合、複数オカレンスのシンボルが row エレメントの横に表示されます。

注: 実行時に、「表のポーリング」アクティビティーの rows 出力パラメーターには、シーケンス列およびフラグ列の値は追加されません。「表の選出 (Pick Table)」タスクで選択した列のみが返されます。
2. 必要な出力パラメーターを変数にマップします。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。これらのアクティビティーに関しては、出力パラメーターをマップする必要はありません。

親トピック: [データベース・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/db_poll_table_activity.html

SSL データベース接続のテスト

このタスクについて


データベースのエンドポイントを作成したら、データベースの CA 証明書を Studio にインポートし、データベースへの SSL 接続をテストする必要があります。データベースの CA 証明書をインポートしてデータベースへの SSL 接続をテストするには、以下の手順を実行します。

手順

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. データベース・サーバーにナビゲートし、サーバーに保管されている 証明書ファイル ca-cert を見つけます。
3. このファイルをコピーして、Studio がインストールされているワークステーションにナビゲートします。
4. コマンド・ウィンドウを使用して、Studio のホーム・ディレクトリー C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio x.x.x に ca-cert のコピーを貼り付けます。
5. Studio のセキュリティー・ディレクトリー C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio x.x.x\security にナビゲートします。
6. 以下のコマンドを実行して、ca-cert ファイルを Studio にインポートします (alias はデータベース CA 証明書の別名です)。
..%jre%bin%keytool.exe -import -v -keystore cacerts -storepass changeit -file .. %castiron_ca_cert.pem -alias alias_name
7. yes または no の入力を求めるプロンプトが出されたら、yes (Y) を入力して Enter を押します。
8. コマンド・ウィンドウを終了します。
9. データベース・サーバーのエンドポイントを開きます。
10. データベース接続のためのログイン資格情報 (データベース・サーバー、ポート、ユーザー、およびパスワード)を確認します。
11. 「接続のテスト」をクリックします。
12. 接続が成功したら、Studio オークストレーションでこのエンドポイントを使用し、「検査」タブの機能でオークストレーションを評価します。

親トピック: [データベース・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/conn_db_Testing_a_Database_Connection.html

Domino アクティビティー

- [IBM Domino コネクターの概要](#)
- [Lotus Domino アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)
エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが IBM® Lotus® Domino® サーバーに接続するため

に使用する構成情報を提供します。Lotus Domino サーバーは、Eメール・サーバー、アプリケーション・サーバー、Webサーバー、データベース・サーバー、ディレクトリー・サーバーなどのサービスを提供します。サーバー上のビジネス・データは、Lotus Domino データベースの文書 (.nsf ファイル) として保管されます。Lotus Domino コネクタによって、これらの文書を処理するための双方向接続が提供されます。

- **Lotus Domino 文書の作成**

「文書の作成」アクティビティーを使用して、Lotus Domino サーバーで文書を作成します。

- **Lotus Domino 文書の更新**

「文書の更新」アクティビティーを使用して、Lotus Domino データベース内の文書を更新します。更新対象文書はそれぞれ、その UniversalID または NotesID によって一意的に識別可能でなければなりません。

- **Lotus Domino 文書の取得**

取得アクティビティーを使用して、Lotus Domino データベースから文書を取得できます。取得対象文書はそれぞれ、その UniversalID または NotesID によって一意的に識別されます。取得は、入力 (UniversalID または NotesID のいずれか) に基づいて実行されます。

- **IBM Domino 文書の照会**

文書フィールドで指定された値に一致する Lotus® Domino® サーバーにあるデータベースから文書を照会するには、「文書の照会」アクティビティーを使用します。

- **ビューでの Lotus Domino 文書の照会**

「ビューの照会」アクティビティーは、ビュー内の文書フィールドで指定された値に一致する Lotus® Domino® サーバー内のデータベースからビューを照会するために使用されます。

- **Lotus Domino 文書の削除**

削除アクティビティーを使用して、Lotus Domino データベースから文書を削除します。削除対象文書はそれぞれ、その UniversalID または NotesID によって一意的に識別可能でなければなりません。

- **Lotus Domino アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定**

「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、Lotus Domino アクティビティー構成を構成するためのタスクの 1 つです。

- **Lotus Domino インバウンド・アクティビティーを使用するための前提条件**

- **「作成済み文書の取得」アクティビティー**

「作成済み文書の取得」アクティビティーを使用して、Lotus Domino サーバーで作成された (関心のある) 文書を取得します。このアクティビティーでは、Lotus Domino サーバーのイベント・テーブルを定期的にポーリングして新しいイベントを検出し、それらを処理します。

- **「更新済み文書の取得」アクティビティー**

「更新済み文書の取得」アクティビティーを使用して、Lotus Domino サーバーで更新された (関心のある) 文書を取得します。このアクティビティーでは、Lotus Domino サーバーのイベント・テーブルを定期的にポーリングして新しいイベントを検出し、それらを処理します。

- **「削除済み文書の取得」アクティビティー**

「削除済み文書の取得」アクティビティーを使用して、Lotus Domino サーバーで削除された (関心のある) 文書を取得します。このアクティビティーでは、Lotus Domino サーバーのイベント・テーブルを定期的にポーリングして新しいイベントを検出し、それらを処理します。

- **日時データ型およびタイム・ゾーン・データ型の処理**

Lotus Domino フォームでは、日時型のフィールドは、日付のみの値、時刻のみの値、または日付と時刻の両方の値を表すように構成できます。この構成は、Lotus Domino Designer 内でフォームを作成/編集するときに行われます。そのため、このようなフォームの文書が作成された場合、値は日付、時刻、または日時を表すことができます。


- **Lotus Domino コネクタでのリッチ・テキスト・サポート**

Lotus Domino コネクタは、フォームで RichText タイプをサポートします。RichText タイプのフィールドには、テキストと添付ファイルの両方を文書の一部として格納できます。このコネクタでは、「文書の取得」および「文書の照会」アクティビティーでのみ添付ファイルがサポートされます。テキスト・コンテンツは、「文書の作成」、「文書の更新」、「文書の取得」、「文書の照会」の各アクティビティーで使用できます。

- [トラブルシューティングとサポート](#)

トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。このトピックでは、Domino コネクターで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_dominoactivities.html

IBM Domino コネクターの概要

IBM® Domino® コネクターは、Cast Iron® と IBM Domino サーバーの間の両方向通信を使用可能にします。カレンダーのエントリ、作業項目、メモなどの Domino 文書をビジネス・データとして使用できます。


IBM Domino コネクターを使用して、以下のアクティビティを実行できます。

- **アウトバウンド・アクティビティ**
 - [文書の作成](#)
 - [文書の更新](#)
 - [文書の削除](#)
 - [文書の照会](#)
 - [ビューの照会](#)
 - [文書の取得](#)
- **インバウンド/スターター・アクティビティ**
 - [作成済み文書の取得](#)
 - [更新済み文書の取得](#)
 - [削除済み文書の取得](#)

コネクターがサポートする IBM Domino のバージョンは、IBM Domino のサポート・ライフサイクルによって異なります。現在サポートされている IBM Domino のすべてのバージョンを使用して、コネクターを構成できます。現在サポートされている Lotus® Domino のバージョンは、8.0.x、8.5.x、および 9.0 です。Lotus Domino コネクターを使用して、Lotus Notes® クライアントに直接接続することはできません。このコネクターは、常に Lotus Domino サーバーに接続します。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_Overview.html

Lotus Domino アクティビティーのエンドポイントの作成または編集

エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが IBM® Lotus® Domino® サーバーに接続するために使用する構成情報を提供します。Lotus Domino サーバーは、E メール・サーバー、アプリケーション・サーバー、Web サーバー、データベース・サーバー、ディレクトリー・サーバーなどのサービスを提供します。サーバー上のビジネス・データは、Lotus Domino データベースの文書 (.nsf ファイル) として保管されます。Lotus Domino コネクタによって、これらの文書を処理するための双方向接続が提供されます。

Lotus Domino エンドポイントの選択または編集

1. 「エンドポイントの作成」ペインまたは「エンドポイントの編集」ペインで、以下の表の説明に従って Lotus Domino サーバーを構成します。これらのフィールドのほかに、エンドポイント・ペインには「接続プール・オプション」および「リモート・エンドポイント構成」が含まれます。
注: エンドポイントの構成プロパティーを変更すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルとなります。
2. 「接続のテスト」をクリックして、接続の詳細が有効であること、および Lotus Domino サーバーに正常に接続できることを確認します。
3. 「OK」をクリックします。


表 1. 接続プロパティー

フィールド名	説明
Lotus Domino サーバー構成	
ホスト名	Lotus Domino サーバーが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
DIIOOP ポート	Java™ アプレットまたはアプリケーションが CORBA を使用して Lotus Domino データにリモートでアクセスするための Domino Internet Inter ORB Protocol (DIIOOP) ポートを指定します。デフォルト値は 63148 です。
ユーザー名	Lotus Domino サーバーに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	Lotus Domino サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
注: 「作成」、「更新」、「取得」、「照会」、「削除」などのアウトバウンド・アクティビティーについては、「入力のマップ」中に別の Lotus Domino サーバーを動的に指定できます。「入力のマップ」セクションのサーバー詳細には、通常のエンドポイント宣言への設定が含まれています。	
接続プール・オプション	
最小接続数	統合アプライアンスが接続プールで開いておく Lotus Domino サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
最大接続数	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる Lotus Domino サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。

フィールド名	説明
最大アイドル時間	統合アプライアンスによって閉じられるまで Lotus Domino サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間がありません)。デフォルト値は 120 分です。
最大待機	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
接続の再利用	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は 5 分です。
	注: エンドポイントでの負荷 (同時要求の数) に従って接続プール・プロパティを構成する必要があります。
リモート・エンドポイント構成	
エンドポイントをファイアウォールの内側で実行	セキュア・コネクタ名のプロパティを使用可能にして、Lotus Domino サーバーがファイアウォールの内側で実行されている場合にセキュア・コネクタを使用できるようにします。
セキュア・コネクタ名	ファイアウォールの内側で稼動している Lotus Domino サーバーへの接続に使用するセキュア・コネクタの名前を指定します。例えば、Lotus Domino アクティビティーを含むオーケストレーションが Cast Iron Live (Cloud) にデプロイされる場合は、セキュア・コネクタを構成する必要があります。

親トピック: [Domino アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_creating_an_endpoint_activity.html

Lotus Domino 文書の作成

「文書の作成」アクティビティーを使用して、Lotus Domino® サーバーで文書を作成します。

作成アクティビティーの使用

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックしてオーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。

3. 「文書の作成」 アクティビティを「Domino」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
4. 「チェックリスト」ペインに、アウトバウンド・アクティビティを構成するために実行する必要があるタスク(要約、エンドポイントの選出、構成、入力のマップ、出力のマップ) がリストされます。
5. 「エンドポイントの選出」をクリックし、Lotus Domino エンドポイントを選択します。

Lotus Domino エンドポイントを作成または編集する手順については、『[Lotus Domino アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

6. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。
 - 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「Lotus Domino データベースの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「Lotus Domino フォームの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、Lotus Domino サーバー上の選択したデータベースにあるすべてのフォームが表示されます。

注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。

作成アクティビティのマップ入力の指定

1. 「チェックリスト」ペインで「入力のマップ」をクリックします。
特定の Lotus Domino アクティビティの入力パラメーターが「アクティビティへ」ペインの下に表示されます。

注: アクティビティの必須入力パラメーターをすべてマップする必要があります。これらの入力パラメーターのデータは、前のアクティビティからのものです。

注: Lotus Domino 文書内の動的に追加されたフィールド(入力のマップ構造の一部ではない)にデータを取り込むには、AdditionalFields プロパティを使用し、FieldDetails セクションでフィールド名とフィールド値を指定します。

複数のデータベースにわたって同じフォーム・タイプの場合は、データベース名をオプション・パラメーターの一部として入力のマップで指定できるようになりました。これにより、同じオーケストレーションを使用して、異なるデータベースにアウトバウンド操作を実行できます。これを実行するには、databaseName オプション・パラメーター(下表で説明)にデータベース名を指定する必要があります。databaseName パラメーターに値が入力されると、databaseName パラメーターで指定されたデータベースにアウトバウンド操作が実行されます。値を指定しない場合は、アウトバウンド操作の実行には、構成時に指定したデータベース名が使用されます。

オプションの入力パラメーターを次の表で説明します。

表 1. データベース名のオプション・パラメーター

パラメーター名	説明
databaseName	入力のマップに動的に追加できるデータベースの名前を指定して、単一のオーケストレーションが同じフォーム・タイプを持つ複数のデータベースに対し、アウトバウンド操作を実行できるようにします。

Domino コネクターは、異なる Domino サーバーへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・ページで構成されたもの以外の Lotus Domino サーバーに動的に接続したい場合

は、入力のマップの `dominoConnectionProperties` に新しいオプション・パラメーターを追加します。 `dominoConnectionProperties` のパラメーターを以下の表で説明します。

表 2. オプションの接続パラメーター

パラメーター	説明
dominoConnectionProperties パラメーター	
hostName	Lotus Domino サーバーが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
diiopPort	Java™ アプレットまたはアプリケーションが CORBA を使用して Lotus Domino データにリモートでアクセスするための Domino Internet Inter ORB Protocol (DIIOP) ポートを指定します。デフォルト値は 63148 です。
username	IBM Domino サーバーに接続するユーザー名を指定します。
password	Lotus Domino サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
connectionPool パラメーター	
minimumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておく Domino サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
maximumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる Domino サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
maxIdleTime	統合アプライアンスによって閉じられるまで Domino サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられません (つまり、アイドル時間はありません)。デフォルト値は 120 分です。
maxWait	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
reclaimConnections	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は 5 分です。

作成アクティビティのマップ出力の指定

1. 「チェックリスト」ペインで「出力のマップ」をクリックします。

Lotus Domino アクティビティの出力パラメーターが「アクティビティから」ペインの下に表示されます。

AdditionalFields プロパティの応答も、「アクティビティから」ペインに表示されます。

一般的な出力パラメーターをいくつか次の表に示します。

--	--

パラメーター名	説明
UniversalID	文書の UniversalID は、データベースのすべてのレプリカの中で文書を一意的に識別する読み取り/書き込みプロパティです。文字フォーマットでは、UniversalID パラメーターは 32 文字の 16 進数字 (0 から 9、A から F) の組み合わせです。UniversalID はまた、uniqueID または UNID とも呼ばれます。データ型は文字列です。
NotesID	文書の NotesID は読み取り専用プロパティで、最大 8 文字の 16 進値を持ちます。この値により、特定のデータベース内の文書が一意的に識別されます。NotesID は、特定のデータベース・ファイル内の文書の場所を表します。そのため、互いにレプリカである文書は一般に、異なる NotesID を持ちます。NotesID は、文書が削除されるまで変わりません。
Form	フォームは文書を作成および表示するための構造を提供する、データベース内でデータを保管する設計要素です。情報をフォームに入力して保存すると、情報は文書として保存されます。文書を開く際に、文書はフォームをテンプレートとして使用し、データを表示するための構造を提供します。 注: フォームを変更 (フィールドの追加など) しても、そのフォームで以前に作成された文書は、手動で、またはエージェントにより自動的に変更され保存されない限り、変更されません。フォームからフィールドを削除しても、そのフィールドの値は、以前に作成された文書から削除されません。
ParentDocumentUNID	文書の parentdocumentUNID は読み取り専用プロパティです。文書が応答文書の場合、これは文書の親の universalID として定義されます。文書に親がない場合は、空文字列 ("") が返されます。データ型は文字列です。

注: 要件に基づいて、アクティビティの出力パラメーターをマップできます。

要約フラグ (フィールド・フラグ) の動作

Authors、Readers、または Names タイプのフィールドを含む書式の文書を作成するときに、これらのフィールド用のデータが「入力のマップ」で設定されている場合、Lotus Domino フィールド・タイプに基づいて適切な許可によって要約フラグが設定されます。この機能は、Lotus Domino サーバーのバージョン 8.5.3 以降でサポートされています。

例:

1. Authors タイプの Lotus Domino フィールドに CN=SYSTEM/O=IBM という値が設定されている場合、要約フラグは SUMMARY READ/WRITE-ACCESS NAMES "CN=SYSTEM/O=IBM" になります。
2. Readers タイプの Lotus Domino フィールドに CN=SYSTEM/O=IBM という値が設定されている場合、要約フラグは SUMMARY READ-ACCESS NAMES "CN=SYSTEM/O=IBM" になります。
3. Names タイプの Lotus Domino フィールドに CN=SYSTEM/O=IBM という値が設定されている場合、要約フラグは SUMMARY NAMES "CN=SYSTEM/O=IBM" になります。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

Lotus Domino 文書の更新

「文書の更新」アクティビティーを使用して、Lotus Domino® データベース内の文書を更新します。更新対象文書はそれぞれ、その UniversalID または NotesID によって一意的に識別可能でなければなりません。

更新アクティビティーの使用

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックしてオーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。
3. 「更新アクティビティー」を「Domino」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
4. 「チェックリスト」ペインに、アウトバウンド・アクティビティーを構成するために実行する必要のあるタスク(要約、エンドポイントの選出、構成、入力のマップ、出力のマップ)がリストされます。
5. 「エンドポイントの選出」をクリックし、Lotus Domino エンドポイントを選択します。

Lotus Domino エンドポイントを作成または編集する手順については、『[Lotus Domino アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

6. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。
 - 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「Lotus Domino データベースの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「Lotus Domino フォームの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、Lotus Domino サーバー上の選択したデータベースにあるすべてのフォームが表示されます。

注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。

更新アクティビティーのマップ入力の指定

更新アクティビティーの入力パラメーターは、UniversalID または NotesID のいずれかと、更新する必要があるすべてのビジネス・データ・フィールド(選択したフォームに固有)です。

1. 「チェックリスト」ペインで「入力のマップ」をクリックします。
特定の Lotus Domino アクティビティーの入力パラメーターが「アクティビティーへ」ペインの下に表示されます。入力パラメーターを次の表に示します。

パラメーター名	説明

UniversalID	文書の UniversalID は、データベースのすべてのレプリカの中で文書を一意的に識別する読み取り/書き込みプロパティです。文字フォーマットでは、UniversalID は 32 文字の 16 進数字 (0 から 9、A から F) の組み合わせです。UniversalID はまた、uniqueID または UNID と呼ばれます。データ型は「ストリング」です。
NotesID	文書の NotesID は読み取り専用プロパティで、最大 8 文字の 16 進値を持ちます。この値により、特定のデータベース内の文書が一意的に識別されます。NotesID は、特定のデータベース・ファイル内の文書の場所を表します。そのため、互いにレプリカである文書は一般に、異なる NotesID を持ちます。NotesID は、文書が削除されるまで変わりません。

注: アクティビティの入力パラメーターをマップする必要があります。

注: Lotus Domino 文書内の動的に追加されたフィールド (入力のマップ構造の一部ではない) にデータを取り込むには、AdditionalFields プロパティを使用し、FieldDetails セクションでフィールド名とフィールド値を指定します。

複数のデータベースにわたって同じフォーム・タイプの場合は、データベース名をオプション・パラメーターの一部として入力のマップで指定できるようになりました。これにより、同じオーケストレーションを使用して、異なるデータベースにアウトバウンド操作を実行できます。これを実行するには、databaseName オプション・パラメーター (表 1 で説明) にデータベース名を指定する必要があります。databaseName パラメーターに値が入力されると、databaseName パラメーターで指定されたデータベースにアウトバウンド操作が実行されます。値を指定しない場合は、アウトバウンド操作の実行には、構成時に指定したデータベース名が使用されます。

Lotus Domino アクティビティのオプション・パラメーター

以下は、更新アクティビティに定義されているオプション・パラメーターです。

表 1. オプション・パラメーター

パラメーター名	説明
MarkAsRead	更新操作中に、文書に読み取りのマークをつけるかどうかを指定します。このパラメーターのデータ型はブールです。
MakeResponse	別のユーザーが文書を変更し保存する場合でも、保存された文書の応答として文書を使用可能かどうかを指定します。このパラメーターのデータ型はブールです。
ForceSave	更新操作が競合したときに、文書を強制保存するかどうかを指定します。このパラメーターのデータ型はブールです。
databaseName	databaseName は、文書が更新されるデータベースの名前です。このパラメーターに値が設定されると、構成パネル内のデータベースの値が上書きされます。このパラメーターは、同じオーケストレーションを使用して、同じ構造 (フォーム) を持つ文書を複数のデータベースで更新する必要がある場合に役立ちます。

Domino コネクタは、異なる Domino サーバーへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・ページで構成されたもの以外の Lotus Domino サーバーに動的に接続したい場合は、入力のマップの `dominoConnectionProperties` に新しいオプション・パラメーターを追加します。
`dominoConnectionProperties` のパラメーターを以下の表で説明します。

表 2. オプションの接続パラメーター

パラメーター	説明
dominoConnectionProperties パラメーター	
hostName	Lotus Domino サーバーが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
diiopPort	Java™ アプレットまたはアプリケーションが CORBA を使用して Domino データにリモートでアクセスするための Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) ポートを指定します。デフォルト値は 63148 です。
username	Lotus Domino サーバーに接続するユーザー名を指定します。
password	Domino サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
connectionPool パラメーター	
minimumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておく Domino サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
maximumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる Domino サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
maxIdleTime	統合アプライアンスによって閉じられるまで Domino サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間はありません)。デフォルト値は 120 分です。
maxWait	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
reclaimConnections	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は 5 分です。

Lotus Domino アクティビティのマップ出力の指定

1. 「チェックリスト」ペインで「出力のマップ」をクリックします。

Lotus Domino アクティビティの出力パラメーターが「アクティビティから」ペインの下に表示されます。

注: アクティビティの出力パラメーターは、要求に基づいてマップすることができます。

要約フラグ (フィールド・フラグ) の動作

Authors、Readers、または Names タイプのフィールドを含む書式の文書を更新するときに、これらのフィールド用のデータが「入力のマップ」で設定されている場合、IBM Domino フィールド・タイプに基づいて適切


な許可によって要約フラグが設定されます。この機能は、Lotus Domino サーバーのバージョン 8.5.3 以降でサポートされています。

例:

1. Authors タイプの IBM Domino フィールドに CN=SYSTEM/O=IBM という値が設定されている場合、要約フラグは SUMMARY READ/WRITE-ACCESS NAMES "CN=SYSTEM/O=IBM" になります。
2. Readers タイプの IBM Domino フィールドに CN=SYSTEM/O=IBM という値が設定されている場合、要約フラグは SUMMARY READ-ACCESS NAMES "CN=SYSTEM/O=IBM" になります。
3. Names タイプの IBM Domino フィールドに CN=SYSTEM/O=IBM という値が設定されている場合、要約フラグは SUMMARY NAMES "CN=SYSTEM/O=IBM" になります。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_update_outactivity.html

Lotus Domino 文書の取得

取得アクティビティを使用して、Lotus Domino® データベースから文書を取得できます。取得対象文書はそれぞれ、その UniversalID または NotesID によって一意的に識別されます。取得は、入力 (UniversalID または NotesID のいずれか) に基づいて実行されます。

取得アクティビティの使用

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックしてオーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。
3. 「取得アクティビティ (Retrieve Activity)」を「Domino」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」と共に表示されます。
4. 「チェックリスト」ペインに、アウトバウンド・アクティビティの構成を完了させるために実行しなければならないタスク (要約、エンドポイントの選出、構成、入力のマップ、出力のマップ) がリストされます。
5. 「エンドポイントの選出」をクリックし、Lotus Domino エンドポイントを選択します。

Lotus Domino エンドポイントを作成または編集する手順については、『[Lotus Domino アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

6. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。
 - 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「Lotus Domino データベースの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「Lotus Domino フォームの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、Lotus Domino サーバー上の選択したデータベ

スにあるすべてのフォームが表示されます。

注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。

- 「正規名が含まれるフィールド」は、John Smith/IBM/COUNTRY などの正規名を値 (コンマで区切られる) として持つ可能性があるフィールドを受け入れます。これらのフィールドの値をインターネット・メール・アドレス (johnsmith@country.ibm.com など) に変換する場合は、このフィールドに正規の名前を入力します。このようなフィールド名の例として、「宛先」、「送信元」、「CC」、「議長」、「必須参加者」などがあります。

取得アクティビティのマップ入力の指定

取得アクティビティの入力パラメーターは、UniversalID または NotesID のいずれかです。両方を指定すると、Lotus Domino 文書の取得には UniversalID が使用されます。

1. 「チェックリスト」ペインで「入力のマップ」をクリックします。

特定の Lotus Domino アクティビティの入力パラメーターが「アクティビティへ」ペインの下に表示されます。一般的な入力パラメーターをいくつか次の表に示します。

パラメーター名	説明
UniversalID	UniversalID パラメーターは、データベースのすべてのレプリカの中で文書を一意的に識別する読み取り/書き込みプロパティです。文字フォーマットでは、UniversalID パラメーターは 32 文字の 16 進数字 (0 から 9、A から F) の組み合わせです。UniversalID はまた、uniqueID または UNID とも呼ばれます。データ型は「ストリング」です。
NotesID	文書の Notes® ID は読み取り専用プロパティで、最大 8 文字の 16 進値を持ちます。この値により、特定のデータベース内の文書が一意的に識別されます。Notes ID は、特定のデータベース・ファイル内の文書の場所を表します。そのため、互いにレプリカである文書は一般に、異なる Notes ID を持ちます。Notes ID は、文書が削除されるまで変わりません。

注: アクティビティの入力パラメーターをマップする必要があります。

複数のデータベースにわたって同じフォーム・タイプの場合は、データベース名をオプション・パラメーターの一部として入力のマップで指定できるようになりました。これにより、同じオーケストレーションを使用して、異なるデータベースにアウトバウンド操作を実行できます。これを実行するには、databaseName オプション・パラメーター (表 1 で説明) にデータベース名を指定する必要があります。databaseName パラメーターに値が入力されると、databaseName パラメーターで指定されたデータベースにアウトバウンド操作が実行されます。値を指定しない場合は、アウトバウンド操作の実行には、構成時に指定したデータベース名が使用されます。

オプション・パラメーター

オプションの入力パラメーターを次の表で説明します。

表 1. オプション・パラメーター

パラ メ ー タ ー 名	説明
dat aba seN ame	databaseName は、文書が取得されるデータベースの名前です。このパラメーターに値が設定されると、構成パネル内のデータベースの値が上書きされます。このパラメーターは、同じオーケストレーションを使用して、同じ構造 (フォーム) を持つ文書を複数のデータベースから取得する必要がある場合に役立ちます。

Domino コネクタは、異なる Domino サーバーへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・ページで構成されたもの以外の Lotus Domino サーバーに動的に接続したい場合は、入力のマップの dominoConnectionProperties に新しいオプション・パラメーターを追加します。

dominoConnectionProperties のパラメーターを以下の表で説明します。

表 2. オプションの接続パラメーター

パラメーター	説明
dominoConnectionProperties パラメーター	
hostName	Lotus Domino サーバーが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
diiopPort	Java™ アプレットまたはアプリケーションが CORBA を使用して Domino データにリモートでアクセスするための Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) ポートを指定します。デフォルト値は 63148 です。
username	Lotus Domino サーバーに接続するユーザー名を指定します。
password	Domino サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
connectionPool パラメーター	
minimumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておく Domino サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
maximumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる Domino サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
maxIdleTime	統合アプライアンスによって閉じられるまで Domino サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間はありません)。デフォルト値は 120 分です。
maxWait	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
reclaimConnections	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は 5 分です。

取得アクティビティのマップ出力の指定

1. 「チェックリスト」ペインで「出力のマップ」をクリックします。


Lotus Domino アクティビティの出力パラメーターが「アクティビティから」ペインの下に表示されます。

注: アクティビティの出力パラメーターは、要求に基づいてマップすることができます。

注: Domino 文書内に存在し、マップ入力/出力構造で生成されていない動的に追加されたフィールドは、Domino コネクターによって処理されます。このアクティビティを使用して文書を取得する際、これらのフィールドのデータは、AdditionalFields の下のマップ出力セクションに提供されます。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_retrieve_outactivity.html

IBM Domino 文書の照会

文書フィールドで指定された値に一致する Lotus® Domino® サーバーにあるデータベースから文書を照会するには、「文書の照会」アクティビティを使用します。

Outbound 要求で送信される入力データに、以下の条件のうちの 1 つ以上を指定できます。

- 文書ビジネス・データ: 文書ビジネス・データを「入力のマップ」セクションに指定した場合、コネクターはすべての有効なデータをマップ入力から読み取ります。コネクターは、これらの有効なデータに一致する文書をデータベースで検索します。一致した文書のうち、マップ出力スキーマを使用して表すことができるものは、すべて応答として返されます。
- ParentDocumentUNID: 有効な ParentDocumentUNID を「入力のマップ」セクションに指定した場合、コネクターはこの親文書に対する子文書をすべて照会します。一致した文書のうち、マップ出力スキーマを使用して表すことができるものは、すべて応答として返されます。
- データ・セットなし: データをマップ入力に指定しなかった場合、コネクターはマップ出力スキーマを使用して表すことができる文書を照会します。

次の 2 つのタイプの検索方式に基づいて、文書を検索できます。

1. データベース検索方式: 指定された文書の選択条件に適合するデータベース内の文書すべてを返します。デフォルトでは、アクティビティはデータベース検索方式を使用して文書を検索します。検索を明示的にこのタイプに設定するには、「入力のマップ」セクションで、searchType オプション・パラメーターの値を NORMAL_SEARCH に設定します。この方式では、以下のタイプの検索条件に基づいて、文書を検索できます。
 - a. 単一値: 検索条件に単一値を指定できます。例えば、コネクターは、検索フィールドに指定された単一の語、数値、日付などに基づいて、文書を照会できます。「数値」タイプおよび「日付」タイプのフィールドで指定可能な検索値について詳しくは、以下の項目を参照してください。

- **数値:**「数値」タイプ・フィールドの検索条件として、2桁の数値または単一の整数値を指定できます。この検索機能を使用して、「数値」タイプ・フィールドに特定の値を持つ文書を照会することができます。例えば、従業員の給与が1234.56に一致する文書を照会するには、EmployeeSalaryフィールドに1234.56という値を入力します。
 - **日付:**「日付」タイプ・フィールドの検索条件として、日付を指定できます。例えば、誕生日が1982/11/22に一致する文書を照会するには、Birthdayフィールドに1982/11/22という値を指定します。
- b. **複数値:** Lotus® Domino® のどのフィールド・タイプに対しても、複数の値を検索条件に指定できます。この機能を使用すると、指定された値を持つ文書を実行時に検索することができます。例えば、検索条件に指定した語に一致する文書を取得するようにコネクタを構成することができます。
 - c. **リッチ・テキスト・コンテンツのテキスト検索:** リッチ・テキスト・コンテンツを持つ文書を実行時に検索するために、テキストを指定することができます。コネクタは、RichTextフィールドで指定されたテキストを使用して検索を実行し、一致するすべての文書を取得します。コネクタは、RichTextフィールドに関して、単一テキスト・コンテンツ検索と複数テキスト・コンテンツ検索の両方をサポートしています。また、文書の検索用に、*などのワイルドカード接尾部をRichTextフィールドに指定することもできます。
 - d. **複数のフィールドを使用する検索:** 複数のフィールドに検索値を指定することができます。この構成の場合、アクティビティーは論理 AND 演算子を使用して検索ストリングをグループ化します。例えば、単一値、複数値、RichText、ParentDocumentUNIDなどを、それぞれ別のフィールドに指定することができます。アクティビティーは、指定されたすべての条件に一致する検索内容のみを返します。
2. **データベース全文検索/索引検索方式:** データベース内のすべての文書の全文検索を行います。データベース全体が索引付けされている場合、索引検索方式は、データベース検索方式よりも高速に行われます。この方式では、出力データが関連度スコアでソートされます。コレクションを関連度でソートした場合、最も関連度の高い文書が先頭に表示されます。検索を明示的にこのタイプに設定するには、「入力のマップ」セクションで、searchType オプション・パラメーターの値を FULL_TEXT_SEARCH に設定します。
- a. **複数のフィールドを使用する検索:** 索引検索方式でも、複数のフィールドを使用した検索が可能です。複数のフィールドに検索値を指定することができます。この構成の場合、コネクタは論理 AND 演算子を使用して検索ストリングをグループ化します。例えば、単一値、複数値、または ParentDocumentUNID を、それぞれ別のフィールドに指定することができます。コネクタは、指定されたすべての検索条件の論理 AND 演算を返します。ストリング型フィールドでは完全一致および近似一致を、数値型フィールドでは完全一致を返します。

注: 索引検索方式は、RichText、Attachments、Date フィールドでは機能しません。

「文書の照会」アクティビティーの使用

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックして、オーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。
3. 「照会アクティビティー (Query Activity)」を「Domino」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」と共に表示されます。
4. 「エンドポイントの選出」をクリックし、Lotus Domino エンドポイントを選択します。

Lotus Domino エンドポイントを作成または編集する手順については、『[Lotus Domino アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

5. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。

- 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「**IBM Domino データベースの表示**」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「**IBM Domino フォームの表示**」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、Lotus Domino サーバー上の選択したデータベースにあるすべてのフォームが表示されます。
注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。
 - 「正規名が含まれるフィールド」は、John Smith/IBM/COUNTRY などの正規名を値 (コンマで区切られる) として持つ可能性があるフィールドを受け入れます。これらのフィールドの値をインターネット・メール・アドレス (johnsmith@country.ibm.com など) に変換する場合は、このフィールドに正規の名前を入力します。このようなフィールド名の例として、「宛先」、「送信元」、「CC」、「議長」、「必須参加者」などがあります。
6. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「文書の照会」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。

複数のデータベースにわたって同じフォーム・タイプの場合は、データベース名をオプション・パラメーターの一部として入力のマップで指定できます。これにより、同じオーケストレーションを使用して、異なるデータベースにアウトバウンド操作を実行できます。これを実行するには、databaseName オプション・パラメーター (表 1 で説明) にデータベース名を指定する必要があります。databaseName パラメーターに値が入力されると、databaseName パラメーターで指定されたデータベースにアウトバウンド操作が実行されます。値を指定しない場合は、アウトバウンド操作の実行には、構成時に指定したデータベース名が使用されます。

オプションの入力パラメーターを次の表で説明します。

表 1. オプションの入力パラメーター

パラメーター名	説明
databaseName	databaseName は、文書が照会されるデータベースの名前です。このパラメーターに値が設定されると、構成パネルで指定されたデータベースの値が上書きされます。このパラメーターは、同じオーケストレーションを使用して、同じ構造 (フォーム) を持つ文書を複数のデータベースで照会する必要があるときに役立ちます。

Domino コネクタは、異なる Domino サーバーへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・ページで構成されたもの以外の Lotus Domino サーバーに動的に接続したい場合は、入力のマップの dominoConnectionProperties に新しいオプション・パラメーターを追加します。dominoConnectionProperties のパラメーターを以下の表で説明します。

表 2. オプションの接続パラメーター

パラメーター	説明
dominoConnectionProperties パラメーター	
hostName	Lotus Domino サーバーが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。

パラメーター	説明
diiopPort	Java™ アプレットまたはアプリケーションが CORBA を使用して Domino データにリモートでアクセスするための Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) ポートを指定します。デフォルト値は 63148 です。
username	Lotus Domino サーバーに接続するユーザー名を指定します。
connectionPool パラメーター	
minimumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておく Domino サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
maximumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる Domino サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
maxIdleTime	統合アプライアンスによって閉じられるまで Domino サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられず (つまり、アイドル時間がありません)。デフォルト値は 120 分です。
maxWait	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
reclaimConnections	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は 5 分です。
password	Domino サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。

7. オークストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
8. アクティビティーで使用する検索タイプを次のように選択します。

表 3. 検索タイプ

パラメーター名	説明
searchType	このアクティビティーで使用する検索タイプを指定します。値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ○ NORMAL_SEARCH: IBM Domino データベース検索方式を使用します。 ○ FULL_TEXT_SEARCH: IBM Domino データベース全文検索方式を使用します。 値を指定しない場合、NORMAL_SEARCH が使用されます。

9. 「チェックリスト」で「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。

注: Domino 文書内に存在し、マップ入力/出力構造で生成されていない動的に追加されたフィールドは、Domino コネクタによって処理されます。このアクティビティを使用して文書を取得する際、これらのフィールドのデータは、AdditionalFields の下のマップ出力セクションに提供されます。

queryUsingTimestamp は、タイム・スタンプに基づく文書を照会するときに使用されるパラメーターです。timestamp プロパティは、再帰的なプロパティです。timestamp プロパティでは、groupFields、name、operator、および value を定義できます。

オプションの出力パラメーターを次の表で説明します。

パラメーター名	説明										
queryUsingTimestamp	<p>以下は、timestamp プロパティです。</p> <p style="text-align: center;">表 4. timestamp プロパティ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プロパティ</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>groupFields</td> <td>AND、OR、(、)、AND(、OR(、)AND、)OR、)AND(、および)OR(などの複数の値を指定できます。 注: 複数の条件を設定できます。複数の条件を設定する場合は、groupFields を使用する必要があります。</td> </tr> <tr> <td>name</td> <td>createdTimestamp または lastModifiedTimestamp のいずれかの値を指定します。</td> </tr> <tr> <td>operator</td> <td>GREATER_THAN、GREATER_THAN_OR_EQUAL_TO、EQUAL_TO、LESS_THAN、LESS_THAN_OR_EQUAL_TO、または NOT_EQUAL_TO のいずれかの値を指定します。</td> </tr> <tr> <td>value</td> <td>日付と時刻の値を指定します。例えば、26-09-2013 12:05:00 PM EST と指定します。 注: タイム・ゾーンを指定しない場合は、デフォルトで、サーバーのタイム・ゾーンが考慮されます。</td> </tr> </tbody> </table>	プロパティ	値	groupFields	AND、OR、(、)、AND(、OR(、)AND、)OR、)AND(、および)OR(などの複数の値を指定できます。 注: 複数の条件を設定できます。複数の条件を設定する場合は、groupFields を使用する必要があります。	name	createdTimestamp または lastModifiedTimestamp のいずれかの値を指定します。	operator	GREATER_THAN、GREATER_THAN_OR_EQUAL_TO、EQUAL_TO、LESS_THAN、LESS_THAN_OR_EQUAL_TO、または NOT_EQUAL_TO のいずれかの値を指定します。	value	日付と時刻の値を指定します。例えば、26-09-2013 12:05:00 PM EST と指定します。 注: タイム・ゾーンを指定しない場合は、デフォルトで、サーバーのタイム・ゾーンが考慮されます。
	プロパティ	値									
	groupFields	AND、OR、(、)、AND(、OR(、)AND、)OR、)AND(、および)OR(などの複数の値を指定できます。 注: 複数の条件を設定できます。複数の条件を設定する場合は、groupFields を使用する必要があります。									
	name	createdTimestamp または lastModifiedTimestamp のいずれかの値を指定します。									
	operator	GREATER_THAN、GREATER_THAN_OR_EQUAL_TO、EQUAL_TO、LESS_THAN、LESS_THAN_OR_EQUAL_TO、または NOT_EQUAL_TO のいずれかの値を指定します。									
	value	日付と時刻の値を指定します。例えば、26-09-2013 12:05:00 PM EST と指定します。 注: タイム・ゾーンを指定しない場合は、デフォルトで、サーバーのタイム・ゾーンが考慮されます。									
注:	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全文検索では、NOT_EQUAL_TO 演算子 (!=) に基づく文書の照会はサポートされていません。 ○ 全文検索では、時刻を使用した文書の照会はサポートされていません。例えば、[_RevisionDate] = 05/06/2013 09:30:00 のような照会です。 ○ タイム・スタンプとともに EQUAL_TO 演算子を使用した文書の照会は、通常の検索タイプでは機能しません。例えば、@Modified = [05/06/2013 09:14:22] のような照会です。 ○ 検索タイプとして全文検索を使用して文書を照会するときは、日付のみに基づく文書を照会でき、日時に基づく文書は照会できません。例えば、lastModifiedDateTime >= 05/20/2013 20:00:00 は、全文検索ではサポートされていません。 										

10. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

IBM Domino 「文書の照会」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_query_outactivity.html

ビューでの Lotus Domino 文書の照会

「ビューの照会」アクティビティは、ビュー内の文書フィールドで指定された値に一致する Lotus® Domino® サーバー内のデータベースからビューを照会するために使用されます。

「文書の照会」アクティビティの使用

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックして、オーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。
3. 「照会ビュー (Query Views)」を「Domino®」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」と共に表示されます。
4. 「エンドポイントの選出」をクリックし、Lotus Domino エンドポイントを選択します。

Lotus Domino エンドポイントを作成または編集する手順については、『[Lotus Domino アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

5. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。
注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。
 - 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「**IBM Domino データベースの表示**」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「参照」をクリックして、既存のビューを「**Domino ビューの表示**」ペインから選択します。「Lotus Domino ビューの表示」には、選択したデータベース内にある選択したエンドポイント用のすべてのビューが表示されています。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「**IBM Domino フォームの表示**」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、選択したビュー内の文書に関連するすべてのフォームが表示されます。
6. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「ビューの照会」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。

複数のデータベースにわたって同じフォーム・タイプの場合は、データベース名をオプション・パラメーターの一部として入力のマップで指定できます。これにより、同じオーケストレーションを使用して、異なるデータベースにアウトバウンド操作を実行できます。これを実行するには、`databaseName` オプション・パラメーター (表 1 で説明) にデータベース名を指定する必要があります。`databaseName` パラメーターに値が入力されると、`databaseName` パラメーターで指定されたデータベースにアウトバウンド操作が実行されます。値を指定しない場合は、アウトバウンド操作の実行には、構成時に指定したデータベース名が使用されます。

オプションの入力パラメーターを次の表で説明します。

表 1. データベース名のオプション・パラメーター

パラメーター名	説明
data base Name	入力のマップに動的に追加できるデータベースの名前を指定して、単一のオーケストレーションが同じフォーム・タイプを持つ複数のデータベースに対し、アウトバウンド操作を実行できるようにします。

Domino コネクターは、異なる Domino サーバーへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・パネルで構成されたもの以外の Lotus Domino サーバーに動的に接続したい場合は、入力のマップの `dominoConnectionProperties` に新しいオプション・パラメーターを追加します。 `dominoConnectionProperties` のパラメーターを以下の表で説明します。

表 2. オプションの接続パラメーター

パラメーター	説明
dominoConnectionProperties パラメーター	
hostName	IBM Domino サーバーが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
diiopPort	Java™ アプレットまたはアプリケーションが CORBA を使用して Domino データにリモートでアクセスするための Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) ポートを指定します。デフォルト値は 63148 です。
username	Lotus Domino サーバーに接続するユーザー名を指定します。
password	Domino サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
connectionPool パラメーター	
minimumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておく Domino サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
maximumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる Domino サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
maxIdleTime	統合アプライアンスによって閉じられるまで Domino サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられず (つまり、アイドル時間はありません)。デフォルト値は 120 分です。
maxWait	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。

パラメーター	説明
reclaimConnections	コネクターがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は5分です。

- オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとをマップします。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
- 表 3 で説明されているように値を指定します。

表 3. 検索タイプ


パラメーター名	説明
KeyValueS	検索を実行したい値を指定します。
ExactMatch	検索語に関連する値の候補をすべて返す場合は、値を <code>False</code> に指定します。完全な一致を返す場合は、値を <code>True</code> に指定します。
SearchFormula	要件に従って詳細検索用の式を指定します。

- 「チェックリスト」で「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
注: Domino 文書内に存在し、マップ入力/出力構造で生成されていない動的に追加されたフィールドは、Domino コネクターによって処理されます。このアクティビティを使用して文書を取得する際、これらのフィールドのデータは、AdditionalFields の下のマップ出力セクションに提供されます。
- 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマッピングを作成します。

これで、「Domino ビューの照会」アクティビティが構成されました。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_query_views_activity.html

Lotus Domino 文書の削除

削除アクティビティを使用して、Lotus Domino® データベースから文書を削除します。削除対象文書はそれぞれ、その UniversalID または NotesID によって一意的に識別可能でなければなりません。

削除アクティビティの使用

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックしてオーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。
3. 「削除アクティビティ」を「Domino」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」と共に表示されます。
4. 「チェックリスト」ペインに、アウトバウンド・アクティビティの構成を完了させるために実行しなければならないタスク(要約、エンドポイントの選出、構成、入力のマップ、出力のマップ)がリストされます。
5. 「エンドポイントの選出」をクリックし、Lotus Domino エンドポイントを選択します。

Lotus Domino エンドポイントを作成または編集する手順については、『[Lotus Domino アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

6. 「チェックリスト」で「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。
 - 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「Lotus Domino データベースの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「Lotus Domino フォームの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、Lotus Domino サーバー上の選択したデータベースにあるすべてのフォームが表示されます。

注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。

削除アクティビティのマップ入力の指定

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」をクリックします。
特定の Lotus Domino アクティビティの入力パラメーターが「アクティビティへ」ペインの下に表示されます。一般的な入力パラメーターをいくつか次の表に示します。

パラメーター名	説明
UniversalID	UniversalID パラメーターは、データベースのすべてのレプリカの中で文書を一意的に識別する読み取り/書き込みプロパティです。文字フォーマットでは、UniversalID パラメーターは 32 文字の 16 進数字 (0 から 9、A から F) の組み合わせです。UniversalID はまた、uniqueID または UNID とも呼ばれます。データ型は「ストリング」です。
NotesID	文書の Notes® ID は読み取り専用プロパティで、最大 8 文字の 16 進値を持ちます。この値により、特定のデータベース内の文書が一意的に識別されます。NotesID は、特定のデータベース・ファイル内の文書の場所を表します。そのため、互いにレプリカである文書は一般に、異なる Notes ID を持ちます。Notes ID は、文書が削除されるまで変わりません。

注: アクティビティの入力パラメーターをマップする必要があります。

複数のデータベースにわたって同じフォーム・タイプの場合は、データベース名をオプション・パラメーターの一部として入力のマップで指定できるようになりました。これにより、同じオーケストレーションを使用して、異なるデータベースにアウトバウンド操作を実行できます。これを実行するには、databaseName オプション・パラメーター (表 1 で説明) にデータベース名を指定する必要があります。databaseName パラメーター

に値が入力されると、databaseName パラメーターで指定されたデータベースにアウトバウンド操作が実行されます。値を指定しない場合は、アウトバウンド操作の実行には、構成時に指定したデータベース名が使用されます。

オプション・パラメーター

オプションの入力パラメーターを次の表で説明します。

表 1.

入力パラメーター	説明
forceDelete	このプロパティは、削除操作の競合中に文書を削除するかどうかを指定します。このパラメーターのデータ型はブールです。
databaseName	databaseName は、文書が削除されるデータベースの名前です。このパラメーターに値が設定されると、構成パネルで指定されたデータベースの値が上書きされます。このパラメーターは、同じオーケストレーションを使用して、同じ構造 (フォーム) を持つ文書を複数のデータベースから削除する必要があるときに役立ちます。

Domino コネクターは、異なる Domino サーバーへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・ページで構成されたもの以外の Lotus Domino サーバーに動的に接続したい場合は、入力のマップの dominoConnectionProperties に新しいオプション・パラメーターを追加します。

dominoConnectionProperties のパラメーターを以下の表で説明します。

表 2. オプションの接続パラメーター

パラメーター	説明
dominoConnectionProperties パラメーター	
hostName	Lotus Domino サーバーが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
diioPort	Java™ アプレットまたはアプリケーションが CORBA を使用して Domino データにリモートでアクセスするための Domino Internet Inter-ORB Protocol (DIIOP) ポートを指定します。デフォルト値は 63148 です。
username	Lotus Domino サーバーに接続するユーザー名を指定します。
password	Domino サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
connectionPool パラメーター	
minimumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておく Domino サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
maximumConnections	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる Domino サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
maxIdleTime	統合アプライアンスによって閉じられるまで Domino サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間はありません)。デフォルト値は 120 分です。

パラメーター	説明
maxWait	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
reclaimConnections	コネクターがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は 5 分です。

削除アクティビティのマップ出力の指定


1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」をクリックします。

Lotus Domino アクティビティの出力パラメーターが「アクティビティから」ペインの下に表示されません。

注: アクティビティの出力パラメーターは、要求に基づいてマップすることができます。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_delete_outactivity.html

Lotus Domino アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定

「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、Lotus Domino® アクティビティ構成を構成するためのタスクの 1 つです。

このタスクについて

このセクションでは、Lotus Domino アウトバウンドおよびインバウンド・アクティビティを構成するための手順について説明します。

手順

インバウンドおよびアウトバウンドの「Lotus Domino」アクティビティの再試行オプションを指定するには、以下のようにします。

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、Lotus Domino サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。

表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスが Domino サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する時間 (秒) を指定します。
失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>再試行回数、つまり統合アプライアンスが Lotus Domino サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスは次のエラーを発行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ このパラメーターを「0」に設定すると、Studio は再接続を試行しません。 ○ このパラメーターを「0」より小さい値に設定すると、Studio は接続の再試行を無制限に実行します。 <p>インバウンド Lotus Domino アクティビティーで開始されるオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスは指定された Lotus Domino サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログにエラーを記録し、接続エラー件数をゼロにリセットして、Lotus Domino サーバーへの接続を引き続き確立しようとしています。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

親トピック: [Domino アクティビティー](#)

Lotus Domino インバウンド・アクティビティー

手順

Lotus Domino インバウンド・アクティビティーの配信ルール・オプションを指定するには、以下のようになります。


1. 「チェックリスト」で「配信ルール」タスクを選択します。「配信ルール」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、アクティビティーの動作を選択するための配信ルール・オプションを構成します。

表 2. 配信ルール・オプション

「配信ルール」フィールド	説明
ポーリング間隔	Lotus Domino サーバーの Adapter for Lotus® Domino (WALD) インバウンド・イベント・テーブル内のイベント・ビューをポーリングする時間間隔を指定します。(例えば、「作成対象文書の取得」アクティビティーは、指定された時間間隔でトリガーの作成イベントをポーリングします。)時間は、日、時、分、および秒の形式で選択できます。

「配信ルール」フィールド	説明
フェッチ・サイズ	アクティビティが各ポーリング周期で、Lotus Domino サーバーの WALD インバウンド・イベント・テーブルから取得するイベント数を指定します。
メッセージの配信	
ATMOST_ONCE	非永続モード。文書は、1 回処理されるかまったく処理されないかのいずれかです。
ATLEAST_ONCE	Lotus Domino 文書が失われない永続モード。そのため、オーケストレーションは文書を 1 回または複数回処理する機会があります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_Specifying_Retry_Parameters_for_Domino_Activities.html

Lotus Domino インバウンド・アクティビティを使用するための前提条件

このセクションでは、Lotus Domino® インバウンド・アクティビティを構成するための前提条件について説明します。

Lotus Domino サーバーの構成

1. 次の表に記載されているネイティブ・ライブラリーを、<STUDIO ROOT>/etc/domino/<platform> ディレクトリーから Lotus Domino サーバーのルート・ディレクトリーにコピーします。ネイティブ・ライブラリーは、Lotus Domino サーバーが稼働しているプラットフォームに基づいて選択されます。

ライブラリー・ファイル	サポートされるオペレーティング・システム
-------------	----------------------

ライブラリー・ファイル	サポートされるオペレーティング・システム
waldinbound.dll	Windows 32 ビット
waldinbound.dll	Windows 64 ビット
libwaldinbound_r.a	AIX® 32 ビット
libwaldinbound.so	Redhat 32 ビット
libwaldinbound.so	Suse 32 ビット
libwaldinbound.so	Solaris 32 ビット


2. Lotus Domino サーバーで notes.ini ファイルを検索します。ファイルを開き、ファイルの末尾に次のエントリーを追加します。

```
EXTMGR_ADDINS=waldinbound
```

3. インバウンド・イベント・データベース (ファイル名: waldinbound.nsf) を (<STUDIO ROOT>/etc/domino/) から Lotus Domino サーバーのデータ・ディレクトリー (<DominoRoot>/data) にコピーします。
4. Lotus Notes® を使用してインバウンド・イベント・データベース (waldinbound.nsf) を開き、イベント・アクティビティーを構成します。
5. WALD インバウンド・イベント・テーブルを構成する手順は以下のとおりです。
 - EventTriggerConfigurationView を選択します。エントリーが存在する場合は、そのエントリーを編集します。エントリーが存在しない場合は、新しい構成を作成します。
 - コネクター ID の値を入力します。これはオプションです。
 - フィールド「モニター対象文書」についてイベントを生成する必要があるデータベース名およびフォーム (どちらも大/小文字の区別あり) を入力します。インバウンド・アクティビティーの検出中に同じデータベースおよびフォームが選択されます。構文は以下のとおりです。
 - DatabaseName:formName
 - SampleDatabase.nsf:Employee
 - TestDatabase.nsf:Form1:TestDatabase.nsf:Form2 (この場合、イベントは Form1 および Form2 の両方に対して生成されます。)
6. 関心のあるイベント・タイプを選択します。
注: 選択されたイベント・タイプは、スターター・アクティビティー (「作成済み文書の取得」、「更新済み文書の取得」、または「削除済み文書の取得」) に対応するようになります。
7. 構成を保存します (Ctrl + S)。選択されたデータベースおよびフォームからのイベントがトリガーされ、インバウンド・イベント・データベースの EventView で使用可能になります。
8. Lotus Domino サーバーを再始動します。サンプル・データを使用して Lotus Notes からテストを行い、構成に対してイベントが生成されることを確認してください。
9. Studio でスターター・アクティビティーを構成します。次に、構成された Lotus Domino データベースに対して (EventTriggerConfigurationView で選択された構成に基づいて) 文書を作成、更新、または削除すると、イベントがトリガーされます。イベントは Lotus Domino スターター・アクティビティーによって選出され、処理されます。

親トピック: [Domino アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「作成済み文書の取得」アクティビティー

「作成済み文書の取得」アクティビティーを使用して、Lotus Domino® サーバーで作成された (関心のある) 文書を取得します。このアクティビティーでは、Lotus Domino サーバーのイベント・テーブルを定期的にポーリングして新しいイベントを検出し、それら进行处理します。

注: 「作成済み文書の取得」アクティビティーを構成および使用する前に、IBM® Domino サーバーの『[Lotus Domino インバウンド・アクティビティーを使用するための前提条件](#)』を参照してください。

インバウンド Lotus Domino アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックして、オーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。
3. 「作成済み文書の取得」アクティビティーを「Domino」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
4. 「チェックリスト」ペインに、インバウンド・アクティビティーの構成を完了させるために実行しなければならないタスク (要約、エンドポイントの選出、構成、出力のマップ) がリストされます。

Lotus Domino アクティビティーの命名または名前変更

1. 「チェックリスト」ペインで「要約」をクリックします。「要約」ペインが表示されます。
 - アクティビティーの名前を「アクティビティー名」テキスト・ボックスに指定します。

Lotus Domino アクティビティーのエンドポイントの指定

1. 「チェックリスト」ペインで「エンドポイントの選出 (Pick Endpoint)」をクリックします。「エンドポイントの選出」ペインが表示されます。
2. 以下のオプションのいずれかをクリックします。
 - 参照... - 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべての Lotus Domino エンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出 (Pick Endpoint)」ペインに表示されます。エンドポイントのプロパティーを編集するには、「編集」をクリックします。
 - 新規作成... - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが表示されます。
 - 編集... - 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが表示されます。

注: 構成プロパティーを含め、エンドポイントに対して行うすべての変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルなものです。

Lotus Domino アクティビティーのデータベースおよびフォームの指定

1. 「チェックリスト」 ペインで「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。
 - 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「Lotus Domino データベースの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「Lotus Domino フォームの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、アクティビティーで使用可能なプロジェクト内のすべてのフォームが表示されます。
注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。
 - オプション: 「フォーム」フィールドで選択されたフォームの文書をポーリングする「追加データベース」の名前を指定します。データベースは、コンマで区切る必要があります。例えば、Admin.nsf, names.nsf, と指定します。データベースは、次々とポーリングされます。「追加データベース」フィールドで指定されたすべてのデータベースは、「Lotus Domino フォームの表示」で構成されたフォームに類似するフォームを保持している必要があります。
 - オプション: 「正規名が含まれるフィールド」は、John Smith/IBM/COUNTRY などの正規名を値(コンマで区切られる)として持つ可能性があるフィールドを受け入れます。これらのフィールドの値をインターネット・メール・アドレス(johnsmith@country.ibm.com など)に変換する場合は、このフィールドに正規の名前を入力します。このようなフィールド名の例として、「宛先」、「送信元」、「CC」、「議長」、「必須参加者」などがあります。

Lotus Domino アクティビティーのマップ出力の指定

1. 「チェックリスト」ペインで「出力のマップ」をクリックします。


Lotus Domino アクティビティーの出力パラメーターが「アクティビティーから」ペインの下に表示されます。

注: アクティビティーの出力パラメーターは、要求に基づいてマップすることができます。

注: Domino 文書内に存在し、マップ入力/出力構造で生成されていない動的に追加されたフィールドは、Domino コネクターによって処理されます。このアクティビティーを使用して文書を取得する際、これらのフィールドのデータは、AdditionalFields の下のマップ出力セクションに提供されます。

親トピック: [Domino アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_insert_inbound_activity.html

「更新済み文書の取得」アクティビティー

「更新済み文書の取得」アクティビティーを使用して、Lotus Domino® サーバーで更新された(関心のある)文書を取得します。このアクティビティーでは、Lotus Domino サーバーのイベント・テーブルを定期的にポーリングして新しいイベントを検出し、それらを処理します。

注: 「更新済み文書の取得」アクティビティーを構成および使用する前に、IBM® Domino サーバーの『[Lotus Domino インバウンド・アクティビティーを使用するための前提条件](#)』を参照してください。

インバウンド Lotus Domino アクティビティのオーケストレーションへの追加

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックして、オーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。
3. 「更新済み文書の取得」アクティビティを「Domino」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
4. 「チェックリスト」ペインに、インバウンド・アクティビティの構成を完了させるために実行しなければならないタスク(要約、エンドポイントの選出、構成、出力のマップ)がリストされます。

Lotus Domino アクティビティの命名または名前変更

1. 「チェックリスト」ペインで「要約」をクリックします。「要約」ペインが表示されます。
 - アクティビティの名前を「アクティビティ名」テキスト・ボックスに指定します。

Lotus Domino アクティビティのエンドポイントの指定

1. 「チェックリスト」ペインで「エンドポイントの選出 (Pick Endpoint)」をクリックします。「エンドポイントの選出」ペインが表示されます。
2. 以下のオプションのいずれかをクリックします。
 - 参照... - 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティのために使用できるプロジェクト内のすべての Lotus Domino エンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティが「エンドポイントの選出 (Pick Endpoint)」ペインに表示されます。エンドポイントのプロパティを編集するには、「編集」をクリックします。
 - 新規作成... - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが表示されます。
 - 編集... - 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが表示されます。

注: 構成プロパティを含め、エンドポイントに対して行うすべての変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルなものです。

Lotus Domino アクティビティのデータベースおよびフォームの指定

1. 「チェックリスト」ペインで「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。
 - 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「Lotus Domino データベースの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「Lotus Domino フォームの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、アクティビティで使用可能なプロジェクト内のすべてのフォームが表示されます。

注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。
 - オプション: 「フォーム」フィールドで選択されたフォームの文書をポーリングする「追加データベース」の名前を指定します。データベースは、コンマで区切る必要があります。例えば、Admin.nsf, names.nsf, と指定します。データベースは、次々とポーリングされます。「追加データベース」フィールドで指定されたすべてのデータベースは、「Lotus Domino フォームの表示」で構成されたフォームに類似するフォームを保持している必要があります。

- オプション: 「正規名が含まれるフィールド」は、John Smith/IBM/COUNTRY などの正規名を値 (コンマで区切られる) として持つ可能性があるフィールドを受け入れます。これらのフィールドの値をインターネット・メール・アドレス (johnsmith@country.ibm.com など) に変換する場合は、このフィールドに正規の名前を入力します。このようなフィールド名の例として、「宛先」、「送信元」、「CC」、「議長」、「必須参加者」などがあります。

Lotus Domino アクティビティーのマップ出力の指定

1. 「チェックリスト」ペインで「出力のマップ」をクリックします。


Lotus Domino アクティビティーの出力パラメーターが「アクティビティーから」ペインの下に表示されます。

注: アクティビティーの出力パラメーターは、要求に基づいてマップすることができます。

注: Domino 文書内に存在し、マップ入力/出力構造で生成されていない動的に追加されたフィールドは、Domino コネクターによって処理されます。このアクティビティーを使用して文書を取得する際、これらのフィールドのデータは、AdditionalFields の下のマップ出力セクションに提供されます。

親トピック: [Domino アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_update_inbound_activity.html

「削除済み文書の取得」アクティビティー

「削除済み文書の取得」アクティビティーを使用して、Lotus Domino® サーバーで削除された (関心のある) 文書を取得します。このアクティビティーでは、Lotus Domino サーバーのイベント・テーブルを定期的にポーリングして新しいイベントを検出し、それらを処理します。

注: 「更新済み文書の取得」アクティビティーを構成および使用する前に、IBM® Domino サーバーの『[Lotus Domino インバウンド・アクティビティーを使用するための前提条件](#)』を参照してください。

インバウンド Lotus Domino アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. 「プロジェクト」ペインで「オーケストレーション」を右クリックし、「新規オーケストレーション」をクリックして、オーケストレーションを作成するか、または開きます。「オーケストレーション」ペインが表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「Domino」フォルダーを展開します。
3. 「削除済み文書の取得」アクティビティーを「Domino」フォルダーからオーケストレーションヘドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
4. 「チェックリスト」ペインに、インバウンド・アクティビティーの構成を完了させるために実行しなければならないタスク (要約、エンドポイントの選出、構成、出力のマップ) がリストされます。

Lotus Domino アクティビティーの命名または名前変更

1. 「チェックリスト」ペインで「要約」をクリックします。「要約」ペインが表示されます。
 - アクティビティーの名前を「アクティビティー名」テキスト・ボックスに指定します。

Lotus Domino アクティビティーのエンドポイントの指定

1. 「チェックリスト」ペインで「エンドポイントの選出 (Pick Endpoint)」をクリックします。「エンドポイントの選出」ペインが表示されます。
2. 以下のオプションのいずれかをクリックします。
 - 参照... - 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべての Lotus Domino エンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出」ペインに表示されます。エンドポイントのプロパティーを編集するには、「編集」をクリックします。
 - 新規作成... - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが表示されます。
 - 編集... - 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが表示されます。

注: 構成プロパティーを含め、エンドポイントに対して行うすべての変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルなものです。

Lotus Domino アクティビティーのデータベースおよびフォームの指定

1. 「チェックリスト」ペインで「構成」をクリックします。「構成」ペインが表示されます。
 - 「参照」をクリックして、既存のデータベースを「Lotus Domino データベースの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino データベースの表示」に、選択したエンドポイントのすべてのデータベースが表示されます。
 - 「次へ」をクリックして、既存のフォームを「Lotus Domino フォームの表示」ペインから選択します。「Lotus Domino フォームの表示」には、アクティビティーで使用可能なプロジェクト内のすべてのフォームが表示されます。

注: 「次へ」ボタンは、データベース名を選択しないと使用可能になりません。
 - オプション: 「フォーム」フィールドで選択されたフォームの文書をポーリングする「追加データベース」の名前を指定します。データベースは、コンマで区切る必要があります。例えば、`Admin.nsf, names.nsf`、と指定します。データベースは、次々とポーリングされます。「追加データベース」フィールドで指定されたすべてのデータベースは、「Lotus Domino フォームの表示」で構成されたフォームに類似するフォームを保持している必要があります。
 - オプション: 「正規名が含まれるフィールド」は、`John Smith/IBM/COUNTRY` などの正規名を値 (コンマで区切られる) として持つ可能性があるフィールドを受け入れます。これらのフィールドの値をインターネット・メール・アドレス (`johnsmith@country.ibm.com` など) に変換する場合は、このフィールドに正規の名前を入力します。このようなフィールド名の例として、「宛先」、「送信元」、「CC」、「議長」、「必須参加者」などがあります。

Lotus Domino アクティビティーのマップ出力の指定


1. 「チェックリスト」ペインで「出力のマップ」をクリックします。

Lotus Domino アクティビティーの出力パラメーターが「アクティビティーから」ペインの下に表示されます。

注: アクティビティの出力パラメーターは、要求に基づいてマップすることができます。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_delete_inbound_activity.html

日時データ型およびタイム・ゾーン・データ型の処理

Lotus Domino フォームでは、日時型のフィールドは、日付のみの値、時刻のみの値、または日付と時刻の両方の値を表すように構成できます。この構成は、Lotus Domino Designer 内でフォームを作成/編集するときに行われます。そのため、このようなフォームの文書が作成された場合、値は日付、時刻、または日時を表すことができます。

例えば、カレンダーを表すフォームに、以下のフィールドがあるとします。

表 1. 例

フィールド	Domino データ型
startDate	日時 (日付のみを表す)
startTime	日時 (時刻のみを表す)
endDate	日時 (日付のみを表す)
endTime	日時 (時刻のみを表す)
bothDateAndTime	日時 (日付と時刻の両方を表す)
timeZone	タイム・ゾーン
件名	テキスト
本文	テキスト

このフォームの有効な文書が作成された場合は、以下のようになります。

- startDate と endDate は、日付の値のみを受け入れます。
- startTime と endTime は、時刻の値のみを受け入れます。
- bothDateAndTime は、日時のみを受け入れます。
- timeZone は、タイム・ゾーンの値のみを受け入れます。

Cast Iron バージョン 6.1.0.9 以降では、日時データ型は、以下の項目で説明されているように処理されます。

1. 日時型の Domino フィールドは、アクティビティの入力のマップおよび出力のマップ内で `xsd:string` として表されます。
2. 入力のマップ内の日時フィールドの入力値でサポートされる構文は、以下の構文のみです。
 - a. フィールドが日付のみを表す場合: MM/dd/yyyy。例: 05/27/2012。
 - b. フィールドが時刻 (24 時間形式) のみを表す場合: HH:mm:ss。例: 22:15:30。


- c. フィールドが日付と時刻 (24 時間形式) の両方を表す場合: MM/dd/yyyy HH:mm:ss。例:
05/31/2012 23:59:59。
- ほとんどの場合、アクティビティーからの出力も、日時フィールドと同じ構文に従います。
 - 上記の構文は、以下の条件とは無関係に、入力のマップおよび出力のマップによって使用されます。
 - Lotus Domino サーバーが実行されているオペレーティング・システムの日時形式。
 - Lotus Domino Designer でフォームを作成するときに構成された日時形式の設定。
 - タイム・ゾーン値も、入力のマップおよび出力のマップ内で `xsd:string` として表されます。構文について詳しくは、Lotus Domino の技術情報 (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21163045>) を参照してください。Lotus Domino のタイム・ゾーンについて詳しくは、Lotus Domino の資料を参照してください。

注:

- Cast Iron 6.1.0.6 バージョン以前のバージョンでは、Domino 日時フィールドは `xsd:date` として生成されていましたが、このデータ型は入力値のすべての組み合わせを処理できませんでした。
- 既に実行中の 6.1.0.6 バージョン以前のバージョンを使用して開発された古いプロジェクトは、従来と同じ動作で正常に機能します。つまり、日時は `xsd:date` として表されます。
- 6.1.0.9 バージョン以降のバージョンを使用して新規作成されたすべてのオーケストレーションでは、日時フィールドは `xsd:string` として生成されます。
- 古いプロジェクトで新しい動作を使用する (つまり、日時を `xsd:string` として生成する) 必要がある場合は、Studio 6.1.0.9 バージョン以降のバージョンのアクティビティーの「構成」パネルからオブジェクトを更新する必要があります。この変更の後でマッピングを検証する必要があります。

親トピック: [Domino アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

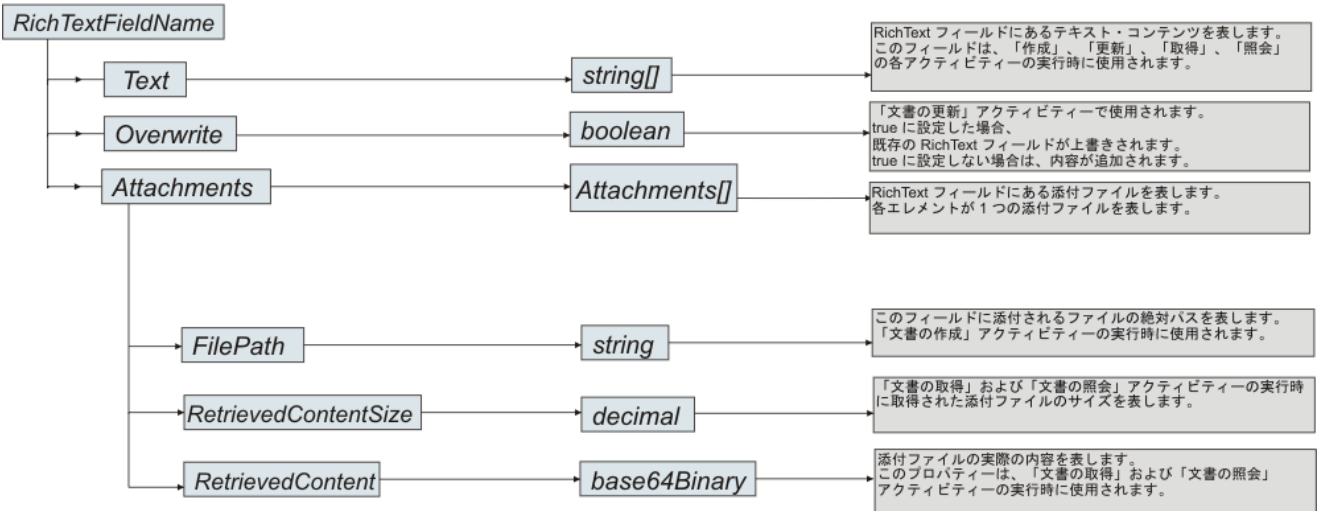
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_behavior_DateTime_TTimezone_datatypes.html

Lotus Domino コネクタでのリッチ・テキスト・サポート

Lotus Domino コネクタは、フォームで RichText タイプをサポートします。RichText タイプのフィールドには、テキストと添付ファイルの両方を文書の一部として格納できます。このコネクタでは、「文書の取得」および「文書の照会」アクティビティーでのみ添付ファイルがサポートされます。テキスト・コンテンツは、「文書の作成」、「文書の更新」、「文書の取得」、「文書の照会」の各アクティビティーで使用できます。

以下の図は、フォームが検出され、マップの入出力が生成されるとき RichText フィールドの構造を説明しています。



親トピック: [Domino アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_RichText.html

トラブルシューティングとサポート

トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。このトピックでは、Domino® コネクタで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

カレンダー・オブジェクトに追加された新規フィールド

Cast Iron® バージョン 6.3.0.2 以降では、Lotus Domino コネクタを使用して、カレンダー・エンタリーの取得および照会に応じて、招待者の詳細、日付/時刻、および会議室の詳細を取得することができます。

静的サブフォームの動作

Lotus Domino コネクタの前のバージョン (v7.0.0.0 より前) では、サブフォーム内のフィールド (メイン・フォームに静的に埋め込まれる) は、それらのフィールドに対して定義されるデータ型に関係なく、「入力のマップ」または「出力のマップ」でストリングとして生成されました。この問題は v7.0.0.0 で修正され、フィールドのデータ型は正しく生成されます。

親トピック: [Domino アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Domino_troubleshooting.html

E メール・アクティビティ

- [E メール・エンドポイントの作成または編集](#)
Studio および統合アプライアンスは、POP3 サーバーまたは SMTP サーバーに接続するために E メール・エンドポイントで 提供される接続情報を使用します。
- [「Eメールの取得」アクティビティ](#)
「Eメールの取得」アクティビティは、スターター・アクティビティです。「Eメールの取得」アクティビティから開始されるオーケストレーションが統合アプライアンスにデプロイされると、統合アプライアンスは指定の間隔で指定のアカウントに対して E メール・メッセージについて POP3 サーバーをポーリングします。
- [「Eメールの送信」アクティビティ](#)
「Eメールの送信」アクティビティが含まれるオーケストレーションは、実行時に E メール・クライアントとして機能します。
- [SSL E メール接続のテスト](#)
E メール・サーバーのエンドポイントを作成したら、E メール・サーバーの CA 証明書を Studio にインポートし、E メール・サーバーへの SSL 接続をテストする必要があります。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_emailactivities.html

E メール・エンドポイントの作成または編集

Studio および統合アプライアンスは、POP3 サーバーまたは SMTP サーバーに接続するために E メール・エンドポイントで 提供される接続情報を使用します。

注: 一部の E メール・システムでは、POP3 サーバーと SMTP サーバーに同じ名前 (例: mail.acmecompany.com など) が使用されていることがあります。

E メール・エンドポイントの作成または編集

1. 「エンドポイントの作成」ペインまたは「エンドポイントの編集」ペインで、以下の表の説明に従ってフィールドを構成します。
注: エンドポイントの構成プロパティを変更すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルとなります。

2. 完了したら、「接続のテスト」をクリックし、POP3 サーバーまたは SMTP サーバーに接続できることを確認します。「Eメールの取得」アクティビティでは、POP3 サーバーへの接続が行われます。「Eメールの送信」アクティビティでは、SMTP サーバーへの接続が行われます。
3. 「OK」をクリックします。

表 1.

フィールド名	説明
ロケーション	
サーバーから E メールを取得	「Eメールの取得」アクティビティ - 「Eメールの取得」アクティビティで 使用される E メール・エンドポイントに対して「サーバーから E メールを取得」オプションが自動的に選択されます。実行時に、「Eメールの取得」アクティビティでは、指定の POP3 サーバーから E メールが取得されます。
サーバーに E メールを送信	「Eメールの送信」アクティビティ - 「Eメールの送信」アクティビティで 使用されるエンドポイントに対して「サーバーに E メールを送信」オプションが自動的に選択されます。実行時に、「Eメールの送信」アクティビティでは、指定の SMTP サーバーに E メールが送信されます。
ホスト名	「Eメールの取得」アクティビティ - POP3 サーバーのホスト名または IP アドレス。 「Eメールの送信」アクティビティ - SMTP サーバーのホスト名または IP アドレス。
ポート	POP3 サーバーまたは SMTP サーバーにアクセスするためのポート番号を指定します。デフォルトでは、POP3 サーバーのポート番号は 110 です。
ログイン	
ユーザー名とパスワードは必須ではありません	「Eメールの取得」アクティビティ - これは、「Eメールの取得」アクティビティのエンドポイントには使用できないオプションです。「Eメールの取得」アクティビティで使用する E メール・エンドポイントには、ユーザー名とパスワードを指定する必要があります。 「Eメールの送信」アクティビティ - ユーザー名とパスワードの代わりに匿名ログインを使用して SMTP サーバーに接続する場合に、このオプションを選択します。SMTP サーバーが匿名ログイン(ユーザー・アカウントが不要)をサポートしている場合にのみ、このオプションを選択してください。


フィールド名	説明
ユーザー名とパスワードを使用してサーバーにログイン (Log In to the Server Using a User Name and Password)	<p>「Eメールの取得」アクティビティ - 「Eメールの取得」アクティビティで 使用される Eメール・エンドポイントに対して、このオプションが自動的に選択されます。ユーザー・アカウントを使用して POP3 サーバーに接続するには、「ユーザー名」フィールドと「パスワード」フィールドに値を入力して、POP3 サーバーへの接続に使用されるアカウントを指定する必要があります。</p> <p>「Eメールの送信」アクティビティ - ユーザー・アカウントを使用して SMTP サーバーに接続するには、このオプションを選択します。このオプションが選択されている場合、SMTP サーバーへの接続に使用されるアカウントについて「ユーザー名」フィールドと「パスワード」フィールドに値を入力する必要があります。</p>
ユーザー名	<p>「Eメールの取得」アクティビティ - POP3 サーバーへの接続に使用されるアカウントのユーザー名を入力します。</p> <p>「Eメールの送信」アクティビティ - SMTP サーバーへの接続に使用されるアカウントのユーザー名を入力します。</p>
パスワード	<p>「Eメールの取得」アクティビティ - POP3 サーバーへの接続に使用されるアカウントのパスワードを入力します。</p> <p>「Eメールの送信」アクティビティ - SMTP サーバーへの接続に使用されるアカウントのパスワードを入力します。</p>
セキュリティ	
通常の Eメール	Eメールが SSL なしで実行されるように指定します。
SSL 経由の Eメール	Eメールが SSL を使用して実行されるように指定します。詳しくは、『 SSL Eメール接続のテスト 』を参照してください。
「暗黙 (Implicit)」または「明示 (Explicit)」	「暗黙 (Implicit)」の場合は、接続が確立されるとすぐに SSL が有効になります。「明示 (Explicit)」の場合は、SSL の使用を要求するコマンドをクライアントがサーバーに発行しなければなりません。
クライアント証明書別名	鍵ストア内の信頼された証明書にアクセスするために使用されるクライアント別名を指定します。サーバーによるクライアント許可に対して使用可能にする必要があります。「クライアント証明書別名」オプションを選択すると、Studio はデフォルトで、「ファクトリー提供の ID」という名前を指定します。このフィールドに指定する別名は、鍵ストアで証明書を作成したときに指定した値と一致しなければなりません。

フィールド名	説明
追加パラメーター	<p>SMTP 処理用の追加パラメーターを指定します。以下の表に、そのパラメーターをリストします。</p> <p>smtpNewConnEveryTime デフォルト: FALSE 説明: 常に新規接続を作成するように指定します。これが true に設定されていると、接続プールは使用されません。</p> <p>smtpPoolMinConnections デフォルト: 1 説明: 接続プール・オプション - 最小接続数</p> <p>smtpPoolMaxConnections デフォルト: 25 説明: 接続プール・オプション - 最大接続数</p> <p>smtpPoolMaxIdleTime デフォルト: 7200 説明: 接続プール・オプション - 最長アイドル時間 (秒)</p> <p>smtpPoolMaxWaitTime デフォルト: 300 説明: 接続プール・オプション - 最長待機時間 (秒)</p> <p>smtpPoolReclaimConnections デフォルト: 60 説明: 接続プール・オプション - 接続再利用時間 (秒)</p>
	<p>「Eメールの取得」を使用する場合、Eメール・サーバーがポーリングとポーリングの間で接続を閉じないようにポーリング頻度を選択します (「GetMail アクティビティ (GetMail activity)」 > 「配信ルール」)。一部の Eメール・サーバーでは、接続が頻繁に開いたり閉じたりされると、アカウントがロックされたり、ログインが許可されなくなったりします。Eメール・プロバイダーの資料を参照して、Eメール・サーバーのプロパティが正しく設定されていることを確認してください。接続プールを使用可能にするには、最初に smtpNewConnEveryTime を FALSE に設定し、次に、必要な接続プール・プロパティを設定します。</p>
接続タイムアウト	

フィールド名	説明
<p>エンドポイントへの接続を確立しているとき、 ___ 秒後にタイムアウトになります。</p>	<p>統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答するまでに要する時間の中で、タイムアウトが発生するまでの秒数を指定します。Eメール・アクティビティーの場合、タイムアウトになる前に統合アプライアンスがSMTPサーバーまたはPOP3サーバーへの接続の確立を試みる時間です。</p> <p>アクティビティー・タイムアウトはエンドポイントへの接続が既に確立された後に発生するため、接続タイムアウトとアクティビティー・タイムアウトは異なります。アクティビティー・タイムアウトは、アクティビティーがエンドポイントで要求を呼び出してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間(秒)を指定します。</p> <p>アクティビティー・タイムアウトは、「Eメールの取得」アクティビティーまたは「Eメールの送信」アクティビティーの「再試行」タスクで設定します。</p>

親トピック: [Eメール・アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/email_create_edit_endpoint.html

「Eメールの取得」アクティビティー

「Eメールの取得」アクティビティーは、スターター・アクティビティーです。「Eメールの取得」アクティビティーから開始されるオーケストレーションが統合アプライアンスにデプロイされると、統合アプライアンスは指定の間隔で指定のアカウントに対してEメール・メッセージについてPOP3サーバーをポーリングします。

注: 「Eメールの取得」アクティビティーを使用するには、POP3サーバーがTOPおよびUIDLコマンドをサポートしている必要があります。これらのコマンドは、POP3プロトコルではオプションになっていますが、たいていのサーバーではサポートされません。

ポーリングされるPOP3サーバーとEメール・アカウントは、「Eメールの取得」アクティビティーに関連付けられたEメール・エンドポイントに定義されています。

次の図に示すように、実行時に、「Eメールの取得」アクティビティーでは、特定のEメール・アカウントの着信Eメール・メッセージについてPOP3サーバーがポーリングされます。

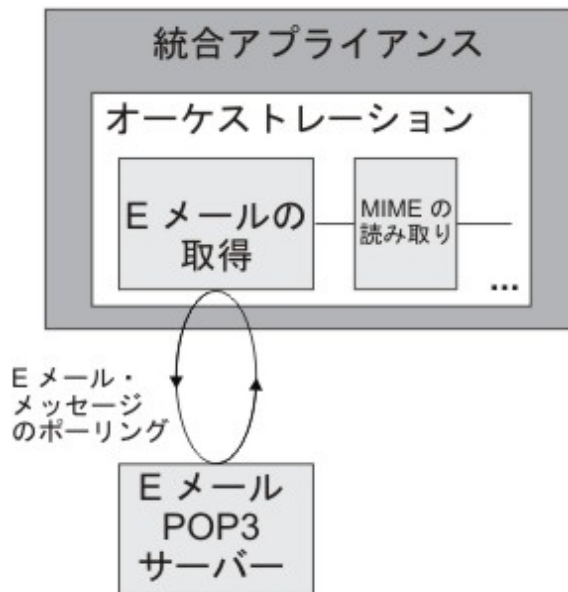


図 1.

Eメール・メッセージが見つかると、Eメール・メッセージごとに次のアクションが実行されます: 「件名」フィールドに対して定義されている正規表現が着信メール・メッセージの件名と照合され、「送信元」フィールドに対して定義されている正規表現が着信メール・メッセージの送信者Eメール・アカウントと照合されます。両方の正規表現が適合すると、Eメールを処理するためにオーケストレーション・ジョブが作成され、POP3サーバーで削除のマークがメールに付けられます。プロセスが完了すると、EメールはPOP3サーバーから削除されます。正規表現の突き合わせについては、[アクティビティの構成](#)の手順を参照してください。

注: 2つの「Eメールの取得」アクティビティを実行した場合、アクティビティの「構成」タスクに指定されている正規表現が異なっていたとしても、同じEメール・アカウントで同時に同じPOP3サーバーからポーリングが行われることはありません。2つの「Eメールの取得」アクティビティで同じEメール・アカウントを使用してEメールを取得しようとする、最初の「Eメールの取得」アクティビティでPOP3サーバーからのEメールが処理されて、そのサーバーからEメールが削除されます。その際、2番目の「Eメールの取得」アクティビティでEメールをPOP3サーバーから取得する試みが繰り返されます。その場合、次の例外がスローされる場合があります。

プロトコル例外: `com.jscape.inet.pop.PopException: TOP 671 0 のエラー: -ERR 要求されたメッセージは現在使用不可です。そのメッセージは削除された可能性があります。(Protocol exception: com.jscape.inet.pop.PopException: Error in TOP 671 0: -ERR The requested message is no longer available; it may have been deleted.)`

Eメール・メッセージ添付ファイルへのアクセス

着信Eメール・メッセージの添付ファイルにアクセスするには、上記の図に示されているように、オーケストレーション内で「Eメールの取得」アクティビティの後に「MIMEの読み取り」アクティビティを追加する必要があります。また、「Eメールの取得」アクティビティの2つの出力パラメーターをオーケストレーション内の変数にマップし、その変数を「MIMEの読み取り」アクティビティの入力パラメーターにマップする必要があります。実行時に、「MIMEの読み取り」アクティビティにより、MIMEヘッダー、とメッセージの本文が読み取られ、メッセージの本文に含まれる添付ファイルが分割され、その結果がparts XML出力パラメーターに配置されます。詳しくは、「MIMEの読み取り」アクティビティを参照してください。

「Eメールの取得」アクティビティのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。

2. 「アクティビティー」タブを選択して、「Eメール」フォルダーを展開します。
3. 「Eメールの取得」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

Eメール・エンドポイントの作成、選択、または編集

1. チェックリストで「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『[アクティビティーの構成](#)』ステップを実行します。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. Eメール・エンドポイントを作成するか、または編集します。詳しくは、『[Eメール・エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 以下の表で説明されているように、このペインにあるすべてのフィールドを構成します。このタスクでは、ポーリング対象のEメール・メッセージの「件名」フィールドおよび「送信元」フィールドと突き合わせるために使用する正規表現を指定します。正規表現は、* (すべてのストリングが適合することを意味する) と同等の場合でも、これらの両方のフィールドに対して指定する必要があります。着信メールが処理されるには、メールの「件名」ストリングと「送信元」ストリングの両方が、それぞれの正規表現に適合しなければなりません。正規表現の各フィールドでは、以下のワイルドカードがサポートされています。
 - * (アスタリスク) - ゼロ個以上の文字を表します
 - ? (疑問符) - ゼロ個または1つの文字を表します

表 1.

フィールド	説明
件名に一致	Eメール・メッセージを処理するためにオーケストレーション・ジョブを開始するEメール・メッセージの件名に適合する正規表現を入力します。この正規表現では、文字とワイルドカードを組み合わせて指定できます。

フ イ ー ル ド	説明
送 信 元 に 一 致	Eメール・メッセージを処理するためにオーケストレーション・ジョブを開始するEメール・メッセージの送信者Eメール・アドレスを定義する正規表現を入力します。この正規表現では、文字とワイルドカードを組み合わせて指定できます。

以下の表に、いくつかの正規表現の例と、その正規表現をサンプル・テキストに突き合わせたときの結果を示します。

表 2.

正規表現	サンプル・テキスト	結果
test	test	一致
test	ttttesttt	一致
test	test	一致
test	ttttesttt	適合しません。正規表現のストリングである test と正確に一致しなければなりません。
test	est	適合しません。正規表現のストリングである test と正確に一致しなければなりません。
?est	test	一致
?est	best	一致
?est	est	一致

配信ルールの指定

- 「チェックリスト」から、「配信ルール」タスクを選択します。「配信ルール」ペインが表示されます。
- 新規Eメール・メッセージについてPOP3サーバーをポーリングするための時間間隔を指定します。
 - メニューから時間の単位(「秒」、「分」、「時間」、または「日」)を選択します。
 - 以下のいずれかの入力オプションを使用して時間を指定します。
 - 「>変更のポーリング頻度」フィールド内をクリックして、新規の値を入力します。
 - 上矢印と下矢印を使用します。

詳しくは、『[ポーリング間隔の動作](#)』を参照してください。

再試行オプションの指定

- 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
- POP3サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表は、POP3サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

表 3.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスが POP3 サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが POP3 サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行します。</p> <p>「Eメールの取得」アクティビティから開始されるオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の POP3 サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスはシステム・ログにエラーを記録し、接続エラー回数をゼロにリセットして、POP3 サーバーへの接続を引き続き確立しようとしています。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、接続エラー回数をゼロにリセットします。そのため、第 5 の接続エラーは、システム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、POP3 サーバーへの接続を引き続き確立しようとしています。</p>

アクティビティの出力のマッピング

- 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。このアクティビティの出力パラメーターが、「アクティビティから」ペインに表示されます。
- このタスクでは、**mailheader** (XML 型) 出力パラメーターおよび **body** (ストリング型) 出力パラメーターを変数にマップします。オーケストレーションを有効にするには、アクティビティの出力パラメーターをマップする必要があります。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。**mailheader** 出力パラメーターには、Eメール・メッセージに関するメタ情報 (メッセージの送信先となる Eメール・アドレスや、メッセージ自体の MIME ヘッダーなど) が含まれます。**body** 出力パラメーターには、Eメール・メッセージの本文、および関連添付ファイルが含まれます。


注意:

本文出力での添付ファイルと本文の順序は、メッセージを送信した Eメール・クライアントおよびメッセージのタイプ (プレーン・テキストなのか HTML なのか) によって異なります。

注: 英語以外のペイロードを使用する場合は、**mailheader**、**mimeHeader**、および **otherheaders** を、オーケストレーション内の「Eメールの取得 (getEmail)」アクティビティにマップし、オーケストレーションから「Eメールの送信 (sendMail)」アクティビティにマップする必要があります。

親トピック: [Eメール・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

「Eメールの送信」アクティビティー

「Eメールの送信」アクティビティーが含まれるオーケストレーションは、実行時にEメール・クライアントとして機能します。

「Eメールの送信」アクティビティーでは、次の図に示すように、SMTPサーバーへの接続が行われ、そのサーバーにメッセージが送信されます。

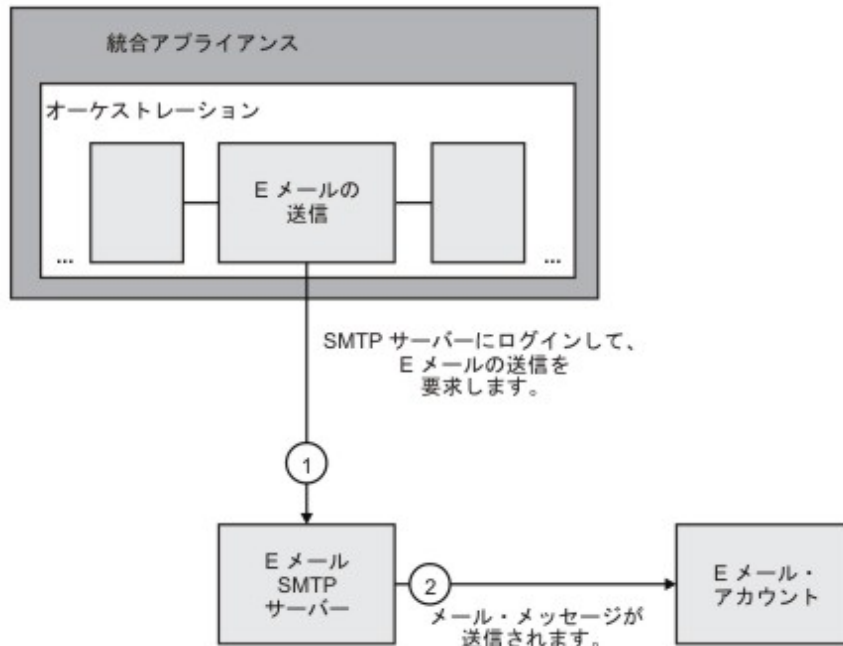


図 1.

「Eメールの送信」アクティビティーを追加して構成するためのステップは、以下の手順で説明されています。

「Eメールの送信」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択して、「Eメール」フォルダーを展開します。
3. 「Eメールの送信」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

Eメール・エンドポイントの作成、選択、または編集

1. チェックリストで「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『[アクティビティーの構成](#)』ステップを実行します。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。

- c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - o. 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. Eメール・エンドポイントを作成するか、または編集します。詳しくは、『Eメール・エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

アクティビティの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 以下の表で説明されているように、このペインにあるすべてのフィールドを構成します。

表 1.

フィールド	説明
送信元アドレス	Eメール・メッセージの送信者アドレスを指定します。標準Eメール形式(email@domain.extension)を使用してEメール・アドレスを指定する必要があります。このフィールドは必須です。
終点	Eメール・メッセージの受信者のアドレスを指定します。標準Eメール形式(email@domain.extension)を使用してEメール・アドレスを指定する必要があります。1つ以上のアドレスを指定できます。アドレスは、コンマまたはセミコロンで区切ります。アドレスは、少なくとも1つは指定しなければなりません。このフィールドは必須です。
CC	Eメール・メッセージのカーボン・コピーのアドレスを指定します。標準Eメール形式(email@domain.extension)を使用してEメール・アドレスを指定する必要があります。1つ以上のアドレスを指定できます。アドレスは、コンマまたはセミコロンで区切ります。このフィールドはオプションです。
件名	Eメール・メッセージの件名を指定します。

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. SMTPサーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表で、SMTPサーバーに接続するための再試行オプションについて説明します。

表 2.

フィールド	説明
再試行	

フィールド	説明
1) 再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスが SMTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが SMTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「Eメールの送信」アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の SMTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

アクティビティの入力のマッピング

- 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。このアクティビティの入力パラメーターが、「アクティビティへ」ペインに表示されます。
- このタスクでは、変数をこのアクティビティの以下の入力パラメーターにマップします。
 - body** 入力パラメーターには、Eメール・メッセージの本文、および関連添付ファイルが含まれます。**body** 入力パラメーターはストリング型です。**body** 入力パラメーターに変数をマップするか、またはデフォルト値を割り当てる必要があります。
 - オプションの **mailheader** 入力パラメーターには、Eメール・メッセージに関するメタ情報（メッセージの送信先となるEメール・アドレスや、メッセージ自体の **mimeHeader** など）が含まれます。**mailheader** 入力パラメーターはオプションであるため、**mailheader** 入力パラメーターに変数をマップしたり、デフォルト値を割り当てたりする必要はありません。

オプションの **mailheader** 入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインにリストされていない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティへ」ペインを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

オプションで、次の表に指定されているノードに変数の値を渡せば、チェックリストの「構成」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。例えば、実行時に、変数を **mailheader** 入力パラメーターの **from** ノードにマップすれば、「送信元アドレス」フィールドの設定をオーバーライドできます。実行時に、その変数の値が、送信されたEメール・メッセージの **from** アドレスになります。

表 3.

mailheader 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される「構成」タスクの設定
from	Eメール・メッセージの送信者アドレスを指定します。標準Eメール形式 (email@domain.extension) を使用してEメール・アドレスを指定する必要があります。	mailheader 入力パラメーターの from ノードは、「構成」タスクに指定されている「送信元アドレス」フィールドを指定変更します。
から	Eメール・メッセージの受信者アドレスを指定します。標準Eメール形式 (email@domain.extension) を使用してEメール・アドレスを指定する必要があります。1つ以上のアドレスを指定できます。アドレスは、コンマまたはセミコロンで区切ります。	mailheader 入力パラメーターの to ノードは、「構成」タスクに指定されている「宛先」フィールドを指定変更します。
cc	Eメール・メッセージのカーボン・コピー・アドレスを指定します。標準Eメール形式 (email@domain.extension) を使用してEメール・アドレスを指定する必要があります。1つ以上のアドレスを指定できます。アドレスは、コンマまたはセミコロンで区切ります。	mailheader 入力パラメーターの cc ノードは、「構成」タスクに指定されている「CC」フィールドを指定変更します。
subject	Eメール・メッセージの件名を指定します。	mailheader 入力パラメーターの subject ノードは、「構成」タスクに指定されている「件名」フィールドを指定変更します。
mimeHeader	Eメール・メッセージの MIME ヘッダーを指定します。	なし。

mailheader 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される「構成」タスクの設定
otherHeaders	<p>mimeHeader ノードにまだ指定されていない名前と値のペアとして MIME ヘッダーのセットが含まれるエレメントを指定します。例えば、MIME ヘッダー Content-Location が MIME ヘッダーに指定されていない場合、以下の headerItem ノードは以下の値に等しくなる可能性があります。</p> <p>otherheaders/headerItem/name は Content-Location に等しくなります。</p> <p>otherHeaders/headerItem/value は Content-Location MIME ヘッダーの値に等しくなります。例えば、ストリング RN-Preamble の複数 MIME ヘッダーを指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。</p>	なし。


注: 「MIME の書き込み」アクティビティーを使用すれば、オプション **mailheader** 入力パラメーターの **mimeHeader** ノードの内容を作成できます。例えば、「Eメールの送信」アクティビティーの前に「MIME の書き込み」アクティビティーをオーケストレーションに追加し、「MIME の書き込み」アクティビティーで **mimeHeader** XML 変数のコンテンツにデータを取り込んで、**mimeHeader** 変数を「Eメールの送信」アクティビティーに渡すことができます。

詳しくは、『[マップの作成](#)』を参照してください。

注: 英語以外のペイロードを使用する場合は、**mailheader**、**mimeHeader**、および **otherheaders** を、オーケストレーション内の「Eメールの取得 (getEmail)」アクティビティーにマップし、オーケストレーションから「メールの送信 (sendMail)」アクティビティーにマップする必要があります。

親トピック: [Eメール・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/email_send_activity.html

SSL Eメール接続のテスト

Eメール・サーバーのエンドポイントを作成したら、Eメール・サーバーのCA証明書をStudioにインポートし、Eメール・サーバーへのSSL接続をテストする必要があります。

このタスクについて


Eメール・サーバーのCA証明書をインポートしてEメール・サーバーへのSSL接続をテストするには、以下の手順を実行します。

手順

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. Eメール・サーバーにナビゲートし、サーバーに保管されている証明書ファイル ca-cert を見つけます。
3. このファイルをコピーして、Studio がインストールされているワークステーションにナビゲートします。
4. コマンド・ウィンドウを使用して、Studio のホーム・ディレクトリー C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere Cast Iron Studio x.x.x に ca-cert のコピーを貼り付けます。
5. Studio のセキュリティー・ディレクトリー C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere Cast Iron Studio x.x.x¥security を参照します。
6. コマンド `..¥jre¥bin¥keytool.exe -import -v -keystore cacerts -storepass changeit -file ..¥castiron_ca_cert.pem -alias alias_name` を実行して、ca-cert ファイルを Studio にインポートします (*alias_name* は、Eメール・サーバーのCA証明書の別名です)。
7. yes または no の入力を求めるプロンプトが出されたら、Y と入力します。
8. コマンド・ウィンドウを終了します。
9. Eメール・サーバーのエンドポイントを開きます。
10. Eメール接続のためのログイン資格情報 (Eメール・サーバー、ポート、ユーザー、およびパスワード) を確認します。
11. 「接続のテスト」をクリックします。
12. 接続が成功したら、Studio オーケストレーションでこのエンドポイントを使用し、「検査」タブの機能でオーケストレーションを評価します。

親トピック: [Eメール・アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Testing_an_Email_Connection.html

Force.com Bulk API アクティビティ

- [Force.com Bulk API コネクター用のデータの準備](#)
Force.com Bulk API コネクターはXMLデータのみをサポートします。したがって、.csvファイルなどのファイルをアップロードする場合は、Force.com Bulk API アクティビティにマップできるXMLスキーマを作成する必要があります。フラット・ファイル・スキーマの作成について詳しくは、Cast Iron Studio の資料の『フラット・ファイル・スキーマ』のセクションに記載されている『フラット・ファイル・スキーマの作成』のトピックを参照してください。

- [Force.com Bulk API エンドポイントの作成](#)
Force.com Bulk API エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Salesforce.com サーバーに接続するために使用する接続情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。
- [Force.com Bulk API アクティビティの再試行オプションの指定](#)
「再試行」パラメーターの指定は、Force.com Bulk API アクティビティを構成するためのタスクの 1 つです。
- [Force.com Bulk API バッチ挿入アクティビティの使用](#)
Salesforce.com に大量のオブジェクトを挿入または作成するには、Force.com Bulk API バッチ挿入アクティビティを使用します。
- [Force.com Bulk API バッチ更新アクティビティの使用](#)
Salesforce.com にある大量のオブジェクトを更新するには、Force.com Bulk API バッチ更新アクティビティを使用します。
- [Force.com Bulk API バッチ Upsert アクティビティの使用](#)
Salesforce.com で大量のオブジェクトを更新および挿入するには、Force.com Bulk API バッチ Upsert アクティビティを使用します。
- [Force.com Bulk API バッチ削除アクティビティの使用](#)
Salesforce.com にある大量のオブジェクトを削除するには、Force.com Bulk API バッチ削除アクティビティを使用します。
- [Force.com Bulk API バッチ状況の取得アクティビティの使用](#)
Salesforce.com のジョブの一部になっている個々のバッチの状況またはすべてのバッチの状況を取得するには、Force.com Bulk API バッチ状況の取得アクティビティを使用します。
- [Force.com Bulk API バッチ結果の取得アクティビティの使用](#)
Salesforce.com でバッチが完了したときにバッチ結果を取得して個々のレコードの状況を検査するには、Force.com Bulk API バッチ結果の取得アクティビティを使用します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_forceBulkAPIactivities.html

Force.com Bulk API コネクタ用のデータの準備

Force.com Bulk API コネクタは XML データのみをサポートします。したがって、.csv ファイルなどのファイルをアップロードする場合は、Force.com Bulk API アクティビティにマップできる XML スキーマを作成する必要があります。フラット・ファイル・スキーマの作成について詳しくは、Cast Iron Studio の資料の『フラット・ファイル・スキーマ』のセクションに記載されている『フラット・ファイル・スキーマの作成』のトピックを参照してください。

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

Force.com Bulk API エンドポイントの作成

Force.com Bulk API エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Salesforce.com サーバーに接続するために使用する接続情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。

このタスクについて

Force.com Bulk API エンドポイントを作成または編集するには、このタスクを使用します。

注:

Force.com Bulk API エンドポイントに対して行う構成プロパティーなどのすべての変更は、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

手順

1. 「アクティビティー」タブの「Force.com Bulk API」フォルダーから「オーケストレーション」ウィンドウにアクティビティーをドラッグします。「要約」パネルが表示されます。
2. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
3. 以下のボタンのいずれかをクリックします。
 - a. 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。
 - b. 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
 - c. 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
4. 次の表に示されたフィールドに入力します。

表 1. 接続の詳細

フィールド名	説明
接続の詳細	
ユーザー名	Salesforce.com サーバーに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	Salesforce.com サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
URI	Salesforce.com インスタンスのホスト URI を指定します。

5. 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、Force.com Bulk API システムに接続できることを確認します。
6. 「OK」をクリックします。

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SFDCBulkAPI_creating_an_endpoint_activity.html

Force.com Bulk API アクティビティの再試行オプションの指定

「再試行」パラメーターの指定は、Force.com Bulk API アクティビティを構成するためのタスクの1つです。

このタスクについて

Force.com Bulk API アクティビティを構成するための再試行オプションを構成するには、このタスクを使用します。Force.com Bulk API コネクタでは、Force.com Bulk API エンドポイントへのすべての接続について単一のログイン・セッションを使用します。セッションの有効期限が切れると、コネクタは自動的に新規セッションを確立します。このコネクタは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクタの標準的な再試行動作と見なします。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、Force.com Bulk API インスタンスに接続するための再試行およびタイムアウト・オプションを構成します。


表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスが Force.com Bulk API インスタンスへの接続を確立しようとするまでの待機秒数を指定します。

再試行フィールド	説明
失敗するまで __ 回の接続を試みません。	<p>再試行回数、つまり統合アプライアンスが Force.com Bulk API インスタンスへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>注: Force.com Bulk API アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の Force.com Bulk API インスタンスに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>
アクティビティ・タイムアウト	
エンドポイントが要求に応答しないと、__ 秒後にタイムアウトになります。	<p>エンドポイントが要求に応答しない場合に、統合アプライアンスがタイムアウトするまでに待機する秒数を指定します。デフォルトは 300 秒です。</p>

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/BulkAPI_Specifying_Retry_Parameters_for_BulkAPI_Activities.html

Force.com Bulk API バッチ挿入アクティビティの使用

Salesforce.com に大量のオブジェクトを挿入または作成するには、Force.com Bulk API バッチ挿入アクティビティを使用します。

このタスクについて

Salesforce.com に大量のオブジェクトを挿入または作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Force.com Bulk API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「バッチ挿入」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Force.com Bulk API バッチ挿入「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Force.com Bulk API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Force.com Bulk API エンドポイントの作成](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Force.com Bulk API の参照 (Browse Force.com Bulk API)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Force.com Bulk API の参照 (Browse Force.com Bulk API)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Force.com Bulk API アクティビティの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「バッチ挿入」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。


17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Force.com Bulk API バッチ挿入アクティビティを構成しました。

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SFDCBulkAPI_batch_insert_activity.html

Force.com Bulk API バッチ更新アクティビティの使用

Salesforce.com にある大量のオブジェクトを更新するには、Force.com Bulk API バッチ更新アクティビティを使用します。

このタスクについて

Salesforce.com にある大量のオブジェクトを更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Force.com Bulk API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「バッチ更新」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Force.com Bulk API バッチ更新「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Force.com Bulk API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Force.com Bulk API エンドポイントの作成](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Force.com Bulk API の参照 (Browse Force.com Bulk API)」ウィンドウが表示されます。


11. 「Force.com Bulk API の参照 (Browse Force.com Bulk API)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Force.com Bulk API アクティビティの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「バッチ更新」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オークストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオークストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Force.com Bulk API バッチ更新アクティビティを構成しました。

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SFDCBulkAPI_batch_update_activity.html

Force.com Bulk API バッチ Upsert アクティビティの使用

Salesforce.com で大量のオブジェクトを更新および挿入するには、Force.com Bulk API バッチ Upsert アクティビティを使用します。

このタスクについて

Salesforce.com で大量のオブジェクトを更新および挿入するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オークストレーションに応答が返信されます。

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Force.com Bulk API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「バッチ Upsert (Batch Upsert)」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Force.com Bulk API バッチ Upsert 「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Force.com Bulk API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Force.com Bulk API エンドポイントの作成](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Force.com Bulk API の参照 (Browse Force.com Bulk API)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Force.com Bulk API の参照 (Browse Force.com Bulk API)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Force.com Bulk API アクティビティーの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「バッチ Upsert (Batch Upsert)」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
注: `externalIDFieldName` は、レコードの更新と挿入のいずれを行う必要があるかを示します。
`externalIDFieldName` に値を指定すると、Salesforce.com のレコードが更新されます。
`externalIDFieldName` に値を設定しないと、Salesforce.com にレコードが挿入されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Force.com Bulk API バッチ Upsert アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SFDCBulkAPI_batch_upsert_activity.html

Force.com Bulk API バッチ削除アクティビティの使用

Salesforce.com にある大量のオブジェクトを削除するには、Force.com Bulk API バッチ削除アクティビティを使用します。

このタスクについて

Salesforce.com にある大量のオブジェクトを削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Force.com Bulk API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「バッチ削除」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Force.com Bulk API バッチ削除「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Force.com Bulk API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Force.com Bulk API エンドポイントの作成](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「バッチ削除」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
注: 削除アクティビティの入力データは、ID およびオブジェクト名のリストです。このオブジェクト名および ID に一致するすべてのオブジェクトが Salesforce.com から削除されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告され

た例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。


11. 「チェックリスト」から「出力のマッピング」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマッピングを作成します。

タスクの結果

Force.com Bulk API バッチ削除アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SFDCBulkAPI_batch_delete_activity.html

Force.com Bulk API バッチ状況の取得アクティビティーの使用

Salesforce.com のジョブの一部になっている個々のバッチの状況またはすべてのバッチの状況を取得するには、Force.com Bulk API バッチ状況の取得アクティビティーを使用します。

このタスクについて

Salesforce.com のジョブの一部になっている個々のバッチの状況またはすべてのバッチの状況を取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Force.com Bulk API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「バッチ状況の取得 (Get Batch Status)」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Force.com Bulk API バッチ状況の取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Force.com Bulk API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Force.com Bulk API エンドポイントの作成](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエン

ドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。


9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「バッチ状況の取得 (Get Batch Status)」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
注: Bulk API アクティビティーは JobInfo を返し、その中に JobId が含まれています。このジョブ ID は、`getBatchStatus` アクティビティーまたは `getBatchResult` アクティビティーの呼び出しに使用できません。
10. オークストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオークストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Force.com Bulk API バッチ状況の取得アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SFDCBulkAPI_getbatchstatus_activity.html

Force.com Bulk API バッチ結果の取得アクティビティーの使用

Salesforce.com でバッチが完了したときにバッチ結果を取得して個々のレコードの状況を検査するには、Force.com Bulk API バッチ結果の取得アクティビティーを使用します。

このタスクについて

Salesforce.com でバッチが完了したときにバッチ結果を取得して個々のレコードの状況を検査するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オークストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオークストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Force.com Bulk API フォルダーのコンテンツを展開します。


2. 「バッチ結果の取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。
Force.com Bulk API バッチ結果の取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Force.com Bulk API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Force.com Bulk API エンドポイントの作成](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「バッチ結果の取得」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
注: Bulk API アクティビティーは JobInfo を返し、その中に JobId が含まれています。このジョブ ID は、`getBatchStatus` アクティビティーまたは `getBatchResult` アクティビティーの呼び出しに使用できません。
10. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Force.com Bulk API バッチ結果の取得アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Force.com Bulk API アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SFDCBulkAPI_getbatchresults_activity.html


FTP アクティビティー

- [FTP エンドポイントの作成または編集](#)
FTP エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが FTP サーバーに接続するために使用する接

続情報を提供します。

- **ディレクトリー・リストの解析の例に合わせた FTP エンドポイントの構成**
環境内でディレクトリー・リストの解析の例を実行するには、ご使用の FTP サーバーをポイントする FTP エンドポイントが使用する構成プロパティーの値を構成します。さらに、FTP サーバーで、フラット・ファイル・スキーマが予期するものと同じ形式のディレクトリー・リストを作成する必要があります。
- **「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」 アクティビティー**
実行時に、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーは FTP サーバーに接続し、指定された場所での指定されたファイルの存在をポーリングします。ファイルの内容を読み取り、内容をオーケストレーションの変数にマッピングした後に、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーによって、ファイルを削除したり、移動させたり、または FTP サーバーのディレクトリー内に残しておいたりできます。
- **「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」 アクティビティー**
実行時に、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーはオーケストレーションの変数からデータを受け取り、そのデータをファイルに入れ、FTP サーバーに接続して、そのファイルを指定したディレクトリー・ロケーションに置きます。
- **「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」 アクティビティー**
実行時に、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティーは FTP サーバーに接続し、指定された場所にある単一のファイルの取得を試行します。「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティーを構成して、ファイルの内容を返してオーケストレーションの変数に入れることができます。さらに、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティーを構成して、FTP サーバーにより返されるファイルのタイム・スタンプを、オーケストレーションの変数に入れることができます。
- **「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」 アクティビティー**
「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーを使用して、実行時に特定のディレクトリーから特定のファイルを削除します。
- **「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」 アクティビティー**
実行時に、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーは FTP サーバーに接続し、指定された正規表現を使用して、指定されたディレクトリーの場所からのファイルのリストを生成します。「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーは、directoryListing または fileListing 出力パラメーターのいずれかを使用して、ファイルのリストをオーケストレーションに返します。
- **「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」 アクティビティー**
「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーは、実行時にファイル名を変更したり、ファイルを別のディレクトリーに移動したりする場合に使用します。
- **ディレクトリー・リストの解析の例**
この例では、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーを使用して FTP ディレクトリーからディレクトリー・リストを取得し、フラット・ファイル・スキーマを使用して長いディレクトリー・リストを解析します。そして各ファイルのプロパティーに基づいて、ファイルのリスト全体を繰り返します。
- **FTPS サーバー接続のテスト**
「テスト接続」が正常に実行された後、プロジェクトを公開する前に、Studio 検査ツールを FTPS オーケストレーションに使用できます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

FTP エンドポイントの作成または編集

FTP エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが FTP サーバーに接続するために使用する接続情報を提供します。

1. 「エンドポイントの作成」 ペインまたは「エンドポイントの編集」 ペインで、以下の表の説明に従ってフィールドを構成します。
注: エンドポイントの構成プロパティを変更すると、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、プロジェクトでそのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。
2. フィールド値の入力が完了したら、「接続のテスト」をクリックして FTP サーバーに接続できることを確認します。
3. 「OK」をクリックします。

表 1.

フィールド名	説明
ロケーション	
ホスト名	FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	指定されたホスト名のポート番号を指定します。デフォルトは 21 (FTP トラフィックの標準ポート) です。SFTP トラフィックのデフォルト・ポートは 22 です。
ログイン	説明
匿名ユーザーとしてサーバーにログイン	このオプションは、「標準 FTP」オプションと同時に使用する場合にのみ使用できます。このオプションは、FTP サーバーが匿名ログイン (ユーザー・アカウントが不要) を許可する場合にのみ選択します。
ユーザー名とパスワードを使用してサーバーにログイン	このオプションは、FTP サーバーにログインするユーザー・アカウントを指定するときに選択します。FTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
セキュリティー	説明
標準 FTP	非セキュア接続の場合は「標準 FTP」オプションを選択します。

フィールド名	説明
セキュア FTP	<p>「セキュア FTP」オプションを選択すると、データは SSH 経由で送受信されて、統合アプライアンスと FTP サーバーの間の通信が保護されます。SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) は、信頼性の高いデータ・ストリームを使用したファイル転送を実現するネットワーク・プロトコルです。</p> <p>注: SFTP の証明書認証はサポートされません。</p>
FTPS	<p>「FTPS」オプションを選択すると、SSL プロトコルを使用して統合アプライアンスと FTP サーバーの間の通信が保護されます。SSL プロトコルでは、認証済みおよび暗号化された接続を使用して、統合アプライアンスと FTP サーバーの間の相互認証をサポートします。以下の認証モードのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 暗黙 • 明示 (SSL) (Explicit (SSL)) - FTP セッションを開始し、SSL セキュリティーを使用してエンドポイントを認証し、転送前にデータを暗号化します。 • 明示 (TLS) (Explicit (TLS)) - FTP セッションを開始し、TLS セキュリティーを使用してエンドポイントを認証し、転送前にデータを暗号化します。 <p>重要: FTPS を使用してプロジェクトをデプロイする前に、証明書を統合アプライアンスにアップロードして登録する必要があります。証明書のアップロードおよび登録について詳しくは、「CLI Command Reference」を参照してください。</p>
クライアント証明書別名	<p>FTPS サーバーがクライアントを認証するように構成されている場合、このオプションを選択して、クライアント証明書別名を指定します。「クライアント証明書別名」オプションを選択すると、Studio はデフォルトで、「ファクトリー提供の ID」という名前を指定します。</p> <p>このフィールドに指定するクライアント証明書別名は、証明書をアップロードまたはインポートしたときに、Cast Iron® コマンド・ライン・インターフェース (CLI) を使用してクライアント証明書名に指定した値と一致する必要があります。CLI で、クライアント証明書名をデフォルトの別名にマップした場合は、Studio が提供するデフォルト名を受け入れて、エンドポイントの接続タイムアウトを構成します。</p>
FTP モード	<p>説明</p> <p>ご使用の FTP サーバーがアクティブ・モード転送をサポートする場合、FTP サーバーおよび統合アプライアンスとの間でのデータの転送にアクティブ・モードを使用するよう Studio に FTP エンドポイントを構成できます。デフォルトでは、FTP エンドポイントはパッシブ・モード転送をサポートします。</p> <p>注: アクティブ・モードは SFTP ではサポートされません。</p>
アクティブ FTP	<p>このオプションは、アクティブ・モードを使用可能に設定するときに選択します。アクティブ・モード・オプションを使用可能に設定すると、着信接続の外部 IP およびポート範囲を指定できます。デフォルトでは、このオプションは選択されず、FTP エンドポイントはパッシブ・モード転送をサポートします。</p>
外部 IP	<p>(オプション) FTP サーバーが接続の試行に回答するクライアント IP アドレスを指定します。</p>
ポート範囲/開始ポート	<p>(オプション) 着信接続に割り当てる、あらかじめ決められた範囲の最小のポート番号を指定します。開始ポート番号を入力する場合、終了ポート番号も入力する必要があります。</p> <p>重要: この番号は、1024 より小さくすることはできません。</p>
ポート範囲/終了ポート	<p>(オプション) 着信接続に割り当てる、あらかじめ決められた範囲の最大のポート番号を指定します。終了ポート番号を入力する場合、開始ポート番号も入力する必要があります。</p> <p>重要: この番号は、65535 より大きくすることはできません。</p>

フィールド名	説明
接続タイムアウト	説明
エンドポイントへの接続を確立しているとき、___秒後にタイムアウトになります。	<p>統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの秒数。FTP アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に FTP サーバーへの接続の確立を試行する時間です。アクティビティー・タイムアウトはエンドポイントへの接続が既に確立された後に発生するため、接続タイムアウトとアクティビティー・タイムアウトは異なります。アクティビティー・タイムアウトは、アクティビティーがエンドポイントで要求を呼び出してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。アクティビティー・タイムアウトは、次の FTP アクティビティーの「再試行」タスクに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティー 「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティー 「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティー 「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティー 「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティー 「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティー

注: エンドポイントの一部のフィールドでは、フィールドに値を指定するための構成プロパティーを定義できます。構成プロパティーをサポートするフィールドをクリックしたときに、同じタイプの構成プロパティーがプロジェクトで既に構成されている場合は、



アイコンが表示されます。

親トピック: [FTP アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ftp_create_edit_endpoint.html

ディレクトリー・リストの解析の例に合わせた FTP エンドポイントの構成

環境内でディレクトリー・リストの解析の例を実行するには、ご使用の FTP サーバーをポイントする FTP エンドポイントが使用する構成プロパティーの値を構成します。さらに、FTP サーバーで、フラット・ファイル・スキーマが予期するものと同じ形式のディレクトリー・リストを作成する必要があります。

このタスクについて

次のステップは、ディレクトリー・リストの解析の例の実行を計画している場合にのみ実行してください。

- [Studio の FTPParseDirListingExample の FTP 構成プロパティーを編集およびテストする](#)

- FTP サーバーのルート・ディレクトリーを構成する
- FTP サーバーがこの例に含まれているフラット・ファイル・スキーマと同じ形式でファイル・リストを生成するかどうかを判別する
- FTPParseDirListingExample を実行する

例を表示してさらに詳しく学習するのみであれば、『ディレクトリー・リストの解析の例』セクションにある手順を実行してください。

Studio の FTPParseDirListingExample の FTP 構成プロパティを編集およびテストするには、以下のようにします。

手順

1. **FTPParseDirListingExample** を開きます。手順については、『ディレクトリー・リストの解析の例』のステップ 1 と 2 を参照してください。
2. ツールバー・メニューから、「プロジェクト」 > 「構成プロパティ」を選択します。「構成プロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. FTP サーバーに反映するプロパティの値を編集します。
4. 「プロジェクト」タブで、FTP エンドポイントをダブルクリックします。「FTP エンドポイント」タブが表示されます。
5. 正しい FTP 情報を入力したことを確認するには、「テスト」をクリックします。Studio が FTP エンドポイントに接続している場合、「通知」ダイアログ・ボックスが表示され、エンドポイントに正常に接続されているというメッセージが示されます。
6. 「プロジェクト」タブで、**processBids** オークストレーションをダブルクリックします。「**processBids**」オークストレーション・タブが表示されます。

次のタスク

FTP サーバーのルート・ディレクトリーを構成するには、以下のようにします。

1. 追加のディレクトリーを FTP サーバーに追加します。FTPServerDirStructure ディレクトリーでも示されているディレクトリー構造をミラーリングします。Studio のインストール時にデフォルトを受け入れた場合、このディレクトリーは以下の場所にあります。C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio 3.X\Samples\FTPParseDirListing\FTPServerDirStructure
実行時に、「ディレクトリー・リストの解析の例」は、以下のディレクトリー構造が入っている FTP サーバーのルート・ディレクトリーを予期します。

```

¥input
¥processFailed
¥processWidgetRUs
¥processAcmeInc
¥processNewCompany

```

2. FTP サーバー上の ¥input ディレクトリーに、bid*.txt ファイルのコピーを移動させます。Studio のインストール時にデフォルトを受け入れた場合、これらのファイルは以下のディレクトリー位置に用意されます。C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio 3.X\Samples\FTPParseDirListing\FTPServerDirStructure¥input
例を実行する前に、以下のファイルのコピーが FTP サーバーの ¥input ディレクトリーに置かれている必要があります。
 - bidAcmeInc.txt
 - bidCrankCo.txt
 - bidWidgetRUs.txt
 - bidBudgetManufacture.txt

- o bidSamAndSons.txt

FTP サーバーがこの例に含まれているフラット・ファイル・スキーマと同じ形式でファイル・リストを生成するかどうかを判別します。

1. **FTPParseDirListingExample** を開きます。手順については、『[ディレクトリー・リストの解析の例](#)』のステップ 1 と 2 を参照してください。
2. 「プロジェクト」タブで、**processBids** オークストレーションをダブルクリックします。
「**processBids**」 オークストレーション・タブが表示されます。
3. 「List Files Full Dir Listing」というラベルが付いている「**FTP ファイルのリスト (FTP List Files)**」 アクティビティをクリックします。
4. 「テスト」をクリックします。
5. ディレクトリー・リストの形式が、以下のディレクトリー・リストと一致しているかどうかを判別します。

```
-rw-r--r-- 1 551      551      65 May  3 11:39 bidAcmeInc.txt
-rw-r--r-- 1 551      551      43 May  3 11:39 bidBudgetManufacture.txt
-rw-r--r-- 1 551      551       0 May  3 11:39 bidCrankCo.txt
-rw-r--r-- 1 551      551      73 May  3 11:39 bidSamAndSons.txt
-rw-r--r-- 1 551      551      33 May  3 11:39 bidWidgetRUs.txt
```

ディレクトリーの形式が異なる場合は、**parseDirListing** というフラット・ファイル・スキーマを変更できます。

注意:

フラット・ファイル・スキーマのノードを変更すると、オークストレーション内の他のエンティティに影響を与える場合があります。これらの変更を反映するために、オークストレーションを更新することが必要になる場合があります。

詳しくは、『[フラット・ファイル・スキーマ・エディターの概要](#)』を参照してください。


この例で使用されているフラット・ファイル・スキーマを「プロジェクト」タブで開くには、Flat File Schema フォルダで **parseDirListing** をダブルクリックします。「**FTP ファイルのリスト**」アクティビティの「テスト」ボタンの出力をコピーしてファイルに貼り付け、そのファイルをフラット・ファイル・スキーマ・エディターの「テスト」タブで開きます。フラット・ファイル・スキーマのノードを変更して、ディレクトリー・リストを反映します。サイズ・ノードは、「**If..Then**」アクティビティの「If size less or equal 0」ブランチにより使用されます。実行時に必ず値がサイズ・ノードに提供されるようにしてください。

FTPParseDirListingExample の実行:

1. Studio から、**FTPParseDirListingExample** プロジェクトを公開します。Studio ツールバーから、「ファイル」>「プロジェクトの公開...」を選択します。
2. Web 管理コンソール (WMC) から、**FTPParseDirListingExample** プロジェクトをデプロイします。詳しくは、WMC オンライン・ヘルプ、または「**Getting Started Guide**」の『**Developing the BookOrder Project**』セクションの『Step 11: Publish and Deploy the Completed Integration Project』を参照してください。

親トピック: [FTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」 アクティビティー

実行時に、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーは FTP サーバーに接続し、指定された場所での指定されたファイルの存在をポーリングします。ファイルの内容を読み取り、内容をオーケストレーションの変数にマッピングした後に、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーによって、ファイルを削除したり、移動させたり、または FTP サーバーのディレクトリー内に残しておいたりできます。

「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーは、スターター・アクティビティーです。「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーから開始されるオーケストレーションが統合アプライアンスにデプロイされると、統合アプライアンスは、FTP サーバー上の特定のディレクトリーに追加するファイルをポーリングします。ファイルが FTP サーバー上で表示されると、オーケストレーション・ジョブがそれらのファイルの処理と、オーケストレーションの残りのアクティビティーを開始します。詳しくは、『[ポーリング間隔の性質](#)』を参照してください。「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーを使用するオーケストレーションの例については、「[Getting Started Guide](#)」を参照してください。

ご使用のアプリケーション要件に応じて、以下のいずれかのメソッドを使用して、FTP ディレクトリー内のファイルのリストを処理できます。

- 場合によっては、FTP ディレクトリー内で検出されたファイルのセットを処理するために、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーしか使用できないこともあります。
- 他の場合には、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーを、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」、および「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーとともに使用する必要があります。

以下の条件が当てはまる場合は、FTP ディレクトリー内で検出されたファイルのセットを処理するために、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーを使用します。

- 「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーが、FTP サーバーのディレクトリー・リストのフォーマットをサポートしている。 - さまざまなオペレーティング・システム上で FTP サーバーがサポートするディレクトリー・リストのフォーマットは、それぞれ異なります。「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーは多くのタイプの FTP サーバーをサポートしますが、FTP サーバーのディレクトリー・リストのフォーマットが「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーで解析できない場合は、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーとフラット・ファイル・スキーマを、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」、および「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーとともに使用することで、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーと同じ機能を提供するようにします。これについてはディレクトリー・リストの解析の例 ([ディレクトリー・リストの解析の例](#)) に示しています。
- リスト内の各ファイルを読み取った後に、リスト内の各ファイルを同じアクションでポストプロセスを実行できる。 - 例えば、FTP ディレクトリーからのファイルのセットの処理時に、リスト内の各ファイルを同じディレクトリーに移動させることができる場合は、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP

Poll Directory) アクティビティを使用してファイルのセットを処理できます。ただし、ファイルのプロパティに基づいて異なるアクションを処理する必要がある場合は、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティを、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」、および「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティとともに使用する必要があります。例えば、ファイルをファイル名に基づいてさまざまなディレクトリーに移動させることが必要な場合は、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティを、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」、および「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティとともに使用します。これについてはディレクトリー・リストの解析の例 ([ディレクトリー・リストの解析の例](#)) に示しています。

シンボリック・リンク

実行時の「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティによるシンボリック・リンクのサポートは、以下の要素に依存しています。

- FTP サーバーをホストするオペレーティング・システムによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。
- FTP サーバーそのものによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。
- 「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。これについては以下の表にリストします。

表 1.

シンボリック・リンクの対象	ハード・シンボリック・リンク	ソフト・シンボリック・リンク	注
ファイル	サポートされない	サポートされない	「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティは、ファイルへのシンボリック・リンクをファイルとは解釈しません。したがって、ファイルへのシンボリック・リンクは、実行時には「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティにより処理されません。
ディレクトリー	サポートされる	サポートされる	

特定のオペレーティング・システムでの特定の FTP サーバーの特定のシンボリック・リンクのサポートを判断するには、オペレーティング・システムおよび FTP サーバーの資料を参照してください。

パーシスタンス

「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティを含むオーケストレーションに対して、パーシスタンスを使用可能にしたいという場合があります。例えば、パーシスタンスを使用不可にして、「FTP でディレクトリーをポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティで「所定位置に保持」オプションを選択してオーケストレーション・ジョブを指定した場合、実行時に、障害が発生してジョブが停止すると、オーケストレーションが再開されたときに、ファイルが再度処理されます。ジョブの状態は失われ、

統合アプライアンスはファイルがすでに処理されたことを認識しません。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。

Microsoft FTP エンドポイントによるサブディレクトリーの処理

Microsoft IIS (インターネット・インフォメーション・サービス) FTP エンドポイントの場合、サブディレクトリーとサブディレクトリー内のファイルを処理する際の「**FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)**」アクティビティーのランタイム動作は、以下のケースで説明するように、アクティビティーの「構成」タスクの「ファイル名」フィールドに指定された正規表現に依存したものになります。

- 正規表現がストリング * と等しい場合、オーケストレーション・ジョブは、指定されたディレクトリー内のサブディレクトリーを処理します。
- 正規表現がストリング *.* と等しい場合、オーケストレーション・ジョブは、指定されたディレクトリー内のサブディレクトリーを処理しません。
- 正規表現が空白である場合、オーケストレーション・ジョブは、指定されたディレクトリー内のサブディレクトリーを処理しません。

「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、FTP フォルダーを展開します。
3. 「ディレクトリーのポーリング」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

FTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. チェックリストで「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。

注意:
元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、「アクティビティーの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更することが必要です。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。

注意:
元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、「アクティビティーの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクト

リー」フィールドの構成ディレクトリーを変更することが必要です。「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。

- 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. FTP エンドポイントを作成するか、または編集します。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 以下の表で説明されているように、このペインにあるすべてのフィールドを構成します。

表 2.

フィールド	説明
ファイル名	<p>FTP サーバーから取得するファイル名を定義するパターンまたは正規表現を指定します。正規表現の処理は、FTP サーバーにより実行されます。詳しくは、正規表現に関する FTP サーバーの資料を参照してください。一般に、FTP サーバーはその正規表現で以下のワイルドカードをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ * - ゼロ個以上の文字 ○ ? - ゼロ個または 1 つの文字 <p>注: 正規表現の処理は FTP サーバー上で実行されるので、大/小文字を区別するかどうかは FTP サーバーにより決定されます。FTP サーバーが大/小文字を区別する場合、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーにより実行されるファイルの突き合わせも、大/小文字を区別します。</p>
ディレクトリー	<p>統合アプライアンスがファイルを探す FTP サーバー上のディレクトリーを指定します。以下のいずれかのオプションを使用して、ディレクトリーを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フィールドをクリックして以下のディレクトリー・パスの 1 つをタイプすることにより、ディレクトリー・パスを直接入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 相対ディレクトリー・パス。例: input。(FTP ホームは、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに構成されていると見なします。詳しくは、『注』を参照してください。) ■ 完全ディレクトリー・パス。例えば UNIX マシンの場合: /home/user/input ○ 「参照…」をクリックして、使用可能なディレクトリーのドロップダウン・リストを取り込みます。ドロップダウン・リストから適切なディレクトリーを選択します。 <p>注: UNIX: UNIX マシン上の FTP サーバーに接続するときに相対ディレクトリー・パスを指定した場合は、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに対して、FTP ホーム・ディレクトリーが /etc/passwd ファイルに正しく指定されていることを確認してください。</p>
テスト	<p>正規表現が「ファイル名」フィールドに指定され、ファイルを探す FTP サーバー上のディレクトリーが「ディレクトリー」フィールドに指定された後に、「テスト」をクリックして、FTP サーバー上の指定されたディレクトリー内のファイルのセットと照らして正規表現をテストします。ダイアログ・ボックスが表示され、一致するファイルがリストされます。</p>

フ イ ー ル ド	説明
タ イ プ	<p>ファイル内容の読み取り方法 (バイナリー・データまたはエンコード済みテキスト) を指定します。「テキスト」オプションを選択した場合は、以下のオプションのいずれかを選択してエンコード・タイプを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「エンコード方式」ドロップダウン・リストから、デフォルト・エンコード・タイプを1つ選択します。 ○ 「エンコード方式」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。 <p>注: 一部の2バイト文字は、SHIFT-JIS エンコードで変換されません。詳しくは、『シフト JIS エンコードの使用』を参照してください。</p>
	<p>注意:</p> <p>FTP エンドポイントとの間でデータを ASCII モードで転送中に、テキスト・データを操作するエンドポイントの FTP サーバーで、テキスト・ファイルを取得および配置する場合、FTP アクティビティに「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを指定する必要があります。例えば、メインフレームと DOS の FTP エンドポイントでは、データを ASCII モードで渡す際に ASCII データを操作します。例えば、ご使用のオーケストレーションが「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティを使用して ASCII ファイルを取得し、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティを使用して ASCII ファイルをメインフレーム FTP サーバーに置く場合は、Studio の以下のタスクでオプションを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「FTP ポーリング・ディレクトリー」アクティビティの「構成」タスクでは、「タイプ」フィールドで「テキスト」オプションを選択します。 ○ 「FTP ポーリング・ディレクトリー」アクティビティの「配信ルール」タスクでは、「ファイル転送タイプ」フィールドで「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを選択します。 ○ 「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティの「構成」タスクでは、「タイプ」フィールドで「テキスト」オプションを選択します。 ○ 「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティの「配信ルール」タスクでは、「ファイル転送タイプ」フィールドで「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを選択します。
フ ア イ ル の 読 み 取 り 後	<p>「削除」 - ファイルが読み取られた後にファイルを削除します。</p> <p>「ディレクトリーに移動」 - ファイルの読み取り後に、指定されたディレクトリーにファイルを移動させます。</p> <p>実行時にファイルの移動先にするディレクトリーを、以下のオプションのいずれか1つを使用して指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フィールドをクリックして以下のディレクトリー・パスの1つをタイプすることにより、ディレクトリー・パスを直接入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 相対ディレクトリー・パス。例: input/ (FTP ホームは、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに構成されていると見なします。詳しくは、『注』を参照してください。) ■ 完全ディレクトリー・パス。例えば UNIX マシンの場合: /home/user/input/ ○ 「参照…」をクリックして、使用可能なディレクトリーのドロップダウン・リストを取り込みます。ドロップダウン・リストから適切なディレクトリーを選択します。

ファイルド	説明
	<p>重要: リストの最後のディレクトリー名の後に、ディレクトリー分離文字を指定します。例えば、ファイルを相対パスの processed/acme ディレクトリーに移動させるには、「ディレクトリーに移動」フィールドに、ディレクトリー processed/acme/ と指定します。</p> <p>「オプション」- 名前が変更された後のファイル名の形式を指定します。「パターン」ドロップダウン・リストから、希望するパターンを選択します。ファイル名でサブフィールドを分離するために使用する文字を指定するには、「パターン分離文字」フィールドに文字を入力します。同じファイル名を持つファイルが存在する場合のランタイム動作を、以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ名前を持つファイルが既に存在している場合に、既存のファイルを上書きすることを指定するには、「上書き」チェック・ボックスを選択します。 ○ 同じ名前を持つファイルが既に存在している場合に、既存のファイルを上書きしないことを指定するには、「上書き」チェック・ボックスをクリアします。 <p>注: 実行時に「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーが最初にポーリングする際に、指定された移動先ディレクトリーが存在していないために、アクティビティーがファイルを移動させることができない場合は、警告 (エラーではない) が Web 管理コンソール (WMC) のログに記録され、ファイルは元の位置から移動しません。後続のすべてのポーリングで、このアクティビティーはその同じファイルを移動させようとはせず、ファイルが既に処理済みであることを示す情報レベル・メッセージが WMC のログに記録されます。</p> <p>「所定位置に保持」- ファイルの読み取り後にも、ファイルは入力ディレクトリーに保持されたままになります。</p>
拡張オプション	説明
リスト・サイズの複写	<p>FTP サーバー上のファイルのポーリング状況を追跡するために、統合アプライアンスが使用する内部リストのサイズ。デフォルト値は 10000 です。このデフォルトよりも大きいサイズしか指定できません。</p>

配信ルールの指定

1. 「チェックリスト」から、「配信ルール」タスクを選択します。「配信ルール」ペインが表示されます。
2. FTP サーバー上のファイルをポーリングする時間間隔を、以下のように指定します。

- a. ドロップダウン・メニューから時間の単位(「秒」、「分」、「時間」、または「日」)を選択します。
- b. 「ポーリング間隔」フィールドをクリックし、値を入力するかまたは上下の矢印を使用して、時間の長さを指定します。

詳しくは、『[ポーリング間隔の動作](#)』を参照してください。

3. FTP エンドポイントに対してセキュリティーが有効でない場合は、「配信ルール」タスクでは、「テキストとして転送 (ASCII)」および「バイナリーとして転送 (BINARY)」オプションが使用可能になります。FTP エンドポイントでセキュリティーが有効になっている場合は、ファイル転送のタイプは常にバイナリーです。

統合アプライアンスと FTP サーバー間のファイル転送のタイプを、次のオプションから 1 つ選択します。

- 「テキストとして転送 (ASCII)」 - ファイル内の各文字の 7 ビットのみが、FTP サーバーから統合アプライアンスに転送されます。このオプションは、HTML ファイルやテキスト・ファイルなどの ASCII ファイルの転送に使用します。警告: バイナリー・ファイルでこのオプションを使用すると、データが失われることがあります。
- 「バイナリーとして転送 (BINARY)」 - ファイル内の各バイトの 8 ビットすべてが、FTP サーバーから統合アプライアンスに転送されます。このオプションはバイナリー・ファイルの転送に使用されます。

注: 「配信ルール」タスクで転送モードを設定することは、FTP サーバーのコマンド・ライン・セッションから以下のコマンドで転送モードを設定することと同じです。

- ascii
- binary

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. FTP サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表は、FTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

表 3.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに一秒待機します。	統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。

フィールド	説明
2) 失敗するまで __回の 接続を 試みま す。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行します。「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティから開始されるオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の FTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスはシステム・ログにエラーを記録し、接続エラー回数をゼロにリセットして、FTP サーバーへの接続を引き続き確立しようとします。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、接続エラー回数をゼロにリセットします。そのため、第 5 の接続エラーは、システム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、FTP サーバーへの接続を引き続き確立しようとします。</p>

アクティビティの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「出力のマッピング」タスクを選択します。このアクティビティの出力パラメーターが、以下の表にリストするとおり、「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 4.

出力パラメーター	説明
file name	FTP サーバー上で検出されたファイルの名前を示します。
data	ファイルの内容を示します。
timestamp	XML スキーマ dataType 形式のストリングで日時を示します (形式は YYYY-MM-DDhh:mm:ss です。ここで YY は年、MM は月、DD は日、hh は時、mm は分、および ss は秒です)。 注: timestamp 出力パラメーターは「出力のマッピング」タスクにマップされるが、MDTM (ファイルの変更時刻を返す) 機能が使用不可であるか、または FTP サーバーには無効である場合、実行時にはこのエラーが原因でオーケストレーションは処理を停止します。警告が生成され、エポック日付 (1970/1/1) が timestamp 出力パラメーターに返されます。

2. アクティビティの出力パラメーターをマップする必要はありません。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [FTP アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ftp_poll_directory_activity.html

「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」 アクティビティー

実行時に、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーはオーケストレーションの変数からデータを受け取り、そのデータをファイルに入れ、FTP サーバーに接続して、そのファイルを指定したディレクトリー・ロケーションに置きます。

「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーの使用例については、「Getting Started Guide」を参照してください。

転送の中断

「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーで実行時に行うファイル転送は非トランザクションであり、したがって保証がありません。例えば、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーが統合アプライアンスから FTP サーバーにファイルを転送し、そのファイル転送が統合アプライアンスのレポートのために中断された場合には、ファイル全体の転送が保証されません。

シンボリック・リンク

「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーは、ディレクトリーへのシンボリック・リンクをサポートしています (FTP サーバーをホストするオペレーティング・システムがディレクトリーへのシンボリック・リンクをサポートし、FTP サーバー自体がディレクトリーへのシンボリック・リンクをサポートしている場合)。特定のオペレーティング・システムでの特定の FTP サーバーの特定のシンボリック・リンクのサポートを判断するには、オペレーティング・システムおよび FTP サーバーの資料を参照してください。

「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、FTP フォルダーを展開します。
3. 「ファイルの書き込み」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

FTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。

重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。最初に

指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、『アクティビティーの構成』手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更する必要があります。

- b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - o 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。

重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、『アクティビティーの構成』手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更することが必要です。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - o 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. FTP エンドポイントを作成するか、または編集します。FTP エンドポイントの作成または編集

配信ルールの指定

1. 「チェックリスト」から、「配信ルール」タスクを選択します。「配信ルール」ペインが表示されます。FTP エンドポイントでセキュリティーが有効になっていない場合は、「テキストとして転送 (ASCII)」オプションと「バイナリーとして転送 (BINARY)」オプションが使用可能になっています。FTP エンドポイントでセキュリティーが有効になっている場合は、ファイル転送のタイプは常にバイナリーです。
2. 統合アプライアンスと FTP サーバー間のファイル転送のタイプを、次のオプションから 1 つ選択します。
 - o テキストとして転送 (ASCII) - このオプションは、HTML、XML、その他のテキスト・ファイルなどのファイルの転送に使用します。行の末尾は必要に応じて変換され、その他のテキスト・ファイル規則が適用されます。

注意:
バイナリー・ファイルでこのオプションを使用すると、データが失われることがあります。
 - o バイナリーとして転送 (BINARY) - このオプションは、バイナリー・ファイルの転送に使用します。このオプションを使用すると、統合アプライアンスはデータを変換しないで転送します。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 以下の表で説明されているように、このペインにあるフィールドを構成します。

表 1.

フィールド	説明
保存	
ファイル名	このフィールドはこのアクティビティーには使用されません。出力ファイルの名前は、「入力のマップ」タスクの filename 入力パラメーターで指定します。

フィールド	説明
ディレクトリー	<p>統合アプライアンスがこのアクティビティーで生成されたファイルを置く、FTP サーバーのディレクトリーを指定します。以下のいずれかのオプションを使用して、ディレクトリーを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フィールドをクリックして以下のディレクトリー・パスの1つをタイプすることにより、ディレクトリー・パスを直接入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 相対ディレクトリー・パス。例: /output (FTP ホームは、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに構成されていると見なします。詳しくは、『注』を参照してください。) ■ 完全ディレクトリー・パス。例えば UNIX マシンの場合: /home/user/output ○ 「参照...」をクリックして、使用可能なディレクトリーのドロップダウン・リストを取り込みます。ドロップダウン・リストから適切なディレクトリーを選択します。 <p>注: UNIX: UNIX マシン上で FTP サーバーに接続するときに相対ディレクトリー・パスを指定する場合は、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントについて、FTP ホーム・ディレクトリーが /etc/password ファイルに正しく指定されていることを確認してください。</p>
タイプ	<p>ファイル内容の読み取り方法 (バイナリー・データまたはエンコード済みテキスト) を指定します。「テキスト」オプションを選択した場合は、以下のオプションのいずれかを選択してエンコード・タイプを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「エンコード方式」ドロップダウン・リストから、デフォルト・エンコード・タイプを1つ選択します。 ○ 「エンコード方式」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。 <p>注: 一部の2バイト文字は、SHIFT-JIS エンコードで変換されません。詳しくは、『シフト JIS エンコードの使用』を参照してください。</p>

フィールド	説明
	<p>重要: FTP エンドポイントとの間でデータを ASCII モードで転送中に、テキスト・データを操作するエンドポイントの FTP サーバーでテキスト・ファイルを取得および配置する場合は、FTP アクティビティに「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを指定する必要があります。例えば、メインフレームと DOS の FTP エンドポイントでは、データを ASCII モードで渡す際に ASCII データを操作します。</p> <p>例えば、ご使用のオーケストレーションが「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティを使用して ASCII ファイルを取得し、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティを使用して ASCII ファイルをメインフレーム FTP サーバーに置く場合は、Studio の以下のタスクでオプションを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「FTP ポーリング・ディレクトリー」アクティビティの「構成」タスクでは、「タイプ」フィールドで「テキスト」オプションを選択します。 ○ 「FTP ポーリング・ディレクトリー」アクティビティの「配信ルール」タスクでは、「ファイル転送タイプ」フィールドで「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを選択します。 ○ 「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティの「構成」タスクでは、「タイプ」フィールドで「テキスト」オプションを選択します。 ○ 「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティの「配信ルール」タスクでは、「ファイル転送タイプ」フィールドで「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを選択します。
<p>オプション - 指定した出力ディレクトリーに同じ名前のファイルが既に存在する場合の動作を定義するには、以下のオプションのいずれかを選択します。</p>	
<p>重複する名前が見つかった場合は既存のファイルを上書きします</p>	<p>ファイルが既に存在する場合にこのオプションを指定すると、元のファイルの内容が破棄され、アクティビティから返される新しいデータで置き換えられます。</p>
<p>既存のファイルに追加します</p>	<p>ファイルが既に存在する場合にこのオプションを指定すると、ファイルの元データを保持したまま、新しいデータ (アクティビティから返されるデータ) をファイルの末尾に追加します。</p>

フィールド	説明
重複する名前を持つファイルが見つかった場合はエラーにします	<p>ファイルが既に存在する場合にこのオプションを指定すると、ファイルの元データを保持してエラーをスローし、アクティビティから返される新しいデータに対しては何も実行しません。</p> <p>注: このオプションを選択すると、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティは、ファイルをアップロードする前にサーバー上にファイルが存在するかどうかを検査します。ユーザーは、特定の FTP サーバーに対して、アップロードする前にファイルが存在するかどうかを検査する許可を持っていないことがあります。これをブラインド FTP と呼ぶこともあります。このような場合は、「重複する名前を持つファイルが見つかった場合はエラーにします」オプションを選択していても、ファイルが上書きされます。</p>

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. FTP サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表で、FTP サーバーに接続するための再試行オプションについて説明します。

表 2.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに ___ 秒待機します。	統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。
2) 失敗するまで ___ 回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の FTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまで、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスがシステムおよびオーケストレーションのログにエラーを記録し、現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、1 回目、2 回目、3 回目の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

アクティビティの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。このアクティビティの入力パラメーターが、「アクティビティへ」ペインに表示されます。
2. アクティビティの入力パラメーターをすべてマップする必要はありません。必須なのは以下のパラメーターです。

- filename
- データ

他のパラメーターはすべてオプションです。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。

次の表にリストされている入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインに表示されない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

オプションで、次の表に定義されている入力パラメーターを使用して、チェックリストの「構成」および「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。

例えば、統合アプライアンスがこのアクティビティーで生成されたファイルを置く FTP サーバー上のディレクトリは、「構成」タスクで output というディレクトリに設定できます。実行時に、directory 入力パラメーターを使用してディレクトリ名 outputXML をアクティビティーに渡すことができます。実行時に動的に指定されるディレクトリ名が、「構成」ペインで指定された元の設定を指定変更します。この例では、ファイルは outputXML ディレクトリに入れられます。

表 3.


入力パラメーターの名前/ノード	説明	タスクで設定を指定変更するかどうか
directory	統合アプライアンスがこのアクティビティーで生成されたファイルを置く、FTP サーバーのディレクトリを指定します。	directory 入力パラメーターは、「構成」タスクの「ディレクトリ」フィールドを指定変更します。
encoding	出力データをファイルに書き出す方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> エンコードが不要な場合は、<code>binary</code> を指定します。 エンコードが必要な場合は、出力データのエンコードに使用するエンコード・タイプ (<code>UTF-8</code>、<code>US-ASCII</code>、<code>ISO_8859-1</code>、<code>EBCDIC-US</code>、<code>SHIFT-JIS</code> など) を指定します。 	encoding 入力パラメーターは、「構成」タスクの「タイプ」フィールドで指定したエンコードをオーバーライドしますが、「構成」タスクの「タイプ」フィールドで「バイナリー」オプションが選択されていると、encoding 入力パラメーターで指定したエンコードは無視されます。

ove rwr ite	<p>指定した出力ディレクトリーに同じ名前のファイルが既に存在する場合の動作を指定します。次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • y - ファイルが既に存在する場合にこのオプションを指定すると、元のファイルの内容が破棄され、アクティビティーから返される新しいデータで置き換えられます。 • a - ファイルが既に存在する場合にこのオプションを指定すると、ファイルの元データを保持したまま、新しいデータ(アクティビティーから返されるデータ)をファイルの末尾に追加します。 • n - ファイルが既に存在する場合にこのオプションを指定すると、ファイルの元データを保持し、アクティビティーから返される新しいデータに対しては何も実行しません。 	<p>overwrite 入力パラメーターは、「構成」タスクの「オプション」フィールドを指定変更します。</p>
接 続/ タ イ ム ア ウ ト	<p>接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答するまでに要する時間で、タイムアウトが発生するまでの秒数を指定します。「FTP ファイルの書き込み(FTP Put File)」アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に FTP サーバーへの接続の確立を試行していた時間です。</p>	<p>接続入力パラメーターのタイムアウト・ノードは、FTP エンドポイントの「接続タイムアウト - エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります」フィールドを指定変更します。</p>
接 続/ ホ ス ト	<p>FTP サーバーのホスト名またはIP アドレスを指定します。</p>	<p>接続入力パラメーターのホスト・ノードは、FTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。</p>
接 続/ ポ ー ト	<p>指定されたホスト名のポート番号を指定します。FTP トラフィックの標準ポートは 21 です。SFTP トラフィックのデフォルト・ポートは 22 です。</p>	<p>接続入力パラメーターのポート・ノードは、FTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。</p>
接 続/ ユ ー ザ ー 名	<p>FTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。</p>	<p>接続入力パラメーターのユーザー名ノードは、FTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。</p>

接続/ パスワード	FTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	接続入力パラメーターのパスワード・ノードは、FTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。
--------------	--	---

親トピック: [FTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ftp_put_file_activity.html

「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」 アクティビティ

実行時に、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティは FTP サーバーに接続し、指定された場所にある単一のファイルの取得を試行します。「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティを構成して、ファイルの内容を返してオーケストレーションの変数に入れることができます。さらに、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティを構成して、FTP サーバーにより返されるファイルのタイム・スタンプを、オーケストレーションの変数に入れることができます。

「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティは、以下の点で「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティとは異なります。

- 「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティは、指定されたディレクトリー内のファイルをポーリングしません。その代わりに、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティは、ファイルを一回だけ検査します。ファイルが見つからない場合は、エラーをスローして、オーケストレーション・ジョブは処理を続行します。
- 「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティは、スターター・アクティビティではないため、オーケストレーションの最初のアクティビティにすることはできません。
- 「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティは、FTP サーバー上でファイルを移動させたり削除したりしません。

シンボリック・リンク

実行時の「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティによるシンボリック・リンクのサポートは、以下の要素に依存しています。

- FTP サーバーをホストするオペレーティング・システムによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。
- FTP サーバーそのものによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。
- 「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。これについては以下の表にリストします。

表 1.

シンボリック・リンクの対象	ハード・シンボリック・リンク	ソフト・シンボリック・リンク	注
ファイル	サポートされない	サポートされない	「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティは、ファイルへのシンボリック・リンクをファイルとは解釈しません。したがって、ファイルへのシンボリック・リンクは、実行時には「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティにより処理されません。
ディレクトリ	サポートされる	サポートされる	

特定のオペレーティング・システムでの特定の FTP サーバーの特定のシンボリック・リンクのサポートを判断するには、オペレーティング・システムおよび FTP サーバーの資料を参照してください。

「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、FTP フォルダを展開します。
3. 「ファイルの取得」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティを選択します。チェックリストが表示されます。

FTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリ構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリ構造に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、『アクティビティの構成』手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリ」フィールドの構成ディレクトリを変更する必要があります。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリ構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリ構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、「アクティビティの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリ」フィールドの構成ディレクトリを変更することが必要です。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。

2. FTP エンドポイントを作成するか、または編集します。FTP エンドポイントの作成または編集

配信ルールの指定

1. 「チェックリスト」から、「配信ルール」タスクを選択します。「配信ルール」ペインが表示されます。FTP エンドポイントでセキュリティーが有効になっていない場合は、「テキストとして転送 (ASCII)」オプションと「バイナリーとして転送 (BINARY)」オプションが使用可能になっています。FTP エンドポイントでセキュリティーが有効になっている場合は、ファイル転送のタイプは常にバイナリーです。
2. 統合アプライアンスと FTP サーバー間のファイル転送のタイプを、次のオプションから 1 つ選択します。

- テキストとして転送 (ASCII) - 統合アプライアンスから FTP サーバーに転送されるのは、ファイル内の各文字の 7 ビットだけです。このオプションは、HTML ファイルやテキスト・ファイルなどの ASCII ファイルの転送に使用します。

注意:

バイナリー・ファイルでこのオプションを使用すると、データが失われることがあります。

- バイナリーとして転送 (BINARY) - ファイル内の各バイトの 8 ビットすべてが、統合アプライアンスによって FTP サーバーに転送されます。このオプションは、バイナリー・ファイルの転送に使用します。

注: 「配信ルール」タスクで転送モードを設定することは、FTP サーバーのコマンド・ライン・セッションから以下のコマンドで転送モードを設定することと同じです。

- ascii
- binary

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 以下の表で説明されているように、このペインにあるすべてのフィールドを構成します。

表 2.

フィールド	説明
ファイル名	このフィールドはこのアクティビティーには使用されません。出力ファイルの名前は、「入力のマップ」タスクの filename 入力パラメーターで指定します。

フ イ ー ル ド	説明
元 の デ ィ レ ク ト リ ー	<p>統合アプライアンスがこのアクティビティーで生成されたファイルを置く、FTP サーバーのディレクトリーを指定します。以下のいずれかのオプションを使用して、ディレクトリーを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フィールドをクリックして以下のディレクトリー・パスの1つをタイプすることにより、ディレクトリー・パスを直接入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 相対ディレクトリー・パス。例: /output (FTP ホームは、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに構成されていると見なします。詳しくは、『注』を参照してください。) ■ 完全ディレクトリー・パス。例えば UNIX マシンの場合: /home/user/output ○ 「参照...」をクリックして、使用可能なディレクトリーのドロップダウン・リストを取り込みます。ドロップダウン・リストから適切なディレクトリーを選択します。 <p>注: UNIX: UNIX マシン上の FTP サーバーに接続するとき相対ディレクトリー・パスを指定した場合は、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに対して、FTP ホーム・ディレクトリーが /etc/password ファイルに正しく指定されていることを確認してください。</p>
タ イ プ	<p>ファイル内容の読み取り方法 (バイナリー・データまたはエンコード済みテキスト) を指定します。「テキスト」オプションを選択した場合は、以下のオプションのいずれかを選択してエンコード・タイプを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「エンコード方式」ドロップダウン・リストから、デフォルト・エンコード・タイプを1つ選択します。 ○ 「エンコード方式」フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。
	<p>重要: FTP エンドポイントとの間でデータを ASCII モードで転送中に、テキスト・データを操作するエンドポイントの FTP サーバーでテキスト・ファイルを取得および配置する場合は、FTP アクティビティーに「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを指定する必要があります。例えば、メインフレームと DOS の FTP エンドポイントでは、データを ASCII モードで渡す際に ASCII データを操作します。</p> <p>例えば、ご使用のオーケストレーションが「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーを使用して ASCII ファイルを取得し、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーを使用して ASCII ファイルをメインフレーム FTP サーバーに置く場合は、Studio の以下のタスクでオプションを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「FTP ポーリング・ディレクトリー」アクティビティーの「構成」タスクでは、「タイプ」フィールドで「テキスト」オプションを選択します。 ○ 「FTP ポーリング・ディレクトリー」アクティビティーの「配信ルール」タスクでは、「ファイル転送タイプ」フィールドで「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを選択します。 ○ 「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーの「構成」タスクでは、「タイプ」フィールドで「テキスト」オプションを選択します。 ○ 「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティーの「配信ルール」タスクでは、「ファイル転送タイプ」フィールドで「テキストとして転送 (ASCII)」オプションを選択します。

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. FTP サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表は、FTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

表 3.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに ___ 秒待機します。	統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。
2) 失敗するまで ___ 回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の FTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスがシステムおよびオーケストレーションのログにエラーを記録し、現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

アクティビティへの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。このアクティビティの入力パラメーターが、「アクティビティへ」ペインに表示されます。
2. filename パラメーターは、このアクティビティで値を指定する必要がある唯一のパラメーターです。他のパラメーターはすべてオプションです。filename パラメーターは、FTP サーバーから取得するファイルの名前を指定します。filename パラメーターへの値の指定は、filename 入力パラメーターから変数へのリンクを作成するか、または filename 入力パラメーターのデフォルト値を定義するかのいずれかによって行います。

次の表にリストされているオプション入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインに表示されない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

オプションで、次の表に定義されている入力パラメーターを使用して、チェックリストの「構成」および「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。

例えば、統合アプライアンスがファイルを取得する FTP サーバー上のディレクトリーは、「構成」タスクで input と呼ばれるディレクトリーに設定できます。実行時に、directory 入力パラメーターを使用し

て、ディレクトリー名 inputXML をアクティビティーに渡すことができます。実行時に動的に指定されるディレクトリー名が、「構成」ペインで指定された元の設定を指定変更します。この例では、統合アプライアンスはファイルを inputXML ディレクトリーから取得しようとしています。

表 4.

入力パラメーターの名前/ノード	説明	タスクで設定を指定変更するかどうか
directory	統合アプライアンスがこのアクティビティーで生成されたファイルを置く、FTP サーバーのディレクトリーを指定します。	directory 入力パラメーターは、「構成」タスクの「元のディレクトリー」フィールドを指定変更します。
encoding	出力データをファイルに書き出す方法を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> エンコードが不要な場合は、ストリング <code>binary</code> を指定します。 エンコードが必要な場合は、出力データのエンコードに使用するエンコード・タイプ (UTF-8、US-ASCII、ISO_8859-1、EBCDIC-US、SHIFT-JIS など) を指定します。 	encoding 入力パラメーターは、「構成」タスクの「タイプ」フィールドで指定したエンコードをオーバーライドしますが、「構成」タスクの「タイプ」フィールドで「バイナリー」オプションが選択されていると、encoding 入力パラメーターで指定したエンコードは無視されます。
接続/タイムアウト	接続タイムアウト、つまり統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの秒数を指定します。「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に FTP サーバーへの接続の確立を試行していた時間です。	接続入力パラメーターのタイムアウト・ノードは、FTP エンドポイントの「接続タイムアウト - エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります」フィールドを指定変更します。
接続/ホスト	FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	接続入力パラメーターのホスト・ノードは、FTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。

接続/ ポート	指定されたホスト名のポート番号を指定します。FTPトラフィックの標準ポートは21です。SFTPトラフィックのデフォルト・ポートは22です。	接続入力パラメーターのポート・ノードは、FTPエンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
接続/ ユーザー名	FTPサーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	接続入力パラメーターのユーザー名ノードは、FTPエンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
接続/ パスワード	FTPサーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	接続入力パラメーターのパスワード・ノードは、FTPエンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

アクティビティの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「出力のマッピング」タスクを選択します。このアクティビティの出力パラメーターが、以下の表で説明するとおり、「アクティビティから」ペインに表示されます。


表 5.

出力パラメーター名	説明
data	ファイルの内容が含まれます。
timestamp	FTPサーバーから返されるファイルのタイム・スタンプが入ります。これは一般に、ファイルの作成日付または最終変更日付です。

2. 希望する出力パラメーターを変数にマッピングします。

親トピック: [FTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ftp_get_file_activity.html

「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」 アクティビティ

「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーを使用して、実行時に特定のディレクトリーから特定のファイルを削除します。

一般に、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーは、以下のオーケストレーションの例で示されている、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーとともに使用されます。

- 「ジョブのスケジュール」アクティビティーは、毎時にオーケストレーション・ジョブを作成します。
- 「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーは、FTP サーバーのルート・ディレクトリーにある %temp ディレクトリーにあるファイルのリストを生成し、結果をストリングで保管します。
- 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーは、ファイルのリストを解析し、結果を反復 XML 構造に保管します。
- 「For Each」アクティビティーは、ファイルのリストを含む反復構造を繰り返します。
 - ファイルの末尾が .tmp 拡張子の場合、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーは指定されたファイルを削除します。

「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーを使用する実例プロジェクトについては、『[ディレクトリー・リストの解析の例](#)』を参照してください。

シンボリック・リンク

「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーは、以下の条件が当てはまる場合は、ディレクトリーへのシンボリック・リンクをサポートします。

- ディレクトリーへのシンボリック・リンクが、FTP サーバーをホストするオペレーティング・システムによりサポートされる。
- ディレクトリーへのシンボリック・リンクが FTP サーバーそのものによりサポートされる。

特定のオペレーティング・システムでの特定の FTP サーバーの特定のシンボリック・リンクのサポートを判断するには、オペレーティング・システムおよび FTP サーバーの資料を参照してください。

「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、FTP フォルダーを展開します。
3. 「ファイルの削除」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

FTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。

重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、「アクティビティーの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更する必要があります。

- b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順に進んでください。
 - o 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
重要: 元のFTPエンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規FTPエンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定されたFTPサーバーのディレクトリー構成に一致する新規FTPサーバーを指定するか、「アクティビティーの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更する必要があります。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - o 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. FTP エンドポイントを作成するか、または編集します。FTP エンドポイントの作成または編集

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 以下の表で説明されているように、このペインにあるフィールドを構成します。

表 1.

フィールド	説明
検索対象	
ファイル名	このフィールドはこのアクティビティーには使用されません。「入力のマップ」タスクの filename 入力パラメーターを使用して、削除するファイルの名前を指定します。
ディレクトリー	<p>統合アプライアンスが指定されたファイルを削除する、FTP サーバーのディレクトリーを指定します。以下のいずれかのオプションを使用して、ディレクトリーを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> o フィールドをクリックして以下のディレクトリー・パスの1つをタイプすることにより、ディレクトリー・パスを直接入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 相対ディレクトリー・パス。例: /process (FTP ホームは、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに構成されていると見なします。詳しくは、『注』を参照してください。) ■ 完全ディレクトリー・パス。例えば UNIX マシンの場合: /home/user/process o 「参照...」をクリックして、使用可能なディレクトリーのドロップダウン・リストを取り込みます。ドロップダウン・リストから適切なディレクトリーを選択します。 <p>実行時に、「構成」タスクの「ディレクトリー」フィールドに指定された値は、以下のいずれかのオプションを使用してオプションの directory 入力パラメーターに値が指定された場合は、上書きされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> o directory 入力パラメーターは変数にマップされます。 o directory 入力パラメーターにデフォルト値が指定されます。 <p>詳しくは、『アクティビティーの入力のマッピング』の手順を参照してください。</p> <p>注: UNIX: UNIX マシン上でFTPサーバーに接続するときに相対ディレクトリー・パスを指定する場合は、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントについて、FTP ホーム・ディレクトリーが /etc/password ファイルに正しく指定されていることを確認してください。</p>

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. FTP サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表で、FTP サーバーに接続するための再試行オプションについて説明します。

表 2.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の FTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスがシステムおよびオーケストレーションのログにエラーを記録し、現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、1 回目、2 回目、3 回目の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

アクティビティの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。このアクティビティの入力パラメーターが、「アクティビティへ」ペインに表示されます。
2. filename 入力パラメーターに変数をマップする必要があります。他の入力パラメーターはすべてオプションです。filename パラメーターは、FTP サーバーから削除するファイルの名前を指定します。

次の表にリストされている入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインに表示されない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

オプションで、次の表に定義されている入力パラメーターを使用して、チェックリストの「構成」および「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。

例えば、統合アプライアンスがファイルを削除する FTP サーバー上のディレクトリーは、「構成」タスクで process と呼ばれるディレクトリーに設定できます。実行時に、directory 入力パラメーターを使用して、ディ


レクトリ名 processXML をアクティビティーに渡すことができます。実行時に動的に指定されるディレクトリー名が、「構成」ペインで指定された元の設定を指定変更します。この例では、ファイルは processXML ディレクトリーから削除されます。

表 3.

入力パラメーターの名前/ノード	説明	タスクで設定を指定変更するかどうか
directory	統合アプライアンスがこのアクティビティーで生成されたファイルを置く、FTP サーバーのディレクトリーを指定します。	directory 入力パラメーターは、「構成」タスクの「ディレクトリー」フィールドを指定変更します。
接続/タイムアウト	統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に回答せずにタイムアウトになるまでの秒数を指定します。「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に FTP サーバーへの接続の確立を試行していた時間です。	接続入力パラメーターのタイムアウト・ノードは、FTP エンドポイントの「接続タイムアウト - エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります」フィールドを指定変更します。
接続/ホスト	FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	接続入力パラメーターのホスト・ノードは、FTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。
接続/ポート	指定されたホスト名のポート番号を指定します。FTP トラフィックの標準ポートは 21 です。SFTP トラフィックのデフォルト・ポートは 22 です。	接続入力パラメーターのポート・ノードは、FTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
接続/ユーザー名	FTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	接続入力パラメーターのユーザー名ノードは、FTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
接続/パスワード	FTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	接続入力パラメーターのパスワード・ノードは、FTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

親トピック: [FTP アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」 アクティビティー

実行時に、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーは FTP サーバーに接続し、指定された正規表現を使用して、指定されたディレクトリーの場所からのファイルのリストを生成します。「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーは、directoryListing または fileListing 出力パラメーターのいずれかを使用して、ファイルのリストをオーケストレーションに返します。

「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスがクリアされている場合、ディレクトリー許可、タイム・スタンプ、および所有権を含む完全なディレクトリー・リストが、directoryListing 出力パラメーターで単一ストリングとして返されます。完全なディレクトリー・リストがストリングとして返されると、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーでフラット・ファイル・スキーマを使用して、ディレクトリー・リストを解析する必要があります。「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスが選択されていて、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーが FTP サーバーのディレクトリー・リストのフォーマットをサポートしている場合は、fileListing 出力パラメーターで、ファイル名だけの反復構造が返されます (FTP サーバーでサポートされている場合)。ファイル名の反復構造が返された場合は、ディレクトリー・リストを解析する必要はなく、「For Each」アクティビティーまたは「while ループ」アクティビティーを使用してリスト全体を繰り返すだけでかまいません。接続先の FTP サーバーが NLST コマンドをサポートしている必要があります。FTP サーバーによって提供された応答が返されます。

場合によっては、FTP ディレクトリー内で検出されたファイルのセットを処理するために、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーを、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」、および「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーと共に使用する必要があります。あるいは「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーしか使用できない場合もあります。

以下の条件のいずれかが当てはまる場合は、FTP ディレクトリー内で検出されたファイルのセットを処理するために、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーを、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」、および「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーとともに使用します。

- 「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーが、FTP サーバーのディレクトリー・リストのフォーマットをサポートしていない。- ディレクトリー・リストのフォーマットは、各種オペレーティング・システム上でサポートされる FTP サーバーごとに異なります。「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーは多くのタイプの FTP サーバーをサポートしますが、FTP サーバーのディレクトリー・リストのフォーマットが「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーで解析できない場合は、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーを、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」、および「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーとともに使用することで、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーと同じ機能を提供するようにします。これについてはディレクトリー・リストの解析の例 (ディレクトリー・リストの解析の例) に示しています。
- リスト内の各ファイルを、さまざまなアクションによってポストプロセスを実行する必要がある。- 例えば、ファイルをファイル名に基づいてさまざまなディレクトリーに移動させることが必要な場合は、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーを、「FTP ファイルの取得 (FTP Get File)」、「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」、および「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーとともに使用します。これについてはディレクトリー・リストの解析の例 (ディレクトリー・リストの解析の例) に示しています。ただ

し、各ファイルを同じアクションを使用してポストプロセスを実行できる場合は、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティーを使用して、ファイルのセットを処理できます。

シンボリック・リンク

実行時の「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーによるシンボリック・リンクのサポートは、以下の要素に依存しています。

- FTP サーバーをホストするオペレーティング・システムによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。
- FTP サーバーそのものによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。
- 「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーによりサポートされるシンボリック・リンクのタイプ。これについては以下の表にリストします。

表 1.

シンボリック・リンクの対象	ハード・シンボリック・リンク	ソフト・シンボリック・リンク	注
ファイル	サポートされない	サポートされない	「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーは、ファイルへのシンボリック・リンクをファイルとは解釈しません。したがって、ファイルへのシンボリック・リンクは、実行時には「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーにより処理されません。
ディレクトリー	サポートされる	サポートされる	

特定のオペレーティング・システムでの特定の FTP サーバーの特定のシンボリック・リンクのサポートを判断するには、オペレーティング・システムおよび FTP サーバーの資料を参照してください。

Microsoft FTP エンドポイントによるサブディレクトリーの処理

Microsoft IIS (インターネット・インフォメーション・サービス) FTP エンドポイントの場合、サブディレクトリーとサブディレクトリー内のファイルを処理する際の「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーのランタイム動作は、以下のケースで説明するように、アクティビティーの「構成」タスクの「ファイル名」フィールドに指定された正規表現に依存したものになります。

- 正規表現がストリング * と等しい場合、オーケストレーション・ジョブは、指定されたディレクトリー内のサブディレクトリーを処理します。
- 正規表現がストリング ** と等しい場合、オーケストレーション・ジョブは、指定されたディレクトリー内のサブディレクトリーを処理しません。
- 正規表現がブランクである場合、オーケストレーション・ジョブは、指定されたディレクトリー内のサブディレクトリーを処理しません。

「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、FTP フォルダを展開します。
3. 「ファイルのリスト」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティを選択します。チェックリストが表示されます。

FTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、以下の「アクティビティの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更する必要があります。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、以下の「アクティビティの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更する必要があります。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. FTP エンドポイントの作成または編集に従って、FTP エンドポイントを作成するか、または編集します。

アクティビティの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 以下の表で説明されているように、このペインにあるすべてのフィールドを構成します。

表 2.

フ イ ー ル ド	説明

フ イ ー ル ド	説明
デ イ レ ク ト リ ー	<p>統合アプライアンスがディレクトリー内のファイルのリストを生成する場所である FTP サーバー上のディレクトリーを指定します。以下のいずれかのオプションを使用して、ディレクトリーを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フィールドをクリックして以下のディレクトリー・パスの1つをタイプすることにより、ディレクトリー・パスを直接入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 相対ディレクトリー・パス。例: <code>/process</code> (FTP ホームは、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに構成されていると見なします。詳しくは、以下の注を参照してください。) ■ 完全ディレクトリー・パス。例えば UNIX マシンの場合: <code>/home/user/process</code> ○ 「参照...」をクリックして、使用可能なディレクトリーのドロップダウン・リストを取り込みます。ドロップダウン・リストから適切なディレクトリーを選択します。 <p>注: UNIX: UNIX マシン上で FTP サーバーに接続するときに相対ディレクトリー・パスを指定する場合は、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントについて、FTP ホーム・ディレクトリーが <code>/etc/passwd</code> ファイルに正しく指定されていることを確認してください。</p>
フ ァ イ ル 名	<p>FTP サーバーから取得する必要があるファイル名を定義するグローブ・パターンを指定します。グローブ・パターンの処理は、FTP サーバーにより実行されます。詳しくは、グローブ・パターンに関する FTP サーバーの資料を参照してください。</p>
フ ァ イ ル の み を リ ス ト (N L S T)	<p>「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスは、「テスト」ボタンの使用時や実行時に戻されるディレクトリー・リストのタイプを決定します。さらに、このチェック・ボックスは、<code>fileListing</code> または <code>directoryListing</code> 出力パラメーターが「出力のマッピング」タスクに表示されるかどうか、および実行時にアクティビティにより返されるかどうかを決定します。</p>

フ イ ー ル ド	説明
	<p>図 1 に示すように、「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスが選択されている場合、「テスト」ボタンをクリックするとファイル名だけが返されます (FTP サーバーによってサポートされている場合)。さらに、「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスが選択されている場合、fileListing 出力パラメーターが「出力のマップ」タスクにリストされます。実行時に、ファイルのセットは fileListing 出力パラメーターの fileName 反復ノードに返されます。接続先の FTP サーバーが NLST コマンドをサポートしている必要があります。FTP サーバーによって提供された応答が返されません。</p>
	<p>「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスがクリアされている場合、「テスト」ボタンをクリックすると、ディレクトリー許可、タイム・スタンプ、および所有権を含む完全なディレクトリー・リストが返されます。これについては図 2 で示します。さらに、「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスが選択されている場合、directoryListing 出力パラメーターが「出力のマップ」タスクにリストされます。実行時に、完全なディレクトリー・リストが単一文字列として提供され、directoryListing 出力パラメーターを使用して返されます。</p>

図 1. 「ファイルのみをリスト (NLST)」が選択されている場合のリストの例。

```
bidAcmeInc.txt
bidBudgetManufacture.txt
bidCrankCo.txt
bidSamAndSons.txt
bidWidgetRUs.txt
```

図 2. 「ファイルのみをリスト (NLST)」がクリアされている場合のリストの例。

```
-rw-r--r--  1 551      551      65 May  3 11:39 bidAcmeInc.txt
-rw-r--r--  1 551      551     43 May  3 11:39 bidBudgetManufacture.txt
-rw-r--r--  1 551      551      0 May  3 11:39 bidCrankCo.txt
-rw-r--r--  1 551      551     73 May  3 11:39 bidSamAndSons.txt
-rw-r--r--  1 551      551     33 May  3 11:39 bidWidgetRUs.txt
```

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. FTP サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表は、FTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

表 3.

フ イ ー ル ド	説 明
再試行	

フィールド	説明
1) 再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスがFTPサーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスがFTPサーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行します。</p> <p>「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーから開始されるオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定のFTPサーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスはシステム・ログにエラーを記録し、接続エラー回数をゼロにリセットして、FTPサーバーへの接続を引き続き確立しようとします。</p> <p>例えば、再試行回数を3に設定すると、第1、第2、第3の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第4の接続エラーをエラーとしてログに記録し、接続エラー回数をゼロにリセットします。そのため、第5の接続エラーは、システム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、FTPサーバーへの接続を引き続き確立しようとします。</p>

アクティビティーの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。このアクティビティーの入力パラメーターが、「アクティビティーへ」ペインに表示されます。
2. 「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーの入力パラメーターのマップはオプションです。「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーには、以下のオプション入力パラメーターがあります。
 - o directory
 - o connection

次の表にリストされている入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインに表示されない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

オプションで、次の表に定義されている入力パラメーターを使用して、チェックリストの「構成」および「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。

例えば、統合アプライアンスがファイルのリストを取得するFTPサーバー上のディレクトリーは、「構成」タスクでinputと呼ばれるディレクトリーに設定できます。実行時に、directory入力パラメーターを使用して、ディレクトリー名inputXMLをアクティビティーに渡すことができます。実行時に動的に指定されるディレクトリー名が、「構成」ペインで指定された元の設定を指定変更します。この例では、ファイルのリストはinputXMLディレクトリーから生成されます。

表 4.

入力パラメーターの名前/ノード	説明	タスクで設定を指定変更するか
directory	統合アプライアンスがこのアクティビティー内のファイルのリストを生成する場所である FTP サーバー上のディレクトリーを指定します。	directory 入力パラメーターは、「構成」タスクの「ディレクトリー」フィールドを指定変更します。
接続/タイムアウト	統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答するまでに要する時間の間で、タイムアウトが発生するまでの時間(秒単位)を指定します。「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に FTP サーバーへの接続の確立を試行していた時間です。	接続入力パラメーターのタイムアウト・ノードは、FTP エンドポイントの「接続タイムアウト - エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります」フィールドを指定変更します。
接続/ホスト	FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	接続入力パラメーターのホスト・ノードは、FTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。
接続/ポート	指定されたホスト名のポート番号を指定します。FTP トラフィックの標準ポートは 21 です。SFTP トラフィックのデフォルト・ポートは 22 です。	接続入力パラメーターのポート・ノードは、FTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
接続/ユーザー名	FTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	接続入力パラメーターのユーザー名ノードは、FTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
接続/パスワード	FTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	接続入力パラメーターのパスワード・ノードは、FTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

アクティビティーの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「出力のマッピング」タスクを選択します。「アクティビティーから」ペインに directoryListing または fileListing 出力パラメーターが表示されます。
2. directoryListing または fileListing 出力パラメーターを変数にマッピングします。マッピングの一般的な説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。


実行時に、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーは、directoryListing または fileListing 出力パラメーターを使用して、ファイルのリストをオーケストレーションに返します。

「構成」タスクで「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスがクリアされている場合は、directoryListing 出力パラメーターで、ディレクトリーのアクセス権、タイム・スタンプ、所有権を含む完全なディレクトリー・リストが単一のストリングとして返されます。完全なディレクトリー・リストがストリングとして返されると、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーでフラット・ファイル・スキーマを使用して、ディレクトリー・リストを解析する必要があります。フラット・ファイル・スキーマは、フラット・ファイル・スキーマ・エディターで作成できます。フラット・ファイル・スキーマを使用してディレクトリー・リストを解析するオーケストレーションの例については、ディレクトリー・リストの解析の例 ([ディレクトリー・リストの解析の例](#)) を参照してください。

「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスが選択されていて、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーが FTP サーバーのディレクトリー・リストのフォーマットをサポートしている場合は、fileListing 出力パラメーターで、ファイル名だけの反復構造が返されます (FTP サーバーでサポートされている場合)。ファイル名の反復構造が返された場合は、ディレクトリー・リストを解析する必要はなく、「For Each」アクティビティーまたは「while ループ」アクティビティーを使用してリスト全体を繰り返すだけでかまいません。

親トピック: [FTP アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ftp_list_files_activity.html

「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティー

「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーは、実行時にファイル名を変更したり、ファイルを別のディレクトリーに移動したりする場合に使用します。

該当する以下の場合には、「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーで名前を変更するディレクトリーが表示されます。

- ファイルを新規ディレクトリーに移動して名前を変更する場合。例えば、BidAcmeInc.xml という名前のファイルを input ディレクトリーから process ディレクトリーに移動すると、NewBidAcmeInc.xml という名前に変更します。
- ファイルを新規ディレクトリーに移動するが、既存のファイル名を保持する場合。例えば、BidAcmeInc.xml という名前のファイルを input ディレクトリーから process ディレクトリーに移動します。
- ファイル名を変更して、そのファイルを元のディレクトリーに保持する場合。例えば、BidAcmeInc.xml という名前のファイルを input ディレクトリーで NewBidAcmeInc.xml という名前に変更します。

「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーを使用するプロジェクトの例については、ディレクトリー・リストの解析の例 ([ディレクトリー・リストの解析の例](#)) を参照してください。

[シンボリック・リンク](#)

「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」 アクティビティーは、以下の条件が当てはまる場合は、ディレクトリーへのシンボリック・リンクをサポートします。

- ディレクトリーへのシンボリック・リンクが、FTP サーバーをホストするオペレーティング・システムによりサポートされる。
- ディレクトリーへのシンボリック・リンクが FTP サーバーそのものによりサポートされる。

特定のオペレーティング・システムでの特定の FTP サーバーの特定のシンボリック・リンクのサポートを判断するには、オペレーティング・システムおよび FTP サーバーの資料を参照してください。

「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」 アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」 タブを選択し、FTP フォルダーを展開します。
3. 「ファイル名の変更」 アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

FTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」 から「エンドポイントの選出」 タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、「アクティビティーの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更する必要があります。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順に進んでください。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
重要: 元の FTP エンドポイントと異なるディレクトリー構造で新規 FTP エンドポイントを指定すると、実行時にオーケストレーション・ジョブが失敗することがあります。元の指定された FTP サーバーのディレクトリー構成に一致する新規 FTP サーバーを指定するか、「アクティビティーの構成」手順に記載されているように「参照」をクリックして「ディレクトリー」フィールドの構成ディレクトリーを変更する必要があります。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. FTP エンドポイントを作成するか、または編集します。[FTP エンドポイントの作成または編集](#)

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」 から、「構成」 タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 以下の表で説明されているように、このペインにあるフィールドを構成します。

表 1.

フィールド	説明
名前変更	
ファイル名	このフィールドはこのアクティビティには使用されません。ファイルの名前は、「入力のマップ」タスクの fromFilename 入力パラメーターで変更するように指定します。
元のディレクトリー	<p>統合アプライアンスが指定されたファイルを削除する、FTP サーバーのディレクトリーを指定します。以下のいずれかのオプションを使用して、ディレクトリーを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フィールドをクリックして以下のディレクトリー・パスの1つをタイプすることにより、ディレクトリー・パスを直接入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 相対ディレクトリー・パス。例: /process (FTP ホームは、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントに構成されていると見なします。詳しくは、『注』を参照してください。) ■ 完全ディレクトリー・パス。例えば UNIX マシンの場合: /home/user/process ○ 「参照...」をクリックして、使用可能なディレクトリーのドロップダウン・リストを取り込みます。ドロップダウン・リストから適切なディレクトリーを選択します。 <p>注: UNIX: UNIX マシン上で FTP サーバーに接続するときに相対ディレクトリー・パスを指定する場合は、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントについて、FTP ホーム・ディレクトリーが /etc/password ファイルに正しく指定されていることを確認してください。</p>
新規パス	<p>このフィールドはこのアクティビティには使用されません。新規ファイル名と FTP サーバー上の新規ディレクトリー (統合アプライアンスが「入力のマップ」タスクの toPath 入力パラメーターを使用して移動したファイルを入れるディレクトリー) を含む絶対パスを指定してください。</p> <p>注: UNIX: UNIX マシン上で FTP サーバーに接続するときに相対ディレクトリー・パスを指定する場合は、FTP サーバーに接続するユーザー・アカウントについて、FTP ホーム・ディレクトリーが /etc/password ファイルに正しく指定されていることを確認してください。</p>
オプション - 指定した出力ディレクトリーに同じ名前のファイルが既に存在する場合の動作を定義するには、以下のオプションのいずれかを選択します。	
重複する名前が見つかった場合は既存のファイルを上書きします	ファイルが既に存在する場合にこのオプションを指定すると、元のファイルの内容が破棄され、アクティビティから返される新しいデータで置き換えられます。
重複する名前を持つファイルが見つかった場合はエラーにします	ファイルが既に存在する場合にこのオプションを指定すると、ファイルの元データを保持してエラーをスローし、アクティビティから返される新しいデータに対しては何も実行しません。

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. FTP サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表で、FTP サーバーに接続するための再試行オプションについて説明します。

表 2.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに ___ 秒待機します。	統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。
2) 失敗するまで ___ 回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが FTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」アクティビティーが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の FTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまで、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスがシステムおよびオーケストレーションのログにエラーを記録し、現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

アクティビティーの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。このアクティビティーの入力パラメーターが、「アクティビティーへ」ペインに表示されます。
2. 変数を以下の入力パラメーターにマップする必要があります。
 - fromFilename - 名前変更アクションの際に、このパラメーターは名前変更するファイルの元の名前を指定します。
 - toPath - 名前変更アクションの際に、このパラメーターはファイルの新規ディレクトリー名と新規ファイル名の両方を含むパスを指定します。例えば、fileNewName.txt というファイル名に変更してファイルを FTP サーバーのルートの /output ディレクトリーに移動するように指定するには、次の toPath の値を /output/fileNewName.txt と指定します。

他の入力パラメーターはすべてオプションです。マッピングについての一般的な説明は、『マップの作成』を参照してください。

次の表にリストされている入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインに表示されない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>

「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

オプションで、次の表に定義されている入力パラメーターを使用して、チェックリストの「構成」および「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。

例えば、統合アプライアンスがこのアクティビティーで生成されたファイルを置く FTP サーバー上のディレクトリーは、「構成」タスクで output というディレクトリーに設定できます。実行時に、directory 入力パラメーターを使用してディレクトリー名 outputXML をアクティビティーに渡すことができます。実行時に動的に指定されるディレクトリー名が、「構成」ペインで指定された元の設定を指定変更します。この例では、ファイルは outputXML ディレクトリーに入れられます。

表 3.

入力パラメーターの名前/ノード	説明	タスクで設定を指定変更するかどうか
from directory	統合アプライアンスがファイルのリストを取得する、FTP サーバー上のディレクトリーを指定します。	directory 入力パラメーターは、「構成」タスクの「ディレクトリー」フィールドを指定変更します。
overwrite	統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答するまでに要する時間の中で、タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に FTP サーバーへの接続の確立を試行していた時間です。	接続入力パラメーターのタイムアウト・ノードは、FTP エンドポイントの「接続タイムアウト - エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります」フィールドを指定変更します。
接続/タイムアウト	FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	接続入力パラメーターのタイムアウト・ノードは、FTP エンドポイントの「接続タイムアウト - エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります」フィールドを指定変更します。

接続/ ホスト	指定されたホスト名のポート番号を指定します。FTPトラフィックの標準ポートは21です。SFTPトラフィックのデフォルト・ポートは22です。	接続入力パラメーターのホスト・ノードは、FTPエンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。
接続/ ポート	指定されたホスト名のポート番号を指定します。FTPトラフィックの標準ポートは21です。SFTPトラフィックのデフォルト・ポートは22です。	接続入力パラメーターのポート・ノードは、FTPエンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
接続/ ユーザー名	FTPサーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	接続入力パラメーターのユーザー名ノードは、FTPエンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
接続/ パスワード	FTPサーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	接続入力パラメーターのパスワード・ノードは、FTPエンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

アクティビティーの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「出力のマッピング」タスクを選択します。「アクティビティーから」ペインに directoryListing または fileListing 出力パラメーターが表示されます。
2. directoryListing または fileListing 出力パラメーターを変数にマッピングします。マッピングについての一般的な説明は、『マッピングの作成』を参照してください。

実行時に、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーは、directoryListing または fileListing 出力パラメーターを使用して、ファイルのリストをオーケストレーションに返します。


「構成」タスクで「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスがクリアされている場合は、directoryListing 出力パラメーターで、ディレクトリーのアクセス権、タイム・スタンプ、所有権を含む完全なディレクトリー・リストが単一のストリングとして返されます。完全なディレクトリー・リストがストリングとして返されると、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーでフラット・ファイル・スキーマを使用して、ディレクトリー・リストを解析する必要があります。フラット・ファイル・スキーマは、フラット・ファイル・スキーマ・エディターで作成できます。フラット・ファイル・スキーマを使用してディレクトリー・リストを解析するオーケストレーションの例については、ディレクトリー・リストの解析の例 ([ディレクトリー・リストの解析の例](#)) を参照してください。

「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスが選択されていて、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーがFTPサーバーのディレクトリー・リストのフォーマットをサポートしている場合は、fileListing 出力パラメーターで、ファイル名だけの反復構造が返されます。ファイル名の反復構造が返された場合は、ディレクトリー・リストを解析する必要はなく、「For Each」アクテ

イビティまたは「while ループ」アクティビティを使用してリスト全体を繰り返すだけでかまいません。

親トピック: [FTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ftp_rename_file_activity.html

ディレクトリー・リストの解析の例

この例では、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティを使用して FTP ディレクトリーからディレクトリー・リストを取得し、フラット・ファイル・スキーマを使用して長いディレクトリー・リストを解析します。そして各ファイルのプロパティに基づいて、ファイルのリスト全体を繰り返します。

このタスクについて

各ファイルのプロパティに基づいて、以下のアクションのいずれかが実行されます。

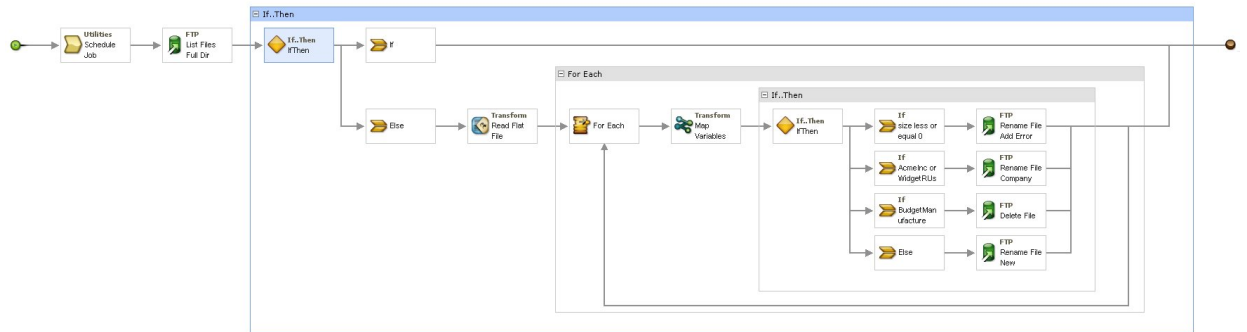
- 「[FTP ファイル名の変更 \(FTP Rename File\)](#)」アクティビティを使用して、ファイルを新しいディレクトリーに移動します。
- 「[FTP ファイル名の変更 \(FTP Rename File\)](#)」アクティビティを使用して、ファイルの名前を変更します。
- 「[FTP ファイルの削除 \(FTP Delete File\)](#)」アクティビティを使用して、ファイルを削除します。

FTPParseDirListingExample を開いて表示し、詳しく調べるには、次のようにします。

手順

1. 次のようにして、FTPParseDirListingExample プロジェクトを解凍します。
 - a. Studio 内で定義されたデフォルト作成パスを見つけます。これは、新しいプロジェクトの作成先ディレクトリーです。現在のデフォルト作成パスを表示するには、Studio のツールバー・メニューから「ファイル」 > 「設定...」を選択します。「設定」ウィンドウが表示されます。現行「デフォルト作成パス」がペインの下部に表示されます。デフォルトでは、「デフォルト作成パス」は次のディレクトリーです。C:¥Documents and Settings¥myLogin¥My Documents myLogin はご使用の Windows ログイン名です。
 - b. FTPParseDirListingExample プロジェクトを構成するファイルが格納された FTPParseDirListingExample.zip ファイルを見つけます。Studio のインストール時にデフォルトを受け入れた場合、このファイルはディレクトリー C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere Cast Iron Studio 3.X¥Samples¥FTPParseDirListing にあります。
 - c. FTPParseDirListingExample.zip ファイルを FTPParseDirListing ディレクトリーからデフォルト作成パスのディレクトリーにコピーします。
 - d. FTPParseDirListingExample.zip ファイルの内容をデフォルト作成パスのディレクトリーに解凍します。
2. 次のようにして、FTPParseDirListingExample プロジェクトを開きます。

- a. Studio のツールバー・メニューから「ファイル」 > 「プロジェクトを開く...」を選択します。
「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - b. FTPParseDirListingExample ディレクトリーを参照して開きます。
 - c. FTPParseDirListingExample.sp3 ファイルをクリックして、「開く」をクリックします。プロジェクトが表示されます。
3. 「プロジェクト」タブで、**processBids** オーケストレーションをダブルクリックします。次の図に示すように、**processBids** オーケストレーションのタブにオーケストレーションのアクティビティーが表示されます。



4. 「ジョブのスケジュール」アクティビティーをクリックします。「チェックリスト」で「構成」タスクをクリックします。実行時に、このアクティビティーはオーケストレーション・ジョブを5分ごとに開始します。
 5. 「List Files Full Dir Listing」というラベルが付いている「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーをクリックします。「チェックリスト」で「構成」タスクをクリックします。このアクティビティーは、FTP サーバーの /input ディレクトリーにあるファイルの長いディレクトリー・リストを取得し、リストを1つの文字列として dirListing 出力パラメーターに返します。この例では、directoryListing 出力パラメーターに返された文字列は、fullDirectoryListing 文字列変数に格納されます。
- ディレクトリー・リストの解析の例に合わせて FTP エンドポイントが構成されている場合、「構成」タスクの「テスト」をクリックして、ディレクトリー・リストを取得します。「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスは、ディレクトリー・リストにファイルのリストのみが格納されるか、完全なディレクトリー・リストが格納されるかを決定します。この例では、「ファイルのみをリスト (NLST)」チェック・ボックスをクリアします。
6. 「If...Then」アクティビティーを展開します。実行時、このアクティビティーは fullDirectoryListing 文字列変数の値を検査し、値が空の場合、If パスが実行されてオーケストレーションが終了します。fullDirectoryListing 文字列が空ではない場合、Else パスが実行されて、オーケストレーションはディレクトリーを解析します。
 7. 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーをクリックします。「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクをクリックします。実行時、「FTP ファイルのリスト (FTP List Files)」アクティビティーで作成された長いディレクトリー・リストは、Data 入力パラメーターを介して「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーに渡されます。
 8. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクをクリックします。実行時、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーはディレクトリー・文字列を解析し、「出力のマップ」タスクに反復ノード構造で表示します。
 9. 「For Each」アクティビティーをクリックします。実行時、「For Each」アクティビティーは、ディレクトリー・リストを格納する反復ノード構造を繰り返します。それぞれの繰り返しは、単一ファイルとそのファイルのプロパティーに相当します。
 10. 「変数のマップ」アクティビティーをクリックします。実行時、「変数のマップ」アクティビティーは現在のファイルのサイズを10進数値に変換します。

11. 「If...Then」 アクティビティをクリックします。実行時、「If...Then」 アクティビティは、次の「If...Then」 ブランチを開始します。


タスクの結果

- ファイルのサイズが 0 に等しい場合、「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」 アクティビティはファイルを /processFailed ディレクトリーに移動し、ファイル名に ERROR 接頭部を追加してファイルの名前を変更します。
- 承認済みのサプライヤーのいずれかを表すストリング (AcmeInc または WidgetRUs) がファイル名に含まれている場合、「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」 アクティビティはファイル名に基づいて、ファイルを適切なディレクトリー (/processAcmeInc または /processWidgetRUs) に移動します。
- ファイル名に Budget Manufacture サプライヤーを表すストリングが含まれている場合、Budget Manufacture は承認されていないサプライヤー・リストにあるため、「FTP ファイルの削除 (FTP Delete File)」 アクティビティはファイルを削除します。
- ファイルが上記 3 つの条件のいずれによっても処理されない場合は Else 節が呼び出され、「FTP ファイル名の変更 (FTP Rename File)」 アクティビティは、ファイルを /processNewCompany ディレクトリーに移動します。

ディレクトリー・リストの解析の例を実行するには、『[ディレクトリー・リストの解析の例に合わせた FTP エンドポイントの構成](#)』セクションに示す手順を参照してください。

親トピック: [FTP アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Parse_Directory_Listing_Example.html

FTPS サーバー接続のテスト

「テスト接続」が正常に実行された後、プロジェクトを公開する前に、Studio 検査ツールを FTPS オーケストレーションに使用できます。

このタスクについて

FTPS サーバーを表すエンドポイントを構成する場合、このエンドポイントを Studio プロジェクト内で使用して、オーケストレーションを作成することができます。ただし、このヘルプ・トピックで詳しく説明するように、FTPS 証明書のコピーを Studio にインポートするまでは、Studio 内でオーケストレーション動作を確認できません。

注: 次の手順では、「<domain.com>」という名前のドメインの「<ftps>」という名前の FTPS サーバーを参照します。

FTPS サーバー接続をテストするには、次のようにします。


手順

1. コマンド・ウィンドウを開きます。
2. FTPS ホストに移動して、FTP サーバー <ftps> に保管されている証明書ファイル ca-cert を、ディレクトリー /var/www/covalent/servers/<ftps.domain.com>/ssl/caerts/castiron_ca_cert.pem で探します。
3. FTPS インストール済み環境の実際のサーバー名とドメイン名で置換します。
4. このファイルをコピーし、Studio ワークステーションにナビゲートします。
5. コマンド・ウィンドウを使用して、Studio のホーム・ディレクトリー C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere Cast Iron Studio x.x.x に ca-cert のコピーを貼り付けます。
6. Studio のセキュリティー・ディレクトリー C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere Cast Iron Studio x.x.x¥security にナビゲートします。
7. 次のコマンドを実行して、ca-cert ファイルを Studio にインポートします。 ..

```
¥jre¥bin¥keytool.exe -import -v -keystore cacerts -storepass changeit -file ..
¥castiron_ca_cert.pem -alias alias_name
```
8. yes または no の入力を求めるプロンプトが出されたら、yes (Y) を入力して Enter を押します。
9. コマンド・ウィンドウを終了します。
10. Studio を再始動します。
11. この FTPS サーバーのエンドポイントを開きます。
12. FTPS 接続のログイン資格情報 (FTP サーバー、ポート、ユーザー、およびパスワード) を確認します。
13. 「接続のテスト」をクリックします。接続が成功したら、Studio オーケストレーションでこのエンドポイントを使用し、次に「検査」タブの機能でオーケストレーションを評価します。

親トピック: [FTP アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/FTPS_Testing_an_FTPS_Server_Connection.html

HTTP アクティビティー

- [HTTP エンドポイントの作成または編集](#)
 HTTP エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが HTTP サーバーに接続するために使用する接続情報を提供します。また、HTTP エンドポイントでは接続情報を指定するため、統合アプライアンスは HTTP リスナーとして機能することができます。
- [「HTTP 受信要求」アクティビティー](#)
 「**HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)**」アクティビティーを使用して、統合アプライアンスが HTTP リスナーとして機能するように構成します。
- [「HTTP 受信要求」アクティビティーによる圧縮解除](#)
 「**HTTP 受信要求**」アクティビティーでは、gzip 形式を使用した圧縮解除のみがサポートされます。
 「**HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)**」アクティビティーは、デフレート形式や、compress と呼ばれる UNIX ファイルの一般的な圧縮形式をサポートしていません。
- [「HTTP 応答送信」アクティビティー](#)
 「**HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)**」アクティビティーは、応答を HTTP 要求の送信者に送信します。
- [「HTTP 応答送信」アクティビティーによる圧縮/圧縮解除](#)
 実行時に、「**HTTP 応答送信**」アクティビティーは、HTTP/HTTPS 1.0 プロトコルに準拠する HTTP 応答

を HTTP クライアントに送信します。

- 「HTTP: POST 要求」アクティビティ

「HTTP **POST** 要求」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に **POST** 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

- 「HTTP GET 要求」アクティビティ

「HTTP **Get** 要求」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に **GET** 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

- 「HTTP HEAD 要求」アクティビティ

「HTTP **HEAD** 要求」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に **HEAD** 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

- 「HTTP INVOKE 要求」アクティビティ

「**HTTP: 要求の呼び出し (HTTP Invoke Request)**」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に HTTP 要求を送信し、そのロケーションから HTTP 応答を受信します。

- 「HTTP PUT 要求」アクティビティ

「HTTP **PUT** 要求」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に **PUT** 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

- 「HTTP DELETE 要求」アクティビティ

「HTTP **DELETE** 要求」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に **DELETE** 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。


- 「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティによる圧縮/圧縮解除

実行時に、「**HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求**」アクティビティは、HTTP/HTTPS 1.1プロトコルに準拠した HTTP 要求を HTTP サーバーに送信します。

- **トラブルシューティングとサポート**

トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。ここでは、HTTP コネクタで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_HTTPactivities.html

HTTP エンドポイントの作成または編集

HTTP エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが HTTP サーバーに接続するために使用する接続情報を提供します。また、HTTP エンドポイントでは接続情報を指定するため、統合アプライアンスは HTTP リスナーとして機能することができます。

1. 「エンドポイントの作成」または「エンドポイントの編集」ペインで、次の表に示すようにフィールドを構成します。

注: エンドポイントの構成プロパティを変更すると、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、プロジェクトでそのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

2. 完了したら、「接続のテスト」が使用可能な場合はクリックして、HTTP サーバーに接続できることを確認します。

注: 「接続のテスト」ボタンは、「HTTP: POST 要求 (HTTP Post Request)」アクティビティーのエンドポイントを構成するとき、つまり「ロケーション」が「リモート・サーバー」オプションに設定されている場合のみ、使用可能になります。

3. 「OK」をクリックします。

表 1.

フィールド名	説明
ロケーション	
統合アプライアンスが要求を受け取る	このオプションは、統合アプライアンスが HTTP リスナーとして機能することを指定します。 「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティーで HTTP エンドポイントを使用する場合は、「ロケーション」が自動的に「統合アプライアンスが要求を受け取る」オプションに設定されます。
リモート・サーバー	このオプションは、統合アプライアンスがリモート HTTP サーバーとの間で要求を送受信することを指定します。 「HTTP: POST 要求 (HTTP Post Request)」アクティビティーで HTTP エンドポイントを使用する場合は、「ロケーション」が自動的に「リモート・サーバー」オプションに設定されます。
ホスト名	「リモート・サーバー」オプションを選択した場合にのみ必須です。このエンドポイントの接続先 HTTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティーの場合 - HTTP リスナーとして機能する統合アプライアンスのポート番号を指定します。 「HTTP: POST 要求 (HTTP Post Request)」アクティビティーの場合 - リモート HTTP サーバーのポート番号を指定します。
ログイン	説明
匿名ユーザーとしてサーバーにログイン	「リモート・サーバー」オプションを選択した場合にのみ有効です。このオプションは、HTTP サーバーに匿名で接続するとき (この場合はユーザー・アカウントが不要) に選択します。
ユーザー名とパスワードを使用してサーバーにログイン	「リモート・サーバー」オプションを選択した場合にのみ有効です。このオプションは、ユーザー・アカウントを使用して HTTP サーバーに接続するときに選択します。「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

フィールド名	説明
認証	<p>統合アプライアンスがリモート・サーバーへの接続時に使用する認証のタイプを選択できます。以下のいずれかの認証オプションをリストから選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本 (Basic) - 指定したユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーへ送信します。これは、最も保護レベルの低い認証スキーマです。 注: 「HTTP 受信要求」アクティビティーで基本認証が使えるようになりました。 • ダイジェスト (Digest) - 指定したユーザー名とパスワードを、サーバーへ送信する前に暗号化します。これは、「基本 (Basic)」認証より保護レベルの高い認証オプションです。 • NTLM - サーバーのドメイン・ネームで NTCredentials のインスタンスを使用可能にすることを要求します。この認証は、最も保護レベルの高い認証オプションです。NTLM 認証オプションを選択した場合、統合アプライアンスは、要求ではなく接続を認証します。そのため、統合アプライアンスは、新しい接続が確立されるたびに認証を行います。認証プロセス中は、接続を開いたままにしておく必要があります。NTLM を使用して、プロキシとサーバーの両方で認証を行うことはできません。 注: ユーザー名にドメインの接頭部を付けないでください。 • Kerberos - Kerberos プロトコルでは、Kerberos サーバーと呼ばれる信頼のおける第三者機関が必要です。Kerberos サーバー名およびレルムは、HTTP または Web サービス・エンドポイントではなく、「WMC セキュリティー: Kerberos (WMC Security:Kerberos)」パネルで構成します。
レルム/ドメイン	<p>認証オプションとして「基本 (Basic)」または「ダイジェスト (Digest)」を選択した場合は、レルムを指定してください。</p> <p>認証オプションとして「NTLM」を選択した場合は、ドメインを指定してください。</p>
ユーザー名	<p>「リモート・サーバー」オプションの場合にのみ使用可能 - HTTP サーバーへ接続するために使用するアカウントの「ユーザー名」を指定します。</p>
パスワード	<p>「リモート・サーバー」オプションの場合にのみ使用可能 - HTTP サーバーへ接続するために使用するアカウントの「パスワード」を指定します。</p>
OAuth 2.0 を使用してサーバーにログイン	<p>説明</p>
権限付与タイプ	<p>Cast Iron OAuth2.0 クライアントは、アクセス・トークンを要求するために 2 つの権限付与をサポートします。許可要求は、リソース所有者に対して直接行うか、または認証サーバーを通じて行うことができます。</p> <p>以下のいずれかの権限付与タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>password</code> - 認証サーバー URL、ユーザー名、およびパスワードの組み合わせ、またはアクセス・トークンのみのいずれかを必要とします。アクセス・トークンが一時的な場合は、期限切れのアクセス・トークンを再生成するために、認証サーバー URL、ユーザー名、およびパスワードを提供する必要があります。 • <code>authorization_code</code> - 有効期限が切れた後で一時アクセス・トークンをリフレッシュするために、アクセス・トークンまたはリフレッシュ・トークンと認証サーバー URL の組み合わせ、あるいはその両方を必要とします。

フィールド名	説明
スコープ	スコープ要求パラメーターを使用して、アクセス要求のスコープを指定します。認証サーバーはこれを使用して、発行されたアクセス・トークンのスコープについてクライアントに通知します。
ユーザー名	リソース・サーバーへのログオンに使用するユーザー名を指定します。リソース所有者パスワード資格情報の権限付与の場合、ユーザー名はアクセス・トークン要求の一部として使用されます。
パスワード	リソース・サーバーへのログオンに使用するパスワードを指定します。リソース所有者パスワード資格情報の権限付与の場合、パスワードはアクセス・トークン要求の一部として使用されます。
クライアント ID	登録時に認証サーバーによって発行されたクライアント ID を指定します。クライアント ID は、認証サーバーからクライアントに提供された登録情報を含む固有のストリングです。クライアント ID は機密ではありません。クライアント ID はリソース所有者に公開され、クライアント認証のみには使用しないでください。
クライアント秘密鍵	クライアント秘密鍵を指定します。クライアント秘密鍵は機密です。
アクセス・トークン	アクセス・トークンを指定します。アクセス・トークンは、クライアントに発行された権限を表す資格情報です。トークンは、特定のスコープとアクセス期間を表します。
認証サーバー URL	認証サーバー URL を指定します。認証サーバー URL は、アクセス・トークンを発行およびリフレッシュする役割を持つ認証サーバーまたはトークン・エンドポイントの URL です。
リフレッシュ・トークン	リフレッシュ・トークンを指定します。リフレッシュ・トークンは、現行のアクセス・トークンが期限切れとなったときにアクセス・トークンを取得するために使用されます。
OAuth 2.0 の詳細については、『 http://tools.ietf.org/html/rfc6749 』を参照してください。	
セキュリティ	説明
なし	セキュリティが不要な場合は、「なし」オプションを選択します。

フィールド名	説明
HTTPS	<p>セキュアな SSL を使用する HTTP を使用可能にする場合は「HTTPS」オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「統合アプライアンスが要求を受け取る」オプションを選択した場合にのみ使用可能 - サーバー認証が必要な場合は、「サーバー証明書別名」チェック・ボックスを選択して、サーバーとして機能する統合アプライアンスがクライアントへ証明書を提供する必要があります。このチェック・ボックスを使用してエンドポイント・レベルで指定した証明書は、WMC の「セキュリティ」>「証明書」>「設定」>「データ NIC 経由サーバー SSL」エントリーで指定された証明書より優先されます。 「リモート・サーバー」オプションを選択した場合にのみ使用可能 - クライアント認証が必要な場合は、「クライアント証明書別名」チェック・ボックスを選択して、クライアントとして機能する統合アプライアンスが HTTP サーバーへ証明書を提供する必要があります。このチェック・ボックスを使用してエンドポイント・レベルで指定した証明書は、WMC の「セキュリティ」>「証明書」>「設定」>「クライアント SSL」エントリーで指定された証明書より優先されます。
プロトコル・バージョン	<p>セキュア HTTP over SSL に使用されるプロトコルを選択します。デフォルトでは、使用されるプロトコル・バージョンは SSL_TLSv2 です。</p>
接続プール・オプション	
最大接続数	<p>統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる HTTP サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。</p>
接続タイムアウト - 以下の「接続」フィールドは、「リモート・サーバー」オプションを選択した場合にのみ、使用可能になります。	
エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります。	<p>統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの秒数。HTTP アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に HTTP サーバーへの接続の確立を試行する時間です。アクティビティー・タイムアウトはエンドポイントへの接続が既に確立された後に発生するため、接続タイムアウトとアクティビティー・タイムアウトは異なります。アクティビティー・タイムアウトは、アクティビティーがエンドポイントで要求を呼び出してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。アクティビティー・タイムアウトは、「HTTP: POST 要求 (HTTP Post Request)」アクティビティーの「再試行」タスクに設定します。</p>

フィールド名	説明
プロキシー - 以下の「プロキシー」フィールドは、「リモート・サーバー」オプションを選択した場合のみ、使用可能になります。	
ログイン	説明
匿名ユーザーとしてサーバーにログイン	「リモート・サーバー」オプションを選択した場合にのみ有効です。このオプションは、HTTP サーバーに匿名で接続するとき (この場合はユーザー・アカウントが不要) に選択します。
ユーザー名とパスワードを使用してサーバーにログイン	「リモート・サーバー」オプションを選択した場合にのみ有効です。このオプションは、ユーザー・アカウントを使用して HTTP サーバーに接続するときを選択します。「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。
認証	<p>統合アプライアンスがリモート・サーバーへの接続時に使用する認証のタイプを選択できます。ドロップダウン・リストから、次のいずれかの認証オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本 (Basic) - 指定したユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーへ送信します。これは、最も保護レベルの低い認証スキーマです。 • ダイジェスト (Digest) - 指定したユーザー名とパスワードを、サーバーへ送信する前に暗号化します。これは、「基本 (Basic)」認証より保護レベルの高い認証オプションです。 • NTLM - サーバーのドメイン・ネームで NTCredentials のインスタンスを使用可能にすることを要求します。統合アプライアンスは接続を認証して要求を認証しないため、この認証は最も保護レベルの高い認証オプションです。そのため、統合アプライアンスは、新しい接続が確立されるたびに認証を行います。認証プロセス中は、接続を開いたままにしておく必要があります。NTLM を使用して、プロキシーとサーバーの両方で認証を行うことはできません。 注: ユーザー名にドメインの接頭部を付けないでください。
レルム/ドメイン	認証オプションとして「基本 (Basic)」または「ダイジェスト (Digest)」を選択した場合は、レルムを指定してください。認証オプションとして「NTLM」を選択した場合は、ドメインを指定してください。
ユーザー名	「リモート・サーバー」オプションの場合にのみ使用可能 - HTTP サーバーへ接続するために使用するアカウントの「ユーザー名」を指定します。
パスワード	「リモート・サーバー」オプションの場合にのみ使用可能 - HTTP サーバーへ接続するために使用するアカウントの「パスワード」を指定します。
セキュリティー	説明

フィールド名	説明
なし	セキュリティーが不要な場合は、「なし」オプションを選択します。
接続タイムアウト - 以下の「接続」フィールドは、「リモート・サーバー」オプションを選択した場合にのみ、使用可能になります。	
エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります。	統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答するまでに要する時間の間で、タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。HTTP アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に HTTP サーバーへの接続の確立を試行する時間です。アクティビティー・タイムアウトはエンドポイントへの接続が既に確立された後に発生するため、接続タイムアウトとアクティビティー・タイムアウトは異なります。アクティビティー・タイムアウトは、アクティビティーがエンドポイントで要求を呼び出してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。アクティビティー・タイムアウトは、「HTTP: POST 要求 (HTTP Post Request)」アクティビティーの「再試行」タスクに設定します。
ホスト	プロキシ・サーバーのホスト名を指定します。このフィールドは必須です。
ポート	プロキシ・サーバーへの接続に使用されるポート番号を指定します。このフィールドは必須です。
ユーザー名	プロキシ・サーバー認証に使用するユーザー名を指定します。プロキシ・サーバーが認証を必要としない場合、このフィールドはオプションです。
パスワード	プロキシ・サーバー認証に使用するパスワードを指定します。プロキシ・サーバーが認証を必要としない場合、このフィールドはオプションです。

注: エンドポイントの一部のフィールドでは、フィールドに値を指定するための構成プロパティーを定義できます。構成プロパティーをサポートするフィールドをクリックしたときに、同じタイプの構成プロパティーがプロジェクトで既に構成されている場合は、



アイコンが表示されます。

親トピック: [HTTP アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

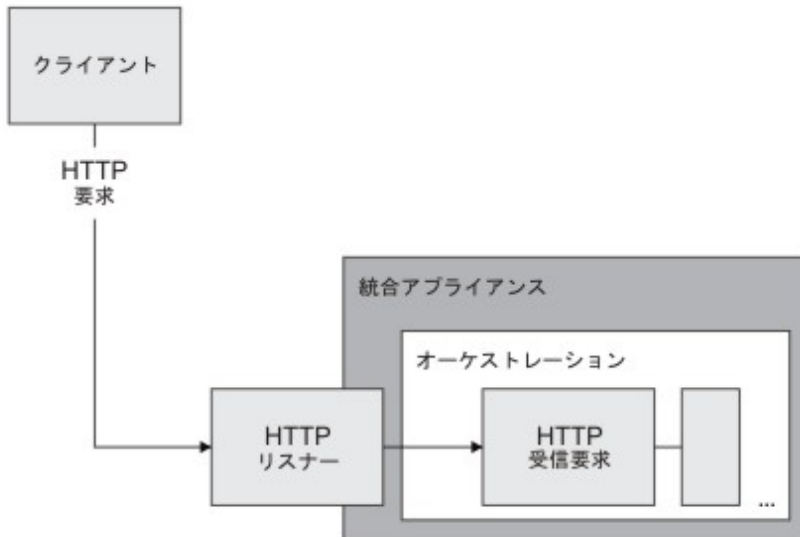
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_create_edit_endpoint.html

「HTTP 受信要求」 アクティビティ

「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティを使用して、統合アプライアンスが HTTP リスナーとして機能するように構成します。

次の図は、HTTP リスナーとして機能する統合アプライアンスを示しています。

図 1.



「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティは、スターター・アクティビティです。「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティから開始されるオーケストレーションが統合アプライアンスにデプロイされると、統合アプライアンスは HTTP 要求を待機する HTTP リスナーとして機能します。HTTP 要求の受信時に、以下のアクションが実行されます。

1. オーケストレーション・ジョブが開始されます。
2. 「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティが、着信 HTTP 要求を処理し、HTTP 要求をアクティビティの出力パラメーターにマップします。
3. 出力パラメーターは、指定されたオーケストレーション変数にマップされます。「チェックリスト」の「出力のマップ」タスクでの設計時に、出力パラメーターとオーケストレーション変数間のマッピングが定義されます。
4. オーケストレーション内の残りのアクティビティが処理されます。(オーケストレーションのグラフィカル表現では、残りのアクティビティは、「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティの右側にあるアクティビティです。)

デフォルトでは、「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティの圧縮解除は使用可能に設定されます。詳しくは、『[「HTTP 受信要求」アクティビティによる圧縮解除](#)』を参照してください。

同じエンドポイント詳細、URL、およびメソッドを用いて、2つの「HTTP 受信要求」アクティビティをアプライアンスにデプロイすることはできません。

単一の「HTTP 受信要求」アクティビティの場合

1つの URL に対して1つの「HTTP 受信要求」アクティビティのみをデプロイすると、オーケストレーションは、このベース URL で始まる URL のすべての要求を受け入れます。例えば、/customer をデプロイすると、オーケストレーションは、/customer、/customer/21、/customer/21/dept などの要求を受け入れます。

パス・パラメーターをとまなう URL に対して「HTTP 受信要求」アクティビティをデプロイすると、オーケストレーションは、パス・パラメーターの値で構成された URL に一致する URL の要求のみ受け入れます。例えば、/customer/{custid} をデプロイすると、オーケストレーションは、

/customer/10、/customer/21、/customer/dept などの要求を受け入れます。

/customer、/customer/21/dept などの URL は受け入れません。

複数の「HTTP 受信要求」アクティビティーの場合

同じベース URL で構成された 2 つの「HTTP 受信要求」アクティビティーをデプロイし、一方がパス・パラメーターをとまなう場合、アクティビティーは、構成された URL に厳密に一致する URL の要求を受け入れます。例えば、/customer と /customer/{path parameter} をデプロイし、/customer が呼び出された場合、要求は /customer で構成されたアクティビティーに渡されます。/customer/007 が呼び出された場合、要求は /customer/{path parameter} で構成されたアクティビティーに渡されます。また、/customer/dept/1 または /customer/12/21 という URL が呼び出された場合は、どのアクティビティーもこの要求を受け入れません。

注: 2 つのアクティビティーのうち、最初のアクティビティーを /customer/department としてデプロイし、2 番目のアクティビティーを /customer/{path parameter} としてデプロイする場合、/customer/department が呼び出されると、要求は最初にデプロイされたアクティビティー (/customer/department) に渡されます。/customer/{path parameter} を最初にデプロイすると、要求は /customer/{path parameter} に渡されます。

注: Web サービスと HTTP に同じ URL をデプロイしないことも推奨されています。

ベース URL - パス・パラメーターの前にある URL の部分。例えば、/employee/manager/{id} という URL を構成した場合、ベース URL は /employee/manager です。

「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、HTTP フォルダーを展開します。
3. 「要求の受信」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示され、「プロパティー」ペインで「要約」タスクがアクティブになります。「プロパティー」ペインは、ワークスペース内のオーケストレーションのグラフィカル表現の下にあります。

HTTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. HTTP エンドポイントを作成または編集します。『HTTP エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

アクティビティの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールド	説明
URL (ホスト名の後のパス)	<p>統合アプライアンスがインバウンド HTTP 要求を listen するリソース・パス (例: /mypath) を指定します。このフィールドに指定するストリングからは、ストリング http://、ホスト名、および統合アプライアンスのポート番号を除外する必要があります。統合アプライアンスがインバウンド HTTP 要求の listen に使用する完全な URL は、統合アプライアンスのホスト名、HTTP エンドポイントで指定されたポート番号、およびこのフィールドに指定されたパスから、自動的に構成されます。例えば、統合アプライアンスが HTTP 要求を listen する完全な URL が http://myAR:myPort/myPath である場合、このフィールドには、ストリング /myPath を指定するだけで済みます。指定するパスは、同じポートを使用して同じ統合アプライアンス上に同時にデプロイされた「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティについて固有である必要があります。</p> <p>パス・パラメーターと照会パラメーターを使用するには、URL を url/{path}?name1=value1&name2=value2 という形式で入力します。これにより、「{path}」パラメーターにストリング値をマップし、照会パラメーター名 (この例では、「name1」および「name2」) を指定できます。複数の「{path}」パラメーターを宣言することを選択する場合、各パラメーターに固有の名前を付けることを推奨します。同じ名前のパラメーターは、マップの 1 つのノードのみによって表されます。パス・パラメーターは、「出力のマップ」の /httpheaders/pathParameters に表示されます。照会パラメーターは、「出力のマップ」の /httpheaders/queryParameters に表示されます。</p> <p>注: URL で照会パラメーターに割り当てた値はマップに渡されません。この値は、実際の着信要求に基づいてサーバーから送信されます。</p> <p>注: 統合アプライアンスがインバウンド HTTP 要求を listen するパスは、指定されたリソース・パス・ストリングであり、統合アプライアンス上の実際のディレクトリー・パスには対応しません。</p>
メソッド	listen しているサーバーがどの HTTP メソッドを受け入れるのかを指定します。
タイプ	HTTP 要求の予期されたメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。
応答が必要	<p>応答を要求の送信者に送信する必要があるかどうかを指定します。</p> <p>注: このチェック・ボックスを選択した場合は、オーケストレーションに「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」アクティビティを追加して、構成する必要があります。</p>

フ イ ー ル ド	説明
圧 縮 / 圧 縮 解 除 の 使 用	アクティビティー・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするかオフにするかを指定します。デフォルトでは「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスはクリアされ、このアクティビティーの圧縮/圧縮解除は使用不可に設定されます。このアクティビティーの圧縮/圧縮解除を使用可能にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『 「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティーによる圧縮/圧縮解除 』を参照してください。

要求ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「要求ヘッダー」タスクを選択します。「要求ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視されます)は許可されておらず、「カスタム・ヘッダー」表内のすべての重複ヘッダーを削除するよう指示するプロンプトが出される可能性があることに注意してください。選択した HTTP ヘッダーが、「出力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

アクティビティーの出力のマッピング

- 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。次の表で説明しているように、このアクティビティーの出力パラメーターが、「出力のマップ」タスクの「アクティビティーから」ペインに表示されます。

表 2.

出力パラメーター	説明
httpheaders	HTTP 要求のヘッダーを指定します。
body	HTTP 要求メッセージの本文を指定します。

以下の表は、オプションの httpheaders 出力パラメーターのノードを定義したものです。

表 3.


httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	着信要求のリソース・パス(例: /myPath)を指定します。

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/method	HTTP 要求のタイプを指定します。
httpheaders/host	クライアントの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。
httpheaders/<configured_header_name>	「要求ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの要求ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/pathParameters	「構成」ステップの URL でパス・パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。パス・パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/queryParameters	「構成」ステップの URL で照会パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。照会パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティーの 1 つ以上の出力パラメーターと 1 つ以上のオーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。
注: 「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティーから開始されるオーケストレーションをテストするため、Studio のインストール済み環境に組み込まれている HTTP Post ユーティリティを使用し、実行時に HTTP 要求を listen 中の統合アプライアンスに送信できます。HTTP Post ユーティリティにアクセスするには、「スタート」メニューから「プログラム」>「IBM」>「Cast Iron Studio」>「HTTP Post ユーティリティ」オプションを選択します。「インバウンド・コネクターの URL」フィールドに指定する URL には、完全な URL (例: http://myAR:myPort/myPath) が含まれている必要があります。

親トピック: [HTTP アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_receive_request_activity.html

「HTTP 受信要求」アクティビティーによる圧縮解除

「HTTP 受信要求」アクティビティーでは、gzip 形式を使用した圧縮解除のみがサポートされます。「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティーは、デフレート形式や、compress と呼ばれる UNIX ファイルの一般的な圧縮形式をサポートしていません。

「HTTP 受信要求」アクティビティーでは、HTTP/HTTPS 1.0 プロトコルを使用した HTTP 要求の受信のみがサポートされます。

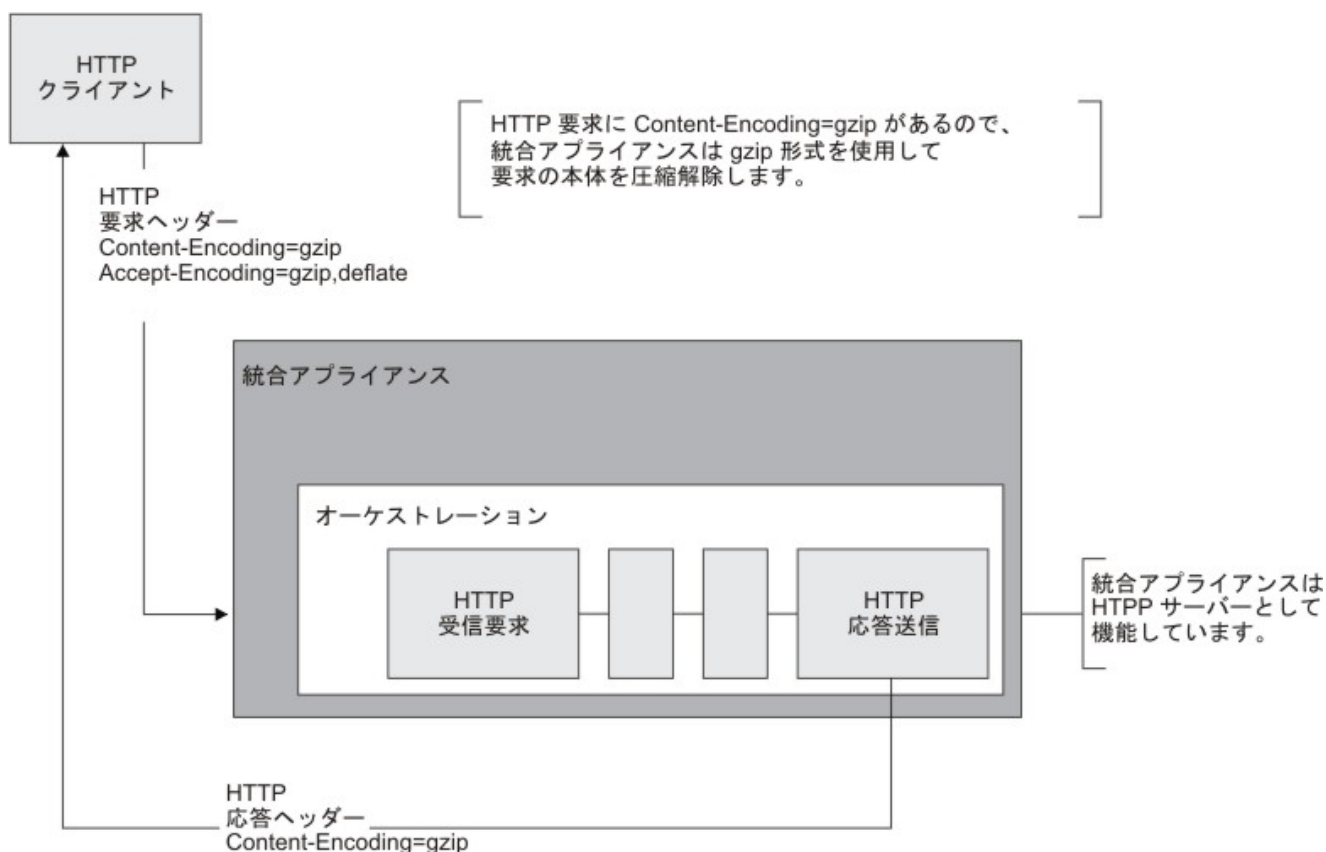
HTTP 要求の受信時の「HTTP 受信要求」アクティビティーによる圧縮解除実行時動作は、以下の条件によって異なります。

- [メッセージ・レベルでの Content-Encoding の値](#)
- [アクティビティー・レベルでの「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定](#)

これらの条件が「HTTP 受信要求」アクティビティーの圧縮解除実行時動作に与える影響については、以下のセクションおよび『[実行時の圧縮解除動作](#)』セクションの表に説明があります。

メッセージ・レベルでの Content-Encoding の値

次の図に示すように、HTTP 要求の Content-Encoding HTTP ヘッダー・パラメーターの値を使用して、HTTP クライアントから受信した HTTP 要求の本体を統合アプライアンスが圧縮解除するかどうかを決定できます。



Content-Encoding ヘッダーの値は、『[実行時の圧縮解除動作](#)』セクションに示した表の 2 列目の「Content-Encoding の値」というラベルの列に表示されています。

アクティビティー・レベルでの圧縮解除の設定

「HTTP 受信要求」アクティビティーのデフォルトでは、圧縮解除はアクティビティー・レベルでオンに設定されています。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択して、アクティビティー・レベルでの圧縮

解除をオフに設定できます。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、アクティビティの「構成」タスクで使用できます。『[実行時の圧縮解除動作](#)』セクションに示した表の1列目の「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックス」というラベルの列は、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定を示しています。

実行時の圧縮解除動作

次の表は、統合アプライアンスが HTTP クライアントから HTTP 要求を受信したときの、実行時の圧縮解除動作を示しています。

「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックス(アクティビティ・レベル)	Content-Encoding の値(メッセージ・レベル)	統合アプライアンスの実行時圧縮解除動作
選択	gzip	統合アプライアンスは、gzip 形式を使用して要求の本体を圧縮解除します。Content-Encoding の値は、アクティビティから返された httpheaders 出力パラメーターで gzip に設定されます。
選択	設定されていない	統合アプライアンスは要求の本体をそのまま(変更せずに)送信します。アクティビティから返された httpheaders 出力パラメーターに Content-Encoding の値は設定されていません。
選択	identity	統合アプライアンスは要求の本体を圧縮解除しません。Content-Encoding の値は、アクティビティから返された httpheaders 出力パラメーターで identity に設定されます。
選択	gzip または identity 以外のストリング	統合アプライアンスは 415 (サポートされないメディア・タイプ) 応答コードを送信します。
クリア	値は無効	統合アプライアンスは要求の本体を圧縮解除しません。要求内の Content-Encoding の現行値がアクティビティの httpheaders 出力パラメーターにそのまま渡されます。例えば、Content-Encoding の値が gzip に設定され、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスがクリアされている場合、統合アプライアンスは要求の本体の圧縮解除を行いませんが、Content-Encoding はアクティビティの httpheaders 出力パラメーターで gzip に設定されます。

注: 「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは将来のリリースで非推奨になります。HTTP 要求の本体の圧縮解除の方法を指定するには、HTTP 要求の中の Content-Encoding HTTP パラメーターを使用してください。

親トピック: [HTTP アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

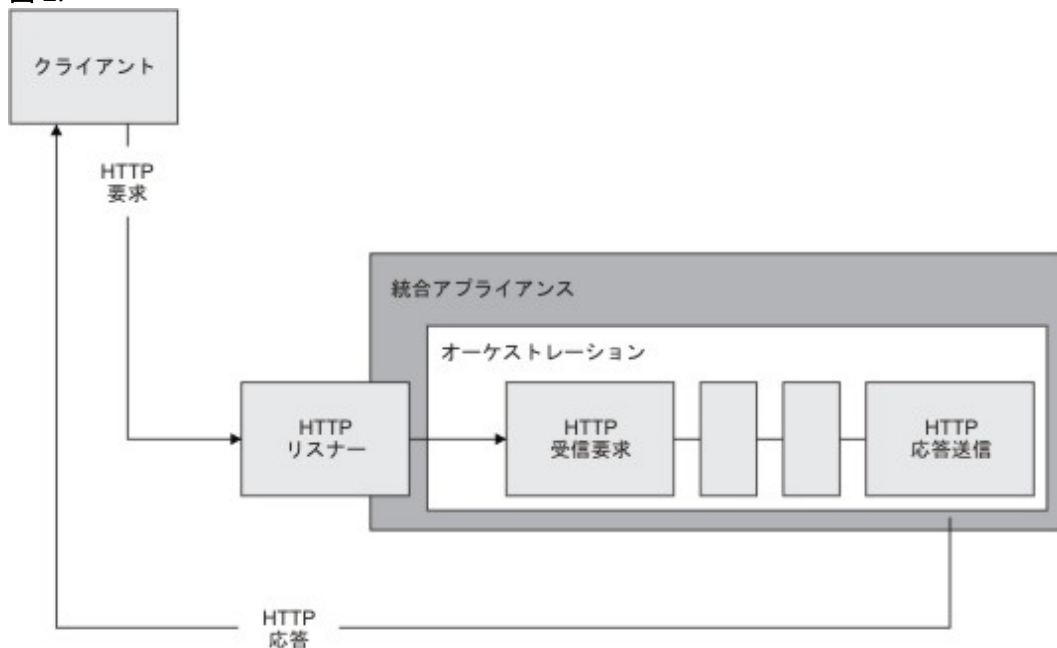
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/decompression_with_the_http_receive_request_activity.html

「HTTP 応答送信」 アクティビティ

「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」 アクティビティは、応答を HTTP 要求の送信者に送信します。

次の図に、応答を HTTP 要求の送信者に送信する「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」 アクティビティを示します。

図 1.



「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」 アクティビティは、前の図に示されているように、オーケストレーション内の「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」 アクティビティとともに使用する必要があります。「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」 アクティビティをオーケストレーションに追加する場合は、「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」 アクティビティの「構成」タスクの「応答が必要」チェック・ボックスを選択する必要があります。

デフォルトでは、「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」 アクティビティの圧縮は使用可能になっていません。詳しくは、『「HTTP 応答送信」 アクティビティによる圧縮/圧縮解除』を参照してください。

「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」 アクティビティのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、HTTP フォルダーを展開します。
3. 「応答の送信」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。

4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示され、「プロパティー」ペインで「構成」タスクがアクティブになります。「プロパティー」ペインは、オーケストレーションのグラフィカル表現の下にあります。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールド	説明
宛先	この「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」アクティビティーに関連付けられている「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティーを指定します。実行時には、関連付けられた「HTTP 要求の受信 (HTTP Receive Request)」アクティビティーがクライアントから要求を受信し、「HTTP 応答の送信 (HTTP Send Response)」アクティビティーがクライアントに応答を送信します。 注: このフィールドにデータが取り込まれるのは、「HTTP 受信要求」アクティビティーの「構成」タスクの「応答が必要」チェック・ボックスを選択した場合のみです。
タイプ	HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。
圧縮 / 圧縮解除の使用	アクティビティー・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするかオフにするかを指定します。デフォルトでは「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスはクリアされ、このアクティビティーの圧縮/圧縮解除は使用不可に設定されます。このアクティビティーの圧縮/圧縮解除を使用可能にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『 「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティーによる圧縮/圧縮解除 』を参照してください。

応答ヘッダーの指定

1. 「チェックリスト」から「応答ヘッダー」タスクを選択します。「応答ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
2. 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリーをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
3. 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複 (大文字/小文字の違いは無視される) は許可されていま

せん。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されま
す。選択した HTTP ヘッダーが、「入力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

アクティビティーへの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクの「アクテ
ィビティーへ」ペインに body 入力パラメーターが表示されます。body 入力パラメーターは必須であ
り、少なくとも 1 つの変数をこのパラメーターにマップする必要があります。body 入力パラメーターに
は、クライアントに送信された HTTP 応答メッセージの本文が含まれます。
2. 「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインで オプション入力パラメーターを表示するに
は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、また
は「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを
選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを
選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティ
ブにします。httpheaders 入力パラメーターが表示されます。

以下の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを定義したものです。

表 2.

http head ers 入 力 パ ラ メ ー タ ー の ノ ード	説明
http eade rs/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
http eade rs/m etho d	HTTP 応答のタイプ (例: POST) を指定します。
http eade rs/Vi a	「HTTP 受信」と「HTTP 応答の送信」の間に存在する各アクティビティーに要した時間が含ま れます。例えば、FTP Put(uploadfile):50ms;Send Email(postinfo):30ms; のようにな ります。この場合、2 つのアクティビティー「FTP PUT」と「Eメールの送信」が、「HTTP 受信」アクティビティーと「HTTP 応答の送信」アクティビティーの間に存在します。このた め、ジョブが処理されるときに、Via ヘッダー応答にはこの値が含まれます。これは、アクテ ィビティーを完了するのに、「FTP PUT」アクティビティーは 50 ミリ秒かかり、「Eメールの送 信」アクティビティーは 30 ミリ秒かかることを意味します。

http head ers 入 力 パ ラ メ ー タ ー の ノ ード	説明
httphead ers/<c onfig ured _hea der_n ame >	「応答ヘッダー」のステップで少なくとも1つの応答ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httphead ers/ot herH eade rs/he aderI tem	HTTP 応答の名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、これは繰り返しノードになります。
httphead ers/ot herH eade rs/he aderI tem/ name	HTTP パラメーターの名前を指定します。
httphead ers/ot herH eade rs/he aderI tem/ value	HTTP パラメーターの値を指定します。

3. 1 つ以上のオーケストレーション変数と 1 つ以上の入力パラメーターとの間のマップを作成します。マップpingの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。


Microsoft Internet Explorer での証明書の使用

HTTP エンドポイントで HTTPS セキュリティー・オプションを選択した場合は、Microsoft Internet Explorer が、変更された証明書を認識せず、SSL 状態をキャッシュに入れることに注意してください。証明書を変更する場合は、SSL 状態をクリアする必要があります。Microsoft Internet Explorer で SSL 状態をクリアするには、以下のようにします。

1. Microsoft Internet Explorer のツールバー・メニューから、「ツール」 > 「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ペインが表示されます。
2. 「コンテンツ」タブをクリックします。
3. 「証明書」セクションで「SSL 状態のクリア」をクリックします。「SSL キャッシュは正常に消去されました」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックして、「OK」をクリックします。

親トピック: [HTTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_send_response_activity.html

「HTTP 応答送信」 アクティビティによる圧縮/圧縮解除

実行時に、「HTTP 応答送信」アクティビティは、HTTP/HTTPS 1.0 プロトコルに準拠する HTTP 応答を HTTP クライアントに送信します。

注: 「HTTP 応答送信」アクティビティは、gzip 形式を使用した圧縮のみをサポートします。これは、deflate 形式や、UNIX で一般的な compress と呼ばれるファイル圧縮形式はサポートしていません。

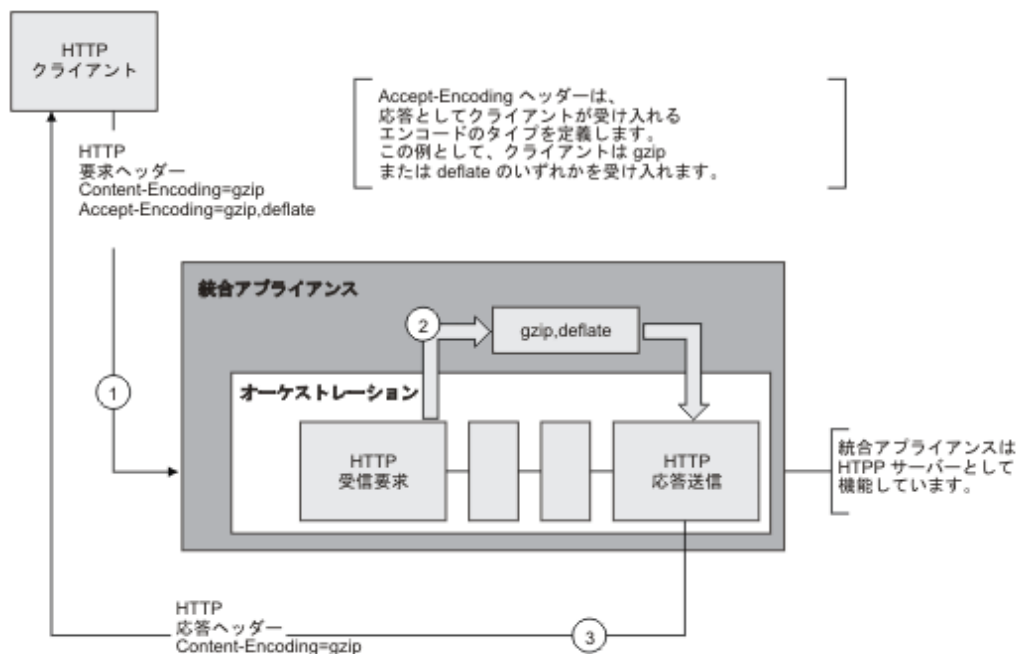
「HTTP 応答送信」アクティビティの圧縮実行時の動作は、以下の条件に応じて決まります。

- 以下の図に示すように、メッセージ・レベルでは、「HTTP 受信要求」アクティビティによって受信されたオリジナルの HTTP 要求の Accept-Encoding ヘッダーの値が「HTTP 応答送信」アクティビティに渡され、HTTP 応答の本体を圧縮するかどうかが決まります。
- アクティビティ・レベルの「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定

これらの条件が「HTTP 応答送信」アクティビティの圧縮実行時動作に与える影響については、以降のセクションおよび『[実行時の圧縮動作](#)』セクションの表に説明があります。

メッセージ・レベルでの Accept-Encoding の値

実行時に、「HTTP 受信要求」アクティビティは、HTTP クライアントから HTTP 要求を受信します。同じオーケストレーションで、「HTTP 応答送信」アクティビティは、HTTP 応答をオリジナルのクライアントに戻します。「HTTP 受信要求」アクティビティによって受信されたオリジナルの要求の Accept-Encoding ヘッダーの値は、統合アプライアンスに内部的に格納されます。格納された値は、「HTTP 応答送信」アクティビティに渡され、以下の図に示すように、応答の本体を圧縮するかどうかの決定や、エンコード・タイプの判別に使用されます。



Content-Encoding または Accept-Encoding ヘッダーの値が、「HTTP 応答送信」アクティビティのオプションの httpheaders 入力パラメータを使用して明示的に設定されている場合、これらの新規値が、要求を介して渡されたヘッダーのデフォルト設定をオーバーライドします。例えば、Accept-Encoding が要求で gzip, deflate に設定されているが、「HTTP 応答送信」アクティビティの httpheaders 入力パラメータで明示的に ID に設定されている場合、統合アプライアンスは応答の本体を圧縮しません。

Accept-Encoding ヘッダーを明示的に設定するには、「HTTP POST 要求」アクティビティの「入力のマップ」タスクの headerItem ノードに、以下の値を指定します。

- スtring Accept-Encoding には、httpheaders/httpheaders/otherHeaders/headerItem/name と設定します。
- エンコード・タイプ (例えば String identity) には、httpheaders/httpheaders/otherHeaders/headerItem/value と設定します。

アクティビティ・レベルでの圧縮/圧縮解除の設定

デフォルトでは、圧縮は「HTTP 応答送信」アクティビティのアクティビティ・レベルでオンになっています。アクティビティ・レベルで圧縮をオフにするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの選択を解除します。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、アクティビティの「構成」タスクで使用できます。以下の表の「HTTP 圧縮 CLI コマンド」というラベルの第 2 列は、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定を表します。

ランタイムの圧縮動作

次の表は、統合アプライアンスが HTTP 応答を HTTP クライアントに送信するときの圧縮実行時の動作を説明しています。

「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックス (アクティビティ・レベル)	HTTP 要求の Accept-Encoding 値 (メッセージ・レベル)	統合アプライアンスの圧縮実行時の動作

「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックス (アクティビティ・レベル)	HTTP 要求の Accept-Encoding 値 (メッセージ・レベル)	統合アプライアンスの圧縮実行時の動作
選択	gzip または gzip,deflate	統合アプライアンスは、gzip 形式で圧縮された応答の本体を送信し、Content-Encoding ヘッダーは応答で gzip に設定されます。
選択	identity	統合アプライアンスは、圧縮解除された応答の本体を送信し、Content-Encoding ヘッダーは応答で ID に設定されます。
選択	設定しない、あるいは gzip、ID 以外のストリング	統合アプライアンスは、圧縮解除された応答の本体を送信し、Content-Encoding ヘッダーは応答で ID に設定されます。
クリア	値は無効	統合アプライアンスは、応答の本体を現状のまま (変更せずに) 送信し、Content-Encoding ヘッダーは応答で現状のままです。(要求内の Content-Encoding ヘッダーの値は、未変更のまま応答に渡されます。)

注: 「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは将来のリリースで非推奨になります。HTTP 要求本体の圧縮解除方法と、HTTP 応答本体の圧縮方法を指定するには、HTTP 要求の HTTP パラメーター、Content-Encoding および Accept-Encoding を使用してください。

親トピック: [HTTP アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/compression_with_the_http_send_response_activity.html

「HTTP: POST 要求」アクティビティ

「HTTP POST 要求」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に POST 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

「HTTP: POST 要求 (HTTP Post Request)」アクティビティのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、HTTP フォルダーを展開します。
3. 「POST 要求」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティを選択します。チェックリストが表示されます。

HTTP エンドポイントの作成、選択または編集

- 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
- HTTP エンドポイントを作成または編集します。『[HTTP エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

アクティビティの構成

- 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
- 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールドまたはチェック・ボックス	説明

フィールドまたはチェックボックス	説明
URL (ホスト名の後のパス)	<p>「POST 要求」アクティビティが要求を送信する先のリソース・パス (例: /mypath) を指定します。このフィールドに指定する文字列からは、文字列 http://、ホスト名、および統合アプライアンスのポート番号を除外する必要があります。統合アプライアンスのホスト名、HTTP エンドポイントで指定されたポート番号、およびこのフィールドに指定されたパスから、完全な URL が自動的に構成されます。例えば、「POST 要求」アクティビティが要求を送信する先の完全な URL が http://myAR:myPort/myPath である場合、このフィールドには、文字列 /myPath を指定するだけで済みます。指定するパスは、同じポートを使用して同じ統合アプライアンス上に同時にデプロイされた「POST 要求」アクティビティについて固有である必要があります。</p> <p>パス・パラメーターと照会パラメーターを使用するには、URL を url/{path}?name1=value1&name2=value2 という形式で入力します。これにより、「{path}」パラメーターに文字列値をマップし、照会パラメーター名 (この例では、「name1」および「name2」) を指定できます。複数の「{path}」パラメーターを宣言することを選択する場合は、各パラメーターに固有の名前を付けてください。同じ名前のパラメーターは、マップの 1 つのノードのみによって表されます。パス・パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/pathParameters に表示されます。照会パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/queryParameters に表示されます。</p> <p>注: URL で照会パラメーターに割り当てた値はマップパーに渡されません。照会パラメーターに値を割り当てるには、マップパーで照会パラメーターに明示的に値をマップするか、デフォルト値を定義してください。</p>
要求メッセージのタイプ (Where Request Message is Of Type)	HTTP 要求の予期されたメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。

<p>フィールドまたはチェック・ボックス</p>	<p>説明</p>
<p>応答メッセージのタイプ (Where Reply Message is Of Type)</p>	<p>HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。</p>
<p>オーケストレーション・ジョブの処理を停止または処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す</p>	<p>HTTP サーバーからエラー応答が返された場合のアクティビティの実行時動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オーケストレーション・ジョブの処理を停止 - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を停止する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーションは「POST 要求 (Post Request)」アクティビティ内の処理を停止します。オーケストレーション内の「POST 要求 (Post Request)」アクティビティの後のアクティビティは処理されず、失敗の例外がスローされます。 ○ 処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を続行する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーション・ジョブはオーケストレーション内の「POST 要求 (Post Request)」アクティビティの後のアクティビティの処理を続行し、エラー応答コードとエラー応答メッセージがそれぞれ、responsecode および responsemessage 出力パラメーターに返されます。

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
圧縮/圧縮解除の使用	アクティビティー・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするかオフにするかを指定します。デフォルトでは「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスはクリアされ、このアクティビティーの圧縮/圧縮解除は使用不可に設定されます。このアクティビティーの圧縮/圧縮解除を使用可能にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『 「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティーによる圧縮/圧縮解除 』を参照してください。

要求ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「要求ヘッダー」タスクを選択します。「要求ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視される)は許可されていません。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されません。選択した HTTP ヘッダーが、「入力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

応答ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「応答ヘッダー」タスクを選択します。「応答ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視される)は許可されていません。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されません。選択した HTTP ヘッダーが、「出力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

再試行オプションの指定

- 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
- HTTP サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表は、HTTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

表 2.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに ___ 秒待機します。	統合アプライアンスが HTTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。
2) 失敗するまで ___ 回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが HTTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「HTTP: POST 要求 (HTTP Post Request)」アクティビティーが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の HTTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまで、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスがシステムおよびオーケストレーションのログにエラーを記録し、現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>
アクティビティー・タイムアウト	
3) エンドポイントが要求に応答しないとき、___ 秒後にタイムアウトになります。	<p>アクティビティーがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答するまでに要する時間の間で、タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。「POST 要求 (Post Request)」アクティビティーの場合、アクティビティーのタイムアウトは、統合アプライアンスが HTTP 要求を送信してから、統合アプライアンスがタイムアウト・エラーを発行するまで、HTTP サーバーからの応答を待機する時間です。アクティビティー・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトは、「HTTP エンドポイント (HTTP Endpoint)」タブで設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『HTTP エンドポイントの作成または編集』を参照してください。</p>

アクティビティーへの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクの「アクティビティーへ」ペインに body 入力パラメーターが表示されます。body 入力パラメーターは必須であ

り、少なくとも1つの変数をこのパラメーターにマップする必要があります。body 入力パラメーターには、HTTP サーバーに送信された HTTP 要求メッセージの本文が含まれます。

2. 「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインでオプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。httpheaders および httpConnParameter 入力パラメーターが表示されます。以下の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを定義したものです。

表 3.

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「要求ヘッダー」のステップで少なくとも1つの要求ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/pathParameters	「構成」ステップの URL でパス・パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。パス・パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/query Parameters	「構成」ステップの URL で照会パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。照会パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。

注: Content-Length ヘッダーが httpheaders/otherHeaders/headerItem/name および httpheaders/otherHeaders/headerItem/value を使用して明示的に設定された場合、この値は実行時には無視されます。このアクティビティーは、Content-Length ヘッダーを自動的に本文のサイズに設定します。

以下の表は、オプションの httpConnParameter 入力パラメーターのノードを定義したものです。オプションで、次の表に指定されているノードに変数の値を渡すことによって、「チェックリスト」の「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。例えば、実行時に、変数を httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードにマップすることによって、エンドポイントに指定された「ホスト名」を指定変更できます。その変数の値は実行時に、HTTP サーバーへ接続するために使用されたホスト名になります。

表 4.

httpConnParameter 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される HTTP エンドポイントの設定
timeout	タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。	
host	リモート HTTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードは、HTTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。
port	リモート HTTP サーバーのポート番号を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの port ノードは、HTTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
isSecure	HTTPS (SSL を使用するセキュアな HTTP) を使用可能にするには、このブール値を、true に評価されるように設定します。セキュリティーを使用不可にするには、このブール値を、false に評価されるように設定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの isSecure ノードは、HTTP エンドポイントの「セキュリティー」オプションを指定変更します。
username	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの username ノードは、HTTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
password	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの password ノードは、HTTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

3. 1 つ以上のオーケストレーション変数と 1 つ以上の入力パラメーターとの間のマップを作成します。マップの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティの出力のマップ

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。次の表で説明しているように、このアクティビティの出力パラメーターが、「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 5.

出力パラメーター	説明
httpheaders	HTTP 応答のヘッダーを指定します。
body	HTTP 応答メッセージの本文を指定します。
responsecode	実行時に HTTP サーバーから返される HTTP 応答コードを指定します。
responsemessage	HTTP 応答コードに関連付けられたメッセージを指定します。

以下の表は、httpheaders 出力パラメーターのノードを定義したものです。

表 6.

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「応答ヘッダー」のステップで少なくとも1つの応答ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	HTTP 応答の HTTP パラメーターを含む一連の名前と値のペアを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、headerItem は繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティの1つ以上の出力パラメーターと1つ以上のオーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。


Microsoft Internet Explorer での証明書の使用

HTTP エンドポイントで HTTPS セキュリティー・オプションを選択した場合は、Microsoft Internet Explorer が、変更された証明書を認識せず、SSL 状態をキャッシュに入れることに注意してください。証明書を変更する場合は、SSL 状態をクリアする必要があります。Microsoft Internet Explorer で SSL 状態をクリアするには、以下のようにします。

1. Microsoft Internet Explorer のツールバー・メニューから、「ツール」 > 「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ペインが表示されます。
2. 「コンテンツ」タブをクリックします。
3. 「証明書」セクションで「SSL 状態のクリア」をクリックします。「SSL キャッシュは正常に消去されました」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックして、「OK」をクリックします。

親トピック: [HTTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_post_request_activity.html

「HTTP GET 要求」 アクティビティ

「HTTP Get 要求」アクティビティーは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に GET 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

「HTTP 要求の取得 (HTTP Get Request)」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、HTTP フォルダーを展開します。
3. 「要求の取得」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

HTTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. HTTP エンドポイントを作成するか、または編集します。『HTTP エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
-------------------	----

フィールドまたはチェックボックス	説明
URL (ホスト名の後のパス)	<p>「GET 要求」アクティビティーが要求を送信する先のリソース・パス (例: /mypath) を指定します。このフィールドに指定する文字列からは、文字列 http://、ホスト名、および統合アプライアンスのポート番号を除外する必要があります。統合アプライアンスのホスト名、HTTP エンドポイントで指定されたポート番号、およびこのフィールドに指定されたパスから、完全な URL が自動的に構成されます。例えば、「GET 要求」アクティビティーが要求を送信する先の完全な URL が http://myAR:myPort/myPath である場合、このフィールドには、文字列 /myPath を指定するだけで済みます。指定するパスは、同じポートを使用して同じ統合アプライアンス上に同時にデプロイされた「要求の取得」アクティビティーについて固有である必要があります。</p> <p>パス・パラメーターと照会パラメーターを使用するには、URL を url/{path}?name1=value1&name2=value2 という形式で入力します。これにより、「{path}」パラメーターに文字列値をマップし、照会パラメーター名 (この例では、「name1」および「name2」) を指定できます。複数の「{path}」パラメーターを宣言することを選択する場合、各パラメーターに固有の名前を付けることを推奨します。同じ名前のパラメーターは、マップの 1 つのノードのみによって表されます。パス・パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/pathParameters に表示されます。また、照会パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/queryParameters に表示されます。</p> <p>注: URL で照会パラメーターに割り当てた値はマップパーに渡されません。照会パラメーターに値を割り当てるには、マップパーで照会パラメーターに明示的に値をマップするか、デフォルト値を定義してください。</p>
要求メッセージのタイプ (Where Request Message is Of Type)	HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
応答メッセージのタイプ (Where Reply Message is Of Type)	HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。
オーケストレーション・ジョブの処理を停止または処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す	<p>HTTP サーバーからエラー応答が返された場合のアクティビティの実行時動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オーケストレーション・ジョブの処理を停止 - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を停止する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーションは「HTTP: 要求の取得 (HTTP Get Request)」アクティビティ内の処理を停止します。オーケストレーション内の「HTTP: 要求の取得 (HTTP Get Request)」アクティビティの後のアクティビティは処理されず、失敗の例外がスローされます。 ○ 処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を続行する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーション・ジョブはオーケストレーション内の「HTTP: 要求の取得 (HTTP Get Request)」アクティビティの後のアクティビティの処理を続行し、エラー応答コードとエラー応答メッセージがそれぞれ、responsecode および responsemessage 出力パラメーターに返されます。

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
圧縮/圧縮解除の使用	アクティビティ・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするかオフにするかを指定します。デフォルトでは「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスはクリアされ、このアクティビティの圧縮/圧縮解除は使用不可に設定されます。このアクティビティの圧縮/圧縮解除を使用可能にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『 「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティによる圧縮/圧縮解除 』を参照してください。

要求ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「要求ヘッダー」タスクを選択します。「要求ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視されます)は許可されておらず、「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、その削除を指示するプロンプトが出されます。選択した HTTP ヘッダーが、「入力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

応答ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「応答ヘッダー」タスクを選択します。「応答ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視されます)は許可されておらず、「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、その削除を指示するプロンプトが出されます。選択した HTTP ヘッダーが、「出力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

再試行オプションの指定

- 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
- HTTP サーバーに接続するように再試行オプションを構成します。以下の表は、HTTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに__秒待機します。	HTTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに、統合アプライアンスが待機する時間 (秒) を指定します。
2) 失敗するまで __ 回の接続を試みます。	再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが HTTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。「 HTTP: 要求の取得 (HTTP Get Request) 」アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の HTTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまで、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。
3) エンドポイントが要求に 응답しないとき、__ 秒後にタイムアウトになります。	アクティビティがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。「 HTTP: 要求の取得 (HTTP Get Request) 」アクティビティの場合、アクティビティのタイムアウトは、統合アプライアンスが HTTP 要求を送信してから、統合アプライアンスがタイムアウト・エラーを発行するまで、HTTP サーバーからの応答を待機する時間です。アクティビティ・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に 응답せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトは、「 HTTP エンドポイント (HTTP Endpoint) 」タブで設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『 Web サービス・エンドポイントの作成または編集 』を参照してください。

アクティビティへの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクの「アクティビティへ」ペインに body 入力パラメーターが表示されます。body 入力パラメーターはオプション

です。body 入力パラメーターには、HTTP サーバーに送信された HTTP 応答メッセージの本文が含まれます。

2. 「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインでオプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。httpheaders および httpConnParameter 入力パラメーターが表示されます。以下の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを定義したものです。

表 2.

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「要求ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの要求ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/pathParameters	「構成」ステップの URL でパス・パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。パス・パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/queryParameters	「構成」ステップの URL で照会パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。照会パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、これは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP パラメーターの値を指定します。

注: Content-Length ヘッダーが httpheaders/otherHeaders/headerItem/name および httpheaders/otherHeaders/headerItem/value を使用して明示的に設定されている場合、この値は実行時には無視されます。このアクティビティーは、Content-Length ヘッダーを自動的に本文のサイズに設定します。

以下の表は、オプションの httpConnParameter 入力パラメーターのノードを定義したものです。オプションで、次の表に指定されているノードに変数の値を渡すことによって、「チェックリスト」の「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。例えば、実行時に、変数を httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードにマップすることによって、エンドポイントに指定された「ホスト名」を指定変更できます。その変数の値は実行時に、HTTP サーバーへ接続するために使用されたホスト名になります。

表 3.

httpConnParameter 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される HTTP エンドポイントの設定
timeout	タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。	
host	リモート HTTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードは、HTTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。
port	リモート HTTP サーバーのポート番号を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの port ノードは、HTTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
isSecure	HTTPS (SSL を使用するセキュアな HTTP) を使用可能にするには、このブール値を、true に評価されるように設定します。セキュリティを使用不可にするには、このブール値を、false に評価されるように設定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの isSecure ノードは、HTTP エンドポイントの「セキュリティ」オプションを指定変更します。
username	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの username ノードは、HTTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
password	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの password ノードは、HTTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

3. 1 つ以上のオーケストレーション変数と 1 つ以上の入力パラメーターとの間のマップを作成します。マップの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティの出力のマップング

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。次の表で説明しているように、このアクティビティの出力パラメーターが、「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 4.

出力パラメーター	説明
httpheaders	HTTP 要求のヘッダーを指定します。
body	HTTP 要求メッセージの本文を指定します。
responsecode	実行時に HTTP サーバーから返される HTTP 応答コードを指定します。
responsemessage	HTTP 応答コードに関連付けられたメッセージを指定します。

以下の表は、オプションの httpheaders 出力パラメーターのノードを定義したものです。

表 5.

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	着信要求のリソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「応答ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの応答ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティーの 1 つ以上の出力パラメーターと 1 つ以上のオーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。


Microsoft Internet Explorer での証明書の使用

HTTP エンドポイントで HTTPS セキュリティー・オプションを選択した場合は、Microsoft Internet Explorer が、変更された証明書を認識せず、SSL 状態をキャッシュに入れることに注意してください。証明書を変更する場合は、SSL 状態をクリアする必要があります。Microsoft Internet Explorer で SSL 状態をクリアするには、以下のようにします。

1. Microsoft Internet Explorer のツールバー・メニューから、「ツール」 > 「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ペインが表示されます。
2. 「コンテンツ」タブをクリックします。
3. 「証明書」セクションで「SSL 状態のクリア」をクリックします。「SSL キャッシュは正常に消去されました」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックして、「OK」をクリックします。

親トピック: [HTTP アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_get_request_activity.html

「HTTP HEAD 要求」アクティビティー

「HTTP HEAD 要求」アクティビティーは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に HEAD 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

オーケストレーションへの「HTTP Head 要求」アクティビティーの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、HTTP フォルダーを展開します。
3. 「HEAD 要求」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

HTTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. HTTP エンドポイントを作成するか、または編集します。『[HTTP エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールドまたはチェック・ボックス	説明

フィールドまたはチェックボックス	説明
URL (ホスト名の後のパス)	<p>「HEAD 要求」アクティビティが要求を送信する先のリソース・パス (例: /mypath) を指定します。このフィールドに指定する文字列からは、文字列 http://、ホスト名、および統合アプライアンスのポート番号を除外する必要があります。統合アプライアンスのホスト名、HTTP エンドポイントで指定されたポート番号、およびこのフィールドに指定されたパスから、完全な URL が自動的に構成されます。例えば、「HEAD 要求」アクティビティが要求を送信する先の完全な URL が http://myAR:myPort/myPath である場合、このフィールドには、文字列 /myPath を指定するだけで済みます。指定するパスは、同じポートを使用して同じ統合アプライアンス上に同時にデプロイされた「HEAD 要求」アクティビティに対して固有である必要があります。</p> <p>パス・パラメーターと照会パラメーターを使用するには、URL を url/{path}?name1=value1&name2=value2 という形式で入力します。これにより、「{path}」パラメーターに文字列値をマップし、照会パラメーター名 (この例では、「name1」および「name2」) を指定できます。複数の「{path}」パラメーターを宣言することを選択する場合は、各パラメーターに固有の名前を付けてください。同じ名前のパラメーターは、マップの 1 つのノードのみによって表されます。パス・パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/pathParameters に表示されます。また、照会パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/queryParameters に表示されます。</p> <p>注: URL で照会パラメーターに割り当てた値はマップパーに渡されません。照会パラメーターに値を割り当てるには、マップパーで照会パラメーターに明示的に値をマップするか、デフォルト値を定義してください。</p>
要求メッセージのタイプ (Where Request Message is Of Type)	HTTP 応答の予期されたメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
オーケストレーション・ジョブの処理を停止または処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す	<p>HTTP サーバーからエラー応答が返された場合のアクティビティの実行時動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オーケストレーション・ジョブの処理を停止 - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を停止する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーションは「HEAD 要求」アクティビティ内の処理を停止します。オーケストレーション内の「HEAD 要求」アクティビティの後のアクティビティは処理されず、失敗の例外がスローされます。 ○ 処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を続行する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーション・ジョブはオーケストレーション内の「HEAD 要求」アクティビティの後のアクティビティの処理を続行し、エラー応答コードとエラー応答メッセージがそれぞれ、responsecode および responsemessage 出力パラメーターに返されます。
圧縮/圧縮解除の使用	<p>アクティビティ・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするかオフにするかを指定します。デフォルトでは「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスはクリアされ、このアクティビティの圧縮/圧縮解除は使用不可に設定されます。このアクティビティの圧縮/圧縮解除を使用可能にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティによる圧縮/圧縮解除』を参照してください。</p>

要求ヘッダーの指定

1. 「チェックリスト」から「要求ヘッダー」タスクを選択します。「要求ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
2. 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。へ

ッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。

- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視されます)は許可されておらず、「カスタム・ヘッダー」表内のすべての重複ヘッダーを削除するよう指示するプロンプトが出される可能性があることに注意してください。選択した HTTP ヘッダーが、「入力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

応答ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「応答ヘッダー」タスクを選択します。「応答ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視される)は許可されていません。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されます。選択した HTTP ヘッダーが、「出力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

再試行オプションの指定

- 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
- HTTP サーバーに接続するように再試行オプションを構成します。以下の表は、HTTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに__秒待機します。	HTTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに、統合アプライアンスが待機する時間(秒)を指定します。
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが HTTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。「HTTP HEAD 要求」アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の HTTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまで、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合ア

	プライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。
3) エンドポイントが要求に 응답しないとき、__ 秒後にタイムアウトになります。	アクティビティがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが 응답せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。「HTTP HEAD 要求」アクティビティの場合、アクティビティのタイムアウトは、統合アプライアンスが HTTP 要求を送信してから、統合アプライアンスがタイムアウト・エラーを発行するまで、HTTP サーバーからの 응답を待機する時間です。アクティビティ・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に 응답せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトは、「HTTP エンドポイント (HTTP Endpoint)」タブで設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『Web サービス・エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

アクティビティへの入力のマッピング

- 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクの「アクティビティへ」ペインに body 入力パラメーターが表示されます。body 入力パラメーターはオプションです。body 入力パラメーターには、HTTP サーバーに送信された HTTP 応答メッセージの本文が含まれます。
- 「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインで オプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。httpheaders および **httpConnParameter** 入力パラメーターが表示されます。以下の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを定義したものです。

表 2.

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「要求ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの要求ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/pathParameters	「構成」ステップの URL でパス・パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。パス・パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/queryParameters	「構成」ステップの URL で照会パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。照会パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	HTTP 応答の名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、これは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP パラメーターの値を指定します。

注: Content-Length ヘッダーが httpheaders/otherHeaders/headerItem/name および httpheaders/otherHeaders/headerItem/value を使用して明示的に設定された場合、この値は実行時には無視されます。このアクティビティは、Content-Length ヘッダーを自動的に本文のサイズに設定します。

以下の表は、オプションの httpConnParameter 入力パラメーターのノードを定義したものです。オプションで、次の表に指定されているノードに変数の値を渡すことによって、「チェックリスト」の「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。例えば、実行時に、変数を httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードにマップすることによって、エンドポイントに指定された「ホスト名」を指定変更できます。その変数の値は実行時に、HTTP サーバーへ接続するために使用されたホスト名になります。

表 3.

httpConnParameter 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される HTTP エンドポイントの設定
timeout	タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。	
host	リモート HTTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードは、HTTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。
port	リモート HTTP サーバーのポート番号を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの port ノードは、HTTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
isSecure	HTTPS (SSL を使用するセキュアな HTTP) を使用可能にするには、このブール値を、true に評価されるように設定します。セキュリティーを使用不可にするには、このブール値を、false に評価されるように設定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの isSecure ノードは、HTTP エンドポイントの「セキュリティー」オプションを指定変更します。

httpConnParameter 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される HTTP エンドポイントの設定
username	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの username ノードは、HTTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
password	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの password ノードは、HTTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

3. 1 つ以上のオーケストレーション変数と 1 つ以上の入力パラメーターとの間のマップを作成します。マップの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティの出力のマップング

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。次の表で説明しているように、このアクティビティの出力パラメーターが、「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 4.

出力パラメーター	説明
httpheaders	HTTP 要求のヘッダーを指定します。
body	HTTP 要求メッセージの本文を指定します。
responsecode	実行時に HTTP サーバーから返される HTTP 応答コードを指定します。
responsemessage	HTTP 応答コードに関連付けられたメッセージを指定します。

以下の表は、オプションの httpheaders 出力パラメーターのノードを定義したものです。

表 5.

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	着信要求のリソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「応答ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの応答ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティの1つ以上の出力パラメーターと1つ以上のオーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。


Microsoft Internet Explorer での証明書の使用

HTTP エンドポイントで HTTPS セキュリティー・オプションを選択した場合は、Microsoft Internet Explorer が、変更された証明書を認識せず、SSL 状態をキャッシュに入れることに注意してください。証明書を変更する場合は、SSL 状態をクリアする必要があります。Microsoft Internet Explorer で SSL 状態をクリアするには、以下のようにします。

1. Microsoft Internet Explorer のツールバー・メニューから、「ツール」 > 「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ペインが表示されます。
2. 「コンテンツ」タブをクリックします。
3. 「証明書」セクションで「SSL 状態のクリア」をクリックします。「SSL キャッシュは正常に消去されました」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックして、「OK」をクリックします。

親トピック: [HTTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_head_request_activity.html

「HTTP INVOKE 要求」 アクティビティ

「HTTP: 要求の呼び出し (HTTP Invoke Request)」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に HTTP 要求を送信し、そのロケーションから HTTP 応答を受信します。

「HTTP 要求の呼び出し (HTTP Invoke Request)」アクティビティのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、HTTP フォルダーを展開します。
3. 「要求の呼び出し」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティを選択します。チェックリストが表示されます。

HTTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。

- b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティの構成』手順までスキップします。
 - o. 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - o. 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
- 2. HTTP エンドポイントを作成または編集します。『HTTP エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

アクティビティの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
URL (ホスト名の後のパス)	<p>「INVOKE 要求」アクティビティが要求を送信する先のリソース・パス (例: /mypath) を指定します。このフィールドに指定する文字列からは、文字列 http://、ホスト名、および統合アプライアンスのポート番号を除外する必要があります。統合アプライアンスのホスト名、HTTP エンドポイントで指定されたポート番号、およびこのフィールドに指定されたパスから、完全な URL が自動的に構成されます。例えば、「INVOKE 要求」アクティビティが要求を送信する先の完全な URL が http://myAR:myPort/myPath である場合、このフィールドには、文字列 /myPath を指定するだけで済みます。指定するパスは、同じポートを使用して同じ統合アプライアンス上に同時にデプロイされた「要求の呼び出し」アクティビティについて固有である必要があります。</p> <p>パス・パラメーターと照会パラメーターを使用するには、URL を url/{path}?name1=value1&name2=value2 という形式で入力します。これにより、「{path}」パラメーターに文字列値をマップし、照会パラメーター名 (この例では、「name1」および「name2」) を指定できます。複数の「{path}」パラメーターを宣言することを選択する場合、各パラメーターに固有の名前を付けることを推奨します。同じ名前のパラメーターは、マップの 1 つのノードのみによって表されます。パス・パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/pathParameters に表示されます。照会パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/queryParameters に表示されます。</p> <p>注: URL で照会パラメーターに割り当てた値はマップに渡されません。照会パラメーターに値を割り当てるには、マップで照会パラメーターに明示的に値をマップするか、デフォルト値を定義してください。</p>

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
要求メッセージのタイプ (Where Request Message is Of Type)	HTTP 要求の予期されたメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。
応答メッセージのタイプ (Where Reply Message is Of Type)	HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。

<p>フィールドまたはチェック・ボックス</p>	<p>説明</p>
<p>オーケストレーション・ジョブの処理を停止または</p> <p>処理を続行し、HTTPエラー・コードを返す</p>	<p>HTTP サーバーからエラー応答が返された場合のアクティビティの実行時動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オーケストレーション・ジョブの処理を停止 - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を停止する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーションは「要求の呼び出し (InvokeRequest)」アクティビティ内の処理を停止します。オーケストレーション内の「要求の呼び出し (Invoke Request)」アクティビティの後のアクティビティは処理されず、失敗の例外がスローされます。 ○ 処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を続行する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーション・ジョブはオーケストレーション内の「要求の呼び出し (Invoke Request)」アクティビティの後のアクティビティの処理を続行し、エラー応答コードとエラー応答メッセージがそれぞれ、responsecode および responsemessage 出力パラメーターに返されます。
<p>圧縮/圧縮解除の使用</p>	<p>アクティビティ・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするかオフにするかを指定します。デフォルトでは「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスはクリアされ、このアクティビティの圧縮/圧縮解除は使用不可に設定されます。このアクティビティの圧縮/圧縮解除を使用可能にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティによる圧縮/圧縮解除』を参照してください。</p>

要求ヘッダーの指定

1. 「チェックリスト」から「要求ヘッダー」タスクを選択します。「要求ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
2. 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
3. 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視される)は許可されていません。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されます。選択した HTTP ヘッダーが、「入力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

応答ヘッダーの指定

1. 「チェックリスト」から「応答ヘッダー」タスクを選択します。「応答ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
2. 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
3. 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視される)は許可されていません。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されます。選択した HTTP ヘッダーが、「出力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. HTTP サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表は、HTTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

表 2.

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに ___ 秒待機します。	統合アプライアンスが HTTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。

フィールド	説明
2) 失敗するまで ___ 回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが HTTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「HTTP: POST 要求 (HTTP Post Request)」 アクティビティーが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の HTTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまで、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスがシステムおよびオーケストレーションのログにエラーを記録し、現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>
アクティビティー・タイムアウト	
3) エンドポイントが要求に応答しないとき、 ___ 秒後にタイムアウトになります。	<p>アクティビティーがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答するまでに要する時間の間で、タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。「要求の呼び出し (Invoke Request)」 アクティビティーの場合、アクティビティーのタイムアウトは、統合アプライアンスが HTTP 要求を送信してから、統合アプライアンスがタイムアウト・エラーを発行するまで、HTTP サーバーからの応答を待機する時間です。アクティビティー・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトは、「HTTP エンドポイント (HTTP Endpoint)」 タブで設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『HTTP エンドポイントの作成または編集』を参照してください。</p>

アクティビティーへの入力のマッピング

- 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクの「アクティビティーへ」ペインに body 入力パラメーターが表示されます。body 入力パラメーターは必須であり、少なくとも 1 つの変数をこのパラメーターにマップする必要があります。body 入力パラメーターには、HTTP サーバーに送信された HTTP 要求メッセージの本文が含まれます。
- 「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインでオプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。httpheaders および httpConnParameter 入力パラメーターが表示されます。以下の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを定義したものです。

表 3.

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/method	HTTP 要求のタイプを指定します。値がマップされなかった場合、デフォルトのメソッドは POST です。
httpheaders/<configured_header_name>	「要求ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの要求ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/pathParameters	「構成」ステップの URL でパス・パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。パス・パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/queryParameters	「構成」ステップの URL で照会パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。照会パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。

注: Content-Length ヘッダーが httpheaders/otherHeaders/headerItem/name および httpheaders/otherHeaders/headerItem/value を使用して明示的に設定された場合、この値は実行時には無視されます。このアクティビティは、Content-Length ヘッダーを自動的に本文のサイズに設定します。

以下の表は、オプションの httpConnParameter 入力パラメーターのノードを定義したものです。オプションで、次の表に指定されているノードに変数の値を渡すことによって、「チェックリスト」の「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。例えば、実行時に、変数を httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードにマップすることによって、エンドポイントに指定された「ホスト名」を指定変更できます。その変数の値は実行時に、HTTP サーバーへ接続するために使用されたホスト名になります。

表 4.

httpConnParameter 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される HTTP エンドポイントの設定
timeout	タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。	
host	リモート HTTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードは、HTTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。

httpConnParameter 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される HTTP エンドポイントの設定
port	リモート HTTP サーバーのポート番号を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの port ノードは、HTTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
isSecure	HTTPS (SSL を使用するセキュアな HTTP) を使用可能にするには、このブール値を、true に評価されるように設定します。セキュリティを使用不可にするには、このブール値を、false に評価されるように設定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの isSecure ノードは、HTTP エンドポイントの「セキュリティ」オプションを指定変更します。
username	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの username ノードは、HTTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
password	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの password ノードは、HTTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

3. 1 つ以上のオーケストレーション変数と 1 つ以上の入力パラメーターとの間のマップを作成します。マップの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティの出力のマップング

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。次の表で説明しているように、このアクティビティの出力パラメーターが、「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 5.

出力パラメーター	説明
httpheaders	HTTP 応答のヘッダーを指定します。
body	HTTP 応答メッセージの本文を指定します。
responsecode	実行時に HTTP サーバーから返される HTTP 応答コードを指定します。
responsemessage	HTTP 応答コードに関連付けられたメッセージを指定します。

以下の表は、httpheaders 出力パラメーターのノードを定義したものです。

表 6.

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。

httpheaders 出力 パラメーターのノ ード	説明
httpheaders/met hod	HTTP 応答のタイプを指定する。
httpheaders/<co nfigured_header _name>	「応答ヘッダー」のステップで少なくとも1つの応答ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/oth erHeaders/headersItem	HTTP 応答の HTTP パラメーターを含む一連の名前と値のペアを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、headerItem は繰り返しノードになります。
httpheaders/oth erHeaders/headersItem/name	HTTP パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/oth erHeaders/headersItem/value	HTTP パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティの1つ以上の出力パラメーターと1つ以上のオーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。


Microsoft Internet Explorer での証明書の使用

HTTP エンドポイントで HTTPS セキュリティー・オプションを選択した場合は、Microsoft Internet Explorer が、変更された証明書を認識せず、SSL 状態をキャッシュに入れることに注意してください。証明書を変更する場合は、SSL 状態をクリアする必要があります。Microsoft Internet Explorer で SSL 状態をクリアするには、以下のようにします。

1. Microsoft Internet Explorer のツールバー・メニューから、「ツール」 > 「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ペインが表示されます。
2. 「コンテンツ」タブをクリックします。
3. 「証明書」セクションで「SSL 状態のクリア」をクリックします。「SSL キャッシュは正常に消去されました」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックして、「OK」をクリックします。

親トピック: [HTTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_invoke_request_activity.html

「HTTP PUT 要求」 アクティビティ

「HTTP **PUT 要求**」アクティビティは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に **PUT 要求**を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

「HTTP 要求の書き込み (HTTP Put Request)」 アクティビティのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、HTTP フォルダーを展開します。
3. 「要求の書き込み」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティを選択します。チェックリストが表示されます。

HTTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. HTTP エンドポイントを作成するか、または編集します。『[HTTP エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

アクティビティの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
-------------------	----

フィールドまたはチェックボックス	説明
URL (ホスト名の後のパス)	<p>「PUT 要求」アクティビティが要求を送信する先のリソース・パス (例: /mypath) を指定します。このフィールドに指定する文字列からは、文字列 http://、ホスト名、および統合アプライアンスのポート番号を除外する必要があります。統合アプライアンスのホスト名、HTTP エンドポイントで指定されたポート番号、およびこのフィールドに指定されたパスから、完全な URL が自動的に構成されます。例えば、「PUT 要求」アクティビティが要求を送信する先の完全な URL が http://myAR:myPort/myPath である場合、このフィールドには、文字列 /myPath を指定するだけで済みます。指定するパスは、同じポートを使用して同じ統合アプライアンス上に同時にデプロイされた「要求の書き込み」アクティビティについて固有である必要があります。</p> <p>パス・パラメーターと照会パラメーターを使用するには、URL を「url/{path}?name1=value1&name2=value2」という形式で入力します。これにより、「{path}」パラメーターに文字列値をマップし、照会パラメーター名 (この例では、「name1」および「name2」) を指定できます。複数の「{path}」パラメーターを宣言することを選択する場合、各パラメーターに固有の名前を付けることを推奨します。同じ名前前のパラメーターは、マップの 1 つのノードのみによって表されます。パス・パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/pathParameters に表示されます。また、照会パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/queryParameters に表示されます。</p> <p>注: URL で照会パラメーターに割り当てた値はマップパーに渡されません。照会パラメーターに値を割り当てるには、マップパーで照会パラメーターに明示的に値をマップするか、デフォルト値を定義してください。</p>
要求メッセージのタイプ (Where Request Message is Of Type)	HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
応答メッセージのタイプ (Where Reply Message is Of Type)	HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。
オーケストレーション・ジョブの処理を停止または処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す	<p>HTTP サーバーからエラー応答が返された場合のアクティビティの実行時動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オーケストレーション・ジョブの処理を停止 - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を停止する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーション内の「PUT 要求」アクティビティ内の処理を停止します。オーケストレーション内の「PUT 要求」アクティビティの後のアクティビティは処理されず、失敗の例外がスローされます。 ○ 処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を続行する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーション・ジョブはオーケストレーション内の「要求の書き込み (Put Request)」アクティビティの後のアクティビティの処理を続行し、エラー応答コードとエラー応答メッセージがそれぞれ、responsecode および responsemessage 出力パラメーターに返されます。

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
圧縮/圧縮解除の使用	アクティビティー・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするかオフにするかを指定します。デフォルトでは「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスはクリアされ、このアクティビティーの圧縮/圧縮解除は使用不可に設定されます。このアクティビティーの圧縮/圧縮解除を使用可能にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『 「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティーによる圧縮/圧縮解除 』を参照してください。

要求ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「要求ヘッダー」タスクを選択します。「要求ヘッダー」ペインが表示されず。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視される)は許可されていません。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されず。選択した HTTP ヘッダーが、「入力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

応答ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「応答ヘッダー」タスクを選択します。「応答ヘッダー」ペインが表示されず。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視されます)は許可されておらず、「カスタム・ヘッダー」表内のすべての重複ヘッダーを削除するよう指示するプロンプトが出される可能性があることに注意してください。選択した HTTP ヘッダーが、「出力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

再試行オプションの指定

- 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。

2. HTTP サーバーに接続するように再試行オプションを構成します。以下の表は、HTTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに__秒待機します。	HTTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに、統合アプライアンスが待機する時間 (秒) を指定します。
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが HTTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。「 HTTP: 要求の書き込み (HTTP Put Request) 」アクティビティーが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の HTTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまで、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。
3) エンドポイントが要求に 응답しないとき、__秒後にタイムアウトになります。	アクティビティーがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。「 HTTP: 要求の書き込み (HTTP Put Request) 」アクティビティーの場合、アクティビティーのタイムアウトは、統合アプライアンスが HTTP 要求を送信してから、統合アプライアンスがタイムアウト・エラーを発行するまで、HTTP サーバーからの応答を待機する時間です。アクティビティー・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に 응답せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトについては、 『Web サービス・エンドポイントの作成または編集』 を参照してください。

アクティビティーへの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクの「アクティビティーへ」ペインに body 入力パラメーターが表示されます。body 入力パラメーターは必須であり、少なくとも 1 つの変数をこのパラメーターにマップする必要があります。body 入力パラメーターには、HTTP サーバーに送信された HTTP 応答メッセージの本文が含まれます。
2. 「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインでオプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。httpheaders および **httpConnParameter** 入力パラメーターが表示されます。以下の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを定義したものです。

表 2.

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「要求ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの要求ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/pathParameters	「構成」ステップの URL でパス・パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。パス・パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/queryParameters	「構成」ステップの URL で照会パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。照会パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	HTTP 応答の名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、これは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP パラメーターの値を指定します。

注: Content-Length ヘッダーが httpheaders/otherHeaders/headerItem/name および httpheaders/otherHeaders/headerItem/value を使用して明示的に設定された場合、この値は実行時には無視されます。このアクティビティーは、Content-Length ヘッダーを自動的に本文のサイズに設定します。

以下の表は、オプションの httpConnParameter 入力パラメーターのノードを定義したものです。オプションで、次の表に指定されているノードに変数の値を渡すことによって、「チェックリスト」の「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。例えば、実行時に、変数を httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードにマップすることによって、エンドポイントに指定された「ホスト名」を指定変更できます。その変数の値は実行時に、HTTP サーバーへ接続するために使用されたホスト名になります。

表 3.

httpConnParameter 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される HTTP エンドポイントの設定
timeout	タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。	
host	リモート HTTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードは、HTTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。
port	リモート HTTP サーバーのポート番号を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの port ノードは、HTTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
isSecure	HTTPS (SSL を使用するセキュアな HTTP) を使用可能にするには、このブール値を、true に評価されるように設定します。セキュリティを使用不可にするには、このブール値を、false に評価されるように設定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの isSecure ノードは、HTTP エンドポイントの「セキュリティ」オプションを指定変更します。
username	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの username ノードは、HTTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
password	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの password ノードは、HTTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

3. 1 つ以上のオーケストレーション変数と 1 つ以上の入力パラメーターとの間のマップを作成します。マップの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティの出力のマップ

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。次の表で説明しているように、このアクティビティの出力パラメーターが、「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 4.

出力パラメーター	説明
httpheaders	HTTP 要求のヘッダーを指定します。
body	HTTP 要求メッセージの本文を指定します。
responsecode	実行時に HTTP サーバーから返される HTTP 応答コードを指定します。
responsemessage	HTTP 応答コードに関連付けられたメッセージを指定します。

以下の表は、オプションの httpheaders 出力パラメーターのノードを定義したものです。

表 5.

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	着信要求のリソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「応答ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの応答ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティの 1 つ以上の出力パラメーターと 1 つ以上のオーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。


Microsoft Internet Explorer での証明書の使用

HTTP エンドポイントで HTTPS セキュリティー・オプションを選択した場合は、Microsoft Internet Explorer が、変更された証明書を認識せず、SSL 状態をキャッシュに入れることに注意してください。証明書を変更する場合は、SSL 状態をクリアする必要があります。Microsoft Internet Explorer で SSL 状態をクリアするには、以下のようにします。

1. Microsoft Internet Explorer のツールバー・メニューから、「ツール」 > 「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ペインが表示されます。
2. 「コンテンツ」タブをクリックします。
3. 「証明書」セクションで「SSL 状態のクリア」をクリックします。「SSL キャッシュは正常に消去されました」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックして、「OK」をクリックします。

親トピック: [HTTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_put_request_activity.html

「HTTP DELETE 要求」アクティビティ

「HTTP DELETE 要求」アクティビティーは、指定されたロケーション (HTTP エンドポイント) に DELETE 要求を送信し、そのロケーションからの HTTP 応答を受信します。

「HTTP 要求の削除 (HTTP Delete Request)」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、HTTP フォルダーを展開します。
3. 「要求の削除」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。チェックリストが表示されます。

HTTP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. HTTP エンドポイントを作成するか、または編集します。『HTTP エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールドまたはチェック・ボックス	説明

フィールドまたはチェックボックス	説明
URL (ホスト名の後のパス)	<p>「DELETE 要求」アクティビティーが要求を送信する先のリソース・パス (例: /mypath) を指定します。このフィールドに指定するストリングからは、ストリング http://、ホスト名、および統合アプライアンスのポート番号を除外する必要があります。統合アプライアンスのホスト名、HTTP エンドポイントで指定されたポート番号、およびこのフィールドに指定されたパスから、完全な URL が自動的に構成されます。例えば、「DELETE 要求」アクティビティーが要求を送信する先の完全な URL が http://myAR:myPort/myPath である場合、このフィールドには、ストリング /myPath を指定するだけで済みます。指定するパスは、同じポートを使用して同じ統合アプライアンス上に同時にデプロイされた「DELETE 要求」アクティビティーに対して固有である必要があります。</p> <p>パス・パラメーターと照会パラメーターを使用するには、URL を「url/{path}?name1=value1&name2=value2」という形式で入力します。これにより、「{path}」パラメーターにストリング値をマップし、照会パラメーター名 (この例では、「name1」および「name2」) を指定できます。複数の「{path}」パラメーターを宣言することを選択する場合は、各パラメーターに固有の名前を付けてください。同じ名前のパラメーターは、マップの 1 つのノードのみによって表されます。パス・パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/pathParameters に表示されます。照会パラメーターは、「入力のマップ」の /httpheaders/queryParameters に表示されます。</p> <p>注: URL で照会パラメーターに割り当てた値はマップパーに渡されません。照会パラメーターに値を割り当てるには、マップパーで照会パラメーターに明示的に値をマップするか、デフォルト値を定義してください。</p>
要求メッセージのタイプ (Where Request Message is Of Type)	HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
応答メッセージのタイプ (Where Reply Message is Of Type)	HTTP 応答のメッセージ・タイプ (「テキスト」または「バイナリー」) を指定します。
オーケストレーション・ジョブの処理を停止または処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す	<p>HTTP サーバーからエラー応答が返された場合のアクティビティの実行時動作を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オーケストレーション・ジョブの処理を停止 - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を停止する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーションは「DELETE 要求」アクティビティ内の処理を停止します。オーケストレーション内の「DELETE 要求」アクティビティの後のアクティビティは処理されず、失敗の例外がスローされます。 ○ 処理を続行し、HTTP エラー・コードを返す - 実行時に HTTP サーバーからエラー応答を受信したときにオーケストレーション・ジョブの処理を続行する必要がある場合は、このオプションを選択します。オーケストレーション・ジョブはオーケストレーション内の「POST 要求 (Post Request)」アクティビティの後のアクティビティの処理を続行し、エラー応答コードとエラー応答メッセージがそれぞれ、responsecode および responsemessage 出力パラメーターに返されます。

フィールドまたはチェック・ボックス	説明
圧縮/圧縮解除の使用	アクティビティ・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするかオフにするかを指定します。デフォルトでは「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスはクリアされ、このアクティビティの圧縮/圧縮解除は使用不可に設定されます。このアクティビティの圧縮/圧縮解除を使用可能にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを選択します。詳しくは、『「 HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求 」アクティビティによる圧縮/圧縮解除』を参照してください。

要求ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「要求ヘッダー」タスクを選択します。「要求ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視される)は許可されていません。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されます。選択した HTTP ヘッダーが、「入力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

応答ヘッダーの指定

- 「チェックリスト」から「応答ヘッダー」タスクを選択します。「応答ヘッダー」ペインが表示されます。「カスタム・ヘッダー」表が上部、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスが中部、「標準ヘッダー」表が下部に表示されます。
- 「追加」ボタンをクリックして、「カスタム・ヘッダー」表にヘッダーを追加します。新しいエントリをクリックしてヘッダー名を入力するか、ドロップダウン・リストからヘッダー名を選択します。ヘッダー名が事前定義されたヘッダー名である場合は、その説明が「説明」の列に表示されます。そうでない場合は、ヘッダーの説明を自身で入力します。
- 事前定義された標準のヘッダーを使用する場合は、「事前定義の標準ヘッダーを含める」チェック・ボックスにチェックを付けます。ヘッダー名の重複(大文字/小文字の違いは無視される)は許可されていません。「カスタム・ヘッダー」表に重複したヘッダーがあると、削除を指示するプロンプトが出されます。選択した HTTP ヘッダーが、「出力のマップ」の /httpheaders の下に表示されます。

再試行オプションの指定

- 「チェックリスト」から、「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
- HTTP サーバーに接続するように再試行オプションを構成します。以下の表は、HTTP サーバーに接続するための再試行オプションを定義したものです。

フィールド	説明
再試 行	
1) 再 試行 ごと に __ 秒待 機し ます。	HTTP サーバーへの接続の確立を試行するまでに、統合アプライアンスが待機する時間 (秒) を指定します。
2) 失 敗す るま で __ 回の 接続 を試 みま す。	再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが HTTP サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。「 HTTP: 要求の削除 (HTTP Delete Request) 」アクティビティーが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の HTTP サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまで、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。
3) エ ンド ポイ ント が要 求に 応答 しな いと き、 __ 秒 後に タイ ムア ウト にな りま す。	アクティビティーがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。「 HTTP: 要求の削除 (HTTP Delete Request) 」アクティビティーの場合、アクティビティーのタイムアウトは、統合アプライアンスが HTTP 要求を送信してから、統合アプライアンスがタイムアウト・エラーを発行するまで、HTTP サーバーからの応答を待機する時間です。アクティビティー・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトは、「 HTTP エンドポイント (HTTP Endpoint) 」タブで設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『 Web サービス・エンドポイントの作成または編集 』を参照してください。

アクティビティーへの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクの「アクティビティーへ」ペインに body 入力パラメーターが表示されます。body 入力パラメーターはオプション

です。body 入力パラメーターには、HTTP サーバーに送信された HTTP 応答メッセージの本文が含まれます。

2. 「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインで オプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。httpheaders および httpConnParameter 入力パラメーターが表示されます。以下の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを定義したものです。

表 2.

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「要求ヘッダー」のステップで少なくとも 1 つの要求ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/pathParameters	「構成」ステップの URL でパス・パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。パス・パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/queryParameters	「構成」ステップの URL で照会パラメーターを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。照会パラメーターを指定していない場合、このノードは表示されません。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	HTTP 応答の名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、これは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP パラメーターの値を指定します。

注: Content-Length ヘッダーが httpheaders/otherHeaders/headerItem/name および httpheaders/otherHeaders/headerItem/value を使用して明示的に設定された場合、この値は実行時には無視されます。このアクティビティーは、Content-Length ヘッダーを自動的に本文のサイズに設定します。

以下の表は、オプションの httpConnParameter 入力パラメーターのノードを定義したものです。オプションで、次の表に指定されているノードに変数の値を渡すことによって、「チェックリスト」の「エンドポイントの選出」タスクで指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。例えば、実行時に、変数を httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードにマップすることによって、エンドポイントに指定された「ホスト名」を指定変更できます。その変数の値は実行時に、HTTP サーバーへ接続するために使用されたホスト名になります。

表 3.

httpConnParameter 入力パラメーターのノード	説明	指定変更される HTTP エンドポイントの設定
timeout	タイムアウトが発生するまでの時間 (秒単位) を指定します。	
host	リモート HTTP サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの host ノードは、HTTP エンドポイントの「ホスト名」フィールドを指定変更します。
port	リモート HTTP サーバーのポート番号を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの port ノードは、HTTP エンドポイントの「ポート」フィールドを指定変更します。
isSecure	HTTPS (SSL を使用するセキュアな HTTP) を使用可能にするには、このブール値を、true に評価されるように設定します。セキュリティを使用不可にするには、このブール値を、false に評価されるように設定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの isSecure ノードは、HTTP エンドポイントの「セキュリティ」オプションを指定変更します。
username	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのユーザー名を指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの username ノードは、HTTP エンドポイントの「ユーザー名」フィールドを指定変更します。
password	HTTP サーバーに接続するために使用するアカウントのパスワードを指定します。	httpConnParameter 入力パラメーターの password ノードは、HTTP エンドポイントの「パスワード」フィールドを指定変更します。

3. 1 つ以上のオーケストレーション変数と 1 つ以上の入力パラメーターとの間のマップを作成します。マップの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティの出力のマップ

1. 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。次の表で説明しているように、このアクティビティの出力パラメーターが、「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 4.

出力パラメーター	説明
httpheaders	HTTP 要求のヘッダーを指定します。
body	HTTP 要求メッセージの本文を指定します。
responsecode	実行時に HTTP サーバーから返される HTTP 応答コードを指定します。
responsemessage	HTTP 応答コードに関連付けられたメッセージを指定します。

以下の表は、オプションの httpheaders 出力パラメーターのノードを定義したものです。

表 5.

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	着信要求のリソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/<configured_header_name>	「応答ヘッダー」のステップで少なくとも1つの応答ヘッダーを構成した場合は、それぞれがここに表示されます。<configured_header_name> は、選択または入力した実際のヘッダー名に置き換わります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティの1つ以上の出力パラメーターと1つ以上のオーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。


Microsoft Internet Explorer での証明書の使用

HTTP エンドポイントで HTTPS セキュリティー・オプションを選択した場合は、Microsoft Internet Explorer が、変更された証明書を認識せず、SSL 状態をキャッシュに入れることに注意してください。証明書を変更する場合は、SSL 状態をクリアする必要があります。Microsoft Internet Explorer で SSL 状態をクリアするには、以下のようにします。

1. Microsoft Internet Explorer のツールバー・メニューから、「ツール」 > 「インターネット オプション」を選択します。「インターネット オプション」ペインが表示されます。
2. 「コンテンツ」タブをクリックします。
3. 「証明書」セクションで「SSL 状態のクリア」をクリックします。「SSL キャッシュは正常に消去されました」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックして、「OK」をクリックします。

親トピック: [HTTP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_delete_request_activity.html

「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」 アクティビティによる圧縮/圧縮解除

実行時に、「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティーは、HTTP/HTTPS 1.1 プロトコルに準拠した HTTP 要求を HTTP サーバーに送信します。

注: 「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティーは、gzip 形式または deflate 形式による圧縮/圧縮解除をサポートします。これは、UNIX で一般的な compress と呼ばれるファイル圧縮形式はサポートしていません。

「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティーの圧縮/圧縮解除のランタイム動作は、以下の条件に依存します。

- エンドポイントが圧縮/圧縮解除をサポートしている場合
- メッセージ・レベルの Content-Encoding ヘッダーと Accept-Encoding ヘッダーの値
- 「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの、アクティビティー・レベルでの設定

これらの条件が「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティーの圧縮/圧縮解除ランタイム動作に与える影響については、以降のセクションおよび『ランタイムの圧縮/圧縮解除動作』セクションの表に説明があります。

圧縮/圧縮解除のエンドポイント・サポート

統合アプライアンスでは、最初の HTTP 要求を圧縮形式で HTTP エンドポイント (HTTP サーバー) に送信するときに、HTTP エンドポイントが圧縮をサポートするかどうかを判断します。HTTP サーバーが、圧縮をサポートしない、あるいは指定した Content-Encoding タイプをサポートしないというエラー・コードを返す場合、統合アプライアンスは最初の要求を非圧縮形式で再送し、このエンドポイントへの以後の要求はすべて非圧縮形式で送信されます。さらに、HTTP サーバーが送信する HTTP 応答は、統合アプライアンスが受信するときには圧縮解除されていません。

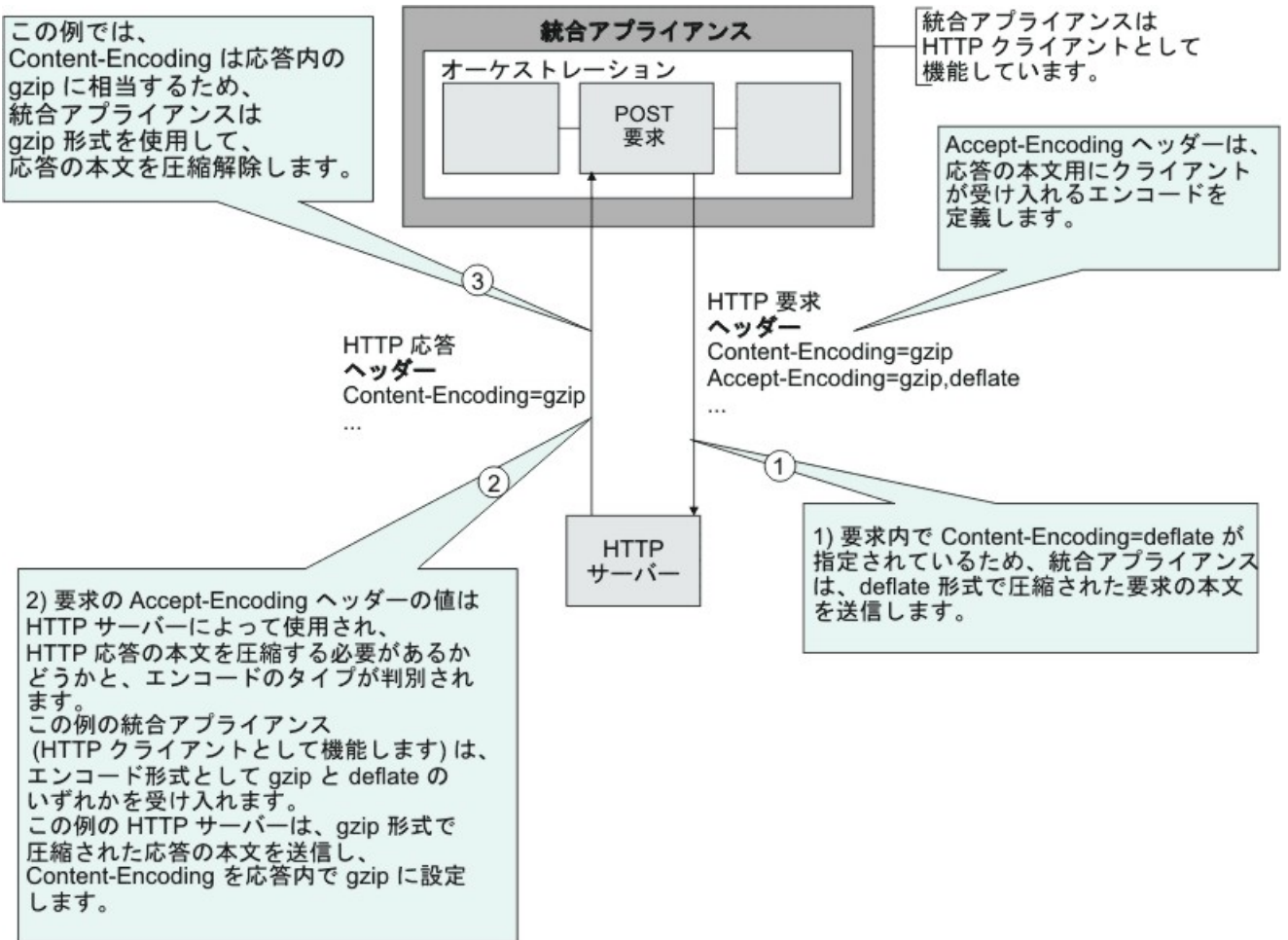
圧縮/圧縮解除に対するエンドポイントのサポートは、『ランタイムの圧縮/圧縮解除動作』セクションに記載されている表にある「エンドポイントは圧縮をサポートしますか?」というラベルの付いた列によって示されます。

メッセージ・レベルでの Content-Encoding 値と Accept-Encoding 値

HTTP 要求の Content-Encoding ヘッダーの値によって、要求の本体が圧縮されているかどうかと、使用されているエンコードのタイプがわかります。例えば、Content-Encoding が deflate に等しい場合、統合アプライアンスは、要求の本体を deflate 形式で圧縮して送信します (『要求送信時の圧縮動作』というラベルが付いた最初の表の第 2 行と、次の図を参照)。

要求内の Accept-Encoding ヘッダーの値は、HTTP クライアントがその応答で受け入れるエンコードのタイプを定義します。例えば、要求の Accept-Encoding が gzip, deflate に等しい場合、HTTP サーバーは、gzip または deflate 形式で圧縮した応答の本体を統合アプライアンス (クライアントとして機能) に送信できます (次の図を参照)。

図 1.



デフォルトでは、「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティの「入力のマップ」タスクでオプションの `httpheaders` 入力パラメーターに何もマップされなかった場合は、一連のデフォルト・ヘッダーが作成されます。例えば、URL ヘッダーは、「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティの「構成」ペインで与えられた値に自動的に設定されます。

要求の Accept-Encoding ヘッダーおよび Content-Encoding ヘッダーの値は、「HTTP INVOKE/GET/POST/HEAD/PUT/DELETE 要求」アクティビティの「入力のマップ」タスクのオプションの `httpheaders` 入力パラメーターで、名前と値のペアを使用して明示的に設定できます。例えば、Content-Encoding を `deflate` に設定するには、オプションの `httpheaders` 入力パラメーターに、次の名前と値のペアを設定します。

- スtring Content-Encoding には、`httpheaders/httpheaders/otherHeaders/headerItem/name` と設定します。
- エンコード・タイプ (例えば String deflate) には、`httpheaders/httpheaders/otherHeaders/headerItem/value` と設定します。

要求の Accept-Encoding ヘッダーおよび Content-Encoding ヘッダーにサポートされていない値が設定されている場合や、値がまったく設定されていない場合は、以下の表に示すように、デフォルト値が提供されます。

- [要求送信時の圧縮動作](#)
- [要求に渡される Accept-Encoding ヘッダー値](#)

要求内の Accept-Encoding ヘッダーおよび Content-Encoding ヘッダーの値は、統合アプライアンスと HTTP サーバーが圧縮/圧縮解除動作を判別する際に使用されます。

アクティビティ・レベルでの圧縮/圧縮解除の設定

デフォルトでは、圧縮/圧縮解除はすべての HTTP アクティビティには使用されません。アクティビティの「構成」タスクに表示された「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスを使用して、圧縮または圧縮解除をアクティビティ・レベルで選択できます。『ランタイムの圧縮/圧縮解除動作』に示されている表で「圧縮/圧縮解除チェック・ボックスの使用」というラベルの付いた列が、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定を表します。

注: 「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、HTTP アクティビティの将来のリリースで非推奨になります。HTTP 要求本体の圧縮解除方法と、HTTP 応答本体の圧縮方法を指定するには、HTTP 要求の HTTP パラメーター、Content-Encoding および Accept-Encoding を使用してください。

ランタイムの圧縮/圧縮解除動作

『要求送信時の圧縮動作』セクションに記載の表は、統合アプライアンスが HTTP サーバーに HTTP 要求を送信する際のランタイムの圧縮動作を示しています。

『要求に渡される Accept-Encoding ヘッダー値』セクションに記載の表は、HTTP 要求に渡される Accept-Encoding ヘッダーの値を示しています。

『応答受信時の圧縮解除動作』セクションに記載の表は、統合アプライアンスが HTTP サーバーから HTTP 要求を受信する際のランタイムの圧縮解除動作について説明しています。

要求送信時の圧縮動作

次の表は、統合アプライアンスが HTTP 要求を HTTP サーバーに送信するときの圧縮実行時の動作を説明しています。

圧縮/圧縮解除の使用 チェック・ボックス (アクティビティ・ レベル)	HTTP 要求の Content-Encoding 値 (メッセージ・レベル)	エンドポ イントは圧縮 をサポート しますか?	要求送信時の統合アプライアンスのランタイム 圧縮動作
選択	gzip、設定しない、あ るいは deflate または ID 以外の任意のスト リング	はい	統合アプライアンスは、gzip 形式で圧縮した要 求本体を送信します。Content-Encoding ヘッ ダーは、要求では gzip に設定されます。
選択	deflate	はい	統合アプライアンスは、deflate 形式で圧縮し た要求本体を送信します。Content-Encoding ヘッダーは、要求では deflate に設定されま す。
選択	identity	はい	統合アプライアンスは、非圧縮の要求本体を送 信します。Content-Encoding ヘッダーは、要 求では ID に設定されます。
選択	値は無効	いいえ	統合アプライアンスは、非圧縮の要求本体を送 信します。Content-Encoding ヘッダーは、要 求では ID に設定されます。

圧縮/圧縮解除の使用 チェック・ボックス (アクティビティ・ レベル)	HTTP 要求の Content-Encoding 値 (メッセージ・レベル)	エンドポイ ントは圧縮 をサポート しますか?	要求送信時の統合アプライアンスのランタイム 圧縮動作
クリア	値は無効	値は無効	統合アプライアンスは、要求本体を現状のまま (変更せずに) 送信します。Content-Encoding ヘッダーの現行値は、 現状のまま 要求に渡さ れます。

要求に渡される Accept-Encoding ヘッダー値

以下の表は、HTTP 要求に渡される Accept-Encoding ヘッダーの値を示しています。

圧縮/圧縮解除の使用チェッ ク・ボックス(アクティビテ ィー・レベル)	Accept-Encoding の初期値	エンドポイントは 圧縮をサポートし ますか?	HTTP 要求でサーバーに渡さ れる Accept-Encoding の値
選択	gzip	はい	Accept-Encoding ヘッダー は、要求では gzip に設定され ます。
選択	deflate	はい	Accept-Encoding ヘッダー は、要求では deflate に設定 されます。
選択	gzip,deflate	はい	Accept-Encoding ヘッダー は、要求では gzip,deflate に 設定されます。
選択	deflate,gzip	はい	Accept-Encoding ヘッダー は、要求では deflate,gzip に 設定されます。
選択	identity	はい	Accept-Encoding ヘッダー は、要求では ID に設定され ます。
選択	設定しない、あるいは deflate、gzip、ID 以外の任 意のストリング	はい	Accept-Encoding ヘッダー は、要求では gzip,deflate に 設定されます。
選択	値は無効	いいえ	Accept-Encoding ヘッダーの 現行値は、 現状のまま 要求に 渡されます。
クリア	値は無効	値は無効	Accept-Encoding ヘッダーの 現行値は、 現状のまま 要求に 渡されます。


応答受信時の圧縮解除動作

次の表は、統合アプライアンスが HTTP サーバーから HTTP 応答を受信したときの、実行時の圧縮解除動作を示しています。

圧縮/圧縮解除の使用チェック・ボックス (アクティビティー・レベル)	HTTP 応答の Content-Encoding 値 (メッセージ・レベル)	エンドポイントは圧縮をサポートしますか?	応答受信時の統合アプライアンスのランタイム圧縮解除動作
選択	gzip	はい	統合アプライアンスは、gzip 形式を使用して、応答本体を圧縮解除します。
選択	deflate	はい	統合アプライアンスは、deflate 形式を使用して、応答本体を圧縮解除します。
選択	identity	はい	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。
選択	Accept-Encoding ヘッダーにリストされない値	はい	統合アプライアンスは、応答データが非送信請求コンテンツのエンコード・タイプで受信されたというエラーをログに記録します。
選択	値は無効	いいえ	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。Content-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま応答に渡されます。
クリア	値は無効	値は無効	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。Content-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま応答に渡されます。

親トピック: [HTTP アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/compression_decompression_with_the_http_invoke_get_post_head_put_delete_request_activity.html

トラブルシューティングとサポート

トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。ここでは、HTTP コネクタで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

照会パラメーターの不整合な動作

問題: HTTP 受信側に渡された照会パラメーターの動作が入力によって異なります。この不整合は、HTTP PUT、GET、INVOKE、HEADER、DELETE の各アウトバウンド・アクティビティーに発生します。これらのアクティビティーの場合、照会パラメーターをとまなう URL は、次の 2 つの場所で設定できます。

- 「チェックリスト」 > 「構成」パネル > 「URL (ホスト名の後のパス)」

- 「チェックリスト」 > 「入力のマップ」パネル > 「アクティビティーへ」セクション > 「httpheaders」 > 「uri」

しかし、上記のステップで設定された照会パラメーターは、「入力のマップ」パネル > 「アクティビティーへ」セクション > 「httpheaders」 > 「queryParameters」で置換または上書きされる可能性があります。HTTP 受信側に渡された照会パラメーターの動作が入力によって異なります。

解決方法: 値を設定するときに以下の点を考慮してください。

- URL の値がマップされ、パラメーターの値が空の場合、URL はそのまま HTTP 受信側に渡されます。
- URL の値もマップ内のパラメーターの値も割り当てられる場合、HTTP 受信側はこれらの値を取得します。パラメーター値をとまなう URL が URL に追加されます。
- URL の値がマップされない場合は、入力マップ内のパラメーター値を使用して URL が動的に作成されます。

例:

構成パネルの URI: /xyz/test?query2=c&query3=c&query5=c&query6=c


入力のマップの URI: /xyz/test?query4=u&query3=u

入力のマップの照会パラメーター: query2=m and query3=m

終了 URL: /xyz/test?query4=u&query3=m&query2=m&query5=&query6=

親トピック: [HTTP アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/http_troubleshooting.html

JDE アクティビティー

- [JD Edwards \(JDE\) コネクターの概要](#)
- [JDE アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)
エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバー (JDE サーバー) に接続するために使用する構成情報を提供します。
- [JDE ライブラリーのインポート](#)
JDE エンドポイントを構成し、JDE コネクターを使用するオーケストレーションを構築し、JDE コネクターを使用してプロジェクトをデプロイする前に、Studio と統合アプライアンスの両方に JDE インスタンス固有のライブラリーをインポートする必要があります。
- [JDE サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)
JD Edwards EnterpriseOne transaction サーバー (JDE サーバー) に接続するには、Cast Iron Studio インストール済み環境と同じワークステーションに JDE JAR ファイルをコピーしておく必要があります。
- [JDE 「ビジネス関数の呼び出し」 アクティビティーの使用](#)
特定の JDE ビジネス関数を呼び出すには、JDE 「ビジネス関数の呼び出し」 アクティビティーを使用します。このアクティビティーからの結果の出力は、オーケストレーションにマップできます。

- [JDE「リアルタイム・イベントのポーリング」アクティビティの使用](#)
JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバーからリアルタイム・イベントをポーリングするには、JDE「リアルタイム・イベントのポーリング」アクティビティを使用します。リアルタイム・イベントは、ベンダー・システムとの相互運用に使用できる JD Edwards EnterpriseOne server サーバーからの情報を提供する、ビジネス・トランザクションです。リアルタイム・イベントは、HTML、WIN32、およびエンタープライズ・サーバーなど、ビジネス関数が実行される場所ならば、どのような場所にも生成することができます。リアルタイム・イベントは、リアルタイムで通知を生成する場合に便利です。
- [JDE アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)
「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、JDE アクティビティ構成を構成するためのタスクの 1 つです。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_JDEactivities.html

JD Edwards (JDE) コネクターの概要

JD Edwards (JDE) コネクターは、特別なコーディングの必要なしに、アプライアンスが JD Edwards EnterpriseOne サーバーと相互作用して特定のビジネス関数を実行できるようにします。コネクターは、JD Edwards EnterpriseOne サーバーに要求を送信したり、JD Edwards EnterpriseOne サーバー上で発生するイベントに対するモニターおよび応答を行うことにより、JD Edwards EnterpriseOne サーバーと連携します。

JDE コネクターを使用して、以下のアクティビティを実行できます。


- [ビジネス関数の呼び出し](#)
- [リアルタイム・イベントのポーリング](#)

JDE コネクターは、JDE ツールのバージョン 8.97、8.98、および 9.1 をサポートします (ビジネス関数の呼び出しのために)。このコネクターには、サポート対象のバージョンの EnterpriseOne Tools で動作する任意のバージョンの JD Edwards EnterpriseOne との互換性があります。

JDE コネクターが JDE サーバーに接続するためには、JDE ライブラリー・ファイルが必要です。詳しくは、『[JDE サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』および『[JDE ライブラリーのインポート](#)』を参照してください。

親トピック: [JDE アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

JDE アクティビティーのエンドポイントの作成または編集

エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバー (JDE サーバー) に接続するために使用する構成情報を提供します。

1. 「エンドポイントの作成」 ペインまたは「エンドポイントの編集」 ペインで、以下の表の説明に従って JDE サーバーを構成します。エンドポイント・ペインには「接続プール・オプション」 および「リモート・エンドポイント構成」が含まれます。
注: エンドポイントの構成プロパティーを変更すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルとなります。
2. 「接続のテスト」をクリックして、接続の詳細が有効であること、および JDE サーバーに正常に接続できることを確認します。
3. 「OK」をクリックします。


表 1. 接続プロパティー

フィールド名	説明
接続情報	
環境	JD Edwards EnterpriseOne 環境名を指定します。
ロール	JD Edwards EnterpriseOne 環境へのアクセスに使用するユーザー名に関連付けられているロールの名前を指定します。
ユーザー名	JDE サーバーに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	JDE サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
接続プール・オプション	
最小接続数	統合アプライアンスが接続プールで開いておく JDE サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
最大接続数	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる JDE サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
最大アイドル時間	統合アプライアンスによって閉じられるまで JDE サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間がありません)。デフォルト値は 120 分です。
最大待機	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
接続の再利用	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は 5 分です。
注: エンドポイントでの負荷 (同時要求の数) に従って接続プール・プロパティーを構成する必要があります。	
リモート・エンドポイント構成	

フィールド名	説明
エンドポイントをファイアウォールの内側で実行	セキュア・コネクタ名のプロパティを使用可能にして、JDE サーバーがファイアウォールの内側で実行されている場合にセキュア・コネクタを使用できるようにします。
セキュア・コネクタ名	ファイアウォールの内側で稼動している JDE サーバーへの接続に使用するセキュア・コネクタの名前を指定します。例えば、JDE アクティビティを含むオーケストレーションが Cast Iron Live (Cloud) にデプロイされる場合は、セキュア・コネクタを構成する必要があります。

親トピック: [JDE アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JDEnew_creating_an_endpoint.html

JDE ライブラリーのインポート

JDE エンドポイントを構成し、JDE コネクタを使用するオーケストレーションを構築し、JDE コネクタを使用してプロジェクトをデプロイする前に、Studio と統合アプライアンスの両方に JDE インスタンス固有のライブラリーをインポートする必要があります。

このタスクについて

Web 管理コンソール (WMC) を使用して、必要なライブラリー・ファイルを統合アプライアンスにインストールする方法については、WMC オンライン・ヘルプを参照してください。

手順

必要な JDE プロバイダー・モジュールのコピーを取得するには、次のようにします。


1. ご使用の JDE システムのインスタンスにログオンします。
2. Studio がインストールされているワークステーションに次の JDE ファイルをインポートします。
 - ApplicationAPIs_JAR.jar
 - ApplicationLogic_JAR.jar
 - Base_JAR.jar
 - BizLogicContainer_JAR.jar
 - BizLogicContainerClient_JAR.jar
 - BusinessLogicServices_JAR.jar
 - castor.jar
 - classes12.zip
 - commons-httpclient-3.0.jar
 - Connector.jar
 - EventProcessor_EJB.jar
 - EventProcessor_JAR.jar

- Generator_JAR.jar
- JdbjBase_JAR.jar
- JdbjInterfaces_JAR.jar
- JdeNet_JAR.jar
- jmxremote.jar
- jmxremote_optional.jar
- jmxri.jar
- log4j.jar
- ManagementAgent_JAR.jar
- Metadata.jar
- MetadataInterface.jar
- ojdbc14.jar
- PMApi_JAR.jar
- Spec_JAR.jar
- System_JAR.jar
- SystemInterfaces_JAR.jar
- xalan.jar
- xerces.jar
- xmlparserv2.jar
- jdelog.properties
- tnsnames.ora
- jdbj.ini
- jdeinterop.ini

3. 必要なファイルを取得した後、「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスを使用して、Studio に [JDE ファイルをインストール](#)します。

親トピック: [JDE アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JDEnew_Importing_JDE_Libraries.html

JDE サーバーに接続する JAR ファイルのインストール

JD Edwards EnterpriseOne transaction サーバー (JDE サーバー) に接続するには、Cast Iron Studio インストール済み環境と同じワークステーションに JDE JAR ファイルをコピーしておく必要があります。

始める前に

- JAR ファイルは JDE システム管理者から入手できます。
- JAR ファイルは、Studio インストール済み環境と同じコンピューターになければなりません。
- JAR ファイルは、接続先 JDE サーバーと同じバージョンのものでなければなりません。

JAR ファイルのインポートについては、[JDE ライブラリーのインポート](#)を参照してください。

このタスクについて

手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」を選択します。
2. 「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「JDE」の下にあるプラス (+) ボタンをクリックします。フィールドおよび「参照」ボタンが表示されます。
3. 「参照」をクリックし、「参照」ダイアログ・ボックスを使用して JAR ファイルを見つけて選択します。
4. 「開く」をクリックして、選択したファイルをインポートします。
5. JAR ファイルが「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスにリストされたら、「OK」をクリックします。

タスクの結果


Studio を再始動して変更内容をアクティブにするためのプロンプトが表示されます。

次のタスク

JDE エンドポイントおよびオーケストレーションを作成できるようになりました。

親トピック: [JDE アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JDEnewinstalling_jarfiles.html

JDE 「ビジネス関数の呼び出し」 アクティビティの使用

特定の JDE ビジネス関数を呼び出すには、JDE 「ビジネス関数の呼び出し」 アクティビティを使用します。このアクティビティからの結果の出力は、オーケストレーションにマップできます。

始める前に

以下のことを確認してください。

- JDE サーバーへの接続に必要な JDE ライブラリー・ファイルがインポート済みであること。詳しくは、[JDE サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)を参照してください。
- JDE サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

JDE サーバーから特定の JDE ビジネス関数を呼び出すには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて JDE フォルダーを展開します。
2. 「ビジネス関数の呼び出し」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。JDE ビジネス関数の呼び出し「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する JDE エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、[JDE アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. JDE 「ビジネス関数」パネルで「参照」をクリックして、ビジネス関数の名前を参照します。
11. 「JDE ビジネス関数の表示」ダイアログで、1 つ以上の関数をビジネス関数リストから選択し、「選択されたビジネス関数 (Selected Business Functions)」ペインに追加します。
12. 「ビジネス関数コンテナ (Business Function Container)」フィールドには、選択した最初のビジネス関数に基づいてデータが取り込まれます。「OK」をクリックします。希望するビジネス関数コンテナ名を入力することもできます。

選択したビジネス関数が「構成」パネルに表示されます。

13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、[JDE アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「ビジネス関数の呼び出し」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

JDE 「ビジネス関数の呼び出し」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [JDE アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JDEnew_Invoke_BusinessFunction_activity.html

JDE「リアルタイム・イベントのポーリング」アクティビティーの使用

JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバーからリアルタイム・イベントをポーリングするには、JDE「リアルタイム・イベントのポーリング」アクティビティーを使用します。リアルタイム・イベントは、ベンダー・システムとの相互運用に使用できる JD Edwards EnterpriseOne server サーバーからの情報を提供する、ビジネス・トランザクションです。リアルタイム・イベントは、HTML、WIN32、およびエンタープライズ・サーバーなど、ビジネス関数が実行される場所ならば、どのような場所にも生成することができます。リアルタイム・イベントは、リアルタイムで通知を生成する場合に便利です。

始める前に

以下のことを確認してください。

- JDE サーバーへの接続に必要な JDE ライブラリー・ファイルがインポート済みであること。詳しくは、[JDE サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)を参照してください。
- JDE サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバーからリアルタイム・イベントをポーリングするには、このタスクを使用します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて JDE フォルダーを展開します。
2. 「リアルタイム・イベントのポーリング」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。JDE「リアルタイム・イベントのポーリング」の「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する JDE エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、[JDE アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。

9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. JDE 「リアルタイム・イベント」パネルで「参照」をクリックして、リアルタイム・イベントを参照します。「JDE リアルタイム・イベントの参照 (Browse JDE Real-Time Events)」ダイアログが表示されます。
11. 「JDE リアルタイム・イベントの参照 (Browse JDE Real-Time Events)」ダイアログで、リストからリアルタイム・イベントを選択して「OK」をクリックします。選択したリアルタイム・イベントが「構成」パネルに表示されます。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、[JDE アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)を参照してください。
13. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
14. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

JDE 「リアルタイム・イベントのポーリング」アクティビティが構成されました。
親トピック: [JDE アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JDEnew_Poll_RealTime_activity.html

JDE アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定

「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、JDE アクティビティ構成を構成するためのタスクの1つです。

このタスクについて

このセクションでは、JDE アウトバウンドおよびインバウンド・アクティビティの再試行オプションを構成するための手順について説明します。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバーへの接続の再試行オプションを構成します。

表 1. 再試行オプション

再 試 行 フ ィ ー ル ド	説明
再 試 行 ご と に 一 秒 待 機 し ま す 。	統合アプライアンスが JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する時間 (秒) を指定します。
失 敗 す る ま で 一 回 の 接 続 を 試 み ま す 。	再試行回数、つまり統合アプライアンスが JDE サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。 注: インバウンドまたはアウトバウンド JDE アクティビティのあるオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスは指定された JDE サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。

親トピック: [JDE アクティビティ](#)

JDE インバウンド・アクティビティの配信ルール・オプションの指定

このタスクについて

このセクションでは、JDE インバウンド・アクティビティの配信ルール・オプションを構成するための手順について説明します。

手順

1. 「チェックリスト」で「配信ルール」タスクを選択します。「配信ルール」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、アクティビティの動作を選択するための配信ルール・オプションを構成します。

表 2. 配信ルール

「配信ルール」フィールド	説明
変更のポーリング頻度: _____ 日/時間/分/秒	JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバーのリアルタイム・イベントのポーリングを行う時間間隔を指定します。時間は、日、時、分、または秒の形式で選択できます。
ポーリングごとに _____ 行をフェッチします	アクティビティが各ポーリング周期で JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバーから取得するリアルタイム・イベントの数を指定します。
メッセージの配信	
ATMOST_ONCE	非永続モード。JDE リアルタイム・イベントは、1 回送信されるかまったく送信されないかのいずれかです。
JDE トランザクション・サーバーでの待機時間: _____ 秒	JD Edwards EnterpriseOne トランザクション・サーバーからイベントを取得するまでコネクタが待機する時間間隔を指定します。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JDnew_Specifying_Retry_Parameters_for_JDE_Activities.html

JMS アクティビティ

- **JMS エンドポイントの作成または編集**
JMS エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが JMS インスタンスに接続するために使用する情報を提供します。
- **JMS アクティビティのための「配信ルール」パラメーターと「再試行」パラメーターの指定**
JMS コネクタでは、JMS エンドポイントへのすべての接続について単一のログイン・セッションを使用します。セッションの有効期限が切れると、コネクタは自動的に新規セッションを確立します。JMS コネクタでは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。JMS コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクタの標準的な再試行動作と見なします。
- **「メッセージの取得」アクティビティ**
「メッセージの取得」アクティビティを使用すると、キューからメッセージを取得できます。メッセージが存在しない場合、アクティビティはタイムアウトになります。

- 「メッセージのポーリング」アクティビティ
「メッセージのポーリング」アクティビティは、構成されたキューのメッセージをポーリングするスターター・アクティビティです。このアクティビティでは、ATLEAST ONCE および EXACTLY ONCE の配信セマンティクスをサポートします。「メッセージのポーリング」アクティビティは、バッチ処理オプションが選択されている場合にバッチ処理をサポートします。
- 「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ
「メッセージのパブリッシュ」アクティビティは、構成されたトピックのデータをパブリッシュできる実行可能アクティビティです。このアクティビティでは、ATLEAST ONCE および ATMOST ONCE の配信セマンティクスをサポートします。
- 「メッセージの送信」アクティビティ
「メッセージの送信」アクティビティは、構成されたキューにメッセージを送信する実行可能アクティビティです。「メッセージの送信」アクティビティは、AT LEAST および AT MOST ONCE の配信セマンティクスをサポートします。要求と応答のユース・ケースでは、「メッセージのポーリング」アクティビティと「メッセージの送信」アクティビティを使用できます。応答について個別のアクティビティは存在しません。
- 「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ
「メッセージのサブスクライブ」アクティビティは、JMS トピックをサブスクライブできるスターター・アクティビティです。このアクティビティでは、ATLEAST ONCE および EXACTLY ONCE の配信セマンティクスをサポートします。
- WebLogic サーバーへの JMS エンドポイントの作成
IBM Cast Iron Studio で以下のステップを実行して、既存の WebLogic サーバーへの JMS エンドポイントを定義できます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_JMSactivities.html

JMS エンドポイントの作成または編集


JMS エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが JMS インスタンスに接続するために使用する情報を提供します。

このタスクについて

編集はグローバルでありローカルではないので、構成プロパティを含め、エンドポイントに対して行うすべての変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

手順


1. 「アクティビティ」タブの「JMS」フォルダーからオーケストレーションにアクティビティをドラッグします。
2. 「要約」パネルにチェックリストが示され、アクティビティの構成に必要な操作が概説されます。


3. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが開きます。
4. 以下のオプションのいずれかをクリックします。
 - 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。エンドポイントのプロパティーを編集するには、「編集」をクリックします。
 - 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
 - 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
注: 編集はグローバルでありローカルではないので、エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。
5. 「エンドポイントの作成」ウィンドウで、フィールドの右側にあるアイコンをクリックして、接続パラメーターを指定するか構成プロパティーを選択します。必須フィールドは、アイコン  で示されます。

「接続パラメーター」のフィールド	説明
JNDI 初期ファクトリー	Studio が JNDI から取得するコンテキスト・ファクトリー・クラスを指定します。Studio はこのクラスを使用して、JMS 接続ファクトリーおよび JMS 宛先 (キューまたはトピック) を検索します。
プロバイダー URL	JMS サーバーの URL を指定します。
プロバイダー・パッケージ	プロバイダー・パッケージ名を指定できるオプション・パラメーター。
ファクトリー名	独自の接続ファクトリーを使用するか、エンドポイント・システムにあらかじめ構成されている付属のデフォルト・ファクトリーの 1 つ (JBoss、ActiveMQ、または WebLogic) を使用します。

- 「プロバイダー」ログイン情報 (ユーザー名およびパスワードを含む) を指定します。
- 「接続プール・オプション」を指定します。

接続プール・オプション	説明
最小接続数	Studio が JMS インスタンスに接続するために使用する最小接続数を指定します。デフォルトの最小接続数は 1 です。
最大接続数	Studio が JMS インスタンスに接続するために使用する最大接続数を指定します。デフォルトの最大接続数は 25 です。
最大アイドル時間	デフォルトの最大アイドル時間は 120 分です。
最大待機	デフォルトの最大待機時間は 300 秒です。

6. 「JNDI プロバイダー」のプロパティーを指定すると、認証などのタスクに対して実装環境固有の JNDI 初期コンテキスト・プロパティーを設定できます。
 - a.  をクリックして、「JNDI プロバイダー」表にフィールドを追加します。表に新しい行が表示されます。
 - b. プロパティー名と値を入力します。

7. 「接続ファクトリー」のプロパティを指定すると、実装環境固有の接続プロパティを設定できません。
 - a.  をクリックして、「接続ファクトリー」表にフィールドを追加します。表に新しい行が表示されます。
 - b. プロパティ名と値を入力します。
8. 「接続のテスト」をクリックして、指定したパラメーターによってプロジェクトが JMS インスタンスにアクセスできることを確認します。


注: 構成プロパティを使用してエンドポイントを構成するときに、構成プロパティの値が有効であることを確認してください。構成プロパティの値が無効であるか、存在しない場合、接続テストは失敗します。

親トピック: [JMS アクティビティ](#)

関連タスク:

- [「メッセージの取得」アクティビティ](#)
- [「メッセージのポーリング」アクティビティ](#)
- [「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ](#)
- [「メッセージの送信」アクティビティ](#)
- [「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Creating_or_Editing_a_JMS_Endpoint.html

JMS アクティビティのための「配信ルール」パラメーターと「再試行」パラメーターの指定

JMS コネクタでは、JMS エンドポイントへのすべての接続について単一のログイン・セッションを使用します。セッションの有効期限が切れると、コネクタは自動的に新規セッションを確立します。JMS コネクタでは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。JMS コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクタの標準的な再試行動作と見なします。

- [JMS アクティビティのための「配信ルール」パラメーターの指定](#)
「配信ルール」パラメーターの指定は、JMS アクティビティを構成するために実行する必要があるタスクの1つです。
- [JMS アクティビティのための「再試行」パラメーターの指定](#)
「再試行」パラメーターの指定は、JMS アクティビティを構成するために実行する必要があるタスクの1つです。

親トピック: [JMS アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

JMS アクティビティーのための「配信ルール」パラメーターの指定

「配信ルール」パラメーターの指定は、JMS アクティビティーを構成するために実行する必要があるタスクの1つです。

このタスクについて

「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な JMS アクティビティーのヘルプ・トピックを参照してください。

手順

1. 「チェックリスト」で、「配信ルール」を選択します。「配信ルール」パネルが表示されます。
2. 「メッセージのポーリング」アクティビティーについてのみ、ポーリング間隔を指定します。デフォルトでは、アクティビティーは1秒ごとに変更をポーリングします。
3. ジョブをバッチで処理するために「オブジェクトをまとめる」を選択します。
4. 以下のいずれかの配信オプションを選択します。

注: 使用可能な配信オプションは JMS アクティビティーによって異なります。すべての配信オプションがどの JMS アクティビティーでも使用できるとは限りません。

配信オプション	説明
ATLEAST_ONCE	メッセージが失われないことを JMS プロバイダーが保証する永続モード。その結果、クライアントは1つのメッセージの複数コピーを受け取る可能性があります。
ALMOST_ONCE	この非永続モードでは、メッセージは失われることがあります。JMS はメッセージの複数コピーを配信しません。
EXACTLY_ONCE	この永続モードでは、JMS はメッセージを1回だけ配信します。

親トピック: [JMS アクティビティーのための「配信ルール」パラメーターと「再試行」パラメーターの指定](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

JMS アクティビティーのための「再試行」パラメーターの指定

「再試行」パラメーターの指定は、JMS アクティビティーを構成するために実行する必要があるタスクの1つです。

このタスクについて

「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な JMS アクティビティーのヘルプ・トピックを参照してください。

手順


1. 「チェックリスト」で、「再試行」を選択します。「再試行」パネルが開きます。
2. JMS インスタンスに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表で、JMS インスタンスに接続するための再試行オプションについて説明します。

再試行フィールド	説明
再試行ごとに __ 秒待機します。	統合アプライアンスが JMS インスタンスへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数。デフォルトでは、このパラメーターは 30 秒に設定されています。
失敗するまで __ 回の接続を試みます。	再試行回数を指定します。これは、統合アプライアンスがエラーを出して現在のオークストレーション・ジョブの処理を停止するまでに、JMS インスタンスへの接続の確立を試行する最大の回数です。デフォルトでは、このパラメーターは 5 回に設定されています。

3. 「メッセージの取得」アクティビティーについて、「アクティビティー・タイムアウト」パラメーターの値を指定します。

親トピック: [JMS アクティビティーのための「配信ルール」パラメーターと「再試行」パラメーターの指定](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Get_To_Specify_Retry_Parameters.html

「メッセージの取得」アクティビティー

「メッセージの取得」アクティビティーを使用すると、キューからメッセージを取得できます。メッセージが存在しない場合、アクティビティーはタイムアウトになります。

このタスクについて

「メッセージの取得」アクティビティは、バッチ処理オプションが選択されている場合にバッチ処理をサポートします。バッチ処理オプションが選択されているときに複数のメッセージがキューに存在する場合、アクティビティはメッセージを1つずつ処理せずに、すべてのメッセージを一度に処理します。

重要: このオーケストレーションには、データ・ソースを表す JMS エンドポイントが既に存在している必要があります。PeopleSoft エンドポイントがない場合、入出力マッピングは使用不可になります。

- [JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加](#)
- [アクティビティ名の変更](#)
- [JMS エンドポイントの選出](#)
- [「メッセージの取得」アクティビティの構成](#)
- [入力のマッピング](#)

入力は、オーケストレーション (変数) から JMS エンドポイント (パラメーター) に送信されたデータを表します。

- [出力のマッピング](#)

出力は、JMS アクティビティ (パラメーター) からオーケストレーション (変数) に送信されたデータを表します。

親トピック: [JMS アクティビティ](#)

関連タスク:

[JMS エンドポイントの作成または編集](#)


[「メッセージのポーリング」アクティビティ](#)

[「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ](#)

[「メッセージの送信」アクティビティ](#)

[「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Get_Message_Activity.html

JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加

手順

1. アクティブなプロジェクトで、「アクティビティ」タブを開いて JMS フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「メッセージの取得」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。
3. アクティビティが表示されると、「メッセージの取得チェックリスト (Get Message Checklist)」が下に表示されます。

親トピック: [「メッセージの取得」アクティビティ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Get_Add_a_JMS_Activity.html

アクティビティー名の変更

手順

1. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
2. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。

親トピック: [「メッセージの取得」アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Get_Changing_Activity_Name.html

JMS エンドポイントの選出

手順

1. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
2. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する JMS エンドポイントを選択します。
ヒント: このとき「新規作成」をクリックして必要なエンドポイントを作成できます。
3. 「OK」をクリックすると、エンドポイント固有の構成オプションが読み取り専用状態で表示されます。
注: 選択されたエンドポイントの構成に変更が必要な場合は、「編集」をクリックしてオプションをアクティブにします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。

親トピック: [「メッセージの取得」アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「メッセージの取得」アクティビティの構成

手順

1. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
2. 「キュー」フィールドで、ポーリングするキューのプロバイダー固有の名前を指定します。
3. 「メッセージ・データ」メニューを開き、メッセージで使用する形式を「バイト (Bytes)」または「テキスト」から選択します。
4. 「メッセージ・セレクター」フィールドに、メッセージ・ヘッダーのテキストを入力します。


JMS メッセージ・セレクターを使用すると、メッセージ・ヘッダーのテキストを送信することによって、クライアントは、対象とするメッセージを指定できます。ヘッダーおよびプロパティがセレクターと一致するメッセージのみが配信されます。メッセージ・セレクターはメッセージ本文の値を参照できません。メッセージ・セレクター・ストリングはJMSセレクター構文に従う必要があります。

5. 「チェックリスト」で、「配信ルール」をクリックします。
6. 「オブジェクトをまとめる」チェック・ボックスをクリックして、このオプションをアクティブ化します。これにより、アクティビティで複数のメッセージをバッチ処理できます。
7. 「配信」メニューを開き、ATLEAST_ONCE または ATMOST_ONCE のいずれかのオプションを選択します。
8. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
9. デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。

詳しくは、『[JMS アクティビティのための「再試行」パラメーターの指定](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージの取得」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Get_Configuring_Get_Message_Activity.html

入力のマッピング

入力は、オーケストレーション (変数) から JMS エンドポイント (パラメーター) に送信されたデータを表します。

始める前に

必要な場合は、『[変数の作成](#)』の手順に従って、「ソース」列または「宛先」列にカスタム・マッピング変数を作成できます。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」をクリックします。オプションのセットが表示され、「アクティビティーへ」リストに JMS 変数が表示されます。
2. 「入力の選択」をクリックします。

「入力の選択」ダイアログ・ボックスは、すべての変数をリストします。

3. 変数を選択してから、「OK」をクリックします。
4. アクティビティーをリンクするには、「オーケストレーションから」リストの変数をクリックして、「アクティビティーへ」リストにリストされているパラメーターにドラッグします。

リンクが実行可能な場合、2つのアクティビティーをリンクする線が表示されます。

5. この手順を繰り返して、他のオーケストレーション変数と JMS パラメーターをリンクさせます。
6. 入力リンクをテストするには、「テスト」ボタンをクリックします。


「入力テスト・ファイル」表は、リンクされたすべての変数/パラメーターをリストします。

7. 「ロケーション」列で、小さな青いボタンをクリックします。
8. 「参照」ダイアログ・ボックスを使用して入力テスト・ファイルを選択します。
9. 「テストの実行」をクリックします。テスト結果は下の列に表示されます。

ヒント: マップのリンクを変更せずに、マップに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージの取得」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Get_Mapping_Inputs.html

出力のマッピング

出力は、JMS アクティビティー (パラメーター) からオーケストレーション (変数) に送信されたデータを表します。

始める前に

必要な場合は、『[変数の作成](#)』の手順に従って、「ソース」列または「宛先」列にカスタム・マッピング変数を作成できます。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」をクリックします。
2. 「アクティビティーから」リストにリストされたパラメーターを確認します。

3. 現在のアクティビティの出力パラメーターに一致する新しいオーケストレーション変数を作成したい場合は、パラメーターを選択してから「コピー」をクリックします。
4. 「パラメーターのコピー」ダイアログ・ボックスで、1つ以上のパラメーターを選択してから「OK」をクリックして、「オーケストレーションへ」リストに追加します。選択した出力パラメーターのデータ型、スキーマ、またはスキーマ・フラグメントが新しい変数に適用されます。
5. 「入力の選択」をクリックします。

「入力の選択」ダイアログ・ボックスは、他のエンドポイントに関連するすべての変数をリストします。


6. 1つ以上の変数を選択してから、「OK」をクリックしてこのリストに追加します。
7. 「アクティビティから」リストのパラメーターを、「オーケストレーションへ」リストにリストされた変数にドラッグします。

リンクが実行可能な場合、2つのアクティビティをリンクする線が表示されます。

8. この手順を繰り返して、他のパラメーターと変数をリンクさせます。
9. 出力リンクをテストするには、「テスト」ボタンをクリックします。変数は「入力テスト・ファイル」表にリストされています。
10. 「ロケーション」列で、小さな青いボタンをクリックします。
11. 「参照」ダイアログ・ボックスを使用して入力テスト・ファイルを選択します。
12. 「テストの実行」をクリックします。テスト結果は下の列に表示されます。
ヒント: マップのリンクを変更せずに、マップに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージの取得」アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Get_Mapping_Outputs.html

「メッセージのポーリング」アクティビティ

「メッセージのポーリング」アクティビティは、構成されたキューのメッセージをポーリングするスターター・アクティビティです。このアクティビティでは、ATLEAST ONCE および EXACTLY ONCE の配信セマンティクスをサポートします。「メッセージのポーリング」アクティビティは、バッチ処理オプションが選択されている場合にバッチ処理をサポートします。

このタスクについて

EXACTLY ONCE 配信セマンティクスは、メッセージ肯定応答を使用して処理されます。JMS プロバイダーは肯定応答メッセージのコピーを配信してはならないため、「メッセージのポーリング」アクティビティは EXACTLY_ONCE 配信セマンティクスのために、このプロバイダーを活用します。バッチ処理オプションが選択されているときに複数のメッセージがキューに存在する場合、アクティビティはメッセージを1つずつ処理せずに、すべてのメッセージを一度に処理します。

重要: このオーケストレーションには、データ・ソースを表す JMS エンドポイントが必要です。これがない場合、出力マッピングは無効になります。

- [JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加](#)
- [アクティビティ名の変更](#)
- [JMS エンドポイントの選出](#)
- [「メッセージのポーリング」アクティビティの構成](#)
- [出力のマッピング](#)

出力は、JMS アクティビティ (パラメーター) からオーケストレーション (変数) に送信されたデータを表します。

親トピック: [JMS アクティビティ](#)

関連タスク:

[JMS エンドポイントの作成または編集](#)


[「メッセージの取得」アクティビティ](#)

[「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ](#)

[「メッセージの送信」アクティビティ](#)

[「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Poll_Message_Activity.html


JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加

手順

1. アクティブなプロジェクトで、「アクティビティ」タブを開いて JMS フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「メッセージのポーリング」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。
3. アクティビティが表示されると、「メッセージのポーリング・チェックリスト (Poll Message Checklist)」が下に表示されます。

親トピック: [「メッセージのポーリング」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Poll_Add_a_JMS_Activity.html


アクティビティ名の変更

手順

1. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
2. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。

親トピック: [「メッセージのポーリング」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Poll_Changing_Activity_Name.html


JMS エンドポイントの選出

手順

1. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
2. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する JMS エンドポイントを選択します。
ヒント: このとき「新規作成」をクリックして必要なエンドポイントを作成できます。
3. 「OK」をクリックすると、エンドポイント固有の構成オプションが読み取り専用状態で表示されます。
注: 選択されたエンドポイントの構成に変更が必要な場合は、「編集」をクリックしてオプションをアクティブにします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。

親トピック: [「メッセージのポーリング」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Poll_Picking_JMS_Endpoint.html

「メッセージのポーリング」アクティビティの構成

手順

1. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
2. 「キュー」フィールドで、ポーリングするキューのプロバイダー固有の名前を指定します。
3. 「メッセージ・データ」メニューを開き、メッセージで使用する形式を「バイト (Byte)」または「テキスト」から選択します。
4. 「メッセージ・セレクター」フィールドに、メッセージ・ヘッダーのテキストを入力します。


JMS メッセージ・セレクターを使用すると、メッセージ・ヘッダーのテキストを送信することによって、クライアントは、対象とするメッセージを指定できます。ヘッダーおよびプロパティがセレクターと一致するメッセージのみが配信されます。メッセージ・セレクターはメッセージ本文の値を参照できません。メッセージ・セレクター・ストリングはJMSセレクター構文に従う必要があります。

5. 「チェックリスト」で、「配信ルール」をクリックします。
6. 「変更のポーリング頻度 (Poll for changes)」フィールドで、設定する間隔の数値を選択します。
7. 「オブジェクトをまとめる」チェック・ボックスをクリックして、このオプションをアクティブ化します。これにより、アクティビティーで複数のメッセージをバッチ処理できます。
8. 「配信」メニューを開き、ATLEAST_ONCE、ATMOST_ONCE、または EXACTLY_ONCE のいずれかのオプションを選択します。
9. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
10. デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。

詳しくは、『[JMS アクティビティーのための「再試行」パラメーターの指定](#)』を参照してください。

親トピック: 「[メッセージのポーリング](#)」アクティビティー

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Poll_Configuring_Poll_Message_Activity.html

出力のマッピング

出力は、JMS アクティビティー (パラメーター) からオーケストレーション (変数) に送信されたデータを表します。

始める前に

必要な場合は、『[変数の作成](#)』の手順に従って、「ソース」列または「宛先」列にカスタム・マッピング変数を作成できます。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」をクリックします。
2. 「アクティビティーから」リストにリストされたパラメーターを確認します。
3. 現在のアクティビティーの出力パラメーターに一致する新しいオーケストレーション変数を作成したい場合は、パラメーターを選択してから「コピー」をクリックします。

4. 「パラメーターのコピー」 ダイアログ・ボックスで、1つ以上のパラメーターを選択してから「OK」をクリックして、「オーケストレーションへ」リストに追加します。選択した出力パラメーターのデータ型、スキーマ、またはスキーマ・フラグメントが新しい変数に適用されます。
5. 「入力の選択」をクリックします。

「入力の選択」ダイアログ・ボックスは、他のエンドポイントに関連するすべての変数をリストします。


6. 1つ以上の変数を選択してから、「OK」をクリックしてこのリストに追加します。
7. 「アクティビティーから」リストのパラメーターを、「オーケストレーションへ」リストにリストされた変数にドラッグします。

リンクが実行可能な場合、2つのアクティビティーをリンクする線が表示されます。

8. この手順を繰り返して、他のパラメーターと変数をリンクさせます。
9. 出力リンクをテストするには、「テスト」ボタンをクリックします。変数は「入力テスト・ファイル」表にリストされています。
10. 「ロケーション」列で、小さな青いボタンをクリックします。
11. 「参照」ダイアログ・ボックスを使用して入力テスト・ファイルを選択します。
12. 「テストの実行」をクリックします。テスト結果は下の列に表示されます。
ヒント: マップのリンクを変更せずに、マップに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージのポーリング」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Poll_Mapping_Outputs.html

「メッセージのパブリッシュ」アクティビティー

「メッセージのパブリッシュ」アクティビティーは、構成されたトピックのデータをパブリッシュできる実行可能アクティビティーです。このアクティビティーでは、ATLEAST ONCE および ATMOST ONCE の配信セマンティクスをサポートします。

このタスクについて

このオーケストレーションには、データ・ソースを表す JMS エンドポイントが既に存在している必要があります。これがない場合、入力マッピングは無効になります。

- [JMS アクティビティーのオーケストレーションへの追加](#)
- [アクティビティー名の変更](#)
- [JMS エンドポイントの選出](#)
- [「メッセージのパブリッシュ」アクティビティーの構成](#)
- [入力のマッピング](#)

入力は、オーケストレーション (変数) から JMS エンドポイント (パラメーター) に送信されたデータを表

します。

親トピック: [JMS アクティビティ](#)

関連タスク:

[JMS エンドポイントの作成または編集](#)


「メッセージの取得」アクティビティ

「メッセージのポーリング」アクティビティ

「メッセージの送信」アクティビティ

「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Publish_Message_Activity.html


JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加

手順

1. アクティブなプロジェクトで、「アクティビティ」タブを開いて JMS フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。
3. アクティビティが表示されると、「メッセージの公開チェックリスト (Publish Message Checklist)」が下に表示されます。

親トピック: [「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Publish_Add_a_Publish_Msg_Activity.html


アクティビティ名の変更

手順

1. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
2. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。

親トピック: 「メッセージのパブリッシュ」 アクティビティー

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Publish_Changing_Activity_Name.html


JMS エンドポイントの選出

手順

1. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
2. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する JMS エンドポイントを選択します。
ヒント: このとき「新規作成」をクリックして必要なエンドポイントを作成できます。
3. 「OK」をクリックすると、エンドポイント固有の構成オプションが読み取り専用状態で表示されます。
注: 選択されたエンドポイントの構成に変更が必要な場合は、「編集」をクリックしてオプションをアクティブにします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。

親トピック: 「メッセージのパブリッシュ」 アクティビティー

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Publish_Picking_JMS_Endpoint.html

「メッセージのパブリッシュ」 アクティビティーの構成

手順


1. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
2. 「トピック」フィールドで、JMS システムのトピックを識別するプロバイダー固有の名前を指定します。
3. 「メッセージ・データ」メニューを開き、メッセージで使用する形式を「バイト (Byte)」または「テキスト」から選択します。
4. 「応答先」フィールドで、応答メッセージを受け取る宛先の名前を指定します。

5. 「存続時間」フィールドで、メッセージの有効期限が切れるまでの秒数を指定します (0 は有効期限がない状態を設定します)。
6. 「優先順位」フィールドで、メッセージ優先順位を表す数値を選択します (0 から 4: 低い優先順位、5 から 9: 高い優先順位)。
7. 「チェックリスト」で、「配信ルール」をクリックします。
8. 「オブジェクトをまとめる」チェック・ボックスをクリックすると、アクティビティーで複数のメッセージをバッチ処理できます。
9. 「配信」メニューを開き、ATLEAST_ONCE または ATMOST_ONCE のいずれかのオプションを選択します。
10. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
11. デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。

詳しくは、『[JMS アクティビティーのための「再試行」パラメーターの指定](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージのパブリッシュ」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Publish_Configuring_Publish_Message_Activity.html

入力のマッピング

入力は、オーケストレーション (変数) から JMS エンドポイント (パラメーター) に送信されたデータを表します。

始める前に

必要な場合は、『[変数の作成](#)』の手順に従って、「ソース」列または「宛先」列にカスタム・マッピング変数を作成できます。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」をクリックします。オプションのセットが表示され、「アクティビティーへ」リストに JMS 変数が表示されます。
2. 「入力の選択」をクリックします。

「入力の選択」ダイアログ・ボックスは、すべての変数をリストします。

3. 変数を選択してから、「OK」をクリックします。
4. アクティビティーをリンクするには、「オーケストレーションから」リストの変数をクリックして、「アクティビティーへ」リストにリストされているパラメーターにドラッグします。

リンクが実行可能な場合、2つのアクティビティーをリンクする線が表示されます。

5. この手順を繰り返して、他のオーケストレーション変数と JMS パラメーターをリンクさせます。

6. 入力リンクをテストするには、「テスト」ボタンをクリックします。

「入力テスト・ファイル」表は、リンクされたすべての変数/パラメーターをリストします。

7. 「ロケーション」列で、小さな青いボタンをクリックします。


8. 「参照」ダイアログ・ボックスを使用して入力テスト・ファイルを選択します。

9. 「テストの実行」をクリックします。テスト結果は下の列に表示されます。

ヒント: マップのリンクを変更せずに、マップに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Publish_Mapping_Inputs.html

「メッセージの送信」アクティビティ

「メッセージの送信」アクティビティは、構成されたキューにメッセージを送信する実行可能アクティビティです。「メッセージの送信」アクティビティは、AT LEAST および AT MOST ONCE の配信セマンティクスをサポートします。要求と応答のユース・ケースでは、「メッセージのポーリング」アクティビティと「メッセージの送信」アクティビティを使用できます。応答について個別のアクティビティは存在しません。

このタスクについて

このオーケストレーションには、データ・ソースを表す JMS エンドポイントが既に存在している必要があります。これがない場合、入力マッピングは無効になります。

- [JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加](#)
- [アクティビティ名の変更](#)
- [JMS エンドポイントの選出](#)
- [「メッセージの送信」アクティビティの構成](#)
- [入力のマッピング](#)

入力は、オーケストレーション (変数) から JMS エンドポイント (パラメーター) に送信されたデータを表します。

親トピック: [JMS アクティビティ](#)

関連タスク:


[JMS エンドポイントの作成または編集](#)

[「メッセージの取得」アクティビティ](#)

[「メッセージのポーリング」アクティビティ](#)

[「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ](#)

[「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Send_Message_Activity.html

JMS アクティビティーのオーケストレーションへの追加

手順

1. アクティブなプロジェクトで、「アクティビティー」タブを開いて JMS フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「メッセージの送信」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。
3. アクティビティーが表示されると、「メッセージの送信チェックリスト (Send Message Checklist)」が下に表示されます。

親トピック: [「メッセージの送信」アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Send_Add_an_Activity.html

アクティビティー名の変更

手順

1. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
2. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。

親トピック: [「メッセージの送信」アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Send_Changing_Activity_Name.html

JMS エンドポイントの選出

手順

1. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
2. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する JMS エンドポイントを選択します。
ヒント: このとき「新規作成」をクリックして必要なエンドポイントを作成できます。
3. 「OK」をクリックすると、エンドポイント固有の構成オプションが読み取り専用状態で表示されます。
注: 選択されたエンドポイントの構成に変更が必要な場合は、「編集」をクリックしてオプションをアクティブにします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。

親トピック: 「メッセージの送信」アクティビティ

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Send_Picking_JMS_Endpoint.html

「メッセージの送信」アクティビティの構成

手順

1. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
2. 「キュー」フィールドで、送信するキューのプロバイダー固有の名前を指定します。
3. 「メッセージ・データ」メニューを開き、メッセージで使用する形式を「バイト (Bytes)」または「テキスト」から選択します。
4. 「応答先」フィールドで、応答メッセージを受け取る宛先の名前を指定します。
5. 「存続時間」フィールドで、メッセージの有効期限が切れるまでの秒数を指定します (0 は有効期限がない状態を設定します)。
6. 「優先順位」フィールドで、メッセージ優先順位を表す数値を選択します (0 から 4: 低い優先順位、5 から 9: 高い優先順位)。
7. 「チェックリスト」で、「配信ルール」をクリックします。
8. 「オブジェクトをまとめる」チェック・ボックスをクリックすると、アクティビティで複数のメッセージをバッチ処理できます。
9. 「配信」メニューを開き、ATLEAST_ONCE または ATMOST_ONCE のいずれかのオプションを選択します。
10. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
11. デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。

詳しくは、『JMS アクティビティのための「再試行」パラメーターの指定』を参照してください。

親トピック: 「メッセージの送信」アクティビティ

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Send_Configuring_Send_Message_Activity.html

入力のマッピング

入力は、オーケストレーション (変数) から JMS エンドポイント (パラメーター) に送信されたデータを表します。

始める前に

必要な場合は、『[変数の作成](#)』の手順に従って、「ソース」列または「宛先」列にカスタム・マッピング変数を作成できます。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」をクリックします。オプションのセットが表示され、「アクティビティーへ」リストに JMS 変数が表示されます。
2. 「入力の選択」をクリックします。

「入力の選択」ダイアログ・ボックスは、すべての変数をリストします。

3. 変数を選択してから、「OK」をクリックします。
4. アクティビティーをリンクするには、「オーケストレーションから」リストの変数をクリックして、「アクティビティーへ」リストにリストされているパラメーターにドラッグします。

リンクが実行可能な場合、2つのアクティビティーをリンクする線が表示されます。


5. この手順を繰り返して、他のオーケストレーション変数と JMS パラメーターをリンクさせます。
6. 入力リンクをテストするには、「テスト」ボタンをクリックします。

「入力テスト・ファイル」表は、リンクされたすべての変数/パラメーターをリストします。

7. 「ロケーション」列で、小さな青いボタンをクリックします。
8. 「参照」ダイアログ・ボックスを使用して入力テスト・ファイルを選択します。
9. 「テストの実行」をクリックします。テスト結果は下の列に表示されます。

ヒント: マップのリンクを変更せずに、マップに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージの送信」アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Send_Mapping_Inputs.html

「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ

「メッセージのサブスクライブ」アクティビティは、JMS トピックをサブスクライブできるスターター・アクティビティです。このアクティビティでは、ATLEAST ONCE および EXACTLY ONCE の配信セマンティクスをサポートします。

このタスクについて

このオーケストレーションには、データ・ソースを表す JMS エンドポイントが既に存在している必要があります。これがない場合、出力マッピングは無効になります。

- [JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加](#)
- [アクティビティ名の変更](#)
- [JMS エンドポイントの選出](#)
- [「メッセージのサブスクライブ」アクティビティの構成](#)
- [出力のマッピング](#)

出力は、JMS アクティビティ (パラメーター) からオーケストレーション (変数) に送信されたデータを表します。

親トピック: [JMS アクティビティ](#)

関連タスク:


[JMS エンドポイントの作成または編集](#)

[「メッセージの取得」アクティビティ](#)

[「メッセージのポーリング」アクティビティ](#)

[「メッセージのパブリッシュ」アクティビティ](#)

[「メッセージの送信」アクティビティ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Subscribe_Message_Activity.html


JMS アクティビティのオーケストレーションへの追加

手順

1. アクティブなプロジェクトで、「アクティビティー」タブを開いて JMS フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「メッセージのサブスクライブ」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。
3. アクティビティーが表示されると、「メッセージのサブスクライブ・チェックリスト (Subscribe Message Checklist)」が下に表示されます。

親トピック: [「メッセージのサブスクライブ」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Subscribe_Add_an_Activity.html


アクティビティー名の変更

手順

1. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
2. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。

親トピック: [「メッセージのサブスクライブ」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Subscribe_Changing_Activity_Name.html

JMS エンドポイントの選出


手順

1. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
2. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する JMS エンドポイントを選択します。
ヒント: このとき「新規作成」をクリックして必要なエンドポイントを作成できます。
3. 「OK」をクリックすると、エンドポイント固有の構成オプションが読み取り専用状態で表示されます。
注: 選択されたエンドポイントの構成に変更が必要な場合は、「編集」をクリックしてオプションをアクティブにします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべて

の使用に、グローバルに影響します。

親トピック: [「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Subscribe_Picking_JMS_Endpoint.html

「メッセージのサブスクライブ」アクティビティの構成

手順

1. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
2. 「トピック」フィールドで、JMS システムのトピックを識別するプロバイダー固有の名前を指定します。
3. 「メッセージ・データ」メニューを開き、メッセージで使用する形式を「バイト (Bytes)」または「テキスト」から選択します。
4. 「メッセージ・セレクター」フィールドに、メッセージ・ヘッダーのテキストを入力します。

JMS メッセージ・セレクターを使用すると、メッセージ・ヘッダーのテキストを送信することによって、クライアントは、対象とするメッセージを指定できます。ヘッダーおよびプロパティがセレクターと一致するメッセージのみが配信されます。メッセージ・セレクターはメッセージ本文の値を参照できません。メッセージ・セレクター・ストリングは JMS セレクター構文に従う必要があります。

5. 「クライアント ID」フィールドに、この JMS 接続に割り当てる固有のクライアント ID を指定します。


クライアントの ID はクライアント固有の ConnectionFactory 内で構成され、クライアントによって作成される接続に透過的に割り当てられます。あるいは、クライアントはプロバイダー固有の値を使用して、接続のクライアント ID を設定できます。

6. 「チェックリスト」で、「配信ルール」をクリックします。
7. 「配信」メニューを開き、ATLEAST_ONCE、ATMOST_ONCE、または EXACTLY_ONCE のいずれかのオプションを選択します。
8. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
9. デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。

詳しくは、『[JMS アクティビティのための「再試行」パラメーターの指定](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

出力のマッピング

出力は、JMS アクティビティ (パラメーター) からオーケストレーション (変数) に送信されたデータを表します。

始める前に

必要な場合は、『[変数の作成](#)』の手順に従って、「ソース」列または「宛先」列にカスタム・マッピング変数を作成できます。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」をクリックします。
2. 「アクティビティから」リストにリストされたパラメーターを確認します。
3. 現在のアクティビティの出力パラメーターに一致する新しいオーケストレーション変数を作成したい場合は、パラメーターを選択してから「コピー」をクリックします。
4. 「パラメーターのコピー」ダイアログ・ボックスで、1つ以上のパラメーターを選択してから「OK」をクリックして、「オーケストレーションへ」リストに追加します。選択した出力パラメーターのデータ型、スキーマ、またはスキーマ・フラグメントが新しい変数に適用されます。
5. 「入力の選択」をクリックします。

「入力の選択」ダイアログ・ボックスは、他のエンドポイントに関連するすべての変数をリストします。

6. 1つ以上の変数を選択してから、「OK」をクリックしてこのリストに追加します。
7. 「アクティビティから」リストのパラメーターを、「オーケストレーションへ」リストにリストされた変数にドラッグします。

リンクが実行可能な場合、2つのアクティビティをリンクする線が表示されます。

8. この手順を繰り返して、他のパラメーターと変数をリンクさせます。
9. 出力リンクをテストするには、「テスト」ボタンをクリックします。変数は「入力テスト・ファイル」表にリストされています。
10. 「ロケーション」列で、小さな青いボタンをクリックします。
11. 「参照」ダイアログ・ボックスを使用して入力テスト・ファイルを選択します。
12. 「テストの実行」をクリックします。テスト結果は下の列に表示されます。
ヒント: マッピングのリンクを変更せずに、マッピングに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。

親トピック: [「メッセージのサブスクライブ」アクティビティ](#)

WebLogic サーバーへの JMS エンドポイントの作成

IBM Cast Iron Studio で以下のステップを実行して、既存の WebLogic サーバーへの JMS エンドポイントを定義できます。

始める前に

IBM Cast Iron Studio および統合アプライアンス・ランタイムに以下の JAR ファイルをインストールします。

- wlclient.jar
- wljmsclient.jar

手順

1. Studio で、「アクティビティ」タブの「JMS」フォルダーからオーケストレーションにアクティビティをドラッグします。
2. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが開きます。
3. エンドポイントを作成するには、「新規作成」をクリックします。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
4. 「エンドポイントの作成」ウィンドウで、以下の接続パラメーターを指定します。

「接続パラメーター」のフィールド	説明
JNDI 初期ファクトリー	Studio が JNDI から取得するコンテキスト・ファクトリー・クラスを指定します。 weblogic.jndi.WLInitialContextFactory この JNDI ファクトリー・クラスは、JMS WebLogic サーバーのインストール中に構成されます。
プロバイダー URL	次の形式で JMS サーバーの URL を指定します。 t3://:7001 ここで、7001 はデフォルト・ポートです。
プロバイダー・パッケージ	オプションで、プロバイダー・パッケージ名を指定できます。
ファクトリー名	WebLogic エンドポイント・システムと共に構成するために、提供されたデフォルト・ファクトリーのいずれかを使用します。 weblogic.examples.jms.QueueConnectionFactory

5. 指定したパラメーターを検証するには、「接続のテスト」をクリックします。
注: 構成プロパティを使用してエンドポイントを構成するときに、構成プロパティの値が有効であることを確認してください。構成プロパティの値が無効であるか、存在しない場合、接続テストは失敗します。
6. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。

7. 「トピック」フィールドで、「事前構成またはカスタムのトピック/キュー (Preconfigured or custom Topic/Queues)」リストから以下のトピックを選択します。


`weblogic.examples.jms.exampleQueue`

このトピックは、JMS WebLogic サーバーを使用するように事前構成されています。

8. 「メッセージ・データ」メニューを開き、メッセージで使用する形式を「バイト (Bytes)」または「テキスト」から選択します。
9. 「メッセージ・セレクター」フィールドに、メッセージ・ヘッダーのテキストを入力できます。JMS メッセージ・セレクターでメッセージ・ヘッダーのテキストを送信することによって、クライアントは、対象とするメッセージを指定できます。ヘッダーおよびプロパティがセレクターと一致するメッセージのみが配信されます。メッセージ・セレクターはメッセージ本文の値を参照できません。メッセージ・セレクター・ストリングは JMS セレクター構文に準拠する必要があります。
注: 「メッセージ・セレクター」はブランクにできます。
10. 「クライアント ID」フィールドに、この JMS 接続に割り当てる固有のクライアント ID を指定します。
11. 「チェックリスト」で、「配信ルール」をクリックします。
12. 「配信」メニューを開き、「ATMOST_ONCE」オプションを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
14. 問題がある場合は、デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。

親トピック: JMS アクティビティ

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/JMS_Creating_a_JMS_WebLogic_Endpoint.html`


MQ アクティビティ

- [MQ アクティビティ・エンドポイントの作成または編集](#)
MQ アクティビティでは、MQ キューとの間でフラット・ファイル、XML、またはロー・メッセージがやりとりされます。MQ システムでは、キューのネットワーク経由でメッセージが経路指定されます。「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」、「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」、および「MQ メッセージの書き込み (MQ Put Message)」という 3 つの MQ アクティビティすべてで、同じエンドポイント作成ダイアログ・ボックスが使用されます。
- [MQ システムに接続する JAR ファイルのインストール](#)
Studio から MQ システムに接続するには、Studio インストール済み環境と同じワークステーションに MQ コネクタ固有の JAR ファイルが必要です。エンドポイントおよびオーケストレーションを構成できるようにするには、これらのファイルが Studio 内に存在する必要があります。
- [MQRFH2 ヘッダーの XML スキーマの定義およびロード](#)
追加のメタデータまたはパラメーターを MQ メッセージに組み込むには、パラメーターを定義する MQRFH2 ヘッダーを定義する必要があります。通常、このようなパラメーターはアプリケーションに固有ですが、メッセージ自体のデータでは使用されません。
- [「MQ メッセージの取得 \(MQ Get Message\)」アクティビティ](#)
「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティを使用して、実行時に MQ キューからメ

ッセージを取得します。

- 「MQ メッセージの書き込み (MQ Put Message)」 アクティビティ
「MQ メッセージの書き込み (MQ Put Message)」 アクティビティを使用して、実行時に、指定のキューにメッセージを送信します。
- 「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」 アクティビティ
「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」 アクティビティを使用して、実行時に、指定の再試行間隔に基づいて定期的に MQ キューでメッセージを検査します。
- [MQRFH2 XML データおよびスキーマの例](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_MQactivities.html

MQ アクティビティ・エンドポイントの作成または編集

MQ アクティビティでは、MQ キューとの間でフラット・ファイル、XML、またはロー・メッセージがやりとりされます。MQ システムでは、キューのネットワーク経由でメッセージが経路指定されます。「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」、「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」、および「MQ メッセージの書き込み (MQ Put Message)」という 3 つの MQ アクティビティすべてで、同じエンドポイント作成ダイアログ・ボックスが使用されます。

始める前に

MQ アクティビティを完全に機能させるには、「キュー・マネージャー」、「チャンネル名」、および他のキュー名が正しく構成されていなければなりません。MQ 構成の詳細については、WebSphere MQ ヘルプを参照してください。

手順


1. MQ 接続アクティビティを「アクティビティ」タブからオーケストレーション上にドラッグします。
「要約」パネルにチェックリストが示され、アクティビティの構成に必要な操作が概説されます。
2. このチェックリストから「エンドポイント」をクリックして、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 参照: エンドポイント・リポジトリからエンドポイントを追加する場合に選択します。追加したエンドポイントは、「編集」をクリックすれば編集できます。
注: エンドポイントを編集すると、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響があります。編集はローカルではなく、グローバルとなります。
 - 新規作成: 新規エンドポイントを作成する場合に選択します。
 - 編集: 既存のエンドポイントを編集する場合に選択します。

「エンドポイントの作成」パネルが表示されます。

3. 以下の表で定義されているフィールドに入力します。

4. 完了したら、「OK」をクリックします。


表 1. キュー・マネージャーの詳細

フィールド	説明
ロケーション	
ホスト名	MQ キュー・マネージャーのホスト名を指定します。
ポート	キュー・マネージャーに接続するためのポート番号を指定します。デフォルトでは、キュー・マネージャーのデフォルトである 1414 に設定されます。
キュー・マネージャー	接続先のキュー・マネージャーの名前を指定します。この名前には、最大で 48 文字を指定できます。
チャンネル名	キュー・マネージャーへの接続に使用されるチャンネル名を指定します。この名前には、最大で 20 文字を指定できます。
ログイン	
ユーザー名	キュー・マネージャーへの接続に使用されるアカウントのユーザー名。この名前の最大長は 12 文字です。このアカウントは、MQ の mqm グループに定義する必要があります。
	注: エンドポイントの一部のフィールドには、これらのフィールドの値を提供するために、 構成プロパティを定義 できます。同じタイプの構成プロパティがプロジェクトに対してすでに構成されている場合に、構成プロパティをサポートするフィールド内をクリックすると、  アイコンが表示されます。
接続プール・オプション	(接続プール・オプションにはデフォルト値が指定されていますが、この値は変更可能です。)
最小接続数	統合アプライアンスが接続プールで常に開いておく接続の数を指定します。0 も指定できます。
最大接続数	統合アプライアンスが接続プールで開く接続の最大数を指定します。デフォルト値を変更する場合、その値は「最小接続数」に指定されている値以上でなければなりません。有効値は 1 から 50 です。50 を超える値を入力した場合、値は 50 に再設定されます。

フィールド	説明
最大アイドル時間	統合アプライアンスによって閉じられるまで接続を開いたままアイドル状態にすることができる時間を指定します。0を指定した場合、接続はプールに返されると閉じられます(つまり、アイドル時間はありません)。

親トピック: [MQ アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/MQ_Creating_or_Editing_a_MQ_Endpoint.html

MQ システムに接続する JAR ファイルのインストール

Studio から MQ システムに接続するには、Studio インストール済み環境と同じワークステーションに MQ コネクター固有の JAR ファイルが必要です。エンドポイントおよびオーケストレーションを構成できるようにするには、これらのファイルが Studio 内に存在する必要があります。

このタスクについて

WebSphere MQ バージョン 5.x および 6.x の場合は、以下の 2 つの JAR ファイルをインストールします。

- connector.jar
- com.ibm.mq.jar

手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」を選択します。
2. 「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「MQ コネクター」の下にあるプラス (+) ボタンをクリックします。フィールドおよび参照ボタンが表示されます。
3. 「参照」をクリックし、「参照」ダイアログ・ボックスを使用して両方の JAR ファイルを見つけて選択します。
4. 「開く」をクリックして、JAR ファイルのコンテンツをインポートします。
5. JAR ファイルが「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスにリストされたら、「OK」をクリックします。

タスクの結果

Cast Iron Studio を再始動して変更内容をアクティブにするためのプロンプトが表示されます。


注: 変更内容を適用するには、Studio をシャットダウンした後、手動で再始動する必要があります。

次のタスク

MQ コネクタ・エンドポイントおよびオーケストレーションを作成できるようになりました。

親トピック: [MQ アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/MQ_installing_jarfiles.html

MQRFH2 ヘッダーの XML スキーマの定義およびロード

追加のメタデータまたはパラメーターを MQ メッセージに組み込むには、パラメーターを定義する MQRFH2 ヘッダーを定義する必要があります。通常、このようなパラメーターはアプリケーションに固有ですが、メッセージ自体のデータでは使用されません。

このタスクについて

MQ がフォルダーを呼び出すときの各パラメーターは、他の MQRFH2 ヘッダー・データとともに XML フラグメントとして渡されます。それぞれのパラメーターには、固有の XML 構造を指定できます。

統合アプライアンスは XML メッセージを操作するため、このようなパラメーター・フラグメントはそれぞれ、MQRFH2 ヘッダーから抽出する必要があります。このようなフラグメントは、1 つのフラグメントに統合されて、MQRFH2 パラメーターとして統合アプライアンスに渡されます。

このようなパラメーターをアクセス可能にするには、Studio と統合アプライアンスの両方が、すべてのパラメーターの構造を定義する XML スキーマにアクセスする必要があります。XML スキーマを作成してプロジェクトにロードするには、以下の手順を実行します。

手順

1. XML スキーマ・エディターまたはテキスト・エディターを使用して、MQRFH2 ヘッダーのパラメーターを定義する XML スキーマを作成します。XML スキーマの例については、『[MQRFH2 XML データおよびスキーマの例](#)』を参照してください。自分の XML スキーマは、ご使用のアプリケーションのパラメーターに合わせてカスタマイズする必要があります。


以下のガイドラインに従って XML スキーマを作成します。

- 統合された構造を、単一の NameValueData エlement として定義します。
- すべてのパラメーターを、MQRFH2 ヘッダーに示される順序で、NameValueData Element 内の Element としてリストします。
- パラメーター名は固有でなければなりません。
- パラメーター名、グループ名、およびプロパティ名は有効な XML 名でなければなりません。詳しくは、XML の仕様書または MQ の資料を参照してください。
- 各パラメーターは、単一の Element に含める必要があります。MQ の資料では、このパラメーター・Element をフォルダーと呼んでいます。
- パラメーターには、プロパティとグループの一方または両方を含めることができます。

- グループおよびプロパティは繰り返すことができます。
 - グループは、他のグループ内にネストできます。
 - プロパティは、タイプ `MQRFHQPropertyType` として定義されなければなりません。
2. この XML スキーマをプロジェクトに追加します。詳しくは、『プロジェクトへのファイルのアップロード』を参照してください。
 3. これで、この XML スキーマが「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスで使用可能になりました。MQ アクティビティの「構成」ペインにこのダイアログ・ボックスが表示されるのは、「MQRFH2 ヘッダーのスキーマ・フラグメント」チェック・ボックスをクリックして「[...]」をクリックしたときです。「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスで、ヘッダーを定義する XML スキーマを見つけて、その XML スキーマの `NameValueData` エレメントを選択し、「OK」をクリックします。

親トピック: [MQ アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/MQ_Define_and_Load_a_Schema_Fragment_for_the_MQRFH2_Header.html

「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」 アクティビティ

「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」 アクティビティを使用して、実行時に MQ キューからメッセージを取得します。

注: アクティビティを構成する前に、[MQ アクティビティのエンドポイントを作成](#)しておく必要があります。

「構成」タスクには、以下の3つのセクションがあります。

- [キューおよびメッセージの詳細](#) - キューおよびメッセージの詳細についてプロパティを指定します。
- [配信ルール](#) - メッセージの配信方法を指定します。
- [再試行オプション](#) - 再試行と再試行の間の待機時間、および失敗となるまでの再試行回数を指定します。

「構成」タスクの完了後に、アクティビティの[入力のマッピング](#)および[出力のマッピング](#)を行います。

注: 最大メッセージ・サイズは 100 MB です。

キューおよびメッセージの詳細

次の表にあるフィールドに対してキューおよびメッセージの詳細を指定します。必須フィールドはアスタリスクでマークされています。

フィールド	説明
キュー名 *	統合アプライアンスがメッセージの取得を試みる際の取得元となる MQ キューの名前を指定します。

タイムアウト	<p>キューからメッセージを取得するように「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティによって要求されてから、メッセージが返されずにタイムアウトになるまでの秒数。このタイムアウト期間が過ぎて、メッセージがキューから返されない場合、統合アプライアンスは、メッセージの取得を再試行する前に指定の再試行時間の間、待機します。タイムアウトおよび再試行オプションについて詳しくは、『タイムアウトおよび再試行オプション』を参照してください。</p> <p>統合アプライアンスがタイムアウトになるまでに待機しなければならない時間 (秒) を指定するには、「後」オプションを選択して、「秒」フィールドに秒数を入力します。デフォルトでは、「なし」オプションが選択されています。このオプションは、統合アプライアンスがキューからメッセージを取得するために無期限に待機すること (タイムアウト期間なし) を指定します。</p>
ペイロード・データ型	メッセージ・ペイロードのデータ型 (「バイナリー」または「ストリング」) を指定します。
MQRFH2 ヘッダーのスキーマ・フラグメント	<p>メッセージに MQRFH2 ヘッダーが含まれるかどうかを指定します。メッセージに MQRFH2 ヘッダーが含まれる場合は、このチェック・ボックスを選択して、「[...]」をクリックします。「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスで、ヘッダーを定義する XML スキーマを見つけて、その XML スキーマの NameValueData エレメントを選択し、「OK」をクリックします。スキーマ・フラグメントは、NameValueData エレメントおよびそのすべての子エレメントです。注: ヘッダーを定義する XML スキーマを選択するには、そのスキーマを最初に作成してプロジェクトにロードしておく必要があります。詳細については、『MQRFH2 ヘッダーの XML スキーマの定義およびロード』を参照してください。</p>

配信ルール

フィールド	説明
メッセージの配信	<p>ここで選択できるオプションは、「固有 ID (Unique ID's)」チェック・ボックスが選択されているかどうかによって異なります。そのチェック・ボックスが選択されている場合は、3 つのオプションがすべて選択可能です。そのチェック・ボックスが選択されていない場合は、「1 回以上」のみが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 回以上 - メッセージが少なくとも 1 回は配信されるように指定します (複数回の配信も可能)。接続や統合アプライアンスで障害が発生すると、メッセージは何度も取得されて処理される可能性があります。通常、この配信オプションは、受信システムが重複メッセージを検出または許容できる場合に使用されます。 1 回まで - メッセージが 1 回のみ配信されるか、またはまったく配信されないように指定します。接続や統合アプライアンスで障害が発生すると、メッセージは失われる可能性があります。通常、この配信オプションは、受信システムが重複メッセージを許容できないがメッセージの消失を許容できる場合に使用されます。 1 回のみ - メッセージが 1 回のみ配信されるように指定します。接続や統合アプライアンスで障害が発生しても、このオプションによる配信には影響がありません。統合アプライアンスは、MQ メッセージ ID を使用して、すべてのメッセージが 1 回のみ取得および処理されるようにします。 <p>注: 「1 回のみ」オプションを選択する場合は、パーシスタンスを使用可能にする必要があります。詳しくは、『パーシスタンスを使用可能にする』を参照してください。</p>
メッ	キュー上のメッセージの ID が固有であるかどうかを指定します。

セー
ジの
IDは
固有

再試行オプション

次の表の説明に従って、MQ キューからメッセージを取得するための再試行オプションを構成します。

再試行オプション	説明
1) 再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスがキューからのメッセージの取得を試行するまでに待機する秒数。このオプションが「構成」ペインの「タイムアウト」フィールドや、timeout 入力パラメーターとどのように関連しているのかについて詳細を知るには、『 タイムアウトおよび再試行オプション 』を参照してください。
2) 失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>統合アプライアンスがキューからのメッセージの取得を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティーが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の MQ サーバーに接続できなかつたりキューからメッセージを取得できなかつたりすると、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログにエラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスがシステムおよびオーケストレーションのログにエラーを記録し、現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 のエラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 のエラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>このオプションが「構成」ペインの「タイムアウト」フィールドや、timeout 入力パラメーターとどのように関連しているのかについて詳細を知るには、『タイムアウトおよび再試行オプション』を参照してください。</p>

入力のマップ

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクを選択します。「再試行」パネルが開きます。

アクティビティーの入力パラメーターが、「アクティビティーへ」パネルに表示されます。

2. 「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティーの入力パラメーターはすべてオプションです。次の表にリストされている入力パラメーターが「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」パネルに表示されない場合は、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」パネルで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」パネルでノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

以下の mqmdheader オプション入力パラメーター・ノードを組み合わせたものをマップすれば、「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティで返されるメッセージのタイプを制約できます。

- mqmdheader/MsgId
- mqmdheader/CorreId
- mqmdheader/GroupId
- mqmdheader/MsgSeqNumber

実行時に、このアクティビティは、キューにあるすべてのメッセージに対して連続して繰り返されます。これらのノードに何もマップされていない場合は、何の制約も受けないため、キューにある最初のメッセージが「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティによって返され、オーケストレーションにおける次のアクティビティが処理されます。

これらのいずれかのノードがマップされている場合は、マップされているすべてのノードの実行時の値に適合する最初のメッセージが検出されるまで、実行時に「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティが、キューにある各メッセージに対して繰り返されます。最初に適合するメッセージが「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティによって返され、オーケストレーションにおける次のアクティビティが処理されます。

例えば、次の図に示すように、「入力のマップ」タスクで mqmdheader/MsgId がストリング msgId にマップされていて、デフォルト値 largeOrders が mqmdheader/GroupId に対して指定されているとします。

The screenshot displays the 'Map Inputs' configuration window. On the left, under 'From Orchestration', the variable 'msgId' is mapped to the 'MsgId' property of the '{optional} mqmdheader' activity. A secondary dialog, 'Define Default Value', is open, showing that the 'GroupId' property of the same activity is set to the default value 'largeOrders'. The right pane lists various properties of the mqmdheader object, including MsgType, Expiry, Priority, Persistence, CorreId, and GroupId.

実行時に、「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティから、以下の両方の条件を満たすキュー内の最初のメッセージが返されます。

- ストリング変数 msgId の指定の実行時値が、キューにあるメッセージのメッセージ ID と等しい。
- メッセージのグループ ID が largeOrders と等しい。

オプションで、次の表に定義されている入力パラメーターを使用して、チェックリストの「構成」タスクで「キュー名」および「タイムアウト」に対して指定した設定を実行時に動的に指定変更できます。

例えば、MQ キュー名は、「構成」タスクで `poqueue` に設定できます。実行時に、`queueName` 入力パラメーターを使用して MQ キュー名 `newqueue` をアクティビティーに渡すことができます。実行時に動的に指定されるキュー名が、「構成」パネルで指定された元の設定を指定変更します。この例では、統合アプライアンスは、MQ キュー `newqueue` でメッセージを検索します。

「構成」タスクの設定を指定変更するオプション入力パラメーター

入力パラメーターの名前/ノード	説明	タスクで設定を指定変更するかどうか
<code>timeout</code>	<p>キューからメッセージを取得するように要求してから再試行するまでに統合アプライアンスが待機する時間を指定します。</p> <p>タイムアウト期間なし(統合アプライアンスがキューからメッセージを取得するために無期限に待機する)を指定するには、負の数値を指定します。負の数値を指定することは、「構成」タスクで「なし」オプションを指定することと同じです。</p>	<code>timeout</code> 入力パラメーターは、「構成」タスクの「タイムアウト」フィールドを指定変更します。
<code>queueName</code>	統合アプライアンスがメッセージを検索する場所となる MQ キューの名前を指定します。	<code>queueName</code> 入力パラメーターは、「構成」タスクの「キュー名」フィールドで指定されたエンコード方式を指定変更します。

マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。

出力のマッピング

このアクティビティーに関しては、出力パラメーターをマップする必要はありません。マッピングについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。

タイムアウトおよび再試行オプション

「構成」タスクの「タイムアウト」フィールドで指定されたタイムアウト、または `timeout` 入力パラメーターは、キューからメッセージを取得するように「MQ メッセージの取得 (MQ Get Message)」アクティビティーによって要求されてから、メッセージが返されずにタイムアウトになるまでの秒数を指定します。このタイムアウト期間が過ぎて、メッセージがキューから返されない場合、統合アプライアンスは、メッセージの取得を再試行する前に、「1) 再試行ごとに __ 秒待機します (1) Wait __ second(s) between each retry)」オプションで指定された時間の間、待機します。統合アプライアンスは、指定の再試行回数までメッセージの取得を試行し続けます。再試行回数は、「2) 失敗するまで __ 回の接続を試みます (2) Try to connect __ times before failing)」で指定されます。「1) 再試行ごとに __ 秒待機します (1) Wait __ second(s) between each retry)」および「2) 失敗するまで __ 回の接続を試みます (2) Try to connect __ times before failing)」オプションは、[再試行オプション](#)・タスクで指定されます。

「MQ メッセージの書き込み (MQ Put Message)」アクティビティを使用して、実行時に、指定のキューにメッセージを送信します。

注: アクティビティを構成する前に、MQ アクティビティのエンドポイントを作成しておく必要があります。

「構成」タスクには、以下の3つのセクションがあります。

- [キューおよびメッセージの詳細](#) - キューおよびメッセージの詳細についてプロパティを指定します。
- [配信ルール](#) - メッセージの配信方法を指定します。
- [再試行オプション](#) - 再試行と再試行の間の待機時間、および失敗となるまでの再試行回数を指定します。

「構成」タスクの完了後に、アクティビティの[入力のマップ](#)を行います。

注: 最大メッセージ・サイズは100 MBです。

キューおよびメッセージの詳細

次の表にあるフィールドを使用してキューおよびメッセージの詳細を指定します。必須フィールドはアスタリスクでマークされています。

フィールド	説明
キュー名*	メッセージが書き込まれるキューの名前を指定します。
ペイロード・データ型	メッセージ・ペイロードのデータ型(「バイナリー」または「ストリング」)を指定します。
メッセージ・タイプ	データグラム - メッセージの送信が必要であり、応答が不要である場合に選択します。 要求 - メッセージに応答が必要な場合に選択します。要求メッセージに対して必ず「応答先キュー」プロパティを設定してください。 応答 - メッセージが前の要求に対する応答である場合に選択します。
応答先キュー	要求メッセージに対する応答の送信先となるキューを指定します。
応答先キュー・マネージャー	キュー(「応答先キュー」フィールドで指定したキュー)が属するキュー・マネージャーの名前を指定します。
持続	<ul style="list-style-type: none">• True - キュー・マネージャーが異常終了した場合に、メッセージはキューに復元されます。• False - キュー・マネージャーが異常終了した場合は、メッセージはキューから失われる可能性があります。• デフォルト - メッセージには、キューのパーシスタンス設定が使用されます(これがデフォルトです)。
優先順位	メッセージの優先順位を指定します。デフォルトでは、メッセージ優先順位は、キューのデフォルトの優先順位に設定されます。メッセージの順序付けにキューで優先順位が使用されているとき

	<p>に、特定の優先順位がこのメッセージに設定されなければならない場合は、「指定」を選択して、優先順位を入力します。優先順位として1(最低)から9(最高)までを指定できます。</p> <p>注: この優先順位は、MQ キューに設定されている最大優先順位番号を超えてはなりません。これについては、MQ システム管理者に確認してください。</p>
メッセージ有効期限	<p>メッセージがキューに保持される秒数。この秒数が経過すると、有効期限が切れます。デフォルトでは「なし」に設定されます(この場合、メッセージは必ず配信されます。メッセージは経過時間に関係なく取得されるまでキューで待機します)。</p> <p>一定の期間が過ぎたら、このキューのメッセージを有効期限切れにして廃棄する必要がある場合は、「指定」を選択して、メッセージがキューで保持されなければならない最大時間(秒)を入力します。</p>
MQRFH2ヘッダーのスキーマ・フラグメント	<p>メッセージにMQRFH2ヘッダーが含まれるかどうかを指定します。メッセージがXMLメッセージであり、そのメッセージにMQRFH2ヘッダーが含まれる場合は、このチェック・ボックスを選択して、「[...]」をクリックします。「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスで、ヘッダーを定義するXMLスキーマを見つけて、そのXMLスキーマのNameValueDataエレメントを選択し、「OK」をクリックします。スキーマ・フラグメントは、NameValueDataエレメントおよびそのすべての子エレメントです。</p> <p>注: ヘッダーを定義するXMLスキーマを選択するには、そのスキーマを最初に作成してプロジェクトにロードしておく必要があります。詳細については、『MQRFH2ヘッダーのXMLスキーマの定義およびロード』を参照してください。</p>

配信ルール

フィールド	説明
メッセージの配信	<p>ここで選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回以上 - メッセージが少なくとも1回は配信されるように指定します(複数回の配信も可能)。接続や統合アプライアンスで障害が発生すると、メッセージは何度も取得されて処理される可能性があります。通常、この配信オプションは、受信システムが重複メッセージを検出または許容できる場合に使用されます。 1回まで - メッセージが1回のみ配信されるか、またはまったく配信されないように指定します。接続や統合アプライアンスで障害が発生すると、メッセージは失われる可能性があります。通常、この配信オプションは、受信システムが重複メッセージを許容できないがメッセージの消失を許容できる場合に使用されます。

再試行オプション

MQ サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。以下の表で、MQ サーバーに接続するための再試行オプションについて説明します。

再試行オプション	説明
1) 再試行ごとに	統合アプライアンスがMQサーバーにメッセージを送信するため、キュー・マネージャーへの接続を再試行するまでに待機する秒数。

__ 秒 待機し ます。	
2) 失敗する まで __ 回 の接続 を試み ます。	<p>統合アプライアンスが MQ サーバーにメッセージを送信するためにキュー・マネージャーへの接続を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「MQ メッセージの書き込み (MQ Put Message)」アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の MQ サーバーのキュー・マネージャーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログにエラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスがシステムおよびオーケストレーションのログにエラーを記録し、現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 のエラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

入力のマップ

このアクティビティに関しては、入力パラメーターをマップする必要があります。以下のパラメーターは必須であり、構成を完了するためには、このパラメーターをマップする必要があります。他のパラメーターはすべてオプションです。詳しくは、『[マップの作成](#)』を参照してください。


必須入力パラメーター:

payload

「入力のマップ」パネルの「アクティビティへ」パネルで オプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティへ」パネルで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」>「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」パネルでノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

親トピック: [MQ アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/MQ_Put_Message_Activity.html

「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」アクティビティ

「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」アクティビティを使用して、実行時に、指定の再試行間隔に基づいて定期的に MQ キューでメッセージを検査します。

注: アクティビティを構成する前に、MQ アクティビティの**エンドポイントを作成**しておく必要があります。

「構成」タスクには、以下の3つのセクションがあります。

- **キューおよびメッセージの詳細** - キューおよびメッセージの詳細についてプロパティを指定します。
- **配信ルール** - メッセージの配信方法を指定します。
- **再試行オプション** - 再試行と再試行の間の待機時間、および失敗となるまでの再試行回数を指定します。

「構成」タスクの完了後に、アクティビティの**出力のマッピング**を行います。

注: 最大メッセージ・サイズは 100 MB です。

キューおよびメッセージの詳細

次の表にあるフィールドに対してキューおよびメッセージの詳細を指定します。必須フィールドはアスタリスクでマークされています。

フィールド	説明
キュー名 *	メッセージについてポーリングされるキューの名前を指定します。
ペイロード・データ型	メッセージ・ペイロードのデータ型(「バイナリー」または「ストリング」)を指定します。
MQRFH2ヘッダーのスキーマ・フラグメント	メッセージにMQRFH2ヘッダーが含まれるかどうかを指定します。メッセージがXMLメッセージであり、そのメッセージにMQRFH2ヘッダーが含まれる場合は、このチェック・ボックスを選択して、「[...]」をクリックします。「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスで、ヘッダーを定義するXMLスキーマを見つけて、そのXMLスキーマのNameValueDataエレメントを選択し、「OK」をクリックします。スキーマ・フラグメントは、NameValueDataエレメントおよびそのすべての子エレメントです。 注: ヘッダーを定義するXMLスキーマを選択するには、そのスキーマを最初に作成してプロジェクトにロードしておく必要があります。詳細については、『 MQRFH2ヘッダーのXMLスキーマの定義およびロード 』を参照してください。

配信ルール

フィールド	説明
変更についてのポーリング (Poll for changes)	統合アプライアンスが変更についてキューをポーリングしなければならない頻度を指定します。詳しくは、『 ポーリング間隔の性質 』を参照してください。
メッセージのIDは固有	キュー上のメッセージのIDが固有であるかどうかを指定します。
メッセージの配信	ここで選択できるオプションは、「固有ID (Unique ID's)」チェック・ボックスが選択されているかどうかによって異なります。そのチェック・ボックスが選択されている場合は、3つのオ

プションがすべて選択可能です。そのチェック・ボックスが選択されていない場合は、「1 回以上」のみが表示されます。

- 1 回以上 - メッセージが少なくとも 1 回は配信されるように指定します (複数回の配信も可能)。接続や統合アプライアンスで障害が発生すると、メッセージは何度も取得されて処理される可能性があります。通常、この配信オプションは、受信システムが重複メッセージを検出または許容できる場合に使用されます。
- 1 回まで - メッセージが 1 回のみ配信されるか、またはまったく配信されないように指定します。接続や統合アプライアンスで障害が発生すると、メッセージは失われる可能性があります。通常、この配信オプションは、受信システムが重複メッセージを許容できないがメッセージの消失を許容できる場合に使用されます。
- 1 回のみ - メッセージが 1 回のみ配信されるように指定します。接続や統合アプライアンスで障害が発生しても、このオプションによる配信には影響がありません。統合アプライアンスは、MQ メッセージ ID を使用して、すべてのメッセージが 1 回のみ取得および処理されるようにします。

注: 「1 回のみ」オプションを選択する場合は、パーシスタンスを使用可能にする必要があります。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。

再試行オプション

以下の表で定義されているように、「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」アクティビティの再試行オプションを構成します。

再試行オプション	説明
1) 再試行ごとに __ 秒待機します。	統合アプライアンスが MQ サーバーからのメッセージの取得を再試行するまでに待機する秒数。
2) 失敗するまで __ 回の接続を試みます。	<p>統合アプライアンスが失敗するまでに MQ サーバーからのメッセージの取得を試行する最大回数を指定します。</p> <p>「MQ キューのポーリング (MQ Poll Queue)」アクティビティから開始されるオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の MQ サーバーに接続できなかったりキューからメッセージを取得できなかったりすると、再試行回数値に達するまでシステム・ログにエラーを警告として記録します。再試行回数に達した場合、統合アプライアンスはシステム・ログにエラーを記録し、現在の再試行回数をゼロにリセットして、MQ サーバーへの接続を引き続き確立しようとします。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 のエラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 のエラーをエラーとしてログに記録し、現在の再試行回数をゼロにリセットします。そのため、第 5 の接続エラーは、システム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、引き続きキューからメッセージを取得しようとします。</p>

出力のマッピング


このアクティビティに関しては、出力パラメーターをマップする必要はありません。ただし、以下のいずれかのパラメーターをマップする場合は、以下の点に注意してください。

パラメーター:

- payload および mqmdheader パラメーターは、キューから受信されるメッセージから取得されません。
- rfh2header は、RFH2 ヘッダーのスキーマが「構成」タスクで指定されている場合に取得されません。

親トピック: [MQ アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/MQ_Poll_Message_Activity.html

MQRFH2 XML データおよびスキーマの例

このセクションには、以下の例が含まれています。

- [MQRFH2 パラメーターが含まれている XML データの例](#)
- [MQRFH2 パラメーターを定義する XML スキーマの例](#)

MQRFH2 パラメーターが含まれている XML データの例

XML データの例については、次の特性に注意してください。

- ParameterA には、プロパティのみが含まれています。
- ParameterB には、プロパティを持つグループが含まれています。
- ParameterC には、グループとプロパティの両方が含まれています。
- Property4 は、groupDtl 内で複数回繰り返えされます。

MQRFH2 パラメーターが含まれている XML データの例:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<NameValueData>
  <parameterA>
    <property1>value</property1>
    <property2 datatype="nt">345</property2>
  </parameterA>
  <parameterB>
    <groupHeader>
```

```

    <property3>true</property3>
</groupHeader>
<groupDtl>
    <property4>ANR</property4>
    <property4>BYC</property4>
    <property4>ENN</property4>
</groupDtl>
</parameterB>
<parameterC>
    <groupNew>
        <property5>01/15/2004</property5>
    </groupNew>
    <property1>value</property1>
</parameterC>
</NameValueData>

```

MQRFH2 パラメーターを定義する XML スキーマの例

以下の XML スキーマの例では、『[MQRFH2 パラメーターが含まれている XML データの例](#)』に示されている 3 つのパラメーターを定義しています。すべてのプロパティ・エレメントに対するタイプ MQRFH2PropertyType は、前の例にある property2 で示される datatype 属性を指定します。また、MQRFH2PropertyType タイプにより、エレメントは値を含むことができます。

groupDtl 内の property4 の繰り返しは、minOccurs 属性および maxOccurs 属性を使用して処理されます。maxOccurs を unbounded に設定して、繰り返しの回数を無制限にすることもできます。

MQRFH2 パラメーターを定義する XML スキーマの例:

```

<xsd:schema elementFormDefault="qualified"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:rfh="http://www.approuter.com/samples/MQ"
  targetNamespace="http://www.approuter.com/samples/MQ">
  <xsd:complexType name="MQRFH2PropertyType">
    <xsd:simpleContent>
      <xsd:extension base="xsd:string">
        <xsd:attribute name="dt" type="xsd:string" use="optional"/>
      </xsd:extension>
    </xsd:simpleContent>
  </xsd:complexType>

```

```

</xsd:simpleContent>
</xsd:complexType>
<xsd:element name="NameValueData">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="parameterA">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="property1" type="rfh:MQRFH2PropertyType"/>
            <xsd:element name="property2" type="rfh:MQRFH2PropertyType"/>
          </xsd:sequence>
        </xsd:complexType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="parameterB">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="groupHeader">
              <xsd:complexType>
                <xsd:sequence>
                  <xsd:element name="property3" type="rfh:MQRFH2PropertyType"/>
                </xsd:sequence>
              </xsd:complexType>
            </xsd:element>
            <xsd:element name="groupDtl">
              <xsd:complexType>
                <xsd:sequence>
                  <xsd:element name="property4" type="rfh:MQRFH2PropertyType" minOccurs="1"
                    maxOccurs="5"/>
                </xsd:sequence>
              </xsd:complexType>
            </xsd:element>

```

```
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="parameterC">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="groupNew">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="property5" type="rfh:MQRFH2PropertyType"/>
          </xsd:sequence>
        </xsd:complexType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="property1" type="rfh:MQRFH2PropertyType"/>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:schema>
```

親トピック: [MQ アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/MQ_MQRFH2_Schema_Fragment_Examples.html

NetSuite アクティビティ

- **NetSuite エンドポイントの作成または編集**
エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが NetSuite との接続に使用する NetSuite 接続情報を提供します。
- **「レコードの追加」アクティビティ**
「レコードの追加」アクティビティを使用して、1 つ以上の新規レコードを NetSuite に追加します。追加対象のレコードはそれぞれ、名前、タイプ、および階層によって一意的に識別可能でなければなりません。複数のレコードが同じ ID を持っている場合は、SOAP 障害が通知されます。追加対象のレコードは、同じレコード・タイプでなければなりません。
- **「レコードの接続」アクティビティ**
「レコードの接続」アクティビティは、2 つのレコード間の関係を定義する場合に使用できます。例えば、連絡先レコードは、ベンダー・レコードに関連付けることができます。連絡先レコードは、他の連絡先レコードとグループ・レコードを除くすべてのエンティティ・レコードに関連付けることができます。
- **「レコードの削除」アクティビティ**
「レコードの削除」アクティビティでは、1 つ以上のレコードを NetSuite から削除できます。削除対象のレコードはそれぞれ、名前、タイプ、および階層によって一意的に識別可能でなければなりません。複数のレコードが同じ ID を持っている場合は、SOAP 障害が通知されます。削除対象のレコードは、同じレコード・タイプでなければなりません。
- **「レコードの切り離し」アクティビティ**
「レコードの切り離し」アクティビティは、2 つのレコード間の関係を除去する場合に使用できます。例えば、ベンダー・レコードに関連付けられた連絡先レコードを除去できます。「レコードの切り離し」アクティビティでは、Word ファイルや PDF ファイルなどのファイルを NetSuite レコードから切り離すこともできます。
- **「レコードの取得」アクティビティ**
「レコードの取得」アクティビティでは、レコード固有 ID に基づいて 1 つ以上のレコードが取得されます。無効な ID が含まれている場合、有効な ID は処理され、無効な ID に関しては警告が応答で送信されます。
- **「レコードの初期化」アクティビティ**
「レコードの初期化」アクティビティは、トランザクション・レコードに別の関連レコードからの入力を取り込みます。例えば、Sales Order レコードに、関連する Estimate レコードからの入力を取り込んでから、Sales Order レコードを NetSuite に処理依頼できます。
- **「レコード内の検索」アクティビティ**
「レコード内の検索」アクティビティでは、指定の検索基準に基づいて特定のレコード・タイプが検索されます。
- **「レコードの更新」アクティビティ**
「レコードの更新」アクティビティでは、1 つ以上のレコードを更新できます。データが取り込まれているフィールドのみが NetSuite で更新されます。データが取り込まれていないフィールドに関しては、NetSuite での以前の値が維持されます。フィールドに空ストリングが取り込まれている場合は、NetSuite においてそのフィールドの値が空ストリングに置き換えられます。
- **「レコードのアップサート」アクティビティ**
「レコードのアップサート」アクティビティでは、レコードの更新と挿入が可能です (レコードを更新できるのは、そのレコードが既にデータベースに存在する場合、レコードを挿入できるのは、そのレコードがまだデータベースに存在しない場合です)。データが取り込まれているフィールドのみが NetSuite で更新されます。データが取り込まれていないフィールドに関しては、NetSuite での以前の値が維持されます。フィールドに空ストリングが取り込まれている場合は、NetSuite においてそのフィールドの値が空ストリングに置き換えられます。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_netsuiteactivities.html

NetSuite エンドポイントの作成または編集

エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが NetSuite との接続に使用する NetSuite 接続情報を提供します。

手順

1. 「アクティビティー」タブの NetSuite フォルダーからアクティビティーを選択します。
2. アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。

「要約」パネルにチェックリストが示され、アクティビティーを構成するために実行しなければならないタスクがリストされます。
3. そのチェックリストで「エンドポイント」タスクをクリックして、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 参照 - プロジェクトから既存のエンドポイントを選択します。
 - 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。
 - 編集 - 既存のエンドポイントを編集します。

注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。
4. NetSuite エンドポイント画面が表示されたら、以下のフィールドの情報を入力、または編集します。
 - NetSuite カスタマー・ログイン - ユーザーは、ユーザー名/パラメーターごとに2つのセッションに制限されます。1つは、ブラウザ経由のセッションです。もう1つは、Web サービス経由のセッションです。同じユーザー名とパスワードを使用してブラウザ経由で別のログインを試行すると、最初のセッションは終了します。2つの並行 Web サービス・セッションを確立しようとすると、同じシナリオが適用されます。複数の並行 Web サービス接続の場合、Web Services Plus ライセンスを取得してください。

フィールド	説明
E メール・アドレス	NetSuite へのログインに使用される E メール・アドレス
パスワード	「E メール・アドレス」に対するパスワード
アカウント番号	E メール・アドレスに関連付けられたアカウント番号

- ログイン・オプション - 「通常ログイン」または「指定の URL および指定のバージョンにログイン (Login in to the specified URL and specified version)」を選択します。

Web サービス並行ライセンスを購入した場合は、「Web Services Plus ライセンス (Web Services Plus License)」をクリックします。

- 接続プール・オプション - デフォルト値のままにするか、「接続プール・オプション」の値に変更します。

フィールド	説明

最小接続数	デフォルトは1です。
最大接続数	デフォルトは1です。「Web サービスおよびライセンス」(並行 Web サービスのユーザー設定)が選択されている場合、デフォルトは5です。
最大アイドル時間	最大分数。セッションは、終了するまでアイドルにしておくことができます。デフォルトは120分です。NetSuite は最大で120分実行されたままになります。
最大待機	最大待機時間。セッションを開始するまでの最大待機秒数。デフォルトは300秒です。

- 接続タイムアウト - 下矢印と上矢印で、エンドポイントへの接続を確立するために待機する試行終了までの秒数を選択します。
- プロキシ - プロキシ・サーバーを使用して NetSuite に接続するには、「プロキシ・サーバーを介した接続」を選択します。

「認証」に関して、矢印をクリックしてモード(「基本(Basic)」または「NTLM」)を選択します。

「レルム」に関して、「基本(Basic)」認証を選択した場合は、レルムを指定できます。レルムを指定しない場合は、エンドポイントが「任意のレルム」に対して認証を行います。

以下のフィールドを完成させます。


フィールド	説明
ホスト名	プロキシ・サーバーの名前、またはプロキシ・サーバーのIPアドレス。
ポート	NetSuite に接続するためにプロキシ・サーバーで使用されるポート番号。
ユーザー名	プロキシ・サーバーへのログインに使用されるID。
パスワード	「ユーザー名」に対するパスワード。

- 更新 - NetSuite WSDL をアップグレードするには、「WSDL to_2011_1 の更新 (Update WSDL to_2011_1)」ボタンを使用します。このボタンは、WSDL_2011_1 がすでに存在する場合は非アクティブです。ボタンをクリックすると、この更新の影響を受けるプロジェクト・エンティティがリストで表示されます。この時点で、WSDL_2011_1 に対する更新を拒否することも続行することも可能です。

接続を確立できることを確認するには、「接続のテスト」をクリックします。

親トピック: [NetSuite アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Creating_a_NetSuite_Endpoint.html

「レコードの追加」 アクティビティ

「レコードの追加」アクティビティを使用して、1つ以上の新規レコードを NetSuite に追加します。追加対象のレコードはそれぞれ、名前、タイプ、および階層によって一意的に識別可能でなければなりません。複数のレコードが同じ ID を持っている場合は、SOAP 障害が通知されます。追加対象のレコードは、同じレコード・タイプでなければなりません。

- 「レコードの追加」アクティビティの使用
「レコードの追加」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。
- 「レコードの追加」アクティビティの入力のマッピング
「レコードの追加」タスクの入力をマップできます。
- 「レコードの追加」アクティビティの出力のマッピング
「レコードの追加」アクティビティの出力をマップできます。

親トピック: [NetSuite アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Add_Records_Activity_ov.html

「レコードの追加」アクティビティの使用

「レコードの追加」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「NetSuite」ディレクトリーを展開して、「レコードの追加」アクティビティを見つけます。
2. 「レコードの追加」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。

NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。

5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「参照」をクリックして、「NetSuite の参照」ダイアログを表示します。
7. 「NetSuite の参照」ダイアログで、「レコード・タイプの表示」をクリックして以下のオプションのうちの 1 つを選択します。
 - すべて - すべてのレコード・タイプを表示します。
 - カスタムのみ - カスタム・レコードのみを表示します。
 - 標準のみ - 標準 NetSuite レコード・タイプのみを表示します。

注: カスタム・レコードを使用するには、recType/internalId ノードに内部 ID を入力する必要があります。


8. 標準レコードのカスタム・フィールドを表示するには、「標準レコード・タイプのカスタム・フィールドを生成」チェック・ボックスを選択します。

このオプションは、カスタム・レコード・タイプには適用されません。チェック・ボックスの状態が保存されます。

9. 「NetSuite の参照」ダイアログで、以下のタスクのうちの 1 つを行ってレコード・タイプを選択します。
 - 「レコード・タイプの検索」フィールドにレコード・タイプの最初の数文字を入力して、「レコード・タイプ」スクロール・リストでそのレコード・タイプを選択してから、「選択」をクリックします。
 - 必要なレコード・タイプが見つかるまで「レコード・タイプ」スクロール・リストをスクロールし、該当するレコード・タイプをクリックしてから「選択」をクリックします。
10. NetSuite でマップを最新表示するには、レコード・タイプの設定後に「構成」ペインで「最新表示」をクリックします。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
12. 「再試行」のセクションで、以下のようになります。
 - NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。
 - 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは 5 回です。「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようになります。
 - エンドポイントが要求に回答しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」の秒数を設定します。デフォルトは 300 秒です。
13. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコードの追加」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。
14. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコードの追加」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの追加」アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Add_Records_Activity.html

「レコードの追加」 アクティビティーの入力のマッピング

「レコードの追加」 タスクの入力をマップできます。

このタスクについて

「レコードの追加」 アクティビティーの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。


変数の作成方法についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」ペインのエレメントを、「アクティビティーへ」ペインの NetSuite エレメントにマップします。

「アクティビティーへ」ペインのエレメントは、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの追加」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Add_Records_Map_Input.html

「レコードの追加」 アクティビティーの出力のマッピング

「レコードの追加」 アクティビティーの出力をマップできます。

このタスクについて

「レコードの追加」 アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックします。
3. 「addListResponse」を選択します。「作成」をクリックして、「アクティビティー」パネルから「オーケストレーション」パネルにコピーを行います。

親トピック: [「レコードの追加」アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Add_Records_Map_Output.html

「レコードの接続」 アクティビティ

「レコードの接続」アクティビティは、2つのレコード間の関係を定義する場合に使用できます。例えば、連絡先レコードは、ベンダー・レコードに関連付けることができます。連絡先レコードは、他の連絡先レコードとグループ・レコードを除くすべてのエンティティ・レコードに関連付けることができます。

このタスクについて

「レコードの接続」アクティビティでは、Word ファイルや PDF ファイルなどのファイルを NetSuite レコードに添付することもできます。NetSuite ファイル・キャビネットにあるファイルはいずれも、カスタム・レコードを除く任意のレコードに添付できます。

以下のリストで、「チェックリスト」>「入力のマップ」>「アクティビティへ」パネルにおける「レコードの接続」アクティビティに対するノードについて説明します。

- {RecordRef} attachTo - このノードは、添付ファイルの添付先レコードを指定します。
 - @type - 「デフォルト値の定義」でレコードのタイプを選択します。
 - @externalId - RecordRef に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - @internalID - RecordRef に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
- contact - このノードは、attachTo レコードに関連付けるレコード、または attachTo レコードに添付するファイルを指定します。
 - @internalID - RecordRef に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - @externalId - RecordRef に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - @type - 「デフォルト値の定義」でレコードのタイプを選択します。
 - name - 連絡先の名前、またはファイル名を入力します。
- contactRole - このノードは、NetSuite UI の「リスト (List)」>「関係」>「連作先 (Contacts)」にあるユーザー定義の「連絡先リスト (Contact List)」でロールを指定します。
 - exists - 「連絡先リスト (Contacts List)」が存在するかどうかを示すために使用されるブール。
 - @internalID - role に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - @externalId - role に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - name - 「主要連絡先」など、ロールのタイトル。
- [「レコードの接続」アクティビティの使用](#)
「レコードの接続」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。
- [「レコードの接続」アクティビティの入力のマッピング](#)
「レコードの接続」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。
- [「レコードの接続」アクティビティの出力のマッピング](#)
「レコードの接続」アクティビティの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

親トピック: [NetSuite アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_attach_records_activity_ov.html

「レコードの接続」アクティビティの使用

「レコードの接続」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「NetSuite」ディレクトリーを展開して、「レコードの接続」アクティビティを見つけます。
2. 「レコードの接続」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。

NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。

5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「構成」をクリックして、「接続参照アクティビティ・ウィザード (Attach Reference Activity Wizard)」を開きます。
7. 「参照」をクリックします。
8. 接続するレコードを選択して、「接続 (Attach)」をクリックします。
9. 「次へ」をクリックします。
10. 接続レコードの接続先のレコードを選択して、「選択」をクリックします。
11. 「終了」をクリックします。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
13. 「再試行」のセクションで、以下のようになります。
 - NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。
 - 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは 5 回です。


「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようにします。

- エンドポイントが要求に 응답しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」を、秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。

14. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコードの接続」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。
15. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコードの接続」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの接続」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_attach_records_activity.html

「レコードの接続」アクティビティの入力のマッピング

「レコードの接続」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。


変数の作成方法についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」パネルのエレメントを、「アクティビティへ」パネルの NetSuite エレメントにマップします。

「アクティビティへ」パネルのエレメントは、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの接続」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Attach_Records_Map_Input.html

「レコードの接続」アクティビティの出力のマッピング


「レコードの接続」アクティビティの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックします。
3. 「addListResponse」とヘッダーの一方または両方を選択して「作成」をクリックし、「アクティビティ」パネルから「オーケストレーション」パネルに選択項目をコピーします。

親トピック: [「レコードの接続」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Attach_Records_Map_Output.html


「レコードの削除」アクティビティ

「レコードの削除」アクティビティでは、1つ以上のレコードを NetSuite から削除できます。削除対象のレコードはそれぞれ、名前、タイプ、および階層によって一意的に識別可能でなければなりません。複数のレコードが同じ ID を持っている場合は、SOAP 障害が通知されます。削除対象のレコードは、同じレコード・タイプでなければなりません。

- [「レコードの削除」アクティビティの使用](#)
「レコードの削除」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。
- [「レコードの削除」アクティビティの入力のマッピング](#)
「レコードの削除」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。
- [「レコードの削除」アクティビティの出力のマッピング](#)
「レコードの削除」アクティビティの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

親トピック: [NetSuite アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_delete_records_activity_ov.html

「レコードの削除」アクティビティの使用

「レコードの削除」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「NetSuite」ディレクトリーを展開して、「レコードの削除」アクティビティを見つけます。
2. 「レコードの削除」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。
NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。
5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「参照」をクリックして、「NetSuite の参照」ダイアログを表示します。
7. 「NetSuite の参照」ダイアログで、「レコード・タイプの表示」をクリックして以下のオプションのうちの 1 つを選択します。
 - すべて - すべてのレコード・タイプを表示します。
 - カスタムのみ - カスタム・レコードのみを表示します。
 - 標準のみ - 標準 NetSuite レコード・タイプのみを表示します。

注: カスタム・レコードを使用するには、recType/internalId ノードに内部 ID を入力する必要があります。

8. 標準レコードのカスタム・フィールドを表示するには、「標準レコード・タイプのカスタム・フィールドを生成」チェック・ボックスを選択します。


このオプションは、カスタム・レコード・タイプには適用されません。チェック・ボックスの状態が保存されます。

9. 「NetSuite の参照」ダイアログで、以下のタスクのうちの 1 つを行ってレコード・タイプを選択します。
 - 「レコード・タイプの検索」フィールドにレコード・タイプの最初の数文字を入力して、「レコード・タイプ」スクロール・リストでそのレコード・タイプを選択してから、「選択」をクリックします。
 - 必要なレコード・タイプが見つかるまで「レコード・タイプ」スクロール・リストをスクロールし、該当するレコード・タイプをクリックしてから、「選択」をクリックします。
10. NetSuite でマップを最新表示するには、レコード・タイプの設定後に「構成」ペインで「最新表示」をクリックします。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
12. 「再試行」のセクションで、以下のようになります。
 - NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。

- 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは5回です。「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようにします。
 - エンドポイントが要求に回答しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」を、秒単位で設定します。デフォルトは300秒です。
13. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコードの削除」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。
 14. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコードの削除」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの削除」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_delete_records_activity.html

「レコードの削除」アクティビティの入力のマッピング

「レコードの削除」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。


変数の作成方法についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」パネルの要素を、「アクティビティへ」パネルの NetSuite エレメントにマップします。

「アクティビティへ」ペインの要素は、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの削除」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Delete_Records_Map_Input.html

「レコードの削除」アクティビティの出力のマッピング


「レコードの削除」アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックします。
3. 「deleteListResponse」を選択します。「作成」をクリックして、「アクティビティー」パネルから「オーケストレーション」パネルに「deleteListResponse」をコピーします。

親トピック: [「レコードの削除」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Delete_Records_Map_Output.html

「レコードの切り離し」アクティビティー

「レコードの切り離し」アクティビティーは、2つのレコード間の関係を除去する場合に使用できます。例えば、ベンダー・レコードに関連付けられた連絡先レコードを除去できます。「レコードの切り離し」アクティビティーでは、Word ファイルや PDF ファイルなどのファイルを NetSuite レコードから切り離すこともできます。

このタスクについて


以下のリストで、「チェックリスト」>「入力のマップ」>「アクティビティーへ」パネルにおける「レコードの切り離し」アクティビティーに対するノードについて説明します。

- {RecordRef} attachTo - このノードは、添付ファイルが除去されるレコードを指定します。
 - @type - 「デフォルト値の定義」でレコードのタイプを選択します。
 - @externalId - RecordRef に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - @internalID - RecordRef に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
- contact - このノードは、detachTo レコードから切り離すレコードまたはファイルを指定します。
 - @internalID - RecordRef に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - @externalId - RecordRef に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - @type - 「デフォルト値の定義」でレコードのタイプを選択します。
 - name - 連絡先の名前、またはファイル名を入力します。
- contactRole - このノードは、NetSuite UI の「リスト (List)」>「関係」>「連作先 (Contacts)」にあるユーザー定義の「連絡先リスト (Contact List)」でロールを指定します。
 - exists - 「連絡先リスト (Contacts List)」が存在するかどうかを示すために使用されるブール。
 - @internalID - role に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - @externalId - role に対して externalId または internalId を指定する必要があります。
 - name - 「主要連絡先」など、ロールのタイトル。

- 「レコードの切り離し」 アクティビティーの使用
「レコードの切り離し」 アクティビティーを使用するには、次のステップを実行します。
- 「レコードの切り離し」 アクティビティーの入力のマッピング
「レコードの切り離し」 アクティビティーの入力をマップするには、以下のステップを実行します。
- 「レコードの切り離し」 アクティビティーの出力のマッピング
「レコードの切り離し」 アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

親トピック: [NetSuite アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_detach_records_activity_ov.html

「レコードの切り離し」 アクティビティーの使用

「レコードの切り離し」 アクティビティーを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティー」 タブで「NetSuite」 ディレクトリーを展開して、「レコードの切り離し」 アクティビティーを見つけます。
2. 「レコードの切り離し」 アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」 ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」 ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。

NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。


注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。

5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「構成」をクリックして、「切り離し参照アクティビティー・ウィザード (Detach Reference Activity Wizard)」を表示します。
7. 「参照」をクリックします。
8. 接続するレコードを選択して、「選択」をクリックします。

9. 「次へ」をクリックします。
10. 接続レコードの接続先のレコードを選択して、「選択」をクリックします。
11. 「終了」をクリックします。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
13. 「再試行」のセクションで、以下のようにします。
 - NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。
 - 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは 5 回です。「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようにします。
 - エンドポイントが要求に 응답しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」を、秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。
14. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコードの切り離し」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。
15. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコードの切り離し」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの切り離し」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_detach_records_activity.html

「レコードの切り離し」アクティビティの入力のマッピング

「レコードの切り離し」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」ペインの要素を、「アクティビティへ」ペインの NetSuite エレメントにマップします。

「アクティビティへ」ペインの要素は、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの切り離し」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Detach_Records_Map_Input.html

「レコードの切り離し」 アクティビティーの出力のマッピング


「レコードの切り離し」 アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックします。
3. 「detachListResponse」を選択して「作成」をクリックし、「アクティビティー」パネルから「オーケストレーション」パネルに「detachListResponse」をコピーします。

親トピック: [「レコードの切り離し」 アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Detach_Records_Map_Output.html


「レコードの取得」 アクティビティー

「レコードの取得」アクティビティーでは、レコード固有 ID に基づいて 1 つ以上のレコードが取得されます。無効な ID が含まれている場合、有効な ID は処理され、無効な ID に関しては警告が応答で送信されます。

- [「レコードの取得」アクティビティーの使用](#)
「レコードの取得」アクティビティーを使用するには、次のステップを実行します。
- [「レコードの取得」アクティビティーの入力のマッピング](#)
「レコードの取得」アクティビティーの入力をマップするには、以下のステップを実行します。
- [「レコードの取得」アクティビティーの出力のマッピング](#)
「レコードの取得」アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

親トピック: [NetSuite アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「レコードの取得」アクティビティの使用

「レコードの取得」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「NetSuite」ディレクトリーを展開して、「レコードの取得」アクティビティを見つけます。
2. 「レコードの取得」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。

NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。

5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「参照」をクリックして、「NetSuite の参照」ダイアログを表示します。
7. 「NetSuite の参照」ダイアログで、「レコード・タイプの表示」をクリックして以下のうちの 1 つを選択します。
 - すべて - すべてのレコード・タイプを表示します。
 - カスタムのみ - カスタム・レコードのみを表示します。
 - 標準のみ - 標準 NetSuite レコード・タイプのみを表示します。

注: カスタム・レコードを使用するには、recType/internalId ノードに内部 ID を入力する必要があります。

8. 標準レコードのカスタム・フィールドを表示するには、「標準レコード・タイプのカスタム・フィールドを生成」チェック・ボックスを選択します。


このオプションは、カスタム・レコード・タイプには適用されません。チェック・ボックスの状態が保存されます。

9. 「NetSuite の参照」ダイアログで、以下のタスクのうちの 1 つを行ってレコード・タイプを選択します。
 - 「レコード・タイプの検索」フィールドにレコード・タイプの最初の数文字を入力して、「レコード・タイプ」スクロール・リストでそのレコード・タイプを選択してから、「選択」をクリックします。

- 必要なレコード・タイプが見つかるまで「レコード・タイプ」スクロール・リストをスクロールし、該当するレコード・タイプをクリックしてから、「選択」をクリックします。
10. NetSuite でマップを最新表示するには、「構成」パネルでレコード・タイプを設定した後で、「最新表示」をクリックします。
 11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
 12. 「再試行」のセクションで、以下のようになります。
 - NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。
 - 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは 5 回です。「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようになります。
 - エンドポイントが要求に回答しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」を、秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。
 13. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコードの取得」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。
 14. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコードの取得」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの取得」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_get_records_activity.html

「レコードの取得」アクティビティの入力のマッピング

「レコードの取得」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」パネルの要素を、「アクティビティへ」パネルの NetSuite エlement にマップします。

「アクティビティへ」パネルの要素は、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの取得」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

「レコードの取得」アクティビティーの出力のマッピング

「レコードの取得」アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックします。
3. 「getListResponse」を選択して「作成」をクリックし、「アクティビティー」パネルから「オーケストレーション」パネルに選択項目をコピーします。

親トピック: [「レコードの取得」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

「レコードの初期化」アクティビティー

「レコードの初期化」アクティビティーは、トランザクション・レコードに別の関連レコードからの入力を取り込みます。例えば、Sales Order レコードに、関連する Estimate レコードからの入力を取り込んでから、Sales Order レコードを NetSuite に処理依頼できます。

このタスクについて

以下の表に、トランザクション・レコードにデータを取り込むために使用できる関連レコード・タイプを持つトランザクション・レコードをリストします。


トランザクション・レコード・タイプ	関連初期化レコード
Customer Refund	Cash Sale
Customer Refund	Return Authorization
Cash Sale	Customer
Cash Sale	Estimate
Cash Sale	Opportunity
Cash Sale	Sales Order

トランザクション・レコード・タイプ	関連初期化レコード
Credit Memo	Customer
Credit Memo	Invoice
Credit Memo	Return Authorization
Customer Payment	Customer
Customer Payment	Invoice
Estimate	Opportunity
Invoice	Customer
Invoice	Estimate
Invoice	Opportunity
Invoice	Sales Order
Item Fulfillment	Sales Order
Item Receipt	Return Authorization
Item Receipt	Purchase Order
Return Authorization	Cash Sale
Return Authorization	Invoice
Return Authorization	Sales Order
Sales Order	Estimate
Sales Order	Opportunity
Vendor Bill	Purchase Order

- [「レコードの初期化」アクティビティの使用](#)
 「レコードの初期化」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。
- [「レコードの初期化」アクティビティの入力のマッピング](#)
 「レコードの初期化」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。
- [「レコードの初期化」アクティビティの出力のマッピング](#)
 「レコードの初期化」アクティビティの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

親トピック: [NetSuite アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Initialize_Records_Activity_ov.html

「レコードの初期化」アクティビティの使用

「レコードの初期化」アクティビティーを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティー」タブで「NetSuite」ディレクトリーを展開して、「レコードの初期化」アクティビティーを見つけます。
2. 「レコードの初期化」アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーのチェックリストおよび要約がオーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。
NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。
5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「参照」をクリックして、「NetSuite の参照」ダイアログを表示します。
7. 「NetSuite の参照」ダイアログで、「レコード・タイプの表示」をクリックして以下のオプションのうちの 1 つを選択します。
 - すべて - すべてのレコード・タイプを表示します。
 - カスタムのみ - カスタム・レコードのみを表示します。
 - 標準のみ - 標準 NetSuite レコード・タイプのみを表示します。

注: カスタム・レコードを使用するには、recType/internalId ノードに内部 ID を入力する必要があります。

8. 標準レコードのカスタム・フィールドを表示するには、「標準レコード・タイプのカスタム・フィールドを生成」チェック・ボックスを選択します。

このオプションは、カスタム・レコード・タイプには適用されません。チェック・ボックスの状態が保存されます。

9. 「NetSuite の参照」ダイアログで、以下のタスクのうちの 1 つを行ってレコード・タイプを選択します。
 - 「レコード・タイプの検索」フィールドにレコード・タイプの最初の数文字を入力して、「レコード・タイプ」スクロール・リストでそのレコード・タイプを選択してから、「選択」をクリックします。
 - 必要なレコード・タイプが見つかるまで「レコード・タイプ」スクロール・リストをスクロールし、該当するレコード・タイプをクリックしてから、「選択」をクリックします。
10. NetSuite でマップを最新表示するには、「構成」パネルでレコード・タイプを設定した後で、「最新表示」をクリックします。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
12. 「再試行」のセクションで、以下のようになります。
 - NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。

- 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは5回です。
 - 「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようにします。
 - エンドポイントが要求に応答しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」を、秒単位で設定します。デフォルトは300秒です。
13. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコードの初期化」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。
 14. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコードの初期化」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの初期化」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_initialize_record_activity.html

「レコードの初期化」アクティビティの入力のマッピング

「レコードの初期化」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」パネルの要素を、「アクティビティへ」パネルの NetSuite エレメントにマップします。

「アクティビティへ」ペインの要素は、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの初期化」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_initialize_records_map_input.html

「レコードの初期化」アクティビティの出力のマッピング


「レコードの初期化」アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックします。
3. 「initializeListResponse」を選択して「作成」をクリックし、「アクティビティー」パネルから「オーケストレーション」パネルに選択項目をコピーします。

親トピック: [「レコードの初期化」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Initialize_Records_Map_Output.html

「レコード内の検索」アクティビティー

「レコード内の検索」アクティビティーでは、指定の検索基準に基づいて特定のレコード・タイプが検索されます。

このタスクについて

検索基準を指定するには、エレメント・ノードを展開して演算子と検索値を指定します。例えば、アカウント番号ノードを持つレコード・タイプの場合は、以下のようになります。

1. 「accountNumber」ノードを展開します。
2. 「演算子 (operator)」をクリックして、「演算子 (operator)」を右クリックします。
3. 「デフォルト値の定義」を選択します。
4. 「デフォルト値」フィールドで、矢印をクリックしてリストから演算子を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「searchValue」をクリックします。
7. 「デフォルト値の定義」を選択します。
8. 「デフォルト値」フィールドにアカウント番号を入力します。
9. 「OK」をクリックします。

「レコード内の検索」アクティビティーでは、演算子 noneOf を使用して、ヌル値を持つフィールドに対して検索を行うことができます。この検索では、フィールドにヌル値がないすべてのレコードが返されます。


リストから値を取得する場合は、「レコード内の検索」アクティビティーではリストがサポートされないため、「レコードの取得」アクティビティーを使用します。

検索基準は、「アクティビティーへ」パネルの「入力のマップ」タスクで定義します。

- 「[レコード内の検索](#)」 アクティビティの使用
「レコード内の検索」 アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。
- 「[レコード内の検索](#)」 アクティビティの入力のマッピング
「レコード内の検索」 アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。
- 「[レコード内の検索](#)」 アクティビティの出力のマッピング
「レコード内の検索」 アクティビティの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

親トピック: [NetSuite アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Search_Records_Activity_ov.html

「レコード内の検索」 アクティビティの使用

「レコード内の検索」 アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」 タブで「NetSuite」 ディレクトリーを展開して、「レコードの初期化」 アクティビティを見つけます。
2. 「レコードの初期化」 アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」 ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」 ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。
NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。

5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「参照」をクリックして、「NetSuite の参照」 ダイアログを表示します。
7. 「NetSuite の参照」 ダイアログで、「レコード・タイプの表示」をクリックして以下のオプションのうちの1つを選択します。
 - すべて - すべてのレコード・タイプを表示します。

- カスタムのみ - カスタム・レコードのみを表示します。
- 標準のみ - 標準 NetSuite レコード・タイプのみを表示します。

注: カスタム・レコードを使用するには、recType/internalId ノードに内部 ID を入力する必要があります。


8. 標準レコードのカスタム・フィールドを表示するには、「標準レコード・タイプのカスタム・フィールドを生成」チェック・ボックスを選択します。

このオプションは、カスタム・レコード・タイプには適用されません。チェック・ボックスの状態が保存されます。

9. 「NetSuite の参照」ダイアログで、以下のタスクのうちの 1 つを行ってレコード・タイプを選択します。
 - 「レコード・タイプの検索」フィールドにレコード・タイプの最初の数文字を入力して、「レコード・タイプ」スクロール・リストでそのレコード・タイプを選択してから、「選択」をクリックします。
 - 必要なレコード・タイプが見つかるまで「レコード・タイプ」スクロール・リストをスクロールし、該当するレコード・タイプをクリックしてから、「選択」をクリックします。
10. NetSuite でマップを最新表示するには、「構成」パネルでレコード・タイプを設定した後で、「最新表示」をクリックします。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
12. 「再試行」のセクションで、以下のようになります。
 - NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。
 - 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは 5 回です。「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようになります。
 - エンドポイントが要求に回答しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」を、秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。
13. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコード内の検索」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。
14. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコード内の検索」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコード内の検索」アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_search_records_activity.html

「レコード内の検索」アクティビティの入力のマッピング

「レコード内の検索」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」パネルの要素を、「アクティビティーへ」パネルの NetSuite エレメントにマップします。

「アクティビティーへ」パネルの要素は、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコード内の検索」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Search_Records_Map_Input.html

「レコード内の検索」アクティビティーの出力のマッピング


「レコード内の検索」アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックして、「アクティビティー」パネルから「オーケストレーション」パネルに「searchResponse」要素をコピーします。

親トピック: [「レコード内の検索」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Search_Records_Map_Output.html


「レコードの更新」アクティビティー

「レコードの更新」アクティビティーでは、1つ以上のレコードを更新できます。データが取り込まれているフィールドのみが NetSuite で更新されます。データが取り込まれていないフィールドに関しては、NetSuite で以前の値が維持されます。フィールドに空ストリングが取り込まれている場合は、NetSuite においてそのフィールドの値が空ストリングに置き換えられます。

- 「[レコードの更新](#)」アクティビティーの使用
「レコードの更新」アクティビティーを使用するには、次のタスクを実行します。
- 「[レコードの更新](#)」アクティビティーの入力のマッピング
「レコードの更新」アクティビティーの入力をマップするには、以下のステップを実行します。
- 「[レコードの更新](#)」アクティビティーの出力のマッピング
「レコードの更新」アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

親トピック: [NetSuite アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Update_Records_Activity_ov.html

「レコードの更新」アクティビティーの使用

「レコードの更新」アクティビティーを使用するには、次のタスクを実行します。

手順

1. 「アクティビティー」タブで「NetSuite」ディレクトリーを展開して、「レコードの取得」アクティビティーを見つけます。
2. 「レコードの取得」アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。
NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。

5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「参照」をクリックして、「NetSuite の参照」ダイアログを表示します。
7. 「NetSuite の参照」ダイアログで、「レコード・タイプの表示」をクリックして以下のオプションのうちの1つを選択します。
 - すべて - すべてのレコード・タイプを表示します。

- カスタムのみ - カスタム・レコードのみを表示します。
- 標準のみ - 標準 NetSuite レコード・タイプのみを表示します。

注: カスタム・レコードを使用するには、recType/internalId ノードに内部 ID を入力する必要があります。


8. 標準レコードのカスタム・フィールドを表示するには、「標準レコード・タイプのカスタム・フィールドを生成」チェック・ボックスを選択します。

このオプションは、カスタム・レコード・タイプには適用されません。チェック・ボックスの状態が保存されます。

9. 「NetSuite の参照」ダイアログで、以下のタスクのうちの 1 つを行ってレコード・タイプを選択します。
 - 「レコード・タイプの検索」フィールドにレコード・タイプの最初の数文字を入力して、「レコード・タイプ」スクロール・リストでそのレコード・タイプを選択してから、「選択」をクリックします。
 - 必要なレコード・タイプが見つかるまで「レコード・タイプ」スクロール・リストをスクロールし、該当するレコード・タイプをクリックしてから、「選択」をクリックします。
10. NetSuite でマップを最新表示するには、「構成」パネルでレコード・タイプを設定した後で、「最新表示」をクリックします。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。
12. 「再試行」のセクションで、以下のようになります。
 - NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。
 - 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは 5 回です。「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようになります。
 - エンドポイントが要求に回答しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」を、秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。
13. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコードの更新」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。
14. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコードの更新」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの更新」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Update_Records_Activity.html

「レコードの更新」アクティビティの入力のマッピング

「レコードの更新」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。


変数の作成方法についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」パネルのエレメントを、「アクティビティーへ」パネルの NetSuite エレメントにマップします。

「アクティビティーへ」パネルのエレメントは、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードの更新」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Update_Records_Map_Input.html

「レコードの更新」アクティビティーの出力のマッピング


「レコードの更新」アクティビティーの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックします。
3. 「updateListResponse」と「headers_x」の一方または両方を選択して「作成」をクリックし、「アクティビティー」パネルから「オーケストレーション」パネルに 選択項目をコピーします。

親トピック: [「レコードの更新」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Update_Records_Map_Output.html

「レコードのアップサート」アクティビティー


「レコードのアップサート」アクティビティーでは、レコードの更新と挿入が可能です (レコードを更新できるのは、そのレコードが既にデータベースに存在する場合、レコードを挿入できるのは、そのレコードがまだデータベースに存在しない場合です)。データが取り込まれているフィールドのみが NetSuite で更新されます。データが取り込まれていないフィールドに関しては、NetSuite での以前の値が維持されます。フィールドに空

ストリングが取り込まれている場合は、NetSuite においてそのフィールドの値が空ストリングに置き換えられます。

- [「レコードのアップサート」アクティビティの使用](#)
「レコードのアップサート」アクティビティを使用するには、次のタスクを実行します。
- [「レコードのアップサート」アクティビティの入力のマッピング](#)
「レコードの更新」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。
- [「レコードのアップサート」アクティビティの出力のマッピング](#)
「レコードの更新」アクティビティの出力をマップするには、以下のステップを実行します。

親トピック: [NetSuite アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Upsert_Records_Activity_ov.html

「レコードのアップサート」アクティビティの使用

「レコードのアップサート」アクティビティを使用するには、次のタスクを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「NetSuite」ディレクトリーを展開して、「レコードのアップサート」アクティビティを見つけます。
2. 「レコードのアップサート」アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」および「要約」がオーケストレーションの下に表示されます。

3. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
4. 以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「参照」 - 「プロジェクト・エクスプローラー」から NetSuite エンドポイントを選択します。
 - 「新規作成」 - 「エンドポイントの作成」ダイアログを使用して新規の NetSuite エンドポイントを作成します。

NetSuite エンドポイントの作成についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 「編集」 - 「エンドポイントの編集」ダイアログを使用して既存の NetSuite エンドポイントを編集します。

NetSuite エンドポイントの編集についての説明は、『[NetSuite エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 編集はローカルではなく、グローバルとなります。エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。

5. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
6. 「参照」をクリックして、「NetSuite の参照」ダイアログを表示します。

7. 「NetSuite の参照」 ダイアログで、「レコード・タイプの表示」をクリックして以下のオプションのうちの1つを選択します。

- すべて - すべてのレコード・タイプを表示します。
- カスタムのみ - カスタム・レコードのみを表示します。
- 標準のみ - 標準 NetSuite レコード・タイプのみを表示します。

注: カスタム・レコードを使用するには、recType/internalId ノードに内部 ID を入力する必要があります。

8. 標準レコードのカスタム・フィールドを表示するには、「標準レコード・タイプのカスタム・フィールドを生成」チェック・ボックスを選択します。

このオプションは、カスタム・レコード・タイプには適用されません。チェック・ボックスの状態が保存されます。

9. 「NetSuite の参照」 ダイアログで、以下のタスクのうちの1つを行ってレコード・タイプを選択します。

- 「レコード・タイプの検索」フィールドにレコード・タイプの最初の数文字を入力して、「レコード・タイプ」スクロール・リストでそのレコード・タイプを選択してから、「選択」をクリックします。
- 必要なレコード・タイプが見つかるまで「レコード・タイプ」スクロール・リストをスクロールし、該当するレコード・タイプをクリックしてから、「選択」をクリックします。

10. NetSuite でマップを最新表示するには、「構成」パネルでレコード・タイプを設定した後で、「最新表示」をクリックします。

11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。

12. 「再試行」のセクションで、以下のようになります。

- NetSuite への接続を再試行する間隔の秒数を設定します。デフォルトは 30 秒です。
- 失敗するまでに再試行を繰り返す回数を設定します。デフォルトは 5 回です。

「アクティビティ・タイムアウト」セクションで、以下のようになります。


- エンドポイントが要求に応答しない場合に待機する「アクティビティ・タイムアウト」を、秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。

13. 入力をマップします。詳しくは、『[「レコードのアップサート」アクティビティの入力のマッピング](#)』を参照してください。

14. 出力をマップします。詳しくは、『[「レコードのアップサート」アクティビティの出力のマッピング](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードのアップサート」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Upsert_Records_Activity.html

「レコードのアップサート」アクティビティの入力のマッピング

「レコードの更新」アクティビティの入力をマップするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「入力のマッピング」タスクをクリックします。
2. 「入力の選択…」をクリックして、マッピングの入力変数を選択します。


変数の作成方法についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 「オーケストレーションから」パネルの要素を、「アクティビティーへ」パネルの NetSuite 要素にマッピングします。

「アクティビティーへ」パネルの要素は、「構成」タスクで選択した NetSuite レコード・タイプによって決まります。マッピングの説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「レコードのアップサート」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Upsert_Records_Map_Input.html

「レコードのアップサート」アクティビティーの出力のマッピング


「レコードの更新」アクティビティーの出力をマッピングするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」タスクをクリックします。
2. 「コピー」をクリックします。
3. 「UpsertListResponse」と「headers_x」の一方または両方を選択して「作成」をクリックし、「アクティビティー」パネルから「オーケストレーション」パネルに選択項目をコピーします。

親トピック: [「レコードのアップサート」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/netsuite_Upsert_Records_Map_Output.html

Oracle CRM On Demand アクティビティ

以下のアクティビティでは、C0020-IBM (Oracle CRM On Demand 用コネクタ) が必要です。

- [Oracle CRM On Demand エンドポイントの作成または編集](#)
Oracle CRM On Demand エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Oracle CRM On Demand Server サーバーに接続するために使用する接続情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。
- [Oracle CRM On Demand アクティビティの再試行オプションの指定](#)
「再試行」パラメーターの指定は、Oracle CRM On Demand アクティビティを構成するためのタスクの1つです。
- [Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの挿入」アクティビティの使用](#)
Oracle CRM On Demand インスタンスにオブジェクトを挿入または作成するには、Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの挿入」アクティビティを使用します。
- [Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの更新」アクティビティの使用](#)
Oracle CRM On Demand インスタンスのオブジェクトを新しい値で更新するには、Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの更新」アクティビティを使用します。
- [Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの照会」アクティビティの使用](#)
Oracle CRM インスタンスでオブジェクトを照会するには、Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの照会」アクティビティを使用します。
- [Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの削除」アクティビティの使用](#)
Oracle CRM On Demand インスタンスからオブジェクトを削除するには、Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの削除」アクティビティを使用します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_oracleCRMactivities.html

Oracle CRM On Demand エンドポイントの作成または編集

Oracle CRM On Demand エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Oracle CRM On Demand Server サーバーに接続するために使用する接続情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。

このタスクについて

Oracle CRM On Demand エンドポイントを作成または編集するには、このタスクを使用します。

注:

Oracle CRM On Demand エンドポイントに対して行う構成プロパティなどのすべての変更は、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

手順

1. 「アクティビティー」タブの下の「Oracle CRM On Demand」フォルダーから「オーケストレーション」ウィンドウにアクティビティーをドラッグします。「要約」パネルが表示されます。
2. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
3. 以下のボタンのいずれかをクリックします。
 - a. 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。
 - b. 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
 - c. 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
4. 次の表に示されたフィールドに入力します。


表 1. 接続の詳細

フィールド名	説明
接続の詳細	
OracleCRM ホスト名 (OracleCRM HostName)	Oracle CRM On Demand インスタンスのホスト名を指定します。
ユーザー名	Oracle CRM On Demand サーバーに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	Oracle CRM On Demand サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。

5. 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、Oracle CRM On Demand システムに接続できることを確認します。
6. 「OK」をクリックします。

親トピック: [Oracle CRM On Demand アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleCRMOD_creating_an_endpoint_activity.html

Oracle CRM On Demand アクティビティーの再試行オプションの指定

「再試行」パラメーターの指定は、Oracle CRM On Demand アクティビティーを構成するためのタスクの 1 つです。

このタスクについて

Oracle CRM On Demand アクティビティの再試行オプションを構成するには、このタスクを使用します。Oracle CRM On Demand コネクタでは、Oracle CRM On Demand エンドポイントへのすべての接続について単一のログイン・セッションを使用します。セッションの有効期限が切れると、コネクタは自動的に新規セッションを確立します。このコネクタは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクタの標準的な再試行動作と見なします。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、Oracle CRM On Demand インスタンスへの接続の再試行オプションおよびタイムアウト・オプションを構成します。


表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスが Oracle CRM On Demand インスタンスへの接続を確立しようとするまでの待機秒数を指定します。
失敗するまで__回の接続を試みます。	再試行回数、つまり統合アプライアンスが Oracle CRM On Demand インスタンスへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。 注: Oracle CRM On Demand アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされ、統合アプライアンスが指定の Oracle CRM On Demand インスタンスに接続できない場合、再試行回数値に達するまで統合アプライアンスはシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。
アクティビティ・タイムアウト	

再試行 フィー ルド	説明
エンド ポイン トが要 求に応 答しな いと き、__ 秒後に タイム アウト になり ます。	エンドポイントが要求に応答しない場合に、統合アプライアンスがタイムアウトするまでに待機する秒数を指定します。デフォルトは300秒です。

親トピック: [Oracle CRM On Demand アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Oracle_Specifying_Retry_Parameters_for_Oracle_Activities.html

Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの挿入」 アクティビティの使用

Oracle CRM On Demand インスタンスにオブジェクトを挿入または作成するには、Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの挿入」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

Oracle CRM On Demand サーバーでオブジェクト挿入または作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに回答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Oracle CRM On Demand フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの挿入」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Oracle CRM On Demand オブジェクトの挿入「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。


4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Oracle CRM On Demand エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Oracle CRM On Demand エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「OracleCRMOD の参照 (Browse OracleCRMOD)」ウィンドウが表示されます。
11. 「OracleCRMOD の参照 (Browse OracleCRMOD)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Oracle CRM On Demand アクティビティーの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの挿入」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの挿入」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Oracle CRM On Demand アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleCRMOD_insert_outactivity.html

Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの更新」 アクティビティ ーの使用

Oracle CRM On Demand インスタンスのオブジェクトを新しい値で更新するには、Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの更新」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

Oracle CRM On Demand インスタンスのオブジェクトを新しい値で更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Oracle CRM On Demand フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの更新」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Oracle CRM On Demand オブジェクトの更新「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Oracle CRM On Demand エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Oracle CRM On Demand エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「OracleCRMOD の参照 (Browse OracleCRMOD)」ウィンドウが表示されます。
11. 「OracleCRMOD の参照 (Browse OracleCRMOD)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Oracle CRM On Demand アクティビティの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの更新」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告され


た例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。

16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成されたXMLスキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの更新」アクティビティーを構成しました。
親トピック: [Oracle CRM On Demand アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleCRMOD_Update_outactivity.html

Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの照会」アクティビティーの使用

Oracle CRM インスタンスでオブジェクトを照会するには、Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの照会」アクティビティーを使用します。

このタスクについて

Oracle CRM On Demand サーバーでオブジェクトを照会するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Oracle CRM On Demand フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの照会」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Oracle CRM On Demand オブジェクトの照会「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Oracle CRM On Demand エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Oracle CRM On Demand エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「OracleCRMOD の参照 (Browse OracleCRMOD)」ウィンドウが表示されます。
11. 「OracleCRMOD の参照 (Browse OracleCRMOD)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『Oracle CRM On Demand アクティビティの再試行オプションの指定』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの照会」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。

以下のステップを実行して、「アクティビティへ」ペインの SearchSpec に照会ストリングを入力します。

- a. SearchSpec を右クリックして「デフォルト値の定義」オプションを選択します。
- b. 「デフォルト値の定義」ウィンドウで「デフォルト値」を指定します。例えば、名前が Jo で始まる連絡先オブジェクトを照会するには、照会ストリングに "[ContactFirstName] = 'Jo*'" と入力します。名前が John である連絡先オブジェクトを照会するには、"[ContactFirstName] = 'John'" と入力します。名前が Jane Doe である連絡先オブジェクトを照会するには、照会ストリングとして "([ContactFirstName] = 'Jane') AND ([ContactLastName] = 'Doe')'" と入力します。
- c. 「OK」をクリックします。

注: オブジェクト名フィールドの値を取得するには、「入力のマップ」セクションの「名前」フィールドにブランクの値を指定してください。

15. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの照会」アクティビティを構成しました。

親トピック: Oracle CRM On Demand アクティビティ

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleCRMOD_query_outactivity.html

Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用

Oracle CRM On Demand インスタンスからオブジェクトを削除するには、Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの削除」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

Oracle CRM On Demand インスタンスからオブジェクトを削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順


1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Oracle CRM On Demand フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの削除」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Oracle CRM On Demand オブジェクトの削除「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Oracle CRM On Demand エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Oracle CRM On Demand エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「OracleCRMOD の参照 (Browse OracleCRMOD)」ウィンドウが表示されます。
11. 「OracleCRMOD の参照 (Browse OracleCRMOD)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Oracle CRM On Demand アクティビティの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。

14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの削除」アクティビティの選択したオブジェクトから生成されたXMLスキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オークストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成されたXMLスキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオークストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Oracle CRM On Demand 「オブジェクトの削除」アクティビティを構成しました。
親トピック: [Oracle CRM On Demand アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleCRMOD_delete_outactivity.html

Oracle E-Business Suite アクティビティ

- [Oracle E-Business Suite コネクターの概要](#)
- [Oracle E-Business Suite に接続する JAR ファイルのインストール](#)
Oracle E-Business Suite アプリケーションに接続するには、Cast Iron Studio インストール済み環境と同じワークステーションに Oracle JDBC ドライバー JAR ファイルをコピーする必要があります。
- [Oracle E-Business Suite アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)
エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが Oracle データベースに接続するために使用する構成情報を提供します。
- [Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの作成」アクティビティの使用](#)
「オブジェクトの作成」アクティビティを使用して、要求内のビジネス・オブジェクトに対応する、データベース表の行を作成します。1次キーが定義されているフラット・テーブルの行を作成することができます。
- [Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの更新」アクティビティの使用](#)
「オブジェクトの更新」アクティビティを使用して、要求内のビジネス・オブジェクトに対応する、データベース表の行を更新します。1次キーが定義されているフラット・テーブルの行を更新することができます。
- [Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの削除」アクティビティの使用](#)
「オブジェクトの削除」アクティビティを使用して、Oracle 表から行を削除します。1次キーが定義されているフラット・テーブルから行を削除することができます。

- [Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの取得」アクティビティの使用](#)
「オブジェクトの取得」アクティビティを使用して、Oracle 表から行を取得します。1 次キーが定義されているフラット・テーブルから行を取得することができます。
- [Oracle E-Business Suite アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)
「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、Oracle E-Business Suite アクティビティ構成を構成するためのタスクの 1 つです。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_oracleebsactivities.html

Oracle E-Business Suite コネクターの概要

Oracle E-Business Suite コネクターを使用して、Oracle E-Business Suite と対話したり情報を交換したりすることができます。このコネクターを使用すれば、特別なコーディングをしなくても、基礎になっている Oracle データベースに要求を送ることができます。


Domino® コネクターを使用して、以下のアクティビティを実行できます。

- アウトバウンド・アクティビティ
 - [オブジェクトの作成](#)
 - [オブジェクトの更新](#)
 - [オブジェクトの削除](#)
 - [オブジェクトの取得](#)

このコネクターがサポートする Oracle E-Business Suite アプリケーションのバージョンは 11.5、12.0、および 12.1 です。

親トピック: [Oracle E-Business Suite アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleEBS_Overview.html

Oracle E-Business Suite に接続する JAR ファイルのインストール

Oracle E-Business Suite アプリケーションに接続するには、Cast Iron Studio インストール済み環境と同じワークステーションに Oracle JDBC ドライバー JAR ファイルをコピーする必要があります。

始める前に

- JAR ファイルは Oracle システム管理者から入手できます。
- JAR ファイルは、Studio インストール済み環境と同じコンピューターになければなりません。
- JAR ファイルは、接続先の Oracle E-Business Suite アプリケーションと同じバージョンのものでなければなりません。

注: Oracle E-Business Suite コネクタは Oracle シン・ドライバーを使用して、データベースに接続し、データベースと連動します。

このタスクについて

手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」を選択します。
2. 「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「Oracle E-Business Suite」の下にあるプラス (+) ボタンをクリックします。フィールドおよび「参照」ボタンが表示されます。
3. 「参照」をクリックし、「参照」ダイアログ・ボックスを使用して JAR ファイルを見つけて選択します。
4. 「開く」をクリックして、選択したファイルをインポートします。
5. JAR ファイルが「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスにリストされたら、「OK」をクリックします。

タスクの結果


Studio を再始動して変更内容をアクティブにするためのプロンプトが表示されます。

次のタスク

Oracle E-Business Suite エンドポイントおよびオーケストレーションを作成できるようになりました。

親トピック: [Oracle E-Business Suite アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleEBS_installing_jarfiles.html

Oracle E-Business Suite アクティビティのエンドポイントの作成または編集

エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが Oracle データベースに接続するために使用する構成情報を提供します。

Oracle E-Business Suite エンドポイントの選択または編集

1. 「エンドポイントの作成」 ペインまたは「エンドポイントの編集」 ペインで、以下の表の説明に従って Oracle データベース構成します。これらのフィールドのほかに、エンドポイント・ペインには「接続プール・オプション」 および「リモート・エンドポイント構成」が含まれます。
注: エンドポイントの構成プロパティを変更すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルとなります。
2. 「接続のテスト」 をクリックして、接続の詳細が有効であること、および Oracle データベースに正常に接続できることを確認します。
3. 「OK」 をクリックします。

表 1. 接続プロパティ

フィールド名	説明
Oracle E-Business Suite コネクター - 接続情報	
インターフェース	Oracle E-Business Suite との通信に使用されるインターフェースを指定します。現在は、JDBC API を使用して Oracle E-Business Suite と通信するデータベースのみがサポートされています。
ホスト名	Oracle データベースが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート番号	Java™ アプレットまたはアプリケーションが当該データベースにアクセスできるようにする Oracle インターネット・ポートを指定します。
システム ID	Oracle データベースに接続するシステム ID (SID) を指定します。
ユーザー名	Oracle データベースに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	Oracle データベースに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
追加プロパティ	JDBC ドライバーを使用してデータベースに接続するときに設定する追加プロパティを指定します。
接続プール・オプション	
最小接続数	統合アプライアンスが接続プールで開いておく Oracle データベース接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
最大接続数	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる Oracle データベース接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
最大アイドル時間	統合アプライアンスによって閉じられるまで Oracle データベース接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間はありません)。デフォルト値は 120 分です。
最大待機	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。

フィールド名	説明
接続の再利用	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は5分です。
注: エンドポイントでの負荷 (同時要求の数) に従って接続プール・プロパティを構成する必要があります。	
リモート・エンドポイント構成	
エンドポイントをファイアウォールの内側で実行	セキュア・コネクタ名のプロパティを使用可能にして、Oracle データベースがファイアウォールの内側にインストールされている場合にセキュア・コネクタを使用できるようにします。
セキュア・コネクタ名	ファイアウォールの内側にインストールされている Oracle データベースへの接続に使用するセキュア・コネクタの名前を指定します。

親トピック: [Oracle E-Business Suite アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleEBS_creating_an_endpoint.html

Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用

「オブジェクトの作成」アクティビティを使用して、要求内のビジネス・オブジェクトに対応する、データベース表の行を作成します。1次キーが定義されているフラット・テーブルの行を作成することができます。

このタスクについて

このタスクを使用して、Oracle E-Business Suite アプリケーションにオブジェクトを作成します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Oracle E-Business Suite フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの作成」アクティビティを Oracle E-Business Suite フォルダーからオーケストレーション上にドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。


6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Oracle E-Business Suite エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Oracle E-Business Suite アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「Oracle 表 (Oracle Table)」フィールドで Oracle 表名を参照します。
11. 「Oracle データベース表の参照 (Browse Oracle Database Tables)」ダイアログで、「ユーザー・スキーマによるフィルタリング」ドロップダウン・リストからユーザー・スキーマを選択します。
12. オプション: 選択時に表をフィルタリングするには「名前による表のフィルタリング (Filter tables by name)」を使用します。
13. 表を選択し、「OK」をクリックします。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Oracle E-Business Suite アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの作成」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの作成」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Oracle E-Business Suite アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleEBS_createobjects.html

Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの更新」アクティビティーの使用

「オブジェクトの更新」アクティビティーを使用して、要求内のビジネス・オブジェクトに対応する、データベースの行を更新します。1次キーが定義されているフラット・テーブルの行を更新することができます。

このタスクについて

このタスクを使用して、Oracle E-Business Suite アプリケーションでオブジェクトを更新します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順


1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Oracle E-Business Suite フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの更新」アクティビティーを Oracle E-Business Suite フォルダーからオーケストレーション上にドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Oracle E-Business Suite エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Oracle E-Business Suite アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「Oracle 表 (Oracle Table)」フィールドで Oracle 表名を参照します。
11. 「Oracle データベース表の参照 (Browse Oracle Database Tables)」ダイアログで、「ユーザー・スキーマによるフィルタリング」ドロップダウン・リストからユーザー・スキーマを選択します。
12. オプション: 選択時に表をフィルタリングするには「名前による表のフィルタリング (Filter tables by name)」を使用します。
13. 表を選択し、「OK」をクリックします。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Oracle E-Business Suite アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの更新」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの更新」 アクティビティを構成しました。

親トピック: [Oracle E-Business Suite アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleEBS_updateobjects.html

Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用

「オブジェクトの削除」 アクティビティを使用して、Oracle 表から行を削除します。1 次キーが定義されているフラット・テーブルから行を削除することができます。

このタスクについて

このタスクを使用して、Oracle E-Business Suite アプリケーションから行を削除します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Oracle E-Business Suite フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの削除」アクティビティを Oracle E-Business Suite フォルダーからオーケストレーション上にドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Oracle E-Business Suite エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Oracle E-Business Suite アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「Oracle 表 (Oracle Table)」フィールドで Oracle 表名を参照します。


11. 「Oracle データベース表の参照 (Browse Oracle Database Tables)」ダイアログで、「ユーザー・スキーマによるフィルタリング」ドロップダウン・リストからユーザー・スキーマを選択します。
12. オプション: 選択時に表をフィルタリングするには「名前による表のフィルタリング (Filter tables by name)」を使用します。
13. 表を選択し、「OK」をクリックします。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Oracle E-Business Suite アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの削除」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの削除」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Oracle E-Business Suite アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleEBS_deleteobjects.html

Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの取得」アクティビティの使用

「オブジェクトの取得」アクティビティを使用して、Oracle 表から行を取得します。1 次キーが定義されているフラット・テーブルから行を取得することができます。

このタスクについて

このタスクを使用して、Oracle E-Business Suite アプリケーションからオブジェクトを取得します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順


1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Oracle E-Business Suite フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの取得」アクティビティーを Oracle E-Business Suite フォルダーからオーケストレーション上にドラッグします。オーケストレーションのグラフィカル表現が、「チェックリスト」ペインと共に表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Oracle E-Business Suite エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Oracle E-Business Suite アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「Oracle 表 (Oracle Table)」フィールドで Oracle 表名を参照します。
11. 「Oracle データベース表の参照 (Browse Oracle Database Tables)」ダイアログで、「ユーザー・スキーマによるフィルタリング」ドロップダウン・リストからユーザー・スキーマを選択します。
12. オプション: 選択時に表をフィルタリングするには「名前による表のフィルタリング (Filter tables by name)」を使用します。
13. 表を選択し、「OK」をクリックします。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Oracle E-Business Suite アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの取得」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Oracle E-Business Suite 「オブジェクトの取得」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Oracle E-Business Suite アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

Oracle E-Business Suite アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定

「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、Oracle E-Business Suite アクティビティ構成を構成するためのタスクの1つです。

このタスクについて

このセクションでは、Oracle E-Business Suite アクティビティを構成するための手順について説明します。

手順

Oracle E-Business Suite アクティビティの再試行オプションを指定するには、以下のようにします。

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、Oracle E-Business Suite サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。


表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに__秒待機します。	統合アプライアンスが Oracle E-Business Suite アプリケーションへの接続の確立を試みるまで待機する秒数を指定します。

再試行フィールド	説明
失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>再試行回数、つまり統合アプライアンスが Oracle E-Business Suite アプリケーションへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスは次のエラーを発行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ このパラメーターを 0 に設定すると、Studio は再接続を試行しません。 ○ このパラメーターを 0 より小さい値に設定すると、Studio は接続を無期限に再試行します。 <p>アウトバウンドの Oracle E-Business Suite アクティビティで始まるオーケストレーションがデプロイされ、統合アプライアンスが指定された Oracle E-Business Suite アプリケーションに接続できない場合、統合アプライアンスは、再試行回数値に達するまで、接続エラーを警告としてシステム・ログに記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスはシステム・ログにエラーを記録し、接続エラー回数をゼロにリセットし、引き続き Oracle E-Business Suite アプリケーションへの接続の確立を試みます。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定したとします。そうすると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

親トピック: [Oracle E-Business Suite アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/OracleEBS_specifying_retry_parameters.html


PeopleSoft アクティビティ

- [PeopleSoft コネクターの概要](#)
- [PeopleSoft アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)
エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが PeopleSoft サーバーに接続するために使用する構成情報を提供します。
- [PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)
PeopleSoft サーバーに接続するには、Cast Iron Studio インストール済み環境と同じワークステーションに 2 つの JAR ファイルをコピーする必要があります。
- [PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの作成」 アクティビティの使用](#)
PeopleSoft サーバーで新規コンポーネント・インターフェースを作成するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの作成」 アクティビティを使用します。新しく作成されたコンポーネントには、ビジネス・エンティティを表すデータが含まれます。
- [PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの更新」 アクティビティの使用](#)
PeopleSoft サーバーでコンポーネント・インターフェースを更新するには、PeopleSoft 「コンポーネン

ト・インターフェースの更新」アクティビティーを使用します。このアクティビティーは、対応する PeopleSoft コンポーネントを着信ビジネス・オブジェクトで更新します。

- [PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの削除」アクティビティーの使用](#)
PeopleSoft サーバーからコンポーネント・インターフェースを削除するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの削除」アクティビティーを使用します。このアクティビティーは、PeopleSoft コンポーネントとその子孫を削除します。このコネクタは論理削除しかサポートしないため、コンポーネントには削除済みのマークが付けられるのみで、除去はされません。
- [PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーの使用](#)
PeopleSoft サーバーからコンポーネント・インターフェースを取得するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーを使用します。このアクティビティーを使用すると、PeopleSoft コンポーネントにアクセスして PeopleSoft サーバーから値を取得することができます。
- [PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの検索」アクティビティーの使用](#)
PeopleSoft サーバーからすべてのコンポーネント・インターフェースを検索するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの検索」アクティビティーを使用します。このアクティビティーは PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーと同じように動作します。ただし、同じ PeopleSoft コンポーネントの、入力条件を満たす複数のインスタンスを検索する点が異なります。
- [イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイル](#)
必要な 2 つの JAR ファイルのうち、最初のファイル (名前は `PSFTCI.jar` になります) は、手動でビルドしてコンパイルする必要があります。
- [PeopleSoft 「作成済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーの使用](#)
PeopleSoft サーバーの作成済みオブジェクトのポーリングを行うには、「作成済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーを使用します。
- [PeopleSoft 「更新済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーの使用](#)
PeopleSoft サーバーの更新済みイベントのポーリングを行うには、「更新済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーを使用します。
- [PeopleSoft 「削除済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーの使用](#)
PeopleSoft サーバーの削除済みイベントのポーリングを行うには、「削除済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーを使用します。
- [PeopleSoft アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)
「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、PeopleSoft アクティビティー構成を構成するためのタスクの 1 つです。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_peoplesoftactivities.html

PeopleSoft コネクタの概要

PeopleSoft コネクタを使用すると、標準インターフェースを介して PeopleSoft Enterprise と情報を交換する、統合プロセスを作成できます。このインターフェースにより、PeopleSoft Enterprise サーバーで使用するアプリケーションまたはデータ構造の実装に関する低水準の詳細をクライアント・アプリケーションで分析する必要がなくなります。

PeopleSoft コネクターを使用して、以下のアクティビティを実行できます。

- アウトバウンド・アクティビティ
 - [コンポーネント・インターフェースの作成](#)
 - [コンポーネント・インターフェースの更新](#)
 - [コンポーネント・インターフェースの削除](#)
 - [コンポーネント・インターフェースの取得](#)
 - [コンポーネント・インターフェースの検索](#)
- インバウンド/スターター・アクティビティ
 - [作成済みコンポーネント・インターフェースの取得](#)
 - [更新済みコンポーネント・インターフェースの取得](#)
 - [削除済みコンポーネント・インターフェースの取得](#)


PeopleSoft コネクターは、PeopleTools のバージョン 8.22、8.40 から 8.49、8.50、および 8.51 をサポートします。

注: このコネクターには、アダプターがサポートしているバージョンの PeopleTools と連携して動作する任意のバージョンの PeopleSoft Applications との互換性があります。

PeopleSoft コネクターが PeopleSoft サーバーに接続するには、PeopleSoft JAR ファイルが必要です。詳しくは、『[PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』および『[イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイル](#)』を参照してください。

親トピック: [PeopleSoft アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PeopleSoft_Overview.html

PeopleSoft アクティビティのエンドポイントの作成または編集

エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが PeopleSoft サーバーに接続するために使用する構成情報を提供します。

PeopleSoft エンドポイントの選択または編集

1. 「エンドポイントの作成」ペインまたは「エンドポイントの編集」ペインで、以下の表の説明に従って PeopleSoft サーバーを構成します。これらのフィールドのほかに、エンドポイント・ペインには「接続プール・オプション」および「リモート・エンドポイント構成」が含まれます。
注: エンドポイントの構成プロパティを変更すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルとなります。
2. 「接続のテスト」をクリックして、接続の詳細が有効であること、および PeopleSoft サーバーに正常に接続できることを確認します。
3. 「OK」をクリックします。

表 1. 接続プロパティ

フィールド名	説明
PeopleSoft サーバー構成	
ホスト名	PeopleSoft サーバーが稼働しているマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	Java™ アプレットまたはアプリケーションが PeopleSoft データにアクセスできるようにする、PeopleSoft インターネット・ポートを指定します。
ユーザー名	PeopleSoft サーバーに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	PeopleSoft サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
言語コード	PeopleSoft サーバーに接続するための言語コードを指定します。22 の言語コードがリストされています。デフォルトのコードは ENG です。
接続プール・オプション	
最小接続数	統合アプライアンスが接続プールで開いておく PeopleSoft サーバー接続の最小数を指定します。0 (ゼロ) も入力できます。デフォルト値は 5 です。
最大接続数	統合アプライアンスが接続プールで開いておくことができる PeopleSoft サーバー接続の最大数を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続の最大数に制限はありません。デフォルト値は 25 です。
最大アイドル時間	統合アプライアンスによって閉じられるまで PeopleSoft サーバー接続をアイドル状態のまま開いておくことができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間がありません)。デフォルト値は 120 分です。
最大待機	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
接続の再利用	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルト値は 5 分です。
注: エンドポイントでの負荷 (同時要求の数) に従って接続プール・プロパティを構成する必要があります。	
リモート・エンドポイント構成	
エンドポイントをファイアウォールの内側で実行	セキュア・コネクタ名のプロパティを使用可能にして、PeopleSoft サーバーがファイアウォールの内側で実行されている場合にセキュア・コネクタを使用できるようにします。
セキュア・コネクタ名	ファイアウォールの内側で稼働している PeopleSoft サーバーへの接続に使用するセキュア・コネクタの名前を指定します。例えば、PeopleSoft アクティビティを含むオーケストレーションが Cast Iron Live (Cloud) にデプロイされる場合は、セキュア・コネクタを構成する必要があります。

親トピック: [PeopleSoft アクティビティ](#)

PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール

PeopleSoft サーバーに接続するには、Cast Iron Studio インストール済み環境と同じワークステーションに 2 つの JAR ファイルをコピーする必要があります。

始める前に

- JAR ファイルは PeopleSoft システム管理者から入手できます。
- JAR ファイルは、Studio インストール済み環境と同じコンピューターになければなりません。
- JAR ファイルは、接続先 PeopleSoft サーバーと同じバージョンのものでなければなりません。

イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイルについて詳しくは、[イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイル](#)を参照してください。

このタスクについて

インストールされるファイルは、以下のとおりです。

- PSFTCI.jar
- psjoa.jar

手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」を選択します。
2. 「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「PeopleSoft コネクター」の下にあるプラス (+) ボタンをクリックします。フィールドおよび「参照」ボタンが表示されます。
3. 「参照」をクリックし、「参照」ダイアログ・ボックスを使用して JAR ファイルを見つけて選択します。
4. 「開く」をクリックして、選択したファイルをインポートします。
5. JAR ファイルが「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスにリストされたら、「OK」をクリックします。

タスクの結果

Studio を再始動して変更内容をアクティブにするためのプロンプトが表示されます。

次のタスク

PeopleSoft エンドポイントおよびオーケストレーションを作成できるようになりました。

親トピック: [PeopleSoft アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PeopleSoft_installing_jarfiles.html

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの作成」 アクティビティの使用

PeopleSoft サーバーで新規コンポーネント・インターフェースを作成するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの作成」 アクティビティを使用します。新しく作成されたコンポーネントには、ビジネス・エンティティを表すデータが含まれます。

始める前に

以下のことを確認してください。

- PeopleSoft サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- PeopleSoft サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

PeopleSoft サーバーでコンポーネント・インターフェースを作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて PeopleSoft フォルダのコンテンツを展開します。
2. 「コンポーネント・インターフェースの作成」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。PeopleSoft コンポーネント・インターフェースの作成「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する PeopleSoft エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。


10. 「コンポーネント・インターフェース (Component Interface)」フィールドでコンポーネント・インターフェース名を参照します。コンポーネント・インターフェース名には、PeopleSoft インターフェースを表すデフォルト値が取り込まれます。デフォルト値と異なる場合は、コンポーネント・インターフェース名を参照します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのコンポーネント・インターフェースから取得されます。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
12. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「コンポーネント・インターフェースの作成」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
注: PeopleSoft コネクタは、アクティビティによって使用されるすべてのオブジェクトに対して単一入力スキーマを生成します。このアクティビティに適用されない、いくつかの冗長フィールドが生成されることもあります。
13. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
14. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの作成」アクティビティを構成しました。

親トピック: [PeopleSoft アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PeopleSoft_create_component.html

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの更新」アクティビティの使用

PeopleSoft サーバーでコンポーネント・インターフェースを更新するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの更新」アクティビティを使用します。このアクティビティは、対応する PeopleSoft コンポーネントを着信ビジネス・オブジェクトで更新します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- PeopleSoft サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- PeopleSoft サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

PeopleSoft サーバーでコンポーネント・インターフェースを更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて PeopleSoft フォルダのコンテンツを展開します。
2. 「コンポーネント・インターフェースの更新」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。PeopleSoft コンポーネント・インターフェースの更新「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する PeopleSoft エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「コンポーネント・インターフェース (Component Interface)」フィールドでコンポーネント・インターフェース名を参照します。コンポーネント・インターフェース名には、PeopleSoft インターフェースを表すデフォルト値が取り込まれます。
 - a. 「コンポーネント・インターフェースの表示」ウィンドウで、コンポーネント・インターフェース名がデフォルト値と異なる場合は、そのコンポーネント・インターフェース名を参照します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのコンポーネント・インターフェースから取得されます。
 - b. 「次へ」をクリックします。「子関係の保持 (Preserve child relationship)」ウィンドウが表示されます。
 - c. データが取り込まれたリストから子ビジネス・オブジェクトを選択し、「終了」をクリックして構成を完了します。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
12. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「コンポーネント・インターフェースの更新」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
13. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。

注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。


- 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
- 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの更新」アクティビティを構成しました。

親トピック: [PeopleSoft アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PeopleSoft_update_component.html

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの削除」アクティビティの使用

PeopleSoft サーバーからコンポーネント・インターフェースを削除するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの削除」アクティビティを使用します。このアクティビティは、PeopleSoft コンポーネントとその子を削除します。このコネクタは論理削除しかサポートしないため、コンポーネントには削除済みのマークが付けられるのみで、除去はされません。

始める前に

以下のことを確認してください。

- PeopleSoft サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- PeopleSoft サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて


PeopleSoft サーバーからコンポーネント・インターフェースを削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて PeopleSoft フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「コンポーネント・インターフェースの削除」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。PeopleSoft コンポーネント・インターフェースの削除「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する PeopleSoft エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイント構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「コンポーネント・インターフェース (Component Interface)」フィールドでコンポーネント・インターフェース名を参照します。コンポーネント・インターフェース名には、PeopleSoft インターフェースを表すデフォルト値が取り込まれます。
 - a. 「コンポーネント・インターフェースの表示」ウィンドウで、コンポーネント・インターフェース名がデフォルト値と異なる場合は、そのコンポーネント・インターフェース名を参照します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのコンポーネント・インターフェースから取得されます。
 - b. 「次へ」をクリックします。「論理削除 (Logical delete)」ウィンドウが表示されます。
 - c. 「論理削除するフィールド名 (Field name for logical delete)」ドロップダウン・リストからフィールドを選択します。
 - d. 削除済みオブジェクトの値を「削除済みオブジェクトを示す値 (Value to indicate deleted object)」フィールドに指定し、「終了」をクリックして構成を完了します。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
12. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「コンポーネント・インターフェースの削除」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
13. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
14. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの削除」アクティビティーを構成しました。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PeopleSoft_delete_component.html

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの取得」 アクティビティの使用

PeopleSoft サーバーからコンポーネント・インターフェースを取得するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの取得」 アクティビティを使用します。このアクティビティを使用すると、PeopleSoft コンポーネントにアクセスして PeopleSoft サーバーから値を取得することができます。

始める前に

以下のことを確認してください。

- PeopleSoft サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- PeopleSoft サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

PeopleSoft サーバーからコンポーネント・インターフェースを取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて PeopleSoft フォルダのコンテンツを展開します。
2. 「コンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。PeopleSoft コンポーネント・インターフェースの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する PeopleSoft エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。


8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「コンポーネント・インターフェース (Component Interface)」テキスト・ボックスでコンポーネント・インターフェース名を参照します。コンポーネント・インターフェース名には、PeopleSoft インターフェースを表すデフォルト値が取り込まれます。デフォルト値と異なる場合は、コンポーネント・インターフェース名を参照します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのコンポーネント・インターフェースから取得されます。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
12. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「コンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
注: PeopleSoft コネクタは、アクティビティによって使用されるすべてのオブジェクトに対して単一入力スキーマを生成します。このアクティビティに適用されない、いくつかの冗長フィールドが生成されることもあります。このアクティビティでは GETKEYS フィールドを設定する必要があります。
Wbi_Customer_Ci コンポーネント・インターフェースについては、customerid フィールドの値を指定する必要があります。
13. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
14. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティを構成しました。

親トピック: [PeopleSoft アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PeopleSoft_get_component.html

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの検索」アクティビティの使用

PeopleSoft サーバーからすべてのコンポーネント・インターフェースを検索するには、PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの検索」 アクティビティを使用します。このアクティビティは PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの取得」 アクティビティと同じように動作します。ただし、同じ PeopleSoft コンポーネントの、入力条件を満たす複数のインスタンスを検索する点が異なります。

始める前に

以下のことを確認してください。

- PeopleSoft サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[PeopleSoft サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- PeopleSoft サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

PeopleSoft サーバーでコンポーネント・インターフェースを検索するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて PeopleSoft フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「コンポーネント・インターフェースの検索」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。PeopleSoft コンポーネント・インターフェースの検索「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する PeopleSoft エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「コンポーネント・インターフェース (Component Interface)」テキスト・ボックスでコンポーネント・インターフェース名を参照します。コンポーネント・インターフェース名には、PeopleSoft インターフェースを表すデフォルト値が取り込まれます。デフォルト値と異なる場合は、コンポーネント・インターフェース名を参照します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのコンポーネント・インターフェースから取得されます。
11. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
12. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「コンポーネント・インターフェースの検索」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。PeopleSoft コネクタは、

アクティビティーによって使用されるすべてのオブジェクトに対して単一入力スキーマを生成します。このアクティビティーに適用されない、いくつかの冗長フィールドが生成されることもあります。このアクティビティーでは FINDKEYS フィールドを設定する必要があります。Wbi_Customer_Ci コンポーネント・インターフェースについては、customerid フィールドまたは customerfirstname フィールドのいずれか、または両方の値を指定する必要があります。


13. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
14. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

PeopleSoft 「コンポーネント・インターフェースの検索」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [PeopleSoft アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PeopleSoft_find_component.html

イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイル

必要な 2 つの JAR ファイルのうち、最初のファイル (名前は `PSFTCI.jar` になります) は、手動でビルドしてコンパイルする必要があります。

PeopleSoft コネクターは、指定された間隔で PeopleSoft Enterprise サーバーでイベントのポーリングを行います。イベントを検出すると、コネクターは、イベント・データをビジネス・オブジェクトに変換して、クライアント・アプリケーションに送信します。このシナリオを使用するには、PeopleSoft Enterprise サーバーでカスタム・イベント・プロジェクトを作成する必要があります。

イベント・ストア

イベント・ストアは、ポーリング・コネクターが処理できるようになるまで、データ変更を表すイベントを保持するテーブルです。コネクターは、イベント・エンティティーを追跡するために、イベント・ストアを使用します。インバウンド処理を使用するには、PeopleTools Application Designer を使用して、イベント通知用のカスタム・プロジェクトを作成する必要があります。カスタム・プロジェクトは、コネクターがインバウンド処理を行うために必要なイベント・ストアを作成します。ビジネス・オブジェクトが作成、更新、または削除

されるたびに、プロジェクトで使用されてからコンポーネント・インターフェースに追加される PeopleCode 関数により、適切なオブジェクト名、キー、および状況値を持つ新規レコードがイベント・ストアに挿入されます。

インバウンド処理中、コネクタは、構成されたポーリング間隔でイベント・ストアからイベントをポーリングします。それぞれのポーリング呼び出しでは、構成された数のイベントがコネクタによって処理されます。イベント処理の順番は、優先順位の昇順およびイベント・タイム・スタンプの昇順に基づいています。各ポーリング周期でのポーリングでは、「ポーリング準備完了 (0)」状況のイベントが選出されます。コネクタは、対応するビジネス・オブジェクトを取得するために、オブジェクト名とオブジェクト・キーを使用します。以下の表に示すように、イベントがイベント・ストアから取得され、処理されると、イベントの状況が変わり、その状態を反映します。

表 1. イベント状況値

状況のショート・ネーム	説明	イベント・テーブル値
イベント処理エラー	イベント処理中にエラーが発生しました。	-1
ポーリング準備完了	イベントは選出される準備が整っています。	0
成功	イベントはイベント・マネージャーに配信されました。	1
削除済み	イベントは、正常に処理され、イベント・ストアから削除されています。	4

I. イベント・テーブルを作成するには

PeopleSoft JAR ファイルを構成およびコンパイルするための、以下のステップを実行します。

- イベント・テーブルを作成する
 - WBI_CUSTOMER_COMP コンポーネントにトリガーを追加する
 - コンポーネント・インターフェース用の Java™ API を作成する
1. <Cast Iron のインストール・ディレクトリ>%etc%peoplesoft%scripts にある WBI_CUST_PROJ プロジェクトを PeopleTools が実行されているマシンの一時ディレクトリ (C:\%Projects) にコピーします。
 2. PeopleSoft アプリケーション・デザイナーにログオンし、「ツール」>「プロジェクトのコピー (Copy Project)」>「ファイルから (From File)」を選択します。
 3. C:\%Projects ディレクトリを参照します。「下のリストからプロジェクトを選択 (Select Project from the List Below)」から、WBI_CUST_PROJ をダブルクリックします。
 4. 「ファイルからコピー (Copy From File)」ダイアログで「コピー」をクリックします。操作が完了するのを待ちます。
 5. 左のパネルで WBI_CUST_PROJ を選択してから、メインメニューから「ビルド」>「プロジェクト」を選択します。
 6. 「ビルド」パネルで、以下のチェック・ボックスを選択します。
 - テーブルの作成
 - ビューの作成 (Create Views)
 - トリガーの作成 (Create Trigger)
 - 実行およびビルド・スクリプト (Run and build script)
 7. プロジェクトのビルドを開始するには「ビルド」をクリックします。
 8. 「ビルドの進行中 (Build Progress)」ダイアログを終了するには「閉じる」をクリックします。
 9. アプリケーション・デザイナーの「ビルド・ログ (Build Log)」ビューで、ログ・メッセージを調べて、3 つのレコードが正しく処理されたことを確認します。
 10. 「ファイル」>「すべて保存」を選択し、変更内容を保存します。

11. コンポーネント・インターフェースのユーザー・セキュリティーを構成するために、PeopleSoft Web クライアント (<http://localhost/ps/ps/?cmd=login>) にログオンします。
12. 「PeopleTools」 > 「セキュリティー」 > 「許可と役割 (Permissions & Roles)」 > 「許可リスト (Permission Lists)」 に移動します。
13. 「先頭 (begins with)」 の編集ボックスで PTPT1200 を指定して、「検索」をクリックします。
14. 「コンポーネント・インターフェース (Component Interfaces)」 タブに移動し、「+」をクリックしてコンポーネント・インターフェース WBI_CUSTOMER_COMP_INTERFACE を追加します。
15. WBI_CUSTOMER_COMP_INTERFACE の「編集」をクリックします。
16. すべてのメソッドについて「フルアクセス (Full Access)」を選択して、「OK」をクリックします。
17. 「コンポーネント・インターフェース」タブに戻り、「+」をクリックしてコンポーネント・インターフェース IBM_EVENT_CI を追加します。
18. IBM_EVENT_CI の「編集」をクリックします。
19. すべてのメソッドについて「フルアクセス (Full Access)」を選択して、「OK」をクリックします。
20. 「コンポーネント・インターフェース (Component Interfaces)」タブに戻り、「保存」ボタンを押して変更内容を保存します。

II. トリガーを追加するには

1. PeopleSoft アプリケーション・デザイナーで WBI_CUST_PROJ プロジェクトを開きます。
2. 左のパネルで WBI_CUSTOMER_COMP を右クリックし、「PeopleCode の表示 (View PeopleCode)」を選択します。
3. PeopleCode の編集ウィンドウの右パネルで「SavePostChange」を選択します。
4. 編集ウィンドウで次の PeopleCode を入力します。

```
Declare Function IBMPublishEvent PeopleCode IBM_FETCH_ID.IBM_NEXT_EVENT_ID
FieldFormula;
Component string &BONAME1; Component string &KEYLIST1;
&BONAME1 = "WbiCustomerCompInterface";
&KEYLIST1 = "WBI_CUSTOMER.WBI_CUSTOMER_ID"; /* Check if Component Changed
before calling function*/ If ComponentChanged() And %UserId <> "C" Then /*
Publish this event to the IBM WebSphere IBM_EVENT_TBL for polling */
IBMPublishEvent(&BONAME1; &KEYLIST1); End-If;
```

5. 「ファイル」 > 「すべて保存」を選択し、変更内容を保存します。
6. 上記ステップで作成されたトリガーを正常に機能させるには、なんらかの初期化作業が必要です。PeopleTools が使用するデータベースに接続し、次の SQL ステートメントを実行してください。

```
$ insert into PS_IBM_FETCH_ID values(1000);
$ commit;
```

III. コンポーネント・インターフェース用の Java API を作成するには

コンポーネント・インターフェース API は、すべてのオブジェクトおよび PeopleCode メソッドへのアクセスを提供します。これらの API は、アプリケーション・デザイナーを使用して手動で生成することができます。その後でそれを PSFTCI.jar ファイルにコンパイルします。

1. PeopleSoft アプリケーション・デザイナーで IBM_EVENT_CI コンポーネント・インターフェースを開きます。
2. メインメニューから「ビルド」 > 「PeopleSoft API」を選択します。
3. 「PeopleSoft API バインディングのビルド (Build PeopleSoft API Bindings)」ダイアログで、「Java クラス (Java Classes)」の「ビルド」チェック・ボックスのみが選択されていることを確認します。生成された Java ファイルを保管するターゲット・ディレクトリーを設定します。「ビルドする API の選択 (Select API to Build)」リストで、以下の項目を選択します。
 - o CompIntfc.CompIntfcPropertyInfo


- `CompIntfc.CompIntfcPropertyInfoCollection`
 - `CompIntfc.IBM_EVENT_CI` で始まるすべて
 - `CompIntfc.WBI_CUSTOMER_COMP_INTERFACE` で始まるすべて
4. 「OK」をクリックします。ターゲット・ディレクトリーを調べて、Java ファイルが正常に生成されたことを確認します。
 5. 生成された Java ファイルを `C:¥Temp` ディレクトリーにコピーしてから、`psjoe.jar` ファイルを `<PeopleTools_HOME>¥web¥psjoe` ディレクトリーから `C:¥Temp` ディレクトリーにコピーします。
 6. ディレクトリーを `C:¥Temp` と入力し、以下のコマンドを実行して Java ファイルをビルドします。

```
$ javac -classpath .¥psjoe.jar PeopleSoft¥Generated¥CompIntfc¥*.java
$ jar -cvf PSFTCI.jar PeopleSoft¥Generated¥CompIntfc¥*.class
```

これらの2つのJARファイル `psjoe.jar` と `PSFTCI.jar` は、PeopleSoft Enterprise アプリケーションにアクセスするために PeopleSoft コネクターによって使用されます。

親トピック: [PeopleSoft アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Peoplesoft_compiling_jars.html

PeopleSoft 「作成済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーの使用

PeopleSoft サーバーの作成済みオブジェクトのポーリングを行うには、「作成済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- 必要なベンダー・ソフトウェアのJARファイルがインストールされている。
- PeopleSoft サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。
- イベントを生成するための `EventStore` ビジネス・オブジェクトおよびトリガーが構成されている。詳しくは、『[イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイル](#)』を参照してください。

このタスクについて

PeopleSoft サーバーで作成されたイベントをポーリングするには、このタスクを使用します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて PeopleSoft フォルダーのコンテンツを展開します。

2. 「作成済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。PeopleSoft 作成済みコンポーネント・インターフェースの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する PeopleSoft エンドポイントを選択します。
7. 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウからオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. PeopleSoft サーバーで構成されているイベント・ストア名を指定します。アクティビティーは、このイベント・ストアをポーリングして新しいイベントを照会します。「イベント・ストア名」フィールドには、デフォルト値が取り込まれています。PeopleSoft サーバーで構成されているイベント・ストア名がデフォルト値と異なる場合には、その名前を指定してください。
11. 「コンポーネント・インターフェース」フィールドでコンポーネント・インターフェース名を指定するか、必要なコンポーネント・インターフェースを参照します。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。同様に「配信ルール」パネルを構成します。詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。


アクティビティーは、構成された時間間隔でイベント・ストアをポーリングして作成イベントを照会し、そのイベントの実際のオブジェクトをフェッチします。このオブジェクトはオーケストレーションに送信されます。処理が終わると、イベント・ストアのイベントにアーカイブ済みのマークが付けられます。

13. 「チェックリスト」から「出力のマッピング」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
14. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマッピングを作成します。

タスクの結果

PeopleSoft 「作成済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーを構成しました。
親トピック: [PeopleSoft アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Peoplesoft_get_created_componentinterface_activity.html

PeopleSoft 「更新済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーの使用

PeopleSoft サーバーの更新済みイベントのポーリングを行うには、「更新済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- 必要なベンダー・ソフトウェアの JAR ファイルがインストールされている。
- PeopleSoft サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。
- イベントを生成するための *EventStore* ビジネス・オブジェクトおよびトリガーが構成されている。詳しくは、『[イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイル](#)>』を参照してください。

このタスクについて

PeopleSoft サーバーで更新されたイベントをポーリングするには、このタスクを使用します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて PeopleSoft フォルダのコンテンツを展開します。
2. 「更新済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。PeopleSoft 更新済みコンポーネント・インターフェースの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する PeopleSoft エンドポイントを選択します。
7. 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウからオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. PeopleSoft サーバーで構成されているイベント・ストア名を指定します。アクティビティーは、このイベント・ストアをポーリングして新しいイベントを照会します。「イベント・ストア名」フィールドには、デフォルト値が取り込まれています。PeopleSoft サーバーで構成されているイベント・ストア名がデフォルト値と異なる場合には、その名前を指定してください。
11. 「コンポーネント・インターフェース (Component Interface)」フィールドでコンポーネント・インターフェース名を指定するか、必要なコンポーネント・インターフェースを参照します。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。同様に「配信ルール」パネルを構成します。詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。


アクティビティは、構成された時間間隔でイベント・ストアをポーリングして作成イベントを照会し、そのイベントの実際のオブジェクトをフェッチします。このオブジェクトはオーケストレーションに送信されます。処理が終わると、イベント・ストアのイベントにアーカイブ済みのマークが付けられます。

- 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
- 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

PeopleSoft 「更新済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティを構成しました。
親トピック: [PeopleSoft アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Peoplesoft_get_updated_componentin terface_activity.html

PeopleSoft 「削除済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティの使用

PeopleSoft サーバーの削除済みイベントのポーリングを行うには、「削除済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- 必要なベンダー・ソフトウェアの JAR ファイルがインストールされている。
- PeopleSoft サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。
- イベントを生成するための *EventStore* ビジネス・オブジェクトおよびトリガーが構成されている。詳しくは、『[イベント・テーブルの作成と PeopleSoft JAR ファイルのコンパイル](#)』を参照してください。

このタスクについて

PeopleSoft サーバーで削除されたイベントをポーリングするには、このタスクを使用します。

手順

- アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて PeopleSoft フォルダのコンテンツを展開します。

2. 「削除済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。PeopleSoft 削除済みコンポーネント・インターフェースの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する PeopleSoft エンドポイントを選択します。
7. 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーのエンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウからオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. PeopleSoft サーバーで構成されているイベント・ストア名を指定します。アクティビティーは、このイベント・ストアをポーリングして新しいイベントを照会します。「イベント・ストア名」フィールドには、デフォルト値が取り込まれています。PeopleSoft サーバーで構成されているイベント・ストア名がデフォルト値と異なる場合には、その名前を指定してください。
11. 「コンポーネント・インターフェース」フィールドでコンポーネント・インターフェース名を指定するか、必要なコンポーネント・インターフェースを参照します。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。同様に「配信ルール」パネルを構成します。詳しくは、『[PeopleSoft アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。

アクティビティーは、構成された時間間隔でイベント・ストアをポーリングして作成イベントを照会し、そのイベントの実際のオブジェクトをフェッチします。このオブジェクトはオーケストレーションに送信されます。処理が終わると、イベント・ストアのイベントにアーカイブ済みのマークが付けられます。

13. 「チェックリスト」から「出力のマッピング」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
14. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマッピングを作成します。

タスクの結果

PeopleSoft 「削除済みコンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティーを構成しました。
親トピック: [PeopleSoft アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Peoplesoft_get_deleted_componentinterface_activity.html

PeopleSoft アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定

「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、PeopleSoft アクティビティ構成を構成するためのタスクの1つです。

このタスクについて

このセクションでは、PeopleSoft アウトバウンドおよびインバウンド・アクティビティの再試行オプションを構成するための手順について説明します。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、PeopleSoft サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。

表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに一秒待機します。	統合アプライアンスが PeopleSoft サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。

再 試 行 フ ィ ー ル ド	説明
失 敗 す る ま で __ 回 の 接 続 を 試 み ま す 。	<p>再試行回数、つまり統合アプライアンスが PeopleSoft サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>注: インバウンドまたはアウトバウンド PeopleSoft アクティビティのあるオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスは指定された PeopleSoft サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>

親トピック: [PeopleSoft アクティビティ](#)

PeopleSoft インバウンド・アクティビティの配信ルール・オプションの指定

このタスクについて

このセクションでは、PeopleSoft インバウンド・アクティビティの配信ルール・オプションを構成するための手順について説明します。

手順

1. 「チェックリスト」で「配信ルール」タスクを選択します。「配信ルール」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、アクティビティの動作を選択するための配信ルール・オプションを構成します。

表 2. 配信ルール

「配信ルール」フィールド	説明

「配信ルール」フィールド	説明
変更のポーリング頻度: _____ 日/時間/分/秒	PeopleSoft サーバーのオブジェクトについてポーリングを行う時間間隔を指定します。(例えば、「コンポーネント・インターフェースの取得」アクティビティは、指定された時間間隔で「コンポーネント・インターフェースの作成」アクティビティをポーリングします。) 時間は、日、時、分、または秒の形式で選択できます。
ポーリングごとに _____ 行をフェッチします	アクティビティが各ポーリング周期で PeopleSoft サーバーから取得するオブジェクトまたはコンポーネントの数を指定します。
メッセージの配信	
ATMOST_ONCE	非永続モード。PeopleSoft コンポーネント・インターフェースは、1 回送信されるかまったく送信されないかのいずれかです。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/PeopleSoft_Specifying_Retry_Parameters_for_PeopleSoft_Activities.html

RightNow SOAP API アクティビティ

- [RightNow SOAP API コネクターの概要](#)
- [RightNow SOAP API エンドポイントの作成および編集](#)
RightNow SOAP API エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが RightNow CRM インスタンスに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。
- [RightNow SOAP API 「オブジェクトの作成」アクティビティの使用](#)
Account、Answer、Contact、Incident、Meta Answer、Opportunity、Organization、Purchased Product、Sales Product、Task などのオブジェクトを RightNow サーバーに作成するには、RightNow SOAP API 「オブジェクトの作成」アクティビティを使用します。
- [RightNow SOAP API 「オブジェクトの取得」アクティビティの使用](#)
Account、Answer、Contact、Incident、Meta Answer、Opportunity、Organization、Purchased Product、Sales Product、Task などのオブジェクトを RightNow サーバーから取得するには、RightNow SOAP API 「オブジェクトの取得」アクティビティを使用します。サブオブジェクトを取得するためには、該当のサブオブジェクトのデフォルト値を取り込む必要があります。
- [RightNow SOAP API 「オブジェクトの更新」アクティビティの使用](#)
Account、Answer、Contact、Incident、Meta Answer、Opportunity、Organization、Purchased

Product、Sales Product、Task などのオブジェクトを RightNow サーバーで更新するには、RightNow SOAP API「オブジェクトの更新」アクティビティーを使用します。

- [RightNow SOAP API「オブジェクトの破棄」アクティビティーの使用](#)

Account、Answer、Contact、Incident、Meta Answer、Opportunity、Organization、Purchased Product、Sales Product、Task などのオブジェクトを RightNow サーバーから削除するには、RightNow SOAP API「オブジェクトの破棄」アクティビティーを使用します。プライマリー・オブジェクトを削除すると、そのプライマリー・オブジェクトに関連するすべての対応サブオブジェクトも削除されます。


- [RightNow SOAP API「オブジェクトの照会」アクティビティーの使用](#)

Account、Address、AnalyticsReport、Answer、Contact、Country、Email、Organization などのオブジェクトを RightNow サーバーから照会するには、RightNow SOAP API「オブジェクトの照会」アクティビティーを使用します。この操作で指定する照会ストリングは、RightNow Object Query Language (ROQL) 標準に準拠している必要があります。サブオブジェクトを取得するためには、該当のサブオブジェクトのデフォルト値を取り込む必要があります。

- [RightNow SOAP API アクティビティーのための再試行パラメーターの指定](#)

再試行パラメーターの指定は、RightNow アクティビティーを構成するために実行する必要がある作業の 1 つです。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_rightnowsoapactivities.html

RightNow SOAP API コネクターの概要

RightNow SOAP API コネクターは、Cast Iron と RightNow サーバーの間の両方向通信を使用可能にします。このコネクターは、RightNow SOAP API を使用します。


RightNow SOAP API コネクターを使用して、以下のアクティビティーを実行できます。

- [オブジェクトの作成](#)
- [オブジェクトの取得](#)
- [オブジェクトの照会](#)
- [オブジェクトの更新](#)
- [オブジェクトの破棄](#)

コネクターがサポートする RightNow のバージョンは、RightNow のサポート・ライフサイクルによって異なります。現在サポートされている RightNow の SOAP API バージョンは、v1_2 です。

親トピック: [RightNow SOAP API アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

RightNow SOAP API エンドポイントの作成および編集

RightNow SOAP API エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが RightNow CRM インスタンスに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。

このタスクについて

RightNow SOAP API エンドポイントを作成または編集するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

注:

RightNow SOAP API エンドポイントに対して行う構成プロパティなどのすべての変更は、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

RightNow SOAP API エンドポイントを作成および編集するには、次のステップを実行します。

手順

- 「アクティビティ」タブの下の「RightNow SOAP API」フォルダーから「オーケストレーション」ウィンドウにアクティビティをドラッグします。「要約」パネルが表示されます。
- 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
- 以下のボタンのいずれかをクリックします。
 - 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。
 - 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
 - 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
- 「エンドポイントの作成」ウィンドウで、次の表に示されたフィールドに入力します。

表 1. 接続の詳細

フィールド名	説明
接続の詳細	
URL	RightNow インスタンスの URL を指定します。
ユーザー名	RightNow インスタンスに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	RightNow インスタンスに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
プロキシ接続の詳細	
プロキシ・ホスト	プロキシ・サーバーのホスト名を指定します。

フィールド名	説明
プロキシ・ポート	プロキシ・サーバーへの接続に必要なポート番号を指定します。
プロキシ・ユーザー名	プロキシ・サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。
プロキシ・パスワード	プロキシ・サーバーへの接続に必要なパスワードを指定します。


- 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、RightNow システムに接続できることを確認します。
- 「OK」をクリックします。

タスクの結果

RightNow SOAP API エンドポイントを作成または編集しました。

親トピック: [RightNow SOAP API アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/RightNowSOAPAPI_creating_an_endpoint_activity.html

RightNow SOAP API 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用

Account、Answer、Contact、Incident、Meta Answer、Opportunity、Organization、Purchased Product、Sales Product、Task などのオブジェクトを RightNow サーバーに作成するには、RightNow SOAP API 「オブジェクトの作成」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

RightNow サーバーにオブジェクトを作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

RightNow SOAP API 「オブジェクトの作成」 アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

- アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて RightNow SOAP API フォルダーのコンテンツを展開します。
- 「オブジェクトの作成」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。RightNow SOAP API オブジェクトの作成「チェックリスト」が表示されます。
- 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
- 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
- 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。


6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する RightNow SOAP API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、[RightNow SOAP API エンドポイントの作成および編集](#)を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」ウィンドウが表示されます。
11. 「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」では、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択できます。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、[RightNow SOAP API アクティビティーのための再試行パラメーターの指定](#)を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの作成」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

RightNow SOAP API 「オブジェクトの作成」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [RightNow SOAP API アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/RightNowSOAPAPI_create_activity.html

RightNow SOAP API 「オブジェクトの取得」 アクティビティーの使用

Account、Answer、Contact、Incident、Meta Answer、Opportunity、Organization、Purchased Product、Sales Product、Task などのオブジェクトを RightNow サーバーから取得するには、RightNow SOAP API 「オブジェクトの取得」 アクティビティーを使用します。サブオブジェクトを取得するためには、該当のサブオブジェクトのデフォルト値を取り込む必要があります。

このタスクについて

RightNow サーバーからオブジェクトを取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

RightNow SOAP API 「オブジェクトの取得」 アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて RightNow SOAP API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。RightNow SOAP API オブジェクトの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する RightNow SOAP API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、[RightNow SOAP API エンドポイントの作成および編集](#)を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」ウィンドウが表示されます。
11. 「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」では、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択できます。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、[RightNow SOAP API アクティビティーのための再試行パラメーターの指定](#)を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの取得」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。

注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。


16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

RightNow SOAP API 「オブジェクトの取得」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [RightNow SOAP API アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/RightNowSOAPAPI_get_activity.html

RightNow SOAP API 「オブジェクトの更新」アクティビティーの使用

Account、Answer、Contact、Incident、Meta Answer、Opportunity、Organization、Purchased Product、Sales Product、Task などのオブジェクトを RightNow サーバーで更新するには、RightNow SOAP API 「オブジェクトの更新」アクティビティーを使用します。

このタスクについて

RightNow サーバー内のオブジェクトを更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

RightNow SOAP API 「オブジェクトの更新」アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて RightNow SOAP API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの更新」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。RightNow SOAP API 「オブジェクトの更新」アクティビティー「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。


6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する RightNow SOAP API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、[RightNow SOAP API エンドポイントの作成および編集](#)を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」ウィンドウが表示されます。
11. 「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」では、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択できます。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、[RightNow SOAP API アクティビティーのための再試行パラメーターの指定](#)を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの更新」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

RightNow SOAP API 「オブジェクトの更新」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [RightNow SOAP API アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/RightNowSOAPAPI_update_activity.html

RightNow SOAP API 「オブジェクトの破棄」 アクティビティーの使用

Account、Answer、Contact、Incident、Meta Answer、Opportunity、Organization、Purchased Product、Sales Product、Task などのオブジェクトを RightNow サーバーから削除するには、RightNow SOAP API 「オブジェクトの破棄」 アクティビティーを使用します。プライマリー・オブジェクトを削除すると、そのプライマリー・オブジェクトに関連するすべての対応サブオブジェクトも削除されます。

このタスクについて

RightNow サーバー内のオブジェクトを削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

RightNow SOAP API 「オブジェクトの破棄」 アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて RightNow SOAP API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの破棄」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。RightNow SOAP API 「オブジェクトの破棄」アクティビティー「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する RightNow SOAP API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、[RightNow SOAP API エンドポイントの作成および編集](#)を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」ウィンドウが表示されます。
11. 「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」では、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択できます。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、[RightNow SOAP API アクティビティーのための再試行パラメーターの指定](#)を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの破棄」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。

注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。


16. 「チェックリスト」から「出力のマッピング」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマッピングを作成します。

タスクの結果

RightNow SOAP API 「オブジェクトの破棄」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [RightNow SOAP API アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/RightNowSOAPAPI_destroy_activity.html

RightNow SOAP API 「オブジェクトの照会」アクティビティーの使用

Account、Address、AnalyticsReport、Answer、Contact、Country、Email、Organization などのオブジェクトを RightNow サーバーから照会するには、RightNow SOAP API 「オブジェクトの照会」アクティビティーを使用します。この操作で指定する照会ストリングは、RightNow Object Query Language (ROQL) 標準に準拠している必要があります。サブオブジェクトを取得するためには、該当のサブオブジェクトのデフォルト値を取り込む必要があります。

このタスクについて

RightNow サーバーからオブジェクトを照会するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

RightNow SOAP API 「オブジェクトの照会」アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて RightNow SOAP API フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの照会」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。RightNow SOAP API 「オブジェクトの照会」アクティビティー「チェックリスト」が表示されます。


3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する RightNow SOAP API エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、[RightNow SOAP API エンドポイントの作成および編集](#)を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」ウィンドウが表示されます。
11. 「RightNow SOAP API の参照 (Browse RightNow SOAP API)」では、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択できます。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、[RightNow SOAP API アクティビティーのための再試行パラメーターの指定](#)を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの照会」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

RightNow SOAP API 「オブジェクトの照会」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [RightNow SOAP API アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

RightNow SOAP API アクティビティーのための再試行パラメーターの指定

再試行パラメーターの指定は、RightNow アクティビティーを構成するために実行する必要がある作業の 1 つです。

このタスクについて

RightNow SOAP API コネクターは、RightNow サーバーに接続してアクティビティーを実行します。接続が失われるかタイムアウトになると、コネクターは、表 1 に示すパラメーターに基づいて自動的に新しい接続を確立します。コネクターは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。コネクターは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクターの標準的な再試行動作と見なします。

「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な RightNow SOAP API アクティビティーのヘルプ・トピックを参照してください。

再試行パラメーターを指定するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「再試行」を選択します。「再試行」パネルが表示されます。
2. RightNow アプリケーションに接続するための再試行オプションを構成します。
次の表で、RightNow アプリケーションに接続するための再試行オプションについて説明します。

表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに __ 秒待機します。	統合アプライアンスが RightNow アプリケーションへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。デフォルトでは、このパラメーターは 30 秒に設定されます。
失敗するまで __ 回の接続を試みます。	統合アプライアンスが RightNow アプリケーションへの接続を確立しようとする場合に、エラーを出して現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止するまでの最大試行回数を指定します。デフォルトでは、このパラメーターは 5 回に設定されています。
アクティビティー・タイムアウト	
エンドポイントが要求に回答しないとき、__ 秒後にタイムアウトになります。	エンドポイントが要求に回答しない場合に、統合アプライアンスがタイムアウトするまでに待機する秒数を指定します。デフォルトは 300 秒です。

タスクの結果

RightNow SOAP API アクティビティーの再試行パラメーターを構成しました。

親トピック: [RightNow SOAP API アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/RightNowSOAPAPI_Specifying_Retry_Parameters_for_Activities.html

Salesforce.com アクティビティ

- [Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)
Salesforce.com エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが Salesforce.com インスタンスに接続するために使用する情報を提供します。
- [Salesforce.com アクティビティの構成](#)
Salesforce.com オブジェクトから、マップするフィールドを選択することは、Salesforce.com アクティビティを構成するために完了する必要があるタスクの 1 つです。「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な Salesforce.com アクティビティのヘルプ・トピックを参照してください。
- [Salesforce.com プロジェクトのマイグレーション](#)
- [Salesforce.com 構成プロパティの設定](#)
構成プロパティに対する変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルなものです。
- [Salesforce.com アクティビティのための「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定](#)
「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定は、Salesforce.com アクティビティを構成するために実行する必要があるタスクの 1 つです。Salesforce.com コネクターは、SSL 経由の HTTP 1.1 持続接続を使用して、Salesforce.com サーバーへのすべての接続を実行します。Salesforce.com コネクターは、gzip 形式を使用して要求と応答のすべてのデータを圧縮します。
- [Salesforce.com Connector のポーリング・プリファレンスの理解および設定](#)
- [「リードの変換」アクティビティ](#)
このアクティビティは、Salesforce.com でリードを顧客、連絡先、または機会に変換する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで変換できるオブジェクトの数が 100 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® Salesforce.com コネクターではそのような制限はありません。「リードの変換」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを変換できます。
- [「パスワードの設定」アクティビティ](#)
このアクティビティを使用して、ユーザーまたは SelfServiceUser のパスワードを指定の値に変更します。
- [「パスワードのリセット」アクティビティ](#)
このアクティビティを使用して、ユーザーのパスワードをシステム生成の値に再設定します。
- [「Eメールの送信」アクティビティ](#)
このアクティビティを使用して、1 つまたは複数の Eメールを送信します。この Eメールには、Eメール・アドレス、件名行、カーボン・コピーなど、標準の Eメール属性がすべて含まれます。
- [「オブジェクトの作成」アクティビティ](#)
このアクティビティは、1 つ以上の Salesforce.com オブジェクトを作成する場合に使用します。「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの作成」アクティビティを見つけます。
- [「オブジェクトの削除」アクティビティ](#)
このアクティビティは、Salesforce.com で 1 つ以上のオブジェクトを削除する場合に使用します。

Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで削除できるオブジェクトの数が 200 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron Salesforce.com コネクタではそのような制限はありません。「オブジェクトの削除」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを削除できます。

- **削除済みオブジェクトの取得**

このアクティビティは、指定されたオブジェクトについて指定された期間内に削除された個々のオブジェクトのリストを取得します。

- **更新済みオブジェクトの取得**

- **「ユーザー情報の取得」アクティビティ**

Salesforce.com サーバーからユーザー情報を取得するには、このアクティビティを使用します。「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「ユーザー情報の取得」アクティビティを見つけます。

- **「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティ**

Salesforce.com サーバーから現在時刻を取得するには、このアクティビティを使用します。「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティを見つけます。

- **「オブジェクトのマージ」アクティビティ**

このアクティビティを使用して、Salesforce.com オブジェクトを単一のレコードにマージします。

- **「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ**

このアクティビティでは、最近削除されたオブジェクトについて Salesforce.com サーバーがポーリングされ、統合アプライアンスに ID が返されます。

- **「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ**

このアクティビティでは、最近作成または更新されたオブジェクトについて Salesforce.com サーバーがポーリングされ、「構成」パネルで選択されたオブジェクト・フィールドがすべて統合アプライアンスに返されます。Studio で、このアクティビティのポーリング間隔を構成します。

- **「オブジェクトの照会」アクティビティ**

このアクティビティから 1 つ以上の Salesforce.com オブジェクト・タイプに対して照会を実行して、結果セットを返すには、Sforce Object Query Language (SOQL) を使用します。「オブジェクトの照会」アクティビティでは、自動的に query 呼び出しまたは queryAll 呼び出しが実行され、その後で Salesforce.com から返されたすべての子およびオブジェクトに対して連続 queryMore 呼び出しが実行されます。

- **「オブジェクトの照会」アクティビティの構成**

「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、SForce Object Search Language (SOSL) 照会を作成する必要があります。以下のセクションでは、「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成、SOSL 照会の作成、および IBM® Cast Iron の SOSL 構文ルールの指定を行う手順について説明します。

- **「オブジェクトの取得」アクティビティ**

このアクティビティは、指定のタイプの Salesforce.com オブジェクトを 1 つ以上取得する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで取得できるオブジェクトの数が 2,000 個に制限されていますが、Cast Iron Salesforce.com コネクタではそのような制限はありません。「オブジェクトの取得」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを取得できます。

- **「オブジェクト内の検索」アクティビティ**

- **「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティ**

- **「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成**

「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、SForce Object Search Language (SOSL) 照会を作成する必要があります。

- **「オブジェクトの更新」アクティビティ**

このアクティビティは、Salesforce.com で既存のオブジェクトを更新する場合に使用します。

- **「オブジェクトのアップサート」アクティビティ**

このアクティビティは、Salesforce.com で既存のオブジェクトを更新したり新規オブジェクトを作成したりする場合に使用します。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_salesforceactivities.html

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集

Salesforce.com エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが Salesforce.com インスタンスに接続するために使用する情報を提供します。

このタスクについて

編集はグローバルでありローカルではないので、構成プロパティーを含め、エンドポイントに対して行うすべての変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

手順

1. 「アクティビティー」タブの「Salesforce.com」フォルダーからオーケストレーションへアクティビティーをドラッグします。

「要約」パネルにチェックリストが示され、アクティビティーを構成するために実行しなければならないタスクがリストされます。
2. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」タスクをクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが開きます。
3. 以下のオプションのいずれかをクリックします。
 - 参照...: 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。エンドポイントのプロパティーを編集するには、「編集」をクリックします。ステップ 5 に進みます。
 - 新規作成: 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。ステップ 5 に進みます。
 - 編集: 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。ステップ 5 に進みます。

注: 編集はグローバルでありローカルではないので、エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。
4. エンドポイント・ウィンドウで、Salesforce.com インスタンスにアクセスするためのユーザー名とパスワードを指定します。
 - a. ユーザー名を入力するか、または「ユーザー名」フィールドの右側のアイコンをクリックして、sfdc_login 構成プロパティーを選択します。
 - b. パスワードを入力するか、または「パスワード」フィールドの右側のアイコンをクリックして、sfdc_password 構成プロパティーを選択します。
5. ログイン・オプションを選択します。

ログイン・オプション	説明
通常ログイン	デフォルトでは、「ログイン」が選択されています。実行時に、統合アプライアンスは Salesforce.com の実動インスタンスにアクセスします。
Salesforce.com Sandbox にログイン	実行時に、統合アプライアンスは実動システムのコピーにアクセスします。Sandbox では実動データに影響を与えずにテストを実行できます。
指定のパートナー WSDL ログイン URL にログイン	実行時に、統合アプライアンスは「ログイン URL」フィールドに指定した URL にアクセスします。
ログイン URL	「指定のパートナー WSDL ログイン URL にログイン」オプションを選択した場合にのみ必須です。

- 「接続タイムアウト」パラメーターを指定します。デフォルトでは、300 秒後に Salesforce.com エンドポイントに接続できていない場合、統合アプライアンスはタイムアウトになります。
- プロキシ・サーバーを介して接続する場合は、次の表に示されたフィールドに入力します。

オプション	説明
フィールド名	説明
プロキシ・サーバーを介した接続	プロキシ・サーバーを介して接続するには、このチェック・ボックスを選択してこれらのフィールドを使用可能にします。
認証	統合アプライアンスがプロキシ・サーバーへの接続時に使用する認証のタイプを選択できます。以下のいずれかの認証オプションをリストから選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> 基本 (Basic) - 指定したユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーへ送信します。これは、最も保護レベルの低い認証スキームです。 NTLM - サーバーのドメイン・ネームで NTCredentials のインスタンスを使用可能にすることを要求します。この認証は、最も保護レベルの高い認証オプションです。NTLM 認証オプションを選択した場合、統合アプライアンスは、要求ではなく接続を認証します。そのため、統合アプライアンスは、新しい接続が確立されるたびに認証を行います。認証プロセス中は、接続を開いたままにしておく必要があります。NTLM を使用して、プロキシとサーバーの両方で認証を行うことはできません。
レルム/ドメイン	認証オプションとして「Basic」を選択した場合は、レルムを指定してください。認証オプションとして「NTLM」を選択した場合は、ドメインを指定してください。
ホスト名	プロキシ・サーバーのホスト名を指定します。
ポート	プロキシ・サーバーへの接続に必要なポート番号を指定します。


オプション	説明
ユーザー名	プロキシ・サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。
パスワード	プロキシ・サーバーへの接続に必要なパスワードを指定します。

8. 「接続のテスト」をクリックして、指定したパラメーターによってプロジェクトが Salesforce.com インスタンスにアクセスできることを確認します。

注: Salesforce.com エンドポイントが構成プロパティを使用するように構成する場合、構成プロパティの値が有効であることを確認してください。構成プロパティの値が無効であるか、存在しない場合、接続テストは失敗します。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Creating_or_Editing_a_Salesforce.html

Salesforce.com アクティビティの構成

Salesforce.com オブジェクトから、マップするフィールドを選択することは、Salesforce.com アクティビティを構成するために完了する必要があるタスクの1つです。「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な Salesforce.com アクティビティのヘルプ・トピックを参照してください。

このタスクについて

エンドポイントの一部のフィールドには、これらのフィールドの値を提供するために、[構成プロパティ](#)を作成できます。構成プロパティをサポートするフィールドをクリックしたときに、同じタイプの構成プロパティがプロジェクトで既に構成されている場合は、アイコンが表示されます。

手順

1. 「チェックリスト」で「構成」を選択します。「構成」パネルが開きます。
2. 「参照...」をクリックして、Salesforce.com オブジェクト・タイプを選択します。「Salesforce.com オブジェクトの選択」ウィンドウには、Studio アクティビティと関連付けられているすべての Salesforce.com オブジェクトが表示されます。
3. リストからオブジェクト・タイプ・リストを選択します。
注: カスタム・オブジェクト・タイプの末尾には、二重下線 c(__c) が付きます。例えば、CustomerPriority__c となります。

「オブジェクト・タイプの検索」フィールドに文字またはストリングを入力すると、Studio はオブジェクト・タイプをフィルタリングし、フィルター基準に一致するオブジェクト・タイプのみを表示します。(オプション) リフレッシュ・アイコンをクリックすると、最新の Salesforce.com オブジェクト・タイプが取得されます。

4. 「OK」をクリックします。

選択したオブジェクト・タイプに関連するすべてのフィールドが表示されます。


5. 「オブジェクト・フィールド設定」セクションで、マップするフィールドを選択します。

デフォルトでは、すべてのフィールドが選択されています。マップに表示したくないフィールドはどれでも選択して消去できます。グローバル・チェック・ボックスにより、すべてのフィールドを一度に選択して消去できます。

注: 「Id」フィールドは、多くのアクティビティに必須です。それらのアクティビティの場合には、「ID」フィールドは使用不可になっており、そのフィールドを消去することはできません。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Configuring_SalesforceCom_Activities.html

Salesforce.com プロジェクトのマイグレーション

このタスクについて


Studio バージョン 3.6.2 では、Salesforce.com Connector バージョン 3.0 が組み込まれているため、以前のバージョンで必要とされた追加のインストールは不要です。

Salesforce.com Connector のバージョン	Studio のバージョン	インストール・タイプ
3.0X	3.6.2 以上	組み込み (追加インストールなし)
2.0X	3.5 以上	アドオン (別個のインストール)
1.0X	3.5 以上	アドオン (別個のインストール)

Studio は、Salesforce.com コネクタ・バージョン 1.x または Salesforce.com コネクタ・バージョン 2.x が含まれているプロジェクトを自動的にマイグレーションしません。ただし、最新バージョンの Studio では、アドオン・バージョンのコネクタを使用するオーケストレーションが含まれているプロジェクトを手動でマイグレーションすることはできます。そのため、組み込みバージョンとアドオン・バージョンの両方の Salesforce.com コネクタを同じオーケストレーションで使用できます。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Migrating_Salesforce.html

Salesforce.com 構成プロパティの設定


構成プロパティに対する変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルなものです。

手順

1. 「プロジェクト」 > 「構成プロパティ」を選択します。「構成プロパティ」ウィンドウが開きます。
2. sfdc_password プロパティの「値」フィールドをクリックし、有効なパスワードを入力します。
3. sfdc_login プロパティの「値」フィールドをクリックし、有効な Salesforce.com ログインを入力します。
4. 「OK」をクリックします。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Setting_Salesforce.html

Salesforce.com アクティビティのための「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定

「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定は、Salesforce.com アクティビティを構成するために実行する必要があるタスクの1つです。Salesforce.com コネクターは、SSL 経由の HTTP 1.1 持続接続を使用して、Salesforce.com サーバーへのすべての接続を実行します。Salesforce.com コネクターは、gzip 形式を使用して要求と応答のすべてのデータを圧縮します。

このタスクについて

Salesforce.com コネクターでは、Salesforce.com エンドポイントへのすべての接続について単一のログイン・セッションを使用します。セッションの有効期限が切れると、コネクターは自動的に新規セッションを確立し

ます。Salesforce.com コネクターでは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。Salesforce.com コネクターは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクターの標準的な再試行動作と見なします。

「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な Salesforce.com アクティビティのヘルプ・トピックを参照してください。

手順

1. 「チェックリスト」で、「再試行」を選択します。「再試行」パネルが開きます。
2. Salesforce.com インスタンスに接続するための再試行オプションを構成します。

以下の表で、Salesforce.com インスタンスに接続するための再試行オプションについて説明します。

再試行フィールド	説明
再試行ごとに __ 秒待機します。	統合アプライアンスが Salesforce.com インスタンスへの接続を確立しようとするまでの待機秒数を指定します。 デフォルトでは、このパラメーターは 30 秒に設定されています。
失敗するまで __ 回の接続を試みます。	統合アプライアンスがエラーを出して現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止するまでに、Salesforce.com インスタンスへの接続の確立を試行する最大の回数を指定します。 デフォルトでは、このパラメーターは 5 回に設定されています。
「アクティビティ・タイムアウト」のフィールド	説明
エンドポイントが要求に 응답しないとき、__ 秒後にタイムアウトになります。	アクティビティがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答するまでに要する時間のうち、タイムアウトが発生するまでの秒数を指定します。 デフォルトでは、このパラメーターは 300 秒に設定されています。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Specifying_the_Retry_and_Time_Out_Parameters_for_Salesforce.html

Salesforce.com Connector のポーリング・プリファレンスの理解 および設定

このタスクについて

Salesforce.com コネクタには、変更について Salesforce.com サーバーをポーリングする 2 つのアクティビティが含まれています。

- 「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ
- 「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ

これらのアクティビティの開始動作を以下に示します。

- デプロイされたことがないオーケストレーションに関しては、アクティビティが初めてアクティブにされたときにベースライン・タイム・スタンプが設定されます。ポーリング間隔の経過後に変更についてポーリングするために開始時刻としてベースライン・タイム・スタンプがアクティビティで使用されます。ポーリングが完了すると、アクティビティによって最終ポーリング時刻が保管されます。
- 以前にデプロイされたオーケストレーションに関しては、ポーリング間隔の経過後に変更についてポーリングするために最終ポーリング時刻および現在時刻がアクティビティで使用されます。
- Salesforce.com では、各ポーリング間に少なくとも 60 秒が必要となります。経過した時間が 60 秒未満であると、アクティビティでは、次のポーリング間隔が経過するまでは現在のポーリング間隔が無視されます。

手順

1. 「チェックリスト」で、「ポーリング」を選択します。


「ポーリング設定」パネルが開きます。

2. 以下のパラメーターに対してポーリング・プリファレンスを設定します。

ポーリング・プリファレンス	説明
変更のポーリング頻度: <i> <i> はポーリング間隔です。この間隔は、分数、時間数、または日数で指定できます。	前回のポーリング以降に作成または更新されたオブジェクトについて、統合アプライアンスが Salesforce.com サーバーをポーリングするポーリング間隔を指定します。 デフォルトでは、統合アプライアンスは、5 分ごとに Salesforce.com サーバーをポーリングします。
オーケストレーションごとに最大で <n> 個のオブジェクトをまとめる <n> は、バッチに含まれるオブジェクトの数です。	ポーリング間隔におけるオーケストレーション・ジョブあたりのオブジェクト・レコードの最大数を指定します。デフォルトでは、統合アプライアンスは、オーケストレーション・ジョブごとに 1 個のレコードを処理します。統合アプライアンスのパフォーマンスを調整するには、このプリファレンスを使用します。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

「リードの変換」 アクティビティ

このアクティビティは、Salesforce.com でリードを顧客、連絡先、または機会に変換する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで変換できるオブジェクトの数が 100 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® Salesforce.com コネクタではそのような制限はありません。「リードの変換」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを変換できます。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「リードの変換」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。


Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『Salesforce.com エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

4. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
5. このアクティビティの入力をマップします。
6. このアクティビティの出力をマップします。

- 「リードの変換」アクティビティの入力をマップする
- 「リードの変換」アクティビティの出力をマップする

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Convert_Lead_Activity.html

「リードの変換」 アクティビティの入力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティーへ」ペインに convertLead エlementが表示されます。表示されるパラメーターは、Salesforce.com convertLead オペレーションへの入力の構造に対応しています。

2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「リードの変換」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Convert_Lead_Activity_Mapinput.html

「リードの変換」アクティビティーの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに convertLeadResponse Elementが表示されます。表示されるパラメーターは、convertLead オペレーションによって返される convertLeadResponse 構造に対応しています。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「リードの変換」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

「パスワードの設定」 アクティビティ

このアクティビティを使用して、ユーザーまたは SelfServiceUser のパスワードを指定の値に変更します。

注: ユーザーのパスワードを変更するには管理アクセス権が必要です。

「パスワードの設定」 アクティビティを使用するには、以下のようにします。

1. 「アクティビティ」 タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「パスワードの設定」アクティビティを見つけます。
2. 「パスワードの設定」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。

アクティビティの「要約」と「チェックリスト」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 「構成」セクションで、このアクティビティに必要な追加の構成はありません。

4. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「アクティビティ・タイムアウト」パラメーターを指定します。
5. このアクティビティの入力をマップします。
6. このアクティビティの出力をマップします。

「パスワードの設定」 アクティビティの入力をマップするには、以下のようにします。

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

userId パラメーターと password パラメーターが「アクティビティへ」ペインに表示されます。

2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティの以下のオプションの入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「パスワードの設定」 アクティビティの出力をマップするには、以下のようにします。

1. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」を選択します。
「アクティビティから」ペインに sessionInfo エlementが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マッピングの出力変数を選択します。
変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマッピングします。
マッピングの説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/sfdc_set_password_activity.html

「パスワードのリセット」アクティビティ

このアクティビティを使用して、ユーザーのパスワードをシステム生成の値に再設定します。

注: ユーザーのパスワードを再設定するには管理アクセス権が必要です。

「パスワードのリセット」アクティビティを使用するには、以下のようにします。

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「パスワードのリセット」アクティビティを見つけます。
2. 「パスワードのリセット」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。

アクティビティの「要約」と「チェックリスト」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 「構成」セクションで、このアクティビティに必要な追加の構成はありません。

4. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「アクティビティ・タイムアウト」パラメーターを指定します。
5. このアクティビティの入力をマッピングします。
6. このアクティビティの出力をマッピングします。

「パスワードのリセット」アクティビティの入力をマッピングするには、以下のようにします。

1. 「チェックリスト」で「入力のマッピング」を選択します。

userId パラメーターが「アクティビティーへ」ペインに表示されます。

2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーの以下のオプションの入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - EmailHeader
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「パスワードのリセット」アクティビティーの出力をマップするには、以下のようにします。

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

password エlementと sessionInfo エlementが「アクティビティーから」ペインに表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/sfdc_reset_password_activity.html

「Eメールの送信」アクティビティー

このアクティビティーを使用して、1つまたは複数のEメールを送信します。このEメールには、Eメール・アドレス、件名行、カーボン・コピーなど、標準のEメール属性がすべて含まれます。

「Eメールの送信」アクティビティーを使用するには、以下のようにします。

1. 「アクティビティー」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「Eメールの送信」アクティビティーを見つけます。
2. 「Eメールの送信」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。

アクティビティの「要約」と「チェックリスト」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. 複数の E メールを送信する場合は、「構成」セクションで「E メールの一括送信」チェック・ボックスを選択します。
5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「アクティビティ・タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティの入力をマップします。
7. このアクティビティの出力をマップします。

「Eメールの送信」アクティビティの入力をマップするには、以下のようになります。

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

emails パラメーターが「アクティビティへ」ペインに表示されます。

2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティの以下のオプションの入力パラメーターを表示します。
 - connection
 - sessionInfo

3. 「入力の選択…」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「Eメールの送信」アクティビティの出力をマップするには、以下のようになります。

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

results エlementと sessionInfo エlementが「アクティビティから」ペインに表示されます。

2. 「出力の選択…」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/sfdc_send_email_activity.html

「オブジェクトの作成」 アクティビティ

このアクティビティは、1つ以上の Salesforce.com オブジェクトを作成する場合に使用します。「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの作成」アクティビティを見つけます。

手順

1. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

2. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

3. Salesforce.com オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。
4. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
5. このアクティビティの入力をマップします。
6. このアクティビティの出力をマップします。

- [「オブジェクトの作成」アクティビティの入力をマップする](#)
- [「オブジェクトの作成」アクティビティの出力をマップする](#)

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Create_Objects_Activity.html

「オブジェクトの作成」 アクティビティの入力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティーへ」パネルに Objects エlementが表示されます。表示されるパラメーターは、Salesforce.com オブジェクト・オペレーションへの入力の構造に対応しています。

2. (オプション) デフォルト・ノードを 右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - AssignmentRuleHeader
 - MruHeader
 - EmailHeader
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。


オプション・フィールド・Elementとヌル可能フィールド・Elementの動作は以下のとおりです。

- Salesforce.com サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで xsi:nil 属性を true に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。

注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

親トピック: [「オブジェクトの作成」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Create_Objects_Activity_Mapinput.html

「オブジェクトの作成」アクティビティーの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに saveResults Elementが表示されます。表示されるパラメーターは、「作成」アクティビティーで返される saveResults 構造に対応しています。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「オブジェクトの作成」 アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Create_Objects_Activity_Mapoutput.html

「オブジェクトの削除」 アクティビティ

このアクティビティは、Salesforce.com で 1 つ以上のオブジェクトを削除する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで削除できるオブジェクトの数が 200 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® Salesforce.com コネクタではそのような制限はありません。「オブジェクトの削除」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを削除できます。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの削除」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。


Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
5. このアクティビティの入力をマップします。
6. このアクティビティの出力をマップします。

- [「オブジェクトの削除」アクティビティの入力をマップする](#)
- [「オブジェクトの削除」アクティビティの出力をマップする](#)

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Delete_Objects_Activity.html


「オブジェクトの削除」 アクティビティーの入力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。
「アクティビティーへ」パネルに Ids エlementが表示されます。
2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - UserTerritoryDeleteHeader
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。
変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。
マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「オブジェクトの削除」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Delete_Objects_Activity_Mapinput.html

「オブジェクトの削除」 アクティビティーの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。
「アクティビティーから」パネルに deleteResults Elementが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。
変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。
マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「オブジェクトの削除」アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Delete_Objects_Activity_Mapoutput.html

削除済みオブジェクトの取得

このアクティビティーは、指定されたオブジェクトについて指定された期間内に削除された個々のオブジェクトのリストを取得します。

手順

1. 「アクティビティー」 タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「削除されたオブジェクトの取得」アクティビティーを見つけます。
2. アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。


3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
5. このアクティビティーの入力をマップします。
6. このアクティビティーの出力をマップします。

- 「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティーの入力をマップする
- 「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティーの出力をマップする

親トピック: [Salesforce.com アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Deleted_Objects.html

「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティーの入力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティーへ」パネルに startDateTime エlementが表示されます。

2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - endDateTime
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [削除済みオブジェクトの取得](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Deleted_Objects_Activity_Mapinut.html

「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティーの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに deleteResults Elementが表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [削除済みオブジェクトの取得](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Deleted_Objects_Activity_Mapout.put.html

更新済みオブジェクトの取得

手順

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. Salesforce.com オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。

統合アプライアンスが更新可能なオブジェクト・タイプおよびフィールドのみを選択できます。入力マップには、この構成ステップで選択するフィールドに対応するエレメントを持つオブジェクト・タイプが含まれています。

注: 統合アプライアンスは自動番号付けフィールドを作成できません。

5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティの入力をマップします。

入力マップは、オブジェクトの入力パラメーターから構成されます。このパラメーターは、1つの反復エレメントを持つ1つのルート・エレメントからなります。選択したオブジェクト・タイプの後に指定され、「オブジェクト・フィールド設定」テーブルで選択したすべてのフィールドが含まれます。

7. このアクティビティの出力をマップします。

- 「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティの入力をマップする
- 「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティの出力をマップする

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Updated_Objects.html

「更新済みオブジェクトの取得」 アクティビティの入力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で「入力マップ」を選択します。

「アクティビティへ」パネルに startDateTime エlementが表示されます。

2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - endDateTime
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。


オプション・フィールド・Elementとヌル可能フィールド・Elementの動作は以下のとおりです。

- Salesforce.com サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで xsi:nil 属性を true に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。

注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

親トピック: [更新済みオブジェクトの取得](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Updated_Objects_Activity_Mapinp ut.html

「更新済みオブジェクトの取得」 アクティビティの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに saveResults エlementが表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [更新済みオブジェクトの取得](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Updated_Objects_Activity_Mapout.put.html

「ユーザー情報の取得」アクティビティー

Salesforce.com サーバーからユーザー情報を取得するには、このアクティビティーを使用します。「アクティビティー」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「ユーザー情報の取得」アクティビティーを見つけます。

手順

1. アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

2. Salesforce.com エンドポイントを選択します。


Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

3. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
4. このアクティビティーの出力をマップします。

- [「ユーザー情報の取得」アクティビティーの出力をマップする](#)

親トピック: [Salesforce.com アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「ユーザー情報の取得」 アクティビティの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

GetUserInfoResult エレメントには Salesforce.com ユーザー情報が含まれ、この情報は「アクティビティから」パネルで開きます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「ユーザー情報の取得」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_User_Info_Activity_Mapoutput.html

「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティ

Salesforce.com サーバーから現在時刻を取得するには、このアクティビティを使用します。「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティを見つけます。

手順

1. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

2. Salesforce.com エンドポイントを選択します。


Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

3. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
4. このアクティビティの出力をマップします。

- 「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティの出力をマップする

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Server_Timestamp_Activity.html

「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

serverTimestamp エlementには Salesforce.com ユーザー情報が含まれ、この情報は「アクティビティから」パネルで開きます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: 「[サーバー・タイム・スタンプの取得](#)」アクティビティ

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Server_Timestamp_Activity_Map_output.html

「オブジェクトのマージ」アクティビティ

このアクティビティを使用して、Salesforce.com オブジェクトを単一のレコードにマージします。

このタスクについて

以下の複数の Salesforce.com オブジェクトを単一のレコードにマージできます。

- 顧客 (Account)
- 連絡先 (Contact)
- リード (Leads)

このアクティビティーでは、オブジェクトのマージ後、事前マージ・レコードが削除され、重複するすべての親が再設定されます。

Salesforce.com API では、1 回の呼び出しでマージできる要求の数が 200 に制限されていますが、Cast Iron® Salesforce.com コネクタではそのような制限はありません。「オブジェクトのマージ」アクティビティーを使用すれば、無制限の数のマージ要求を処理できます。

手順

1. 「アクティビティー」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトのマージ」アクティビティーを見つけます。
2. アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. Salesforce.com オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティーを構成します。


統合アプライアンスが更新できる「顧客 (Account)」、「連絡先 (Contact)」、および「リード (Lead)」オブジェクト・タイプおよびフィールドのみを選択できます。自動番号フィールドなどのフィールドは選択できないことがあります。

5. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティーの入力をマップします。
7. このアクティビティーの出力をマップします。

- [「オブジェクトのマージ」アクティビティーの入力をマップする](#)
- [「オブジェクトのマージ」アクティビティーの出力をマップする](#)

親トピック: [Salesforce.com アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Merge_Objects_Activity.html

「オブジェクトのマージ」アクティビティーの入力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティーへ」パネルに Merge エlementが表示されます。

2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーの以下のオプションの入力パラメーターを表示します。
 - AssignmentRuleHeader
 - MruHeader
 - EmailHeader
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

オプション・フィールド・Elementとヌル可能フィールド・Elementの動作は以下のとおりです。

- Salesforce.com サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで xsi:nil 属性を true に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。
注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

親トピック: [「オブジェクトのマージ」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Merge_Objects_Activity_Mapinput.html

「オブジェクトのマージ」アクティビティーの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに 結果 Elementが表示されます。表示されるパラメーターは、Salesforce.com MergeResults スキーマの構造に対応しています。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

- 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [「オブジェクトのマージ」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Merge_Objects_Activity_Mapoutput.html

「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ

このアクティビティでは、最近削除されたオブジェクトについて Salesforce.com サーバーがポーリングされ、統合アプライアンスに ID が返されます。

手順

- 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティを見つけます。
- アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

- Salesforce.com エンドポイントを選択します。


Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- Salesforce.com オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。
- このアクティビティのポーリング・プリファレンスを指定します。
- このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
- このアクティビティの出力をマップします。

- [「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティの出力をマップする](#)

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。
「アクティビティから」パネルに objects エlementが表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。
変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。


3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。
マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

出力マップは、以下の動作を伴うヌル可能フィールド・Elementを持つことができます。

- 取得されるフィールドがヌルの場合、統合アプライアンスは結果において xsi:nil 属性を true に設定します。
- 入力 ID が無効である場合、または指定のオブジェクト・タイプを表していない場合、統合アプライアンスは、オブジェクト・Element全体で、結果セットにおけるそのElementの位置に関して xsi:nil を true に設定します。

親トピック: [「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Poll_Deleted_Objects_Activity_Mapout.put.html

「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ

このアクティビティでは、最近作成または更新されたオブジェクトについて Salesforce.com サーバーがポーリングされ、「構成」パネルで選択されたオブジェクト・フィールドがすべて統合アプライアンスに返されます。Studio で、このアクティビティのポーリング間隔を構成します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティを見つけます。

2. アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。


Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. Salesforce.com オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティーを構成します。
5. このアクティビティーのポーリング・プリファレンスを指定します。
6. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
7. このアクティビティーの出力をマップします。

- [「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティーの出力をマップする](#)

親トピック: [Salesforce.com アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Poll_Updated_Objects_Activity.html

「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティーの出力をマップする

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに objects エLEMENTが表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

出力マップは、以下の動作を伴うヌル可能フィールド・ELEMENTを持つことができます。

- 取得されるフィールドがヌルの場合、統合アプライアンスは結果において xsi:nil 属性を true に設定します。

親トピック: [「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティー](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Poll_Updated_Objects_Activity_Mapout.put.html

「オブジェクトの照会」 アクティビティー

このアクティビティーから 1 つ以上の Salesforce.com オブジェクト・タイプに対して照会を実行して、結果セットを返すには、Sforce Object Query Language (SOQL) を使用します。「オブジェクトの照会」アクティビティーでは、自動的に query 呼び出しまたは queryAll 呼び出しが実行され、その後で Salesforce.com から返されたすべての子およびオブジェクトに対して連続 queryMore 呼び出しが実行されます。

注: 「オブジェクトの照会」アクティビティーを実行すると、照会結果を追跡するために Salesforce.com によってカーソルが開かれることがあります。このアクティビティーが、Salesforce.com で各ユーザーに割り当てられたカーソル制限に達するか、またはカーソルの有効期限が過ぎると、統合アプライアンスはこのアクティビティーを再試行します。

「オブジェクトの照会」アクティビティーの使用

1. 「アクティビティー」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの照会」アクティビティーを見つけます。
2. アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. 照会を指定して照会オプションを設定することで、このアクティビティーを構成します。
5. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティーの入力をマップします。
7. このアクティビティーの出力をマップします。

「オブジェクトの照会」アクティビティーの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティーへ」パネルに parameters エLEMENTが表示されます。このパラメーター・ELEMENTは、SOQL 照会で指定されたパラメーターごとに子ELEMENTを持ちます。照会におけるパラメーターのコンテキストによって、パラメーター・タイプが決まります。パラメーターを指定しなかった場合、parameters ELEMENTの下に子ELEMENTは表示されません。

2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - MruHeader
 - CallOptions

- connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。
変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
 4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。
マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「オブジェクトの照会」アクティビティの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティから」パネルに objects エLEMENTが表示されます。結果のパラメーターには、照会の駆動オブジェクトから命名された単一反復ELEMENTを持つ単一ELEMENT objects があります。この駆動オブジェクトは、照会の FROM 文節で指定される最初のオブジェクトです。例えば、SOQL ステートメント

Select Name from Account, Account.Contactsでは、Account が駆動オブジェクトです。

駆動オブジェクトには、照会の SELECT 文節にリストされているフィールドまたは関係に対応する子ELEMENTがあります。スキーマは以下のように定義されます。

- フィールドに関して、フィールド・タイプはフィールドの SOAP タイプと一致します。SOAP タイプがヌル可能な場合は、フィールド・タイプはヌル可能です。
 - 親ELEMENTの関係の場合、ELEMENT名は親の名前です。アクティビティで照会が実行されたときに親が存在しない場合、ELEMENTはありません。親のフィールドまたは関係は、関係ELEMENTの直下に表示されます。
 - 子ELEMENTの関係の場合、ELEMENT名は子の名前です。関係ELEMENTには、子オブジェクトのオブジェクト・タイプから命名された単一反復ELEMENTがあります。子のフィールドおよび関係は、オブジェクト・タイプ・ELEMENTの下に表示されます。アクティビティで照会が実行されたときに子が存在しない場合、ELEMENTはありません。
 - フィールドも関係も選択せず、代わりに SELECT 文節で count() を要求した場合は、オブジェクト・タイプ・ELEMENT全体が、タイプ unsignedInt のELEMENT count で置き換えられます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。
変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
 3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。
マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「オブジェクトの照会」 アクティビティの構成




「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、SForce Object Search Language (SOSL) 照会を作成する必要があります。以下のセクションでは、「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成、SOSL 照会の作成、および IBM® Cast Iron® の SOSL 構文ルールの指定を行う手順について説明します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「構成」を選択します。

「照会の指定」ウィンドウが開きます。

2. 「照会の指定」ウィンドウで SOSL 照会を作成します。
3. (オプション) SOSL ステートメントの検索文節で動的パラメーターを指定できます。その後、そのパラメーターをこのアクティビティの入力パラメーターとして動的にマップできます。これにより、このアクティビティでオーケストレーションへの入力に基づいて照会を動的に制御できます。(\$) ドル記号でパラメーターを示し、その後パラメーター名を付けます。

4. 「妥当性検査」アイコン  をクリックして、照会を妥当性検査します。
照会が無効な場合は、「妥当性検査フィードバック (Validation Feedback)」アイコン  が、「照会の指定」ウィンドウの左下隅に表示されます。無効な照会の場合、以下のようにします。
 - a. 「照会の指定」ウィンドウの左下隅にある「妥当性検査フィードバック (Validation Feedback)」アイコンをクリックして、妥当性検査エラーのリストを表示します。
 - b. 「最新表示」アイコン  を使用してメタデータを最新表示し、SOSL ステートメントを再度妥当性検査します。

5. 「チェックリスト」で、「照会」を選択して特定の照会オプションを構成します。

「照会オプション (Query Option)」ペインが開きます。

6. 「削除された項目を照会に組み込む (queryAll 操作の実行)」を選択して、既存の記録だけでなく、削除された記録についても照会します。このオプションが選択されない場合、統合アプライアンスは既存の記録のみを照会します。
7. 統合アプライアンスのパフォーマンス調整に役立つように、照会バッチ・サイズを 200 個から 2,000 個までの照会の範囲で指定します。

このオプションは、すべての照会呼び出しの QueryOptions SOAP ヘッダーで使用されるバッチ・サイズを決定します。アクティビティで返される結果数に影響はありません。デフォルトでは、このオプションは 500 個の照会に設定されます。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

SOSL 照会の作成

SOQL 照会の作成時に、SOQL ステートメントの WHERE 文節で動的パラメーターを使用できます。その場合、Studio は、このパラメーターをアクティビティの入力パラメーターとして動的にマップできます。これにより、オーケストレーションへの入力に基づいて照会を動的に制御できます。

このタスクについて

SForce Object Query Language では、パラメーター化された照会に対して構文は定義されません。ただし、Cast Iron では、いくつかの独自の SOQL 構文ルールが適用されます。パラメーターは、単純式でもセット式でも使用できます。

Cast Iron の SOSL 構文規則

- (\$) ドル記号でパラメーターを示します。(\$) ドル記号の後に、英数字のストリングを指定します。先頭文字は、文字 [a から z および A から Z] でなければなりません。その後は、1 つ以上の文字 [a から z および A から Z]、数字 [0 から 9]、または (_) 下線を任意に指定します。

注: パラメーター名では大/小文字の区別があるため、パラメーター \$a とパラメーター \$A は、異なるパラメーターであるとみなされます。

以下の表に、有効なパラメーター宣言と無効なパラメーター宣言の例を示します。

パラメーター	有効または無効
\$AnAccount	有効
\$a123_456	有効
\$123a	無効
\$_id	無効

- WHERE 文節では式の右側にパラメーターを宣言する必要があります。
- パラメーターは、指定の SOQL ステートメントで複数回使用できます。ただし、パラメーターが SOQL ステートメントで複数回使用される場合でも、入力パラメーター・マップでのパラメーターの使用は 1 回のみです。このアクティビティーによって、当該パラメーターが実行時に使用されるすべてのロケーションに対して同じ値が代入されます。

注: 同じパラメーター名を使用する場合に、型が一致しないと、エラーが発生します。例えば、以下の SOQL では、\$param がストリング型と日付型の両方の型として使用されているためエラーが発生します。


```
SELECT Name from Account where Name like $param and createdDate > $param
```

- パラメーターが比較されているフィールドのタイプによって、パラメーターのタイプが決定され、さらには、パラメーターが単純式で使用されているのか、セット式で使用されているのか、セット式の一部で使用されているのかが決まります。

式のタイプ	説明
単純式	<p>例: Select ID from Account where Name = \$NameParam</p> <p>式の左側にあるフィールドの SoapType によって、パラメーター・タイプが決定されます。フィールド・タイプがヌル可能であり、演算子が (=) または (!=) である場合は、パラメーターはヌル可能です。このパラメーターで xsi:nil=true と設定すると、このパラメーター値は代入時にヌルに設定されます。このパラメーターのタイプではパラメーターを () 単一引用符で囲まなければならない場合は、このパラメーターの値は代入時に単一引用符で囲まれ、その内容は自動的にエスケープされます。</p> <p>SOQL の場合、(¥) 円記号および (') 単一引用符はエスケープされます。</p>
セツ	<p>例: Select ID From Account where ID in \$idList</p>

ト式	<p>このパラメーターのタイプは、式の左側にあるフィールドの SoapType の反復シーケンスです。このパラメーターはヌル可能ではなく、エレメント上に minOccurs=1、maxOccurs=unbounded があります。</p> <p>シーケンスは、正しいセット値になるように実行時に拡張されます。例えば、次のようになります。</p> <p>Select Id From Account where Id in ('value1','value2')</p>
セット式の一部	<p>セット・リスト内のパラメーターは、単純式のパラメーター・タイプのように扱われます。次の例を参照してください。SELECT Name from Account where BillingState IN ('California', \$state2)</p> <p>この例では、\$state2 パラメーター・タイプは Account BillingState フィールドの SoapType であり、反復エレメントではありません。このパラメーターはヌル可能ではありません。</p>

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Configuring_the_Query_Objects_Activity.html

「オブジェクトの取得」アクティビティー

このアクティビティーは、指定のタイプの Salesforce.com オブジェクトを 1 つ以上取得する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで取得できるオブジェクトの数が 2,000 個に制限されていますが、Cast Iron® Salesforce.com コネクターではそのような制限はありません。「オブジェクトの取得」アクティビティーを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを取得できます。

「オブジェクトの取得」アクティビティーの使用

1. 「アクティビティー」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの取得」アクティビティーを見つけます。
2. アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. Salesforce.com オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティーを構成します。

統合アプライアンスが Salesforce.com API から取得できるオブジェクト・タイプのみが表示されます。

5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティの入力をマップします。
7. このアクティビティの出力をマップします。

「オブジェクトの取得」アクティビティの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティへ」ペインに ids エlementが表示されます。このElementには、統合アプライアンスが Salesforce.com から取得する ID のコレクションが含まれています。

2. (オプション) デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - MruHeaderUser
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

オプション・フィールド・Elementとヌル可能フィールド・Elementの動作は以下のとおりです。

- 取得されるフィールドがヌルの場合、統合アプライアンスは結果において xsi:nil 属性を true に設定します。
- 入力 ID が無効であったり、入力 ID が指定のオブジェクト・タイプを表していなかったりする場合、統合アプライアンスは、オブジェクト・Element全体で、結果セットにおけるそのElementの位置に関して xsi:nil を true に設定します。

「オブジェクトの取得」アクティビティの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティから」パネルに objects Elementが表示されます。このElementには、構成手順においてフィールド・プリファレンス・テーブルで選択されたすべてのフィールドが含まれています。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

「オブジェクト内の検索」 アクティビティ

このタスクについて

このアクティビティから 1 つ以上の Salesforce.com オブジェクト・タイプに対して検索照会を実行して、結果セットを返すには、Sforce Object Search Language (SOSL) を使用します。

注: 検索可能または eSearchable として構成されているオブジェクト内でのみ検索を実行できます。添付オブジェクト内は検索できません。

「オブジェクト内の検索」アクティビティを使用するには、以下のようになります。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクト内の検索」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」および「要約」がオーケストレーションの下に表示されます。

タスクの結果

1. Salesforce.com エンドポイントを選択します。Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『Salesforce.com エンドポイントの作成または編集』を参照してください。
2. 検索照会を指定して、検索照会オプションを設定することで、このアクティビティを構成します。
3. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
4. このアクティビティの入力をマップします。
5. このアクティビティの出力をマップします。

「オブジェクト内の検索」アクティビティの入力をマップする:


1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。「アクティビティへ」パネルに parameters エLEMENTが表示されます。この parameter ELEMENTは、SOSL 照会で指定されたパラメーターごとに子ELEMENTを持ちます。照会におけるパラメーターのコンテキストによって、パラメーター・タイプが決まります。パラメーターを指定しなかった場合、parameters ELEMENTの下に子ELEMENTは表示されません。
2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『変数の作成』を参照してください。
4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『マップの作成』を参照してください。

「オブジェクト内の検索」 アクティビティの出力をマップする:

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。「アクティビティから」パネルに **objects** エLEMENTが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Search_Objects_Activity.html

「オブジェクトの削除を取り消す」 アクティビティ

このタスクについて

このアクティビティは、Salesforce.com で削除した 1 つ以上のオブジェクトを復元する場合に使用します。

「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティを見つけます。アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
2. Salesforce.com エンドポイントを選択します。Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
3. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを[指定](#)します。
4. このアクティビティの入力をマップします。
5. このアクティビティの出力をマップします。

タスクの結果

「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。「アクティビティへ」パネルに **ids** エLEMENTが表示されます。
2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - connection


3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。「アクティビティから」パネルに結果エレメントが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Undelete_Objects_Activity.html

「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成



「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、SForce Object Search Language (SOSL) 照会を作成する必要があります。


このタスクについて

以下のセクションでは、「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成、SOSL 照会の作成、および IBM® Cast Iron® の SOSL 構文ルールの指定を行う手順について説明します。

「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「構成」を選択します。「照会の指定」ウィンドウが開きます。
2. 「照会の指定」ウィンドウで SOSL 照会を[作成](#)します。
3. オプション: SOSL ステートメントの検索文節で動的パラメーターを指定できます。その後、そのパラメーターをこのアクティビティの入力パラメーターとして動的にマップできます。これにより、このアクティビティでオーケストレーションへの入力に基づいて照会を動的に制御できます。(\$) ドル記号でパラメーターを示し、その後にパラメーター名を付けます。
4. 「妥当性検査」アイコン  をクリックして、照会を妥当性検査します。照会が無効な場合は、「妥当性検査のフィードバック (Validation Feedback)」アイコン  が、「照会の指定」ウィンドウの左下隅に表示されます。無効な照会の場合、以下のようになります。
 - 「照会の指定」ウィンドウの左下隅にある「妥当性検査フィードバック (Validation Feedback)」アイコンをクリックして、妥当性検査エラーのリストを表示します。

- 「最新表示」アイコン  を使用してメタデータを最新表示し、SOSL ステートメントを再度妥当性検査します。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティ](#)

SOSL 照会の作成

このタスクについて

SForce Object Search Language (SOSL) 照会の作成時に、SOSL ステートメントの WHERE 文節で 動的パラメーターを使用できます。その場合、Studio は、このパラメーターをアクティビティの入力パラメーターとして動的にマップできます。これにより、オーケストレーションへの入力に基づいて照会を動的に制御できます。

SForce Object Search Language では、パラメーター化された照会に対して構文は定義されません。ただし、IBM Cast Iron では、いくつかの独自の SOSL 構文ルールが適用されます。パラメーターは、単純式でもセット式でも使用できます。

IBM Cast Iron の SOSL 構文規則

このタスクについて

- (\$) ドル記号でパラメーターを示します。(\$) ドル記号の後に、英数字のストリングを指定します。先頭文字は、文字 [a から z および A から Z] でなければなりません。その後は、1 つ以上の文字 [a から z および A から Z]、数字 [0 から 9]、または (_) 下線を任意に指定します。

注: パラメーター名では大/小文字の区別があるため、パラメーター \$a とパラメーター \$A は、異なるパラメーターであるとみなされます。

以下の表に、有効なパラメーター宣言と無効なパラメーター宣言の例を示します。

パラメーター	有効または無効
\$AnAccount	有効
\$a123_456	有効
\$123a	無効
\$_id	無効

- SOSL ステートメントの検索照会部分でパラメーターを宣言する必要があります。SOSL ステートメントの検索照会部分は、中括弧 ({ }) で囲みます。

重要: パラメーターを囲む場合、二重引用符 (" ") は使用しないでください。二重引用符で囲まれたパラメーターは、このアクティビティではストリング検索リテラルとして扱われます。


- パラメーター・タイプは常に xsd:string です。このアクティビティでは、代入時に、予約文字を使用して宣言されたパラメーターはすべてエスケープされます。予約文字には、以下の文字があります。

予約文字	説明
&	アンパーサンド
*	アスタリスク
\	円記号
[]	大括弧
:	コロロン

予約文字	説明
,	コンマ
{ }	中括弧
"	二重引用符
!	感嘆符
-	負符号
+	正符号
'	単一引用符
~	チルダ
^	山形記号
	縦棒

- パラメーターは、指定の SOQL ステートメントで複数回使用できます。ただし、パラメーターが SOQL ステートメントで複数回使用される場合でも、入力パラメーター・マップでのパラメーターの使用は 1 回のみです。このアクティビティによって、当該パラメーターが実行時に使用されるすべてのロケーションに対して同じ値が代入されます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Configuring_the_Search_Objects_Activity.html

「オブジェクトの更新」アクティビティ

このアクティビティは、Salesforce.com で既存のオブジェクトを更新する場合に使用します。

このタスクについて

Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで更新できるオブジェクトの数が 200 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® Salesforce.com Connector ではそのような制限はありません。「オブジェクトの更新」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを更新できます。

「オブジェクトの更新」アクティビティの使用

手順

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの更新」アクティビティを見つけます。

2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『Salesforce.com エンドポイントの作成または編集』を参照してください。
4. Salesforce.com オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。統合アプライアンスが更新可能なオブジェクト・タイプおよびフィールドのみを選択できます。入力マップには、この構成ステップで選択するフィールドに対応するエフェクトを持つオブジェクト・タイプが含まれます。
注: 統合アプライアンスは自動番号付けフィールドを作成できません。
5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティの入力をマップします。入力マップは、オブジェクトの入力パラメーターで構成されます。このパラメーターは、1つの反復エフェクトを持つ1つのルート・エフェクトからなります。選択したオブジェクト・タイプの後に指定され、「オブジェクト・フィールド設定」テーブルで選択したすべてのフィールドが含まれます。
7. このアクティビティの出力をマップします。

タスクの結果

「オブジェクトの更新」アクティビティの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。「アクティビティへ」ペインに **objects** エフェクトが表示されます。
2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - AssignmentRuleHeader
 - MruHeader
 - EmailHeader
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『変数の作成』を参照してください。
4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『マップの作成』を参照してください。


オプション・フィールド・エフェクトとヌル可能フィールド・エフェクトの動作は以下のとおりです。

- Salesforce.com サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで xsi:nil 属性を true に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。

注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

「オブジェクトの更新」アクティビティの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。「アクティビティから」パネルに **saveResults** エフェクトが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『変数の作成』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『マップの作成』を参照してください。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Update_Objects_Activity.html

「オブジェクトのアップサート」 アクティビティ

このアクティビティは、Salesforce.com で既存のオブジェクトを更新したり新規オブジェクトを作成したりする場合に使用します。

このタスクについて

このアクティビティでは、外部 ID (通常は外部キー) によって、Salesforce.com で既存のオブジェクトを更新するのか 新規オブジェクトを作成するのかが判別されます。

Salesforce.com API では、1 回の Upsert 呼び出しで作成できるオブジェクトの数が 200 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® Salesforce.com コネクターではそのような制限はありません。「オブジェクトの Upsert」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを作成できます。

「オブジェクトの Upsert」アクティビティを使用するには、以下のようにします。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトのアップサート」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
4. Salesforce.com オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。
注: 選択できるオブジェクト・タイプは、統合アプライアンスが更新または作成できるオブジェクト・タイプで、かつ、少なくとも 1 つの「外部 ID」フィールドが含まれているオブジェクト・タイプのみです。オブジェクト・タイプを選択すると、「構成」ペインの「外部 ID」フィールドにオブジェクト・タイプで定義された外部 ID が Studio から表示されます。「外部 ID」リストにリストされる ID は編集できません。選択する外部 ID は必須フィールドです。このフィールドは、「オブジェクト・フィールド設定」テーブルからクリアできません。使用可能な外部 ID が 1 つのみの場合は、このフィールドが Studio によって「オブジェクト・フィールド設定」テーブルで自動的に選択されます。
5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティの入力をマップします。
7. このアクティビティの出力をマップします。

タスクの結果

「オブジェクトのアップサート」アクティビティーの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。「アクティビティーへ」パネルに **objects** エレメントが表示されます。
2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - AssignmentRuleHeader
 - MruHeader
 - EmailHeader
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

このアクティビティーでは、以下のオプション入力パラメーターがサポートされます。

- AssignmentRuleHeader
- EmailHeader
- MruHeader

オプション・フィールド・エレメントとヌル可能フィールド・エレメントの動作は以下のとおりです。


- Salesforce.com サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで xsi:nil 属性を true に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。
注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

「オブジェクトのアップサート」アクティビティーの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。「アクティビティーから」パネルに **upsertResults** エレメントが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)


 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Upsert_Objects_Activity.html

- [SAP コネクターの概要](#)
- [SAP エンドポイントの作成または編集](#)
エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが SAP システムに接続するために使用する SAP 接続情報を提供します。
- [SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)
Studio から SAP システムに接続するには、ご使用の Windows 開発マシン上に SAP DLL および jar ファイルをインストールする必要があります。SAP サポート・ポータルに入ってファイルをダウンロードするには、SAP ログイン資格情報が必要です。
- [SAP コネクターのためのシングル・サインオン \(SSO\) とセキュア・ネットワーク通信 \(SNC\) の構成](#)
- [「SAP: BAPI の呼び出し」アクティビティ](#)
実行時に、指定された SAP エンドポイントでリモートに使用可能にされた Business Object Method (BAPI) を呼び出すには、「SAP: BAPI の呼び出し」アクティビティを使用します。
- [「SAP: RFC の呼び出し」アクティビティ](#)
実行時に、指定された SAP エンドポイントでリモートに使用可能にされた Remote Function Call (RFC) を呼び出すには、「SAP: RFC の呼び出し」アクティビティを使用します。
- [「SAP: IDOC の受信」アクティビティ](#)
「SAP: IDOC の受信」アクティビティを使用して、実行時にサーバーとして機能させ、構成済み SAP エンドポイントで listen を行います。アクティビティは、指定された SAP エンドポイントから IDOC を受信し、それを XML データに変換します。「SAP: IDOC の受信」アクティビティは、スターター・アクティビティです。
- [「SAP: IDOC の送信」アクティビティ](#)
実行時に、指定された SAP エンドポイントに IDOC を送信するには、「SAP: IDOC の送信」アクティビティを使用します。
- [「SAP: RFC の受信」アクティビティ](#)
SAP 「RFC の受信」アクティビティを使用して、実行時にサーバーとして機能させ、構成済み SAP エンドポイントで listen させます。アクティビティは、指定された SAP エンドポイントから RFC を受信し、それを XML データに変換します。SAP 「RFC の受信」アクティビティは、スターター・アクティビティです。このアクティビティは、同期モードで構成することも、非同期モードで構成することもできます。
- [SAP 「RFC 応答の送信」アクティビティ](#)
SAP 「RFC 応答の送信」アクティビティは、SAP 「RFC の受信」要求の送信者 (SAP) に応答を送信します。
- [トラブルシューティングとサポート](#)
トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。このトピックでは、SAP コネクターで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_sapactivities.html

SAP コネクターの概要

SAP コネクタは、Cast Iron と SAP インスタンスの間の両方向通信を使用可能にします。このコネクタは、ビジネス・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (BAPI)、リモート関数呼び出し (RFC)、および中間文書 (IDOC) インターフェースをサポートします。

SAP コネクタを使用して、以下のアクティビティを実行できます。


- アウトバウンド・アクティビティ
 - [BAPI の呼び出し](#)
 - [RFC の呼び出し](#)
 - [IDOC の送信](#)
- インバウンド/スターター・アクティビティ
 - [IDOC の受信](#)

SAP コネクタは、ABAP アプリケーション・サーバー (3.1H 以降のバージョン) に基づくすべての SAP R/3 システムをサポートします。

SAP コネクタが SAP インスタンスに接続するには、SAP JCo ライブラリーが必要です。このコネクタは、JCo バージョン 3.0.x 以降のバージョンをサポートします。詳しくは、『[SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)』を参照してください。

親トピック: [SAP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_Overview.html

SAP エンドポイントの作成または編集

エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが SAP システムに接続するために使用する SAP 接続情報を提供します。

手順

1. 「アクティビティ」タブの「SAP」フォルダーからオーケストレーションへアクティビティをドラッグします。


「要約」ペインにチェックリストが示され、アクティビティの構成に必要な操作が概説されます。
2. 「チェックリスト」で「エンドポイント」タスクをクリックし、次のいずれかのオプションをクリックします。
 - **参照** — 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。SAP エンドポイントが追加されたら、「編集」をクリックしてそれを編集できます。
注: エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルなものです。
 - **新規作成** — 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが表示されます。

- 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが表示されます。
3. 次の表に示されたフィールドに入力します。
 4. 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、SAP システムに接続できることを確認します。
 5. 「OK」をクリックします。

表 1. SAP オプション

フィールド	説明
ロケーション	
ホスト名	SAP システムのあるマシンの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
システム番号	Studio の接続先とする SAP システムの特定インスタンスを識別する番号を指定します。SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
クライアント情報	
SAP クライアント	Studio および統合アプライアンスを SAP システムのクライアントとして識別するための番号を指定します。SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
言語	SAP のメッセージ言語オプションを指定します。例えば、EN は英語を表す ISO コードです。
SAP ログイン詳細	
ユーザー名/パスワード・ベースの認証	SAP システム上の SAP コネクターのユーザー・アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。
ユーザー名	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名を指定します。
パスワード	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名のパスワードを指定します。
SSO トークン・ベースの認証	SAP システムにログオンするために SSO トークンを指定する場合は、このオプションを選択する必要があることを示します。
SSO トークン	シングル・サインオン (SSO) トークンを指定します。
セキュア・ネットワーク接続 (SNC)	SNC 用にこのチェック・ボックスを選択する必要があることを示します。 注: SNC チェック・ボックスを選択すると、「ユーザー名/パスワード・ベースの認証」が選択解除されます。このオプションを使用するには、もう一度選択する必要があります。
セキュア・ネットワーク接続 (SNC) 名	SNC 接続の識別名を指定します。
セキュア・ネットワーク接続 (SNC) パートナー	SNC パートナーの識別名を指定します。
セキュア・ネットワーク接続 (SNC) セキュリティー・レベル	SNC のセキュリティーのレベルを指定します。

フィールド	説明
X509 Certificate	ログオン・チケットとして使用する X509 証明書を指定します。SNC で「ユーザー名/パスワード・ベースの認証」が使用されている場合にのみ、このフィールドはオプションです。
SSO と SNC の構成の詳細については、 SAP コネクタのためのシングル・サインオン (SSO) とセキュア・ネットワーク通信 (SNC) の構成 を参照してください。	
接続プール・オプション	
最大接続数	統合アプライアンスがメッセージ・ロードに基づいて開く、追加の SAP 接続数 (最大で指定数まで) を指定します。
最大アイドル時間	統合アプライアンスによって閉じられるまで SAP 接続を開いたままアイドル状態にすることができる時間 (分) を指定します。
インバウンド・ゲートウェイ 注: このセクションに指定された値は、「IDOC の受信」アクティビティーでのみ使用されます。	
インバウンド・ゲートウェイを使用可能にする	このエンドポイントを「IDOC の受信」アクティビティーと「RFC の受信」アクティビティーで使用する場合に、このチェック・ボックスを選択します。
ホスト	SAP ゲートウェイのホスト名を指定します。
サーバー・インスタンス	SAP インスタンス内で同じ programID で登録可能なサーバーの最大数を指定します。
プログラム ID	登録されたサーバーの ID を指定します。この ID は、RFC 宛先ポートの構成時に割り当てられます。SAP プログラム ID の先頭には感嘆符 (!) を使用できません。 注: SAP システムの場合、プログラム ID 名は大/小文字が区別されます。例えば、プログラム ID 名 Aaa は、プログラム ID 名 aaa とは異なります。
サービス	SAP ゲートウェイ・サービスの名前を指定します。
再試行間隔	統合アプライアンスが SAP システムのゲートウェイへの接続の再確立を試行するまでに待機する時間 (秒) を指定します。
リモート・エンドポイント構成	
エンドポイントをファイアウォールの内側で実行	セキュア・コネクタ名のプロパティを使用可能にして、SAP アプリケーションがファイアウォールの内側で実行されている場合にセキュア・コネクタを使用できるようにします。
セキュア・コネクタ名	ファイアウォールの内側で稼動している SAP アプリケーションへの接続に使用するセキュア・コネクタの名前を指定します。例えば、SAP アクティビティーを含むオーケストレーションが Cast Iron Live (Cloud) にデプロイされる場合は、セキュア・コネクタを構成する必要があります。

注: エンドポイントの一部のフィールドには、これらのフィールドの値を提供するために、[構成プロパティを定義](#)できます。同じタイプの構成プロパティがプロジェクトに対してすでに構成されている場合に、構成プロパティをサポートするフィールド内をクリックすると、 アイコンが表示されます。

親トピック: [SAP アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_Creating_or_Editing_a_SAP_Endpoint.html

SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール

Studio から SAP システムに接続するには、ご使用の Windows 開発マシン上に SAP DLL および jar ファイルをインストールする必要があります。SAP サポート・ポータルに入ってファイルをダウンロードするには、SAP ログイン資格情報が必要です。

このタスクについて

SAP jar ファイルおよび DLL をダウンロードおよびインストールするには、以下のようになります。

1. SAP 技術サポートに連絡して、SAP コンポーネントの圧縮ファイル入手します。
 - **SAP 32 ビット JCo バージョン 3.0.10 以降 - Studio が稼働しているプラットフォームに基づきます。**
 - **SAP Java IDoc Class Library バージョン 3.0.10 以降**
2. 以下のようにして、SAP JCo 圧縮ファイルを圧縮解除します。
 - `sapjdoc30P_x-1000xxxx.zip` ファイルをダブルクリックします。
 - 圧縮解除ツールで圧縮ファイルの内容を一時ディレクトリー内に解凍します。この圧縮ファイルには、別の圧縮ファイル `sapjco3-NTintel-3.0.x.zip` が入っています。この圧縮ファイルを一時的ディレクトリー (`C:\temp\sapjco3-NTintel-3.0.x` など) に解凍します。このディレクトリーに、必要なライブラリー `sapjco3.jar` および `sapjco3.dll` が入ります。
3. 以下のようにして、SAP IDoc JCo 圧縮ファイルを圧縮解除します。
 - `sapjdoc30P_x-1000xxxx.zip` ファイルをダブルクリックします。
 - 圧縮解除ツールで圧縮ファイルの内容を一時ディレクトリー、例えば `C:\temp\sapjdoc30P_x-1000xxxx` 内に解凍します。このディレクトリーに、必要なライブラリー `sapidoc3.jar` が入ります。

注: Cast Iron Studio 6.3 以前のバージョンを使用している場合は、32 ビット SAP ライブラリーをダウンロードしてインストールする必要があります。Cast Iron バージョン 7.0 以降では、64 ビット SAP ライブラリーをダウンロードしてインストールする必要があります。

手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」を選択します。
2. 「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されたら、SAP コネクタの下にあるプラス (+) ボタンをクリックします。

テキスト入力フィールドおよび参照ボタンが表示されます。

3. 「参照」をクリックし、「参照」ダイアログ・ボックスを使用して sapjco3.jar ファイルを見つけて選択します。
4. 「開く」をクリックして、JAR ファイルのコンテンツをインポートします。
5. 次に使用可能なプラス (+) ボタンをクリックして、sapidoc3.jar および sapjco3.dll ファイルを追加します。
6. jar ファイルが「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスにリストされたら、「OK」をクリックします。

タスクの結果


Studio を再始動して変更内容をアクティブにするためのプロンプトが表示されます。

次のタスク

SAP エンドポイントおよびオーケストレーションを作成できるようになりました。

親トピック: [SAP アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Downloading_and_Installing_the_SAP_Jar_File_and_DLLs.html

SAP コネクタのためのシングル・サインオン (SSO) とセキュア・ネットワーク通信 (SNC) の構成

始める前に

Cast Iron バージョン 6.3.0.2 以降では、以下の方法で SAP コネクタを通じて SAP に接続できます。

- ユーザー名とパスワードを提供する
- SSO チケットを提供する (「RFC の呼び出し」、「BAPI の呼び出し」、「IDOC の送信」の各アクティビティのみ)
注: SAP サーバーを SSO 対応にします。SAP SSO チケットを取得するには、Web ブラウザーを使用して SAP システムにログインし、MYSAPSSO2 という名前のセッション Cookie の値をフェッチします。
- SNC 名、SNC パートナー名、および以下のいずれかを提供することで SNC 機能を使用する。
 - X509 証明書
 - X509 証明書、ユーザー名 (証明書のユーザー)、およびダミーのパスワード
 - ユーザー名とパスワード

注: SAP サーバーを SNC 対応にします。


手順

SNC の場合

1. SECUDIR をシステム変数として追加し、これを PATH に設定します。WHERE SECUDIR = <PATH OF EXTRACTED SAP CRYPTO lib file> のようにします。
2. システム資格情報を .pse ファイルに追加します。sapgenpse seclogin -p <PSE LOCATION>.pse -O <SYSTEM USERNAME> のようにします。
3. Cast Iron Studio で「ツール」>「モジュール・プロバイダーのインストール」に移動し、sapcrypto.dll ファイルを SAP コネクタにアップロードします。
4. エンドポイント・ページで、以下を実行します。
 - a. 「SNC 名」フィールドで、クライアント PSE の識別名 (クライアント PSE の生成時に作成されたもの) を指定します。
 - b. 「SNC パートナー」フィールドで、クライアント PSE の識別名 (クライアント PSE の生成時に作成されたもの) を指定します。
 - c. SNC セキュリティー・レベルで、セキュリティのレベルを指定します。セキュリティ・レベルのサポートは暗号ライブラリーによって提供されており、特定のライブラリー・ファイルではすべてのセキュリティ・レベルがサポートされないことがあります。ドロップダウン・リストから、必須指定のオプションを選択してください。
 - d. オプション: 必要であれば、ログオン・チケットとして使用される X509 証明書を指定します。証明書が 1 つの行に収まるように、余分な行を削除してください。
 - e. 残りのフィールドを完了させ、「接続のテスト」をクリックします。

親トピック: [SAP アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_configuring_SNC.html

「SAP: BAPI の呼び出し」 アクティビティー

実行時に、指定された SAP エンドポイントでリモートに使用可能にされた Business Object Method (BAPI) を呼び出すには、「SAP: BAPI の呼び出し」アクティビティーを使用します。

注: Studio から SAP システムに接続するには、Windows の開発マシン上に、SAP JAR ファイルおよび DLL をダウンロードおよびインストールする必要があります。詳しくは、『[SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)』を参照してください。

「SAP: BAPI の呼び出し」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「SAP」フォルダーを展開します。
3. 「SAP: BAPI の呼び出し」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示されます。

SAP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. チェックリストで「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順に進んでください。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」パネルが表示されます。
2. SAP エンドポイントを作成または編集します。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」で「構成」タスクを選択します。「構成」パネルが表示されます。
2. 「オブジェクト名」フィールドで「参照...」をクリックします。「BAPI リスト」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. ビジネス・オブジェクトを検索します。リストでビジネス・オブジェクトをクリックし、ビジネス・オブジェクト名の最初の数文字を入力します。
4. ビジネス・オブジェクトを展開して、関連する BAPI メソッドを表示します。
5. ビジネス・オブジェクトおよびメソッドを選択し、「OK」をクリックします。
6. 次の「トランザクション・オプション」のいずれかを選択します。
 - 何もしない (BAPI によって直接処理されるトランザクション) - 実行時に、BAPI を呼び出す統合アプライアンスは、トランザクション処理を行いません。トランザクションが BAPI に関連付けられている場合は、トランザクションの処理はすべて BAPI が行わなければなりません。
 - 完了後にトランザクションをコミット - 実行時に、統合アプライアンスは BAPI を呼び出し、SAP システムからの戻りメッセージを待ちます。SAP システムから返されるメッセージの戻りコードにより、統合アプライアンスは、SAP システムにトランザクションのコミットを要求する別メッセージを送信するか、トランザクションのロールバックを要求する別メッセージを送信するかを決定します。
 - BAPI から返された戻りコードが成功を示している場合、統合アプライアンスは、SAP システムにトランザクションのコミットを要求する別メッセージを送信し、オーケストレーション内の次のアクティビティーの処理を即時開始します。
 - BAPI から返された戻りコードが失敗を示している場合、統合アプライアンスは、SAP システムにロールバック要求を送信し、オーケストレーション内の次のアクティビティーの処理を即時開始します。
 - 完了時にトランザクションをコミットして待機 - 実行時に、統合アプライアンスは BAPI を呼び出し、SAP システムからの戻りメッセージを待ちます。SAP システムから返されるメッセージの戻りコードにより、統合アプライアンスは、SAP システムにトランザクションのコミットを要求する別メッセージを送信するか、トランザクションのロールバックを要求する別メッセージを送信するかを決定します。
 - BAPI から返された戻りコードが成功を示している場合、統合アプライアンスは、SAP システムにトランザクションのコミットを要求する別メッセージを送信します。オーケストレーションは、トランザクションがコミットされたことを示す 2 番目のメッセージを SAP システムが送信するまで待機してから、オーケストレーション内の次のアクティビティーを処理します。
 - BAPI から返された戻りコードが失敗を示している場合、統合アプライアンスは、SAP システムにロールバック要求を送信します。オーケストレーションは、トランザクションのロ

ールバックが行われたことを示す 2 番目のメッセージを SAP システムが送信するまで待機してから、オーケストレーション内の次のアクティビティを処理します。

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」パネルが表示されます。
2. SAP システムに接続するための再試行オプションを構成します。次の表に、SAP システムに接続するための再試行オプションを示します。

再試行オプション	説明
1) 再試行ごとに一秒待機します。	統合アプライアンスが SAP システムへの接続の確立を試行するまでに待機する時間 (秒) を指定します。
2) 失敗するまで一回の接続を試みます。	統合アプライアンスがエラーを発行して現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止するまでに、SAP システムへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。「SAP: BAPI の呼び出し」アクティビティのあるオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスは指定された SAP システムに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。

アクティビティの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクを選択します。BAPIの入力パラメーターから生成されたXMLスキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。さらに、BAPI に表が含まれている場合は、BAPI の表を表すXMLスキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。

SAP コネクターは、異なる SAP システムへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・パネルで構成された SAP システム以外の SAP システムに動的に接続したい場合、エンドポイント・パネルで使用されているフィールドとは異なるユーザー名とパスワードで同じ SAP システムに接続したい場合、またはエンドポイント・パネルで追加された SSO トークイン以外の SSO トークンが必要な場合は、入力のマップの `sapConnectionProperties` でオプション・パラメーターを追加します。`sapConnectionProperties` のパラメーターを以下の表で説明します。

表 1. 接続プロパティー

オプション・パラメーター	説明
<code>sapConnectionProperties</code> パラメーター	
<code>hostName</code>	SAP システムのあるマシンの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
<code>systemNumber</code>	Studio の接続先とする SAP システムの特定インスタンスを識別する番号を指定します。SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
<code>client</code>	Studio および統合アプライアンスを SAP システムのクライアントとして識別するための番号を指定します。SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
<code>language</code>	SAP のメッセージ言語オプションを指定します。例えば、EN は英語を表す ISO コードです。
<code>basicAuthentication</code> パラメーター	
<code>username</code>	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名を指定します。
<code>password</code>	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名のパスワードを指定します。
<code>ssoAuthentication</code> パラメーター	
<code>ssotoken</code>	シングル・サインオン (SSO) トークンを指定します。
<code>sncAuthentication</code> パラメーター	
<code>sncmode</code>	セキュア・ネットワーク接続 (SNC) モードが有効であるか指定します。
<code>sncname</code>	SNC 接続の識別名を指定します。
<code>partner</code>	SNC パートナーの識別名を指定します。
<code>qop</code>	SNC のセキュリティのレベルを指定します。
<code>X509 Certificate</code>	ログオン・チケットとして使用する X509 証明書を指定します。SNC で「ユーザー名/パスワード・ベースの認証」が使用されている場合にのみ、このフィールドはオプションです。
<code>connectionPool</code> パラメーター	
<code>maximumConnections</code>	統合アプライアンスがメッセージ・ロードに基づいて開く、追加の SAP 接続数 (最大で指定数まで) を指定します。

オプション・パラメーター	説明
maxIdleTime	統合アプライアンスによって閉じられるまで SAP 接続を開いたままアイドル状態にすることができる時間 (分) を指定します。

2. オーケストレーション変数と BAPI 入力パラメーターおよびテーブル間のマップを作成します。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

実行時に、BAPI の入力パラメーターまたは表の必須要素の値を提供する必要があります。この値は、要素のデフォルト値を指定するか、要素を入力ノードにリンクすることによって提供できます。実行時に必須要素の値が提供されなかった場合、アクティビティは実行中に、Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時に BAPI の入力パラメーターまたは表のオプション・要素の値が提供されなかった場合、実行中に例外はスローされません。

アクティビティの出力のマッピング


1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。BAPI の戻りの型から生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。さらに、BAPI に表が含まれている場合は、表を表す XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response ノードの下にノードとして表示されます。
2. BAPI の出力パラメーターおよび表と、オーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

SAP オーケストレーションのデプロイに関する注意事項

WMC を使用して SAP アクティビティでオーケストレーションをデプロイするためには、まず統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できるようにしておく必要があります。統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できない場合、オーケストレーションはデプロイされません。

親トピック: [SAP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_Invoke_BAPI_Activity.html

「SAP: RFC の呼び出し」アクティビティ

実行時に、指定された SAP エンドポイントでリモートに使用可能にされた Remote Function Call (RFC) を呼び出すには、「SAP: RFC の呼び出し」アクティビティを使用します。

注: Studio から SAP システムに接続するには、Windows の開発マシン上に、SAP JAR ファイルおよび DLL をダウンロードおよびインストールする必要があります。詳しくは、『[SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)』を参照してください。

「SAP: RFC の呼び出し」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「SAP」フォルダーを展開します。
3. 「SAP: RFC の呼び出し」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示されます。

SAP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順に進んでください。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」パネルが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」パネルが表示されます。
2. SAP エンドポイントを作成または編集します。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」で「構成」タスクを選択します。「構成」パネルが表示されます。
2. 「RFC 名」フィールドで「参照...」をクリックします。「RFC リスト」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 次の例のように、「RFC 検索関数 (RFC Search Function)」フィールドに文字とワイルドカード文字*の組み合わせを入力して、必要な RFC 名を検索します。
 - AB* – 名前が接頭部 AB で始まるすべての RFC を検索します。
 - AB*TRANSACTION – 接頭部 AB で始まりストリング TRANSACTION で終わるすべての RFC を検索します。

SAP システムが探索され、ワイルドカード式に一致する RFC 名が「適合する SAP 関数」テーブルにリストされます。

4. 「適合する SAP 関数」テーブルから SAP 関数を 1 つ選択し、「OK」をクリックします。

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」パネルが表示されます。
2. SAP システムに接続するための再試行オプションを構成します。次の表に、SAP システムに接続するための再試行オプションを示します。

再 試 行 オ プ	説明
-----------------------	----

シ ョ ン	
1) 再 試 行 ご と に 一 秒 待 機 し ま す 。	統合アプライアンスが SAP システムへの接続の確立を試行するまでに待機する時間 (秒) を指定します。
2) 失 敗 す る ま で 一 回 の 接 続 を 試 み ま す 。	統合アプライアンスがエラーを発行して現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止するまでに、SAP システムへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。「SAP: RFC の呼び出し」アクティビティーのあるオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスは指定された SAP システムに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。

アクティビティーの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクを選択します。RFC の入力パラメーターから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」ペインの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。さらに、RFC に表が含まれている場合は、RFC の表を表す XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
2. オーケストレーション変数と RFC 入力パラメーターおよびテーブル間のマップを作成します。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

実行時に、RFC の入力パラメーターまたは表の必須エレメントの値を提供する必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって提供できます。実行時に必須エレメントの値が提供されなかった場合、アクティビティーは実行中に、Web

管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時に RFC の入力パラメーターまたは表のオプション・エレメントの値が提供されなかった場合、実行中に例外はスローされません。

トランザクション・オプション:

1. アクティビティの「入力のマップ」で、「アクティビティへ」セクションを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択します。transactionOptions という変数が入力のマップに表示されます。このプロパティは、Cast Iron Studio バージョン 6.1.0.12 のみで使用可能です。
2. 次の値のいずれかを選択します。

注: transactionOptions プロパティにいずれの値も設定しないと、COMMIT_HANDLED_BY RFC 値が使用されます。

表 1.

値	説明
COMMIT_HANDLED_BY RFC	RFC のコミットは RFC 自体によって実行されます。コネクタは、どのような明示的コミット呼び出しも行いません。
COMMIT_TRANSACTION_AFTER_COMPLETION	実行時に、SAP コネクタは RFC を呼び出し、SAP システムからの戻りメッセージを待ちます。SAP システムから返されるメッセージの戻りコードにより、SAP コネクタが SAP システムにトランザクションのコミットを要求する別の呼び出しを送信するのか、SAP システムにトランザクションのロールバックを要求する別の呼び出しを送信するのかが決まります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ RFC から渡された戻りコードが成功を示している場合、SAP コネクタは、SAP システムにトランザクションのコミットを要求する別の呼び出しを送信し、オーケストレーション内の次のアクティビティの処理をただちに開始します。 ◦ RFC から渡された戻りコードが失敗を示している場合、SAP コネクタは、SAP システムにロールバック要求を行い、オーケストレーション内の次のアクティビティの処理をただちに開始します。
COMMIT_TRANSACTION_AND_WAIT_UPON_COMPLETION	実行時に、SAP コネクタは RFC を呼び出し、SAP システムからの戻りメッセージを待ちます。SAP システムが返すメッセージの戻りコードにより、SAP コネクタが SAP システムにトランザクションのコミットを要求する別のメッセージを送信するのか、SAP システムにトランザクションのロールバックを要求する別のメッセージを送信するのかが決まります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ RFC から渡された戻りコードが成功を示している場合、SAP コネクタは、SAP システムにトランザクションのコミットを要求する別の呼び出しを送信します。オーケストレーションは、トランザクションがコミットされたことを示す 2 番目のメッセージを SAP システムが送信するまで待機してから、オーケストレーション内の次のアクティビティを処理します。 ◦ RFC から渡された戻りコードが失敗を示している場合、SAP コネクタは、SAP システムに対してロールバック要求を行います。オーケストレーションは、トランザクションのロールバックが行われたことを示す 2 番目のメッセージを SAP システムが送信するまで待機してから、オーケストレーション内の次のアクティビティを処理します。

3. トランザクション操作を選択した後で、RFC の入力データを記入します。

SAP コネクタは、異なる SAP システムへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・パネルで構成された SAP システム以外の SAP システムに動的に接続したい場合、エンドポイント・パネルで使用されているフィールドとは異なるユーザー名とパスワードで同じ SAP システムに接続したい場合、またはエンドポイント・パネルで追加された SSO トークイン以外の SSO トークンが必要な場合は、入力のマッ

プの `sapConnectionProperties` でオプション・パラメーターを追加します。 `sapConnectionProperties` のパラメーターを以下の表で説明します。

表 2. 接続プロパティ

オプション・パラメーター	説明
<code>sapConnectionProperties</code> パラメーター	
<code>hostName</code>	SAP システムのあるマシンの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
<code>systemNumber</code>	Studio の接続先とする SAP システムの特定インスタンスを識別する番号を指定します。 SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
<code>client</code>	Studio および統合アプライアンスを SAP システムのクライアントとして識別するための番号を指定します。 SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
<code>language</code>	SAP のメッセージ言語オプションを指定します。例えば、EN は英語を表す ISO コードです。
<code>basicAuthentication</code> パラメーター	
<code>username</code>	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名を指定します。
<code>password</code>	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名のパスワードを指定します。
<code>ssoAuthentication</code> パラメーター	
<code>ssotoken</code>	シングル・サインオン (SSO) トークンを指定します。
<code>sncAuthentication</code> パラメーター	
<code>sncmode</code>	セキュア・ネットワーク接続 (SNC) モードが有効であるか指定します。
<code>sncname</code>	SNC 接続の識別名を指定します。
<code>partner</code>	SNC パートナーの識別名を指定します。
<code>qop</code>	SNC のセキュリティのレベルを指定します。
<code>X509 Certificate</code>	ログオン・チケットとして使用する X509 証明書を指定します。SNC で「ユーザー名/パスワード・ベースの認証」が使用されている場合にのみ、このフィールドはオプションです。
<code>connectionPool</code> パラメーター	
<code>maximumConnections</code>	統合アプライアンスがメッセージ・ロードに基づいて開く、追加の SAP 接続数 (最大で指定数まで) を指定します。
<code>maxIdleTime</code>	統合アプライアンスによって閉じられるまで SAP 接続を開いたままアイドル状態にすることができる時間 (分) を指定します。

アクティビティの出力のマッピング


- 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。RFC の戻りの型から生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの `request` 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。さらに、RFC に表が含まれている場合は、表を表す XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの `request` ノードの下にノードとして表示されます。
- RFC の出力パラメーターおよび表と、オーケストレーション変数との間のマップを作成します。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

SAP オーケストレーションのデプロイに関する注意事項

WMC を使用して SAP アクティビティーでオーケストレーションをデプロイするためには、まず統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できるようにしておく必要があります。統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できない場合、オーケストレーションはデプロイされません。

親トピック: [SAP アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_Invoke_RFC_Activity.html

「SAP: IDOC の受信」 アクティビティー

「SAP: IDOC の受信」アクティビティーを使用して、実行時にサーバーとして機能させ、構成済み SAP エンドポイントで listen を行います。アクティビティーは、指定された SAP エンドポイントから IDOC を受信し、それを XML データに変換します。「SAP: IDOC の受信」アクティビティーは、スターター・アクティビティーです。

RFC ポートを使用して SAP システムから直接 SAP データを受信する場合は、「SAP: IDOC の受信」アクティビティーを使用する必要があります。SAP システムから SAP ファイル・ポート経由で SAP データをファイルとして受信する場合は、設計時に「プロジェクト」>「インポート」>「SAP IDOC スキーマ」ツールバー・メニュー・オプションを使用して IDOC メタデータ用のファイル・フラット・スキーマを生成し、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーを使用して SAP データを読み取る必要があります。詳細については、『[IDOC からのフラット・ファイル・スキーマの生成](#)』を参照してください。

「SAP: IDOC の受信」アクティビティーの場合にのみ、インバウンド・ゲートウェイ接続パラメーターを指定する必要があります。詳しくは、『[SAP エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

Studio から SAP システムに接続するには、Windows の開発マシン上に、SAP JAR ファイルおよび DLL をダウンロードおよびインストールする必要があります。詳しくは、『[SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)』を参照してください。

注: 「SAP: IDOC の受信」アクティビティーのあるオーケストレーションでは、パーシスタンスが有効になっていることが必要です。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。

「SAP: IDOC の受信」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを[作成](#)するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「SAP」フォルダーを展開します。
3. 「IDOC の受信」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示されます。

SAP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. チェックリストで「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順に進んでください。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」パネルが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」パネルが表示されます。
2. SAP エンドポイントを作成または編集します。

アクティビティーの構成

1. 「チェックリスト」で「構成」タスクを選択します。「構成」パネルが表示されます。
2. 「参照...」をクリックします。
3. IDOC 行を選択し、「OK」をクリックします。「構成」タスクの「メッセージ・タイプ」、「IDOC タイプ」、および「IDOC 拡張タイプ」にデータが取り込まれます。

アクティビティーの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」で「出力のマッピング」タスクを選択します。

アクティビティーの出力パラメーターが、「アクティビティーから」パネルに表示されます。選択された「IDOC タイプ」および「IDOC 拡張タイプ」から生成された XML スキーマが、アクティビティーの出力パラメーターになります。


2. IDOC XML スキーマとオーケストレーション変数との間のマッピングを作成します。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

SAP オーケストレーションのデプロイに関する注意事項

Web 管理コンソールを使用して SAP アクティビティーでオーケストレーションをデプロイするためには、まず統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できるようにしておく必要があります。統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できない場合、オーケストレーションはデプロイされません。

親トピック: [SAP アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_Receive_IDOC_Activity.html

「SAP: IDOC の送信」アクティビティー

実行時に、指定された SAP エンドポイントに IDOC を送信するには、「SAP: IDOC の送信」アクティビティーを使用します。

RFC ポートを使用して SAP システムに直接 SAP データを送信する場合は、SAP の「IDOC の送信」アクティビティーを使用する必要があります。SAP システムに SAP ファイル・ポート経由で SAP データをファイルとして送信する場合は、設計時に「プロジェクト」>「インポート」>「SAP IDOC スキーマ」ツールバー・メニュー・オプションを使用して IDOC メタデータ用のファイル・フラット・スキーマを生成し、「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティーを使用して SAP データを書き込む必要があります。詳細については、『[IDOC からのフラット・ファイル・スキーマの生成](#)』を参照してください。

Studio から SAP システムに接続するには、Windows の開発マシン上に、SAP Jar ファイルおよび DLL をダウンロードおよびインストールする必要があります。詳しくは、『[SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)』を参照してください。

実行時に、「SAP: IDOC の送信」アクティビティーが、同じ IDOC 番号を持つ 2 つの IDOC インスタンスを処理する場合、「SAP: IDOC の送信」アクティビティーは、2 番目のインスタンスのデータ・セグメントを最初のインスタンスに付加します。

注: 「SAP: IDOC の送信」アクティビティーのあるオーケストレーションでは、パーシスタンスが有効になっていることが必要です。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照してください。

「SAP: IDOC の送信」アクティビティーをオーケストレーションに対して追加および構成する手順については、以下に説明があります。

- [「SAP: IDOC の送信」アクティビティーのオーケストレーションへの追加](#)
- [SAP エンドポイントの作成、選択、または編集](#)
- [アクティビティーの構成](#)
- [再試行オプションの指定](#)
- [アクティビティーの入力のマッピング](#)

「SAP: IDOC の送信」アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、「SAP」フォルダーを展開します。
3. 「IDOC の送信」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示されます。

SAP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. チェックリストで「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『[アクティビティーの構成](#)』手順に進んでください。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」パネルが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」パネルが表示されます。
2. [SAP エンドポイントを作成または編集](#)します。

アクティビティの構成

1. 「チェックリスト」で「構成」タスクを選択します。「構成」パネルが表示されます。
2. 「参照...」をクリックします。
3. IDOC 行を選択し、「OK」をクリックします。「構成」タスクの「メッセージ・タイプ」、「IDOC タイプ」、および「IDOC 拡張タイプ」にデータが取り込まれます。

再試行オプションの指定

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」パネルが表示されます。
2. SAP システムに接続するための再試行オプションを構成します。次の表に、SAP システムに接続するための再試行オプションを示します。

再試行オプション	説明
1) 再試行ごとに一秒待機します。	統合アプライアンスが SAP システムへの接続の確立を試行するまでに待機する時間 (秒) を指定します。
2) 回の接続を試	統合アプライアンスがエラーを発行して現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止するまでに、SAP システムへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。「SAP: IDOC の送信」アクティビティのあるオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスは指定された SAP システムに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。

アクティビティの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」タスクを選択します。アクティビティの入力パラメーターが、「アクティビティへ」パネルに表示されます。選択された「IDOC タイプ」および「IDOC 拡張タイプ」から生成された XML スキーマが、アクティビティの入力パラメーターになります。
2. 「アクティビティへ」セクションを右クリックし、「オプション・パラメーターの表示」を選択します。

SAP コネクタは、異なる SAP システムへの動的エンドポイント接続もサポートします。実行時に、エンドポイント・パネルで構成された SAP システム以外の SAP システムに動的に接続したい場合、エンドポイント・パネルで使用されているフィールドとは異なるユーザー名とパスワードで同じ SAP システムに接続したい場合、またはエンドポイント・パネルで追加された SSO トークイン以外の SSO トークンが必要な場合は、入力のマップの `sapConnectionProperties` でオプション・パラメーターを追加します。`sapConnectionProperties` のパラメーターを以下の表で説明します。

表 1. 接続プロパティ

オプション・パラメーター	説明
sapConnectionProperties パラメーター	
hostName	SAP システムのあるマシンの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
systemNumber	Studio の接続先とする SAP システムの特定インスタンスを識別する番号を指定します。SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
client	Studio および統合アプライアンスを SAP システムのクライアントとして識別するための番号を指定します。SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
language	SAP のメッセージ言語オプションを指定します。例えば、EN は英語を表す ISO コードです。
basicAuthentication パラメーター	
username	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名を指定します。
password	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名のパスワードを指定します。
ssoAuthentication パラメーター	
ssotoken	シングル・サインオン (SSO) トークンを指定します。
sncAuthentication パラメーター	
sncmode	セキュア・ネットワーク接続 (SNC) モードが有効であるか指定します。
sncname	SNC 接続の識別名を指定します。
partner	SNC パートナーの識別名を指定します。
qop	SNC のセキュリティのレベルを指定します。

オプション・パラメーター	説明
X509 Certificate	ログオン・チケットとして使用する X509 証明書を指定します。SNC で「ユーザー名/パスワード・ベースの認証」が使用されている場合にのみ、このフィールドはオプションです。
connectionPool パラメーター	
maximumConnections	統合アプライアンスがメッセージ・ロードに基づいて開く、追加の SAP 接続数 (最大で指定数まで) を指定します。
maxIdleTime	統合アプライアンスによって閉じられるまで SAP 接続を開いたままアイドル状態にすることができる時間 (分) を指定します。


3. オーケストレーション変数と IDOC 入力パラメーターおよびテーブル間のマップを作成します。マップの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

SAP オーケストレーションのデプロイに関する注意事項

Web 管理コンソールを使用して SAP アクティビティーでオーケストレーションをデプロイするためには、まず統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できるようにしておく必要があります。統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できない場合、オーケストレーションはデプロイされません。

親トピック: [SAP アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_Send_IDOC_Activity.html

「SAP: RFC の受信」 アクティビティー

SAP 「RFC の受信」 アクティビティーを使用して、実行時にサーバーとして機能させ、構成済み SAP エンドポイントで listen させます。アクティビティーは、指定された SAP エンドポイントから RFC を受信し、それを XML データに変換します。SAP 「RFC の受信」 アクティビティーは、スターター・アクティビティーです。このアクティビティーは、同期モードで構成することも、非同期モードで構成することもできます。

SAP 「RFC の受信」 アクティビティーの場合、インバウンド・ゲートウェイ接続パラメーターを指定する必要があります。「RFC の受信」 アクティビティーは、エンドポイント内の構成済みプログラム ID からの要求のみを受け入れます。詳細については、『[SAP エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

Studio から SAP システムに接続するには、Windows の開発マシン上に、SAP Jar ファイルおよび DLL をダウンロードおよびインストールする必要があります。詳しくは、『[SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)』を参照してください。

注: SAP 「RFC の受信」 アクティビティーを含むオーケストレーションを非同期モードで実行するためには、パーシスタンスが有効になっている必要があります。詳しくは、『[パーシスタンスを使用可能にする](#)』を参照し

てください。

SAP 「RFC の受信」 アクティビティのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、「SAP」フォルダーを展開します。
3. 「RFC の受信」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティを選択します。「チェックリスト」が表示されます。

SAP エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティの構成』手順に進んでください。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」パネルが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」パネルが表示されます。
2. SAP エンドポイントを作成または編集します。

アクティビティの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」パネルが表示されます。
2. 「RFC 名」フィールドで「参照...」をクリックします。「RFC リスト」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 次の例のように、「RFC 検索パターン」フィールドに文字とワイルドカード文字 * の組み合わせを入力して、必要な RFC 名を検索します。
 - AB* – 名前が接頭部 AB で始まるすべての RFC を検索します。
 - AB*TRANSACTION – 接頭部 AB で始まりストリング TRANSACTION で終わるすべての RFC を検索します。

SAP システムが探索され、ワイルドカード式に一致する RFC 名が「適合する SAP 関数」テーブルにリストされます。
4. 「オプション」パネルの「同期モード (Synchronous mode)」チェック・ボックスは、選択することもクリアすることもできます。この処理は同期的に行うことも、非同期的に行うこともできます。デフォルトでは、「RFC の受信」アクティビティは非同期モードで構成されます。
 - **同期モード** - 処理中に SAP と Cast Iron (SAP 「RFC の受信」アクティビティ) の両方が使用可能になっている必要があります。SAP は Cast Iron に対して RFC 要求を送信し、「RFC の受信」アクティビティからの応答を待ちます。
 - **非同期モード** - SAP が関数呼び出しを行うときに SAP 「RFC の受信」アクティビティが使用可能になっている必要はありません。SAP は Cast Iron に対して RFC 要求を送信し、「RFC の受信」アクティビティからの応答を待ちません。
5. 「適合する SAP 関数」テーブルから SAP 関数を 1 つ選択し、「OK」をクリックします。

アクティビティーの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」で「出力のマッピング」タスクを選択します。アクティビティーの出力パラメーターが、「アクティビティーから」パネルに表示されます。選択された RFC から生成された XML スキーマが、アクティビティーの出力パラメーターになります。
2. RFC の出力パラメーターおよび表と、オーケストレーション変数との間のマッピングを作成します。マッピングの一般的な説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

SAP オーケストレーションのデプロイに関する注意事項

WMC を使用して SAP アクティビティーでオーケストレーションをデプロイするためには、まず統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できるようにしておく必要があります。統合アプライアンスが SAP システムへの接続を確立できない場合、オーケストレーションはデプロイされません。

親トピック: [SAP アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_Receive_RFC_Activity.html

SAP 「RFC 応答の送信」 アクティビティー

SAP 「RFC 応答の送信」 アクティビティーは、SAP 「RFC の受信」 要求の送信者 (SAP) に応答を送信します。

「RFC 応答の送信」 アクティビティーは、オーケストレーションで「RFC の受信」 アクティビティーと組み合わせて使用する必要があります。「RFC 応答の送信」 アクティビティーをオーケストレーションに追加する場合は、「RFC の受信」 アクティビティーの「構成」タスクで「同期モード (Synchronous mode)」チェック・ボックスを選択する必要があります。

「RFC 応答の送信」 アクティビティーのオーケストレーションへの追加

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択し、SAP フォルダーを展開します。
3. 「RFC 応答の送信」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示され、「プロパティー」ペインで「構成」タスクがアクティブになります。「プロパティー」ペインは、オーケストレーションのグラフィカル表現の下にあります。

アクティビティーの構成


1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールド	説明
宛先	<p>この「RFC 応答の送信」アクティビティに関連付けられている SAP 「RFC の受信」アクティビティを指定します。実行時に、関連付けられた「RFC の受信」アクティビティが SAP から要求を受信し、要求を処理して、その出力を「RFC 応答の送信」に送信します。「RFC 応答の送信」アクティビティは応答を SAP に返信します。</p> <p>注: このフィールドには、SAP 「RFC の受信」アクティビティの「構成」タスクで「同期モード (Synchronous mode)」チェック・ボックスを選択した場合にのみ、データが取り込まれます。</p>

親トピック: [SAP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SAP_Send_Response_Activity.html

トラブルシューティングとサポート

トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。このトピックでは、SAP コネクターで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

日付および時刻フィールド値でサポートされる形式

以下の表で、SAP コネクターのすべてのアクティビティの日付および時刻フィールド値でサポートされる形式について説明します。

表 1. 日付および時刻フィールド値の形式

フィールド	入力パラメーター (非スターター・アクティビティ)	出力パラメーター (スターターおよび非スターター・アクティビティ)
日付	yyyy-mm-dd または yyyyymmdd	yyyymmdd
時刻	hh:mm:ss または hhmmss	hhmmss

SAP コネクター・バージョン 6.0.x 以前のバージョンの日付および時刻フィールド値の入出力パラメーターでサポートされる形式は、それぞれ yyyy-mm-dd および hh:mm:ss です。

同じ RFC プログラム ID を使用して、「RFC の受信」アクティビティと「IDOC の受信」アクティビティをともなうオーケストレーションをデプロイするときにスローされる例外

問題: 同じ SAP RFC プログラム ID を使用して、「RFC の受信」アクティビティと「IDOC の受信」アクティビティをともなうオーケストレーションをデプロイするときに、次の例外がスローされます。

```
java.lang.RuntimeException: An attempt to start a JCoIDocServer failed. There might
be an existing JCoServer with the same server configuration, else try restarting
your server
at
com.ibm.j2ca.sap.inbound.SapJCoServerBuilder.verfiyServerConfiguration(SapJCoServerB
uilder.java:403)
at
com.ibm.j2ca.sap.inbound.SapJCoServerBuilder.createServer(SapJCoServerBuilder.java:9
6)
at
com.ibm.j2ca.sap.inbound.SAPEventListenerManager.buildEventListener(SAPEventListene
rManager.java:149)
at
com.ibm.j2ca.sap.inbound.SAPEventListenerManager.startEventListeners(SAPEventListene
rManager.java:132)
at com.ibm.j2ca.sap.inbound.EndpointManager.addEndpoint(EndpointManager.java:68)
at
com.ibm.j2ca.sap.SAPResourceAdapter.endpointActivation(SAPResourceAdapter.java:266)
at
com.approuter.module.sap.activity.ReceiveIDOCActivity.activate(ReceiveIDOCActivity.j
ava:222)
at com.approuter.maestro.activities.BaseModule.activate(BaseModule.java:296)
at com.approuter.maestro.vm.Program.start(Program.java:796)
at com.approuter.maestro.vm.Kernel.startOrchestration(Kernel.java:704)
at com.approuter.maestro.management.Loader$1.run(Loader.java:461)
at java.lang.Thread.run(Thread.java:736)
```

原因: SAP JCo では、指定された一連のサーバー構成を持つ JCoServer の 1 つのインスタンスのみを Java 仮想マシン (JVM) 内で実行できます。同じサーバー構成を持つ別の JCoServer を同じ JVM で実行することはできません。JCo は、サーバーを再始動できないことを示すエラーをスローします。「IDOC の受信」アクティビティと「RFC の受信」アクティビティは、オーケストレーションでの同じ SAP プログラム ID の使用をサポートしません。

解決方法: 異なる SAP プログラム ID を使用して、「RFC の受信」アクティビティと「IDOC の受信」アクティビティを持つオーケストレーションをデプロイし、IDOC と RFC 用に個別のエンドポイントを作成するようにしてください。

「202 会話の最大数を超えました (Maximum number of 202 conversations exceeded)」というエラーを回避するための推奨方法

SAP コネクタの使用時に「202 会話の最大数を超えました (Maximum number of 202 conversations exceeded)」というエラーが表示される場合は、以下の構成を行うことが推奨されています。

エラー

```
LOCATION      CPIC (TCP/IP) on local host with Unicode
ERROR       max no of 202 conversations exceeded
TIME        <Day> <Date> <Time> <Year>
RELEASE     720
COMPONENT   CPIC (TCP/IP) with Unicode
```

以下の推奨は、ロードと並列要求の数に応じて異なります。

1. 未使用の接続が自動的に終了されるように、エンドポイント構成でタイムアウト値を減らします。
2. より多くの RFC 接続をサポートするように、Cast Iron ランタイムと SAP ゲートウェイを構成します。
 - a. Cast Iron ランタイムの環境値 `CPIC_MAX_CONV` を >100 に設定します。 `maestro.sh` を更新して、環境変数を設定します。このステップは「スケジュール A」に記載されています。
 - b. 多数の並列接続をサポートするために、SAP ゲートウェイのプロファイル値 `gw/max_conn` と `gw/max_sys` を増加させます。また、メモリーのボトルネックに遭遇する場合は、`gw/max_overflow_size` と `gw/max_shm_req` の値を増加させます。
 - c. SAP エンドポイントの最大接続数の値を現実的な値に設定します。ロードと並列要求に応じて、アプライアンスは生成または受信のどちらか一方を行います。
 - d. SAP エンドポイントのサーバー・インスタンス値を 10 に設定します。
3. サンプルの値:

```
SAP-Gateway
```

```
gw/max_conn=2000, gw/max_sys=1200
```

```
gw/max_overflow_size =40000000, gw/max_shm_req = 200 (this is to adjust the  
memory allocation)
```

```
CPIC_MAX_CONV=5000
```

スケジュール A

1. アプライアンス・シェルにログオンします (システム・シェルにログオンするには、IBM サポートに連絡し、アプライアンス・シェル鍵を入手してください)。
2. `/usr/ironhide/bin` フォルダーに移動します。 `maestro.sh` のバックアップを作成します (`maestro.sh` を `maestro.sh.old` にコピーします)。
3. `maestro.sh` を編集します。

```
move to line  
# Version of java currently in use.  
if [ -z $JAVA_HOME ]; then  
    JAVA_HOME=/usr/java/default  
fi
```

```
JAVA="{JAVA_HOME}/bin/java"
```

4. 以下の行を追加します。

```
## maximum SAP conversations allowed  
export CPIC_MAX_CONV=500
```

5. 保存して終了します。
6. システム・シェルを終了し、アプライアンス・ランタイムを再始動するために、`system restart` コマンドを実行します。

JRE を 32 ビットから 64 ビットにアップグレードする

問題: 前のバージョンのアプライアンスで実行されている SAP プロジェクトがあるとき、アプライアンスをバージョン 7.0 以降にアップグレードすると、SAP プロジェクトが開始せず、以下のエラーが発生します。

- WMC でスローされるエラーの例

```
Start of Orchestration config-  
url://SAP_BAPI/1.0/Default/Orchestrations/Orchestration failed:  
java.lang.ExceptionInInitializerError: Error
```

```
getting the version of the native layer:
java.lang.UnsatisfiedLinkError: sapjco3
(/usr/ironhide/lib/thirdparty/libsapjco3.so:
wrong ELF class: ELFCLASS32).
```

```
Required SAP JCO library is not found.
Install version 3.x SAP JCO library (.dll or .so based on platform)
```

- maestro.out ログに記録された例外の例

```
java.lang.UnsatisfiedLinkError: sapjco3
(/usr/ironhide/lib/thirdparty/libsapjco3.so: wrong ELF class: ELFCLASS32)
    at java.lang.ClassLoader.loadLibraryWithPath(ClassLoader.java:1030)
    at
java.lang.ClassLoader.loadLibraryWithClassLoader(ClassLoader.java:994)
    at java.lang.System.loadLibrary(System.java:507)
    at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.loadLibrary(DefaultJCoRuntime.java:481)
    at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.registerNativeMethods(DefaultJCoRuntime.j
ava:347)
    at com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntime.registerNatives(JCoRuntime.java:1108)
    at com.sap.conn.rfc.driver.CpicDriver.<clinit>(CpicDriver.java:954)
    at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl(Native Method)
    at java.lang.J9VMInternals.initialize(J9VMInternals.java:200)
    at
com.sap.conn.rfc.engine.DefaultRfcRuntime.getVersion(DefaultRfcRuntime.java:43)
    at com.sap.conn.rfc.api.RfcApi.RfcGetVersion(RfcApi.java:237)
    at com.sap.conn.jco.rt.MiddlewareJavaRfc.<clinit>
(MiddlewareJavaRfc.java:215)
    at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl(Native Method)
    at java.lang.J9VMInternals.initialize(J9VMInternals.java:200)
    at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.initialize(DefaultJCoRuntime.java:77)
    at com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntimeFactory.<clinit>
(JCoRuntimeFactory.java:23)
    at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl(Native Method)
    at java.lang.J9VMInternals.initialize(J9VMInternals.java:200)
    at java.lang.Class.forNameImpl(Native Method)
    at java.lang.Class.forName(Class.java:182)
    at com.sap.conn.jco.JCo.createJCo(JCo.java:52)
    at com.sap.conn.jco.JCo.<clinit>(JCo.java:26)
    at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl(Native Method)
    at java.lang.J9VMInternals.initialize(J9VMInternals.java:200)
    at java.lang.Class.forNameImpl(Native Method)
    at java.lang.Class.forName(Class.java:182)
    at
com.approuter.module.sap.SAPActivator.checkSAPInstalled(SAPActivator.java:101)
    at
com.approuter.module.sap.activity.SAPBaseActivity.checkSapSetup(SAPBaseActivi
ty.java:498)
    at
com.approuter.module.sap.activity.SAPBaseActivity.generateSchemas(SAPBaseActi
ty.java:172)
    at
com.approuter.module.sap.activity.SapSendRfcData.activate(SapSendRfcData.java:1
12)
    at
com.approuter.maestro.activities.BaseModule.activate(BaseModule.java:301)
    at com.approuter.maestro.vm.Program.start(Program.java:768)
    at com.approuter.maestro.vm.Kernel.startOrchestration(Kernel.java:739)
    at com.approuter.maestro.management.Loader$1.run(Loader.java:455)
    at java.lang.Thread.run(Thread.java:738)
java.lang.ExceptionInInitializerError: Error getting the version of the native
```

```

layer: java.lang.UnsatisfiedLinkError: sapjco3
(/usr/ironhide/lib/thirdparty/libsapjco3.so: wrong ELF class: ELFCLASS32)
  at com.sap.conn.jco.rt.MiddlewareJavaRfc.<clinit> (MiddlewareJavaRfc.java:227)
  at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl (Native Method)
    at java.lang.J9VMInternals.initialize (J9VMInternals.java:200)
    at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.initialize (DefaultJCoRuntime.java:77)
  at com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntimeFactory.<clinit> (JCoRuntimeFactory.java:23)
  at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl (Native Method)
    at java.lang.J9VMInternals.initialize (J9VMInternals.java:200)
    at java.lang.Class.forNameImpl (Native Method)
    at java.lang.Class.forName (Class.java:182)
    at com.sap.conn.jco.JCo.createJCo (JCo.java:52)
  at com.sap.conn.jco.JCo.<clinit> (JCo.java:26)
at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl (Native Method)
  at java.lang.J9VMInternals.initialize (J9VMInternals.java:200)
  at java.lang.Class.forNameImpl (Native Method)
  at java.lang.Class.forName (Class.java:182)
  at
com.approuter.module.sap.SAPActivator.checkSAPInstalled (SAPActivator.java:101)
  at
com.approuter.module.sap.activity.SAPBaseActivity.checkSapSetup (SAPBaseActivity
.java:498)
  at
com.approuter.module.sap.activity.SAPBaseActivity.generateSchemas (SAPBaseActivi
ty.java:172)
  at
com.approuter.module.sap.activity.SapSendRfcData.activate (SapSendRfcData.java:1
12)
  at
com.approuter.maestro.activities.BaseModule.activate (BaseModule.java:301)
  at com.approuter.maestro.vm.Program.start (Program.java:768)
  at com.approuter.maestro.vm.Kernel.startOrchestration (Kernel.java:739)
  at com.approuter.maestro.management.Loader$1.run (Loader.java:455)
  at java.lang.Thread.run (Thread.java:738)
2013-08-22 09:18:25.013 SEVERE [T-10]
[orc:SAP_BAPI/1.0/Default/Orchestrations/Orchestration]
[com.approuter.module.common.util.LogHelper] Required SAP JCO native library is
not found. Install version 3.x SAP JCO native library(.dll or .so based on
platform).
java.lang.RuntimeException: java.lang.ExceptionInInitializerError: Error
getting the version of the native layer: java.lang.UnsatisfiedLinkError:
sapjco3 (/usr/ironhide/lib/thirdparty/libsapjco3.so: wrong ELF class:
ELFCLASS32)
  at
com.approuter.module.sap.activity.SAPBaseActivity.checkSapSetup (SAPBaseActivity
.java:509)
  at
com.approuter.module.sap.activity.SAPBaseActivity.generateSchemas (SAPBaseActivi
ty.java:172)
  at
com.approuter.module.sap.activity.SapSendRfcData.activate (SapSendRfcData.java:1
12)
  at
com.approuter.maestro.activities.BaseModule.activate (BaseModule.java:301)
  at com.approuter.maestro.vm.Program.start (Program.java:768)
  at com.approuter.maestro.vm.Kernel.startOrchestration (Kernel.java:739)
  at com.approuter.maestro.management.Loader$1.run (Loader.java:455)
  at java.lang.Thread.run (Thread.java:738)
Caused by: java.lang.ExceptionInInitializerError: Error getting the version of
the native layer: java.lang.UnsatisfiedLinkError: sapjco3
(/usr/ironhide/lib/thirdparty/libsapjco3.so: wrong ELF class: ELFCLASS32)
  at com.sap.conn.jco.rt.MiddlewareJavaRfc.<clinit> (MiddlewareJavaRfc.java:227)
  at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl (Native Method)

```

```
at java.lang.J9VMInternals.initialize(J9VMInternals.java:200)
at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.initialize(DefaultJCoRuntime.java:77)
at com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntimeFactory.<clinit>(JCoRuntimeFactory.java:23)
at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl(Native Method)
at java.lang.J9VMInternals.initialize(J9VMInternals.java:200)
at java.lang.Class.forNameImpl(Native Method)
at java.lang.Class.forName(Class.java:182)
at com.sap.conn.jco.JCo.createJCo(JCo.java:52)
at com.sap.conn.jco.JCo.<clinit>(JCo.java:26)
at java.lang.J9VMInternals.initializeImpl(Native Method)
at java.lang.J9VMInternals.initialize(J9VMInternals.java:200)
at java.lang.Class.forNameImpl(Native Method)
at java.lang.Class.forName(Class.java:182)
at
com.approuter.module.sap.SAPActivator.checkSAPInstalled(SAPActivator.java:101)
at
com.approuter.module.sap.activity.SAPBaseActivity.checkSapSetup(SAPBaseActivity
.java:498)
```

原因:

前のバージョンの Cast Iron アプライアンス (バージョン6.3 以前) では、32 ビット SAP JCO ライブラリーが使用されていました。Cast Iron アプライアンスのバージョン 7.0 以降では、64 ビット SAP JCO ライブラリーを使用する必要があります。

解決方法:

以下のステップを実行することで、32 ビット SAP JCO ライブラリーの `sapjco3.jar` と `libsapjco3.so` を削除し、64 ビット SAP JCO ライブラリーをロードします。

SAP JCO ライブラリーのアップグレード:

1. SAP 技術サポートに連絡して、SAP コンポーネントの圧縮ファイルを入手します。
 - o Linux AMD 64 ビット・プラットフォーム向けの SAP JCO リリース 3.0.6 以降のバージョン。例
例えば、`sapjco3-linuxx86_64-3.0.10.tgz`。
2. WMC で「システム」>「アップグレード」>「コネクタ・ライブラリーの更新」に進みます。
3. 「コネクタ・ライブラリーの更新」ウィンドウで、「コネクタ」リストから SAP コネクタを選択します。
4. 「インストール済みファイル」リストに表示された既存の SAP JCO ライブラリーを削除し、アプライアンスを再始動します。
5. アプライアンスの再始動後、「システム」>「アップグレード」>「コネクタ・ライブラリーの更新」に進みます。
6. 新たにダウンロードした SAP JCO 64 ビット・ライブラリーをアップロードします。ライブラリーのアップロード後、アプライアンスの再始動を求めるプロンプトが表示されます。
7. アプライアンスを再始動し、SAP プロジェクトを開始します。すべての SAP オーケストレーションが、エラーなしで開始します。

親トピック: [SAP アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

ServiceMax アクティビティ

- **ServiceMax エンドポイントの作成または編集**
ServiceMax エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが ServiceMax インスタンスに接続するために使用する情報を提供します。
- **ServiceMax アクティビティの構成**
ServiceMax オブジェクトから、マップするフィールドを選択することは、ServiceMax アクティビティを構成するために完了する必要があるタスクの 1 つです。「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な ServiceMax アクティビティのヘルプ・トピックを参照してください。
- **ServiceMax 構成プロパティの設定**
構成プロパティに対する変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルなものです。
- **ServiceMax アクティビティのための「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定**
「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定は、ServiceMax アクティビティを構成するために実行する必要があるタスクの 1 つです。ServiceMax コネクタは、SSL 経由の HTTP 1.1 持続接続を使用して、ServiceMax サーバーへのすべての接続を実行します。ServiceMax コネクタは、gzip 形式を使用して要求と応答のすべてのデータを圧縮します。
- **ServiceMax コネクタのポーリング・プリファレンスの理解および設定**
- **「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ**
このアクティビティでは、最近作成または更新されたオブジェクトについて ServiceMax サーバーがポーリングされ、「構成」パネルで選択されたオブジェクト・フィールドがすべて統合アプライアンスに返されます。Studio で、このアクティビティのポーリング間隔を構成します。
- **更新済みオブジェクトの取得**
- **「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ**
このアクティビティでは、最近削除されたオブジェクトについて ServiceMax サーバーがポーリングされ、統合アプライアンスに ID が返されます。
- **削除済みオブジェクトの取得**
このアクティビティは、指定されたオブジェクトについて指定された期間内に削除された個々のオブジェクトのリストを取得します。
- **「オブジェクトの作成」アクティビティ**
このアクティビティは、1 つ以上の ServiceMax オブジェクトを作成する場合に使用します。「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの作成」アクティビティを見つけます。
- **「オブジェクトの更新」アクティビティ**
このアクティビティは、ServiceMax で既存のオブジェクトを更新する場合に使用します。
- **「オブジェクトのアップサート」アクティビティ**
このアクティビティは、ServiceMax で既存のオブジェクトを更新したり新規オブジェクトを作成したりする場合に使用します。
- **「オブジェクトの削除」アクティビティ**
このアクティビティは、ServiceMax で 1 つ以上のオブジェクトを削除する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで削除できるオブジェクトの数が 200 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® ServiceMax コネクタではそのような制限はありません。「オブジェクトの削除」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを削除できます。
- **「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティ**
- **「オブジェクトの取得」アクティビティ**
このアクティビティは、指定のタイプの ServiceMax オブジェクトを 1 つ以上取得する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで取得できるオブジェクトの数が 2,000 個に制限されて

いますが、Cast Iron ServiceMax コネクタではそのような制限はありません。「オブジェクトの取得」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを取得できます。

- 「オブジェクトの照会」アクティビティ

このアクティビティから1つ以上のSalesforce.com オブジェクト・タイプに対して照会を実行して、結果セットを返すには、Sforce Object Query Language (SOQL) を使用します。「オブジェクトの照会」アクティビティでは、自動的にquery呼び出しまたはqueryAll呼び出しが実行され、その後でSalesforce.com から返されたすべての子およびオブジェクトに対して連続queryMore呼び出しが実行されます。

- 「オブジェクトの照会」アクティビティの構成

「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、Sforce Object Search Language (SOSL) 照会を作成する必要があります。以下のセクションでは、「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成、SOSL 照会の作成、およびIBM® Cast Iron のSOSL 構文ルールの指定を行う手順について説明します。

- 「オブジェクト内の検索」アクティビティ

- 「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成

「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、Sforce Object Search Language (SOSL) 照会を作成する必要があります。

- 「リードの変換」アクティビティ

このアクティビティは、ServiceMax でリードを顧客、連絡先、または機会に変換する場合に使用します。Salesforce.com API では、1回の呼び出しで変換できるオブジェクトの数が100個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron ServiceMax コネクタではそのような制限はありません。「リードの変換」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを変換できます。

- 「オブジェクトのマージ」アクティビティ

このアクティビティを使用して、ServiceMax オブジェクトを単一のレコードにマージします。

- 「ユーザー情報の取得」アクティビティ

ServiceMax サーバーからユーザー情報を取得するには、このアクティビティを使用します。「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「ユーザー情報の取得」アクティビティを見つけます。

- 「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティ

ServiceMax サーバーから現在時刻を取得するには、このアクティビティを使用します。「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティを見つけます。

- 「Eメールの送信」アクティビティ

このアクティビティを使用して、1つまたは複数のEメールを送信します。このEメールには、Eメール・アドレス、件名行、カーボン・コピーなど、標準のEメール属性がすべて含まれます。


- 「パスワードの設定」アクティビティ

このアクティビティを使用して、ユーザーまたはSelfServiceUserのパスワードを指定の値に変更します。

- 「パスワードのリセット」アクティビティ

このアクティビティを使用して、ユーザーのパスワードをシステム生成の値に再設定します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_servicemaxactivities.html

ServiceMax エンドポイントの作成または編集

ServiceMax エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが ServiceMax インスタンスに接続するために使用する情報を提供します。

このタスクについて

編集はグローバルでありローカルではないので、構成プロパティーを含め、エンドポイントに対して行うすべての変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

手順

1. 「アクティビティー」タブの「ServiceMax」フォルダーからオーケストレーションへアクティビティーをドラッグします。

「要約」パネルにチェックリストが示され、アクティビティーを構成するために実行しなければならないタスクがリストされます。

2. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」タスクをクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが開きます。

3. 以下のオプションのいずれかをクリックします。

- 参照...: 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。エンドポイントのプロパティーを編集するには、「編集」をクリックします。ステップ 5 に進みます。
- 新規作成: 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。ステップ 5 に進みます。
- 編集: 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。ステップ 5 に進みます。

注: 編集はグローバルでありローカルではないので、エンドポイントを編集すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。

4. エンドポイント・ウィンドウで、ServiceMax インスタンスにアクセスするためのユーザー名とパスワードを指定します。
 - a. ユーザー名を入力するか、または「ユーザー名」フィールドの右側のアイコンをクリックして、構成プロパティーを選択します。
 - b. パスワードを入力するか、または「パスワード」フィールドの右側のアイコンをクリックして、構成プロパティーを選択します。
5. ログイン・オプションを選択します。

ログイン・オプション	説明
通常ログイン	デフォルトでは、「ログイン」が選択されています。実行時に、統合アプライアンスは ServiceMax の実動インスタンスにアクセスします。
ServiceMax サンドボックスへのログイン	実行時に、統合アプライアンスは実動システムのコピーにアクセスします。サンドボックスでは実動データに影響を与えずにテストを実行できます。
指定のパートナー WSDL ログイン URL にログイン	実行時に、統合アプライアンスは「ログイン URL」フィールドに指定した URL にアクセスします。
ログイン URL	「指定のパートナー WSDL ログイン URL にログイン」オプションを選択し

た場合にのみ必須です。

- 「接続タイムアウト」パラメーターを指定します。デフォルトでは、300 秒後に ServiceMax エンドポイントに接続できていない場合、統合アプライアンスはタイムアウトになります。
- プロキシ・サーバーを介して接続する場合は、次の表に示されたフィールドに入力します。

オプション	説明
プロキシ・サーバーを介した接続	プロキシ・サーバーを介して接続するには、このチェック・ボックスを選択してこれらのフィールドを使用可能にします。
認証	統合アプライアンスがプロキシ・サーバーへの接続時に使用する認証のタイプを示します。以下のいずれかの認証オプションをリストから選択してください。 <ul style="list-style-type: none">基本 (Basic) - 指定したユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーへ送信します。これは、最も保護レベルの低い認証スキーマです。NTLM - サーバーのドメイン・ネームで NTCredentials のインスタンスを使用可能にすることを要求します。この認証は、最も保護レベルの高い認証オプションです。NTLM 認証オプションを選択した場合、統合アプライアンスは、要求ではなく接続を認証します。そのため、統合アプライアンスは、新しい接続が確立されるたびに認証を行います。認証プロセス中は、接続を開いたままにしておく必要があります。NTLM を使用して、プロキシとサーバーの両方で認証を行うことはできません。
レルム/ドメイン	認証オプションとして「Basic」を選択した場合は、レルムを指定してください。認証オプションとして「NTLM」を選択した場合は、ドメインを指定してください。
ホスト名	プロキシ・サーバーのホスト名を指定します。
ポート	プロキシ・サーバーへの接続に必要なポート番号を指定します。
ユーザー名	プロキシ・サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。
パスワード	プロキシ・サーバーへの接続に必要なパスワードを指定します。

- 「接続のテスト」をクリックして、指定したパラメーターによってプロジェクトが ServiceMax インスタンスにアクセスできることを確認します。

注: ServiceMax エンドポイントが構成プロパティを使用するように構成する場合、構成プロパティの値が有効であることを確認してください。構成プロパティの値が無効であるか、存在しない場合、接続テストは失敗します。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Creating_or_Editing_an_Endpoint.html

ServiceMax アクティビティの構成

ServiceMax オブジェクトから、マップするフィールドを選択することは、ServiceMax アクティビティを構成するために完了する必要があるタスクの1つです。「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な ServiceMax アクティビティのヘルプ・トピックを参照してください。

このタスクについて

エンドポイントの一部のフィールドには、これらのフィールドの値を提供するために、[構成プロパティ](#)を作成できます。構成プロパティをサポートするフィールドをクリックしたときに、同じタイプの構成プロパティがプロジェクトで既に構成されている場合は、アイコンが表示されます。

手順

1. 「チェックリスト」で「構成」を選択します。「構成」パネルが開きます。
2. 「参照...」をクリックして、ServiceMax オブジェクト・タイプを選択します。「ServiceMax オブジェクトの選択」ウィンドウには、Studio アクティビティと関連付けられているすべての ServiceMax オブジェクトが表示されます。
3. リストからオブジェクト・タイプ・リストを選択します。
注: カスタム・オブジェクト・タイプの末尾には、二重下線 `c(__c)` が付きます。例えば、`CustomerPriority__c` となります。

「オブジェクト・タイプの検索」フィールドに文字またはストリングを入力すると、Studio はオブジェクト・タイプをフィルタリングし、フィルター基準に一致するオブジェクト・タイプのみを表示します。(オプション) リフレッシュ・アイコンをクリックすると、最新の ServiceMax オブジェクト・タイプが取得されます。


4. 「OK」をクリックします。
選択したオブジェクト・タイプに関連するすべてのフィールドが表示されます。
5. 「オブジェクト・フィールド設定」セクションで、マップするフィールドを選択します。

デフォルトでは、すべてのフィールドが選択されています。マップに表示したくないフィールドはどれでも選択して消去できます。グローバル・チェック・ボックスにより、すべてのフィールドを一度に選択して消去できます。

注: 「Id」フィールドは、多くのアクティビティに必須です。それらのアクティビティの場合には、「ID」フィールドは使用不可になっており、そのフィールドを消去することはできません。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Configuring_Activities.html

ServiceMax 構成プロパティの設定


構成プロパティに対する変更は、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。編集はローカルではなく、グローバルなものです。

手順

1. 「プロジェクト」 > 「構成プロパティ」を選択します。「構成プロパティ」ウィンドウが開きます。
2. servicemax_password プロパティの「値」フィールドをクリックし、有効なパスワードを入力します。
3. servicemax_login プロパティの「値」フィールドをクリックし、有効な ServiceMax ログインを入力します。
4. 「OK」をクリックします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Setting_Configuration_Properties.html

ServiceMax アクティビティのための「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定

「再試行」および「タイムアウト」パラメーターの指定は、ServiceMax アクティビティを構成するために実行する必要があるタスクの1つです。ServiceMax コネクターは、SSL 経由の HTTP 1.1 持続接続を使用して、ServiceMax サーバーへのすべての接続を実行します。ServiceMax コネクターは、gzip 形式を使用して要求と応答のすべてのデータを圧縮します。

このタスクについて

ServiceMax コネクタでは、ServiceMax エンドポイントへのすべての接続について単一のログイン・セッションを使用します。セッションの有効期限が切れると、コネクタは自動的に新規セッションを確立します。ServiceMax コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。ServiceMax コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクタの標準的な再試行動作と見なします。

「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な ServiceMax アクティビティのヘルプ・トピックを参照してください。

手順


1. 「チェックリスト」で、「再試行」を選択します。「再試行」パネルが開きます。
2. ServiceMax インスタンスに接続するための再試行オプションを構成します。

次の表で、ServiceMax インスタンスに接続するための再試行オプションについて説明します。

再試行フィールド	説明
再試行ごとに __ 秒待機します。	統合アプライアンスが ServiceMax インスタンスへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。 デフォルトでは、このパラメーターは 30 秒に設定されます。
失敗するまで __ 回の接続を試みます。	統合アプライアンスが ServiceMax インスタンスへの接続を確立しようとする場合に、エラーを出して現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止するまでの最大試行回数を指定します。 デフォルトでは、このパラメーターは 5 回に設定されています。
「アクティビティ・タイムアウト」のフィールド	説明
エンドポイントが要求に応答しないとき、__ 秒後にタイムアウトになります。	アクティビティがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答するまでに要する時間のうち、タイムアウトが発生するまでの秒数を指定します。 デフォルトでは、このパラメーターは 300 秒に設定されています。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Specifying_the_Retry_and_Time_Out_Parameters_for_Activities.html

ServiceMax コネクタのポーリング・プリファレンスの理解および設定

このタスクについて

ServiceMax コネクタには、変更について ServiceMax サーバーをポーリングする 2 つのアクティビティーが含まれています。

- 「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティー
- 「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティー

これらのアクティビティーの開始動作を以下に示します。

- デployされたことがないオーケストレーションに関しては、アクティビティーが始めてアクティブにされたときにベースライン・タイム・スタンプが設定されます。ポーリング間隔の経過後に変更についてポーリングするために開始時刻としてベースライン・タイム・スタンプがアクティビティーで使用されます。ポーリングが完了すると、アクティビティーによって最終ポーリング時刻が保管されます。
- 以前にデployされたオーケストレーションに関しては、ポーリング間隔の経過後に変更についてポーリングするために最終ポーリング時刻および現在時刻がアクティビティーで使用されます。
- ServiceMax では、各ポーリング間に少なくとも 60 秒が必要となります。経過した時間が 60 秒未満であると、アクティビティーでは、次のポーリング間隔が経過するまでは現在のポーリング間隔が無視されます。

手順

1. 「チェックリスト」で、「ポーリング」を選択します。

「ポーリング設定」パネルが開きます。

2. 以下のパラメーターに対してポーリング・プリファレンスを設定します。

ポーリング・プリファレンス	説明
変更のポーリング頻度: <i> <i> はポーリング間隔です。この間隔は、分数、時間数、または日数で指定できます。	前回のポーリング以降に作成または更新されたオブジェクトについて、統合アプライアンスが ServiceMax サーバーをポーリングするポーリング間隔を指定します。 デフォルトでは、統合アプライアンスは、5 分ごとに ServiceMax サーバーをポーリングします。
オーケストレーションごとに最大で <n> 個のオブジェクトをまとめる <n> は、バッチに含まれるオブジェクトの数です。	ポーリング間隔におけるオーケストレーション・ジョブあたりのオブジェクト・レコードの最大数を指定します。デフォルトでは、統合アプライアンスは、オーケストレーション・ジョブごとに 1 個のレコードを処理します。統合アプライアンスのパフォーマンスを調整するには、このプリファレンスを使用します。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Understanding_and_Setting_Polling_Preferences.html

「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ

このアクティビティでは、最近作成または更新されたオブジェクトについて ServiceMax サーバーがポーリングされ、「構成」パネルで選択されたオブジェクト・フィールドがすべて統合アプライアンスに返されます。Studio で、このアクティビティのポーリング間隔を構成します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. ServiceMax オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。
5. このアクティビティのポーリング・プリファレンスを指定します。
6. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティの出力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

「更新対象オブジェクトのポーリング」アクティビティの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティから」パネルに objects エlementが表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。


3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

出力マップは、以下の動作を伴うヌル可能フィールド・エレメントを持つことができます。

- 取得されるフィールドがヌルの場合、統合アプライアンスは結果において `xsi:nil` 属性を `true` に設定します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Poll_Updated_Objects_Activity.html

更新済みオブジェクトの取得

手順

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax ディレクトリーを開き、「更新されたオブジェクトの取得」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. ServiceMax オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。

統合アプライアンスが更新可能なオブジェクト・タイプおよびフィールドのみを選択できます。入力マップには、この構成ステップで選択するフィールドに対応するエレメントを持つオブジェクト・タイプが含まれています。

注: 統合アプライアンスは自動番号付けフィールドを作成できません。

5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティの入力をマップします。

入力マップは、オブジェクトの入力パラメーターから構成されます。このパラメーターは、1つの反復エレメントを持つ1つのルート・エレメントからなります。選択したオブジェクト・タイプの後に指定され、「オブジェクト・フィールド設定」テーブルで選択したすべてのフィールドが含まれます。

次のタスク

「更新済みオブジェクトの取得」の入力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティの入力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティーへ」パネルに `startDateTime` エlementが表示されます。

2. オプション: デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。

- `endTime`
- `CallOptions`
- `connection`
- `sessionInfo`

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

オプション・フィールド・Elementとヌル可能フィールド・Elementの動作は以下のとおりです。

- ServiceMax サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで `xsi:nil` 属性を `true` に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。

注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

次のタスク

「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティーの出力をマップします。

「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティーの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに `saveResults` Elementが表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティ

このアクティビティでは、最近削除されたオブジェクトについて ServiceMax サーバーがポーリングされ、統合アプライアンスに ID が返されます。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. ServiceMax オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。
5. このアクティビティのポーリング・プリファレンスを指定します。
6. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティの出力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

「削除対象オブジェクトのポーリング」アクティビティの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティから」パネルに objects エlement が表示されます。

2. 「出力の選択…」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。


マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

出力マップは、以下の動作を伴う **ヌル可能** フィールド・Element を持つことができます。

- 取得されるフィールドがヌルの場合、統合アプライアンスは結果において `xsi:nil` 属性を true に設定します。

- 入力 ID が無効である場合、または指定のオブジェクト・タイプを表していない場合、統合アプリケーションは、オブジェクト・エレメント全体で、結果セットにおけるそのエレメントの位置に関して `xsi:nil` を `true` に設定します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Poll_Deleted_Objects_Activity.html

削除済みオブジェクトの取得

このアクティビティーは、指定されたオブジェクトについて指定された期間内に削除された個々のオブジェクトのリストを取得します。

手順

1. 「アクティビティー」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「削除されたオブジェクトの取得」アクティビティーを見つけます。
2. アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティーの入力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティーの入力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティーへ」パネルに `startDateTime` エレメントが表示されます。

2. オプション: デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - `endDateTime`

- CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。
変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
 4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。
マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

次のタスク


「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティの出力をマップします。

「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。
「アクティビティから」パネルに deleteResults エlementが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。
変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。
マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Get_Deleted_Objects.html

「オブジェクトの作成」アクティビティ

このアクティビティは、1つ以上の ServiceMax オブジェクトを作成する場合に使用します。「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの作成」アクティビティを見つけます。

手順

1. アクティビティをオーケストレーションに追加します。
アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

2. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

3. ServiceMax オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。
4. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「オブジェクトの作成」アクティビティの入力をマップします。
親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

「オブジェクトの作成」アクティビティの入力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティへ」パネルに Objects エlementが表示されます。表示されるパラメーターは、ServiceMax オブジェクト・オペレーションへの入力の構造に対応しています。

2. オプション: デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。

- AssignmentRuleHeader
- MruHeader
- EmailHeader
- CallOptions
- connection
- sessionInfo

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

オプション・フィールド・Elementとヌル可能フィールド・Elementの動作は以下のとおりです。

- ServiceMax サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで `xsi:nil` 属性を `true` に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。
注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

次のタスク

「オブジェクトの作成」アクティビティの出力をマップします。

「オブジェクトの作成」アクティビティの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」を選択します。

「アクティビティから」パネルに saveResults エlementが表示されます。表示されるパラメーターは、「作成」アクティビティで返される saveResults 構造に対応しています。


2. 「出力の選択…」をクリックして、マッピングの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマッピングします。

マッピングの説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Create_Objects_Activity.html

「オブジェクトの更新」アクティビティ

このアクティビティは、ServiceMax で既存のオブジェクトを更新する場合に使用します。

このタスクについて

Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで更新できるオブジェクトの数が 200 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® ServiceMax コネクターではそのような制限はありません。「オブジェクトの更新」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを更新できます。

「オブジェクトの更新」アクティビティの使用

手順

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの更新」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
3. ServiceMax エンドポイントを選択します。ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
4. ServiceMax オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。統合アプライアンスが更新可能なオブジェクト・タイプおよびフィールドのみを選択できません。入力マッピングには、この構成ステップで選択するフィールドに対応する Element を持つオブジェクト・タイプが含まれています。
注: 統合アプライアンスは自動番号付けフィールドを作成できません。
5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

6. このアクティビティーの入力をマップします。入力マップは、オブジェクトの入力パラメーターで構成されます。このパラメーターは、1つの反復エレメントを持つ1つのルート・エレメントからなります。選択したオブジェクト・タイプの後に指定され、「オブジェクト・フィールド設定」テーブルで選択したすべてのフィールドが含まれます。
7. このアクティビティーの出力をマップします。

タスクの結果

「オブジェクトの更新」アクティビティーの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。「アクティビティーへ」ペインに **objects** エレメントが表示されます。
2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - AssignmentRuleHeader
 - MruHeader
 - EmailHeader
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

オプション・フィールド・エレメントとヌル可能フィールド・エレメントの動作は以下のとおりです。


- ServiceMax サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで `xsi:nil` 属性を `true` に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。
注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

「オブジェクトの更新」アクティビティーの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。「アクティビティーから」パネルに **saveResults** エレメントが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Update_Objects_Activity.html

「オブジェクトのアップサート」 アクティビティ

このアクティビティは、ServiceMax で既存のオブジェクトを更新したり新規オブジェクトを作成したりする場合に使用します。

このタスクについて

このアクティビティでは、外部 ID (通常は外部キー) によって、ServiceMax で既存のオブジェクトを更新するのか 新規オブジェクトを作成するのかが判別されます。

Salesforce.com API では、1 回の Upsert 呼び出しで作成できるオブジェクトの数が 200 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® ServiceMax コネクタではそのような制限はありません。「オブジェクトのアップサート」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを作成できます。

「オブジェクトのアップサート」アクティビティを使用するには、以下のようになります。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクトのアップサート」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
3. ServiceMax エンドポイントを選択します。ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
4. ServiceMax オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを**構成**します。
注: 選択できるオブジェクト・タイプは、統合アプライアンスが更新または作成できるオブジェクト・タイプで、かつ、少なくとも 1 つの「外部 ID」フィールドが含まれている オブジェクト・タイプのみです。オブジェクト・タイプを選択すると、「構成」ペインの「外部 ID」フィールドにオブジェクト・タイプで定義された外部 ID が Studio から表示されます。「外部 ID」リストにリストされる ID は編集できません。選択する外部 ID は必須フィールドです。このフィールドは、「オブジェクト・フィールド設定」テーブルからクリアできません。使用可能な外部 ID が 1 つのみの場合は、このフィールドが Studio によって「オブジェクト・フィールド設定」テーブルで自動的に選択されます。
5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを**指定**します。
6. このアクティビティの入力をマップします。
7. このアクティビティの出力をマップします。

タスクの結果

「オブジェクトのアップサート」アクティビティの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。「アクティビティへ」パネルに **objects** エlementが表示されます。
2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - AssignmentRuleHeader
 - MruHeader
 - EmailHeader
 - CallOptions
 - connection

- sessionInfo
- 3. 「入力の選択…」をクリックして、マップの入力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
- 4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

このアクティビティーでは、以下のオプション入力パラメーターがサポートされます。

- AssignmentRuleHeader
- EmailHeader
- MruHeader

オプション・フィールド・エレメントとヌル可能フィールド・エレメントの動作は以下のとおりです。


- ServiceMax サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで `xsi:nil` 属性を `true` に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。
注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

「オブジェクトのアップサート」アクティビティーの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。「アクティビティーから」パネルに **upsertResults** エレメントが表示されます。
2. 「出力の選択…」をクリックして、マップの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Upsert_Objects_Activity.html

「オブジェクトの削除」アクティビティー

このアクティビティーは、ServiceMax で 1 つ以上のオブジェクトを削除する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで削除できるオブジェクトの数が 200 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® ServiceMax コネクターではそのような制限はありません。「オブジェクトの削除」アクティビティーを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを削除できます。

手順

1. 「アクティビティー」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの削除」アクティビティーを見つけます。

2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「オブジェクトの削除」アクティビティの入力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

「オブジェクトの削除」アクティビティの入力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティへ」パネルに Ids エlementが表示されます。

2. オプション: デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。

- UserTerritoryDeleteHeader
- CallOptions
- connection
- sessionInfo

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

次のタスク

「オブジェクトの削除」アクティビティの出力をマップします。

「オブジェクトの削除」アクティビティの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティから」パネルに deleteResults Elementが表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Delete_Objects_Activity.html

「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティ

このタスクについて

このアクティビティは、ServiceMax で削除した 1 つ以上のオブジェクトを復元する場合に使用します。

「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティを使用するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティを見つけます。アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。
2. ServiceMax エンドポイントを選択します。ServiceMax の作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
3. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを[指定](#)します。
4. このアクティビティの入力をマップします。
5. このアクティビティの出力をマップします。

タスクの結果

「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティの入力をマップする


1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。「アクティビティへ」パネルに **ids** エlement が表示されます。
2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - connection
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「オブジェクトの削除を取り消す」アクティビティの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」を選択します。「アクティビティから」パネルに結果エレメントが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マッピングの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマッピングします。マッピングの説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Undelete_Objects_Activity.html

「オブジェクトの取得」アクティビティ

このアクティビティは、指定のタイプの ServiceMax オブジェクトを 1 つ以上取得する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで取得できるオブジェクトの数が 2,000 個に制限されていますが、Cast Iron® ServiceMax コネクタではそのような制限はありません。「オブジェクトの取得」アクティビティを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを取得できます。

「オブジェクトの取得」アクティビティの使用

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの取得」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. ServiceMax オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。

統合アプライアンスが Salesforce.com API を通じて取得できるオブジェクト・タイプのみが表示されません。

5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

「オブジェクトの取得」アクティビティの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」で「入力のマッピング」を選択します。

「アクティビティーへ」ペインに ids エlementが表示されます。このElementには、統合アプライアンスが ServiceMax から取得する ID のコレクションが含まれています。

2. (オプション) デフォルト・ノードを 右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - MruHeaderUser
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

オプション・フィールド・Elementとヌル可能フィールド・Elementの動作は以下のとおりです。

- 取得されるフィールドがヌルの場合、統合アプライアンスは結果において xsi:nil 属性を true に設定します。
- 入力 ID が無効である場合、または指定のオブジェクト・タイプを表していない場合、統合アプライアンスは、オブジェクト・Element全体で、結果セットにおけるそのElementの位置に関して xsi:nil を true に設定します。

「オブジェクトの取得」アクティビティーの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに objects Elementが表示されます。このElementには、構成手順においてフィールド・プリファレンス・テーブルで選択されたすべてのフィールドが含まれています。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Retrieve_Objects_Activity.html

「オブジェクトの照会」アクティビティー

このアクティビティから 1 つ以上の Salesforce.com オブジェクト・タイプに対して照会を実行して、結果セットを返すには、Sforce Object Query Language (SOQL) を使用します。「オブジェクトの照会」アクティビティでは、自動的に query 呼び出しまたは queryAll 呼び出しが実行され、その後で Salesforce.com から返されたすべての子およびオブジェクトに対して連続 queryMore 呼び出しが実行されます。

注: 「オブジェクトの照会」アクティビティを実行すると、照会結果を追跡するために Salesforce.com によってカーソルが開かれることがあります。このアクティビティが、Salesforce.com で各ユーザーに割り当てられたカーソル制限に達するか、またはカーソルの有効期限が過ぎると、統合アプライアンスはこのアクティビティを再試行します。

「オブジェクトの照会」アクティビティの使用

1. 「アクティビティ」タブで「Salesforce.com」ディレクトリーを開き、「オブジェクトの照会」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. Salesforce.com エンドポイントを選択します。

Salesforce.com エンドポイントの作成または編集についての説明は、『[Salesforce.com エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. 照会を指定して照会オプションを設定することで、このアクティビティを構成します。
5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
6. このアクティビティの入力をマップします。
7. このアクティビティの出力をマップします。

「オブジェクトの照会」アクティビティの入力をマップする

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティへ」パネルに parameters エlementが表示されます。このパラメーター・Elementは、SOQL 照会で指定されたパラメーターごとに子Elementを持ちます。照会におけるパラメーターのコンテキストによって、パラメーター・タイプが決まります。パラメーターを指定しなかった場合、parameters Elementの下に子Elementは表示されません。

2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - MruHeader
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「オブジェクトの照会」アクティビティの出力をマップする

1. 「チェックリスト」で、「出力のマッピング」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに objects エlementが表示されます。結果のパラメーターには、照会の駆動オブジェクトから命名された単一反復Elementを持つ単一Element objects があります。この駆動オブジェクトは、照会の FROM 文節で指定される最初のオブジェクトです。例えば、SOQL ステートメント

Select Name from Account, Account.Contactsでは、Account が駆動オブジェクトです。

駆動オブジェクトには、照会の SELECT 文節にリストされているフィールドまたは関係に対応する子Elementがあります。スキーマは以下のように定義されます。

- フィールドに関して、フィールド・タイプはフィールドの SOAP タイプと一致します。SOAP タイプがヌル可能な場合は、フィールド・タイプはヌル可能です。
- 親Elementの関係の場合、Element名は親の名前です。アクティビティーで照会が実行されたときに親が存在しない場合、Elementはありません。親のフィールドまたは関係は、関係Elementの直下に表示されます。
- 子Elementの関係の場合、Element名は子の名前です。関係Elementには、子オブジェクトのオブジェクト・タイプから命名された単一反復Elementがあります。子のフィールドおよび関係は、オブジェクト・タイプ・Elementの下に表示されます。アクティビティーで照会が実行されたときに子が存在しない場合、Elementはありません。
- フィールドも関係も選択せず、代わりに SELECT 文節で count() を要求した場合は、オブジェクト・タイプ・Element全体が、タイプ unsignedInt のElement count で置き換えられます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マッピングの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。


3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマッピングします。

マッピングの説明については、『[マッピングの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Salesforce.com アクティビティー](#)

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)




file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Query_Objects_Activity.html

「オブジェクトの照会」アクティビティーの構成

「オブジェクト内の検索」アクティビティーを構成するには、Sforce Object Search Language (SOSL) 照会を作成する必要があります。以下のセクションでは、「オブジェクト内の検索」アクティビティーの構成、SOSL 照会の作成、および IBM® Cast Iron® の SOSL 構文ルールの指定を行う手順について説明します。

手順

- 「チェックリスト」で、「構成」を選択します。
「照会の指定」ウィンドウが開きます。
- 「照会の指定」ウィンドウで SOSL 照会を作成します。
- オプション: SOSL ステートメントの検索文節で動的パラメーターを指定できます。その後、そのパラメーターをこのアクティビティの入力パラメーターとして動的にマップできます。これにより、このアクティビティでオーケストレーションへの入力に基づく照会を動的に制御できます。(\$) ドル記号でパラメーターを示し、その後にパラメーター名を付けます。
- 「妥当性検査」アイコン  をクリックして、照会を妥当性検査します。
照会が無効な場合は、「妥当性検査フィードバック (Validation Feedback)」アイコン  が、「照会の指定」ウィンドウの左下隅に表示されます。無効な照会の場合、以下のようにします。
 - 「照会の指定」ウィンドウの左下隅にある「妥当性検査フィードバック (Validation Feedback)」アイコンをクリックして、妥当性検査エラーのリストを表示します。
 - 「最新表示」アイコン  を使用してメタデータを最新表示し、SOSL ステートメントを再度妥当性検査します。
- 「チェックリスト」で、「照会」を選択して特定の照会オプションを構成します。
「照会オプション (Query Option)」ペインが開きます。
- 「削除された項目を照会に組み込む (queryAll 操作の実行)」を選択して、既存のレコードだけでなく、削除されたレコードについても照会します。このオプションが選択されない場合、統合アプライアンスは既存のレコードのみを照会します。
- 統合アプライアンスのパフォーマンス調整に役立つように、照会バッチ・サイズを 200 個から 2000 個までの照会の範囲で指定します。

このオプションは、すべての照会呼び出しの QueryOptions SOAP ヘッダーで使用されるバッチ・サイズを決定します。アクティビティで返される結果数に影響はありません。デフォルトでは、このオプションは 500 個の照会に設定されます。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

SOSL 照会の作成

SOQL 照会の作成時に、SOQL ステートメントの WHERE 文節で動的パラメーターを使用できます。その場合、Studio は、このパラメーターをアクティビティの入力パラメーターとして動的にマップできます。これにより、オーケストレーションへの入力に基づく照会を動的に制御できます。

このタスクについて

SForce Object Query Language では、パラメーター化された照会に対して構文は定義されません。ただし、Cast Iron では、いくつかの独自の SOQL 構文ルールが適用されます。パラメーターは、単純式でもセット式でも使用できます。

Cast Iron の SOSL 構文規則

- (\$) ドル記号でパラメーターを示します。(\$) ドル記号の後に、英数字のストリングを指定します。先頭文字は、文字 [a から z および A から Z] でなければなりません。その後は、1 つ以上の文字 [a から z および A から Z]、数字 [0 から 9]、または (_) 下線を任意に指定します。
注: パラメーター名では大/小文字の区別があるため、パラメーター \$a とパラメーター \$A は、異なるパラメーターであるとみなされます。
以下の表に、有効なパラメーター宣言と無効なパラメーター宣言の例を示します。

--	--

パラメーター	有効または無効
\$AnAccount	有効
\$a123_456	有効
\$123a	無効
\$_id	無効

- WHERE 文節では式の右側にパラメーターを宣言する必要があります。
- パラメーターは、指定の SOQL ステートメントで複数回使用できます。ただし、パラメーターが SOQL ステートメントで複数回使用される場合でも、入力パラメーター・マップでのパラメーターの使用は 1 回のみです。このアクティビティによって、当該パラメーターが実行時に使用されるすべてのロケーションに対して同じ値が代入されます。

注: 同じパラメーター名を使用する場合に、型が一致しないと、エラーが発生します。例えば、以下の SOQL では、\$param がストリング型と日付型の両方の型として使用されているためエラーが発生します。

```
SELECT Name from Account where Name like $param and createDate > $param
```

- パラメーターが比較されているフィールドのタイプによって、パラメーターのタイプが決定され、さらには、パラメーターが単純式で使用されているのか、セット式で使用されているのか、セット式の一部で使用されているのかが決まります。

式のタイプ	説明
単純式	<p>例: Select ID from Account where Name = \$NameParam</p> <p>式の左側にあるフィールドの SoapType によって、パラメーター・タイプが決定されます。フィールド・タイプがヌル可能であり、演算子が (=) または (!=) である場合は、パラメーターはヌル可能です。このパラメーターで xsi:nil=true と設定すると、このパラメーター値は代入時にヌルに設定されます。このパラメーターのタイプではパラメーターを (') 単一引用符で囲まなければならない場合は、このパラメーターの値は代入時に単一引用符で囲まれ、その内容は自動的にエスケープされます。</p> <p>SOQL の場合、(\) 円記号および (') 単一引用符はエスケープされます。</p>
セット式	<p>例: Select ID From Account where ID in \$idList</p> <p>このパラメーターのタイプは、式の左側にあるフィールドの SoapType の反復シーケンスです。このパラメーターはヌル可能ではなく、エレメント上に minOccurs=1、maxOccurs=unbounded があります。</p> <p>シーケンスは、正しいセット値になるように実行時に拡張されます。例えば、次のようになります。</p> <p>Select Id From Account where Id in ('value1','value2')</p>
セット式の	<p>セット・リスト内のパラメーターは、単純式のパラメーター・タイプのように扱われます。次の例を参照してください。SELECT Name from Account where BillingState IN ('California', \$state2)</p> <p>この例では、\$state2 パラメーター・タイプは Account BillingState フィールドの SoapType であり、反復エレメントではありません。このパラメーターはヌル可能ではありません。</p>

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Configuring_the_Query_Objects_Activity.html

「オブジェクト内の検索」 アクティビティ

このタスクについて

このアクティビティから 1 つ以上の ServiceMax オブジェクト・タイプに対して検索照会を実行して、結果セットを返すには、Sforce Object Search Language (SOSL) を使用します。

注: 検索可能または eSearchable として 構成されているオブジェクト内でのみ検索を実行できます。添付オブジェクト内は検索できません。

「オブジェクト内の検索」アクティビティを使用するには、以下のようになります。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクト内の検索」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。アクティビティの「チェックリスト」および「要約」がオーケストレーションの下に表示されます。

タスクの結果

1. ServiceMax エンドポイントを選択します。ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
2. 検索照会を指定して、検索照会オプションを設定することで、このアクティビティを構成します。
3. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。
4. このアクティビティの入力をマップします。
5. このアクティビティの出力をマップします。

「オブジェクト内の検索」アクティビティの入力のマッピング:

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。「アクティビティへ」パネルに parameters エLEMENTが表示されます。この parameter ELEMENTは、SOSL 照会で指定されたパラメーターごとに子ELEMENTを持ちます。照会におけるパラメーターのコンテキストによって、パラメーター・タイプが決まります。パラメーターを指定しなかった場合、parameters ELEMENTの下に子ELEMENTは表示されません。


2. デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「オブジェクト内の検索」アクティビティの出力のマッピング:

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。「アクティビティから」パネルに **objects** エLEMENTが表示されます。
2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。
3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Search_Objects_Activity.html

「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成

「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、Sforce Object Search Language (SOSL) 照会を作成する必要があります。




このタスクについて

以下のセクションでは、「オブジェクト内の検索」アクティビティの構成、SOSL 照会の作成、および IBM® Cast Iron® の SOSL 構文ルールの指定を行う手順について説明します。

「オブジェクト内の検索」アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. 「チェックリスト」で、「構成」を選択します。「照会の指定」ウィンドウが開きます。
2. 「照会の指定」ウィンドウで SOSL 照会を[作成](#)します。
3. オプション: SOSL ステートメントの検索文節で動的パラメーターを指定できます。その後、そのパラメーターをこのアクティビティの入力パラメーターとして動的にマップできます。これにより、このアクティビティでオーケストレーションへの入力に基づく照会を動的に制御できます。(\$) ドル記号でパラメーターを示し、その後にパラメーター名を付けます。

4. 「妥当性検査」アイコン  をクリックして、照会を妥当性検査します。照会が無効な場合は、「妥当性検査のフィードバック (Validation Feedback)」アイコン  が、「照会の指定」ウィンドウの左下隅に表示されます。無効な照会の場合、以下のようにします。
 - 「照会の指定」ウィンドウの左下隅にある「妥当性検査フィードバック (Validation Feedback)」アイコンをクリックして、妥当性検査エラーのリストを表示します。
 - 「最新表示」アイコン  を使用してメタデータを最新表示し、SOSL ステートメントを再度妥当性検査します。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

SOSL 照会の作成

このタスクについて

Sforce Object Search Language (SOSL) 照会の作成時に、SOSL ステートメントの WHERE 文節で 動的パラメータを使用できます。その場合、Studio は、このパラメータをアクティビティの入力パラメータとして動的にマップできます。これにより、オーケストレーションへの入力に基づく照会を動的に制御できます。

Sforce Object Search Language では、パラメータ化された照会に対して構文は定義されません。ただし、IBM Cast Iron では、いくつかの独自の SOSL 構文ルールが適用されます。パラメータは、単純式でもセット式でも使用できます。

IBM Cast Iron の SOSL 構文規則

このタスクについて

- (\$) ドル記号でパラメータを示します。(\$) ドル記号の後に、英数字の文字列を指定します。先頭文字は、文字 [a から z および A から Z] でなければなりません。その後は、1 つ以上の文字 [a から z および A から Z]、数字 [0 から 9]、または (_) 下線を任意に指定します。
注: パラメータ名では大/小文字の区別があるため、パラメータ \$a とパラメータ \$A は、異なるパラメータであるとみなされます。
以下の表に、有効なパラメータ宣言と無効なパラメータ宣言の例を示します。

パラメータ	有効または無効
\$AnAccount	有効
\$a123_456	有効
\$123a	無効
\$_id	無効


- SOSL ステートメントの検索照会部分でパラメータを宣言する必要があります。SOSL ステートメントの検索照会部分は、中括弧 ({}) で囲みます。
重要: パラメータを囲む場合、二重引用符 (" ") は使用しないでください。二重引用符で囲まれたパラメータは、このアクティビティでは文字列リテラルとして扱われます。
- パラメータ・タイプは常に xsd:string です。このアクティビティでは、代入時に、予約文字を使用して宣言されたパラメータはすべてエスケープされます。予約文字には、以下の文字があります。

予約文字	説明
&	アンパーサンド

予約文字	説明
*	アスタリスク
\	円記号
[]	大括弧
:	コロソ
,	コンマ
{ }	中括弧
"	二重引用符
!	感嘆符
-	負符号
+	正符号
'	単一引用符
~	波形記号
^	山形記号
	縦棒

- パラメーターは、指定の SOQL ステートメントで複数回使用できます。ただし、パラメーターが SOQL ステートメントで複数回使用される場合でも、入力パラメーター・マップでのパラメーターの使用は 1 回のみです。このアクティビティーによって、当該パラメーターが実行時に使用されるすべてのロケーションに対して同じ値が代入されます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Configuring_the_Search_Objects_Activity.html

「リードの変換」アクティビティー

このアクティビティーは、ServiceMax でリードを顧客、連絡先、または機会に変換する場合に使用します。Salesforce.com API では、1 回の呼び出しで変換できるオブジェクトの数が 100 個のオブジェクトに制限されていますが、Cast Iron® ServiceMax コネクターではそのような制限はありません。「リードの変換」アクティビティーを使用すれば、無制限の数のオブジェクトを変換できます。

手順

1. 「アクティビティー」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「リードの変換」アクティビティーを見つけます。

2. アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

アクティビティーの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「リードの変換」アクティビティーの入力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

「リードの変換」アクティビティーの入力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティーへ」ペインに `convertLead` エLEMENTが表示されます。表示されるパラメーターは、ServiceMax `convertLead` オペレーションへの入力の構造に対応しています。

2. オプション: デフォルト・ノードを右クリックして「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーに対して以下のオプション入力パラメーターを表示します。
 - `CallOptions`
 - `connection`
 - `sessionInfo`

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

次のタスク

「リードの変換」アクティビティーの出力をマップします。

「リードの変換」アクティビティーの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」パネルに `convertLeadResponse` ELEMENTが表示されます。表示されるパラメーターは、`convertLead` オペレーションによって返される `convertLeadResponse` 構造に対応しています。


2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Convert_Lead_Activity.html

「オブジェクトのマージ」 アクティビティ

このアクティビティを使用して、ServiceMax オブジェクトを単一のレコードにマージします。

このタスクについて

以下の複数の ServiceMax オブジェクトを単一のレコードにマージできます。

- 顧客 (Account)
- 連絡先 (Contact)
- リード (Leads)

このアクティビティでは、オブジェクトのマージ後、事前マージ・レコードが削除され、重複するすべての親が再設定されます。

Salesforce.com API では、1 回の呼び出しでマージできる要求の数が 200 に制限されていますが、Cast Iron® ServiceMax コネクターではそのような制限はありません。「オブジェクトのマージ」アクティビティを使用すれば、無制限の数のマージ要求を処理できます。

手順

1. 「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「オブジェクトのマージ」アクティビティを見つけます。
2. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

4. ServiceMax オブジェクト・タイプとオブジェクト・フィールド設定を選択して、アクティビティを構成します。

統合アプライアンスが更新できる「顧客 (Account)」、「連絡先 (Contact)」、および「リード (Lead)」オブジェクト・タイプおよびフィールドのみを選択できます。自動番号フィールドなどのフィールドは選択できないことがあります。

5. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「オブジェクトのマージ」アクティビティの入力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

「オブジェクトのマージ」アクティビティの入力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

「アクティビティへ」パネルに Merge エlementが表示されます。

2. オプション: デフォルト・ノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティの以下のオプションの入力パラメーターを表示します。

- AssignmentRuleHeader
- MruHeader
- EmailHeader
- CallOptions
- connection
- sessionInfo

3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

オプション・フィールド・Elementとヌル可能フィールド・Elementの動作は以下のとおりです。

- ServiceMax サーバーがフィールドの値を提供しない場合、統合アプライアンスはオプション・フィールドを更新しません。
- ヌル可能フィールドで xsi:nil 属性を true に設定した場合、統合アプライアンスは、更新時にそのフィールドをヌルに設定します。

注: フィールドを空ストリングに設定しても、フィールドはヌルに設定されません。

「オブジェクトのマージ」アクティビティの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティから」パネルに 結果 Elementが表示されます。表示されるパラメーターは、ServiceMax MergeResults スキーマの構造に対応しています。


2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Merge_Objects_Activity.html

「ユーザー情報の取得」アクティビティ

ServiceMax サーバーからユーザー情報を取得するには、このアクティビティを使用します。「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「ユーザー情報の取得」アクティビティを見つけます。

手順

1. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

2. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

3. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「ユーザー情報の取得」アクティビティの出力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

「ユーザー情報の取得」アクティビティの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

GetUserInfoResult エlementには ServiceMax ユーザー情報が含まれ、この情報は「アクティビティから」パネルで開きます。


2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

- 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Get_User_Information_Activity.html

「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティ

ServiceMax サーバーから現在時刻を取得するには、このアクティビティを使用します。「アクティビティ」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティを見つけます。

手順

1. アクティビティをオーケストレーションに追加します。

アクティビティの「チェックリスト」と「要約」が、オーケストレーションの下に表示されます。

2. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

3. このアクティビティの「再試行」パラメーターと「タイムアウト」パラメーターを指定します。

次のタスク

「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティの出力をマップします。

親トピック: [ServiceMax アクティビティ](#)

「サーバー・タイム・スタンプの取得」アクティビティの出力のマッピング

手順

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

serverTimestamp エlementには ServiceMax ユーザー情報が含まれ、この情報は「アクティビティから」パネルで開きます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

- 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_Get_Server_Timestamp_Activity.html

「Eメールの送信」アクティビティー

このアクティビティーを使用して、1つまたは複数のEメールを送信します。このEメールには、Eメール・アドレス、件名行、カーボン・コピーなど、標準のEメール属性がすべて含まれます。

「Eメール」アクティビティーの使用

- 「アクティビティー」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「Eメールの送信」アクティビティーを見つけます。
- 「Eメールの送信」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。

アクティビティーの「要約」と「チェックリスト」が、オーケストレーションの下に表示されます。

- ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

- 複数のEメールを送信する場合は、「構成」セクションで「Eメールの一括送信」チェック・ボックスを選択します。
- このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「アクティビティー・タイムアウト」パラメーターを指定します。
- このアクティビティーの入力をマップします。
- このアクティビティーの出力をマップします。

「Eメールの送信」アクティビティーの入力のマッピング

- 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

emails パラメーターが「アクティビティーへ」ペインに表示されます。

- デフォルト・ノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーの以下のオプションの入力パラメーターを表示します。
 - connection
 - sessionInfo
- 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「Eメールの送信」アクティビティーの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

results エlementと sessionInfo エlementが「アクティビティーから」ペインに表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_send_email_activity.html

「パスワードの設定」アクティビティー

このアクティビティーを使用して、ユーザーまたは `SelfServiceUser` のパスワードを指定の値に変更します。

注: ユーザーのパスワードを変更するには管理アクセス権が必要です。

「パスワードの設定」アクティビティーの使用

1. 「アクティビティー」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「パスワードの設定」アクティビティーを見つけます。
2. 「パスワードの設定」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。

アクティビティーの「要約」と「チェックリスト」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 「構成」セクションで、このアクティビティーに必要な追加の構成はありません。

4. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「アクティビティー・タイムアウト」パラメーターを指定します。
5. このアクティビティーの入力をマップします。
6. このアクティビティーの出力をマップします。

「パスワードの設定」アクティビティーの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

userId パラメーターと password パラメーターが「アクティビティーへ」ペインに表示されます。

2. デフォルト・ノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーの以下のオプションの入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - connection
 - sessionInfo
3. 「入力の選択...」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「パスワードの設定」アクティビティーの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

「アクティビティーから」ペインに sessionInfo エlementが表示されます。

2. 「出力の選択...」をクリックして、マップの出力変数を選択します。


変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_set_password_activity.html

「パスワードのリセット」アクティビティー

このアクティビティーを使用して、ユーザーのパスワードをシステム生成の値に再設定します。

注: ユーザーのパスワードを再設定するには管理アクセス権が必要です。

「パスワードのリセット」アクティビティーの使用

1. 「アクティビティー」タブで「ServiceMax」ディレクトリーを開き、「パスワードのリセット」アクティビティーを見つけます。
2. 「パスワードのリセット」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。

アクティビティーの「要約」と「チェックリスト」が、オーケストレーションの下に表示されます。

3. ServiceMax エンドポイントを選択します。

ServiceMax エンドポイントの作成または編集については、『[ServiceMax エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。

注: 「構成」セクションで、このアクティビティーに必要な追加の構成はありません。

4. このアクティビティーの「再試行」パラメーターと「アクティビティー・タイムアウト」パラメーターを指定します。

「パスワードのリセット」アクティビティーの入力のマッピング

1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」を選択します。

userId パラメーターが「アクティビティーへ」ペインに表示されます。

2. デフォルト・ノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択し、このアクティビティーの以下のオプションの入力パラメーターを表示します。
 - CallOptions
 - EmailHeader
 - connection
 - sessionInfo

3. 「入力の選択…」をクリックして、マップの入力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

4. 必要に応じて、入力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

「パスワードのリセット」アクティビティーの出力のマッピング

1. 「チェックリスト」で、「出力のマップ」を選択します。

password エlementと sessionInfo エlementが「アクティビティーから」ペインに表示されます。

2. 「出力の選択…」をクリックして、マップの出力変数を選択します。

変数の作成についての説明は、『[変数の作成](#)』を参照してください。

3. 必要に応じて、出力パラメーターを変数にマップします。

マッピングの説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [ServiceMax アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SerMax_reset_password_activity.html

Siebel アクティビティ

- [Siebel コネクターの概要](#)
- [Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)

Siebel サーバーに接続するには、Cast Iron Studio インストール済み環境と同じワークステーションに 2 つの JAR ファイルをコピーする必要があります。Siebel.properties ファイルをコピーして (このファイルはオプションです)、接続タイムアウト、トランザクションのタイムアウト、および Siebel プロパティを構成することもできます。
- [Siebel エンドポイントの作成または編集](#)

Siebel エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Siebel Business Applications サーバーに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。
- [Siebel 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用](#)

Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトを処理するには、Siebel 「オブジェクトの作成」 アクティビティを使用します。
- [Siebel 「オブジェクトの更新」 アクティビティの使用](#)

Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトを処理するには、Siebel 「オブジェクトの更新」 アクティビティを使用します。
- [Siebel 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用](#)

Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトを処理するには、Siebel 「オブジェクトの削除」 アクティビティを使用します。
- [Siebel 「オブジェクトの照会」 アクティビティの使用](#)

Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトを処理するには、Siebel 「オブジェクトの照会」 アクティビティを使用します。
- [Siebel 「ビジネス・サービスの実行」 アクティビティの使用](#)

Siebel 「ビジネス・サービスの実行」 アクティビティは、Siebel Business Applications サーバーで Siebel ビジネス・サービスを実行するために使用します。
- [Siebel のスターター・アクティビティの前提条件](#)
- [Siebel 「作成済みオブジェクトの取得」 アクティビティの使用](#)


Siebel サーバーの Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトをポーリングするには、「作成済みオブジェクトの取得」アクティビティを使用します。
- [Siebel 「更新済みオブジェクトの取得」 アクティビティの使用](#)

Siebel サーバーで更新されたイベントをポーリングするには、「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティを使用します。
- [Siebel 「削除済みオブジェクトの取得」 アクティビティの使用](#)

Siebel サーバーから削除された Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトをポーリングするには、「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティを使用します。

- [Siebel アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)
「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、Siebel アクティビティ構成を構成するためのタスクの1つです。
- [Siebel プロパティ・ファイル](#)
Siebel コネクターは、Siebel サーバーとの対話に Siebel API (Java™ データ Bean) を使用します。Siebel API には、クライアント・サイドで接続設定を構成する手段も用意されています。クラスパスに格納した `siebel.properties` ファイルを使用して、Java データ Bean を使用して Siebel アプリケーションに接続するクライアント・アプリケーションのデフォルト・パラメーターを提供することができます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_siebelactivities.html`

Siebel コネクターの概要

Siebel コネクターは、Cast Iron と Siebel ビジネス・アプリケーション・サーバーの間の両方向通信を使用可能にします。このコネクターは、ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント (BO/BC)、統合オブジェクト (IO)、およびビジネス・サービス (BS) インターフェースをサポートします。

Siebel コネクターを使用して、以下のアクティビティを実行できます。


- [アウトバウンド・アクティビティ](#)
 - [オブジェクトの作成 \(BO/BC または IO を使用\)](#)
 - [オブジェクトの更新 \(BO/BC または IO を使用\)](#)
 - [オブジェクトの削除 \(BO/BC または IO を使用\)](#)
 - [オブジェクトの照会 \(BO/BC または IO を使用\)](#)
 - [ビジネス・サービスの実行 \(BS を使用\)](#)
- [インバウンド/スターター・アクティビティ](#)
 - [作成済みオブジェクトの取得 \(BO/BC または IO を使用\)](#)
 - [更新済みオブジェクトの取得 \(BO/BC または IO を使用\)](#)
 - [削除済みオブジェクトの取得 \(BO/BC または IO を使用\)](#)

Siebel コネクターは、Siebel サーバーのバージョン 7.0.5、7.5.x、7.7.x、7.8.x、8.0、8.1、および 8.1.1 をサポートします。

Siebel コネクターが Siebel サーバーに接続するには、Siebel JAR ファイルが必要です。詳しくは、『[Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール

Siebel サーバーに接続するには、Cast Iron Studio インストール済み環境と同じワークステーションに 2 つの JAR ファイルをコピーする必要があります。Siebel.properties ファイルをコピーして (このファイルはオプションです)、接続タイムアウト、トランザクションのタイムアウト、および Siebel プロパティを構成することもできます。

始める前に

- JAR ファイルは Siebel システム管理者から入手できます。
- JAR ファイルは、Studio インストール済み環境と同じコンピューターになければなりません。
- JAR ファイルは、接続先 Siebel サーバーと同じバージョンのもでなければなりません。
- Siebel.properties ファイルでは、Siebel サーバーのバージョンに応じたプロパティを指定する必要があります。

このタスクについて

インストールされるファイルは、以下のとおりです。

- Siebel.jar
- 言語固有の JAR ファイル。例えば、英語版の JAR ファイルには SiebelJI_enu.jar という名前が付いています。
- Siebel.properties - これはオプションのファイルです。Siebel.properties ファイルの詳細については、『[Siebel プロパティ・ファイル](#)』を参照してください。

手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」を選択します。
2. 「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「Siebel コネクター」の下にあるプラス (+) ボタンをクリックします。フィールドおよび「参照」ボタンが表示されます。
3. 「参照」をクリックし、「参照」ダイアログ・ボックスを使用して JAR ファイルおよび properties ファイル (オプション) を見つけて選択します。
4. 「開く」をクリックして、選択したファイルのコンテンツをインポートします。
5. 2 つの JAR ファイルおよび properties ファイル (オプション) が「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスにリストされたら、「OK」をクリックします。

タスクの結果

Studio を再始動して変更内容をアクティブにするためのプロンプトが表示されます。

次のタスク

Siebel エンドポイントおよびオーケストレーションを作成できるようになりました。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_installing_jarfiles.html

Siebel エンドポイントの作成または編集

Siebel エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Siebel Business Applications サーバーに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。

このタスクについて

Siebel エンドポイントを作成または編集するには、このタスクを使用します。

注: Siebel エンドポイントに対して行う構成プロパティなどのすべての変更は、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

手順

1. 「アクティビティ」タブの下の「Siebel」フォルダーから「オーケストレーション」ウィンドウにアクティビティをドラッグします。「要約」パネルが表示されます。
2. 「チェックリスト」の下の「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
3. 以下のボタンのいずれかをクリックします。
 - a. 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」ウィンドウには、アクティビティのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。
 - b. 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。

注: バージョン 6.1.0.1 の場合は、リストの最初の「Siebel」項目を選択します。詳しくは、技術情報 (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21516320>) を参照してください。
 - c. 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
4. 次の表に示されたフィールドに入力します。

表 1. 接続プロパティ

フィールド名	説明
接続情報	

フィールド名	説明
接続 URL	<p>Siebel サーバーに接続する接続 URL を指定します。いずれのバージョンの Siebel の場合も、接続 URL の形式は以下のとおりです。</p> <pre>siebel[.transport][.encryption] [.compression]://host[:port]/EnterpriseServer/AppObjMgr</pre> <p>デフォルトのポート番号は 2320 です。Siebel バージョン 7.5x およびそれ以前のバージョンでは、ポート番号 (2320) とサーバー名が指定されます。</p> <p>Siebel バージョン 7.8 では、ポートおよびサーバー名は指定されません。</p> <p>デフォルト・ポートを選択しない場合、別のポート番号 (例えば 2321) を指定できます。</p> <p>各バージョンの Siebel サーバーの接続 URI の例を以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Siebel 7.5 の場合: <pre>siebel://<IP_address>:2320/siebel/SSEObjMgr_ENU/sebldev1</pre> ○ Siebel 7.8 の場合: <pre>siebel://<IP_address>:/Sieb78/SSEObjMgr_enu</pre> ○ Siebel 8 の場合: <pre>siebel://<IP_address>:2321/SBA_80/SSEObjMgr_enu</pre>
言語コード	Siebel サーバーにログオンするための言語コードを指定します。システム・ロケールが英語の場合は、このプロパティの値は ENU (英語) です。
ユーザー名	Siebel サーバーに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	Siebel サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
コード・ページ	<p>Siebel サーバーの文字エンコード (コード・ページ) を指定します。Siebel サーバーの文字エンコード (コード・ページ) と Siebel クライアント (Siebel コネクターが使用されるマシン) の文字エンコードは、同じでなければなりません。これにより、Siebel クライアントと Siebel サーバーは、正しく通信できるようになります。Siebel クライアントの文字エンコードが Siebel サーバーと異なる場合は、Siebel クライアントの文字エンコードを変更します。</p> <p>Siebel Java™ Data Bean がサポートするコード・ページ設定リストは限られています。ご使用のランタイムの現在のコード・ページ設定がサポートされない場合、コネクターは Siebel サーバーに接続できない可能性があります。詳しくは、Siebel Java Data Bean の資料を参照してください。</p>
ロード・バランシング	
Siebel サーバーのロード・バランシングで Resonate を使用	Siebel システムがロード・バランシングで Resonate を使用する場合は、このオプションを指定します (チェック・ボックスを選択します)。コネクターは、ロード・バランシング機能を利用して Siebel Business Applications サーバーに効率的に接続します。
接続プール・オプション	

フィールド名	説明
最小接続数	接続プールで使用できる最小接続数を指定します。アクティビティは、この接続を使用して Siebel サーバーに接続します。デフォルト値は 5 です。
最大接続数	接続プールで使用できる最大接続数を指定します。アクティビティは、この接続を使用して Siebel サーバーに接続します。デフォルト値は 25 です。
最大アイドル時間	統合アプライアンスによって閉じられるまで、開いた接続をアイドル状態にすることができる時間 (分) を指定します。0 (ゼロ) を入力した場合、接続はプールに返されると閉じられます (つまり、アイドル時間がありません)。デフォルト値は 120 分です。
最大待機	プール内のすべての接続が使用されている場合に統合アプライアンスが接続を待つ時間 (秒) を指定します。待機時間が経過しても接続を取得できない場合は、例外がスローされます。デフォルト値は 300 秒です。
接続の再利用	コネクタがアイドル状態の接続をチェックする間隔を指定します。アイドル状態の接続は、「最小接続数」パラメーターで指定した最小接続数に到達するまで再利用されます。デフォルトでは、コネクタは 5 分間隔で接続を再利用します。
	注: エンドポイントでの負荷 (同時要求の数) に従って接続プール・プロパティを構成する必要があります。
リモート・エンドポイント構成	
エンドポイントをファイアウォールの内側で実行	セキュア・コネクタ名のプロパティを使用可能にして、Siebel Business Applications サーバーがファイアウォールの内側で実行されている場合にセキュア・コネクタを使用できるようにします。
セキュア・コネクタ名	ファイアウォールの内側で稼動している Siebel Business Applications サーバーへの接続に使用するセキュア・コネクタの名前を指定します。例えば、Siebel アクティビティを含むオーケストレーションが Cast Iron® Live (Cloud) にデプロイされる場合は、セキュア・コネクタを構成する必要があります。

- 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、Siebel システムに接続できることを確認します。
- 「OK」をクリックします。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

関連情報:

🔗 [技術情報: WebSphere Cast Iron バージョン 6.1.x.x における Siebel アクティビティの変更 \(6.0.0.x 以前の古いバージョンとの比較\) \(Changes in the Siebel activities in WebSphere Cast Iron version 6.1.x.x when compared to the earlier versions \(6.0.0.x and earlier\)\)](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_Creating_or_Editing_a_Siebel_Endpoint.html

Siebel 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用

Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトを処理するには、Siebel 「オブジェクトの作成」 アクティビティを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- Siebel サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- Siebel サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

Siebel サーバーにビジネス・コンポーネント階層または統合オブジェクトを作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Siebel フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの作成」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Siebel オブジェクトの作成「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Siebel エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Siebel エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「リポジトリ名」テキスト・ボックスにリポジトリ名を入力します。リポジトリ名には、Siebel リポジトリを表すデフォルト値が入力されています。デフォルト値と異なる場合は、リポジトリ名を入力します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのリポジトリから取得されます。
11. 以下のいずれかの統合オブジェクトを選択します。

「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を指定する場合:

- a. 「オブジェクト・タイプ」として「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、「ビジネス・オブジェクト」のリストを表示します。
- c. 「ビジネス・オブジェクト・フィルター」を使用してビジネス・オブジェクトをフィルターします。

- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
- e. ビジネス・オブジェクトのリストから「ビジネス・オブジェクト」を選択して、「次へ」をクリックします。
- f. 選択したビジネス・オブジェクトのビジネス・コンポーネントのリストが表示されます。ビジネス・コンポーネントを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。
- g. 選択したビジネス・コンポーネントが親ビジネス・コンポーネントの子である場合は、親と子の両方のビジネス・コンポーネントが、それらの間の関係とともに生成されます。
注: マップ入力で作成されたそれぞれの子オブジェクト属性は、アクティビティーによって以下のように処理されます。

- キー属性は親ビジネス・コンポーネントに設定されません。Siebelは、レコードの作成時にキー属性を生成します。キー属性が設定されている場合、Siebelは、例外を返し、値が挿入された読み取り専用フィールドを設定します。
- 子オブジェクトが Picklist のビジネス・コンポーネントであり、既存の子インスタンスを選択する場合には、新規の子オブジェクトを作成しないでください。代わりに、親の値を設定します。例えば、Account の下の既存の Business Address を選択する場合は、Business Address を作成する代わりに PrimaryAddressId を設定してください。一方、新規の子インスタンスを作成するには、子ビジネス・コンポーネントの非キー属性を設定し、アクティビティーが対応する子インスタンスを Siebel アプリケーションに作成するようする必要があります。
- 静的 Picklist がある場合は、オブジェクトの対応する単純属性が必要です。Picklist の値のリストに値がリストされていない場合、アクティビティーは値を設定しようとします。リストに制限がなく、「挿入」が使用可能である場合は、アクティビティーの処理は正常に終了します。アクティビティーが値を設定できない場合、操作は失敗します。
- 子レコードが複数值リンクとともに作成されます。子レコードの作成操作が失敗した場合は、子レコードがロールバックされます。親レコードの作成操作が失敗した場合は、すべての子レコードおよび親レコードがロールバックされます。
- コネクターが、対応する入力子オブジェクトのすべての属性の値に基づいて、既存の子ビジネス・コンポーネント (Association など) を選択しようとします。一致する子ビジネス・コンポーネントが見つかった場合は、親に関連付けられます。一致する子ビジネス・コンポーネントが見つからない場合は、新規の子ビジネス・コンポーネントが作成され、親ビジネス・コンポーネントに関連付けられます。
- 子の作成操作が失敗した場合は、子がロールバックされます。親の作成操作が失敗した場合は、親のみがロールバックされます。関連コンポーネントは個別のコンポーネントの場合も、他のコンポーネントの子の場合もあるため、いったん関連付け対象の子が作成された後に子や親をロールバックすることはできません。

「統合オブジェクト」を指定する場合:

- a. Siebel 統合オブジェクトの場合は、「オブジェクト・タイプ」として「統合オブジェクト」を選択します。
 - b. 「参照」をクリックして、統合オブジェクトのリストを表示します。
 - c. 「統合オブジェクト・フィルター」を使用して統合オブジェクトをフィルターします。
 - d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
 - e. 統合オブジェクトを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。処理中に、選択したビジネス・サービスが実行され、出力がオーケストレーションに返送されます。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Siebel アクティビティーの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照

してください。


- 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの作成」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
- オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
- 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
- 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Siebel 「オブジェクトの作成」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Siebel アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_create_outactivity.html

Siebel 「オブジェクトの更新」アクティビティーの使用

Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトを処理するには、Siebel 「オブジェクトの更新」アクティビティーを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- Siebel サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- Siebel サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

Siebel サーバー上のビジネス・コンポーネント階層または統合オブジェクトを更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Siebel フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの更新」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Siebel オブジェクトの更新「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Siebel エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Siebel エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「リポジトリ名」テキスト・ボックスにリポジトリ名を入力します。リポジトリ名には、Siebel リポジトリを表すデフォルト値が入力されています。デフォルト値と異なる場合は、リポジトリ名を入力します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのリポジトリから取得されます。
11. 以下のいずれかの統合オブジェクトを選択します。

「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を指定する場合:

- a. 「オブジェクト・タイプ」として「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、「ビジネス・オブジェクト」のリストを表示します。
- c. 「ビジネス・オブジェクト・フィルター」を使用してビジネス・オブジェクトをフィルターします。
- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
- e. ビジネス・オブジェクトのリストから「ビジネス・オブジェクト」を選択して、「次へ」をクリックします。
- f. 選択したビジネス・オブジェクトのビジネス・コンポーネントのリストが表示されます。ビジネス・コンポーネントを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。

処理中に、ビジネス・コンポーネント階層が Siebel サーバーから取得され、アクティビティーの着信トoplevel・ビジネス・オブジェクト階層と比較されます。この比較の結果に基づいて、子オブジェクトが作成、更新、および削除されます。キー属性 (ID など) が正しく設定されていない場合、更新アクティビティーは失敗します。

「統合オブジェクト」を指定する場合:

- a. Siebel 統合オブジェクトの場合は、「オブジェクト・タイプ」として「統合オブジェクト」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、統合オブジェクトのリストを表示します。
- c. 「統合オブジェクト・フィルター」を使用して統合オブジェクトをフィルターします。
- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
- e. 統合オブジェクトを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。処理中に、選択したビジネス・サービスが実行され、出力がオーケストレーションに返


送されます。

- 「チェックリスト」で「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Siebel アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
- 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの更新」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
- オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
- 「チェックリスト」で「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
- 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Siebel 「オブジェクトの更新」アクティビティを構成しました。
親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_update_outactivity.html

Siebel 「オブジェクトの削除」アクティビティの使用

Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトを処理するには、Siebel 「オブジェクトの削除」アクティビティを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- Siebel サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- Siebel サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

Siebel サーバー上のビジネス・コンポーネント階層または統合オブジェクトを削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理の

ためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Siebel フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの削除」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Siebel オブジェクトの削除「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Siebel エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Siebel エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「リポジトリ名」テキスト・ボックスにリポジトリ名を入力します。リポジトリ名には、Siebel リポジトリを表すデフォルト値が入力されています。デフォルト値と異なる場合は、リポジトリ名を入力します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのリポジトリから取得されます。
11. 以下のいずれかの統合オブジェクトを選択します。

「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を指定する場合:

- a. 「オブジェクト・タイプ」として「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、「ビジネス・オブジェクト」のリストを表示します。
- c. 「ビジネス・オブジェクト・フィルター」を使用してビジネス・オブジェクトをフィルターします。
- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
- e. ビジネス・オブジェクトのリストから「ビジネス・オブジェクト」を選択して、「次へ」をクリックします。
- f. 選択したビジネス・オブジェクトのビジネス・コンポーネントのリストが表示されます。ビジネス・コンポーネントを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。

削除アクティビティーは、トップレベル・ビジネス・オブジェクトとその子を削除します。その結果、物理的な削除が実行され、レコードが Siebel アプリケーションから除去されます。キー属性 (ID など) が正しく設定されていない場合、削除アクティビティーは失敗します。

「統合オブジェクト」を指定する場合:

- a. Siebel 統合オブジェクトの場合は、「オブジェクト・タイプ」として「統合オブジェクト」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、統合オブジェクトのリストを表示します。
- c. 「統合オブジェクト・フィルター」を使用して統合オブジェクトをフィルターします。


- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
 - e. 統合オブジェクトを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。処理中に、選択したビジネス・サービスが実行され、出力がオーケストレーションに返送されます。
12. 「チェックリスト」で「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Siebel アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
 13. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの削除」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
 14. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
 15. 「チェックリスト」で「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
 16. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Siebel 「オブジェクトの削除」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_delete_outactivity.html

Siebel 「オブジェクトの照会」アクティビティの使用

Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトを処理するには、Siebel 「オブジェクトの照会」アクティビティを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- Siebel サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- Siebel サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。

このタスクについて

Siebel サーバー上のビジネス・コンポーネント階層または統合オブジェクトを照会するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Siebel フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの照会」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Siebel オブジェクトの照会「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Siebel エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Siebel エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「リポジトリ名」テキスト・ボックスにリポジトリ名を入力します。リポジトリ名には、Siebel リポジトリを表すデフォルト値が入力されています。デフォルト値と異なる場合は、リポジトリ名を入力します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのリポジトリから取得されます。
11. 以下のいずれかの統合オブジェクトを選択します。

「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を指定する場合:

- a. 「オブジェクト・タイプ」として「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、「ビジネス・オブジェクト」のリストを表示します。
- c. 「ビジネス・オブジェクト・フィルター」を使用してビジネス・オブジェクトをフィルターします。
- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
- e. ビジネス・オブジェクトのリストから「ビジネス・オブジェクト」を選択して、「次へ」をクリックします。
- f. 選択したビジネス・オブジェクトのビジネス・コンポーネントのリストが表示されます。ビジネス・コンポーネントを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。

照会アクティビティは、マップ入力で指定されたキーの Siebel ビジネス・コンポーネントを取得します。照会アクティビティの実行中には以下の処理が行われます。

- レコードを検索するためのキーがトップレベル・ビジネス・コンポーネントに設定されず、レコードが見つからない場合、エラー・メッセージがログに記録され、ジョブが失敗します。レコードが見つかった場合は、トップレベルのビジネス・コンポーネントから単純属性の値が取得され、マップ出力に設定されます。

注: PickList 単純属性は、他の単純属性と異なる方法で取得されます。PickList 単純属性は、子 picklist コンポーネントから PickListKey の値を取得することによって取得されません。子 picklist コンポーネントを取得するには、FieldName の値を使用する必要があります。

- 子ビジネス・コンポーネントは、親ビジネス・オブジェクトとの関係のタイプに基づいて取得されます。
- 子 PickList インスタンスが取得されます。
- 複数値リンクおよび関連付けを持つ子レコードが見つかった場合は、属性値が親に設定されます。

「統合オブジェクト」を指定する場合:

- Siebel 統合オブジェクトの場合は、「オブジェクト・タイプ」として「統合オブジェクト」を選択します。
 - 「参照」をクリックして、統合オブジェクトのリストを表示します。
 - 「統合オブジェクト・フィルター」を使用して統合オブジェクトをフィルターします。
 - オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
 - 統合オブジェクトを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。処理中に、選択したビジネス・サービスが実行され、出力がオーケストレーションに返送されます。
- 「チェックリスト」で「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Siebel アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
 - 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの照会」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
 - オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。


注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソール (WMC) から報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
 - 「チェックリスト」で「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
 - 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Siebel 「オブジェクトの照会」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_query_outactivity.html

Siebel 「ビジネス・サービスの実行」 アクティビティの使用

Siebel 「ビジネス・サービスの実行」 アクティビティは、Siebel Business Applications サーバーで Siebel ビジネス・サービスを実行するために使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- Siebel サーバーへの接続に必要な JAR ファイルがインストール済みであること。詳しくは、『[Siebel サーバーに接続する JAR ファイルのインストール](#)』を参照してください。
- Siebel サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。
-

このタスクについて

このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。ビジネス・サービスは、Siebel Contact などの標準ビジネス・サービスか、または統合オブジェクトを選択する必要があるカスタム・ビジネス・サービスにすることができます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Siebel フォルダのコンテンツを展開します。
2. 「ビジネス・サービスの実行」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。
3. アクティビティがオーケストレーションに表示されると、「Siebel ビジネス・サービスの実行チェックリスト」が表示されます。
4. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
5. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
6. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
7. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Siebel エンドポイントを選択します。
8. 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を入力することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Siebel エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
9. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウからオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
10. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
11. 「リポジトリ名」テキスト・ボックスにリポジトリ名を入力します。リポジトリ名には、Siebel リポジトリを表すデフォルト値が入力されています。デフォルト値と異なる場合は、リポジトリ名を指定します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのリポジトリから取得されます。
12. ビジネス・サービスを選択します。
 - a. 「参照」をクリックして、ビジネス・サービスのリストを表示します。
 - b. 「ビジネス・サービス・フィルター」を使用してビジネス・サービスをフィルターします。

- c. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
 - d. ビジネス・サービスのリストから「ビジネス・サービス」を選択して、「次へ」をクリックします。選択したビジネス・サービスのビジネス・オペレーションのリストが表示されます。
 - o ビジネス・サービスに固定統合オブジェクトが関連付けられている場合は、ビジネス・オペレーションを選択した後に「終了」をクリックしてマップ入力/出力用のスキーマを生成します。
 - o ビジネス・サービスに固定統合オブジェクトが関連付けられていない場合は、ビジネス・オペレーションを選択した後に「次へ」をクリックして入力/出力メッセージ用の統合オブジェクトを選択します。
13. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「ビジネス・サービスの実行」アクティビティの選択したサービスから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
14. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。

入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって提供できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告される例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。


15. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Siebel 「ビジネス・サービスの実行」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_business_service.html

Siebel のスターター・アクティビティの前提条件

このセクションでは、Siebel インバウンド・アクティビティを構成するための前提条件について説明します。

スターター・アクティビティを使用するための前提条件として、Siebel にイベント・ストアを作成する必要があります。

Siebel でのイベント・ストアの作成

この手順では、例として Siebel Sales Enterprise アプリケーションを使用します。便宜上、以降の章では、Siebel Sales Enterprise アプリケーションを Siebel アプリケーションと呼びます。ここに示す例では、イベント・ストアの名前として IBM Events を使用します。この名前は、エンド・ユーザーの必要に応じて変更できます。

Siebel Business Applications でイベント・ストアおよびオブジェクトを作成するには、Siebel ツールで以下の手順を実行します。

1. 「新規オブジェクト・ウィザード (New Object Wizard)」を使用してスタンドアロンの表 CX_IBM_EVENT を作成します。
2. 新しい表に以下の列を作成します。

表 1. イベント表の列

列名 / ユーザー名	タイプ	長さ	物理タイプ	必須	ヌル可能	仕様
DESCRIPTION	Data (public)	255	Varchar		✓	アクティブ
EVENT_ID	Data (public)	30	Varchar	✓		アクティブ
CONNECTOR_ID	Data (public)	255	Varchar		✓	アクティブ
EVENT_TYPE	Data (public)	20	Varchar	✓		アクティブ
OBJECT_KEY	Data (public)	255	Varchar	✓		アクティブ
OBJECT_NAME	Data (public)	255	Varchar	✓		アクティブ
PRIORITY	Data (public)	10	番号		✓	アクティブ
STATUS	Data (public)	20	番号	✓		アクティブ
XID	Data (public)	255	Varchar	✓		アクティブ


3. 新しい表に基づき、新しいビジネス・コンポーネント (BC) として IBM Events を作成します。フィールドはすべて単一値フィールドです。
4. BC のフィールドに加え、新しいフィールド Event Time Stamp を作成して、CX_IBM_EVENT の CREATED 列にマップします。このフィールドのタイプは DTYPE_UTCDATETIME でなければなりません。
5. 新しいビジネス・オブジェクト (BO) IBM Events を作成します。
6. IBM Events BC を IBM Events BO に関連付けます。
7. IBM Events BC に基づいて IBM Event List Applet を作成します。
8. IBM Events BO に基づいて IBM Event List View を作成します。
9. IBM Events Screen を作成し、「画面ビュー (Screen View)」で IBM Event List View に関連付けます。
10. 以下のようにしてページ・タブを作成します。
 - a. 「アプリケーション」 > 「Siebel Sales Enterprise」 > 「ページ」タブにアクセスします。
 - b. 右クリックして、メニューから「新規レコード」を選択します。
 - c. 表示名として IBM Events と入力し、「テキスト・ストリングのオーバーライド (Text-String Override)」に「IBM Events」と入力します。

- d. アクティブでないフィールドからはチェック・マークを外したままにしておきます。
11. 以下のようにして画面のメニュー項目を作成します。
 - a. 「アプリケーション」 > 「Siebel Sales Enterprise」 > 「画面メニュー項目 (Screen Menu Item)」にアクセスします。
 - b. 右クリックして、新規レコードを選択します。
 - c. 表示名として IBM Events と入力し、「テキスト・ストリングのオーバーライド (Text-String Override)」に「IBM Events」と入力します。
 - d. アクティブでないフィールドからはチェック・マークを外したままにしておきます。
 12. IBM プロジェクト用の Schema Version という新規ビジネス・オブジェクトを作成し、それを Schema Version BC に関連付けます。
 13. 新しい表の物理スキーマをローカル・データベースで適用します。これを行うには、新しい表 CX_IBM_EVENT に対する照会を実行します。現行の照会を選択し、物理スキーマを作成します。表スペースおよび索引スペースはブランクのままにしておきます。
 14. Activate を使用して新しいスキーマをアクティブにします。
 15. サイトで使用するビジネス・オブジェクトに対応する BC の Siebel VB または e-script を追加するか変更します。Siebel スクリプトは、構成されたオブジェクトのイベント通知を起動します (サンプル・スクリプトは <studio_root>/etc/Siebel フォルダに入っています)。Siebel スクリプトでは、ピンポン効果を防ぐために、コネクター・ユーザー名のイベントが作成されないようにしてください。
 16. ローカル・データベースにある更新およびロックされているプロジェクトをコンパイルし、新しい Siebel リポジトリ (.srf) ファイルを作成します。
 17. ローカル・データベースで Siebel Sales Enterprise を開きます。以下を実行するには管理特権が必要です。
 - a. IBM Event List View という名前の新しいビューを作成します。
 - b. IBM Responsibility という新規の職責を IBM Event List View のために作成します。
 - c. 新しく作成した IBM Responsibility に、イベントの受信を担当する従業員またはチームを追加します。
 - d. IBMCONN (またはコネクター・ユーザー名) のユーザーを作成し、IBM Responsibility および Administrative Responsibility に追加します。
 18. ローカル環境でアプリケーションをテストします。IBM Event List View が表示可能であること、およびサポートされるオブジェクトにレコードを作成するとビューにイベントが生成されることを確認します。例えば、Siebel で新規のアカウントを作成し、新規アカウントのイベントが IBM Event List View に表示されるかどうかを確認します。
 19. 新規の更新されたプロジェクトを開発サーバーにチェックインします。
 20. 開発データベースの新しい表をアクティブにします。
 21. 新しい Siebel.srf ファイルをコンパイルしてサーバーにデプロイします。

正常に Siebel サーバーにイベント・ストアを作成しました。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_prerequisites_inbound_activity.html

Siebel 「作成済みオブジェクトの取得」 アクティビティーの使用

Siebel サーバーの Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトをポーリングするには、「作成済みオブジェクトの取得」アクティビティーを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- 必要なベンダー・ソフトウェアの JAR ファイルがインストールされている。
- Siebel サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。
- イベントを生成するための *EventStore* ビジネス・オブジェクトおよびトリガーが構成されている。詳しくは、『[Siebel のスターター・アクティビティーの前提条件](#)』を参照してください。

このタスクについて

Siebel サーバーに作成されたビジネス・コンポーネント階層または統合オブジェクトをポーリングするには、このタスクを使用します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Siebel フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「作成済みオブジェクトの取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Siebel 作成済みオブジェクトの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Siebel エンドポイントを選択します。
7. 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Siebel エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウからオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「リポジトリ名」テキスト・ボックスにリポジトリ名を指定します。リポジトリ名には、Siebel リポジトリを表すデフォルト値が入力されています。デフォルト値と異なる場合は、リポジトリ名を指定します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのリポジトリから取得されます。
11. Siebel サーバーで構成されているイベント・ストア名を指定します。アクティビティーは、このイベント・ストアをポーリングして新しいイベントを照会します。
12. 以下のいずれかの統合オブジェクトを選択します。

「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を指定する場合:

- a. 「オブジェクト・タイプ」として「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、「ビジネス・オブジェクト」のリストを表示します。

- c. 「ビジネス・オブジェクト・フィルター」を使用してビジネス・オブジェクトをフィルターします。
- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
- e. ビジネス・オブジェクトのリストから「ビジネス・オブジェクト」を選択して、「次へ」をクリックします。
- f. 選択したビジネス・オブジェクトのビジネス・コンポーネントのリストが表示されます。ビジネス・コンポーネントを選択して「終了」をクリックし、マップ出力のスキーマを生成します。
- g. 選択したビジネス・コンポーネントが親ビジネス・コンポーネントの子である場合は、親と子の両方のビジネス・コンポーネントが、それらの間の関係とともに生成されます。

「統合オブジェクト」を指定する場合:

- a. 「オブジェクト・タイプ」として「統合オブジェクト」を選択します。
 - b. 「参照」をクリックして、統合オブジェクトのリストを表示します。
 - c. 「統合オブジェクト・フィルター」を使用して統合オブジェクトをフィルターします。
 - d. オプション: 「最新表示」をクリックして、オブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
 - e. 統合オブジェクトを選択して「終了」をクリックし、マップ出力のスキーマを生成します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。同様に「配信ルール」パネルを構成します。詳しくは、『[Siebel アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。


アクティビティは、構成された時間間隔でイベント・ストアをポーリングして作成イベントを照会し、そのイベントの実際のオブジェクトをフェッチします。このオブジェクトはオーケストレーションに送信されます。処理が終わると、イベント・ストアのイベントにアーカイブ済みのマークが付けられます。

14. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Siebel 「作成されたオブジェクトの取得」アクティビティを構成しました。
親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_get_created_objects_activity.html

Siebel 「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティの使用

Siebel サーバーで更新されたイベントをポーリングするには、「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- 必要なベンダー・ソフトウェアの JAR ファイルがインストールされている。
- Siebel サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。
- イベントを生成するための *EventStore* ビジネス・オブジェクトおよびトリガーが構成されている。詳しくは、『[Siebel のスターター・アクティビティの前提条件](#)』を参照してください。

このタスクについて

Siebel サーバーの更新されたビジネス・コンポーネント階層または更新された統合オブジェクトを取得するには、このタスクを使用します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Siebel フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Siebel 更新済みオブジェクトの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Siebel エンドポイントを選択します。
7. 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Siebel エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウからオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「リポジトリ名」テキスト・ボックスにリポジトリ名を入力します。リポジトリ名には、Siebel リポジトリを表すデフォルト値が入力されています。デフォルト値と異なる場合は、リポジトリ名を入力します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのリポジトリから取得されます。
11. Siebel サーバーで構成されているイベント・ストア名を指定します。アクティビティは、このイベント・ストアをポーリングして新しいイベントを照会します。
12. 以下のいずれかの統合オブジェクトを選択します。

「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を指定する場合:

- a. 「オブジェクト・タイプ」として「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、「ビジネス・オブジェクト」のリストを表示します。
- c. 「ビジネス・オブジェクト・フィルター」を使用してビジネス・オブジェクトをフィルターします。

- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
- e. ビジネス・オブジェクトのリストから「ビジネス・オブジェクト」を選択して、「次へ」をクリックします。
- f. 選択したビジネス・オブジェクトのビジネス・コンポーネントのリストが表示されます。ビジネス・コンポーネントを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。
- g. 選択したビジネス・コンポーネントが親ビジネス・コンポーネントの子である場合は、親と子の両方のビジネス・コンポーネントが、それらの間の関係とともに生成されます。

「統合オブジェクト」を指定する場合:


- a. 「オブジェクト・タイプ」として「統合オブジェクト」を選択します。
 - b. 「参照」をクリックして、統合オブジェクトのリストを表示します。
 - c. 「統合オブジェクト・フィルター」を使用して統合オブジェクトをフィルターします。
 - d. オプション: 「最新表示」をクリックして、オブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
 - e. 統合オブジェクトを選択して「終了」をクリックし、マップ出力のスキーマを生成します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。同様に「配信ルール」パネルを構成します。詳しくは、『[Siebel アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
 14. アクティビティは、構成された時間間隔でイベント・ストアをポーリングして更新イベントを照会し、そのイベントの実際のオブジェクトをフェッチします。このオブジェクトはオーケストレーションに送信されます。処理が終わると、イベント・ストアのイベントにアーカイブ済みのマークが付けられます。
 15. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
 16. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Siebel 「更新済みオブジェクトの取得」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_get_updated_inbound_activity.html

Siebel 「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティの使用

Siebel サーバーから削除された Siebel ビジネス・オブジェクト、ビジネス・コンポーネント、または Siebel 統合オブジェクトをポーリングするには、「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティを使用します。

始める前に

以下のことを確認してください。

- 必要なベンダー・ソフトウェアの JAR ファイルがインストールされている。
- Siebel サーバーに接続するための有効な接続詳細情報がある。
- イベントを生成するための *EventStore* ビジネス・オブジェクトおよびトリガーが構成されている。詳しくは、『[Siebel のスターター・アクティビティの前提条件](#)』を参照してください。

このタスクについて

Siebel Business Application サーバーで削除操作が実行されたために生成されたイベントをポーリングするには、このタスクを使用します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Siebel フォルダのコンテンツを展開します。
2. 「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Siebel 削除済みオブジェクトの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Siebel エンドポイントを選択します。
7. 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を入力することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Siebel エンドポイントの作成または編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウからオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「リポジトリ名」テキスト・ボックスにリポジトリ名を入力します。リポジトリ名には、Siebel リポジトリを表すデフォルト値が入力されています。デフォルト値と異なる場合は、リポジトリ名を指定します。オブジェクトの検出に必要なメタデータは、すべてこのリポジトリから取得されます。
11. Siebel サーバーで構成されているイベント・ストア名を指定します。アクティビティは、このイベント・ストアをポーリングして新しいイベントを照会します。
12. 以下のいずれかの統合オブジェクトを選択します。

「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を指定する場合:

- a. 「オブジェクト・タイプ」として「ビジネス・オブジェクト/ビジネス・コンポーネント」を選択します。
- b. 「参照」をクリックして、「ビジネス・オブジェクト」のリストを表示します。
- c. 「ビジネス・オブジェクト・フィルター」を使用してビジネス・オブジェクトをフィルターします。
- d. オプション: 「最新表示」をクリックして、現在のオブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
- e. ビジネス・オブジェクトのリストから「ビジネス・オブジェクト」を選択して、「次へ」をクリックします。

- f. 選択したビジネス・オブジェクトのビジネス・コンポーネントのリストが表示されます。ビジネス・コンポーネントを選択して「終了」をクリックし、マップ入力とマップ出力のスキーマを生成します。
- g. 選択したビジネス・コンポーネントが親ビジネス・コンポーネントの子である場合は、親と子の両方のビジネス・コンポーネントが、それらの間の関係とともに生成されます。

「統合オブジェクト」を指定する場合:


- a. 「オブジェクト・タイプ」として「統合オブジェクト」を選択します。
 - b. 「参照」をクリックして、統合オブジェクトのリストを表示します。
 - c. 「統合オブジェクト・フィルター」を使用して統合オブジェクトをフィルターします。
 - d. オプション: 「最新表示」をクリックして、オブジェクト・リストを Siebel サーバーから更新します。
 - e. 統合オブジェクトを選択して「終了」をクリックし、マップ出力のスキーマを生成します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。同様に「配信ルール」パネルを構成します。詳しくは、『[Siebel アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定](#)』を参照してください。
 14. アクティビティは、構成された時間間隔でイベント・ストアをポーリングして削除イベントを照会し、そのイベントの実際のオブジェクトをフェッチします。このオブジェクトはオーケストレーションに送信されます。処理が終わると、イベント・ストアのイベントにアーカイブ済みのマークが付けられます。
 15. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
 16. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Siebel 「削除済みオブジェクトの取得」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_get_deleted_inbound_activity.html

Siebel アクティビティの再試行オプションおよび配信オプションの指定

「再試行」パラメーターおよび「配信」パラメーターの指定は、Siebel アクティビティ構成を構成するためのタスクの1つです。

このタスクについて

このセクションでは、Siebel アウトバウンドおよびインバウンド・アクティビティの再試行オプションを構成するための手順について説明します。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、Siebel サーバーに接続するための再試行オプションを構成します。

表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに一秒待機します。	統合アプライアンスが Siebel サーバーへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。
失敗するまで一回の接続を試みます。	再試行回数、つまり統合アプライアンスが Siebel サーバーへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。 注: インバウンドまたはアウトバウンド Siebel アクティビティのあるオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスは指定された Siebel サーバーに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

関連タスク:

Siebel 「受信」 アクティビティの使用

Siebel 「呼び出し」 アクティビティの使用

Siebel インバウンド・アクティビティの配信ルール・オプションの指定

このタスクについて

このセクションでは、Siebel インバウンド・アクティビティの配信ルール・オプションを構成するための手順について説明します。


手順

1. 「チェックリスト」で「配信ルール」タスクを選択します。「配信ルール」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、アクティビティの動作を選択するための配信ルール・オプションを構成します。

表 2. 配信ルール

「配信ルール」フィールド	説明
変更のポーリング頻度: _____ 日/時間/分/秒	Siebel サーバーのオブジェクトについてポーリングを行う時間間隔を指定します。(例えば、「作成済みオブジェクトの取得」アクティビティは、指定された時間間隔でオブジェクトの作成をポーリングします。) 時間は、日、時、分、または秒の形式で選択できます。
ポーリングごとに _____ 行をフェッチします	アクティビティが各ポーリング周期で Siebel サーバーから取得するオブジェクトまたはコンポーネントの数を指定します。
メッセージの配信	
ATMOST_ONCE	非永続モード。Siebel ビジネス・オブジェクトまたはビジネス・コンポーネントは、1 回配信されるかまったく配信されないかのいずれかです。
ATLEAST_ONCE	永続モード。Siebel ビジネス・オブジェクトまたはビジネス・コンポーネントが失われません。そのため、オーケストレーションはイベントを複数回受け取る機会があります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_Specifying_Retry_Parameters_for_Siebel_Activities.html

Siebel プロパティ・ファイル

Siebel コネクタは、Siebel サーバーとの対話に Siebel API (Java™ データ Bean) を使用します。Siebel API には、クライアント・サイドで接続設定を構成する手段も用意されています。クラスパスに格納した `siebel.properties` ファイルを使用して、Java データ Bean を使用して Siebel アプリケーションに接続するクライアント・アプリケーションのデフォルト・パラメータを提供することができます。

`siebel.properties` ファイルのプロパティを以下の表に示します。

表 1. `siebel.properties` ファイルの説明

プロパティ・タイプ	プロパティ	説明
Siebel Connection Manager Connection プロパティ	<code>siebel.conmgr.txtimeout</code>	トランザクションのタイムアウトをミリ秒単位で示します。デフォルト値は 600000 = 10 分です。
	<code>siebel.conmgr.poolsize</code>	接続プールのサイズを示します。接続プールは、特定のサーバー・プロセスへの接続のセットを維持します。デフォルト値は 2 です。接続プールの最大サイズは 500 です。
	<code>siebel.conmgr.sesstimeout</code>	クライアント・サイドでのトランザクション・タイムアウトを秒単位で示します。デフォルト値は 2700 = 45 分です。
	<code>siebel.conmgr.retry</code>	セッションを開くときの再試行回数を示します。デフォルト値は 3 です。
	<code>siebel.conmgr.jce</code>	Java Cryptography Extension を使用するかどうかを示します。jce を使用する場合は 1、使用しない場合は 0 です。
	<code>siebel.conmgr.virtualhosts</code>	同じ機能 (コール・センター機能など) を実行する、類似したサーバーのグループを表す仮想サーバーのリストを示します。 コール・センターの仮想サーバーにログインが着信すると、ラウンドロビン方式でリスト内のサーバーが試行されます。リストの例を以下に示します。 <code>VirtualServer1=sid1:host:port,sid2:host:port...;VirtualServer2=...</code> (ここで、仮想サーバーは (ローカル SCB の) ホスト名とポート番号を持つ実際の Siebel サーバーの割り当て済みリストです)。
JCA/JDB プロパティの Siebel 生成のコード	Siebel 接続ストリング <code>siebel.user.name</code>	Siebel 接続ストリングを示します。 Object Manager へのログオンに使用するユーザー名を示します。


プロパティ・タイプ	プロパティ	説明
	siebel.user.password	Object Manager へのログオンに使用するパスワードを示します。
	siebel.user.language	ユーザーの優先言語を示します。
	siebel.user.encrypted	ユーザー名およびパスワードを暗号化するかどうかを示します。
	siebel.jdbc.classname	デフォルトの JDB クラス名を示します。
Java システム・プロパティ 注: Java システム・プロパティはシステムのプロパティであり、Siebel のプロパティではありません。	file.encoding	クライアント・サイドのコード・ページを示します。例えば cp1252、utf8、unicodeBig、cp942 などです。

サンプル siebel.properties ファイルを以下に示します。

```
siebel.conmgr.txttimeout = 3600
siebel.conmgr.poolsize = 5
siebel.conmgr.sesstimeout = 300000
```

親トピック: [Siebel アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Siebel_properties.html

セキュリティ・トークン・サービス (STS) アクティビティ

- [STS エンドポイントの作成または編集](#)
セキュリティ・トークン・サービス (STS) エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが STS に接続するために使用する接続情報を提供します。WS-Trust 仕様に準拠する SAML 2.0 トークン/アセッションを STS から要求できます。
- [STS 「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティの使用](#)
「**SAML 2.0 トークンの取得**」アクティビティは、WS-Trust 標準仕様に準拠する要求をセキュア・トークン・サービス (STS) プロバイダーに送信するために使用されます。要求メッセージは、要求セキュリティ・トークン (RST) と呼ばれています。STS は要求を受け取ると、要求されたトークンを生成し、

それを要求セキュリティ・トークン応答 (RSTR) と呼ばれる応答の一部として送信します。このアクティビティーの場合、要求される唯一のトークンは SAML 2.0 トークン/アサーションです。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_stsactivities.html

STS エンドポイントの作成または編集

セキュリティ・トークン・サービス (STS) エンドポイントは、Studio および統合アプライアンスが STS に接続するために使用する接続情報を提供します。WS-Trust 仕様に準拠する SAML 2.0 トークン/アサーションを STS から要求できます。

1. 「エンドポイントの作成」または「エンドポイントの編集」ペインで、次の表に示すようにフィールドを構成します。

注: エンドポイントの構成プロパティーを変更すると、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、プロジェクトでそのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

表 1. エンドポイントのフィールドの説明

フィールド名	説明
ロケーション	
ホスト名	このエンドポイントが接続する STS のホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	STS のポート番号を指定します。
ログイン	説明
匿名ユーザーとしてサーバーにログイン	このオプションは、STS に匿名で接続するとき (この場合はユーザー・アカウントが不要) に選択します。
ユーザー名とパスワードを使用してサーバーにログイン	ユーザー・アカウントを使用して STS に接続するには、このオプションを選択します。「ユーザー名」と「パスワード」を指定します。
認証	統合アプライアンスが STS サーバーへの接続時に使用する認証のタイプを選択できます。以下のいずれかの認証オプションをリストから選択してください。 <ul style="list-style-type: none">• 基本 (Basic) - 指定したユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーへ送信します。これは、最も保護レベルの低い認証スキームです。
ユーザー名	STS への接続に使用するアカウントのユーザー名を指定します。
パスワード	STS への接続に使用するアカウントのパスワードを指定します。

フィールド名	説明
セキュリティー	説明
なし	セキュリティーが不要な場合は、「なし」オプションを選択します。
HTTPS	<p>セキュアな SSL を使用する HTTP を使用可能にする場合は「HTTPS」オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> クライアント認証が必要な場合は、「クライアント証明書別名」チェック・ボックスを選択して、クライアントとして動作する統合アプライアンスが、STS に証明書を提供する必要があることを指定します。選択されている場合は、証明書の名前を指定する必要があります。(クライアント認証で使用するクライアント証明書と秘密鍵のインポート方法について詳しくは、エンド・エンティティ証明書のインポートを参照してください)。このチェック・ボックスを使用してエンドポイント・レベルで指定した証明書は、WMC の「セキュリティー」>「証明書」>「設定」>「クライアント SSL」エントリーで指定された証明書より優先されます。
プロトコル・バージョン	セキュア HTTP over SSL に使用されるプロトコルを選択します。デフォルトでは、使用されるプロトコル・バージョンは SSL_TLSv2 です。
接続タイムアウト - 以下の「接続」フィールドは、「リモート・サーバー」オプションを選択した場合のみ、使用可能になります。	
エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります。	統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの秒数。STS アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前に STS への接続の確立を試行する時間です。アクティビティー・タイムアウトはエンドポイントへの接続が既に確立された後に発生するため、接続タイムアウトとアクティビティー・タイムアウトは異なります。アクティビティー・タイムアウトは、アクティビティーがエンドポイントで要求を呼び出してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。
プロキシ - 以下の「プロキシ」フィールドは、「リモート・サーバー」オプションを選択した場合のみ、使用可能になります。	
ログイン	説明
プロキシ・サーバーを介した接続	プロキシ・サーバーを介して要求をルーティングする必要がある場合は、このチェック・ボックスを選択します。

フィールド名	説明
認証	<p>統合アプライアンスがリモート・サーバーへの接続時に使用する認証のタイプを選択できます。ドロップダウン・リストから、次のいずれかの認証オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本 (Basic) - 指定したユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーへ送信します。これは、最も保護レベルの低い認証スキーマです。 • NTLM - サーバーのドメイン・ネームで NTCredentials のインスタンスを使用可能にすることを要求します。統合アプライアンスは接続を認証して要求を認証しないため、この認証は最も保護レベルの高い認証オプションです。そのため、統合アプライアンスは、新しい接続が確立されるたびに認証を行います。認証プロセス中は、接続を開いたままにしておく必要があります。NTLM を使用して、プロキシとサーバーの両方で認証を行うことはできません。 注: ユーザー名にドメインの接頭部を付けないでください。
レルム/ドメイン	認証オプションとして「Basic」を選択した場合は、レルムを指定してください。認証オプションとして「NTLM」を選択した場合は、ドメインを指定してください。
ホスト名	要求が経由するプロキシ・サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。
ポート	要求が経由するプロキシ・サーバーのポート番号を指定します。
ユーザー名	プロキシ・サーバーへの接続に使用するアカウントのユーザー名を指定します。
パスワード	プロキシ・サーバーへの接続に使用するアカウントのパスワードを指定します。
リモート・エンドポイント構成	
エンドポイントをファイアウォールの内側で実行	このチェック・ボックスを選択してセキュア・コネクタ名のプロパティを使用可能にして、STS がファイアウォールの内側で実行されている場合にセキュア・コネクタを使用できるようにします。
セキュア・コネクタ名	ファイアウォールの内側で稼動している STS への接続に使用するセキュア・コネクタの名前を指定します。例えば、STS アクティビティを含むオーケストレーションが Cast Iron Live (Cloud) にデプロイされる場合は、セキュア・コネクタを構成する必要があります。

注: エンドポイントの一部のフィールドでは、フィールドに値を指定するための構成プロパティを定義できません。構成プロパティをサポートするフィールドをクリックしたときに、同じタイプの構成プロパティがプロジェクトで既に構成されている場合は、



アイコンが表示されます。

親トピック: [セキュリティー・トークン・サービス \(STS\) アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/sts_create_edit_endpoint.html

STS 「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティの使用

「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティは、WS-Trust 標準仕様に準拠する要求をセキュア・トークン・サービス (STS) プロバイダーに送信するために使用されます。要求メッセージは、要求セキュリティー・トークン (RST) と呼ばれています。STS は要求を受け取ると、要求されたトークンを生成し、それを要求セキュリティー・トークン応答 (RSTR) と呼ばれる応答の一部として送信します。このアクティビティの場合、要求される唯一のトークンは SAML 2.0 トークン/アサーションです。

オーケストレーションでの「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティの構成

1. オーケストレーションを作成するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択し、STS フォルダーを展開します。
3. 「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティを選択します。チェックリストが表示されます。

「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティでは、外部 STS (セキュア・トークン・サービス) にセキュリティー・トークンの要求を送信するために、エンドポイントを構成することが必要です。このアクティビティで使用されるエンドポイントは、STS エンドポイントと呼ばれています。このエンドポイントの構成パラメーターと関数は、HTTP エンドポイントと類似しています。しかし、このエンドポイントには、「SAML 2.0 の取得」アクティビティに固有のプロパティがあります。

STS エンドポイントの作成、選択、または編集

1. 「チェックリスト」で「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティの構成』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. STS エンドポイントを作成するか、または編集します。『STS エンドポイントの作成または編集』を参照してください。

アクティビティの構成

1. 「チェックリスト」から、「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明しているように、このペイン内のすべてのフィールドとチェック・ボックスを構成します。

表 1.

フィールドまたはチェックボックス	説明
要求	
URL (ホスト名の後のパス)	<p>「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティーが要求を送信する先の URI パス (例: TrustServerWST13/services/RequestSecurityToken) を指定します。このフィールドに指定するストリングからは、プロトコル (例: http://)、ホスト名、および統合アプライアンスのポート番号を除外する必要があります。統合アプライアンスのホスト名、STS エンドポイントで指定されたポート番号、およびこのフィールドに指定された URI パスから、完全な URL が自動的に構成されます。例えば、「SAML 2.0 トークンの取得」アクティビティーが要求を送信する先の完全な URL が http://<applianceHost>:<appliancePort>/<URI> である場合、このフィールドには、この URI を指定するだけで済みます。</p>
SAML セキュリティー・トークン・サービスのプロパティー	
要求タイプ	このアクティビティーは、SAML 2.0 トークン/アサーションの発行のみをサポートします。デフォルト値は http://docs.oasis-open.org/ws-sx/ws-trust/200512/Issue です。
適用先	SAML 2.0 トークン/アサーションの受信側エンドポイント参照/エンティティー。
発行者	SAML 2.0 トークン/アサーションを発行する役割を持つ権限。

トークン・タイプ	このアクティビティは SAML 2.0 トークン/アサーションを発行します。デフォルト値は SAML v2.0 です。トークン・タイプとして「なし」を選択すると、要求の一部としてトークン・タイプは送信されません。 注: 一部の STS サービスはトークン・タイプを必要としませんが、STS での構成に基づいてトークンを発行します。
----------	--

アクティビティへの入力のマッピング

- 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。「入力のマップ」タスクの「アクティビティへ」ペインに header 入力パラメーターが表示されます。header 入力パラメーターは必須です。header 入力パラメーターには、WSSE 標準のユーザー名トークンが含まれます。
- 「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインで オプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。入力パラメーターの requestSecurityToken、location、httpheaders、および proxyConnection が表示されます。
以下の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを定義したものです。

表 2.

入力パラメーター	説明
requestSecurityToken	requestSecurityToken は SOAP 本体として送信され、STS によって解釈されます。STS はこの入力に基づいて、SAML 2.0 トークン/アサーションを発行します。 注: requestSecurityToken に値が入力されると、「構成」パネルで指定された値は考慮されません。

- 1 つ以上のオーケストレーション変数と 1 つ以上の入力パラメーターとの間のマップを作成します。マップの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

アクティビティの出力のマッピング

- 「チェックリスト」から、「出力のマップ」タスクを選択します。次の表で説明しているように、このアクティビティの出力パラメーターが、「出力のマップ」タスクの「アクティビティから」ペインに表示されます。

表 3.

出力パラメーター	説明
httpheaders	応答の HTTP ヘッダーを指定します。
assertion	SAML 2.0 トークン/アサーションが含まれます。

- アクティビティの 1 つ以上の出力パラメーターと 1 つ以上のオーケストレーション変数との間のマップを作成します。マップについての一般的な説明は、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [セキュリティ・トークン・サービス \(STS\) アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/sts_get_saml_20_token.html

SugarCRM アクティビティ

- **SugarCRM エンドポイントの作成および編集**
SugarCRM エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが SugarCRM サーバーに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。
- **SugarCRM 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティの使用**
SugarCRM インスタンスのオブジェクトを更新または挿入するには、SugarCRM 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「レポートの取得」 アクティビティの使用**
SugarCRM サーバーから特定のレポートを取得するには、SugarCRM 「レポートの取得」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用**
SugarCRM サーバーからオブジェクトを削除するには、SugarCRM 「オブジェクトの削除」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「オブジェクトの取得」 アクティビティの使用**
SugarCRM サーバーからオブジェクトを取得するには、SugarCRM 「オブジェクトの取得」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「オブジェクトの照会」 アクティビティの使用**
SugarCRM サーバーでオブジェクトを照会するには、SugarCRM 「オブジェクトの照会」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「ServerInfo の取得」 アクティビティの使用**
flavor、*version*、*GMT time* などのサーバー情報を SugarCRM サーバーから取得するには、SugarCRM 「ServerInfo の取得」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「UserInfo の取得」 アクティビティの使用**
userId や *userTeamId* などのユーザー情報を SugarCRM サーバーから取得するには、SugarCRM 「UserInfo の取得」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「検索」 アクティビティの使用**
指定のレコードのオブジェクトを検索するには、SugarCRM 「検索」 アクティビティを使用します。このアクティビティは、照会に基づいて詳細を検索します。
- **SugarCRM 「関係の設定」 アクティビティの使用**
2つのレコードの間に単一の設定するには、SugarCRM 「関係の設定」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「関係の削除」 アクティビティの使用**
2つのレコード間の関係を削除するには、SugarCRM 「関係の削除」 アクティビティを使用します。
- **SugarCRM 「関係の取得」 アクティビティの使用**
2つのレコード間の関係データを取得するには、SugarCRM 「関係の取得」 アクティビティを使用します。例えば、このアクティビティを使用して、特定のアカウントの連絡先の詳細を取得し、さらにその連絡先の E メール・アドレスや機会情報を取得することができます。
- **SugarCRM アクティビティの再試行オプションの指定**
「再試行」パラメーターの指定は、SugarCRM アクティビティを構成するためのタスクの1つです。SugarCRM コネクタでは、SugarCRM エンドポイントへのすべての接続について単一のログイン・セ

セッションを使用します。セッションの有効期限が切れると、コネクターは自動的に新規セッションを確立します。このコネクターは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。コネクターは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクターの標準的な再試行動作と見なします。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_SugarCRMActivities.html

SugarCRM エンドポイントの作成および編集

SugarCRM エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが SugarCRM サーバーに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。

このタスクについて

SugarCRM エンドポイントを作成または編集するには、このタスクを使用します。

注:

SugarCRM エンドポイントに対して行う構成プロパティなどのすべての変更は、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

手順

- 「アクティビティ」タブの下の「SugarCRM」フォルダーから「オーケストレーション」ウィンドウにアクティビティをドラッグします。「要約」パネルが表示されます。
- 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
- 以下のボタンのいずれかをクリックします。
 - 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。
 - 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
 - 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
- 次の表に示されたフィールドに入力します。

表 1. 接続の詳細


フィールド名	説明
接続の詳細	
SugarCRM URL	SugarCRM インスタンスの SOAP URL を指定します。例えば <code>http://<sugar-server>/<sugar-path>/soap.php</code> とします。

フィールド名	説明
ユーザー名	SugarCRM サーバーに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	SugarCRM サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
アプリケーション名	使用するアプリケーションの名前を示します。アプリケーション名は、自動で <i>sugarCRM</i> に設定されています。
バージョン	使用するアプリケーションのバージョンを示します。バージョン番号は、自動で 2.0 に設定されています。

- 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、SugarCRM システムに接続できることを確認します。
- 「OK」をクリックします。

親トピック: [SugarCRM アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_creating_an_endpoint_activity.html

SugarCRM 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティの使用

SugarCRM インスタンスのオブジェクトを更新または挿入するには、SugarCRM 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

SugarCRM インスタンスのオブジェクトを更新または挿入するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

- アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。
- 「オブジェクトのアップサート」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM オブジェクトのアップサート「チェックリスト」が表示されます。
- 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
- 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
- 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
- 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。

7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」ウィンドウが表示されます。
11. 「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[SugarCRM アクティビティの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトのアップサート」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。


タスクの結果

SugarCRM 「オブジェクトのアップサート」アクティビティを構成しました。

注: このアクティビティへの入力として、複数のオブジェクトを追加することができます。入力として複数のオブジェクトを追加するには、「入力のマップ」の「アクティビティへ」ペインでオブジェクトを右クリックし、「オカレンスの展開」を選択します。複数のオブジェクトを追加できるのは、オブジェクトのタイプが同じ場合のみです。

親トピック: [SugarCRM アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_upsert_activity.html

SugarCRM 「レポートの取得」 アクティビティの使用

SugarCRM サーバーから特定のレポートを取得するには、SugarCRM 「レポートの取得」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

SugarCRM サーバーから特定のレポートを取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「レポートの取得」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM レポートの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「レポートの取得」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果


SugarCRM 「レポートの取得」アクティビティを構成しました。

注: このアクティビティへの入力として、複数のオブジェクトを追加することができます。入力として複数のオブジェクトを追加するには、「入力のマップ」の「アクティビティへ」ペインでオブジェクトを右クリッ

クし、「オカレンスの展開」を選択します。複数のオブジェクトを追加できるのは、オブジェクトのタイプが同じ場合のみです。

親トピック: [SugarCRM アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_get_reports_activity.html

SugarCRM 「オブジェクトの削除」 アクティビティーの使用

SugarCRM サーバーからオブジェクトを削除するには、SugarCRM 「オブジェクトの削除」 アクティビティーを使用します。

このタスクについて

SugarCRM サーバーからオブジェクトを削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて SugarCRM フォルダのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの削除」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM オブジェクトの削除「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」ウィンドウが表示されます。
11. 「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。
12. 「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。

- 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[SugarCRM アクティビティーの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
- 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの削除」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成されたXMLスキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
- オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
- 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成されたXMLスキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
- 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。


タスクの結果

SugarCRM 「オブジェクトの削除」アクティビティーを構成しました。

注: このアクティビティーへの入力として、複数のオブジェクトを追加することができます。入力として複数のオブジェクトを追加するには、「入力のマップ」の「アクティビティーへ」ペインでオブジェクトを右クリックし、「オカレンスの展開」を選択します。複数のオブジェクトを追加できるのは、オブジェクトのタイプが同じ場合のみです。

親トピック: [SugarCRM アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_delete_activity.html

SugarCRM 「オブジェクトの取得」アクティビティーの使用

SugarCRM サーバーからオブジェクトを取得するには、SugarCRM 「オブジェクトの取得」アクティビティーを使用します。

このタスクについて

SugarCRM サーバーからオブジェクトを取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM オブジェクトの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」ウィンドウが表示されます。
11. 「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。
12. 「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
13. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[SugarCRM アクティビティーの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの取得」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
18. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

SugarCRM 「オブジェクトの取得」アクティビティーを構成しました。

注: このアクティビティーへの入力として、複数のオブジェクトを追加することができます。入力として複数のオブジェクトを追加するには、「入力のマップ」の「アクティビティーへ」ペインでオブジェクトを右クリックし、「オカレンスの展開」を選択します。複数のオブジェクトを追加できるのは、オブジェクトのタイプが同じ場合のみです。

親トピック: [SugarCRM アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_getobject_activity.html

SugarCRM 「オブジェクトの照会」 アクティビティーの使用

SugarCRM サーバーでオブジェクトを照会するには、SugarCRM 「オブジェクトの照会」 アクティビティーを使用します。

このタスクについて

SugarCRM サーバーでオブジェクトを照会するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの照会」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM オブジェクトの照会「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」ウィンドウが表示されます。
11. 「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。
12. 「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
13. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[SugarCRM アクティビティーの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの照会」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力

パラメーターの下にノードとして表示されます。

注: 削除されたオブジェクトをすべて取得するには、「入力のマップ」の下にある「照会ストリング (QueryString)」に、必要なストリングを設定します。例えば、削除済みアカウント・オブジェクトをすべて取得するには、照会ストリングを `accounts.deleted=1` にする必要があります。


16. オークストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの `response` 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
18. 出力パラメーターとオークストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

SugarCRM 「オブジェクトの照会」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [SugarCRM アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_query_activity.html`

SugarCRM 「ServerInfo の取得」アクティビティーの使用

`flavor`、`version`、`GMT time` などのサーバー情報を SugarCRM サーバーから取得するには、SugarCRM 「ServerInfo の取得」アクティビティーを使用します。

このタスクについて

`flavor`、`version`、`GMT time` などのサーバー情報を SugarCRM サーバーから取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オークストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオークストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「ServerInfo の取得」アクティビティー・アイコンをオークストレーション上にドラッグします。SugarCRM ServerInfo の取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。


6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『SugarCRM エンドポイントの作成および編集』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「ServerInfo の取得」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
11. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

SugarCRM 「ServerInfo の取得」アクティビティを構成しました。

親トピック: [SugarCRM アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_getserverinfo_activity.html

SugarCRM 「UserInfo の取得」アクティビティの使用

userId や *userTeamId* などのユーザー情報を SugarCRM サーバーから取得するには、SugarCRM 「UserInfo の取得」アクティビティを使用します。

このタスクについて

userId や *userTeamId* などのユーザー情報を SugarCRM サーバーから取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「UserInfo の取得」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。
SugarCRM UserInfo の取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。


5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「UserInfo の取得」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
11. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

SugarCRM 「UserInfo の取得」アクティビティを構成しました。

親トピック: [SugarCRM アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_getuserinfo_activity.html

SugarCRM 「検索」アクティビティの使用

指定のレコードのオブジェクトを検索するには、SugarCRM 「検索」アクティビティを使用します。このアクティビティは、照会に基づいて詳細を検索します。

このタスクについて

指定のレコードのオブジェクトを検索するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「検索」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM 検索「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。


4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「検索」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

SugarCRM 「検索」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [SugarCRM アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_search_activity.html

SugarCRM 「関係の設定」アクティビティーの使用

2つのレコードの間に単一の関係を設定するには、SugarCRM 「関係の設定」アクティビティーを使用します。

このタスクについて

2つのレコードの間に単一の関係を設定するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「関係の設定」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM 関係の設定「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」ウィンドウが表示されます。
11. 「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。
12. 「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
13. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[SugarCRM アクティビティーの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「関係の設定」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
18. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

SugarCRM 「関係の設定」アクティビティーを構成しました。

注: このアクティビティーへの入力として、複数のオブジェクトを追加することができます。入力として複数のオブジェクトを追加するには、「入力のマップ」の「アクティビティーへ」ペインでオブジェクトを右クリックし、「オカレンスの展開」を選択します。複数のオブジェクトを追加できるのは、オブジェクトのタイプが同じ場合のみです。

親トピック: [SugarCRM アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_set_relationship_activity.html

SugarCRM 「関係の削除」 アクティビティの使用

2つのレコード間の関係を削除するには、SugarCRM 「関係の削除」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

2つのレコード間の関係を削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて SugarCRM フォルダのコンテンツを展開します。
2. 「関係の削除」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM 関係の削除「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」ウィンドウが表示されます。
11. 「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。
12. 「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
13. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[SugarCRM アクティビティの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「関係の削除」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメー

ターの下にノードとして表示されます。

16. オークストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
18. 出力パラメーターとオークストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

SugarCRM 「関係の削除」アクティビティを構成しました。

注: このアクティビティへの入力として、複数のオブジェクトを追加することができます。入力として複数のオブジェクトを追加するには、「入力のマップ」の「アクティビティへ」ペインでオブジェクトを右クリックし、「オカレンスの展開」を選択します。複数のオブジェクトを追加できるのは、オブジェクトのタイプが同じ場合のみです。

親トピック: [SugarCRM アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_delete_relationship_activity.html

SugarCRM 「関係の取得」アクティビティの使用

2つのレコード間の関係データを取得するには、SugarCRM 「関係の取得」アクティビティを使用します。例えば、このアクティビティを使用して、特定のアカウントの連絡先の詳細を取得し、さらにその連絡先のEメール・アドレスや機会情報を取得することができます。

このタスクについて

2つのレコード間の関係データを取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オークストレーションに応答が返信されます。

手順

1. アクティブなオークストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて SugarCRM フォルダーのコンテンツを展開します。

2. 「関係の取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。SugarCRM 関係の取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する SugarCRM エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[SugarCRM エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」ウィンドウが表示されます。
11. 「SugarCRM の参照 (Browse SugarCRM)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。
12. 「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
13. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
14. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[SugarCRM アクティビティーの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
15. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「関係の取得」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
17. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
18. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

SugarCRM 「関係の取得」アクティビティーを構成しました。

注: このアクティビティーへの入力として、複数のオブジェクトを追加することができます。入力として複数のオブジェクトを追加するには、「入力のマップ」の「アクティビティーへ」ペインでオブジェクトを右クリックし、「オカレンスの展開」を選択します。複数のオブジェクトを追加できるのは、オブジェクトのタイプが同じ場合のみです。

親トピック: [SugarCRM アクティビティー](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_get_relationship_activity.html

SugarCRM アクティビティの再試行オプションの指定

「再試行」パラメーターの指定は、SugarCRM アクティビティを構成するためのタスクの 1 つです。SugarCRM コネクタでは、SugarCRM エンドポイントへのすべての接続について単一のログイン・セッションを使用します。セッションの有効期限が切れると、コネクタは自動的に新規セッションを確立します。このコネクタは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクタの標準的な再試行動作と見なします。

このタスクについて

SugarCRM アクティビティの再試行オプションを構成するには、このタスクを使用します。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、SugarCRM インスタンスに接続するための再試行およびタイムアウト・オプションを構成します。


表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに __ 秒待機します。	統合アプライアンスが SugarCRM インスタンスへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。
失敗するまで __ 回の接続を試みます。	再試行回数、つまり統合アプライアンスが SugarCRM インスタンスへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。 注: SugarCRM アクティビティが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の SugarCRM インスタンスに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。

再試行フィールド	説明
アクティビティ・タイムアウト	
エンドポイントが要求に応答しないとき、__秒後にタイムアウトになります。	エンドポイントが要求に応答しない場合に、統合アプライアンスがタイムアウトするまでに待機する秒数を指定します。デフォルトは 300 秒です。

親トピック: [SugarCRM アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/SugarCRM_Specifying_Retry_Parameters_for_SugarCRM_Activities.html

Taleo アクティビティ

- [Taleo エンドポイントの作成および編集](#)
Taleo エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Taleo の HR Community、Resources、Application、および Recruitment データベースへ接続するために使用する接続情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。
- [Taleo 「添付ファイルの作成 \(Create Attachments\)」 アクティビティの使用](#)
Taleo 「添付ファイルの作成 (Create Attachments)」 アクティビティを使用して、オブジェクトに関連付けられた追加ファイルを作成します。例えば、候補者への面接案内および任命指示を Taleo サーバーに作成します。
- [Taleo 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用](#)
Taleo 「オブジェクトの作成」 アクティビティを使用して、Employee、Task、Calendar Event、Account、Candidate、Contact、Interview、Requisition、User などのオブジェクトを Taleo サーバーに作成します。

- **Taleo 「オブジェクトの取得」 アクティビティの使用**
Taleo 「オブジェクトの取得」 アクティビティを使用して、Employee、Task、Calendar Event、Account、Candidate、Contact、Interview、Requisition、User などのオブジェクトを Taleo サーバーから取得します。
- **Taleo 「オブジェクト内の検索」 アクティビティの使用**
Taleo 「オブジェクト内の検索」 アクティビティを使用して、フィールド名に入力された検索値に基づき、Taleo サーバー内でオブジェクトを検索します。
- **Taleo 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用**
Taleo 「オブジェクトの削除」 アクティビティを使用して、Employee、Task、Calendar Event、Account、Candidate、Contact、Interview、Requisition、User などのオブジェクトを Taleo サーバーから削除します。
- **Taleo 「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」 アクティビティの使用**
Taleo 「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」 アクティビティを使用して、特定のユーザーおよび募集要項との関連付けを Taleo サーバー内に設定します。募集要項には、Taleo で追跡するすべての求人の詳細が含まれています。
- **Taleo 「バイナリー・レジユメの設定 (Set Binary Resume)」 アクティビティの使用**
Taleo 「バイナリー・レジユメの設定 (Set Binary Resume)」 アクティビティを使用して、Taleo サーバー内の Candidate ID にレジユメをバイナリー形式 (Word、PDF など) で追加します。
- **Taleo 「候補者の送信 (Submit Candidates)」 アクティビティの使用**
Taleo 「候補者の送信 (Submit Candidates)」 アクティビティを使用して、応募者、社員の紹介者、派遣見込み者、または代理店の提案のいずれかである候補者 (Candidate ID) を Taleo サーバー内の募集要項 (求人) に対して送信します。
- **Taleo 「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」 アクティビティの使用**
Taleo 「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」 アクティビティを使用して、Taleo サーバー内の Candidate に関連付けられた添付ファイルを更新します。更新要求により、既存の添付ファイルが置き換えられます。
- **Taleo 「オブジェクトの更新」 アクティビティの使用**
Taleo 「オブジェクトの更新」 アクティビティを使用して、Taleo サーバー内の Employee、Task、Calendar Event、Account、Candidate、Contact、Interview、Requisition、User などのオブジェクトを更新します。
- **Taleo 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティの使用**
Taleo 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティを使用して、Taleo サーバーに対して従業員レコードを挿入または更新します。
- **Taleo アクティビティの再試行パラメーターの指定**
再試行パラメーターの指定は、Taleo アクティビティを構成するために実行する必要がある作業の 1 つです。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_taleoactivities.html

Taleo エンドポイントの作成および編集

Taleo エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Taleo の HR Community、Resources、Application、および Recruitment データベースへ接続するために使用する接続情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。

このタスクについて

Taleo エンドポイントを作成または編集するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

注:

Taleo エンドポイントに対して行う構成プロパティーなどのすべての変更は、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

Taleo エンドポイントを作成および編集するには、次のステップを実行します。

手順

- 「アクティビティー」タブの下の「Taleo」フォルダーから「オーケストレーション」ウィンドウにアクティビティーをドラッグします。「要約」パネルが表示されます。
- 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
- 以下のボタンのいずれかをクリックします。
 - 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。
 - 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
 - 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
- 「エンドポイントの作成」ウィンドウで、次の表に示されたフィールドに入力します。

表 1. 接続の詳細

フィールド名	説明
接続の詳細	
インスタンス名 (Instance Name)	Taleo インスタンスの名前を指定します。
ユーザー名	Taleo サーバーに接続するユーザー名を指定します。
パスワード	Taleo サーバーに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。

- 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、Taleo システムに接続できることを確認します。
- 「OK」をクリックします。

タスクの結果

Taleo エンドポイントを作成または編集しました。

親トピック: [Taleo アクティビティー](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_creating_an_endpoint_activity.html

Taleo 「添付ファイルの作成 (Create Attachments)」 アクティビティの使用

Taleo 「添付ファイルの作成 (Create Attachments)」 アクティビティを使用して、オブジェクトに関連付けられた追加ファイルを作成します。例えば、候補者への面接案内および任命指示を Taleo サーバーに作成します。

このタスクについて

Taleo サーバーに添付ファイルを作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「添付ファイルの作成 (Create Attachments)」 アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「添付ファイルの作成 (Create Attachments)」 アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo 添付ファイルの作成 (Create Attachments) 「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「添付ファイルの作成 (Create Attachments)」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行

時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。


11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「添付ファイルの作成」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_create_attachments_activity.htm](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_create_attachments_activity.html)
l

Taleo 「オブジェクトの作成」アクティビティーの使用

Taleo 「オブジェクトの作成」アクティビティーを使用して、Employee、Task、Calendar Event、Account、Candidate、Contact、Interview、Requisition、User などのオブジェクトを Taleo サーバーに作成します。

このタスクについて

Taleo サーバーにオブジェクトを作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「オブジェクトの作成」アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの作成」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo オブジェクトの作成「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。

注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。


8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Taleo の参照 (Browse Taleo)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Taleo の参照 (Browse Taleo)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Taleo アクティビティの再試行パラメーターの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの作成」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「オブジェクトの作成」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_create_activity.html

Taleo 「オブジェクトの取得」アクティビティの使用

Taleo 「オブジェクトの取得」アクティビティを使用して、Employee、Task、Calendar Event、Account、Candidate、Contact、Interview、Requisition、User などのオブジェクトを Taleo サーバーから取得します。

このタスクについて

Taleo サーバーからオブジェクトを取得するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「オブジェクトの取得」を構成するには、次のステップを実行します。

手順


1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの取得」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo オブジェクトの取得「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Taleo の参照 (Browse Taleo)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Taleo の参照 (Browse Taleo)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Taleo アクティビティーの再試行パラメーターの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの取得」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「オブジェクトの取得」 アクティビティを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_getobjects_activity.html

Taleo 「オブジェクト内の検索」 アクティビティの使用

Taleo 「オブジェクト内の検索」 アクティビティを使用して、フィールド名に入力された検索値に基づき、Taleo サーバー内でオブジェクトを検索します。

このタスクについて

Taleo サーバー内でオブジェクトを検索するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「オブジェクト内の検索」 アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」 タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクト内の検索」 アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo オブジェクト内の検索「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクト内の検索」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告され

た例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。


11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「オブジェクト内の検索」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_search__objects_activity.html

Taleo 「オブジェクトの削除」アクティビティーの使用

Taleo 「オブジェクトの削除」アクティビティーを使用して、Employee、Task、Calendar Event、Account、Candidate、Contact、Interview、Requisition、User などのオブジェクトを Taleo サーバーから削除します。

このタスクについて

Taleo サーバーからオブジェクトを削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「オブジェクトの削除」アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの削除」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo オブジェクトの削除「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。


8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Taleo の参照 (Browse Taleo)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Taleo の参照 (Browse Taleo)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Taleo アクティビティの再試行パラメーターの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの削除」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「オブジェクトの削除」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_delete_objects_activity.html

Taleo 「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」アクティビティの使用

Taleo 「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」アクティビティを使用して、特定のユーザーおよび募集要項との関連付けを Taleo サーバー内に設定します。募集要項には、Taleo で追跡するすべての求人の詳細が含まれています。

このタスクについて

ユーザーおよび募集要項との関連付けを設定するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo 関連ユーザーの設定 (Set Associated Users) 「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「関連ユーザーの設定 (Set Associated Users)」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティ](#)

Taleo 「バイナリー・レジューメの設定 (Set Binary Resume)」 アクティビティーの使用

Taleo 「バイナリー・レジューメの設定 (Set Binary Resume)」 アクティビティーを使用して、Taleo サーバー内の Candidate ID にレジューメをバイナリー形式 (Word、PDF など) で追加します。

このタスクについて

Taleo サーバー内の Candidate ID にバイナリー・レジューメを追加するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「バイナリー・レジューメの設定 (Set Binary Resume)」 アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「バイナリー・レジューメの設定 (Set Binary Resume)」 アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo バイナリー・レジューメの設定 (Set Binary Resume) 「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「バイナリー・レジューメの設定 (Set Binary Resume)」 アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。


11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成されたXMLスキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「バイナリー・レジюмеの設定 (Set Binary Resume)」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_set_binary_resume_activity.html

Taleo 「候補者の送信 (Submit Candidates)」アクティビティーの使用

Taleo 「候補者の送信 (Submit Candidates)」アクティビティーを使用して、応募者、社員の紹介者、派遣見込み者、または代理店の提案のいずれかである候補者 (Candidate ID) を Taleo サーバー内の募集要項 (求人) に対して送信します。

このタスクについて

Taleo サーバーに候補者を送信するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「候補者の送信 (Submit Candidates)」アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「候補者の送信 (Submit Candidates)」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo 候補者の送信 (Submit Candidates) 「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。


8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「候補者の送信 (Submit Candidates)」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「候補者の送信 (Submit Candidates)」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_submit_candidates_activity.html

Taleo 「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」アクティビティーの使用

Taleo 「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」アクティビティーを使用して、Taleo サーバー内の Candidate に関連付けられた添付ファイルを更新します。更新要求により、既存の添付ファイルが置き換えられます。

このタスクについて

Taleo サーバー内の添付ファイルを更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。


手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo 添付ファイルの更新 (Update Attachments) 「チェックリスト」が表示されません。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「添付ファイルの更新 (Update Attachments)」アクティビティーを構成しました。
親トピック: [Taleo アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_update_attachments_activity.html

Taleo 「オブジェクトの更新」アクティビティーの使用

Taleo 「オブジェクトの更新」アクティビティーを使用して、Taleo サーバー内の Employee、Task、Calendar Event、Account、Candidate、Contact、Interview、Requisition、User などのオブジェクトを更新します。

このタスクについて

Taleo サーバー内のオブジェクトを更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「オブジェクトの更新」アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順


1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの更新」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo オブジェクトの更新「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Taleo の参照 (Browse Taleo)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Taleo の参照 (Browse Taleo)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。
12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Taleo アクティビティの再試行パラメーターの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの更新」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「オブジェクトの更新」 アクティビティを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_update_objects_activity.html

Taleo 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティの使用

Taleo 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティを使用して、Taleo サーバーに対して従業員レコードを挿入または更新します。

このタスクについて

Taleo サーバーに対して従業員レコードを挿入または更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Taleo 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」 タブを開いて Taleo フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトのアップサート」 アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Taleo オブジェクトのアップサート 「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」 フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Taleo エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Taleo エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Taleo の参照 (Browse Taleo)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Taleo の参照 (Browse Taleo)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェク


ト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。オブジェクト・フィールドの設定が表示されます。

12. 「オブジェクト・フィールド設定」で、マップするフィールドのフィールド名のチェック・ボックスを選択します。
13. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Taleo アクティビティの再試行パラメーターの指定](#)』を参照してください。
14. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトのアップサート」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
15. オークストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
16. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
17. 出力パラメーターとオークストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Taleo 「オブジェクトのアップサート」アクティビティを構成しました。
親トピック: [Taleo アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_upsert_object_activity.html

Taleo アクティビティの再試行パラメーターの指定

再試行パラメーターの指定は、Taleo アクティビティを構成するために実行する必要がある作業の 1 つです。

このタスクについて

Taleo コネクタは、Taleo アプリケーションに接続してアクティビティを実行します。接続が失われるかタイムアウトになると、コネクタは、表 1 に示すパラメーターに基づいて自動的に新しい接続を確立します。コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクタの標準的な再試行動作と見なします。

「チェックリスト」の構成タスクについて詳しくは、具体的な Taleo アクティビティのヘルプ・トピックを参照してください。

再試行パラメーターを指定するには、次のステップを実行します。

1. 「チェックリスト」で、「再試行」を選択します。「再試行」パネルが表示されます。
2. Taleo アプリケーションに接続するための再試行オプションを構成します。
次の表で、Taleo アプリケーションに接続するための再試行オプションについて説明します。

表 1. 再試行オプション


再試行フィールド	説明
再試行ごとに __ 秒待機します。	統合アライアンスが Taleo アプリケーションへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。デフォルトでは、このパラメーターは 30 秒に設定されます。
失敗するまで __ 回の接続を試みます。	統合アライアンスが Taleo アプリケーションへの接続を確立しようとする場合に、エラーを出して現在のオーケストレーション・ジョブの処理を停止するまでの最大試行回数を指定します。デフォルトでは、このパラメーターは 5 回に設定されています。
アクティビティ・タイムアウト	
エンドポイントが要求に回答しないとき、__ 秒後にタイムアウトになります。	エンドポイントが要求に回答しない場合に、統合アライアンスがタイムアウトするまでに待機する秒数を指定します。デフォルトは 300 秒です。

タスクの結果

Taleo アクティビティの再試行パラメーターを構成しました。

親トピック: [Taleo アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Taleo_Specifying_Retry_Parameters_for_Taleo_Activities.html

Web サービス・アクティビティ

- [Web サービス・エンドポイントの作成または編集](#)
2つのタイプの Web サービス・エンドポイントを定義できます。
- [変更された WSDL の更新](#)
WSDL を使用するプロジェクトを作成した後で、その WSDL が変更された場合は、新規 WSDL を用いて既存 WSDL の更新を試みることができます。
- [Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティ](#)
実行時に、Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティは、外部 Web サービスを開始します。

- **Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティによる圧縮/圧縮解除**
実行時に、Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティは、HTTP/HTTPS 1.1 プロトコルに準拠した HTTP 要求を Web サービスに送信します。「サービスの呼び出し」アクティビティは、圧縮では gzip 形式のみを、圧縮解除では gzip 形式または deflate 形式をサポートしています。
- **Web サービス「サービスの提供」アクティビティ**
「サービスの提供」アクティビティは実行時に、外部クライアントから開始可能な Web サービスを提供します。
- **Web サービス「サービスの提供」アクティビティによる圧縮解除**
Web サービス「サービスの提供」アクティビティでは、gzip 形式を使用した圧縮解除のみがサポートされます。
- **Web サービス「応答の送信」アクティビティ**
実行時に、「応答の送信」アクティビティは「サービスの提供」アクティビティに対する応答を返します。
- **Web サービス「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティ**
実行時に、「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティから呼び出し側オーケストレーションにフォールトが返されます。このアクティビティでは、応答構成オプションとして SOAP 機能が提供されます。
- **Web サービス「応答の送信」アクティビティによる圧縮**
実行時に、「Web サービスの応答送信」アクティビティは、HTTP/HTTPS 1.0 プロトコルに準拠する HTTP 応答をクライアントに送信します。「応答送信」アクティビティは、gzip 形式を使用した圧縮のみをサポートします。
- **トラブルシューティングとサポート**
トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。ここでは、Web サービス・コネクタで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_webservicesactivities.html

Web サービス・エンドポイントの作成または編集

2つのタイプの Web サービス・エンドポイントを定義できます。

このタスクについて

「サービスの呼び出し」アクティビティの場合 - エンドポイントは、実行時に開始される リモート Web サービスのサーバーおよびサービスを定義します。


「サービスの提供」アクティビティの場合 - エンドポイントは、統合アプライアンスによって提供されるサービスのポート番号およびパスを定義します。

- **「サービスの呼び出し」アクティビティのエンドポイントの作成または編集**
「サービスの呼び出し」アクティビティの Web サービス・エンドポイントを作成または編集します。

- 「サービスの提供」アクティビティーのエンドポイントの作成または編集
「サービスの提供」アクティビティーの Web サービス・エンドポイントを作成または編集します。

親トピック: [Web サービス・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_creating_an_endpoint.html

「サービスの呼び出し」アクティビティーのエンドポイントの作成または編集

「サービスの呼び出し」アクティビティーの Web サービス・エンドポイントを作成または編集します。

手順

1. 「エンドポイントの作成」ペインまたは「エンドポイントの編集」ペインで、「リモート・サーバー」オプションを選択して、「参照」をクリックします。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
2. 「プロジェクト・エクスプローラー」ペインには、以下のような、WSDL ファイルを選択するためのオプションがあります。
 - 「プロジェクト・エクスプローラー」ペインで、既にプロジェクトにアップロードされている既存の WSDL ファイルを選択する。
 - ファイル・システムから WSDL ファイルを選択する: 「追加」をクリックします。「追加」ダイアログ・ボックスで WSDL ファイルを参照し、「追加」をクリックします。
 - URL から WSDL ファイルをダウンロードする: 「URL の追加」をクリックします。「追加」フィールドに、ダウンロードする WSDL の URL を入力します。「OK」をクリックします。

注:

- 選択する WSDL ファイルには、WSDL 1.1 および WS-I Basic Profile 1.1 仕様との互換性がなければなりません。
- 「サービスの呼び出し」アクティビティーによって参照される既存の Web サービス・エンドポイントを編集中に、そのエンドポイント用に別の WSDL を選択した場合は、[Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティー](#)の「構成」タスクで適切な操作を選択する必要があります。

「WSDL 名」、「サービス」、「ポート」、および「ロケーション」の各フィールドに、下のリストに示されている、WSDL ファイルに指定された値が表示されます。

WSDL 名

このフィールドを定義する WSDL ファイル内の XML エlement:

```
<definitions targetNamespace="http://www.acme.com/wsdl/hello.wsdl"
  xmlns="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/"
  xmlns:tns="http://www.acme.com/wsdl/hello.wsdl"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
  xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/
...</definitions>
```

説明: WSDL で使用されている Web サービスおよび名前空間の名前を指定します。また、定義エレメントは、Web サービスを定義する残りのエレメントのルート・エレメントです。これらのその他のエレメントは、WSDL 内の </definitions> エレメントに含まれています。

サービス

このフィールドを定義する WSDL ファイル内の XML エレメント:

```
<service name="HelloWorld">
  <port name="HelloWorld" binding="s0:HelloWorld">
<soap:address location="http://localhost:7001/WS/HelloWorld.jws"/>
  </port>
</service>
```

説明: サービスの名前を指定します。WSDL では、サービス・エレメントに、サービスのロケーションを定義するポート・エレメントおよびロケーション・エレメントが含まれています。1つ以上のサービスを WSDL に定義できます。複数のサービスが定義されている場合は、エンドポイント・ペインの「サービス」フィールドでメニューを選択することにより、特定のサービスを選択できます。

ポート

このフィールドを定義する WSDL ファイル内の XML エレメント:

```
<port name="HelloWorld" binding="s0:HelloWorld">
<soap:address location="http://localhost:7001/WS/HelloWorld.jws"/>
</port>
```

説明: サービスのバインディングを指定します。WSDL 内のサービスごとに1つ以上のポートを定義できます。複数のポートがサービスに定義されている場合は、エンドポイント・ペインの「ポート」フィールドでメニューを選択することにより、特定のポートを選択できます。

ロケーション

このフィールドを定義する WSDL ファイル内の XML エレメント:

```
<soap:address location="http://localhost:7001/WS/HelloWorld.jws"/>
```

説明: 指定のサービスを開始するためのアドレスを指定します。これは通常、SOAP サービスを開始するための URL です。

3. 「サービス」リストからサービスを選択します。詳しくは、上の表を参照してください。
4. 「ポート」リストからポートを選択します。詳しくは、上の表を参照してください。
5. 「ログイン」オプションを選択し、必要に応じて、下の表に示されている設定を指定します。

注: これらのオプションは、「リモート・サーバー」ロケーション・オプションを選択した場合にのみ選択可能です。

図 1. ログイン・オプション

表 1.

オプション/フィールド名	説明
匿名ユーザーとしてサーバーにログイン	サーバーに匿名で接続するには、このオプションを選択します。ユーザー・アカウント情報は不要です。

オプション/フィールド名	説明
ユーザー名とパスワードを使用してサーバーにログイン	ユーザー・アカウントを使用してサーバーに接続するには、このオプションを選択します。このオプションを選択する場合は、認証モードを選択し、ユーザー名とパスワードを指定する必要があります。
認証	<p>統合アプライアンスがリモート・サーバーへの接続時に使用する認証のタイプを選択できます。以下のいずれかの認証モードをリストから選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本 (Basic) - 指定したユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーに送信します。これは、最も保護レベルの低い認証スキームです。 ダイジェスト (Digest) - 指定したユーザー名とパスワードを、サーバーに送信する前に暗号化します。これは、「基本 (Basic)」認証より保護レベルの高い認証オプションです。 NTLM - サーバーのドメイン・ネームで NTCredentials のインスタンスを使用可能にすることを要求します。この認証は、最も保護レベルの高い認証オプションです。 <p>NTLM 認証オプションを選択した場合、統合アプライアンスは、要求ではなく接続を認証します。そのため、統合アプライアンスは、新しい接続が確立されるたびに認証を行います。認証プロセス中は、接続を開いたままにしておく必要があります。NTLM を使用して、プロキシとサーバーの両方で認証を行うことはできません。</p> <p>注: ユーザー名にドメインの接頭部を付けないでください。</p>
レルム/ドメイン	<ul style="list-style-type: none"> 「基本 (Basic)」または「ダイジェスト (Digest)」認証オプションを選択する場合は、レルムを指定できます。レルムを指定しない場合、アクティビティは「任意のレルム」に対して認証を行います。 「NTLM」認証オプションを選択する場合は、ドメインを指定する必要があります。ドメインを指定しない場合、エンドポイント構成は無効となり、エラーが発生します。
ユーザー名	サーバーへの接続に使用するアカウントのユーザー名を指定します。
パスワード	HTTP サーバーへの接続に使用するアカウントのパスワードを指定します。

6. セキュリティー・オプションを指定します。

クライアント認証が必要な場合は、「クライアント証明書別名」チェック・ボックスを選択して、クライアントとして動作する統合アプライアンスが、HTTP サーバーに証明書を提供する必要があることを指定します。選択されている場合は、証明書の名前を指定する必要があります。このチェック・ボックスを使用してアクティビティー・レベルで指定した証明書は、WMC の「セキュリティ」->「証明書」->「設定」->「クライアント SSL」エントリーで指定された証明書より優先されます。

セキュア HTTP over SSL に使用されるプロトコル・バージョンを選択します。デフォルトでは、使用されるプロトコル・バージョンは SSL_TLSv2 です。

7. 「接続プール・オプション」に、接続の最大数を指定します。

この値は、統合アプライアンスが接続プールで開いておく接続の最大数を指定するものです。「0」を指定した場合、接続数の制限はありません。デフォルトでは、統合アプライアンスは 25 個の接続を開いておくことができます。

8. 「接続タイムアウト」を指定します。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に 응답せずにタイムアウトになるまでの時間(秒)を指定します。Web サービス・アクティビティーの場合、統合アプライアンスがタイムアウトになる前にWeb サービスへの接続の確立を試行する時間です。接続タイムアウトはアクティビティー・タイムアウトとは異なります。これは、アクティビティー・タイムアウトは、エンドポイントへの接続がすでに確立された後で発生するためです。アクティビティー・タイムアウトは、アクティビティーがエンドポイントで要求を呼び出してから、エンドポイントが 응답せずにタイムアウトになるまでの時間(秒)を指定します。アクティビティー・タイムアウトは、[Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティーの「再試行」タスク](#)で設定します。
9. オプション・プロキシ・サーバー経由でWeb サービスに接続するには、「プロキシ・サーバーを介した接続」チェック・ボックスを選択し、下の表に示されたフィールドを指定します。


図 2. Web サービス・オプション

表 2.

「エンドポイント」ペインのフィールド名	説明	必須/オプション
ホスト名	プロキシ・サーバーのホスト名を指定します。	必須
ポート	プロキシ・サーバーへの接続に使用されるポート番号を指定します。	必須
ユーザー名	プロキシ・サーバー認証に使用するユーザー名を指定します。	オプション - ご使用のプロキシ・サーバーで認証が不要な場合
パスワード	プロキシ・サーバー認証に使用するパスワードを指定します。	オプション - ご使用のプロキシ・サーバーで認証が不要な場合

親トピック: [Web サービス・エンドポイントの作成または編集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_creating_for_invoke_activity.html

「サービスの提供」アクティビティーのエンドポイントの作成または編集

「サービスの提供」アクティビティーのWeb サービス・エンドポイントを作成または編集します。

手順

1. 「エンドポイントの作成」 ペインまたは「エンドポイントの編集」 ペインで「提供」 オプションを選択し、関連するフィールドを構成します。

注: エンドポイントの構成プロパティを変更すると、プロジェクトでそのエンドポイントを使用しているすべてのオーケストレーションに影響します。これらの変更はローカルではなく、グローバルなものです。

2.

トランスポート

次のトランスポート・オプションから 1 つを選択します。

- HTTP: Web サービス提供プロジェクトを統合アプライアンスにデプロイする場合に、このオプションを選択します。
- Cast Iron Cloud: Web サービス提供プロジェクトを Cast Iron Live にデプロイする場合に、このオプションを選択します。
- ローカル: このオーケストレーションが他のオーケストレーションによってローカルに呼び出される場合に、このオプションを選択します。Studio および統合アプライアンスで使用できます。

ポート

Web サービスとして機能する統合アプライアンスと通信するためのポート番号を指定します。

注意:

このポート番号は、WSDL で指定されたポート名とは異なります。

パス

このフィールドに指定されたパス・ストリングは、統合アプライアンスの URL に追加されて、生成する WSDL のロケーション・エレメントとなります。例えば、統合アプライアンスの名前が `myAR.myCompany.com` で、「パス」フィールドに指定されたストリングが `/services/myservice/1.0` の場合、結果として生成される WSDL ファイルのロケーション・エレメントは、以下のストリングになります。 `http://myAR.myCompany.com/services/myservice/1.0`

ログイン

- 「匿名ユーザーとしてサーバーにログイン」オプションは、エンドポイント・サーバーに匿名で接続するとき (この場合はユーザー・アカウントが不要) に選択します。
- 「ユーザー名とパスワードを使用してサーバーにログイン」オプションは、ユーザー・アカウントを使用してエンドポイント・サーバーに接続するときに選択します。「ユーザー名」と「パスワード」を指定します。
- リモート・サーバーと認証するときの認証のタイプを選択します。
 - 基本 - 指定したユーザー名とパスワードを HTTP 許可ヘッダーの一部として base64 エンコードしたものをサーバーに送信します。
- レルムを指定します。
- エンドポイント・サーバーへの接続に使用するアカウントのユーザー名を指定します。
- エンドポイント・サーバーへの接続に使用するアカウントのパスワードを指定します。


セキュリティー

- セキュリティーが不要な場合は、「なし」オプションを選択します。
- セキュアな SSL を使用する Web サービスを使用可能にする場合は「HTTPS」オプションを選択します。
 - 「HTTP」トランスポート・オプションにのみ使用可能です。サーバー認証が必要な場合は、「サーバー証明書別名」チェック・ボックスを選択して、サーバーとして動作している統合アプライアンスがクライアントに証明書を提供することを指定します。この証明書は、認証および暗号化のためにクライアントによって使用されます。このチェック・ボックスが選択されている場合は、証明書の名前を指定する必要があります。このチェック・ボックスを使用してアクティビティー・レベルで指定した証明書は、WMC の「セキュリティー」 > 「証明書」 > 「設定」 > 「データ NIC 経由サーバー SSL」 エントリで指定された証明書より優先されます。

- セキュア HTTP over SSL に使用されるプロトコル・バージョンを選択します。デフォルトでは、使用されるプロトコル・バージョンは `SSL_TLSv2` です。


接続プール・オプション

「最大接続数」パラメーターには、統合アプライアンスが接続プールで開くことができる接続の最大数を指定します。「0」を指定した場合、接続数の制限はありません。デフォルトでは、統合アプライアンスは 25 個の接続を開いておくことができます。

注: エンドポイントの一部のフィールドでは、フィールドに値を指定するための構成プロパティを定義できます。同じタイプの構成プロパティがプロジェクトに対してすでに構成されている場合に、構成プロパティをサポートするフィールド内をクリックすると、 アイコンが表示されます。

親トピック: [Web サービス・エンドポイントの作成または編集](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_creating_for_provide_service_activity.html

変更された WSDL の更新

WSDL を使用するプロジェクトを作成した後で、その WSDL が変更された場合は、新規 WSDL を用いて既存 WSDL の更新を試みることができます。

このタスクについて

WSDL を更新すると、WSDL と連動するいずれかのエンティティーが変更の影響を受ける可能性があります。例えば、WSDL が操作の入出力パラメーターを定義し、これらのパラメーターを定義するスキーマが新しい WSDL で変更された場合、Web サービス・アクティビティーの「入力のマップ」および「出力のマップ」タスクでこれらのパラメーターを表すノードは存在しなくなっている可能性があります。これらのノードへのリンクはどれも無効になっている可能性があります。オーケストレーションを再び有効にするには、リンクを作成し直す必要があります。WSDL の更新により、プロジェクトに対してリンクの再作成以外の変更も行うことが必要になる場合があります。詳しくは、表 1 を参照してください。場合によっては、下の表の最初の 3 行に示されているように、新規 WSDL がロードされないことがあります。

注: 既存の WSDL を更新することは、ファイルを「プロジェクト」タブにドラッグしたり「プロジェクト」タブで「WSDL」フォルダーを右クリックして「文書の追加」を選択したりしてプロジェクトに複数の WSDL をロードすることとは異なります。WSDL を更新すると、プロジェクト内の既存 WSDL が置き換えられます。一方、同じファイルを「プロジェクト」タブにアップロードすると、プロジェクトに WSDL のインスタンスが 2 つ作成されます。

表 1.

WSDL での変更	新規 WSDL が初期 WSDL を置換するか	プロジェクトが受ける影響
新規 WSDL が有効な WSDL ではない。例えば、最後の <code></definitions></code> タグが WSDL の終わりにありません。	いいえ。更新は行われません。	なし。新規 WSDL はロードされません。どのプロジェクト・エンティティーに対しても更新は行われません。
新規 WSDL をアップロードして既存の XML スキーマを置き換えると、プロジェクトが無効になる可能性がある。	いいえ。更新は行われません。	なし。新規 WSDL はロードされません。どのプロジェクト・エンティティーに対しても更新は行われません。

<p>現行 WSDL を別の WSDL で更新しようとしており、プロジェクト内のオーケストレーションまたはエンドポイントが現行 WSDL を参照している。</p> <p>注: 複数の WSDL をプロジェクトにロードできます。</p>	<p>い い え 。 更 新 は 行 わ れ ま せ ん 。</p>	<p>なし。新規 WSDL はロードされません。どのプロジェクト・エンティティーに対しても更新は行われません。</p>
<p>WSDL のサービス・バインディング定義が、サービス、ポート、およびロケーションの各エレメントによって定義されている。WSDL 内のサービス、ポート、およびロケーションの各エレメントの値が変更された場合は、Web サービス・エンドポイントに格納されているこれらのエレメントの値を更新する必要があります。</p>	<p>は い 。 更 新 が 行 わ れ ま す 。</p>	<p>Web サービス・エンドポイントの値は、WSDL で指定された最新の値で更新されます。これらのエレメントについて詳しくは、『Web サービス・エンドポイントの作成または編集』を参照してください。</p>
<p>操作の名前が WSDL 内で変更され、オーケストレーションが「サービスの呼び出し」アクティビティーでその操作を開始している。</p>	<p>は い 。 更 新 が 行 わ れ ま す 。</p>	<p>操作の名前が変更され、その操作が「サービスの呼び出し」アクティビティーで使用される場合は、WSDL 内の最初の操作が「サービスの呼び出し」アクティビティーにデフォルトで割り当てられます。ただし、このような最初の操作への再割り当ては、望ましい結果ではない場合があります。WSDL 内の最初の操作の入出力パラメーターが、当初指定された操作のものとは異なる場合があるため、「入力のマップ」および「出力のマップ」タスクにはそれらのリンクが存在しなくなっている可能性があります。オーケストレーションを有効にするには、「サービスの呼び出し」アクティビティーを構成し直す必要があります。</p>

<p>操作の 1 つの名前が WSDL で変更されたが、オーケストレーションはその操作を「サービスの呼び出し」アクティビティで開始していない。</p>	<p>はい。更新が行われません。</p>	<p>操作の名前が変更され、その操作が「サービスの呼び出し」アクティビティで使用されない場合、WSDL に対するこの変更は影響がありません。</p>
<p>追加の <part> エlement が、操作の入出力パラメーターを定義する Element に追加された。この変更は、WSDL のこのパーツを参照するプロジェクト・エンティティに影響します。影響を受ける可能性のあるエンティティのリストを以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スタンドアロン・マップ • 「変数のマップ」アクティビティ • WSDL のこのパーツに基づく変数 • このメッセージ・タイプを使用する操作を開始する「サービスの呼び出し」アクティビティを含むオーケストレーション。例えば、次の <message> Element 例に、 <p>例えば、『図 1』を参照してください。</p>	<p>はい。更新が行われません。</p>	<p>新規 <part> Element が <message> Element に追加されただけであるため、この変更は通常、WSDL に基づく既存のマップおよび変数に影響を与えません。<Helloin> メッセージ例では、新しい city Element を追加しても、「サービスの呼び出し」アクティビティの「入力のマップ」または「出力のマップ」タスク内の既存アドレス <part> Element へのリンクには影響しません。必要に応じて、新規 Element へのリンクを作成ができます。</p>

<p>操作の入出力パラメーターを定義する <code><message></code> エレメント内の <code><part></code> エレメントのタイプを変更する。この変更は、WSDL のこのパーツを参照するプロジェクト・エンティティに影響します。影響を受ける可能性のあるエンティティのリストを以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スタンドアロン・マップ • 「変数のマップ」アクティビティ • WSDL のこのパーツに基づく変数 • このメッセージ・タイプを使用する操作を開始する「サービスの呼び出し」アクティビティを含むオーケストレーション。 	<p>はい。更新が行われます。</p>	<p>マップ内の既存のリンクは、そのタイプが変更された場合でも、削除されません。</p> <p>注意: タイプの変更は、ランタイムに影響し、正しくない出力データを生成する可能性があります。マップのリンクで行われたタイプ変換によって、実行時に正しくない出力データが生成されることのないよう確認してください。</p>
<p>操作の入出力パラメーターの <code><message></code> エレメントを変更する。</p> <p>この変更は、WSDL のこのパーツを参照するプロジェクト・エンティティに影響します。影響を受ける可能性のあるエンティティのリストを以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スタンドアロン・マップ • 「変数のマップ」アクティビティ • WSDL のこのパーツに基づく変数 • このメッセージ・タイプを使用する操作を開始する「サービスの呼び出し」アクティビティを含むオーケストレーション。 	<p>はい。更新が行われます。</p>	<p>マップで変更された入出力パラメーターへのリンクが削除されます。マップ内で変更されたパラメーターへのリンクを作成する必要があります。例えば、「サービスの呼び出し」アクティビティによって呼び出される操作の入力パラメーターの <code><message></code> エレメントが変更されると、「サービスの呼び出し」アクティビティの「入力のマップ」タスク内のノードへのリンクが削除されます。変数から、「入力のマップ」タスクの「アクティビティへ」ペインに示されるノードの新規セットへのリンクを作成する必要があります。</p>

図 1. 追加の `<part>` エレメントの例

```
<message name="HelloIn">
  <part name="address" type="xsd:string">
</message>
```

以下のように `<part>` エレメントを追加します。


```
<message name="HelloIn">
<part name="address" type="xsd:string">
<part name="city" type="xsd:string">
</message>
```

- **変更された WSDL の更新**

WSDL を更新するには、以下のいずれかのオプションを使用して、アップグレード WSDL プロセスを開始します。

親トピック: [Web サービス・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_updating_a_changed_WSDL_ov.html

変更された WSDL の更新

WSDL を更新するには、以下のいずれかのオプションを使用して、アップグレード WSDL プロセスを開始します。

手順

1. 以下のいずれかのオプションを使用して、アップグレードを開始します。
 - 「プロジェクト」タブの「WSDL」フォルダーで既存の WSDL をダブルクリックします。
「WSDL」タブが、WSDL のグラフィカル・ビューと共に表示されます。WSDL ファイルをローカル・ファイル・システムから、「WSDL」タブで開かれている WSDL にドラッグします。
 - 「プロジェクト」タブの「WSDL」フォルダーで既存の WSDL をダブルクリックします。
「WSDL」タブが、WSDL のグラフィカル・ビューと共に表示されます。「WSDL」タブで WSDL のノードをクリックします。Studio ツールバー・メニューから「ファイル」>「WSDL または XML スキーマの更新」オプションを選択します。「現行 WSDL 文書の更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。「ロケーション」フィールドで、[外部の Web ロケーションまたはファイル・システムから新規 WSDL のロケーションを指定して](#)、「OK」をクリックします。
 - 「プロジェクト」タブの「WSDL」フォルダーで既存の WSDL をダブルクリックします。
「WSDL」タブが、WSDL のグラフィカル・ビューと共に表示されます。「WSDL」タブでノードを右クリックし、メニューから「更新」オプションを選択します。「現行 WSDL 文書の更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。「ロケーション」フィールドで、[外部の Web ロケーションまたはファイル・システムから新規 WSDL のロケーションを指定して](#)、「OK」をクリックします。
 - 「プロジェクト」タブの「WSDL」フォルダーで既存の WSDL を右クリックし、メニューから「更新」オプションを選択します。「現行 WSDL 文書の更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。「ロケーション」フィールドで、[外部の Web ロケーションまたはファイル・システムから新規 WSDL のロケーションを指定して](#)、「OK」をクリックします。


「WSDL の更新は、リストされた従属するプロジェクト・エンティティーに影響します」ダイアログ・ボックスが表示され、新規 WSDL でのオリジナル WSDL の置換に影響を受けるプロジェクト・エンティティーがリストされます。

2. オプション - このダイアログ・ボックスで、リストされたいずれかの従属エンティティーをクリックして、そのエンティティーを Studio で表示します。

3. 「更新」をクリックします。Studio が、新規 WSDL でプロジェクトを更新しようとしています。試行した更新の結果は、以下の条件によって異なります。
 - WSDL を変更した結果、更新後にプロジェクトが壊れる場合や、新規 WSDL が無効である場合は、その WSDL に関する問題が記述された「エラー」ダイアログ・ボックスが表示されます。「OK」をクリックして、「閉じる」をクリックします。更新が取り消され、WSDL はオリジナル WSDL に戻り、プロジェクトは変更されません。
 - WSDL を変更してもプロジェクトが壊れない場合は、更新が行われ、オリジナル WSDL が新規 WSDL に置き換えられます。一部のプロジェクト・エンティティは更新後に無効になり、クリーンアップが必要となる可能性があります。
 - 「閉じる」をクリックします。

親トピック: [変更された WSDL の更新](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

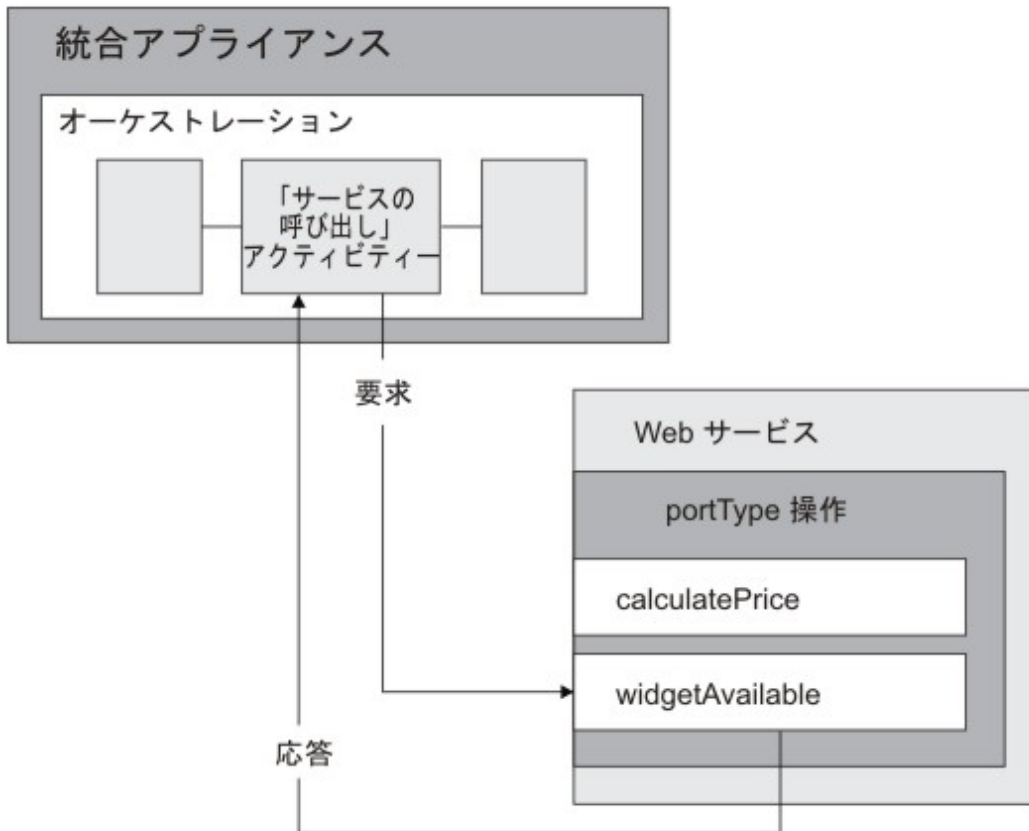
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_updating_a_changed_WSDL.html

Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティ

実行時に、Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティは、外部 Web サービスを開始します。

このタスクについて



Web サービスの接続アクティビティは、単一操作アクティビティです。このアクティビティは、Web サービス内の単一 portType の単一サービスに接続します。複数の操作を含む WSDL を指定する場合は、アクティビティが開始する操作を選択してください。

注: Web Services Basic Profile 1.1 2nd Edition がサポートされています。SOAP エンコード方式配列は、Web Services Basic Profile 1.1 ではサポートされていません。

デフォルトでは、圧縮と圧縮解除が「サービスの呼び出し」アクティビティで使用可能になっています。詳しくは、『Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティによる圧縮/圧縮解除』を参照してください。


「サービスの呼び出し」アクティビティをオーケストレーションに追加して構成する手順は、以下に説明があります。

- **アクティビティの追加**
Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
- **エンドポイントの作成**
Web サービス・エンドポイントを作成、選択、または編集します。
- **アクティビティの構成**
「サービスの呼び出し」アクティビティを構成します。
- **再試行オプションの指定**
「サービスの呼び出し」アクティビティの再試行オプションを指定します。
- **アクティビティの入力のマッピング**
「サービスの呼び出し」アクティビティの入力をマップします。
- **アクティビティの出力のマッピング**
「サービスの呼び出し」アクティビティの出力をマップします。
- **Web サービス「サービスの提供」スターター・アクティビティを含むオーケストレーションの呼び出し**

「サービスの呼び出し」ツールを使用することにより、Web サービス「サービスの提供」アクティビティーを含むオーケストレーションを社内で呼び出すことができます。

親トピック: [Web サービス・アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Invoke_Service_Activity.html

アクティビティーの追加


Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

手順

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択して、「Web サービス」フォルダーを展開します。
3. 「サービスの呼び出し」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示されます。

親トピック: [Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Invoke_Add_WS_Activity.html

エンドポイントの作成

Web サービス・エンドポイントを作成、選択、または編集します。


手順

1. 「チェックリスト」から「エンドポイントの選出」タスクをクリックし、次のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。

- b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『アクティビティーの構成』手順までスキップします。
 - o 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - o 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。
2. [Web サービス・エンドポイントを作成または編集します。](#)

親トピック: [Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Invoke_Create_WS_Activity.html

アクティビティーの構成


「サービスの呼び出し」アクティビティーを構成します。

手順

1. 「チェックリスト」で「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. Web サービスで開始する単一の操作を選択します。
3. 「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、アクティビティー・レベルで圧縮/圧縮解除をオンにするのかオフにするのかを指定します。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、デフォルトで選択されています。このアクティビティーに対して圧縮および圧縮解除を使用不可にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスをクリアします。詳しくは、『[Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティーによる圧縮/圧縮解除](#)』を参照してください。
4. 「Message Transmission Optimization Mechanism (MTOM)」にチェック・マークが付けられると、バイナリー・データを含む SOAP メッセージを効率的に送信するために MTOM を使用することが指定されます。

親トピック: [Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Invoke_Configure_Activity.html

再試行オプションの指定

「サービスの呼び出し」アクティビティの再試行オプションを指定します。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. Web サービスに接続するための再試行オプションを構成します。次の表で、Web サービスに接続するための再試行オプションについて説明します。

フィールド	説明
再試行	
再試行ごとに__秒待機します。	Web サービスへの接続の確立を試行するまでに、統合アプライアンスが待機する時間 (秒) を指定します。
失敗するまで__回の接続を試みます。	<p>再試行回数、つまり統合アプライアンスが Web サービスへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティのあるオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスが指定された Web サービスに接続できないと、再試行回数値に達するまで、統合アプライアンスはシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>
エンドポイントが要求に応答しないと__秒後にタイムアウトになります。	アクティビティがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。Web サービス「サービスの呼び出し」では、アクティビティ・タイムアウトは、統合アプライアンスが、Web サービスの開始を試行してからタイムアウト・エラーを発行するまでの、Web サービスからの応答を待機する時間です。アクティビティ・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後で発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。「Web サービス・エンドポイント」タブで接続タイムアウトを設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『 Web サービス・エンドポイントの作成または編集 』を参照してください。

親トピック: [Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Invoke_Retry_Options.html

アクティビティーの入力のマッピング

「サービスの呼び出し」アクティビティーの入力をマップします。

このタスクについて

「構成」タスクで選択された操作の XML 入力パラメーターは、「入力のマップ」タスクの「アクティビティーへ」ペインにリストされる body 入力パラメーターの下に表示されます。

「入力のマップ」ペインの「アクティビティーへ」ペインで、location、header、および httpheaders という名前のオプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティーへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

オプションのロケーション入力パラメーターを使用して WSDL で指定された location エLEMENT の設定は、オーバーライドすることができます。WSDL 内のロケーション・ELEMENT は URL エンドポイントを指定します。Web サービスを開始する要求は、URL エンドポイントに対して行われます。

header 入力パラメーターのスキーマは WSDL で定義されます。開始する Web サービスでヘッダーが不要な場合があるため、header 入力パラメーターはオプションです。

次の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを示しています。

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定する。
httpheaders/method	HTTP 要求のタイプを指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれる ELEMENT を指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、このノードは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。


注: Content-Length ヘッダーが httpheaders/otherHeaders/headerItem/name および httpheaders/otherHeaders/headerItem/value を使用して明示的に設定された場合、この値は実行時には無視さ

れます。このアクティビティーは、Content-Length ヘッダーを自動的に本文のサイズに設定します。オプションで、proxyConnection 入力パラメーターの値を実行中に動的に提供することにより、「チェックリスト」の「構成」および「エンドポイントの選出」タスクでプロキシー・サーバーに指定した設定をオーバーライドできます。次の表は、オプションの proxyConnection 入力パラメーターのノードを示しています。

入力パラメーターの名前/ノード	説明	タスクで設定を指定変更するかどうか
proxyConnection/host	プロキシー・サーバーのホスト名を指定します。	proxyConnection 入力パラメーターのホスト・ノードは、Web サービス・エンドポイントのプロキシー「ホスト名」フィールドをオーバーライドします。
proxyConnection/port	プロキシー・サーバーへの接続に使用されるポート番号を指定します。	proxyConnection 入力パラメーターのポート・ノードは、Web サービス・エンドポイントのプロキシー「ポート」フィールドをオーバーライドします。
proxyConnection/username	プロキシー・サーバー認証に使用するユーザー名を指定します。プロキシー・サーバーが認証を必要としない場合、このフィールドはオプションです。	proxyConnection 入力パラメーターのユーザー名ノードは、Web サービス・エンドポイントのプロキシー「ユーザー名」フィールドをオーバーライドします。
proxyConnection/password	プロキシー・サーバー認証に使用するパスワードを指定します。プロキシー・サーバーが認証を必要としない場合、このフィールドはオプションです。	proxyConnection 入力パラメーターのパスワード・ノードは、Web サービス・エンドポイントのプロキシー「パスワード」フィールドをオーバーライドします。

親トピック: [Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Invoke_Map_Inputs.html

アクティビティーの出力のマッピング

「サービスの呼び出し」アクティビティーの出力をマップします。

手順

1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。下の表に示すように、アクティビティーの出力パラメーターが「出力のマップ」タスクの「アクティビティーから」ペインに表示されます。

出力パラメーター	説明
body	Web サービスからの応答の本体が含まれます。Web サービス操作の戻りパラメーター (複

	数可) を定義するノードが body 出力パラメーターの下に表示されます。
header	SOAP エンベロープのヘッダーが含まれます。
httpheaders	HTTP 応答のヘッダーが含まれます。


次の表は、httpheaders 出力パラメーターのノードを示しています。

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定する。
httpheaders/method	HTTP 応答のタイプを指定する。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	HTTP 応答の HTTP パラメーターを含む一連の名前と値のペアを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、headerItem は繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティの出力ノードをオーケストレーション変数にマップします。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Invoke_Map_Outputs.html

Web サービス「サービスの提供」スターター・アクティビティを含むオーケストレーションの呼び出し

「サービスの呼び出し」ツールを使用することにより、Web サービス「サービスの提供」アクティビティを含むオーケストレーションを社内で呼び出すことができます。

このタスクについて


このタスクは、Web サービス「サービスの提供」スターター・アクティビティ用に構成されたスキーマに基づいて SOAP 要求を作成/変更し、応答を処理するオーケストレーションを呼び出す場合に使用します。

オーケストレーションを呼び出すには、以下の手順を実行します。

1. Web サービス「サービスの提供」スターター・アクティビティーを含むオーケストレーションを開きます。Studio ワークスペースに、オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「サービスの提供」アクティビティーを右クリックし、「サービスの呼び出し」を選択します。「サービスの呼び出し」ペインが表示されます。
3. このペインには、生成されたテンプレート要求メッセージが表示されます。必要な詳細をテンプレート要求メッセージに入力するか、または「開く」をクリックして別のテキスト要求メッセージを選択します。
4. 「保存」をクリックして、現在の要求メッセージを保存します。
5. 「実行」をクリックして Web サービスおよびオーケストレーションを呼び出します。これにより、Studio の開始時に要求メッセージを保存して、特定のアクティビティーを現在の要求メッセージで再テストすることもできます。
6. 「応答の表示」をクリックして、Web サービス応答を表示します。
注: 「リセット」をクリックして、現在の要求メッセージをテンプレート要求メッセージに再設定します。

親トピック: [Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_invoke_service.html

Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティーによる圧縮/圧縮解除

実行時に、Web サービス「サービスの呼び出し」アクティビティーは、HTTP/HTTPS 1.1 プロトコルに準拠した HTTP 要求を Web サービスに送信します。「サービスの呼び出し」アクティビティーは、圧縮では gzip 形式のみを、圧縮解除では gzip 形式または deflate 形式をサポートしています。

注: 「サービスの呼び出し」アクティビティーは、UNIX で一般的な compress と呼ばれるファイル圧縮形式はサポートしていません。

「サービスの呼び出し」アクティビティーの圧縮/圧縮解除ランタイム動作は、以下の条件によって異なります。

- [エンドポイントが圧縮/圧縮解除をサポートする場合](#)
- [メッセージ・レベルでの Content-Encoding 値と Accept-Encoding 値](#)
- [アクティビティー・レベルでの「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定](#)

これらの条件が「サービスの呼び出し」アクティビティーの圧縮/圧縮解除ランタイム動作に与える影響については、以下のセクションおよび『[ランタイム圧縮/圧縮解除動作](#)』セクションの表に説明があります。

圧縮/圧縮解除のエンドポイント・サポート

統合アプライアンスでは、最初の HTTP 要求を圧縮形式で HTTP エンドポイント (Web サービス) に送信するときに、HTTP エンドポイントが圧縮をサポートするかどうかを判断します。Web サービスが、圧縮をサポートしない、あるいは指定した Content-Encoding タイプをサポートしないというエラー・コードを返す場合、統合アプライアンスは最初の要求を非圧縮形式で再送し、このエンドポイントへの以後の要求はすべて非圧縮形式で送信されます。さらに、Web サービスが送信する HTTP 応答は、統合アプライアンスが受信するときには圧縮解除されていません。

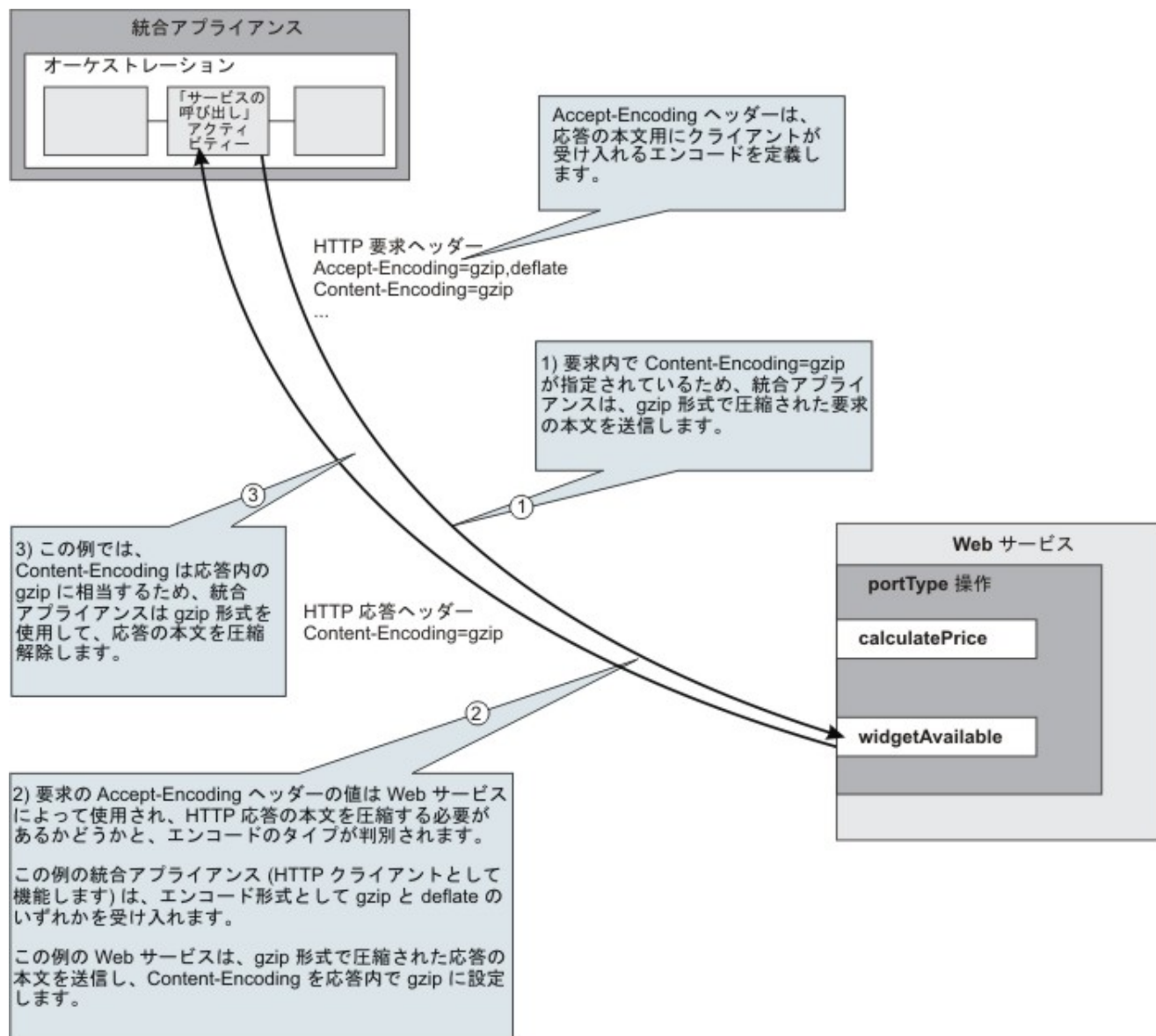
圧縮/圧縮解除のエンドポイント・サポートは、『[ランタイム圧縮/圧縮解除動作](#)』セクションにある表の 4 列目 (「エンドポイントが圧縮をサポートする」というラベル) に示されます。

メッセージ・レベルでの Content-Encoding 値と Accept-Encoding 値

HTTP 要求の Content-Encoding ヘッダーの値によって、要求の本体が圧縮されているかがわかります。

「サービスの呼び出し」アクティビティーの場合、統合アプライアンスは Content-Encoding を gzip に設定し、要求の本体を gzip 形式で圧縮して送信します (『[要求送信時の圧縮動作](#)』というラベルが付いた最初の表の 2 行目と、次の図を参照)。

要求内の Accept-Encoding ヘッダーの値は、HTTP クライアントがその応答で受け入れるエンコードのタイプを定義します。「サービスの呼び出し」アクティビティーの場合、統合アプライアンスは Accept-Encoding を要求内の gzip,deflate と同様に設定し、Web サービスは、要求本体を gzip 形式または deflate 形式で圧縮して統合アプライアンス (クライアントとして機能) に送信します (次の図を参照)。



要求内の Accept-Encoding ヘッダーおよび Content-Encoding ヘッダーの値は、統合アプリと Web サービスが圧縮/圧縮解除動作を判別する際に使用されます。

アクティビティ・レベルでの圧縮/圧縮解除の設定

デフォルトでは、圧縮と圧縮解除は「サービスの呼び出し」アクティビティのアクティビティ・レベルでオンになっています。アクティビティ・レベルで圧縮/圧縮解除をオフにするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの選択を解除します。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、アクティビティの「構成」タスクで使用できます。『ランタイム圧縮/圧縮解除動作』セクションにある下の表の 2 列目の「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスというラベルの列は、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定を示しています。

非推奨に関する注: 「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、今後のリリースでは非推奨となります。HTTP 要求本体の圧縮解除方法と、HTTP 応答本体の圧縮方法を指定するには、HTTP 要求の HTTP パラメーター、Content-Encoding および Accept-Encoding を使用してください。

ランタイム圧縮/圧縮解除動作

『[要求送信時の圧縮動作](#)』セクションにある最初の表は、統合アプライアンスが Web サービスに HTTP 要求を送信する際の圧縮ランタイム動作を示しています。

『[要求に渡される Accept-Encoding ヘッダー値](#)』セクションにある 2 番目の表は、HTTP 要求に渡される Accept-Encoding ヘッダーの値を示しています。

『[応答受信時の圧縮解除動作](#)』セクションにある 3 番目の表は、統合アプライアンスが Web サービスから HTTP 応答を受信する際の圧縮解除ランタイム動作を示しています。

要求送信時の圧縮動作

次の表は、統合アプライアンスが HTTP 要求を Web サービスに送信する際の圧縮ランタイム動作を示しています。

圧縮/圧縮解除の使用 チェック・ボックス (アクティビティ・レ ベル)	HTTP 要求の Content-Encoding 値 (メッセージ・ レベル)	エンドポ イントが圧縮 をサポート する	要求送信時の統合アプライアンスの圧縮ランタイム動作
選択	gzip	はい	統合アプライアンスは、gzip 形式で圧縮した要求本体を送信します。Content-Encoding ヘッダーは、要求では gzip に設定されます。
選択	値は無効	いいえ	統合アプライアンスは、非圧縮の要求本体を送信します。Content-Encoding ヘッダーは、要求では ID に設定されます。
クリア	値は無効	値は無効	統合アプライアンスは、要求本体を現状のまま (変更せずに) 送信します。Content-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま要求に渡されます。

要求に渡される Accept-Encoding ヘッダー値

以下の表は、HTTP 要求に渡される Accept-Encoding ヘッダーの値を示しています。

圧縮/圧縮解除の使用 チェック・ボ ックス (アクティビティ・レ ベル)	Accept- Encoding の 初期値	エンドポ イントが 圧縮をサポート する	HTTP 要求で Web サービスに渡され る Accept-Encoding の値
選択	gzip,deflate	はい	Accept-Encoding ヘッダーは、要求では gzip,deflate に設定されます。
値は無効	値は無効	いいえ	Accept-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま要求に渡されます。
クリア	値は無効	値は無効	Accept-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま要求に渡されます。

応答受信時の圧縮解除動作


次の表は、統合アプライアンスが Web サービスから HTTP 応答を受信する際の圧縮解除ランタイム動作を示しています。

圧縮/圧縮解除の使用 チェック・ボックス (アク	HTTP 応答の Content-Encoding	エンドポ イントが圧縮	応答受信時の統合アプライアンス圧縮解除ラン タイム動作

ティビティ・レベル)	値 (メッセージ・レベル)	をサポートする	
選択	gzip	はい	統合アプライアンスは、gzip 形式を使用して、応答本体を圧縮解除します。
選択	deflate	はい	統合アプライアンスは、deflate 形式を使用して、応答本体を圧縮解除します。
選択	identity	はい	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。
選択	Accept-Encoding ヘッダーにリストされない値	はい	統合アプライアンスは、応答データが非送信請求コンテンツのエンコード・タイプで受信されたというエラーをログに記録します。
選択	値は無効	いいえ	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。Content-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま応答に渡されます。
クリア	値は無効	値は無効	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。Content-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま応答に渡されます。

親トピック: [Web サービス・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

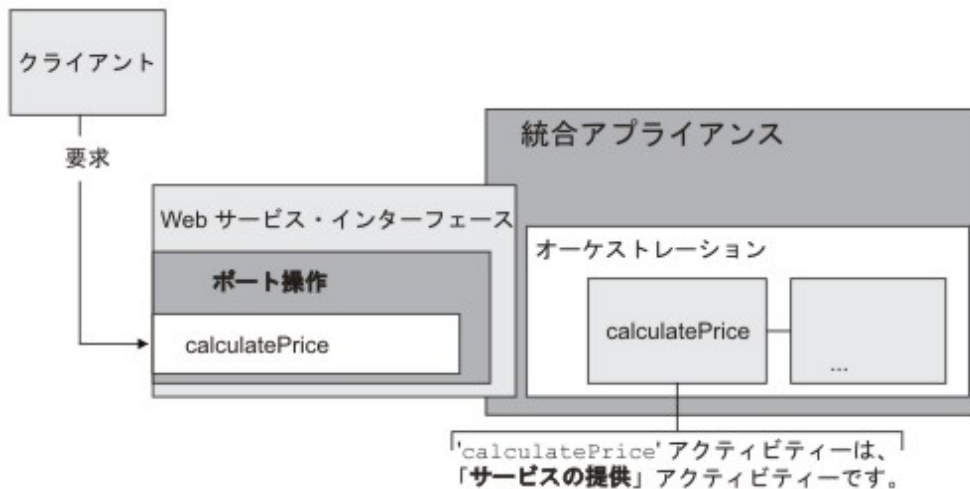
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Compression_Decompression_with_the_WS_Invoke_Service_Activity.html

Web サービス「サービスの提供」アクティビティ

「サービスの提供」アクティビティは実行時に、外部クライアントから開始可能な Web サービスを提供します。

このタスクについて

図 1. 「サービスの提供」アクティビティ



「サービスの提供」アクティビティは、インバウンド Web サービス・アクティビティです。これは、指定されたポートで Web サービス要求を listen するスターター・アクティビティです。

Studio で Web サービスに関して提供した構成情報に基づいて、WMC は、実行時に使用可能な Web サービス・インターフェースを記述する WSDL ファイルを生成します。

WSDL を持つプロジェクトがデプロイされると、WSDL によって定義された Web サービス・インターフェースが使用可能になります。Web サービス用に WMC から生成された WSDL ファイルを、エクスポートおよび表示することができます。

実行時に、クライアントが要求を Web サービスに送信すると、統合アプリケーションは「サービスの提供」アクティビティ、およびオーケストレーションを構成する残りのアクティビティの処理を開始します。


「サービスの提供」アクティビティに指定できる入出力の XML スキーマはそれぞれ 1 つのみであるため、生成される WSDL では、要求ヘッダーと応答ヘッダーがそれぞれ 1 つのみ定義されます。WMC は 1 つの操作で WSDL を生成します。図 1 では、Web サービスの calculcatePrice 操作が「サービスの提供」アクティビティの名前から派生しています。Web サービス操作と「サービスの提供」アクティビティの間には 1 対 1 の関係があります。

「サービスの提供」アクティビティでは、デフォルトで圧縮解除が使用可能に設定されています。詳しくは、『Web サービス「サービスの提供」アクティビティによる圧縮解除』を参照してください。

「サービスの提供」アクティビティをオーケストレーションに追加して構成する手順は、以下に説明があります。

- [アクティビティの追加](#)
Web サービス「サービスの提供」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
- [エンドポイントの作成](#)
Web サービス・エンドポイントを作成、選択、または編集します。
- [アクティビティの構成](#)
「サービスの提供」アクティビティを構成します。
- [アクティビティの出力のマッピング](#)
「サービスの提供」アクティビティの出力をマップします。

親トピック: [Web サービス・アクティビティ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Provide_Service_Activity.html


アクティビティーの追加

Web サービス「サービスの提供」アクティビティーをオーケストレーションに追加します。

手順

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティー」タブを選択して、「Web サービス」フォルダーを展開します。
3. 「サービスの提供」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示されます。

親トピック: [Web サービス「サービスの提供」アクティビティー](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Provide_Add_WS_Activity.html

エンドポイントの作成

Web サービス・エンドポイントを作成、選択、または編集します。

手順

1. チェックリストで「エンドポイントの選出」タスクをクリックして、以下のいずれかのアクションを選択します。
 - 既存のエンドポイントを選択します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。『[アクティビティーの構成](#)』手順までスキップします。
 - 既存のエンドポイントを選択し、そのエンドポイントを編集します。
 - a. 「参照」を選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」が表示されます。
 - b. 既存のエンドポイントを選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 「編集」をクリックします。「エンドポイントの編集」ペインが表示されます。
 - 新しいエンドポイントを作成します。「新規作成」を選択します。「エンドポイントの作成」ペインが表示されます。

2. Web サービス・エンドポイントを作成または編集します。

親トピック: Web サービス「サービスの提供」アクティビティー

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Provide_Create_WS_Activity.html

アクティビティーの構成

「サービスの提供」アクティビティーを構成します。

手順


1. 「チェックリスト」で「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが表示されます。
2. 次の表で説明されているように、このペインにあるすべてのフィールドを構成します。

フィールド	説明
要求の受信	
スキーマ	Web サービスの操作に対する入力 XML データの XML スキーマを定義します。 <ul style="list-style-type: none">○ 「参照...」をクリックして、スキーマを選択します。○ 「クリア」をクリックして、選択したスキーマとアクティビティーとの関連付けを解除します。
SOAP ヘッダー	入力 SOAP ヘッダーの XML スキーマを定義します。 <ul style="list-style-type: none">○ 「参照...」をクリックして、スキーマを選択します。○ 「クリア」をクリックして、選択したスキーマとアクティビティーとの関連付けを解除します。
このアクティビティー	
応答が必要	このチェック・ボックスは、要求の送信者に応答を送信することを指定します。このオプションが選択されている場合は、Web サービス「応答の送信」アクティビティーをオーケストレーションに追加して、要求を開始したクライアントに応答を送信する必要があります。
スキーマ	Web サービスの操作から返される XML データの XML スキーマを定義します。(XML データは、関連付けられた「応答の送信」アクティビティーによって返されます。) <ul style="list-style-type: none">○ 「参照...」をクリックして、スキーマを選択します。○ 「クリア」をクリックして、選択したスキーマとアクティビティーとの関連付けを解除します。
SOAP ヘ	Web サービスの返される SOAP ヘッダーの XML スキーマを定義します。(SOAP ヘッダー

ツダー	は、関連付けられた「応答の送信」アクティビティーによって返されます。) <ul style="list-style-type: none"> 「参照...」をクリックして、スキーマを選択します。 「クリア」をクリックして、選択したスキーマとアクティビティーとの関連付けを解除します。
次のフォールトがスローされる可能性があります	
フォールト名	アクティビティーのユーザー定義フォールト名を指定します。
フォールト・エレメント	「参照」をクリックして、スキーマを表示し、フォールトをスローする対象となるエレメントを選択します。
オプション	
圧縮/圧縮解除の使用	圧縮解除をアクティビティー・レベルでオンにするかオフにするかを指定します。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、デフォルトで選択されています。このアクティビティーに対して圧縮解除を使用不可にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスをクリアします。詳しくは、『 Web サービス「サービスの提供」アクティビティーによる圧縮解除 』を参照してください。

親トピック: [Web サービス「サービスの提供」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Provide_Configure_Activity.html

アクティビティーの出力のマッピング

「サービスの提供」アクティビティーの出力をマップします。

手順

1. 「チェックリスト」で「出力のマップ」タスクを選択します。下の表に示すように、アクティビティーの出力パラメーターが「出力のマップ」タスクの「アクティビティーから」ペインに表示されます。

出力パラメーター	説明
body	Web サービスからの応答の本体が含まれます。Web サービス操作の戻りパラメーター (複数可) を定義するノードが body 出力パラメーターの下に表示されます。

header	SOAP エンベロープのヘッダーが含まれます。
httpheaders	HTTP 応答のヘッダーが含まれます。


次の表は、httpheaders 出力パラメーターのノードを示しています。

httpheaders 出力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/method	HTTP 応答のタイプを指定する。
httpheaders/host	クライアントの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	HTTP 応答の HTTP パラメーターを含む一連の名前と値のペアを指定します。HTTP 応答には複数の HTTP パラメーターを指定できるため、headerItem は繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP パラメーターの値を指定します。

2. アクティビティの出力ノードをオーケストレーション変数にマップします。マッピングの一般的な説明については、『[マップの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [Web サービス「サービスの提供」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Provide_Map_Outputs.html

Web サービス「サービスの提供」アクティビティによる圧縮解除

Web サービス「サービスの提供」アクティビティでは、gzip 形式を使用した圧縮解除のみがサポートされません。

注: 「サービスの提供」アクティビティは、デフレート形式や、compress と呼ばれる UNIX ファイルの一般的な圧縮形式をサポートしていません。

「サービスの提供」アクティビティーでは、HTTP/HTTPS 1.0 プロトコルを使用した HTTP 要求の受信のみがサポートされます。

HTTP 要求の受信時の「サービスの提供」アクティビティーの圧縮解除ランタイム動作は、以下の条件によって異なります。

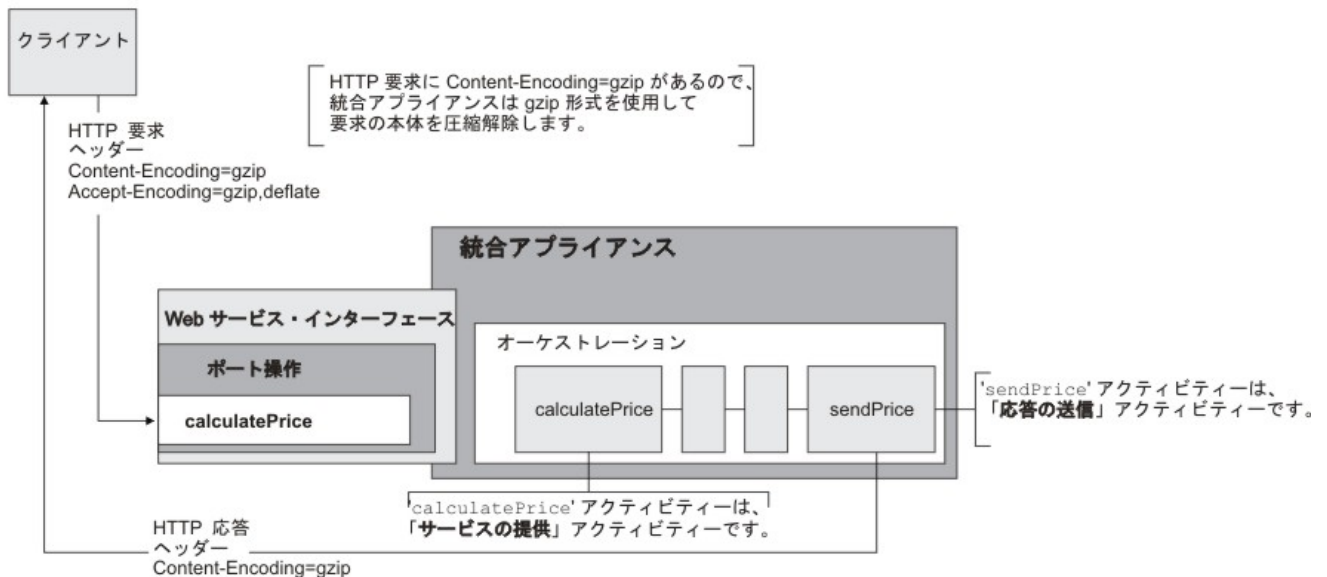
- メッセージ・レベルでの Content-Encoding の値。
- アクティビティー・レベルでの「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定。

これらの条件は「サービスの提供」アクティビティーの圧縮解除ランタイム動作に影響を与え、以降のセクションおよびランタイム圧縮解除動作セクションの表で説明されています。

メッセージ・レベルでの Content-Encoding の値

図 1 に示すように、HTTP 要求の Content-Encoding ヘッダーの値を使用して、クライアントから受信した HTTP 要求の本体を統合アプライアンスが圧縮解除するかどうかを決定できます。

図 1. HTTP 要求



Content-Encoding ヘッダーの値は、『ランタイム圧縮解除動作』セクションにある表の 3 列目の「Content-Encoding の値」というラベルの列に示されています。

アクティビティー・レベルでの圧縮解除の設定

「サービスの提供」アクティビティーのデフォルトでは、圧縮解除はアクティビティー・レベルでオンに設定されています。アクティビティー・レベルで圧縮解除をオフにするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの選択を解除します。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、アクティビティーの「構成」タスクで使用できます。『ランタイム圧縮解除動作』セクションにある表の 2 列目の「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスというラベルの列は、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定を示しています。

ランタイム圧縮解除動作

次の表は、統合アプライアンスが HTTP クライアントから HTTP 要求を受信する際の圧縮解除ランタイム動作を示しています。

圧縮/圧縮解	Conten	統合アプライアンスの圧縮解除ランタイム動作

除の使用チェック・ボックス(アクティビティ・レベル)	t- Encodi ngの値 (メッセ ージ・ レベル)	
選択	gzip	統合アプライアンスは、gzip 形式を使用して要求の本体を圧縮解除します。Content-Encoding の値は、アクティビティから返された headers 出力パラメーターで gzip に設定されます。
選択	設定されていない	統合アプライアンスは要求の本体をそのまま(変更せずに)送信します。アクティビティから返された headers 出力パラメーターに Content-Encoding の値は設定されていません。
選択	identify	統合アプライアンスは要求の本体をそのまま(変更せずに)送信します。アクティビティから返された headers 出力パラメーターに Content-Encoding の値は設定されていません。
選択	gzip または identity 以外のストリング	統合アプライアンスは 415 (サポートされないメディア・タイプ) 応答コードを送信します。
クリア	値は無効	統合アプライアンスは要求の本体を圧縮解除しません。要求内の Content-Encoding の現行値がアクティビティの headers 出力パラメーターにそのまま渡されます。例えば、Content-Encoding の値が gzip に設定され、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスがクリアされている場合、統合アプライアンスは要求の本体の圧縮解除を行いませんが、Content-Encoding はアクティビティの headers 出力パラメーターで gzip に設定されます。

要求送信時の圧縮動作

次の表は、統合アプライアンスが HTTP 要求を Web サービスに送信する際の圧縮ランタイム動作を示しています。

要求に渡される Accept-Encoding ヘッダー値

以下の表は、HTTP 要求に渡される Accept-Encoding ヘッダーの値を示しています。

圧縮/圧縮解除の使用チェック・ボックス(アクティビティ・レベル)	Accept-Encoding の初期値	エンドポイントが圧縮をサポートする	HTTP 要求で Web サービスに渡される Accept-Encoding の値
選択	gzip,deflate	はい	Accept-Encoding ヘッダーは、要求では gzip,deflate に設定されます。
値は無効	値は無効	いいえ	Accept-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま要求に渡されます。
クリア	値は無効	値は無効	Accept-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま要求に渡されます。


応答受信時の圧縮解除動作

次の表は、統合アプライアンスが Web サービスから HTTP 応答を受信する際の圧縮解除ランタイム動作を示しています。

圧縮/圧縮解除の使用チェック・ボックス (アクティビティ・レベル)	HTTP 応答の Content-Encoding 値 (メッセージ・レベル)	エンドポイントが圧縮をサポートする	応答受信時の統合アプライアンス圧縮解除ランタイム動作
選択	gzip	はい	統合アプライアンスは、gzip 形式を使用して、応答本体を圧縮解除します。
選択	deflate	はい	統合アプライアンスは、deflate 形式を使用して、応答本体を圧縮解除します。
選択	identity	はい	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。
選択	Accept-Encoding ヘッダーにリストされない値	はい	統合アプライアンスは、応答データが非送信請求コンテンツのエンコード・タイプで受信されたというエラーをログに記録します。
選択	値は無効	いいえ	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。Content-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま応答に渡されます。
クリア	値は無効	値は無効	統合アプライアンスは応答の本体を圧縮解除しません。Content-Encoding ヘッダーの現行値は、現状のまま応答に渡されます。

親トピック: [Web サービス・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_decompression_with_the_web_services_provide_service_activity.html

Web サービス「応答の送信」アクティビティ

実行時に、「応答の送信」アクティビティは「サービスの提供」アクティビティに対する応答を返します。

このタスクについて

図 1. 「応答の送信」アクティビティ

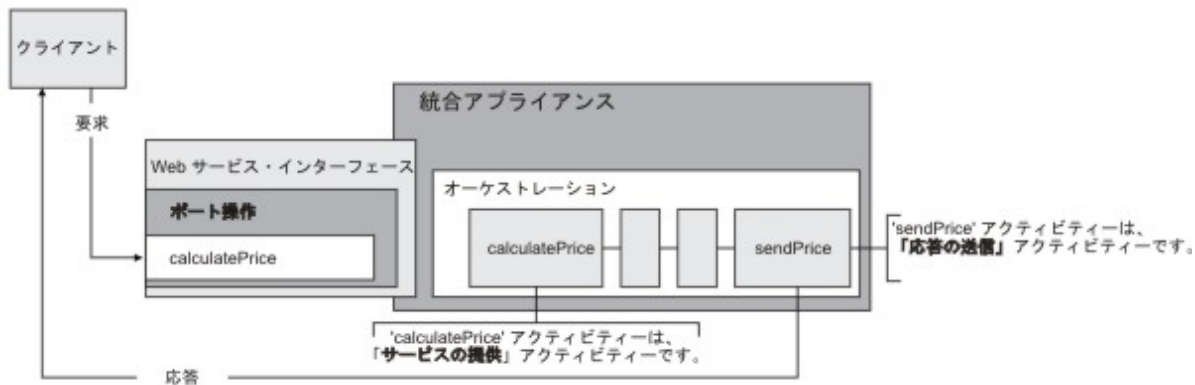


図 1 に示すように、クライアントは要求を送信することによって、calculatePrice Web サービス操作 (「サービスの提供」アクティビティ) を実行します。統合アプライアンスは、その要求を受け取って、オーケストレーション内のアクティビティの処理を開始します。sendPrice アクティビティ (「応答の送信」アクティビティ) が開始されると、クライアントへ応答が返されます。

デフォルトでは、「応答の送信」アクティビティに対して圧縮が使用可能になっています。詳しくは、『Web サービス「応答の送信」アクティビティによる圧縮』を参照してください。

「応答の送信」アクティビティをオーケストレーションに追加して構成する手順は、以下に説明がありません。

- **アクティビティの追加**
Web サービス「応答の送信」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
- **アクティビティの構成**
「応答の送信」サービス・アクティビティを構成します。
- **アクティビティの入力のマッピング**
「応答の送信」サービス・アクティビティの入力をマップします。

親トピック: [Web サービス・アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Send_Reply_Activity.html

アクティビティの追加

Web サービス「応答の送信」アクティビティをオーケストレーションに追加します。


手順

1. オーケストレーションを**作成**するか、または開きます。オーケストレーションのグラフィカル表現が表示されます。
2. 「アクティビティ」タブを選択して、「Web サービス」フォルダーを展開します。

3. 「応答の送信」アクティビティーをオーケストレーション上にドラッグします。「応答の送信」アクティビティーは、要求を開始したクライアントに応答を返すために、「サービスの提供」アクティビティーと共に使用されます。「応答の送信」アクティビティーは、「サービスの提供」アクティビティーの後に配置してください。
4. アクティビティーを選択します。「チェックリスト」が表示されます。

親トピック: [Web サービス「応答の送信」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Send_Add_WS_Activity.html

アクティビティーの構成


「応答の送信」サービス・アクティビティーを構成します。

手順

1. 「チェックリスト」で「構成」タスクを選択します。「構成」ペインが開きます。
2. この「応答の送信」アクティビティーが応答を返す「サービスの提供」アクティビティーを選択します。
3. 「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、アクティビティー・レベルで圧縮をオンにするのかオフにするのかを指定します。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、デフォルトで選択されています。このアクティビティーに対して圧縮/圧縮解除を使用不可にするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスをクリアします。詳しくは、『[Web サービス「応答の送信」アクティビティーによる圧縮](#)』を参照してください。
4. 「Message Transmission Optimization Mechanism (MTOM)」にチェック・マークが付けられると、バイナリー・データを含む SOAP メッセージを効率的に送信するために MTOM を使用することが指定されます。

親トピック: [Web サービス「応答の送信」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Send_Configure_Activity.html

アクティビティーの入力のマッピング

「応答の送信」サービス・アクティビティーの入力をマップします。

このタスクについて

関連する「サービスの提供」アクティビティの「構成」タスクの「応答スキーマが必要 (Requires a Reply Schema)」フィールドで選択された操作の戻りパラメーターは、「入力のマップ」タスクの「アクティビティへ」ペインにリストされている body 入力パラメーターの下に表示されます。

「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインで header および httpheaders という名前のオプション入力パラメーターを表示するには、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」を選択するか、または「アクティビティへ」ペインで右クリックして「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択します。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。


SOAP ヘッダー XML スキーマが、関連する「サービスの提供」アクティビティの「構成」タスクの「応答 SOAP ヘッダーが必要 (Requires a Reply SOAP Header)」フィールドで選択された場合、このスキーマは、「入力のマップ」タスクの「アクティビティへ」ペインにリストされている header 入力パラメーターの下に表示されます。

次の表は、オプションの httpheaders 入力パラメーターのノードを示しています。

httpheaders 入力パラメーターのノード	説明
httpheaders/uri	リソース・パス (例: /myPath) を指定します。
httpheaders/method	HTTP 要求のタイプを指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem	名前と値のペアとして HTTP ヘッダー・パラメーターのセットが含まれるエレメントを指定します。複数の HTTP ヘッダー・パラメーターを HTTP 要求で指定できるため、これは繰り返しノードになります。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/name	HTTP ヘッダー・パラメーターの名前を指定します。
httpheaders/otherHeaders/headerItem/value	HTTP ヘッダー・パラメーターの値を指定します。

親トピック: [Web サービス「応答の送信」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Send_Map_Inputs.html

Web サービス「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティ

実行時に、「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティから呼び出し側オーケストレーションにフォールトが返されます。このアクティビティでは、応答構成オプションとして SOAP 機能が提供されます。

このタスクについて


「WS 提供 (WS Provide)」をアクティブなオーケストレーションにスターター・アクティビティとして事前に追加しておく必要があります。これは、「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティが「WS 提供 (WS Provide)」アクティビティに依存するためです。

「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティをオーケストレーションに作成および構成する提供は、以下に説明があります。

- [必要なフォールト名の作成](#)
以下の手順で、必要なフォールト名を作成します。
- [アクティビティの構成](#)
フォールト名を使用して「応答の送信」アクティビティを構成します。
- [アクティビティの入力のマップ](#)
フォールト名を使用して「応答の送信」アクティビティの入力をマップします。

親トピック: [Web サービス・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Send_Reply_with_Fault_Activity.html

必要なフォールト名の作成

以下の手順で、必要なフォールト名を作成します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで「WS 提供 (WS Provide)」アクティビティをクリックします。
2. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
3. 「構成」オプションで「応答が必要」を選択します。
4. 「フォールトの追加」をクリックします。「フォールトの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 有効なスキーマを参照して選択します。上記のステップを繰り返して、必要な数のフォールトを作成します。

親トピック: [Web サービス「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

アクティビティーの構成

フォールト名を使用して「応答の送信」アクティビティーを構成します。

手順

1. 「アクティビティー」タブを開きます。
2. 「Web サービス」フォルダーの内容を展開し、「フォールトを伴う応答の送信」をオーケストレーション上にドラッグして、既存の Web サービス「サービスの提供」アクティビティーに従います。
3. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。

「応答先」テキスト域が表示され、先行する Web サービス「サービスの提供」アクティビティーの名前がリストされます。

4. 「フォールトあり」セクションの「フォールト名」リストからフォールト名を選択します。
5. 「オプション」セクションで「圧縮/圧縮解除の使用」を選択して、この機能をアクティブにします。
6. 「SOAP Message Transmission Optimization Mechanism (MTOM) の使用」を選択して、この機能をアクティブにします。
7. 「しきい値」フィールドに、適切な値を 1 から 9,999,999 までの範囲で入力します。

親トピック: [Web サービス「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

アクティビティーの入力のマップ

フォールト名を使用して「応答の送信」アクティビティーの入力をマップします。

手順


1. 「チェックリスト」で「入力のマップ」をクリックします。
2. 「アクティビティーへ」列に、以前に選択されたフォールト名に関連するスキーマがリストされます。
3. 「オーケストレーションから」列で、入力値の指定に使用される変数を選択します。
4. 変数がリストされていない場合、「オーケストレーションから」リストの上にある「入力の選択」をクリックします。
「入力の選択」ダイアログ・ボックスが表示され、選択可能な変数がリストされます。

ヒント: 必要な場合は、『[変数の作成](#)』の手順に従って、「ソース」列または「宛先」列にカスタム・マッピング変数を作成できます。

- 5.
6. 変数を選択してから、「OK」をクリックします。
7. 「アクティビティーへ」フィールドで「faultcode」を右クリックして、「デフォルト値の定義」を選択します。「デフォルト値の定義」ダイアログ・ボックスが表示されたら、いずれかの事前定義値を選択します。
8. オプション・パラメーターを表示するには、いずれかのノードを右クリックして、「オプション・パラメーターの表示」を選択します。オプション・パラメーターが「アクティビティーへ」列に表示されます。
9. 「オーケストレーション」列の変数を「アクティビティー」列のパラメーターにマップします。詳しくは、『[マッピング手法](#)』を参照してください。

親トピック: [Web サービス「フォールトを伴う応答の送信」アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_Fault_Activity_Map_Inputs.html

Web サービス「応答の送信」アクティビティーによる圧縮

実行時に、「Web サービスの応答送信」アクティビティーは、HTTP/HTTPS 1.0 プロトコルに準拠する HTTP 応答をクライアントに送信します。「応答送信」アクティビティーは、gzip 形式を使用した圧縮のみをサポートします。

注: 「応答送信」アクティビティーは、deflate 形式、または compress と呼ばれる共通の UNIX ファイル圧縮形式をサポートしていません。

「応答送信」アクティビティーの圧縮ランタイム動作は、以下の条件によって異なります。

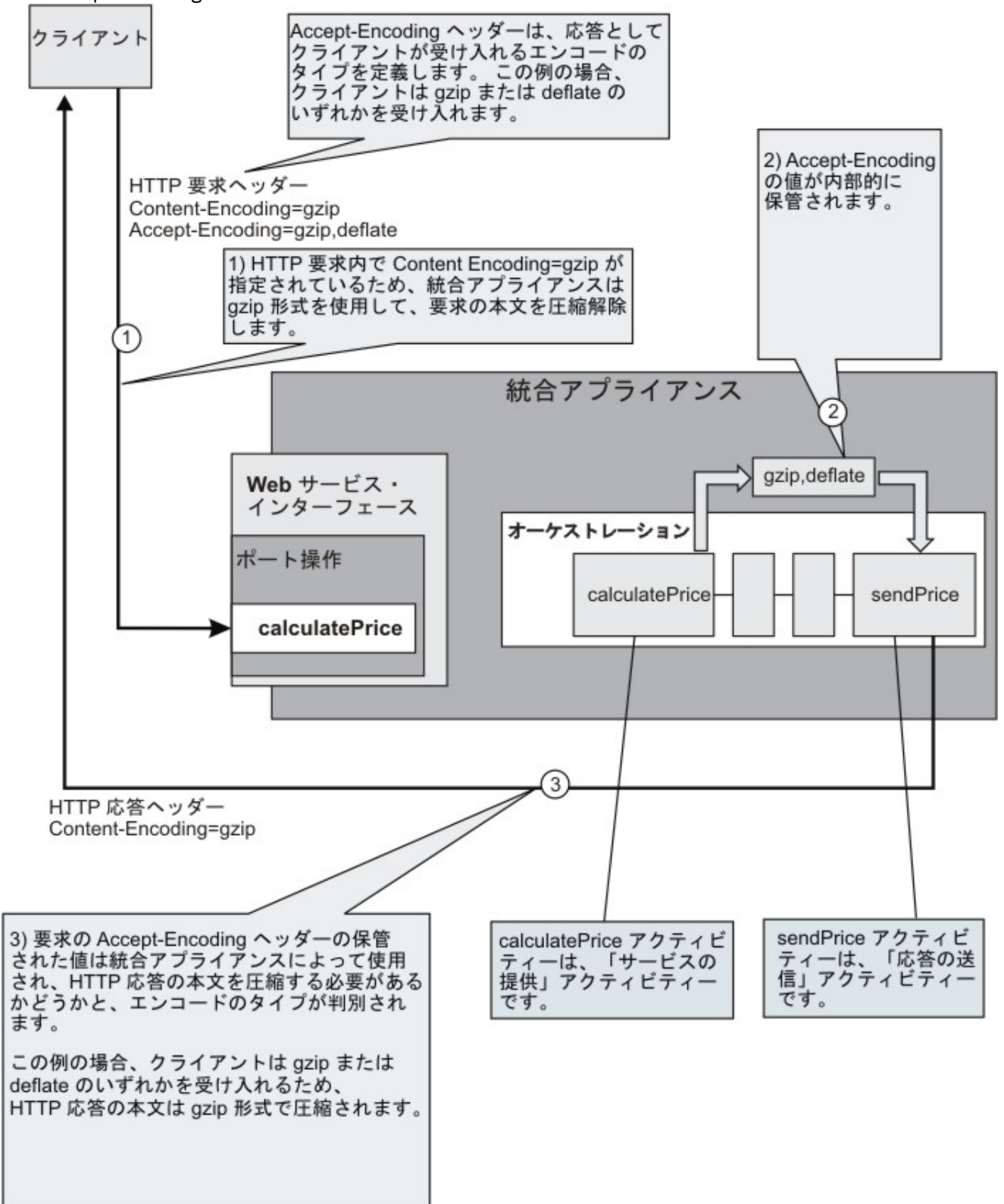
- [図 1](#) に示すように、メッセージ・レベルでは、「Web サービスのサービス提供」アクティビティーによって受信されたオリジナル HTTP 要求の Accept-Encoding ヘッダーの値が「応答送信」アクティビティーに渡され、HTTP 応答の本体を圧縮するかどうかが決まります。
- アクティビティー・レベルでの「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定。

これらの条件が「応答送信」アクティビティーの圧縮ランタイム動作に与える影響については、以下のセクションおよび『[ランタイム圧縮動作](#)』セクションの表に説明があります。

メッセージ・レベルでの Accept-Encoding の値

実行時に、「Web サービスのサービス提供」アクティビティーは、クライアントから HTTP 要求を受信します。同じオーケストレーションで、「応答送信」アクティビティーは、応答をオリジナルのクライアントに戻します。「サービスの提供」アクティビティーによって受信されたオリジナルの要求の Accept-Encoding ヘッダーの値は、統合アプライアンスに内部的に格納されます。格納された値は、「応答送信」アクティビティーに渡され、[図 1](#) に示すように、応答の本体を圧縮するかどうかの決定や、エンコード・タイプの判別に使用されます。

図 1. Accept-Encoding ヘッダー



アクティビティ・レベルでの圧縮/圧縮解除の設定

デフォルトでは、圧縮は「送信応答」アクティビティのアクティビティ・レベルでオンになっています。アクティビティ・レベルで圧縮をオフにするには、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの選択を解除します。「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは、アクティビティの「構成」タスクで使用できま

す。次の表の2列目の「HTTP 圧縮 CLI コマンド」というラベルの列は、「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスの設定を示しています。

ランタイム圧縮動作


次の表は、統合アプライアンスが HTTP 応答をクライアントに送信する際の圧縮ランタイム動作を示しています。

圧縮/圧縮解除の使用 チェック・ボックス (アクティビティ・ レベル)	HTTP 要求の Accept- Encoding 値 (メ ッセージ・レベ ル)	統合アプライアンスの圧縮ランタイム動作
選択	gzip または gzip,deflate	統合アプライアンスは、gzip 形式で圧縮された応答の本体を送信し、Content-Encoding ヘッダーは応答で gzip に設定されます。
選択	identity	統合アプライアンスは、圧縮解除された応答の本体を送信し、Content-Encoding ヘッダーは応答で ID に設定されます。
選択	設定しない、あ るいは gzip、ID 以外のストリン グ	統合アプライアンスは、圧縮解除された応答の本体を送信し、Content-Encoding ヘッダーは応答で ID に設定されます。
クリア	値は無効	統合アプライアンスは、応答の本体を現状のまま (変更せずに) 送信し、Content-Encoding ヘッダーは応答で現状のままです。(要求内の Content-Encoding ヘッダーの値は、未変更のまま応答に渡されます。)

注: 「圧縮/圧縮解除の使用」チェック・ボックスは将来のリリースで非推奨になります。HTTP 要求本体の圧縮解除方法と、HTTP 応答本体の圧縮方法を指定するには、HTTP 要求の HTTP パラメーター、Content-Encoding および Accept-Encoding を使用してください。

親トピック: [Web サービス・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_compression_with_the_web_services_send_reply_activity.html

トラブルシューティングとサポート

トラブルシューティング手法とセルフ・ヘルプ情報は、問題を迅速に識別して解決するのに役立ちます。ここでは、Web サービス・コネクタで起こった問題に対して有力であると思われる解決策について説明します。

Web サービスの「サービスの提供」アクティビティを処理するときにスローされる例外


問題: 「パス」名がスラッシュ (/) で終わっていると、「サービスの提供」アクティビティの処理中に「正しくない引数」例外がスローされます。

原因: この例外の原因は、contextPath を設定するときの ContextHandler context = new ContextHandler(); context.setContextPath(listenerDetails.getUri()); にあります。ContextHandler は、jetty-6.1.6 JAR ファイルのクラスです。

解決方法: スラッシュ (/) の後にパス・ストリングが続くような「パス」名を指定するようにしてください。例えば、/abc や /abc/def のようなパス名を指定します

親トピック: [Web サービス・アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WS_troubleshooting.html

Workday アクティビティ


- [Workday コネクターの概要](#)
- [Workday エンドポイントの作成および編集](#)

Workday エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Workday アプリケーションに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。
- [「Workday の呼び出し」アクティビティの使用](#)

「Workday の呼び出し」アクティビティを使用すると、人事、財務などに関連した Workday 管理サービスの操作を表示および実行できます。カスタム・レポート操作をフェッチして、それを使用することもできます。
- [Workday アクティビティの再試行オプションの指定](#)

「Workday の呼び出し」アクティビティの再試行オプションを指定します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_workdayactivities.html

Workday コネクターの概要

Workday コネクターを使用すると、Cast Iron と、人事、財務などに関連した Workday 管理モジュールとの間の接続が使用可能になります。Workday コネクターは、カスタム・レポートもサポートします。


Workday コネクターを使用して、以下のアクティビティーを実行できます。

- [Workday の呼び出し](#)

Workday コネクターは、Workday アプリケーション v18 をサポートします。

親トピック: [Workday アクティビティー](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WorkDay_overview.html

Workday エンドポイントの作成および編集

Workday エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Workday アプリケーションに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。

このタスクについて

Workday エンドポイントを作成または編集するには、このタスクを使用します。

注:

Workday エンドポイントに対して行う構成プロパティーなどのすべての変更は、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

手順

1. 「アクティビティー」タブの「Workday」フォルダーから「オーケストレーション」ウィンドウにアクティビティーをドラッグします。「要約」パネルが表示されます。
2. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
3. 以下のボタンのいずれかをクリックします。
 - a. 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティーのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティーが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。
 - b. 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
 - c. 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
4. 次の表に示されたフィールドに入力します。

表 1. 接続の詳細

フィールド名	説明
Workday	


フィールド名	説明
ドメイン・ネーム	Workday エンドポイントのドメイン・ネームを指定します。任意のドメイン・ネームを指定することも、ウォーターマーク参照として指定されたサンドボックス・ドメイン・ネームを使用することもできます。
テナント名	Workday エンドポイントのテナント名を指定します。任意のテナント名を指定することも、ウォーターマーク参照として指定されたサンドボックス・テナント名を使用することもできます。
ログイン	
ユーザー名	Workday アプリケーションに接続するユーザー名を指定します。任意のユーザー名を指定することも、ウォーターマーク参照として指定されたユーザー名を使用することもできます。
パスワード	Workday アプリケーションに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。任意のパスワードを指定することも、ウォーターマーク参照として指定されたパスワードを使用することもできます。
接続タイムアウト	
エンドポイントへの接続を確立しているとき、___ 秒後にタイムアウトになります。	アクティビティがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。デフォルトは 300 秒です。
プロキシ	
プロキシ・サーバーを介した接続	プロキシ接続詳細を有効にすることができます。
認証	<p>統合アプライアンスがリモート・サーバーへの接続時に使用する認証のタイプを選択できます。以下のいずれかの認証モードをリストから選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本 (Basic) - 指定したユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーに送信します。これは、最も保護レベルの低い認証スキーマです。 ダイジェスト (Digest) - 指定したユーザー名とパスワードを、サーバーに送信する前に暗号化します。これは、「基本 (Basic)」認証より保護レベルの高い認証オプションです。 NTLM - サーバーのドメイン・ネームで NTCredentials のインスタンスを使用可能にすることを要求します。この認証は、最も保護レベルの高い認証オプションです。 <p>NTLM 認証オプションを選択した場合、統合アプライアンスは、要求ではなく接続を認証します。そのため、統合アプライアンスは、新しい接続が確立されるたびに認証を行います。認証プロセス中は、接続を開いたままにしておく必要があります。NTLM を使用して、プロキシとサーバーの両方で認証を行うことはできません。</p> <p>注: ユーザー名にドメインの接頭部を付けしないでください。</p>

フィールド名	説明
レルム	「基本 (Basic)」または「ダイジェスト (Digest)」認証オプションを選択する場合は、レルムを指定できます。レルムを指定しない場合、アクティビティは「任意のレルム」に対して認証を行います。「NTLM」認証オプションを選択する場合は、ドメインを指定する必要があります。ドメインを指定しない場合、エンドポイント構成は無効となり、エラーが発生します。
ホスト名	プロキシ・サーバーのホスト名を指定します。
ポート	プロキシ・サーバーへの接続に必要なポート番号を指定します。
ユーザー名	プロキシ・サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。
パスワード	プロキシ・サーバーへの接続に必要なパスワードを指定します。

- 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、Workday アプリケーションに接続できることを確認します。
- 「OK」をクリックします。

親トピック: [Workday アクティビティ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Workday_Creating_or_Editing_an_Endpoint.html

「Workday の呼び出し」アクティビティの使用

「Workday の呼び出し」アクティビティを使用すると、人事、財務などに関連した Workday 管理サービスの操作を表示および実行できます。カスタム・レポート操作をフェッチして、それを使用することもできます。

このタスクについて

人事、財務などに関連した Workday 管理サービスの操作を表示および実行するには、このタスクを使用します。

手順

「Workday の呼び出し」アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

- アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Workday フォルダーのコンテンツを展開します。
- 「Workday の呼び出し」アクティビティ・アイコンをオーケストレーションにドラッグします。
「Workday の呼び出し」チェックリストが表示されます。
- 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
- 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要な変更を行います。
- 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。

6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Workday エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Workday エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
9. 「Workday サービス (Workday Service)」ペインで、以下のいずれかを実行します。
 - a. 「サービス」オプションをクリックして、必要な Workday サービスをリストから選択します。
 - b. 「カスタム・レポート名 (Custom Report Name)」フィールドをクリックして、レポートの名前を指定します。
10. 「Workday 操作のフェッチ (Fetch Workday Operations)」をクリックして、「サービス」オプションで指定したモジュールからの操作を「Workday 操作 (Workday operations)」ペインに取り込みます。
11. オプション: 選択した操作に関する Workday ヘルプ・ページを表示するには、「Workday ヘルプ (Workday Help)」をクリックします。操作を選択する前にヘルプ・ボタンをクリックすると、すべての Workday サービスに関する情報が表示される Workday ヘルプ・ページを見ることができます。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Workday アクティビティの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
13. 必要な Workday 操作を選択して、「チェックリスト」から「入力のマップ」をクリックします。
「Workday の呼び出し」アクティビティの選択された操作から生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。「バージョン」フィールドには、コネクタによってサポートされる Workday の最新バージョンが自動的に取り込まれます。

入力のマップ内のユーザー名とパスワードは、エンドポイント画面で指定された詳細に基づいて取り込まれます。


14. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは Web 管理コンソールから報告された例外をスローします。実行時にオプションの入力パラメーターの値が指定されていなくても、実行時に例外はスローされません。
15. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

「Workday の呼び出し」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Workday アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WorkDay_invoke_service.html

Workday アクティビティの再試行オプションの指定

「Workday の呼び出し」アクティビティの再試行オプションを指定します。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。
2. Workday アプリケーションに接続するための再試行オプションを構成します。次の表で、Workday アプリケーションに接続するための再試行オプションについて説明します。

フィールド	説明
再試行	
1) 再試行ごとに __ 秒待機します。	Workday アプリケーションへの接続の確立を試行するまでに、統合アプライアンスが待機する時間 (秒) を指定します。
2) 失敗するまで __ 回の接続を試みます。	<p>再試行回数を指定します。つまり、統合アプライアンスが Workday アプリケーションへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>「Workday の呼び出し」アクティビティを含むオーケストレーションをデプロイする場合、統合アプライアンスが指定された Workday サービスに接続できないと、再試行回数値に達するまで、統合アプライアンスはシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを「警告」として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p> <p>例えば、再試行回数を 5 に設定すると、第 1、第 2、第 3、第 4、および第 5 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 6 の接続エラーをエラーとしてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。</p>
3) エンドポイントが要求に回答しないとき、__ 秒後にタイムアウトになります。	アクティビティがエンドポイントで要求を実行してから、エンドポイントが応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。「Workday の呼び出し」の場合、アクティビティ・タイムアウトは、統合アプライアンスが、Workday サービスの開始を試行してからタイムアウト・エラーを発行するまでの、Workday アプリケーションからの応答を待つ時間です。アクティビティ・タイムアウトは、エンドポイントへの接続が確立された後に発生するため、接続タイムアウトとは異なります。接続タイムアウトは、統合アプライアンスがエンドポイントへの接続の確立を試行してから、エンドポイントが接続要求に応答せずにタイムアウトになるまでの時間 (秒) を指定します。接続タイムアウトは「Workday エンドポイント」タブで設定します。接続タイムアウトについて詳しくは、『 Workday エンドポイントの作成および編集 』を参照してください。

親トピック: [Workday アクティビティ](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/WorkDay_Specifying_Retry_Options.html

Zuora アクティビティ

- [Zuora コネクターの概要](#)
- [Zuora エンドポイントの作成および編集](#)

Zuora エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Zuora アプリケーションに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。
- [Zuora 「オブジェクトの作成」 アクティビティの使用](#)

Account、Amendment、Contact、InvoiceAdjustment、InvoiceItemAdjustment、InvoicePayment、Payment、PaymentMethod、Product、ProductRatePlan、ProductRatePlanCharge、ProductRatePlanChargeTier、RatePlan、RatePlanCharge、RatePlanChargeTier、Refund、および Usage などのオブジェクトを Zuora アプリケーションに作成するには、Zuora 「オブジェクトの作成」 アクティビティを使用します。
- [Zuora 「オブジェクトの更新」 アクティビティの使用](#)

Zuora アプリケーション内の Account、Amendment、Contact、Invoice、InvoiceAdjustment、InvoiceItemAdjustment、Payment、PaymentMethod、Product、ProductRatePlan、ProductRatePlanCharge、ProductRatePlanChargeTier、RatePlanCharge、および Subscription などのオブジェクトを更新するには、Zuora 「オブジェクトの更新」 アクティビティを使用します。
- [Zuora 「オブジェクトの削除」 アクティビティの使用](#)

Product、Account、または Contact などのオブジェクトを Zuora アプリケーションから削除するには、Zuora 「オブジェクトの削除」 アクティビティを使用します。
- [Zuora 「オブジェクトの照会」 アクティビティの使用](#)

Product、Account、または RatePlan などのオブジェクトを Zuora アプリケーションから照会するには、Zuora 「オブジェクトの照会」 アクティビティを使用します。この操作で指定する照会ストリングは、Zuora Object Query Language 標準に準拠している必要があります。
- [Zuora 「サブスクリプションの修正」 アクティビティの使用](#)

Zuora アプリケーション内の Subscription などのオブジェクトを修正または変更するには、Zuora 「サブスクリプションの修正」 アクティビティを使用します。
- [Zuora 「サブスクリプションの作成」 アクティビティの使用](#)

Account、PaymentMethod、および RatePlanData などのサブスクリプションに関する基本情報を指定して、Zuora アプリケーションにサブスクリプションを作成するには、Zuora 「サブスクリプションの作成」 アクティビティを使用します。
- [Zuora 「Invoice の生成」 アクティビティの使用](#)

AccountId、InvoiceDate、TargetDateなどを指定して、顧客への送り状を Zuora アプリケーション内で生成するには、Zuora 「Invoice の生成」 アクティビティを使用します。
- [Zuora アクティビティの再試行オプションの指定](#)

「再試行」パラメーターの指定は、Zuora アクティビティを構成するためのタスクの1つです。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_zuoraactivities.html

Zuora コネクターの概要

Zuora コネクターは、Cast Iron と Zuora アプリケーションの間の両方向通信を使用可能にします。Zuora コネクターを使用することにより、Zuora の Z-Billing アプリケーションおよび Z-Payment アプリケーション内でオブジェクトの作成および変更を行うことができます。

Zuora コネクターを使用して、以下のアウトバウンド・アクティビティを実行できます。

- オブジェクトの作成
- オブジェクトの更新
- オブジェクトの削除
- オブジェクトの照会
- サブスクリプションの修正
- サブスクリプションの作成
- Invoice の生成

Zuora コネクターは Zuora アプリケーションのバージョン 41.0 をサポートします。詳しくは、『<http://knowledgecenter.zuora.com/>』を参照してください。

親トピック: [Zuora アクティビティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Zuora_Overview.html

Zuora エンドポイントの作成および編集

Zuora エンドポイントには、Studio および統合アプライアンスが Zuora アプリケーションに接続するために使用する情報が含まれています。別々のインスタンスを参照する複数のエンドポイントを作成できます。

このタスクについて

Zuora エンドポイントを作成または編集するには、このタスクを使用します。

注:

Zuora エンドポイントに対して行う構成プロパティなどのすべての変更は、その編集がローカルではなくグローバルなものであることから、そのエンドポイントを使用するすべてのオーケストレーションに影響します。

1. 「アクティビティ」タブの「Zuora」フォルダーから「オーケストレーション」ウィンドウにアクティビティをドラッグします。「要約」パネルが表示されます。
2. 「チェックリスト」から、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
3. 以下のボタンのいずれかをクリックします。
 - a. 参照 – 「プロジェクト・エクスプローラー」から既存のエンドポイントを選択します。「プロジェクト・エクスプローラー」には、アクティビティのために使用できるプロジェクト内のすべてのエンドポイントが表示されます。エンドポイントを選択すると、エンドポイントのプロパティが「エンドポイントの選出」パネルに表示されます。
 - b. 新規作成 - 新規エンドポイントを作成します。「エンドポイントの作成」ウィンドウが開きます。
 - c. 編集 – 既存のエンドポイントを編集します。「エンドポイントの編集」ウィンドウが開きます。
4. 次の表に示されたフィールドに入力します。

表 1. 接続の詳細

フィールド名	説明
接続情報の指定	
URL	Zuora アプリケーションの URL を指定します。デフォルトでは、Zuora の実稼働環境の値 <code>https://www.zuora.com/apps/services/a/41.0</code> が表示されます。
ユーザー名	Zuora アプリケーションに接続するユーザー名を指定します。
プロキシ接続の詳細	
パスワード	Zuora アプリケーションに接続するユーザー名に関連付けられたパスワードを指定します。
プロキシ・ホスト	プロキシ・サーバーのホスト名を指定します。
プロキシ・ポート	プロキシ・サーバーへの接続に必要なポート番号を指定します。
プロキシ・ユーザー名	プロキシ・サーバーへの接続に必要なユーザー名を指定します。
プロキシ・パスワード	プロキシ・サーバーへの接続に必要なパスワードを指定します。

5. 完了したら、「接続のテスト」をクリックして、Zuora アプリケーションに接続できることを確認します。
6. 「OK」をクリックします。

親トピック: [Zuora アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

Zuora 「オブジェクトの作成」 アクティビティーの使用

Account、Amendment、Contact、InvoiceAdjustment、InvoiceItemAdjustment、InvoicePayment、Payment、PaymentMethod、Product、ProductRatePlan、ProductRatePlanCharge、ProductRatePlanChargeTier、RatePlan、RatePlanCharge、RatePlanChargeTier、Refund、および Usage などのオブジェクトを Zuora アプリケーションに作成するには、Zuora 「オブジェクトの作成」 アクティビティーを使用します。

このタスクについて

Zuora アプリケーションにオブジェクトを作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Zuora 「オブジェクトの作成」 アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Zuora フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの作成」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Zuora オブジェクトの作成「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要に応じて必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Zuora エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。「接続のテスト」をクリックして、Zuora アプリケーションに正常に接続されたことをテストします。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Zuora エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Zuora の参照 (Browse Zuora)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Zuora の参照 (Browse Zuora)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Zuora アクティビティーの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
13. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの作成」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
14. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。

注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは完了し、createResponseの結果にはエラー・メッセージが取り込まれます。アクティビティーの応答をレビューすることにより、要求が成功したのか失敗したのかを判別できます。


15. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成されたXMLスキーマが、「アクティビティーから」パネルのresponse出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Zuora「オブジェクトの作成」アクティビティーを構成しました。

親トピック: [Zuora アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Zuora_CreateObjects_Activity.html

Zuora「オブジェクトの更新」アクティビティーの使用

Zuora アプリケーション内の Account、Amendment、Contact、Invoice、InvoiceAdjustment、InvoiceItemAdjustment、Payment、PaymentMethod、Product、ProductRatePlan、ProductRatePlanCharge、ProductRatePlanChargeTier、RatePlanCharge、および Subscription などのオブジェクトを更新するには、Zuora「オブジェクトの更新」アクティビティーを使用します。

このタスクについて

Zuora アプリケーション内のオブジェクトを更新するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Zuora「オブジェクトの更新」アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Zuora フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの更新」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Zuora オブジェクトの更新「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要に応じて必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。


6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Zuora エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。「接続のテスト」をクリックして、Zuora アプリケーションに正常に接続されたことをテストします。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Zuora エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Zuora の参照 (Browse Zuora)」ウィンドウが表示されます。
11. 「Zuora の参照 (Browse Zuora)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『[Zuora アクティビティの再試行オプションの指定](#)』を参照してください。
13. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの更新」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
14. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは完了し、updateResponse の結果にはエラー・メッセージが取り込まれます。アクティビティの応答をレビューすることにより、要求が成功したのか失敗したのかを判別できます。
15. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Zuora 「オブジェクトの更新」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Zuora アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Zuora_UpdateObjects_Activity.html

Zuora 「オブジェクトの削除」アクティビティの使用

Product、Account、または Contact などのオブジェクトを Zuora アプリケーションから削除するには、Zuora 「オブジェクトの削除」アクティビティを使用します。

このタスクについて

Zuora アプリケーションからオブジェクトを削除するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Zuora 「オブジェクトの削除」アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順


1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Zuora フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの削除」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Zuora オブジェクトの削除「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要に応じて必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Zuora エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。「接続のテスト」をクリックして、Zuora アプリケーションに正常に接続されたことをテストします。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Zuora エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの削除」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは完了し、deleteResponse の結果にはエラー・メッセージが取り込まれます。アクティビティの応答をレビューすることにより、要求が成功したのか失敗したのかを判別できます。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Zuora 「オブジェクトの削除」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Zuora アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

Zuora 「オブジェクトの照会」 アクティビティーの使用

Product、Account、または RatePlan などのオブジェクトを Zuora アプリケーションから照会するには、Zuora 「オブジェクトの照会」 アクティビティーを使用します。この操作で指定する照会ストリングは、Zuora Object Query Language 標準に準拠している必要があります。

このタスクについて

Zuora アプリケーションからオブジェクトを照会するには、このタスクを使用します。このアクティビティーの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティーに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Zuora 「オブジェクトの照会」 アクティビティーを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティー」タブを開いて Zuora フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「オブジェクトの照会」アクティビティー・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Zuora オブジェクトの照会「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティー名」フィールドの内容を確認して、必要に応じて必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Zuora エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。「接続のテスト」をクリックして、Zuora アプリケーションに正常に接続されたことをテストします。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Zuora エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションで使用されているすべてのエンドポイントに、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「オブジェクトの照会」アクティビティーの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティーへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティーの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティーは完了し、queryResponse の結果にはエラー・メッセージが取り込まれます。アクティビティーの応答をレビューすることにより、要求が成功したのか失敗したのかを判別できます。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティーの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティーから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。


注: 「オブジェクトの照会」アクティビティの出力は `queryResponse` であり、これは一般的な構造を持ちます。「オブジェクトの照会」アクティビティの出力を以降のアクティビティで使用しなければならない場合は、直接マッピングを行うことはできません。データは、「XSLT の適用」アクティビティを活用して `queryResponse` から抽出する必要があります。特定のデータ抽出に使用できるサンプルの XSLT を以下に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsl:stylesheet version="1.0" xmlns:xsl="http://www.w3.org/1999/XSL/Transform"
xmlns:ns1="http://api.zuora.com/" xmlns:ns2="http://object.api.zuora.com/">
<xsl:template match="/ns1:queryResponse/ns1:result">
<xsl:element name="Products">
<xsl:apply-templates select="ns1:records" />
</xsl:element>
</xsl:template>
<xsl:template match="ns1:records">
<xsl:element name="Product">
<xsl:element name="Id">
<xsl:value-of select="ns2:Id"/>
</xsl:element >
<xsl:element name="Name">
<xsl:value-of select="ns2:Name"/>
</xsl:element >
<xsl:element name="SKU">
<xsl:value-of select="ns2:SKU"/>
</xsl:element >
<xsl:element name="EffectiveStartDate">
<xsl:value-of select="ns2:EffectiveStartDate"/>
</xsl:element >
<xsl:element name="EffectiveEndDate">
<xsl:value-of select="ns2:EffectiveEndDate"/>
</xsl:element >
<xsl:element name="Description">
<xsl:value-of select="ns2:Description"/>
</xsl:element >
</xsl:element>
</xsl:template>
</xsl:stylesheet>
```

タスクの結果

Zuora 「オブジェクトの照会」アクティビティを構成しました。
親トピック: [Zuora アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Zuora_QueryObjects_Activity.html

Zuora 「サブスクリプションの修正」アクティビティの使用

Zuora アプリケーション内の Subscription などのオブジェクトを修正または変更するには、Zuora 「サブスクリプションの修正」アクティビティを使用します。

このタスクについて

Zuora アプリケーションからのオブジェクトを修正または変更するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに回答が返信されます。

Zuora 「サブスクリプションの修正」 アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順


1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Zuora フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「サブスクリプションの修正」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Zuora サブスクリプションの修正「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要に応じて必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Zuora エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。「接続のテスト」をクリックして、Zuora アプリケーションに正常に接続されたことをテストします。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Zuora エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「サブスクリプションの修正」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは完了し、amendResponse の結果にはエラー・メッセージが取り込まれます。アクティビティの応答をレビューすることにより、要求が成功したのか失敗したのかを判別できます。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Zuora 「サブスクリプションの修正」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Zuora アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

Zuora 「サブスクリプションの作成」 アクティビティの使用

Account、PaymentMethod、および RatePlanData などのサブスクリプションに関する基本情報を指定して、Zuora アプリケーションにサブスクリプションを作成するには、Zuora 「サブスクリプションの作成」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

Zuora アプリケーションにサブスクリプションを作成するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Zuora 「サブスクリプションの作成」 アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順


1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Zuora フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「サブスクリプションの作成」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Zuora サブスクリプションの作成「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要に応じて必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Zuora エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。「接続のテスト」をクリックして、Zuora アプリケーションに正常に接続されたことをテストします。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Zuora エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「サブスクリプションの作成」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
10. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは完了し、subscribeResponse の結果にはエラー・メッセージが取り込まれます。アクティビティの応答をレビューすることにより、要求が成功したのか失敗したのかを判別できます。
11. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
12. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Zuora 「サブスクリプションの作成」 アクティビティを構成しました。

親トピック: [Zuora アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Zuora_CreateSubscription_Activity.html

Zuora 「Invoice の生成」 アクティビティの使用

AccountId、InvoiceDate、TargetDateなどを指定して、顧客への送り状を Zuora アプリケーション内で生成するには、Zuora 「Invoice の生成」 アクティビティを使用します。

このタスクについて

Zuora アプリケーション内で送り状を生成するには、このタスクを使用します。このアクティビティの呼び出しは、同期呼び出しです。同期呼び出しでは、入力データが処理のためにアクティビティに送信され、オーケストレーションに応答が返信されます。

Zuora 「Invoice の生成」 アクティビティを構成するには、次のステップを実行します。

手順

1. アクティブなオーケストレーションで、「アクティビティ」タブを開いて Zuora フォルダーのコンテンツを展開します。
2. 「Invoice の生成」アクティビティ・アイコンをオーケストレーション上にドラッグします。Zuora Invoice の生成「チェックリスト」が表示されます。
3. 「チェックリスト」で、「要約」をクリックします。
4. 「アクティビティ名」フィールドの内容を確認して、必要に応じて必要な変更を行います。
5. 「チェックリスト」で、「エンドポイントの選出」をクリックします。
6. 「参照」をクリックし、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスを使用して、関連する Zuora エンドポイントを選択します。
7. オプション: 「新規作成」をクリックして必要な接続の詳細を指定することで、エンドポイントを作成することができます。「接続のテスト」をクリックして、Zuora アプリケーションに正常に接続されたことをテストします。この構成のエンドポイントを保存して使用するには、「OK」をクリックします。
注: 詳しくは、『[Zuora エンドポイントの作成および編集](#)』を参照してください。
8. 選択したエンドポイントの構成に対して必要な変更を行うには、「編集」をクリックして、別のウィンドウでオプションにアクセスします。変更を行うと、アクティブなオーケストレーションにおけるエンドポイントのすべての使用に、グローバルに影響します。
9. 「チェックリスト」で、「構成」をクリックします。
10. 「参照」をクリックして、オブジェクト・タイプを選択します。「Zuora の参照 (Browse Zuora)」ウィンドウが表示されます。


11. 「Zuora の参照 (Browse Zuora)」で、「オブジェクト・タイプの検索」フィールドでオブジェクト・タイプを指定してオブジェクト・タイプをフィルターするか、オブジェクト・タイプ・リストからオブジェクト・タイプを選択します。「OK」をクリックします。
12. 「チェックリスト」で、「再試行」をクリックします。デフォルト設定を確認して、必要な変更を行います。詳しくは、『Zuora アクティビティの再試行オプションの指定』を参照してください。
13. 「チェックリスト」から「入力のマップ」を選択します。「Invoice の生成」アクティビティの選択したオブジェクトから生成された XML スキーマが、「アクティビティへ」パネルの request 入力パラメーターの下にノードとして表示されます。
14. オーケストレーション変数とアクティビティの入力パラメーターとの間のマップを作成します。
注: 入力構造の必須エレメントの値は、実行時に指定されている必要があります。この値は、エレメントのデフォルト値を指定するか、エレメントを入力ノードにリンクすることによって指定できます。実行時に必須エレメントの値が指定されていないと、アクティビティは完了し、generateResponse の結果にはエラー・メッセージが取り込まれます。アクティビティの応答をレビューすることにより、要求が成功したのか失敗したのかを判別できます。
15. 「チェックリスト」から「出力のマップ」を選択します。アクティビティの応答保持のために生成された XML スキーマが、「アクティビティから」パネルの response 出力パラメーターの下にノードとして表示されます。
16. 出力パラメーターとオーケストレーション変数との間のマップを作成します。

タスクの結果

Zuora 「Invoice の生成」アクティビティを構成しました。

親トピック: [Zuora アクティビティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Zuora_GenerateInvoice_Activity.html

Zuora アクティビティの再試行オプションの指定

「再試行」パラメーターの指定は、Zuora アクティビティを構成するためのタスクの 1 つです。

このタスクについて

Zuora アクティビティの再試行オプションを構成するには、このタスクを使用します。Zuoraコネクタは、アクティビティごとに新規セッションを取得します。ネットワークの問題が原因で、コネクタが最初の試行でセッションを取得できなかった場合、再試行が行われます。コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行を再試行として数えません。コネクタは、セッションを再取得するための最初の試行が失敗した後の動作を、コネクタの標準的な再試行動作と見なします。

手順

1. 「チェックリスト」で「再試行」タスクを選択します。「再試行」ペインが表示されます。


2. 次の表の説明に従って、Zuora アプリケーションに接続するための再試行およびタイムアウト・オプションを構成します。

表 1. 再試行オプション

再試行フィールド	説明
再試行ごとに __ 秒待機します。	統合アプライアンスが Zuora アプリケーションへの接続の確立を試行するまでに待機する秒数を指定します。
失敗するまで __ 回の接続を試みます。	再試行回数、つまり統合アプライアンスが Zuora アプリケーションへの接続の確立を試行する最大回数を指定します。この回数を超えると、統合アプライアンスはエラーを発行して現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。 注: Zuora アクティビティーが含まれているオーケストレーションがデプロイされる場合に、統合アプライアンスは指定の Zuora アプリケーションに接続できないと、再試行回数値に達するまでシステム・ログおよびオーケストレーション・ログに接続エラーを警告として記録します。再試行回数に達すると、統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ログに「エラー」を記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。例えば、再試行回数を 3 に設定すると、第 1、第 2、第 3 の接続エラーはシステム・ログに警告として表示されます。統合アプライアンスは、第 4 の接続エラーを「エラー」としてログに記録し、現行オーケストレーション・ジョブの処理を停止します。
アクティビティー・タイムアウト	
エンドポイントが要求に応答しないとき、 __ 秒後にタイムアウトになります。	エンドポイントが要求に応答しない場合に、統合アプライアンスがタイムアウトするまでに待機する秒数を指定します。デフォルトは 300 秒です。

親トピック: [Zuora アクティビティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Zuora_Specifying_Retry_Parameters_for_Zuora_Activities.html

セキュア・コネクタの使用

セキュア・コネクタは、IBM® WebSphere® Cast Iron® アプライアンスとファイアウォールの内側にあるエンドポイントとの間でデータのセキュア転送を容易に実現します。セキュア・コネクタを使用すると、ファイアウォール内側のエンドポイントに対し、Studio からオーケストレーションのランタイム検証を実行できます。

始める前に

セキュア・コネクタを使用して Studio でオーケストレーションを検証するには、以下のタスクを実行する必要があります。

- アプライアンス上にセキュア・コネクタを作成します。
- セキュア・コネクタ用の構成ファイルとインストーラーをアプライアンスからダウンロードして、ファイアウォール内側にあるマシンにインストールします。
- 前のステップでインストールしたセキュア・コネクタを始動し、統合アプライアンス内のセキュア・コネクタの状態が"実行中"と表示されていることを確認します。

手順

ローカルでアクセス可能なエンドポイントを使用してオーケストレーションを構成します。これは、ファイアウォール内側のエンドポイントのレプリカです。

セキュア・コネクタを Cast Iron 互換のコネクタ (HTTP コネクタなど) として、Studio からのオーケストレーションの検証に使用するには、以下を実行します。

1. ファイアウォール内側の別のエンドポイントを使用するために、アクティビティのエンドポイント詳細を編集します。
2. 「リモート・エンドポイント構成」セクションに移動します。
3. 「エンドポイントをファイアウォールの内側で実行」チェック・ボックスを選択して、「セキュア・コネクタ名」フィールドを有効にします。
4. 「参照」をクリックし、セキュア・コネクタが登録されている統合アプライアンスの詳細を指定します。「セキュア・コネクタの検出」ダイアログが表示されます。

パブリッシャー・グループまたは管理グループのアプライアンス・ユーザーは Studio を通じてアプライアンスに接続し、セキュア・コネクタを検出できます。

5. 「検出」をクリックします。アクティブに稼働しているすべてのセキュア・コネクタのリストが、統合アプライアンスによって表示されます。
6. エンドポイントが実行されている環境に対応するセキュア・コネクタを選択します。
7. プロジェクトを保存し、オーケストレーションの検証を実行します。


Studio 環境でのオーケストレーションの検証中に、コネクタは統合アプライアンスを通じて構成したセキュア・コネクタを使用してアクティビティを実行します。これで、Studio 環境以外のネットワークに置かれた環境に対して、オーケストレーションをテストできるようになりました。

注:

- 「セキュア・コネクタの検出」ダイアログには、現時点で"実行中"の状態にあるセキュア・コネクタのみが表示されます。このため、セキュア・コネクタがオンプレミス環境で始動するようにしてください。

- Studio とアプライアンス間の通信は、HTTP トランスポートを通じて行われます。
- 古いプロジェクトの場合は、プロジェクトを Studio にインポートし、上記のステップを実行する必要があります。
- セキュア・コネクタを通じたテスト接続と成果物の検出は、現時点では Studio 環境からはサポートされていません。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/using_secureconnectos.html

変数

- **変数について**
オーケストレーションでは、アクティビティの入力データと出力データを格納するための一時ストレージの場所として変数を使用できます。
- **変数の作成**
このセクションのトピックは、オーケストレーションで新規変数を作成するために用いるメソッドを決定するために使用します。
- **変数プロパティの構成**
変数プロパティは、「変数」タブのペインにある「プロパティ」で構成します。
- **変数の除去**
このセクションの説明に従って、特定の変数、または未使用のすべての変数をオーケストレーションから除去することができます。
- **デフォルト値の指定**
変数にはそのデータ型に適切なデフォルト値を指定します。
- **スキーマ・エレメントの参照**
スキーマのルート・エレメントまたはスキーマのフラグメントを選択します。
- **変数の置換型の選択**
XML スキーマで XML エレメントが派生型に基づいて定義されている場合は、実行時に予期される派生型 (または置換型) を指定する必要があります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

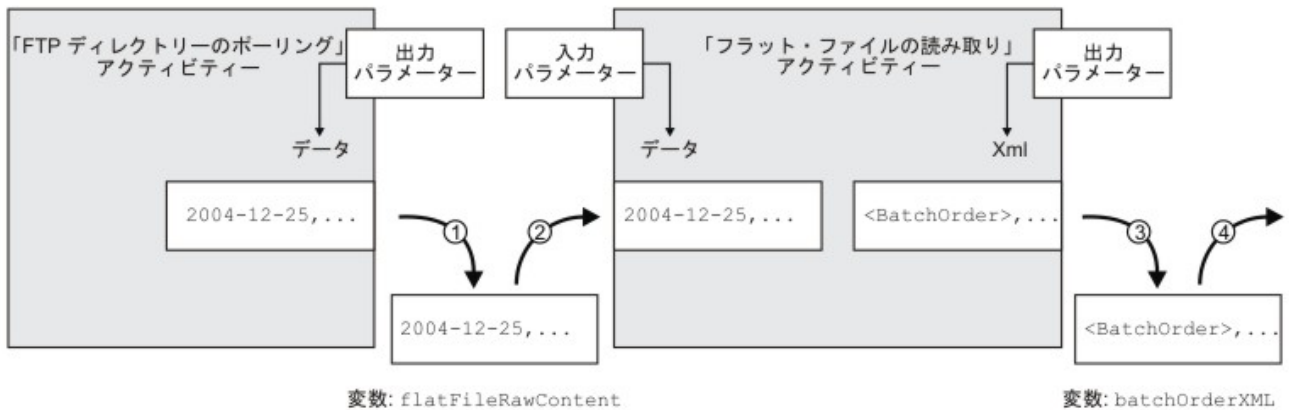
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_variables.html

変数について

オーケストレーションでは、アクティビティの入力データと出力データを格納するための一時ストレージの場所として変数を使用できます。

これについて示したのが以下の図のサンプル・オーケストレーションです。



このオーケストレーションは、実行時に以下のような流れで変数からデータを抽出し、そのデータを変数に格納します。

1. 「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティがポーリングによって FTP サーバーでフラット・ファイルを検出し、そのフラット・ファイルの内容を data 出力パラメーターに配置します。その data 出力パラメーターは、*flatFileRawContent* という文字列変数に対応付けられています。
2. 「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティから返されるフラット・ファイル・データは、その *flatFileRawContent* 変数に文字列として格納されます。
3. その *flatFileRawContent* 変数は、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの Data 入力パラメーターに対応付けられています。フラット・ファイル・データは、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティによって解析され、そのアクティビティから XML 出力パラメーターに返されます。
4. その XML 出力パラメーターは、*batchOrderXML* フラット・ファイル・スキーマ変数に対応付けられています。オーケストレーションでは、その *batchOrderXML* フラット・ファイル・スキーマ変数からデータを利用できるようになります。例えば、オーケストレーションの「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの右側にアクティビティを追加すれば、そのアクティビティは、そのデータを入力として使用できます。

オーケストレーションが有効と見なされるためには、オーケストレーションで使用する変数を初期化する必要があります。その中には、「If.. Then」アクティビティのブランチで初期化する変数も含まれます。変数は、すべてのブランチで初期化する必要があります。詳細については、『[オーケストレーションの妥当性検査](#)』を参照してください。

変数スコープ

「グループ」、「トライ/キャッチ (Try/Catch)」、「If Then」、「While ループ」、または「For Each」アクティビティ内で定義された変数は、ローカル変数と見なされます。このような変数が、「グループ」、「トライ/キャッチ (Try/Catch)」、「If Then」、「While ループ」、または「For Each」アクティビティの外部にある後続の「入力のマップ」タスク・アクティビティまたは「変数のマップ」アクティビティの入力として使用される場合、この変数はそれが宣言されたアクティビティのスコープの外部にあるため、初期化されていないと見なされます。そのため、これらの変数は、デフォルト値で初期化する必要があります。

デフォルト値の指定について詳しくは、『[デフォルト値の指定](#)』セクションを参照してください。

「変数」タブ

「変数」タブには、以下のペインがあります。

- 「変数」：マッピング・エディターで使用できる定義済みの変数が表示されます。「変数」タブの「変数」ペインには、デフォルトで *JobInfo* という事前定義変数が組み込まれています。
- 「<variable> のスキーマ」：選択した変数のスキーマが表示されます。
- 「<variable> を使用するアクティビティ」：オーケストレーションでこの変数を使用しているすべてのアクティビティが表示されます。
- 「<variable> のプロパティ」：ここでは変数のプロパティを定義または編集したり、デフォルト値を指定したりします。

JobInfo 変数

Studio には、デフォルトで *JobInfo* という変数が用意されています。*JobInfo* ノードの値は、実行時に統合アプライアンスから提供されます。*JobInfo* 変数に含まれているノードの定義を以下の表にまとめます。


JobInfo ノード名	データ型	説明
jobId	String	オーケストレーションのインスタンスに割り当てられているジョブ ID 番号を含みます。オーケストレーションに含まれているアクティビティの処理が始まると、オーケストレーションのそのインスタンスにジョブ ID 番号が割り当てられます。そのジョブ ID 番号は、Web 管理コンソール (WMC) でも確認できます。

JobInfo ノード名	データ型	説明
jobStartTime	XML スキーマ・データ型 xsd:dateTime	<p>オーケストレーションのインスタンスが処理を開始した日時を含みます。</p> <p>注: <i>jobStartTime</i> は、オーケストレーションがメッセージやイベントの処理を開始し、オーケストレーションにジョブ ID 番号が割り当てられた日時です。 <i>jobStartTime</i> は、オーケストレーションが統合アプライアンスにデプロイされて、アクティブになった (メッセージやイベントの処理を開始する準備が整った) 日時ではありません。例えば、統合アプライアンスにデプロイされている「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティ (スターター・アクティビティ) がオーケストレーションに含まれているとします。そのオーケストレーションは、アクティブになって、FTP サーバーの特定のディレクトリーにファイルが配置されるのを待ちます。FTP サーバーの特定のディレクトリーにファイルが配置されたことをオーケストレーションが検出すると、「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティの処理を開始します。オーケストレーションが処理を開始すると、その時点の現在日付と時刻が <i>jobStartTime</i> ノードに格納されます。</p>
projectName	String	現在のオーケストレーションが含まれているプロジェクトの名前。
configurationName	String	オーケストレーションの現在のインスタンスに関連付けられている構成の名前。 Web 管理コンソール (WMC) を使用して、プロジェクトのさまざまな構成を作成できます。
orchestrationName	String	現在処理中のオーケストレーションの名前。
routerHostName	String	オーケストレーションの現在のインスタンスを実行している統合アプライアンスのホスト名。

注: *JobInfo* 変数または *JobInfo* 変数の各ノードを削除することはできません。

親トピック: [変数](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/about_variables.html


変数の作成

このセクションのトピックは、オーケストレーションで新規変数を作成するために用いるメソッドを決定するために使用します。

- 「新規変数の作成」オプションを使用した新規変数の作成
- 「入力を選択」または「出力を選択」ボタンを使用した新規変数の作成
- ツールバー・メニューを使用した新規変数の作成
- 「コピー (Copy)」メニュー・オプションを使用した新規変数の作成
- 「コピー (Copy)」ボタンを使用した新規変数の作成
- プリミティブ・データ型

親トピック: [変数](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_variables.html

「新規変数の作成」オプションを使用した新規変数の作成

このタスクについて

「変数」ペインの「新規変数の作成」オプションを使用して新規変数を作成するには、以下のようになります。

手順


1. オーケストレーションを開き、「変数」タブを選択します。
2. 「変数」ペインを右クリックして、リストから「新規変数の作成」オプションを選択します。「新規変数の作成」ダイアログ・ボックス (手順 1/2) が表示されます。
3. 新規変数の基礎となるデータ型またはスキーマを選択します。
 - プリミティブ・データ型に基づく変数の場合は、以下のようになります。

- a. 「新規変数の作成」 ダイアログ・ボックス (手順 1/2) の下部までスクロールします。
- b. プリミティブ・データ型を「Primitive Types」 フォルダーから選択します。
- c. 「次へ」をクリックします。
- o スキーマに基づく変数の場合は、以下のようにします。
 - a. オプション: ノードを名前を検索する場合は、「検索」をクリックします。
 - b. スキーマから、新規変数のルートにするノードを選択します。
 - c. 「次へ」をクリックします。
4. 新規変数の名前を入力し、「終了」をクリックします。新規変数が「変数」ツールボックスに追加され、スキーマが「変数」タブの「スキーマ (Schema of)」ペインで開きます。

重要: 変数は、`__variableName__` の形式では作成しないでください。2 つの下線文字 (`_`) で始まり、2 つの下線文字 (`_`) で終わる変数名はサポートされていません。オーケストレーションにこの形式を使用する変数名が含まれている場合、**オーケストレーションは妥当性検査に失敗します。**

親トピック: [変数の作成](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_variables_using_createnewvariableoption.html

「入力の選択」または「出力の選択」 ボタンを使用した新規変数の作成

このタスクについて

アクティビティーのマッピング・ペインの「入力の選択」または「出力の選択」 ボタンを使用して新規変数を追加するには、以下のようにします。

手順

1. オーケストレーションを開きます。
2. アクティビティーをダブルクリックします。
3. 「チェックリスト」でマッピング・タスクを選択します。
4. 変数をマップに追加します。
 - o 入力変数をマップに追加するには、「入力の選択」をクリックします。
 - o 出力変数をマップに追加するには、「出力の選択」をクリックします。
5. 「新規作成」をクリックします。「新規変数の作成」ダイアログ・ボックス (手順 1/2) が開きます。
6. 新規変数の基礎となるデータ型またはスキーマを選択します。
 - o プリミティブ・データ型に基づく変数の場合は、以下のようにします。
 - a. 「新規変数の作成」ダイアログ・ボックス (手順 1/2) の下部までスクロールします。
 - b. プリミティブ・データ型を「Primitive Types」フォルダーから選択します。
 - c. 「次へ」をクリックします。
 - o スキーマに基づく変数の場合は、以下のようにします。


- a. オプション: ノードを名前検索する場合は、「検索」をクリックします。
 - b. スキーマから、新規変数のルートにするノードを選択します。
 - c. 「次へ」をクリックします。
7. 新規変数の名前を入力し、「終了」をクリックします。

「変数」タブの「変数」ツールボックスに新規変数が追加され、「のスキーマ (Schema of)」ペインにスキーマが表示されます。新規変数は、マッピング・ペインにも追加されます。

重要: 変数は、`__variableName__` の形式では作成しないでください。2つの下線文字 () で始まり、2つの下線文字 () で終わる変数名はサポートされていません。オーケストレーションにこの形式を使用する変数名が含まれている場合、オーケストレーションは妥当性検査に失敗します。

親トピック: [変数の作成](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_variable_from_schemaof_pane.html

ツールバー・メニューを使用した新規変数の作成

このタスクについて

ツールバー・メニューから使用できる「マップ」 > 「オプションの追加 (Add options)」を使用して新規変数を追加するには、以下のようにします。

手順


1. アクティビティのマッピング・ペインを開きます。
2. マッピング・ペインでノードをクリックします。
3. アクティブな「マップ」ツールバー・メニュー・オプションを選択します。
 - o 「マップ」 > 「入力変数の追加」
 - o 「マップ」 > 「出力変数の追加」「変数の追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「新規作成」をクリックします。「新規変数の作成」ダイアログ・ボックス (手順 1/2) が表示されます。
5. 新規変数の基礎となるデータ型またはスキーマを選択します。
 - o プリミティブ・データ型に基づく変数の場合は、以下のようにします。
 - a. 「"新規変数の作成"」ダイアログ・ボックス (手順 1/2) の下部までスクロールします。
 - b. プリミティブ・データ型を「Primitive Types」フォルダーから選択します。
 - c. 「次へ」をクリックします。
 - o スキーマに基づく変数の場合は、以下のようにします。
 - a. オプション: ノードを名前検索する場合は、「検索」をクリックします。
 - b. スキーマから、新規変数のルートにするノードを選択します。
 - c. 「次へ」をクリックします。

- 新規変数の名前を入力し、「終了」をクリックします。新規変数が「変数」ツールボックスに追加され、スキーマが「変数」タブの「スキーマ (Schema of)」ペインに表示されます。新規変数は、マッピング・ペインにも追加されます。

重要: 変数は、`__variableName__` の形式では作成しないでください。2つの下線文字 (`_`) で始まり、2つの下線文字 (`_`) で終わる変数名はサポートされていません。オーケストレーションにこの形式を使用する変数名が含まれている場合、**オーケストレーションは妥当性検査に失敗します。**

親トピック: [変数の作成](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_variables_using_toolbarmenu.html

「コピー (Copy)」メニュー・オプションを使用した新規変数の作成

このタスクについて


XML スキーマのグラフィカル表現を表示しながら、「コピー (Copy)」メニュー・オプションを使用して新規変数を作成するには、以下のようになります。

手順

- オーケストレーションを開きます。
- 「プロジェクト」タブを選択して、XML Schemas フォルダーで XML スキーマをダブルクリックしてそれを開きます。XML スキーマのグラフィカル表現を示す「スキーマ」タブが開きます。
- 「変数」タブを選択します。
- 新規変数のルートにするノードをスキーマから選択します。「スキーマ」タブ (左側に表示) でノードを右クリックし、メニューから「コピー (Copy)」を選択します。
- 「オーケストレーション」タブを選択し、次いで「変数」タブを選択します。
- 「変数」タブの「変数」ペインをクリックし、以下のオプションのいずれか 1 つを使用して、スキーマ・フラグメントを貼り付けます。
 - 右クリックして、メニューから「貼り付け」を選択します。
 - ツールバー・メニューから、「編集 (Edit)」 > 「貼り付け」を選択します。
- オプション: 「変数」タブの「プロパティ (Properties of)」ペインの「名前」フィールドをクリックして、変数を名前変更します。

重要: 変数は、`__variableName__` の形式では作成しないでください。2つの下線文字 (`_`) で始まり、2つの下線文字 (`_`) で終わる変数名はサポートされていません。オーケストレーションにこの形式を使用する変数名が含まれている場合、**オーケストレーションは妥当性検査に失敗します。**

親トピック: [変数の作成](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_variables_using_copymenuoption.html

「コピー (Copy)」 ボタンを使用した新規変数の作成


このタスクについて

アクティビティーのマッピング・ペインの「コピー (Copy)」 ボタンを使用して新規変数を追加するには、以下のようにします。

手順

詳しくは、『[パラメーターのコピー](#)』を参照してください。

親トピック: [変数の作成](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_variables_using_copybutton.html

プリミティブ・データ型


以下の表では、変数の作成時に使用できるプリミティブ・データ型をリストしています。

プリミティブ・データ型	説明
base64 binary	Base64 エンコードの任意のバイナリー・データ。base64Binary の値スペースは、バイナリー・オクテットの有限長シーケンスのセットです。base64Binary データの場合、バイナリー・ストリーム全体は [RFC 2045] の Base64 アルファベットを使用してエンコードされます。
anyType	具象 ur タイプ。これはコンテキストに応じて、複合タイプ (非スカラー・データ、つまりエレメント)、または単純タイプ (スカラー・データ) のいずれかの役割を果たします。
dateTime	特定の時間。ISO 8601 拡張フォーマットの CCYY-MMDDThh:mm:ss。

プリミティブ・データ型	説明
QName /qname	XML 修飾名。
int	int は、値 maxInclusive を 2147483647、minInclusive を -2147483648 に設定する long から派生します。
string	ストリング・データ型は、XML 形式の文字ストリングを表します。
boolean	このデータ型には、TRUE または FALSE の 2 つの指定可能なデータ型があります。これは通常は、真または偽の条件の追跡に使用されます。
decimal	実数のサブセット。10 進数で表現できます。

親トピック: [変数の作成](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_variables_primitivedatatypes.html

変数プロパティの構成

変数プロパティは、「変数」タブのペインにある「プロパティ」で構成します。

このタスクについて

「グループ」アクティビティまたは「トライ/キャッチ (Try/Catch)」アクティビティ内の変数を使用する場合、これらの変数は、ローカル変数と見なされます。これらの変数が宣言されたアクティビティのスコープの外部でこれらの変数を使用するときは、初期化されていないと見なされます。「グループ」アクティビティまたは「トライ/キャッチ (Try/Catch)」アクティビティ内で定義された変数が、これらのアクティビティの外部にある後続の「入力のマップ」タスク・アクティビティまたは「変数のマップ」アクティビティの入力として使用される場合、この変数は初期化されていないと見なされます。


手順

1. 「名前」フィールドをクリックして、変数の名前を入力します。
2. 「データ型」フィールドをクリックして、リストからデータ型を選択します。デフォルトのデータ型に加え、このリストでは、プロジェクト内で定義、またはアップロードされているフラット・ファイル・スキーマ、XML スキーマ、DTD ファイルのルート・ノードの名前もリストしています。以下のデフォルトのデータ型がメニューにリストされています。
 - DateTime: XML スキーマ xs:dateTime データ型で格納する日時

- AnyType: このキャッチ・オール (XML スキーマ xs:anyType) データ型で格納できるすべてのデータ型
 - String: テキスト文字 (プリミティブ)
 - Integer: 整数 (プリミティブ)
 - Base64Binary: XML スキーマ xs:base64Binary データ型として格納される base64 バイナリー・エンコード・データ
 - 「[スキーマのブラウズ... \(Browse for Schema...\)](#)」: このオプションは、変数の基本となるスキーマまたはスキーマ・フラグメントを再定義するために使用します。
3. オプション: 「デフォルト値」フィールドをクリックして、[変数のデフォルト値を指定](#)します。
4. 「共用」フィールドをクリックして、この変数をオーケストレーション・ジョブ全体で共用することを指定します。デフォルトでは、変数は共用されません (False)。この変数をこのタイプのオーケストレーションのすべてのオーケストレーション・ジョブで共用するには、リストから「True」オプションを選択します。「共用」フィールドが「True」に設定されている場合、「オーケストレーション・ジョブを順に処理」チェック・ボックスが自動的に選択されます。
- 注: スキーマ・フラグメントに基づく変数は、[ペインの「スキーマ」から「変数」タブの「変数」ペインにノードをドラッグ](#)することで作成できます。
- 注: 共用変数は場合によっては、オーケストレーション・ジョブの、スケジュールに入れられている各呼び出しの状態情報を維持するために、スケジュールに入れられているオーケストレーションとともに使用されます。

親トピック: [変数](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/configuring_variable_properties.html

変数の除去

このセクションの説明に従って、特定の変数、または未使用のすべての変数をオーケストレーションから除去することができます。

このタスクについて

オーケストレーションからの変数の除去は、以下のいずれかの方式で行います。

特定の変数を除去するには、以下のようにします。

1. 変数を「変数」タブ内にある「変数」ペインから選択します。
2. 右クリックして、リストから「変数の除去」を選択します。


注: 変数を除去すると、それを参照するマップが変更される可能性があります。

オーケストレーションで使用されていない変数を除去するには、以下のようにします。

1. 「変数」タブ内にある「変数」ペインを右クリックします。
2. 「未使用の変数の除去」を選択します。

親トピック: [変数](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Removing_Variables.html

デフォルト値の指定

変数にはそのデータ型に適切なデフォルト値を指定します。

このタスクについて

デフォルトとして指定する値は、変数のデータ型に一致している必要があります。デフォルト値は、入力することも、またはファイルから選択することもできます。一般的には、スキーマをベースとする変数には、ファイルからデフォルト値を選択します。XML スキーマをベースとする変数には、XML スキーマに有効な XML ファイルをロードします。

以下のいずれかの方式を使用して、デフォルト値を指定します。

デフォルト値を手動で入力するには、以下のようになります。


1. 「プロパティ (Properties of)」ペインの「デフォルト値」フィールドをクリックします。
2. 値を入力します。

ファイルからデフォルト値を選択するには、以下のようになります。

1. 「デフォルト値」フィールドで [...] をクリックします。「デフォルト値」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「アップロード」をクリックします。「サンプル文書を開く」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. サンプル・ファイルを選択し、「開く」をクリックします。ファイルの内容が「デフォルト値」ダイアログ・ボックスに表示されます。
4. 「OK」をクリックします。「OK」ボタンはペインの下部にあります。

親トピック: [変数](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/orch_Specifying_a_Default_Value.html

スキーマ・エレメントの参照

スキーマのルート・エレメントまたはスキーマのフラグメントを選択します。

このタスクについて

「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスに、プロジェクトで使用できる各種スキーマの現在のノードが表示されます。スキーマのルート・エレメントまたはスキーマのフラグメント(ルート・エレメントの下位ノード)のいずれかを選択できます。新規スキーマをプロジェクトにアップロードするには、『[プロジェクトへのファイルのアップロード](#)』を参照してください。


スキーマのルートまたはスキーマ・フラグメントを選択する手順は、次のとおりです。

手順

1. 「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスで、スキーマのルート・エレメントまたはスキーマのフラグメント(ルート・エレメントの下位ノード)のいずれかを選択します。
2. スキーマを展開して、そのスキーマを構成しているノードを表示します。スキーマ内の特定のノードを見つけるには、ノード名の先頭の数文字を入力します。
3. 「OK」をクリックします。

親トピック: [変数](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日(木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Browse_for_Schema.html

変数の置換型の選択

XML スキーマで XML エレメントが派生型に基づいて定義されている場合は、実行時に予期される派生型(または置換型)を指定する必要があります。

このタスクについて

XML スキーマ仕様では、拡張によって複合タイプを派生させる機能がサポートされています。型置換、およびマッピング・ペインでの型置換の使用法に関する一般情報については、『[置換型の選択](#)』を参照してください。

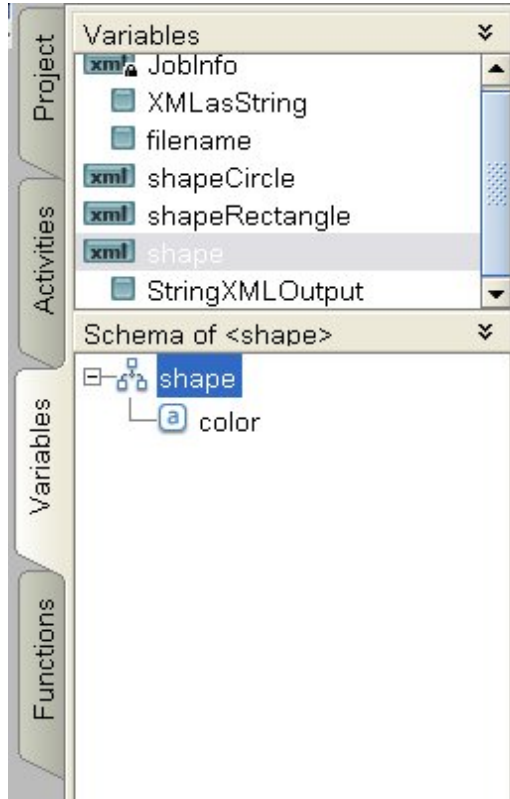
XML スキーマで XML エレメントが派生型に基づいて定義されている場合は、実行時に予期される派生型(または置換型)を指定する必要があります。Studio で、以下の手順に従って、「ノードを次のもので置換 ...」メニュー・オプションを使用して変数の XML エレメントの予期される置換型を指定してください。

変数の置換型を選択するには、以下のようになります。

1. XML ベースの派生型を含む XML スキーマをプロジェクトにアップロードします。詳しくは、『プロジェクトへのファイルのアップロード』を参照してください。
2. 派生型に基づく XML エLEMENT が入る変数を作成します。ノードに関連付けられたスキーマが「変数」タブの「スキーマ (Schema of)」ペインに表示されます。

『変数の置換型の選択』に示されている XML スキーマ例の場合、<shape> エLEMENT に基づく変数を作成します。図 1 に示すように、<shape> エLEMENT に関連付けられたスキーマが「変数」タブの「スキーマ (Schema of)」ペインに表示されます。

図 1. 「スキーマ (Schema of)」ペインに表示された shape エLEMENT に関連付けられたスキーマ。

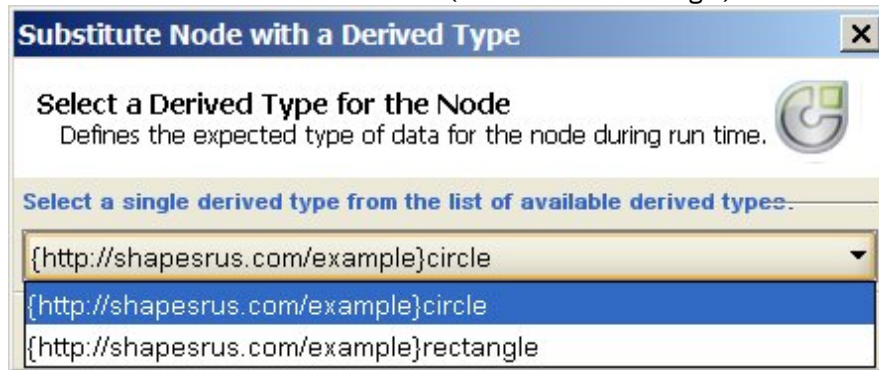


派生型の子ELEMENTは「スキーマ (Schema of)」ペインにリストされていないことに注意してください。この例では、circleの子ELEMENT (名前は diameter) も、rectangleの子ELEMENT (名前は width および length) もリストされていません。

3. 「変数」タブの「スキーマ (Schema of)」ペインで、ノードを右クリックし、メニューから「ノードを次のもので置換 ...」オプションを選択して、実行時に予期される派生型を選択します。

「ノードを派生型で置換」ダイアログ・ボックスが表示されます。メニューには、XML スキーマの定義に従って、ノードに使用可能な派生型がリストされています。例えば、図 2 に示すように、このメニューから次の 2 つの派生型を使用できます。

図 2. この図はノードの 2 つの派生型 (circle および rectangle) を示します。



4. 派生型の 1 つを選択します。選択した派生型によって、実行時に XML インスタンス文書に予期される型が決まります。

この例では circle 派生型が選択されているため、実行時にこの変数に予期される XML データは circle 型です。

基本型の子エレメントに加えて、派生型の子エレメントが「スキーマ (Schema of)」ペインに表示されます。この例では、図 3 に示すように、diameter という子エレメントが、color という子エレメント (基本型から継承) とともに「変数」タブの「スキーマ (Schema of)」ペインに表示されます。

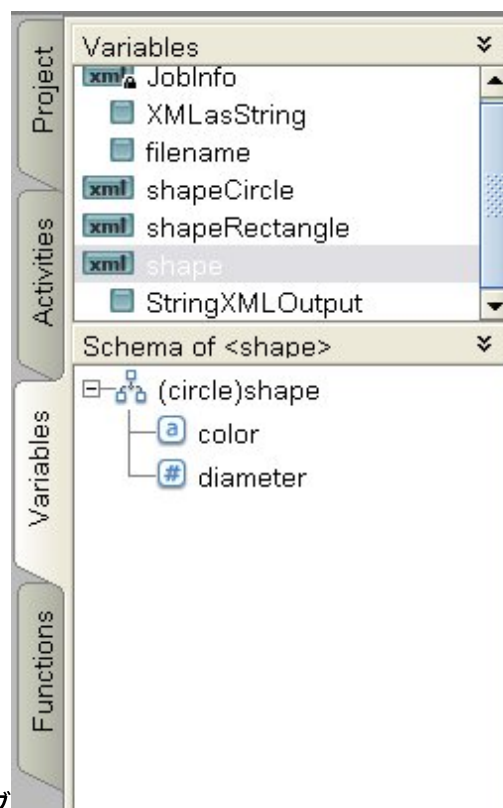


図 3. 「変数」タブ

次のタスク

「ノードを次のもので置換...」オプションを使用して変数のノードの派生型を選択した後、ノードを右クリックし、メニューから「ノードの置換解除」オプションを選択して、変数のノードと派生型間の関連付けを削除できます。「置換解除」ダイアログ・ボックスが開きます。「はい」をクリックします。

親トピック: [変数](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Selecting_a_Substitution_Type_for_Variables.html

フラット・ファイル・スキーマ

- [フラット・ファイル・スキーマ・エディターの概要](#)

フラット・ファイル・スキーマは、統合アプライアンスによって処理されるフラット・ファイル・データの形式および構造を記述するメタデータです。フラット・ファイル・スキーマの作成時に、メタデータの表記に基づいて、対応する内部 XML スキーマも生成されます。
- [区切りデータについて](#)
- [固定長データ\(「定位置」データ\)について](#)
- [定位置および区切りの混合の例](#)
- [フラット・ファイル・スキーマの作成](#)
- [フラット・ファイル・スキーマのテスト](#)
- [ルート・ノード・プロパティ](#)

「スキーマ・レイアウト」タブでルート・ノードを選択すると、プロパティの次の2つのセクションが「基本プロパティ」ペインと「区切り文字」ペインで使用可能になります。
- [フィールドまたはフィールド・タイプの追加](#)
- [フィールド・プロパティ](#)
- [レコードまたはレコード・タイプの追加](#)
- [レコード・プロパティ](#)
- [グループまたはグループ・タイプの追加](#)
- [グループ・プロパティ](#)

「スキーマ・レイアウト」タブでグループを選択すると、グループの「基本プロパティ」が表示されます。「タイプ・ライブラリー」タブでグループ・タイプを選択すると、そのグループ・タイプの「基本プロパティ」が表示されます。次の表に、グループまたはグループ・タイプの「基本プロパティ」を示します。
- [グループの例](#)
- [「スキーマ」タブ内のノードの処理](#)
- [複数の子の追加](#)
- [有効なノード名](#)
- [「タイプ・ライブラリー」タブ](#)
- [オプションのフィールドおよびレコードの指定](#)
- [IDOC からのフラット・ファイル・スキーマの生成](#)

設計時に、「プロジェクト」 > 「インポート」 > 「SAP IDOC スキーマ」 ツールバー・メニュー・オプションを使用して、SAP エンドポイントで IDOC メタデータを検索し、そのメタデータからフラット・ファイル・スキーマを生成できます。
- [フラット・ファイル・ウィザードの使用](#)

フラット・ファイル・スキーマ・エディターの概要

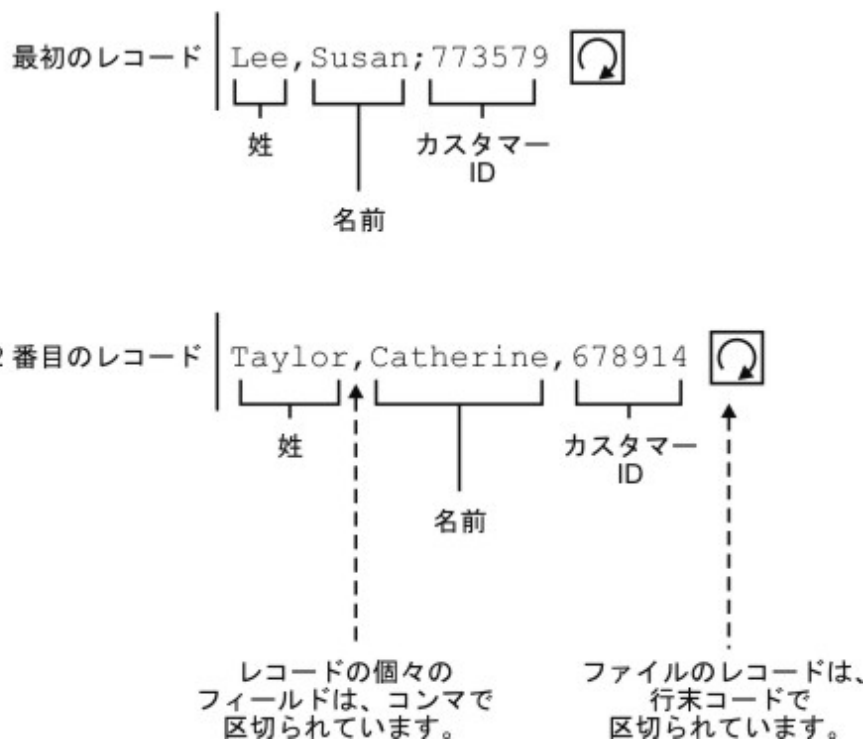
フラット・ファイル・スキーマは、統合アプライアンスによって処理されるフラット・ファイル・データの形式および構造を記述するメタデータです。フラット・ファイル・スキーマの作成時に、メタデータの表記に基づいて、対応する内部 XML スキーマも生成されます。

実行時に、統合アプライアンスは、以下のアクションにフラット・ファイル・スキーマを使用します。

- 入力フラット・ファイル・データ (フラット・ファイル・スキーマに有効) を解析し、それを XML データに変換する。この解析は、オーケストレーションの「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティで実行されます。変換された XML データは、フラット・ファイル・スキーマから生成された内部 XML スキーマに対して有効です。フラット・ファイル・データを読み取るオーケストレーションの例については、「Getting Started Guide」の『Developing the BookOrder Project』セクションを参照してください。
- XML データを、フラット・ファイル・スキーマで有効な出力フラット・ファイル・データに変換する。この変換は、オーケストレーションの「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティで実行されます。

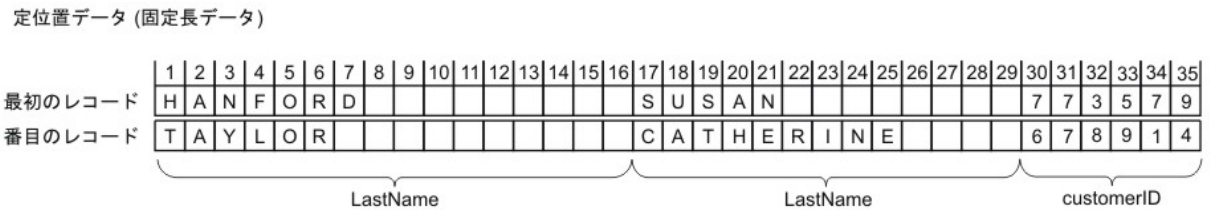
以下のタイプのデータを記述するには、フラット・ファイル・スキーマ・エディターを使用してフラット・ファイル・スキーマを作成します。

- **区切り (Delimited)** データ - フラット・ファイル・スキーマは、EDI データまたはコンマ区切り値 (CSV) などの区切り文字を使用して定義されたデータを記述できます。区切りデータを含む CSV ファイルを、次の図に示します。
区切り文字で区切られているデータ

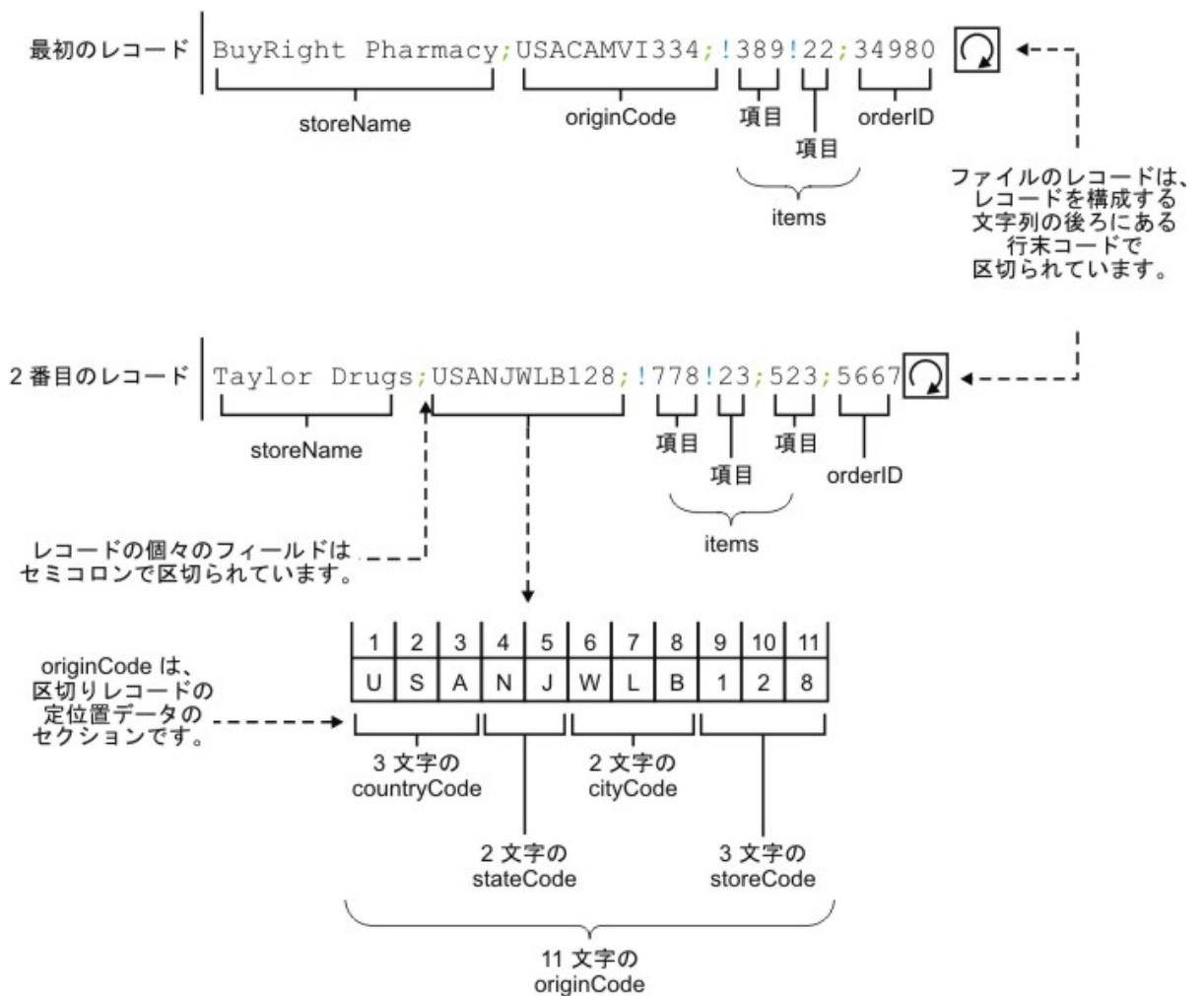


区切りフィールドを解析する、反復レコードを含むフラット・ファイル・スキーマの例については、「*Getting Started Guide*」の『*Developing the BookOrder Project*』セクションを参照してください。

- **固定長または「定位置」データ** - フラット・ファイル・スキーマは、固定長または定位置データを記述できます。定位置データは、数多くのメインフレーム・アプリケーションで使用されます。固定長データを次の図に示します。



- **定位置データと区切りデータの混合** - フラット・ファイル・スキーマは、次の図のように、区切りデータと定位置データの混合を記述できます。定位置データと区切り文字で区切られているデータの混合



親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

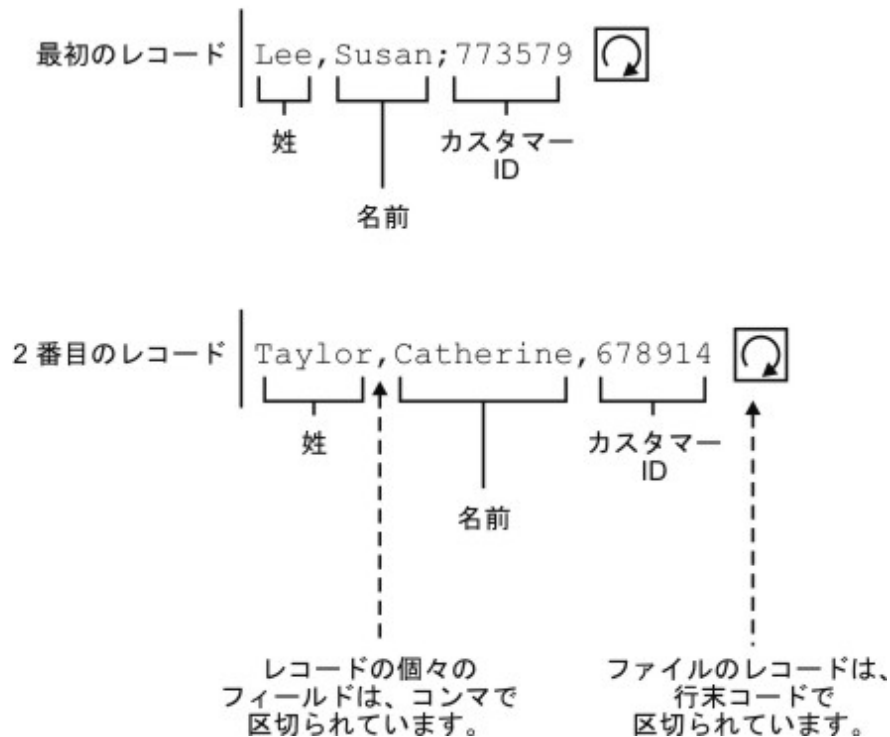
[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

区切りデータについて

区切りデータは、可変長のレコードまたはフィールドのコレクションです。区切り文字は、次の図のように、レコードまたはフィールドの先頭または末尾をシグナル通知するために使用します。

図 1. レコードの個々のフィールド (LastName、FirstName、および CustomerId) がコンマで区切られ、ファイルのレコードが行末で区切られている、区切りデータの例
区切り文字で区切られているデータ



レコードはまた、レコード ID と呼ばれる識別コードを持つことができます。図 2 のデータでは、各レコードの先頭はレコード ID であり、末尾は区切り文字です。

図 2. 識別コードのあるレコード

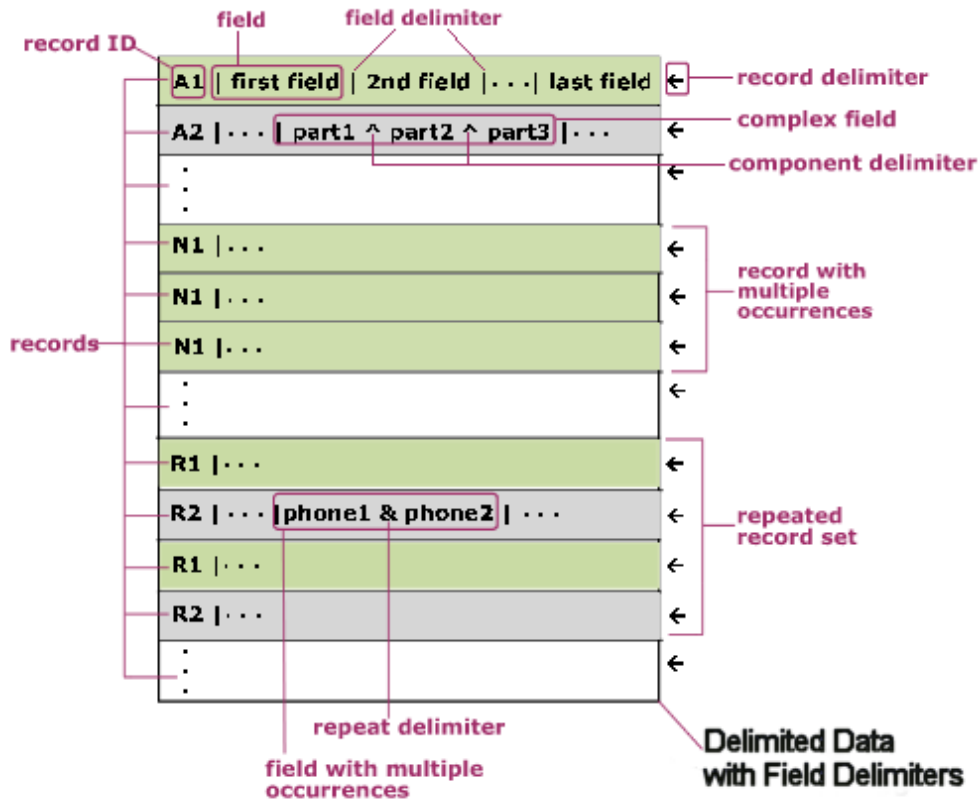


図 2 に示されているように、レコードは個別に繰り返すことができます。繰り返しの終わりには、次のレコードのレコード ID によってマークが付けられます。レコードは、レコードのセットとして繰り返すこともできます。繰り返しの終わりには、セットに含まれていない次のレコードのレコード ID でマークが付けられます。

レコードにはフィールドが含まれています。各フィールドは、フィールド区切り文字で始まります。フィールドは、次のフィールドの先頭にある区切り文字、またはレコードの終わりで終了します。

フィールドは複合化でき、構成要素区切り文字で区切られた構成要素を含むことができます。フィールドはまた、複数のデータ値を含むこともできます。これらのデータ値は反復し、phone1 フィールドと phone2 フィールドに示すように、値の間に反復区切り文字を使用します。

レコード ID を持つこのサンプル・データのフラット・ファイル・スキーマを実装するには、次の表に示すように、データの各特性をマップします。

フラット・ファイル特性	フラット・ファイル・スキーマ実装
データ内の最上位構造の区切り形式	ルート・ノードに対して、「構造」プロパティを「区切り (Delimited)」に設定します。
レコード区切り文字	ルート・ノードまたはレコード・ノードに対して、子区切り文字を設定します。
レコード ID	<ul style="list-style-type: none"> ルート・ノードまたはレコード・ノードに対して、レコード ID プロパティをそれぞれの ID 値に設定します。 ルート・ノードまたはレコード・ノードに対して、レコード ID オフセットを 1 に設定します。

フラット・ファイル特性	フラット・ファイル・スキーマ実装
反復レコード	レコード・ノードに対して、最大オカレンス・プロパティを上限なしまたは特定の値に設定します。
反復レコード・セット	セットごとにグループ・ノードを作成し、セット内のレコードをグループのコンテンツにします。
フィールド区切り文字	レコード・ノードに対して、子区切り文字プロパティを設定します。
反復フィールド	レコード・ノードに対して、反復区切り文字プロパティを設定します。
複合フィールド	それぞれを、フィールドを含むレコードの子であるサブレコードとして定義します。
複合フィールド内の構成要素	サブレコード内のフィールドの子として定義します。
構成要素区切り文字	複合フィールドのレコード・ノードに対して、子区切り文字プロパティを設定します。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref>About_Delimited_Data.html

固定長データ (「定位置」データ) について

固定長データ (定位置データ) は、各レコードの長さが決められた、シンプルなレコード・コレクションです。例えば、[図 1](#) にあるように、lastName フィールドには、1 桁から 16 桁までの文字位置に入る文字列を含むことができます。

[図 1](#). 定位置データ (固定長データ) の例。限定された数のセルまたはボックスが各カテゴリ (この例では、lastName、firstName、customerID) に割り振られています。

定位置データ (固定長データ)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
最初のレコード	H	A	N	F	O	R	D										S	U	S	A	N									7	7	3	5	7	9
2 番目のレコード	T	A	Y	L	O	R											C	A	T	H	E	R	I	N	E				6	7	8	9	1	4	
	LastName																LastName										customerID								

[図 1](#) にあるとおり、以下のフィールドの間では、それぞれの文字列を区切るための区切り文字が使用されていません。

- lastName
- firstName
- customerID

この例では、最初のレコードと2番目のレコードのデータを区切るための行末の区切り文字が使用されています。定位置データと区切り文字で区切られたデータを混合する場合は、フラット・ファイル・スキーマを定義できます。

データを省略すると、後続のフィールドの位置が変わってしまうため、レコード内のすべてのデータが必要です。データがない場合は、以下の図の nickname フィールドと age フィールドのように、フィールドの長さに合わせてスペースまたはゼロを埋め込みます。

図 2. スペースまたはゼロの埋め込み

<pre>Susan Jane Susie Taylor 091 CatherineErin Halden 012</pre>	<pre><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?> <NamePerson> <Names> <firstName>Susan </firstName> <middleName>Jane </middleName> <nickname>Susie </nickname> <lastName>Taylor </lastName> <age>091</age> </Names> <Names> <firstName>Catherine</firstName> <middleName>Erin </middleName> <nickname/> <lastName>Halden </lastName> <age>012</age> </Names> </NamePerson></pre>
--	---

前の図の2行目のデータでは、nickname フィールドで名前が指定されていません。代わりに、ニックネームが無い部分にスペースが埋め込まれています。その結果、Halden という文字列がラストネームとして正しく解析されるようになっています。さらに、age フィールドは3文字の長さになっていますが、12歳、91歳という年齢は2文字の長さなので、それぞれの年齢の先頭にゼロが追加されています。

フィールドとレコードを反復して使用することもできます。ただし、反復の数を Studio で事前定義しておく必要があります。各レコードで同じ数のフィールドを使用する必要があります。例えば、nickname フィールドの出現回数を2回と指定した場合は、以下の図にあるように、各レコードのそのフィールドで2つのニックネームを指定する必要があります。ニックネームがない場合は、スペースを埋め込む必要があります。

図 3. スペースでの埋め込み

<pre>Susan Jane Susie Sue Taylor 091 CatherineErin Halden 012</pre>	<pre><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?> <NamePerson> <Names> <firstName>Susan </firstName> <middleName>Jane </middleName> <nickname>Susie </nickname> <nickname>Sue </nickname> <lastName>Taylor </lastName> <age>091</age> </Names> <Names> <firstName>Catherine</firstName> <middleName>Erin </middleName> <nickname/> <nickname/> <lastName>Halden </lastName> <age>012</age> </Names> </NamePerson></pre>
--	---

定位置データの解析の一例として、『[定位置および区切りの混合の例](#)』の originNode を参照してください。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/about_fixed_length_or_positional_data.html

定位置および区切りの混合の例

このタスクについて

ここでは、フラット・ファイル・スキーマを作成して定位置データと区切りデータの混合を解析する方法を例示します。フラット・ファイル・スキーマを作成するには、最初にフラット・ファイル・データを分析して、フラット・ファイル・スキーマに追加するフィールドおよびノードを決定する必要があります。ここで示す例では、以下の2行のデータに対してフラット・ファイル・スキーマを作成します。

```
BuyRight Pharmacy;USACAMVI334;!389!22;34980;
```

```
Taylor Drugs;USANJWLB128;!778!23!523;5667;
```

以下の手順に示すように、フラット・ファイル・スキーマのレコードおよびフィールドを定義するためのトップダウン方法を使用します。

手順

1. ルート・ノードを作成します。
 - a. 「プロジェクト」タブで「フラット・ファイル・スキーマ (Flat File Schemas)」フォルダーを右クリックし、「新規フラット・ファイル・スキーマ」を選択します。「基本ウィザード (Basic Wizard)」ダイアログ・ボックスが開きます。
 - b. 「名前」フィールドに `Order` と入力します。
 - c. 「OK」をクリックします。フラット・ファイル・スキーマ・エディターが開き、フラット・ファイル・スキーマが「プロジェクト」タブの「フラット・ファイル・スキーマ (Flat File Schemas)」フォルダーの下に表示されます。さらに、同じ名前のルート・ノードが「スキーマ・レイアウト」タブに表示されます。
2. データ内の最上位レベルの構造を決定します。この例では、最も大きい構造は、それぞれがレコードを表す2つの行です。このフラット・ファイル・データ内の2つのレコードは、[図 1](#) に示すように、2つのレコードの間にある行末コードで区切られています。
図 1. 混合の例 1: ファイルのレコードが、レコードを構成する文字列と文字列の間にある行末コードで区切られています。

最初のレコード

BuyRightPharmacy;USACAMVI334;!389!22;34980;



ファイルのレコードは、レコードを構成する文字列の後ろにある行末コードで区切られています。

2 番目のレコード

Taylor Drugs;USANJWLB128;!778!23;523;5667;

- 以下の基準を使用して、子反復レコードを解析するようにルート・ノード Order を構成します。
 - 区切り文字を使用してデータをレコード単位に分けます。
 - 最後のレコードは区切り文字で終了しないため、文書の最後は EOS (ストリームの終わり) であると予期します。
 - 行末区切りコードを使用して、すべての子レコードを区切ります。
 - データとデータの間には区切り文字があると予期します。
 - 反復子レコードを予期します。
 - 行末区切りコードを使用して子反復レコードを区切ります。

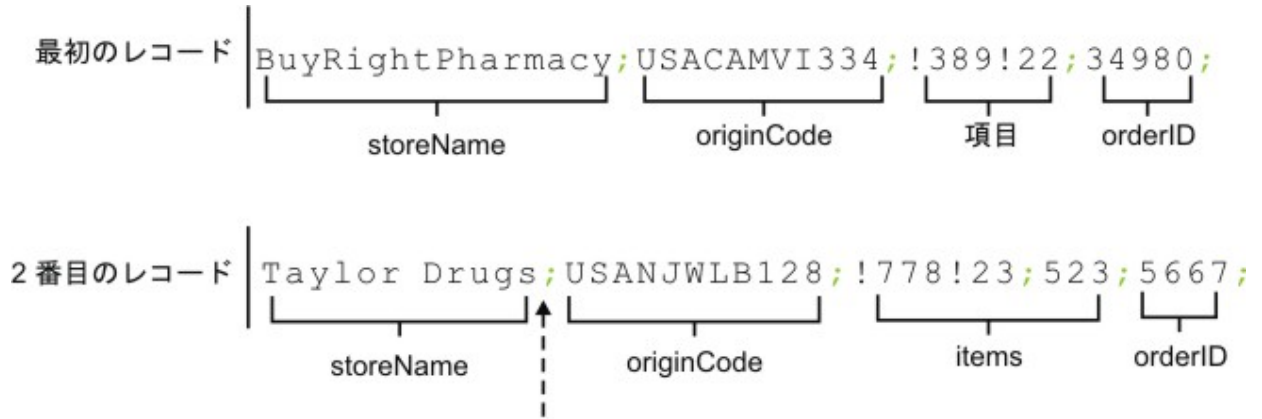
これらの基準を使用して、[図 2](#) に示すように、Order ノードの「基本プロパティ」ペインおよび「区切り文字」ペインに以下の値を指定します。

[図 2](#). 「構造」が「区切り (Delimited)」となっていて、「文書は EOS で終了する (Delimited and Document ends with EOS)」にチェック・マークが付いている混合の例のペイン 1。「行の末尾」オプションが選択され、「子区切り文字の位置」が「間 (In Between)」に設定されています。

The screenshot shows the configuration for an 'Order' node. In the 'Basic Properties' section, the 'Name' is 'Order' and the 'Structure' is set to 'Delimited'. The 'Document Ends with EOS (end of stream)' checkbox is checked. In the 'Delimiters' section, the 'Child' and 'Repeat' options are both set to 'Line End', and the 'Child Delimiter Position' is set to 'In between'. The 'Include Trailing Delimiters for Empty Data' checkbox is also checked.

- レコードを表すように下位ノードをルート・ノードに追加します。「スキーマ・レイアウト」タブで Order ノードを右クリックします。メニューから「新規の子」>「レコード」を選択して、purchaseOrder と入力し、「OK」をクリックします。
- データにおける次のレベルの構造を決定します。この例では、[図 3](#) に示すように、次のレベルの構造はセミコロンで区切られたフィールドです。

図 3. 混合の例 2: レコードの個々のフィールドはセミコロンで区切られています。



レコードの個々のフィールドはセミコロンで区切られています。

6. 以下の基準の説明に従って、これらのフィールドを解析するように purchaseOrder ノードを構成します。
 - purchaseOrder ノードには 1 つ以上のオカレンスを指定できます。
 - 区切り文字を使用して、子フィールドになるレコードのデータを解析します。
 - データ間の区切り文字としてセミコロンを使用します。
 - データの後には区切り文字があると予期します。

これらの基準を使用して、図 4 に示すように、purchaseOrder ノードの「基本プロパティ」ペインおよび「区切り文字」ペインに以下の値を指定します。

図 4. 混合の例のペイン 2: 「構造」が「区切り (Delimited)」に設定されていて、「最大」が「上限なし」に設定されていて、「文字」オプションが選択されています。「子区切り文字の位置」は「後」に設定されています。

Basic Properties

Name: purchaseOrder Type: None Reset

Structure: **Delimited**

Record Identifier: Record ID Starting Position: 0

Occurrences: Minimum: 1 Maximum: **Unbounded** Range: 1

Delimiters

Child: **Character** (;) Line End Dynamic Position: 1 Write Default

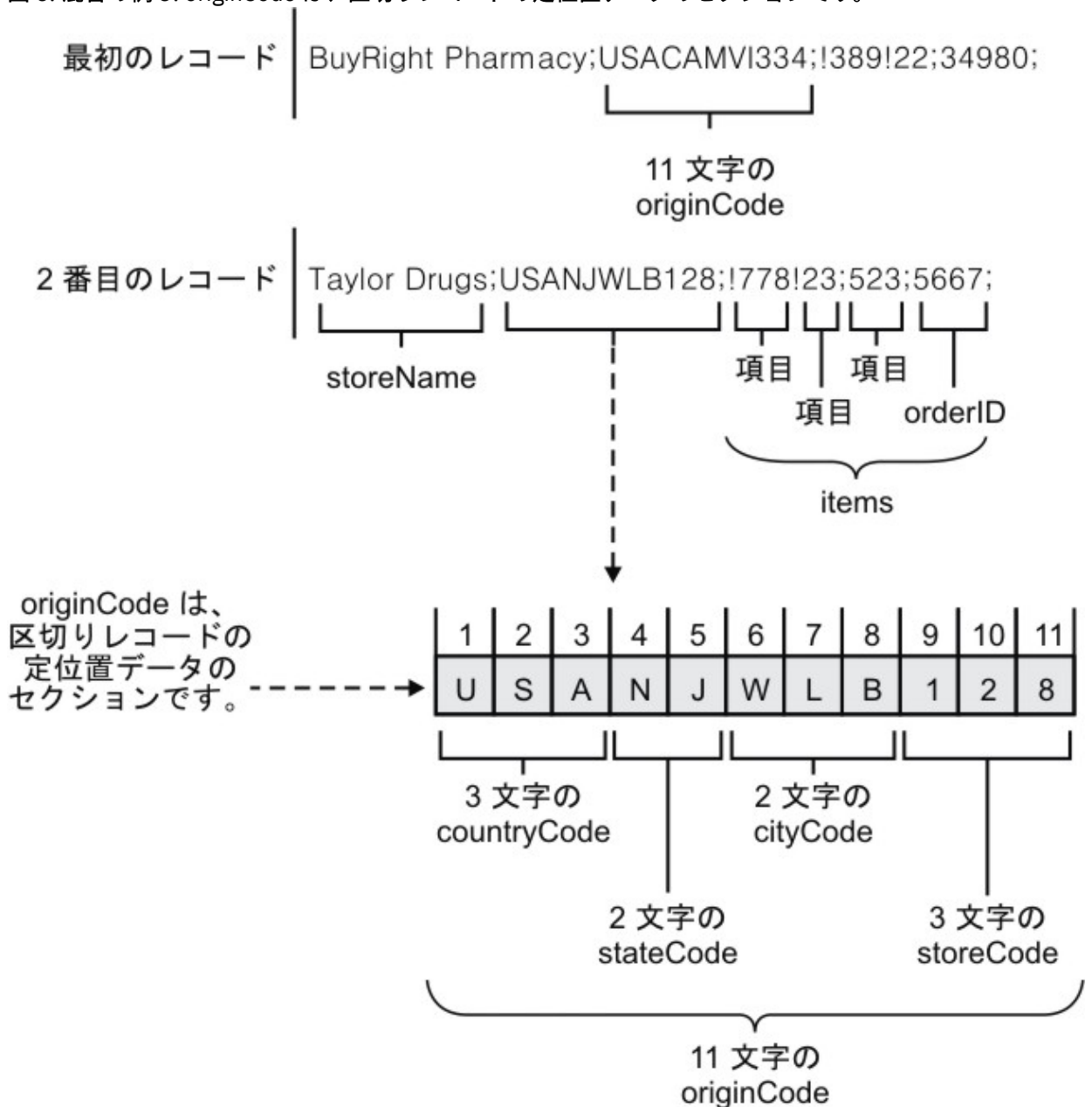
Include Trailing Delimiters for Empty Data

Child Delimiter Position: **After**

Repeat: **Character** Line End Dynamic Position: 1 Write Default

7. 「スキーマ・レイアウト」タブで purchaseOrder ノードを右クリックし、リストから「新規の子」オプションを選択して、purchaseOrder ノードのフィールドを追加します。「一括追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。
8. 「一括追加」ダイアログ・ボックスで purchaseOrder ノードのすべての子レコードおよびフィールドを追加します。
 - 「追加」をクリックして、「field1」を「storeName」に変更します。「ノード・タイプ」は「フィールド」に設定したままにします。
 - 「追加」をクリックして、「field2」を「originCode」に変更します。「ノード・タイプ」をレコードに変更します。
 - 「追加」をクリックして、「field3」を「items」に変更します。「ノード・タイプ」をレコードに変更します。
 - 「追加」をクリックして、「field4」を「orderID」に変更します。「ノード・タイプ」は「フィールド」に設定したままにします。

- 「OK」 をクリックします。
9. データにおける次のレベルの構造を決定します。この例では、[図 5](#) に示すように、次のレベルの構造は originCode レコードで見つかった定位置データ・セットです。
- 図 5. 混合の例 3: originCode は、区切りレコードの定位置データのセクションです。



10. 定位置になるように originCode レコードを構成します。
- 「スキーマ・レイアウト」タブで originCode ノードを選択します。「基本プロパティ」が表示されます。
 - 「構造」リストで「定位置 (Positional)」を選択します。
11. 「スキーマ・レイアウト」タブで originCode ノードを右クリックして、リストから「新規の子」オプションを選択して、originCode ノードの定位置フィールドを追加します。「一括追加」ダイアログ・ボックスが開きます。
12. 「一括追加」ダイアログ・ボックスで originCode ノードのすべての子レコードおよびフィールドを追加します。
- 「追加」をクリックして、「field1」を「countryCode」に変更します。「ノード・タイプ」は「フィールド」に設定したままにします。
 - 「追加」をクリックして、「field2」を「stateCode」に変更します。「ノード・タイプ」は「フィールド」に設定したままにします。

- c. 「追加」をクリックして、「field3」を「cityCode」に変更します。「ノード・タイプ」は「フィールド」に設定したままにします。
 - d. 「追加」をクリックして、「field4」を「storeCode」に変更します。「ノード・タイプ」は「フィールド」に設定したままにします。
 - e. 「OK」をクリックします。
13. 各定位置フィールドの「定位置プロパティ」を構成します。originCode ノードの下位ノードごとに、「スキーマ・レイアウト」タブでノードをクリックして、以下のリストに示すように、「プロパティ」ペインの下部にある「フィールド・オフセット」および「フィールド長」の値を設定します。

o **countryCode** -

Positional Properties

Field Offset: Field Length:

o **stateCode** -

Positional Properties

Field Offset: Field Length:

o **cityCode** -

Positional Properties

Field Offset: Field Length:

o **storeCode** -

Positional Properties

Field Offset: Field Length:

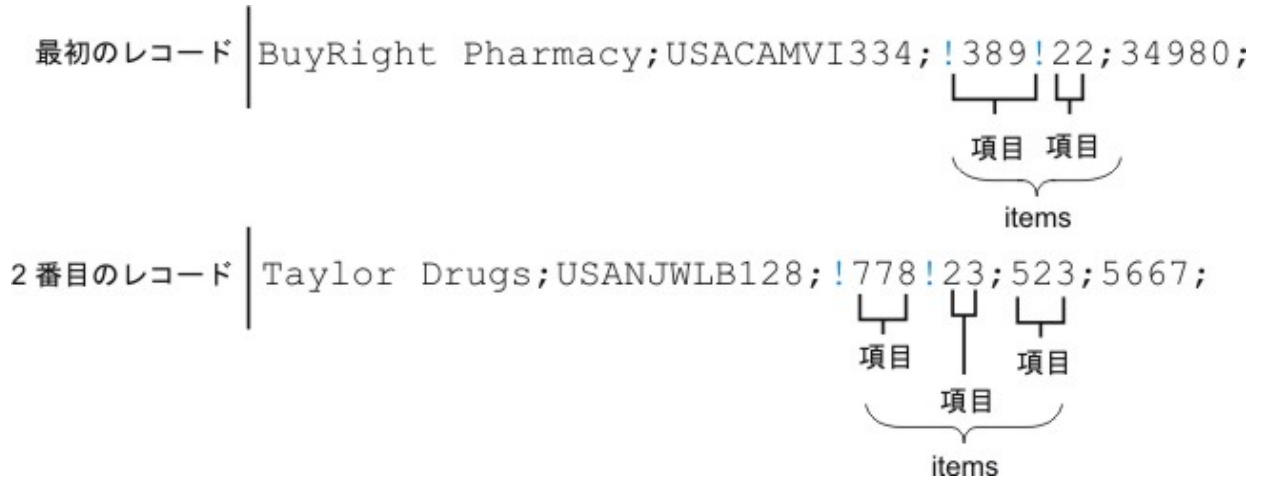
「フィールド・オフセット」は、各フィールドの originCode スtring の先頭からではなく、originCode スtring が処理されているときの現行文字位置から調整されます。この例では、countryCode が処理され、originString の先頭の 3 文字が countryCode に割り当てられます。stateCode が処理されると、図 6 に示すように、現行文字の位置はすでに 3 文字目の位置にあるため、stateCode スtring を処理するための開始点を取得するために stateCode の「フィールド・オフセット」の 1 が現行文字位置に追加されます。

図 6. 混合の例 4 は、現行のカーソル位置およびフィールド・オフセットを示します。



14. データにおける次のレベルの構造を決定します。この例では、図 7 に示すように、次のレベルの構造は感嘆符で区切られた反復フィールドです。

図 7. 区切りデータが感嘆符によって示される混合の例 5。



15. 以下の基準を使用して、子反復レコードを解析するように items ノードを構成します。
 - 区切り文字を使用してデータをフィールド単位に分けます。
 - 感嘆符を区切り文字として使用して、すべての子フィールドを区切ります。
 - データの前には区切り文字があると予期します。
 - 1 つ以上の反復子フィールドを予期します。
 - 感嘆符を区切り文字として使用して子反復フィールドを区切ります。

これらの基準を使用して、[図 8](#) に示すように、items ノードの「基本プロパティ」ペインおよび「区切り文字」ペインに以下の値を指定します。

図 8. 「子区切り文字の位置」が「前」に設定されている混合の例のペイン 3。

16. 「スキーマ・レイアウト」タブで items ノードを右クリックし、リストから「新規の子」 > 「フィールド」オプションを選択して、items ノードに反復子フィールドを追加します。「新規フィールド」ダイアログ・ボックスが開きます。
17. 「フィールド名」に item と入力して、「OK」をクリックします。
18. [図 9](#) に示すように、1 つ以上のオカレンスが含まれるように item ノードを構成します。

図 9. 「最大反復 (Maximum Repeat)」が「上限なし」に設定されている混合の例のペイン 4。

フラット・ファイル・スキーマが完成し、テストの準備が整いました。

19. 以下のテキストをテスト・ペインの左サブペインに貼り付けます。

```
BuyRight Pharmacy;USACAMVI334;!389!22;34980;
```

```
Taylor Drugs;USANJWLB128;!778!23!523;5667;
```

このデータは、mixedData.txt ファイルでも提供されています。Studio のインストール時にデフォルトを受け入れた場合、このファイルはディレクトリー C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio 3.X\Samples\FlatFileSchema にあります。

重要: 最後の行の後に復帰を追加しないでください。

20. 「テスト」アイコンをクリックします。



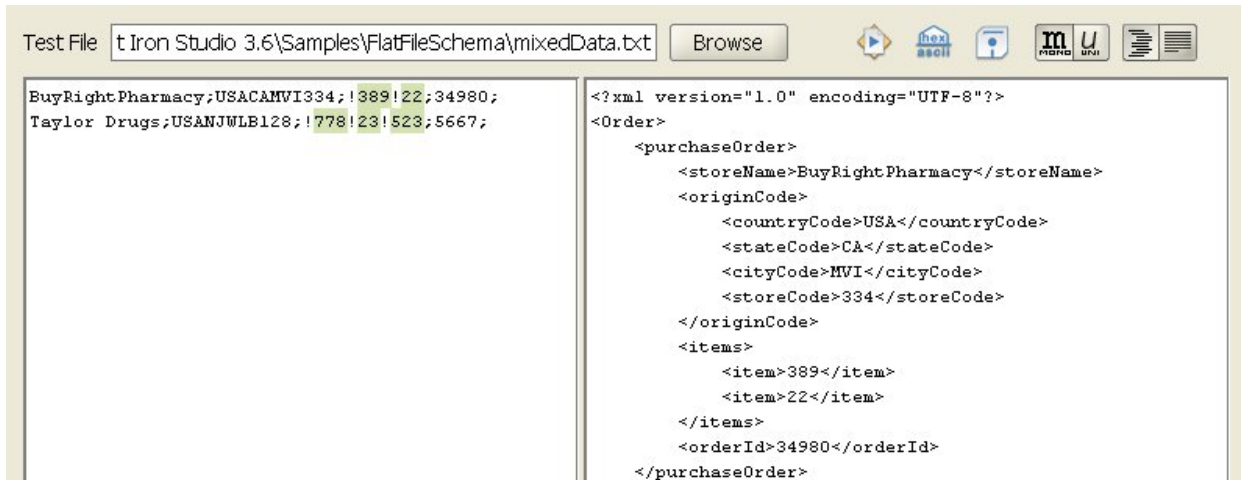
「保存の確認」ダイアログ・ボックスが開きます。

21. 「はい」をクリックします。以下のデータの XML 表現が、テスト・ペインに表示されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Order>
  <purchaseOrder>
    <storeName>BuyRight Pharmacy</storeName>
    <originCode>
      <countryCode>USA</countryCode>
      <stateCode>CA</stateCode>
      <cityCode>MVI</cityCode>
      <storeCode>334</storeCode>
    </originCode>
    <items>
      <item>389</item>
      <item>22</item>
    </items>
    <orderId>34980</orderId>
  </purchaseOrder>
  <purchaseOrder>
    <storeName>Taylor Drugs</storeName>
    <originCode>
      <countryCode>USA</countryCode>
      <stateCode>NJ</stateCode>
      <cityCode>WLB</cityCode>
      <storeCode>128</storeCode>
    </originCode>
    <items>
      <item>778</item>
      <item>23</item>
      <item>523</item>
    </items>
    <orderId>5667</orderId>
  </purchaseOrder>
</Order>
```

22. 「スキーマ・レイアウト」タブで item ノードをクリックします。図 10 に示すように、テスト・ペインの右サブペインで、解析されて item ノードに入れられたデータが強調表示されます。

図 10. 強調表示された item ノード



23. state ノードをクリックして、state ノードに割り当てられたデータを表示します。

注: Order フラット・ファイル・スキーマの参照実装が、FlatFileSchemasExample プロジェクトに用意されています。FlatFileSchemasExample プロジェクトを表示したり開いたりするには、『[グループの例](#)』のステップ 1 と 2 に従って、Order フラット・ファイル・スキーマをダブルクリックします。Order フラット・ファイル・スキーマのノードが、「スキーマ・レイアウト」タブに表示され、Order ルート・ノードのプロパティが右ペインに示されます。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Mixed_Positional_and_Delimited_Example.html

フラット・ファイル・スキーマの作成

このタスクについて







フラット・ファイル・スキーマを作成するには、以下のようにします。

手順


- メインの Studio ペインの右側にある「ツールボックス」から「プロジェクト」タブを選択します。
- 新しいフラット・ファイル・スキーマを作成するには、以下のオプションのいずれか 1 つから選択します。
 - 「プロジェクト」タブで、Flat File Schemas フォルダーを右クリックし、リストから「新規フラット・ファイル・スキーマ」を選択します。
 - 「プロジェクト」タブで、「新規フラット・ファイル・スキーマ」をクリックします ()。 「基本ウィザード (Basic Wizard)」 ダイアログ・ボックスが表示されます。
- フラット・ファイル・スキーマの **有効なノード名** を「名前」フィールドに入力します。

4. オプション: 既存のフラット・ファイル・スキーマを開始点として使用する場合は、「既存のフラット・ファイル・スキーマから継承」チェック・ボックスを選択します。[...] をクリックして、「プロジェクト・エクスプローラー」ダイアログ・ボックスから既存のフラット・ファイル・スキーマを参照し、「OK」をクリックします。
5. 「OK」をクリックして、Enter を押します。フラット・ファイル・スキーマ・エディターが開き、フラット・ファイル・スキーマが「プロジェクト」タブの「フラット・ファイル・スキーマ (Flat File Schemas)」フォルダーの下に表示されます。さらに、「スキーマ・レイアウト」タブに表示されているのと同じ名前のルート・ノードが表示されます。
6. ルート・ノードを構成するには、以下のようにします。
 - a. 「スキーマ・レイアウト」タブでルート・ノードをクリックします。ルート・ノードのプロパティが表示されます。
 - b. **ルート・ノードのプロパティ**を構成します。
7. フラット・ファイル・データのために、レコード、フィールド、およびフラット・ファイル・スキーマのグループを定義します。データの最外部の構造から開始して、内部に向かって処理します。データのフラット・ファイル・スキーマのビルド方法の例については、『[定位置および区切りの混合の例](#)』または「*Getting Started Guide*」の『*Developing the BookOrder Project*』セクションを参照してください。
8. オプション: 「タイプ・ライブラリー」タブを選択して、データの共用レコード・タイプ、グループ・タイプ、およびフィールド・タイプを定義します。
 - 共通のレコード・プロパティまたは内容を定義するには、**レコード・タイプを追加**します。
 - 共通のグループ・プロパティまたは内容を定義するには、**グループ・タイプを追加**します。
 - 共通のフィールド・プロパティを定義するには、**フィールド・タイプを追加**します。
9. 「スキーマ・レイアウト」タブを選択し、レコード、グループ、およびフィールドをルート・ノードに追加します。
 - メッセージの主要な構成要素を定義したり、複雑な構造を持つフィールドに対しては、**レコードを追加**します。
 - セットとして反復される一連のレコードまたはグループを定義するには、**グループを追加**します。
 - 各レコード内でデータを定義するには、**フィールドを追加**します。
 - レコードまたはグループの内容を迅速にビルドするには、任意のタイプの**いくつかの子を追加**します。
10. フラット・ファイル・スキーマを**テスト**します。

フィールド、フィールド・タイプ、レコード、レコード・タイプ、グループ、およびグループ・タイプを表すアイコンは、以下の表に示すとおり、「スキーマ・レイアウト」タブおよび「タイプ・ライブラリー」タブに表示されます。

ノード・タイプ	タブに表示されるアイコン
フィールド・タイプに基づいていないフィールドまたはフィールド・タイプ	
フィールド・タイプに基づくフィールドまたはフィールド・タイプ	
レコード・タイプに基づいていないレコードまたはレコード・タイプ	
レコード・タイプに基づくレコードまたはレコード・タイプ	
グループ・タイプに基づいていないグループまたはグループ・タイプ	
グループ・タイプに基づくグループまたはグループ・タイプ	

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/creating_a_flat_file_schema.html

フラット・ファイル・スキーマのテスト

このタスクについて

フラット・ファイル・スキーマをテストするには、以下の手順を実行します。

手順

1. [フラット・ファイル・スキーマを作成する](#)か、または「プロジェクト」タブで既存のフラット・ファイル・スキーマを選択して開きます。
2. [入力テスト・データのロード](#)
3. テスト・データを使用して、[フラット・ファイル・スキーマのテスト](#)を行います。
4. オプション: [テスト出力データのファイルへの保存](#)を行います。
 - [入力テスト・データのロード](#)
 - [フラット・ファイル・スキーマのテスト](#)
 - [テスト出力データのファイルへの保存](#)

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/testing_flat_file_schemas.html

入力テスト・データのロード

このタスクについて

テスト・データの形式は、次の例に示すように、オーケストレーション内でのフラット・ファイル・スキーマの使用方法によって異なります。

- フラット・ファイル・データを読み取る「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティがオーケストレーションに含まれている場合、着信フラット・ファイル・データを使用してフラット・ファイ

ル・スキーマをテストします。テストの結果データはXML データです。


- フラット・ファイル・データ・ファイルに書き込む「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティがオーケストレーションに含まれている場合、着信 XML データを使用してフラット・ファイル・スキーマをテストします。テストの結果データはフラット・ファイル・データです。

テスト・ペインの左にある入力サブペインでは、テスト・データを直接入力したり、ファイル・システムのファイルからテスト・データをロードすることができます。

手順

1. テスト・ペインで、次のいずれかのオプションを使用して、データ・ファイルのパスおよびファイル名を指定します。
 - 入力データ・ファイルのパスおよびファイル名を「テスト・ファイル」フィールドに入力します。
 - 「参照」をクリックして、次のようにファイルにナビゲートします。
 - a. 「サンプル・データ・ファイルを開く」ダイアログ・ボックスで、入力データ・ファイルを選択します。
 - b. オプション: 次のいずれかのオプションを使用して、入力データのエンコードを選択します。
 - ダイアログ・ボックスの左上にあるエンコード・リストから、デフォルトのエンコード・タイプを1つ選択します。
 - エンコード・フィールドをクリックしてエンコード・タイプを入力することにより、エンコード・タイプを直接入力します。
 - c. 「開く」をクリックします。


注: 表示および変換されるデータのサイズは、フラット・ファイル設定の設定値によって決まります。これらの設定値は、非常に大きいデータ・ファイルをロードするときに重要です。詳しくは、『[プリファレンスの設定](#)』にある表の『フラット・ファイル』セクションを参照してください。

2. オプション: 「16 進数で表示」() アイコンをクリックして、次の2つのテキスト表示方法を切り替えることにより、入力データの表示方法を変更することができます。
 - テキストのみ表示する。
 - テキストの横に16進表記を表示する。

注: 入力データが16進数の形式で表示された場合、データのテストおよび編集を行うことはできません。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマのテスト](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html






http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/load_input_test_data.html

フラット・ファイル・スキーマのテスト

このタスクについて


フラット・ファイル・スキーマをテストするには、以下のようにします。

手順

1. 「テスト」() アイコンをクリックします。結果ペインはテスト・ペインの右側にあり、そこにはサンプル・データの変換結果が表示されます。
 - 着信データがフラット・ファイル・データの場合、結果データはXML データです。
 - 着信データがXML の場合、結果データはフラット・ファイル・データです。
2. オプション: 以下のアイコンをクリックして、入出力データの表示に使用されるフォントを変更します。
 - 各文字を同じ幅で表示するフォントを使用してデータを表示するには、「モノスペース・フォント」() ボタンをクリックします。このオプションは、定位置テキストを表示する場合に役立ちます。
 - 2 バイト文字をサポートするフォントを使用して入力データを表示するには、「ユニコード・フォント」() ボタンをクリックします。
3. オプション: 以下のアイコンをクリックして、出力データの表示に使用されるフォーマットを変更します。
 - XML エLEMENTのインデント・スペーシングを伴う復帰を使用してフォーマット設定されたXML 出力データを表示するには、「フォーマット済み」() ボタンをクリックします。
 - 未フォーマットのXML 出力データを表示するには、「未フォーマット」() ボタンをクリックします。実行時に、統合アプライアンスは、「未フォーマット (Unformat)」ボタンが選択されたときに示される 未フォーマットの出力XML データを生成します。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマのテスト](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>



http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/test_a_flat_file_schema.html

テスト出力データのファイルへの保存

このタスクについて

テスト出力データをファイルに保存するには、以下のようにします。

手順

1. 『[フラット・ファイル・スキーマのテスト](#)』で説明されているとおりに、サンプル・データをテストします。
2. XML エLEMENTの復帰およびインデント・スペーシングを使用せずに、未フォーマットでテスト結果データを保存するには、「未フォーマット」() ボタンをクリックします。実行時に、統合アプライアンスは、未フォーマットの出力XML データを生成します。ファイルを保存する前に「フォーマット」() ボタンをクリックします。



ボタンを選択すると、XML エlementをインデントするために使用される復帰およびスペースがファイルに保存されます。

3. 結果データが結果ペインに表示されたら、「保存」(📁) アイコンをクリックします。「テスト結果の保存」ダイアログ・ボックスが開きます。
4. 結果データ・ファイルを保存するコンピューター上のディレクトリーを参照します。
5. 結果データ・ファイルの名前およびファイル拡張子を入力します。
6. 「保存」をクリックします。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマのテスト](#)

フィードバック | 特記事項

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/save_test_output_data.html

ルート・ノード・プロパティー

「スキーマ・レイアウト」タブでルート・ノードを選択すると、プロパティーの次の2つのセクションが「基本プロパティー」ペインと「区切り文字」ペインで使用可能になります。

基本プロパティー

ルート・ノードの「基本プロパティー」は次の表のとおりです。

プロパティー	定義
名前	このフラット・ファイル・スキーマに割り当てられた名前を指定します。「プロジェクト」タブでフラット・ファイル・スキーマを作成すると、そのフラット・ファイル・スキーマに入力した名前が、ルート・ノードのデフォルト名になります。 重要: フラット・ファイル・スキーマのルート・ノード名は 有効なノード名 でなければなりません。
タイプ	オプション: ルート・ノードのベースとして使用するレコード・タイプを指定します。 重要: 新しいタイプを選択すると、レコードの既存プロパティーの一部が新しい設定でリセットされる可能性があります。
リセット	このレコードに対してローカルに設定されたプロパティーを、選択したタイプの値にリセットします。「リセット」は、「タイプ」リストからレコード・タイプが選択された場合にのみアクティブになります。

プロパティ	定義
構造	<ul style="list-style-type: none"> データ内の構造の最外部レベルが区切り文字で決定される場合は、リストから「区切り (Delimited)」を選択します。 データ内の構造の最外部レベルが位置で決定される場合は、リストから「定位置 (Positional)」を選択します。
行の末尾を CRLF として書き込む	「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティによる出力データの作成時に、統合アプライアンスが行末文字を書き込む方法を指定します。このデータの受信側システムが Windows プラットフォームである場合、統合アプライアンスは行末文字を復帰改行 (CRLF) として書き込む必要があります。デフォルトでは、行末文字は改行 (LF) として書き込まれます。これは UNIX のデフォルトです。統合アプライアンスは、データの解析時に、両方の行末文字 (LF および CRLF) を受け入れます。
文書は EOS (ストリームの終わり) で終了する	「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティで入力フラット・ファイル・データを解析するため、または「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティでフラット・ファイル・データを生成する際に、データの終わりをストリームの終わり (EOS) 文字で区切るように指定します。トランスポート・メカニズムでデータがファイルではなくストリームとして扱われる時は、ストリームの終わりをデータに指定することが必要になる場合があります。

区切り文字

ルート・ノードの「構造」プロパティに「区切り (Delimited)」オプションを選択した場合は、次のルート・ノード区切りプロパティがアクティブになります。

- 子区切り文字
- 空データの末尾区切り文字を含める
- 子区切り文字の位置
- 反復区切り文字

子区切り文字

「子」プロパティは、ルート・ノードの子を区切る文字を定義します。この文字は一般に、レコード区切り文字、セグメント区切り文字、または行区切り文字と呼ばれます。

次の表に示されている 3 つのオプションから 1 つを選択して、子区切り文字のタイプを指定します。

オプション	定義
-------	----

オプション	定義
文字	<p>子区切り文字に使用する文字を指定します。「子区切り文字」の「文字」オプションを選択した場合は、次のいずれかの方法で単一の文字を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。 <p>区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。</p> <p>文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。</p> <p>これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。</p>
行の末尾	<p>子区切り文字が行の末尾、つまり LF (改行) または CRLF (復帰改行) のどちらかであることを指定します。子を CR (復帰) のみで区切る場合は、「文字」オプションを選択し、区切り文字として CR (復帰) 文字を指定します。統合アプライアンスは、データの解析時に、両方の行末文字 (LF および CRLF) を受け入れます。データの書き込み時に、行末に使用される文字は、「行の末尾を CRLF として書き込む」プロパティによって決まります。</p>

オプション	定義
動的位置	<p>子区切り文字として使用する文字が、データ内で動的に定義されることを指定します。動的区切り文字は、EDI データや HL7 データなどのデータの最初のレコード内の特定位置になければなりません。統合アプライアンスによる文字の使用方法は、フラット・ファイル・データが入力であるか出力であるかによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティで入力フラット・ファイル・データを解析する際、統合アプライアンスは、先頭レコードの指定位置にある文字を読み取り、それを子区切り文字として使用して残りのデータを解析します。入力フラット・ファイル・データの読み取り時には、「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドは使用されません。 • 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティで出力フラット・ファイル・データを書き込む際、統合アプライアンスは、「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドに指定された文字を使用して、ルート・ノードの子を区切ります。さらに、出力データの最初のレコードの指定位置に、指定された文字が書かれます。

オプション	定義
デフォルトの書き込み	<p>統合アプライアンスがルート・ノードの「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティーで出力データを書き込む際に、子区切り文字として使用する文字を指定します。さらに、出力データの最初のレコードの指定位置に、指定された文字が書かれます。このフィールドに指定された文字は、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーでの入力フラット・ファイル・データの読み取り時には使用されません。</p> <p>ペインの「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。

空データの末尾区切り文字を含める

統合アプライアンスが「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティーで出力フラット・ファイル・データを書き込む際に、レコードまたはフィールドの末尾に空のオプションの子の区切り文字が存在しなければならぬことを指定するには、「空データの末尾区切り文字を含める」チェック・ボックスを選択します。

空のオプションの子の区切り文字を省略できる場合は、このチェック・ボックスのマークを外します。

このチェック・ボックスは、統合アプライアンスが入力データを読み取る方法には影響しません。統合アプライアンスはデータの読み取り時に、空データでの区切り文字の存在も不在も許容するためです。

子区切り文字の位置

このプロパティーは、データのレコード区切り文字の位置を定義します。次の表からオプションを 1 つ選択します。

位置	定義
----	----

位置	定義
後	<p>子区切り文字が子の終わり (データ内の最後の子を含む) にマークを付けることを指定します。例えば、<code>field1,field2,field3,</code> のようになります。この例では、フィールドの後にコンマ区切り文字が付いています。</p> <p>「後」は、レコード区切り文字のもっとも一般的な位置です。</p>
前	<p>子区切り文字が子の先頭を示すことを指定します。最後の子の終わりには、親の区切り文字によってマークが付けられます。例えば、図 1 の例では、感嘆符区切り文字が付いています。</p>
間 (In between)	<p>次の例のように、区切り文字を子の間に配置し、最初の子の先頭と最後の子の終わりには配置しないことを指定します。この例では、フィールド間にコンマ区切り文字が挿入されています。</p> <p><code>field1,field2,field3</code></p>

図 1. 「前」の位置での感嘆符区切り文字

```
!field1of1stRecord!field2of1stRecord!field3of1stRecord
!field1of2ndRecord!field1of2ndRecord!field1of2ndRecord
```

3 タイプすべての子区切り文字位置の例については、『[定位置および区切りの混合の例](#)』を参照してください。

反復区切り文字

このプロパティにより、フラット・ファイル・データ内の 1 つのレコードの反復オカレンス間で使用される区切り文字が決まります。次の表からオプションを 1 つ選択します。

ヘッダー	ヘッダー
------	------


ヘッダー	ヘッダー
文字	<p>反復区切り文字として使用する文字を指定します。「反復区切り文字」の「文字」オプションを選択した場合は、次のいずれかの方法で単一の文字を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。 <p>文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。</p> <p>これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。</p>
行の末尾	<p>反復区切り文字が行の末尾、つまり LF (改行) または CRLF (復帰改行) のどちらかであることを指定します。子を CR (復帰) のみで区切る場合は、「文字」オプションを選択し、区切り文字として CR (復帰) 文字を指定します。統合アプライアンスは、データの解析時に、両方の行末文字 (LF および CRLF) を受け入れます。データの書き込み時に、行末に使用される文字は、「行の末尾を CRLF として書き込む」プロパティによって決まります。</p>

ヘッダー	ヘッダー
動的位置	<p>反復区切り文字として使用する文字が、データ内で動的に定義されることを指定します。動的区切り文字は、EDI データや HL7 データなどのデータの最初のレコード内の特定位置になければなりません。統合アプライアンスによる文字の使用方法は、フラット・ファイル・データが入力であるか出力であるかによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティで入力フラット・ファイル・データを解析する際、統合アプライアンスは、先頭レコードの指定位置にある文字を読み取り、それを反復区切り文字として使用して残りのデータを解析します。入力フラット・ファイル・データの読み取り時には、「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドは使用されません。 • 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティで出力フラット・ファイル・データを書き込む際、統合アプライアンスは、「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドに指定された文字を使用して、ルート・ノードの反復する子を区切ります。さらに、出力データの最初のレコードの指定位置に、指定された文字が書かれます。

ヘッダー	ヘッダー
デフォルトの書き込み	<p>統合アプライアンスがルート・ノードの「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティーで出力データを書き込む際に、子区切り文字として使用する文字を指定します。さらに、出力データの最初のレコードの指定位置に、指定された文字が書かれます。このフィールドに指定された文字は、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーでの入力フラット・ファイル・データの読み取り時には使用されません。ペインの「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement 文字セットを参照してください。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/root_node_properties.html

フィールドまたはフィールド・タイプの追加

このタスクについて

フィールドを追加する理由

フィールドは、以下の単純データ型のいずれかに基づいて定義できます。

- boolean - true または false
- string - 指定されたエンコードのテキスト
- integer - 整数
- numeric - 10 進数

フィールドは「スキーマ・レイアウト」タブで作成します。フィールドは、以下のアイコンを使用して「スキーマ・レイアウト」タブに表示されます。



フィールド・タイプに基づくフィールドは、以下のアイコンを使用して「スキーマ・レイアウト」タブに表示されます。



構成要素や副構成要素など、複雑な構造を持つフラット・ファイル・データ・フィールドをモデル化するには、レコードを使用します。

フィールド・タイプを追加する理由

後で再使用するために、特定のプロパティを持つフィールド・タイプを定義できます。例えば、カプセル化文字として二重引用符を使用する多数のフィールドを作成する場合は、二重引用符に設定されたカプセル化文字を使用してフィールド・タイプを定義し、このフィールド・タイプに基づいて複数のフィールドを作成できます。

フィールド・タイプは「タイプ・ライブラリー」タブで作成します。フィールド・タイプは、以下のアイコンを使用して「タイプ・ライブラリー」タブに表示されます。



フィールド・タイプに基づくフィールド・タイプは、以下のアイコンを使用して「タイプ・ライブラリー」タブに表示されます。



フィールドまたはフィールド・タイプの追加

次の手順で説明しているように、フィールドとフィールド・タイプの追加手順は、最初に選択するタブを除いては同じです。

手順

1. 「プロジェクト」タブから「フラット・ファイル・スキーマ」を開きます。
2. 適切なタブを選択します。
 - フィールドを追加するには、「スキーマ・レイアウト」タブを選択します。
 - フィールド・タイプを追加するには、「タイプ・ライブラリー」タブを選択します。
3. リストから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「新規の子」 > 「フィールド」：フィールドを現行ノードの子として追加する場合。
 - 「新規の兄弟」 > 「フィールド」：フィールドを現行ノードの兄弟として追加する場合。
 - 「**新規の子**」：子フィールドおよびレコードを一括で追加する場合。
4. 「新規フィールド」ダイアログ・ボックスで、有効なノード名を「フィールド名」フィールドに入力します。
5. このフィールドをフィールド・タイプに基づくものにするには、「フィールドに基づく」リストからフィールド・タイプを選択します。

6. 「OK」をクリックします。フィールド・ノード (📁) が該当するツリー (「スキーマ・レイアウト」または「タイプ・ライブラリー」) に表示され、ツリーの右側にあるプロパティ・ペインにフィールド・プロパティが表示されます。
7. フィールドまたはフィールド・タイプのプロパティを指定します。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/mde_Adding_Fields_or_Field_Types.html

フィールド・プロパティ

「スキーマ・レイアウト」タブでフィールドを選択するか、「タイプ・ライブラリー」タブでフィールド・タイプを選択すると、以下のプロパティ・セクションがペインに表示されます。

- 基本プロパティ
- 埋め込みおよびトリミング
- 区切り文字
- 定位置プロパティ

基本プロパティ

フィールドの「基本プロパティ」は次の表のとおりです。

プロパティ	説明
名前	このフィールドの名前を指定します。 重要: フィールド名は有効なノード名でなければなりません。
タイプ	オプション: フィールドのベースとして使用するフィールド・タイプを指定します。「タイプ」リストは、フィールド・タイプが作成済みである場合にのみアクティブになります。 重要: 新しいタイプを選択すると、フィールドの既存プロパティの一部が新しい設定でリセットされる可能性があります。
リセット	このフィールドに対してローカルに設定されたプロパティを、選択したタイプの値にリセットします。
タイプ	フィールドのデータ型を、以下から 1 つ指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • string - 指定されたエンコードのテキスト • boolean - <i>true</i> または <i>false</i> • integer - 整数 • numeric- 10 進数

プロパティ	説明
オカレンス (オプション)	区切り文字で区切られているデータの場合は、このチェック・ボックスを選択すると、フィールドとその区切り文字の両方をデータから省略できます。定位置データの場合は、区切り文字がないため、フィールドのみが省略されます。フィールドを空にすることはできても、区切り文字が存在しなければならない場合、フィールドは必須と見なされるため、このチェック・ボックスを選択しないでください。 重要: フィールドのオプション・プロパティを指定する際は、フラット・ファイル・スキーマ用にあいまいな文法を作成しないように注意してください。詳しくは、『 オプションのフィールドおよびレコードの指定 』を参照してください。
最小繰り返し (Repeat Minimum)	フィールドの最小オカレンス数を指定します。
最大繰り返し (Repeat Maximum)	この単一フィールドの繰り返しを制御します。以下のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 上限なし - このフィールドを無制限に反復できることを指定します。 • 範囲 - このフィールドの最大反復回数を指定します。フィールドの実際のオカレンスは、この数値以下になります。 注: 複数オカレンスは、親ノードが反復区切り文字を指定した場合にのみ許可されます。

埋め込みおよびトリミング

データをトリムするか、埋め込むかは、以下の条件に従います。

- 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティでは、フラット・ファイル・データの XML データへの変換時に、フラット・ファイル・フィールドの文字が、対応する XML フィールドに配置される前にトリムされます。
- 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティでは、XML データのフラット・ファイル・データへの変換時に、XML エlementの文字が、対応するフラット・ファイル・フィールドに配置される前に埋め込まれます。

フィールドの「埋め込みおよびトリミング」プロパティの定義は次の表のとおりです。

プロパティ	説明

プロパティ	説明
埋め込み / トリム文字	<p>フィールドの長さを埋め込むために使用する単一文字、またはフィールドからトリムする単一文字を指定します。</p> <p>ペインの「文字」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • ユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。
埋め込み長	<p>「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティーで XML データをフラット・ファイル・データに変換する際の、フィールド・データの最終的な長さを指定します。指定された埋め込み文字が、フィールドのデータに、この長さまで追加されます。一般的には、埋め込みのサイズはフィールドと同じです。</p> <p>注: このフィールドに指定されたこの値は、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーでフラット・ファイル・データを XML データにトリミングする際には使用されません。</p>
位置調整	<p>以下のように、フィールドのどちら側で、埋め込みまたはトリムをどのように行うかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 左 - 「左」オプションを指定した場合、行われるアクションは、フィールドが読み取られるか、書き込まれるかによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティー - フィールドが読み取られる場合は、指定されたトリム文字が、フィールドの終わりからトリムされます。例えば、トリム文字がハイフンである場合、「フィールド長」は 10、フラット・ファイル入力フィールドは --1234--- になります。結果の XML エlement は <element>---1234</element> となります。 ◦ 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティー - フィールドが書き込まれる場合は、フィールド・データの後に埋め込みが追加されます。例えば、埋め込み文字がハイフンである場合、「埋め込み長」は 10、入力 XML Element は <element>1234</element> になり、結果のフラット・ファイル・フィールドは 1234----- となります。

プロパティ	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • 右 - 「右」 オプションを指定した場合、行われるアクションは、フィールドが読み取られるか、書き込まれるかによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 「フラット・ファイルの読み取り」 アクティビティ - フィールドが読み取られる場合は、トリム文字がフィールドの先頭からトリムされます。例えば、トリム文字がハイフンである場合、「フィールド長」は 10、フラット・ファイル入力フィールドは ---1234--- になります。結果の XML エlement は <element>1234---</element> となります。 ◦ 「フラット・ファイルの書き込み」 アクティビティ - フィールドが書き込まれる場合は、フィールド・データの前に埋め込みが追加されます。例えば、埋め込み文字がハイフンである場合、「埋め込み長」は 10、入力 XML Element は <element>1234</element> になり、結果のフラット・ファイル・フィールドは -----1234 となります。

区切り文字

フィールドの「エスケープ」および「カプセル化区切り文字 (Encapsulation Delimiters)」の定義は次の表のとおりです。これらのプロパティは、親レコードの「構造」プロパティの「区切り (Delimited)」オプションが選択された場合にのみ使用されます。

プロパティ	説明
エスケープ文字	<p>フィールドのデータ内の区切り文字をエスケープするために使用する単一文字を指定します。実行時、統合アプリケーションは、この区切り文字の直後にある文字を、区切り文字ではなく文字として解析します。ペインの「文字」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。

<p>ブ ロ バ テ イ ー</p>	<p>説明</p>
	<p>例えば、エスケープ文字が定義されておらず、レコードの区切り文字がコロンである場合、次のレコードはどのように解析されるでしょうか。</p> <pre>135:Caving: What You Really Need to Know:10</pre> <p>上記のレコードは、次の4つのフィールドに解析されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 135 • Caving • What You Really Need to Know • 10 <p>「<i>Caving What You Really Need to Know</i>」というタイトルを2つのフィールドに分割しないようにするには、バックスラッシュのエスケープ文字を指定し、次のレコードのようにコロンの前にバックスラッシュ文字を挿入します。</p> <pre>135:Caving/: What You Really Need to Know:10</pre> <p>コロンの前にエスケープ文字があるこのフラット・ファイル・レコードが解析されると、レコードの区切り文字としてコロンが使用されていても、タイトルが2つのセクションに分割されることはありません。</p>

プロパティ	説明
動的 位置	<p>最初のレコード内に定義されたエスケープ文字の文字位置を、1 から始まる番号で指定します。エスケープ文字は、指定された文字位置にある文字を使用して、実行時に判別されます。例えば、カプセル化文字が定義されておらず、レコードの区切り文字がコロンである場合、次のレコードはどのように解析されるでしょうか。</p> <pre>135:Caving: What You Really Need to Know:10</pre> <p>上記のレコードは、次の4つのフィールドに解析されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 135 • Caving • What You Really Need to Know • 10 <p>「<i>Caving What You Really Need to Know</i>」というタイトルを2つのフィールドに分割しないようにするには、「動的位置」に11を指定し、次のレコードのようにコロンの前にバックスラッシュ文字を追加します。</p> <pre>135:Caving/: What You Really Need to Know:10</pre> <p>エスケープ文字は、レコード内の11番目の文字、つまりバックスラッシュ文字になります。エスケープ文字がバックスラッシュ文字であるこのフラット・ファイル・レコードが解析されると、レコードの区切り文字としてコロンが使用されていても、Caving の後のコロンによってこのフィールドが2つのセクションに分割されることはありません。</p>

プロパティ	説明
デフォルトの書き込み	<p>このフィールドをフラット・ファイル・データとして書き込む際に使用するエスケープ文字を指定します。「デフォルトの書き込み」は、「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティで XML データをフラット・ファイル・データに変換する際にのみ使用されます。「デフォルトの書き込み」は、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティでフラット・ファイル・データを XML データに変換する際には使用されません。</p> <p>ペインの「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。 <p>例えば、XML エlement <title>Caving: What You Really Need to Know</title> をフラット・ファイル・データに変換する際に、コロンをバックスラッシュでエスケープする場合は、「デフォルトの書き込み」フィールドにバックスラッシュを指定します。このフィールドの実行時の結果は、次のようなストリングになります。</p> <p>Caving¥: What You Need to Know</p> <p>「動的位置」フィールドに指定された文字位置は、XML エlement がフラット・ファイル・データに変換される際には使用されません。</p>
カプセル化文字	<p>フィールドに、親レコードの同フィールドを区切るために使用されている文字が含まれている可能性があるため、区切り文字を指定して、フィールド内のデータをカプセル化します。</p> <p>ペインの「文字」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。

<p>ブ ロ パ テ ィ ー</p>	<p>説明</p>
	<p>例えば、カプセル化文字が定義されておらず、レコードの区切り文字がコロンである場合、次のレコードはどのように解析されるでしょうか。</p> <pre>135:Caving: What You Really Need to Know:10</pre> <p>上記のレコードは、次の4つのフィールドに解析されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 135 • Caving • What You Really Need to Know • 10 <p>「<i>Caving What You Really Need to Know</i>」というタイトルを2つのフィールドに分割しないようにするには、カプセル化文字に二重引用符を指定し、次のレコードのようにブック・タイトルを二重引用符で囲みます。</p> <pre>135:"Caving: What You Really Need to Know":10</pre> <p>カプセル化文字が二重引用符に設定されたこのフラット・ファイル・レコードが解析されると、親レコードの区切り文字としてコロンが使用されていても、Caving の後のコロンによってこのフィールドが2つのセクションに分割されることはありません。統合アライアンスは、2つのカプセル化区切り文字の間のすべての文字を、区切り文字ではなく文字として読み取ります。</p>
<p>動 的 位 置</p>	<p>最初のレコード内に定義された区切り文字の文字位置を、1から始まる番号で指定します。カプセル化区切り文字は、指定された文字位置にある文字を使用して、実行時に判別されます。</p> <p>例えば、カプセル化文字が定義されておらず、レコードの区切り文字がコロンである場合、次のレコードはどのように解析されるでしょうか。</p> <pre>135:Caving: What You Really Need to Know:10</pre> <p>上記のレコードは、次の4つのフィールドに解析されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 135 • Caving • What You Really Need to Know • 10 <p>「<i>Caving What You Really Need to Know</i>」というタイトルを2つのフィールドに分割しないようにするには、「動的位置」に5を指定し、次のレコードのようにブック・タイトルを二重引用符で囲みます。</p> <pre>135:"Caving: What You Really Need to Know":10</pre> <p>カプセル化文字は、レコード内の5番目の文字、つまり二重引用符になります。カプセル化文字が二重引用符であるこのフラット・ファイル・レコードが解析されると、レコードの区切り文字としてコロンが使用されていても、Caving の後のコロンによってこのフィールドが2つのセクションに分割されることはありません。統合アライアンスは、2つのカプセル化区切り文字の間のすべての文字を、区切り文字ではなく文字として読み取ります。</p>

プロパティ	説明
デフォルトの書き込み	<p>このフィールドをフラット・ファイル・データとして書き込む際に使用するカプセル化文字を指定します。「デフォルトの書き込み」は、「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティで XML データをフラット・ファイル・データに変換する際にのみ使用されます。「デフォルトの書き込み」は、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティでフラット・ファイル・データを XML データに変換する際には使用されません。</p> <p>ペインの「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を入力します。 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。
	<p>例えば、XML エlement <title>Caving: What You Really Need to Know</title> をフラット・ファイル・データに変換する際に、Element 内のデータを引用符でカプセル化する場合は、「デフォルトの書き込み」フィールドに二重引用符を指定します。このフィールドの実行時の結果は、次のようなストリングになります。</p> <p>「Caving: What You Need to Know」</p> <p>「動的位置」フィールドに指定された文字位置は、XML エlement がフラット・ファイル・データに変換される際には使用されません。</p>

定位置プロパティ

フィールドの「定位置プロパティ」の定義は次の表のとおりです。これらのプロパティは、親レコードの「構造」プロパティの「定位置 (Positional)」オプションが選択された場合にのみアクティブになります。

フィールド	説明
フィールド・オフセット	前のフィールドの終わりからこのフィールドの先頭に達するために、スキップする文字数を指定します。
フィールド長	このフィールドのデータの長さを指定します。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

レコードまたはレコード・タイプの追加

このタスクについて

レコードを追加する理由

レコードは、フラット・ファイル・データの構造を定義するために使用します。レコードは、フィールド、グループ、または他のレコードを含むことができます。他のレコードの子であるレコードは、複雑な構造を持つフィールドをモデル化するために使用します。レコードはまた、データの階層の追加レイヤーを定義するためにも使用できます。

レコードのフィールドおよびサブレコードは、以下のいずれかの方法を使用して解析されます。

- **区切り文字で区切る:** レコード内のフィールドおよび子レコードの開始点および終了点は、区切り文字を使用して定義されます。一部の区切り形式では、識別子および開始区切り文字としてレコード ID が使用されます。区切り文字で区切られたデータを解析するレコードの定義例については、以下を参照してください。
 - [定位置および区切りの混合の例](#)
 - 「*Getting Started Guide*」の『*Developing the BookOrder Project*』セクション
- **定位置:** レコード内のフィールドは、区切り文字を使用する代わりに、位置と長さによって定義されます。定位置フィールドは固定長フィールドとも呼ばれます。定位置データを解析するレコードの定義例については、『[定位置および区切りの混合の例](#)』を参照してください。

レコードは「スキーマ・レイアウト」タブで作成します。子レコードおよびフィールドを含み、レコード・タイプに基づいていないレコードは、以下のアイコンを使用して「スキーマ・レイアウト」タブに表示されます。



レコード・タイプに基づくレコードは、以下のアイコンを使用して「スキーマ・レイアウト」タブに表示されます。



レコード・タイプを追加する理由

レコード・タイプは、複数のレコードで再使用可能な、レコードのプロパティ、フィールド、および子レコードのセットを定義します。例えば、番地フィールド、市区町村フィールド、都道府県フィールド、および郵便番号フィールドを含む、住所レコード・タイプを定義できます。この住所レコード・タイプを、フラット・ファイル・スキーマ内のすべての住所のベースとして使用し、例えば、出荷先住所レコードおよび請求先住所レコードを定義できます。

レコード・タイプは「タイプ・ライブラリー」タブで作成します。子レコードおよびフィールドを含み、レコード・タイプに基づいていないレコード・タイプは、以下のアイコンを使用して「タイプ・ライブラリー」タブに表示されます。



レコード・タイプに基づくレコード・タイプは、以下のアイコンを使用して「タイプ・ライブラリー」タブに表示されます。



注:

- レコード・タイプは、現行フラット・ファイル・スキーマでのみ再使用可能であり、プロジェクトに対してグローバルではありません。
- レコード・タイプに基づくレコードでは、レコード・タイプからの子ノードの継承のみを行うことができます。レコード・タイプに基づくレコードに子ノードを追加することはできません。
- レコード・タイプから継承された子ノードは、「タイプ・ライブラリー」タブにのみ表示され、「スキーマ・レイアウト」タブには表示されません。
- レコード・タイプは、他のレコード・タイプに基づき、親レコード・タイプからプロパティーおよび子の両方を継承することもできます。

レコードまたはレコード・タイプを追加するには、以下のようになります。

手順

1. 「プロジェクト」タブから「フラット・ファイル・スキーマ」を開きます。
2. 適切なタブを選択します。
 - レコードを追加するには、「スキーマ・レイアウト」タブを選択します。
 - レコード・タイプを追加するには、「タイプ・ライブラリー」タブを選択します。
3. タブ内のノードを右クリックして、リストからオプションを1つ選択します。
 - 「新規の子」 > 「レコード」: レコードを現行ノードの子として追加する場合。レコードは、ルート・ノード、別のレコード、またはグループの子にのみなることができます。
 - 「新規の兄弟」 > 「レコード」: レコードを現行ノードの後に兄弟として追加する場合。
 - 「新規の子」: 子フィールドおよびレコードを一括で追加する場合。
4. 新規レコードの有効なノード名を「新規レコード」ペインに入力します。
5. このレコードをレコード・タイプに基づくものにするには、「レコードに基づく」リストからレコード・タイプを選択します。
6. 「OK」をクリックします。レコード・ノードが適切なタブ(「スキーマ・レイアウト」または「タイプ・ライブラリー」)に表示され、「プロパティー」ペインにレコード・プロパティーが表示されます。
7. レコードまたはレコード・タイプのプロパティーを指定します。
8. レコード・タイプに基づいていない新規レコードを作成する場合は、フィールド、グループ、またはレコードを追加して、レコードの内容を定義します。レコードがレコード・タイプに基づいている場合、レコードの内容はレコード・タイプによって定義されるため、レコードはこれで完成です。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

フィードバック | 特記事項

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/mde_Adding_Records_or_a_Record_Type.html

レコード・プロパティ

「スキーマ・レイアウト」タブでレコードを選択するか、「タイプ・ライブラリー」タブでレコード・タイプを選択すると、プロパティの以下のセクションがペインで使用可能になります。

- 基本プロパティ
- 区切り文字

基本プロパティ

レコードの「基本プロパティ」は次の表のとおりです。

プロパティ	説明
名前	このレコードの名前を指定します。 重要: フィールド名は有効なノード名でなければなりません。
タイプ	オプション: レコードのベースとして使用するレコード・タイプを指定します。「タイプ」リストは、選択したレコード・ノードに子がなく、レコード・タイプが作成済みである場合にのみアクティブになります。レコードに子が含まれている場合、レコードはレコード・タイプからフィールドまたはサブレコードを継承できません。 重要: 新しいタイプを選択すると、レコードの既存プロパティの一部が新しい設定でリセットされる可能性があります。
リセット	このレコードに対してローカルに設定されたプロパティを、選択したタイプの値にリセットします。「リセット」は、「タイプ」リストからレコード・タイプが選択された場合にのみアクティブになります。
構造	<ul style="list-style-type: none">• レコードの構造を区切り文字で判別する場合は、「区切り (Delimited)」を指定します。• レコードの構造をレコード内の位置で判別する場合は、「定位置 (Positional)」を指定します。
レコード ID	このレコードを識別する固有の字符串を指定します。レコード ID は、X.12 メッセージ標準 (EDI や HL7 など) ではセグメント ID と呼ばれ、通常は各レコードの先頭にあります。
レコード ID の開始位置	前のレコードの終わりの後で、レコード ID が始まる文字位置を指定します。デフォルトは 0 です。この場合、レコード ID はレコードの先頭に置かれます。
最小オカレンス	このレコードの最小反復回数を指定します。デフォルトは 1 です。これは、レコードが必須であることを意味します。このレコードがオプションの場合は、0 を指定してください。警告: レコードのオプション・プロパティを指定する際は、フラット・ファイル・スキーマ用にあいまいな文法を作成しないように注意してください。詳細については、『オプションのフィールドおよびレコードの指定』を参照してください。

プロパティ	説明
最大オカレンス	単一レコードの反復を制御します。以下のいずれかのオプションを選択します: 上限なし - このレコードを何回でも反復可能であることを指定します。 範囲 - このレコードの最大反復回数を指定します。 特定のメッセージ内の実際のオカレンスは、この制限以下になります。 注: 複数オカレンスは、親ノードが反復区切り文字を指定した場合にのみ許可されます。

区切り文字

レコードの「構造」プロパティに「区切り (Delimited)」オプションを選択した場合は、次のレコード区切りプロパティがアクティブになります。

- 子区切り文字
- 空データの末尾区切り文字を含める
- 子区切り文字の位置
- 反復区切り文字

子区切り文字

子区切り文字

「子」プロパティは、レコードの子を区切る文字を定義します。この文字は一般に、レコード区切り文字、セグメント区切り文字、または行区切り文字と呼ばれます。

次の表に示されている3つのオプションから1つを選択して、子区切り文字のタイプを指定します。

オプション	定義
文字	<p>子区切り文字に使用する文字を指定します。「子区切り文字」の「文字」オプションを選択した場合は、次のいずれかの方法で単一の文字を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を入力します。 • 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 • 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する16進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。 <p>文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。</p> <p>これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。</p>

オプション	定義
行の末尾	<p>子区切り文字が行の末尾、つまり LF (改行) または CRLF (復帰改行) のどちらかであることを指定します。子を CR (復帰) のみで区切る場合は、「文字」オプションを選択し、区切り文字として CR (復帰) 文字を指定します。統合アプライアンスは、データの解析時に、両方の行末文字 (LF および CRLF) を受け入れません。データの書き込み時に、行末に使用される文字は、「行の末尾を CRLF として書き込む」プロパティによって決まります。</p>
動的位置	<p>子区切り文字として使用する文字が、データ内で動的に定義されることを指定します。動的区切り文字は、EDI データや HL7 データなどのデータの最初のレコード内の特定位置になければなりません。統合アプライアンスによる文字の使用方法は、フラット・ファイル・データが入力であるか出力であるかによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティで入力フラット・ファイル・データを解析する際、統合アプライアンスは、指定位置にある文字を読み取り、それを子区切り文字として使用して残りのデータを解析します。入力フラット・ファイル・データの読み取り時には、「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドは使用されません。 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティで出力フラット・ファイル・データを書き込む際、統合アプライアンスは、「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドに指定された文字を使用して、レコードの子を区切ります。さらに、出力データの最初のレコードの指定位置に、指定された文字が書かれます。
デフォルトの書き込み	<p>統合アプライアンスが「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティで出力データを書き込む際に、子区切り文字として使用する文字を指定します。さらに、出力データの最初のレコードの指定位置に、指定された文字が書かれます。このフィールドに指定された文字は、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティでの入力フラット・ファイル・データの読み取り時には使用されません。ペインの「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を入力します。 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。

空データの末尾区切り文字を含める

統合アプライアンスが「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティで出力フラット・ファイル・データを書き込む際に、レコードまたはフィールドの末尾に空のオプションの子の区切り文字が存在しなければならないことを指定するには、「空データの末尾区切り文字を含める」チェック・ボックスを選択します。

空のオプションの子の区切り文字を省略できる場合は、このチェック・ボックスのマークを外します。

このチェック・ボックスは、統合アプライアンスが入力データを読み取る方法には影響しません。統合アプライアンスはデータの読み取り時に、空データでの区切り文字の存在も不在も許容するためです。

子区切り文字の位置

このプロパティは、データのレコード区切り文字の位置を定義します。次の表からオプションを1つ選択します。

位置	定義
後	子区切り文字が子の終わり (データ内の最後の子を含む) にマークを付けることを指定します。 「後」は、レコード区切り文字のもっとも一般的な位置です。
前	子区切り文字が子の先頭を示すことを指定します。最後の子の終わりには、親の区切り文字でマークが付けられます。
間 (In between)	区切り文字を子の間に配置し、最初の子の先頭と最後の子の終わりには配置しないことを指定します。

3 タイプすべての子区切り文字位置の例については、『[定位置および区切りの混合の例](#)』を参照してください。

反復区切り文字


このプロパティにより、フラット・ファイル・データ内の1つのレコードの反復オカレンス間で使用される区切り文字が決まります。次の表からオプションを1つ選択します。

位置	定義
文字	反復区切り文字として使用する文字を指定します。「反復区切り文字」の「文字」オプションを選択した場合は、次のいずれかの方法で単一の文字を入力する必要があります。 <ul style="list-style-type: none">文字を入力します。文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されません。 文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。 これらの文字について詳しくは、 http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。
行の末尾	反復区切り文字が行の末尾、つまり LF (改行) または CRLF (復帰改行) のどちらかであることを指定します。子を CR (復帰) のみで区切る場合は、「文字」オプションを選択し、区切り文字として CR (復帰) 文字を指定します。統合アプライアンスは、データの解析時に、両方の行末文字 (LF および CRLF) を受け入れます。データの書き込み時に、行末に使用される文字は、「行の末尾を CRLF として書き込む」プロパティによって決まります。

位置	定義
動的 位置	<p>反復区切り文字として使用する文字が、データ内で動的に定義されることを指定します。動的区切り文字は、EDI データや HL7 データなどのデータの最初のレコード内の特定位置になければなりません。統合アプライアンスによる文字の使用方法は、フラット・ファイル・データが入力であるか出力であるかによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーで入力フラット・ファイル・データを解析する際、統合アプライアンスは、指定位置にある文字を読み取り、それを反復区切り文字として使用して残りのデータを解析します。入力フラット・ファイル・データの読み取り時には、「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドは使用されません。 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティーで出力フラット・ファイル・データを書き込む際、統合アプライアンスは、「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドに指定された文字を使用して、ルート・ノードの反復する子を区切ります。さらに、出力データの最初のレコードの指定位置に、指定された文字が書かれます。
デ フ ォ ル ト の 書 き 込 み	<p>統合アプライアンスが「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティーで出力データを書き込む際に、反復区切り文字として使用する文字を指定します。さらに、出力データの最初のレコードの指定位置に、指定された文字が書かれます。このフィールドに指定された文字は、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーでの入力フラット・ファイル・データの読み取り時には使用されません。ペインの「デフォルトの書き込み」テキスト・フィールドで、以下のいずれかのアクションを使用して単一文字を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を入力します。 文字のユニコード値を入力します。例えば、スペース文字には /u0020 を入力します。 文字を参照するには、[...] をクリックします。区切り文字に有効な文字の選択肢をリストした「文字の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。「表示」列に、文字または文字を示すニーモニックが表示されます。さらに、文字に対応する 16 進値とユニコードのコード・ポイントが表示されます。文字を選択し、「OK」をクリックします。選択した文字に可視記号がない場合は、この文字のニーモニックまたはユニコード値が表示される可能性があります。これらの文字について詳しくは、http://www.unicode.org/charts/ の Basic Latin および Latin-1 Supplement の文字セットを参照してください。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_record_properties.html

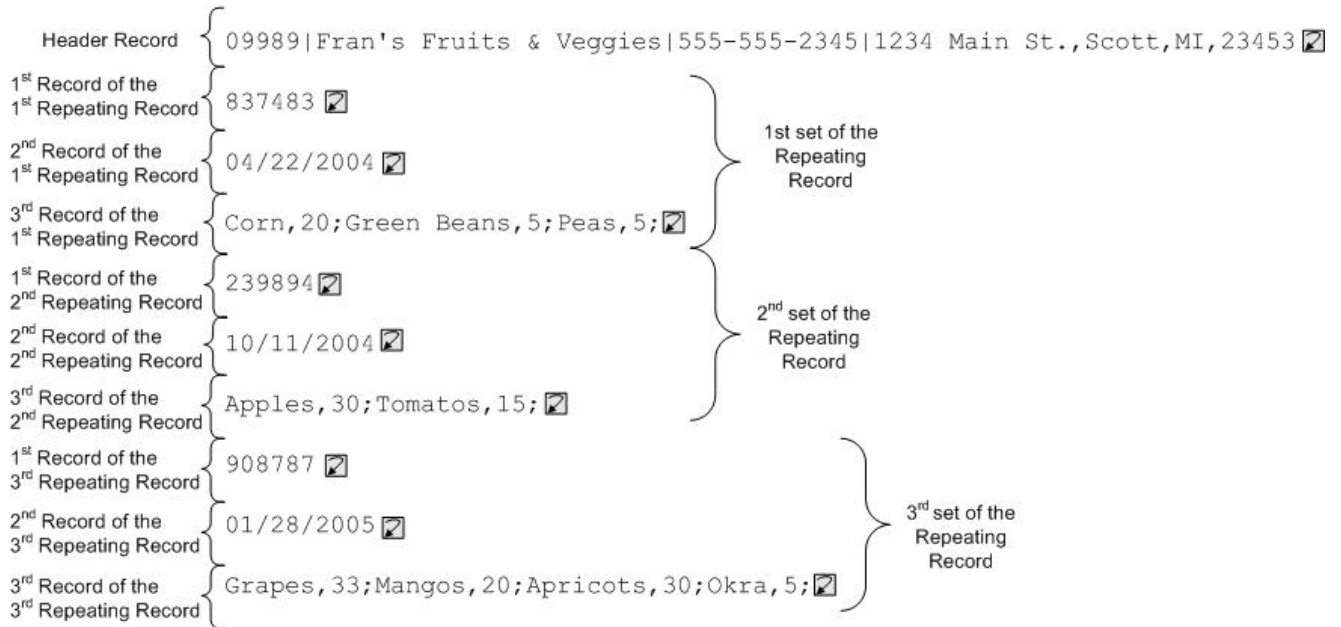
グループまたはグループ・タイプの追加

このタスクについて

グループを追加する理由

グループを使用すると、一連のレコードの反復オカレンスを作成できます。例えば、ループを定義するために EDI メッセージでグループを使用します。複数のレコードを含む反復の始まりと終わりを明確に示す追加の区切り文字または構造がデータで提供されていない場合にのみ、グループが必要になります。次のデータ例は、グループを使用して定義可能なレコードの反復セットを示しています。

Using Groups to Define Repeating Sets of Data



グループには、任意数のレコードまたは他のグループを入れることができます。グループにフィールドを入れることはできません。前述の入力フラット・ファイル・データをモデル化するためのグループの使用例については、『[グループの例](#)』を参照してください。

グループは「スキーマ・レイアウト」タブで作成します。グループ・タイプに基づいていないグループは、次のアイコンを使用して「スキーマ・レイアウト」タブに表示されます。



グループ・タイプに基づくグループは、次のアイコンを使用して「スキーマ・レイアウト」タブに表示されます。



注: グループはプロジェクトに対してグローバルではなく、現行フラット・ファイル・スキーマでのみ再使用が可能です。

グループ・タイプを追加する理由

グループ・タイプを使用すれば、反復するレコードまたはグループのセットを一度定義するだけで、そのセットをフラット・ファイル・スキーマ内で何度も使用できます。グループ・タイプに定義されたオカレンス・プロパティおよび内容は、そのタイプに基づくすべてのグループに継承されます。

注:

- グループ・タイプに基づくグループには、グループ・タイプから継承されたノード以外の内容を入れることはできません。
- グループ・タイプから継承された内容は、「スキーマ・レイアウト」タブに表示されません。
- グループ・タイプは、他のグループ・タイプに基づくことも可能です。

- グループ・タイプはプロジェクトに対してグローバルではなく、現行フラット・ファイル・スキーマでのみ再使用が可能です。

グループ・タイプは「タイプ・ライブラリー」タブで作成します。グループ・タイプに基づいていないグループ・タイプは、次のアイコンを使用して「タイプ・ライブラリー」タブに表示されます。



グループ・タイプに基づくグループ・タイプは、次のアイコンを使用して「タイプ・ライブラリー」タブに表示されます。



グループまたはグループ・タイプの追加

次の手順で説明しているように、グループとグループ・タイプの追加手順は、最初に選択するタブを除いては同じです。グループまたはグループ・タイプを追加するには、以下のようにします。


手順

1. 「プロジェクト」タブから「フラット・ファイル・スキーマ」を開きます。
2. 適切なタブを選択します。
 - グループを追加するには、「スキーマ・レイアウト」タブを選択します。
 - グループ・タイプを追加するには、「タイプ・ライブラリー」タブを選択します。
3. 適切なタブを選択します。
 - グループを追加するには、「スキーマ・レイアウト」タブを選択します。
 - グループ・タイプを追加するには、「タイプ・ライブラリー」タブを選択します。
4. リストから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「新規の子」 > 「グループ」: グループを現行ノードの子として追加する場合。
 - 「新規の兄弟」 > 「グループ」: グループを現行ノードの兄弟として追加する場合。
 - 「**新規の子**」: 現行グループまたはレコードの子としてグループを一括で追加する場合。
5. 「新規グループ」ダイアログ・ボックスで、**有効なノード名**を「グループ名」フィールドに入力します。
6. このグループをグループ・タイプに基づくものにするには、「グループに基づく」リストからグループ・タイプを選択します。
7. 「OK」をクリックします。グループ・ノードが適切なタブ(「スキーマ・レイアウト」または「タイプ・ライブラリー」)に表示され、「基本プロパティ」ペインにグループ・プロパティが表示されます。
8. グループのプロパティを指定します。

このグループがグループの内容を定義するグループ・タイプに基づく場合、これでグループは完成です。そうでない場合は、グループの内容を定義します。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


グループ・プロパティ

「スキーマ・レイアウト」タブでグループを選択すると、グループの「基本プロパティ」が表示されます。「タイプ・ライブラリー」タブでグループ・タイプを選択すると、そのグループ・タイプの「基本プロパティ」が表示されます。次の表に、グループまたはグループ・タイプの「基本プロパティ」を示します。

フィールド	説明
名前	このフィールドの名前を指定します。 重要: フィールド名は 有効なノード名 でなければなりません。
タイプ	オプション: グループのベースとして使用するグループ・タイプを指定します。「タイプ」リストは、選択したグループ・ノードに子がなく、グループ・タイプが作成済みである場合にのみアクティブになります。グループに子がある場合、そのグループはグループ・タイプからグループまたはレコードを継承できません。 重要: 新しいタイプを選択すると、フィールドの既存プロパティの一部が新しい設定でリセットされる可能性があります。
リセット	このグループに対してローカルに設定されたプロパティを、選択したタイプの値にリセットします。「リセット」は、「タイプ」リストからグループ・タイプが選択された場合にのみアクティブになります。
最小オカレンス	グループの最小オカレンスを指定します。デフォルトは1で、この場合グループは必須になります。このグループがオプションの場合は、0を選択してください。
最大オカレンス	グループの最大オカレンスを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• 上限なし - このグループを無制限に反復できることを指定します。上限なしのオプション・グループには、少なくとも1つの必須レコードが含まれていなければなりません。• 範囲 - このグループの最大反復回数を指定します。グループの実際のオカレンスは、この数値以下になります。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

グループの例

このタスクについて

この例は、グループを使用してレコードの反復セットを解析するフラット・ファイル・スキーマを示しています。次の入力フラット・ファイル・データの例で示すように、反復レコードのセットにはそれぞれ、異なるタイプのレコードが含まれています。

図 1. 入力フラット・ファイルの例

ヘッダー・レコード	{ 099989 I Fran's Fruits & Veggies I 555-555-2345 I 1234 Main St.,Scott,MI,23453	
1 番目の反復レコードの 1 番目のレコード	{ 837483	反復レコードの 1 番目の セット
1 番目の反復レコードの 2 番目のレコード	{ 04/22/2004	
1 番目の反復レコードの 3 番目のレコード	{ Corn,20;Green Beans,5;Peas,5;	
2 番目の反復レコードの 1 番目のレコード	{ 239894	反復レコードの 2 番目の セット
2 番目の反復レコードの 2 番目のレコード	{ 10/11/2004	
2 番目の反復レコードの 3 番目のレコード	{ Apples,30;Tomatos,15;	
3 番目の反復レコードの 1 番目のレコード	{ 908787	反復レコードの 3 番目の セット
3 番目の反復レコードの 2 番目のレコード	{ 01/28/2005	
3 番目の反復レコードの 3 番目のレコード	{ Grapes,33;Mangos,20;Apricots,30;Okra,5;	

このデータ例で、反復セットの 1 番目、2 番目、および 3 番目のレコードは、それぞれタイプの異なるレコードです。また、この例では、「タイプ・ライブラリー」タブに保管されたタイプがフラット・ファイル・スキーマでどのように使用されるかについても説明します。この例では、フラット・ファイル・スキーマを初めから作成するのではなく、既存のフラット・ファイル・スキーマを表示およびテストします。

図 1 に表示された入力データの解析に使用するフラット・ファイル・スキーマを開き、表示し、テストするには、以下のようにします。

手順

- この例では、フラット・ファイル・スキーマは既に FlatFileSchemasExample プロジェクト内で作成されています。フラット・ファイル・スキーマを表示するには、まず FlatFileSchemasExample プロジェクトを解凍する必要があります。
 - Studio 内で定義されたデフォルト作成パスを見つけます。これは、新しいプロジェクトの作成先ディレクトリーです。現行「デフォルト作成パス」を表示するには、「Studio」ツールバー・メニューから「ファイル」>「設定...」を選択します。「設定」ダイアログ・ボックスが開きます。現行「デフォルト作成パス」がペインの下部に表示されます。デフォルトでは、「デフォルト作成パス」は次のディレクトリーにあります。

C:\%Documents and Settings\%myLogin\%My Documents


myLogin はご使用の Windows ログイン名です。

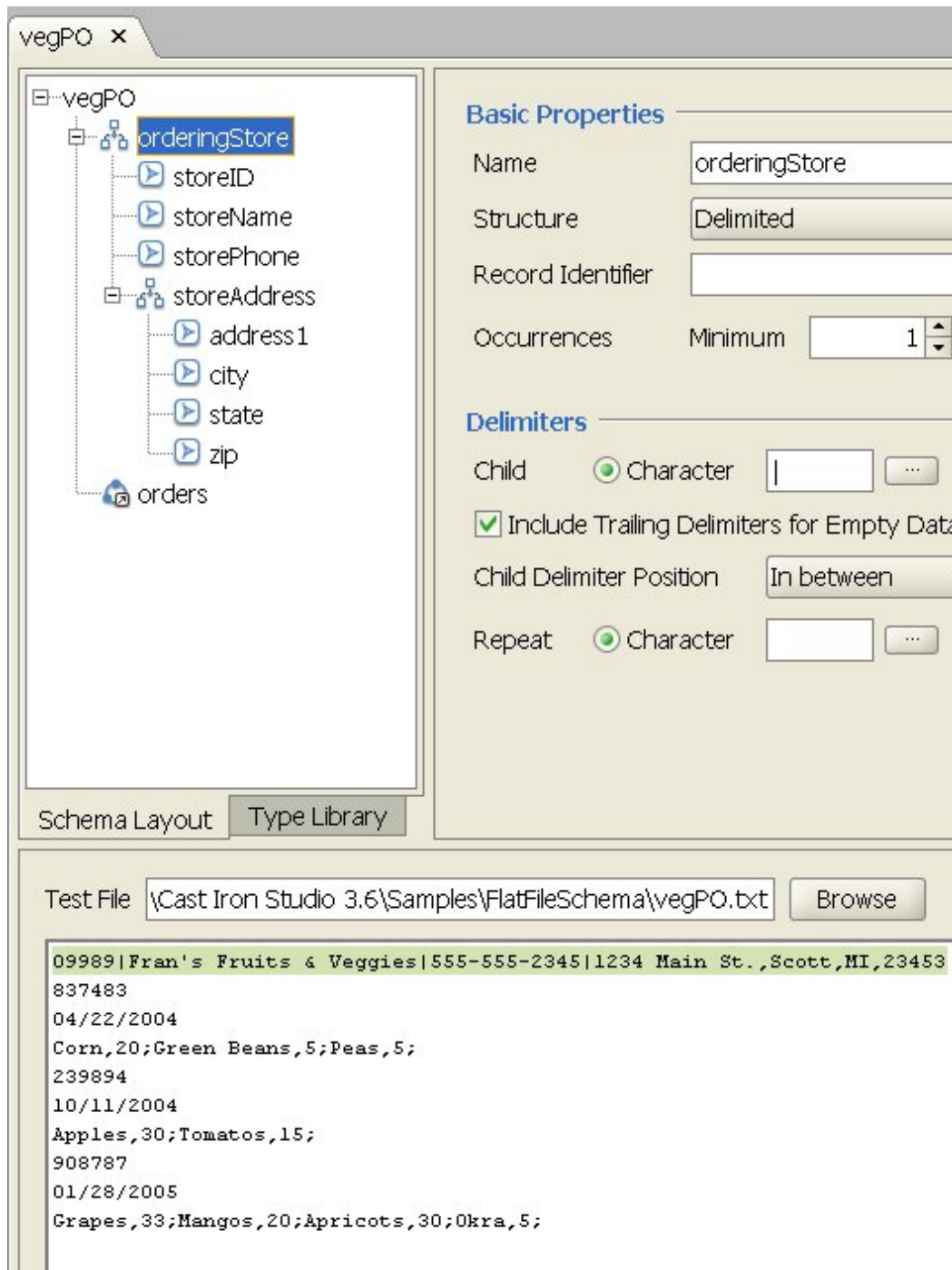
- b. FlatFileSchemasExample プロジェクトを構成するファイルを含む FlatFileSchemasExample.zip ファイルを見つけます。Studio のインストール時にデフォルトを受け入れた場合、このファイルは次のディレクトリーにあります。

C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio 3.X\Samples\FlatFileSchema

- c. FlatFileSchemasExample.zip ファイルを FlatFileSchema ディレクトリーから「デフォルト作成パス」ディレクトリーにコピーします。
 - d. FlatFileSchemasExample.zip ファイルの内容を「デフォルト作成パス」ディレクトリーに解凍します。
2. FlatFileSchemasExample プロジェクトを開きます。
 - a. 「Studio」ツールバー・メニューから「ファイル」>「プロジェクトを開く...」を選択します。「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - b. FlatFileSchemasExample ディレクトリーを参照して開きます。
 - c. FlatFileSchemasExample.sp3 ファイルをクリックし、「開くをクリックします。プロジェクトが表示されます。
 3. 事前に作成された vegPO フラット・ファイル・スキーマを開きます。「プロジェクト」タブの「フラット・ファイル・スキーマ」フォルダーで、vegPO フラット・ファイル・スキーマをダブルクリックします。vegPO フラット・ファイル・スキーマの各ノードが「スキーマ・レイアウト」タブに表示され、vegPO ルート・ノードのプロパティーが右ペインに示されます。
 4. vegPO フラット・ファイル・スキーマをテストします。
 - a. テスト・ペインで、「参照」をクリックします。「サンプル・テスト・データ・ファイルを開く」ダイアログ・ボックスが開きます。
 - b. 入力データが入っている vegPO.txt ファイルを参照します。Studio のインストール時にデフォルトを受け入れた場合、このファイルは次のディレクトリーにあります。

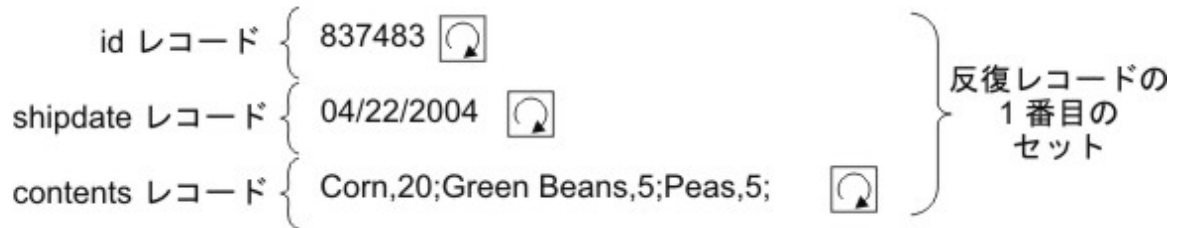
C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio 3.X\Samples\FlatFileSchema

- c. 「開く」をクリックします。vegPO.txt ファイルからの入力データが「テスト」タブの左ペインに表示されます。
 - d. 「テスト」() アイコンをクリックします。結果ペインに、変換の結果が XML データとして表示されます。
5. 「スキーマ・レイアウト」タブで、vegPO ルート・ノードをクリックします。vegPO ルート・ノードが以下のプロパティーとともに表示されます。
 - a. 「構造」プロパティーは「区切り (Delimited)」と同じです。ルート・ノードの構造は区切り文字で区切られます。
 - b. 「子区切り文字」は「行の末尾」と同じです。子レコードは行末で区切られます。
 - c. 「子区切り文字の位置」は「後」と同じです。各レコードの後に区切り文字が必要です。
 - d. 「反復 (Repeat)」区切り文字は「行の末尾」と同じです。反復レコードも行末で区切られます。
 6. 「スキーマ・レイアウト」タブで orderingStore ノードをクリックします。次の図に示すように、テスト・ペイン内で入力データの先頭行が強調表示されます。



vegPO フラット・ファイル・スキーマの最初のレコードは、一度しか発生しない、orderingStore と呼ばれるヘッダー・レコードです。「スキーマ・レイアウト」タブには、orderingStore レコードを構成するフィールドおよびレコードが子として表示されます。この先頭行が解析され、orderingStore レコードを構成するフィールドおよびレコードに入れられます。

最初のヘッダー・レコードの後に、反復エレメントのセットが始まります。反復エレメントの各セットには、次の図に示すように、それぞれ異なるタイプの3つの子レコードが含まれています。



フラット・ファイル・スキーマ・エディターでグループを使用して、異なるタイプの子レコードを含む反復レコードをモデル化できます。複数のレコードを含む反復の始まりと終わりを明確に示す追加の区切り文字または構造がデータで提供されていない場合にのみ、グループが必要になります。反復の区切り文字は、親レコードまたはルート・ノードから継承されます。vegPO ルート・ノードのこの例では、反復の区切り文字は行末に設定されています。orders グループ・ノードは、行末区切り文字を使用して、反復レコードを解析します。

7. 「スキーマ・レイアウト」タブで、orders グループ・ノードをクリックします。ペインで以下のグラフィックが変化することに注目してください。
 - テスト・ペインの左サブペインで、ヘッダー行の後にあるすべての行が強調表示されます。この強調表示は、解析後に、先頭レコードの後にあるすべてのレコードが orders グループ・ノードに割り当てられたことを示します。
 - 「基本プロパティ」ペインで、orders グループの「オカレンス」は「上限なし」です。この設定は、このグループの1つ以上のインスタンスが存在可能であることを意味します。
 - 「基本プロパティ」ペインで、orders グループの「タイプ」は order と同じです。この設定は、orders グループが order グループ・タイプに基づくことを意味します。order グループ・タイプの内容およびプロパティは、「タイプ・ライブラリー」タブで定義されています。
8. 「タイプ・ライブラリー」タブを選択します。vegPO フラット・ファイル・スキーマで使用されるレコード・タイプおよびグループ・タイプが表示されます。次の図に示すように、order グループ・タイプには3つのレコードが含まれています。



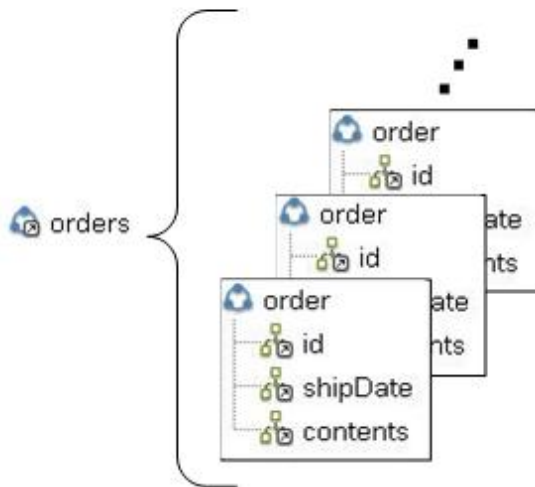
次のアイコンは、レコード・タイプに基づくレコードを表します。



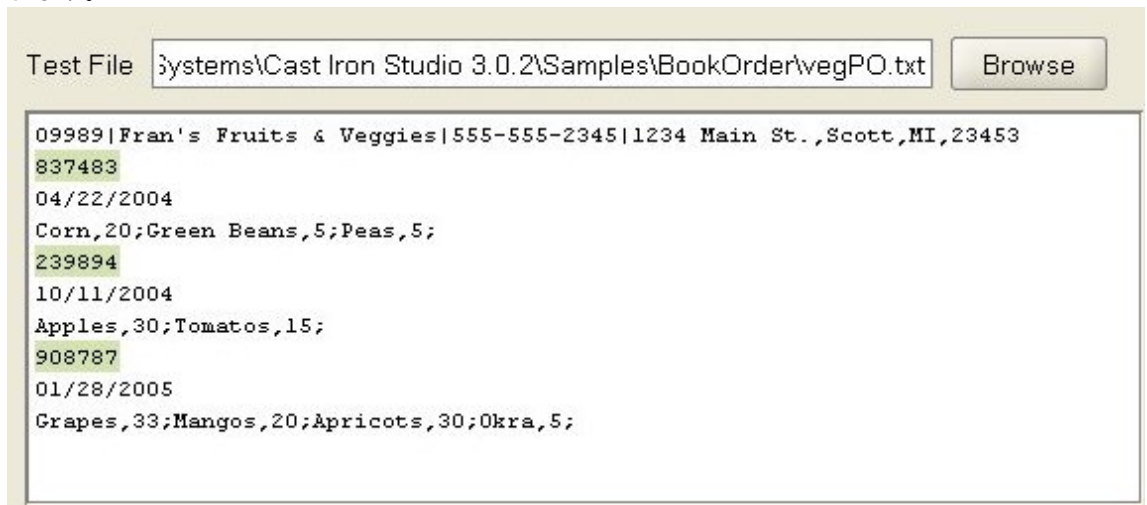
order グループ・タイプの orders グループは、以下の特性を持つため、異なるレコードから成る反復レコードのセットを定義します。

- orders グループのインスタンスは1つ以上存在可能です。
- order グループ・タイプにはタイプが異なる3つのレコードが含まれます。
- orders グループは、order グループ・タイプに基づくか、このグループ・タイプから継承されません。

次の図は、orders グループと order グループ・タイプの反復関係を示しています。

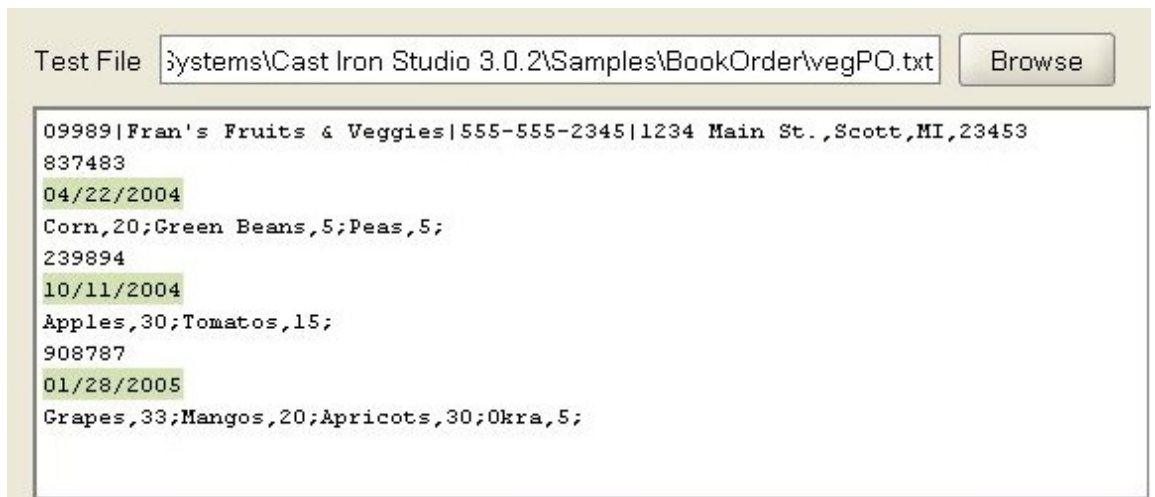


9. 「タイプ・ライブラリー」タブで、order グループ・タイプの id レコード・ノードをクリックします。ペインで以下のグラフィックが変化することに注目してください。
 - 「基本プロパティ」ペインで、id レコードの「タイプ」は、orderID という名前のレコード・タイプと同じです。この設定は、id レコードが orderID レコード・タイプに基づくことを意味します。
 - 次の図に示すように、テスト・ペインの左サブペインで、各反復レコードの先頭行が強調表示されます。



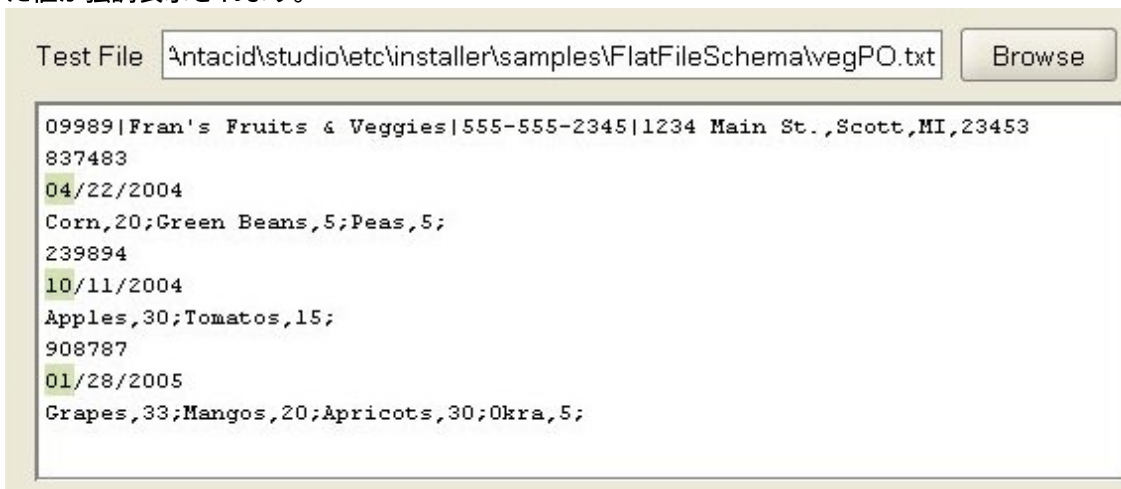
この強調表示は、各反復レコードの先頭行が id レコードに割り当てられていることを示します。

10. 「タイプ・ライブラリー」タブで、order グループ・タイプの shipdate レコード・ノードをクリックします。ペインで以下のグラフィックが変化することに注目してください。
 - 「基本プロパティ」ペインで、shipdate レコードの「タイプ」は、shippingDate という名前のレコード・タイプと同じです。この設定は、shipdate レコードが shippingDate レコード・タイプに基づくことを意味します。
 - 「基本プロパティ」ペインで、shipdate レコードの「構造」は「定位置」です。この設定は、shipDate レコードの子フィールドが、区切り文字によってではなく、レコード内のフィールドの位置と長さによって判別されることを意味します。
 - 次の図に示すように、テスト・ペインの左サブペインで、各反復レコードの 2 行目が強調表示されます。

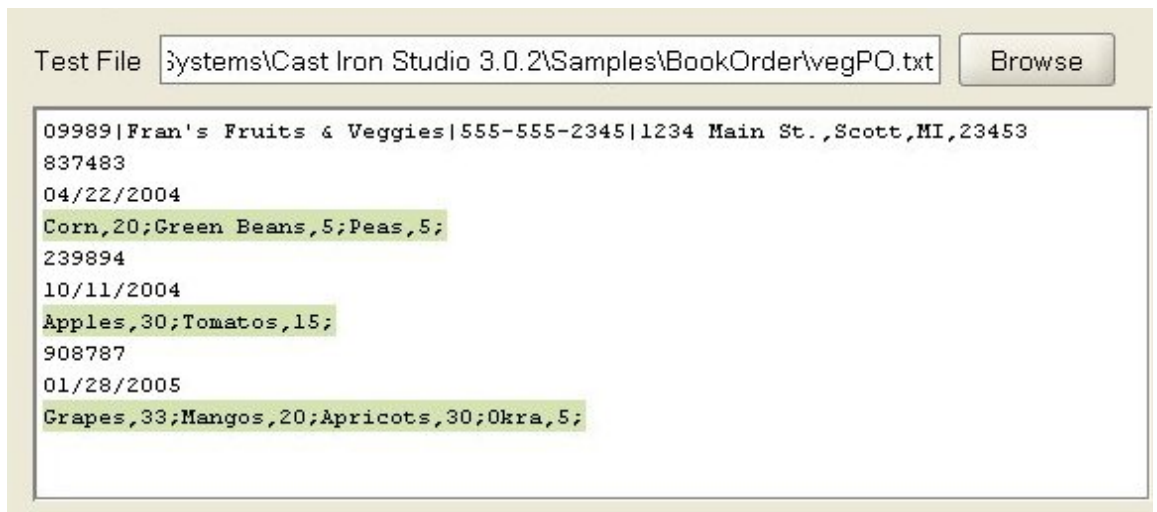


この強調表示は、各反復レコードの2行目が shipDate レコードに割り当てられていることを示します。shipDate レコードには、shippingDate レコード・タイプから継承された、3つの定位置子フィールド(「month」、「day」、および「year」)が含まれています。

11. 「タイプ・ライブラリー」で、month レコード・タイプの「month」フィールド・ノードをクリックします。次の図に示すように、テスト・ペインの左サブペインで、「month」フィールドに割り当てられた値が強調表示されます。

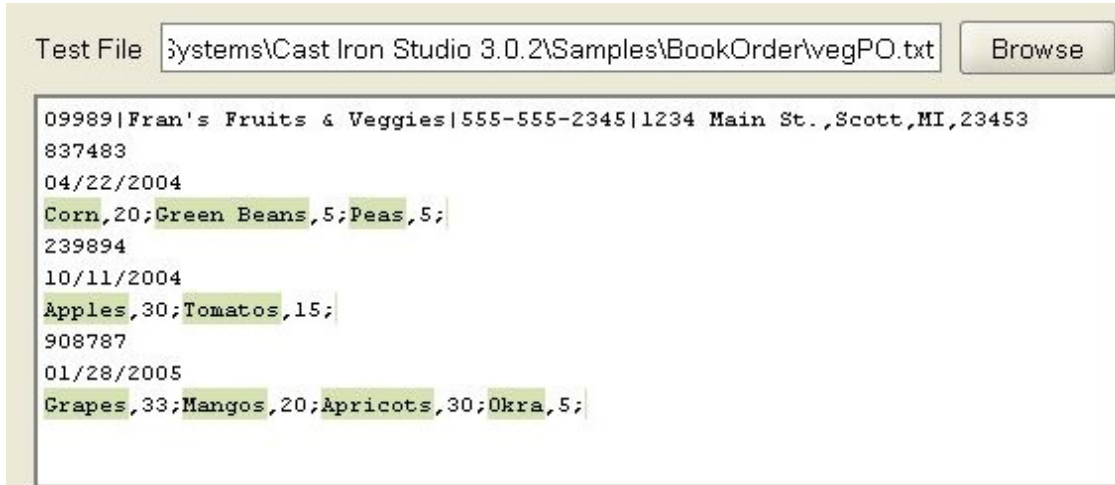


12. 「タイプ・ライブラリー」で、order グループ・タイプの contents レコード・ノードをクリックします。ペインで以下のグラフィックが変化することに注目してください。
 - 「基本プロパティ」ペインで、contents レコードの「タイプ」は、orderContent という名前のレコード・タイプと同じです。この設定は、contents レコードが orderContent レコード・タイプに基づくことを意味します。
 - 次の図に示すように、テスト・ペインの左サブペインで、各反復レコードの3行目が強調表示されます。



orderContent レコード・タイプには、vegetables レコードが含まれています。vegetables レコードには、vegetable レコードの反復セットが含まれています。vegetable レコードには、「name」フィールドおよび「pounds」フィールドが含まれています。

- 「タイプ・ライブラリー」で、orderContent レコード・タイプの name レコード・ノードをクリックします。次の図に示すように、テスト・ペインの左サブペインで、「name」フィールドに割り当てられた値が強調表示されます。



親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Group_Example.html

「スキーマ」タブ内のノードの処理

このタスクについて

「スキーマ」タブまたは「タイプ・ライブラリー」タブで、次のアクションを実行できます。


- [ノードのコピー](#)
- [ノードの削除](#)
- [ノードの名前変更](#)
- [ノードの移動](#)

多数の子を一括して追加することもできます。詳しくは、『[複数の子の追加](#)』を参照してください。

- [ノードのコピー](#)
- [ノードの削除](#)
- [ノードの名前変更](#)
- [ノードの移動](#)

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Working_with_Nodes_in_the_Schema_Tabs.html

ノードのコピー

このタスクについて

「スキーマ・レイアウト」タブまたは「タイプ・ライブラリー」タブで、次の手順を使用してノードをコピーできます。

- ノードをコピーして下位ノードを貼り付ける
- ノードをコピーして兄弟ノードを貼り付ける

ノードをコピーするには、キーボード・ショートカット (CTRL+C、CTRL+V、CTRL+X) またはツールバー・メニューの「編集」オプション (「編集」 > 「切り取り」、 「編集」 > 「コピー」、 「編集」 > 「貼り付け」) も使用できます。

ノードをコピーして下位ノードを貼り付けるには、次のようにします。

ノードを子として貼り付けると、選択したレコードまたはグループ内の既存の子の末尾にノードが配置されません。

1. コピーするノードを右クリックします。
2. 「コピー」を選択します。
3. 貼り付けるノードの親になるレコードまたはグループを右クリックします。
4. 「子として貼り付け」を選択します。

コピー元と同じレコードまたはグループ内にノードを貼り付けた場合、フラット・ファイル・スキーマ・エディターは新しいノードの名前を copy_node-name に変更します。

ノードをコピーして兄弟ノードを貼り付けるには、次のようにします。


ノードを兄弟として貼り付けると、選択したノードのすぐ上にノードが配置されます。このオプションは、ルート・ノードでは使用できません。

1. コピーするノードを右クリックします。
2. 「コピー」を選択します。
3. 貼り付けるノードのすぐ下に配置されるノードを右クリックします。
4. 「兄弟として貼り付け」を選択します。

コピー元と同じレコードまたはグループ内にノードを貼り付けた場合、フラット・ファイル・スキーマ・エディターは新しいノードの名前を copy_node-name に変更します。

親トピック: [「スキーマ」タブ内のノードの処理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Working_with_Nodes_copy.html

ノードの削除

このタスクについて

「スキーマ・レイアウト」タブまたは「タイプ・ライブラリー」タブで、次のいずれかの手順を使用してノードを削除できます。

- ツリー・ノードを右クリックしてノードを削除する
- Delete キーを使用してツリー・ノードを削除する

キーボード・ショートカット (CTRL+X) またはツールバー・メニューの「編集」 > 「切り取り」オプションを使用してノードを削除することもできます。

ツリー・ノードを右クリックしてノードを削除するには、次のようにします。

1. 削除するノードを右クリックします。
2. リストから「削除」を選択します。


Delete キーを使用してツリー・ノードを削除するには、次のようにします。

1. 削除するノードをクリックします。
2. Delete キーを押します。

重要: 「タイプ・ライブラリー」タブ内で削除したタイプ・ノードが、「スキーマ・レイアウト」タブ内のレコード、グループ、またはフィールドの基礎として使用されていた場合、そのタイプに基づくノードは次のような影響を受けます。

- 「タイプ」が「なし」に変更されます。
- ノード・プロパティは変更されないままですが、タイプ・ノードから継承した内容は削除されます。

親トピック: [「スキーマ」タブ内のノードの処理](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Working_with_Nodes_delete.html

ノードの名前変更

このタスクについて

「スキーマ・レイアウト」タブまたは「タイプ・ライブラリー」タブで、次のいずれかの手順を使用してノードを名前変更できます。

- 「基本プロパティ」ペインからノード名を変更する
- ショートカット・メニューを使用してノード名を変更する
- F2 を使用してノード名を変更する

ノードの名前変更は、ツールバー・メニューの「編集」 > 「名前変更」オプションを使用して行うこともできます。

「基本プロパティ」ペインからノード名を変更するには、次のようにします。

1. ノードをダブルクリックして、ノードのプロパティを開きます。
2. 「基本プロパティ」ペインの「名前」テキスト・フィールドに新しい名前を入力します。

注: ノード名の編集を取り消すには、Esc キーを押します。

ショートカット・メニューを使用してノード名を変更するには、次のようにします。

1. ノードを右クリックします。
2. リストから「名前変更」を選択します。
3. 新しい有効なノード名を入力します。

注: ノード名の編集を取り消すには、Esc キーを押します。

F2 を使用してノード名を変更するには、次のようにします。

1. 名前変更するノードをクリックします。
2. F2 を押します。
3. 新しい有効なノード名を入力します。

親トピック: [「スキーマ」タブ内のノードの処理](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

ノードの移動

このタスクについて

「スキーマ・レイアウト」タブまたは「タイプ・ライブラリー」タブで、次のいずれかの手順を使用してノードを移動できます。


- ノードをコピーして下位ノードを貼り付ける (『[ノードのコピー](#)』の説明に従います)
- ノードをコピーして兄弟ノードを貼り付ける (『[ノードのコピー](#)』の説明に従います)
- ドラッグ・アンド・ドロップを使用してノードを移動する

ドラッグ・アンド・ドロップを使用してノードを移動するには、次のようにします。

1. 「スキーマ・レイアウト」タブまたは「タイプ・ライブラリー」タブで、移動するノードを選択します。
2. ノードを別のノード上にドラッグします。
 - ノードを最後の子にするには、新しい親になるルート、レコード、またはグループの上にドロップします。

親トピック: [「スキーマ」タブ内のノードの処理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Working_with_Nodes_move.html

複数の子の追加

このタスクについて

ルート・ノードまたはレコードに複数の子レコードまたはフィールドを追加するには、ノードを右クリックして、リストから「新規の子」オプションを選択します。

フラット・ファイル・スキーマに複数の子ノードを追加するには、以下のようになります。


手順

1. [新しいフラット・ファイル・スキーマを作成する](#)か、既存のフラット・ファイル・スキーマを「プロジェクト」タブで選択して開きます。
2. 「スキーマ・レイアウト」タブまたは「タイプ・ライブラリー」タブのいずれかを選択します。
3. ツリーのルート・ノードまたはレコード・ノードを右クリックして、「新規の子」を選択します。「一括追加」ダイアログ・ボックスが開きます。

4. 「追加」をクリックします。
5. 「名前」フィールドをクリックして、追加するフィールド、レコード、またはグループの**有効なノード名**を入力します。
6. 「ノード・タイプ」フィールドをクリックして、子のノード・タイプ(「フィールド」、「グループ」、または「レコード」)をリストから選択します。
7. このノードがレコード・タイプ、グループ・タイプ、またはフィールド・タイプに基づく場合は、「タイプに基づく」フィールドをクリックして、リストから既存のタイプを選択します。
8. 追加するノードごとに、ステップ4から7を繰り返します。
9. リスト内のノードを再編成または削除するには、以下のようにします。
 - リストの上方に子を移動するには、「上へ」をクリックします。
 - リストの下方に子を移動するには、「下へ」をクリックします。
 - 子を削除するには、「削除」をクリックします。
10. 終わったら、「OK」をクリックします。
11. 「スキーマ・レイアウト」タブまたは「タイプ・ライブラリー」タブで、ノードを選択し、プロパティを編集します。
 - [フィールド・プロパティを編集](#)
 - [レコード・プロパティを編集](#)
 - [グループ・プロパティを編集](#)

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/mde_Adding_Several_Children.html

有効なノード名

フラット・ファイル・スキーマが作成されると、メタデータの表記に基づく内部 XML スキーマも生成されるため、レコード、フィールド、およびグループに指定するノード名は、有効な XML 名でなければなりません。フラット・ファイル・スキーマでノードを作成するとき際は、次の表に示されている命名上の制約に従ってください。

重要: 「名前」フィールドには無効文字を入力できますが、誤ったフラット・ファイル・スキーマが生成されるおそれがあります。無効なスキーマから変数を作成することはできません。


次の表に、XML の命名上の制約を示します。

有効な名前のタイプ	説明
名前の先頭文字	<ul style="list-style-type: none"> ● 文字: 大文字と小文字の両方 ● 句読点: 下線 (_)
名前の先頭以外の文字	<ul style="list-style-type: none"> ● 文字: 大文字と小文字の両方 ● 句読点: 下線、ピリオド、およびハイフン ● 数値: 0 から 9

無効文字	説明
	スペース
:	コロソ
~	波形記号
/	スラッシュ
\	円記号
;	セミコロソ
?	疑問符
\$	ドル記号
&	アンパーサソド
%	パーセント記号
@	アツトマーク
^	ハツト記号
=	等号
*	アスタリスク
+	正符号
()	小括弧
	パイプ
'" `	あらゆる引用符
{ } [] > <	あらゆる括弧

親トピック: [フラツト・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Valid_Node_Names.html

「タイプ・ライブラリー」タブ


「タイプ・ライブラリー」タブでは、レコード、グループ、およびフィールドの再使用可能タイプを定義できます。レコード・タイプ、グループ・タイプ、およびフィールド・タイプを定義すると、フラツト・ファイル・スキーマの各部分で再使用可能なプロパティを定義できます。また、レコード・タイプおよびグループ・タイプでは、再使用可能なコンテンツを定義できます。ここでは、フラツト・ファイル・データの同じセット内の多くの場所にレコードまたはグループを使用できます。

注: 「タイプ・ライブラリー」タブで作成するタイプは、「スキーマ・レイアウト」タブに表示されるフラツト・ファイル・スキーマと併用する場合にのみ使用できます。このタイプを、同じプロジェクト内の他のフラ

ット・ファイル・スキーマで使用することはできません。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_The_Type_Library.html

オプションのフィールドおよびレコードの指定

このタスクについて

フラット・ファイル・スキーマでオプションのフィールドまたはレコードを作成するときは、フラット・ファイル・データがどのように解析されるかを理解することが重要です。そうすれば、あいまいさを防止するようにフラット・ファイル・スキーマを設計することができます。例えば、区切り文字で区切られているルート・ノードと3つの子ストリング・フィールドを持つフラット・ファイル・スキーマを作成し、子ストリング・フィールドの field1 が必須、field2 がオプション、field3 が必須だとすると、実行時に次のデータを解析する場合にスキーマの文法はあいまいになります。

A,C

このフラット・ファイル・データは次の2とおりに解析される可能性があります。


- field1 は A に等しく、かつ field2 は B に等しい
- field1 は A に等しく、かつ field3 は C に等しい

オプション・フィールドの後に必須フィールドを指定すると、正しく解析できないあいまいな文法が定義されます。オプション・フィールドの後に必須レコードを指定しても、正しく解析できないあいまいな文法が定義されます。

このフラット・ファイル・スキーマを、field1 が必須、field2 がオプション、field3 がオプションという3つの子ストリング・フィールドを含むように再定義しても、この問題は修正されません。フラット・ファイル・データ A,C が解析されるとき、field1 が A に等しく、field2 が C に等しくなるためです。ここでもスキーマの文法はあいまいです。つまりこれは望ましい結果ではありません。望ましいのは値 C が field3 に割り当てられることです。必須レコードの後に2つのオプション・レコードを指定しても、あいまいな文法が定義されます。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Specifying_Optional_Fields_and_Records.html

IDOC からのフラット・ファイル・スキーマの生成

設計時に、「プロジェクト」 > 「インポート」 > 「SAP IDOC スキーマ」 ツールバー・メニュー・オプションを使用して、SAP エンドポイントで IDOC メタデータを検索し、そのメタデータからフラット・ファイル・スキーマを生成できます。

警告: Studio から SAP システムに接続するには、Windows の開発ワークステーション上に、[SAP JAR ファイル](#) および [DLL をダウンロードおよびインストール](#)する必要があります。

SAP システムとの間で SAP ファイル・ポート経由で SAP データをファイルとして送受信する場合は、設計時に「プロジェクト」 > 「インポート」 > 「SAP IDOC スキーマ」 ツールバー・メニュー・オプションを使用して IDOC メタデータ用のフラット・ファイル・スキーマを生成し、実行時に「フラット・ファイルの読み取り」および「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティを使用して SAP データの読み取りおよび書き込みを行う必要があります。詳しくは、以下の 2 つのオーケストレーション例を参照してください。

RFC ポートを使用して SAP システムとの間で直接 SAP データを送受信する場合は、「[SAP: IDOC の受信 \(SAP Receive IDOC\)](#)」および「[SAP: IDOC の送信 \(SAP Send IDOC\)](#)」アクティビティを使用する必要があります。

実行時に生成されたフラット・ファイル・スキーマを使用

設計時に、「プロジェクト」 > 「インポート」 > 「SAP IDOC スキーマ」 ツールバー・メニュー・オプションを使用して、SAP ファイル・ポートとの間で送受信される SAP データを記述するフラット・ファイル・スキーマを生成します。このセクションでは、以下の 2 つのオーケストレーション例を通じて、このフラット・ファイル・スキーマが実行時にどのように使用されるかを説明します。

SAP ファイル・ポートを使用した SAP システムからの SAP フラット・ファイル・データの受信

この最初のオーケストレーション例では、以下のアクティビティを使用して、実行時に SAP システムから SAP データを受信します。

1. 「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティでポーリングしているディレクトリーに SAP データ・ファイルが追加されます。これにより、オーケストレーション・ジョブの処理が開始されます。
2. 「FTP ディレクトリーのポーリング」は、SAP フラット・ファイル・データを読み取り、結果をストリング変数に保存します。
3. 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティは、「プロジェクト」 > 「インポート」 > 「SAP IDOC スキーマ」 ツールバー・メニュー・オプションを使用して設計時に生成されたフラット・ファイル・スキーマを使用して、ストリング変数に保管されている SAP データを XML データに変換し、XML データを XML 変数に保存します。
4. 「データベース: 行の挿入 (Database Insert Rows)」アクティビティは、XML 変数から一部のデータベース行に XML データをマップし、これらの行をデータベースに挿入します。

SAP ファイル・ポートを使用した SAP システムへの SAP フラット・ファイル・データの送信

この 2 番目のオーケストレーション例では、以下のアクティビティを使用して、実行時に SAP システムに SAP データを送信します。

1. データがデータベースに挿入され、「データベース: 挿入済み行の取得 (Database Get Inserted Rows)」アクティビティが起動され、処理が開始されます。
2. 「データベース: 挿入済み行の取得」アクティビティは、データベースに挿入されたデータを取得し、データを XML データに変換します。
3. 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティは、XML 変数の内容を、「プロジェクト」 > 「インポート」 > 「SAP IDOC スキーマ」 ツールバー・メニュー・オプションを使用して設計時に生成されたフラット・ファイル・スキーマに対して有効な SAP フラット・ファイル・データに変換します。
4. 「FTP ファイルの書き込み (FTP Put File)」アクティビティは、ディレクトリー内のファイルにフラット・ファイル・データを書き込みます。
5. SAP システムがファイルからデータを読み取ります。


IDOC からフラット・ファイル・スキーマを生成するには:

1. ツールバー・メニューから「プロジェクト」 > 「インポート」 > 「SAP IDOC スキーマ」を選択します。「SAP IDOC フラット・ファイル・スキーマ・ジェネレーター ステップ 1/2」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 次の表の説明に従って、SAP 接続情報を入力します。

フィールド	説明
ロケーション	
ホスト名	SAP システムのあるワークステーションの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
システム番号	Studio の接続先とする SAP システムの特定インスタンスを識別する番号を指定します。SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
SAP クライアント	Studio を SAP システムのクライアントとして識別するための番号を指定します。SAP 管理者がこの情報を提供する必要があります。
ログイン	
ユーザー名	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名を指定します。
パスワード	SAP システムへの接続時に使用するユーザー名のパスワードを指定します。

3. 「次へ」をクリックします。「SAP IDOC フラット・ファイル・スキーマ・ジェネレーター ステップ 2/2」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 以下のいずれかのオプションを使用して、IDOC タイプと、オプションで IDOC サブタイプを選択します。
 - [...] をクリックして、IDOC タイプと IDOC サブタイプのいずれかまたは両方を参照します。「IDOC リスト」ダイアログ・ボックスが開き、選択した SAP エンドポイントで使用可能な IDOC タイプおよび IDOC サブタイプのリストが示されます。IDOC タイプと IDOC サブタイプのいずれかまたは両方を選択し、「OK」をクリックします。
 - 「IDOC タイプ」と、オプションで「IDOC サブタイプ」を、それぞれのフィールドに直接入力します。
5. 入力 IDOC に、同じ IDOC タイプと IDOC サブタイプの IDOC メッセージのインスタンスが複数含まれている場合は、「バンドル」チェック・ボックスを選択します。「バンドル」にチェック・マークを付けた場合、生成されたフラット・ファイル・スキーマ内の IDOC エレメントは反復エレメントです。
6. 「終了」をクリックします。

フラット・ファイル・スキーマが正常に生成されると、「プロジェクト」タブの「フラット・ファイル・スキーマ」フォルダー内にフラット・ファイル・スキーマが表示されます。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Generating_a_Flat_File_Schema_from_an_IDOC.html

フラット・ファイル・ウィザードの使用

フラット・ファイル・ウィザードは、ユーザーが提供するサンプル・データに基づいてフラット・ファイルのフォーマットを定義するスキーマを作成します。「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティでこのスキーマを使用して、フラット・ファイルを XML 文書に変換します。

最良の結果を得るには、実際のデータに類似したサンプル・データを提供してください。例えば、実際のデータにヘッダー行およびフッター行が含まれている場合は、フィールド名のヘッダー行、およびフッター行が含まれているサンプル・データを提供します。実際のデータに引用符で囲まれたフィールドが含まれている場合は、サンプル・データ内の当該フィールドも引用符で囲む必要があります。

フラット・ファイル・ウィザードは、ファイルの最初の 1000 行のみを読み取ります。サンプル・ファイルに 1000 行を超える行が含まれていて、かつフッター行が含まれている場合は、合計行数が 1000 行の限度内に収まるように、フッター行の前にある行を削除してください。

重要: サンプル・データ内の行にはすべて、同じ数のフィールドが含まれていなければなりません。

フラット・ファイル・ウィザードの使用方法:

1. Studio メニューから「プロジェクト」 > 「フラット・ファイル・ウィザード」を選択します。「フラット・ファイル・ウィザード」が Studio ワークスペースのタブ内に開きます。
2. 「サンプル・データ」テキスト・ボックスにサンプル・データを入力するか、または「参照...」をクリックしてサンプル・ファイルをロードします。
3. 「次へ>」をクリックします。「ファイル・フォーマット」ページが開きます。
4. 次のファイル・フォーマット・オプションのいずれかを選択します。
 - 文字区切りフォーマット (コンマ区切り値フォーマットを含む) - ファイル内の各行に、コンマやタブなどの単一文字で区切られたフィールドを持つレコードがある場合は、このオプションを選択します。
 - このファイルは別の形式です - ファイルが前のファイル・フォーマット・オプションの基準に適合しない場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、フラット・ファイル・ウィザードを使用してフラット・ファイルのスキーマを作成することはできません。
5. 「次へ>」をクリックします。「フィールド区切り文字」ページが開きます。
6. 「フィールドを区切る文字」リストからフィールド分離文字を選択します。「その他:」を選択した場合は、右側に表示されるフィールドに、フィールド分離文字を指定します。
7. フィールドを特定の文字で囲む場合は、「フィールドを囲む文字」リストから、フィールドを囲む文字を選択します。「その他:」を選択した場合は、右側に表示されるフィールドに、囲む文字を指定します。
8. 「次へ>」をクリックします。「ヘッダーおよびトレーラー」ページが開きます。
9. 次のようにヘッダー行およびトレーラー行が存在するかどうかを指定します。

- a. ヘッダー行が存在する場合は、「最初の行をフィールド名のヘッダーとして扱います」を選択します。
 - b. トレーラー行が存在する場合は、「最後の __ 行をトレーラーとして扱います」を選択し、行番号を指定します。
10. 「次へ>」をクリックします。「スキーマ名の編集」ページが開きます。
 11. スキーマ名を入力します。
ヒント: データおよびファイル・フォーマットを記述するようなスキーマ名を選択してください。
 12. 「終了」をクリックします。Studio ツールボックスの「プロジェクト」タブで、作成したフラット・ファイル・スキーマが「フラット・ファイル・スキーマ」ディレクトリーに表示されます。

作成したフラット・ファイルを読み取り、XML に変換するには:


1. 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
2. 「チェックリスト」で「構成」を選択します。「構成」ペインが開きます。
3. 「フラット・ファイル・スキーマの選択」フィールドで、作成したフラット・ファイル・スキーマの名前を指定します。

XML データをフラット・ファイルに変換するには:

1. 「フラット・ファイルの書き込み」アクティビティをオーケストレーションに追加します。
2. 「チェックリスト」で「構成」を選択します。「構成」ペインが開きます。
3. 「フラット・ファイル・スキーマの選択」フィールドで、作成したフラット・ファイル・スキーマの名前を指定します。

親トピック: [フラット・ファイル・スキーマ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Using_the_Flat_File_Wizard.html

マッピング

- [マップについて](#)
マップは、実行時にデータが、統合アプライアンスによってどのように変換されるかを定義します。マップは、データの再編成、データの変換、データの抑制または追加、および計算その他の複合変換を実行できます。
- [マップの作成](#)
変数と入力パラメーターの間、または出力パラメーターと変数の間のマップを作成します。
- [スタンドアロン・マップの作成](#)
「プロジェクト」タブの「変換 (Transformations)」フォルダーに表示されたスタンドアロン・マップは、ソース・ノードと宛先ノードの間の1つ以上のマッピングのセットを表します。
- [「変数のマップ」アクティビティからのスタンドアロン・マップの作成](#)
- [スタンドアロン・マップからの「変数のマップ」アクティビティの作成](#)
- [マッピング・ペインに変数を追加する](#)
アクティビティのマッピング・ペインから選択可能な「入力の選択」ボタンまたは「出力の選択」ボ

タンを使用して、既存の変数をマップに追加したり、新規変数を作成してマップに追加したりできます。

- [パラメーターのコピー](#)
- [マップで使用される変数の置換](#)
- [ノードの検索](#)
- [宛先ノードのデフォルト値の割り当て](#)
- [マッピング手法](#)
- [一致ノードの自動マップ](#)
- [ノードのバルク・マッピング](#)
- [繰り返しノードのマッピング](#)
- [すべてのオカレンスのマッピング](#)
- [特定のオカレンスのマッピング](#)
- [宛先ノードのマップ](#)
- [置換タイプの選択](#)

XML スキーマ仕様では、拡張によって複合タイプを派生させる機能がサポートされています。

- [自動的に削除されるマッピング・ルール](#)
- [オカレンスのカウントの割り当て](#)
- [マッピング・ルールの削除](#)
- [サンプルまたは結果の内容の検索](#)
- [サンプル・メッセージのロード](#)
- [マップのテスト](#)

マップのソース・スキーマと一致する 1 つ以上の サンプル・メッセージを使用して、マップ内に定義された変換をテストできます。


- [変換結果の保存またはクリア](#)
- [「CDATA の出力」オプション](#)
- [サポートされない XML スキーマ機能](#)
- [非マップ宛先ノードについて](#)

統合アプライアンスは変換時に、すべての宛先ノードを結果メッセージに組み込みます。マップされていない宛先ノードは、結果メッセージで空ノードになります。

- [繰り返しノードのフィルタリング](#)

実行時にフィルタリングを実行するための XPath 述部を指定すれば、マッピング・アクティビティから返される繰り返しノードの数を制限できます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_mapping.html

マップについて

マップは、実行時にデータが、統合アプライアンスによってどのように変換されるかを定義します。マップは、データの再編成、データの変換、データの抑制または追加、および計算その他の複合変換を実行できます。

マップは、1つ以上のソースからのデータを1つ以上の宛先に変換できます。例えば、マップは実行時に、1つのXMLスキーマに対して有効なXMLデータを、別のXMLスキーマに対して有効なXMLデータに変換できます。マップの作成を始めるには、マップのソース・ノードと宛先ノードを定義するために使用するXMLスキーマとフラット・ファイル・スキーマが、現行プロジェクト内に存在する必要があります。XMLスキーマまたはDTDのプロジェクトへのアップロードについては、『プロジェクトへのファイルのアップロード』を参照してください。フラット・ファイル・スキーマの作成については、『フラット・ファイル・スキーマの作成』を参照してください。


以下のタイプのマップが Studio で作成できます。

- **インライン・マップ** - インライン・マップまたは組み込みマップは、「プロジェクト」タブには表示されません。これらのマップは、「入力のマップ」および「出力のマップ」タスクを含むアクティビティの構成時、または「[変数のマップ](#)」アクティビティの構成時に、インラインで自動的に作成されます。インライン・マップのソース・タイプと宛先タイプは、選択する変数によって決まります。変数を選択するには、マッピング・エディターの「オーケストレーションから」ペインおよび「オーケストレーションへ」ペインで「追加」をクリックします。インライン・マップは、1つ以上のソース変数から1つ以上の宛先変数にデータを変換します。ソース変数および宛先変数は、任意のデータ型にすることができます。
- **スタンドアロン・マップ** - スタンドアロン・マップは、「プロジェクト」タブの「変換」フォルダーに表示され、ソース・ノードと宛先ノード間の1つ以上のマッピングのセットを表します。スタンドアロン・マップは、「プロジェクト」タブの「変換」フォルダーを右クリックするか、ツールバー・メニュー・オプションから「プロジェクト」 > 「新規」 > 「新規スタンドアロン・マップ」を選択すると作成できます。詳しくは、『[スタンドアロン・マップの作成](#)』を参照してください。インライン・マップのソース・タイプと宛先タイプは、選択するスキーマ・タイプによって決まります。変数を選択するには、マッピング・エディターの「オーケストレーションから」ペインおよび「オーケストレーションへ」ペインで「追加」をクリックします。

また、サンプル・データに対してマップをテストすることもできます。詳しくは、『[マップのテスト](#)』を参照してください。

親トピック: [マッピング](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_About_Maps.html

マップの作成

変数と入力パラメーターの間、または出力パラメーターと変数の間のマップを作成します。

多くの Studio アクティビティには、インラインまたは組み込みのマップが備わっています。これらのマップは、アクティビティの「チェックリスト」で構成する必要があります。アクティビティ内のインライン・マップの構成は、アクティビティの「チェックリスト」の「入力のマップ」タスクまたは「出力のマップ」タスクで行います。さらに、「変数のマップ」アクティビティでもインライン・マップを構成します。マッピング・エディターがオーケストレーションの下に表示されます。

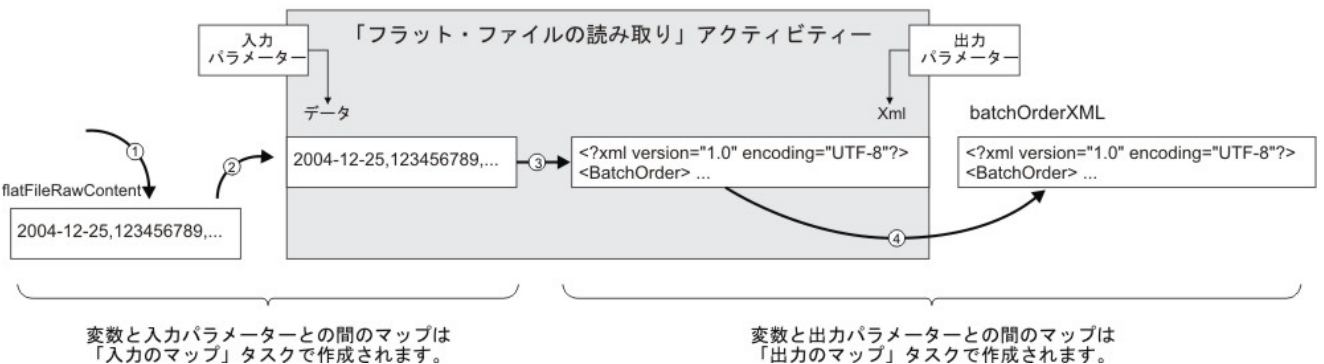
「変数のマップ」アクティビティの構成中にマップを作成する方法については、『[「変数のマップ」アクティビティ](#)』を参照してください。

「入力のマップ」または「出力のマップ」タスクを使用して作成するインライン・マップや、「変数のマップ」アクティビティの構成時に作成するインライン・マップに加えて、スタンドアロン・マップも作成できます。「変数のマップ」アクティビティで、スタンドアロン・マップからインライン・マップを作成できます。詳細については、『[スタンドアロン・マップからの「変数のマップ」アクティビティの作成](#)』を参照してください。

「入力のマップ」タスクで、オーケストレーション(「オーケストレーションから」ペイン)からアクティビティの1つ以上の入力パラメーター(「アクティビティへ」ペイン)に1つ以上の変数をマップします。

「出力のマップ」タスクで、アクティビティ(「アクティビティから」ペイン)からオーケストレーションの1つ以上の変数(「オーケストレーションへ」ペイン)に出力パラメーターをマップします。

通常、実行時には、次の図に示すように、アクティビティがデータをオーケストレーション変数から受け取り、何らかの方法でデータを操作し、結果を別の変数のセットに返します。



前の図に示したアクティビティの例のデータ・フロー(左から右)について、以下のステップで説明します。

1. ここで、変数の内容は、オーケストレーション内の直前のアクティビティである「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory)」アクティビティから提供されています。「FTP ディレクトリーのポーリング (FTP Poll Directory) アクティビティによって、*flatFileRawContent* 変数にコンマ区切り値が保管されます。
2. *flatFileRawContent* 変数の内容が、「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティの Data と呼ばれる入力パラメーターに割り当てられます。
3. 「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティは、コンマ区切り値を XML データに変換し、結果のデータを Xml 出力パラメーターに挿入します。
4. Xml 出力パラメーターの内容が、*batchOrderXML* 変数に割り当てられます。*batchOrderXML* 変数がオーケストレーション内で使用可能になります。オーケストレーション内の次のアクティビティは、*batchOrderXML* 変数の内容を使用できます。

また、「関数」タブにある関数を使用して、パラメーターと変数の間のマップのデータ(「[入力のマップ](#)」および「[出力のマップ](#)」タスクで作成されたデータ)を操作することもできます。詳細については、『[マッピング・ルールへの関数の割り当て](#)』を参照してください。

以下のアクティビティにはマッピングが必要です。

- 「アクティビティ」タブ内の次のフォルダーの下にリストされたすべての接続アクティビティ
 - データベース
 - Eメール
 - FTP
 - HTTP
 - MQ

- SAP
- Web サービス (Web Services)
- 「アクティビティ」タブ内の「変換」フォルダーの下にリストされたすべての変換アクティビティ
- 「ジョブ・キーの作成」アクティビティ

- **入力のマップ**


入力をマップするときに、オーケストレーション (変数) からアクティビティ (パラメーター) へのマッピングが行われます。

- **出力のマッピング**

出力をマップするときに、アクティビティ (パラメーター) からオーケストレーション (変数) へのマッピングが行われます。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_creating_a_map.html

入力のマップ

入力をマップするときに、オーケストレーション (変数) からアクティビティ (パラメーター) へのマッピングが行われます。

このタスクについて

変数と入力パラメーターとの間のマップを作成するには、以下のようにします。

手順

1. オーケストレーションを開くか、[作成](#)します。
2. アクティビティで、特定の XML スキーマまたは DTD に準拠した変数を マッピングしている場合は、[XML スキーマまたは DTD ファイルをプロジェクトにアップロード](#)します。
3. オーケストレーション内で、「チェックリスト」に「入力のマップ」タスクが含まれているアクティビティをクリックします。
4. 「チェックリスト」から、「入力のマップ」タスクを選択します。
5. まだ選択していない場合は、「設計」をクリックします。マッピング・エディターが表示され、アクティビティの入力パラメーターが「アクティビティへ」ペインに表示されます。
6. 「オーケストレーションから」ペインに [変数を追加](#)します。
7. 「オーケストレーションから」ペイン内のソース・ノードを、「アクティビティへ」ペインにリストされた入力パラメーターの宛先ノードにドラッグします。マッピングが有効な場合、ソース・ノードから宛先ノードへのリンク (線) が表示され、マッピング・ルールが確立されたことが示されます。必要なすべてのノードがマップされるまで、このステップを繰り返します。必要なノードを判別する方法の詳細については、アクティビティのヘルプ・トピックを参照してください。

注: 「検索」ダイアログ・ボックスを使用して、ソースまたは宛先スキーマ内のノードを検索できません。

8. オプション: マッピング・ルールに関数を割り当てます。

9. 可能であれば、期待どおりの出力が得られることを確認するため、マッピングをテストします。

注: マップのリンクを変更せずに、マップに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。


次のタスク

ツールバー・メニューの「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを使用すると、アクティビティのオプション入力パラメーターを表示でき、ツールバー・メニューの「マップ」 > 「オプション・パラメーターの非表示」オプションを使用すると、アクティビティのオプションの入力パラメーターを非表示にすることができます。

また、「アクティビティへ」ペイン内を右クリックし、「オプション・パラメーターの表示」を選択してアクティビティのオプション入力パラメーターを表示でき、「オプション・パラメーターの非表示」オプションを選択してオプションの入力パラメーターを非表示にすることもできます。「オプション・パラメーターの表示」オプションを設定すると、アクティビティのオプション入力パラメーターは、接頭部ストリング {optional} が付けられて、「入力のマップ」ペインの「アクティビティへ」ペインに表示されます。ツールバー・メニューで「マップ」 > 「オプション・パラメーターの表示」オプションを選択できない場合は、「入力のマップ」ペイン内のノードをクリックして、このオプションをアクティブにします。

親トピック: [マップの作成](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_creating_a_map_mapping_inputs.html

出力のマッピング

出力をマップするときに、アクティビティ (パラメーター) からオーケストレーション (変数) へのマッピングが行われます。

このタスクについて

出力パラメーターと変数の間のマップを作成するには、次のようにします。


手順

1. オーケストレーションを開くか、[作成](#)します。
2. アクティビティで、特定の XML スキーマまたは DTD に準拠した変数をマッピングしている場合は、[XML スキーマまたは DTD ファイルをプロジェクトにアップロード](#)します。

3. オーケストレーション内で、「チェックリスト」に「出力のマッピング」タスクが含まれているアクティビティをクリックします。
4. 「チェックリスト」から、「出力のマッピング」タスクを選択します。
5. まだ選択していない場合は、「設計」をクリックします。マッピング・エディターが表示され、アクティビティの出力パラメーターが「アクティビティへ」ペインに表示されます。
6. 「オーケストレーションへ」ペインに出力変数を追加します。
 - 既存の変数を「オーケストレーションへ」ペインに追加する場合、または変数を新規作成する場合は、「[出力の選択...](#)」をクリックします。
 - 新規変数を作成し、それらの変数を「オーケストレーションへ」ペインに自動的にマッピングするには、「[コピー](#)」をクリックします。
7. 「アクティビティから」ペイン内のソース・ノードを、「オーケストレーションへ」ペインにリストされた入力パラメーターの宛先ノードにドラッグします。マッピングが有効な場合、ソース・ノードから宛先ノードへのリンク (線) が表示され、マッピング・ルールが確立されたことが示されます。必要なすべてのノードがマッピングされるまで、このステップを繰り返します。一般的に、アクティビティからのすべての出力をマッピングすることは必須ではありません。
注: 「検索」ダイアログ・ボックスを使用して、[ソースまたは宛先スキーマ内のノードを検索](#)できます。
8. オプション: [マッピング・ルールに関数を割り当てます](#)。
9. 可能であれば、期待どおりの出力が得られることを確認するため、マッピングを[テスト](#)します。
注: マッピングのリンクを変更せずに、マッピングに使用されている変数を置換できます。詳しくは、『[マップで使用される変数の置換](#)』を参照してください。

親トピック: [マップの作成](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_creating_a_map_mapping_outputs.html

スタンドアロン・マップの作成

「プロジェクト」タブの「変換 (Transformations)」フォルダーに表示されたスタンドアロン・マップは、ソース・ノードと宛先ノードの間の 1 つ以上のマッピングのセットを表します。

このタスクについて


マッピング・エディターの「オーケストレーションから」ペインで選択できるソース・ノードと「オーケストレーションへ」の宛先ノードのセットは、マップのソース変数および宛先変数に定義されたスキーマ・タイプによって決定されます。スタンドアロン・マップを使用して、同じオーケストレーション内、または同じプロジェクトの別のオーケストレーション内に、任意の数の「変数のマッピング」アクティビティを作成できます。例えば、IncomingOrder という名前のソース XML スキーマと ShippingOrder という名前の宛先 XML スキーマの間のマッピングのセットを含む、myMap という名前のスタンドアロン・マップを作成できます。

「プロジェクト」タブの「変換 (Transformations)」フォルダー から myMap エンティティを選択し、プロジェクト内の任意のオーケストレーション上に ドロップすることで、このマップを再利用できます。このドロップ

プ・アクションにより、myMap という名前のマップの定義に従って、同じマッピングのセットを含む新規の「変数のマップ」アクティビティがオーケストレーション内に作成されます。「変数のマップ」アクティビティ用に作成された新しいインライン・マップは、親スタンドアロン・マップのコピーです。myMap 内のソース・ノードと宛先ノードの間のマッピングを変更しても、ローカル・コピーである新規の「変数のマップ」アクティビティに変更が伝搬されることはありません。詳細については、『[スタンドアロン・マップからの「変数のマップ」アクティビティの作成](#)』を参照してください。

スタンドアロン・マップを作成するには、次のようにします。

手順

1. 以下のいずれかのオプションを使用して、スタンドアロン・マップの新規インスタンスを作成します。
 - 「プロジェクト」タブを選択して、「変換」フォルダーを右クリックし、メニューから「新規スタンドアロン・マップ」オプションを選択します。
 - ツールバー・メニューから「プロジェクト」>「新規スタンドアロン・マップ」オプションを選択します。
 - 「プロジェクト」タブで、「新規スタンドアロン・マップ」()をクリックします。


「プロジェクト」タブの「マップ (Maps)」フォルダーにスタンドアロン・マップのインスタンスが表示されます。
2. 「プロジェクト」タブの「変換 (Transformations)」フォルダー内にあるスタンドアロン・マップのインスタンスをダブルクリックします。ペインの下部にマッピング・エディターが開きます。
3. ソース・スキーマを選択します。
4. 宛先スキーマを選択します。
5. 「オーケストレーションから」ペイン内のソース・ノードを「オーケストレーションへ」ペイン内の宛先ノードにドラッグします。マッピングが有効な場合、ソース・ノードから宛先ノードへのリンク (線) が表示され、マッピング・ルールが確立されたことが示されます。必要なすべてのノードがマップされるまで、このステップを繰り返します。

注: 「検索」ダイアログ・ボックスを使用して、ソースまたは宛先スキーマ内のノードを検索できません。ソースまたは宛先スキーマ内のノードの検索の詳細については、『[マッピング・ルールへの関数の割り当て](#)』を参照してください。
6. オプション: マッピング・ルールに 1 つ以上の関数を割り当てます。詳しくは、『[マッピング・ルールへの関数の割り当て](#)』を参照してください。
7. 可能であれば、期待どおりの出力が得られることを確認するため、マッピングをテストします。マッピングのテストの詳細については、『[マップのテスト](#)』を参照してください。

- [スタンドアロン・マップのソース・スキーマの選択](#)
- [スタンドアロン・マップの宛先スキーマの選択](#)

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_creating_a_standalone_map.html

スタンドアロン・マップのソース・スキーマの選択

始める前に

スキーマまたはスキーマのフラグメントをマップのソース・スキーマとして選択する前に、プロジェクトに、スキーマを含む [XML スキーマ](#) または [DTD ファイル](#) をアップロードするか、フラット・ファイル・データを表す [フラット・ファイル・スキーマ](#) を作成する必要があります。

このタスクについて


スタンドアロン・マップのソース・スキーマを選択するには、次のようにします。

手順

1. 「オーケストレーションから」ペインで「追加」をクリックします。「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. スキーマまたはスキーマ・フラグメントを参照します。
3. スキーマまたはスキーマ・フラグメントを選択して、「OK」をクリックします。「オーケストレーションから」ペインにスキーマまたはスキーマ・フラグメントが表示されます。
4. これらのステップを繰り返し、追加のソース・スキーマまたはスキーマ・フラグメントをマップに追加します。

親トピック: [スタンドアロン・マップの作成](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_creating_a_standalone_map_select_source_schemas.html

スタンドアロン・マップの宛先スキーマの選択

始める前に

スキーマまたはスキーマのフラグメントをマップの宛先スキーマとして選択する前に、『[プロジェクトへのファイルのアップロード](#)』に従ってスキーマを含むファイルをプロジェクトにアップロードするか、または、フラット・ファイル・データを表す [フラット・ファイル・スキーマ](#) を作成する必要があります。

このタスクについて

スタンドアロン・マップの宛先スキーマを選択するには、次のようにします。


手順

1. 「オーケストレーションへ」ペインで「追加」をクリックします。「スキーマ・タイプ・エレメントの参照」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. スキーマまたはスキーマ・フラグメントを参照します。
3. スキーマまたはスキーマ・フラグメントを選択して、「OK」をクリックします。「オーケストレーションへ」ペインにスキーマまたはスキーマ・フラグメントが表示されます。
4. これらのステップを繰り返し、追加の宛先スキーマまたはスキーマ・フラグメントをマップに追加します。

親トピック: [スタンドアロン・マップの作成](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_creating_a_standalone_map_select_destination_schemas.html

「変数のマップ」アクティビティからのスタンドアロン・マップの作成

このタスクについて

以下の手順では、「変数のマップ」アクティビティからのスタンドアロン・マップの作成方法を説明しています。変数のマップアクティビティのスタンドアロン・マップおよびインライン・マップについては詳しくは、『[マップについて](#)』を参照してください。

「変数のマップ」アクティビティからスタンドアロン・マップを作成するには、以下のようになります。

手順

1. 「プロジェクト」タブを選択します。
2. 「変数のマップ」アクティビティを含むオーケストレーションを、「プロジェクト」タブの Orchestrations フォルダーからダブルクリックします。
3. 「変数のマップ」アクティビティを、オーケストレーションから「プロジェクト」タブにドラッグします。新規マップが、「プロジェクト」タブの Transformations フォルダーの下に表示されます。この新規マップの作成時には、新規スキーマも作成されます。
重要: 新規スタンドアロン・マップは、「変数のマップ」アクティビティからのマップのコピーです。「変数のマップ」アクティビティでマップを変更しても、新規スタンドアロン・マップは変更されません。この逆も真であり、新規スタンドアロン・マップを変更しても、「変数のマップ」アクティビティのマップは変更されません。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Creating_a_Standalone_Map_from_a_Map_Variables_Activity.html

スタンドアロン・マップからの「変数のマップ」アクティビティの作成

このタスクについて

以下の手順では、スタンドアロン・マップからの「変数のマップ」アクティビティの作成方法を説明しています。変数のマップアクティビティのスタンドアロン・マップおよびインライン・マップについて詳しくは、『[マップについて](#)』を参照してください。

スタンドアロン・マップから「変数のマップ」アクティビティを作成するには、以下のようになります。

手順

1. 「プロジェクト」タブを選択します。
2. 「変数のマップ」アクティビティの追加先にするオーケストレーションを、「プロジェクト」タブの Orchestrations フォルダから選択します。
3. 「プロジェクト」タブの Transformations フォルダからマップを、オーケストレーション上にドラッグします。「変数へのリンク・スキーマ・タイプ (Link Schema Type to Variables)」ダイアログ・ボックスが開きます。
4. マップのすべての入出力スキーマ・タイプに対して、既存の変数または新規変数の名前を「オーケストレーション変数」フィールドに入力します。
5. 「OK」をクリックします。新しいマップ・アクティビティがオーケストレーション内に表示されます。

重要: 「変数のマップ」アクティビティに対して作成された新規インライン・マップは、「プロジェクト」タブ内のスタンドアロン・マップのコピーです。「変数のマップ」アクティビティでマップを変更しても、新規スタンドアロン・マップは変更されません。この逆も真であり、新規スタンドアロン・マップを変更しても、「変数のマップ」アクティビティのマップは変更されません。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Creating_a_Map_Variables_Activity_from_a_Standalone_Map.html

マッピング・ペインに変数を追加する

アクティビティーのマッピング・ペインから選択可能な「入力の選択」ボタンまたは「出力の選択」ボタンを使用して、既存の変数をマップに追加したり、新規変数を作成してマップに追加したりできます。

このタスクについて


「入力の選択」ボタンまたは「出力の選択」ボタンを使用して変数を追加するには、以下のようになります。

手順

1. オーケストレーション内のアクティビティーをクリックします。
2. アクティビティーのチェックリストからマッピング・タスクを選択します。通常、アクティビティーのマッピング・タスクは、「入力のマッピング (Mapping Inputs)」または「出力のマッピング (Mapping Outputs)」という名前になります。
3. 変数を追加するには、以下のようになります。
 - マップに入力変数を追加する場合は、「入力の選択」をクリックします。
 - マップに出力変数を追加する場合は、「出力の選択」をクリックします。「入力の選択」ダイアログ・ボックスまたは「出力の選択」ダイアログ・ボックスが開きます。
4. 以下のオプションのいずれかから選択します。
 - 既存の変数をマッピング・ペインに追加します。つまり既存の変数を選択して、「OK」をクリックします。既存の変数がマッピング・ペインに追加されます。
 - 新規変数をマッピング・ペインに追加します。新規変数をマッピング・ペインに追加するには、以下のようになります。
 - a. 「新規作成」をクリックします。「新規変数の作成」ダイアログ・ボックス (手順 1/2) が開きます。
 - b. 新規変数の基礎となるデータ型またはスキーマを選択します。
 - プリミティブ・データ型に基づく変数の場合は、以下のようになります。
 - i. 「新規変数の作成」ダイアログ・ボックス (手順 1/2) の下部までスクロールします。
 - ii. プリミティブ・データ型を「Primitive Types」フォルダーから選択します。
 - iii. 「次へ」をクリックします。
 - スキーマに基づく変数の場合は、以下のようになります。
 - i. オプション: ノードを名前で検索する場合は、「検索」をクリックします。
 - ii. スキーマから、新規変数のルートにするノードを選択します。
 - iii. 「次へ」をクリックします。
 - c. 新規変数の名前を入力し、「終了」をクリックします。「OK」をクリックします。新規変数が「変数」ツールボックスに追加され、スキーマが「変数」タブの「スキーマ (Schema of)」ペインに表示されます。新規変数は、マッピング・ペインにも追加されます。

親トピック: [マッピング](#)

フィードバック | 特記事項

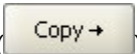
 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Adding_Variables_to_Mapping_Panes.html

パラメーターのコピー

このタスクについて

「出力のマッピング」ペインの「コピー」ボタン () を使用して、現在のアクティビティの出力パラメーターに一致する新しいオーケストレーション変数を作成できます。


変数をコピーするには、次のようにします。

手順

1. オーケストレーション内のアクティビティをクリックします。
2. アクティビティの「チェックリスト」から、「出力のマッピング」タスクを選択します。マッピング・ペインの「アクティビティから」ペインに、現在のアクティビティの出力パラメーターが表示されます。
3. 「コピー」をクリックします。「パラメーターのコピー」ダイアログ・ボックスが開き、「アクティビティから」ペイン内のパラメーターに一致するパラメーターのリストが表示されます。
4. 変数の作成の元になる出力パラメーターをクリックします。選択した出力パラメーターのデータ型、スキーマ、またはスキーマ・フラグメントによって、新しい変数のデータ型、スキーマ、またはスキーマ・フラグメントが定義されます。複数の出力パラメーターを選択するには、Shift キーを押しながら出力パラメーターをクリックします。
5. 「作成」をクリックします。「オーケストレーションへ」ペインに変数が表示されます。必要であれば、新しく作成した変数の名前を意味のある名前に変更します。変数の名前を変更するには、「オーケストレーションへ」ペインの青いセクション内で変数をダブルクリックし、新しい名前を入力して、Return キーを押します。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

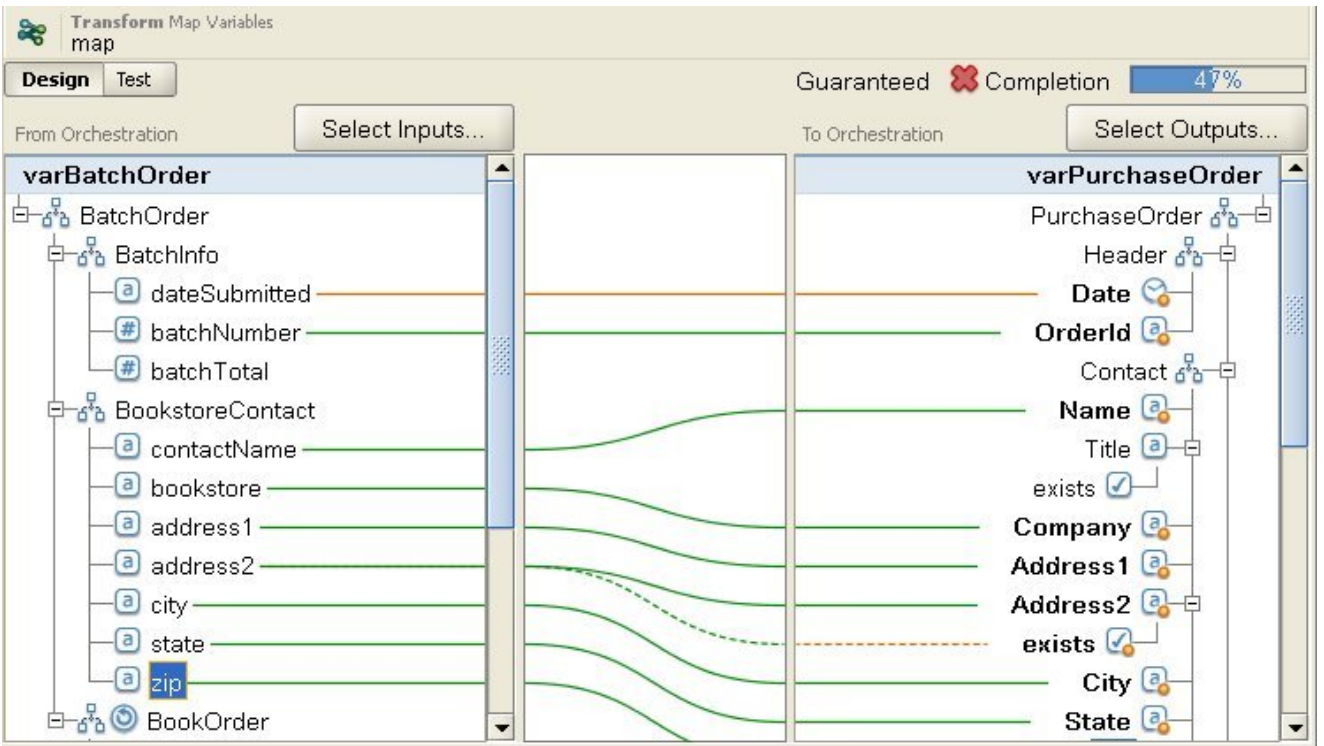
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Copying_Parameters.html

マップで使用される変数の置換

このタスクについて

マップのソース・ノードと宛先ノード間のリンクを変更することなく、「アクティビティから」ペインおよび「オーケストレーションへ」ペインで使用される変数を変更できます。

例えば、次の図のように、`varBatchOrder` 変数のノードを `varPurchaseOrder` 変数のノードへマップする「変数のマップ (Map Variables)」アクティビティを使用できます。



varBatchOrder 変数は BatchOrder XML スキーマに基づき、*varPurchaseOrder* 変数は PurchaseOrder XML スキーマに基づきます。

オーケストレーション内の別の「変数のマップ」アクティビティでソース・ノードと宛先ノードをマップするが、変数の別のセットを使用するとします。この場合、オリジナルの「変数のマップ」アクティビティをコピーし、新しい「変数のマップ」アクティビティをオーケストレーションに貼り付けると、マップのリンクを変換することなく、マップで使用される変数を変更できます。

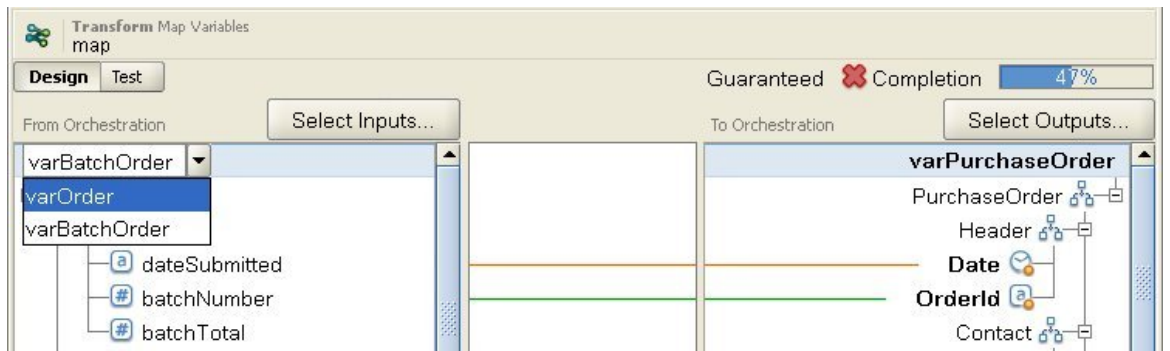
マップで使用されるオリジナルの変数を置き換えるには、以下のようにします。

手順

1. 「変数のマップ (Map Variables)」アクティビティをクリックするか、アクティビティの「入力のマップ」タスクまたは「出力のマップ」タスクをクリックします。
2. 新しい変数を作成するか、ソース変数または宛先変数を置き換えます。
 - 「アクティビティから」、「オーケストレーションから」、「アクティビティへ」、または「オーケストレーションへ」のいずれかのペインで、変数がリストされている青い領域をダブルクリックし、変数の名前を入力します。同じスキーマ・タイプの新しい変数が作成されます。
 - 次のいずれかのアクションを使用して、ソース変数または宛先変数を置き換えます。
 - 「アクティビティから」、「オーケストレーションから」、「アクティビティへ」、または「オーケストレーションへ」のいずれかのペインで、変数がリストされている青い領域を右クリックし、リストから「別の変数を選択」オプションを選択します。
 - 「アクティビティから」、「オーケストレーションから」、「アクティビティへ」、または「オーケストレーションへ」のいずれかのペインで、変数がリストされている青い領域をダブルクリックします。

次の図のように、変数名の右側に矢印が示されます。

リストから別の変数を選択します。この例では、リストから *varOrder* 変数を選択します。



注: 「入力のマップ」ペインおよび「出力のマップ」ペインで使用されている変数のみを変更できます。マップで使用されているパラメーターは変更できません。例えば、「FTP ディレクトリーのポーリング」アクティビティーでは、「出力のマップ」タスクの「アクティビティーから」ペインにある filename、data、および timestamp 入力パラメーターは変更できませんが、「オーケストレーションへ」ペインでパラメーターがマップされる変数は変更できます。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Replacing_a_Variable_used_in_a_Map.html

ノードの検索

このタスクについて

次に説明する手順に従って、アクティビティーの マッピング・ペイン内のノードを検索できます。

ノードを検索するには、次のようにします。


手順

1. 検索対象のノードを含むマッピング・ペインを開きます。
2. 以下のいずれかのオプションを使用して、「検索」ダイアログ・ボックスを開きます。
 - ソース・ペインまたは宛先ペインのいずれかを右クリックして、「検索」を選択します。「検索」ダイアログ・ボックスが開きます。
 - ソース・ペインまたは宛先ペインのいずれかでノードをクリックします。Studio のツールバー・メニューから「編集」 > 「検索」を選択します。「検索」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 検索するノードの名前を「検索対象テキスト」フィールドに入力します。
4. オプションを選択するか、検索の方向を変更します。
 - 大/小文字の区別 - 「検索対象テキスト」フィールドに入力されたテキストの大/小文字を正確に区別して突き合わせます。
 - 単語全体のみ - 検索テキストの単語全体のみを突き合わせます。部分的一致は許されません。
 - 折り返し検索 - 検索を開始した場所に関係なく、スキーマ全体の検索を続行します。

- 前方 - ルート・ノードまたは現行ノードから、ノード・ツリーの順序に従って、スキーマを下方に検索します。
 - 後方。ツリーの最後のノードまたは現行ノードから開始し、ノード・ツリーの逆の順序で、スキーマを上方に検索します。
5. 「検索」をクリックします。スキーマの検索を続行するには、「検索」を再度クリックします。
 6. 「キャンセル」をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Finding_Nodes.html

宛先ノードのデフォルト値の割り当て

このタスクについて

マップ内の宛先ノードにデフォルト値を割り当てることができます。マップの宛先ノードは、マッピング・ペインに表示されます。次の図は、「オーケストレーションへ」ペインを示しています。実行時にデフォルト値がどのように使用されるかは、次の例で示すように、宛先ノードにリンクが割り当てられているかどうかによって異なります。

- 次の図に示すように、ソース・ノードまたは関数からのリンクがない宛先ノードのデフォルト値を定義します。



この場合は、実行時に、指定された定数値が宛先ノードに必ず割り当てられます。

- 次の図に示すように、ソース・ノードまたは関数からのリンクがある宛先ノードのデフォルト値を定義します。



この場合は、ソース・ノードまたは関数から宛先ノードへのリンクによって実行時に宛先ノードの値が提供されない場合にのみ、指定された値が宛先ノードに割り当てられます。

以下の手順のステップ2で説明するように、構成プロパティを使用してマッピング・ペインのマップの宛先ノードのデフォルト値を提供することもできます。次の手順で説明しているように、デフォルト値を定義する前に、[構成プロパティを作成する](#)必要があります。

宛先ノードのデフォルト値を定義するには、次のようにします。

手順

- マッピング・ペイン内の宛先ノードを右クリックします。マッピング・ペイン内のペインの名前は、次のリストで説明しているように、現在構成中のマップのタイプに応じて異なります。
 - アクティビティの「入力のマップ」タスクを構成する場合、マップの宛先ノードは、「アクティビティへ」ペインに表示されます。
 - アクティビティの「出力のマップ」タスクを構成する場合、マップの宛先ノードは、「オーケストレーションへ」ペインに表示されます。
 - スタンドアロン・マップまたは「変数のマップ」アクティビティを構成する場合、マップの宛先ノードは、「オーケストレーションへ」ペインに表示されます。
- リストから「デフォルト値の定義」オプションを選択します。「デフォルト値の定義」ダイアログ・ボックスが開きます。プロジェクトで何らかの構成プロパティが定義されている場合は、「デフォルト値」フィールドの右側に **T** アイコンが表示されます。
- 「デフォルト値」フィールドで、以下のいずれかのオプションを使用してデフォルト値を定義します。
 - デフォルト値を定義する文字を直接に入力します。
 - T** アイコンをクリックし、リストから構成プロパティを選択して、デフォルト値を提供する構成プロパティを選択します。
- 「OK」をクリックします。マッピング・ペイン内の宛先ノードの横にデフォルト (**D**) アイコンが表示されます。


次のタスク

宛先ノードのデフォルト値をクリアするには、次のようにします。

- マッピング・ペイン内でデフォルト値が割り当てられている宛先ノードを右クリックします。値が割り当てられている宛先ノードの左側にはデフォルト (**D**) アイコンが表示されています。
- リストから「デフォルト値の定義」オプションを選択します。「デフォルト値の定義」ダイアログ・ボックスが開き、テキストまたは選択した構成プロパティが強調表示されます。
- Delete キーを押します。
- 「OK」をクリックします。マッピング・ペイン内の宛先ノードからデフォルト (**D**) アイコンが削除されます。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Assigning_a_Default_Value_for_a_Node.html

マッピング手法


このタスクについて

ソース・ノードから宛先ノードへのマップには、マッピングのセットアップ方法に応じて、さまざまな方法を使用できます。以下を行うことができます。

- 1つのソース・ノードから1つの宛先ノードへのマップ
 - 複数のソース・ノードから1つの宛先ノードへのマップ
 - 1つのソース・ノードから複数の宛先ノードへのマップ
 - 繰り返しノードの条件付きマッピング
-
- [1つのソースから1つの宛先へのマッピング](#)
 - [複数のソースから1つの宛先へのマッピング](#)
 - [1つのソースから複数の宛先へのマッピング](#)
 - [繰り返しノードの条件付きマッピング](#)

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Mapping_Techniques.html

1つのソースから1つの宛先へのマッピング

このタスクについて


1つのソース・ノードから1つの宛先ノードにマップするには、次のようにします。

手順

1. マッピング・エディターを開きます。
 2. 1つのソース・ノードを1つの宛先ノードにドラッグします。マッピング・エディターで、ノード間にリンクが描かれ、宛先ノードにマップ済みのマークが付けられます。
- 注: このマッピング・ルールが保証されない場合、または許可されない場合は、妥当性検査による警告を受け取ることがあります。

親トピック: [マッピング手法](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_mapping_techniques_one_source_to_one_destination.html

複数のソースから1つの宛先へのマッピング


このタスクについて

関数を使用してソース・データの組み合わせ方法を定義しない限り、複数のソース・ノードを1つの宛先ノードにマップすることはできません。例えば、[Concatenate](#) 関数を使用して、「ストリング」データ型の複数のソース・ノードを組み合わせることができます。

詳しくは、『[マッピング・ルールへの関数の割り当て](#)』を参照してください。

親トピック: [マッピング手法](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_mapping_techniques_multiple_sources_to_one_destination.html

1つのソースから複数の宛先へのマッピング

このタスクについて


1つのソース・ノードから複数の宛先ノードにマップするには、次のようにします。

手順

1. マッピング・エディターを開きます。
2. 1つのソース・ノードをマップ先の各宛先ノードにドラッグします。

親トピック: [マッピング手法](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_mapping_techniques_multipe_sources_to_one_destination.html

繰り返しノードの条件付きマッピング

このタスクについて


1つのソース・ノードから複数の宛先ノードにマップするには、次のようにします。

手順

1. 条件付きマッピングを行う繰り返しノード内のエレメントまたは変数を右クリックします。「オカレンスの選択」ペインが開きます。
2. 条件のコードを入力します。
3. 「OK」をクリックします。

親トピック: [マッピング手法](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_mapping_conditional_mapping_for_a_recurring_node.html

一致ノードの自動マップ


自動マップにより、ソース・ノードは一致する宛先ノードに素早くマップされます。突き合わせ方法は「ファジー」です。大/小文字や句読点の相違は無視されます。構造内の異なるレベルにあるノード、または名前に省略などの相違点のあるノードは、一致と見なされません。

- 自動マップを行うには、ツールバーから「マップ」 > 「自動マップ」を選択します。マッピング・エディターに、見つかった各一致ノードのマッピング・ルールが示されます。

マッピング・エディターには、作成しようとしているマッピング・ルールが保証されないことを示す警告も表示されます。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Automapping_Matching_Nodes.html

ノードのバルク・マッピング

このタスクについて

バルク・マッピングにより、アドレスなど、同一または類似した名前と編成を使用する類似した構造を迅速にマッピングできます。突き合わせ方法は「ファジー」です。大/小文字や句読点の相違は無視されます。構造内の異なるレベルにあるノード、または名前に省略などの相違点のあるノードは、一致と見なされません。

バルク・マッピングは、「ソース」および「宛先」で指定した構造ノードに適用されます。

構造ノードをバルク・マッピングするには、次のようにします。


手順

1. マッピング・エディターに表示された「ソース」ツリー内の構造ノードを右クリックします。
2. メニュー・ツールバーから「マップ」 > 「バルク・マッピング・ルールの作成」を選択します。
3. 「ソース」の構造ノードを「宛先」の構造ノードにドラッグします。選択した構造内で検出された一致するノードごとに、マッピング・エディターにマッピング・ルールが描かれます。

注: バルク・マッピングにより、選択した「宛先」構造の既存のマッピング・ルールはすべて削除されます。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Bulk_Mapping_Nodes.html

繰り返しノードのマッピング

このタスクについて

繰り返しノードのマッピング・ルールを使用して、以下の作業が可能です。

- すべてのオカレンスの出力を判別する。
- 特定のオカレンスの出力を判別する。
- 最小オカレンス数の相違や、レベル数が異なる繰り返し構造モデル または繰り返しなしのモデルに基づくソースおよび宛先スキーマなど、基数の問題を調整する。


繰り返しノードのマッピングの方法は、次の表に示すように、ソースおよび宛先スキーマ内の繰り返しの関係によって決定します。

ソース	宛先	実行するアクション
繰り返しなし	繰り返しあり	宛先ノードを展開して、宛先ノードの特定のオカレンスにソース・ノードをマップします。
繰り返しあり	繰り返しなし	ソースの特定のオカレンスを選択して、宛先にマップします。
繰り返しレベルが一致	繰り返しレベルが一致	すべてのオカレンスをマップするか、必要に応じて、特定のオカレンスを選択/展開します。
繰り返しレベルが多い	繰り返しレベルが少ない	ソース・ノードの特定のオカレンスを選択して、宛先の特定のオカレンスにマップします。詳しくは、「Getting Started Guide」を参照し、繰り返しノードのマッピングの制約に関する説明をお読みください。
繰り返しレベルが少ない	繰り返しレベルが多い	宛先ノードの余分の繰り返しレベルの特定のオカレンスを展開して、展開した宛先ノード内にソースのレベルをマップします。

繰り返しノードの詳細と、マッピング・アクティビティから返される繰り返しノードを制限する方法については、[繰り返しノードのフィルタリング](#)を参照してください。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Mapping_Recurring_Nodes.html

すべてのオカレンスのマッピング

このタスクについて

繰り返しのネスト・レベルが一致している場合、または不均一なレベルの処理方法が指定されている場合に限り、繰り返しソース・ノードのすべてのオカレンスを繰り返し宛先ノードにマップできます。


繰り返しソース・ノードのすべてのオカレンスをマップするには、次のようにします。

- 「ソース」ツリー内のノードを「宛先」ツリー内の適切なノードにドラッグします。マッピング・エディターで、「ソース」オカレンス・ノードを一致する「宛先」オカレンス・ノードにリンクするマッピング・ルールが自動的に作成されます。

注: ソースと宛先のスキーマ・ツリーで繰り返しのレベルが一致していない場合は、代わりに [特定のオカレンスをマップする](#) 必要があります。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Mapping_All_Occurrences.html

特定のオカレンスのマッピング

このタスクについて

「ソース」ツリー内の繰り返しレベルが「宛先」ツリー内の繰り返しレベルと一致しない場合は、繰り返しノードを展開し、特定のオカレンスのマッピング・ルールを定義して、基数の違いを解決する必要があります。

- 「ソース」ツリーの繰り返しレベルが「宛先」ツリーのレベルよりも多い場合は、「ソースのオカレンスを選択 (Select Source Occurrences)」します。
- 「ソース」ツリーの繰り返しレベルが「宛先」ツリーのレベルよりも少ない場合は、「宛先のオカレンスを展開 (Expand Destination Occurrences)」します。

また、展開済みの繰り返し宛先ノードでは、以下の機能を使用できます。

- 宛先のオカレンスを省略 (Collapse Destination Occurrences) - 繰り返し宛先ノードのみを残して、繰り返し宛先ノードのすべてのオカレンスを削除します。
- 宛先のオカレンスを追加 (Add Destination Occurrence) - 繰り返し宛先ノードのオカレンスを1つ追加します。
- 宛先のオカレンスを削除 (Remove Destination Occurrence) - 選択されたオカレンスを削除します。
- [ソースのオカレンスを選択](#)
- [宛先のオカレンスを展開](#)
- [宛先のオカレンスを省略](#)
- [宛先のオカレンスを追加](#)
- [宛先のオカレンスを削除](#)
- [マッピング・ペインでの置換タイプの選択](#)

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

ソースのオカレンスを選択

このタスクについて

ソースのオカレンスを選択するには、次のようにします。

手順

1. マッピング・ペインを開き、マップするソース・ノードを右クリックします。
2. リストから「1つのオカレンスを選択」を選択します。「1つのオカレンスを選択」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. このダイアログ・ボックスには、選択したソース・ノードのパスが、各繰り返しレベルのオカレンス・プロパティとともに表示されます。各繰り返しレベルで使用するオカレンスの数を選択します。
4. 「OK」をクリックします。マッピング・エディター内のソース・ノードが赤で強調表示されます。
5. ソース・ノードを選択し、宛先ノードにドラッグして、マッピングを完了します。

親トピック: [特定のオカレンスのマッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

宛先のオカレンスを展開

このタスクについて

宛先のオカレンスを展開するには、次のようにします。

手順


1. アクティビティのマッピング・ペイン内の繰り返し (🔄) 宛先ノードを右クリックします。宛先ノードはマッピング・ペインの右側にあります。
2. リストから「オカレンスの展開」を選択します。
3. 「オカレンスの展開」ダイアログ・ボックス内で、展開してマップ先として使用するオカレンスの数を明示的に指定します。繰り返しノードおよび明示的オカレンスの両方にマップできます。
4. 「前」チェック・ボックスの設定を選択します。

- マップで単一オカレンスのセットが繰り返しノードのセットの前に表示されるようにするには、「前」チェック・ボックスを選択します。
 - マップで単一オカレンスのセットが繰り返しノードのセットの後ろに表示されるようにするには、「前」チェック・ボックスをクリアします。
5. 「OK」をクリックします。選択した繰り返し宛先ノードについて、指定した数のオカレンスが表示されます。
 6. 必要に応じて、各セットをその構造の1つのオカレンスとして扱いながら、展開された宛先ノードにマップします。

繰り返し宛先ノードの展開されたオカレンスの **置換タイプ** を指定できます。展開されたオカレンスの **タイプの置換** は、繰り返し宛先ノードでのみサポートされます。宛先ノードはマッピング・ペインの右側にあります。

親トピック: [特定のオカレンスのマッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Mapping_Specific_Occurrences_Expand_Destination.html

宛先のオカレンスを省略

このタスクについて

宛先のオカレンスを省略するには、次のようにします。


重要: 宛先のオカレンスを省略すると、展開されたすべてのオカレンスに対する現行のすべてのマッピングが削除されます。

手順

1. マッピング・ペインを開き、繰り返し宛先ノードを右クリックするか、繰り返し宛先ノードの任意のオカレンスを右クリックします。宛先ノードはマッピング・ペインの右側にあります。
2. リストから「オカレンスの省略」を選択します。
3. 「OK」をクリックします。

親トピック: [特定のオカレンスのマッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

宛先のオカレンスを追加

このタスクについて

宛先ノードの既存の展開済みオカレンスにオカレンスを追加するには、次のようにします。


手順

1. マッピング・ペインを開き、繰り返し宛先ノードを右クリックするか、繰り返し宛先ノードの任意のオカレンスを右クリックします。宛先ノードはマッピング・ペインの右側にあります。
2. リストから、「新規オカレンスの追加」メニュー・オプションの以下のいずれかのオプションを選択します (使用可能な場合)。
 - 「新規オカレンスの追加」 > 「後」 - 現在 選択されている宛先のオカレンスの後ろに新規オカレンスを追加する場合は、このオプションを選択します。
 - 「新規オカレンスの追加」 > 「前」 - 現在 選択されている宛先のオカレンスの前に新規オカレンスを追加する場合は、このオプションを選択します。
3. 「OK」をクリックします。

繰り返し宛先ノードの展開されたオカレンスの置換タイプを指定できます。展開されたオカレンスのタイプの置換は、繰り返し宛先ノードでのみサポートされます。宛先ノードはマッピング・ペインの右側にあります。

親トピック: [特定のオカレンスのマッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Mapping_Specific_Occurrences_Add_Destination.html

宛先のオカレンスを削除

このタスクについて

宛先のオカレンスを削除するには、次のようにします。

手順

1. マッピング・ペインを開き、繰り返し宛先ノードを右クリックするか、繰り返し宛先ノードの任意のオカレンスを右クリックします。宛先ノードはマッピング・ペインの右側にあります。

2. リストから「選択したオカレンスの除去」メニュー・オプションを選択します。「確認」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 「はい」をクリックします。

親トピック: [特定のオカレンスのマッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Mapping_Specific_Occurrences_Remove_Destination.html

マッピング・ペインでの置換タイプの選択

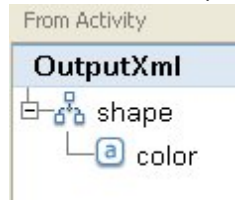
このタスクについて

マッピング・ペインで置換タイプを選択するには、次のようにします。

手順

1. 派生型に基づく XML エLEMENT を含む XML スキーマをプロジェクトにアップロードします。
2. XML スキーマを使用するアクティビティで、アクティビティの入力または出力パラメーターとして、派生型に基づく XML ELEMENT を表すノードを選択します。

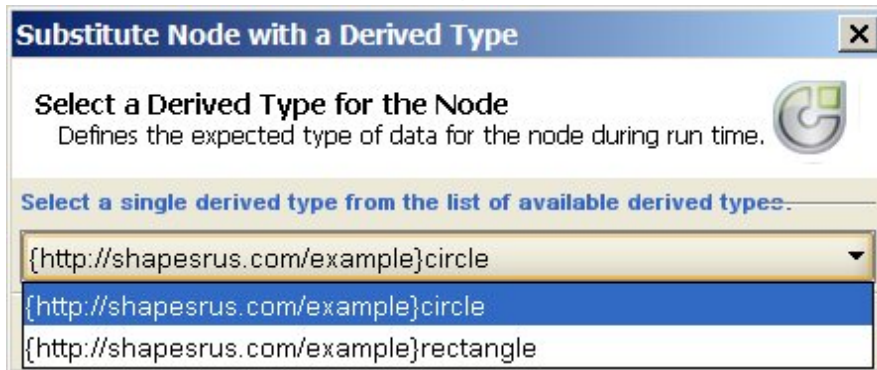
例えば、「XML の読み取り」アクティビティでは、XML スキーマを使用してアクティビティの出力パラメーターを定義します。「XML の読み取り」アクティビティの「チェックリスト」の「構成」タスクで、出力パラメーターとして使用する XML スキーマのノードを定義する XML 変数を選択します。前の図に示した XML スキーマの例を使用すると、<shape> ELEMENT に基づく変数を使用して、「XML の読み取り」アクティビティの出力パラメーターとして使用する XML スキーマのノードを定義できます。<shape> ELEMENT の派生型は選択されていないため、次の図に示すように、基本タイプの子ELEMENT (名前は color) のみが「アクティビティから」ペインに表示されています。



派生型の子ELEMENTがマッピング・ペインにリストされていないことに注意してください。この例では、circleの子ELEMENT (名前は diameter) も、rectangleの子ELEMENT (名前は width および length) もリストされていません。

3. アクティビティの「アクティビティから」ペインと「オーケストレーションへ」ペインで、ノードを右クリックし、メニューから「ノードを次のもので置換...」オプションを選択して、実行時に予期される派生型を選択します。「ノードを派生型で置換」ダイアログ・ボックスでメニューが開き、XML スキーマの定義に従って、ノードで使用可能な派生型がリストされます。例えば、次の図に示すように、

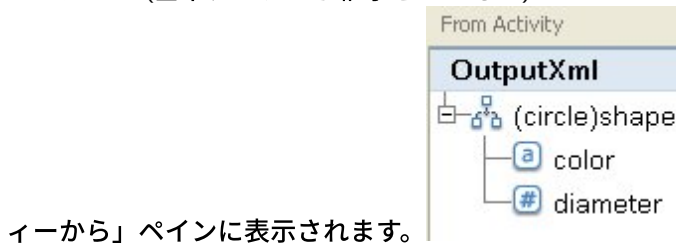
このメニューから次の2つの派生型を使用できます。



4. 派生型の1つを選択します。選択された派生型によって、実行時にXMLインスタンス文書に予期される型が決まります。

この例では circle 派生型が選択されているため、実行時にこのノードで予期されるXMLデータは、このページの上部のXMLインスタンス文書に示すように、タイプ circle になります。

基本タイプの子エレメントに加えて、派生型の子エレメントがマッピング・ペインに表示されます。この例では、次の図に示すように、diameter という名前の子エレメントとともに、color という名前の子エレメント (基本タイプから継承されたもの) が「XMLの読み取り」アクティビティの「アクティビテ



ィーから」ペインに表示されます。

親トピック: [特定のオカレンスのマッピング](#)

親トピック: [置換タイプの選択](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Selecting_a_Substitution_Type_in_a_Mapping_Pane.html

宛先ノードのマッピング

宛先ノードをマッピングする際は、ノードを完成させるために使用するデータ・ソースを指示し、マッピング・ルールを作成します。マッピング・ルールは、以下のトピックで説明されているように、さまざまな方法で宛先ノードにデータを提供します。

ソース・ノードから

ソース・ノードから宛先ノードへのマッピングにより、それらの間にリンクが作成されます。これは、マッピング・ルールを定義するためのもっとも一般的な方法です。以下のトピックで説明しているように、ソース・

ノードと宛先ノードをリンクさせる方法はいくつかあります。

[マッピング技法](#)

[繰り返しノードのマッピング](#)

[一致ノードの自動マッピング](#)

[ノードのバルク・マッピング](#)

割り当てによる


割り当てによるマッピングとは、宛先ノードの値を決定するために、デフォルト値を指定するか、または関数を使用することを意味します。詳細については、『[宛先ノードのデフォルト値の割り当て](#)』および『[ソース・ノード・リンクを使用しない関数の割り当て](#)』を参照してください。

ソース・ノードと関数の組み合わせの使用

ソース・ノードと関数の組み合わせを使用したマッピングとは、関数を使用してソース・ノードと宛先ノード間のリンクを操作し、データを変換、計算、または割り当てる方法です。詳細については、『[マッピング・ルールへの関数の割り当て](#)』を参照してください。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Mapping_Destination_Nodes.html

置換タイプの選択

XML スキーマ仕様では、拡張によって複合タイプを派生させる機能がサポートされています。

XML インスタンス文書では、XML スキーマ内で XML エレメントのタイプを明示的に宣言する代わりに、すべて同じ基本タイプから派生するタイプのセットから、XML エレメントのタイプを宣言します。エレメントのタイプは、次の XML インスタンス文書の例に示すように、type 属性を使用して定義されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<shape xmlns="http://shapesrus.com/example"
        xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
        xsd:type="circle">
  <color xmlns="">blue</color>
  <diameter xmlns="">10</diameter>
</shape>
```

上記の XML インスタンス文書で、<shape> エレメントは circle タイプとして宣言されています。XML インスタンス文書内の <shape> エレメントは、次の XML インスタンス文書の例で定義されているように、rectangle タイプとして定義することもできます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<shape xmlns="http://shapesrus.com/example"
        xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
        xsd:type="rectangle">
  <color xmlns="">blue</color>
  <length xmlns="">5</length>
  <width xmlns="">8</width>
</shape>
```

この例で、<shape> エレメントは、 shapeType 基本タイプの派生型の1つに基づいています。 shapeType の派生型の名前は、次のXMLスキーマの例に示すように、 circle および rectangle です。

```
<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
            targetNamespace="http://shapesrus.com/example"
            xmlns:sru="http://shapesrus.com/example">

  <xsd:element name="shape" type="sru:shapeType"/> } 'shapeType' の
                                                    派生型の1つに
                                                    基づくエレメントを
                                                    定義します。

  <xsd:complexType name="shapetype" abstract="true"/> } 'shapeType'
  <xsd:sequence>                                       という名前の
  <xsd:element name="color" type="xsd:string"/>         基本型
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>

  <xsd:complexType name="circle"> } 'shapeType'
  <xsd:complexContent>                                という名前の
  <xsd:extension base="sru:shapeType">                 基本型を
  <xsd:sequence>                                       拡張する、
  <xsd:element name="diameter" type="xsd:integer"/> } 'circle'
  </xsd:sequence>                                       という名前の
</xsd:extension>                                       派生型。
</xsd:complexContent>

  <xsd:complexType name="rectangle"> } 'shapeType'
  <xsd:complexContent>                                という名前の
  <xsd:extension base="sru:shapeType">                 基本型を
  <xsd:sequence>                                       拡張する、
  <xsd:element name="length" type="xsd:integer"/> } 'rectangle'
  <xsd:element name="width" type="xsd:integer"/>         という名前の
  </xsd:sequence>                                       派生型。
</xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:complexType>

</xsd:schema>
```

XMLスキーマでXMLエレメントが派生型に基づいて定義されている場合は、実行時にXMLエレメントで予期される派生型(または置換タイプ)を指定する必要があります。上記のXMLスキーマの例では、<shape> エレメントのタイプ(circle または rectangle)を指定する必要があります。Studioで、「ノードを次のもので置換...」メニュー・オプションを使用して、XMLエレメントの予期される置換タイプを指定します。

- 置換タイプに基づく変数の場合 - 「変数」タブ内の「スキーマ (Schema of)」ペイン内のノードを右クリックし、メニューから「ノードを次のもので置換...」オプションを選択して、XMLエレメントの予期されるタイプを選択します。詳細については、『[変数の置換型の選択](#)』を参照してください。
- マッピング・ペイン内の置換タイプに基づくノードの場合 - 次の手順で説明するように、「変数」タブ内の「スキーマ (Schema of)」ペイン内のノードを右クリックし、メニューから「ノードを次のもので置換...」オプションを選択して、XMLエレメントの予期されるタイプを選択します。

上記の XML スキーマの例で、`<shapeType>` と呼ばれる基本タイプは抽象的なものとして定義されています。XML インスタンス文書で抽象的な基本タイプを使用してエレメントのタイプを定義することはできません。その代わりに派生型の 1 つを指定する必要があります。この例で、XML インスタンス文書内の `<shape>` エレメントを `shapeType` として宣言することはできません。派生型の 1 つ (`circle` または `rectangle`) として宣言する必要があります。

上記の例で、基本タイプは抽象的なものとして定義されていますが、抽象的ではない基本タイプに基づく派生型のタイプ置換もサポートされています。XML スキーマの例で、`shapeType` という名前の `complexType` を抽象的ではないものにするには、次の XML スキーマ・セグメントに示すように、`abstract=true` 属性を削除します。

```
<xsd:complexType name="shapeType">
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="color" type="xsd:string"/>
  </xsd:sequence>
</xsd:complexType>
```

WSDL は、Web サービスを定義する固有の XML スキーマです。WSDL でのタイプ置換の使用もサポートされています。

繰り返し宛先ノードの展開されたオカレンスの置換タイプを指定できます。展開されたオカレンスのタイプの置換は、繰り返し宛先ノードでのみサポートされます。宛先ノードはマッピング・ペインの右側にあります。

重要: アクティビティーのマッピング・ペイン、および変数では、複合タイプのタイプ置換がサポートされています。ただし、アクティビティーのマッピング・ペイン、および変数では、置換グループを使用した拡張によるエレメントの派生はサポートされません。詳しくは、『[サポートされない XML スキーマ機能](#)』を参照してください。

XML スキーマの例

参考のため、このトピックで使用した XML スキーマの例を記載します。


```
<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  targetNamespace="http://shapesrus.com/example"
  xmlns:sru="http://shapesrus.com/example">
  <xsd:element name="shape" type="sru:shapeType"/>
  <xsd:complexType name="shapeType" abstract="true">
    <xsd:sequence>
      <xsd:element name="color" type="xsd:string"/>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
  <xsd:complexType name="circle">
    <xsd:complexContent>
      <xsd:extension base="sru:shapeType">
        <xsd:sequence>
          <xsd:element name="diameter" type="xsd:integer"/>
        </xsd:sequence>
      </xsd:extension>
    </xsd:complexContent>
  </xsd:complexType>
  <xsd:complexType name="rectangle">
    <xsd:complexContent>
      <xsd:extension base="sru:shapeType">
        <xsd:sequence>
          <xsd:element name="length" type="xsd:integer"/>
          <xsd:element name="width" type="xsd:integer"/>
        </xsd:sequence>
      </xsd:extension>
    </xsd:complexContent>
  </xsd:complexType>
```

```
</xsd:complexType>
</xsd:schema>
```

- マッピング・ペインでの置換タイプの選択
- ノードに関連付けられた派生型の削除

親トピック: マッピング

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Selecting_a_Substitution_Type.html

マッピング・ペインでの置換タイプの選択

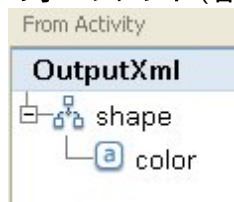
このタスクについて

マッピング・ペインで置換タイプを選択するには、次のようにします。

手順

1. 派生型に基づく XML エlement を含む [XML スキーマ](#) を [プロジェクトにアップロード](#) します。
2. XML スキーマを使用するアクティビティで、アクティビティの入力または出力パラメーターとして、派生型に基づく XML エlement を表すノードを選択します。

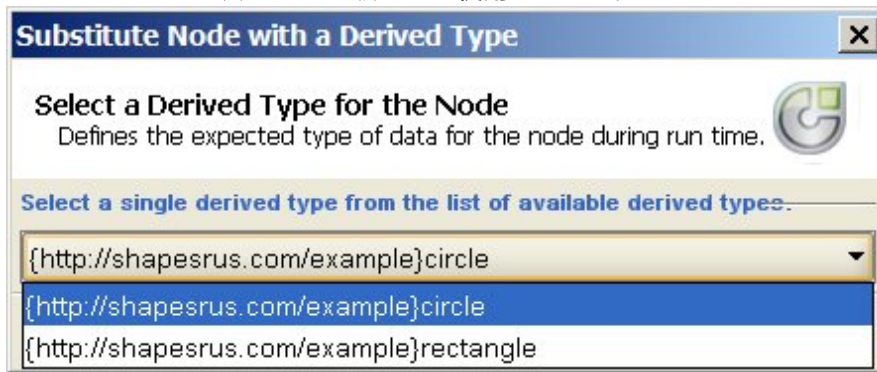
例えば、「XML の読み取り」アクティビティでは、XML スキーマを使用してアクティビティの出力パラメーターを定義します。「XML の読み取り」アクティビティの「チェックリスト」の「構成」タスクで、出力パラメーターとして使用する XML スキーマのノードを定義する XML 変数を選択します。前の図に示した XML スキーマの例を使用すると、`<shape>` エlement に基づく変数を使用して、「XML の読み取り」アクティビティの出力パラメーターとして使用する XML スキーマのノードを定義できます。`<shape>` エlement の派生型は選択されていないため、次の図に示すように、基本タイプの子 Element (名前は color) のみが「アクティビティから」ペインに表示されています。



派生型の子 Element がマッピング・ペインにリストされていないことに注意してください。この例では、circle の子 Element (名前は diameter) も、rectangle の子 Element (名前は width および length) もリストされていません。

3. アクティビティの「アクティビティから」ペインと「オーケストレーションへ」ペインで、ノードを右クリックし、メニューから「ノードを次のもので置換...」オプションを選択して、実行時に予期される派生型を選択します。「ノードを派生型で置換」ダイアログ・ボックスでメニューが開き、XML ス

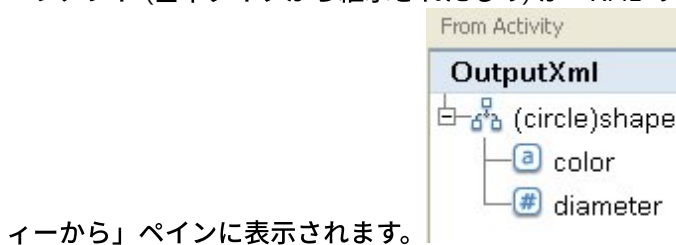
キーマの定義に従って、ノードで使用可能な派生型がリストされます。例えば、次の図に示すように、このメニューから次の2つの派生型を使用できます。



4. 派生型の1つを選択します。選択された派生型によって、実行時にXMLインスタンス文書に予期される型が決まります。

この例では circle 派生型が選択されているため、実行時にこのノードで予期されるXMLデータは、このページの上部のXMLインスタンス文書に示すように、タイプ circle になります。

基本タイプの子エレメントに加えて、派生型の子エレメントがマッピング・ペインに表示されます。この例では、次の図に示すように、diameter という名前の子エレメントとともに、color という名前の子エレメント (基本タイプから継承されたもの) が「XMLの読み取り」アクティビティの「アクティビテ



ィーから」ペインに表示されます。

親トピック: [特定のオカレンスのマッピング](#)

親トピック: [置換タイプの選択](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Selecting_a_Substitution_Type_in_a_Mapping_Pane.html

ノードに関連付けられた派生型の削除

このタスクについて


ノードに関連付けられた派生型を削除するには、次のようにします。

手順

1. 「ノードを次のもので置換...」 オプションを使用して ノードの派生型を選択した後、ノードを右クリックし、メニューから「ノードの置換解除」オプションを選択して、ノードと派生型の間の関連付けを削除できます。「置換解除」ダイアログ・ボックスが開きます。
2. 「はい」をクリックします。

親トピック: [置換タイプの選択](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Selecting_a_Substitution_Type_Remove_Derived_Type.html

自動的に削除されるマッピング・ルール

以下の2とおりの場合、マップを開くと、マッピング・エディターによってマップからマッピング・ルールが自動的に削除されます。

ケース 1: マップの参照先 XML スキーマの1つまたは両方が変更された。

スキーマは、それらの生成元の接続アクティビティまたはメッセージ定義の変更によって変更されます。プロジェクトに追加するスキーマは、直接編集することもできます。

注: マッピング・エディターからの警告メッセージに、削除されたマッピング・ルールがリストされます。このリストには、プロパティ・ノードのルール (オプションのプロパティ・ノードの `ihmap:exists` など) が含まれる場合もあります。


マップをレビューし、マッピング・ルールを再作成または変更して、スキーマ変更を適切に処理してください。

ケース 2: マップの参照先 XML スキーマの1つがプロジェクトから削除された。

この場合は、マッピング・エディターによって、すべてのマッピング・ルールが削除され、マップを再作成することはできません。マップを閉じ、プロジェクトから削除してください。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Mapping_Rules_That_Are_Automatically_Deleted.html

オカレンスのカウントの割り当て

このタスクについて

宛先ノードに値を割り当てて、特定の繰り返しノードのメッセージにおける実際のオカレンスを数えることができます。


オカレンスのカウントを割り当てるには、次のようにします。

手順

1. 「関数」タブからマッピング・エディターの「関数グラフ (Function Graph)」ペインまで「Count」関数をドラッグします。
2. カウント対象の繰り返しノードを「Count」関数にリンクします。
注: 「Count」は、繰り返し構造ノードを含むすべての繰り返しノードに対して有効です。
3. 「Count」関数を宛先ノードにリンクします。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Assigning_a_Count_of_Occurrences.html

マッピング・ルールの削除


このタスクについて

以下のセクションの説明に従って、1つのマッピング・ルールまたはすべてのマッピング・ルールを削除できます。

- [リンクを含むマッピング・ルールの削除](#)
- [リンクが表示されていないマッピング・ルールの削除](#)
- [すべてのマッピング・ルールの削除](#)

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

リンクを含むマッピング・ルールの削除

このタスクについて

ソース・ノードから宛先ノードへのリンクを含むマッピング・ルールを削除するには、次のようにします。

手順

以下のいずれかの方法でマッピング・ルールを削除します。


- マッピング・ルールのリンクを選択して、Delete を押します。
- リンクを右クリックして、「マッピングの削除」を選択します。

タスクの結果

選択したマッピング・ルールにオカレンス・プロパティ・ノードがリンクされている場合は、マッピング・エディターで、削除を確認するプロンプトが出されます。オカレンスのマッピング・ルールを削除すると、その繰り返し構造内にある下位ノードのマッピング・ルールもすべて削除されます。

親トピック: [マッピング・ルールの削除](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Removing_Mapping_Rules_With_Links.html

リンクが表示されていないマッピング・ルールの削除

このタスクについて

マッピング・ルールで関数またはデフォルト値のみが使用されている場合、リンクが表示されないことがあります。

リンクを含まないマッピング・ルールを削除するには、次のようにします。


手順

1. 宛先ノードを選択し、右クリックします。
2. 以下のいずれかのオプションを選択します。

- a. デフォルト値の定義。ノードにデフォルトが割り当てられている場合。「デフォルト値」ウィンドウでデフォルト値を削除し、「OK」をクリックします。
- b. 関数グラフの編集。ノードに関数グラフが割り当てられている場合。関数グラフを展開した後、関数を右クリックし、「マッピングの削除」を選択します。

親トピック: [マッピング・ルールの削除](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Removing_Mapping_Rules_With_No_Links.html

すべてのマッピング・ルールの削除


このタスクについて

手順

1. メニュー・ツールバーから「マップ」 > 「マップのクリア」を選択します。
2. プロンプトが表示されたら削除を確認します。

親トピック: [マッピング・ルールの削除](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Removing_Mapping_Rules_Remove_All_Rules.html

サンプルまたは結果の内容の検索

このタスクについて

サンプル・メッセージまたはテスト結果を検索して、特定のノードまたは内容を検出できます。


手順

1. 検索対象のノードを含む「マッピング」ペインを開き、「テスト」をクリックします。

2. 「選択したテスト・ファイル (Selected Test Files)」ペインまたは「テスト結果」ペインを右クリックし、ショートカット・メニューから「検索」を選択します。
3. 検索するテキストを「検索対象テキスト」フィールドに入力します。
4. オプションを選択するか、検索の方向を変更します。
 - 大/小文字の区別 - 「検索対象テキスト」フィールドに入力されたテキストの大/小文字を正確に区別して突き合わせます。
 - 単語全体のみ - 検索テキストの単語全体のみを突き合わせます。部分的一致は許されません。
 - 折り返し検索 - 検索を開始した場所に関係なく、スキーマ全体の検索を続行します。
 - 前方 - ルート・ノードまたは現行ノードから、ノード・ツリーの順序に従って、スキーマを下方に検索します。
 - 後方 - ツリーの最後のノードまたは現行ノードから開始し、ノード・ツリーの逆の順序で、スキーマを上方に検索します。
5. 「検索」をクリックします。スキーマの検索を続行するには、「検索」を再度クリックします。
6. 「キャンセル」をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

親トピック: [マッピング](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Finding_Sample_or_Result_Content.html

サンプル・メッセージのロード

このタスクについて

オーケストレーション内に次のアクティビティをマッピングする前に、マッピング・エディターでセットアップ済みのマッピング・ルールをテストすることをお勧めします。これを行うには、プロジェクトにサンプル・メッセージをロードし、このサンプルをテストして、マッピング・ルールが正しく適用されることを確認します。

プロジェクトにサンプル・メッセージをロードするには、次のようにします。

手順

1. 「テスト」をクリックします。「テスト・ファイル (Test Files)」ペインが開きます。
2. 「テスト・ファイルの検索 (Find Test Files)」ペインで、「参照」をクリックし、ロードするメッセージを探します。
3. ウィンドウでサンプル・メッセージとして使用する XML ファイルを選択して、「OK」をクリックします。


サンプルが有効な場合は、「選択したテスト・ファイル (Selected Test Files)」ペインにサンプルが表示されます。このマップに複数のソース・スキーマがある場合、テスト・ファイルはソース・スキーマの

順に表示されます。

4. マップで複数のソース・スキーマが使用されている場合は、変換をテストする前に、他のソース・スキーマ用のサンプル・メッセージをロードできます。テストするサンプルごとにステップ 2 および 3 を繰り返します。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map>Loading_a_Sample_Message.html

マップのテスト

マップのソース・スキーマと一致する 1 つ以上の サンプル・メッセージを使用して、マップ内に定義された変換をテストできます。

このタスクについて

マップをテストするには、次のようにします。

手順

1. 「入力のマップ」または「出力のマップ」ペインのいずれかで、「テスト」をクリックします。「テスト」ペインが表示されます。「入力テスト・ファイルの選択 (Select Input Test Files)」表に表示される変数またはパラメーターは、タスクのタイプによって異なります。
 - 「入力のマップ」タスクの「テスト」ペインでは、アクティビティーの入力パラメーターにマップされる変数が「入力テスト・ファイルの選択」表に表示されます。
 - 「出力のマップ」タスクの「テスト」ペインでは、アクティビティーの入力パラメーターが「入力テスト・ファイルの選択」表に表示されます。
2. 以下のいずれかのオプションを使用して、マップへの入力として使用する サンプル・データを入手します。
 - サンプル・データを生成する - ソース・スキーマに対して有効なサンプル XML データを生成するには、ツールバー・メニューから「マップ」 > 「テスト・データの生成」を選択します。
 - ファイルからサンプル・データをインポートする - 「テスト・ファイルの検索 (Find Test Files)」リスト内のパラメーターごとに、[...] をクリックして、コンピューターまたはネットワーク・ドライブから [サンプル・メッセージを参照](#) します。選択されたメッセージが、「選択したテスト・ファイル (Selected Test Files)」表に表示されます。


注: サンプル・メッセージは、マップのソース XML スキーマで定義された要件を満たす有効な XML でなければなりません。マップで複数のソース・スキーマが使用されている場合は、任意のスキーマまたはすべてのスキーマ用のサンプル・メッセージをロードできます。
3. 「テストの実行」をクリックします。「ロケーション」列で指定したサンプル・メッセージに対して、マップ内に定義された変換が実行されます。変換の結果が「テスト結果」ペインに表示されます。

次のタスク

変換結果を保存するか、またはマッピング・エディターの各ペインから結果をクリアします。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_testing_maps.html

変換結果の保存またはクリア

このタスクについて

マップ・テストの結果をコンピューターまたはネットワーク・ドライブ上のファイルに保存できます。Studioの外部のXMLツールを使用して結果を検討する場合は、この方法が便利です。また、変換の結果が、メッセージ定義または別のマップなど、別のアクティビティーへの入力になる場合にも役立ちます。

マップ・テストの結果を保存するには、次のようにします。

手順

1. マッピングをテストします。詳しくは、『[マップのテスト](#)』を参照してください。
2. 「マップ」 > 「結果の保存」を選択します。「結果の保存」メッセージ・ダイアログ・ボックスが開きます。
3. ファイルを保存するディレクトリーにナビゲートし、ファイル名を入力します。
4. 「保存」をクリックします。


親トピック: [マッピング](#)

変換結果のクリア

手順

「マップ」 > 「結果のクリア」を選択します。結果がクリアされます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

「CDATA の出力」 オプション

このタスクについて

実行時に、宛先 XML エlement 内のテキストが、XML CDATA セクションとして処理され、解析されずに宛先ノードにブロックとして割り当てられるようにするには、宛先ノードに対して「CDATA の出力」オプションを選択します。これは、以下の XML 構文を使用して XML Element のデータを指定するのと同じことです。

```
<![CDATA [
```

```
テキスト
```

```
]]>
```

「CDATA の出力」オプションは、すべての宛先ノード (マッピング・エディターの右側のペインにある) に対して選択可能です。また、デフォルト値に「CDATA の出力」オプションを選択することもできます。

注: 「CDATA の出力」オプションは、入力ノード (マッピング・エディターの左側のペインにある) には使用できません。


「CDATA の出力」オプションを選択するには、次のようにします。

手順

1. マッピング・エディターで、リンク (マップ) された宛先ノード、またはデフォルト値が関連付けられた宛先ノードを右クリックします。宛先ノードは、マッピング・エディターの右側のペイン (「アクティビティへ」または「オーケストレーションへ」ペインのいずれか) にあります。
2. リストから「CDATA の出力」オプションを選択します。実行時に、統合アプライアンスはこの宛先ノードを CDATA セクションとして処理します。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_The_Emit_CData_Option.html

サポートされない XML スキーマ機能

以下の XML スキーマ機能を使用すると、マップが正しく表示または変換されないおそれがあり、妥当性検査の警告が出されることがあります。

選択

マッピング・ルールの制約のため、選択内のノードの変換要件を正しく定義できない場合があります。選択構造を伴うマッピング・ルールの保証済み状況は誤っている可能性があります。選択構造のある宛先スキーマへの変換に、誤ってすべての選択項目が組み込まれる可能性があります。

混合コンテンツ

混合コンテンツを許可するエレメントには、データおよびその他のノードの両方を入れることができます。これらのノードは正しく表示され、マップ可能です。ただし、混合コンテンツ・ノードのあるメッセージの変換は完了しない場合があります。

再帰的コンテンツ

再帰的エレメントのレベルが無制限であるマップを作成することはできません。再帰レベル 5 以下のマッピング・ルールを指定できます。

置換グループ

置換グループは、拡張によるエレメントの派生をサポートします。XML スキーマ内の置換グループを使用し、xs:anyType エレメントを、タイプの異なるエレメントに拡張することはできません。例えば、xs:anyType エレメントの simple タイプに基づくエレメントまたは complex タイプに基づくエレメントへの拡張はサポートされていません。

タイプ置換を使用した拡張による複合タイプの派生はサポートされています。詳細については、『[置換タイプの選択](#)』および『[変数の置換タイプの選択](#)』を参照してください。

Unique、Key、または Keyref

マッピング・エディターでは、Unique、Key、または Keyref の制約があり、マッピング・ルールで評価されないエレメントに関する情報は提供されません。


制限または拡張の各種ファセット

以下のファセットの情報は、マッピング・エディター内では入手できません。これらのファセットは、マッピング・ルールの作成時には考慮されません。

- minInclusive、maxInclusive、minExclusive、および maxExclusive
- length、minLength、および maxLength
- totalDigits および fractionDigits
- whitespace
- patterns
- enumeration

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

非マップ宛先ノードについて

統合アプライアンスは変換時に、すべての宛先ノードを結果メッセージに組み込みます。マップされていない宛先ノードは、結果メッセージで空ノードになります。

多くの場合、これは適切な動作です。ただし、データベースに対する更新では、統合アプライアンスはアウトバウンド・メッセージ内の空ノードをデータベースのヌル値として扱います。

ヌル値がデータベースに保存されないようにするには、「構成」ペインでデータベース・アクティビティーから列を消去することにより、XML スキーマから非マップ・ノードを削除する必要があります。詳しくは、次のトピックを参照してください。


[単一表インバウンド・データベース・アクティビティー](#)

[単一表アウトバウンド・データベース・アクティビティー](#)

[「表のポーリング」アクティビティー](#)

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_About_Unmapped_Destination_Nodes.html

繰り返しノードのフィルタリング

実行時にフィルタリングを実行するための XPath 述部を指定すれば、マッピング・アクティビティーから返される繰り返しノードの数を制限できます。

このタスクについて

アクティビティーのマッピング・ペインで述部を直接使用してフィルターすることで、以下のアクティビティーの必要性を排除できます。

- 繰り返し構造内でループする「While ループ (While Loop)」または「For Each」アクティビティー。
- 値をテストするための「If...Then」アクティビティー。

ループおよび「If..Then」アクティビティーを排除することで、オーケストレーションのパフォーマンスが向上します。

例えば、以下のいずれかの方法を使用して、BatchOrderProcessingSample オーケストレーションによって処理される書籍の数を制限し、文字 B で始まる書名のみを返すことができます。

- フラット・ファイル・データを XML に変換する「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーの後、文字 B で始まるすべての書名をテストする「If..Then」アクティビティーを含む「While ループ (While Loop)」アクティビティーを追加できます。実行時に「While ループ (While Loop)」アクティビティーが完了すると、文字 B で始まる書名を持つ BookOrder 繰り返しノードのセットが返されます。
- フラット・ファイル・データを XML に変換する「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーの「出力のマッピング」タスクの「オーケストレーションへ」ペインで、述部を直接指定してフィルタリングします。実行時の処理が減少し、オーケストレーションのパフォーマンスが向上するため、この方法をお勧めします。例えば、BookOrder 繰り返しノードで述部 `*:title/starts-with(., 'B')` を指定し、文字 B で始まる書名のみを対象とすることで、実行時に返される Bookorder ノードを制限できます。

この述部の例については、次の表で説明します。

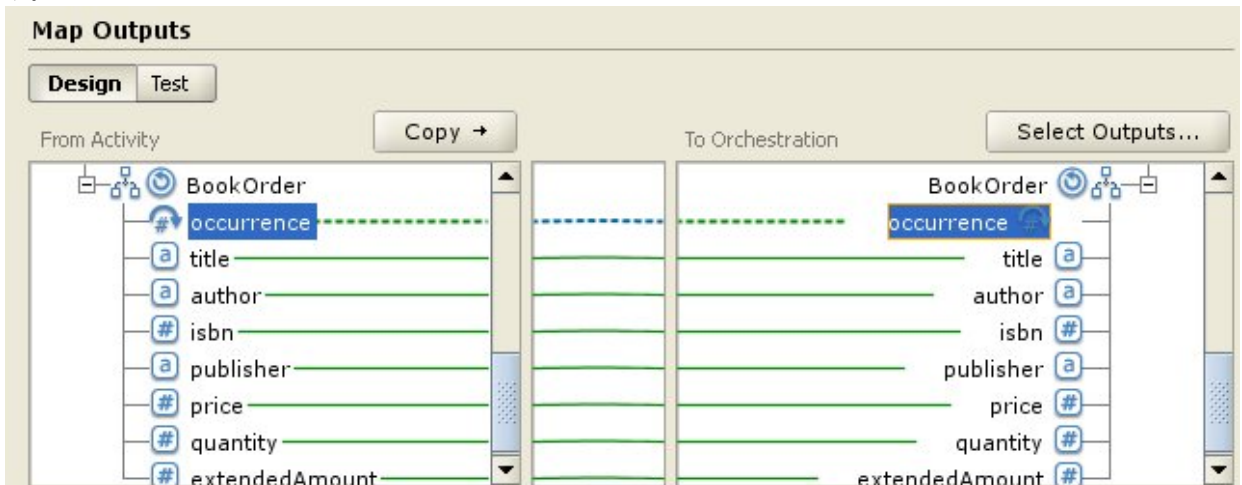
述部の文字	説明
<code>*</code>	この述部がソース・ノード内のすべての名前空間に適用されることを指定します。
<code>title/</code>	この述部が現在のソース・ノードの title ノードに適用されることを指定します。
<code>starts-with(., 'B')</code>	この述部が、文字 B で始まる title ノードを持つノードのみを返すことを指定します。starts-with 関数は XPath の組み込み関数です。

BookOrder サンプルについて詳しくは、「*Getting Started Guide*」を参照してください。Studio のインストール時にデフォルトを受け入れた場合、サンプルの参照実装環境は `C:\Program Files\IBM\WebSphere Cast Iron Studio 3.X\Samples\BookOrder` ディレクトリー内にあります。

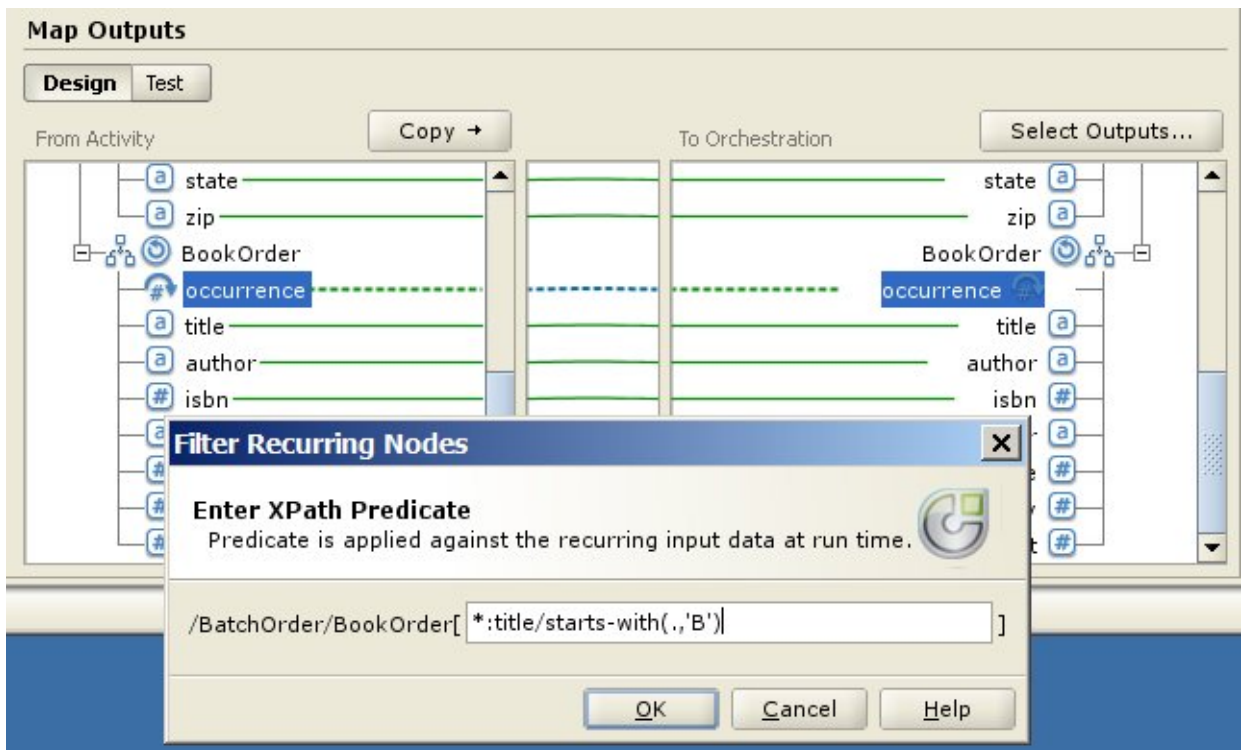
繰り返しノードの 述語を指定するには、次のようにします。


手順

1. 次の BatchOrderProcessingSample オーケストレーションの「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティーの「出力のマッピング」ペインに示されているように、フィルターを適用できるのは、アクティビティーのマッピング・ペイン内で繰り返しソース・ノードにマップされた繰り返し宛先ノードのみです。




2. 宛先 occurrence ノードを右クリックし (この例では BookOrder/occurrence)、メニューから「繰り返しノードのフィルタリング」を選択します。「繰り返しノードのフィルタリング」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. XPath 述部を入力します。この例では、次の図に示した述部を入力します。



4. 「OK」をクリックします。述部が有効かどうか評価されます。
 - 述部が無効な場合は、エラー・メッセージが報告されます。
 - 述語が有効な場合は、フィルター・アイコン () が宛先 occurrence ノードの横に表示されます。

親トピック: [マッピング](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Filter_Recurring_Nodes.html

カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用

- [ルックアップ・テーブルについて](#)
ルックアップ・テーブルは、一連のキーと値(名前と値)のペアを定義します。実行時に、これらのキーと値のペアは、渡されたキーを関連付けられた値に変換するために使用されます。
- [ルックアップ・テーブルの定義](#)
- [ルックアップ・テーブルの編集](#)
- [カスタム関数について](#)
- [カスタム関数の定義](#)
- [カスタム関数の編集](#)
- [カスタム関数のパラメーターおよび戻りのデータ型](#)
- [ソース・ノード・リンクを使用しない関数の割り当て](#)
- [マップ作成時の関数の割り当て](#)
- [既存のマッピング・ルールへの関数の追加](#)

- [例: 複数の関数のチェーニング](#)
- [マッピング・ルールへの関数の割り当て](#)
組み込み関数またはカスタム関数をマップに割り当てることで、ソース・ノードからのデータを宛先ノードに追加する前に、データを変換または操作します。また、マッピング・ルールに関連付けられた他の関数から、入力パラメーターのソース・データを提供できます。
- [マッピング・ルールからの関数の削除](#)
- [ノード・セット制約のある数学関数](#)
- [パラメーターの追加](#)
- [パラメーターの編集](#)
- [パラメーターの削除](#)
- [パラメーターの再配列](#)
- [繰り返しノードを入力として受け入れる関数のデフォルト値の指定](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_customfunctions.html

ルックアップ・テーブルについて


ルックアップ・テーブルは、一連のキーと値 (名前と値) のペアを定義します。実行時に、これらのキーと値のペアは、渡されたキーを関連付けられた値に変換するために使用されます。

ルックアップ・テーブルは、1つの入力ストリング・パラメーター (変換するソース値) とストリング戻り値 (変換結果) を持つ関数のようなものです。マッピング・エディターでは、関数と同様に、ルックアップ・テーブルをマッピング・ルールヘドラッグすることができます。

ルックアップ・テーブルは、それらが定義されたプロジェクト内のどのマップでも使用できます。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_About_Lookup_Tables.html

ルックアップ・テーブルの定義

このタスクについて

ルックアップ・テーブルを定義または作成するには、以下のようにします。

手順

1. 「関数」タブを選択します。「関数」タブに標準関数のリストが表示されます。さらに、「アクション」ペインが表示されます。
2. 「ルックアップ・テーブル」ダイアログ・ボックスを表示するには、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「関数」タブの「ルックアップ・テーブル」ノードを右クリックし、メニューから「新規ルックアップ・テーブルの追加...」を選択します。
 - 「アクション」ペインで、「新規ルックアップ・テーブルの追加」を選択します。「ルックアップ・テーブル」ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 「ルックアップ・テーブル」ダイアログ・ボックスの「テーブル名」フィールドに、ルックアップ・テーブルの名前を入力します。


注: この名前は、現行プロジェクト内のすべてのテーブルを通じて固有である必要があります。テーブルの名前に大/小文字の区別はありません。大/小文字の区別は考慮されません。例えば、テーブル名 Aaa はテーブル名 AAA と同じです。
4. オプション: 「説明」フィールドに、テーブルに関する記述情報を入力します。
5. テーブルのキーと値の組を定義します。

テーブル内のキーと値の組ごとに、以下の手順を繰り返してください。

 - a. 「追加」をクリックします。
 - b. 「キー」フィールドに、キーの値を入力します。このキーは実行時に、指定した値と突き合わせが行われます。
 - c. 「値」フィールドに、実行時にキーが変換される値を入力します。Return キーを押します。
6. オプション: 「デフォルト値」フィールドに値を入力します。実行時に一致するキーがない場合でもルックアップ・テーブルで値を提供するには、このフィールドに値を入力します。実行時に一致するキーがない場合にルックアップ・テーブルから値を返さないようにするには、このフィールドを空白のままにします。
7. オプション: 「「nil」である場合の値」フィールドに値を入力します。このプロパティはヌル可能ノードにのみ影響します。実行時に、ソース・ノードが空でヌル可能である場合でも、ルックアップ・テーブルで値を提供するには、このフィールドに値を入力します。実行時に、ソース・ノードが空でヌル可能である場合に、ルックアップ・テーブルから値を返さないようにするには、このフィールドを空白のままにします。
8. 「OK」をクリックします。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/defining_lookup_tables.html

ルックアップ・テーブルの編集

このタスクについて

既存のルックアップ・テーブルを編集するには、以下のようにします。

手順


1. 「関数」タブを選択します。「関数」タブに標準関数のリストが表示されます。さらに、「アクション」ペインが表示されます。
2. 「関数」タブで、「ルックアップ・テーブル」を展開します。
3. 編集するテーブルを選択します。
4. 「ルックアップ・テーブル」ダイアログ・ボックスを表示するには、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「関数」タブでテーブル・ノードを右クリックし、メニューから「編集...」を選択します。
 - 「アクション」ペインで、「新規ルックアップ・テーブルの追加」を選択します。「ルックアップ・テーブル」ダイアログ・ボックスが開きます。
5. 以下のアクションのいずれかを使用して、テーブルを編集します。
 - キーと値の組の追加 - キーと値の組をテーブルに追加するには、以下の手順に従ってください。
 - a. 「追加」をクリックします。
 - b. 「キー」フィールドに、キーの名前を入力します。このキーは実行時に、指定した値に置き換えられます。
 - c. 「値」フィールドに、実行時にキーが変換される値を入力します。Return キーを押します。
 - キーと値の組の削除 - キーと値の組をテーブルから削除するには、以下の手順に従ってください。
 - a. キーと値の組を選択します。
 - b. 「削除」をクリックします。
 - 「デフォルト値」フィールドの変更 - 「デフォルト値」フィールドの現行設定を編集します。実行時に一致するキーがない場合でもルックアップ・テーブルで値を提供するには、このフィールドに値を入力します。実行時に一致するキーがない場合にルックアップ・テーブルから値を返さないようにするには、このフィールドを空白のままにします。
 - 「「nil」である場合の値」値フィールドの変更 - 「「nil」である場合の値」値フィールドの現行設定を編集します。このプロパティはヌル可能ノードにのみ影響します。実行時に、ソース・ノードが空でヌル可能である場合でも、ルックアップ・テーブルで値を提供するには、このフィールドに値を入力します。実行時に、ソース・ノードが空でヌル可能である場合に、ルックアップ・テーブルから値を返さないようにするには、このフィールドを空白のままにします。
6. 「OK」をクリックします。

次のタスク

ルックアップ・テーブルは、関数と同様にマッピング・ルールに追加されます。マッピング・ルールへの関数の追加について詳しくは、『[マッピング・ルールへの関数の割り当て](#)』を参照してください。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/editing_lookup_tables.html


カスタム関数について

カスタム関数は、マッピング・エディターで使用するために開発する JavaScript 関数です。以下のスクリプト標準がサポートされています。

- JavaScript 1.5
- ECMAScript 3.0

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_About_Custom_Functions.html

カスタム関数の定義

このタスクについて

カスタム関数を定義または作成するには、以下のようにします。

手順

1. 「関数」タブを選択します。「関数」タブに標準関数のリストが表示されます。さらに、「アクション」ペインが開きます。
2. 「カスタム関数」ダイアログ・ボックスを表示するには、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「関数」タブの「カスタム関数」ノードを右クリックし、メニューから「新規カスタム関数の追加...」を選択します。
 - 「アクション」ペインで、「新規カスタム関数の追加」を選択します。

「カスタム関数」ダイアログ・ボックスが開きます。

3. 「カスタム関数」ダイアログ・ボックスの「関数名」フィールドに、カスタム関数の有効な JavaScript 名を入力します。

注: この名前は、現行プロジェクト内のすべてのカスタム関数を通じて固有である必要があります。関数の名前に大/小文字の区別はありません。大/小文字の区別は考慮されません。例えば、関数名 Aaa は関数名 AAA と同じです。
4. 以下のいずれかのオプションから、カスタム関数の「戻りの型」を選択します。
 - スtring
 - 数値
 - ブール

これらのデータ型について詳しくは、『[カスタム関数のパラメーターおよび戻りのデータ型](#)』を参照してください。

5. カスタム関数のパラメーターを定義します。カスタム関数のパラメーターごとに、以下の手順を繰り返してください。


- a. 「追加」をクリックします。
 - b. 「パラメーター」テーブルの「名前」フィールドにパラメーターの名前を入力して、Return キーを押します。
 - c. 以下のいずれかのオプションから、パラメーターの「タイプ」を選択します。
 - スtring
 - 数値
 - ブール
 - d. これらのデータ型について詳しくは、『[カスタム関数のパラメーターおよび戻りのデータ型](#)』を参照してください。
6. 以下の手順で、カスタム関数のソース・コードを入力します。
- a. 「次へ」をクリックします。
 - b. 中括弧の間に表示された空白域に、カスタム関数の JavaScript コードを入力します。
 - c. 「コンパイル」をクリックします。関数の構文が検査され、エラーがあれば報告されます。ソース・コード内のエラーの位置は赤で強調表示されます。
 - d. すべての構文エラーを修正し、関数が正しくコンパイルされたら、「OK」をクリックし、次に「終了」をクリックします。

タスクの結果

これで、「関数」タブの「カスタム関数」フォルダーでカスタム関数が使用可能になりました。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/defining_a_custom_function.html

カスタム関数の編集

このタスクについて

既存のカスタム関数を編集するには、以下のようになります。

手順

1. 「関数」タブを選択します。「関数」タブに標準関数のリストが表示されます。さらに、「アクション」ペインが開きます。
2. 「関数」タブで、「カスタム関数」を展開します。
3. 編集するカスタム関数を選択します。
4. 「カスタム関数」ダイアログ・ボックスを表示するには、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - 「関数」タブで関数ノードを右クリックし、メニューから「編集...」を選択します。
 - 「アクション」ペインで、「新規ルックアップ・テーブルの追加」を選択します。

「カスタム関数」ダイアログ・ボックスが開きます。

5. 「カスタム関数」ダイアログ・ボックスで、以下のアクションのいずれかを使用してカスタム関数を編集します。

- **パラメーターの追加** - カスタム関数にパラメーターを追加するには、以下の手順に従ってください。
 - a. 「追加」をクリックします。
 - b. 「パラメーター」テーブルの「名前」フィールドに、パラメーターの名前を入力します。
 - c. 以下のいずれかのオプションから、パラメーターの「タイプ」を選択します。
 - スtring
 - 数値
 - ブール

これらのデータ型について詳しくは、『[カスタム関数のパラメーターおよび戻りのデータ型](#)』を参照してください。

- **パラメーターの削除** - カスタム関数からパラメーターを削除するには、以下の手順に従ってください。
 - a. 「パラメーター」テーブルの「名前」フィールドでパラメーターを選択して、Return キーを押します。
 - b. 「削除」をクリックします。
- **戻りの型の変更** - 「戻りの型」フィールドから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - スtring
 - 数値
 - ブール

これらのデータ型について詳しくは、『[カスタム関数のパラメーターおよび戻りのデータ型](#)』を参照してください。

- **ソース・コードの編集** - カスタム関数のソース・コードを編集するには、以下の手順に従ってください。
 - a. 「次へ」をクリックします。
 - b. 中括弧の間に表示された空白域に、カスタム関数の JavaScript コードを入力します。
 - c. 「コンパイル」をクリックします。


関数の構文が検査され、エラーがあれば報告されます。ソース・コード内のエラーの位置は赤で強調表示されます。

- d. すべての構文エラーを修正し、関数が正しくコンパイルされたら、「OK」をクリックし、次に「終了」をクリックします。

これで、「関数」タブの「カスタム関数」フォルダーでカスタム関数が使用可能になりました。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/editing_a_custom_function.html

カスタム関数のパラメーターおよび戻りのデータ型

カスタム関数のパラメーターでサポートされるデータ型と戻りの型、およびそれらに相当する JavaScript 型を、次の表に示します。

カスタム・データ型	JavaScript データ型	説明
string	string	テキスト文字
number	double	整数または 10 進数
boolean	bool	true または false のいずれかのブール値

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Custom_Function_Parameter_and_Return_Datatypes.html

ソース・ノード・リンクを使用しない関数の割り当て

このタスクについて

宛先ノードへの入力が、ソース・ノードからではなく関数の戻り値から提供される、マッピング・ルールを定義するには、次のようにします。

手順

1. 「関数」タブを選択します。「関数」タブに、使用可能な関数のリストが表示されます。
2. 「関数」タブで、宛先ノードに割り当てる関数が含まれるフォルダーを展開します。この関数に入力パラメーターは指定できません。例えば、**Get Current® Date and Time** 関数にはパラメーターがありません(この関数は現在の日時を返します)。
3. 関数アイコンを選択し、マッピング・エディターの中央のペイン(マップする宛先ノードの近く)にドラッグします。
4. マッピング・エディター内で、関数アイコンから宛先ノードにドラッグします。関数から宛先ノードへのリンクが表示されます。
5. オプション: マッピング・ルール内の関数を右クリックし、「関数グラフの適用」を選択して、マッピング・ルールが有効であるかどうかをテストします。マッピング・ルールが有効である場合は、[図 1](#)のように、マッピング・リンクのグラフィカル表現に正方形の関数アイコンは表示されず、宛先ノード・アイコンの左側に関数アイコンが表示されます。

タスクの結果

図 1. ソース・ノード関数アイコンは表示されない



親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_Assigning_a_Function_Without_a_Source_Node_Link.html

マップ作成時の関数の割り当て

このタスクについて

マップの作成中に関数を割り当てるには、以下のようにします。

手順

1. 「関数」タブを選択します。「関数」タブに、使用可能な関数のリストが表示されます。
2. 「関数」タブから、マッピング・エディター内のマップする2つのノードの間まで関数をドラッグします。
3. ソース・ノードを関数アイコンにドラッグしてリンクを作成します。ソース・ノードは関数の最初のパラメーターに割り当てられます。実行時には、このソース・ノードの値が関数の最初のパラメーターとして提供されます。
4. 宛先ノードを関数アイコンにドラッグしてリンクを作成します。実行時には、関数の戻り値が宛先ノードに追加されます。
5. 関数に複数の入力パラメーターがある場合は、以下のいずれかのオプションを使用して、残りの入力パラメーターを割り当てる必要があります。
 - 別のソース・ノードからのリンクを作成するか (ステップ3の説明を参照)、または現在のマッピング・ルールで使用されている関数からのリンクを作成します。
 - 「関数のプロパティ (Functions Properties)」ダイアログ・ボックスを使用して、入力パラメーターの割り当てを編集します。「関数のプロパティ (Functions Properties)」ダイアログ・ボックスを開くには、マッピング・エディターで関数をダブルクリックします。
6. オプション: トピック『[既存のマッピング・ルールへの関数の追加](#)』の説明にある手順を使用して、マッピング・ルールにさらに関数を追加します。例については、次の『[例: 複数の関数のチェーニング](#)』を参照してください。
7. オプション: マッピング・ルールに関連付けられた関数が残っている場合は、マッピング・ルール内の関数を右クリックし、「関数グラフの適用」を選択して、マッピング・ルールが有効であるかどうかをテストします。マッピング・ルールが有効である場合は、マッピング・リンクのグラフィカル表現に正方形の関数アイコンは表示されず、両端に小さい正方形のある青色のバーが表示されます (■——■)。マッピング・ルールが有効ではない場合、マッピング・ルールのグラフィカル表現に変更はありません。関数アイコンが表示されたまま (例えば )、エラー・ダイアログが開きます。
注: 関数を含むマッピング・ルールが有効と見なされるのは、関数のすべての入力パラメーターに正しいデータ型の値が割り当てられ、最後の関数の戻り値が宛先ノードのデータ型と一致している場合です。関数の入力パラメーターは、ソース・ノードから提供するか、またはそのマッピング・ルールに関連付けられた他の関数の戻りの型から提供できます。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_assigning_functions_create_maps.html

既存のマッピング・ルールへの関数の追加

このタスクについて


関数を既存のマッピング・ルールに追加するには、以下のようになります。

手順

1. 「関数」タブを選択します。「関数」タブに、使用可能な関数のリストが表示されます。
2. 「関数」タブからマッピング・エディター内の既存のマッピング・ルールまで関数をドラッグします。

マッピング・ルールのソース・ノードは関数の最初のパラメーターに割り当てられます。実行時には、ソース・ノードの値が関数の最初のパラメーターとして提供されます。

マッピング・ルールの宛先ノードは関数の戻りの型に割り当てられます。実行時には、関数の戻り値が宛先ノードに追加されます。

3. 関数に複数の入力パラメーターがある場合は、以下のいずれかのオプションを使用して、残りの入力パラメーターを割り当てる必要があります。
 - 別のソース・ノードからのリンクを作成するか (『[マップ作成時の関数の割り当て](#)』のステップ 3 の説明を参照)、または現在のマッピング・ルールで使用されている関数からのリンクを作成します。
 - 「関数のプロパティ (Functions Properties)」ダイアログ・ボックスを使用して、入力パラメーターの割り当てを編集します。「関数のプロパティ (Functions Properties)」ダイアログ・ボックスを開くには、マッピング・エディターで関数をダブルクリックします。
4. オプション: この同じ手順を使用して、マッピング・ルールにさらに関数を追加します。詳細については、『[例: 複数の関数のチェーニング](#)』を参照してください。
5. オプション: マッピング・ルール内の関数を右クリックし、「関数グラフの適用」を選択して、マッピング・ルールが有効であるかどうかをテストします。マッピング・ルールが有効である場合は、マッピング・リンクのグラフィカル表現に正方形の関数アイコンは表示されず、両端に小さい正方形のある青色のバーが表示されます (■——■)。マッピング・ルールが有効ではない場合、マッピング・ルールのグラフィカル表現に変更はありません。関数アイコンが表示されたまま (例えば: )、エラー・ダイアログが開きます。

注: 関数を含むマッピング・ルールが有効と見なされるのは、関数のすべての入力パラメーターに正しいデータ型の値が割り当てられ、最後の関数の戻り値が宛先ノードのデータ型と一致している場合です。関数の入力パラメーターは、ソース・ノードから提供するか、またはそのマッピング・ルールに関連付けられた他の関数の戻りの型から提供できます。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_assigning_functions_add_to_existing_rule.html

例: 複数の関数のチェーニング

このタスクについて

1つのマッピング・ルール内で複数の関数をチェーニングできます。マッピング・ルール内での関数の実行フローは、左から右です。

例えば、複数の関数を次のような順序で使用するマッピング・ルールを作成できます。

手順

1. タイプが「string」のソース・ノードは、**trim** 関数への入力パラメーターです。
2. **trim** 関数によって入力パラメーターの先頭と末尾の空白文字が削除され、結果のstringが返されます。
3. **trim** 関数から返されたstringが、**lowercase** 関数への入力パラメーターになります。
4. **lowercase** 関数によって入力stringの個々の大文字が小文字形式に変換され、結果のstringが返されます。
5. **lowercase** 関数から返されたstringは、タイプが「string」の宛先ノードに追加されます。

タスクの結果

このマッピング・ルールは、マッピング・エディターで次の図のように表示されます。



親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_assigning_functions_example.html

マッピング・ルールへの関数の割り当て

組み込み関数またはカスタム関数をマップに割り当てることで、ソース・ノードからのデータを宛先ノードに追加する前に、データを変換または操作します。また、マッピング・ルールに関連付けられた他の関数から、入力パラメーターのソース・データを提供できます。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

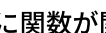
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_assigning_functions_to_a_mapping_rule.html

マッピング・ルールからの関数の削除



このタスクについて

マッピング・エディターでマッピング・ルールに使用される関数を削除するには、次のようにします。


手順

1. 関数が表示された状態でマッピング・リンクを表示します。1つ以上の関数を含むマッピング・リンクで、リンクに関数に関連付けられていても関数が表示されない (例:  場合は、マッピング・ルールを右クリックし、リストから「関数グラフの編集」を選択します。マッピング・ルールに関連付けられた関数が表示されます。
2. 以下のオプションのいずれかを選択します。
 - 削除する関数を選択して、Delete キーを押します。
 - 関数を右クリックし、リストの「関数の削除」を選択します。

マッピング・ルールによっては、ソース・ノード、他の関数、または宛先ノードとの間のリンクを削除できます。

3. マッピング・ルールに、欠落しているリンクがある場合は、リンクを修復します。
4. オプション: マッピング・ルールに関連付けられた関数が残っている場合は、マッピング・ルール内の関数を右クリックし、「関数グラフの適用」を選択して、マッピング・ルールが有効であるかどうかをテストします。マッピング・ルールが有効である場合は、マッピング・リンクのグラフィカル表現に正方形の関数アイコンは表示されず、両端に小さい正方形のある青色のバーが表示されます ()。マッピング・ルールが有効ではない場合、マッピング・ルールのグラフィカル表現に変更はありません。関数アイコンが表示されたまま ()、エラー・ダイアログが開きます。

注: 関数を含むマッピング・ルールが有効と見なされるのは、関数のすべての入力パラメーターに正しいデータ型の値が割り当てられ、最後の関数の戻り値が宛先ノードのデータ型と一致している場合です。関数の入力パラメーターは、ソース・ノードから提供するか、またはそのマッピング・ルールに関連付けられた他の関数の戻りの型から提供できます。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_deleting_a_function_from_a_mapping_rule.html

ノード・セット制約のある数学関数

以下の数学関数は、ノードのセットから値を計算します。

- **Average**
- **Count**
- **Maximum**
- **Minimum**
- **Sum**

例えば Sum 関数は、ItemPrice が繰り返しソース・ノードである場合に、すべての ItemPrice ノードの合計値を計算します。

これらの関数では、単一ノードを含め、複数のノード・セットをパラメーターとして使用できます。また、ノード・セットを受け入れる関数のパラメーターとして、リテラル数または他の数学関数の結果を使用することもできます。


その他の数学関数またはリテラルの組み合わせにおける制約事項

数値または他の関数を使用してノード・セット・パラメーターを指定する際、一部の数学関数では、ノード・セットの最初のオカレンスを計算で使用します。マッピング・ルールでは、セットの1つのノードのみをパラメーターとして処理する関数を、ノード・セット全体を処理する別の関数にリンクすると、ノード・セット全体からの値が最終結果に含まれません。

例えば、マッピング・ルールで Multiply 関数が Sum 関数にリンクされている場合は、実行時に Multiply 関数の結果が Sum 関数への入力になります。Multiply 関数への入力が繰り返し項目構造である場合、**Multiply** 関数は、UnitPrice と Quantity を乗算し、その結果を Sum 関数に渡します。Sum 関数の結果は、すべての項目の合計増値ではなく、最初の UnitPrice と Quantity の積になります。

注: Count 関数は、通常はマップできない構造ノードまたは選択ノードを含め、ソース・ノードをパラメーターとして受け入れます。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Math_Functions_with_Node_Set_Constraints.html

パラメーターの追加

このタスクについて

パラメーターを追加できるのは、必須パラメーターが欠落している場合、およびオプション・パラメーターの最大数に達していない場合に限られます。

次のようにして、パラメーターを追加します。


手順

1. 「関数仮パラメーター」ダイアログ・ボックスで「追加」をクリックします。
2. そのパラメーターの値を「値」セルに入力します。
3. 「OK」をクリックします。

注: 一部の関数では、パラメーターとしてソース・ノードのみが受け入れられます。詳しくは、『[ノード・セット制約のある数学関数](#)』を参照してください。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_adding_function_properties_add.html

パラメーターの編集


このタスクについて

次のようにして、パラメーターを編集します。

手順

1. 編集する関数の「関数仮パラメーター」ダイアログ・ボックスを開きます。
2. 変更する値が含まれているセルをクリックします。または、ダイアログ・ボックス内のボタンの1つをクリックして、選択したパラメーターを追加、削除、または再配列します。
3. 編集が終了したら、「OK」をクリックして変更を保存し、ダイアログ・ボックスを閉じます。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_adding_function_properties_edit.html

パラメーターの削除


このタスクについて

次のようにして、パラメーターを削除します。

手順

1. 編集する関数の「関数仮パラメーター」ダイアログ・ボックスを開きます。
2. 削除するオプション・パラメーターをパラメーター・リストから選択します。
3. 「削除」をクリックします。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_adding_function_properties_delete.html

パラメーターの再配列


このタスクについて

パラメーター・リストのパラメーターの順序を変更するには、次のようにします。

手順

1. 「関数仮パラメーター」ダイアログ・ボックスでパラメーターを選択します。
2. リストの上方にパラメーターを移動するには、「上へ」をクリックします。リストの下方にパラメーターを移動するには、「下へ」をクリックします。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/map_adding_function_properties_reorder.html

繰り返しノードを入力として受け入れる関数のデフォルト値の指定

このタスクについて

以下の数学関数は、ノードのセットから値を計算します。


- **Average**
- **Count**
- **Maximum**
- **Minimum**
- **Sum**

これらの関数の入力パラメーターのデフォルト値 (または定数) は、「関数プロパティ (Functions Properties)」ダイアログ・ボックスでは指定できません。これらの関数の入力パラメーターのデフォルト値を指定するには、以下の手順を実行してください。

手順

1. 関数の入力パラメーターと同じデータ型の変数を作成します。
2. 「変数」タブの「プロパティ (Properties of)」ペインで、変数の「デフォルト値」フィールドに定数値を入力します。
3. アクティビティの「オーケストレーションから」ペインで、デフォルト値を持つ変数を追加します。
4. 変数を関数の入力パラメーターにマップします。

親トピック: [カスタム関数およびルックアップ・テーブルの使用](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Defining_Default_Values_for_Parameters_that_Allow_Recurring_Nodes.html

マッピング関数参照

- **マッピング関数の概要**
マッピング関数には、ストリング、数学、HTTP ヘッダー、各種、バイナリー・データ、日付、セキュリティーという 7 種類の関数があります。
- **マッピング関数の構文およびデータ型**
マッピング関数は、関数の目的の説明、有効な入力パラメーターと構文の設定、および関数からの戻りの設定を行うために使用します。
- **Absolute Value 関数**
Absolute Value 関数は、パラメーターの絶対値を判別します。
- **Add 関数**
Add 関数はすべてのパラメーターを加算します。
- **AES 暗号化解除関数**
AES 暗号化解除関数は、128 ビット強度の Advanced Encryption Standard (AES) アルゴリズムを使用してフィールドとコンテンツを暗号化解除します。
- **AES 暗号化関数**
AES 暗号化関数は、128 ビット強度の Advanced Encryption Standard (AES) アルゴリズムを使用してフィールドとコンテンツを暗号化します。
- **Align Center 関数**
Align Center 関数は、埋め込みストリング内でストリングを中央揃えします。両側の埋め込みが均等でない場合は、埋め込み量の少ない方が左側になります。
- **Align Left 関数**
Align Left 関数は、埋め込みストリング内でストリングが左端の文字から始まるように配置します。
- **Align Right 関数**
Align Right 関数は、埋め込みストリング内でストリングが右端の文字で終わるように配置します。
- **Average 関数**
Average 関数は、すべてのパラメーター内の数値ノードのセットの平均値を判別します。
- **Base64 Encode および Decode 関数**
Base64 は、特定の MIME コンテンツ転送エンコード方式を指します。Base64 エンコードは、任意のオクテット・シーケンスを、大/小文字の区別が必要な形式(ただし、可読文字でなくて構わない)で表します。
- **Boolean 関数**
Boolean 関数は、パラメーターを評価し、入力のデータ型に応じて、以下のように true または false を返します。
- **Ceiling 関数**
Ceiling 関数は、パラメーターを最も近い整数に切り上げます。
- **Concatenate 関数**
Concatenate 関数は、すべてのパラメーター・ストリングを、パラメーターの指定順序に従って連結し、単一の結果を生成します。
- **Cast From Base64Binary 関数**
「**Base64Binary からのキャスト (Cast From Base64Binary)**」機能は、ある特定の XML スキーマ・データ型から別の XML スキーマ・データ型へのキャストを行います。
- **「HexBinary からのキャスト (Casts From HexBinary)」機能**
「**HexBinary からのキャスト (Casts From HexBinary)**」機能は、ある特定の XML スキーマ・データ型から別の XML スキーマ・データ型へのキャストを行います。
- **Cast To Base64Binary 関数**
「**Base64Binary へのキャスト (Cast To Base64Binary)**」機能は、ある特定の XML スキーマ・データ型から別の XML スキーマ・データ型へのキャストを行います。
- **Cast To HexBinary 関数**
「**HexBinary へのキャスト (Cast To HexBinary)**」機能は、ある特定の XML スキーマ・データ型から別

の XML スキーマ・データ型へのキャストを行います。

- [CopyOf 機能](#)

CopyOf 機能は、ソース・ノードの内容全体を宛先ノードにコピーします。

- [Count 関数](#)

Count 関数は、パラメーター内のすべてのノードのセットにあるノード数を判別します。

- [タイプ・パスワードの構成プロパティのデコード](#)

タイプ・パスワードの「**構成プロパティのデコード**」は、2つのオーケストレーション間で base64 エンコード・パスワードをデコードします。

- [Digest/Hash 関数](#)

Digest/Hash 関数は、メッセージ・ダイジェストと呼ばれる情報のデジタル・サマリーを生成します。メッセージ・ダイジェストは、デジタル文書にデジタル ID を提供します。Digest/Hash 関数によって生成されるメッセージ・ダイジェストは、Base64 でエンコードされます。

- [Divide 関数](#)

Divide 関数は、最初のパラメーターを後続のすべてのパラメーターで除算した 10 進数の商を返します。

- [「HTTP ヘッダー・フィールドの抽出」関数](#)

「**HTTP ヘッダー・フィールドの抽出**」関数は、指定された区切り文字を持つ文字列を抽出します。この関数は、HTTP ヘッダーからさらに文字列を抽出するときに使用できます。

- [「照会パラメーターの抽出」関数](#)

「**照会パラメーターの抽出**」関数は、HTTP ヘッダーの URI 文字列から照会文字列を抽出します。

- [「URI パスの抽出」関数](#)

「**URI パスの抽出**」関数は、HTTP ヘッダーの URI 文字列から URI を抽出します。

- [Floor 関数](#)

Floor 関数は、パラメーターを最も近い整数に切り捨てます。

- [Format Date String 関数](#)

Format Date String 関数は、XML スキーマ・データ型 xs:date を、2 番目のパラメーターで定義された形式の文字列に変換します。

- [Format Number 関数](#)

Format Number 関数は、指定されたパターンに適合するように形式設定された数字として文字列を返します。

- [RFC2104 HMAC 準拠署名の生成](#)

HMAC は、暗号ハッシュ関数を使用したメッセージ認証のメカニズムです。

- [Get Current Date and Time 関数](#)

Get Current[®] Date and Time 関数は、特定の XML スキーマ・データ型として現在の日時を返します。

- [Get Current Date 関数](#)

Get Current Date 関数は、ローカル時間帯での現在日付を、XML スキーマ・データ型 xs:date として返します。

- [Get Current Time 関数](#)

Get Current Time 関数は、ローカル時間帯での現在時刻を、XML スキーマ・データ型 xs:time として返します。

- [Length 関数](#)

Length 関数は、パラメーター内の文字数を判別します。

- [Lowercase 関数](#)

Lowercase 関数は、すべての大文字を小文字に変換します。

- [Maximum 関数](#)

Maximum 関数は、パラメーター内にある、ノード、数値ノードのセット、または数値の中で、最大の値を判別します。

- [Minimum 関数](#)

Minimum 関数は、パラメーター内にある、ノード、数値ノードのセット、または数値の中で、最小の値を判別します。

- [Modulo 関数](#)
Modulo 関数は、最初のパラメーターを後続のすべてのパラメーターで除算した余りを判別します。
- [Multiply 関数](#)
Multiply 関数は、すべてのパラメーターの積を返します。
- [Not 関数](#)
Not 関数は一般に、負または補完の条件を指定する状況で使用します。
- [Number 関数](#)
Number 関数は、パラメーターのデータ型を数値に変更します。
- [Padding String 関数](#)
Padding String 関数は、指定された長さおよび文字の埋め込みストリングを返します。埋め込みストリングは位置合わせ関数で使用されます。
- [Position 関数](#)
Position 関数は、兄弟のセット内での現行ノードに対する索引を示す状況で使用します。この関数は、繰り返しノードのコンテキスト内でのみ機能し、パラメーターはありません。
- [Read Date String 関数](#)
Read Date String 関数は、ストリング (日時を含む) を XML スキーマ・データ型 `xs:dateTime` に変換します。
- [Replace 関数](#)
Replace 関数は、個々の文字を他の個々の文字に置き換えます。
- [Round 関数](#)
Round 関数は、数値を最も近い整数に丸めます。
- [Starts With 関数](#)
Starts With 関数は、最初のパラメーターが 2 番目のパラメーターの文字で始まるかどうかを判別します。
- [String 関数](#)
String 関数は、パラメーターのデータ型をストリングに変更します。
- [Substring 関数](#)
Substring 関数は、指定された文字位置に基づいてパラメーターの一部を抜き出します。
- [Substring After 関数](#)
Substring After 関数は、指定されたサブストリング (1 つ以上の文字) の最初のオカレンスの後からストリングの終わりまでの、すべての文字を抜き出します。
- [Substring Before 関数](#)
Substring Before 関数は、ストリングの先頭から、指定されたサブストリング (1 つ以上の文字) の最初のオカレンスまでの、すべての文字を抜き出します。
- [Subtract 関数](#)
Subtract 関数は、最初のパラメーターから後続のすべてのパラメーターを減算した差を返します。
- [Sum 関数](#)
Sum 関数は、パラメーター内にある、数値ノード、数値ノードのセット、または数値の、値の合計を判別します。
- [Trim 関数](#)
Trim 関数は、先行スペースと末尾スペースをすべてトリムし、連続した一連のホワイト・スペース文字を単一スペースに置き換えます。
- [Uppercase 関数](#)
Uppercase 関数は、すべての小文字を対応する大文字に変換します。

マッピング関数の概要

マッピング関数には、文字列、数学、HTTP ヘッダー、各種、バイナリー・データ、日付、セキュリティーという 7 種類の関数があります。

マッピング関数は、「関数」タブをクリックすると表示できます。マッピング関数は次のカテゴリに分かれています。

- [文字列](#)
- [数学](#)
- [HTTP ヘッダー](#)
- [各種](#)
- [バイナリー・データ](#)
- [日付](#)
- [セキュリティー](#)


文字列関数	定義
Align Center	指定された埋め込み文字列内で文字列を中央揃えします。
Align Left	埋め込み文字列内で文字列が左端の文字から始まるように配置します。
Align Right	埋め込み文字列内で文字列が右端の文字で終わるように配置します。
Concatenate	すべてのパラメーター・文字列を単一文字列に結合します。
Format Number	指定されたパターンに適合するように形式設定された数字として文字列を返します。
Length	パラメーター内の文字数を判別します。
Lowercase	英大文字をすべて小文字に変換します。
Padding String	指定された長さおよび文字の埋め込み文字列を返します。
Replace	個々の文字を他の個々の文字に置き換えます。
Starts With	最初のパラメーターが 2 番目のパラメーターの文字で始まるかどうかを判別します。
Substring	指定された文字位置に基づいてパラメーターの一部を抜き出します。
Substring After	指定されたサブ文字列 (1 つ以上の文字) の最初のオカレンスの後から文字列の終わりまでの、すべての文字を抜き出します。
Substring Before	文字列の先頭から、指定されたサブ文字列 (1 つ以上の文字) の最初のオカレンスまでの、すべての文字を抜き出します。
Trim	先行スペースと末尾スペースをパラメーターからすべてトリムし、パラメーター内のすべてのスペースを正規化します。

ストリング関数	定義
Uppercase	すべての英小文字を対応する大文字に変換します。
数学関数	説明
Absolute Value	パラメーターの絶対値を判別します。
Add	すべてのパラメーターを加算します。
Average	パラメーター内の数値ノードまたはノードのセットの平均値を判別します。
Ceiling	パラメーターを最も近い整数に切り上げます。
Count	パラメーター内のすべてのノードまたはノードのセットにあるノード数をカウントします。
Divide	最初のパラメーターを後続のすべてのパラメーターで除算した商を返します。
Floor	パラメーターを最も近い整数に切り捨てます。
Maximum	パラメーター内の数値ノードまたはノードのセットの中で最大の値を判別します。
Minimum	パラメーター内の数値ノードまたはノードのセットの中で最小の値を判別します。
Modulo	最初のパラメーターを後続のすべてのパラメーターで除算した余りを判別します。
Multiply	すべてのパラメーターの積を返します。
Round	数値を最も近い整数に丸めます。
Subtract	最初のパラメーターから後続のすべてのパラメーターを減算した差を返します。
Sum	パラメーター内のすべての数値ノードまたはノードのセットを加算します。
HTTP ヘッダー関数	説明
「HTTP ヘッダー・フィールドの抽出」関数	指定された区切り文字を持つストリングを抽出します。HTTP ヘッダーからさらにストリングを抽出するときにも使用できます。
「URI パスの抽出」関数	HTTP ヘッダーの URI ストリングから URI を抽出します。
「照会パラメーターの抽出」関数	HTTP ヘッダーの URI ストリングから照会ストリングを抽出します。
各種関数	説明
Boolean	パラメーターを評価し、入力のデータ型に応じて true または false を返します。
Copy Of	ソース・ノードの名前が受け渡し値に一致する場合に、この関数は、ソース・ノードの内容全体(すべての子を含むソース・ノードのサブツリー全体)を宛先ノードへコピーします。
Not	パラメーターが false に評価される場合は、true を返します。パラメーターが true に評価される場合は、false を返します。
Number	パラメーターのデータ型を number に変更します。
Position	兄弟のセット内での現行ノードに対する索引を判別します。

各種関数	説明
String	パラメーターのデータ型をストリングに変更します。
バイナリー・データ用の関数	説明
Cast From Base64Binary 関数	XML スキーマ・データ型 <code>xs:base64Binary</code> から XML スキーマ・データ型 <code>xs:string</code> にキャストします。
Cast From HexBinary 関数	XML スキーマ・データ型 <code>xs:hexBinary</code> から XML スキーマ・データ型 <code>xs:string</code> にキャストします。
Cast To Base64Binary 関数	XML スキーマ・データ型 <code>xs:string</code> から XML スキーマ・データ型 <code>xs:base64Binary</code> にキャストします。
Cast To HexBinary 関数	XML スキーマ・データ型 <code>xs:string</code> から XML スキーマ・データ型 <code>xs:hexBinary</code> にキャストします。
日付関数	説明
Get Current Date and Time 関数	ローカル時間帯での現在日時を、XML スキーマ・データ型 <code>xs:dateTime</code> として返します。
Get Current Date 関数	ローカル時間帯での現在日付を XML スキーマ・データ型 <code>xs:date</code> として返します。
Get Current Time 関数	<code>Get Current Time</code> 関数は、ローカル時間帯での現在日付を XML スキーマ・データ型 <code>xs:time</code> として返します。
Read Date String 関数	ストリング (日時を含む) を XML スキーマ・データ型 <code>xs:dateTime</code> に変換します。
Format Date String 関数	XML スキーマ・データ型 <code>xs:dateTime</code> を、2 番目のパラメーターで定義された形式のストリングに変換します。
セキュリティ関数	説明
AES 暗号化関数	Advanced Encryption Standard (AES) アルゴリズムを使用して、フィールドとコンテンツを暗号化します。
AES 暗号化解除関数	Advanced Encryption Standard (AES) アルゴリズムを使用して、フィールドとコンテンツを暗号化解除します。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Mapping_Function_Overview.html

マッピング関数の構文およびデータ型

マッピング関数は、関数の目的の説明、有効な入力パラメーターと構文の設定、および関数からの戻りの設定を行うために使用します。

マッピング関数のトピック説明には、以下が含まれます。

- 関数の目的の要旨。
- 有効な入力パラメーター。パラメーターの順序は多くの関数で重要であるため、その順序でリストされています。パラメーターでは以下の構文が使用されます。

`datatype` - 同じタイプのパラメーターを複数使用できる場合は、`n` が順序を示します。

`[datatype] - []` はパラメーターがオプションであることを示します。

- 関数から返される内容 (戻り)。

マッピング関数は以下のデータ型を処理できます。

`anysimpletype`

数値、ストリング、日付、またはブールなど、あらゆるデータ型が許容されます。

`boolean`

`true` または `false`。

`date`

YYYY-MM-DD の形式で日付を表すストリング (構成要素の説明については、`datetime` を参照してください)。

`datetime`

YYYY-MM-DDThh:mm:ss.ssss の形式で日時を表すストリング。
各部の意味は、次のとおりです。

- YYYY = 年
- MM = 月
- DD = 日
- T = 日時分離文字
- hh = 時
- mm = 分
- ss = 秒
- ssss = オプションのミリ秒

`day`

DD の形式で日付の日の部分を表すストリング。

`dt`

複数の異なる日時データ型を指定できます。有効なデータ型のリストについては、パラメーターの説明を参照してください。

`duration`

`[-]PnYnMnDnHnMnS:` の形式で時間間隔を表すストリング。

- [-] = オプションの負符号
- P = 期間標識
- nY = 年数
- nM = 月数
- nD = 日数

- T = 日時分離文字
- nH = 時間数
- nM = 分数
- nS = 秒数

空ストリング

内容を含まないストリング (例えば ""). これは一般的に、結果が通常はストリングであるときに、エラー条件が発生した場合に返されます。

month

MM の形式で日付の月の部分を表すストリング。

monthday

MM-DD の形式で日付の月と日の部分を表すストリング。

nodeset

スキーマ内のノードのセット。ノード・セットは、スキーマ内のノードまたは構造への特定パスによって識別されます。ノード・セットは特定の数学関数で使用されます。セット内のノードのデータ型は数値である必要があります。

number

以下を含む任意の整数または 10 進数:

- 正および負のゼロ
- 正および負の無限大
- NaN (結果が数値でないことを示す値)

string

メッセージの文字エンコード内のテキスト文字。

time

次の形式で時刻を表すストリング。

hh:mm:ss.sss[-time-zone-indicator]

構成要素の説明については、`datetime` を参照してください。

tm

複数の異なる時刻データ型を指定できます。有効なデータ型のリストについては、パラメーターの説明を参照してください。

year


YYYY の形式で日付の年の部分を表すストリング。

yearmonth

YYYY-MM の形式で日付の年と月の部分を表すストリング。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

Absolute Value 関数

Absolute Value 関数は、パラメーターの絶対値を判別します。

パラメーター: number

絶対値を判別する対象となる数値。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: number


パラメーターの絶対値。

例:

10 は、10 と -10 の両方の結果です。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Absolute_Value.html

Add 関数

Add 関数はすべてのパラメーターを加算します。

パラメーター: number1, [number2 - 1000]


パラメーターはそれぞれ、ソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。1つ以上のパラメーターが必要です。

戻り: number

すべてのパラメーターの和。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Add_function.html

AES 暗号化解除関数

AES 暗号化解除関数は、128 ビット強度の Advanced Encryption Standard (AES) アルゴリズムを使用してフィールドとコンテンツを暗号化解除します。

パラメーター: データ、鍵


暗号化されたコンテンツとして渡されたデータが、AES 鍵を使用して元のコンテンツへと暗号化解除されます。

戻り: string

暗号化解除されたコンテンツが返され、ストリングとして格納されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/AES_Decrypt_function.html

AES 暗号化関数

AES 暗号化関数は、128 ビット強度の Advanced Encryption Standard (AES) アルゴリズムを使用してフィールドとコンテンツを暗号化します。

パラメーター: データ、鍵


入力として渡されるデータが、AES 鍵を使用して暗号化されます。

戻り: string

暗号化されたコンテンツが返され、ストリングとして格納されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

Align Center 関数

Align Center 関数は、埋め込みストリング内でストリングを中央揃えします。両側の埋め込みが均等でない場合は、埋め込み量の少ない方が左側になります。

パラメーター: string1

位置合わせするストリング。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: string2

埋め込みストリング。このストリングは、結果を作成するために十分な長さである必要があり、埋め込みに使用する文字 (複数可) が含まれている必要があります。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。 [Padding String](#) 関数を使用すると、埋め込みストリングを生成できます。

戻り: string


埋め込まれ、中央揃えされたストリング。

例:

```
align-center('widgets','-----') = '-widgets--'
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Align_Center.html

Align Left 関数

Align Left 関数は、埋め込みストリング内でストリングが左端の文字から始まるように配置します。

パラメーター: string1

位置合わせするストリング。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: string2

埋め込みストリング。このストリングは、結果を作成するために十分な長さである必要があり、埋め込みに使用する文字 (複数可) が含まれている必要があります。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。 [Padding String](#) 関数を使用すると、埋め込みストリングを生成できます。

戻り: string

埋め込まれ、左寄せされたストリング。

例: `align-left('widgets','-----') = 'widgets---`

例:

`align-center('widgets','-----') = '-widgets--'`

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Align_Left.html

Align Right 関数

Align Right 関数は、埋め込みストリング内でストリングが右端の文字で終わるように配置します。

パラメーター: string1

位置合わせするストリング。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: string2

埋め込みストリング。このストリングは、結果を作成するために十分な長さである必要があり、埋め込みに使用する文字 (複数可) が含まれている必要があります。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。 [Padding String](#) 関数を使用すると、埋め込みストリングを生成できます。

例:

`align-center('widgets','-----') = '-widgets--'`

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Align_Right.html

Average 関数

Average 関数は、すべてのパラメーター内の数値ノードのセットの平均値を判別します。

この関数のパラメーターとして、リテラル数または他の関数の結果を使用すると、それらの数値が合計に加算されます。これらもノードとしてカウントされ、平均が判別されます。

パラメーター: input, input ...

平均を計算する対象となる数値ノード。これらは、繰り返しまたは非繰り返しソース・ノード、他の関数の結果、あるいは指定した値にすることができます。

この関数の入力パラメーターにデフォルト値 (または定数) を指定することはできませんが、変数をデフォルト値とともに指定し、その変数を入力パラメーターとしてこの関数に渡すことはできます。詳細については、『[繰り返しノードを入力として使用可能な関数のデフォルト値の指定](#)』を参照してください。

重要: マッピング・エディターで、繰り返しソース・ノードと、繰り返しノードをサポートしない関数をチェーニングし、その結果をこの関数にマップすると、実行時に予期しない結果が生じるおそれがあります。詳細については、『[その他の数学関数またはリテラルの組み合わせにおける制約事項](#)』を参照してください。


戻り: number

すべてのパラメーターの平均値。以下の場合、NaN (非数値) が返されます。

- パラメーターが数値ノードでない場合。
- すべての値の合計とノード・セットのカウントの両方がゼロである場合 (0 / 0 の平均)。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Average.html

Base64 Encode および Decode 関数

Base64 は、特定の MIME コンテンツ転送エンコード方式を指します。Base64 エンコードは、任意のオクテット・シーケンスを、大/小文字の区別が必要な形式 (ただし、可読文字でなくて構わない) で表します。

US-ASCII の 65 文字サブセットが使用され、印刷可能文字を 6 ビットで表現できます。65 番目の文字「=」は、特殊な処理関数を表すために使用されます。

エンコード・プロセスでは、入力ビットの 24 ビット・グループを、4 つのエンコード文字の出力ストリングとして表します。左から右へ順に、3 つの 8 ビット入力グループを連結することによって、24 ビットの入力グループが形成されます。これらの 24 ビットは、4 つの連結された 6 ビット・グループとして扱われ、各グループは base64 アルファベットの単一行に変換されます。

各 6 ビット・グループは、64 個の印刷可能文字の配列に対する添字として使用されます。添字によって参照された文字は、出力ストリングに入れられます。

base64 アルファベット


Value	Encoding	Value	Encoding	Value	Encoding	Value	Encoding
0	A	17	R	34	i	51	z
1	B	18	S	35	j	52	0
2	C	19	T	36	k	53	1
3	D	20	U	37	l	54	2
4	E	21	V	38	m	55	3
5	F	22	W	39	n	56	4
6	G	23	X	40	o	57	5
7	H	24	Y	41	p	58	6
8	I	25	Z	42	q	59	7
9	J	26	a	43	r	60	8
10	K	27	b	44	s	61	9
11	L	28	c	45	t	62	+
12	M	29	d	46	u	63	/
13	N	30	e	47	v		
14	O	31	f	48	w	(pad)	=
15	P	32	g	49	x		
16	Q	33	h	50	y		

エンコードされるデータの末尾で使用可能なビット数が 24 ビット未満の場合は、特殊な処理が実行されます。フル・エンコード量子は常に、数量の終わりで完了します。入力グループで使用可能な入力ビット数が 24 ビット未満の場合は、6 ビット・グループの整数を形成するために、ゼロ・ビットが (右側に) 追加されます。データ末尾での埋め込みは、「=」文字を使用して実行されます。base64 入力はすべてオクテットの整数であるため、起こりうる状況は以下のみです。

- エンコード入力の最終量子が 24 ビットの整数倍である。この場合、エンコード出力の最終単位は、「=」の埋め込みのない 4 文字の整数倍になります。
- エンコード入力の最終量子がちょうど 8 ビットである。この場合、エンコード出力の最終単位は 2 文字で、その後に 2 つの埋め込み文字「=」が続きます。
- エンコード入力の最終量子がちょうど 16 ビットである。この場合、エンコード出力の最終単位は 3 文字で、その後に 1 つの埋め込み文字「=」が続きます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Base64_Encode_and_Decode_Functions.html

Boolean 関数

Boolean 関数は、パラメーターを評価し、入力のデータ型に応じて、以下のように true または false を返します。

- string - スtringが空でない場合は *true*
- number - 数値がゼロでない場合は *true*、数値がゼロである場合は *false*
- dt - すべての日時型の場合は *true*

パラメーター: anysimpletype


評価する値。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: boolean

true または *false*。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Boolean_function.html

Ceiling 関数

Ceiling 関数は、パラメーターを最も近い整数に切り上げます。

パラメーター: number

整数に切り上げる数値。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: number


パラメーターより大きい、最も近い整数。

例:

```
ceiling(4.2) = 5
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Ceiling.html

Concatenate 関数

Concatenate 関数は、すべてのパラメーター・ストリングを、パラメーターの指定順序に従って連結し、単一の結果を生成します。

パラメーター: string1, string2, [string3-string1000]

パラメーターはそれぞれ、ソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。パラメーターの順序により、パラメーターが結合される順序が決まります (つまり、最初のパラメーターは、結果のストリングで左端に表示されます)。


注: この関数を有効にするためには、2 つ以上のパラメーターを指定する必要があります。「関数プロパティ」ダイアログ・ボックスで **Concatenate** 関数のプロパティを構成する際、リストの先頭にある 2 つのパラメーターの「削除」はクリックできません。(先頭の 2 つのパラメーターの「削除」ボタンはアクティブになりません。)「削除」は、リストにパラメーターが 3 つ以上ある場合に、リストの下部にあるパラメーターでのみクリックできます。リストの先頭 2 つの位置からパラメーターを削除するには、まず、「下へ」をクリックしてパラメーターをリストの下部へ移動してから、「削除」をクリックしてください。

戻り: string

結合されたストリング。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Concatenate.html

Cast From Base64Binary 関数

「**Base64Binary** からのキャスト (Cast From Base64Binary)」機能は、ある特定の XML スキーマ・データ型から別の XML スキーマ・データ型へのキャストを行います。

このタスクについて

XML スキーマ・データ型 `xs:base64Binary` から XML スキーマ・データ型 `xs:string` にキャストします。データは変換されません。データに関連付けられている型のみが変更されます。

パラメーター: base64Binary


XML スキーマ・データ型 `xs:base64Binary` からキャストするデータ。

戻り: string

XML スキーマ・データ型 `xs:string` にキャストされたデータ。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Convert_From_Base64Binary_function.html

「HexBinary からのキャスト (Casts From HexBinary)」機能

「HexBinary からのキャスト (Casts From HexBinary)」機能は、ある特定の XML スキーマ・データ型から別の XML スキーマ・データ型へのキャストを行います。

このタスクについて

XML スキーマ・データ型 xs:hexBinary から XML スキーマ・データ型 xs:string にキャストします。データは変換されません。データに関連付けられている型のみが変更されます。

パラメーター: HexBinary


XML スキーマ・データ型 xs:hexBinary からキャストするデータ。

戻り: string

XML スキーマ・データ型 xs:string にキャストされたデータ。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Convert_From_HexBinary_function.html

Cast To Base64Binary 関数

「Base64Binary へのキャスト (Cast To Base64Binary)」機能は、ある特定の XML スキーマ・データ型から別の XML スキーマ・データ型へのキャストを行います。

このタスクについて

XML スキーマ・データ型 xs:string から XML スキーマ・データ型 xs:base64Binary にキャストします。データは変換されません。データに関連付けられている型のみが変更されます。

パラメーター: string


XML スキーマ・データ型 xs:string からキャストするデータ。

戻り: base64Binary

XML スキーマ・データ型 xs:base64Binary にキャストされたデータ。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Convert_To_Base64Binary_function.html

Cast To HexBinary 関数

「HexBinary へのキャスト (Cast To HexBinary)」機能は、ある特定の XML スキーマ・データ型から別の XML スキーマ・データ型へのキャストを行います。

このタスクについて

XML スキーマ・データ型 xs:string から XML スキーマ・データ型 xs:hexBinary にキャストします。データは変換されません。データに関連付けられている型のみが変更されます。

パラメーター: string


XML スキーマ・データ型 xs:string からキャストするデータ。

戻り: hexBinary

XML スキーマ・データ型 xs:hexBinary にキャストされたデータ。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)


 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Convert_To_HexBinary_function.html

CopyOf 機能

CopyOf 機能は、ソース・ノードの内容全体を宛先ノードにコピーします。

CopyOf 機能 () は、ソース・ノードの内容全体 (すべての子を含むソース・ノードのサブツリー全体) を宛先ノードにコピーします。

重要: CopyOf 機能がソース・ノードの値を宛先ノードに正しくコピーするには、宛先ノードの XML スキーマがソース・ノードの XML スキーマと一致しなければなりません。

例えば、「プロシーチャーの呼び出し」アクティビティーで実行時に以下の結果セット・ノードが (任意のノード経由で) 返されるとします。

- results/result/resultSet/column1 (column1 は整数です)
- results/result/resultSet/column2 (column2 は整数です)

以下の図に示すように、「オーケストレーション」ペインにある 宛先ノードの XML スキーマは、「プロシーチャーの呼び出し」アクティビティーから返されると予想される 結果セットの XML スキーマと一致しなければなりません。



上記の図で、「CopyOf」機能 (📄) は、ソースの「result」ノードと宛先の「result」ノードをリンクしています。

パラメーター: input

コピーされるソース・ノードの名前。

戻り: anySimpleType

結果として生成される XML データのサブツリー。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/CopyOfFunction.html>

Count 関数

Count 関数は、パラメーター内のすべてのノードのセットにあるノード数を判別します。

繰り返しノードの場合、この関数は、実際のオカレンス数を判別します。

この関数は、パラメーターとしてソース・ノードを受け入れます。これには、通常はマップできない構造ノードまたは選択ノードが含まれます。

この関数のパラメーターとしてリテラル数を使用すると、それらの数値は1つのノードと見なされ、1カウントずつ増分されます。

パラメーター: input, input ...

カウントするノードのセット。これらは、繰り返しまたは非繰り返しソース・ノード、他の関数の結果、あるいは指定した値にすることができます。

この関数の入力パラメーターにデフォルト値 (または定数) を指定することはできませんが、変数をデフォルト値とともに指定し、その変数を入力パラメーターとしてこの関数に渡すことはできます。詳細については、『[繰り返しノードを入力として使用可能な関数のデフォルト値の指定](#)』を参照してください。


重要: マッピング・エディターで、繰り返しソース・ノードと、繰り返しノードをサポートしない関数をチェーニングし、その結果をこの関数にマップすると、実行時に予期しない結果が生じるおそれがあります。詳細については、『[その他の数学関数またはリテラルの組み合わせにおける制約事項](#)』を参照してください。

戻り: number

パラメーター内のノードの合計数。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Count.html


タイプ・パスワードの構成プロパティのデコード

タイプ・パスワードの「構成プロパティのデコード」は、2つのオーケストレーション間で base64 エンコード・パスワードをデコードします。

呼び出し側オーケストレーションがユーザー ID およびパスワードを送信します。「デコード・パスワード構成プロパティ (Decode Password Configuration Property)」により、受信側オーケストレーションはデコード可能な base64 エンコード・パスワードを受け取ることが保証されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

Digest/Hash 関数

Digest/Hash 関数は、メッセージ・ダイジェストと呼ばれる情報のデジタル・サマリーを生成します。メッセージ・ダイジェストは、デジタル文書にデジタル ID を提供します。Digest/Hash 関数によって生成されるメッセージ・ダイジェストは、Base64 でエンコードされます。

メッセージ・ダイジェスト関数は、各固有文書のメッセージ・ダイジェストを生成するために情報を処理する数学関数です。同一の文書は同じメッセージ・ダイジェストを持ちます。これを使用すれば、受信したメッセージが送信されたメッセージと同じであることを保証することができます。

Studio には次の 3 つの **Digest/Hash 関数**があります。

- **MD5 による入力データの Digest/Hash**
- **SHA-1 による入力データの Digest/Hash**
- **SHA-256 による入力データの Digest/Hash**

入力は、ダイジェストの生成対象となる文書またはストリングです。例えば、MD5 ("Austin was happy that the band played on") =NjJhODJhNTViZmI3Y2YwZDc2NDkxYjc0ZTkzZDlmMTQ= のようになります。

MD5 は RFC 1321 で定義されています。IBM® Cast Iron® は、JDK セキュリティー・パッケージに含まれている MD5 アルゴリズムを使用します。このアルゴリズムは、長さが未定義のメッセージを取得し、128 ビットのメッセージ・ダイジェストを出力します。

SHA-1 は連邦情報処理標準パブリケーション 180-1 (FIPS PUB 180-1) で定義されており、IBM Cast Iron は JDK セキュリティー・パッケージに含まれている SHA-1 アルゴリズムを使用します。SHA-1 は、長さが 264 ビット未満の入力メッセージを取得し、160 ビットのメッセージ・ダイジェストを生成します。

SHA-256 は 256 ビットのハッシュ関数であり、米国連邦情報・技術局 SP 800-131a 仕様に準拠しています。IBM Cast Iron は JDK セキュリティー・パッケージに含まれている SHA-256 アルゴリズムを使用します。入力は、ダイジェストの生成対象となる文書またはストリングです。例えば、SHA-56 ("Sample Input") =bEzV+7Tz6afzJhY0E5u0Zt1+9uBURb/2pgi2PT9Ms/s= です。ハッシュ値は 32 バイト長、つまり 256 ビット長です。

MD5 を使用して入力データの Base64 エンコード・ダイジェストを作成するには、「**入力データを MD5 でダイジェスト/ハッシュ**」関数を使用します。

SHA-1 を使用して入力データの Base64 エンコード・ダイジェストを作成するには、「**入力データを SHA-1 でダイジェスト/ハッシュ**」関数を使用します。

SHA-256 を使用して入力データの Base64 エンコード・ダイジェストを作成するには、「**入力データを SHA-256 でダイジェスト/ハッシュ**」関数を使用します。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_DigesHash.html

Divide 関数

Divide 関数は、最初のパラメーターを後続のすべてのパラメーターで除算した 10 進数の商を返します。

パラメーター: number1

除算される数値 (被除数)。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: number2, [number3-999]

除算する数値 (除数)。これらは、ソース・ノード、他の関数の結果、または指定した値にすることができます。1 つ以上のパラメーターが必要です。

戻り: number

割り算演算の結果。除数がゼロ (正または負) である場合は結果が無限大 (正または負) になり、被除数もゼロである場合は NaN (非数値) になります。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Divide_function.html

「HTTP ヘッダー・フィールドの抽出」関数

「HTTP ヘッダー・フィールドの抽出」関数は、指定された区切り文字を持つ文字列を抽出します。この関数は、HTTP ヘッダーからさらに文字列を抽出するときに使用できます。


入力 1 – ヘッダー・文字列。例えば、`text/html; char-set=UTF-8` または `text/*;q=0.3, text/html;q=0.7, text/html;level=1`。

入力 2 – 名前を指定する文字列。例えば、`char-set`。

入力 3 – 指定された区切り文字。例えば、`;` または `,`。

出力 – 値文字列。例えば、**Content-Type** ヘッダーから `char-set` を抽出した場合は、`UTF-8` となります。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_extract_HTTP_header_field.html

「照会パラメーターの抽出」関数


「照会パラメーターの抽出」関数は、HTTP ヘッダーの URI ストリングから照会ストリングを抽出します。

入力 1 – HTTP ヘッダーの URI ストリング。例えば、`URI?name1=value1&name2=value2....#anchor` です。 ? または # の後の文字は、存在しないことがあります。

入力 2 – 照会ストリングの名前を指定するストリング。例えば、入力 1 のストリング内の `name1`。

出力 – 照会ストリングのストリング値。例えば、入力 1 のストリング内の `value1`。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_extract_query_parameter.html

「URI パスの抽出」関数

「URI パスの抽出」関数は、HTTP ヘッダーの URI ストリングから URI を抽出します。

入力 – HTTP ヘッダーの URI ストリング。例えば、`URI?name1=value1&name2=value2....#fragment` です。 ? または # の後の文字は、存在しないことがあります。 `fragment` は HTTP 要求の一部ではなく、Web ブラウザー・クライアントによってのみ使用されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_extract_URI_path.html

Floor 関数

Floor 関数は、パラメーターを最も近い整数に切り捨てます。

パラメーター: number

整数に切り捨てる数値。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: number


パラメーターの値未満である、最も近い整数。

例:

```
floor(4.7) = 4
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Floor.html

Format Date String 関数

Format Date String 関数は、XML スキーマ・データ型 `xs:dateTime` を、2 番目のパラメーターで定義された形式の文字列に変換します。

パラメーター: dateTime

XML スキーマ・データ型 `xs:dateTime` としての日時。

パラメーター: string

この文字列は、この関数から返された日時文字列の形式を定義します。例えば、この形式文字列は `MM/dd/yyyy` にすることができます。サポートされる日時パターン・文字列の詳細については、Sun J2SE 1.4.2 JavaDoc の `SimpleDateFormat` クラスを参照してください。

<http://www.science.uva.nl/ict/ossdocs/java/jdk1.3/docs/api/java/text/SimpleDateFormat.html>

パターン文字	説明	例 1	例 2
G	紀元指定	AD	BC
y	年	2004	2001
M	月 (年単位)	April	04
w	週 (年単位)	12	24
W	週 (月単位)	3	1
D	日 (年単位)	234	333

パターン文字	説明	例 1	例 2
d	日 (月単位)	13	20
F	曜日 (月単位)	1	3
E	曜日	Monday	Friday
a	午前または午後の指定	AM	PM
H	0 から 23 までの時 (日単位)	12	13
k	1 から 24 までの時 (日単位)	14	23
K	0 から 11 までの時 (午前または午後)	0	10
h	1 から 12 までの時 (午前または午後)	11	12
m	分 (時単位)	20	50
s	秒 (分単位)	10	30
S	ミリ秒	224	338
z	一般タイム・ゾーン指定のタイム・ゾーン	PDT	EDT
Z	ISO-8601 タイム・ゾーン指定のタイム・ゾーン	-03:00	+02:00

パラメーター: string (オプション)

このストリングはロケールを定義します。例えば、英語のアメリカ合衆国ロケールは en_US というストリングで定義されます。

ロケール・ストリングは、以下のいずれかの形式で定義できます。

- LANGUAGE
- LANGUAGE_COUNTRY
- LANGUAGE_COUNTRY_VARIANT

LANGUAGE は ISO-639 規格で定義されている 2 文字のコード、COUNTRY は ISO-3166 で定義されている 2 文字のコード、VARIANT はベンダーまたはブラウザーに固有のコード (例えば Windows の場合は WIN) です。

このパラメーターはオプションです。

このパラメーターを追加するには、以下のようになります。

1. Format Date String 関数をマッピング・エディターの中央のペインまでドラッグします。
2. 関数をダブルクリックします。「関数プロパティ (Function Properties)」ペインが開きます。
3. 「追加」をクリックします。パラメーターのリストに Locale 入力パラメーターが表示されます。

戻り: string

2 番目のパラメーターで定義された形式のストリングとして渡された日時。

例えば、Format Date String 関数が次の入力パラメーターを使用して呼び出されたとします。

dateTime: 2005-02-22T16:18:00.852-08:00


形式ストリング: MM/dd/yyyy

ロケール・ストリング: en_US

次のストリングが返されます: 02/22/2005

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Format_Date_String_function.html

Format Number 関数

Format Number 関数は、指定されたパターンに適合するように形式設定された数字としてストリングを返します。

パラメーター: number

形式設定する数値。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: string

最初のパラメーターの形式設定方法を指定するパターン。このパターンは、以下のシンボルを使用してパターンを定義します。

- 必須桁 = 0
- オプション桁 = #
- 負符号 = -
- 10 進記号 = .
- グループ分離文字 = ,。一般的には、3 桁のグループを分離するために使用されます。
- パーセント記号 = %。パーセント記号があると、入力数値に 100 が乗算され、結果がパーセンテージとして示されます。
- パーミル記号 = (Unicode x2030)。この記号により、数値に 1000 が乗算され、結果がパーミルとして示されます。
- 正/負分離文字 = ;
- 無限 = infinity
- 非数値 = NaN
- \$ = \$

パターンには、接頭部、接尾部、またはその両方として定数テキストを含めることができます。一般的には、通貨記号または何らかの単位を指定するために使用されます。

- \$#,##0.00 - ドル記号、コンマ (分離文字)、および 1 桁以上のドルと 2 桁のセントを使用して、米国ドルの標準形式で数値を形式設定します。
- #0.000% - 小数点以下が 3 桁以上のパーセンテージとして、10 進数を形式設定します。
- #,##0.00;(#,##0.00) - 負の数値を小括弧を使用して形式設定します。この形式は一般に会計で使用されます。

戻り: string

2 番目のパラメーターで指定されたパターンを反映させて再形式設定された最初のパラメーター。

例

パターンには、接頭部、接尾部、またはその両方として定数テキストを含めることができます。一般的には、通貨記号または何らかの単位を指定するために使用されます。

例 1

`$$,##0.00` - ドル記号、コンマ (分離文字)、および 1 桁以上のドルと 2 桁のセントを使用して、米国ドルの標準形式で数値を形式設定します。

```
format-number(12345.6789, '$$,##0.00') = '$12,345.67'
```

例 2

`#0.000%` - 小数点以下が 3 桁以上のパーセンテージとして、10 進数を形式設定します。

```
format-number(.67890123, '#0.000%') = '67.890%'
```

パーセント記号があると、入力数値に 100 が乗算されます。


例 3

`#,##0.00;(#,##0.00)` - 負の数値を小括弧を使用して形式設定します。この形式は一般に会計で使用されま

```
format-number(-12345.6789, '#,##0.00;(#,##0.00)') = '(12,345.67)'
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Format_Number.html

RFC2104 HMAC 準拠署名の生成

HMAC は、暗号ハッシュ関数を使用したメッセージ認証のメカニズムです。

この HMAC 関数は、繰り返し型の暗号ハッシュ関数 SHA-1 と共有秘密鍵を使用します。

HMAC に準拠するデジタル署名を生成するには、この関数を使用してください。

パラメーター: data (type=string)

検証する情報またはメッセージ。

パラメーター: key (type=string)

データを検証するために使用する鍵。

パラメーター: encoding (type=string)

データと鍵に適用するエンコード。以下のいずれかを指定できます。


- **US-ASCII** - 7 ビット ASCII。ISO646-US とも呼ばれます。Unicode 文字セットの基本ラテン文字ブロック。
- **ISO-8859-1** - ISO Latin Alphabet No. 1。ISO-LATIN-1 とも呼ばれます。
- **UTF-8** - 8 ビット UCS Transformation Format。
- **UTF-16BE** - 16 ビット UCS Transformation Format、ビッグ・エンディアン・バイト・オーダー。
- **UTF-16LE** - 16 ビット UCS Transformation Format、リトル・エンディアン・バイト・オーダー。
- **UTF-16** - 16 ビット UCS Transformation Format、オプションのバイト・オーダー・マークで指定されたバイト・オーダー。

戻り: **HMAC 署名 (ストリング型)**

UTF-8 エンコードで生成された HMAC 署名。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Generate_RFC2104_HMAC_Compliant_Signature.html

Get Current Date and Time 関数

Get Current® Date and Time 関数は、特定の XML スキーマ・データ型として現在の日時を返します。

このタスクについて

Get Current Date and Time 関数は、ローカル時間帯での現在日時を、XML スキーマ・データ型 `xs:dateTime` として返します。

パラメーター: none

戻り: `dateTime`

現在日時を XML スキーマ・データ型 `xs:dateTime` として。例えば、この関数を PST 時間帯 (-08:00) の 2005 年 2 月 22 日午後 12 時 43 分に実行した場合は、次の日時が返されます。

2005-02-22T12:43:51-08:00

注: マップ内でこの関数を 2 回呼び出した場合、同じ日時が返される保証はありません。この関数には、W3C の定義に基づく [安定性](#)はありません。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Current_Date_and_Time_function.html

Get Current Date 関数

Get Current® Date 関数は、ローカル時間帯での現在日付を、XML スキーマ・データ型 xs:date として返します。

このタスクについて

パラメーター: none

戻り: date

現在日付を XML スキーマ・データ型 xs:date として。例えば、この関数を PST 時間帯 (-08:00) の 2005 年 2 月 22 日に実行した場合は、次の日付が返されます。

2005-02-22-08:00

注: マップ内でこの関数を 2 回呼び出した場合、同じ日付が返される保証はありません。この関数には、W3C の定義に基づく [安定性](#)はありません。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Current_Date_function.html

Get Current Time 関数

Get Current® Time 関数は、ローカル時間帯での現在時刻を、XML スキーマ・データ型 xs:time として返します。

このタスクについて

パラメーター: none

戻り: time


現在時刻を XML スキーマ・データ型 xs:time として。例えば、この関数を PST 時間帯 (-08:00) の午後 12 時 43 分に実行した場合は、次の時刻が返されます。

12:43:51-08:00

注: マップ内でこの関数を 2 回呼び出した場合、同じ時刻が返される保証はありません。この関数には、W3C の定義に基づく [安定性](#)はありません。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Get_Current_Time_function.html

Length 関数

Length 関数は、パラメーター内の文字数を判別します。

戻り: number

パラメーター内の文字数。

パラメーター: string


カウントするストリング。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

例

```
length('The string to count') = 19
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Length.html

Lowercase 関数

Lowercase 関数は、すべての大文字を小文字に変換します。

パラメーター: string


変換するストリング。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: string

変換されたストリング。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Lowercase.html

Maximum 関数

Maximum 関数は、パラメーター内にある、ノード、数値ノードのセット、または数値の中で、最大の値を判別します。

パラメーター: input, input ...

比較する数値ノード。これらは、繰り返しまたは非繰り返しソース・ノード、他の関数の結果、あるいは指定した値にすることができます。

この関数の入力パラメーターにデフォルト値 (または定数) を指定することはできませんが、変数をデフォルト値とともに指定し、その変数を入力パラメーターとしてこの関数に渡すことはできます。詳細については、『[繰り返しノードを入力として使用可能な関数のデフォルト値の指定](#)』を参照してください。


重要: マッピング・エディターで、繰り返しソース・ノードと、繰り返しノードをサポートしない関数をチェーニングし、その結果をこの関数にマップすると、実行時に予期しない結果が生じるおそれがあります。詳細については、『[その他の数学関数またはリテラルの組み合わせにおける制約事項](#)』を参照してください。

戻り: number

パラメーター内のすべてのノードの最大値。繰り返しノードの場合は、繰り返しセット内のすべてのオカレンスの値が、最大を見つけるために使用されます。パラメーターが数値ノードのセットでない場合、または空ノード・セットである場合は、関数から NaN (非数値) が返されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Maximum.html

Minimum 関数

Minimum 関数は、パラメーター内にある、ノード、数値ノードのセット、または数値の中で、最小の値を判別します。

パラメーター: input, input ...

比較する数値ノード。これらは、繰り返しまたは非繰り返しソース・ノード、他の関数の結果、あるいは指定した値にすることができます。

この関数の入力パラメーターにデフォルト値 (または定数) を指定することはできませんが、変数をデフォルト値とともに指定し、その変数を入力パラメーターとしてこの関数に渡すことはできます。詳細については、『[繰り返しノードを入力として使用可能な関数のデフォルト値の指定](#)』を参照してください。


重要: マッピング・エディターで、繰り返しソース・ノードと、繰り返しノードをサポートしない関数をチェーニングし、その結果をこの関数にマップすると、実行時に予期しない結果が生じるおそれがあります。詳細については、『[その他の数学関数またはリテラルの組み合わせにおける制約事項](#)』を参照してください。

戻り: number

パラメーター内のすべてのノードの最小値。繰り返しノードの場合は、繰り返しセット内のすべてのオカレンスの値が、最小を見つけるために使用されます。パラメーターが数値でない場合、数値ノードのセットでない場合、または空ノード・セットである場合は、関数から NaN (非数値) が返されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Minimum_function.html

Modulo 関数

Modulo 関数は、最初のパラメーターを後続のすべてのパラメーターで除算した余りを判別します。

戻り: number

最初のパラメーターを残りのパラメーターで除算した余り。除数がゼロである場合は、NaN (非数値) が返されます。

パラメーター: number1

除算される数値 (被除数)。これはソース・ノード、関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: number2, [number3-999]

除算する数値 (除数)。これらは、ソース・ノード、他の関数の結果、または指定した値にすることができます。1 つ以上の除数パラメーターが必要です。

複数のパラメーターを除数として指定した場合、演算は、最初の割り算演算から返された余りが 2 番目の演算の被除数になり、以下同様...という順序で行われます。例 2 を参照してください。

例 1: 除数パラメーターを 1 つ使用

```
modulo(42, 5) = 2
```

```
42 / 5 = 8 R2
```

例 2: 複数の除数パラメーターを使用


```
modulo(61, 7, 2) = 1
```

```
61 / 7 = 8 R5
```

```
5 / 2 = 2 R1
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Modulo.html

Multiply 関数

Multiply 関数は、すべてのパラメーターの積を返します。

パラメーター: number1, number2, [number3-1,000]


乗算する数値。2 つ以上のパラメーターが必要です。各パラメーターはソース・ノード、関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: number

パラメーターの積。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Multiply.html

Not 関数

Not 関数は一般に、負または補完の条件を指定する状況で使用します。

パラメーターが false に評価される場合は、true を返します。パラメーターが true に評価される場合は、false を返します。

パラメーター: datatype

任意の数値、ストリング、日付、時刻、またはブール値。これはソース・ノード、関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: boolean

パラメーターのブール逆数。評価ルールは以下のように、パラメーターのデータ型によって異なります。

数値データ型の場合:

- 正および負のゼロは false に評価される
- 他の数値はすべて true に評価される

ストリング、日付、または時刻データ型の場合:


- 空ストリングは false に評価される
- 他のストリング、日付、または時刻はすべて true に評価される

ブール・データ型の場合:

- 評価は逆数値を返す

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Not.html

Number 関数

Number 関数は、パラメーターのデータ型を数値に変更します。

パラメーター: datatype

任意の数値、ストリング、日付、時刻、またはブール値。これはソース・ノード、関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: number

パラメーターの数値または NaN (非数値)。型変換ルールは、以下のようにパラメーターのデータ型によって異なります。

数値データ型の場合:

- NaN、正の無限大、または負の無限大の場合は NaN
- その他すべての値の場合は同じ数値

ストリング、日付、または時刻データ型の場合:

- スtringが以下のいずれかの形式である場合は、対応する数値 (n は数字のセットを表す):

n または -n

n. または -n.

n.n または -n.n

.n または -.n


その他すべての値の場合は NaN

ブール・データ型の場合:

- 'true' は 1 に評価される
- 'false' は 0 に評価される

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Number.html

Padding String 関数

Padding String 関数は、指定された長さおよび文字の埋め込みStringを返します。埋め込みStringは位置合わせ関数で使用されます。

パラメーター: number

埋め込みStringを作成する合計長。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。


パラメーター: [string]

埋め込みStringを作成するために使用する 1 つ以上の文字。複数の文字を使用する場合、埋め込みStringの長さがその倍数でないと、これらの文字は、全体の長さに収まるように、Stringの末尾で切り捨てられます。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。このパラメーターを省略すると、スペース文字にデフォルト設定されます。

戻り: string

埋め込みに使用するString。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Padding_String.html


Position 関数

Position 関数は、兄弟のセット内での現行ノードに対する索引を示す状況で使用します。この関数は、繰り返しノードのコンテキスト内でのみ機能し、パラメーターはありません。

戻り: number

兄弟のセット内での現行ノードの位置を識別する索引または番号。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Position.html

Read Date String 関数

Read Date String 関数は、string (日時を含む) を XML スキーマ・データ型 xs:dateTime に変換します。

目的

パラメーター: string

stringとしての日時。

パラメーター: string

このstringは、最初のパラメーターの日時stringの形式を定義します。例えば、この形式stringはMM/dd/yyyyにすることができます。サポートされる日時パターン・stringの詳細については、Sun J2SE 1.4.2 Javadoc の SimpleDateFormat クラスを参照してください。

<http://www.science.uva.nl/ict/osdocs/java/jdk1.3/docs/api/java/text/SimpleDateFormat.html>

パターン文字	説明	例 1	例 2
G	紀元指定	AD	BC
y	年	2004	2001
M	月 (年単位)	April	04
w	週 (年単位)	12	24

パターン文字	説明	例 1	例 2
W	週 (月単位)	3	1
D	日 (年単位)	234	333
d	日 (月単位)	13	20
F	曜日 (月単位)	1	3
E	曜日	Monday	Friday
a	午前または午後の指定	AM	PM
H	0 から 23 までの時 (日単位)	12	13
k	1 から 24 までの時 (日単位)	14	23
K	0 から 11 までの時 (午前または午後)	0	10
h	1 から 12 までの時 (午前または午後)	11	12
m	分 (時単位)	20	50
s	秒 (分単位)	10	30
S	ミリ秒	224	338
z	一般タイム・ゾーン指定のタイム・ゾーン	PDT	EDT
Z	RFC 822 タイム・ゾーン指定のタイム・ゾーン	-0300	+0200

パラメーター: string (オプション)

このストリングはロケールを定義します。例えば、英語のアメリカ合衆国ロケールは en_US というストリングで定義されます。

ロケール・ストリングは、以下のいずれかの形式で定義できます。

- LANGUAGE
- LANGUAGE_COUNTRY
- LANGUAGE_COUNTRY_VARIANT

LANGUAGE は ISO-639 規格で定義されている 2 文字のコード、COUNTRY は ISO-3166 で定義されている 2 文字のコード、VARIANT はベンダーまたはブラウザーに固有のコード (例えば Windows の場合は WIN) です。

このパラメーターはオプションです。

このパラメーターを追加するには、以下のようになります。

1. Format Date String 関数をマッピング・エディターの中央のペインまでドラッグします。
2. 関数をダブルクリックします。「関数プロパティ (Function Properties)」ペインが開きます。
3. 「追加」をクリックします。パラメーターのリストに Locale 入力パラメーターが表示されます。

戻り: dateTime

XML スキーマ・データ型 xs:dateTime として日時が返されます。例えば、Read Date String 関数が次の入力パラメーターを使用して実行したとします。

日時ストリング: 02/22/2005/12/20/44

形式ストリング: MM/dd/yyyy/HH/mm/ss

2005年2月22日12時20分44秒を表す `dateTime` が、`Read Date String` 関数から返されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Read_Date_String.html

Replace 関数

Replace 関数は、個々の文字を他の個々の文字に置き換えます。

置換は、`String`・レベルではなく、個々の文字レベルで行われます。文字のすべてのオカレンスが、次の例に示すように、指定された置換文字に置き換えられます。

- 置換する文字のリストは `'abc'`
- 置換する文字のリストは `'ABC'`
- 入力文字列は `'aWWWbYYYYcPPpabc'`

置換は文字レベルで行われる (すべての文字が置き換えられる) ため、結果の文字列は `'AWWWBYYYYcPPpABC'` となります。(置換が `String`・レベルで行われた場合、結果の文字列は `'aWWWbYYYYcPPpABC'` となります。)

パラメーター: `input`

置き換える文字を検索する文字列。このパラメーターの値は、ソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: `fromChars`

置換対象の文字のリスト。複数の文字を置き換える必要がある場合は、それらを分離せずにリストしてください。このパラメーターの値は、ソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: `toChars`

差し替えとして使用する文字のリスト。 `fromChars` パラメーターの先頭文字は `toChars` パラメーターの先頭文字に、以下の文字も同様に置き換えられるため、このパラメーターの差し替え文字は、 `fromChars` パラメーター内の置換対象文字と同じ順序でリストしてください。詳細については、『例 2』を参照してください。このパラメーターの値は、ソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

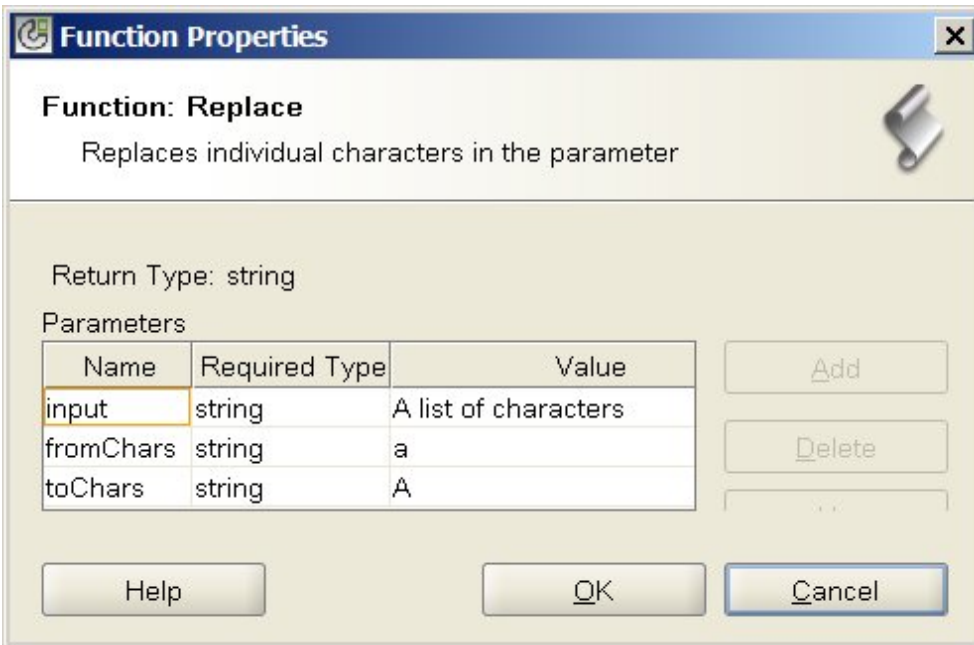
注: `toChars` パラメーターを空の文字列 (文字のない文字列) にすることはできないため、単一文字を直接、空の文字列に置き換えることはできません。次善策については、『例 3』を参照してください。

戻り: `string`

最初のパラメーター (`input`) で見つかった、2 番目のパラメーター (`fromChars`) 内の文字のすべてのオカレンスを、3 番目のパラメーター (`toChars`) 内の一致する文字で置き換えた結果。

例 1

この例は、次の図のように、単純な 1 対 1 の文字置換を示しています。



この関数の実行時の結果は、次のようなストリングになります。

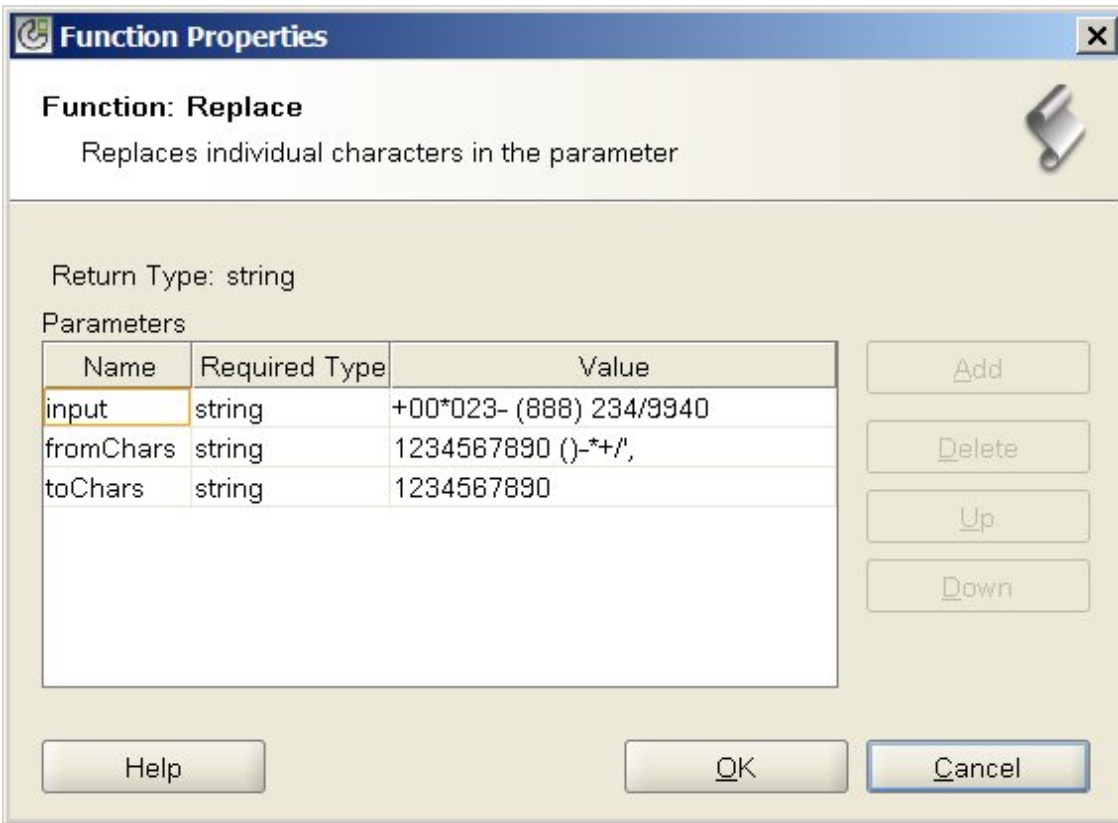
```
A list of chArActers
```

小文字 a がすべて大文字 A に置き換えられています。

注: この例では、input パラメーターは特定の値にハードコーディングされています。一般的には、この値はマップ内のソース・ノードによって提供されます。

例 2

この例では、fromChars パラメーターの先頭文字が toChars パラメーターの先頭文字に置き換えられ、fromChars パラメーターの 2 番目の文字が toChars パラメーターの 2 番目の文字に置き換えられ、以下同様に行われます。次の図に、複数文字の置換を示します。



この例では、非数値文字 (fromChars パラメーターの末尾で指定された文字) が、電話番号ストリングから除去されています。すべての数字が同じ数字で置き換えられています (例えば、文字 1 は文字 1 で置き換えられています)。fromChars の末尾にある他の非数値文字には、toChars に指定された差し替え文字がないため、返されたストリングから除去されています。

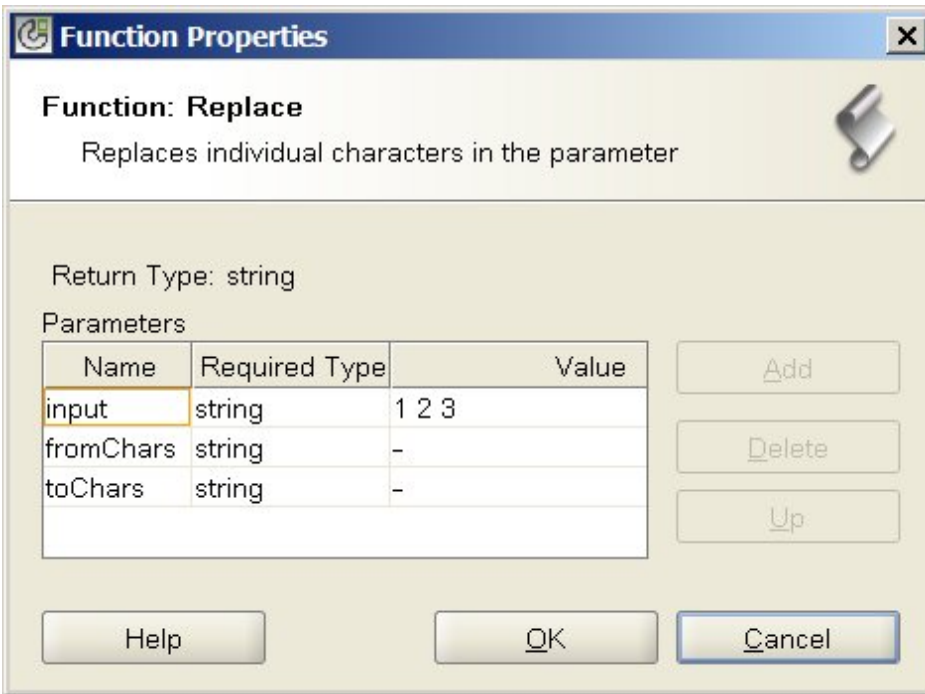
この関数の実行時の結果は、次のようなストリングになります。

000238882349940

注: この例では、input パラメーターは特定の値にハードコーディングされています。一般的には、この値はマップ内のソース・ノードによって提供されます。

例 3

この例は、単一の文字を空ストリングで置き換えることができないという制約に対する次善策を示しています。この制約が存在するのは、toChars パラメーターを空ストリング (文字のないストリング) に設定できないためです。input パラメーターにないハイフン (-) などのダミー文字を指定することで、この制約を回避できます。例えば、次の図のように、**Replace** 関数のパラメーターに以下の値を指定できます。



この例では、input パラメーターは '1 2 3' (1、スペース、2、スペース、3)、fromChars パラメーターは '-' (ハイフン、スペース)、toChars パラメーターは '-' (ハイフン) です。実行時に、これらの値が指定された **Replace** 関数は入力パラメーターのスペースを取り去り、実行時結果は次のストリングになります。


123

重要: 「関数プロパティ (Function Properties)」 ダイアログ・ボックスの「値」フィールドにストリングを指定する際、引用符は入力しません。ハイフンとスペースのみを入力し、引用符は入力しないでください。

注: この例では、input パラメーターは特定の値にハードコーディングされています。一般的には、この値はマップ内のソース・ノードによって提供されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Replace.html

Round 関数

Round 関数は、数値を最も近い整数に丸めます。

パラメーター: number

丸められる数値。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: number


パラメーターに最も近い整数。2つの整数が同程度近い場合は切り上げられます。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

例:

- `round(4.2) = 4`
- `round(4.5) = 5`

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Round.html

Starts With 関数

Starts With 関数は、最初のパラメーターが2番目のパラメーターの文字で始まるかどうかを判別します。

パラメーター: `string1`

テストするストリング。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: `string2`


テストに使用する開始ストリング。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: `boolean`

最初のパラメーターが2番目のパラメーターで始まるかどうかを示す `true` または `false`。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Starts_With.html

String 関数

String 関数は、パラメーターのデータ型をストリングに変更します。

パラメーター: `datatype`

文字列、ブール値、日付、または数値データ型。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。


戻り: string

パラメーターを文字列に変更した結果。型変換ルールは、以下のようにパラメーターのデータ型によって異なります。

- ブール型の場合は、文字列 *true* または *false* を返します。
- 日付または時刻データ型の場合は、そのデータ型に固有の形式の文字列として日時を返します (例えば、日時データ型の場合は '2003-01-20T05:00:00')。
- 数値型の場合は、以下を返します。
 - 値が NaN (非数値) の場合は 'NaN'。
 - 値が正または負のゼロである場合は '0'。
 - 値が正または負の無限である場合は、それに応じて 'Infinity' または '-Infinity'。
 - 対応する数表示で、負の場合は負符号が付き、先行ゼロは付きません。10 進値は、小数点の前に 1 つ以上の数表示があり、必要な桁数の小数部が付きません。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_String.html

Substring 関数

Substring 関数は、指定された文字位置に基づいてパラメーターの一部を抜き出します。

パラメーター: string

抜き出す対象となる文字列。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: number1

抜き出す先頭文字の位置。文字には文字列内での番号が 1 から順に付けられます。

パラメーター: [number2]

抜き出す文字の総数。このパラメーターを省略すると、デフォルトで、最初のパラメーターの開始位置から終わりまでの長さに設定されます。

戻り: string


指定された文字位置のサブ文字列。

例

```
substring('abcde',3,2) = 'cd'
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Substring.html

Substring After 関数

Substring After 関数は、指定されたサブSTRING (1 つ以上の文字) の最初のオカレンスの後からSTRING の終わりまでの、すべての文字を抜き出します。

パラメーター: string

サブSTRINGを抜き出す対象となるSTRING。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: string

抜き出しの開始点として使用する文字。この文字の最初のオカレンスが、開始点として使用されます。このパラメーターは、ソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: string


指定された開始STRINGの最初のオカレンスの後で始まる最初のパラメーターのサブSTRING (STRINGの終わりまで)。開始STRINGが存在しない場合は、空STRINGが返されます。

例

```
substring-after('12/31/1999','/') = '31/1999',
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Substring_After.html

Substring Before 関数

Substring Before 関数は、STRINGの先頭から、指定されたサブSTRING (1 つ以上の文字) の最初のオカレンスまでの、すべての文字を抜き出します。

パラメーター: string

サブstringを抜き出す対象となるstring。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

パラメーター: string

抜き出しの終了点として使用する文字。これらの文字の最初のオカレンスが、終了点として使用されます。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: string


先頭から指定された終了stringの最初のオカレンスまでの、最初のパラメーター内のサブstring。終了stringが存在しない場合は、空stringが返されます。

例

```
substring-before('12/31/1999','/') = '12'
```

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_SubstringBefore.html

Subtract 関数

Subtract 関数は、最初のパラメーターから後続のすべてのパラメーターを減算した差を返します。

パラメーター: number1

減算される数値。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

Parameter: number2,, [number3-999]

減算する数値。これらは、ソース・ノード、他の関数の結果、または指定した値にすることができます。ここでは複数のパラメーターを指定できますが、少なくとも1つは必須です。

戻り: number

2つのパラメーターの差。いずれかのパラメーターが数値でない場合は、NaN (非数値) が返されます。

例

```
number1 = 42
```


```
number2 = 7
```

```
number3 = 8
```

戻り: 27

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Subtract.html

Sum 関数

Sum 関数は、パラメーター内にある、数値ノード、数値ノードのセット、または数値の、値の合計を判別します。

パラメーター: input, input ...

加算する数値ノード。これらは、繰り返しまたは非繰り返しソース・ノード、他の関数の結果、あるいは指定した値にすることができます。

この関数の入力パラメーターにデフォルト値 (または定数) を指定することはできませんが、変数をデフォルト値とともに指定し、その変数を入力パラメーターとしてこの関数に渡すことはできます。詳細については、『[繰り返しノードを入力として使用可能な関数のデフォルト値の指定](#)』を参照してください。


重要: マッピング・エディターで、繰り返しソース・ノードと、繰り返しノードをサポートしない関数をチェーニングし、その結果をこの関数にマップすると、実行時に予期しない結果が生じるおそれがあります。詳細については、『[その他の数学関数またはリテラルの組み合わせにおける制約事項](#)』を参照してください。

戻り: number

すべてのパラメーターの合計。パラメーターがノード・セットである場合は、セット内のすべてのノードの値が合計に入れられます。パラメーターが数値でも数値ノード・セットでもない場合は、NaN (非数値) が返されます。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Sum.html

Trim 関数

Trim 関数は、先行スペースと末尾スペースをすべてトリムし、連続した一連のホワイト・スペース文字を単一スペースに置き換えます。

パラメーターのstring値は、以下の手順で正規化されます。

1. すべてのタブ、復帰、および改行がスペースに置き換えられます。
2. 連続した一連のスペースが、単一スペースまで削減されます。
3. 末尾スペースと先行スペースが除去されます。

パラメーター: string

トリムおよび正規化するstring。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: string


トリムおよび正規化されたパラメーター。

例:

入カstringの内容...	Trim 関数から返される内容...
' The string to trim and normalize. '	'The string to trim and normalize.'
' first line second line third line '	'first line second line third line'

親トピック: [マッピング関数参照](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Trim.html

Uppercase 関数

Uppercase 関数は、すべての小文字を対応する大文字に変換します。

パラメーター: string

変換するstring。これはソース・ノード、別の関数の結果、または指定した値にすることができます。

戻り: string

変換されたstring。

親トピック: [マッピング関数参照](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ref_Uppercase.html

用語集

- [用語集](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/toc_glossary.html

用語集

[A](#) [B](#) [C](#) [D](#) [E](#) [F](#) [G](#) [H](#) [I](#) [J](#) [K](#) [L](#) [M](#) [N](#) [O](#) [P](#) [Q](#) [R](#) [S](#) [T](#) [U](#) [V](#) [W](#) [X](#) [Y](#) [Z](#)

A

アクティビティ (Activity)

オーケストレーション内の処理の完全な機能単位。アクティビティには、フロー制御 (ロジック) アクティビティ、データの消費と送信を容易にするデータ・アクティビティ、およびデータベース・システム、エンタープライズ・システム、Web サーバー、E メール・サーバーなどのシステムとの統合を可能にするアクティビティがあります。オーケストレーションは一連のアクティビティから構成されています。

アセット (Assets)

特定のアクティビティに関連付けられた、補足的な構成ファイル、スクリプト、またはその他の素材。例えば、データベース挿入アクティビティのために作成されるバッファー・テーブル・スクリプトはアセットです。アセットは、Web 管理コンソール (WMC) によって制御されます。アセットへのアクセス権は、WMC のユーザー以外のユーザーにも付与できます。例えば、DBA には、必要な表またはトリガーを作成できるように、データベース・アクティビティに関連付けられたアセットに対する特権を付与できます。

B

バッファー・テーブル (Buffer table)

単一表の挿入、更新、または削除データベース・アクティビティなど、さまざまなデータベース・アクティビティとともに使用される補助表。データベース DML (データ操作言語) アクティビティの 1 つを構成すると、Studio は、データベース表で適切なトリガーを作成するために使用可能な SQL スクリプトを生成します。バッファー・テーブルには、トリガー・イベント (INSERT、UPDATE、DELETE) の発生時にデータが取り込まれます。バッファー・テーブルにより、データベース変更を取り込み、オーケストレーションによる処理を開始するための手段が提供されます。

C

Cast Iron® Studio

統合プロジェクトと、それらを構成するオーケストレーションを作成、構成、および公開するための、統合開発環境 (IDE)。Studio プロジェクトは、WebSphere® Cast Iron アプライアンスで実行されます。

コマンド・ライン・インターフェース (Command-line interface)

統合アプライアンスを構成、管理、および照会するための、Web 管理コンソール (WMC) に代わるテキスト・ベースの機能。

コントロール表 (Control table)

統合において、データベース・エンドポイントの使用を容易にするデータベース表。バッファ・テーブルの場合と同様に、Studio は、特定の表への挿入、更新、および削除が一度だけ行われるようにするために使用可能なコントロール表を作成するためのスクリプトを生成します。

パラメーターのコピー (Copy parameters)

コピーによって、パラメーターからの出力に一致する、新しいデフォルト・オーケストレーション変数が作成されます。

D

デプロイ (Deploy)

統合アプライアンスで統合プロジェクトのインスタンスを作成 (インスタンス化) します。

文書 (Document)

統合プロジェクトを構成する XML スキーマ・ファイル、DTD、およびその他の構成ファイル。

動的区切り文字 (Dynamic delimiter)

一揃いの電子カルテを含むファイルで新規レコードの先頭を示す HL7 PID (患者 ID) メッセージ・ヘッダーなど、メッセージ自体のフィールド内から取得される区切り文字。

E

空ブレースホルダー (Empty Placeholder)

複数のブランチを持つアクティビティに、当該ブランチでのアクティビティの初期ブレースホルダーとして置かれます。このアイコン上に他のアクティビティをドロップすると、そのアクティビティは削除されます。

エンドポイント (Endpoint)

統合アプライアンスのデータ・ソース、または統合アプライアンスの処理ターゲットのいずれかである、データベース・サーバー、FTP サーバー、E メール・システム、エンタープライズ・アプリケーションなどの、外部システムのプロパティを表します。

F

For Each

メッセージ構造を繰り返す関数。

フラット・ファイル (Flat File)

XML 以外のデータを含むファイル。フラット・ファイルには通常、2 つのタイプがあります。コンマ、タブ、空白、またはその他の区切り文字を使用して可変長フィールドおよびレコードを区切る「区切り」と、フィールドおよびレコードの幅が固定である「定位置」です。

フラット・ファイル・スキーマ (Flat File Schema)

特定のフラット・ファイルのセットを解釈する方法を定義します。Cast Iron Studio は、フラット・ファイル・スキーマ・エディターで定義された構成に基づいてフラット・ファイル・スキーマ (XML スキーマ) を作成します。フラット・ファイル・スキーマは、ソース・フラット・ファイルを XML に変換するために「フラット・ファイルの読み取り」アクティビティで使用されます。

関数 (Function)

オーケストレーションでの処理の定義に使用可能な、Studio によって提供されるストリング関数、数学関数、および各種関数。事前作成の関数に加えて、Studio では、ユーザー独自のカスタム関数およびルックアップ・テーブルを作成できます。

I

統合プロジェクト (Integration project)

Studio で設計され、統合アプライアンスにデプロイされた、統合ソリューションからなる、さまざまな入力、出力 (エンドポイント)、マッピングとスキーマ定義 (変換、メッセージ形式)、オーケストレーション、および構成情報。

J

ジョブ (Job)

オーケストレーションの特定のランタイム・インスタンス。

M

マップ (Map)

入力パラメーターを変数にバインドし、変数をオーケストレーションにバインドするための構成要素。多くの Studio アクティビティには、実パラメーターを変数にマップする方法、および変数をオーケストレーションで処理する方法を定義するために、オーケストレーションのコンテキストで設計時に構成する必要がある組み込みマップが含まれています。組み込み済みのアクティビティ・マップに加えて、Studio には、オーケストレーションへの入出力のタイプをバインドするために使用できるスタンドアロンの「編集のマップ (Map Variables)」アクティビティがあります。

N

ノード (Node)

統合アプライアンスに対するデータ入出力はすべて、ツリー状の階層構造における一連のノードとして Studio に具体化されます。多くの場合、ノードは XML 文書の構造および内容を表しますが、そうではない場合もあります (例えば、データベース表の行はノードとして表示されます)。Studio でのノードは、構造に関する情報、サポート可能なコンテンツのタイプに関する情報、またはデータの追加特性に関する情報を伝達します。

通知ポリシー (Notification policy)

オーケストレーション全体に適用されます。ルールは、0 (ロギングなし) から 9 (完全なロギング情報) までのイベント・レベルに基づいています。

O

オーケストレーション (Orchestration)

Studio を使用して定義および構成され、統合アプライアンスで実行するためにデプロイされる、処理アクティビティ (データ・マッピング、変換、制御ロジック・アクティビティなど)、エンドポイント、およびデータ型の特定シーケンス。

P

パラメーター (Parameter)

アクティビティまたはオーケストレーションに渡される値。例えば、ファイル名およびデータは、FTP エンドポイントからオーケストレーションに渡すことができる 2 つのパラメーターです。

パラメーター化照会 (Parameterized query)

入力または出力データベース・パラメーターを含むデータベース SQL ステートメント。「照会の実行」アクティビティはパラメーター化照会をサポートします。

解析 (Parse)

シリアライズの逆。確立されたいくつかのルールに従って構成要素に変換すること。

選出 (Pick)

複数の代替物から選択を行うためのアクティビティ。通常は、オーケストレーションの開始に使用されます。「選出」アクティビティは、同期メッセージングおよび非同期メッセージングのいずれかをサポートできます。

プロジェクト (Project)

Cast Iron Studio を使用して定義および作成される統合プロジェクト。プロジェクトにはそれぞれ、プロパティ・ファイル (filename.sp3) と、すべての統合エレメント (オーケストレーション、エンドポイント、XML スキーマ、フラット・ファイル) とそれらの固有の構成 (変数、パラメーター) からなるいくつかの追加メタデータ・ファイルおよびフォルダーがあります。

公開 (Publish)

後のランタイム構成および特定環境へのデプロイのために、すべてのプロジェクト・ファイルを Studio から統合アプライアンスに、または中間ステージング域 (ファイル・サーバー上の共用ディレクトリーなど) にコピーします。「公開」プロセスには、プロジェクトの妥当性検査、プロジェクト構成文書の .par ファイルの作成、および指定された統合アプライアンスへのパッケージの送信が含まれます。

R

ロー・メッセージ (Raw message)

ロー・メッセージの文字エンコードを定義する構成。

レコード ID (Record identifier)

EDI (電子データ交換) または HL7 (Health Level 7) ファイルなど、あるタイプのフラット・ファイルでレコードを区切るための特殊フィールド。例えば、HL7 PID (患者 ID) 番号はレコード ID です。

反復区切り文字 (Repetition delimiters)

データにレコード ID などの固有値がない場合に、あるレコードを別のレコードと区別するために使用される、フラット・ファイルにおける区切り文字。

置換 (Replace)

アクティビティ・ブランチに、そのブランチのメッセージを受信するエンドポイント・アクティビティの初期プレースホルダーとして置かれます。このアイコンに「エンドポイントの受信」アクティビティをドロップすると、そのアクティビティは削除されます。

応答 (Reply)

メッセージの受信時に肯定応答を送信します。

リポジトリー (Repository)

さまざまなタイプのデータ用の永続ストレージ。Cast Iron アプライアンスには、構成リポジトリーおよびメッセージ・リポジトリーがあります。

S

シリアライズ (Serialize)

解析の逆。シリアライゼーションでは、データが XML フォーマットであると想定しています。

ストアード・プロシージャー (Stored procedure)

データベース内にあり、その名前を指定して明示的に開始される機能コード単位。ストアード・プロシージャーは、特定の挿入、更新、または削除アクティビティが特定のデータベース表で実行されるときに、バッファー・テーブルにデータを取り込むために使用できます。

システム・ストア (System store)

アプライアンス構成情報が含まれているリポジトリー。構成リポジトリーと同じ。

T

終了 (Terminate)

オーケストレーション処理を停止します。

ツールボックス (Toolbox)

Studio の右隅で使用可能な「プロジェクト」、「アクティビティ」、「変数」、「関数」、および「検査」の 5 つタブのセット。これらのタブから、新規プロジェクトの作成、プロジェクト内での新規オーケストレーションの作成、および処理ロジックの開発を行うために必要なすべてのエンティティにアクセスできます。

トリガー (Trigger)

表での INSERT、UPDATE、または DELETE などのトリガー・イベントの発生時に、暗黙的に呼び出されるデータベース・ストアード・プロシージャのタイプ。

V

変数 (Variable)

オーケストレーションによって処理されるデータ値を渡すために使用されます。変数は、ソースおよびターゲットを識別するためにマップで使用されます。一部のアクティビティでは、変数が自動的に作成されます。


W

while ループ (While Loop)

子アクティビティを開始し、指定された条件が true である間はそのアクティビティの処理を続けます。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/Glossary.html>

Cast Iron Express: 始めに

IBM® WebSphere® Cast Iron® Express® を使用すると、無料の試用アカウントに素早く登録し、統合を作成し、Cast Iron Express 環境を安全に管理することができます。提供される分析情報を使用して、統合の使用状況を分析することもできます。

Cast Iron Express を使用する理由

WebSphere Cast Iron Express は、統合プロジェクトを素早く作成、定義、実行、および管理するために構築された専用のソリューションです。salesforce.com アカウントと他のデータ・ソースの間の統合を数分で作成できます。

速度と単純性に重点を置いているため、構成の手法を使用して統合を定義します。統合をコーディングすることはありません。

定義が完了した後で、統合を実行して、salesforce.com と他のデータ・ソース (リモート・データベース、ローカル・ファイル、および Dropbox) の間でデータを移動できます。

1 つ以上の使用可能なアドオン機能パッケージを選択して、Cast Iron Express アカウントの能力をいつでも拡張できます。

Cast Iron Express アカウントに他のユーザーを登録できます。アカウントをモニターおよび管理することもできます。

「登録 (Sign Up)」するには、WebSphere Cast Iron Express ホーム・ページ (<https://express.castiron.com/express/>) にアクセスします。

確認する必要がある情報

それぞれのロールに応じて、以下の資料で説明するさまざまなタスクを実行する必要があります。各タスクは、Cast Iron Express アカウントに登録する方法に始まって、順序立てて説明されています。

セキュリティ上の理由から、ユーザー名を使用してサインインしたままでアクティビティーがない状態が続くと、セッションはタイムアウトになります。

一部の Cast Iron Express 機能では、ポップアップ・ウィンドウを使用します。そのため、Web ブラウザーでポップアップ・ウィンドウがブロックされないようにする必要があります。

開始する前に、使用しているブラウザーがサポートされていること、および必要な最小レベルを満たしていることを確認してください。

- Google Chrome 18
- Mozilla Firefox 10
- Windows Internet Explorer 8

以下のタスクを選択して、Cast Iron Express について学習することができます。その後、統合の作成と管理、アカウントへの他のユーザーの登録、およびアカウント内のアクティビティーのモニターを開始できます。

ローカル・ファイルから salesforce.com アカウントへの統合を作成する方法については、[チュートリアル: ローカル・ファイルから salesforce.com への統合の作成](#)を参照してください。

- [アカウントの登録](#)
IBM Cast Iron Express アカウントには、Cast Iron Express ホーム・ページの「登録 (Sign Up)」をクリックして登録できます。
- [使用開始のヘルプ](#)
受信したユーザー名とパスワードを使用してサインインすると、「Cast Iron Express の概要 (Getting Started with Cast Iron Express)」ビューが開きます。
- [アカウント・プロファイルの管理](#)
「プロファイルの管理」ビューを使用して、詳細を追加したり、現在の詳細を変更したりできます。アカウント・パスワードを変更することもできます。
- [ユーザーの管理](#)
管理者は、Cast Iron Express アカウントのユーザーを管理できます。アカウントへの新規ユーザーの追加、およびアクセスを必要としなくなった既存ユーザーの削除は、管理者のみが行うことができます。
- [Cast Iron Express ヘルプ・センター](#)
Cast Iron Express にサインインすると、製品で使用可能な機能の理解と使用に役立つ有用なリソースを示すヘルプ・センターが表示されます。
- [Express アカウントへの機能の追加](#)
追加機能を要求して、Cast Iron Express アカウントをカスタマイズできます。1 つ以上の使用可能な機能パッケージを選択して、アカウントの能力を拡張できます。
- [Cast Iron Express の最新情報の確認](#)
Cast Iron Express の新機能は、Cast Iron Express ヘルプ・センターで確認できます。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/introduction.html>

アカウントの登録

IBM® Cast Iron® Express® アカウントには、Cast Iron Express ホーム・ページの「登録 (Sign Up)」をクリックして登録できます。

IBM Cast Iron Express アカウントに登録するには、<https://express.castiron.com/express/> にアクセスします。

製品を購入する義務はありません。Cast Iron Express ホーム・ページの登録リンクで、無料の試用アカウントをセットアップします。使用可能なアドオン・パッケージを要求することにより、アカウント内の機能を拡張できます。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。

アカウントに登録する際には、単一ユーザーとしてログインすることを明らかにする必要があります。各 Cast Iron Express アカウントには、管理者特権を持つユーザーが1つ作成されます。このユーザーの名前は *admin* であり、初めて登録を完了したときに作成されます。admin ユーザーは、同じ Cast Iron Express アカウントに追加のユーザーを登録することができます。

手順

1. Cast Iron Express ホーム・ページを開き、「登録 (Sign Up)」をクリックします。「登録 (Sign Up)」ページが開きます。
2. 必要な詳細情報をすべてのフィールドに入力します。フィールドへの入力を省略すると、情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。
3. 「ご利用条件 (Terms of Use)」をお読みください。登録要求を送信すると、Cast Iron Express のご利用条件に同意したものと見なされます。
4. 完了したら、「登録 (Sign Up)」をクリックします。登録されたアドレスに E メールが送信されることを示す確認メッセージが表示されます。
5. E メール・アカウントにアクセスし、「IBM WebSphere Cast Iron Express へようこそ (Welcome to IBM WebSphere Cast Iron Express)」メッセージを開きます。登録を確認し、アカウントをアクティブにするには、表示されたリンクをクリックする必要があります。アカウント確認メッセージが表示されます。
6. 確認すると、さらに2つの E メールが送信されます。1つのメッセージには、*admin@YourCompanyName* Cast Iron Express ユーザー名が含まれています。もう1つのメッセージには、パスワードが含まれています。*admin* ユーザー ID には、統合を作成および定義し、アカウントにアクセスする他のユーザーを登録し、会社の Cast Iron Express アカウントを管理する権限があります。
7. 受信した資格情報を使用してサインインして、無料の試用アカウントの使用を開始します。

制約事項: Cast Iron Express では、ユーザーが使用できるアカウントは会社ごとに1つの試用アカウントに制限されています。指定した会社名が既に登録されているというエラー・メッセージを受け取った場合は、社内の管理者に問い合わせてください。管理者は、既存のアカウントに追加のユーザーを登録することができます。

親トピック: [Cast Iron Express: 始めに](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/intro_creatinganaccount.html

使用開始のヘルプ

受信したユーザー名とパスワードを使用してサインインすると、「Cast Iron Express の概要 (Getting Started with Cast Iron Express)」ビューが開きます。

Cast Iron® Express® アカウント内で使用可能な機能の理解に役立つように、「概要 (Getting Started)」ビューに表示される各オプションをクリックできます。

ツールバーのヘルプ・アイコンをクリックすると、「概要 (Getting Started)」ページにいつでもアクセスできます。以下の画面キャプチャーは、ヘルプ・アイコンおよびさまざまなヘルプ・オプションを示しています。



手順

1. IBM® Cast Iron Express から受信したユーザー名とパスワードを使用してサインインします。「Express の概要 (Getting Started with Express)」ビューが開きます。
2. 「Express の概要 (Getting Started with Express)」ビューで、表示される 3 つのオプションのいずれかをクリックできます。
 - 作成: 統合を素早く定義し、実行します。
 - モニター: ダッシュボード・ページを開き、統合をリアルタイムで分析します。報告された問題を確認することもできます。
 - 拡張: アカウントに機能を追加し、統合の能力を拡張します。

Cast Iron Express 環境の定義を開始できるようになりました。

親トピック: [Cast Iron Express: 始めに](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

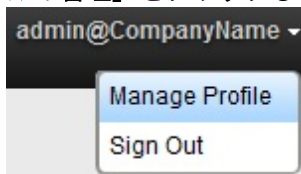
アカウント・プロフィールの管理

「プロフィールの管理」ビューを使用して、詳細を追加したり、現在の詳細を変更したりできます。アカウント・パスワードを変更することもできます。

Cast Iron® Express® アカウントにサインインします。


手順

1. ページの右上にあるサインイン名をクリックして、メニュー・オプションを表示します。「プロフィールの管理」をクリックします。以下の画面キャプチャーは、メニューを示しています。




2. 以下のフィールドの詳細を追加または更新できます。
 - 名
 - 姓
 - Eメール
 - 国
 - Phone
 - 役職
3. パスワードを変更するには、「パスワードの変更」をクリックします。新しいパスワードを入力する前に、変更前のパスワードを入力する必要があります。

標準的なパスワード・ルールが適用されます。パスワードの最小必要文字数は 8 文字であり、特殊文字を使用できます。

4. オプション: Cast Iron Express ニュースレターを受け取る場合は、「Cast Iron Express ニュースレターに登録し、IBM からの特別オファーを受け取る (Sign me up for the Cast Iron Express Newsletter and let IBM contact me with special offers)」を選択できます。
5. プロフィールを変更するには、「保存」をクリックします。追加または修正を取り消すには、閉じるアイコン  をクリックします。

親トピック: [Cast Iron Express: 始めに](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/intro_ManagingYourProfile.html

ユーザーの管理

管理者は、Cast Iron® Express® アカウントのユーザーを管理できます。アカウントへの新規ユーザーの追加、およびアクセスを必要としなくなった既存ユーザーの削除は、管理者のみが行うことができます。

デフォルトでは、Cast Iron Express アカウントに登録するときには、「ユーザーの管理」機能は使用不可です。この追加機能を使用するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックし、[コラボレーション・パッケージ](#)を選択します。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。


Cast Iron Express アカウントにアクセスする 1 人以上のユーザーを登録するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「ユーザーの管理」ページを開くには、「ユーザーの管理」をクリックします。
2. 「新しいユーザーの追加」セクションで、Cast Iron Express アカウントに追加するユーザーの E メール・アドレスを入力します。複数のユーザーを登録する場合は、各 E メール・アドレスをコンマで区切ります。
3. オプション: ユーザーに送信する E メールをカスタマイズするには、「Eメールのカスタマイズ」を選択し、表示されるテキスト域で内容を編集します。
4. 終了したら、「送信 (Send)」をクリックします。E メールが送信されることを確認するメッセージが表示されます。
5. 登録されたユーザーは、登録プロセスを手引きするリンクを含むメッセージを受信します。それらのユーザーが最初にサインインするときには、使用許諾契約書が表示されます。登録された作成者は、「同意する (Accept)」をクリックして、サインイン・プロセスを完了する必要があります。
6. 新しいユーザーがサインインすると、各ユーザーの Cast Iron Express への最終ログインの詳細が、「アクティブ・ユーザー」セクションに表示されます。
7. 必要な場合は、「最終ログイン (Last Login)」フィールドの横にある削除アイコンをクリックして、ユーザーを削除できます。

親トピック: [Cast Iron Express: 始めに](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/intro_ManagingUsers.html

Cast Iron Express ヘルプ・センター

Cast Iron® Express® にサインインすると、製品で使用可能な機能の理解と使用に役立つ有用なリソースを示すヘルプ・センターが表示されます。

Cast Iron Express ヘルプ・センターには、以下の情報があります。

- [新機能の詳細](#)

- 簡単なビデオ・チュートリアルシリーズ
- 文書チュートリアル
- よくある質問 (FAQ) セクション

ヘルプ・センターは、ヘルプ・アイコンをクリックしていつでも開くことができます。以下の画面キャプチャは、ヘルプ・アイコンおよびメニュー・オプションを示しています。



「ヘルプ・センター (Help Center)」セクションを閉じるには、ページの右上にある閉じるアイコンをクリックします。

ヘルプ・メニュー・オプションから Cast Iron Express インフォメーション・センターにアクセスすることもできます。

親トピック: [Cast Iron Express: 始めに](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/intro_UsingTheHelpSection.html

Express アカウントへの機能の追加

追加機能を要求して、Cast Iron® Express® アカウントをカスタマイズできます。1 つ以上の使用可能な機能パッケージを選択して、アカウントの能力を拡張できます。

Cast Iron Express アカウントにサインインします。

選択する追加機能によっては、一部の機能パッケージに対して課金されることがあります。IBM® Software and Services Online サイトにリダイレクトされます。このサイトで、買物かごに Cast Iron Express 製品を追加します。プロンプトが表示されたら、IBM ユーザー ID を使用してサインインします (この ID は、Cast Iron Express サインイン名とは別に構成する必要があります)。

注文処理の最後に表示される確認番号を今後のために記録しておきます。

重要: 決済システムは新しいウィンドウで開きます。そのため、Web ブラウザーがポップアップ・ウィンドウをブロックしないようにする必要があります。

手順

1. 使用可能なパッケージのリストを表示するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックします。

以下の機能パッケージが使用可能です。

- マッピング関数: ソース・エンドポイントからマップされたデータがターゲット・エンドポイントに取り込まれる前にデータを操作するために、変換を定義します。
- オンプレミス・サポート: ローカル・システムとリモート・システム間の継続的な同期を提供します。
- コラボレーション: Cast Iron Express アカウント内で統合を作成および管理できるように他のユーザーを登録します。

各パッケージでは、どの機能が組み込まれているか、および無料の試用版があるかどうかの詳細に規定されています。1 回限りの無料の試用版を使用して、その機能によってビジネス・アプリケーションをどのように拡張できるかを体験できます。

2. すべての追加機能を選択するには、「すべてを 90 日間試用する (Try All for 90 Days)」をクリックします。90 日間の無料の試用期間が終了した後も機能を引き続き使用するには、パッケージを購入する必要があります。
3. 個々のパッケージを選択するには、使用する特定の機能ごとに「90 日間無料で試用する (Free for 90 Days)」をクリックします。一部のパッケージのみを選択する場合、「すべてを 90 日間試用する (Try All for 90 Days)」は選択できません。
4. 必要な場合は、IBM Software and Services Online サイトで購入を完了します。
5. 新しい機能の要求を送信します。

「アドオン (Add-ons)」ビューに、要求の状況および現在のパッケージ使用状況が表示され、無料の試用版の残りの期間が示されます。

親トピック: [Cast Iron Express: 始めに](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/intro_upgradingbyaddingmodules.html

Cast Iron Express の最新情報の確認

Cast Iron® Express® の新機能は、Cast Iron Express ヘルプ・センターで確認できます。

追加された最新機能の詳細を確認できます。ヘルプ・センターを開くには、ヘルプ・アイコンの下のメニューに表示されるオプションをクリックします。以下の画面キャプチャーは、ヘルプ・アイコンおよびメニューを示しています。



親トピック: [Cast Iron Express: 始めに](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/intro_keepinguptodatewithcastironexpress.html

Cast Iron Express との統合

- **サポートされるソース・システムとターゲット・システム**
Cast Iron® Express® には、データベース、FTP サーバー、ローカル・ファイル、Dropbox、および salesforce.com アカウントを統合する機能が組み込まれています。
- **セキュア・コネクターの管理**
データベースや FTP サーバーなどのオンサイト・システムと通信するために、Cast Iron Express では、セキュア・コネクターを使用できます。セキュア・コネクターは、「統合」ページから管理されます。
- **統合の作成**
Cast Iron Express の「統合」ページで統合を作成できます。
- **統合エディターの使用**
統合エディターを使用して、統合に関するすべての情報をカスタマイズすることができます。
- **複合関数**
複合関数とは、1 つの関数の出力が後続の関数への入力としてチェーンされるように、2 つの別個の関数を組み合わせた関数です。以下のトピックでは、複合関数の作成、編集、または削除について説明します。
- **関数のリスト**
Cast Iron Express は、マッピング内で使用するための各種の関数を提供します。これらの関数は、マップされるフィールド値を操作するために使用できます (ストリングの内容を変更する、数値演算を実行する、日時の値を操作する、など)。
- **統合の管理**
Cast Iron Express の「統合」ページには、1 つのアカウントで定義されているすべての統合のリストが表示されます。
- **統合アクティビティのモニター**
Cast Iron Express の「アクティビティ」ページを使用して、アカウント内のすべてのアクティビティの詳細を表示できます。
- **使用状況グラフ**
使用状況グラフを使用すると、特定のテナントで最もアクティブな統合およびエンドポイントを素早く識別できます。ジョブの成功と失敗の要約および統合アクティビティの詳細が、月単位および年単位のグラフに表示されます。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

サポートされるソース・システムとターゲット・システム

Cast Iron® Express® には、データベース、FTP サーバー、ローカル・ファイル、Dropbox、および salesforce.com アカウントを統合する機能が組み込まれています。

サポートされている統合のソースとターゲットのすべての組み合わせ

以下の表は、Cast Iron Express で選択できるさまざまなソース・エンドポイントの概要を示しています。ソース・エンドポイントを選択すると、その特定のソース・エンドポイントでサポートされるターゲット・エンドポイントのみが表示されます。

表 1. 選択されるソース・エンドポイントとサポートされるターゲット・エンドポイントの対応表


選択されるソース・エンドポイント	サポートされるターゲット・エンドポイント
DB2®	<ul style="list-style-type: none">salesforce.com
MySQL	<ul style="list-style-type: none">salesforce.com
SQL Server	<ul style="list-style-type: none">salesforce.com
Oracle	<ul style="list-style-type: none">salesforce.com
salesforce.com	<ul style="list-style-type: none">DB2MySQLSQL ServerOraclesalesforce.com
FTP	<ul style="list-style-type: none">salesforce.com
ローカル・ファイル	<ul style="list-style-type: none">salesforce.com
Dropbox	<ul style="list-style-type: none">salesforce.com

- [FTP ソース用にサポートされているファイル・タイプ](#)

Cast Iron Express では、FTP を特定のファイル・タイプのソースとして使用することができます。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_supportedsourceandtargetssystem.html

FTP ソース用にサポートされているファイル・タイプ


Cast Iron® Express® では、FTP を特定のファイル・タイプのソースとして使用することができます。

FTP をソース・エンドポイントとして選択するときには、以下のファイル・タイプがサポートされます。

- CSV ファイル。ファイルの最初の行に、それ以降の行のフィールド名が定義されます。
- その他のテキスト・ファイル。テキスト・コンテンツが1つのテキスト・フィールドとして使用可能になります。
- バイナリー・ファイル。ファイルのコンテンツが1つのバイナリー・フィールドとして使用可能になります。

親トピック: [サポートされるソース・システムとターゲット・システム](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_SupportedFileTypesForFTPSource.html

セキュア・コネクターの管理

データベースや FTP サーバーなどのオンサイト・システムと通信するために、Cast Iron® Express® では、セキュア・コネクターを使用できます。セキュア・コネクターは、「統合」ページから管理されます。

デフォルトでは、Cast Iron Express アカウントに登録するときには、セキュア・コネクター機能は使用不可です。この追加機能を使用するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックし、[オンプレミス・サポート・パッケージ](#)を選択します。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。

「統合」ページを開くと、ページの左下の領域に、定義されたセキュア・コネクターがリストされています。リストされたコネクターごとに、コネクターの名前および状況が表示されています。

削除アイコンをクリックして、任意のセキュア・コネクターを削除できます。


- [セキュア・コネクターの作成](#)
Cast Iron Express 統合ページから、セキュア・コネクターを作成できます。
- [セキュア・コネクターのインストール](#)
セキュア・コネクターをホスト・システムにインストールすることができます。
- [セキュア・コネクターの開始と停止](#)
セキュア・コネクターをインストールすると、セキュア・コネクターの開始と停止のメニュー項目が、オペレーティング・システムに「Cast Iron セキュア・コネクター 1.6.2.0.0」グループとして追加されます。

- [セキュア・コネクターの削除](#)

ホスト・システムからセキュア・コネクターを削除するには、最初に「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」項目を実行してから、「セキュア・コネクターのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」項目を実行します。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_ManagingSecureConnectors.html

セキュア・コネクターの作成

Cast Iron® Express® 統合ページから、セキュア・コネクターを作成できます。

デフォルトでは、Cast Iron Express アカウントに登録するときには、セキュア・コネクター機能は使用不可です。この追加機能を使用するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックし、[オンプレミス・サポート・パッケージ](#)を選択します。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。

手順


1. 「統合」ページを開き、追加アイコン  をクリックします。
2. セキュア・コネクターの固有の記述名を入力します。
3. 「作成」をクリックします。

バックグラウンドでセキュア・コネクターが作成され、作動可能な状態になると、セキュア・コネクターのリストに表示されます。

インストール・ファイルおよび構成ファイルをダウンロードし、セキュア・コネクターをホスト・システムにインストールします。詳しくは、[セキュア・コネクターのインストール](#)を参照してください。

親トピック: [セキュア・コネクターの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_creatingsecureconnector.html

セキュア・コネクターのインストール

セキュア・コネクターをホスト・システムにインストールすることができます。


制約事項: ホスト・システムは、ターゲット・システムと同じローカル・ネットワーク上に存在している必要があります。

手順

1. ホスト・システムにログインし、Web ブラウザーで <http://express.castiron.com> にアクセスします。
2. インストールするセキュア・コネクターの横にあるダウンロード・アイコン  をクリックします。
Windows と Linux の両方のプラットフォームに対応したインストール・ファイルと構成ファイルをダウンロードするためのリンクおよび構成ファイルだけをダウンロードするオプションを示すダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 該当するファイルをホスト・システムにダウンロードして、インストール・プログラムを実行します。
インストール中に、構成ファイルの指定を求めるプロンプトが表示されます。

親トピック: [セキュア・コネクターの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_InstallingASecureConnector.html

セキュア・コネクターの開始と停止

セキュア・コネクターをインストールすると、セキュア・コネクターの開始と停止のメニュー項目が、オペレーティング・システムに「Cast Iron® セキュア・コネクター 1.6.2.0.0」グループとして追加されます。


セキュア・コネクターの開始と停止のメニュー項目は、「スタート」メニュー (Windows) または「アプリケーション」メニュー (Linux) に表示されます。

重要: Windows 7 システムでセキュア・コネクターを実行する場合は、セキュア・コネクターを管理者として実行します。「セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)」オプションを右クリックして「管理者として実行」を選択します。

セキュア・コネクターが開始されると、Cast Iron Express® アカウントと通信して、セキュア・コネクターが実行中であることが通知されます。

ヒント: Windows システムへのインストール時に、セキュア・コネクターを Windows サービスとしてインストールすることができます。セキュア・コネクターを Windows サービスとしてインストールすると、セキュア・コネクターを開始するために「スタート」メニューを使用する必要がなくなります。


手順

セキュア・コネクターが開始された後で、Cast Iron Express の「統合」ページの「セキュア・コネクター」セクションで最新表示アイコン  をクリックします。状況が「実行中」に変更されます。

最新表示操作により、セキュア・コネクタ・リストが最新の状況に更新されます。

親トピック: [セキュア・コネクタの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_startingands_toppingthesecureconnector.html

セキュア・コネクタの削除

ホスト・システムからセキュア・コネクタを削除するには、最初に「セキュア・コネクタの停止 (Stop Secure Connector)」項目を実行してから、「セキュア・コネクタのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」項目を実行します。


手順

1. ホスト・システムの場合:
 - a. 「スタート」メニューのオプション「セキュア・コネクタの停止 (Stop Secure Connector)」を使用してセキュア・コネクタを停止します。
 - b. 「スタート」メニューのオプション「セキュア・コネクタのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」を使用して、セキュア・コネクタをアンインストールします。
2. Cast Iron® Express® 統合ページの場合:
 - a. 該当するセキュア・コネクタの横にある削除アイコン  をクリックします。
 - b. 「OK」をクリックします。

Cast Iron Express 統合ページからセキュア・コネクタが削除されます。

親トピック: [セキュア・コネクタの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_removingasecureconnector.html

統合の作成

Cast Iron® Express® の「統合」ページで統合を作成できます。


Cast Iron Express アカウントにサインインし、「統合」をクリックします。

手順

1. リストから「ソース」を選択します。ソース・エンドポイントに応じて、「ターゲット」リストがフィルター処理されて、サポートされているシステムのみがリストされます。
2. 「ターゲット」を選択します。
3. 「新規ブランク統合」をクリックします。統合が作成され、統合エディターが開きます。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_creatingintegrations1.html

統合エディターの使用

統合エディターを使用して、統合に関するすべての情報をカスタマイズすることができます。

エディターの上部セクションにあるテキスト・フィールドに名前を入力することにより、統合のカスタム名を指定することができます。「保存」をクリックして、統合への変更を保存できます。保存せずに統合エディターを閉じるには、「閉じる」をクリックします。統合はいつでも保存できますが、統合の構成が完了するまでは統合を実行できません。

統合エディターには、以下の3つの大きなパネルがあります。

- ソース (Source)
- 変換 (Transformation)
- ターゲット (Target)

「ソース」セクションと「ターゲット」セクションの構成について詳しくは、以下の各トピックを参照してください。

- [接続の構成](#)
- [操作の選択](#)
- [オブジェクトの選択](#)
- [フィールドの選択](#)
- [統合のセットアップ](#)

手順

1. 「ソース」セクションを選択します。「ソース」エディターが開きます。
 - [接続の構成](#)
 - [操作の選択](#)
 - [オブジェクトの選択](#)

- フィールドの選択
- ソースの構成が完了すると、ステップが完了したことを示すチェックが表示されます。



2. 「ターゲット」セクションを選択します。「ターゲット」エディターが開きます。
 - 接続の構成
 - 操作の選択
 - オブジェクトの選択
 - フィールドの選択

ターゲットの構成が完了すると、ステップが完了したことを示すチェックが表示されます。



3. 変換を作成します。
 - マッピングの定義
 - 関数の定義

ソースとターゲットの両方のエンドポイントを構成すると、統合エディターの左側にソース・フィールドのリストが表示され、右側にターゲット・フィールドのリストが表示されます。手順のステップ3では、「変換」セクションを操作してソースとターゲット間のデータ変換を作成します。詳しくは、以下の各トピックを参照してください。

- [マッピングの定義](#)
- [関数の定義](#)
- [統合のセットアップ](#)

変換が完了したら、統合を保存して終了し、統合ページに戻ることができます。新しい統合の開始と停止について詳しくは、[統合の管理](#)を参照してください。

- [接続の構成](#)

統合の接続先となるシステムの接続詳細を指定する必要があります。接続詳細のセットに名前を指定する必要があります。この名前は、後でこれらの接続詳細を他の統合で再利用する際の識別用として使用できます。
- [MySQL データベースへの接続](#)

MySQL インスタンスに正常に接続するには、関連する MySQL JDBC ドライバーをセキュア・コネクタにインストールする必要があります。
- [操作の選択](#)

操作を選択することにより、Cast Iron Express によるソースとターゲットのエンドポイントのモニターおよび対話の方法が決定されます。個々の操作のサポートは、実装環境ごとに異なることがあります。例えば、FTP では get および put 操作を利用するのに対して、Salesforce.com ではアップサートおよび更新済みの取得操作をサポートします。
- [データベース・トリガー表](#)

データベース・システムをソースとして使用する場合、Cast Iron Express では、データベース・システム内にトリガー表を作成する必要があります。
- [オブジェクトの選択](#)

ソースまたはターゲットに正常に接続すると、Cast Iron Express はシステムに対し、処理可能なオブジェクトがあるかどうかを照会します。
- [フィールドの選択](#)


オブジェクトが選択されると、Cast Iron Express はそのオブジェクト内のフィールドを識別するために、ソース・システムまたはターゲット・システムに対して自動的に照会を実行します。
- [salesforce.com への接続時の外部 ID の使用](#)

salesforce.com への接続時に、「オブジェクトのアップサート」操作で外部 ID を使用するように Cast Iron Express を構成することができます。また、外部 ID フィールドを使用して、ターゲット salesforce.com オブジェクトを他の salesforce.com オブジェクトに関連付けることができます。

- [ソース・オブジェクトのフィルター処理](#)
Cast Iron Express のフィルター処理機能を使用すると、「統合」ページに表示されるフィールド値に基づいて、ソース・アプリケーションから統合に渡されるレコードを制御できます。
- [統合のセットアップ](#)
ソースとターゲットのエンドポイントを構成した後で、マッピングを定義できます。統合をセットアップするには、データ型の間の暗黙的な変換についての Cast Iron ガイドラインを理解することが重要です。次に進む前に、このセクションの情報をよく読んでください。
- [マッピングの定義](#)
ソースとターゲットの両方を構成すると、左側にソース・フィールドのリスト、右側にターゲット・フィールドのリスト、および 2 列のアンカーが表示されます。これらのアンカー・ポイントを接続することにより、マッピングを定義します。
- [関数の定義](#)
単純なマッピングでは、ソース・フィールドのデータをコピーしてターゲット・フィールドに貼り付けることができます。しかし、場合によっては複雑な変換が必要になります。すべてのマッピングには関数追加アイコンがあります。このアイコンは、関数を定義するときに使用します。
- [関数の構成](#)
特定の要件を満たすように関数を構成できます。これを行うには、ソース・フィールドおよびパラメーターを編集して、ソースを追加または削除したり、ソースの表示順序を変更したりします。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_UsingTheIntegrationEditor.html

接続の構成


統合の接続先となるシステムの接続詳細を指定する必要があります。接続詳細のセットに名前を指定する必要があります。この名前は、後でこれらの接続詳細を他の統合で再利用する際の識別用として使用できます。

オンプレミス・システム (データベースや FTP サーバーなど) の場合、接続詳細にはセキュア・コネクタを指定する必要があります。詳しくは、[セキュア・コネクタの管理](#)を参照してください。

接続詳細の設定が完了したら、「接続」をクリックしてシステムに接続し、接続詳細を検証します。「接続の詳細」パネルの上部に、正常に接続されたかどうかを示すメッセージが表示されます。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

MySQL データベースへの接続

MySQL インスタンスに正常に接続するには、関連する MySQL JDBC ドライバーをセキュア・コネクターにインストールする必要があります。


重要: Cast Iron® Express® により、使用可能なドライバーがないセキュア・コネクターが検出されると、ドライバーのインストール手順を示すエラー・メッセージが表示されます。

手順

1. [ここ](#) からドライバーをダウンロードします。
2. セキュア・コネクターが実行されているマシンに移動して、セキュア・コネクターを停止します。
3. ファイルをセキュア・コネクターのインストール・ルート¥lib¥plugins にコピーします。セキュア・コネクターのインストール・ルートは、セキュア・コネクターがインストールされているディレクトリです。例えば、C:¥Program Files¥IBM¥Secure Connector です。
4. セキュア・コネクターを開始します。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_ConnectingToAMySQLDatabase.html

操作の選択

操作を選択することにより、Cast Iron® Express® によるソースとターゲットのエンドポイントのモニターおよび対話の方法が決定されます。個々の操作のサポートは、実装環境ごとに異なることがあります。例えば、FTP では get および put 操作を利用するのに対して、Salesforce.com ではアップサートおよび更新済みの取得操作をサポートします。

操作を選択する前に、以下の情報を参照して、使用するアクティビティが、作業している特定のエンドポイントでサポートされていることを確認してください。

表 1. FTP をソース・エンドポイントとして使用

操作	結果のアクティビティ
ディレクトリーのポーリング	選択されたファイルで更新があるかどうかを 30 秒間隔でモニターします。

表 2. データベース (MySQL、SQL Server、DB2®、Oracle) をソース・エンドポイントとして使用

操作	結果のアクティビティ
挿入済み行の取得	新たに挿入されたエントリーをデータベース表から取得し、統合を開始します。
更新済み行の取得	新たに変更されたエントリーをデータベース表から取得し、統合を開始します。
削除済み行の取得	新たに削除されたエントリーをデータベース表から渡し、統合を開始します。

表 3. データベース (MySQL、SQL Server、DB2、Oracle) をターゲット・エンドポイントとして使用

操作	結果のアクティビティ
行の挿入	統合内を移動するデータに基づいて、データベース・エントリーを作成します。
行の更新	統合内を移動するデータに基づいて、データベース・エントリーを更新します。
行の削除	統合内を移動するデータに基づいて、データベース・エントリーを削除します。

表 4. salesforce.com をソース・エンドポイントとして使用


操作	結果のアクティビティ
削除済みオブジェクトの取得	選択されたタイプの新たに削除されたオブジェクトを salesforce.com から渡し、統合を開始します。
更新済みオブジェクトの取得	選択されたタイプの新たに変更されたオブジェクトを salesforce.com から渡し、統合を開始します。

表 5. salesforce.com をターゲット・エンドポイントとして使用

操作	結果のアクティビティ
オブジェクトの作成	統合内を移動するデータに基づいて、オブジェクト・エントリーを作成します。
オブジェクトの更新	統合内を移動するデータに基づいて、オブジェクト・エントリーを更新します。
オブジェクトのアップサート	統合内を移動するデータに基づいて、オブジェクト・エントリーを更新/挿入します。
オブジェクトの削除	統合内を移動するデータに基づいて、オブジェクト・エントリーを削除します。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_SelectingAnOperation.html

データベース・トリガー表

データベース・システムをソースとして使用する場合、Cast Iron® Express® では、データベース・システム内にトリガー表を作成する必要があります。

データベース内の表を使用する統合を初めて開始するときに、Cast Iron Express からユーザーに対し、このトリガー表を作成する必要があることが通知されます。情報ダイアログが開き、何が必要かについての説明と2つのリンクが表示されます。最初のリンクは、ユーザーの代わりにデータベースに接続し、トリガー表を自動的に作成するリンクです。この方法を使用するには、統合内で構成されている接続詳細に、データベース・システム内でこの表を作成するために必要な許可が含まれている必要があります。構成されているユーザーが必要な許可を持っていない場合、必要な表を作成するために DDL 文書を使用可能にする2番目のリンクが表示されます。

この文書リンクは、ユーザーの代わりに必要な表を作成できるデータベース管理者に渡すことができます。


制約事項: The Cast Iron Express バッファ・テーブルは、次のフィールド名を使用します。

- IH_PK
- IH_OPERATION_NAME
- IH_FLAG

したがって、これらのフィールド名は、表を作成するときにはサポートされません。トリガー・メカニズムと対立するからです。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/DatabaseTriggerTables.html>


オブジェクトの選択

ソースまたはターゲットに正常に接続すると、Cast Iron® Express® はシステムに対し、処理可能なオブジェクトがあるかどうかを照会します。

このようなオブジェクトには、FTP サーバーのファイル、データベース・スキーマおよびデータベース表、salesforce.com オブジェクトがあります。統合に使用するオブジェクトにナビゲートできるように、使用可能なオブジェクトはすべてツリー構造で表示されます。

ソース・システムまたはターゲット・システムは、いつでも変更される可能性があります。例えば、接続されている salesforce.com アカウントに新しいカスタム・オブジェクトが追加されたり、データベース・スキーマに新しい表が追加されたり、FTP サーバーに新しいファイルがアップロードされたりすることがあります。

手順

1. 処理するオブジェクトを選択するには、使用可能リストからそのオブジェクトを選択します。
2. オブジェクトのリストを最新表示するには、「使用可能なオブジェクト」セクションの最新表示アイコン  をクリックします。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_SelectingAnObject.html

フィールドの選択

オブジェクトが選択されると、Cast Iron® Express® はそのオブジェクト内のフィールドを識別するために、ソース・システムまたはターゲット・システムに対して自動的に照会を実行します。

オブジェクトのフィールドには次のものがあります。

- CSV ファイルのレコード
- 表の列
- salesforce.com オブジェクトのフィールド

フィールドはリストに表示され、各フィールド名の横にチェック・ボックスが表示されます。

注: ソース・エンドポイントが FTP サーバーである場合は、「使用可能なフィールド」パネルで追加オプションを使用して、選択されたファイルが Cast Iron Express でどう解釈されるかを指定できます。これらのオプションは以下のとおりです。


- 「区切り文字 (Separator character)」: これは、ファイル内の個々のフィールドを区切るために使用される文字を指定します。
- 「引用文字」: これは、フィールド値 (複数の行にまたがる可能性があります) を囲むために使用される文字を指定します。
- 「ヘッダー行を含むファイル (File has header row)」 チェック・ボックス: これは、Cast Iron Express がファイルの最初の行をヘッダー行として処理するかどうかを決定します。
- 「フッター行の数 (Number of footer rows)」: これは、ファイルの末尾で無視する行の数を決定します。例えば、ファイル内に合計または要約が含まれている場合に使用します。

ターゲット・システムにより、オプションとしてマークされるフィールドと、必須としてマークされるフィールドがあります。例えば、salesforce.com を使用して「アカウント」オブジェクトを作成するには、名前を指定する必要があります。Cast Iron Express は、これらの必須フィールドを事前に選択し、選択解除操作を防ぐために必須フィールドのチェック・ボックスを使用不可にします。必須フィールドの名前の後にはアスタリスク (*) が表示されます。


Cast Iron Express は、ユーザーの入力を簡素化する目的で、よく使用されるオプション・フィールドを事前に選択しますが、この選択は変更することができます。

注: フィールド・リストの上に「すべて選択」リンクと「すべてクリア」リンクが表示されます。

ソース・システムとターゲット・システムは、いつでも変更することができます。接続している salesforce.com アカウントに新しいカスタム・フィールドを追加したり、データベース表に新しい列を追加したり、FTP サーバーに新しいファイル・フォーマットをアップロードしたりできます。特定のオブジェクトの


フィールドのリストを最新表示するには、「使用可能なフィールド」セクションで最新表示アイコン  をクリックします。

フィールドの選択が完了したら、「完了」ボタンをクリックします。

ソースまたはターゲットの定義が完了し、メインの統合概要画面に戻ります。ソースまたはターゲットに、完了を示す緑色のティック  が表示されます。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_SelectingTheFields.html

salesforce.com への接続時の外部 ID の使用

salesforce.com への接続時に、「オブジェクトのアップサート」操作で外部 ID を使用するように Cast Iron® Express® を構成することができます。また、外部 ID フィールドを使用して、ターゲット salesforce.com オブジェクトを他の salesforce.com オブジェクトに関連付けることができます。

外部 ID は、他のシステムで生成された ID またはキー値に基づいて、salesforce.com のオブジェクトを識別するために使用されます。salesforce.com 管理者は、外部 ID フィールドを salesforce.com オブジェクトに追加することができます。詳しくは、salesforce.com の資料を参照してください。

salesforce.com オブジェクトが選択されると、Cast Iron Express はそのオブジェクト内のフィールドを識別するために、ターゲット・システムに対して自動的に照会を実行します。

- [「アップサート \(Upsert\)」操作での外部 ID の使用](#)

salesforce.com で、「アップサート (Upsert)」操作が選択されている場合は、使用する外部 ID を「使用可能なフィールド」セクションで選択できます。

- [関連オブジェクトでの外部 ID の使用](#)

salesforce.com で、「作成」または「アップサート (Upsert)」操作が選択されている場合は、外部 ID フィールドを使用して、ターゲット・オブジェクトを他のオブジェクトに関連付けることができます。例えば、「アカウント」オブジェクトで定義されている外部 ID フィールドの値に基づいて、「連絡先 (Contact)」オブジェクトを「アカウント」オブジェクトに関連付けることができます。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

「アップサート (Upsert)」操作での外部 ID の使用


salesforce.com で、「アップサート (Upsert)」操作が選択されている場合は、使用する外部 ID を「使用可能なフィールド」セクションで選択できます。

手順

1. salesforce.com の「ターゲット」エディターで、「操作」メニューから「オブジェクトのアップサート」オプションを選択します。
2. 「使用可能なフィールド」セクションの「外部 ID として使用する (Use as external ID)」メニューから必要な外部 ID を選択します。
3. 「完了」をクリックします。

親トピック: [salesforce.com への接続時の外部 ID の使用](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_externalids.html

関連オブジェクトでの外部 ID の使用

salesforce.com で、「作成」または「アップサート (Upsert)」操作が選択されている場合は、外部 ID フィールドを使用して、ターゲット・オブジェクトを他のオブジェクトに関連付けることができます。例えば、「アカウント」オブジェクトで定義されている外部 ID フィールドの値に基づいて、「連絡先 (Contact)」オブジェクトを「アカウント」オブジェクトに関連付けることができます。

手順

1. salesforce.com の「ターゲット」エディターで、「操作」メニューから「オブジェクトの作成」または「オブジェクトのアップサート」オプションを選択します。
2. 「使用可能なフィールド」セクションで、目的のオブジェクトに関連するフィールドを選択します。定義された外部 ID が含まれているフィールドの「タイプ」列には、選択リストが表示されます。このリストから、必要な外部 ID フィールドを選択します。
3. 「完了」をクリックします。

親トピック: [salesforce.com への接続時の外部 ID の使用](#)


📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_externalidre
latedobjects.html

ソース・オブジェクトのフィルター処理

Cast Iron® Express® のフィルター処理機能を使用すると、「統合」ページに表示されるフィールド値に基づいて、ソース・アプリケーションから統合に渡されるレコードを制御できます。

このタスクでは、「統合」ページを使用して、ソース・アプリケーションから取得されるデータについての検索基準を指定できます。「統合」ページの「ソース」領域にある各フィールドのすぐ横にフィルター・アイコン  が表示されています。

フィルター・アイコンをクリックすると、ポップアップ・ウィンドウが表示されます。ここで、統合によって処理されるデータを制御するパラメーターを設定できます。1つのソース・フィールドで1つまたは複数のフィルターを指定できます。例えば、現在の販売注文をすべて取得する代わりに、発注額が特定の金額を超え、かつ発注元が他国である注文のみを取得できます。

手順

1. ソース・オブジェクトをフィルター処理するには、「統合」ページの「ソース」領域にあるオブジェクトをクリックします。ソース・オブジェクトに関連するフィールドのリストが表示されます。
2. ソース・フィールドのリストで、フィルター処理するフィールドを見つけ、その横にあるフィルター・アイコンをクリックします。「フィルター」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。「統合」ウィンドウで選択したフィールドが「フィルター」ウィンドウに表示されます。
3. 「フィルター」ウィンドウの「新規フィルターの追加 (Add new filter)」セクションで、ドロップダウン・メニューをクリックし、フィルター処理オプションを選択します。
選択可能なオプションは、以下のとおりです。
 - 等しい
 - 等しくない
 - より小さい
 - より大きい
 - 範囲内である
4. テキスト・フィールドに、フィルター・パラメーターを入力します。
5. 「追加」をクリックします。新規フィルターが「フィルター」ウィンドウの陰影付き領域に表示されます。
6. ソース・フィールドに他のフィルターを追加するには、前のステップを繰り返します。
7. ソース・フィールドに複数のフィルターを適用する方法を制御するには、「突き合わせるフィルター (Match which filters)」ボタンを使用します。ソース・フィールドに任意のフィルター・パラメーターを適用する場合は、「任意 (Any)」をクリックします。ソース・フィールドにすべてのフィルターを適用する場合は、「任意 (Any)」ボタンをクリックして「すべて (All)」に切り替えます。
8. 終了したら、「閉じる」をクリックします。

「統合」ページでソース・フィールドの横にあるフィルター・アイコンが、緑の陰影付きで表示されます。これは、フィルターが定義されていることを示します。

フィルターの変更


「統合」ページを使用して、既存のフィルター設定を変更したり、フィルターを削除したりすることもできます。

手順

1. 「統合」ページでソース・フィールドの横にある緑のフィルター・アイコンをクリックします。「フィルター」ウィンドウが表示されます。
 - a. 特定のフィルターを変更するには、フィルター定義に移動し、「編集」をクリックします。フィルター・パラメーターが表示されます。ドロップダウン・メニューとテキスト・フィールドを使用して、フィルター設定を変更します。終了したら、「保存」をクリックします。
 - b. フィルターを削除するには、削除するフィルターに移動し、その横にある削除アイコンをクリックします。
2. 「閉じる」をクリックして、「統合」ページに戻ります。

変更されたフィルターが「フィルター」ウィンドウの陰影付き領域に表示されます。フィルターを削除した場合は、そのフィルターが「フィルター」ウィンドウから除去され、ソース・フィールドの横にあるフィルター・アイコンの色が緑ではなくなります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_filtering.html

統合のセットアップ

ソースとターゲットのエンドポイントを構成した後で、マッピングを定義できます。統合をセットアップするには、データ型間の暗黙的な変換についての Cast Iron® ガイドラインを理解することが重要です。次に進む前に、このセクションの情報をよく読んでください。

統合エディターを使用してマッピングを定義するときには、ソース・フィールドとターゲット・フィールドのリスト、および2列のアンカー・ポイントが表示されます。これらのアンカー・ポイントを接続することにより、マッピングを定義します。マッピング、有効なデータ型、およびデータ型の変換方法について詳しくは、[マッピングの定義](#)を参照してください。


以下の表は、データ型間の暗黙的キャストについての具体的なガイドラインを示しています。「ソース」列は、マッピング変換で使用されるソース・データを示しています。「ターゲット」列は、派生するターゲットを示しています。「コメント」列では、選択された操作についての必要な追加情報を提供します。

表 1. データ型間のキャストについての Cast Iron Express® ガイドライン

ソース (Source)	ターゲット (Target)	コメント
任意	ストリング	すべてのデータ型がストリングに変換されます。
任意	ブール	「T」、「t」、「true」、「TRUE」、「tRuE」、「1」などは「TRUE」にキャストされます。その他はすべて「FALSE」にキャストされます。
ストリング	数値	「10」または「3.14」などの数値表現を含むストリングを 10 進数型に変換します。 注: ストリングに数値が含まれていないと、ソース・データの処理が失敗します。
ストリング	整数	「10」などの整数の数値表現を含むストリングを整数型に変換します。ストリングに整数の数値が含まれていないと、ソース・データの処理が失敗します。ユーザーは、丸め、切り上げ、または切り捨ての関数を使用して 10 進数ストリングを整数型に変換することにより、この状況を回避できます。
数値	整数	「10」または「3.14」などの 10 進数を整数に変換します。非整数の場合、値は、ユーザーが丸め関数を適用した場合と同じ方法で自動的に変換されます。ユーザーは、丸め、切り上げ、または切り捨ての関数を使用して、より詳細な変換の制御を実施できます。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_settingupintegration.html

マッピングの定義

ソースとターゲットの両方を構成すると、左側にソース・フィールドのリスト、右側にターゲット・フィールドのリスト、および 2 列のアンカーが表示されます。これらのアンカー・ポイントを接続することにより、マッピングを定義します。

各フィールドのすぐ横にアンカー・ポイント ● が表示されます。

アンカー・ポイントを使用してソース・フィールドをターゲット・フィールドにマップするには、フィールド間を接続するワイヤーを描画します。


マッピングは、以下の3つの色のいずれかで表示されます。

緑

ソースとターゲットのデータ型が一致しており、マッピングが有効であることを示します。




アンバー

データ型が異なるが、データ型を自動的に変換できることを示します。例えば、数値データ型をストリングに自動的に変換できます。この場合、警告アイコン  が右側の「結果」列に表示されます。このアイコンをクリックすると、警告の詳細情報が表示されます。



赤

データ型に互換性がないために、ソース・フィールドをターゲット・フィールドにマップできないことを示します。赤のマッピングを含む統合は保存できません。この場合、エラー・アイコン  が右側の「結果」列に表示されます。このアイコンをクリックすると、エラーの詳細情報が表示されます。




手順

ワイヤーを描画するには、選択したソース・アンカーをクリックしてから目的のターゲット・アンカーをクリックするか、またはソース・アンカーをドラッグしてターゲット・アンカーにドロップします。

2つのフィールドを結ぶワイヤーが描画されます。これにより、統合の実行中にソース・システムからデータを受け取ると、ソース・フィールドの値が変更されずにターゲット・フィールドにコピーされます。Cast Iron® Express® では、左側にソース・システムのサンプル・データが表示され、このサンプル・データを使用して右側の「ターゲット結果 (Target Result)」列にマッピング結果が取り込まれます。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)


<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_definingthe_mappings.html

関数の定義

単純なマッピングでは、ソース・フィールドのデータをコピーしてターゲット・フィールドに貼り付けることができます。しかし、場合によっては複雑な変換が必要になります。すべてのマッピングには関数追加アイコンがあります。このアイコンは、関数を定義するときに使用します。

デフォルトでは、Cast Iron® Express® アカウントに登録するときには、この機能は使用不可です。この追加機能を使用するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックし、マッピング関数パッケージを選択します。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。

関数追加アイコン  をクリックすると、追加可能な関数のリストが表示されます。関数は以下のカテゴリー・グループに分かれています。

- スtring
- 算術
- ブール
- 日付
- ユーティリティー

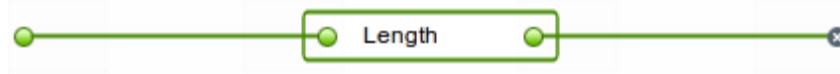
これらの関数について詳しくは、[用語集](#)を参照してください。

手順

必要な関数をクリックします。関数ボックスがマッピングに挿入されます。

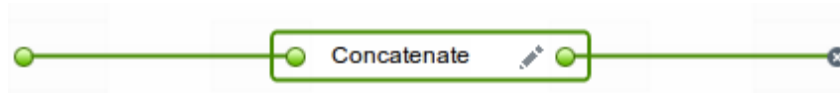
例

以下に、単純なString長関数を示します。

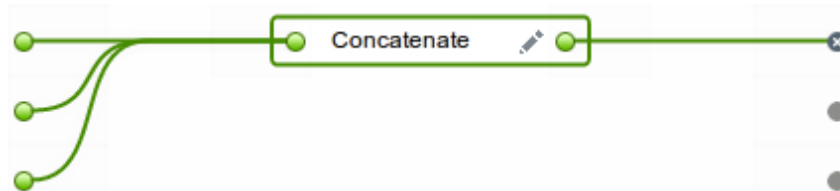



また、右側の「結果」列が更新されて、単純なコピーではなく関数の結果が反映されます。

一部の関数はこれよりも詳細に構成可能であり、複数の入力フィールドを受け入れることができます。例えば、以下の画面キャプチャーは、連結関数を示しています。



以下の画面キャプチャーに示すように、関数の左側のアンカー・ポイントに追加のソース・フィールドを接続できます。



連結関数には構成オプションもあります。この構成オプションを表示するには、編集アイコン  をクリックします。入力の順序を変更したり、連結関数の構成オプション (prefix、defaultDelimiter、postfix など) を指定したりできます。

「適用」をクリックして、変更を保存します。右側の「ターゲット結果 (Target Results)」列が更新されます。

制約事項: 結果が長すぎて画面に表示できない場合は、結果の一部が切り捨てられます。一部が切り捨てられている結果をクリックすると、ツールチップに完全な結果が表示されます。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_DefiningTheFunctions.html





関数の構成

特定の要件を満たすように関数を構成できます。これを行うには、ソース・フィールドおよびパラメーターを編集して、ソースを追加または削除したり、ソースの表示順序を変更したりします。

デフォルトでは、Cast Iron® Express® アカウントに登録するときには、この機能は使用不可です。この追加機能を使用するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックし、マッピング関数パッケージを選択します。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。

連結およびその他の関数の構成オプションを指定するには、以下のステップを実行します。


手順

1. 「統合」 ページで、編集する統合をクリックします。統合が統合エディターに表示され、以前に選択したフィールドが「変換」ビューに示されます。
2. 「変換」ビューで、ソース・オブジェクト・フィールド上のアンカー・ポイントをクリックしてから、ターゲット・オブジェクト上のフィールドをクリックして、フィールドをマップします。関数追加アイコン  が表示されます。
3. 関数追加アイコン  をクリックして、追加可能な関数のリストを表示します。「関数の構成 (Configure Function)」ポップアップ・ウィンドウが表示され、使用可能な関数のリストが示されます。
4. 「関数の構成 (Configure Function)」ウィンドウで、マッピングに適用する関数をクリックします。関数で追加情報を構成できる場合または追加情報の構成が必須である場合は、編集アイコン  が表示されます。
5. 編集アイコンをクリックします。「ソース・フィールドの編集 (Edit Source Fields)」ウィンドウが表示され、ソース・フィールドおよびパラメーターが示されます。
6. ソース・フィールドを編集するには、「ソース・フィールドの編集 (Edit Source Fields)」ウィンドウで、編集するソース・フィールドを含む行をクリックします。フィールドが強調表示されます。
 - a. ソース・フィールドを削除するには、削除アイコン  をクリックします。
 - b. ソース・フィールドを上または下に移動するには、上矢印または下矢印 (いずれか該当するほう) をクリックします。
7. 終了したら、「適用」をクリックします。
8. 「統合」 ページで、「保存」をクリックして、統合への変更を保存します。

編集内容が保存されます。

複合関数を使用する場合は、[複合関数](#)を参照してください。

親トピック: [統合エディターの使用](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_configuringt
hefunctions.html

複合関数


複合関数とは、1つの関数の出力が後続の関数への入力としてチェーンされるように、2つの別個の関数を組み合わせた関数です。以下のトピックでは、複合関数の作成、編集、または削除について説明します。

デフォルトでは、Cast Iron® Express® アカウントに登録するときには、この機能は使用不可です。この追加機能を使用するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックし、[マッピング関数パッケージ](#)を選択します。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。

- [複合関数での作業](#)

既存の複合関数に関数を追加したり、複合関数内で順序を変更したり、関数を削除したりすることができます。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_compositefu
nctions.html

複合関数での作業



既存の複合関数に関数を追加したり、複合関数内で順序を変更したり、関数を削除したりすることができます。

デフォルトでは、Cast Iron® Express® アカウントに登録するときには、この機能は使用不可です。この追加機能を使用するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックし、[マッピング関数パッケージ](#)を選択します。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。

既存の複合関数に関数を追加するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「統合」ページで、編集する統合をクリックします。統合が統合エディターに表示され、以前に選択したフィールドが「変換」ビューに示されます。

2. 「変換」ビューで、ソース・オブジェクト上のフィールドのアンカー・ポイントをクリックしてから、ターゲット・オブジェクト上のフィールドのアンカー・ポイントをクリックします。関数追加アイコン  が表示されます。
3. 関数追加アイコンをクリックして、追加可能な関数のリストを表示します。「関数の構成 (Configure Function)」ポップアップ・ウィンドウが表示され、使用可能な関数のリストが示されます。
4. 「関数の構成 (Configure Function)」ウィンドウで、マッピングに適用する関数をクリックします。関数を編集できる場合または関数での追加情報の構成が必須である場合は、編集アイコン  が関数の横に表示されます。
5. 編集アイコンをクリックします。「複合の編集 (Edit Composites)」、「ソース・フィールドの編集 (Edit Source Fields)」、および「パラメーターの編集 (Edit Parameters)」の各ウィンドウ・セクションを含むポップアップ・ウィンドウが表示されます。

注:

 - 「複合の編集 (Edit Composites)」ウィンドウ・セクションには、使用可能な複合関数が表示されます。
 - 「ソース・フィールドの編集 (Edit Source Fields)」ウィンドウ・セクションでは、最初の複合関数へのソース (入力) を定義します。
 - 「パラメーターの編集 (Edit Parameters)」ウィンドウ・セクションには、「複合の編集 (Edit Composites)」セクションで選択した複合関数の構成済みパラメーターが表示されます。
6. 「複合の編集 (Edit Composites)」ウィンドウ・セクションで、「連結」をクリックします。ドロップダウン・メニューが表示され、使用可能な連結関数パラメーターのリストが示されます。
7. ドロップダウン・メニューからパラメーターを選択します。選択内容に基づいてウィンドウが更新されます。
8. 「適用」をクリックします。複合関数が更新されます。
9. 「統合」ページで、「保存」をクリックして統合を保存します。

新規の関数によって複合関数が更新されます。

注: 後続の関数は単一の入力を受け取るため、2つ以上の入力を必要とする関数を後続の複合関数として選択することはできません。また、複合関数の内部に複合関数を作成することはできないため、これはオプションとして表示されません。



親トピック: [複合関数](#)

複合関数の編集

複合関数を編集して、関数を移動または削除したり、関数の順序を変更したりすることもできます。

複合関数を削除または移動するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「統合」ページで、編集する統合をクリックします。統合が統合エディターに表示され、以前に選択したフィールドが「変換」ビューに示されます。
2. 「変換」ビューで、ソース・オブジェクト上のフィールドのアンカー・ポイントをクリックしてから、ターゲット・オブジェクト上のフィールドのアンカー・ポイントをクリックします。関数追加アイコン  が表示されます。
3. 関数追加アイコンをクリックします。「関数の構成 (Configure Function)」ウィンドウが表示され、使用可能な関数のリストが示されます。
4. 「関数の構成 (Configure Function)」ウィンドウで、マッピングに適用する関数をクリックします。関数を編集できる場合または関数での追加情報の構成が必須である場合は、編集アイコン  が関数の横に表示されます。

5. 編集アイコンをクリックします。「複合の編集 (Edit Composites)」、「ソース・フィールドの編集 (Edit Source Fields)」、および「パラメーターの編集 (Edit Parameters)」の各ウィンドウ・セクションを含むポップアップ・ウィンドウが表示されます。
6. 「ソース・フィールドの編集 (Edit Source Fields)」で、削除または移動する関数を選択します。✕ アイコンを使用して関数を削除するか、上矢印と下矢印を使用して関数を上と下に移動します。関数へのソース (入力) が変更されるか、その新規の位置に移動されます。
7. 終了したら、「適用」をクリックします。
8. 「統合」ページで、「保存」をクリックして統合を保存します。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_workingwith_composites.html

関数のリスト

Cast Iron® Express® は、マッピング内で使用するための各種の関数を提供します。これらの関数は、マップされるフィールド値を操作するために使用できます (ストリングの内容を変更する、数値演算を実行する、日時の値を操作する、など)。

デフォルトでは、Cast Iron Express アカウントに登録するときには、この機能は使用不可です。この追加機能を使用するには、「アドオン (Add-ons)」をクリックし、マッピング関数パッケージを選択します。詳しくは、[Express アカウントへの機能の追加](#)を参照してください。

表 1. ストリング関数. (この表は、ストリング関数とその説明を示しています)

マッピング関数	説明
連結	2 つ以上の引数を受け入れ、それらをストリングにキャストします。変換した後で、それらの引数の値を連結したストリングを返します。ユーザーは、接頭部または接尾部 (あるいはその両方) のストリング、および各引数の間に挿入される区切り文字を構成することもできます。
長さ	引数の値の長さ (文字数) に等しい整数を返します。引数の値が空シーケンスである場合は、整数 0 が返されます。
小文字	Unicode 標準内の該当する大/小文字マッピング・セクションでの定義に従って、すべての文字をそれに対応する小文字に変換した後で、引数の値を返します。

マッピング関数	説明
大文字	Unicode 標準内の該当する大/小文字マッピング・セクションでの定義に従って、すべての文字をそれに対応する大文字に変換した後で、引数の値を返します。
置換	入力に含まれる相互に重複しない各サブストリングが、指定されたパターンと一致する場合、そのサブストリングを置き換えストリングと置換して、その結果として得られたストリングを返します。
以下で始まる	最初の引数の値が 2 番目の引数の値で始まるかどうかを示すブール値の結果を返します。
ストリング	ストリングとして表された引数の値を返します。この値は、マッピングで警告が表示されないように、数値データ型をストリングにキャストするために使用できます。
サブストリング	最初の引数の値のうち、2 番目の引数の値で示される位置で開始される、3 番目の引数の値で示される文字数に相当する長さの部分を返します。サブストリングの場合、関数への「入力」となるフィールドは 1 つのみです。しかし、関数の場合は、関数ダイアログ・ウィンドウで開始索引と長さの値が構成されます。既存のテキスト（およびその他のすべての説明）で、引数はどちらの場合にも使用されます。
トリム	先頭および末尾の空白文字を除去し、1 つ以上の空白文字から成るシーケンスをシングル・スペースに置き換えることによって、正規化された空白文字を含む引数の値を返します。

表 2. 数学関数. (この表は、数学関数とその説明を示しています)

マッピング関数	説明
絶対値	符号を含まない数値 (またはモジュラス) を返します。
平均	入力シーケンス内の値の平均 (つまり、値の合計を値の個数で除算した結果) を返します。
切り上げ	X より小さくない最小の整数を返します。
除算	最初の引数を 2 番目の引数で除算した結果値を返します。

マッピング関数	説明
切り捨て	X より大きくない最大の整数を返します。
形式	<p>数値形式関数は、2 番目の引数で指定された形式パターン・ストリングおよび 3 番目の引数で指定された 10 進形式 (3 番目の引数がない場合はデフォルトの 10 進形式) を使用して、最初の引数をストリングに変換します。</p> <p>2 番目のパラメーターの形式指定オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 - 数字 • # - 数字 (数字がない場合はゼロが表示されます) • . - 小数点の位置。例: ###.## • , - 千単位のグループ分離文字。例: ###,###.## • % - 数値をパーセンテージとして表示します。例: ##% • ; - パターン分離文字。最初のパターンは正の数値用に、2 番目のパターンは負の数値用に使用されます。 <p>3 番目のパラメーターの 10 進形式は、数値のローカリゼーションに役立ちます。以下のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 - 数字 • # - 数字 (数字がない場合はゼロが表示されます) • . - 小数点または通貨の小数点 • - - 負符号 • , - グループ分離文字 • E - 浮動小数で小数部と指数を分離します。接頭部でも接尾部でも引用符を付ける必要はありません。 • ; - 正および負のサブパターンを分離します。 • % - 100 で乗算し、パーセンテージとして表示します。 • ¥u2030 - 1000 で乗算し、千分率値として表示します。 • ¥ (¥u00A4) - 通貨符号。通貨記号によって置き換えられます。この符合が 2 つ連続している場合は、国際通貨記号によって置き換えられます。このオプションをパターン内で使用すると、標準の小数点の代わりに通貨の小数点が使用されます。 • ' - 接頭部または接尾部に特殊文字を引用するために使用されます。例えば、'#'# を指定すると、123 は #123 という形式で表示されます。単一引用符自体を作成するには、# o'clock のように 2 つ連続して使用します。
最大	引数として渡されたノードの最大値を返します。
最小	引数として渡されたノードの最小値を返します。
モジュロ	モジュラス (最初の引数を 2 番目の引数で除算した余りの値) を返します。
乗算	すべての引数を乗算した値を返します。
数値	引数を 10 進数に変換します。
丸め	引数に最も近く、小数部分を含まない数値を返します。このような数値が 2 つある場合は、正の無限大に近い方の数値が返されます。

マッピング関数	説明
減算	最初の引数から 2 番目の引数を減算した値を返します。
合計	引数の値を加算して得られた値を返します。

表 3. ブール関数. (この表は、ブール関数とその説明を示しています)

マッピング関数	説明
ブール	引数の有効なブール値を計算します。
逆	有効なブール値が false である場合は true を、有効なブール値が true である場合は false を返します。

表 4. 日付関数. (この表は、日付関数とその説明を示しています)

マッピング関数	説明
日時 (日付)	最初の引数は日付形式である必要があります。2 番目の引数は時刻形式です。その結果、引数から、日付と時刻の両方を示す DateTime 形式が生成されます。
日付からストリング (日付)	<p>2 番目の引数は日時の形式を示すストリングです。以下のキー文字が日時の各部分によって置き換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • yy - 年の最後の 2 桁。例えば、1986 年の場合は 86 です。 • MM - 2 桁の月 • dd - 2 桁の日 • HH - 2 桁の時 • mm - 2 桁の分 • ss - 2 桁の秒 <p>例えば、Format Date String 関数が次の入力パラメーターを使用して呼び出されたとします。</p> <p>dateTime: 2012-02-22T16:18:00.852-08:00</p> <p>形式ストリング: MM/dd/yyyy</p> <p>ロケール・ストリング: en_US</p> <p>ストリング 02/22/2012 が返されます。</p> <p>「日付からストリング」関数について詳しくは、Studio ヘルプ・セクションの Format Date String のトピックを参照してください。</p>
タイム・ゾーン調整 (日付)	<p>特定のタイム・ゾーンを維持するように TimeDate を変換します。または、none に指定します。適用されるタイム・ゾーンは 2 番目の引数です。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • -10H - マイナス 10 時間のタイム・ゾーン • +5H30M - プラス 5 時間 30 分のタイム・ゾーン • 0H - 0 時間のタイム・ゾーン


表 5. ユーティリティー関数. (この表は、ユー

ティリティー関数とその説明を示しています)
す)

マッピング関数	説明
複合	一連の関数をチェーニングします。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/Integrations_ListOfFunctions.html

統合の管理

Cast Iron® Express® の「統合」ページには、1つのアカウントで定義されているすべての統合のリストが表示されます。

このリストには、各統合の名前、統合の最終更新日時、および最終変更を行ったユーザーのサインイン名が表示されます。

統合の現在の状況も表示されます。


- 実行中: 統合は、停止されるまで継続的に実行されます。
- 停止済み: デフォルトでは、統合が定義されたときの状況は停止済みです。統合を実行するには、「停止済み」をクリックする必要があります。統合の状況が停止済みとして表示されている場合、ターゲット・システムへの更新は行われません。

削除アイコンをクリックして、統合を削除できます。アクションが実行される前にメッセージが表示されるので、削除を確認する必要があります。

- [統合の変更](#)
統合は、「統合」ページのリストで統合の名前をクリックすることにより、いつでも変更することができます。
- [統合の削除](#)
「統合」ページからいつでも統合を削除できます。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

統合の変更

統合は、「統合」ページのリストで統合の名前をクリックすることにより、いつでも変更することができます。

統合エディターには、最後に保存されたときの状態で統合が表示されます。統合の構成(ソース・システム・タイプとターゲット・システム・タイプを除く)を変更できます。

ユーザーは以下の内容を変更できます。

- ソース・システムまたはターゲット・システムの統合の接続詳細の名前。
- ソース・システムとターゲット・システムの接続に使用される操作。
- 統合と対話するオブジェクト。
- 統合で使用されるフィールドのリスト。
- ソース・システムとターゲット・システム間の変換。

終了したら、「保存」をクリックします。統合が実行中の状態になっている場合は、最初に停止されてから、更新および再始動されます。

親トピック: [統合の管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)


 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_ModifyingIntegrations.html

統合の削除

「統合」ページからいつでも統合を削除できます。

手順

1. 「削除」アイコン  をクリックします。
2. 「OK」をクリックします。統合が実行中の状態になっている場合は、統合が停止されてから削除されます。

親トピック: [統合の管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_DeletingIntegrations.html

統合アクティビティのモニター

Cast Iron® Express® の「アクティビティ」ページを使用して、アカウント内のすべてのアクティビティの詳細を表示できます。

「アクティビティ」ページには、以下に示すさまざまなタイプのイベントが表示されます。

- 統合の作成、変更、および削除。
- 統合によって実行されたジョブ。ジョブは、ソース・システムから送信されるデータの単一インスタンスであり、変換されてターゲット・システムにプッシュされます。
- アカウントでの潜在的な問題の詳細を示すアラート。例えば、実行中の統合に対してセキュア・コネクタが使用できない場合は、ジョブを実行する前にセキュア・コネクタを開始する必要があることを示すアラートが表示されます。

アクティビティ・フィードをフィルター処理するには、ページの上にある 3 つのボタンをクリックします。オプションは、以下のとおりです。

- すべてのアクティビティ: すべてのタイプのアクティビティ・メッセージを 1 つのリストに表示します。
- 統合アクティビティ: システムで実行中のジョブに関連するアクティビティ・メッセージだけを表示します。
- アラート: ユーザーの介入が必要な警告とエラーだけを表示します。

「アクティビティ」ページには、最新のメッセージが最初に表示されます。

最新情報を表示するために、このリストは、「アクティビティ」ページが開かれるたびに自動的に更新され、バックグラウンドでも 60 秒ごとに自動的に更新されます。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_MonitoringIntegrationActivity.html

使用状況グラフ

使用状況グラフを使用すると、特定のテナントで最もアクティブな統合およびエンドポイントを素早く識別できます。ジョブの成功と失敗の要約および統合アクティビティの詳細が、月単位および年単位のグラフに表示されます。

「統合」 ページから、グラフ・アイコン



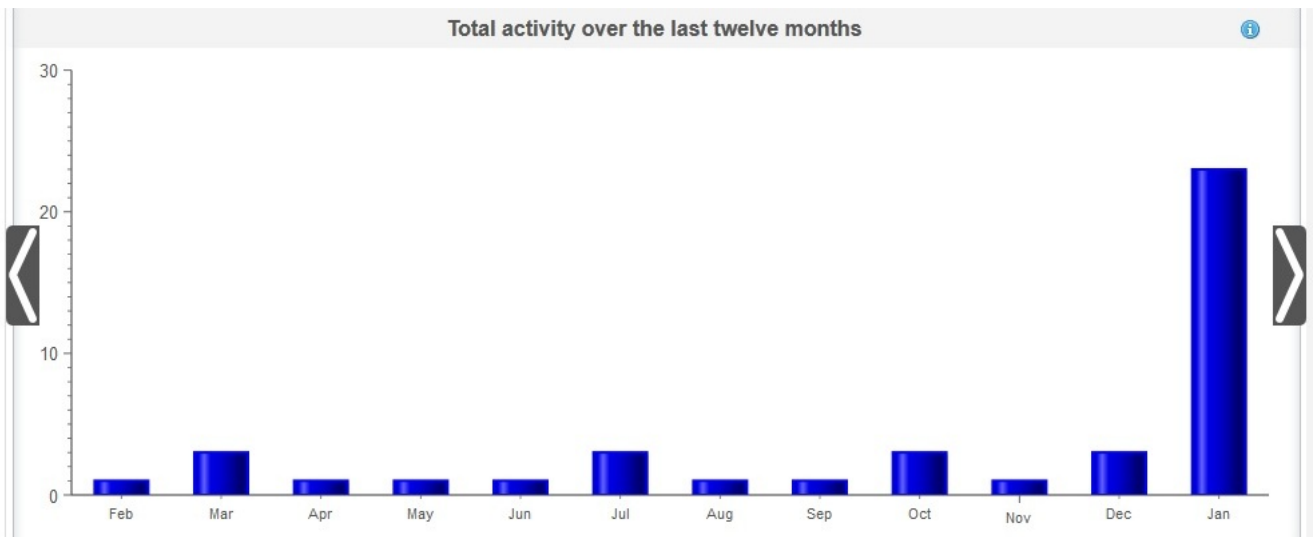
をクリックして、グラフ表示を開きます。使用状況グラフ表示を閉じるには、グラフ・アイコンを再びクリックします。

左矢印および右矢印を使用して、以下のさまざまな使用状況グラフをスクロールします。

- 過去 30 日間の最もアクティブな統合の上位 (Top most active integrations over the last thirty days)
- 過去 30 日間の最もアクティブなエンドポイントの上位 (Top most active endpoints over the last thirty days)
- 過去 12 カ月間の合計アクティビティー (Total activity over the last twelve months)

使用状況グラフに表示される情報は、60 秒ごとに最新表示されます。

以下の画面キャプチャーは、「過去 12 カ月間の合計アクティビティー (Total activity over the last twelve months)」グラフの例を示しています。



過去 30 日間の最もアクティブな統合の上位 (Top most active integrations over the last thirty days)

このグラフは、過去 30 日間に最も多くのジョブを処理した統合についてのデータを提供します。グラフには、上位 10 個の統合がアクティビティーの程度に基づいて降順で表示されます。つまり、最もアクティブな統合がグラフの先頭に、最も非アクティブな統合がグラフの末尾に表示されます。さらにグラフには、上位 10 個のそれぞれの統合について、成功したジョブの総数 (緑のバーで表されます) と失敗したジョブの総数 (赤のバーで表されます) の明細が表示されます。より詳細なジョブ情報を表示するには、緑のバーまたは赤のバーをクリックします。

過去 30 日間の最もアクティブなエンドポイントの上位 (Top most active endpoints over the last thirty days)

このグラフは、過去 30 日間に最も多くのジョブを処理したエンドポイントについてのデータを提供します。最もアクティブなエンドポイントがグラフの先頭に表示されます。さらにグラフには、それぞれのエンドポイン


トについて、成功したジョブの総数 (緑のバーで表されます) と失敗したジョブの総数 (赤のバーで表されます) の明細が表示されます。より詳細なジョブ情報を表示するには、緑のバーまたは赤のバーをクリックします。

過去 12 カ月間の合計アクティビティ (Total activity over the last twelve months)

このグラフは、特定のテナントで過去 12 カ月間に実行されたすべての統合アクティビティの概要を提供します。過去 12 カ月間に実行されたすべての統合アクティビティが月単位の間隔で表示されます。その月に成功した呼び出しおよび失敗した呼び出しの明細についての詳細を取得するには、特定のバーをクリックします。

親トピック: [Cast Iron Express との統合](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/integrations_utilizationcharts.html

チュートリアル

以下のチュートリアルでは、統合を作成する方法の例について説明します。この情報を使用して、Cast Iron® Express® アカウント内で統合を素早く作成できます。

- [チュートリアル: ローカル・ファイルから salesforce.com への統合の作成](#)
IBM® Cast Iron Express を使用して、統合を作成および実行することができます。このチュートリアルでは、ローカル・ファイルから salesforce.com への統合を作成する方法について説明します。1 回の操作で、統合を素早く定義し、データをアップロードすることができます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/tutorials.html>

チュートリアル: ローカル・ファイルから salesforce.com への統合の作成

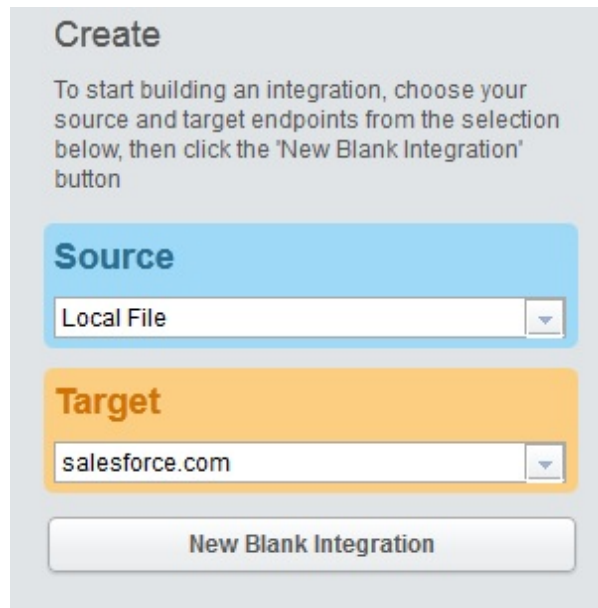
IBM® Cast Iron® Express® を使用して、統合を作成および実行することができます。このチュートリアルでは、ローカル・ファイルから salesforce.com への統合を作成する方法について説明します。1 回の操作で、統合を素早く定義し、データをアップロードすることができます。

ステップ 1: 統合の作成

Cast Iron Express にサインインした後で、「統合」をクリックします。「統合」ビューが開きます。ソースおよびターゲットのエンドポイントを選択して、統合を作成します。

ヒント: 統合を作成および定義するときには、一定の時間間隔ごとに「保存」をクリックすることをお勧めします。こうすると、Web ブラウザーで問題が発生した場合またはアクティビティーがない状態が続いたために Cast Iron Express からサインアウトされた場合でも、作業内容が失われることはありません。

このチュートリアルでは、ソースとして「ローカル・ファイル」、ターゲットとして「salesforce.com」を選択します。



Create

To start building an integration, choose your source and target endpoints from the selection below, then click the 'New Blank Integration' button

Source

Local File

Target

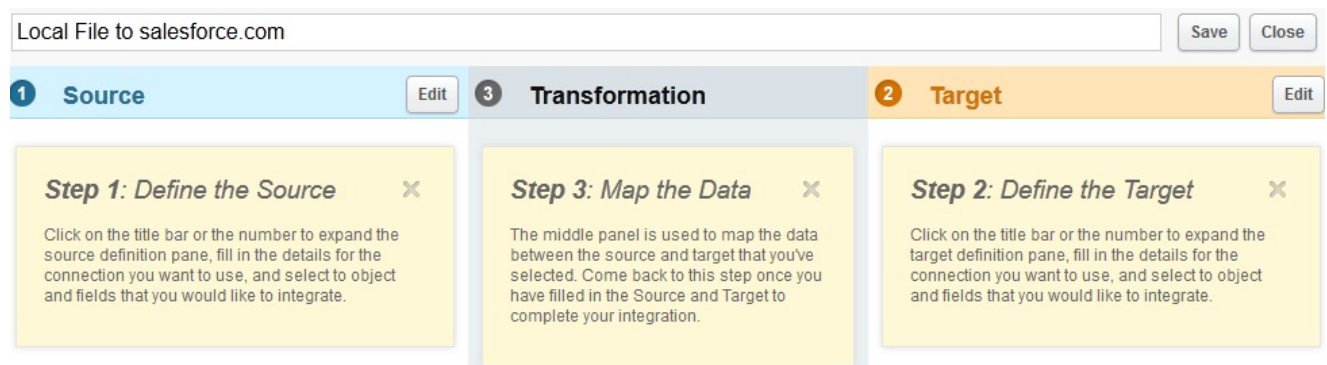
salesforce.com

New Blank Integration

ターゲット選択の下に表示される「新規空白統合」をクリックします。

統合の概略が表示されます。ここで、「ソース」、「変換」、および「ターゲット」を定義する必要があります。数字は統合定義の順序を示しています。

1. ソース・エンドポイントの定義
2. ターゲット・エンドポイントの定義
3. ソース・エンドポイントからターゲット・エンドポイントへのデータ・パスのマッピングによる、変換の定義



Local File to salesforce.com Save Close

1 Source Edit **3 Transformation** **2 Target** Edit

Step 1: Define the Source ✕

Click on the title bar or the number to expand the source definition pane, fill in the details for the connection you want to use, and select to object and fields that you would like to integrate.

Step 3: Map the Data ✕

The middle panel is used to map the data between the source and target that you've selected. Come back to this step once you have filled in the Source and Target to complete your integration.

Step 2: Define the Target ✕

Click on the title bar or the number to expand the target definition pane, fill in the details for the connection you want to use, and select to object and fields that you would like to integrate.

ステップ 2: エンドポイントの構成

「ソース」ヘッダーで、「編集」をクリックします。

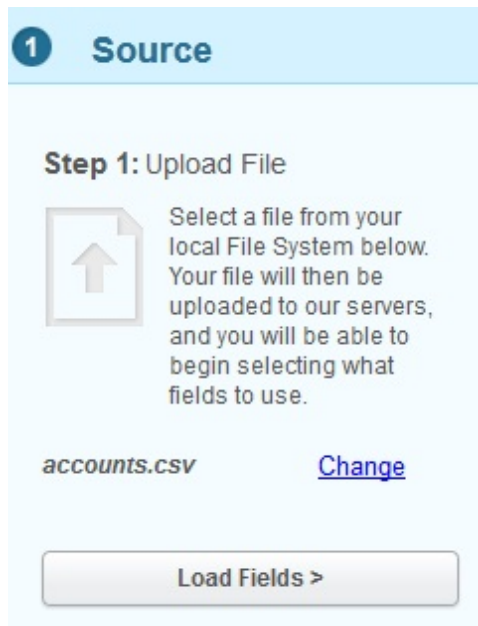
ソース・エンドポイント構成ビューが開きます。

「ファイルの選択 (Select File)」をクリックし、データをアップロードするソースになるローカル・ファイルを選択します。このファイルの内容は、区切り文字で区切られている必要があります。

このチュートリアルでは、*accounts.csv* という名前のファイルを使用します。

このファイルには、アカウント情報が格納され、ファイル内の各アカウント・レコードを一意的に識別する「id」と呼ばれるフィールドが含まれています。使用する *accounts.csv* ファイルの内容を以下に示します。

```
id,name,streetAddress,city,postcode,phoneNumber
0,AcmeCo,10 Downing Street,London,SW1A 2AA,02012345678
1,MyOtherCompany,221b Baker Street,London,SW2B 3FG,020654321
```



別のファイルを選択する場合は、「変更」をクリックします。

「フィールドのロード (Load Fields)」をクリックし、選択されたファイルについて自動的に生成された詳細を検証します。例えば、ファイル内で使用された区切り文字を確認します。


このチュートリアルでは、*accounts.csv* ファイルで、区切り文字としてコンマを使用します。また、残りのフィールドはデフォルト値のままにしておくことができます。

Local File to salesforce.com Save

1 Source Done

Step 1: Upload File

Select a file from your local File System below. Your file will then be uploaded to our servers, and you will be able to begin selecting what fields to use.

 [accounts.csv](#) [Change](#)

Load Fields >

Available Fields

Separator character * File has header row

Quote character Number of footer rows


Continue

「続行」をクリックして、選択されたファイル内のすべての使用可能なフィールドを表示します。

1 Source Done

Step 1: Upload File

Select a file from your local File System below. Your file will then be uploaded to our servers, and you will be able to begin selecting what fields to use.

 [accounts.csv](#) [Change](#)

Load Fields >

Available Fields Select All | Clear All

Separator character * File has header row

Quote character Number of footer rows

Continue

Field	Type	Sample Data
...	Record	...
<input checked="" type="checkbox"/> id	string	0
<input checked="" type="checkbox"/> name	string	AcmeCo
<input checked="" type="checkbox"/> streetAddress	string	10 Downing Street
<input checked="" type="checkbox"/> city	string	London
<input checked="" type="checkbox"/> postcode	string	SW1A2AA
<input checked="" type="checkbox"/> phoneNumber	string	02012345678

データをアップロードするソースになるフィールドを選択します。デフォルトでは、すべてのフィールドが選択されています。

このチュートリアルでは、選択されたフィールドをすべて使用します。

終了したら、「完了」をクリックします。

この統合のソース・エンドポイントが定義されます。

統合の概要に戻ると、選択されたソース・フィールドが表示されています。

Local File to salesforce.com Save Close

Source			3 Transformation		2 Target	
Field	Type	Sample				
File		...	Step 3: Map the Data ✕ The middle panel is used to map the data between the source and target that you've selected. Come back to this step once you have filled in the Source and Target to complete your integration.		Step 2: Define the Target ✕ Click on the title bar or the number to expand the target definition pane, fill in the details for the connection you want to use, and select to object and fields that you would like to integrate.	
Record		...				
id	xy	0				
name	xy	AcmeCo				
streetAddress	xy	10				
city	xy	London				
postcode	xy	SW1A 2AA				
phoneNumber	xy	0201234				

次に、ターゲット・エンドポイントを定義できます。

「ターゲット」ヘッダーで、「編集」をクリックします。salesforce.com にサインインするために必要な資格情報を入力します。

これらの資格情報の妥当性検査が行われ、資格情報が正しい場合は salesforce.com アカウントにサインインできます。統合内で使用可能なビジネス・オブジェクトがリストされています。

このチュートリアルでは、オブジェクトのリストから、「Account」を選択します。「Account」オブジェクトの説明が「使用可能なフィールド」セクションに表示され、「Account」オブジェクトのすべてのフィールドが示されます。

注: 関心があり、ローカル・ファイルからのデータをロードしたいフィールドを選択できます。オブジェクト全体を統合する必要はなく、統合定義のために必要なフィールドのみを選択できます。

「操作」オプションを使用して、統合のために必要なデータ操作のコンテキストを指定します。

このチュートリアルでは、操作として「オブジェクトの更新」を選択します。統合の実行中、salesforce.com で選択された「Account」フィールドが自動的に更新されます。

以下の画面キャプチャーに示すように、必要な「Account」フィールドを選択します。

2 Target

Existing Connections:

Operations: Update objects

Connection information

Name *

Username *

Password *

Security token *

Available Objects

- Account
- AccountContactRole
- AccountFeed
- AccountHistory
- AccountPartner
- AccountShare
- ActivityHistory
- AdditionalNumber
- AggregateResult
- ApexClass
- ApexComponent
- ApexLog
- ApexPage
- ApexTrigger
- Approval
- Asset
- AssetFeed
- AssignmentRule
- AsyncApexJob
- Attachment
- BrandTemplate
- BusinessHours

Available Fields Select All | Clear All

Field	Type
<input checked="" type="checkbox"/> Id *	tns:ID
<input type="checkbox"/> IsDeleted	xsd:boolean
<input type="checkbox"/> MasterRecordId	SalesForce.c... <i>i</i>
<input checked="" type="checkbox"/> Name	xsd:string
<input type="checkbox"/> Type	xsd:string
<input type="checkbox"/> ParentId	SalesForce.c... <i>i</i>
<input checked="" type="checkbox"/> BillingStreet	xsd:string
<input checked="" type="checkbox"/> BillingCity	xsd:string
<input type="checkbox"/> BillingState	xsd:string
<input checked="" type="checkbox"/> BillingPostalCode	xsd:string
<input type="checkbox"/> BillingCountry	xsd:string
<input type="checkbox"/> ShippingStreet	xsd:string
<input type="checkbox"/> ShippingCity	xsd:string
<input type="checkbox"/> ShippingState	xsd:string
<input type="checkbox"/> ShippingPostalCode	xsd:string
<input type="checkbox"/> ShippingCountry	xsd:string
<input checked="" type="checkbox"/> Phone	xsd:string

完了したら、「完了」をクリックします。

この統合のターゲット・エンドポイントが定義されます。

統合の概要に戻ります。統合は、salesforce.com で選択されたターゲット・フィールドによって更新されています。

Local File to salesforce.com

Source				Transformation		Target		
Field	Type	Sample			Field	Type	Result	
File		...			Account			
Record		...			Account			
id	xy	0	⇄	●	Id *	xy	[↗]	
name	xy	AcmeCo	⇄	●	Name	xy	[↗]	
streetAddress	xy	10	⇄	●	BillingStreet	xy	[↗]	
city	xy	London	⇄	●	BillingCity	xy	[↗]	
postcode	xy	SW1A2AA	⇄	●	BillingPostalCode	xy	[↗]	
phoneNumber	xy	02012345	⇄	●	Phone	xy	[↗]	

統合の概要で、マップの準備が整ったソース・フィールドおよびターゲット・フィールドの両方を確認できます。

ステップ 3: 変換の定義

統合を完了するには、ソースからターゲットにフィールドをマップする必要があります。

必要に応じて、ソース・フィールドとターゲット・フィールドを接続します。各ソース・フィールドで、アンカー・ポイントをクリックしてから、対応するターゲット・フィールドのアンカー・ポイントをクリックします。

このチュートリアルでは、以下の画面キャプチャーに示すように、ソース・フィールドからターゲット・フィールドにデータをマップします。データに対する関数を定義する必要はありません。

The screenshot shows a configuration window titled "Local File to salesforce.com" with "Save" and "Close" buttons. It features three main sections: "Source", "Transformation", and "Target".

Source				Transformation		Target		
Field	Type	Sample				Field	Type	Result
File		...				Account		
Record		...				Account		
id	xy	0	⇄	+	⊗	Id *	xy	0 [↕]
name	xy	AcmeCo	⇄	+	⊗	Name	xy	Acm... [↕]
streetAddress	xy	10	⇄	+	⊗	BillingStreet	xy	10 ... [↕]
city	xy	London	⇄	+	⊗	BillingCity	xy	Lon... [↕]
postcode	xy	SW1A 2AA	⇄	+	⊗	BillingPostalCode	xy	SW... [↕]
phoneNumber	xy	02012345	⇄	+	⊗	Phone	xy	020... [↕]

関数およびさらに複雑な変換の定義は、変換に関するチュートリアルで扱います。

統合を表す分かりやすい名前を入力します。例えば、「ローカル・ファイル・アカウントから salesforce.com アカウント」と入力します。

The screenshot shows a text input field containing the name "Local File Accounts to salesforce.com Account" and "Save" and "Close" buttons.

「保存」をクリックして、定義が完了した統合を保存します。その後、「閉じる」をクリックして、「統合」ビューに戻ります。

「統合」ビューには、すべての定義された統合とそれらの現在の状態がリストされています。

Integrations

Name	Updated	Status	Actions
Local File Accounts to salesforce.com Account LOCAL FILE SALESFORCE.COM	Sep 11, 2012 12:41:37 PM by admin@CompanyName	Stopped	Run accounts.csv Change

ステップ 4: 統合の実行

統合が定義されたので、統合を実行して、ソース・エンドポイントからターゲット・エンドポイントにデータをコピーする必要があります。

作成した統合の右側に表示されている「実行」をクリックします。

統合が実行され、定義されたソース・ローカル・ファイルから定義されたターゲット salesforce.com オブジェクトに、1回の操作でデータがアップロードされます。

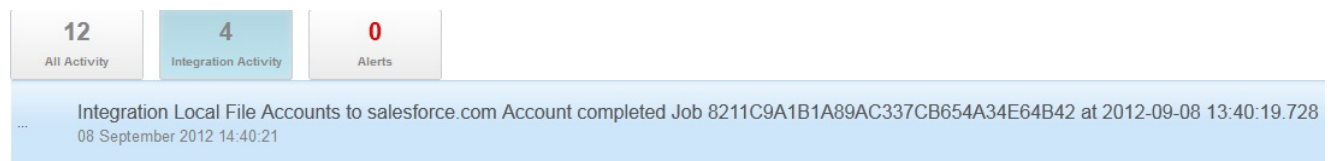
統合の状況が「実行中」に変更されます。

Integrations

Name	Updated	Status	Actions
Local File Accounts to salesforce.com Account LOCAL FILE SALESFORCE.COM	Sep 11, 2012 12:41:37 PM by admin@CompanyName	Running...	Run  accounts.csv Change

「アクティビティ」 > 「統合アクティビティ」をクリックして、最近の Cast Iron Express 統合アクティビティを表示できます。最新のアクティビティがリストの先頭に表示されます。

以下の画面キャプチャーは、このチュートリアルでの実行が完了した統合の詳細を示しています。

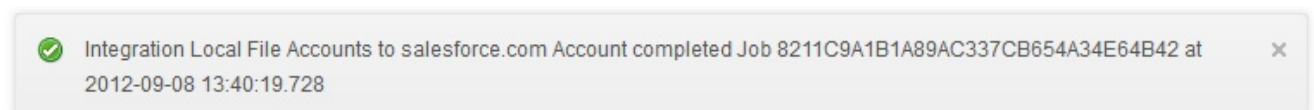


12 All Activity 4 Integration Activity 0 Alerts

Integration Local File Accounts to salesforce.com Account completed Job 8211C9A1B1A89AC337CB654A34E64B42 at 2012-09-08 13:40:19.728
08 September 2012 14:40:21

統合が正常に実行されたかどうかを検証するには、ターゲット・システムに移動し、到着したデータを確認します。


また、統合の実行が完了すると、ビューの下部に、統合が正常に実行されたことを示す通知メッセージが直ちに表示されます。



Integration Local File Accounts to salesforce.com Account completed Job 8211C9A1B1A89AC337CB654A34E64B42 at 2012-09-08 13:40:19.728

親トピック: [チュートリアル](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/tut_creatingalocalfileintegration.html


用語集

この用語集には、Cast Iron® Express® の用語および定義が含まれています。

- [バンドル \(Bundle\)](#)
バンドルは、エンドポイントのコレクションです。

- **接続 (Connection)**
ソースまたはターゲットへの接続を確立するために一緒に使用できるプロパティのセット (DB ユーザー名、パスワード、サーバー、ポートなど)。
- **エンドポイント (Endpoint)**
データベース・サーバー、FTP サーバー、Eメール・システム、エンタープライズ・アプリケーションなどの、外部システムのプロパティを表します。これは、統合アプライアンスのデータ・ソース、または統合アプライアンスの処理ターゲットのいずれかです。
- **フィールド (Field)**
オブジェクト、表、ファイルのプロパティ (コンテキストに応じる)。
- **関数 (Function)**
データ操作のシンプルな XSLT スタイルの関数。例えば、move、concat、not、max です。
- **統合 (Integration)**
Cast Iron Express を使用して定義および構成される、処理アクティビティ (データ・マッピング、変換、制御ロジック・アクティビティなど)、エンドポイント、およびデータ型の特定シーケンス。
- **操作 (Operations)**
変換中に使用されたアクション。ソース側では、これらのアクションは過去時制 (作成済み、更新済み、削除済み、アップサート済みなど) になります。ターゲット側では、これらのアクションは能動態 (作成、更新、削除、アップサートなど) になります。
- **ソース (Source)**
元となるエンドポイント。統合の左側に配置されます。
- **ターゲット (Target)**
ターゲットのエンドポイント。統合の右側に配置されます。
- **変換 (Transformation)**
ソース・フォーマットからターゲット・フォーマットに未完了データを変換するプロセスの定義。これには、ルックアップ、フィルター処理、および関数が含まれる場合と含まれない場合があります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary.html>

バンドル (Bundle)

バンドルは、エンドポイントのコレクションです。

親トピック: [用語集](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

接続 (Connection)

ソースまたはターゲットへの接続を確立するために一緒に使用できるプロパティのセット (DB ユーザー名、パスワード、サーバー、ポートなど)。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_connection.html

エンドポイント (Endpoint)

データベース・サーバー、FTP サーバー、E メール・システム、エンタープライズ・アプリケーションなどの、外部システムのプロパティを表します。これは、統合アプライアンスのデータ・ソース、または統合アプライアンスの処理ターゲットのいずれかです。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_endpoint.html

フィールド (Field)

オブジェクト、表、ファイルのプロパティ (コンテキストに応じる)。

- 表のフィールドは列名
- オブジェクトのフィールドはオブジェクトのプロパティ名

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🏠 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_fields.html

関数 (Function)

データ操作のシンプルな XSLT スタイルの関数。例えば、move、concat、not、max です。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🏠 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_functions.html

統合 (Integration)

Cast Iron® Express® を使用して定義および構成される、処理アクティビティ (データ・マッピング、変換、制御ロジック・アクティビティなど)、エンドポイント、およびデータ型の特定シーケンス。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🏠 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_integration.html

操作 (Operations)

変換中に使用されたアクション。ソース側では、これらのアクションは過去時制 (作成済み、更新済み、削除済み、アップサート済みなど) になります。ターゲット側では、これらのアクションは能動態 (作成、更新、削除、アップサートなど) になります。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_operations.html

ソース (Source)

元となるエンドポイント。統合の左側に配置されます。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_source.html

ターゲット (Target)

ターゲットのエンドポイント。統合の右側に配置されます。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_target.html

変換 (Transformation)

ソース・フォーマットからターゲット・フォーマットに未完了データを変換するプロセスの定義。これには、ルックアップ、フィルター処理、および関数が含まれる場合と含まれない場合があります。

親トピック: [用語集](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.omniapps.doc/glossary_transformation.html

Cloud について

『Cloud について』のトピックには、IBM® WebSphere® Cast Iron® Cloud に関する一般情報を記載しています。

- [環境ダッシュボードについて](#)
- [Cloud について](#)
- [技術サポートへの連絡](#)
- [管理コンソールのナビゲート](#)
管理コンソールは、統合環境の各種システムとリソースを管理およびモニターできるようにする Web ベースのツールです。この環境は、物理的な統合アプライアンスにすることも、WebSphere Cast Iron Cloud の環境にすることもできます。
- [サポート情報](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/About_the_Cloud/toc_about_the_cloud.html

環境ダッシュボードについて

環境ダッシュボードは、プロジェクト構成とジョブの複数のスナップショット・ビュー、未解決の重大なシステム・エラーのリスト、全体的なプロジェクト構成の要約、およびセキュア・コネクターの状況を提供します。また、ダッシュボードでは、ジョブ・キーによるオーケストレーション・ジョブの検索もできます。「検索」ボックスは、ダッシュボードの「結果」セクションにあります。

「重大なアラート (Critical Alerts)」および「セキュア・コネクターの要約 (Secure Connector Summary)」のビューを展開するには、右上隅にあるアイコンをクリックします。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」の展開ビューを使用するには、ナビゲーション・ペインで「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「結果」の展開ビューを使用するには、ナビゲーション・ペインで「リポジトリ (Repository)」 > 「ジョブ・ログ (Job Log)」を選択します。

ダッシュボードは、マルチ環境クラウドの各環境で使用可能です。ダッシュボードに表示される情報は、各環境に固有のものであります。

親トピック: [Cloud について](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/About_the_Cloud/aboutDashboard.html

Cloud について

IBM® WebSphere® Cast Iron® Cloud (Cloud) 管理者は組織のテナントをプロビジョンし、ユーザーがプロジェクトをデプロイするための複数の環境を作成できます。また、Cloud 管理者は、テナント管理者のユーザー名およびパスワードも提供します。

テナントおよび環境の作成後は、テナント管理者がユーザーとグループを作成し、テナント内の環境を管理します。

クラウド・テナント

IBM WebSphere Cast Iron Cloud (Cloud) は複数の組織 (テナント) をサポートします。各クラウド・テナントは、テナント管理者によって管理されます。テナント管理者は、特定のクラウド・テナント用にユーザーとグループを作成および管理します。

テナント管理者ログインについては、Cast Iron Systems にお問い合わせください。Cast Iron 管理者によるテナントの作成後、ユーザーにテナント管理者ログインおよびクラウド URL が送信されます。

Cloud 環境

Cloud は 1 つのテナントで複数の環境をサポートします。環境により、プロジェクト開発をステージングしたり、プロジェクト開発を分離したりすることができます。

例えば、「開発」環境、「ステージング」環境、および「実稼働」環境を使用できます。これらの環境は、Cloud Web アプリケーションでタブとして表示されます。テナント管理者ではなく Cloud 管理者が各テナントでこれらの環境を作成しますが、各環境で個別ユーザー/グループに許可を付与するのはテナント管理者です。

注: 一部のコネクターでは、プロジェクトを環境にデプロイするには、サード・パーティーのライブラリーを事前にインストールしておく必要があります。マルチ環境テナントでは、プロジェクトをデプロイする環境にすべての必須ライブラリーがインストールされていることを確認してください。

注: マルチ環境テナントで Studio の「検査」を使用するには、Studio がコネクター・ライブラリーを取得する環境を指定する必要があります。

例えば、SAP ライブラリーが「開発」環境および「実稼働」環境にインストールされているとします。ユーザー・プロファイルで「開発」環境を指定します。SAP プロジェクトで Studio の「検査」を実行すると、Studio は「開発」環境のライブラリーを使用します。その後、プロジェクトを「開発」環境にデプロイするか「実稼働」環境にデプロイするかを選択できます。

Studio の「検査」でコネクター・ライブラリーを取得する環境を指定するには、以下のようにします。

1. コンソールの右上隅にあるユーザー名をクリックします。「ユーザー・プロファイル」ダイアログが表示されます。
2. 「ライブラリー環境の変更 (Change Libraries Environment)」をクリックします。

3. リストからライブラリー環境を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

Studio Cloud

デスクトップ・バージョンの Studio に加え、Cloud から直接 Studio を起動して作業することができます。このクラウド・バージョンの Studio (Studio Cloud) により、プロジェクトをクラウドから作成およびデプロイできます。

機能的には、Studio Cloud は Studio デスクトップと同様ですが、以下にいくつかの差異をリストします。

- Studio Cloud では、「最近開始したプロジェクト」オプションは使用できません。
- Studio Cloud では「リモート側で保存 (Save Remotely)」ツールバーは使用できませんが、Studio デスクトップでは Cloud にログインしている場合に使用できます。
- Studio Cloud では、「プロジェクトとして保存 [クラウド]」または「プロジェクトの名前変更 [クラウド]」の選択時に、ウィザードのプロジェクト保存先としてローカル・ファイル・システムの場所がウィザードで表示されません。
- Studio Cloud では、「新規プロジェクト」オプションの代わりに「新規プロジェクト [ローカル]」オプションがあります。この新しいオプションを使用すると、ローカル・ファイル・システム上に新規プロジェクトが作成されます。
- Studio Cloud では、「プロジェクトを開く」オプションの代わりに「プロジェクトを開く [ローカル]」オプションがあります。この新しいオプションを使用すると、ローカル・ファイル・システムのプロジェクトが開きます。
- Studio Cloud では、「プロジェクトの保存」オプションの代わりに 2 つの新しいオプションがあります。これらのオプションは、ログインしているかどうかに応じて使い分けます。ログインしている場合は、「プロジェクトの保存 [クラウド]」オプションにより、プロジェクトをクラウドに保存します。ログインしていない場合は、「プロジェクトの保存 [ローカル]」により、プロジェクトをローカルに保存します。
- Studio Cloud には、「別名保存」オプションの代わりに「ローカルに別名保存」オプションがあります。
- Studio Cloud では、プロジェクトのコピーをクラウドに保存する「クラウドに別名保存」オプションを選択できます。
- Studio Cloud では、「プロジェクトの名前変更」の代わりに 2 つの新しいオプションがあります。これらのオプションは、ログインしているかどうかによって異なります。ログインしている場合は、「プロジェクトの名前変更 [クラウド]」オプションにより、プロジェクトをローカルおよびリモート側で名前変更します。ログインしていない場合は、「プロジェクトの名前変更 [ローカル]」オプションにより、プロジェクトをローカル側でのみ名前変更します。

Cloud TIP ウィザード

Cloud で TIP ウィザードにアクセスできるようになりました。TIP ウィザードに従って統合プロジェクト・テンプレートの各ステップを実行することで、ユーザー独自の統合プロジェクトを迅速に作成できます。

クラウド管理コンソールを使用することで、ソリューション・リポジトリにある使用可能なすべてのテンプレートを検索できます。検索結果が返されると、「ソリューション」ページの「認証済み」列のチェック・マークにより、Cast Iron がテストおよび認証したテンプレートが示されます。また、「テンプレート詳細 (Template Details)」ペインでユーザー・レーティング情報を確認することもできます。TIP ウィザードの最終ステップでは、テンプレートをレーティングできます。

TIP ウィザードを起動するには、以下のようになります。

1. クラウドで、「作成」タブを選択します。「ソリューション」ページが表示されます。


2. 「キーワードでテンプレートを検索 (Search Templates by keyword(s))」 フィールドに、キーワードを入力します。例: SAP。
3. 「検索」をクリックします。キーワードに一致するすべてのテンプレートが表示されます。
注: 「拡張検索 (Advanced Search)」 オプションを選択して、最初のエンドポイントまたは 2 番目のエンドポイントでテンプレートをフィルターに掛けることができます。
4. 適切なテンプレートをクリックします。「テンプレート詳細 (Templates Details)」 ペインが表示されます。
5. 「このテンプレートに基づいてプロジェクトを作成 (Create a Project Based on this Template)」 リンクをクリックします。

セキュア・コネクタ

セキュア・コネクタは、社内ファイアウォールの背後にあるエンドポイントを使用してクラウドにアクセスできるようにし、セキュア・プロトコルを使用してデータを転送します。

親トピック: [Cloud について](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/About_the_Cloud/aboutTheCastIronCloud.html

技術サポートへの連絡

[IBM® サポート・ページ](#) を通じて技術サポートの問題を送信してください。

親トピック: [Cloud について](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/About_the_Cloud/contactingTechnicalSupport.html

管理コンソールのナビゲート

管理コンソールは、統合環境の各種システムとリソースを管理およびモニターできるようにする Web ベースのツールです。この環境は、物理的な統合アプライアンスにすることも、WebSphere® Cast Iron® Cloud の環境にすることもできます。


管理コンソールの左にあるナビゲーション・ペインには、各種システムおよびリソースを表示、構成したり、それらに対してアクションを実行したりすることができる各ページのメニューが表示されます。

ブラウザーの戻るボタンおよび進むボタンを使用して、管理コンソールのページを開いた順に移動することはできません。管理コンソールのページを開いた順に移動するには、管理コンソールの右上隅にある戻る矢印と進む矢印を使用します。

右上隅には、現在ログインしているユーザーも表示されています。ユーザー名をクリックすると、「ユーザー・プロファイル」ウィンドウが開きます。

親トピック: [Cloud について](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/About_the_Cloud/navigatingMgmtConso.html


サポート情報

「サポート情報」ページは、クラウド・スペースに関する情報を提供します。具体的には、このページにはテナント (複数可) および環境が実行されているクラウドのバージョンおよび ID が表示されます。

このページは、セキュア・コネクターのインストール時に指定する必要がある環境 ID 情報も提供します。

親トピック: [Cloud について](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/About_the_Cloud/supportInformation.html

Cloud インスタンスの管理

『Cloud インスタンスの管理』のトピックでは、サード・パーティー・ライブラリーのインストールおよびダウン時間のスケジュールについて説明します。

- [SAP JAR ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)
- [ベンダー提供ライブラリーのインストール](#)
- [ダウン時間のスケジュール](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Integration_Appliances/toc_managing_cloud_instances.html

SAP JAR ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール

始める前に

SAP サポート・ポータルに入ってファイルをダウンロードするには、SAP ユーザー ID およびパスワードが必要です。

このタスクについて

SAP システムに接続するには、SAP DLL および JAR ファイルを開発環境にインストールする必要があります。

SAP jar ファイルおよび DLL をダウンロードしてインストールするには、次のようにします。

1. SAP 技術サポートに連絡して、以下の SAP コンポーネントの zip ファイルを入手します。
 - Windows 上でセキュア・コネクターが実行されている場合:
 - SAP 32 ビット JCo バージョン 3.0.10 以上 - Windows
 - SAP Java IDoc Class Library 3.0.10 以上のバージョン
 - Linux 上でセキュア・コネクターが実行されている場合:
 - 32 ビット SAP JCo 3.0.10 以上のバージョン - Linux (Intel と互換性のあるプロセッサ用)
 - SAP Java IDoc Class Library 3.0.10 以上のバージョン
2. 以下のようにして、SAP JCo zip ファイルを unzip します。
 - sapjdoc30P_x-1000xxxx.zip ファイルをダブルクリックします。
 - 解凍ツールを使用して、圧縮ファイルの内容を一時ディレクトリーに解凍します。この zip ファイルには、別の zip ファイル sapjco3-NTintel-3.0.x.zip が入っています。この zip も一時ディレクトリー (Windows の場合 C:\temp\sapjco3-NTintel-3.0.x など) に解凍します。このディレクトリーに、必要なライブラリー sapjco3.jar および sapjco3.dll が入ります。Linux で例: /tmp/sapjco-linuxintel-3.0.x。このディレクトリーに、必要なライブラリー sapjco3.jar および libsapjco3.so が入ります。
3. 以下のようにして、SAP IDoc JCo zip ファイルを unzip します。
 - sapjdoc30P_x-1000xxxx.zip ファイルをダブルクリックします。
 - 解凍ツールを使用して、圧縮ファイルの内容を一時ディレクトリー (C:\temp\sapjdoc30P_x-1000xxxx など) に解凍します。このディレクトリーに、必要なライブラリー sapidoc3.jar が入ります。

手順

1. 管理コンソールにログオンして、「システム」 > 「コネクター」を選択します。「コネクター」ページが表示されます。

2. 「ライブラリーの更新 (Update Libraries)」をクリックします。「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ウィンドウが表示されます。
3. 「コネクター」列で SAP を選択します。
4. 正符号 (+) ボタンをクリックして、ダウンロードしたすべての jar ファイルをインポートし終わるまで以下のサブステップを繰り返します。
 - a. ダウンロードした jar ファイルのうち 1 つを指定します。
 - b. 「開く」をクリックして、JAR ファイルをインポートします。「追加するファイル (Files to Add)」列にファイルが表示されます。
5. 「更新 (Update)」をクリックします。


「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されるファイルは、「更新」をクリックするまでコミットされません。「更新」をクリックする前に「リセット」をクリックした場合は、管理コンソールはアップロードしたファイルを追加しません。「更新」をクリックして追加ファイルをコミットする前に管理コンソールがタイムアウトした場合は、最後の 2 つのステップを繰り返します。

タスクの結果

SAP プロジェクトを実行できるようになりました。

親トピック: [Cloud インスタンスの管理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Integration_Appliances/downloadingInstallingSAPfiles.html

ベンダー提供ライブラリーのインストール

このタスクについて

追加ライブラリーが必要なコネクターを統合プロジェクトで使用する場合は、プロジェクト構成をデプロイする前に追加ライブラリーをインストールする必要があります。追加ライブラリーをインストールする前にプロジェクト構成をデプロイすると、ランタイム・エラーが発生します。ベンダー提供ライブラリーが必要なコネクターの完全なリストについては、「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開いてください。以下の手順を参照してください。

マルチ環境テナントがある場合は、追加ライブラリーが必要なコネクターを使用するプロジェクト構成をデプロイする各環境にサード・パーティー・ライブラリーをインストールする必要があります。

例えば、3 つの環境 (開発、ステージング、および実稼働) を備えたテナントがあるとして、「開発」環境および「実稼働」環境で SAP エンドポイント用のプロジェクト構成を公開します。プロジェクト構成をデプロイするには、「開発」環境と「実稼働」環境の両方に追加 SAP ライブラリーを事前にインストールしておく必要があります。

手順

1. 環境タブをクリックします。
2. 「システム」 > 「コネクター・ライブラリー (Connector Libraries)」を選択して、「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開きます。
3. 「コネクター」列で、追加ファイルをインストールするコネクターを選択します。


既にインストールされているファイルはすべて、「インストール済みファイル (Installed Files)」列に表示されます。

4. (+) アイコンをクリックして、アップロードするライブラリー・ファイル (複数可) を選択します。クラウドでは、.jar および .dll が有効なライブラリー・ファイル・タイプです。選択したファイルは、「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されます。
5. 「更新 (Update)」をクリックします。

「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されるファイルは、「更新」をクリックするまでコミットされません。「更新」をクリックする前に「リセット」をクリックした場合は、クラウド管理コンソールはアップロードしたファイルを追加しません。「更新」をクリックして追加ファイルをコミットする前にクラウド管理コンソールがタイムアウトした場合は、最後の2つのステップを繰り返してください。

親トピック: [Cloud インスタンスの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Integration_Appliances/installing3rdPartyLibraries.html

ダウン時間のスケジュール

このタスクについて

ダウン時間をスケジュールすることで、環境または関連システムで保守を実行できます。プロジェクト構成のダウン時間ルールを作成して、指定した期間にそのプロジェクト構成のすべての使用可能なオーケストレーション・ジョブを停止または中断することができます。ダウン時間ルールを作成または編集するために、プロジェクト構成をアンデプロイする必要はありません。ダウン時間ルールは1回のみ実行することも、特定の間隔で繰り返すこともできます。ダウン時間ルールを作成、編集、または削除するには、管理者許可またはパブリッシャー許可を備えている必要があります。

デフォルトでは、ダウン時間ルールは GMT 時間帯で保管されます。管理者がシステム・クロックを GMT から別の時間帯に変更した場合でも、ダウン時間ルールは同じ絶対時刻に実行されます。例えば、GMT の 4:00pm から 4:15pm までの期間にすべてのオーケストレーションを停止するダウン時間ルールを作成したとします。その後、管理者が PDT を表示するようにシステム・クロックを変更します。そうすると、ダウン時間ルールは、PDT の 8:00am から 8:15am までの期間にすべてのオーケストレーションを停止するように変更されます。PDT の 4:00pm から 4:15pm までの期間にダウン時間ルールを実行するには、ダウン時間ルールを編集する必要があります。夏時間調整による時差は自動的に調整されます。

ダウン時間ルールが実行されるようにスケジュールされている期間に環境がオフラインになっていた場合は、すべての未実行のルールが特定され、環境がオンラインに戻ったときに適切な順序で実行されます。すべての未処理のダウン時間ルールが実行されると、プロジェクト構成のデプロイメント状態を変更するための制御がユーザーに戻されます。

手順

1. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページが表示されます。
2. 作業するダウン時間ルールが含まれたプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. 「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtimes)」セクションで「新規ルール (New Rule)」をクリックします。「新規ダウン時間ルール (New Downtime Rule)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. リストから以下のアクションのいずれかを選択します。
 - **停止 (ジョブの終了を許可する) (Stop (allows jobs to finish))** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できないようにします。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。このアクションにより、すべてのジョブを終了することができます。
 - **停止 (実行中のジョブをキャンセルする) (Stop (cancel running jobs))** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できないようにします。また、すべての現在実行中のジョブを停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。
 - **中断 (Suspend)** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーションが開始できないようにします。また、現在実行中のすべてのジョブを一時停止します。スケジュールされたダウン時間の最後に、ランタイムは中断したジョブを一時停止した時点から処理します。
5. 「開始ダウン時間 (Start Downtime)」および「終了ダウン時間 (End Downtime)」の日時を指定して、ダウン時間の期間を指定します。
6. オプション: 「反復」オプションを選択して、繰り返しダウン時間ルールを作成します。
 - a. 繰り返しの間隔 (数値) を指定します。
 - b. リストから頻度 (「日」、「週 (Weeks)」、「月 (Months)」、または「年 (Years)」) を指定します。
7. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtimes)」セクションに新規ダウン時間ルールが表示され、「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtime)」カウンターが1つ進みます。

親トピック: [Cloud インスタンスの管理](#)

ダウン時間ルールの編集

手順

1. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページが表示されます。
2. 作業するダウン時間ルールが含まれたプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. 「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtime)」セクションで、編集するダウン時間ルールをクリックします。「ダウン時間ルールの編集 (Edit Downtime Rule)」が表示されます。
4. リストから以下のアクションのいずれかを選択します。

- **停止 (ジョブの終了を許可する) (Stop (allows jobs to finish))** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できないようにします。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。このアクションにより、すべてのジョブを終了することができます。
 - **停止 (実行中のジョブをキャンセルする) (Stop (cancel running jobs))** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できないようにします。また、すべての現在実行中のジョブを停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。
 - **中断 (Suspend)** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーションが開始できないようにします。また、現在実行中のすべてのジョブを一時停止します。スケジュールされたダウン時間の最後に、ランタイムは中断したジョブを一時停止した時点から処理します。
5. 「開始ダウン時間 (Start Downtime)」 および 「終了ダウン時間 (End Downtime)」 の日時を指定して、ダウン時間の期間を指定します。
 6. オプション: 「反復」 オプションを選択して、繰り返しダウン時間ルールを作成します。
 - a. 繰り返しの間隔 (数値) を指定します。
 - b. リストから頻度 (「日」、「週 (Weeks)」、「月 (Months)」、または「年 (Years)」) を指定します。
 7. 「保存」 をクリックします。

ダウン時間ルールの削除


手順

1. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」 を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」 ページが表示されます。
2. 作業するダウン時間ルールが含まれたプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」 ページが表示されます。
3. 「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtime)」 セクションで、削除するダウン時間ルールを選択します。「ルールの削除 (Delete Rules)」 の確認ウィンドウが表示されます。
4. 「はい」 をクリックします。

タスクの結果

当該ダウン時間ルールが表示されなくなります。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Integration_Appliances/schedulingDowntime.html

オーケストレーションの管理


『オーケストレーションの管理』のトピックでは、オーケストレーション設定の編集およびジョブ・レポートのエクスポートについて説明します。

- [オーケストレーション設定について](#)

オーケストレーション設定により、プロジェクト構成内の個別オーケストレーションのプロパティを構成できます。オーケストレーションごとに、オーケストレーションを使用可能にするかどうか、ロギング・レベル、ロギング動作、およびオーケストレーションで同時に実行可能な最大ジョブ数を指定できます。

- [オーケストレーション設定の編集](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Orchestrations/toc_managing_orchestrations.html

オーケストレーション設定について

オーケストレーション設定により、プロジェクト構成内の個別オーケストレーションのプロパティを構成できます。オーケストレーションごとに、オーケストレーションを使用可能にするかどうか、ロギング・レベル、ロギング動作、およびオーケストレーションで同時に実行可能な最大ジョブ数を指定できます。


プロジェクト構成をアンデプロイすると、以下のオーケストレーション設定を編集できます。

オーケストレーション設定	説明
使用可能 (Enabled)	オーケストレーションが使用可能でデプロイできるかどうかを示します。プロジェクト構成をデプロイするには、プロジェクト内の少なくとも1つのオーケストレーションを使用可能にする必要があります。デフォルトでは、プロジェクト構成内のすべてのオーケストレーションが使用可能になります。

オーケストレーション設定	説明
ロギング・レベル (Logging Level)	<p>システム・ログに記録されるオーケストレーション詳細のレベルを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし (None) - オーケストレーションの状況およびアクティビティはログに記録されません。 初期値 (Initial Values) - オーケストレーション変数の初期値のみがログに記録されます。 初期値およびエラー値 (Initial and Error Values) - オーケストレーション変数の初期値とオーケストレーション・エラー値の両方がログに記録されます。 エラー値 (Error Values) - オーケストレーション・エラーのみがログに記録されます。 インライン (Inline) - 呼び出し元オーケストレーションのジョブ詳細で、インライン化されたサブオーケストレーションのオーケストレーション・ジョブ詳細がログに記録されます。 すべて - 最高ロギング・レベル。すべてのオーケストレーション・アクティビティがログに記録されます。
同期ロギング (Log Synchronously)	<p>オーケストレーションの実行中にオーケストレーション・モニター・ログへのオーケストレーション・イベントの書き込みをランタイムが同期化できるようにします。</p> <p>デフォルトでは、このオーケストレーション設定は使用不可になっており、オーケストレーション・ジョブは同期的にログに記録されません。</p> <p>注: このオーケストレーション設定を使用可能にすると、オーケストレーション・ジョブを処理するためにかかる時間が増加します。</p>
最大同時ジョブ数 (Max Simultaneous Job)	同時に実行可能なオーケストレーション・ジョブの数を指定できます。

親トピック: [オーケストレーションの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Orchestrations/aboutOrchestrationSettings.html

オーケストレーション設定の編集

始める前に



オーケストレーション設定を編集するには、プロジェクト構成をアンデプロイする必要があります。

テナント管理者、(プロジェクトが公開される環境の) 環境管理者、およびプロジェクトのパブリッシャーがオーケストレーション・プロパティを編集できます。

このタスクについて

注: プロジェクト構成許可をグループに付与すると、そのグループのユーザーは、プロジェクト構成に対する全アクセス権限を備えることになります。ユーザーは、プロジェクト構成の新規バージョンの作成およびプロジェクト構成の編集と削除を行うことができます。

手順


1. プロジェクト構成が公開されている環境のタブを選択します。
2. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページが表示されます。
3. 編集するプロジェクト構成が実行中の場合は、「アクション」列にある  停止アイコンをクリックして、プロジェクト構成を停止します。「構成の停止 (Stop Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されたら、以下のオプションのいずれかをクリックします。
 - **ジョブの終了 (Finish Jobs)** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブを開始できないようにします。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。ジョブを終了することができます。
 - **ジョブのキャンセル (Cancel Jobs)** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブを開始できないようにします。また、すべての現在実行中のジョブを停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。
4. 「アクション」列にあるアンデプロイ・アイコン  をクリックして、プロジェクト構成をアンデプロイします。
5. 編集するプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
6. 「オーケストレーション」セクションで、「編集」をクリックしてオーケストレーション設定を編集します。「オーケストレーション設定の編集 (Edit Orchestration Settings)」ウィンドウが表示されます。
7. 「保存」をクリックします。
8. プロジェクト構成をデプロイして、オーケストレーション・ジョブの処理を開始します。

タスクの結果

更新内容が、「構成の詳細 (Configuration Details)」ページの「オーケストレーション」セクションに表示され、ランタイムが指定に従ってオーケストレーションを処理します。

親トピック: [オーケストレーションの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Orchestrations/editingOrchestrationSettings.html

プロジェクトの管理

『プロジェクトの管理』のトピックでは、統合プロジェクトの作成、管理、およびデプロイについて説明します。

- [プロジェクトおよび構成の命名について](#)
- [プロジェクト構成について](#)
- [プロジェクトについて](#)
- [プロジェクト構成のクローン作成](#)
- [プロジェクトのコピー](#)
- [最初からのプロジェクトの作成](#)
- [テンプレートからのプロジェクトの作成](#)
- [プロジェクト構成の削除](#)
- [プロジェクトの削除](#)
- [プロジェクト構成のデプロイ](#)
- [プロジェクト構成プロパティの編集](#)
- [プロジェクトの編集](#)
- [プロジェクトの公開](#)
- [TIP のレビュー](#)
- [プロジェクト構成の停止](#)
- [プロジェクト構成のアップロード](#)
- [プロジェクト構成の処理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/toc_managing_projects.html

プロジェクトおよび構成の命名について


プロジェクトおよびプロジェクト構成の名前の長さは、42文字を超えることができません。プロジェクトまたはプロジェクト構成を作成する際には、以下のリストで示す予約文字を使用しないようにしてください。

予約文字	説明
'&'	アンパーサンド
'{''''[[]]'<'>'	あらゆる括弧
'*'	アスタリスク
'¥'	円記号
'^'	脱字記号
'.'	コロン

予約文字	説明
'\$'	ドル記号
'/'	スラッシュ
'#'	番号記号
'()'	小括弧
' '	パイプ
'.'	ピリオド
'?'	疑問符
';'	セミコロン
' '	スペース
'~'	波形記号

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/aboutNamingProjects.html

プロジェクト構成について

プロジェクト構成により、同じ統合プロジェクトの複数のバリエーションを作成することができるため、1つのプロジェクトを作成および公開して、多くの異なるシナリオにデプロイすることができます。プロジェクト構成内で、使用可能にするオーケストレーションを指定したり、エンドポイントの構成プロパティを変更したり、資産を生成または変更したり、スケジュールされたダウン時間ルールを管理したり、プロジェクト構成の許可を制御したりすることができます。

公開される各プロジェクトには、デフォルト・プロジェクト構成があります。管理コンソールで、追加のプロジェクト構成を作成できます。プロジェクト名、プロジェクト・バージョン、構成名、およびプロジェクト状態により、各プロジェクト構成を一意的に識別します。

プロジェクト構成を作成、編集、および削除するには、管理者特権を所持しているか、特定のプロジェクトのパブリッシャーでなければなりません。管理者およびパブリッシャーは、プロジェクト構成を作成、編集、および削除できるようにする許可をユーザーおよびグループに付与することができます。

オーケストレーションを使用可能および使用不可にする

ランタイムは、使用可能なオーケストレーションのオーケストレーション・ジョブのみを実行します。プロジェクト構成をデプロイするには、プロジェクト構成には少なくとも1つの使用可能なオーケストレーションが含まれている必要があります。デフォルトでは、すべてのオーケストレーションが使用可能になっています。

オーケストレーション・ロギング・レベルを指定することで、システム・ログに書き込まれるオーケストレーション・エラーのタイプを制御できます。また、管理コンソールで、同時に実行されるジョブの数を制限することもできます。同時に実行されるジョブの数はパフォーマンスに影響する可能性があります。

オーケストレーション・プロパティを指定するには、管理者許可またはパブリッシャー許可が必要です。

構成プロパティの理解

プロジェクトの構成プロパティは Studio で作成します。プロジェクト・プロパティの作成およびプロジェクト・バージョンの指定について詳しくは、Studio のオンライン・ヘルプを参照してください。

プロジェクトの公開時に、構成プロパティの値を指定できます。構成プロパティに指定した値により、プロジェクトがどのようにデプロイされるかが決定されます。例えば、データベース・エンドポイントが含まれたプロジェクトで、データベース接続パラメーターのプロパティを作成できます。これにより、テスト・データベースに接続するテスト環境用のプロジェクト構成を作成し、その後同じプロジェクトを使用して、別のデータベースに接続する実稼働環境用の別のプロジェクト構成を作成できます。

管理コンソールで構成プロパティを編集するには、管理者許可またはパブリッシャー許可が必要です。

資産の変更

プロジェクト構成にデータベースまたは Web サービスのエンドポイントが含まれている場合には、プロジェクト構成をデプロイするには、その前に資産を生成する必要があります。プロジェクトにデータベースおよび Web サービスのエンドポイントが含まれていない場合は、資産はプロジェクト構成に無関係です。

資産を生成または変更するには、管理者許可またはパブリッシャー許可が必要です。

ダウン時間のスケジュール

ダウン時間をスケジュールすることで、保守を実行できます。プロジェクト構成のダウン時間ルールを作成して、指定した期間にそのプロジェクト構成のすべての使用可能なオーケストレーション・ジョブを停止または中断することができます。ダウン時間ルールを作成または編集するために、プロジェクト構成をアンデプロイする必要はありません。ダウン時間ルールは 1 回のみ実行することも、特定の間隔で繰り返すこともできます。

ダウン時間ルールを作成、編集、または削除するには、管理者許可またはパブリッシャー許可を備えている必要があります。

プロジェクト構成許可の編集

管理者またはプロジェクト・パブリッシャーは、プロジェクト構成の許可を他のユーザーおよびグループに付与できます。プロジェクト構成に対する許可をユーザーまたはグループに付与すると、そのユーザーまたはグループは、プロジェクト構成を作成、編集、および削除できるようになります。デフォルトでは、プロジェクト構成に対する許可は管理者グループのみに付与されています。許可を別のグループに付与する場合は、明示的に付与する必要があります。

例えば、自分がパブリッシャー権限を備えたユーザーであり、組み込みのパブリッシャー・グループに属しているものとします。プロジェクトを公開します。管理者グループと自分のみが、プロジェクト構成に対する許可を備えています。(自分がメンバーである)パブリッシャー・グループのメンバーは、プロジェクト構成に対する許可を持ちません。プロジェクト構成に対する許可を編集して、パブリッシャーなどの別のグループを含める必要があります。詳しくは、[プロジェクト構成許可の付与](#)を参照してください。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/aboutProjectConfigurations.html

プロジェクトについて

プロジェクトには、統合シナリオを実行するためにランタイムに必要なコンポーネント (オーケストレーション、エンドポイント、マップ、およびその他の文書) が含まれています。Studio を使用して、統合環境に接続することなくプロジェクトを作成およびテストします。

複数のユーザーが複数のプロジェクトを同じ統合環境に対して公開できます。Studio を使用して、プロジェクトを統合環境に公開するか、プロジェクトをステージング・ロケーションにエクスポートします。後から管理コンソールを使用して、エクスポートされたプロジェクトをアップロードできます。プロジェクトを統合環境に公開またはアップロードするには、管理者特権またはパブリッシャー特権が必要です。

プロジェクトを Studio から公開すると、管理コンソールには、デフォルト・プロジェクト設定を使用してプロジェクトが表示され、デフォルト・プロジェクト構成が作成されます。このデフォルト・プロジェクト構成を複製して、新規プロジェクト構成を作成できます。そして、その構成を別の開発環境および実稼働環境用に構成できます。

Studio を使用して、プロジェクトを作成し、エンドポイント構成プロパティを指定します。その後、管理コンソールを使用して、プロジェクト構成を指定し、プロジェクト構成をデプロイします。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/aboutProjects.html

プロジェクト構成のクローン作成

始める前に


プロジェクト構成のクローンを作成するには、管理者特権を備えているか、プロジェクトのパブリッシャーでなければなりません。

このタスクについて

プロジェクト構成には、同じ統合プロジェクトの複数のバリエーションを作成するために管理コンソールで構成することができるプロパティおよび資産が含まれています。新規構成の作成時には、既存のプロジェクト構成のクローン作成を選択できます。クローンされたプロジェクト構成は、元のプロジェクト構成のすべての構成を継承します。ただし、元の構成プロジェクトを編集しても、その変更はクローンされたプロジェクトに伝搬されません。

注: クローンしたプロジェクト構成は、「お気に入り (Favorites)」ビューに表示されません (プロジェクト構成をこのビューに明示的に追加した場合を除く)。

手順


1. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページが表示されます。
2. 「構成フィルター (Configuration Filter)」リストから、「すべて」を選択します。プロジェクト構成がすべて表示されます。
3. クローンを作成するプロジェクト構成を指定します。
4. クローン・アイコン  をクリックします。「プロジェクト構成の作成 (Create Project Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 新規プロジェクト構成の固有名を指定します。
6. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

クローンされたプロジェクト構成が、「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページに表示されます。クローンされたプロジェクトには、元のプロジェクト構成と同じすべてのプロジェクト構成の詳細が設定されています。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/cloningProjectConfigurations.html

プロジェクトのコピー

このタスクについて

管理コンソールでは、既存プロジェクトに新規バージョン番号を割り当てることで、プロジェクトをコピーできます。

手順


1. 「変更」タブをクリックします。「プロジェクト」ページが表示されます。
2. コピーするプロジェクトをクリックします。「プロジェクトのコピー (Copy Project)」ダイアログが表示されます。
3. 新規プロジェクト・バージョンを入力します。バージョン番号には小数部を含めることができます。
4. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクトのコピーが、「プロジェクト」ページにアルファベット順で表示されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/copyingProjects.html

最初からのプロジェクトの作成

このタスクについて

クラウドでプロジェクトを最初から作成できます。

手順


1. 「作成」タブをクリックします。「ソリューション」ページが表示されます。
2. 「最初から作成 (Create One From Scratch)」をクリックします。「プロジェクトの作成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 固有のプロジェクト名を指定します。
4. 「保存」をクリックします。プロジェクトが、「変更」タブの「プロジェクト」ページに表示されません。

タスクの結果

これで、プロジェクトを編集、公開、削除、またはコピーできます。プロジェクトを選択して、プロジェクトの詳細を表示し、許可をプロジェクトに割り当てます。許可を割り当てた場合は、「保存」をクリックして更新内容を保存します。

プロジェクトの詳細には、プロジェクト構成が公開された先の環境、プロジェクトを公開した最終時刻のタイム・スタンプ、プロジェクト構成の現在の状態 (例えば、デプロイ済み) などがあります。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/creatingProjectFromScratch.html

テンプレートからのプロジェクトの作成

このタスクについて

テンプレートからプロジェクトを作成できます。テンプレートはソリューション・リポジトリに保管されています。すべてのユーザーはテンプレート・ソリューションを作成して、ソリューション・リポジトリにアップロードできます。

注: ソリューション・リポジトリ内のすべてのテンプレートが認証済みであるわけではありません。認証済みのテンプレートは、Cast Iron® のロゴで示されます。


手順

1. 「作成」タブをクリックします。「ソリューション」ページが表示されます。
2. テンプレートを検索します。
 - a. ソース・エンドポイントを選択します。
 - b. ターゲット・エンドポイントを選択します。
 - c. 「検索」をクリックします。

「キーワード検索 (Keyword Search)」オプションを選択して、キーワードでテンプレートを検索することもできます。

3. 返されたソリューションからテンプレートを選択します。テンプレートの詳細が表示されます。
4. 「このテンプレートに基づいてプロジェクトを作成 (Create a project based on this template)」をクリックします。Studio Cloud が開くので、ウィザードのガイドに従って、プロジェクトの作成を実行します。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/creatingProjectsFromTemplate.html

プロジェクト構成の削除

始める前に

プロジェクト構成のパブリッシャー、環境管理者、またはテナント管理者は、プロジェクト構成を削除できます。プロジェクト構成のパブリッシャーは、自身のプロジェクト構成を他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。環境管理者は、環境内の任意のプロジェクト構成を他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。テナント管理者は、テナント内の任意のプロジェクト構成を他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。

プロジェクト構成を削除するには、そのプロジェクト構成を事前にアンデプロイしておく必要があります。

このタスクについて

プロジェクト構成を削除すると、プロジェクト構成に関連したすべてのモニター・ヒストリーも削除されません。

手順


1. プロジェクト構成が公開されている環境のタブを選択します。ダッシュボードの「プロジェクト構成 (Project Configuration)」セクションに、プロジェクト構成のリストが表示されます。
2. 削除するプロジェクト構成がアンデプロイされていることを確認します。状態は、プロジェクト構成名の最後の括弧 () 内に表示されます。例えば、「(アンデプロイ済み (undeployed))」のようになります。
3. プロジェクト構成がアンデプロイ済み以外の状態の場合は、「アクション」列の「アンデプロイ」アイコンをクリックして、プロジェクト構成をアンデプロイします。
4. 「アクション」列で、「削除」アイコンをクリックします。「プロジェクト構成の削除 (Delete Project Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「はい」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクト構成が削除され、使用できなくなります。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/deletingProjectConfigurations.html

プロジェクトの削除

始める前に

プロジェクトのパブリッシャー、環境管理者、またはテナント管理者は、プロジェクトを削除できます。プロジェクトのパブリッシャーは、自身のプロジェクトを他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できま

す。環境管理者は、環境内の任意のプロジェクトを他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。テナント管理者は、テナント内の任意のプロジェクトを他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。

手順


1. 「変更」タブを選択します。「プロジェクト」ページに、公開できるプロジェクトのリストが表示されます。
2. 「アクション」列で、「削除」アイコンをクリックします。「プロジェクトを削除しますか? (Delete Project?)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「はい」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクトが削除されます。ただし、このプロジェクトから作成されたプロジェクト構成はすべて、引き続き使用可能です。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/deletingProjects.html

プロジェクト構成のデプロイ

始める前に

プロジェクト構成をデプロイまたはアンデプロイするには、テナント管理者特権または環境管理者特権を備えているか、プロジェクト構成のパブリッシャーでなければなりません。

このタスクについて

オーケストレーションのエンドポイントのタイプにより、プロジェクト構成をデプロイするために実行する必要があるステップが決定されます。プロジェクト構成をデプロイするには、そのプロジェクト構成には少なくとも1つの使用可能なオーケストレーションが含まれている必要があります。オーケストレーションにデータベースまたはWebサービスのエンドポイントが含まれている場合には、プロジェクト構成をデプロイするには、その前にエンドポイントの資産を生成する必要もあります。

デフォルトでは、プロジェクト構成内のすべてのオーケストレーションが使用可能になります。そのため、プロジェクト構成のオーケストレーションで追加構成が不要で、データベースおよびWebサービスのエンドポイントにアクセスしない場合は、いずれかの「プロジェクト」タブのプロジェクト構成の隣にあるデプロイ・アイコンをクリックして、プロジェクト構成をデプロイできます。プロジェクト構成で資産または追加構成が必要な場合は、以下に示すデプロイメント手順を参照してください。

注: プロジェクト構成をアンデプロイするには、プロジェクト構成は停止状態でなければなりません。


手順

1. プロジェクトを公開した環境タブを選択します。
2. 「プロジェクト構成 (Project Configuration)」セクションで、デプロイするプロジェクト構成を選択します。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. 「オーケストレーション」セクションで、プロジェクト構成内の少なくとも1つのオーケストレーションが使用可能になっていることを確認します。必要に応じて、オーケストレーション設定を編集します。

プロジェクト構成の実行中はオーケストレーション設定を編集できません。構成設定を編集するには、プロジェクト構成を停止およびアンデプロイしてください。

4. 必要に応じて、「プロパティ」セクションで構成プロパティを編集します。

プロジェクト構成の実行中は構成プロパティを編集できません。構成設定を編集するには、プロジェクト構成を停止およびアンデプロイしてください。


5. プロジェクト構成にデータベースまたは Web サービスのエンドポイントが含まれている場合には、そのエンドポイントの資産を生成する必要があります。
6. オプション: スケジュール・ダウン時間ルールを追加します。
7. オプション: プロジェクト構成の許可を割り当てます。この許可は、プロジェクト構成を編集およびデプロイできるユーザーのグループを指定します。デフォルトでは、テナント管理者、環境管理者、およびプロジェクト構成のパブリッシャーが、プロジェクト構成を編集およびデプロイできます。
8. 許可を割り当てた場合は、「保存」をクリックします。
9. 「要約」セクションで、デプロイ・アイコン  をクリックして、プロジェクト構成をデプロイします。

タスクの結果

プロジェクト構成がデプロイされ、ランタイムがオーケストレーション・ジョブの処理を開始し、「要約」セクションで状況が適宜更新されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/deployingProjectConfigurations.html

プロジェクト構成プロパティの編集

始める前に


構成プロパティを編集するには、管理者許可またはパブリッシャー許可が必要です。

このタスクについて

クラウドの環境にプロジェクトを公開するには、その前に、Studio で統合プロジェクトの構成プロパティを作成します。プロジェクトの公開時に、構成プロパティの値を指定できます。構成プロパティを使用して、プロジェクト構成をステージング環境から実稼働環境に移動できます。

例えば、データベース・エンドポイントが含まれたプロジェクトで、データベース接続パラメーターのプロパティを作成できます。これにより、テスト・データベースに接続するテスト環境用のプロジェクト構成を作成し、その後同じプロジェクトを使用して、別のデータベースに接続する実稼働環境用の別のプロジェクト構成を作成できます。

手順


1. プロジェクト構成が公開されている環境のタブを選択します。
2. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページが表示されます。
3. 編集するプロジェクト構成が実行中の場合は、「アクション」列にある  停止アイコンをクリックして、プロジェクト構成を停止します。「構成の停止 (Stop Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されたら、以下のオプションのいずれかをクリックします。
 - **ジョブの終了 (Finish Jobs)** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブを開始できないようにします。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。ジョブを終了することができます。
 - **ジョブのキャンセル (Cancel Jobs)** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブを開始できないようにします。また、すべての現在実行中のジョブを停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。
4. 編集するプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
5. 「プロパティ」セクションで、「編集」をクリックして構成プロパティ値を編集します。
6. 構成プロパティを変更します。
7. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「構成の詳細 (Configuration Details)」ページに、更新された構成プロパティ値が表示されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/editingProjectConfigurationProperties.html

プロジェクトの編集

このタスクについて


Studio Cloud を使用して、クラウド内のプロジェクトを編集できます。

手順

1. 「変更」タブを選択し、プロジェクト名をクリックします。Studio Cloud が開きます。
2. 必要に応じて、プロジェクトを編集します。
3. 「保存」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/editingProjects.html

プロジェクトの公開

始める前に

プロジェクトを公開するには、テナント管理者、環境管理者、または環境パブリッシャーでなければなりません。

このタスクについて

プロジェクトを公開すると、プロジェクトは Studio からランタイム環境にアップロードされます。


手順

1. 管理コンソールで、「変更」タブを選択します。「プロジェクト」ページが表示されます。
2. 「アクション」列で、「プロジェクトの公開」アイコンをクリックします。リストにテナント内のすべての環境が表示されます。
3. プロジェクトの公開先となる環境を選択します。

タスクの結果

確認が表示されます。選択した環境でプロジェクトが使用可能になっています。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/publishingProjects.html

TIP のレビュー

ダウンロードしたすべての TIP についてレーティングおよびレビューを行うことができます。レーティングは 1 から 5 までの尺度で指定されます (5 が最高のレーティングです)。TIP のレーティングとレビューをサブミットすると、Studio が WebSphere® Cast Iron® ソリューション・リポジトリに情報をアップロードします。サブミットしたレーティングは、他のレビューアーがサブミットした他のレーティングと結合され、その平均が特定の TIP の「詳細」ペインに表示されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/reviewingTIPs.html


プロジェクト構成の停止

このタスクについて

実行中のプロジェクト構成は、次の 2 つの方法で停止できます。

- **停止 (ジョブの終了を許可する) (Stop (allows jobs to finish))** - 「ジョブの終了 (Finish Jobs)」をクリックすると、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できなくなります。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。このアクションにより、統合アプライアンスを終了することができます。
- **停止 (実行中のジョブをキャンセルする) (Stop (cancel running jobs))** - 「ジョブのキャンセル (Cancel Jobs)」をクリックすると、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できなくなります。また、すべての現在実行中のジョブが停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。


手順

1. 「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページから、プロジェクト構成を選択します。
2. 「アクション」列の停止アイコン  をクリックします。「構成の停止 (Stop Configuration)」ウィンドウが表示されます。

3. 「ジョブの終了 (Finish Jobs)」または「ジョブのキャンセル (Cancel Jobs)」をクリックして、プロジェクト構成を停止します。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/stoppingProjectConfigurations.html

プロジェクト構成のアップロード

始める前に

プロジェクト構成をアップロードするには、テナント管理者、環境管理者、または環境パブリッシャーの許可を備えている必要があります。

このタスクについて

プロジェクト構成のアップロード時には、2つのステージから成るプロセスを使用してプロジェクトを公開します。まず、プロジェクトを Studio から中間ロケーションにエクスポートします。次に、管理コンソールからプロジェクトをクラウド環境にアップロードします。

手順

1. プロジェクト構成のアップロード先となる環境タブを選択します。
2. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「プロジェクトのアップロード」を選択します。「プロジェクト構成のアップロード (Upload Project Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「ローカル・プロジェクト・ファイル (Local Project File)」フィールドで、プロジェクトのアップロード元のパスを指定します。「参照」をクリックして、ローカル・マシンのファイルを選択できます。
4. プロジェクト名を指定します。名前は 42 文字以下でなければならず、また制限文字を含めることはできません。
5. 製品のバージョン番号を指定します。このフィールドには、Studio で指定したプロジェクト・バージョンは入っていません。ただし、ベスト・プラクティスとして、Studio で指定したバージョンに一致するプロジェクト・バージョンを指定してください。
6. 「アップロード」をクリックします。

タスクの結果

クラウド環境の「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページにプロジェクト構成が表示されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/uploadingProjectConfigurations.html

プロジェクト構成の処理

プロジェクト構成では、以下のような各種ビューが使用可能です。

- **すべて** - プロジェクト構成の状態に関係なく、すべてのプロジェクト構成のデプロイメントの状態および状況を表示します。このビューからプロジェクト構成をクローンまたは削除できます。
- **最新 (Recent)** - ごく最近に公開または変更されたプロジェクト構成のデプロイメントの状態および状況を表示します。このビューからプロジェクト構成をクローンまたは削除できます。
- **お気に入り (Favorites)** - ユーザーが許可を持っているプロジェクト構成のデプロイメントの状態および状況を表示します。デフォルトでは、このビューにはデータが入っていません。「最新 (Recent)」ビューまたは「すべて」ビューからプロジェクト構成を明示的に追加する必要があります。

これらのビューにはダッシュボードからアクセスするか、またはナビゲーション・ペインで「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」というパスを選択することでアクセスできます。「構成フィルター (Configuration Filter)」を使用することで、ドロップダウン・リストからビューを選択できます。

以下の表で、各種プロジェクト構成ビューで使用可能な情報について説明します。

プロジェクト構成のビューの列	説明
構成	公開済みプロジェクト構成が表示されます。
実行中	プロジェクト構成で現在実行中のジョブ数が表示されます。
完了 (Completed)	プロジェクト構成で完全に処理されたオーケストレーション・ジョブ数が表示されます。 オーケストレーション・モニター・データがページされると、オーケストレーション・ジョブ数は0にリセットされます。ログ・ページ・パラメーターの変更について詳しくは、ページのヘルプ・トピックを参照してください。
エラー (Errored)	プロジェクト構成でランタイム・エラーが発生したオーケストレーション・ジョブの数が表示されます。 オーケストレーション・モニター・データがページされると、オーケストレーション・ジョブ数は0にリセットされます。ログ・ページ・パラメーターの変更について詳しくは、ページのヘルプ・トピックを参照してください。

プロジェクト構成のビューの列	説明
合計	<p>プロジェクト構成で実行されたオーケストレーション・ジョブの総数が表示されます。</p> <p>オーケストレーション・モニター・データがページされると、オーケストレーション・ジョブ数は0にリセットされます。ログ・ページ・パラメーターの変更については、ページのヘルプ・トピックを参照してください。</p>
アクション	<p>プロジェクト構成の状態の表示に加え、プロジェクト構成を削除 (X) したり、クローン (📄) したりするための各種オプションが表示されます。</p> <p>▶ このアイコンをクリックすると、プロジェクト構成がデプロイおよび実行されます。</p> <p>⏸ このアイコンをクリックすると、ランタイムは、プロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブの処理を中断します。</p> <p>⏹ このアイコンをクリックすると、プロジェクト構成がアンデプロイされます。プロジェクト構成をアンデプロイするには、事前にプロジェクト構成を停止しておく必要があります。</p> <p>🗑 このアイコンをクリックすると、ランタイムは、プロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブを処理しなくなります。</p> <p>プロジェクト構成を停止する際には、ランタイムに現在実行中のすべてのジョブを完了するまで実行させるか、現在実行中のすべてのジョブをキャンセルさせるかを選択できます。</p> <p>★ これは、「すべて」ビューおよび「最新 (Recent)」ビューでのみ使用可能です。このアイコンをクリックすると、プロジェクト構成が「お気に入り (Favorites)」に追加されます。</p> <p>管理コンソールの「お気に入り (Favorites)」にプロジェクト構成が表示されている場合は、「すべて」ビューおよび「最新 (Recent)」ビューの当該プロジェクト構成の隣にあるこのアイコンは無効になります。</p> <p>★ このアイコンをクリックすると、プロジェクト構成が「お気に入り (Favorites)」から削除されます。ただし、そのプロジェクト構成は環境からは削除されません。プロジェクト構成は、「すべて」ビューおよび「最新 (Recent)」ビューから表示できます。</p>

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

フィードバック | 特記事項

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Managing_Projects/workingWithProjectConfigurations.html

モニター

『モニター』のトピックでは、通知の作成と管理、ハードウェア状況の表示、オーケストレーション・ジョブの検索、およびオーケストレーション・ジョブ・ログの表示について説明します。

- [環境ダッシュボードについて](#)
- [通知レベルの選択](#)
- [通知ポリシーの作成](#)
- [通知ポリシーの削除](#)
1 つ以上の通知ポリシーを削除できます。
- [通知ポリシーの編集](#)
- [Eメール通知ポリシーの使用可能化](#)
- [オーケストレーション・ジョブの検索](#)
- [オーケストレーション・ジョブ・ログの表示](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Monitoring/toc_monitoring.html

環境ダッシュボードについて


環境ダッシュボードは、プロジェクト構成とジョブの複数のスナップショット・ビュー、未解決の重大なシステム・エラーのリスト、全体的なプロジェクト構成の要約、およびセキュア・コネクターの状況を提供します。また、ダッシュボードでは、ジョブ・キーによるオーケストレーション・ジョブの検索もできます。「検索」ボックスは、ダッシュボードの「結果」セクションにあります。

「重大なアラート (Critical Alerts)」および「セキュア・コネクターの要約 (Secure Connector Summary)」のビューを展開するには、右上隅にあるアイコンをクリックします。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」の展開ビューを使用するには、ナビゲーション・ペインで「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「結果」の展開ビューを使用するには、ナビゲーション・ペインで「リポジトリ (Repository)」 > 「ジョブ・ログ (Job Log)」を選択します。

ダッシュボードは、マルチ環境クラウドの各環境で使用可能です。ダッシュボードに表示される情報は、各環境に固有のものであります。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

通知レベルの選択

通知レベルは、アラートをトリガーできるイベントの重大度を定義します。通知レベルを指定すると、選択したレベルを満たすエラーまたは超過したエラーについてのみアラートが送信されます。◆

注: イベントの通知を受信しない場合は、通知をトリガーするエントリが生成されるようにシステム・ログ・レベルを設定していない可能性があります。例えば、デプロイメントに対して「エラー」レベルを選択した場合は、デプロイメント・システム内で発生した、「エラー」レベルまたは「クリティカル (Critical)」レベルのイベントがすべてログに記録されます。

以下の通知レベルを指定できます。

通知レベル	説明
クリティカル (Critical)	エラー状態によりシャットダウンが生じる場合に、アラートを送信します。
エラー	重大ではないが即時に対応する必要がある問題が発生した場合にアラートを送信します。
警告	潜在的なエラー状態が発生した場合にアラートを送信します。
情報	情報用途のアラートを送信します。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Monitoring/choosingNotificationLevel.html>

通知ポリシーの作成

このタスクについて

通知ポリシーを使用することで、特定のシステムにおける潜在的なエラーをモニターできます。通知ポリシーを作成すると、通知ポリシーによって、指定したシステムのシステム・ログがモニターされます。通知ポリシーの通知レベルを満たすシステム・ログ・イベント、または通知レベルを超過したイベントが発生すると、指定したユーザーにアラートが送信されます。

注: イベントの通知を受信しない場合は、通知をトリガーするエントリが生成されるようにシステム・ログ・レベルを設定していないか、あるいは通知ポリシーを使用可能にしていない可能性があります。システム・ログ設定の指定について詳しくは、[システム・ログ設定の指定](#)を参照してください。Eメール通知ポリシーの使用可能化について詳しくは、[Eメール通知ポリシーの使用可能化](#)を参照してください。

手順


1. 通知ポリシーを作成する環境をクリックします。ナビゲーション・ペインが表示されます。
2. 「ログ (Logs)」 > 「通知 (Notifications)」を選択します。「通知 (Notifications)」ページが表示されます。
3. 「新規ポリシー (New Policy)」をクリックします。「新規ポリシー (New Policy)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. ポリシー名を指定します。
5. 「超過レベル (Level Exceeds)」リストから、レベルを選択します。アラートは、選択したレベルを超過したエラーについてのみ送信されます。
6. 「対象システム (With System)」リストから、通知ポリシーによってモニターする対象のシステムを選択します。
7. Eメール通知を受け取るユーザーのEメール・アドレスを指定します (複数可)。複数のEメール・アドレスを指定する場合は、1行につき1つのEメール・アドレスを追加します。
8. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「通知 (Notifications)」ページに新規ポリシーが表示されます。アラートが送信されるようにするには、Eメール通知を使用可能にする必要があります。Eメールの状況が「(非アクティブ (inactive))」と表示されている場合は、Eメール通知は使用可能になっていません。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Monitoring/creatingNotificationPolicies.html>

通知ポリシーの削除

1つ以上の通知ポリシーを削除できます。

手順

1. 通知ポリシーを削除する環境をクリックします。ナビゲーション・ペインが表示されます。
2. 「ログ (Logs)」 > 「通知 (Notifications)」を選択します。「通知 (Notifications)」ページが表示されます。
3. 削除するポリシーの隣にあるチェック・ボックスを選択します。

複数のポリシーを削除するには、上のチェック・ボックスを選択します。すべてのポリシーが選択されます。

4. 「削除」をクリックします。「ポリシーを削除しますか? (Delete Policies?)」確認ウィンドウが表示されます。


5. 「はい」 をクリックします。

タスクの結果

ポリシーが削除されて、「通知 (Notifications)」 ページに表示されなくなります。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Monitoring/deletingNotificationPolicies.html>

通知ポリシーの編集

手順


1. ナビゲーション・ペインで、「ログ (Logs)」 > 「通知 (Notifications)」 を選択します。「通知 (Notifications)」 ページが表示されます。
2. 通知ポリシーをクリックします。「ポリシーの編集 (Edit Policy)」 ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 該当する通知設定を更新します。
4. 「保存」 をクリックします。

タスクの結果

「通知 (Notifications)」 ページに、更新されたポリシーが表示されます。アラートが送信されるようにするには、E メール通知を使用可能にする必要があります。Eメールの状況が「(非アクティブ (inactive))」と表示されている場合は、Eメール通知は使用可能になっていません。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Monitoring/editingNotificationPolicies.html>

E メール通知ポリシーの使用可能化

このタスクについて

Eメール通知ポリシーを作成した場合、アラートを送信するには、そのEメール通知ポリシーを使用可能にする必要があります。デフォルトでは、Eメール通知は使用可能になっていません。

Eメール通知ポリシーを使用可能にした場合は、Eメール通知の作成時に指定した設定によって、いつEメール・アラートが送信されるかが決定されます。

注: 「Eメールを使用可能にする (Enable Email)」 オプションをクリアしてEメール通知ポリシーを使用不可にした場合は、すべてのEメール通知ポリシーについて、アラートが配信されなくなります。

手順


1. Eメール通知ポリシーを使用可能にする環境をクリックします。ナビゲーション・ペインが表示されます。
2. 「ログ (Logs)」 > 「通知 (Notifications)」 を選択します。「通知 (Notifications)」 ページが表示されます。
3. ページの上部で、「Eメール」リンクをクリックします。「Eメールを使用可能にする (Enable Email)」 オプションが表示されます。
4. 「Eメールを使用可能にする (Enable Email)」 オプションを選択します。
5. オプション: 送信されたアラートについて説明するEメールの件名を指定します。
6. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「通知 (Notifications)」 ページが新規ポリシーと共に表示され、Eメールの状況が「(非アクティブ (Inactive))」から「(アクティブ (Active))」に変わります。これで、通知ポリシーをトリガーするイベントが発生した場合に、Eメール通知が送信されるようになりました。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Monitoring/enablingEmailNotificationPolicies.html>

オーケストレーション・ジョブの検索

このタスクについて

ジョブ ID およびキーにより、オーケストレーション・ジョブを検索できます。コネクターの構成時に、Studio で1次メッセージ・キーを定義します。1次メッセージ・キーは固有値でなければなりません。例えば、発注メッセージの発注番号にします。1次キーを定義しなかった場合は、ランタイムはジョブ ID (ランタイムによって生成される固有の数値) を使用してオーケストレーション・ジョブを識別します。

管理コンソールから、ジョブ ID でオーケストレーション・ジョブを検索できます。デフォルトでは、管理コンソールは、指定したジョブ ID に一致する完了済みオーケストレーション・ジョブのみを検索します。その他のすべてのオーケストレーション・ジョブを検索する場合には、「拡張検索 (Advanced Search)」オプションを使用します。

手順

1. ナビゲーション・ペインから「ダッシュボード」を選択します。
2. 「結果」セクションの「キー検索 (Key Search)」フィールドにジョブ ID を入力します。
3. キーボードの Enter キーを押します。ジョブ ID が一致する完了済みジョブが表示されます。

親トピック: [モニター](#)

「拡張検索 (Advanced Search)」の使用

このタスクについて

「拡張検索 (Advanced Search)」オプションは、ジョブ検索をさらに詳細化する場合に使用します。「拡張検索 (Advanced Search)」ボックスの複数のフィールドに値を入力した場合は、管理コンソールは AND ロジックを使用して検索を詳細化します。

例えば、エラー状況を選択した上で、時刻範囲を指定したとします。管理コンソールは、指定した時刻範囲内にエラーが発生したすべてのオーケストレーション・ジョブを検索します。

注: 日時で検索することを選択した場合は、開始日時と終了日時を指定する必要があります。


手順

1. ナビゲーション・ペインから「ダッシュボード」を選択します。
2. 「結果」セクションで、オーケストレーションを選択します。「オーケストレーションの詳細 (Orchestration Details)」ページに、そのオーケストレーションに関連するすべてのジョブが表示されます。
3. 「拡張検索 (Advanced Search)」ボックスで、行う検索に適した「ジョブ ID」、「キー」、「状況」、「開始日時 (Start Date and Time)」、または「終了日時 (End Date and Time)」の値を指定します。
注: 日時で検索することを選択した場合は、開始日時と終了日時を指定する必要があります。
4. 「検索」をクリックします。

タスクの結果

表に検索結果が表示されます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

オーケストレーション・ジョブ・ログの表示

ダッシュボードでは以下の複数のタブに、オーケストレーション・ジョブに関する情報 (状況、ジョブ・イベントのタイム・スタンプ、キー/ジョブ ID など) が表示されます。

- **すべて** - すべてのプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ情報が表示されます。
- **最新 (Recent)** - ごく最近に公開または変更されたプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ情報が表示されます。
- **お気に入り (Favorites)** - 「お気に入り (Favorites)」 フィルターに表示されているプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ情報が表示されます。このフィルターを使用して表示されるオーケストレーション・ジョブ情報は、「最新 (Recent)」 フィルターおよび「すべて」 フィルターでも表示されません。

オーケストレーション・ジョブが正常に完了している場合でも、管理コンソールはそのオーケストレーション・ジョブの状況を「不明」と表示することがあります。オーケストレーション・ジョブの処理中に環境をリブートすると、リブートでモニター・データが失われて、「不明」状況が生じる可能性があります。「不明」状況を回避するには、環境をリブートする前にすべてのオーケストレーション・ジョブを停止します。

オーケストレーション・ジョブをクリックすると、そのオーケストレーションのオーケストレーション詳細が表示されます。「オーケストレーションの詳細 (Orchestration Details)」 ページに、選択したオーケストレーションに関連するすべてのジョブ、および各個別ジョブの状況が表示されます。すべてのオーケストレーション・ジョブを表示するには、左右矢印 (<<、<、>、>>) を使用します。


親トピック: [モニター](#)

オーケストレーション・ジョブのソート

このタスクについて

ジョブ ID でオーケストレーション・ジョブを検索できます。プロジェクト構成名、オーケストレーション名、状況、時刻、またはジョブ ID でオーケストレーション・ジョブをソートするには、該当する列見出しをクリックします。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Monitoring/viewingOrchestrationJobLogs.html

許可

『許可』のトピックでは、ユーザー・プロファイルの作成、パスワードの設定と変更、ユーザーの作成と管理、およびグループの作成と管理について説明します。

- [組み込みグループについて](#)
- [ライブラリー環境について](#)
- [ユーザー・プロファイルについて](#)
- [グループへのユーザーの割り当て](#)
- [パスワードの変更](#)
- [ユーザー・パスワードの変更](#)
- [新規グループの作成](#)
- [新規ユーザーの作成](#)
- [グループの削除](#)
- [ユーザーの削除](#)
- [プロジェクト構成許可の付与](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/toc_permissions.html

組み込みグループについて

組み込みグループは事前定義のグループです。クラウドの各環境には、テナント管理者グループに加えて、組み込みの管理者グループ、パブリッシャー・グループ、およびユーザー・グループがあります。

例えば、組織用に「Cumulus」というテナントを作成します。このテナントに、2つの環境（開発および実稼働）があるものとします。以下の組み込みグループを使用できます。

- admin [cumulus.com]
- admin [開発]
- publisher [開発]
- user [開発]
- admin [実稼働]
- publisher [実稼働]
- user [実稼働]

同じユーザーが複数のグループに属することができます。ユーザーを組み込みグループに割り当てることも、新規グループを作成することもできます。

注: プロジェクト構成許可をグループに付与すると、そのグループのユーザーは、プロジェクト構成に対する全アクセス権限を備えることになります。ユーザーは、プロジェクト構成の新規バージョンの作成およびプロジェクト構成の編集と削除を行うことができます。

以下のリストに、各組み込みグループに付与される許可を定義します。

- **テナント管理者グループ。** 特定のテナント内のすべての環境、ユーザー、グループ、およびプロジェクトに対する特権を提供します。ユーザーが、テナント内のユーザーおよびカスタム・グループを作成、

編集、および削除できるようにします。このグループのユーザーは、テナント内の任意の組み込みグループまたはカスタム・グループのユーザーを追加および削除できます。このグループのユーザーは、テナント内のすべてのソース・プロジェクトの許可を表示、編集、および削除できます。

このグループのユーザーは、テナント内のすべての環境を表示でき、また各テナント環境内の環境管理者のすべての許可を備えています。

- **環境管理者グループ。** 特定の環境内のすべてのユーザー、グループ、およびプロジェクトに対する特権を提供します。ユーザーが、特定の環境内のユーザーおよびカスタム・グループを作成、編集、および削除できるようにします。このグループのユーザーは、環境内の任意の組み込みグループまたはカスタム・グループのユーザーを追加および削除できます。

環境管理者は、任意の環境パブリッシャーが公開するプロジェクトのプロジェクト構成を作成およびデプロイしたり、環境内の任意のプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ詳細を表示したりすることもできます。環境管理者グループ特権を備えたユーザーは、同じ環境のパブリッシャーが個別プロジェクト構成に設定した許可を編集できます。

環境管理者グループのメンバーは環境パブリッシャー・グループと環境ユーザー・グループの特権を備えています。環境管理者グループのメンバーは、明示的にそのユーザーを追加しない限り、同じ環境内の他のグループに表示されません。

- **環境パブリッシャー・グループ。** 特定の環境内のプロジェクト特権を提供します。ユーザーが、自ら環境内に公開した任意のプロジェクトのプロジェクト構成を作成、デプロイ、または削除できるようにします。このグループのユーザーは、オーケストレーションを開始および停止したり、自分が環境内にデプロイしたプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ詳細を表示したりすることもできます。環境パブリッシャーは、自分が作成する個別プロジェクト構成の許可を、同じ環境の環境パブリッシャー特権を備えた別のユーザーに付与できます。


環境パブリッシャー・グループのメンバーは、そのユーザーを明示的に追加しない限り、環境ユーザー・グループに表示されません。

- **環境ユーザー・グループ。** ユーザーが、特定の環境内のアラートおよびオーケストレーションをモニターできるようにします。このグループのユーザーは、プロジェクトを作成および編集できますが、プロジェクトを環境に公開できません。プロジェクトの公開先となる特定の環境のパブリッシャー特権を備えている必要があります。すべてのユーザーは、自動的に環境ユーザー・グループのメンバーになります。

マルチ環境テナントでは、このグループのユーザーには、自分がメンバーである環境の環境タブしか表示されません。例えば、テナントに「開発」環境、「ステージング」環境、および「実稼働」環境があるものとします。テナント管理者または「開発」環境の管理者がユーザーを User [開発] グループに追加したとします。ユーザーがテナントにログインすると、テナントには他に2つの環境があるにもかかわらず、ユーザーには「開発」環境しか表示されません。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

ライブラリー環境について


ライブラリー環境は、Studio がコネクター・ライブラリーを取得する元となる環境を指定するユーザー・プロファイル・パラメーターです。

マルチ環境テナントでは、各環境には異なるバージョンのコネクター・ライブラリーがインストールされている可能性があります。このパラメーターを設定することで、プロジェクトの検査時に使用するライブラリーを Studio に指示します。追加ライブラリーをインストールする必要があるエンドポイントをプロジェクトで使わない場合は、このパラメーターはあまり重要ではありません。追加ライブラリーをインストールする必要があるエンドポイントの完全なリストについては、コネクターのリリース・ノートを参照してください。

注: 選択する環境は、ユーザーがメンバーである 1 次グループの環境に一致している必要があります。例えば、「開発」環境をライブラリー環境として選択した場合は、「開発」環境内のグループのメンバーでなければなりません。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/aboutLibrariesEnvironments.html>

ユーザー・プロファイルについて

ユーザー・プロファイルは、ユーザー詳細 (名前、表示名、Eメール、グループ・メンバーシップなど) の要約を提供します。表示されるユーザー・プロファイルは、管理コンソールに現在ログインしているユーザーのものであります。

「ユーザー・プロファイル」ウィンドウから、ユーザー・パスワードを変更したり、ライブラリー環境を指定したりすることができます。

親トピック: [許可](#)


ユーザー・プロファイル情報へのアクセス

手順

1. 管理コンソールの右上隅にあるユーザー名をクリックします。「ユーザー・プロファイル」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. オプション: 「パスワードの変更」をクリックして、ユーザー・パスワードを変更します。
3. オプション: 「ライブラリー環境の変更 (Change Libraries Environment)」をクリックして、Studio がコネクター・ライブラリーを取得する元となる環境を指定します。

4. 「保存」をクリックして、ユーザー・プロファイルに対する更新を保存します。
5. 「閉じる」をクリックして、「ユーザー・プロファイル」ウィンドウを閉じます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/aboutUserProfiles.html>

グループへのユーザーの割り当て


ユーザーをグループに割り当てるには、テナント管理者特権または環境管理者特権を備えている必要があります。環境管理者は、自分が属する特定の環境のグループにのみユーザーを追加できます。

ユーザーを作成または編集する際にユーザーをグループに割り当てることができます。また、グループを作成または編集する際にユーザーをグループに追加することもできます。

ユーザーおよびグループの割り当てについては、[新規ユーザーの作成](#)および[新規グループの作成](#)を参照してください。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/assigningUsersToGroups.html>

パスワードの変更

このタスクについて

自分のパスワードはいつでも変更できます。ただし、別のユーザーのパスワードを変更するには、テナント管理者許可が必要です。環境管理者は、環境内のユーザーのパスワードを変更することはできません。

例えば、あるユーザーが「開発」環境の管理者であるとします。このユーザーは自分のパスワードを変更することはできますが、「開発」環境に対する許可を備えた任意の特定ユーザーのパスワードを変更することはできません。

手順

1. 管理コンソールの右上隅にあるユーザー名をクリックします。「ユーザー・プロフィール」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「パスワードの変更」をクリックします。
3. 「旧パスワード (Old Password)」、「新規パスワード」、および「確認パスワード」の各フィールドに値を入力します。

「パスワード・テキストを非表示にする (Hide Password Text)」オプションをクリアすると、パスワードが表示され、以後暗号化されなくなります。


4. 「保存」をクリックして、パスワードを変更します。

タスクの結果

管理コンソールで新規パスワードが正常に保存されると、確認メッセージが表示されます。

親トピック: [許可](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/changingPassword.html>

ユーザー・パスワードの変更

このタスクについて

自分のパスワードはいつでも変更できます。ただし、別のユーザーのパスワードを変更するには、テナント管理者許可が必要です。環境管理者は、環境内のユーザーのパスワードを変更することはできません。

例えば、あるユーザーが「開発」環境の管理者であるとします。このユーザーは自分のパスワードを変更することはできますが、「開発」環境に対する許可を備えた任意の特定ユーザーのパスワードを変更することはできません。

別のユーザーのパスワードを変更するには、以下のようになります。

手順

1. 管理コンソールにテナント管理者としてログインします。
2. 「セットアップ」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
3. パスワードを変更するユーザーの名前をクリックします。
4. 「ユーザーの編集 (Edit User)」ウィンドウで、パスワードを入力し、パスワードを確認します。

「パスワード・テキストを非表示にする (Hide Password Text)」オプションをクリアすると、パスワードが表示され、以後暗号化されなくなります。


5. 「保存」をクリックして、パスワードを変更します。

タスクの結果

管理コンソールで新規パスワードが正常に保存されると、確認メッセージが表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/changingPasswordOthers.html>

新規グループの作成

始める前に

クラウドでは、新規グループを作成できるのはテナント管理者ユーザーのみです。マルチ環境テナントでは、環境管理者も自分が属する特定の環境の新規グループを作成できます。

物理統合アプライアンスまたは仮想統合アプライアンスでは、新規グループを作成できるのは管理者ユーザーのみです。

手順

1. 管理コンソールで管理者としてログインします。
2. 「セットアップ」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
3. 「新規グループ」ダイアログ・ボックスで、新規グループの「名前」および「表示名」を入力します。
4. 「有効範囲 (Scope)」リストで、グループに付与する許可の有効範囲を選択します。テナント全体または特定の環境に対する許可を付与するように選択できます。
5. 「ユーザー」リストで、グループに参加するユーザーを選択します。

「ユーザー」チェック・ボックスを選択して、リスト内のすべてのユーザーを選択します。

6. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」ページの「グループ」セクションに、新規グループがアルファベット順で表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

新規ユーザーの作成

始める前に

クラウドでは、新規ユーザーを作成できるのはテナント管理者ユーザーのみです。マルチ環境テナントでは、環境管理者も自分が属する特定の環境の新規ユーザーを作成できます。

物理統合アプライアンスまたは仮想統合アプライアンスでは、新規ユーザーを作成できるのは管理者ユーザーのみです。

手順

1. 管理コンソールで管理者としてログインします。
2. 「セットアップ」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
3. 「新規ユーザー (New User)」ウィンドウで、「名前」、「表示名」、「Eメール、パスワード」、および「確認パスワード」の各フィールドに値を入力します。

テナント名をユーザー名および表示名に追加することをお勧めします。

例えば、テナント名が `castiron.com` の場合は、新規ユーザー名は `newuser@castiron.com` のようにしてください。これにより、クラウド内の複数のテナントにおける共通のユーザー名を識別できるようになります。

「パスワード・テキストを非表示にする (Hide Password Text)」オプションをクリアすると、パスワードが表示され、以後暗号化されなくなります。

4. 「ライブラリー環境 (Libraries Environment)」リストで、ユーザーのプロジェクトがエンドポイント用の追加ライブラリーおよびファイルを取得できる環境を選択します。選択する環境は、ユーザーがメンバーである1次グループの環境に一致する必要があります。例えば、「開発」環境をライブラリー環境として選択した場合は、「開発」環境内のグループのメンバーでなければなりません。
5. 「グループ」リストで、新規ユーザーがアクセス権限を備えるすべてのグループを選択します。
6. オプション: 「アクティブ (Active)」チェック・ボックスをクリアします。このオプションをクリアすると、ユーザーは管理コンソールにログインできなくなります。
7. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」ページの「ユーザー」セクションに、新規ユーザーがアルファベット順で表示されます。

親トピック: [許可](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/creatingNewUser.html>

グループの削除

始める前に

クラウドでは、グループをクラウド環境から削除できるのはテナント管理者ユーザーのみです。マルチ環境テナントでは、環境管理者も自分が属する特定の環境のグループを削除できます。

物理統合アプライアンスまたは仮想統合アプライアンスでは、グループを削除できるのは管理者ユーザーのみです。

手順

1. 管理コンソールで、「セットアップ」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
2. 「グループ」セクションで、削除するグループを選択します。
3. 「削除」をクリックします。
4. 「はい」をクリックして、選択したグループを管理コンソールで削除することを確認します。

タスクの結果

管理コンソールでグループのリストが最新表示されます。

親トピック: [許可](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/deletingGroups.html>

ユーザーの削除

始める前に

クラウドでは、ユーザーをクラウド環境から削除できるのはテナント管理者ユーザーのみです。マルチ環境テナントでは、環境管理者も自分が属する特定の環境のユーザーを削除できます。

物理統合アプライアンスまたは仮想統合アプライアンスでは、ユーザーを削除できるのは管理者ユーザーのみです。

手順


1. 管理コンソールで管理者としてログインします。
2. 「セットアップ」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
3. 「ユーザー」セクションで、削除するユーザーを選択します。
4. 「削除」をクリックします。
5. 「はい」をクリックして、選択したユーザーを管理コンソールで削除することを確認します。

タスクの結果

管理コンソールでユーザーのリストが最新表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/deletingUsers.html>

プロジェクト構成許可の付与

始める前に

プロジェクト構成を作成、編集、または削除するための許可を他のユーザーまたはグループに付与するには、管理者特権を備えているか、プロジェクトのパブリッシャーでなければなりません。

このタスクについて

ユーザーまたはグループに許可を付与すると、そのユーザーまたはグループのメンバーは、プロジェクト構成を編集または削除できるようになります。デフォルトでは、プロジェクト構成に対する許可は管理者グループのみに付与されています。許可を別のグループに付与する場合は、明示的に付与する必要があります。

例えば、自分がパブリッシャー権限を備えたユーザーであり、組み込みのパブリッシャー・グループに属しているものとします。プロジェクトを公開します。管理者グループと自分のみが、プロジェクト構成に対する許可を備えています。(自分がメンバーである)パブリッシャー・グループのメンバーは、プロジェクト構成に対する許可を持ちません。プロジェクト構成に対する許可を編集して、パブリッシャーなどの別のグループを含める必要があります。

手順

1. プロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
2. 「許可」セクションで、許可を付与するユーザーまたはグループを選択します。


3. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

これで、選択したすべてのユーザーおよびグループは、プロジェクト構成に対する全アクセス権限を持つようになりました。これらのユーザーおよびグループは、新規プロジェクト構成を作成したり、当該プロジェクト構成および自分が作成した任意の新規プロジェクト構成を編集したり、ソース・プロジェクトを削除したりすることができます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Permissions/grantingProjectConfigurationPermissions.html>


セキュア・コネクターの使用

『セキュア・コネクターの使用』のトピックでは、セキュア・コネクターの作成、インストール、および管理について説明します。

- [セキュア・コネクターについて](#)
- [セキュア・コネクターの最小要件](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターの使用に必要な最小システム要件について説明します。
- [セキュア・コネクターの作成](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターの作成について説明します。
- [セキュア・コネクター構成ファイルのダウンロード](#)
セキュア・コネクター構成ファイルのダウンロード方法。
- [セキュア・コネクターのインストール](#)
セキュア・コネクター・インストーラーをダウンロードしてセキュア・コネクターをインストールするための手順について説明します。
- [セキュア・コネクター用のベンダー提供ライブラリーのインストール](#)
一部のエンドポイントの場合は、セキュア・コネクターがそれらのエンドポイントと通信できるようにするために、追加のライブラリーをインストールする必要があります。このセクションでは、クラウド管理コンソールを使用したこれらのベンダー提供ライブラリーのインストールについて説明します。ベンダー提供ライブラリーが必要なコネクターの完全なリストについては、クラウド管理コンソールで「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開いてください。
- [SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール](#)
Studio から SAP システムに接続するには、ご使用の Windows 開発マシンに SAP DLL および jar ファイルをインストールする必要があります。SAP サポート・ポータルに入ってファイルをダウンロードするには、SAP ログイン資格情報が必要です。
- [セキュア・コネクターのアンインストール \(Windows\)](#)
このトピックでは、Windows マシンからのセキュア・コネクターのアンインストールについて説明します。

- [セキュア・コネクターのアンインストール \(Linux\)](#)
このトピックでは、Linux マシンからのセキュア・コネクターのアンインストールについて説明します。
- [セキュア・コネクターの開始および停止](#)
『セキュア・コネクターの開始および停止』のトピックでは、Windows マシンおよび Linux マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。Windows マシンの場合は、インストール中に選択したオプションによって、セキュア・コネクターを開始および停止する方法に影響が及びます。セキュア・コネクターを自動 Windows サービスとしてインストールした場合 (この方法を推奨します)、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用してセキュア・コネクターの停止または開始を行えます。セキュア・コネクターを Windows アプリケーションとしてインストールした場合は、Windows の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。Linux マシンの場合は、グラフィカル・インターフェースを使用するかコマンド・ラインからコマンドを実行することによってセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。
- [セキュア・コネクターのアップグレード](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターのアップグレードについて説明します。
- [セキュア・コネクターのトラブルシューティング](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターで発生する問題に対する可能な解決策について説明します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/toc_using_secure_connectors.html

セキュア・コネクターについて


セキュア・コネクターにより、IBM® WebSphere® Cast Iron® Cloud とファイアウォールの背後にあるエンドポイントとの間におけるデータのセキュア転送を容易に実現できます。

セキュア・コネクターを使用可能にするには、テナント管理者が以下の作業を実行する必要があります。

- セキュア・コネクターを作成します。
- セキュア・コネクターの構成ファイルをダウンロードします。
- セキュア・コネクターのインストーラーを起動します。
- ベンダー提供ライブラリーをインストールします。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/aboutSecureConnectors.html

セキュア・コネクターの最小要件

このトピックでは、セキュア・コネクターの使用に必要な最小システム要件について説明します。

セキュア・コネクターは、以下のオペレーティング・システムで実行できます。


- Microsoft Windows XP
- Microsoft Windows 2000
- Linux

セキュア・コネクターの最小システム要件は以下のとおりです。

- 800 MHz CPU
- 768 MB RAM
- Java 1.6 以上

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/secureConnectorMinimumRequirements.html

セキュア・コネクターの作成

このトピックでは、セキュア・コネクターの作成について説明します。

このタスクについて

管理コンソールを使用して、環境用のセキュア・コネクターを作成します。

クラウド内にセキュア・コネクターを作成した後に、ファイアウォールの背後にあるマシンを構成して、セキュア・コネクターとファイアウォールの背後にある特定のエンドポイントの間の通信が容易になるようにする必要があります。セキュア・コネクター・インストーラーを使用して、ファイアウォールの背後にあるマシンを構成します。


注: セキュア・コネクターを作成する対象のエンドポイントに追加ライブラリーが必要な場合は、セキュア・コネクターを使用するプロジェクト構成をデプロイする前に、管理コンソールを使用してライブラリーをインストールしてください。

手順

1. 環境タブのナビゲーション・ペインから、「システム」 > 「セキュア・コネクター」を選択します。
2. 「新規セキュア・コネクター (New Secure Connector)」をクリックします。「セキュア・コネクターの作成 (Create Secure Connector)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 新規セキュア・コネクターの名前を入力します。
4. セキュア・コネクターの要旨を入力します。
5. 「保存」をクリックします。「セキュア・コネクター」ページにセキュア・コネクターが表示されます。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/creatingSecureConnectors.html

セキュア・コネクター構成ファイルのダウンロード

セキュア・コネクター構成ファイルのダウンロード方法。

このタスクについて

構成ファイルは、ダウンロードすると、デフォルト・ダウンロード・ディレクトリーに保存されます。構成ファイルを別の場所に保存することを選択できます。ダウンロードした構成ファイルの数にかかわらず、セキュア・コネクターのインストール処理中に使用できる構成ファイルは1つのみです。

セキュア・コネクターをセットアップするためにある構成ファイルを選択すると、以後のセキュア・コネクターの構成にもその構成ファイルが使用されます。同じ構成ファイルを使用して複数のセキュア・コネクターを構成することはお勧めしません。代わりに、新しい構成ファイルを使用するか、既存の構成ファイルを変更してください。「ゲートウェイ (Gateway)」、「listen 対象ポート (Listen to Port)」、および「送信ポート (Transmit to Port)」のパラメーターは、必ずセキュア・コネクターごとに固有な値を指定してください。

セキュア・コネクターの構成ファイルにより、セキュア・コネクター・インストーラーに以下のパラメーターの値が提供されます。

- **セキュア・コネクター名** - 作成したセキュア・コネクターの名前を指定します。
- **テナント ID (Tenant ID)** - テナントの 16 進の UUID を指定します。この情報を取得するには、クラウドにログインして、「セットアップ」 > 「サポート情報」を選択します。「サポート情報」ページが表示されます。当該テナントの「ID (Identifier)」列の値をコピーします。値をコピーするには、セルの値を選択して、右クリックし、メニューからコピーを選択します。
- **環境 ID (Environment ID)** - 環境の 16 進の UUID を指定します。この情報を取得するには、クラウドにログインして、「セットアップ」 > 「サポート情報」を選択します。「サポート情報」ページが表示されます。セキュア・コネクターをインストールする環境の「ID (Identifier)」列の値をコピーします。値をコピーするには、セルの値を選択して、右クリックし、メニューからコピーを選択します。
- **Cloud ゲートウェイ (Cloud Gateway)** - ゲートウェイ名を指定します。


- **listen 対象ポート (Listen on Port)** - このパラメーターを変更するのは、指定されているポートを別のサービスが使用しているか、ボックスで複数のセキュア・コネクターを実行する場合のみにしてください。
- **送信ポート (Transmit on Port)** - このパラメーターを変更するのは、指定されているポートを別のサービスが使用しているか、ボックスで複数のセキュア・コネクターを実行する場合のみにしてください。
- **セキュア・コネクター認証鍵 (Secure Connector Auth Key)** - クラウド内に作成したセキュア・コネクターの認証鍵を指定します。
- **セキュア・コネクター秘密鍵 (Secure Connector Private Key)** - クラウド内にセキュア・コネクターを作成するときにダウンロードした認証秘密鍵を指定します。

手順

1. クラウド管理コンソールにテナント管理者としてログインします。
2. 環境タブのナビゲーション・ペインから、「システム」 > 「セキュア・コネクター」を選択します。
3. 「セキュア・コネクター」ウィンドウで、ファイアウォールの背後にあるエンドポイントと通信するセキュア・コネクターをクリックします。「セキュア・コネクターの編集 (Edit Secure Connector)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「セキュア・コネクター構成のダウンロード (Download Secure Connector Configuration)」をクリックし、「今すぐダウンロード (Download Now)」をクリックします。「セキュア・コネクター構成を開く (Opening Secure Connector Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「ファイルの保存 (Save File)」を選択して「OK」をクリックします。構成ファイルが、現行ユーザーのデフォルト・ダウンロード・ディレクトリーに保存されます。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/downloading_secure_connector_configuration_files.html

セキュア・コネクターのインストール

セキュア・コネクター・インストーラーをダウンロードしてセキュア・コネクターをインストールするための手順について説明します。

始める前に

Windows インストール済み環境の場合は、既存のバージョンのセキュア・コネクターがインストールされていないことを確認してください。以前のバージョンがインストールされている場合は、アンインストールしてから続行してください。

Linux インストール済み環境の場合は、以前のセキュア・コネクターのインストール済み環境をアンインストールする必要はありませんが、アンインストールしておくことを強く推奨します。

Linux マシンの場合は、グラフィカル・インターフェースを提供するために、GNOME や KDE などのデスクトップ環境をインストールしてください。

このタスクについて

クラウド内にセキュア・コネクターを作成した後に、ファイアウォールの背後にあるマシンを構成して、セキュア・コネクターとファイアウォールの背後にある特定のエンドポイントの間の通信が容易になるようにする必要があります。セキュア・コネクター・インストーラーを使用して、ファイアウォールの背後にあるマシンを構成します。

注: インストーラーの実行に選択するマシンは、エンドポイントにアクセスできる必要があります。エンドポイントと同じマシンでインストーラーを実行する必要はありません。

セキュア・コネクター・インストーラーをダウンロードするには、次のようにします。

1. クラウド管理コンソールにテナント管理者としてログインします。
2. 環境タブのナビゲーション・ペインから、「システム」 > 「セキュア・コネクター」を選択します。
3. 「セキュア・コネクター」ウィンドウで、ファイアウォールの背後にあるエンドポイントと通信するセキュア・コネクターをクリックします。「セキュア・コネクターの編集 (Edit Secure Connector)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「インストーラーのダウンロード (Download Installer)」をクリックして、インストーラーのダウンロード先マシンのオペレーティング・システム (Windows または Linux) を選択します。
5. 「ファイルの保存 (Save File)」をクリックします。ファイルがデフォルト・ダウンロード・ディレクトリに保存されます。

セキュア・コネクターをインストールするには、次のようにします。

1. ダウンロードしたセキュア・コネクター・インストーラーを起動します。
 - windows-secure-connector-installer.exe (Windows の場合)
 - linux-secure-connector-installer.sh (Linux の場合)

セキュア・コネクター・インストーラー・ウィザードが表示されます。

2. 「次へ」をクリックし、ご使用条件に同意します。
3. 「次へ」をクリックし、インストール・ディレクトリを選択します。
4. 「次へ」をクリックします。メッセージ・ウィンドウに、ターゲット・ディレクトリの作成先が表示されます。

注: インストール・ディレクトリが存在する場合は、警告メッセージが表示され、インストールおよび既存のファイルの上書きを許可する必要があります。

5. 「OK」をクリックします。
6. セキュア・コネクターを開始、停止、および編集するためのショートカット・オプションをセットアップします。
 - a. 以下のいずれかまたは両方のオプションを選択します。
 - 「スタート」メニューにショートカットを作成する。(Create shortcuts in the Start menu.)
 - デスクトップに追加のショートカットを作成する。(Create additional shortcuts on the desktop.)
 - b. ショートカットにアクセスするプログラム・グループを選択します。
 - c. 現行ユーザーのためのショートカットを作成するか、すべてのユーザーのショートカットを作成するかを選択します。
7. 「次へ」をクリックします。インストールの進行状況が表示されます。
8. セキュア・コネクターの構成ファイルを選択します。セキュア・コネクターの構成ファイルをまだダウンロードしていない場合は、この時点でダウンロードします。セキュア・コネクター構成ファイルのダ


ダウンロード方法について詳しくは、[セキュア・コネクタ構成ファイルのダウンロード](#)を参照してください。

9. 「次へ」をクリックします。
10. Windows にインストールする場合は、セキュア・コネクタを Windows サービスとしてインストールし、実行することを選択します。セキュア・コネクタを Windows サービスとしてインストールすると、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用してセキュア・コネクタを制御できます (推奨)。セキュア・コネクタを Windows サービスとしてインストールおよび実行しないことを選択する場合は、セキュア・コネクタは Windows アプリケーションとしてインストールされます。セキュア・コネクタを Windows サービスとして実行するには、以下のサービス・アカウント情報を指定する必要があります。
 - サービスの開始モード
 - サービス・アカウント・ドメイン
 - サービス・アカウント・ユーザー
 - サービス・アカウント・パスワード
11. 「次へ」をクリックします。インストールが完了します。
12. 「完了」をクリックします。

注: エンドポイント (例: SAP) に追加ライブラリーが必要な場合は、セキュア・コネクタを開始する前に追加ライブラリーをインストールする必要があります。追加ライブラリーのインストールについて詳しくは、[セキュア・コネクタ用のベンダー提供ライブラリーのインストール](#)を参照してください。

親トピック: [セキュア・コネクタの使用](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/installingSecureConnectors.html

セキュア・コネクタ用のベンダー提供ライブラリーのインストール

一部のエンドポイントの場合は、セキュア・コネクタがそれらのエンドポイントと通信できるようにするために、追加のライブラリーをインストールする必要があります。このセクションでは、クラウド管理コンソールを使用したこれらのベンダー提供ライブラリーのインストールについて説明します。ベンダー提供ライブラリーが必要なコネクタの完全なリストについては、クラウド管理コンソールで「コネクタ・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開いてください。

このタスクについて

追加ライブラリーが必要なコネクタを統合プロジェクトで使用する場合は、プロジェクト構成をデプロイする前に追加ライブラリーをインストールする必要があります。追加ライブラリーをインストールする前にプロジェクト構成をデプロイすると、ランタイム・エラーが発生します。ベンダー提供ライブラリーが必要なコネクタの完全なリストについては、「コネクタ・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開いてください。以下の手順を参照してください。

マルチ環境テナントがある場合は、追加ライブラリーが必要なコネクターを使用するプロジェクト構成をデプロイする各環境にサード・パーティー・ライブラリーをインストールする必要があります。

例えば、3つの環境（開発、ステージング、および実稼働）を備えたテナントがあるとします。「開発」環境および「実稼働」環境でSAPエンドポイント用のプロジェクト構成を公開します。プロジェクト構成をデプロイするには、「開発」環境と「実稼働」環境の両方に追加SAPライブラリーを事前にインストールしておく必要があります。SAPライブラリーのインストールについて詳しくは、[SAP Jar ファイルおよびDLLのダウンロードおよびインストール](#)を参照してください。

手順

1. 環境タブをクリックします。
2. 「システム」 > 「コネクター・ライブラリー (Connector Libraries)」を選択して、「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開きます。
3. 「コネクター」列で、追加ファイルをインストールするコネクターを選択します。

既にインストールされているファイルはすべて、「インストール済みファイル (Installed Files)」列に表示されます。


4. (+) アイコンをクリックして、アップロードするライブラリー・ファイル（複数可）を選択します。クラウドでは、.jar および .dll が有効なライブラリー・ファイル・タイプです。選択したファイルは、「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されます。
5. 「更新 (Update)」をクリックします。

「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されるファイルは、「更新」をクリックするまでコミットされません。「更新」をクリックする前に「リセット」をクリックした場合は、クラウド管理コンソールはアップロードしたファイルを追加しません。「更新」をクリックして追加ファイルをコミットする前にクラウド管理コンソールがタイムアウトした場合は、最後の2つのステップを繰り返してください。

6. 同じ環境タブで、「システム」 > 「セキュア・コネクター」を選択します。
7. 「ライブラリーのダウンロード (Download Libraries)」をクリックして、libraries.zip ファイルをワークステーションに保存します。
8. libraries.zip ファイルを unzip して、各コネクター・モジュールの *.tp-1.0.0.jar を見つけます。
9. libraries.zip 内の .jar ファイルを使用して、セキュア・コネクターのインストール・ディレクトリー下の lib/plugins 内のファイルを置き換えます。
10. 残りのすべての .zip ファイルをセキュア・コネクターのインストール・ディレクトリー下の lib/thirdparty にコピーします。
11. コマンド・ラインから、以下のファイルのいずれかを実行して、セキュア・コネクターを再始動します。
 - Windows の場合: runclient_osgi.bat
 - Linux の場合: runclient_osgi.sh

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SAP Jar ファイルおよび DLL のダウンロードおよびインストール

Studio から SAP システムに接続するには、ご使用の Windows 開発マシンに SAP DLL および jar ファイルをインストールする必要があります。SAP サポート・ポータルに入ってファイルをダウンロードするには、SAP ログイン資格情報が必要です。

このタスクについて

SAP jar ファイルおよび DLL をダウンロードしてインストールするには、次のようにします。

1. SAP 技術サポートに連絡して、以下の SAP コンポーネントの zip ファイルを入手します。
 - **SAP JCo リリース 3.0.6 以上のバージョン (Studio を実行するプラットフォームに応じたもの)。**
2. 以下のようにして、SAP JCo zip ファイルを unzip します。
 - sapjdoc30P_6-1000xxxx.zip ファイルをダブルクリックします。
 - 解凍ツールを使用して、圧縮ファイルの内容を一時ディレクトリーに解凍します。この zip ファイルには、別の zip ファイル sapjco3-NTintel-3.0.6.zip が入っています。この zip も一時ディレクトリー (C:\temp\sapjco3-NTintel-3.0.6 など) に解凍します。このディレクトリーに、必要なライブラリー sapjco3.jar および sapjco3.dll が入ります。
3. 以下のようにして、SAP IDoc JCo zip ファイルを unzip します。
 - sapjdoc30P_6-1000xxxx.zip ファイルをダブルクリックします。
 - 解凍ツールを使用して、圧縮ファイルの内容を一時ディレクトリー (C:\temp\sapjdoc30P_6-1000xxxx など) に解凍します。このディレクトリーに、必要なライブラリー sapidoc3.jar が入ります。

手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」を選択します。
2. 「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスが表示されたら、SAP コネクタの下にあるプラス (+) ボタンをクリックします。

テキスト入力フィールドおよび「参照」ボタンが表示されます。


3. 「参照」をクリックし、参照ダイアログ・ボックスを使用して sapjco3.jar ファイルを探し、選択します。
4. 「開く」をクリックして JAR ファイルの内容をインポートします。
5. 次に使用可能なプラス (+) ボタンをクリックして、sapidoc3.jar ファイルおよび sapjco3.dll ファイルを追加します。
6. 「プロバイダーの追加」ダイアログ・ボックスに jar ファイルがリストされたら、「OK」をクリックします。

タスクの結果

Studio を再始動して変更内容をアクティブにするように求めるプロンプトが表示されます。

次のタスク

SAP エンドポイントおよびオーケストレーションを作成できるようになりました。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/Downloading_and_Installing_the_SAP_Jar_File_and_DLLs.html

セキュア・コネクターのアンインストール (Windows)

このトピックでは、Windows マシンからのセキュア・コネクターのアンインストールについて説明します。


このタスクについて

以下の手順を実行すると、セキュア・コネクターおよびそのすべての構成設定をアンインストールできます。

手順

1. ブラウザーやコマンド・シェルなど、別のプログラムがセキュア・コネクターのディレクトリーを開いていないことを確認します。
2. Windows の「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」を選択します。
3. Windows の「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」を選択します。「アンインストーラー (Uninstaller)」ウィンドウが表示されます。
4. C:\Program Files\IBM\Secure_Connector_<connector_name> の「削除の強制 (Force the deletion)」を選択します。
5. 「アンインストール」をクリックします。
6. ステータス・バーに [終了しました] と表示されたら、「アンインストーラー (Uninstaller)」ウィンドウを閉じることができます。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/uninstallingsecureconnectorswindows.html

セキュア・コネクターのアンインストール (Linux)

このトピックでは、Linux マシンからのセキュア・コネクターのアンインストールについて説明します。

始める前に

Linux マシンからセキュア・コネクターをアンインストールするには、root レベルの許可が必要です。

このタスクについて

アンインストールは、グラフィカル・インターフェースを使用するか、コマンド・ラインのコマンドを実行するか、Java のアンインストール .jar ファイルを実行することで行えます。セキュア・コネクターおよびすべての構成設定を Linux マシンからアンインストールするには、以下のいずれかのオプションを選択します。

グラフィカル・インターフェースを使用したセキュア・コネクターのアンインストール: この手順を使用して正常にセキュア・コネクターをアンインストールするには、GNOME や KDE などのデスクトップ環境が必要です。

1. ブラウザーやコマンド・シェルなど、別のプログラムがセキュア・コネクターのディレクトリーを開いていないことを確認します。
2. アプリケーション・ディレクトリーから、「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」を選択します。
3. アプリケーション・ディレクトリーから、「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」を選択します。

コマンド・プロンプトからのセキュア・コネクターのアンインストール:


1. ブラウザーやコマンド・シェルなど、別のプログラムがセキュア・コネクターのディレクトリーを開いていないことを確認します。
2. コマンド・プロンプトから `./util/uninstall.sh` コマンドを実行します。

.jar ファイルによるセキュア・コネクターのアンインストール。 この手順を使用して正常にセキュア・コネクターをアンインストールするには、Java™ バージョン 1.6 以上がインストールされている必要があります。

1. ブラウザーやコマンド・シェルなど、別のプログラムがセキュア・コネクターのディレクトリーを開いていないことを確認します。
2. コマンド・プロンプトで `runclient_osgi.sh stop` コマンドを入力します。
3. セキュア・コネクターをインストールしたディレクトリー内で Uninstaller サブディレクトリーにナビゲートして、`uninstaller.jar` ファイルを見つけます (`"${JAVA}" -jar "${INSTALL_DIR}/Uninstaller/uninstaller.jar"`)。ここで、`{JAVA}` は Java 実行可能プログラムで、`{INSTALL_DIR}` はセキュア・コネクターの名前です。
4. `uninstaller.jar` ファイルをダブルクリックします。ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「削除の強制... (Force the Deletion...)」オプションを選択します。
6. 「アンインストール」をクリックします。
7. 「終了 (Quit)」をクリックします。

タスクの結果

セキュア・コネクターがアンインストールされます。構成設定はホーム・ディレクトリーに保持されています。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/uninstallingSecureConnectorLinux.html

セキュア・コネクターの開始および停止

『セキュア・コネクターの開始および停止』のトピックでは、Windows マシンおよび Linux マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。Windows マシンの場合は、インストール中に選択したオプションによって、セキュア・コネクターを開始および停止する方法に影響が及びます。セキュア・コネクターを自動 Windows サービスとしてインストールした場合 (この方法を推奨します)、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用してセキュア・コネクターの停止または開始を行えます。セキュア・コネクターを Windows アプリケーションとしてインストールした場合は、Windows の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。Linux マシンの場合は、グラフィカル・インターフェースを使用するかコマンド・ラインからコマンドを実行することによってセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。

- [Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 \(Windows サービスとしてインストールした場合\)](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターを Windows サービスとしてインストールした Windows マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。
- [Windows サービスで対話モードを使用可能にする](#)
セキュア・コネクターが Windows サービスとしてインストールされている場合は、サービスに対して対話モードを使用可能にして、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウを表示します。
- [Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 \(Windows アプリケーションとしてインストールした場合\)](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターを Windows アプリケーションとしてインストールした Windows マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。
- [Linux でのセキュア・コネクターの開始および停止](#)
このトピックでは、Linux マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/toc_starting_stopping_secure_connectors.html

Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 (Windows サービスとしてインストールした場合)

このトピックでは、セキュア・コネクターを Windows サービスとしてインストールした Windows マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。

このタスクについて

セキュア・コネクターを自動 Windows サービスとしてインストールした場合 (この方法を推奨します)、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用してセキュア・コネクターの停止または再始動を行います。

セキュア・コネクターが Windows サービスとしてインストールされている場合、デフォルトでは、セキュア・コネクターは Windows デスクトップと対話するようには構成されていません。ただし、セキュア・コネクター・サービスがローカル・システム・アカウントにインストールされた場合は、セキュア・コネクター・サービスの実行中に、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウを提供する対話モードを使用可能にすることができます。

Windows サービスで対話モードを使用可能にするための手順については、『Windows サービスで対話モードを使用可能にする』を参照してください。

注: 「**セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)**」の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターを開始すると、セキュア・コネクターはサービスとしてではなく、通常のアプリケーションとして開始します。セキュア・コネクターをサービスとして開始するには、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用する必要があります。「**セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)**」の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターを停止することができます。


Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用したセキュア・コネクターの開始および停止:

手順

1. Windows サービスのウィンドウを開きます (「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」)。
2. サービスのリストをスクロールダウンして、IBM® セキュア・コネクター・サービスを探します。
3. IBM セキュア・コネクター・サービスを右クリックし、適切なコマンド (「開始」、「停止」、「一時停止」、「再開」、または「再始動」) を選択します。

親トピック: [セキュア・コネクターの開始および停止](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/starting_stopping_secure_connectors_windows_services.html

Windows サービスで対話モードを使用可能にする

セキュア・コネクターが Windows サービスとしてインストールされている場合は、サービスに対して対話モードを使用可能にして、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウを表示します。

このタスクについて

セキュア・コネクターが Windows サービスとしてインストールされている場合、デフォルトでは、セキュア・コネクターは Windows デスクトップと対話するようには構成されていません。ただし、セキュア・コネクター・サービスがローカル・システム・アカウントにインストールされた場合は、セキュア・コネクター・サービスの実行中に、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウを提供する対話モードを使用可能にすることができます。

手順

1. 「サービス」コントロール・パネルを開きます。例: 「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」。
2. 「Cast Iron Secure Connector」サービスを選択します。
3. サービス名を右クリックして「プロパティ」を選択します。サービスの「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「ログオン」タブを選択します。
5. 「ローカルシステム アカウント」を選択してから、「デスクトップとの対話をサービスに許可」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。
7. 「再起動」をクリックします。


タスクの結果

Cast Iron セキュア・コネクター・サービスが再起動すると、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウが表示されます。

注: コマンド・ウィンドウを最小化できます。ただし、コマンド・ウィンドウを閉じると、Cast Iron セキュア・コネクター・サービスは停止して終了します。コマンド・ウィンドウを閉じることは、Windows の「サービス」コントロール・パネルからセキュア・コネクター・サービスを停止することと同じです。

親トピック: [セキュア・コネクターの開始および停止](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/enablinginteractivemodeforwindowsservices.html

Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 (Windows アプリケーションとしてインストールした場合)

このトピックでは、セキュア・コネクターを Windows アプリケーションとしてインストールした Windows マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。

このタスクについて


セキュア・コネクターを Windows サービスではなく、Windows アプリケーションとして Windows マシンにインストールした場合は、Windows の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。

手順

- Windows の「スタート」メニュー・ショートカット、またはデスクトップ・ショートカットのいずれかからセキュア・コネクターを開始します。
 - Windows の「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)」を選択します。
 - Windows デスクトップで、「セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)」ショートカットをクリックしてセキュア・コネクターを開始します。
- セキュア・コネクターは、Windows の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットのいずれかから停止します。
 - Windows の「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」を選択します。
 - Windows デスクトップで、「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」ショートカットをクリックしてセキュア・コネクターを停止します。

親トピック: [セキュア・コネクターの開始および停止](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/starting_stopping_secure_connectors_windows_applications.html

Linux でのセキュア・コネクターの開始および停止

このトピックでは、Linux マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。

このタスクについて


GNOME や KDE などのデスクトップ環境がある場合は、メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。コマンド・ラインを使用してセキュア・コネクターを開始および停止することもできます。

手順

- セキュア・コネクタは、メニュー・ショートカット、デスクトップ・ショートカット、またはコマンド・ラインのいずれかから開始します。以下のいずれかのオプションを選択します。
 - <application> > 「IBM® > Cast Iron® セキュア・コネクタ <connector_name> (IBM Cast Iron Secure Connector connector_name)」 > 「セキュア・コネクタの開始 (Start Secure Connector)」を選択します。
 - デスクトップで、「セキュア・コネクタの開始 (Start Secure Connector)」ショートカットをクリックしてセキュア・コネクタを開始します。
 - コマンド・プロンプトから `runclient_osgi.sh start` と入力します。
- セキュア・コネクタは、メニュー・ショートカット、デスクトップ・ショートカット、またはコマンド・ラインのいずれかから停止します。以下のいずれかのオプションを選択します。
 - <application> > 「IBM > Cast Iron セキュア・コネクタ <connector_name> (IBM Cast Iron Secure Connector connector_name)」 > 「セキュア・コネクタの停止 (Stop Secure Connector)」を選択します。
 - デスクトップで、「セキュア・コネクタの停止 (Stop Secure Connector)」ショートカットをクリックしてセキュア・コネクタを停止します。
 - コマンド・プロンプトから `runclient_osgi.sh stop` と入力します。

親トピック: [セキュア・コネクタの開始および停止](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/starting_stopping_secure_connectors_linux.html

セキュア・コネクタのアップグレード

このトピックでは、セキュア・コネクタのアップグレードについて説明します。


手順

- 以前のバージョンのセキュア・コネクタをアンインストールするには、「セキュア・コネクタのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」メニュー・ショートカットまたは「セキュア・コネクタのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」デスクトップ・ショートカットをクリックします。このショートカットは、セキュア・コネクタを停止してアンインストールするとともに、セキュア・コネクタの構成ファイルを削除するバッチ・ファイルを起動します。
- 新しいセキュア・コネクタを作成します。
- 新しいセキュア・コネクタ構成ファイルをダウンロードします。
- Windows マシンまたは Linux マシンにセキュア・コネクタをインストールします。インストール処理では、構成ファイルが使用されて必要な構成パラメーターが取り込まれます。
 - 既存のセキュア・コネクタをアンインストールしないことにした場合は、構成設定を更新できます。「Cast Iron® セキュア・コネクタ」ウィザードを使用すると、ガイドに従って更新処理を実行できます。
 - セキュア・コネクタのインストーラーを起動します。既存のインストール済み環境が存在し、構成設定の更新を選択することもできることを示す警告メッセージが表示されません。

- b. 「はい」をクリックします。「Cast Iron セキュア・コネクター」ウィザードが起動します。
 - c. 「次へ」をクリックします。現在のセキュア・コネクター構成が表示されます。
 - d. 以下のいずれかの手順を実行して、セキュア・コネクターの構成を変更します。
 - 「Cloud ゲートウェイ (Cloud Gateway)」、「listen 対象ポート (Listen on Port)」、および「送信ポート (Transmit on Port)」の各パラメーターを変更し、「次へ」をクリックします。または
 - 「前へ」ボタンをクリックして、新しいセキュア・コネクター・ファイルを選択します。
 - i. 「次へ」をクリックし、構成設定を確認します。
 - ii. 「次へ」をクリックします。
 - e. プロキシ・サーバーの設定 (「プロキシ・サーバー (Proxy Server)」、「プロキシ・ポート」、「ログイン ID (Login ID)」、「ログイン・パスワード (Login Password)」、および「パスワード再入力 (Retype Password)」) を指定します。これらのパラメーターは、ネットワークの要件として、セキュア・コネクターがプロキシを使用して Cast Iron Cloud ゲートウェイに接続する必要がある場合に限って必須です。
 - f. 「次へ」をクリックします。アップグレードが完了します。
5. 統合アプライアンスで実行するために追加のライブラリーが必要なエンドポイント用のベンダー提供ライブラリーをインストールします。
 6. セキュア・コネクターを開始します。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/upgradingsecureconnectors.html

セキュア・コネクターのトラブルシューティング

このトピックでは、セキュア・コネクターで発生する問題に対する可能な解決策について説明します。

検討のためにセキュア・コネクターのログ・ファイルを使用できます。ログ・ディレクトリーは、セキュア・コネクターを初めて開始した後に作成されます。ログ・ディレクトリーは、セキュア・コネクターのインストール・ディレクトリー内にあります。例: C:\Program Files\IBM\Secure_Connector_1.development\logs

- **ポート競合エラーが発生する。**ポート競合エラーは、2つのセキュア・コネクターが同じポートとゲートウェイを使用するように構成されている場合に発生する可能性があります。この問題を解決するには、各セキュア・コネクター構成ファイルのゲートウェイ (Gateway)、listen 対象ポート (Listen on Port)、および送信ポート (Transmit on Port) の各パラメーターに固有な値を指定してください。
- **セキュア・コネクターをアンインストールするための .jar ファイルを実行できない。**Java™ のパスが正しく指定されていること、および Java バージョン 1.6x 以上がマシンにインストールされていることを確認してください。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Secure_Connector/troubleshooting_secureconnectors.html

セキュリティ

『セキュリティ』のトピックでは、証明書の生成および管理について説明します。

- [証明書について](#)
- [セキュリティ設定の編集](#)
- [証明書のエクスポート](#)
- [証明書署名要求の生成](#)
- [自己署名証明書の生成](#)
- [証明書のインポート](#)
- [証明書別名の名前変更](#)
- [証明書のアップロード](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/toc_security.html

証明書について

証明書により、統合アプライアンスと、イントラネットおよびエクストラネット内にあるエンドポイントとの間でセキュア通信が可能になります。管理コンソールを使用して証明書を管理します。

「証明書」ページから、セキュリティ証明書およびセキュリティ設定を生成、インポートおよび更新できます。


以下の表に、証明書に関する用語の定義を示します。

証明書に関する用語	定義
-----------	----

証明書に関する用語	定義
別名	名前を分かりやすくするために、鍵ストアまたはトラストストアのエントリに割り当てる、英数字から成る文字列。鍵ストアまたはトラストストア内で、別名を使用して鍵および証明書を指すことができます。 注: 別名では大/小文字は区別されません。例えば、「MyCert」と「mycert」は同じエントリを指します。
証明書	エンドポイントまたは組織を識別する署名付き資格情報。
鍵ペア	公開鍵とそれに関連付けられた秘密鍵。
鍵ストア	Java™ SSL エンドポイントによって使用される秘密鍵と証明書を保管する Java データ・ストア。例えば、ローカル Java エンドポイントは、その鍵ストアの証明書を資格情報として提供して、リモート SSL エンドポイントに対して自身を識別させます。
PKI	Public Key Infrastructure。暗号鍵および ID 情報を管理するためのシステム。このシステムは、インターネットを介した通信を防御/保護するための標準ベース・システムを提供することを目的としています。
秘密鍵	単一のエンドポイントにのみ認識されている鍵。データの暗号化や、署名に使用されます。
公開鍵	任意のユーザーに配布できる、秘密鍵に関連付けられた鍵。
SSL	Secure Sockets Layer。これにより、セキュア Web 通信が可能になり、オプションで、エンドポイント間の相互認証ができます。
トラストストア	認証局署名証明書を保管する Java データ・ストア。例えば、ローカル Java エンドポイントはトラストストアを使用して、リモート SSL エンドポイントから渡された ID (証明書) を認証します。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/aboutCertificates.html>

セキュリティ設定の編集


手順

1. 「鍵ストア」セクションで、「生成 (Generate)」をクリックします。「自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signing Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「設定」セクションで「編集」をクリックします。「設定の編集 (Edit Settings)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 設定を編集する証明書別名を選択します。

4. 暗号強度を選択します。
 - 標準 (Standard)
 - 強 (Strong)
5. 「保存」をクリックします。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/editingSecuritySettings.html>


証明書のエクスポート

手順

1. 「鍵ストア」セクションで、「生成 (Generate)」をクリックします。「自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signing Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「鍵ストア」セクションで別名をクリックします。「証明書詳細 (Certificate Details)」ウィンドウが表示されます。
3. 「エクスポート」をクリックします。「証明書のエクスポート (Export Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. エクスポート・フォーマットを選択します。
5. パスワードを入力します。
6. 「エクスポート」をクリックします。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/exportingCertificates.html>

証明書署名要求の生成


手順

1. 「鍵ストア」セクションで、「生成 (Generate)」をクリックします。「自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signing Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 「鍵ストア」セクションで別名をクリックします。「証明書詳細 (Certificate Details)」ウィンドウが表示されます。
3. 「CSR の生成 (Generate CSR)」をクリックします。「証明書のコンテンツ (Certificate Content)」ウィンドウが表示されます。
4. 「コピー」をクリックします。ウィンドウのコンテンツ全体がコピーされます。
5. 「ダウンロード」をクリックして、ダウンロード先ロケーションを入力します。
6. 「保存」をクリックします。証明書のコンテンツが、指定したロケーションにダウンロードされます。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/generatingCertificateSigningRequests.html>

自己署名証明書の生成

手順

1. 「鍵ストア」セクションで、「生成 (Generate)」をクリックします。「自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signing Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 以下のパラメーターの値を指定します。
 - 別名 - 鍵ペアの識別に使用する名前。
 - 共通名 (CN)
 - 組織 (O)
 - 組織単位 (OU)
 - 国 (C) - リストから国を選択します。
 - 都道府県 (ST)
 - ロケール (L)
 - E メール (EMAILADDRESS)
 - OID -
 - 鍵アルゴリズム (Key Algorithm) - リストからアルゴリズム・タイプを選択します。
 - 鍵の長さ (Key Length) - リストから値を選択します。
 - 有効期間: (Valid For:) - この証明書を有効にする期間 (年数および日数) を指定します。
3. 「生成 (Generate)」をクリックします。

タスクの結果

鍵ストア表に自己署名証明書が表示されます。

親トピック: [セキュリティ](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/generatingSelfSignedCertificates.html

証明書のインポート

このタスクについて

証明書または証明書チェーンを IBM® WebSphere® Cast Iron の鍵ストアにインポートできます。また、トラステッド認証局証明書 (CA 証明書) をトラストストアにインポートすることもできます。

手順

1. 「鍵ストア」セクションで、「生成 (Generate)」をクリックします。「自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signing Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「鍵ストア」または「トラストストア」セクションで、「インポート」をクリックします。「証明書のインポート (Import Certificates)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 別名を指定します。この名前は、インポートされた証明書または証明書チェーンを識別するために使用されます。
4. オプション: 鍵のパスワードを指定します。

このパスワードは、別名に関連付けられた鍵ペアの秘密鍵を保護します。パスワードを指定しなかった場合は、パスワードは鍵ストアを保護するパスワードにデフォルト設定されます。

5. 証明書をトラステッド・サイトからインポートする場合は、「トラステッド (Trusted)」オプションを選択します。

「トラステッド (Trusted)」オプションを選択した場合は、証明書は、既存のトラスト・チェーンの検査なしでインポートされます。「トラステッド (Trusted)」オプションを選択しなかった場合は、鍵ストアおよびトラストストアが検査され、インポートされる証明書のトラスト・チェーンの存在が確認されます。

6. コンテンツをファイルからインポートするか、インポートする証明書または証明書チェーンが入ったクリップボードのコンテンツからインポートすることを選択します。


サポートされるフォーマットには、CER/PEM (RFC 1421)、DER、PKCS7、および PKCS12 があります。

7. 「インポート」をクリックします。

タスクの結果

「証明書」ページに証明書が表示されます。

親トピック: [セキュリティ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/importingCertificates.html>

証明書別名の名前変更


手順

1. 「鍵ストア」セクションで、「生成 (Generate)」をクリックします。「自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signing Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「証明書」ページで「別名」を選択します。「証明書詳細 (Certificate Details)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「名前変更」をクリックします。
4. 「別名」フィールドに、新規別名を入力します。
5. 「適用」をクリックします。

タスクの結果

「証明書」ページに、更新された別名が表示されます。

親トピック: [セキュリティ](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/renamingCertificateAlias.html>

証明書のアップロード


手順

1. 「鍵ストア」セクションで、「生成 (Generate)」をクリックします。「自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signing Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「鍵ストア」セクションで別名を選択します。「証明書詳細 (Certificate Details)」ウィンドウが表示されます。
3. 「アップロード」をクリックします。「証明書の更新 (Update Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 証明書をトラステッド・サイトにアップロードする場合は、「トラステッド (Trusted)」オプションを選択します。

5. コンテンツをファイルからアップロードするか、クリップボード内のコンテンツからアップロードすることを選択します。
6. 「インポート」をクリックします。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Security/uploadingCertificates.html>

ログの処理

『ログの処理』のトピックでは、システム設定の指定およびシステム・ログの表示について説明します。

- [システム・ログ設定の指定](#)
- [システム・ログの表示](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Working_with_Logs/toc_working_with_logs.html

システム・ログ設定の指定

このタスクについて

システム・ログに表示される詳細レベルを指定できます。指定するログ・レベルは、通知ポリシーのアラートに影響します。アラートは、指定したログ・レベルを満たすイベントまたは超過したイベントについてのみ送信されます。

注: イベントの通知を受信しない場合は、通知をトリガーするエントリが生成されるようにシステム・ログ・レベルを設定していない可能性があります。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「ログ (Logs)」 > 「システム・ログ (System Log)」を選択します。「システム・ログ (System Log)」ページが表示されます。


2. 「設定」をクリックします。「システム・ログ設定 (System Log Settings)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. リストから、各システムのログ・レベルを選択します。
4. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

確認メッセージが表示されます。システム・ログは、特定のシステムについて発生した、指定したレベル以上のすべてのイベントをログに記録します。例えば、デプロイメントに対して「エラー」レベルを選択した場合は、デプロイメント・システム内で発生した、「エラー」レベルまたは「クリティカル (Critical)」レベルのイベントがすべてログに記録されます。

親トピック: [ログの処理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Working_with_Logs/specifyingSystemLogSettings.html

システム・ログの表示

このタスクについて

システム・ログを管理コンソールで表示し、システム・ログ・フィルターを使用してシステム・ログ・エントリーをソートできます。

アップグレード時に、管理コンソールはシステム・ログを保持しません。システム・ログ情報を保持する場合は、アップグレード前にシステム・ログをエクスポートしてください。

注: 管理コンソールには、最大で 99,999 件のシステム・ログ・エントリーが表示されます。システム・ログ・エントリー数が 99,999 件を超過する場合は、最も古いエントリーがシステム・ログから削除されます。

手順

1. ナビゲーション・ペインから、「ログ (Logs)」 > 「システム・ログ (System Log)」を選択します。「システム・ログ (System Log)」ページが表示されます。
2. 「システム・ログ (System Log)」ページの上部にあるリストからフィルター値を選択します。

イベントの重大度のレベル、ログ・イベントを生成した環境システム、日付、および解決の状態によって、ログ・エントリーをフィルターに掛けることができます。フィルターは AND ロジックを使用します。


親トピック: [ログの処理](#)

システム・ログの内容

システム・ログは、以下の情報を提供します。

システム・ログの内容	説明
レベル	ログ・イベントの重大度を以下に示すレベルで識別します。 <ul style="list-style-type: none">• クリティカル (Critical)• エラー• 警告• 情報
システム	ログ・イベントが発生したシステムを識別します。
メッセージ	ログ・イベントの詳細を提供するテキスト・メッセージ。
ジョブ	オーケストレーション・システムで発生したログ・イベントのジョブ ID 情報が表示されます (使用可能な場合)。
時間 (When)	ログ・イベントが発生した時刻を記録します。
解決時刻 (Resolved On)	ログ・イベントが解決されたときのタイム・スタンプを提供します。
解決したユーザー (Resolved By)	ログ・イベントを解決したユーザーを識別します。
解決済み (Resolved)	このチェック・ボックスは、自分がログ・イベントを解決したことを認知する場合に選択します。ユーザーがログ・イベントを解決すると、タイム・スタンプによって、問題が解決された日時が記録されます。ログ・イベントを解決したユーザーに関する情報は、「解決したユーザー (Resolved By)」列で追跡されます。「すべて解決 (Resolve All)」をクリックすることで、システム・ログのすべての問題を解決できます。解決されていないログ・イベントの隣にあるチェック・ボックスをクリアすると、「解決時刻 (Resolved On)」の値および「解決したユーザー (Resolved By)」の値がクリアされます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.live.doc/Working_with_Logs/viewingSystemLogs.html

Web 管理コンソールについて

Web 管理コンソール (WMC) に関するトピックでは、WMC についての一般情報を説明します。

- [管理コンソール設定について](#)
「設定」リンクから、各種ユーザー・プロファイル、セッション、および表示設定を管理できます。

Web 管理コンソールでは、言語は英語のみをサポートします。「設定」リンクは、管理コンソールの右上隅にあります。


- [技術サポートへの連絡](#)

IBM® サポート・ページを通じて技術サポートの問題を送信してください。

- [管理コンソールのナビゲート](#)

管理コンソールは、統合環境の各種システムとリソースを管理およびモニターできるようにする Web ベースのツールです。この環境は、物理的な統合アプライアンスにすることも、WebSphere® Cast Iron® Cloud の環境にすることもできます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/About_the_WMC/toc_about_the_wmc.html

管理コンソール設定について

「設定」リンクから、各種ユーザー・プロファイル、セッション、および表示設定を管理できます。Web 管理コンソールでは、言語は英語のみをサポートします。「設定」リンクは、管理コンソールの右上隅にあります。

「設定」ダイアログ・ボックスから、以下の設定を表示および編集することができます。

表 1. ユーザー・プロファイル設定

ユーザー・プロファイル設定	説明
ユーザー名	現在ログインしているユーザーの名前。
表示名	コンソールに表示され、ログに示される名前。
パスワード	現在のユーザーのパスワード。 <ul style="list-style-type: none">• 最小長は 8 文字• 最大長は 15 文字• 以下の 4 つのカテゴリのうちの 3 つからの文字を含める必要がある。<ol style="list-style-type: none">1. 大文字2. 小文字3. 数字4. 記号 (例: !、\$、#、%)• ユーザー名の文字サブストリング 3 文字を含めてはならない• 前のパスワードの文字サブストリング 3 文字を含めてはならない
E メール	現在のユーザーの E メール・アドレス。E メール通知がこのアドレスに送信されます。
ユーザー・グループ	ユーザーがメンバーであるユーザー・グループ。

ログイン・ポリシー

単一のユーザーが5回連続でログインに失敗した場合 (期間を問わない)、そのユーザーは15秒間待機してからでないと再度ログインできません。

その後、ログインが失敗するごとに、待機間隔の上限に達するまで待機間隔が2倍になっていきます。待機間隔の上限は1時間です。ユーザーが正常にログインすると、ユーザーのログイン失敗カウントおよび待機間隔がリセットされます。

表 2. セッション設定

セッション設定	説明
非アクティブ・タイムアウト (Inactivity Timeout)	現行ユーザーが非アクティブ状態のままこの時間だけ経過すると、コンソールがそのユーザーをログオフさせます。以下のタイムアウト間隔のいずれかを選択できます。 <ul style="list-style-type: none">• 5分• 15分• 30分• 60分• なし
ダッシュボードのリフレッシュ間隔	ここに指定された時間だけ経過すると、コンソールがビューをリフレッシュします。以下のリフレッシュ間隔のいずれかを選択できます。 <ul style="list-style-type: none">• 15秒• 30秒• 60秒• オフ (Off)


表 3. 表示設定

表示設定	説明
時間帯 (Time Zone)	コンソールに表示される時間を指定できます。以下の表示モードのいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none">• 現地時間 (GMT-0800)• リモート時間 (GMT)• グリニッジ標準時
ジョブ・ログのページ・サイズ (Page Size for Jobs Log)	コンソールに表示されるジョブ・ログの行数を指定することができます。表示する行数として15行、25行、50行、100行のいずれかを選択できます。
システム・ログのページ・サイズ (Page Size for System Log)	コンソールに表示されるシステム・ログの行数を指定することができます。表示する行数として15行、25行、50行、100行のいずれかを選択できます。

表示設定	説明
最近のジョブの最大存続期間 (Maximum Age for Recent Jobs)	コンソールに表示される最近のジョブの存続期間を指定できます。例えば、1 時間を選択した場合、1 時間よりも長く経過しているジョブは表示されません。1 時間、2 時間、4 時間、8 時間、1 日間、2 日間、5 日間、または 1 週間までのジョブを含めるようにすることができます。
最近の構成の最大存続期間 (Maximum Age for Recent Configurations)	コンソールに表示される最近のプロジェクト構成の存続期間を指定できます。例えば、1 日間を選択した場合、1 日より長く経過しているプロジェクト構成は表示されません。1 日間、2 日間、5 日間、1 週間、2 週間、3 週間、または 4 週間までのプロジェクト構成を含めるようにすることができます。

親トピック: [Web 管理コンソールについて](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/About_the_WMC/consoleSettings.html


技術サポートへの連絡

IBM® サポート・ページを通じて技術サポートの問題を送信してください。

詳しくは、『<http://www.ibm.com/support/jp/ja/>』を参照してください。

親トピック: [Web 管理コンソールについて](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/About_the_WMC/contactingTechnicalSupport.html

管理コンソールのナビゲート

管理コンソールは、統合環境の各種システムとリソースを管理およびモニターできるようにする Web ベースのツールです。この環境は、物理的な統合アプライアンスにすることも、WebSphere® Cast Iron® Cloud の環境にすることもできます。

管理コンソールの左にあるナビゲーション・ペインには、各種システムおよびリソースを表示、構成したり、それらに対してアクションを実行したりすることができる各ページのメニューが表示されます。

管理者として管理コンソールにログオンした場合、以下のレポートを表示できます。


- **公開詳細:** 公開された構成、その公開者、およびその公開日時が表示されます。
- **ログイン履歴:** アプライアンスにログオンした1人または複数のユーザーのログイン履歴が表示されます。ログイン履歴には、ユーザーの名前、ログイン日時、およびログアウト日時が含まれます。

ブラウザーの戻るボタンおよび進むボタンを使用して、管理コンソールのページを開いた順に移動することはできません。管理コンソールのページを開いた順に移動するには、管理コンソールの右上隅にある戻る矢印と進む矢印を使用します。

右上隅には、現在ログインしているユーザーも表示されています。「設定」 > 「ユーザー・プロフィール」をクリックして、「ユーザー・プロフィール」ウィンドウを開きます。

親トピック: [Web 管理コンソールについて](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/About_the_WMC/navigatingMgmtConsole.html

ローカル・ステージング・データベース

ローカル・ステージング・データベースのトピックでは、Web 管理コンソールでのローカル・ステージング・データベースの使用に関する情報を説明します。

- [ローカル・ステージング・データベースについて](#)
- [ローカル・ステージング・データベースの開始](#)
- [ローカル・ステージング・データベースの停止](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Local_Staging_Database/toc_local_staging_database.html

ローカル・ステージング・データベースについて

Studio では、データのクレンジングとターゲット・システムへの素早いマイグレーションに役立つように、ソース・システムのデータをソートおよびマージするデータ品質アクティビティーを含むプロジェクトを作成できます。プロジェクト内のデータ品質アクティビティーが、ソース・システムからのデータを反復的に(「良

い」データと「悪い」データをソートしながら) 処理しているときに、統合アプライアンスはそのデータをローカル・ステージング・データベースに保管できます。

WMC から、ローカル・データベース表およびルックアップ・テーブルを表示して、処理されたデータに対して必要に応じてさらに変更を加えることができます。ローカル・ステージング・データベースでテーブルを表示して操作を実行するには、該当する許可が必要です。

重要: WMC でデータベース・ビューアーを表示するには、ローカル・ステージング・データベースを開始しておく必要があります。

データベース・ビューアーのペイン

データベース・ビューアーは、3つのペインから構成されています。

「データベース・オブジェクト」ペイン

このペインはデータベース・ビューアーの左側にあり、ローカル・ステージング・データベース内のすべてのテーブル (フィールドおよび行を含む) を表示します。

「照会」ペイン

このペインはデータベース・ビューアーの右上にあり、照会を確認してローカル・ステージング・データベースへ実行依頼するためのワークスペースを提供します。各照会を別々のタブで管理できます。各タブで以下の操作を実行できます。

- 照会の妥当性検査
- 照会の実行依頼
- 照会のクリア
- タブを閉じる


「要約」ペイン

このペインはデータベース・ビューアーの右下にあり、「結果」と「履歴 (History)」という2つのタブがあります。

- 「結果」タブ - 照会によって返された行の要約を表示します。
- 「履歴 (History)」タブ - ローカル・ステージング・データベースで発生したイベントのログを表示します。ログに記録されたイベントごとにタイム・スタンプが示されます。イベントのログは、WMC が開いている間は保持されます。WMC を閉じると、「履歴 (History)」タブはクリアされます。

親トピック: [ローカル・ステージング・データベース](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Local_Staging_Database/aboutLocalStagingDB.html

ローカル・ステージング・データベースの開始

このタスクについて

WMC から、ローカル・ステージング・データベースを開始および停止できます。データを表示または更新するには、ステージング・データベースを開始する必要があります。デフォルトでは、ステージング・データベースは停止状態にあります。停止状態では、ステージング・データベースを表示または更新することはできません。データベースを停止すると、すべてのユーザーのすべてのセッションも停止します。


組み込みの管理者グループに属するメンバーに付与される管理者特権を持つユーザーのみが、ローカル・ステージング・データベースで操作を開始、停止、および実行することができます。パブリッシャー特権を持つユーザーは、管理者特権を持つユーザーによってローカル・ステージング・データベースが既に開始されている場合、データベースを表示することのみ可能です。ローカル・ステージング・データベースが開始されていない場合、パブリッシャー特権を持つユーザーは、データベースを表示できません。組み込みのユーザー・グループに属するか、または LDAP サーバーで作成された WMC ログイン資格情報を持つユーザーは、ローカル・ステージング・データベースにアクセスすることはできません。

手順

1. ナビゲーション・ペインから、「システム (System)」 > 「ステージング DB (Staging DB)」を選択します。「ステージング DB (Staging DB)」ページが表示されます。
2. 「データベースの開始 (Start Database)」をクリックします。

親トピック: [ローカル・ステージング・データベース](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Local_Staging_Database/startingLocalStagingDB.html

ローカル・ステージング・データベースの停止

このタスクについて

WMC から、ローカル・ステージング・データベースを開始および停止できます。データを表示または更新するには、ステージング・データベースを開始する必要があります。デフォルトでは、ステージング・データベースは停止状態にあります。停止状態では、ステージング・データベースの表示も更新もできません。データベースを停止すると、すべてのユーザーのすべてのセッションも停止します。

組み込みの管理者グループに属するメンバーに付与される管理者特権を持つユーザーのみが、ローカル・ステージング・データベースで操作を開始、停止、および実行することができます。パブリッシャー特権を持つユーザーは、管理者特権を持つユーザーによってローカル・ステージング・データベースが既に開始されている場合、データベースを表示することのみ可能です。ローカル・ステージング・データベースが開始されていない場合、パブリッシャー特権を持つユーザーは、データベースを表示できません。組み込みのユーザー・グループ


ブに属するか、または LDAP サーバーで作成された WMC ログイン資格情報を持つユーザーは、ローカル・ステージング・データベースにアクセスすることはできません。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「システム (System)」 > 「ステージング DB (Staging DB)」を選択します。「ステージング DB (Staging DB)」ページが表示されます。
2. 「データベースの停止 (Stop Database)」をクリックします。

親トピック: [ローカル・ステージング・データベース](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Local_Staging_Database/stoppingLocalStagingDB.html

メモリー管理のベスト・プラクティス

正常なランタイム環境を維持し、メモリー不足エラーを回避するための、メモリー管理のベスト・プラクティスの概要を説明します。

統合アプライアンスでは、オーケストレーション・ジョブを実行するためのメモリーのプールを確保しておきます。このメモリー・プールの管理は、正常なランタイム環境を維持するために重要です。

使用されるメモリーの量と、ガーベッジ・コレクション・サイクルの間には直接の関係があります。ガーベッジ・コレクションは、完了したジョブおよび変数データによって確保されているメモリーを、すべてのオーケストレーション・ジョブによって使用されるメモリーのプールに戻すプロセスです。このガーベッジ・コレクション・プロセスにより、統合アプライアンスで、新規オーケストレーション・ジョブが使用できる空きメモリーが継続的に提供されるようになります。

ガーベッジ・コレクション (GC) は、オーケストレーション・ジョブのパフォーマンスに影響せずに、バックグラウンドで実行される継続的なプロセスです。しかし、メモリーがクリティカルしきい値に達すると、フル・ガーベッジ・コレクションとして知られる、さらに徹底した処理が行われます。フル・ガーベッジ・コレクション・プロセスは、すべての実行中のジョブをスリープ状態にして、使用されていないメモリーをプールに戻します。フル・ガーベッジ・コレクションの間は、すべてのオーケストレーション・ジョブが停止するため、頻繁にフル・ガーベッジ・コレクションが行われると、オーケストレーションのパフォーマンスに影響する可能性があります。

「リソース使用状況 (Resource Utilization)」グラフ上の「GC アクティビティ (GC Activity)」値が定期的に急増する場合は、メモリーの需要が大きいために、統合アプライアンスが、フル・ガーベッジ・コレクション・サイクルを開始する頻度を上げることによって、その需要に対応しようとしていると考えられます。ただし、メモリー使用量が多い場合に、必ずフル・ガーベッジ・コレクション・サイクルが増加するわけではありません。例えば、実行時間の短いオーケストレーションが多量に行われる場合、使用中のメモリーの割合は大きくなります。しかし、バックグラウンドで常に実行されているガーベッジ・コレクション・サイクルが、メモリーをメモリー・プールに戻す処理を十分に短時間でを行い、全体のメモリー使用量がフル・ガーベッジ・コレクションをトリガーするほど多くなりません。フル・ガーベッジ・コレクションはすべての

オーケストレーションを停止するため、頻繁にフル・ガーベッジ・コレクションが行われると、オーケストレーションのパフォーマンスに影響する可能性があります。

メモリー使用量が多いためにフル・ガーベッジ・コレクション・サイクルが頻繁に発生する可能性の高いシナリオとして、複数のオーケストレーション・タイプの混用が挙げられます。例えば、多数の変数が大規模なオブジェクトを処理する、実行時間が長く永続しない複数のオーケストレーションがある場合などです。このようなタイプのオーケストレーションが、多量のメモリーを消費して拘束すると、そのメモリーが迅速にメモリー・プールに戻されない可能性があります。

注: このようなタイプのオーケストレーションは、Cast Iron® では推奨されません。

次の表に、メモリー使用量を管理し、正常なランタイム環境を維持するために役立つベスト・プラクティスのリストを示します。


表 1. メモリー管理のベスト・プラクティス

ベスト・プラクティスの原則	説明
ロギング・レベルを低くする。	<p>ロギングが詳細になるほど、データの処理と保管に必要なメモリーの量は増え、統合アプライアンス・ディスクでの入出力の負荷も増えるため、パフォーマンスが低下する可能性があります。詳細ロギング・レベルは、デバッグの目的のみに推奨され、大量のデータが処理される実稼働環境では推奨されません。</p> <p>統合アプライアンスは、システム・ログおよびオーケストレーション・ジョブ・ログを生成します。</p> <p>Cast Iron では、システム・ログで追跡されるすべてのコンポーネントについて、システム・ログ・レベルを「警告」に設定することを推奨しています。</p> <ul style="list-style-type: none">• ハードウェア• リソース• ネットワーク• セキュリティー• オーケストレーション• デプロイメント <p>各種システム・コンポーネントによって生成された警告の数が多い場合は、メモリー使用量が問題となる可能性があります。警告が生成される原因となっている問題を解決するか、システム・ロギング・レベルを「エラー」に引き上げてください。システム・ログ・レベルの設定について詳しくは、システム・ログ設定の指定を参照してください。</p> <p>オーケストレーション・ロギング・レベルは、プロジェクト内のオーケストレーションごとに指定されます。Cast Iron では、統合アプライアンス上のすべてのプロジェクトの下にあるすべてのオーケストレーションに対して、ロギング・レベルを「エラー値 (Error Values)」に設定することを推奨しています。オーケストレーション・ログ・レベルの設定について詳しくは、オーケストレーション設定の編集を参照してください。</p>

ベスト・プラクティスの原則	説明
すべてのオーケストレーションでパーシスタンスが使用可能であることを確認する。	<p>デフォルトでは、オーケストレーションのパーシスタンスが有効になっており、変数データはメモリーではなくディスクに書き込まれます。パーシスタンスを有効にすることで、実行時に障害が発生した場合にポイント・イン・タイム・データ・リカバリーを行うことができるというメリットが得られます。</p> <p>オーケストレーションのパーシスタンスを無効にした場合、データはメモリーに格納されます。パーシスタンスを無効にすると、パフォーマンスを向上させることができますが、実行中のジョブの数が増えるにつれて、メモリーが不足する可能性も高くなります。メモリー不足になるリスクが大きいため、パーシスタンスを無効にすることを選択した場合は、特別な注意を払って処理を進めてください。</p> <p>注: パーシスタンスをオフにすると、統合アプライアンスが同時に実行可能なオーケストレーション・ジョブの数が少なくなります。統合アプライアンスで使用可能なメモリーの量によって、制限が設定されます。</p>
Web 管理コンソール (WMC) および Studio で使用可能なスケジューリング機能を使用して、オーケストレーション・ジョブが重ならないように調整する。	<p>メモリーを多く使用するジョブを、異なるタイミングで開始するか、オフピーク時間に実行するようにスケジュールすることによって、メモリーの負荷をある程度軽減し、フル・ガーベッジ・コレクションの回数を減らします。これによりパフォーマンスが向上する可能性があります。</p> <p>Studio では、「ジョブのスケジュール」アクティビティを使用するか、オーケストレーションでのアクティビティのポーリング間隔を構成することで、オーケストレーション・ジョブが重ならないように調整し、リソースの使用率を最大にすることができます。WMC でスケジュールを作成して、統合アプライアンスがいつオーケストレーション・ジョブを実行するかを制御することもできます。ジョブのスケジュールを最適化することができるように、所定のオーケストレーション・ジョブの平均実行時間を測定してください。</p>
オーケストレーションで使用される変数の数を最小限にする。	<p>オーケストレーションで使用する変数の数が増えるほど、データを格納するために必要なメモリーの量が増えます。すると、それにより、ガーベッジ・コレクション・サイクルの数が増え、パフォーマンスに影響する可能性があります。オーケストレーションを見直し、使用される変数の数を減らすことができるかどうかを調べてください。</p>
同時に実行されるジョブの数を減らす。	<p>WMC では、オーケストレーションの、同時に実行されるジョブの最大数を指定することができます。同時に実行されているオーケストレーションの数が増えると、メモリーの使用率も増加します。メモリーが過負荷になりつつあることに気付いたら、同時に実行されているジョブの数を減らしてください。</p> <p>同時に実行されるジョブの数を減らすと、多数の変数を含む実行時間の長い非永続オーケストレーション・ジョブの場合に、顕著な効果があります。</p> <p>注: このようなタイプのオーケストレーションは、Cast Iron では推奨されません。</p>
メモリーの負荷が 75% を超えないようにする。	<p>WMC の「リソース使用状況 (Resource Utilization)」グラフで、使用されているメモリーの割合を追跡することができます。使用中のメモリーの割合がおよそ 75% 以下である場合、統合アプライアンスには、さらにオーケストレーションを処理できるだけの容量があります。使用中のメモリーの割合がおよそ 75% を超えた場合、フル・ガーベッジ・コレクションの回数が増えるため、パフォーマンス上の問題が認められる可能性が高くなります。</p>

ベスト・プラクティスの原則	説明
フル・ガーベッジ・コレクション・サイクルを制限する。	WMC の「リソース使用状況 (Resource Utilization)」グラフで、「GC アクティビティ (GC Activity)」の値を使用して、フル・ガーベッジ・コレクションの割合を追跡することができます。この割合が 50% を超えた場合、オーケストレーション・ジョブのスループットの減少が見られる可能性があります。メモリー管理のベスト・プラクティスを実施して、メモリー使用量を削減し、それによってフル・ガーベッジ・コレクション・サイクルが発生する可能性を低くします。
ご使用の環境に統合アプライアンスをさらに追加する。	ベスト・プラクティスの原則を実施した後も、依然としてメモリー使用量が多い場合は、ご使用の環境に統合アプライアンスをもう 1 つ追加することが選択肢として考えられます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Best_Practices/best_practices.html


統合アプライアンスの管理

統合アプライアンスの管理のトピックでは、サード・パーティー・ライブラリーのダウンロード、リポジトリのインポートおよびエクスポート、さらに Web 管理コンソールのコマンドの記述方法および使用方法に関する情報について説明します。

- [コネクターについて](#)
- [システムの要約](#)
- [SAP ライブラリー・ファイルのダウンロードおよびインストール](#)
- [SAP コネクター用のセキュア・ネットワーク通信 \(SNC\) の構成](#)
6.3.0.2 以降のバージョンの Cast Iron では、SNC 機能を使用すると、SAP コネクターを介して SAP に接続できます。
- [コマンドの実行](#)
- [リポジトリのエクスポート](#)
- [リポジトリのインポート](#)
- [他のベンダーのライブラリーのインストール](#)
- [ダウン時間のスケジュール](#)
- [ネットワーク設定の指定](#)
- [システム・コマンドの実行](#)
- [Dell 統合アプライアンスのアップグレード](#)
このセクションには、WMC を使用して、マイナー・リリースおよびパッチ・リリースを Dell 統合アプライアンスにアップロードするための情報が記載されています。アプライアンスをアップグレードすると、Cast Iron® オペレーティング・システムの最新機能にアクセスできるようになります。このアップグレード・プロセスは、必要なファイルを置き換えるか追加するのみで、データを破壊することはありません。

- [DataPower 統合アプライアンスのアップグレード](#)
このセクションには、WMC を使用して、マイナー・リリースおよびパッチ・リリースを DataPower Cast Iron XH40 統合アプライアンスにアップロードするための情報が記載されています。アプライアンスをアップグレードすると、Cast Iron オペレーティング・システムの最新機能にアクセスできるようになります。アップグレード・プロセスでは、必要なファイルが置換または追加されるだけで、データが破壊されることはありません。
- [ネットワーク経路の処理](#)
統合アプライアンスのネットワーク経路を追加および削除できます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/toc_managing_integration_appliances.html


コネクタについて

「コネクタ」ページには、統合アプライアンスにインストールされたすべてのコネクタが表示されます。「コネクタ」ページから、インストールされた各コネクタのバージョン番号と、コネクタごとのライセンス交付状況を表示することもできます。統合アプライアンスは、有効なコネクタ・ライセンスのあるエンドポイントを含む構成プロジェクトのみを処理できます。「コネクタ」ページを開くには、ナビゲーション・ページから「システム (System)」 > 「コネクタ」を選択します。

構成プロジェクトをデプロイするためには、一部のコネクタで追加のライブラリーをインストールしておく必要があります。「コネクタ」ページで、「ライブラリーの更新 (Update Libraries)」リンクをクリックして、これらの追加コネクタ・ライブラリーを管理します。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/aboutConnectors.html


システムの要約

「システムの要約」ページでは、統合アプライアンスに関する情報を提供します。「システムの要約」ページにアクセスするには、ナビゲーション・ペインから「システム (System)」 > 「要約」を選択します。

システム情報	説明
モデル (Model)	統合アプライアンスのハードウェア・モデルを表示します。
バージョン	統合アプライアンス上で現在実行中の WebSphere® Cast Iron® オペレーティング・システムのバージョンを表示します。
シリアル番号 (Serial Number)	統合アプライアンスのシリアル番号を表示します。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/aboutSystemSummary.html

SAP ライブラリー・ファイルのダウンロードおよびインストール

始める前に

SAP サポート・ポータルに入ってファイルをダウンロードするには、SAP ユーザー ID およびパスワードが必要です。

このタスクについて

SAP システムに接続するには、SAP ライブラリーを開発環境にインストールする必要があります。

注:

古いバージョンの `librfccm.so` ファイルや `libsapjcorfc.so` ファイルがシステム・ディレクトリーにある場合、それらのファイルを削除する必要があります。アプライアンスは SAP JCo リリース 3.0.x によって提供された `libsapjco3.so` ファイルを使用する必要があります。バージョン 7.0 以降の Cast Iron® には 64 ビットの SAP JCo ライブラリーを使用する必要があります。バージョン 6.4 以前の Cast Iron には 32 ビットの SAP JCo ライブラリーを使用する必要があります。

手順

1. SAP 技術サポートに連絡して、以下の SAP コンポーネントの zip ファイルを入手します。
 - SAP 32 ビット JCo バージョン 3.0.10 以降 - Linux 32 ビット・バージョン。
 - SAP Java™ IDoc Class Library バージョン 3.0.10 以降。
2. SAP 技術サポートから受信されたパッケージの内容を抽出して、それをローカル・フォルダーにコピーします。
3. 管理コンソールにログオンして、「システム」 > 「コネクター」と選択します。「コネクター」ページが表示されます。

4. 「ライブラリーの更新 (Update Libraries)」をクリックします。「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ウィンドウが表示されます。
5. 「コネクター」列で「SAP」を選択します。
6. 正符号 (+) ボタンをクリックして、ダウンロードしたすべての jar ファイルをインポートし終わるまで以下のサブステップを繰り返します。
 - a. ダウンロードした jar ファイルのうちの 1 つ (sapjco3.jar、sapidoc3.jar、および libsapjco3.so) を見つけます。
 - b. 「開く」をクリックして、JAR ファイルをインポートします。「追加するファイル (Files to Add)」列にファイルが表示されます。
7. 「更新」をクリックします。


「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されるファイルは、「更新」をクリックするまでコミットされません。「更新」をクリックする前に「リセット」をクリックした場合は、管理コンソールはアップロードしたファイルを追加しません。「更新」をクリックして追加ファイルをコミットする前に管理コンソールがタイムアウトした場合は、最後の 2 つのステップを繰り返します。

タスクの結果

SAP プロジェクトを実行できるようになりました。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/downloadingInstallingSAPfiles.html

SAP コネクター用のセキュア・ネットワーク通信 (SNC) の構成

6.3.0.2 以降のバージョンの Cast Iron では、SNC 機能を使用すると、SAP コネクターを介して SAP に接続できます。

手順

1. WMC を使用してシステム・ライブラリー内に SAP JCo JAR がアップロードされた (詳しくは、[SAP ライブラリー・ファイルのダウンロードおよびインストール](#) を参照してください) のと同じ場所に libsapcrypto.so をアップロードします。
2. シェル・コマンドを実行して、SAP 暗号ディレクトリーをシステムのパス変数に追加し、システム資格情報を .pse ファイルに追加します。
注: シェル・コマンドは、IBM WebSphere Cast Iron L2 または L3 のサポート・エンジニアのみが実行でき、必要な場合は IBM サポートと .pse ファイルを共有できます。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/SAP_app_configuring_SNC.html

コマンドの実行

このタスクについて

統合アプライアンスに対してシステム制御コマンドを実行するには、以下のようにします。

手順


1. ナビゲーション・ペインから、「システム (System)」 > 「コマンド (Command)」を選択します。「システム・コマンド (System Commands)」ページが表示されます。
2. 「コマンドの選択 (Choose Command)」ドロップダウン・リストで、コマンドを選択します。ドロップダウン矢印をクリックすると、コマンドの詳細を表示できます。
3. 「実行」をクリックします。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

システム制御コマンド

以下のコマンドを、スタンドアロン統合アプライアンスまたは高可用性 (HA) ペアに対して実行できます。HA 固有のコマンドについては、『高可用性ペアの操作』を参照してください。

システム制御コマンド	説明
Remove Job History	統合アプライアンスからすべてのジョブ・ヒストリーを削除します。
Remove Projects & Configurations	統合アプライアンスからすべてのプロジェクト、オーケストレーション、およびプロジェクト構成を削除します。
Remove All Jobs in Progress	現在実行されているプロジェクトのすべてのデータを削除します。
Download Postmortem	事後分析ファイルを生成して、指定したロケーションにダウンロードします。
Restart	統合アプライアンスを停止して再始動します。
Reboot	すべてのサービスをシャットダウンしてから、統合アプライアンスをリブートします。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/executingCommands.html

リポジトリのエクスポート

このタスクについて

統合アプライアンスをアップグレードする前に、プロジェクト・リポジトリをエクスポートしてバックアップを作成します。すべてのプロジェクト構成とユーザー設定(ネットワーク構成、ユーザーとグループ、ライセンス、ジョブ・ログ・パラメーター、ログ・レベル、通知、ダウン時間ルール、およびパスワードを含む)をWMCから別のロケーションにエクスポートできます。


リポジトリをエクスポートするときに、統合アプライアンスのシステム・ログはエクスポートされません。そのため、以前のバージョンのリポジトリをインポートする場合、システム・ログには、新しいリポジトリがインポートされた時よりも前に発生したイベントが依然として含まれています。

プロジェクト構成が実行されている状態でリポジトリをエクスポートできます。ただし、このリポジトリをインポートした場合、プロジェクト構成はすべてアンデプロイされた状態になります。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインで、「リポジトリ (Repository)」 > 「インポート/エクスポート (Import/Export)」を選択します。「リポジトリのインポート/エクスポート (Import/Export Repository)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「エクスポート」をクリックします。「別名保存」ウィンドウが表示されます。
3. エクスポートされたリポジトリを保存するロケーションを指定します。
4. 「保存」をクリックします。WMCは、リポジトリのコピーを .tar.gz ファイルとしてエクスポートします。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/exportingRepository.html

リポジトリのインポート

このタスクについて

リポジトリをインポートすると、WMC は既存のリポジトリに保持されている情報の一部を削除します。厳密にどの情報が削除されるかについては、リポジトリのインポート時に選択するオプション (このトピックで後述) によって異なります。ただし、システム・ログは削除されません。そのため、以前のリポジトリのシステム・ログ・エントリが表示されることがあります。リポジトリのインポートが完了すると、以前のリポジトリにロールバックすることはできません。そのため、別のリポジトリをインポートする前に、既存のリポジトリをエクスポートすることをお勧めします。


リポジトリをインポートするには、その前に WMC 上のすべてのプロジェクト構成を停止してアンデプロイする必要があります。WMC が正常にリポジトリをインポートすると、すべてのプロジェクト構成はアンデプロイされた状態になります。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインで、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページが表示されます。
2. 「構成フィルター (Configurations Filter)」ドロップダウン・リストから「すべて」を選択します。すべてのプロジェクト構成が表示されます。
3. すべてのプロジェクト構成を停止してアンデプロイします。
4. 「ナビゲーション」ペインで、「リポジトリ (Repository)」 > 「インポート/エクスポート (Import/Export)」を選択します。「リポジトリのインポート/エクスポート (Import/Export Repository)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「リポジトリ・ファイル (Repository File)」フィールドで、インポートするリポジトリのパスを指定します。
6. インポート・オプションを選択します。
 - プロジェクト設定およびユーザー設定
選択したリポジトリ・ファイルの内容をすべてインポートします。すべてのプロジェクトは、アンデプロイされた状態でインポートされます。
 - プロジェクト設定のみ
選択したリポジトリ・ファイルからプロジェクト、構成、通知ポリシー、およびジョブ・ログをインポートします。すべてのプロジェクトは、アンデプロイされた状態でインポートされます。
注: インポートよりも前に存在したプロジェクト、構成、通知ポリシー、ジョブ・ログはすべて削除されます。
 - ユーザー設定のみ
選択したリポジトリ・ファイルからユーザー設定情報のみをインポートします。ユーザー設定情報には、ネットワーク構成、ユーザーとグループ、ライセンス、ジョブ・ログ・フィルター・パラメーター、システム・ログ・レベル、ダウン時間ルール、およびパスワードが含まれます。
7. 「インポート」をクリックします。警告が表示されます。
8. 「インポート」をクリックして、続行することを確認します。

タスクの結果

統合アプライアンスは、リポジトリをインポートし、統合アプライアンスを再始動します。インポートが完了すると、WMC ログイン・ウィンドウが表示されます。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/importingRepository.html

他のベンダーのライブラリーのインストール

このタスクについて

追加ライブラリーが必要なコネクターを統合プロジェクトで使用する場合は、プロジェクト構成をデプロイする前に追加ライブラリーをインストールする必要があります。追加ライブラリーをインストールする前にプロジェクト構成をデプロイすると、ランタイム・エラーが発生します。ベンダー提供ライブラリーが必要なコネクターの完全なリストについては、「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開きます。以下の手順を参照してください。

マルチ環境テナントがある場合、各環境 (追加ライブラリーが必要なコネクターを使用するプロジェクト構成がデプロイされる) にベンダー・ライブラリーをインストールする必要があります。

例えば、3つの環境 (開発、ステージング、および実稼働) を備えたテナントがあるとします。「開発」環境および「実稼働」環境で SAP エンドポイント用のプロジェクト構成を公開します。プロジェクト構成をデプロイするには、「開発」環境と「実稼働」環境の両方に追加 SAP ライブラリーを事前にインストールしておく必要があります。

手順

1. 環境タブをクリックします。
2. 「システム」 > 「アップグレード」 > 「コネクター・ライブラリーのアップグレード (Upgrade Connector Libraries)」と選択して、「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開きます。
3. 「コネクター」列で、追加ファイルをインストールするコネクターを選択します。

既にインストールされているファイルはすべて、「インストール済みファイル (Installed Files)」列に表示されます。

4. プラス (+) アイコンをクリックして、アップロードするライブラリー・ファイルを選択します。Linux システムでは、有効なファイルは .jar または .so で、Windows システムでは、有効なファイルは .jar または .dll です。選択したファイルは、「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されます。
5. 「更新」をクリックします。

「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されるファイルは、「更新」をクリックするまでコミットされません。「更新」をクリックする前に「リセット」をクリックした場合は、WMC はアップロードされたファイルを追加しません。「更新」をクリックして追加ファイルをコミットする前に WMC がタイムアウトした場合は、最後の2つのステップを繰り返します。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/installing3rdPartyLibraries.html

ダウン時間のスケジュール

このタスクについて

ダウン時間をスケジュールすることで、環境または関連システムで保守を実行できます。プロジェクト構成のダウン時間ルールを作成して、指定した期間にそのプロジェクト構成のすべての使用可能なオーケストレーション・ジョブを停止または中断することができます。ダウン時間ルールを作成または編集するために、プロジェクト構成をアンデプロイする必要はありません。ダウン時間ルールは1回のみ実行することも、特定の間隔で繰り返すこともできます。ダウン時間ルールを作成、編集、または削除するには、管理者許可またはパブリッシャー許可を備えている必要があります。

デフォルトでは、ダウン時間ルールは GMT 時間帯で保管されます。管理者がシステム・クロックを GMT から別の時間帯に変更した場合でも、ダウン時間ルールは同じ絶対時刻に実行されます。例えば、GMT の 4:00pm から 4:15pm までの期間にすべてのオーケストレーションを停止するダウン時間ルールを作成したとします。その後、管理者が PDT を表示するようにシステム・クロックを変更します。そうすると、ダウン時間ルールは、PDT の 8:00am から 8:15am までの期間にすべてのオーケストレーションを停止するように変更されます。PDT の 4:00pm から 4:15pm までの期間にダウン時間ルールを実行するには、ダウン時間ルールを編集する必要があります。夏時間調整による時差は自動的に調整されます。

ダウン時間ルールが実行されるようにスケジュールされている期間に環境がオフラインになっていた場合は、すべての未実行のルールが特定され、環境がオンラインに戻ったときに適切な順序で実行されます。すべての未処理のダウン時間ルールが実行されると、プロジェクト構成のデプロイメント状態を変更するための制御がユーザーに戻されます。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページが表示されます。
2. 作業するダウン時間ルールが含まれたプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. 「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtimes)」セクションで「新規ルール (New Rule)」をクリックします。「新規ダウン時間ルール (New Downtime Rule)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. ドロップダウン・リストから以下のアクションのいずれかを選択します。
 - **停止 (ジョブの終了を許可する) (Stop (allows jobs to finish))** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できないようにします。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。このアクションにより、正常に停止することができます。

- **停止 (実行中のジョブをキャンセルする) (Stop (cancel running jobs))** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できないようにします。また、すべての現在実行中のジョブを停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。
 - **中断 (Suspend)** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーションが開始できないようにします。また、現在実行中のすべてのジョブを一時停止します。スケジュールされたダウン時間の最後に、ランタイムは中断したジョブを一時停止した時点から処理します。
5. 「開始ダウン時間 (Start Downtime)」および「終了ダウン時間 (End Downtime)」の日時を指定して、ダウン時間の期間を指定します。
 6. (オプション) 「反復」オプションを選択して、繰り返しダウン時間ルールを作成します。
 - a. 繰り返しの間隔 (数値) を指定します。
 - b. ドロップダウン・リストから頻度 (「日」、「週 (Weeks)」、「月 (Months)」、「年 (years)」) を指定します。
 7. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtimes)」セクションに新規ダウン時間ルールが表示され、「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtime)」カウンターが1つ進みます。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

ダウン時間ルールの編集

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」が表示されます。
2. 作業するダウン時間ルールが含まれたプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. 「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtime)」セクションで、編集するダウン時間ルールをクリックします。「ダウン時間ルールの編集 (Edit Downtime Rule)」が表示されます。
4. ドロップダウン・リストから以下のアクションのいずれかを選択します。
 - **停止 (ジョブの終了を許可する) (Stop (allows jobs to finish))** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できないようにします。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。このアクションにより、正常に停止することができます。
 - **停止 (実行中のジョブをキャンセルする) (Stop (cancel running jobs))** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できないようにします。また、すべての現在実行中のジョブを停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。
 - **中断 (Suspend)** - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーションが開始できないようにします。また、現在実行中のすべてのジョブを一時停止します。スケジュールされたダウン時間の最後に、ランタイムは中断したジョブを一時停止した時点から処理します。
5. 「開始ダウン時間 (Start Downtime)」および「終了ダウン時間 (End Downtime)」の日時を指定して、ダウン時間の期間を指定します。
6. オプション: 「反復」オプションを選択して、繰り返しダウン時間ルールを作成します。
 - a. 繰り返しの間隔 (数値) を指定します。
 - b. ドロップダウン・リストから頻度 (「日」、「週 (Weeks)」、「月 (Months)」、「年 (years)」) を指定します。
7. 「保存」をクリックします。

ダウン時間ルールの削除


手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「リポジトリ (Repository)」 >> 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページが表示されます。
2. 作業するダウン時間ルールが含まれたプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. 「スケジュールされたダウン時間 (Scheduled Downtime)」セクションで、削除するダウン時間ルールを選択します。「ルールの削除 (Delete Rules)」の確認ウィンドウが表示されます。
4. 「はい」をクリックします。

タスクの結果

当該ダウン時間ルールが表示されなくなります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/schedulingDowntime.html

ネットワーク設定の指定

このタスクについて

「ネットワーク (Network)」を選択すると、「ネットワーク設定 (Network Settings)」ページが開きます。

iA300 には物理ポートが1つしかありません。ただし、ネットワーク構成の目的で、データ・ネットワークと管理ネットワークに別々の IP アドレスを指定します。iA1000、iA1500、iA2000、iA2500、および iA3000 には、物理ポートが2つあります。

ネットワーク構成を指定するには、管理者特権が必要です。デフォルトでは、統合アプライアンスは DHCP を使用してネットワーク設定を構成します。DHCP を使用してネットワーク設定を構成することを選択した場合、WMC は「ネットワーク設定 (Network Settings)」ページに設定を表示します。「DHCP を使用 (Use DHCP)」オプションをクリアするか、「手動 (Manual)」オプションを選択することによって、これらの設定を編集できます。

注: DHCP を使用してネットワーク設定を構成すると、起動時間が長くなる可能性があります。起動時間を短縮するには、「手動 (Manual)」オプションを選択し、静的な値を指定します。

手順

1. ナビゲーション・ペインで「ネットワーク (Network)」を選択します。「ネットワーク設定 (Network Settings)」ページが表示されます。
2. 「編集」をクリックします。「ネットワーク設定の編集 (Edit Network Settings)」ウィザードが表示されます。
3. 「データ・ネットワーク (Data Network)」セクションで、「DHCP を使用 (Use DHCP)」オプションを選択します。このオプションをクリアした場合、統合アプライアンスで、IP アドレス、サブネット、およびブロードキャスト設定を指定する必要があります。

デフォルトでは、統合アプライアンスは DHCP を使用してデータ・ネットワーク設定を構成します。データ・ネットワーク設定を手動で構成するには、「DHCP を使用 (Use DHCP)」オプションをクリアし、必須の設定に有効な値を入力してください。統合アプライアンスでは、以下の管理ネットワーク設定が必要です。


- IP アドレス
 - サブネット
 - ブロードキャスト
4. 「管理ネットワーク (Management Network)」セクションで、「DHCP を使用 (Use DHCP)」オプションを選択します。このオプションをクリアした場合、統合アプライアンスで、IP アドレス、サブネット、およびブロードキャスト設定を指定する必要があります。

デフォルトでは、統合アプライアンスは DHCP を使用して管理ネットワーク設定を構成します。管理ネットワーク設定を手動で構成するには、「DHCP を使用 (Use DHCP)」オプションをクリアし、必須の設定に有効な値を入力してください。統合アプライアンスでは、以下の管理ネットワーク設定が必要です。

- IP アドレス
 - サブネット
 - ブロードキャスト
5. 「ゲートウェイ・インターフェース」および「ゲートウェイ・ソース」を選択します。
 6. オプションを選択して「ホスト名」を設定します。
 7. オプションを選択して「ドメイン」を設定します。
 8. オプションを選択して「DNS」を設定します。複数の DNS 値を指定するときには、スペースを使用して値を区切ります。
 9. オプションを選択して「タイム・サーバー」を設定します。
 10. 「次へ」をクリックして、設定を確認します。
 11. 「次へ」をクリックして、設定を適用します。
 12. 「終了」をクリックします。
 13. 統合アプライアンスが再始動するまで待機し、ログインします。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/specifyingNetworkSettings.html

システム・コマンドの実行

手順

1. ナビゲーション・ペインで「システム (System)」 > 「コマンド (Commands)」を選択します。「システム・コマンド (System Command)」ページが表示されます。
2. 「コマンドの選択 (Choose Command)」リストで、コマンドを選択します。
3. 「実行」をクリックします。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

システム・コマンド


管理コンソールからシステム・コマンドを実行できます。統合アプライアンスの構成 (スタンドアロンまたは高可用性ペア) および統合アプライアンスの状態 (アクティブまたはスタンバイ) に応じて、異なるシステム・コマンドが使用可能になります。以下の表に、管理コンソールから使用可能なすべてのシステム・コマンドのリストを示し、統合アプライアンスの構成または状態に起因する動作の違いを示します。

コマンド	説明
Remove Job History	remove job history コマンドは、オーケストレーション・モニター・データを削除します。
Remove project and configurations	remove projects and configurations コマンドは、現在デプロイされているプロジェクトのデータを削除します。
Remove All Jobs in Progress	remove all job in progress コマンドは、現在実行中のすべてのプロジェクトのデータを削除します。
Download Postmortem	download postmortem コマンドは、事後分析アーカイブを、指定した FTP サーバーにエクスポートします。統合アプライアンスでは、エクスポート・ファイル名の指定は必須ではありませんが、統合アプライアンスのシリアル番号、日付、およびタイム・スタンプを含めることを強くお勧めします。エクスポート・ファイル名を指定しない場合、統合アプライアンスは postmortem.tar.gz という名前のファイルをエクスポートします。 Note: ユーザー名またはパスワードに予約語を使用しないでください。
Restart	統合アプライアンスのルーティング・サブシステムを再始動します。
Reboot	すべてのルーティング・サービスをシャットダウンしてから、統合アプライアンスをリブートします。 force パラメーターを使用すると、リブートは直ちに開始します。

コマンド	説明
HA Connect	HA ペアの場合のみ使用可能です。 ha connect コマンドは、アクティブ統合アプライアンスとスタンバイ統合アプライアンスを再接続して、フェイルオーバー操作を再開できる HA ペアを作成します。このコマンドは、HA Disconnect コマンドを実行して HA ペアを切断した場合にのみ使用可能です。
HA Disconnect	HA ペアの場合のみ使用可能です。 ha disconnect は、スタンバイ・マシンによるアクティブ・マシンのテークオーバーを発生させることなく HA ペアを一時的に切断します。このアクションによって、オーケストレーション処理を中断せずに、スタンバイ・マシンで任意の必要なハードウェアまたはソフトウェアのメンテナンスを実行できます。このアクションを選択すると、スタンバイ・マシンはアイドル状態に遷移します。アクティブ・マシンをリブートするか、接続アクションを実行すると、HA ペア間の通信が再確立され、データの同期とフェイルオーバー操作が再開されます。アクティブ・マシンでメンテナンスを実行するには、切り替えアクションを使用します。アクティブ・マシンはスタンバイ・マシンになります。そこで切断アクションを使用し、オーケストレーション処理を中断することなく統合アプライアンスのメンテナンスを実行できます。
HA Switch	HA ペアの場合のみ使用可能です。 ha switch コマンドは、HA ペア内の統合アプライアンスの役割を切り替えます。アクティブ・マシンがスタンバイ・マシンになり、スタンバイ・マシンがアクティブ・マシンになります。
Reboot Active machine (allow peer takeover)	HA ペアの場合のみ使用可能です。 reboot active machine (allow peer takeover) コマンドは、すべてのルーティング・サービスをシャットダウンしてから、HA ペア内のアクティブ統合アプライアンスをリブートします。このコマンドを使用してアクティブ統合アプライアンスをリブートすると、スタンバイ統合アプライアンスがデータ処理をテークオーバーします。
Reboot Active machine (prevent peer takeover)	HA ペアの場合のみ使用可能です。 reboot active machine (prevent peer takeover) コマンドは、すべてのルーティング・サービスをシャットダウンしてから、HA ペア内のアクティブ統合アプライアンスをリブートします。このコマンドを使用してアクティブ統合アプライアンスをリブートすると、アクティブ統合アプライアンスがすべてのデータ処理を停止し、スタンバイ統合アプライアンスはそのデータ処理をテークオーバーしません。

コマンド	説明
Reboot Standby machine	HA ペアの場合のみ使用可能です。reboot standby machine コマンドは、HA ペア内のスタンバイ統合アプライアンスをリブートします。スタンバイ統合アプライアンスがリブートしている間、アクティブ統合アプライアンスはデータの処理を続行します。正常にリブートした後で、スタンバイ統合アプライアンスはアクティブ統合アプライアンスと同期化します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/systemCommands.html

Dell 統合アプライアンスのアップグレード

このセクションには、WMC を使用して、マイナー・リリースおよびパッチ・リリースを Dell 統合アプライアンスにアップロードするための情報が記載されています。アプライアンスをアップグレードすると、Cast Iron® オペレーティング・システムの最新機能にアクセスできるようになります。このアップグレード・プロセスは、必要なファイルを置き換えるか追加するのみで、データを破壊することはありません。

このタスクについて

Web 管理コンソール (WMC) を使用して、アップグレード・イメージをアプライアンスにアップロードすることによって、最新バージョンの Cast Iron オペレーティング・システムにアップグレードします。WMC は、アップグレード手順の間に、実行中のプロジェクトを強制的にアンデプロイし、アプライアンスで実行中のアクティブなオーケストレーション・ジョブを停止することに注意してください。アプライアンスがアップグレードされた後で、元に戻すことや、前のバージョンにロールバックすることはできません。

注: アップグレードは、コマンド・ライン・インターフェース (CLI) を介しても適用できます。このオプションの使用について詳しくは、「*CLI リファレンス・ガイド*」の system update コマンドを参照してください。

手順

1. 最新のパッチを要求して、そのパッチを自分がアクセス可能なロケーションにダウンロードします。例: C:¥Desktop
2. WMC を使用して、アップグレードする Dell 統合アプライアンスにログインします。
3. 「システム (System)」 > 「アップグレード」を選択します。「アップグレード」ページが表示されます。
4. 「オペレーティング・システムのアップグレード (Upgrade Operating System)」リンクをクリックします。アップグレード・ウィザードが起動します。
5. 「参照」をクリックして、アップグレード・ファイルを見つけます。
6. 「アップグレード」をクリックします。統合アプライアンスは、アップグレード・ファイルをアップロードし、アップグレード・プロセスを開始します。アップグレードが完了すると、統合アプライアンス

は自動的にレポートします。


7. レポートが完了すると、WMC のログイン・ページが表示されます。このページが表示されない場合は、ブラウザの更新ボタンをクリックしてください。

次のタスク

WMC を使用して、このアップグレード手順でアンデプロイされたすべてのプロジェクトを再デプロイします。インストールされている Cast Iron オペレーティング・システムと互換性のある Studio バージョンにアップグレードします。アプライアンスと Studio の互換性について詳しくは、「*Cast Iron Operating System リリース・ノート*」または「*Cast Iron Studio リリース・ノート*」の『互換性 (Compatibility)』セクションを参照してください。Studio のアップグレード手順については、「*Studio のインストール (Installing Studio)*」を参照してください。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/upgradingIntegrationAppliance.html

DataPower 統合アプライアンスのアップグレード

このセクションには、WMC を使用して、マイナー・リリースおよびパッチ・リリースを Cast Iron® Cast Iron XH40 統合アプライアンスにアップロードするための情報が記載されています。アプライアンスをアップグレードすると、Cast Iron オペレーティング・システムの最新機能にアクセスできるようになります。アップグレード・プロセスでは、必要なファイルが置換または追加されるだけで、データが破壊されることはありません。

このタスクについて

Web 管理コンソール (WMC) を使用して、アップグレード・イメージをアプライアンスにアップロードすることによって、最新バージョンの Cast Iron オペレーティング・システムにアップグレードします。WMC は、アップグレード手順の間に、実行中のプロジェクトを強制的にアンデプロイし、アプライアンスで実行中のアクティブなオーケストレーション・ジョブを停止することに注意してください。アプライアンスがアップグレードされた後で、元に戻すことや、前のバージョンにロールバックすることはできません。

注: アップグレードは、コマンド・ライン・インターフェース (CLI) を介しても適用できます。このオプションの使用について詳しくは、「*CLI リファレンス・ガイド*」の system update コマンドを参照してください。

手順

1. 最新のパッチを入手してから、Windows ワークステーションからアクセス可能な場所 (例えば C:\¥Desktop) にアプライアンスのアップグレード・イメージ・ファイルをダウンロードします。
2. WMC を使用して、Cast Iron オペレーティング・システムが実行されている統合アプライアンスにログインします。


3. WMC の「項目 (Items)」メニューから、「システム」>「アップグレード」を選択します。「システムの要約」ウィンドウが表示され、モデル、バージョン、シリアル番号が表示されます。
4. 「オペレーティング・システムのアップグレード (Upgrade Operating System)」をクリックします。「アップグレード」ウィンドウが表示されます。
5. テキスト・フィールドで、アプライアンスのアップグレード・イメージ・ファイルのパスを指定するか、「参照」をクリックしてアップグレード・イメージ・ファイルを見つけます。
6. 「アップグレード」をクリックします。「アップグレード」パネルに、「アップロードが進行中です。お待ちください。(Upload in progress. Please wait.)」というメッセージが表示されます。アップロードの状況が進行状況表示バーに表示されます。アップロードが完了すると、WMC がアップグレードを検証します。アップグレードが成功している場合は、アプライアンスがリブートされます。
7. WMC を使用して、アプライアンスにログインします。ブラウザの最新表示用ボタンをクリックする必要がある場合があります。

次のタスク

WMC を使用して、このアップグレード手順でアンデプロイされたすべてのプロジェクトを再デプロイします。インストールされている Cast Iron オペレーティング・システムと互換性のある Studio バージョンにアップグレードします。アプライアンスと Studio の互換性について詳しくは、「*Cast Iron Operating System* リリース・ノート」または「*Cast Iron Studio* リリース・ノート」の『互換性 (Compatibility)』セクションを参照してください。Studio のアップグレード手順については、「*Studio* のインストール (*Installing Studio*)」を参照してください。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/upgradeDataPowerappliances.html

ネットワーク経路の処理

統合アプライアンスのネットワーク経路を追加および削除できます。

親トピック: [統合アプライアンスの管理](#)

ネットワーク経路の追加

手順

1. ナビゲーション・ペインで「ネットワーク (Network)」を選択します。「ネットワーク設定 (Network Settings)」ページが表示されます。
2. 「編集」をクリックします。「ネットワーク設定の編集 (Edit Network Settings)」ウィザードが表示されます。


3. 「経路 (Routes)」セクションで、「新規ルール (New Rule)」をクリックします。「新規ネットワーク経路 (New Network Route)」ダイアログが表示されます。
4. 宛先を指定します。
5. ネットマスクを指定します。
6. ドロップダウン・リストからインターフェースを選択します。
7. ゲートウェイを指定します。
8. 「保存」をクリックします。
9. 「次へ」をクリックして、設定を確認します。
10. 「次へ」をクリックして、設定を適用します。
11. 「終了」をクリックします。
12. 統合アプライアンスが再始動するまで待機し、ログインします。

ネットワーク経路の削除

手順

1. ナビゲーション・ペインで「ネットワーク (Network)」を選択します。「ネットワーク設定 (Network Settings)」ページが表示されます。
2. 「編集」をクリックします。「ネットワーク設定の編集 (Edit Network Settings)」ウィザードが表示されます。
3. 「経路 (Routes)」セクションで、「削除」をクリックします。確認ウィンドウが表示されます。
4. 「はい」をクリックします。
5. 「次へ」をクリックして、設定を確認します。
6. 「次へ」をクリックして、設定を適用します。
7. 「終了」をクリックします。
8. 統合アプライアンスが再始動するまで待機し、ログインします。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Integration_Appliances/workingWithNetworkRoutes.html

オーケストレーションの管理

オーケストレーションの管理のトピックでは、オーケストレーション設定の編集およびジョブ・レポートのエクスポートに関する情報について説明します。

- [オーケストレーション設定について](#)
オーケストレーション設定により、プロジェクト構成内の個別オーケストレーションのプロパティを構成できます。オーケストレーションごとに、オーケストレーションを使用可能にするかどうか、ロギング・レベル、ロギング動作、およびオーケストレーションで同時に実行可能な最大ジョブ数を指定できます。
- [オーケストレーション設定の編集](#)
- [オーケストレーション・モニター・データのエクスポート](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Orchestrations/to_c_managing_orchestrations.html

オーケストレーション設定について

オーケストレーション設定により、プロジェクト構成内の個別オーケストレーションのプロパティを構成できます。オーケストレーションごとに、オーケストレーションを使用可能にするかどうか、ロギング・レベル、ロギング動作、およびオーケストレーションで同時に実行可能な最大ジョブ数を指定できます。


プロジェクト構成をアンデプロイすると、以下のオーケストレーション設定を編集できます。

オーケストレーション設定	説明
使用可能 (Enabled)	<p>オーケストレーションが使用可能でデプロイできるかどうかを示します。プロジェクト構成をデプロイするには、プロジェクト内の少なくとも1つのオーケストレーションを使用可能にする必要があります。デフォルトでは、プロジェクト構成内のすべてのオーケストレーションが使用可能になります。</p>
ロギング・レベル (Logging Level)	<p>システム・ログに記録されるオーケストレーション詳細のレベルを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし (None) - オーケストレーションの状況およびアクティビティはログに記録されません。 初期値 (Initial Values) - オーケストレーション変数の初期値のみがログに記録されます。 初期値およびエラー値 (Initial and Error Values) - オーケストレーション変数の初期値とオーケストレーション・エラー値の両方がログに記録されます。 エラー値 (Error Values) - オーケストレーション・エラーのみがログに記録されます。 インライン (Inline) - 呼び出し元オーケストレーションのジョブ詳細で、インライン化されたサブオーケストレーションのオーケストレーション・ジョブ詳細がログに記録されます。 すべて - 最高ロギング・レベル。すべてのオーケストレーション・アクティビティがログに記録されます。

オーケストレーション設定	説明
同期ロギング (Log Synchronously)	<p>オーケストレーションの実行中にオーケストレーション・モニター・ログへのオーケストレーション・イベントの書き込みをランタイムが同期化できるようにします。</p> <p>デフォルトでは、このオーケストレーション設定は使用不可になっており、オーケストレーション・ジョブは同期的にログに記録されません。</p> <p>注:</p> <p>このオーケストレーション設定を使用可能にすると、オーケストレーション・ジョブを処理するためにかかる時間が増加します。</p>
最大同時ジョブ数 (Max Simultaneous Job)	同時に実行可能なオーケストレーション・ジョブの数を指定できます。

親トピック: [オーケストレーションの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Orchestrations/aboutOrchestrationSettings.html

オーケストレーション設定の編集

始める前に


オーケストレーション設定を編集するには、プロジェクト構成をアンデプロイする必要があります。


テナント管理者、(プロジェクトが公開される環境の) 環境管理者、およびプロジェクトのパブリッシャーがオーケストレーション・プロパティを編集できます。

このタスクについて

注: プロジェクト構成許可をグループに付与すると、そのグループのユーザーがプロジェクト構成に対する全アクセス権限を持つようになり、新しいバージョンのプロジェクト構成の作成のほか、プロジェクト構成の編集および削除が可能になります。

手順

1. プロジェクト構成が公開されている環境のタブを選択します。
2. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページが表示されます。
3. 編集するプロジェクト構成が実行中の場合は、「アクション」列にある  「停止」アイコンをクリックして、その構成を停止します。「構成の停止 (Stop Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示された


- ら、以下のオプションのいずれかをクリックします。
- ジョブの終了 (Finish Jobs) - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブを開始できないようにします。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。ジョブ終了することができます。
 - ジョブのキャンセル (Cancel Jobs) - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブを開始できないようにします。また、すべての現在実行中のジョブを停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。
4. 「アクション」列の  「アンデプロイ」アイコンをクリックして、プロジェクト構成をアンデプロイします。
 5. 編集するプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
 6. 「オーケストレーション」セクションで、「編集」をクリックしてオーケストレーション設定を編集します。「オーケストレーション設定の編集 (Edit Orchestration Settings)」ウィンドウが表示されます。
 7. 「保存」をクリックします。
 8. プロジェクト構成をデプロイして、オーケストレーション・ジョブの処理を開始します。

タスクの結果

更新内容が、「構成の詳細 (Configuration Details)」ページの「オーケストレーション」セクションに表示され、ランタイムが指定に従ってオーケストレーションを処理します。

親トピック: [オーケストレーションの管理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Orchestrations/editingOrchestrationSettings.html

オーケストレーション・モニター・データのエクスポート

このタスクについて

オーケストレーション・モニター・データをエクスポートできます。オーケストレーション・モニター・データのエクスポート時に、エクスポートしたオーケストレーション・モニター・データを削除するか、オーケストレーション・モニター・データをシステム上に保持するかを選択できます。

オーケストレーション・モニター・データを削除するように選択した場合は、データをリカバリーする手段はありません。


手順

1. ナビゲーション・ペインで、「ログ (Logs)」 > 「ジョブ・ログ (Job Logs)」を選択します。「結果」ページが表示されます。
2. 「エクスポート」をクリックします。「ジョブのエクスポート (Export Jobs)」ウィンドウが表示されます。

3. 以下のエクスポート・オプションのいずれかを選択します。
 - エクスポートおよび削除 (Export and Delete) - モニター・データをエクスポートして、データを環境から削除します。
 - エクスポート - モニター・データをエクスポートして、データを環境に保持します。
4. 「今すぐダウンロード (Download Now)」をクリックして、エクスポートしたログ・ファイルをダウンロードします。
5. ファイルを開くか保存します。ファイルの保存を選択する場合は、場所を指定して「保存」をクリックします。XML ファイルは、指定した場所に保存されます。

親トピック: [オーケストレーションの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Orchestrations/exportingJobs.html

プロジェクトの管理

プロジェクトの管理のトピックでは、統合プロジェクトの作成、管理およびデプロイに関する情報について説明します。

- [資産について](#)
- [プロジェクトおよび構成の命名について](#)
- [プロジェクト構成について](#)
- [プロジェクトについて](#)
- [プロジェクト構成のクローン作成](#)
- [プロジェクトのコピー](#)
- [最初からのプロジェクトの作成](#)
- [テンプレートからのプロジェクトの作成](#)
- [プロジェクト構成の削除](#)
- [プロジェクトの削除](#)
- [プロジェクト構成のデプロイ](#)
- [プロジェクト構成プロパティの編集](#)
- [プロジェクトの編集](#)
- [データベース資産について](#)
- [プロジェクトの公開](#)
- [データベース資産の再作成](#)
- [資産テーブル名に必要な引用符](#)
- [TIP のレビュー](#)

ダウンロードしたすべて TIP についてレーティングおよびレビューを行うことができます。

- [プロジェクト構成の停止](#)
- [プロジェクト構成のアップロード](#)
- [Web サービス資産の表示および保存](#)
- [プロジェクト構成の処理](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/toc_managing_projects.html

資産について

管理コンソールは資産をエンドポイントでグループ化します。以下のオーケストレーション・アクティビティに接続するデータベースおよび Web サービスのエンドポイント用に資産を生成する必要があります。

- スターター・データベース・アクティビティ。
- 1 回だけの配信オプションが指定された非スターター・データベース・アクティビティ。
- サービスの提供アクティビティ。

プロジェクト構成をデプロイするには、その前に、データベース・エンドポイントごとに、データベース資産に関連付けられた構成プロパティに固有値を指定する必要があります。データベース資産は、制御テーブル、バッファ・テーブル、シーケンス・テーブル、またはトリガーです。すべてのスターター・データベース・アクティビティは 1 つのバッファ・テーブルで管理されますが、1 回だけの配信オプションが指定された各非スターター・データベース・アクティビティのイベントは個別の制御テーブルで管理されます。

サービスの提供アクティビティの WSDL は統合環境によって生成されます。管理コンソールから、この Web サービス資産を保存できます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/aboutAssets.html

プロジェクトおよび構成の命名について


プロジェクトおよびプロジェクト構成の名前の長さは、42 文字を超えることができません。プロジェクトまたはプロジェクト構成を作成する際には、以下のリストで示す予約文字を使用しないようにしてください。

予約文字	説明
------	----

予約文字	説明
'&'	アンパーサンド
'{''}'["']"<">'	あらゆる括弧
'*'	アスタリスク
'¥'	円記号
'^'	脱字記号
':'	コロン
'\$'	ドル記号
'/'	スラッシュ
'#'	番号記号
'()'	小括弧
' '	パイプ
','	ピリオド
'?'	疑問符
';'	セミコロン
' '	スペース
'~'	波形記号

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/aboutNamingProjects.html

プロジェクト構成について

プロジェクト構成により、同じ統合プロジェクトの複数のバリエーションを作成することができるため、1つのプロジェクトを作成および公開して、多くの異なるシナリオにデプロイすることができます。プロジェクト構成内で、使用可能にするオーケストレーションを指定したり、エンドポイントの構成プロパティを変更したり、資産を生成または変更したり、スケジュールされたダウン時間ルールを管理したり、プロジェクト構成の許可を制御したりすることができます。

公開される各プロジェクトには、デフォルト・プロジェクト構成があります。管理コンソールで、追加のプロジェクト構成を作成できます。プロジェクト名、プロジェクト・バージョン、構成名、およびプロジェクト状態により、各プロジェクト構成を一意的に識別します。

プロジェクト構成を作成、編集、および削除するには、管理者特権を所持しているか、特定のプロジェクトのパブリッシャーでなければなりません。管理者およびパブリッシャーは、プロジェクト構成を作成、編集、および削除できるようにする許可をユーザーおよびグループに付与することができます。

「要約」セクションには、「リポジトリ」 > 「構成」とクリックして選択したプロジェクト構成の詳細が表示されます。「要約」セクションには、プロジェクト構成名、構成の状況、プロジェクトの最終公開日時、プロジェクト構成を公開またはクローンしたユーザーの名前が表示されます。さらに、「要約」ページには、オーケストレーション、プロパティ、資産、および構成に関連したスケジュールされたダウン時間の数も表示されます。

注: プロジェクト構成を公開またはクローンしたユーザーの名前が以下の形式で表示されます。

- `username [groupname] - groupname` に属するこの特定のユーザー (`username`) がプロジェクト構成を公開またはクローンしたユーザーであることを示します。
- `username {user does not exist}` - ユーザーが統合アプライアンス内に存在しないことを示します。

オーケストレーションを使用可能および使用不可にする

ランタイムは、使用可能なオーケストレーションのオーケストレーション・ジョブのみを実行します。プロジェクト構成をデプロイするには、プロジェクト構成には少なくとも1つの使用可能なオーケストレーションが含まれている必要があります。デフォルトでは、すべてのオーケストレーションが使用可能になっています。

オーケストレーション・ロギング・レベルを指定することで、システム・ログに書き込まれるオーケストレーション・エラーのタイプを制御できます。また、管理コンソールで、同時に実行されるジョブの数を制限することもできます。同時に実行されるジョブの数はパフォーマンスに影響する可能性があります。

オーケストレーション・プロパティを指定するには、管理者許可またはパブリッシャー許可が必要です。

構成プロパティの理解

プロジェクトの構成プロパティは Studio で作成します。プロジェクト・プロパティの作成およびプロジェクト・バージョンの指定について詳しくは、Studio のオンライン・ヘルプを参照してください。

プロジェクトの公開時に、構成プロパティの値を指定できます。構成プロパティに指定した値により、プロジェクトがどのようにデプロイされるかが決定されます。例えば、データベース・エンドポイントが含まれたプロジェクトで、データベース接続パラメーターのプロパティを作成できます。これにより、テスト・データベースに接続するテスト環境用のプロジェクト構成を作成し、その後同じプロジェクトを使用して、別のデータベースに接続する実稼働環境用の別のプロジェクト構成を作成できます。

管理コンソールで構成プロパティを編集するには、管理者許可またはパブリッシャー許可が必要です。

資産の変更

プロジェクト構成にデータベースまたは Web サービスのエンドポイントが含まれている場合には、プロジェクト構成をデプロイするには、その前に資産を生成する必要があります。プロジェクトにデータベースおよび Web サービスのエンドポイントが含まれていない場合は、資産はプロジェクト構成に無関係です。

資産を生成または変更するには、管理者許可またはパブリッシャー許可が必要です。

ダウン時間のスケジュール

ダウン時間をスケジュールすることで、保守を実行できます。プロジェクト構成のダウン時間ルールを作成して、指定した期間にそのプロジェクト構成のすべての使用可能なオーケストレーション・ジョブを停止または中断することができます。ダウン時間ルールを作成または編集するために、プロジェクト構成をアンデプロイする必要はありません。ダウン時間ルールは1回のみ実行することも、特定の間隔で繰り返すこともできます。

ダウン時間ルールを作成、編集、または削除するには、管理者許可またはパブリッシャー許可を備えている必要があります。


プロジェクト構成許可の編集

管理者またはプロジェクト・パブリッシャーは、プロジェクト構成の許可を他のユーザーおよびグループに付与できます。プロジェクト構成に対する許可をユーザーまたはグループに付与すると、そのユーザーまたはグループは、プロジェクト構成を作成、編集、および削除できるようになります。デフォルトでは、プロジェクト構成に対する許可は管理者グループのみに付与されています。許可を別のグループに付与する場合は、明示的に付与する必要があります。

例えば、自分がパブリッシャー権限を備えたユーザーであり、組み込みのパブリッシャー・グループに属しているものとします。プロジェクトを公開します。管理者グループと自分のみが、プロジェクト構成に対する許可を備えています。(自分がメンバーである)パブリッシャー・グループのメンバーは、プロジェクト構成に対する許可を持ちません。プロジェクト構成に対する許可を編集して、パブリッシャーなどの別のグループを含める必要があります。詳しくは、『[プロジェクト構成許可の付与](#)』を参照してください。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/aboutProjectConfigurations.html

プロジェクトについて

プロジェクトには、統合シナリオを実行するためにランタイムに必要なコンポーネント (オーケストレーション、エンドポイント、マップ、およびその他の文書) が含まれています。Studio を使用して、統合環境に接続することなくプロジェクトを作成およびテストします。


複数のユーザーが複数のプロジェクトを同じ統合環境に対して公開できます。Studio を使用して、プロジェクトを統合環境に公開するか、プロジェクトをステージング・ロケーションにエクスポートします。後から管理コンソールを使用して、エクスポートされたプロジェクトをアップロードできます。プロジェクトを統合環境に公開またはアップロードするには、管理者特権またはパブリッシャー特権が必要です。

プロジェクトを Studio から公開すると、管理コンソールには、デフォルト・プロジェクト設定を使用してプロジェクトが表示され、デフォルト・プロジェクト構成が作成されます。このデフォルト・プロジェクト構成を複製して、新規プロジェクト構成を作成できます。そして、その構成を別の開発環境および実稼働環境用に構成できます。

Studio を使用して、プロジェクトを作成し、エンドポイント構成プロパティを指定します。その後、管理コンソールを使用して、プロジェクト構成を指定し、プロジェクト構成をデプロイします。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/aboutProjects.html

プロジェクト構成のクローン作成

始める前に


プロジェクト構成のクローンを作成するには、管理者特権を備えているか、プロジェクトのパブリッシャーでなければなりません。

このタスクについて

プロジェクト構成には、同じ統合プロジェクトの複数のバリエーションを作成するために管理コンソールで構成することができるプロパティおよび資産が含まれています。新規構成の作成時には、既存のプロジェクト構成のクローン作成を選択できます。クローンされたプロジェクト構成は、元のプロジェクト構成のすべての構成を継承します。ただし、元の構成プロジェクトを編集しても、その変更はクローンされたプロジェクトに伝搬されません。

注: クローンしたプロジェクト構成は、「お気に入り (Favorites)」ビューに表示されません (プロジェクト構成をこのビューに明示的に追加した場合を除く)。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページが表示されます。
2. 「構成フィルター (Configuration Filter)」リストから、「すべて」を選択します。すべてのプロジェクト構成が表示されます。
3. クローンを作成するプロジェクト構成を指定します。
4. 「クローン」アイコン  をクリックします。「プロジェクト構成の作成 (Create Project Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 新規プロジェクト構成の固有名を指定します。
6. 「OK」をクリックします。


タスクの結果

クローンされたプロジェクト構成が、「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページに表示されます。クローンされたプロジェクトには、元のプロジェクト構成と同じすべてのプロジェクト構成の詳細が設定され

ています。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/cloningProjectConfigurations.html

プロジェクトのコピー

このタスクについて

管理コンソールでは、既存プロジェクトに新規バージョン番号を割り当てることで、プロジェクトをコピーできます。

手順


1. 「変更」タブをクリックします。「プロジェクト」ページが表示されます。
2. コピーするプロジェクトをクリックします。「プロジェクトのコピー (Copy Project)」ダイアログが表示されます。
3. 新規プロジェクト・バージョンを入力します。バージョン番号には小数部を含めることができます。
4. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクトのコピーが、「プロジェクト」ページにアルファベット順で表示されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/copyingProjects.html

最初からのプロジェクトの作成

このタスクについて

クラウドでプロジェクトを最初から作成できます。

手順

1. 「作成」タブをクリックします。「ソリューション」ページが表示されます。
2. 「最初から作成 (Create One From Scratch)」をクリックします。「プロジェクトの作成 (Create Project)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 固有のプロジェクト名を指定します。
4. 「保存」をクリックします。プロジェクトが、「変更」タブの「プロジェクト」ページに表示されま
す。


タスクの結果

これで、プロジェクトを編集、公開、削除、またはコピーできます。プロジェクトを選択して、プロジェクトの詳細を表示し、許可をプロジェクトに割り当てます。許可を割り当てた場合は、「保存」をクリックして更新内容を保存します。

プロジェクトの詳細には、プロジェクト構成が公開された先の環境、プロジェクトを公開した最終時刻のタイム・スタンプ、プロジェクト構成の現在の状態 (例えば、デプロイ済み) などがあります。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/creatingProjectFromScratch.html

テンプレートからのプロジェクトの作成

このタスクについて

テンプレートからプロジェクトを作成できます。テンプレートはソリューション・リポジトリに保管されています。すべてのユーザーはテンプレート・ソリューションを作成して、ソリューション・リポジトリにアップロードできます。

注:

ソリューション・リポジトリ内のすべてのテンプレートが認証済みであるわけではありません。認証済みのテンプレートは、WebSphere® DataPower® Cast Iron® のロゴで示されます。

手順

1. 「作成」タブをクリックします。「ソリューション」ページが表示されます。
2. テンプレートを検索します。
 - a. ソース・エンドポイントを選択します。

- b. ターゲット・エンドポイントを選択します。
- c. 「検索」をクリックします。


「キーワード検索 (Keyword Search)」 オプションを選択して、キーワードでテンプレートを検索することもできます。

3. 返されたソリューションからテンプレートを選択します。テンプレートの詳細が表示されます。
4. 「このテンプレートに基づいてプロジェクトを作成 (Create a project based on this template)」をクリックします。Studio Cloud が起動し、ウィザードのステップに従って、プロジェクトの作成を実行します。

タスクの結果

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/creatingProjectsFromTemplate.html

プロジェクト構成の削除

始める前に

プロジェクト構成のパブリッシャー、環境管理者、またはテナント管理者は、プロジェクト構成を削除できます。プロジェクト構成のパブリッシャーは、自身のプロジェクト構成を他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。環境管理者は、環境内の任意のプロジェクト構成を他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。テナント管理者は、テナント内の任意のプロジェクト構成を他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。

プロジェクト構成を削除するには、そのプロジェクト構成を事前にアンデプロイしておく必要があります。

このタスクについて

プロジェクト構成を削除すると、プロジェクト構成に関連したすべてのモニター・ヒストリーも削除されます。

手順

1. プロジェクト構成が公開されている環境のタブを選択します。ダッシュボードの「プロジェクト構成 (Project Configuration)」セクションに、プロジェクト構成のリストが表示されます。
2. 削除するプロジェクト構成がアンデプロイされていることを確認します。状態は、プロジェクト構成名の最後の括弧 () 内に表示されます。例えば、「(アンデプロイ済み (undeployed))」のようになります。


3. プロジェクト構成がアンデプロイ済み以外の状態の場合は、「アクション」列のアンデプロイ・アイコンをクリックして、プロジェクト構成をアンデプロイします。
4. 「アクション」列で、「削除」アイコンをクリックします。「プロジェクト構成の削除 (Delete Project Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「はい」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクト構成が削除され、使用できなくなります。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/deletingProjectConfigurations.html

プロジェクトの削除

始める前に

プロジェクトのパブリッシャー、環境管理者、またはテナント管理者は、プロジェクトを削除できます。プロジェクトのパブリッシャーは、自身のプロジェクトを他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。環境管理者は、環境内の任意のプロジェクトを他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。テナント管理者は、テナント内の任意のプロジェクトを他のユーザーが削除できるようにする許可を付与できます。

手順

1. 「変更」タブを選択します。「プロジェクト」ページに、公開できるプロジェクトのリストが表示されます。
2. 「アクション」列で、「削除」アイコンをクリックします。「プロジェクトを削除しますか? (Delete Project?)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「はい」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクトが削除されます。ただし、このプロジェクトから作成されたプロジェクト構成はすべて、引き続き使用可能です。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/deletingProjects.html

プロジェクト構成のデプロイ

始める前に

プロジェクト構成をデプロイまたはアンデプロイするには、テナント管理者特権または環境管理者特権を備えているか、プロジェクト構成のパブリッシャーでなければなりません。

このタスクについて

オーケストレーションのエンドポイントのタイプにより、プロジェクト構成をデプロイするために実行する必要があるステップが決定されます。プロジェクト構成をデプロイするには、そのプロジェクト構成には少なくとも1つの使用可能なオーケストレーションが含まれている必要があります。オーケストレーションにデータベースまたは Web サービスのエンドポイントが含まれている場合には、プロジェクト構成をデプロイするには、その前にエンドポイントの資産を生成する必要もあります。

デフォルトでは、プロジェクト構成内のすべてのオーケストレーションが使用可能になります。そのため、プロジェクト構成のオーケストレーションで追加構成が不要で、データベースおよび WebServices サービスのエンドポイントにアクセスしない場合は、いずれかの「プロジェクト」タブのプロジェクト構成の隣にあるデプロイ・アイコンをクリックして、プロジェクト構成をデプロイできます。プロジェクト構成で資産または追加構成が必要な場合は、以下のデプロイメント手順を参照してください。

注: プロジェクト構成をアンデプロイするには、プロジェクト構成は停止状態でなければなりません。

手順

1. プロジェクトを公開した環境タブを選択します。
2. 「プロジェクト構成 (Project Configuration)」セクションで、デプロイするプロジェクト構成を選択します。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. 「オーケストレーション」セクションで、プロジェクト構成内の少なくとも1つのオーケストレーションが使用可能になっていることを確認します。必要に応じて、オーケストレーション設定を編集します。

プロジェクト構成の実行中はオーケストレーション設定を編集できません。構成設定を編集するには、プロジェクト構成を停止およびアンデプロイしてください。

4. 必要に応じて、「プロパティ」セクションで構成プロパティを編集します。

プロジェクト構成の実行中は構成プロパティを編集できません。構成設定を編集するには、プロジェクト構成を停止およびアンデプロイしてください。

5. プロジェクト構成にデータベースまたは Web サービスのエンドポイントが含まれている場合には、そのエンドポイントの資産を生成する必要があります。

6. オプション: スケジュール・ダウン時間ルールを追加します。
7. オプション: プロジェクト構成の許可を割り当てます。この許可は、プロジェクト構成を編集およびデプロイできるユーザーのグループを指定します。デフォルトでは、テナント管理者、環境管理者、およびプロジェクト構成のパブリッシャーが、プロジェクト構成を編集およびデプロイできます。
8. 許可を割り当てた場合は、「保存」をクリックします。
9. 「要約」セクションで、「デプロイ」アイコン (▶) をクリックして、プロジェクト構成をデプロイします。

タスクの結果

プロジェクト構成がデプロイされ、ランタイムがオーケストレーション・ジョブの処理を開始し、「要約」セクションで状況が適宜更新されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/deployingProjectConfigurations.html

プロジェクト構成プロパティの編集

始める前に


構成プロパティを編集するには、管理者許可またはパブリッシャー許可が必要です。

このタスクについて

クラウドの環境にプロジェクトを公開するには、その前に、Studio で統合プロジェクトの構成プロパティを作成します。プロジェクトの公開時に、構成プロパティの値を指定できます。構成プロパティを使用して、プロジェクト構成をステージング環境から実稼働環境に移動できます。

例えば、データベース・エンドポイントが含まれたプロジェクトで、データベース接続パラメーターのプロパティを作成できます。これにより、テスト・データベースに接続するテスト環境用のプロジェクト構成を作成し、その後同じプロジェクトを使用して、別のデータベースに接続する実稼働環境用の別のプロジェクト構成を作成できます。

手順

1. プロジェクト構成が公開されている環境のタブを選択します。
2. ナビゲーション・ペインから、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページが表示されます。
3. 編集するプロジェクト構成が実行中の場合は、「アクション」列にある  「停止」アイコンをクリックして、その構成を停止します。「構成の停止 (Stop Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示された


- ら、以下のオプションのいずれかをクリックします。
- ジョブの終了 (Finish Jobs) - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブを開始できないようにします。現在実行されているジョブは処理を終了することができます。ジョブ終了することができます。
 - ジョブのキャンセル (Cancel Jobs) - 指定した時刻に、すべての新規オーケストレーション・ジョブを開始できないようにします。また、すべての現在実行中のジョブを停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。
4. 編集するプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
 5. 「プロパティ」セクションで、「編集」をクリックして構成プロパティ値を編集します。
 6. 構成プロパティを変更します。
 7. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「構成の詳細 (Configuration Details)」ページに、更新された構成プロパティ値が表示されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/editingProjectConfigurationProperties.html

プロジェクトの編集

このタスクについて


Studio Cloud を使用して、クラウド内のプロジェクトを編集できます。

手順

1. 「変更」タブで、プロジェクト名をクリックします。Studio Cloud が開きます。
2. 必要に応じて、プロジェクトを編集します。
3. 「保存」をクリックします。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

データベース資産について

使用するデータベース・エンドポイントのタイプにより、生成の必要がある資産が決定されます。以下の表に、サポートされる各データベース用に生成される資産を示します。

注: Cast Iron では、資産テーブルは、30 文字の ID サイズによって作成されます。資産テーブルの場合、Cast Iron が従う形式は `CI_CT_<respective-table-name>` (制御テーブルの場合) および `CI_BT_<respective-table-name>` (バッファ・テーブルの場合) です。このため、最大 24 文字の名前を持つテーブルを使用する必要があります。

データベース	生成される資産
<ul style="list-style-type: none">DB2® AS/400®Informix®Microsoft SQLSybase	<ul style="list-style-type: none">バッファ・テーブル制御テーブルトリガー
ローカル・ステー징・データベース	<ul style="list-style-type: none">バッファ・テーブル制御テーブル索引テーブルトリガー
Oracle	<ul style="list-style-type: none">バッファ・テーブル制御テーブルトリガーシーケンス

資産は、スターター・アクティビティおよび「1 回のみ」配信オプションを指定した非スターター・アクティビティに対してのみ生成されます。資産は、「1 回以上」または「1 回まで」配信オプションを指定した非スターター・アクティビティに対しては生成されません。

注: すべての資産の名前が確実に固有になるように、制御テーブル名にはアクティビティ ID が付加されます。この番号は、同じ制御テーブルを使用するオーケストレーションの複数のエンドポイントを区別しません。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

データベース資産の妥当性検査

このタスクについて

データベース資産を生成する前に、資産を妥当性検査します。資産の妥当性検査時に、統合環境はソース・データベースにバッファ・テーブルまたは制御テーブルが存在するかどうかを検査し、テーブル構造が正しいことを検査します。

注:

トリガーおよびシーケンスは妥当性検査されません。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページが表示されます。
2. データベース資産が必要なプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. プロジェクト構成がアンデプロイされた状態であることを確認します。
4. 「資産 (Assets)」セクションで、「データベース」をクリックします。「データベース資産 (Database Assets)」ページが表示されます。
5. 妥当性検査するすべての資産を選択して、「妥当性検査」をクリックします。
6. 返された結果により、次のステップが決定されます。以下の表に、フィードバックの解釈方法および続行方法を示します。
 - 緑のチェック・マーク - 有効
 - 黄色の警告標識 = 警告

データベース資産の妥当性検査のフィードバック

存在しますか?	有効ですか?	アクション
有効	有効	資産がデータベース内に存在し、資産構造が、Studio で作成したプロジェクト構成に一致しています。プロジェクト構成をデプロイできます。
有効	警告	資産はデータベース内に存在しますが、資産構造が正しくありません。データベース・スクリプトに適切な列が含まれていること、および列の順序が正しいことを確認してください。エラーがある場合は、資産を再作成します。
警告	警告	資産がソース・データベース表内に存在しません。プロジェクト構成をデプロイする前に、資産を作成する必要があります。

警告: 固有 ID で終了する制約名が生成されます。ただし、データベース表名のサイズが 18 文字を超えている場合は、制約名は切り捨てられて、名前の競合が生じます。データベース表名が 18 文字を超えている場合は、生成されたデータベース資産スクリプトを編集して、制約名を固有にしてください。

データベース資産の生成


このタスクについて

資産を妥当性検査または生成するには、その前に、プロジェクト構成をアンデプロイする必要があります。資産を生成する前に、その資産を妥当性検査します。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページが表示されます。
2. データベース資産が必要なプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. プロジェクト構成がアンデプロイされた状態であることを確認します。
4. 「資産 (Assets)」セクションで、「データベース」をクリックします。「データベース資産 (Database Assets)」ページが表示されます。
5. 生成する資産をすべて選択します。一番上のチェック・ボックスを選択することで、すべての資産を選択できます。
6. 「作成」をクリックします。
7. データベース・スクリプトを確認し、必要に応じて編集します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/generatingDBAssets.html

プロジェクトの公開

始める前に

プロジェクトを公開するには、テナント管理者、環境管理者、または環境パブリッシャーでなければなりません。

このタスクについて

プロジェクトを公開すると、プロジェクトは Studio からランタイム環境にアップロードされます。

手順

1. 管理コンソールで、「変更」タブを選択します。「プロジェクト」ページが表示されます。
2. 「アクション」列で、「プロジェクトの公開」アイコンをクリックします。リストにテナント内のすべての環境が表示されます。
3. プロジェクトの公開先となる環境を選択します。

タスクの結果

確認が表示されます。選択した環境でプロジェクトが使用可能になっています。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/publishingProjects.html

データベース資産の再作成

このタスクについて

データベース資産が存在するが、その構造がソース表に一致していない場合は、プロジェクト構成をデプロイする前に、データベース資産を再作成する必要があります。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」を選択します。「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページが表示されます。
2. データベース資産が必要なプロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
3. プロジェクト構成がアンデプロイされた状態であることを確認します。
4. 「資産 (Assets)」セクションで、「データベース」をクリックします。「データベース資産 (Database Assets)」ページが表示されます。
5. 再作成する資産を選択します。
6. 「再作成」をクリックします。
7. スクリプトを確認し、必要に応じて編集します。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/recreatingDBAssets.html

資産テーブル名に必要な引用符


以下の表に、有効な資産を生成するために資産プロパティを囲む際に使用する必要がある引用符に関する情報を示します。

データベース	必要な引用符
DB2® AS/400®	" "

データベース	必要な引用符
Informix®	[]
Microsoft SQL	[]
Oracle	" "
Sybase	[]

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/requiredQuotesForAssetTableNames.html


TIP のレビュー

ダウンロードしたすべて TIP についてレーティングおよびレビューを行うことができます。

レーティングは 1 から 5 までの尺度で指定されます (5 が最高のレーティングです)。TIP のレーティングとレビューを送信すると、Studio が WebSphere® Cast Iron® ソリューション・リポジトリに情報をアップロードします。送信したレーティングは、他のレビューアーが送信した他のレーティングと結合され、その平均が特定の TIP の詳細ペインに表示されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/reviewingTIPs.html

プロジェクト構成の停止

このタスクについて


実行中のプロジェクト構成は、次の 2 つの方法で停止できます。

- **停止 (ジョブの終了を許可する) (Stop (allows jobs to finish))** - 「ジョブの終了 (Finish Jobs)」をクリックすると、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できなくなります。現在実行されている

ジョブは処理を終了することができます。このアクションにより、統合アプライアンスを正常に停止することができます。


- **停止 (実行中のジョブをキャンセルする) (Stop (cancel running jobs))** - 「ジョブのキャンセル (Cancel Jobs)」をクリックすると、すべての新規オーケストレーション・ジョブが開始できなくなります。また、すべての現在実行中のジョブが停止します。このアクションはすべてのジョブを即時に停止します。

手順

1. 「プロジェクト構成 (Project Configurations)」ページから、プロジェクト構成を選択します。
2. 「アクション」列で「停止」アイコン  をクリックします。「構成の停止 (Stop Configuration)」ウィンドウが表示されます。
3. 「ジョブの終了 (Finish Jobs)」または「ジョブのキャンセル (Cancel Jobs)」をクリックして、プロジェクト構成を停止します。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/stoppingProjectConfigurations.html

プロジェクト構成のアップロード

始める前に

プロジェクト構成をクラウドにアップロードするには、テナント管理者、環境管理者、または環境パブリッシャーの権限が必要です。

このタスクについて

プロジェクト構成をアップロードする際には、2段階のプロセスを使用してプロジェクトを公開します。まず、Studio から中間的な場所へプロジェクトをエクスポートします。次に管理コンソールから、そのプロジェクトを統合アプライアンスまたはクラウド環境にアップロードします。

手順

1. プロジェクト構成のアップロード先の環境タブを選択します。
2. 「ナビゲーション」ペインで、「リポジトリ (Repository)」 > 「プロジェクトのアップロード」を選択します。「プロジェクト構成のアップロード (Upload Project Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「ローカル・プロジェクト・ファイル」フィールドに、プロジェクトのアップロード元のパスを入力します。「参照」をクリックして、ローカル・マシンからファイルを選択できます。


4. プロジェクト名を指定します。名前は 42 文字以下でなければならず、また制限文字を含めることはできません。
5. 製品バージョン番号を指定します。このフィールドには、Studio で指定したプロジェクト・バージョンが取り込まれません。ただし、Studio で指定したバージョンに一致するプロジェクト・バージョンを指定することを強くお勧めします。
6. 「アップロード」をクリックします。

タスクの結果

プロジェクト構成が、「プロジェクト構成 (Project Configuration)」ページに表示されます。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/uploadingProjectConfigurations.html


Web サービス資産の表示および保存

このタスクについて

管理コンソールは、サービスの提供アクティビティーが含まれたプロジェクト構成用の WSDL ファイルを生成します。このファイルは、参照用に表示または保存できます。この Web サービス・エンドポイントが含まれたプロジェクト構成をデプロイする前に、WSDL を表示して、WSDL が正しいことを確認します。

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/viewingSavingWSAssets.html

プロジェクト構成の処理

プロジェクト構成では、以下のような各種ビューが使用可能です。









- **すべて** - プロジェクト構成の状態に関係なく、すべてのプロジェクト構成のデプロイメントの状態および状況を表示します。このビューからプロジェクト構成をクローンまたは削除できます。

- **最新 (Recent)** - ごく最近に公開または変更されたプロジェクト構成のデプロイメントの状態および状況を表示します。このビューからプロジェクト構成をクローンまたは削除できます。
- **お気に入り (Favorites)** - ユーザーが許可を持っているプロジェクト構成のデプロイメントの状態および状況を表示します。デフォルトでは、このビューにはデータが入っていません。「最新 (Recent)」ビューまたは「すべて」ビューからプロジェクト構成を明示的に追加する必要があります。
- **My 構成 (My Configurations)** - 自身で公開したプロジェクト構成、またはクローンしたプロジェクト構成 (現在ログオンしているユーザーによって公開された構成) のデプロイメント状態および状況が表示されます。

これらのビューにはダッシュボードからアクセスするか、または「ナビゲーション」ペインで「リポジトリ (Repository)」 > 「構成 (Configurations)」というパスを選択することでアクセスできます。「構成フィルター (Configuration Filter)」を使用することで、リストからビューを選択できます。


以下の表で、各種プロジェクト構成ビューで使用可能な情報について説明します。

プロジェクト構成のビューの列	説明
構成	公開済みプロジェクト構成が表示されます。
実行中	プロジェクト構成で現在実行中のジョブ数が表示されます。
完了 (Completed)	プロジェクト構成で完全に処理されたオーケストレーション・ジョブ数が表示されます。 オーケストレーション・モニター・データがページされると、オーケストレーション・ジョブ数は0にリセットされます。ログ・ページ・パラメーターの変更について詳しくは、ページのヘルプ・トピックを参照してください。
エラー (Errored)	プロジェクト構成でランタイム・エラーが発生したオーケストレーション・ジョブの数が表示されます。 オーケストレーション・モニター・データがページされると、オーケストレーション・ジョブ数は0にリセットされます。ログ・ページ・パラメーターの変更について詳しくは、ページのヘルプ・トピックを参照してください。
合計	プロジェクト構成で実行されたオーケストレーション・ジョブの総数が表示されます。 オーケストレーション・モニター・データがページされると、オーケストレーション・ジョブ数は0にリセットされます。ログ・ページ・パラメーターの変更について詳しくは、ページのヘルプ・トピックを参照してください。

プロジェクト構成のビューの列	説明
アクション	<p>プロジェクト構成の状態に加え、プロジェクト構成を削除  またはクローン  するためのオプションが表示されます。</p> <p> このアイコンをクリックすると、プロジェクト構成がデプロイおよび実行されます。</p> <p> このアイコンをクリックすると、ランタイムは、プロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ処理を中断します。</p> <p> このアイコンをクリックすると、プロジェクト構成がアンデプロイされます。プロジェクト構成をアンデプロイするには、事前にプロジェクト構成を停止しておく必要があります。</p> <p> このアイコンをクリックすると、ランタイムは、プロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブを処理しなくなります。</p> <p>プロジェクト構成を停止する際には、ランタイムに現在実行中のすべてのジョブを完了するまで実行させるか、現在実行中のすべてのジョブをキャンセルさせるかを選択できます。</p> <p>「お気に入り」アイコン  これは、「すべて」ビューおよび「最新 (Recent)」ビューでのみ使用可能です。このアイコンをクリックすると、プロジェクト構成が「お気に入り (Favorites)」に追加されます。</p> <p>管理コンソールの「お気に入り (Favorites)」にプロジェクト構成が表示されている場合は、「すべて」ビューおよび「最新 (Recent)」ビューの当該プロジェクト構成の隣にあるこのアイコンは無効になります。</p> <p> このアイコンをクリックすると、プロジェクト構成が「お気に入り」から削除されます。ただし、そのプロジェクト構成は環境からは削除されません。プロジェクト構成は、「すべて」ビューおよび「最新 (Recent)」ビューから表示できます。</p>

親トピック: [プロジェクトの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Projects/working_WithProjectConfigurations.html

モニター

モニターのトピックでは、通知の作成および管理、ハードウェア状況の表示、オーケストレーション・ジョブの検索、およびオーケストレーション・ジョブ・ログの表示に関する情報について説明します。

- [Web 管理コンソールについて](#)
- [通知レベルの選択](#)

通知レベルは、アラートをトリガーできるイベントの重大度を定義します。通知レベルを指定すると、選択したレベルを超過したエラーについてのみアラートが送信されます。
- [通知ポリシーの作成](#)

通知ポリシーを使用することで、特定のシステムにおける潜在的なエラーをモニターできます。
- [通知ポリシーの削除](#)

1 つ以上の通知ポリシーを削除できます。
- [通知ポリシーの編集](#)
- [E メール通知ポリシーの使用可能化](#)
- [オーケストレーション・ジョブの検索](#)
- [ハードウェア状況の表示](#)
- [オーケストレーション・ジョブ・ログの表示](#)

ダッシュボードでは以下の複数のタブに、オーケストレーション・ジョブに関する情報 (状況、ジョブ・イベントのタイム・スタンプ、キー/ジョブ ID など) が表示されます。
- [SNMP の基礎](#)

Simple Network Management Protocol (SNMP) は、ネットワーク・デバイスで管理者の注意を必要とする条件の発生をモニターするために、主にネットワーク管理システム内で使用されるインターネット標準プロトコルです。SNMP がサポートする代表的なデバイスは、ルーター、スイッチ、サーバー、ワークステーション、プリンターなどです。このセクションでは、SNMP の基礎および Cast Iron MIB の概要について説明します。
- [SNMP レシーバーのセットアップ](#)


WMC を使用して、オーケストレーション、セキュリティ、ハードウェアなどのランタイム・コンポーネントで発生するイベントの通知を作成できます。これらの通知用の配信メカニズムの 1 つが SNMP であり、その内部ではイベント用のトラップが設定されます。これらのイベントを取得するには、アプライアンスに登録されるレシーバーまたはマネージャーをセットアップする必要があります。このセクションの手順を使用して、SNMP レシーバーをセットアップします。
- [通知ポリシーの追加](#)

通知ポリシーを追加すると、ジョブ実行のアラート、ポリシー違反、および状況変更が管理者に通知されます。通知システムでは、SNMP トラップを使用して、SNMP 対応のサード・パーティー・アプリケーションにトラップを送信することもできます。通知ポリシーを追加し、ポリシーに名前を割り当てるには、以下のステップを実行します。
- [「リソース使用状況 \(Resource Utilization\)」 グラフについて](#)

キャパシティ・プランニングを行い、ランタイム環境の正常性を理解するために、「リソース使用状況 (Resource Utilization)」 グラフが示すデータをどのように使用するかを説明します。
- [ハードウェアの正常性](#)

このセクションの情報を使用して、アプライアンスのハードウェアの正常性に基づく通知を取得します。
- [システムのテスト](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

Web 管理コンソールについて

Web 管理コンソール (WMC) は、Web ベースの管理ツールで、以下を実行できます。

- 統合アプライアンスの管理
- 統合プロジェクトの管理
- 統合プロジェクトのモニター


複数の WMC から同じ統合アプライアンスにアクセスできます。ただし、各 WMC は一度に 1 つの統合アプライアンスのモニターおよび管理のみを行うことができます。WMC で実行できるタスクは、ログインに使用するユーザー・アカウントによって異なります。WMC には組み込みグループがあります。それらのグループを使用して、統合アプライアンスへのアクセスをさらに制御できます。あるいは、ユーザーおよびグループの認証および許可を管理するための LDAP サーバーを指定できます。

WMC を通じて統合アプライアンスにログインすると、ダッシュボードが表示されます。ダッシュボードには、プロジェクト構成とジョブ、リソース使用率のグラフ、未解決の重大なシステム・エラーのリスト、およびプロジェクト構成全体の要約について、複数のスナップショット・ビューが表示されます。ダッシュボードでは、ジョブ・キーによってオーケストレーション・ジョブを検索することもできます。「検索」ボックスは、ダッシュボードの「結果」セクションにあります。

WMC には、現行ユーザーの名前と、統合アプライアンスで設定された日付およびタイム・スタンプが表示されます。この日付およびタイム・スタンプは、ローカルの日付と時刻を表すとは限りません。例えば、統合アプライアンスが GMT に設定されている場合でも、PST 時間帯であるカリフォルニア州のサンフランシスコで WMC からこの統合アプライアンスにログオンできます。コマンド行インターフェースを (CLI) を使用して、統合アプライアンスの時間帯を変更します。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/aboutDashboard.html>

通知レベルの選択

通知レベルは、アラートをトリガーできるイベントの重大度を定義します。通知レベルを指定すると、選択したレベルを超過したエラーについてのみアラートが送信されます。

注: イベントの通知が受信されない場合は、通知をトリガーするエントリを生成するのにシステム・ログ・レベルを設定していない可能性があります。例えば、デプロイメントに対して「エラー」レベルを選択した場合


は、デプロイメント・システム内で発生した、「エラー」レベルまたは「クリティカル (Critical)」レベルのイベントがすべてログに記録されます。

以下の通知レベルを指定できます。

通知レベル	説明
クリティカル (Critical)	エラー状態によりシャットダウンが生じる場合に、アラートを送信します。
エラー	重大ではないが即時に対応する必要がある問題が発生した場合にアラートを送信します。
警告	潜在的なエラー状態が発生した場合にアラートを送信します。
情報	情報用途のアラートを送信します。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/choosingNotificationLevel.html>

通知ポリシーの作成

通知ポリシーを使用することで、特定のシステムにおける潜在的なエラーをモニターできます。

このタスクについて

通知ポリシーを作成すると、通知ポリシーによって、指定したシステムのシステム・ログがモニターされます。通知ポリシーの通知レベルを満たすシステム・ログ・イベント、または通知レベルを超過したイベントが発生すると、指定したユーザーにアラートが送信されます。

注: イベントの通知を受信しない場合は、通知をトリガーするエントリが生成されるようにシステム・ログ・レベルを設定していないか、あるいは通知ポリシーを使用可能にしていない可能性があります。システム・ログ設定の指定について詳しくは、『[システム・ログ設定の指定](#)』を参照してください。Eメール通知ポリシーの使用可能化について詳しくは、『[Eメール通知ポリシーの使用可能化](#)』を参照してください。

手順

1. 通知ポリシーを作成する環境をクリックします。「ナビゲーション」ペインが表示されます。
2. 「ログ (Logs)」 > 「通知 (Notifications)」を選択します。「通知 (Notifications)」ページが表示されます。
3. 「新規ポリシー (New Policy)」をクリックします。「新規ポリシー (New Policy)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. ポリシー名を入力します。


5. 「超過レベル (Level exceeds)」リストからレベルを選択します。アラートは、選択したレベルを超過したエラーについてのみ送信されます。
6. 「対象システム (With System)」リストから、通知ポリシーによってモニターする対象のシステムを選択します。
7. Eメール通知を受け取るユーザーのEメール・アドレスを指定します (複数可)。複数のEメール・アドレスを指定する場合は、1行につき1つのEメール・アドレスを追加します。
8. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「通知 (Notifications)」ページに新規ポリシーが表示されます。アラートが送信されるようにするには、Eメール通知を使用可能にする必要があります。Eメールの状況が「(非アクティブ (inactive))」と表示されている場合は、Eメール通知は使用可能になっていません。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/creatingNotificationsPolicies.html>

通知ポリシーの削除

1つ以上の通知ポリシーを削除できます。

手順

1. 通知ポリシーを削除する環境をクリックします。「ナビゲーション」ペインが表示されます。
2. 「ログ (Logs)」 > 「通知 (Notifications)」を選択します。「通知 (Notifications)」ページが表示されます。
3. 削除するポリシーのチェック・ボックスを選択します。


複数のポリシーを削除するには、上のチェック・ボックスを選択します。すべてのポリシーが選択されます。

4. 「削除」をクリックします。「ポリシーを削除しますか? (Delete Policies?)」確認ウィンドウが表示されます。
5. 「はい」をクリックします。

タスクの結果

ポリシーが削除されて、「通知 (Notifications)」ページに表示されなくなります。

親トピック: [モニター](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/deletingNotificationPolicies.html>

通知ポリシーの編集


手順

1. 「ナビゲーション」 ペインで、「ログ (Logs)」 > 「通知 (Notifications)」 を選択します。「通知 (Notifications)」 ページが表示されます。
2. 通知ポリシーをクリックします。「ポリシーの編集 (Edit Policy)」 ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 該当する通知設定を更新します。
4. 「保存」 をクリックします。

タスクの結果

「通知 (Notifications)」 ページに、更新されたポリシーが表示されます。アラートが送信されるようにするには、E メール通知を使用可能にする必要があります。E メールの状況が「(非アクティブ (inactive))」と表示されている場合は、E メール通知は使用可能になっていません。

親トピック: [モニター](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/editingNotificationPolicies.html>

E メール通知ポリシーの使用可能化

このタスクについて

E メール通知ポリシーを作成した場合、アラートを送信するには、その E メール通知ポリシーを使用可能にする必要があります。デフォルトでは、E メール通知は使用可能になっていません。

Eメール通知ポリシーを使用可能にした場合は、Eメール通知の作成時に指定した設定によって、いつEメール・アラートが送信されるかが決定されます。

注: 「Eメールを使用可能にする (Enable Email)」 オプションをクリアしてEメール通知ポリシーを使用不可にした場合は、すべてのEメール通知ポリシーについて、アラートが配信されなくなります。

手順


1. Eメール通知ポリシーを使用可能にする環境をクリックします。「ナビゲーション」ペインが表示されます。
2. 「ログ (Logs)」 > 「通知 (Notifications)」を選択します。「通知 (Notifications)」ページが表示されます。
3. ページの上部で、「Eメール」リンクをクリックします。「Eメールを使用可能にする (Enable Email)」オプションが表示されます。
4. 「Eメールを使用可能にする (Enable Email)」オプションをクリックします。
5. オプション: 送信されたアラートについて説明するEメールの件名を指定します。
6. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「通知 (Notifications)」ページに新規ポリシーが表示され、Eメールの状況が「(非アクティブ (Inactive))」から「(アクティブ (Active))」に変わります。これで、通知ポリシーをトリガーするイベントが発生した場合に、Eメール通知が送信されるようになりました。

親トピック: [モニター](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/enablingEmailNotificationPolicies.html>

オーケストレーション・ジョブの検索

このタスクについて

ジョブ ID およびキーにより、オーケストレーション・ジョブを検索できます。コネクターの構成時に、Studio で 1 次メッセージ・キーを定義します。1 次メッセージ・キーは固有値でなければなりません。例えば、発注メッセージの発注番号にします。1 次キーを定義しなかった場合は、ランタイムはジョブ ID (ランタイムによって生成される固有の数値) を使用してオーケストレーション・ジョブを識別します。

管理コンソールから、ジョブ ID でオーケストレーション・ジョブを検索できます。デフォルトでは、管理コンソールは、指定したジョブ ID に一致する完了済みオーケストレーション・ジョブのみを検索します。その他のすべてのオーケストレーション・ジョブを検索する場合には、「拡張検索 (Advanced Search)」オプションを使用します。

手順

1. ナビゲーション・ペインから「ダッシュボード」を選択します。
2. 「結果」セクションの「キー検索 (Key Search)」フィールドにジョブ ID を入力します。
3. キーボードの Enter キーを押します。ジョブ ID が一致する完了済みジョブが表示されます。

親トピック: [モニター](#)

「拡張検索 (Advanced Search)」の使用

このタスクについて

「拡張検索 (Advanced Search)」オプションは、ジョブ検索をさらに詳細化する場合に使用します。「拡張検索 (Advanced Search)」ボックスの複数のフィールドに値を入力した場合は、管理コンソールは AND ロジックを使用して検索を詳細化します。

例えば、エラー状況を選択した上で、時刻範囲を指定したとします。管理コンソールは、指定した時刻範囲内にエラーが発生したすべてのオーケストレーション・ジョブを検索します。

注: 日時に検索することを選択した場合は、開始日時と終了日時を指定する必要があります。

手順

1. ナビゲーション・ペインから「ダッシュボード」を選択します。
2. 「結果」セクションで、オーケストレーションを選択します。「オーケストレーションの詳細 (Orchestration Details)」ページに、そのオーケストレーションに関連するすべてのジョブが表示されます。
3. 「拡張検索 (Advanced Search)」ボックスで、行う検索に適した「ジョブ ID」、「キー」、「状況」、「開始日時 (Start Date and Time)」、または「終了日時 (End Date and Time)」の値を指定します。


注: 日時に検索することを選択した場合は、開始日時と終了日時を指定する必要があります。

4. 「検索」をクリックします。

タスクの結果

表に検索結果が表示されます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/searchingOrchestrationJobs.html>

ハードウェア状況の表示

WMC では、統合アプライアンスのリソース使用状況及びハードウェアの正常性をモニターできます。

リソース使用状況の表示

統合アプライアンスの CPU 使用量、メモリー使用量、およびディスク・スペース使用量を表示するには、「システム (System)」 > 「ハードウェア状況 (Hardware Status)」を選択します。「リソース使用状況 (Resource Utilization)」ページが表示されます。


WMC は、リストされたリソース使用状況カテゴリごとに、使用率を表示します。カテゴリに複数のコンポーネント (複数の CPU など) が含まれる場合、示されるパーセンテージは、表示されるすべてのコンポーネントの平均です。ダッシュボードでは、WMC によって統合アプライアンスリソース使用状況データのグラフィカルな要約が提供されます。「リソース使用状況 (Resource Utilization)」グラフの解釈について詳しくは、『[Web 管理コンソールについて](#)』を参照してください。

ハードウェアの正常性の表示

統合アプライアンスのハードウェア・コンポーネントに関する状況を表示するには、「システム (System)」 > 「ハードウェア状況 (Hardware Status)」を選択します。「ハードウェアの正常性 (Hardware Health)」ページに、ファン、温度、ディスク、およびネットワーク・リンクの状況が表示されます。緑のチェック・マークは、コンポーネントが正常に稼働していることを示します。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/viewingHardwareStatus.html>

オーケストレーション・ジョブ・ログの表示

ダッシュボードでは以下の複数のタブに、オーケストレーション・ジョブに関する情報 (状況、ジョブ・イベントのタイム・スタンプ、キー/ジョブ ID など) が表示されます。

- **すべて** - すべてのプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ情報が表示されます。
- **最新 (Recent)** - ごく最近に公開または変更されたプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ情報が表示されます。
- **お気に入り (Favorites)** - 「お気に入り (Favorites)」フィルターに表示されているプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ情報が表示されます。このフィルターを使用して表示されるオーケストレーション・ジョブ情報は、「最新 (Recent)」フィルターおよび「すべて」フィルターでも表示されます。

オーケストレーション・ジョブが正常に完了している場合でも、管理コンソールはそのオーケストレーション・ジョブの状況を「不明」と表示することがあります。オーケストレーション・ジョブの処理中に環境をリブートすると、リブートでモニター・データが失われて、「不明」状況が生じる可能性があります。「不明」状況を回避するには、環境をリブートする前にすべてのオーケストレーション・ジョブを停止します。

オーケストレーション・ジョブをクリックすると、そのオーケストレーションのオーケストレーション詳細が表示されます。「オーケストレーションの詳細 (Orchestration Details)」ページに、選択したオーケストレーションに関連するすべてのジョブ、および各個別ジョブの状況が表示されます。すべてのオーケストレーション・ジョブを表示するには、左右矢印(<<、<、>、>>)を使用します。


親トピック: [モニター](#)

オーケストレーション・ジョブのソート

このタスクについて

ジョブ ID でオーケストレーション・ジョブを検索できます。プロジェクト構成名、オーケストレーション名、状況、時刻、またはジョブ ID でオーケストレーション・ジョブをソートするには、該当する列見出しをクリックします。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/viewingOrchestrationJobLogs.html>

SNMP の基礎

Simple Network Management Protocol (SNMP) は、ネットワーク・デバイスで管理者の注意を必要とする条件の発生をモニターするために、主にネットワーク管理システム内で使用されるインターネット標準プロトコルです。SNMP がサポートする代表的なデバイスは、ルーター、スイッチ、サーバー、ワークステーション、プリンターなどです。このセクションでは、SNMP の基礎および Cast Iron MIB の概要について説明します。

SNMP の用語では、Cast Iron 統合アプライアンスを「ネットワーク・エレメント」または「管理対象デバイス」と呼びます。これは、ネットワーク上のメンバーであり、管理対象として使用可能であることを示します。ネットワーク・エレメントには、エレメントについての情報を提供するエージェントが含まれます。エージェントは 2 つの重要な機能を実行します。1 つ目の機能は管理システムからの要求に応答することであり、2 つ目の機能はネットワーク・エレメント上のイベントについての通知を送信することです。エージェントからマネージャーへの非同期通知をトラップと呼びます。

SNMP トラップを使用すると、エージェントは、非送信請求 SNMP メッセージという手段を通じて、管理ステーションに重要なイベントを通知できます。ポーリングまたはトラップを通じて提供される情報は、管理情報ベース (MIB) 内で定義されます。MIB は、通信ネットワーク内のエンティティを管理するために使用される仮想データベースです。MIB は、オブジェクトの階層を定義し、各オブジェクトに固有のオブジェクト ID (OID) を割り当てます。OID は、ピリオドで区切られた数字 (例: 「1.3.6.1.2.1.1」) によって指定されます。OID を特定の共通名によって参照することもあります。例えば、特定の OID 1.3.6.1.2.1.1 を「システム」として参照できます。SNMP プロトコルでは多くの共通 MIB が定義されています。また、組織がアプリケーション固有のカスタム MIB を定義することもできます。

Cast Iron MIB の理解

Cast Iron WMC からダウンロードされたファイルには、複数の MIB DEFINITIONS = BEGIN - END セクションがあります。各セクションは、1つの MIB と固有の階層から成り立っています。Cast Iron 固有情報をポーリングするには、CASTIRON-IA-MIB を使用します。各 MIB には、MIB 機能を記述する MODULE-IDENTITY があります。MODULE-IDENTITY に続くコメント・セクションには、MIB コンテンツの概要があり、各 MIB オブジェクトの名前と OID をリストするオブジェクト要約が含まれています。

注: NET-SNMP によって提供されるツールなど、一部のツールでは、各 MIB を単一のファイルに分割する必要があります。MIB の分割について詳しくは、[SNMP レシーバーのセットアップ](#)を参照してください。

CASTIRON-IA-MIB のオブジェクト要約のセクションの 1つを以下に示します。

```
-- ciIaProjectSummary          ciia.1.1.1
-- ciIaNbrProjects             ciia.1.1.1.1
-- ciIaNbrRunningOrchs        ciia.1.1.1.2
-- ciIaNbrStoppedOrchs        ciia.1.1.1.3
-- ciIaNbrRunningJobs         ciia.1.1.1.4
-- ciIaNbrCompletedJobs       ciia.1.1.1.5
-- ciIaNbrErroredJobs         ciia.1.1.1.6
```

示したように、ciIaProjectSummary と呼ばれる組織ノード (ディレクトリーに類似した概念。この例では OBJECT-IDENTITY) に、プロジェクトについての一般情報が含まれています。その「ディレクトリー」の内部には、個別の項目 (OBJECT-TYPE) があり、それぞれにプロジェクトの数、実行中のオーケストレーションの数、停止したオーケストレーションの数などが含まれています。これらの項目の意味についての詳細情報を取得するには、ファイル内で該当する項目の名前を検索します。例えば、ciIaNbrRunningJobs についての情報を取得するには、ファイル内でそのストリングを検索します。以下の内容が検出されます。

```
ciIaNbrRunningJobs OBJECT-TYPE          -- ciia.1.1.1.4
    SYNTAX Unsigned32
    MAX-ACCESS read-only
    STATUS current
    DESCRIPTION
        "Total number of currently running jobs."
    ::= { ciIaProjectSummary 4 }
```

重要な領域は以下のとおりです。

- ciIaNbrRunningJobs OBJECT-TYPE - オブジェクトの名前を定義します。行末には、OID の短縮形を示すコメントがあります。
- SYNTAX Unsigned32 - これは符号なし整数であり、その値は上または下に変動することがあります。
- MAX-ACCESS read-only - 読み取り専用値。マネージャーはこの値を要求できますが、変更することはできません。
- DESCRIPTION - オブジェクトを記述します。

以下の例は、ProjectSummary 情報をポーリングしたときに表示されるデータを示しています。

```
$ snmpwalk -v 2c -c public -M "+/home/choller/mibs" -m "+CASTIRON-IA-MIB"
flintstone2 ciIaProjectSummary
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrProjects.0 = Gauge32: 2
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrRunningOrchs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrStoppedOrchs.0 = Gauge32: 14
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrRunningJobs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrCompletedJobs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrErroredJobs.0 = Gauge32: 0
```

lciIaProjectTable をポーリングしたときには、以下のデータが表示されます。

```

-- ciIaProjectTable                ciia.1.1.2
-- ciIaProjectEntry                ciia.1.1.2.1
-- ciIaProjEntryIndex              ciia.1.1.2.1.1
-- ciIaProjEntryName               ciia.1.1.2.1.2
-- ciIaProjEntryVersion            ciia.1.1.2.1.3
-- ciIaProjEntryConfig             ciia.1.1.2.1.4
-- ciIaProjEntryState              ciia.1.1.2.1.5
-- ciIaProjEntryNbrRunning         ciia.1.1.2.1.6
-- ciIaProjEntryNbrCompleted       ciia.1.1.2.1.7
-- ciIaProjEntryNbrErrored         ciia.1.1.2.1.8
-- ciIaProjEntryTimePublished      ciia.1.1.2.1.9

```

SNMP テーブルでの作業には困難が伴う場合があります。SNMP テーブルは、アプライアンス上の各プロジェクトについて、名前、バージョン、構成、状態などの情報を示します。これはデータベース・スキーマに類似しています。各エントリー項目 (ciIaProjEntryName、ciIaProjEntryVersion など) は、テーブル内の列を記述します。MIB 内でストリングを検索して、各項目についての詳細情報を検出できます。注: 反復方式で Project テーブルを「ウォーク」しようとすると、問題が発生することがあります。代わりに、テーブル情報を表示するときには、テーブルを認識するツール機能を常に使用してください。以下の例は「ウォーク」手法を示しています。この例では、プロジェクトが公開された後で、新規構成を作成するためにクローンが作成されたため、2つのテーブル行が存在します。出力が示しているように、どの項目が特定の行に関連付けられているかを理解することは困難です。この場合には、索引 (OID の最後の部分) を参照して、項目と行の正しい配列を判別する必要があります。

```

$ snmpwalk -v 2c -c public -M "+/home/choller/mibs" -m "+CASTIRON-IA-MIB"
flintstone2 ciIaProjectTable
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryName.98304 = STRING: OnlineLicensing
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryName.98305 = STRING: OnlineLicensing
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryVersion.98304 = STRING: 1.0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryVersion.98305 = STRING: 1.0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryConfig.98304 = STRING: Default
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryConfig.98305 = STRING: OnlineLicensingClone
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryState.98304 = INTEGER: undeployed(1)
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryState.98305 = INTEGER: undeployed(1)
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrRunning.98304 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrRunning.98305 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrCompleted.98304 = Counter32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrCompleted.98305 = Counter32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrErrored.98304 = Counter32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrErrored.98305 = Counter32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryTimePublished.98304 = STRING: 2009-6-
12,16:36:20.0,+0:0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryTimePublished.98305 = STRING: 2009-6-
12,16:36:20.0,+0:0

```

snmptable コマンドを使用して情報をマップすると、以下の例に示すように、表示はより明確になります。

```

$ snmptable -v 2c -c public -M "+/home/choller/mibs" -m "+CASTIRON-IA-MIB"
flintstone2 ciIaProjectTable
SNMP table: CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjectTable

```


PEN*	PEV	PEC	PES	PER	COM	PEE	PETP
OnlineLicensing	1.0	Default	undeployed	0	0	0	2009-6-12,16:36:20.0,+0:0
OnlineLicensing	1.0	OnlineLicensingClone	undeployed	0	0	0	2009-6-12,16:36:20.0,+0:0

*Table Key: PEN=ciIaProjEntryName, PEV=ciIaProjEntryVersion, PEC=ciIaProjEntryConfig, PES=ciIaProjEntryState, PER=ciIaProjEntryNbrRunning, COM=ciIaProjEntryNbrCompleted, PEE=ciIaProjEntryNbrErrored, PETP=ciIaProjEntryTimePublished

これらの例では、OID ではなくテキスト名が使用されています。MIB の機能の 1 つは OID とテキスト名をマップすることであるため、OID を常に使用する必要はありません。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/snmp_basics.html

SNMP レシーバーのセットアップ

WMC を使用して、オーケストレーション、セキュリティー、ハードウェアなどのランタイム・コンポーネントで発生するイベントの通知を作成できます。これらの通知用の配信メカニズムの 1 つが SNMP であり、その内部ではイベント用のトラップが設定されます。これらのイベントを取得するには、アプライアンスに登録されるレシーバーまたはマネージャーをセットアップする必要があります。このセクションの手順を使用して、SNMP レシーバーをセットアップします。

このタスクについて

SNMP レシーバーをセットアップするときには、MIB をダウンロードおよび分割し、構成ファイルを作成し、通知を使用可能にし、通知ポリシーを追加して、システムをテストします。

手順

1. 「**WMC: ログ (WMC: Logs)**」 -> 「**通知 (Notifications)**」 -> 「**SNMP**」 をクリックします。
2. ダイアログ・ボックスで、「**MIB のダウンロード (Download MIB)**」 をクリックします。
3. レシーバーとして指定したマシンに MIB を追加します。
4. 以下のスクリプトを実行して、MIB を個々の論理装置に分割します。注: このスクリプトは、ファイルがローカル・ディレクトリー内にあり、ダウンロードしたファイルの名前が castironsys.mib であると想定しています。

```
#!/bin/bash
```

```
sed -ne 's/DEFINITIONS ::= BEGIN.*//p' castironsys.mib |
while read mib; do
    echo $mib
    sed -ne "/^$mib/,/^END/p" castironsys.mib > $mib
done
```

5. 選択した SNMP マネージャーをセットアップします。
6. 「**WMC: ログ (WMC: Logs)**」 -> 「**通知 (Notifications)**」 -> 「**SNMP**」 を選択して、SNMP 通知を使用可能にします。「**SNMP を使用可能にする (Enable SNMP)**」 チェック・ボックスにチェック・マークが付いていることを確認してください。
7. レシーバー・ホスト名を追加します。

8. トラップ・コミュニティを **public** に設定します。これは、`/etc/snmp/snmptrapd.conf` 内で **authCommunity** エントリーとして定義されます。
9. 「保存」をクリックします。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/set_up_snmp_receiver.html

通知ポリシーの追加

通知ポリシーを追加すると、ジョブ実行のアラート、ポリシー違反、および状況変更が管理者に通知されます。通知システムでは、SNMP トラップを使用して、SNMP 対応のサード・パーティー・アプリケーションにトラップを送信することもできます。通知ポリシーを追加し、ポリシーに名前を割り当てるには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「ポリシー (Policies)」タブをクリックします。
2. 画面の左下にある「新規ポリシー (New Policy)」リンクをクリックし、ポリシーに名前を割り当てます。
3. 「次の場合に通知 (Notify When)」行で、レベルとシステムを選択します。「通知 (Notify)」セクションの「SNMP」チェック・ボックスにチェック・マークが付いていることを確認してください。
4. 「保存」をクリックします。

例

以下の表は、カテゴリなしのトラップを使用して配信されるシステム、レベル、およびメッセージを示しています。カテゴリなしのトラップの名前は、CASTIRON-IA-MIB::ciIaUncategorizedEv, Enterprise 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.10, Trap 1 です。

表 1.


ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
ネットワーク	警告	ホスト名を <code>/etc/hosts</code> に自動的に追加しました。『 <code>net show etchost</code> 』を参照してください。
ハードウェア	警告	ファンが機能していません。ファン: {0} 現在の速度: {1} rpm 最小必要速度: {2} rpm 最大許容速度: {3} rpm マシン ID: {4}
ハードウェア	情報	ファンが機能しています。ファン: {0} 現在の速度: {1} rpm 最小必要速度: {2} rpm 最大許容速度: {3} rpm マシン ID: {4}
ハードウェア	クリティカル (Critical)	温度が範囲外です。温度センサー: {0} 現在の温度: {1} °C 最小: {2} °C 最大: {3} °C マシン ID: {4}

ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
ハードウェア	情報	温度が復元されました。温度センサー: {0} 現在の温度: {1} °C 最小: {2} °C 最大: {3} °C マシン ID: {4}
ハードウェア	警告	電源が遮断されました。マシン ID: {1}
ハードウェア	情報	電源が復元されました。マシン ID: {1}
ハードウェア	警告	統合アプライアンス {0} が開始されました。マシン ID: {1}
ハードウェア	情報	統合アプライアンス {0} が終了されました。マシン ID: {1}
ハードウェア	クリティカル (Critical)	RAID アレイ {0} はオフライン状態になっています。マシン ID: {1}
ハードウェア	重大	RAID アレイ {0} の機能が低下しています。ディスク障害が原因である可能性があります。マシン ID: {1}
ハードウェア	情報	RAID アレイ {0} は最適な状態になっています。マシン ID: {1}
ハードウェア	クリティカル (Critical)	RAID ディスク {0} (アレイ {1} 上) で障害が発生しました。マシン ID: {2}
ハードウェア	情報	RAID ディスク {0} (アレイ {1} 上) を再構築しています。再構築が完了するまでディスクを取り外さないでください。マシン ID: {2}
ハードウェア	情報	RAID ディスク {0} (アレイ {1} 上) はオンライン状態になっています。マシン ID: {2}
ハードウェア	警告	高可用性システム・フェイルオーバーが成功しました。
ハードウェア	情報	ネットワーク・インターフェースのリンクアップ。ネットワーク・インターフェース {0} はリンクアップされています。マシン ID: {1}
ハードウェア	警告	ネットワーク・インターフェースのリンクダウン。ネットワーク・インターフェース {0} はリンクダウンされています。マシン ID: {1}
ハードウェア	クリティカル (Critical)	CPU の数が正しくありません。予期された数は {0} 個ですが、{1} 個が見つかりました。
リソース	情報	スワップ・スペース・モニター・エラーが発生しました。
リソース	情報	スワップ・スペース・モニターを {0} 秒間中断します。
リソース	情報	現在のスワップ・スペース使用量は {0}% の警告しきい値を下回っています。現在の使用量は {1} ({2}%) です。
リソース	情報	現在のスワップ・スペース使用量は {0}% のクリティカルしきい値を下回っています。現在の使用量は {1} ({2}%) です。
リソース	警告	スワップ・スペース使用量が {0}% の警告しきい値を超えました。現在の使用量は {1} ({2}%) です。

ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
リソース	クリティカル (Critical)	スワップ・スペース使用量が {0}% のクリティカルしきい値を超えました。現在の使用量は {1} ({2}%) です。
リソース	情報	ディスク・スペース・モニター・エラーが発生しました。
リソース	情報	ディスク・スペース・モニターを {0} 秒間中断します。
リソース	情報	現在の {0} ディスク・スペース使用量は {1}% の警告しきい値を下回っています。現在の使用量は {2} ({3}%) です。
リソース	情報	現在の {0} ディスク・スペース使用量は {1}% のクリティカルしきい値を下回っています。現在の使用量は {2} ({3}%) です。
リソース	警告	{0} ディスク・スペース使用量が {1}% の警告しきい値を超えました。現在の使用量は {2} ({3}%) です。
リソース	クリティカル (Critical)	{0} ディスク・スペース使用量が {1}% のクリティカルしきい値を超えました。現在の使用量は {2} ({3}%) です。
リソース	クリティカル (Critical)	HA ピアがそれぞれ異なるバージョンの CIOS を実行しています。

親トピック: [モニター](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/add_notifications_policy.html

「リソース使用状況 (Resource Utilization)」 グラフについて

キャパシティー・プランニングを行い、ランタイム環境の正常性を理解するために、「リソース使用状況 (Resource Utilization)」 グラフが示すデータをどのように使用するかを説明します。

「リソース使用状況 (Resource Utilization)」 グラフは、以下の変数を追跡します。これを使用して、ランタイムの全体的な正常性を分析し、追加のプロジェクトおよびオーケストレーション用に使用可能な容量を計算することができます。

- ディスク使用率 (%) (% Disk Used)
- 使用メモリー (%) (% Memory Used)
- GC アクティビティ (GC Activity)
- 実行中のジョブ数 (# Running Jobs)

ディスク使用率 (%) (% Disk Used)

この変数は、オーケストレーション・ジョブ変数と履歴データが使用しているディスク・スペースの割合を追跡します。

オーケストレーション・ジョブを実行すると、ランタイムは、そのジョブの変数データを保管するためにディスクを使用します。パーシスタンスを有効にすると、統合アプライアンスでランタイムの再始動が必要な障害が発生した場合に、保管されているジョブの変数データによって、統合アプライアンスがオーケストレーション・ジョブのポイント・イン・タイム・リカバリーを提供することができます。

ランタイムは、オーケストレーション・ジョブに関する履歴データも保管します。これは、Web 管理コンソール (WMC) の「ジョブ・ログ (Job Log)」ページに表示されます。

使用可能なディスク・スペースの量が少なすぎる状態になった場合、統合アプライアンスはアラートを生成します。これにより、指定されたユーザーに通知が送られます。

使用メモリー (%) (% Memory Used)

統合アプライアンスには、オーケストレーションを実行するための固定量の使用可能メモリーがあります。

「使用メモリー (%) (% Memory Used)」変数は、この固定メモリーのうち、オーケストレーション・ジョブとそれに対応する変数データが使用する量を追跡します。オーケストレーション・ジョブと変数データに割り振られたメモリーが使用されなくなると、そのメモリーは、ガーベッジ・コレクションというプロセスを使用して、使用可能メモリーのプールに戻されます。

使用されるメモリーの量と、ガーベッジ・コレクション・サイクルの間には直接の関係があります。ただし、メモリー使用量が多い場合に、必ずフル・ガーベッジ・コレクション・サイクルが増加するわけではありません。

使用されるメモリーの量に影響する要因については、[メモリー管理のベスト・プラクティス](#)を参照してください。

GC アクティビティー (GC Activity)

ガーベッジ・コレクションは、完了したジョブおよび変数データによって確保されているメモリーを、すべてのオーケストレーション・ジョブによって使用されるメモリーのプールに戻すプロセスです。このガーベッジ・コレクション・プロセスにより、統合アプライアンスで、新規オーケストレーション・ジョブが使用する空きメモリーが継続的に提供されるようになります。

「GC アクティビティー (GC Activity)」変数は、1 分間にフル・ガーベッジ・コレクションが行われる割合を追跡します。この割合は、フル・ガーベッジ・コレクションの回数を 6 で除算して計算します。理想的には、GC アクティビティーは 50% (1分間に 3 回のフル・ガーベッジ・コレクション) 以下とする必要があります。1 分間に 6 回以上のフル・ガーベッジ・コレクションが行われると、オーケストレーションのパフォーマンスは著しく低下します。

ガーベッジ・コレクションと、ガーベッジ・コレクションに影響する要因については、[メモリー管理のベスト・プラクティス](#)を参照してください。

実行中のジョブ数 (# Running Jobs)

統合アプライアンス上で現在実行中のジョブの数を表示します。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

ハードウェアの正常性

このセクションの情報を使用して、アプライアンスのハードウェアの正常性に基づく通知を取得します。

最初に、SNMP マネージャーがカテゴリーなしのトラップ (CASTIRON-IA-MIB::ciIaUncategorizedEv .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.10 #1) を受信するように準備する必要があります。次に、SNMP マネージャーが以下の項目をポーリングし、条件を満たす場合に通知を生成するように構成します。

表 1.

モニターするパラメーター	推奨されるしきい値	SNMP OID
ガーベッジ・コレクション	この値が頻繁に (1 分間に 6 回より多く) 変更される場合に、アラートを発行します。	CASTIRON-IA-MIB::ciIaResNbrGarbageCollects .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.1.0
メモリー使用量	この値が 80% (未加工値は 8000) を超える場合に、アラートを発行します。	CASTIRON-IA-MIB::ciIaResPctMemoryUsed .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.2.0
ディスク使用量	この値が 75 (未加工値は 7500) を超える場合に、アラートを発行します。	CASTIRON-IA-MIB::ciIaResPctWipFull .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.3.0

ガーベッジ・コレクション

CASTIRON-IA-MIB::ciIaResNbrGarbageCollects は、システムが最後に再始動された後に実行されたガーベッジ・コレクションの数をカウントします。不定期に実行されるガーベッジ・コレクションは正常ですが、1 分間に 6 回以上のコレクションは多すぎます。これは、アプライアンスの作業負荷が大きすぎるため、パフォーマンス問題が発生する可能性があることを示します。

```
$ snmpwalk -On -v 2c -c public -M +. -m +CASTIRON-IA-MIB pebbles2.sanjose.ibm.com
CASTIRON-IA-MIB::ciIaResNbrGarbageCollects .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.1.0 =
Counter32: 149
```

メモリー使用量

CASTIRON-IA-MIB::ciIaResPctMemoryUsed は、使用している合計メモリーのパーセンテージを示します (1/100 パーセント単位で表されます)。この数値は、各ガーベッジ・コレクションの後で更新されます。

```
$ snmpwalk -On -v 2c -c public -M +. -m +CASTIRON-IA-MIB pebbles2.sanjose.ibm.com
CASTIRON-IA-MIB::ciIaResPctMemoryUsed .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.2.0 =
Gauge32: 1.84
```

この値は整数 (この例では 184) として提供されますが、MIB の仕様に基づいて、SNMP マネージャーが表示値を変更します。1/100 パーセント単位で表される値は、通常は自動的に変更されます。この例では、「1234」は「12.34」として表示されます。しかし、SNMP 管理ツールがこれを自動的に処理するかどうかを確認してください。処理しない場合、値は以下のように表示されます。

```
$ snmpwalk -On -v 2c -c public pebbles2.sanjose.ibm.com
.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.2.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.2.0 = Gauge32: 184
```

推奨: この値が 80% (未加工値は 8000) を超える場合に、アラートを発行します。

ディスク使用量


CASTIRON-IA-MIB::ciIaResPctWipFull は、処理中の作業 (WIP) で使用している合計ディスク・スペースのパーセンテージを示します (1/100 パーセント単位で表されます)。この数値は、ジョブ・ページ・アクティビティを予測するために重要です。

```
$ snmpwalk -On -v 2c -c public -M +. -m +CASTIRON-IA-MIB pebbles2.sanjose.ibm.com
CASTIRON-IA-MIB::ciIaResPctWipFull .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.3.0 = Gauge32:
6.00
```

推奨: この値が 75% (未加工値は 7500) を超える場合に、アラートを発行します。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/hardware_health.html

システムのテスト

システムをテストするには、無効なユーザー資格情報を使用してログインを試行することにより、トラップを生成します。SNMP マネージャーがこのトラップを受信する必要があります。

親トピック: [モニター](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Monitoring/testing_system.html

許可

許可のトピックでは、ユーザー・プロファイルの作成、パスワードの設定と変更、ユーザーの作成と管理、およびグループの作成と管理に関する情報について説明します。

- **組み込みグループについて**
組み込みグループとは、事前定義されたグループのことです。クラウドでは、テナント管理者グループのほかに、各環境に組み込みの管理者、パブリッシャー、およびユーザー・グループが割り当てられます。
- **ライブラリー環境について**
- **ユーザー・プロファイルについて**
ユーザー・プロファイルは、名前、表示名、Eメール、グループ・メンバーシップなど、ユーザーの詳細情報の要約を提供します。
- **グループへのユーザーの割り当て**
ユーザーをグループに割り当てるには、テナント管理者特権または環境管理者特権を備えている必要があります。環境管理者は、自分が属する特定の環境のグループにのみユーザーを追加できます。
- **パスワードの変更**
- **ユーザー・パスワードの変更**
- **新規グループの作成**
クラウドの場合は、テナント管理ユーザーのみが新規グループを作成できます。マルチ環境テナントの場合は、環境管理者も管理対象である特定の環境の新規グループを作成できます。
- **新規ユーザーの作成**
クラウドの場合は、テナント管理ユーザーのみが新規ユーザーを作成できます。マルチ環境テナントの場合は、環境管理者も管理対象である特定の環境の新規ユーザーを作成できます。
- **グループの削除**
クラウドの場合は、テナント管理ユーザーのみがグループをクラウド環境から削除できます。マルチ環境テナントの場合は、環境管理者も管理対象である特定の環境のグループを削除できます。
- **ユーザーの削除**
クラウドの場合は、テナント管理ユーザーのみがユーザーをクラウド環境から削除できます。マルチ環境テナントの場合は、環境管理者も管理対象である特定の環境のユーザーを削除できます。
- **プロジェクト構成許可の付与**
プロジェクト構成許可を編集することでユーザーまたはグループに許可を付与できます。ユーザーまたはグループに許可を付与すると、そのユーザーまたはグループは、プロジェクト構成を編集または削除できるようになります。
- **ローカル・ステージング・データベース許可**
組み込みの管理者グループに属するメンバーに付与される管理者特権を持つユーザーのみが、ローカル・ステージング・データベースで操作を開始、停止、および実行することができます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/toc_permissions.html

組み込みグループについて

組み込みグループとは、事前定義されたグループのことです。クラウドでは、テナント管理者グループのほかに、各環境に組み込みの管理者、パブリッシャー、およびユーザー・グループが割り当てられます。

例: 組織でテナント Cumulus が作成されているとします。このテナントには、Development と Production という 2 つの環境があります。この場合は、以下の組み込みグループが使用可能になります。

- admin [cumulus.com]
- admin [Development]
- publisher [Development]
- user [Development]
- admin [Production]
- publisher [Production]
- user [Production]

1 人のユーザーが複数のグループに所属することができます。ユーザーを組み込みグループに割り当てるか、新しいグループを作成することができます。

注: プロジェクト構成許可をグループに付与すると、そのグループのユーザーがプロジェクト構成に対する全アクセス権限を持つようになり、新しいバージョンのプロジェクト構成の作成のほか、プロジェクト構成の編集および削除が可能になります。

それぞれの組み込みグループに付与されている許可を以下のリストに示します。

- **テナント管理者グループ。** 特定のテナントのすべての環境、ユーザー、グループ、およびプロジェクトに対する特権を提供します。ユーザーがテナントでのユーザーおよびカスタム・グループの作成、編集、および削除を行うことを許可します。このグループのユーザーは、テナントの任意の組み込みグループまたはカスタム・グループに対してユーザーの追加および削除を行えます。このグループのユーザーは、テナントのすべてのソース・プロジェクトの許可を表示、編集、および削除することができます。

このグループのユーザーは、テナントのすべての環境を表示することができ、各テナント環境の環境管理者のすべての許可を持ちます。

- **環境管理者グループ。** 特定の環境のすべてのユーザー、グループ、およびプロジェクトに対する特権を提供します。ユーザーが特定の環境でのユーザーおよびカスタム・グループの作成、編集、および削除を行うことを許可します。このグループのユーザーは、環境の任意の組み込みグループまたはカスタム・グループに対してユーザーの追加および削除を行えます。

環境管理者は、環境パブリッシャーが公開したプロジェクトのプロジェクト構成を作成およびデプロイすることと、環境の任意のプロジェクト構成のオーケストレーションおよびジョブ詳細を表示することもできます。環境管理者グループ特権を持っている場合は、同じ環境のパブリッシャーが個々のプロジェクト構成に設定する許可を編集できます。

環境管理者グループのメンバーが環境パブリッシャー・グループ特権および環境ユーザー・グループ特権を持つ場合でも、ユーザーを明示的に追加しない限り、環境管理者グループのメンバーは同じ環境に属する他のグループに表示されません。

- **環境パブリッシャー・グループ。** 特定の環境のプロジェクト特権を提供します。ユーザーが、環境で公開するプロジェクトのプロジェクト構成を作成、デプロイ、または削除することを許可します。このグループのユーザーは、オーケストレーションを開始および停止したり、環境にデプロイしたプロジェクト構成のオーケストレーション・ジョブ詳細を表示したりすることもできます。環境パブリッシャーは、作成する個々のプロジェクト構成に対する許可を、同じ環境に対する環境パブリッシャー特権を持つ別のユーザーに付与することができます。


ユーザーを明示的に追加しない限り、環境パブリッシャー・グループのメンバーは環境ユーザー・グループに表示されません。

- **環境ユーザー・グループ。** ユーザーが特定の環境の アラートおよびオーケストレーションをモニターすることを許可します。このグループのユーザーは、プロジェクトの作成および編集が可能です。ただし、プロジェクトを環境に公開することはできません。プロジェクトを公開しようとする環境に対するパブリッシャー特権が必要です。すべてのユーザーは、自動的に環境ユーザー・グループのメンバーになります。

マルチ環境テナントの場合、このグループのユーザーには、自身がメンバーになっている環境の環境タブしか表示されません。例えば、テナントに Development 環境、Staging 環境、および Production 環境があるとします。テナント管理者または Development 環境の管理者が、ユーザーをユーザー [Development] グループに追加します。テナントには Development 環境以外に 2 つの環境がありますが、ユーザーがテナントにログインしたときには、Development 環境のみが表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/aboutBuiltInGroups.html>

ライブラリー環境について


ライブラリー環境は、Studio がコネクター・ライブラリーを取得する元となる環境を指定するユーザー・プロファイル・パラメーターです。

マルチ環境テナントでは、各環境には異なるバージョンのコネクター・ライブラリーがインストールされている可能性があります。このパラメーターを設定することで、プロジェクトの検査時に使用するライブラリーを Studio に指示します。追加ライブラリーをインストールする必要があるエンドポイントをプロジェクトで使用しない場合は、このパラメーターはあまり重要ではありません。追加ライブラリーをインストールする必要があるエンドポイントの完全なリストについては、コネクターのリリース・ノートを参照してください。

注: 選択する環境は、ユーザーがメンバーである 1 次グループの環境に一致している必要があります。例えば、「開発」環境をライブラリー環境として選択した場合は、「開発」環境内のグループのメンバーでなければなりません。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

ユーザー・プロフィールについて

ユーザー・プロフィールは、名前、表示名、Eメール、グループ・メンバーシップなど、ユーザーの詳細情報の要約を提供します。

ユーザー・プロフィールの設定は、管理コンソールの右上隅にある「設定」リンクからアクセスおよび編集できます。表示されるユーザー・プロフィールは、現在管理コンソールにログインしているユーザーのもので


親トピック: [許可](#)

ユーザー・プロフィール情報へのアクセス

手順

1. 管理コンソールの右上隅にある「設定」リンクをクリックします。「設定」ウィンドウが表示されます。
2. オプション: 「表示名」を設定する場合は、「編集」をクリックして表示名を変更します。設定を変更したら「保存」をクリックします。
3. オプション: 「パスワード」を設定する場合は、「編集」をクリックしてユーザー・パスワードを変更します。設定を変更したら「保存」をクリックします。
4. オプション: 「Eメール」を設定する場合は、「編集」をクリックしてユーザーのEメール・アドレスを変更します。設定を変更したら「保存」をクリックします。
5. オプション: クラウド: 「ライブラリー環境の変更 (Change Libraries Environment)」をクリックし、Studio がコネクター・ライブラリーを取得する環境を指定します。設定を変更したら「保存」をクリックします。
6. 「閉じる」をクリックして「設定」ウィンドウを閉じます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/aboutUserProfiles.html>

グループへのユーザーの割り当て


ユーザーをグループに割り当てるには、テナント管理者特権または環境管理者特権を備えている必要があります。環境管理者は、自分が属する特定の環境のグループにのみユーザーを追加できます。

ユーザーを作成または編集する際にユーザーをグループに割り当てることができます。また、グループを作成または編集する際にユーザーをグループに追加することもできます。

ユーザーおよびグループの割り当てについては、『[新規ユーザーの作成](#)』および『[新規グループの作成](#)』を参照してください。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/assigningUsersToGroups.html>

パスワードの変更

このタスクについて

自身のパスワードは随時変更できます。しかし、他のユーザーのパスワードを変更するには、テナント管理者の権限が必要です。環境管理者が環境内のユーザーのパスワードを変更することはできません。

例えば、現在 Development 環境の管理者であるとします。自身のパスワードを変更することはできますが、Development 環境に対する許可では、特定のユーザーのパスワードを変更できません。

手順

1. 管理コンソールの右上隅にある「設定」リンクをクリックします。「設定」ウィンドウが表示されます。
2. 「パスワード」を設定するために「編集」をクリックします。
3. 「旧パスワード (Old Password)」、「新規パスワード」、および「確認パスワード」の各フィールドに値を入力します。

「パスワード・テキストを非表示にする (Hide Password Text)」オプションをクリアすると、パスワードが表示され、以後暗号化されなくなります。


4. 「保存」をクリックして、パスワードを変更します。

タスクの結果

管理コンソールによって新規パスワードが正常に保存された場合は、確認メッセージが表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

ユーザー・パスワードの変更

このタスクについて

自身のパスワードは随時変更できます。しかし、他のユーザーのパスワードを変更するには、テナント管理者の権限が必要です。環境管理者が環境内のユーザーのパスワードを変更することはできません。

例えば、現在 Development 環境の管理者であるとします。自身のパスワードを変更することはできますが、Development 環境に対する許可では、特定のユーザーのパスワードを変更できません。

他のユーザーのパスワードを変更するには、以下のようにします。

手順

1. テナント管理者として管理コンソールにログインします。
2. 「セキュリティー」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
3. パスワードを変更するユーザーの名前をクリックします。
4. 「ユーザーの編集 (Edit User)」ウィンドウで、パスワードを入力し、確認のため再入力します。

「パスワード・テキストを非表示にする (Hide Password Text)」オプションをクリアすると、パスワードが表示され、以後暗号化されなくなります。


5. 「保存」をクリックして、パスワードを変更します。

タスクの結果

管理コンソールによって新規パスワードが正常に保存された場合は、確認メッセージが表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/changingPasswordOthers.html>

新規グループの作成

クラウドの場合は、テナント管理ユーザーのみが新規グループを作成できます。マルチ環境テナントの場合は、環境管理者も管理対象である特定の環境の新規グループを作成できます。

始める前に

物理または仮想統合アプライアンスの場合は、管理ユーザーのみが新規グループを作成できます。

手順

1. 管理コンソールで管理者としてログインします。
2. 「セキュリティー」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
3. 「グループ」セクションで「新規グループ」をクリックします。
4. 「新規グループ」ダイアログ・ボックスに、新規グループの「名前」および「表示名」を入力します。
5. 「ユーザー (User)」リストで、グループに加えるユーザーを選択します。

「ユーザー (User)」チェック・ボックスを選択し、リストにあるすべてのユーザーを選択します。


6. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」ページの「グループ」セクションに、新規グループがアルファベット順に表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/creatingNewGroup.html>

新規ユーザーの作成

クラウドの場合は、テナント管理ユーザーのみが新規ユーザーを作成できます。マルチ環境テナントの場合は、環境管理者も管理対象である特定の環境の新規ユーザーを作成できます。

始める前に

物理または仮想統合アプライアンスの場合は、管理ユーザーのみが新規ユーザーを作成できます。

手順

1. 管理コンソールで管理者としてログインします。
2. 「セキュリティー」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
3. 「ユーザー (Users)」セクションで「新規ユーザー (New Users)」をクリックします。
4. 「新規ユーザー (New User)」ウィンドウの「名前」、「表示名」、「Eメール」、「パスワード」、および「確認パスワード」の各フィールドに値を入力します。

ユーザー名および表示名にテナント名を追加することをお勧めします。

例えば、テナント名が `ibm.com`[®] の場合は、新規ユーザー名を `newuser@ibm.com` にしてください。このようにしておくと、クラウド内の複数のテナントの間で共通するユーザー名を識別するのに役立ちます。


5. オプション: 「パスワード・テキストを非表示にする (Hide Password Text)」チェック・ボックスをクリアします。このオプションをクリアすると、入力したパスワードが表示され、以後暗号化されなくなります。
6. 「グループ」リストで、新規ユーザーにアクセス権限を付与するグループをすべて選択します。
7. オプション: 「アクティブ (Active)」チェック・ボックスをクリアします。このオプションをクリアすると、ユーザーが管理コンソールにログインできなくなります。
8. **クラウドのみ:** 「ライブラリー環境 (Libraries Environment)」リストから、ユーザーのプロジェクトでエンドポイント用の追加のライブラリーおよびファイルを取得できる環境を選択します。選択する環境は、ユーザーがメンバーである 1 次グループの環境に一致している必要があります。例えば、「開発」環境をライブラリー環境として選択した場合は、「開発」環境内のグループのメンバーでなければなりません。
9. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」ページの「ユーザー (Users)」セクションに、新規ユーザーがアルファベット順に表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/creatingNewUser.html`

グループの削除

クラウドの場合は、テナント管理ユーザーのみがグループをクラウド環境から削除できます。マルチ環境テナントの場合は、環境管理者も管理対象である特定の環境のグループを削除できます。

始める前に

物理または仮想統合アプライアンスの場合は、管理ユーザーのみがグループを削除できます。

手順

1. 管理コンソールで「セキュリティ」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
2. 「グループ」セクションで、削除するグループ (複数可) を選択します。


3. 「削除」をクリックします。
4. 「はい」をクリックして、選択したグループを管理コンソールで削除することを確認します。

タスクの結果

管理コンソールによってグループのリストが最新表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/deletingGroups.html>

ユーザーの削除

クラウドの場合は、テナント管理ユーザーのみがユーザーをクラウド環境から削除できます。マルチ環境テナントの場合は、環境管理者も管理対象である特定の環境のユーザーを削除できます。

始める前に

物理または仮想統合アプライアンスの場合は、管理ユーザーのみがユーザーを削除できます。

手順


1. 管理コンソールで管理者としてログインします。
2. 「セキュリティー」 > 「ユーザーおよびグループ (Users and Groups)」を選択します。
3. 「ユーザー」セクションで、削除するユーザー (複数可) を選択します。
4. 「削除」をクリックします。
5. 「はい」をクリックして、選択したユーザーを管理コンソールで削除することを確認します。

タスクの結果

管理コンソールによってユーザーのリストが最新表示されます。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

プロジェクト構成許可の付与

プロジェクト構成許可を編集することでユーザーまたはグループに許可を付与できます。ユーザーまたはグループに許可を付与すると、そのユーザーまたはグループは、プロジェクト構成を編集または削除できるようになります。

始める前に

プロジェクト構成を編集または削除するための許可を他のユーザーまたはグループに付与するには、管理者特権を備えているか、プロジェクトのパブリッシャーでなければなりません。

このタスクについて

デフォルトでは、プロジェクト構成に対する許可は管理者グループのみに付与されています。許可を別のグループに付与する場合は、明示的に付与する必要があります。

例えば、自分がパブリッシャー権限を備えたユーザーであり、組み込みのパブリッシャー・グループに属しているものとします。プロジェクトを公開します。ご自身、管理者グループ・メンバー、およびご自身が属するパブリッシャー・グループのメンバーのみが、プロジェクト構成に対する許可を持ちます。プロジェクト構成に対する許可をもつものとして別のメンバーを含めたい場合は、その別のメンバーが組み込まれるように、プロジェクト構成に対する許可を編集する必要があります。

許可を編集するには、次のようにします。

手順

1. プロジェクト構成をクリックします。「構成の詳細 (Configuration Details)」ページが表示されます。
2. 「許可」セクションで、「グループ」または「ユーザー」の下の「編集」をクリックして、許可を付与するユーザーまたはグループを選択します (複数可)。
3. 「保存」をクリックします。

注: グループに許可が付与されると、デフォルトで、そのグループ内のすべてのユーザーにプロジェクト構成に対する許可が付与されます。このグループから個別のユーザーの許可を除去することはできません。(このグループ外の) 別のユーザーがプロジェクトへのアクセスを必要とする場合、ユーザー・テーブルからそのユーザーのみを選択して、そのユーザーに許可を付与することができます。

タスクの結果

これで、選択したすべてのユーザーおよびグループは、プロジェクト構成に対する全アクセス権限を持つようになります。これらのユーザーおよびグループは、プロジェクト構成を編集したり、削除したりできるようになります。

親トピック: [許可](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/grantingProjectConfigurationPermissions.html

ローカル・ステージング・データベース許可

組み込みの管理者グループに属するメンバーに付与される管理者特権を持つユーザーのみが、ローカル・ステージング・データベースで操作を開始、停止、および実行することができます。

パブリッシャー特権を持つユーザーが表を表示したりデータベースに対する操作を実行したりすることができるのは、管理者特権を持つユーザーによって既にローカル・ステージング・データベースが開始されている場合に限られます。ローカル・ステージング・データベースが開始されていない場合は、パブリッシャー特権を持つユーザーがデータベースを表示したりデータベースに対する操作を実行したりすることはできません。

組み込みのユーザー・グループに属するか、または LDAP サーバーで作成された WMC ログイン資格情報を持つユーザーは、ローカル・ステージング・データベースにアクセスすることはできません。

親トピック: [許可](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Permissions/localStagingDBPermissions.html


セキュア・コネクタの使用

『セキュア・コネクタの使用』のトピックでは、セキュア・コネクタの作成、インストール、および管理について説明します。

- [セキュア・コネクタについて](#)
- [セキュア・コネクタの最小要件](#)
このトピックでは、セキュア・コネクタの使用に必要な最小システム要件について説明します。
- [セキュア・コネクタの作成](#)
このトピックでは、セキュア・コネクタの作成について説明します。
- [セキュア・コネクタ構成ファイルのダウンロード](#)
セキュア・コネクタ構成ファイルのダウンロード方法。
- [セキュア・コネクタのインストール](#)
セキュア・コネクタ・インストーラーをダウンロードしてセキュア・コネクタをインストールするための手順について説明します。
- [セキュア・コネクタのトラストストア/鍵ストアへの証明書の追加またはインポート](#)
HTTP や FTP、あるいは SSL が有効なサーバーとの接続を必要とする Web サービス (HTTPS/FTPS) などの Cast Iron コネクタ・アクティビティーの場合は、対応する証明書をセキュア・コネクタのトラストストアまたは鍵ストアにインポートする必要があります。

- [セキュア・コネクター用のベンダー提供ライブラリーのインストール](#)
一部のエンドポイントの場合は、セキュア・コネクターがそれらのエンドポイントと通信できるようにするために、追加のライブラリーをインストールする必要があります。このセクションでは、Web 管理コンソール (WMC) を使用したこれらのベンダー提供ライブラリーのインストールについて説明します。ベンダー提供ライブラリーを必要とするコネクターの完全なリストについては、WMC で「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開きます。
- [SAP ライブラリーのダウンロードおよびインストール](#)
Studio から SAP システムに接続するには、SAP DLL および JAR ファイルを Windows 開発用マシンにインストールする必要があります。SAP サポート・ポータルに入ってファイルをダウンロードするには、SAP ログイン資格情報が必要です。
- [セキュア・コネクターのアンインストール \(Windows\)](#)
このトピックでは、Windows マシンからのセキュア・コネクターのアンインストールについて説明します。
- [セキュア・コネクターのアンインストール \(Linux\)](#)
このトピックでは、Linux マシンからのセキュア・コネクターのアンインストールについて説明します。
- [セキュア・コネクターの開始および停止](#)
『セキュア・コネクターの開始および停止』のトピックでは、Windows マシンおよび Linux マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。Windows マシンの場合は、インストール中に選択したオプションによって、セキュア・コネクターを開始および停止する方法が異なります。セキュア・コネクターを自動 Windows サービスとしてインストールした場合 (この方法を推奨します)、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用してセキュア・コネクターの停止または開始を行えます。セキュア・コネクターを Windows アプリケーションとしてインストールした場合は、Windows の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。Linux マシンの場合は、グラフィカル・インターフェースを使用するかコマンド・ラインからコマンドを実行することによってセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。
- [セキュア・コネクターのアップグレード](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターのアップグレードについて説明します。
- [セキュア・コネクターのトラブルシューティング](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターで発生する問題に対する可能な解決策について説明します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/toc_using_secure_connectors.html

セキュア・コネクターについて


セキュア・コネクターにより、IBM® WebSphere® Cast Iron® アプライアンスとファイアウォールの背後にあるエンドポイントとの間におけるデータのセキュア転送を容易に実現できます。アプライアンスのセキュア・コネクター・インストーラーは、32 ビットと 64 ビットの両方の Windows マシンおよび Linux マシンをサポートします。

セキュア・コネクターを使用可能にするには、テナント管理者が以下の作業を実行する必要があります。

- セキュア・コネクターを作成する
- セキュア・コネクター構成ファイルをダウンロードする
- セキュア・コネクター・インストーラーを起動する
- ベンダー提供ライブラリーをインストールする

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/aboutSecureConnectors.html

セキュア・コネクターの最小要件

このトピックでは、セキュア・コネクターの使用に必要な最小システム要件について説明します。

セキュア・コネクターは、以下のオペレーティング・システムで実行できます。


- Microsoft Windows XP
- Microsoft Windows 2000
- Linux

セキュア・コネクターの最小システム要件は以下のとおりです。

- 800 MHz CPU
- 768 MB RAM
- Java 1.6 以上

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/secureConnectorMinimumRequirements.html

セキュア・コネクターの作成

このトピックでは、セキュア・コネクターの作成について説明します。

このタスクについて

Web 管理コンソール (WMC) を使用して、ご使用の環境用にセキュア・コネクターを作成します。

アプライアンス内にセキュア・コネクターを作成した後に、ファイアウォールの背後にあるマシンを構成して、セキュア・コネクターとファイアウォールの背後にある特定のエンドポイントの間の通信が容易になるようにする必要があります。セキュア・コネクター・インストーラーを使用して、ファイアウォールの背後にあるマシンを構成します。

注: 作成しようとしているエンドポイントがセキュア・コネクター用に追加ライブラリーを必要とする場合、WMC を使用してそのライブラリーをインストールしてから、セキュア・コネクターを使用するプロジェクト構成をデプロイします。

手順


1. 環境タブの「ナビゲーション」ペインから、「システム」 > 「セキュア・コネクター」と選択します。
2. 「新規セキュア・コネクター (New Secure Connector)」をクリックします。「セキュア・コネクターの作成 (Create Secure Connector)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 新規セキュア・コネクターの名前を入力します。
4. セキュア・コネクターの要旨を入力します。
5. 「保存」をクリックします。「セキュア・コネクター」ページにセキュア・コネクターが表示されます。

セキュア・コネクター・インストーラーのダウンロード:

セキュア・コネクター・インストーラーは、Cast Iron インストーラー CD、Fix Central、または IBM パスポート・アドバンテージからダウンロードすることができます。Windows または Linux の場合は、要件に応じて 32 ビット版または 64 ビット版をダウンロードすることができます。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/creatingSecureConnectors.html

セキュア・コネクター構成ファイルのダウンロード

セキュア・コネクター構成ファイルのダウンロード方法。

このタスクについて

構成ファイルは、ダウンロードすると、デフォルト・ダウンロード・ディレクトリーに保存されます。構成ファイルを別の場所に保存することを選択できます。ダウンロードした構成ファイルの数にかかわらず、セキュア・コネクターのインストール処理中に使用できる構成ファイルは 1 つのみです。

セキュア・コネクターをセットアップするための構成ファイルを1つ選択すると、以後のセキュア・コネクターの構成にもその構成ファイルが使用されます。同じ構成ファイルを使用して複数のセキュア・コネクターを構成することはお勧めしません。代わりに、新しい構成ファイルを使用するか、既存の構成ファイルを変更してください。「ゲートウェイ (Gateway)」、「listen 対象ポート (Listen to Port)」、および「送信ポート (Transmit to Port)」のパラメーターは、必ずセキュア・コネクターごとに固有な値を指定してください。

セキュア・コネクターの構成ファイルにより、セキュア・コネクター・インストーラーに以下のパラメーターの値が提供されます。

- **セキュア・コネクター名** - 作成したセキュア・コネクターの名前を指定します。
- **テナント ID** - ファイル内に提供されているデフォルト値を使用します。これは内部通信に使用されます
- **環境 ID** - ファイル内に提供されているデフォルト値を使用します。これは内部通信に使用されます
- **ゲートウェイ** - ファイル内に提供されているデフォルト値を使用します。これは、当該アプライアンスが稼働しているデータ・ネットワーク IP です。
- **listen 対象ポート (Listen on Port)** - このパラメーターを変更するのは、指定されているポートを別のサービスが使用しているか、ボックスで複数のセキュア・コネクターを実行する場合のみにしてください。
- **送信ポート (Transmit on Port)** - このパラメーターを変更するのは、指定されているポートを別のサービスが使用しているか、ボックスで複数のセキュア・コネクターを実行する場合のみにしてください。
- **セキュア・コネクター認証鍵 (Secure Connector Auth Key)** - アプライアンス内に作成したセキュア・コネクターの認証鍵を指定します。
- **セキュア・コネクター秘密鍵 (Secure Connector Private Key)** - アプライアンス内にセキュア・コネクターを作成するときにダウンロードした認証秘密鍵を指定します。


注: アプライアンス上でセキュア・コネクターを使用している場合は、次のようになります。

- セキュア・コネクターがインストールされているマシンからアプライアンス IP に到達可能である (ping できる) ことを確認します。
- 以下のポートは、当該アプライアンスがセキュア・コネクターとの通信のために内部的に使用します。「HTTP 受信要求」アクティビティおよび「Web サービス」アクティビティを伴うオーケストレーション・アクティビティではこれらのポートを当該アプライアンス上で使用しないようにお勧めします。
- - 9080
 - 9442
 - 9443
 - 9445

セキュア・コネクター構成ファイルをダウンロードするには、以下のステップを実行します。

手順

1. クラウド管理コンソールにテナント管理者としてログインします。
2. 環境タブの「ナビゲーション」ペインから、「システム」 > 「セキュア・コネクター」を選択します。
3. 「セキュア・コネクター」ウィンドウで、ファイアウォールの背後にあるエンドポイントと通信するセキュア・コネクターをクリックします。「セキュア・コネクターの編集 (Edit Secure Connector)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「セキュア・コネクター構成のダウンロード (Download Secure Connector Configuration)」をクリックし、「今すぐダウンロード (Download Now)」をクリックします。「セキュア・コネクター構成を開く (Opening Secure Connector Configuration)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. 「ファイルの保存 (Save File)」を選択して「OK」をクリックします。構成ファイルが、現行ユーザーのデフォルト・ダウンロード・ディレクトリーに保存されます。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/downloading_secure_connector_configuration_files.html

セキュア・コネクターのインストール

セキュア・コネクター・インストーラーをダウンロードしてセキュア・コネクターをインストールするための手順について説明します。

始める前に

Windows インストール済み環境の場合は、既存のバージョンのセキュア・コネクターがインストールされていないことを確認してください。インストールされている以前のバージョンがある場合は、アンインストールしてから続行してください。

Linux インストール済み環境の場合は、以前のセキュア・コネクターのインストール済み環境をアンインストールする必要はありませんが、アンインストールしておくことを推奨します。

Linux マシンの場合は、グラフィカル・インターフェースを提供するために、GNOME や KDE などのデスクトップ環境をインストールしてください。

このタスクについて

アプライアンス内にセキュア・コネクターを作成した後に、ファイアウォールの背後にあるマシンを構成して、セキュア・コネクターとファイアウォールの背後にある特定のエンドポイントの間の通信が容易になるようにする必要があります。セキュア・コネクター・インストーラーを使用して、ファイアウォールの背後にあるマシンを構成します。

注: インストーラーの実行に選択するマシンは、エンドポイントにアクセスできる必要があります。エンドポイントと同じマシンでインストーラーを実行する必要はありません。

注: アプライアンス上でセキュア・コネクターを使用している場合は、次のようになります。

- セキュア・コネクターがインストールされているマシンからアプライアンス IP に到達可能である (ping できる) ことを確認します。
- 以下のポートは、当該アプライアンスがセキュア・コネクターとの通信のために内部的に使用します。「HTTP 受信要求」アクティビティおよび「Web サービス」アクティビティを伴うオーケストレーション・アクティビティではこれらのポートを当該アプライアンス上で使用しないようにお勧めします。
- - 9080
 - 9442
 - 9443
 - 9445

セキュア・コネクタ・インストーラーのダウンロード:

セキュア・コネクタ・インストーラーは、Cast Iron® インストーラー CD、Fix Central、または IBM® Passport Advantage®からダウンロードすることができます。Windows または Linux の場合は、要件に応じて 32 ビット版または 64 ビット版をダウンロードすることができます。

セキュア・コネクタをインストールするには、次のようにします。

1. ダウンロード済みセキュア・コネクタ・インストーラーを開始します。
 - windows-secure-connector-installer.exe (Windows の場合)
 - linux-secure-connector-installer.sh (Linux の場合)

「セキュア・コネクタ・インストーラー」ウィザードが表示されます。
2. 「次へ」をクリックし、ご使用条件を読んで同意します。
3. 「次へ」をクリックし、インストール・ディレクトリーを選択します。
4. 「次へ」をクリックします。メッセージ・ウィンドウに、ターゲット・ディレクトリーの作成先が表示されます。

注: インストール・ディレクトリーが存在する場合は、警告メッセージが表示され、インストールおよび既存のファイルの上書きを確認する必要があります。
5. 「OK」をクリックします。
6. セキュア・コネクタを開始、停止、および編集するためのショートカット・オプションをセットアップします。
 - a. 以下のいずれかまたは両方のオプションを選択します。
 - 「スタート」メニューにショートカットを作成する。
 - デスクトップに追加のショートカットを作成する。
 - b. ショートカットにアクセスするプログラム・グループを選択します。
 - c. 現行ユーザーにショートカットを作成するか、すべてのユーザーにショートカットを作成するかを選択します。
7. 「次へ」をクリックします。インストールの進行状況が表示されます。
8. セキュア・コネクタの構成ファイルを選択します。セキュア・コネクタの構成ファイルをまだダウンロードしていない場合は、この時点でダウンロードします。セキュア・コネクタ構成ファイルのダウンロード方法について詳しくは、[セキュア・コネクタ構成ファイルのダウンロード](#)を参照してください。
9. 「次へ」をクリックします。
10. Windows にインストールする場合は、セキュア・コネクタを Windows サービスとしてインストールし、実行することを選択します。セキュア・コネクタを Windows サービスとしてインストールすると、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用してセキュア・コネクタを制御できます (推奨)。セキュア・コネクタを Windows サービスとしてインストールして実行しないことを選択した場合、セキュア・コネクタは Windows アプリケーションとしてインストールされます。セキュア・コネクタを Windows サービスとして実行するには、以下のサービス・アカウント情報を指定する必要があります。
 - サービスの開始モード
 - サービス・アカウント・ドメイン
 - サービス・アカウント・ユーザー
 - サービス・アカウント・パスワード
11. 「次へ」をクリックします。インストールが完了します。
12. 「完了」をクリックします。

注: エンドポイント (すなわち SAP) に追加ライブラリーが必要な場合は、セキュア・コネクタを開始する前に追加ライブラリーをインストールする必要があります。追加ライブラリーのインストールについて詳しくは、[セキュア・コネクタ用のベンダー提供ライブラリーのインストール](#)を参照してください。


セキュア・コネクター・インストーラーを実行するには、次のようにします。

1. 「セキュア・コネクターの作成」セクションでダウンロードしたセキュア・コネクター・インストーラーを開始します。
 - `windows-agent-installer.exe` (Windows の場合)
 - `linux-agent-installer.sh` (Linux の場合)
2. ご使用条件に同意して、インストール・ディレクトリーを選択します。
3. 管理者として Web 管理コンソールにログインします。
4. 「セットアップ」 > 「サポート情報 (Support Information)」と選択します。セキュア・コネクター・インストーラーのパラメーターを構成している間は、「サポート情報 (Support Information)」ページを開いておいてください。「サポート情報」ページの値を適切なパラメーター・フィールドに切り貼りします。
5. 次のパラメーターの値を指定します。
 - **セキュア・コネクター名** - 作成したセキュア・コネクターの名前を指定します。
 - **テナント ID** - ファイル内に提供されているデフォルト値を使用します。これは内部通信に使用されます
 - **環境 ID** - ファイル内に提供されているデフォルト値を使用します。これは内部通信に使用されます
 - **ゲートウェイ** - ファイル内に提供されているデフォルト値を使用します。これは、当該アプライアンスが稼働しているデータ・ネットワーク IP です。
 - **listen 対象ポート (Listen on Port)** - このパラメーターを変更するのは、指定されているポートを別のサービスが使用しているか、ボックスで複数のセキュア・コネクターを実行する場合のみにしてください。
 - **送信ポート (Transmit on Port)** - このパラメーターを変更するのは、指定されているポートを別のサービスが使用しているか、ボックスで複数のセキュア・コネクターを実行する場合のみにしてください。
 - **セキュア・コネクター認証鍵 (Secure Connector Auth Key)** - クラウド内に作成したセキュア・コネクターの認証鍵を指定します。
 - **セキュア・コネクター秘密鍵 (Secure Connector Private Key)** - クラウド内にセキュア・コネクターを作成するときにダウンロードした認証秘密鍵を指定します。
6. コマンド・プロンプトを開き、セキュア・コネクターのインストール・ディレクトリーに移動します。
7. エンドポイント (すなわち SAP) に追加ライブラリーが必要な場合は、セキュア・コネクターを開始する前に追加ライブラリーをインストールする必要があります。追加ライブラリーのインストールについて詳しくは、『セキュア・コネクター用のベンダー提供ライブラリーのインストール』を参照してください。
8. コマンド・プロンプトから、以下のファイルのいずれかを実行して、セキュア・コネクターを開始します。
 - Windows の場合: `runclient_osgi.bat`

- Linux の場合: `runclient_osgi.sh`

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/installingSecureConnectors.html`

セキュア・コネクターのトラストストア/鍵ストアへの証明書の追加またはインポート


HTTP や FTP、あるいは SSL が有効なサーバーとの接続を必要とする Web サービス (HTTPS/FTPS) などの Cast Iron コネクター・アクティビティーの場合は、対応する証明書をセキュア・コネクターのトラストストアまたは鍵ストアにインポートする必要があります。

手順

1. Java 鍵ツール・ユーティリティーを使用して、必要な証明書を次のパスにある TrustStore(cacerts) または KeyStore(cert) にインポートします。
`<secure_connector_install_directory>%etc%security`
2. セキュア・コネクターを再始動して、行った変更を有効にします。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/Adding_importing_truststore.html`

セキュア・コネクター用のベンダー提供ライブラリーのインストール

一部のエンドポイントの場合は、セキュア・コネクターがそれらのエンドポイントと通信できるようにするために、追加のライブラリーをインストールする必要があります。このセクションでは、Web 管理コンソール (WMC) を使用したこれらのベンダー提供ライブラリーのインストールについて説明します。ベンダー提供ライ

ブラリーを必要とするコネクターの完全なリストについては、WMCで「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開きます。

このタスクについて

追加ライブラリーが必要なコネクターを統合プロジェクトで使用する場合は、プロジェクト構成をデプロイする前に追加ライブラリーをインストールする必要があります。追加ライブラリーをインストールする前にプロジェクト構成をデプロイすると、ランタイム・エラーが発生します。ベンダー提供ライブラリーを必要とするコネクターの完全なリストについては、「コネクター・ライブラリーの更新 (Update Connector Libraries)」ページを開きます。以下の手順を参照してください。

手順

1. WMC にログオンします。
2. 「システム」 > 「コネクター・ライブラリーのアップグレード (Upgrade Connector Libraries)」と選択します。
3. 「コネクター」列で、追加ファイルをインストールするコネクターを選択します。

既にインストールされているファイルはすべて、「インストール済みファイル (Installed Files)」列に表示されます。

4. プラス (+) アイコンをクリックして、アップロードするライブラリー・ファイルを選択します。アプライアンスでは、有効なファイルは .jar で有効なライブラリー・ファイル・タイプは .dll です。選択したファイルは、「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されます。
5. 「更新」をクリックします。

「追加するファイル (Files to Add)」列に表示されるファイルは、「更新」をクリックするまでコミットされません。「更新」をクリックする前に「リセット」をクリックした場合は、WMC はアップロードしたファイルを追加しません。「更新」をクリックして追加ファイルをコミットする前に WMC がタイムアウトした場合は、最後の 2 つのステップを繰り返します。

6. 同じ環境タブで、「システム」 > 「セキュア・コネクター」と選択します。
7. 「ライブラリーのダウンロード (Download Libraries)」をクリックして、SecureConnector-Default Environment-libraries.zip ファイルをワークステーションに保存します。
8. SecureConnector-Default Environment-libraries.zip ファイルを解凍して、各コネクター・モジュールの *.tp-1.0.0.jar を見つけます。
9. SecureConnector-Default Environment-libraries.zip 内の .jar ファイルを使用して、セキュア・コネクターのインストール・ディレクトリー lib/plugins 内のファイルを置き換えます。
10. 残りのすべての .zip ファイルをセキュア・コネクターのインストール・ディレクトリーの lib/thirdparty にコピーします。
11. コマンド・ラインから、以下のファイルのいずれかを実行して、セキュア・コネクターを再始動します。
 - Windows の場合: runclient_osgi.bat
 - Linux の場合: runclient_osgi.sh

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

SAP ライブラリーのダウンロードおよびインストール

Studio から SAP システムに接続するには、SAP DLL および JAR ファイルを Windows 開発用マシンにインストールする必要があります。SAP サポート・ポータルに入ってファイルをダウンロードするには、SAP ログイン資格情報が必要です。

このタスクについて

SAP JAR ファイルおよび DLL をダウンロードして、インストールするには、次のようにします。

1. SAP 技術サポートに連絡して、以下の SAP コンポーネントの圧縮ファイル入手します。
 - **SAP JCo リリース 3.0.6 以降のバージョン (Studio を実行するプラットフォームに応じたもの)。**
2. 以下のようにして、SAP JCo 圧縮ファイルを圧縮解除します。
 - sapjdoc30P_6-1000xxxx.zip ファイルをダブルクリックします。
 - 解凍ツールを使用して、圧縮ファイルの内容を一時ディレクトリーに解凍します。この圧縮ファイルには、別の圧縮ファイル sapjco3-NTintel-3.0.6.zip が入っています。この圧縮ファイルも一時ディレクトリー (C:¥temp¥sapjco3-NTintel-3.0.6 など) に解凍します。このディレクトリーに、必要なライブラリー sapjco3.jar および sapjco3.dll が入ります。
3. 以下のようにして SAP IDoc JCo 圧縮ファイルを unzip します。
 - sapjdoc30P_6-1000xxxx.zip ファイルをダブルクリックします。
 - 圧縮解除ツールを使用して、圧縮ファイルの内容を一時ディレクトリー (C:¥temp¥sapjdoc30P_6-1000xxxx など) に解凍します。このディレクトリーに、必要なライブラリー sapidoc3.jar が入ります。

手順

1. Studio を開き、「ツール」 > 「モジュール・プロバイダーのインストール」と選択します。
2. 「プロバイダーの追加 (Add Providers)」ダイアログ・ボックスが表示されたら、SAP コネクタの下にあるプラス (+) ボタンをクリックします。

テキスト・フィールドおよび「参照」ボタンが表示されます。

3. 「参照」をクリックし、参照ダイアログ・ボックスを使用して sapjco3.jar ファイルを探し、選択します。
4. 「開く」をクリックして、JAR ファイルのコンテンツをインポートします。
5. 次に使用可能なプラス (+) ボタンをクリックして、sapidoc3.jar ファイルおよび sapjco3.dll ファイルを追加します。
6. JAR ファイルが「プロバイダーの追加 (Add Providers)」ダイアログ・ボックスにリストされたら、「OK」をクリックします。

タスクの結果


Studio を再始動して変更内容をアクティブにするように求めるプロンプトが表示されます。

次のタスク

SAP エンドポイントおよびオーケストレーションを作成できるようになりました。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/Downloading_and_Installing_the_SAP_Jar_File_and_DLLs.html

セキュア・コネクターのアンインストール (Windows)

このトピックでは、Windows マシンからのセキュア・コネクターのアンインストールについて説明します。

このタスクについて


以下の手順を実行すると、セキュア・コネクターおよびそのすべての構成設定をアンインストールできます。

手順

1. ブラウザーやコマンド・シェルなど、別のプログラムがセキュア・コネクターのディレクトリーを開いていないことを確認します。
2. Windows の「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」を選択します。
3. Windows の「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」と選択します。「アンインストーラー (Uninstaller)」ウィンドウが表示されます。
4. C:\Program Files\IBM\Secure_Connector_<connector_name> の「削除の強制 (Force the deletion)」を選択します。
5. 「アンインストール」をクリックします。
6. ステータス・バーに [終了しました] と表示されたら、「アンインストーラー (Uninstaller)」ウィンドウを閉じることができます。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

セキュア・コネクターのアンインストール (Linux)

このトピックでは、Linux マシンからのセキュア・コネクターのアンインストールについて説明します。

始める前に

Linux マシンからセキュア・コネクターをアンインストールするには、root レベルの許可が必要です。

このタスクについて

セキュア・コネクターのアンインストールは、グラフィカル・インターフェースを使用するか、コマンド・ラインのコマンドを実行するか、Java™ のアンインストール .jar ファイルを実行することで行えます。セキュア・コネクターおよびすべての構成設定を Linux マシンからアンインストールするには、以下のいずれかのオプションを選択します。

グラフィカル・インターフェースを使用したセキュア・コネクターのアンインストール: この手順を使用して正常にセキュア・コネクターをアンインストールするには、GNOME や KDE などのデスクトップ環境が必要です。

1. ブラウザーやコマンド・シェルなど、別のプログラムがセキュア・コネクターのディレクトリーを開いていないことを確認します。
2. アプリケーション・ディレクトリーから、「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」を選択します。
3. アプリケーション・ディレクトリーから、「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」を選択します。

コマンド・プロンプトからのセキュア・コネクターのアンインストール:

1. ブラウザーやコマンド・シェルなど、別のプログラムがセキュア・コネクターのディレクトリーを開いていないことを確認します。
2. コマンド・プロンプトから `./Uninstaller/uninstall.sh` コマンドを実行します。

.jar ファイルによるセキュア・コネクターのアンインストール。 この手順を使用して正常にセキュア・コネクターをアンインストールするには、Java バージョン 1.6 以上がインストールされている必要があります。

1. ブラウザーやコマンド・シェルなど、別のプログラムがセキュア・コネクターのディレクトリーを開いていないことを確認します。
2. コマンド・プロンプトで `runclient_osgi.sh stop` コマンドを入力します。
3. セキュア・コネクターをインストールしたディレクトリー内で、Uninstaller サブディレクトリーにナビゲートして、`uninstaller.jar` ファイルを見つけます (`"${JAVA}" -jar "${INSTALL_DIR}/Uninstaller/uninstaller.jar`。この場合、`{JAVA}` は Java 実行可能プログラムで、`{INSTALL_DIR}` はセキュア・コネクターの名前です)。

ダイアログ・ボックスが表示されます。


4. 「削除の強制... (Force the Deletion)」オプションを選択します。
5. 「アンインストール」をクリックします。
6. 「終了 (Quit)」をクリックします。

タスクの結果

セキュア・コネクターがアンインストールされます。構成設定はホーム・ディレクトリーに保持されていません。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/uninstallingSecureConnectorLinux.html


セキュア・コネクターの開始および停止

『セキュア・コネクターの開始および停止』のトピックでは、Windows マシンおよび Linux マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。Windows マシンの場合は、インストール中に選択したオプションによって、セキュア・コネクターを開始および停止する方法が異なります。セキュア・コネクターを自動 Windows サービスとしてインストールした場合 (この方法を推奨します)、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用してセキュア・コネクターの停止または開始を行えます。セキュア・コネクターを Windows アプリケーションとしてインストールした場合は、Windows の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。Linux マシンの場合は、グラフィカル・インターフェースを使用するかコマンド・ラインからコマンドを実行することによってセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。

- [Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 \(Windows サービスとしてインストールした場合\)](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターを Windows サービスとしてインストールした Windows マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。
- [Windows サービスで対話モードを使用可能にする](#)
セキュア・コネクターが Windows サービスとしてインストールされている場合は、サービスに対して対話モードを使用可能にして、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウを表示します。
- [Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 \(Windows アプリケーションとしてインストールした場合\)](#)
このトピックでは、セキュア・コネクターを Windows アプリケーションとしてインストールした Windows マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。
- [Linux でのセキュア・コネクターの開始および停止](#)
このトピックでは、Linux マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 (Windows サービスとしてインストールした場合)

このトピックでは、セキュア・コネクターを Windows サービスとしてインストールした Windows マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。

このタスクについて

セキュア・コネクターを自動 Windows サービスとしてインストールした場合 (この方法を推奨します)、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用してセキュア・コネクターの停止または再始動を行います。

セキュア・コネクターが Windows サービスとしてインストールされている場合、デフォルトでは、セキュア・コネクターは Windows デスクトップと対話するようには構成されていません。ただし、セキュア・コネクター・サービスがローカル・システム・アカウントにインストールされた場合は、セキュア・コネクター・サービスの実行中に、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウを提供する対話モードを使用可能にすることができます。

Windows サービスで対話モードを有効にするための手順については、『Windows サービスで対話モードを使用可能にする』を参照してください。

注: 「**セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)**」の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターを開始すると、セキュア・コネクターはサービスとしてではなく、通常のアプリケーションとして開始します。セキュア・コネクターをサービスとして開始するには、Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用する必要があります。「**セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)**」の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターを停止することができます。

Windows の「サービス」コントロール・パネルを使用したセキュア・コネクターの開始および停止:

手順

1. Windows の「サービス」ウィンドウを開きます (「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」とクリックします)。
2. サービスのリストをスクロールダウンして、IBM® セキュア・コネクター・サービスを探します。
3. IBM セキュア・コネクター・サービスを右クリックし、適切なコマンド (「開始」、「停止」、「一時停止」、「再開」、または「再起動」) を選択します。

親トピック: [セキュア・コネクターの開始および停止](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/starting_s
topping_secure_connectors_windows_services.html

Windows サービスで対話モードを使用可能にする

セキュア・コネクターが Windows サービスとしてインストールされている場合は、サービスに対して対話モードを使用可能にして、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウを表示します。

このタスクについて

セキュア・コネクターが Windows サービスとしてインストールされている場合、デフォルトでは、セキュア・コネクターは Windows デスクトップと対話するようには構成されていません。ただし、セキュア・コネクター・サービスがローカル・システム・アカウントにインストールされた場合は、セキュア・コネクター・サービスの実行中に、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウを提供する対話モードを使用可能にすることができます。

手順

1. 「サービス」コントロール・パネルを開きます。例えば、「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「サービス」とクリックします。
2. 「Cast Iron Secure Connector」サービスを選択します。
3. サービス名を右クリックして「プロパティ」を選択します。「サービスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「ログオン」タブを選択します。
5. 「ローカル システム アカウント」を選択してから、「デスクトップとの対話をサービスに許可」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。
7. 「再開」をクリックします。


タスクの結果

Cast Iron® セキュア・コネクター・サービスが再起動すると、システム・トレイ・アイコンとコマンド・ウィンドウが表示されます。

注: コマンド・ウィンドウを最小化できます。ただし、コマンド・ウィンドウを閉じると、Cast Iron セキュア・コネクター・サービスは停止して終了します。コマンド・ウィンドウを閉じることは、Windows の「サービス」コントロール・パネルからセキュア・コネクター・サービスを停止することと同じです。

親トピック: [セキュア・コネクターの開始および停止](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/enablingin
teractivemodeforwindowsservices.html

Windows でのセキュア・コネクターの開始および停止 (Windows アプリケーションとしてインストールした場合)

このトピックでは、セキュア・コネクターを Windows アプリケーションとしてインストールした Windows マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。

このタスクについて


セキュア・コネクターを Windows サービスではなく、Windows アプリケーションとして Windows マシンにインストールした場合は、Windows の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターの開始および停止を行います。

手順

- Windows の「スタート」メニュー・ショートカット、またはデスクトップ・ショートカットのいずれかからセキュア・コネクターを開始します。
 - Windows の「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)」と選択します。
 - Windows デスクトップで、「セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)」ショートカットをクリックしてセキュア・コネクターを開始します。
- セキュア・コネクターは、Windows の「スタート」メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットのいずれかから停止します。
 - Windows の「スタート」ボタンから、「すべてのプログラム」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」を選択します。
 - Windows デスクトップで、「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」ショートカットをクリックしてセキュア・コネクターを停止します。

親トピック: [セキュア・コネクターの開始および停止](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/starting_s_topping_secure_connectors_windows_applications.html

Linux でのセキュア・コネクターの開始および停止

このトピックでは、Linux マシンでのセキュア・コネクターの開始および停止について説明します。

このタスクについて


GNOME や KDE などのデスクトップ環境がある場合は、メニュー・ショートカットまたはデスクトップ・ショートカットを使用してセキュア・コネクターの開始および停止を行えます。コマンド・ラインを使用してセキュア・コネクターを開始および停止することもできます。

手順

- セキュア・コネクターは、メニュー・ショートカット、デスクトップ・ショートカット、またはコマンド・ラインのいずれかから開始します。次のオプションのいずれかを選択してください。
 - 「<application>」 > 「IBM®」 > 「Cast Iron® セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)」と選択します。
 - デスクトップで、「セキュア・コネクターの開始 (Start Secure Connector)」ショートカットをクリックしてセキュア・コネクターを開始します。
 - コマンド・プロンプトから `runclient_osgi.sh start` と入力します。
- セキュア・コネクターは、メニュー・ショートカット、デスクトップ・ショートカット、またはコマンド・ラインのいずれかから停止します。次のオプションのいずれかを選択してください。
 - 「<application>」 > 「IBM」 > 「Cast Iron セキュア・コネクター <connector_name>」 > 「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」と選択します。
 - デスクトップで、「セキュア・コネクターの停止 (Stop Secure Connector)」ショートカットをクリックしてセキュア・コネクターを停止します。
 - コマンド・プロンプトから `runclient_osgi.sh stop` と入力します。

親トピック: [セキュア・コネクターの開始および停止](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/starting_s_topping_secure_connectors_linux.html

セキュア・コネクターのアップグレード

このトピックでは、セキュア・コネクターのアップグレードについて説明します。


手順

- 「セキュア・コネクターのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」メニュー・ショートカットまたは「セキュア・コネクターのアンインストール (Uninstall Secure Connector)」デスクトップ・ショートカットをクリックして、以前のバージョンのセキュア・コネクターをアンインストールします。このショートカットは、セキュア・コネクターを停止してアンインストールするバッチ・ファイルを開始するとともに、セキュア・コネクターの構成ファイルを削除します。
- 新しいセキュア・コネクターを作成します。
- 新しいセキュア・コネクター構成ファイルをダウンロードします。
- Windows マシンまたは Linux マシンで、セキュア・コネクターをインストールします。インストール処理では、構成ファイルが使用されて必要な構成パラメーターが取り込まれます。

- o 既存のセキュア・コネクターをアンインストールしないことにした場合は、構成設定を更新できます。「Cast Iron® セキュア・コネクター」ウィザードを使用すると、ガイドに従って更新処理を実行できます。
 - a. セキュア・コネクターのインストーラーを開始します。既存のインストール済み環境が存在し、構成設定の更新を選択することもできることを示す警告メッセージが表示されません。
 - b. 「はい」をクリックします。「Cast Iron セキュア・コネクター」ウィザードが起動します。
 - c. 「次へ」をクリックします。現在のセキュア・コネクター構成が表示されます。
 - d. 以下のいずれかの手順を実行して、セキュア・コネクターの構成を変更します。
 - 「ゲートウェイ (Gateway)」、「listen 対象ポート (Listen on Port)」、および「送信ポート (Transmit on Port)」の各パラメーターを変更し、「次へ」をクリックします。または
 - 「前へ」ボタンをクリックして、新しいセキュア・コネクター・ファイルを選択します。
 - i. 「次へ」をクリックし、構成設定を確認します。
 - ii. 「次へ」をクリックします。
 - e. プロキシ・サーバーの設定 (「プロキシ・サーバー (Proxy Server)」、「プロキシ・ポート」、「ログイン ID (Login ID)」、「ログイン・パスワード (Login Password)」、および「パスワード再入力 (Retype Password)」) を指定します。これらのパラメーターは、ネットワークでセキュア・コネクターが Cast Iron アプライアンスとの接続にプロキシを使用する必要がある場合にのみ必要です。
 - f. 「次へ」をクリックします。アップグレードが完了します。
- 5. 統合アプライアンスで実行するために追加のライブラリーが必要なエンドポイント用のベンダー提供ライブラリーをインストールします。
- 6. セキュア・コネクターを開始します。

親トピック: [セキュア・コネクターの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/upgrading_secureconnectors.html

セキュア・コネクターのトラブルシューティング

このトピックでは、セキュア・コネクターで発生する問題に対する可能な解決策について説明します。

検討のためにセキュア・コネクターのログ・ファイルを使用できます。ログ・ディレクトリーは、セキュア・コネクターを初めて開始した後に作成されます。Log ディレクトリーは、セキュア・コネクターのインストール・ディレクトリー内にあります。例: C:\Program Files\IBM\Secure_Connector_1.development\logs


- **ポート競合エラーが発生する。**ポート競合エラーは、2つのセキュア・コネクターが同じポートとゲートウェイを使用するように構成されている場合に発生する可能性があります。この問題を解決するに

は、各セキュア・コネクタ構成ファイルのゲートウェイ (Gateway)、listen 対象ポート (Listen on Port)、および送信ポート (Transmit on Port) の各パラメーターに固有な値を指定してください。

- **セキュア・コネクタをアンインストールするための .jar ファイルを実行できない。** Java™ のパスが正しく指定されていること、および Java バージョン 1.6x 以上がマシンにインストールされていることを確認してください。

親トピック: [セキュア・コネクタの使用](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Secure_Connector/troubleshootingsecureconnectors.html

セキュリティ

セキュリティのトピックでは、証明書の生成および管理、LDAP 設定の構成、および Kerberos 設定の構成に関する情報を説明します。

- [証明書について](#)
証明書により、統合アプライアンスと、イントラネットおよびエクストラネット内にあるエンドポイントとの間でセキュア通信が可能になります。管理コンソールを使用して証明書を管理します。
- [Kerberos の構成](#)
- [LDAP メカニズム・プロパティの構成](#)
- [セキュリティ設定の編集](#)
- [LDAP ディレクトリー・サーバーの有効化](#)
- [証明書のエクスポート](#)
- [証明書署名要求の生成](#)
- [自己署名証明書の生成](#)
- [証明書のインポート](#)
- [証明書別名の名前変更](#)
- [証明書のアップロード](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/toc_security.html

証明書について

証明書により、統合アプライアンスと、イントラネットおよびエクストラネット内にあるエンドポイントとの間でセキュア通信が可能になります。管理コンソールを使用して証明書を管理します。


「証明書」ページから、セキュリティー証明書およびセキュリティー設定を生成、インポートおよび更新できます。

以下の表に、証明書に関する用語の定義を示します。

証明書に関する用語	定義
別名	名前を分かりやすくするために、鍵ストアまたはトラストストアのエントリに割り当てる、英数字から成るストリング。鍵ストアまたはトラストストア内で、別名を使用して鍵および証明書を指すことができます。 注: 別名では大/小文字は区別されません。例えば、「MyCert」と「mycert」は同じエントリを指します。
証明書	エンドポイントまたは組織を識別する署名付き資格情報。
鍵ペア	公開鍵とそれに関連付けられた秘密鍵。
鍵ストア	Java™ SSL エンドポイントで使用される秘密鍵と証明書を保管する Java データ・ストア。例えば、ローカル Java エンドポイントは、その鍵ストアの証明書を資格情報として提供して、リモート SSL エンドポイントに対して自身を識別させます。
PKI	Public Key Infrastructure。暗号鍵および ID 情報を管理するためのシステム。このシステムは、インターネットを介した通信を防御/保護するための標準ベース・システムを提供することを目的としています。
秘密鍵	単一のエンドポイントにのみ認識されている鍵。データの暗号化や、署名に使用されます。
公開鍵	任意のユーザーに配布できる、秘密鍵に関連付けられた鍵。
SSL	Secure Sockets Layer。これにより、セキュア Web 通信が可能になり、オプションで、エンドポイント間の相互認証ができます。
トラストストア	認証局署名証明書を保管する Java データ・ストア。例えば、ローカル Java エンドポイントはトラストストアを使用して、リモート SSL エンドポイントから渡された ID (証明書) を認証します。

親トピック: [セキュリティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/aboutCertificates.html>

Kerberos の構成

このタスクについて

統合アプライアンスが非セキュア・ネットワークを介してデータを交換する場合は、Kerberos プロトコル設定により、統合アプライアンスに通信相手のサーバーを認証させることができます。


手順

1. ナビゲーション・ペインで「セキュリティー」 > 「Kerberos」を選択します。「Kerberos 構成 (Kerberos Configuration)」ページが表示されます。
2. Kerberos サーバー名を指定します。
3. Kerberos レalmを指定します。
4. 「保存」をクリックします。

「削除」をクリックすると、指定した設定値が消去されます。

親トピック: [セキュリティー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/configuringKerberos.html>

LDAP メカニズム・プロパティーの構成

このタスクについて

LDAP サーバーを使用可能にするときに「セキュア接続の使用 (SASL) (Use Secure Connection (SASL))」セキュリティー・オプションを選択した場合は、メカニズム・ポリシーを指定してメカニズム・プロパティーを構成する必要があります。

以下の表では、LDAP メカニズム・プロパティーおよび LDAP メカニズム・ポリシーの詳細について説明します。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「セキュリティー」 > 「LDAP」を選択します。「LDAP 構成 (LDAP Configuration)」ページが表示されます。
2. 「セキュリティー・オプション (Security Options)」セクションで「セキュア接続の使用 (SASL) (Use Secure Connection (SASL))」を選択します。
3. 「認証」セクションで「拡張設定 (Advanced Settings)」をクリックします。メカニズム・ポリシーおよびメカニズム・プロパティーのオプションが表示されます。
4. 該当するオプションを選択し、ドロップダウン・リストから適切な値を選択します。

親トピック: [セキュリティー](#)

LDAP メカニズム・プロパティ


メカニズム・プロパティ	説明
QOP (保護品質) (QOP (Quality of Protection))	<p>LDAP ディレクトリー・サーバーが使用する保護品質を指定するプロパティの名前を指定します。このプロパティには、クライアントまたはサーバーがサポートする保護品質の値をコンマで区切って順に並べたリストが格納されます。有効な QOP の値は以下のとおりです。</p> <p>auth 認証のみ</p> <p>auth-int 認証と保全性の保護</p> <p>auth-conf 認証、保全性、および機密性の保護</p> <p>リストの順序により、クライアントまたはサーバーの優先順位が指定されます。値を指定しない場合のデフォルトの QOP は auth です。</p>
暗号の強度 (Cipher Strength)	<p>LDAP ディレクトリー・サーバーが使用する暗号強度を指定するプロパティの名前を指定します。このプロパティには、クライアントまたはサーバーがサポートする暗号強度の値をコンマで区切って順に並べたリストが格納されます。有効な暗号強度の値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• low• medium• high <p>リストの順序により、クライアントまたはサーバーの優先順位が指定されます。実装環境では、これらの値の意味を構成できなければなりません。アプリケーションは、Java™ Cryptography Extension (JCE) を JCE 対応のメカニズムと併用して、強度の値に適合する暗号スイートが選択されるように制御できます。</p> <p>値を指定しない場合のデフォルトの暗号強度は low です。</p>
最大バッファ・サイズ (Max Buffer Size)	<p>受信バッファの最大サイズをバイト単位で指定します。値を指定しない場合のデフォルトのサイズは、メカニズムによって定義されます。有効な値の範囲は 0 から 65536 までです。</p>
相互認証 (Mutual Authentication)	<p>サーバーがクライアントに認証される必要があるかどうかを指定するプロパティの名前を指定します。サーバーがクライアントに認証される必要がある場合は、このプロパティ名に true が入ります。それ以外の場合は false が入ります。デフォルトでは、この値に false が入ります。</p>

LDAP メカニズム・ポリシー

メカニズム・ポリシー	説明
------------	----

メカニズム・ポリシー	説明
機密転送 (Forward Secrecy)	セッション間での機密転送を実装するメカニズムが必要かどうかを指定するプロパティの名前を指定します。機密転送の場合、1つのセッションに割り込んでも、自動的にその後のセッションに割り込むための情報が提供されるわけではありません。セッション間で機密転送を実装するメカニズムが必要な場合は、このプロパティに true が入ります。そのようなメカニズムが不要な場合は false が入ります。デフォルトでは、この値に false が入ります。
クライアント資格情報 (Client Credentials)	クライアント資格情報を渡すメカニズムが必要かどうかを指定するプロパティの名前を指定します。クライアント資格情報を渡すメカニズムが必要な場合は、このプロパティに true が入ります。そのようなメカニズムが不要な場合は false が入ります。デフォルトでは、この値に false が入ります。
受動的アタックの影響 (Susceptible to passive attacks)	単純な平文の受動的アタック (PLAIN など) を受けやすいメカニズムを許容しないかどうかを指定するプロパティの名前を指定します。そのようなメカニズムを許容しない場合は、このプロパティに true が入ります。そのようなメカニズムを許容する場合は false が入ります。デフォルトでは、この値に false が入ります。
能動的アタックの影響 (Susceptible to active attacks)	能動的 (辞書でない) アタックを受けやすいメカニズムを許容しないかどうかを指定するプロパティの名前を指定します。能動的アタックを受けやすいメカニズムを許容しない場合は、このプロパティに true が入ります。そのようなメカニズムを許容する場合は false が入ります。デフォルトでは、この値に false が入ります。
辞書アタックの影響 (Susceptible to dictionary attacks)	受動的な辞書アタックを受けやすいメカニズムを許容しないかどうかを指定するプロパティの名前を指定します。辞書アタックを受けやすいメカニズムを許容しない場合は、このプロパティに true が入ります。そのようなメカニズムを許容する場合は false が入ります。デフォルトでは、この値に false が入ります。
匿名アタックの影響 (Susceptible to anonymous attacks)	匿名ログインを受け入れるメカニズムを許容しないかどうかを指定するプロパティの名前を指定します。匿名ログインを受け入れるメカニズムを許容しない場合は、このプロパティに true が入ります。そのようなメカニズムを許容する場合は false が入ります。デフォルトでは、この値に false が入ります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/configuringLDAP.html>

セキュリティー設定の編集

1. 「設定」セクションで「編集」をクリックします。「設定の編集 (Edit Settings)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 対応するカテゴリで使用する証明書を選択します。例えばクライアント SSL、データ NIC 経由サーバー SSL、管理 NIC 経由サーバー SSL などです。
3. 適切な場合、「VPeer」チェック・ボックスを選択します。
 - 「VPeer」を選択することは、統合アプライアンスが SSL ピアの ID を、そのピアによって提供された証明書を使用して認証するということです。
 - 「クライアント SSL」カテゴリ用を選択すると、統合アプライアンスは、SSL サーバーの ID を、そのサーバーが送信した証明書を使用して認証します。
 - 「データ NIC 経由サーバー SSL」カテゴリ用を選択すると、統合アプライアンスは、統合アプライアンスに接続する SSL クライアントが証明書を送る必要があることを要求します。
4. 適切な場合、「VHost」チェック・ボックスを選択します。
 - 「VHost」を選択することは、SSL セッションのサーバーのホスト名がサーバー証明書に含まれる名前と一致しているかを統合アプライアンスが確認するということです。この確認は、中間者 (MITM) 攻撃の防止のために設計されており、RFC 2818 *HTTP Over TLS* Section 3.1 *Server Identity* で記述されています。
 - 「VHost」選択は、「クライアント SSL」カテゴリの場合にのみ適用可能です。
 - 「VHost」選択は、同時に「VPeer」も選択している場合にのみ適用可能です。
5. 暗号の強度を選択します。
 - 標準 (Standard)
 - 強 (Strong)
6. 「保存」をクリックします。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/editingSecuritySettings.html>

LDAP ディレクトリー・サーバーの有効化

このタスクについて

WMC から、LDAP サーバーにユーザー認証および許可を処理させることを選択できます。LDAP ディレクトリー・サーバーを有効にすると、組み込みの管理ユーザーを除き、WMC から指定したすべてのユーザー、グループ、または許可が LDAP ディレクトリー・サーバーの認証および許可によってオーバーライドされます。したがって、管理ユーザー以外のユーザーおよびグループは、LDAP ディレクトリー・サーバーまたは WMC の (両方ではなく) いずれかから認証および許可できます。LDAP を有効にするかどうかにかかわらず、管理ユーザーのパスワードは CLI から更新できます。

注: LDAP ユーザーはステージング・データベースにアクセスできません。

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「セキュリティ」 > 「LDAP」を選択します。「LDAP 構成 (LDAP Configuration)」ページが表示されます。
2. 「LDAP の有効化 (Enable LDAP)」オプションを選択します。このオプションを選択しない場合、統合アプライアンスは、WMC で定義されている組み込みのグループおよびユーザーを使用してユーザーおよびユーザーによる WMC へのアクセスを認証および許可します。
3. ホスト情報を指定します。
 - a. LDAP ディレクトリー・サーバーのホスト名およびポート番号を入力します。
 - b. ベース DN (ベース識別名) を選択するか「DN のフェッチ (Fetch DN)」をクリックします。WMC が、すべてのディレクトリー情報ツリー (DIT) のベース DN を LDAP ディレクトリー・サーバーからフェッチします。許可するユーザーを含む DIT のベース DN を選択してください。
4. 以下のいずれかのセキュリティ・オプションを選択します。
 - **セキュア接続の使用 (SASL) (Use Secure Connection (SASL))** - LDAP ディレクトリー・サーバーによってサポートされる SASL (Simple Authentication and Security) メカニズムを有効にします。これが最もセキュリティの高いオプションです。
 - **単純認証の使用 (Use Simple Authentication)** - 単純認証を使用しますが、資格情報を暗号化しません。
 - **匿名バインド (Anonymous Bind)** - LDAP ディレクトリー・サーバーへの匿名バインドを有効にします。これは最もセキュリティの低いオプションです。
5. 「セキュア接続の使用 (SASL) (Use Secure Connection (SASL))」セキュリティ・オプションを選択した場合は、メカニズムを指定し、メカニズム・プロパティおよびメカニズム・ポリシーを構成してください。
6. LDAP ディレクトリー・サーバーがディレクトリー検索のために認証を要求する場合は、「資格情報 (Credentials)」セクションでプリンシパルとパスワードの値を指定してください。「合成 DN モード (Composed DN Mode)」の認証モードを選択した場合、このステップは不要です。ただし、LDAP ディレクトリー・サーバーが匿名検索を許可しない場合に DN またはメカニズムをフェッチするには、このステップが必要です。

パスワードを指定しないと、WMC は匿名ユーザーとして LDAP サーバーへの初期バインディングを試行し、LDAP サーバーは指定されたプリンシパル資格情報を無視します。

7. 以下の認証モードのいずれかを選択します。
 - 合成 DN モード (Composed DN Mode)
 - 検索 DN モード (Searched DN Mode)
8. ユーザー・コンテナ RDN を指定します。指定した認証モードにより、ここで指定する必要がある値が決まります。
 - 合成 DN モードを選択した場合、ユーザー・コンテナ RDN は、ユーザー DN の 1 つ以上の属性で構成されます。ユーザーのすぐ上位からベースの直前のエントリーまでツリーをたどり、パスの各エントリーの RDN を追加していくことで、ユーザー・コンテナ RDN を構成します。

例えば、

ユーザー DN = 「uid=JohnK,ou=emp,dc=xyz,dc=com」


の場合は、

ユーザー・コンテナ RDN® = 「ou=emp」

- 検索 DN モードを選択した場合、通常はユーザー・コンテナ RDN をブランクのままにして、ルート (ベース) から始まる DIT 全体を LDAP ディレクトリー・サーバーに検索させます。それ以外の場合は、LDAP ディレクトリー・サーバーが「DN = ユーザー・コンテナ RDN + ベース DN」のエントリーをルートとするサブツリーを検索します。
- 9. 検索 DN モードを選択した場合は、LDAP ディレクトリー・サーバーがユーザー DN の検索に使用するユーザー検索フィルターを指定します。(検索 DN モードを選択した場合にのみ必須) このエントリーは LDAP 検索フィルター仕様を受け入れるほか、\$USERNAME の形式のユーザー名も受け入れます。例:
 - MSAD では、このエントリーは「(samAccountName=\$USERNAME)」のようになります。
 - SunOne では、これは「(uid=\$USERNAME)」のようになります。
- 10. ユーザー・プリンシパル DN を指定します。この DN は、検索後に LDAP ディレクトリー・サーバーがバインドするユーザーの DN を指定します。\$USERNAME または \$DN を指定することで、ユーザー名および識別名を表すことができます。ここで \$DN は、合成 DN モードの場合は (RDN + ベース DN) を表し、検索 DN モードの場合は検索された DN を表します。ほとんどの場合は \$DN がエントリーです。ただし、MSAD で SASL を使用する場合に指定する必要があるのは \$USERNAME のみです。SunOne で SASL を使用する場合に指定する必要があるのは「dn:\$DN」のみです。
- 11. グループ・マッピング情報を指定します。
 - a. 管理グループのフィルターを指定します。
 - b. パブリッシャー・グループのフィルターを指定します。
 - c. グループ・フィルターを指定してください。
- 12. 「保存」をクリックします。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/enablingLDAP.html>

証明書のエクスポート

手順

1. 「鍵ストア」セクションで別名をクリックします。「証明書詳細 (Certificate Details)」ウィンドウが表示されます。
2. 「エクスポート」をクリックします。「証明書のエクスポート (Export Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. エクスポート・フォーマットを選択します。
4. パスワードを入力します。
5. 「エクスポート」をクリックします。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🏠 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/exportingCertificates.html

証明書署名要求の生成

手順

1. 「鍵ストア」セクションで別名をクリックします。「証明書詳細 (Certificate Details)」ウィンドウが表示されます。
2. 「CSR の生成 (Generate CSR)」をクリックします。「証明書のコンテンツ (Certificate Content)」ウィンドウが表示されます。
3. 「コピー」をクリックします。ウィンドウのコンテンツ全体がコピーされます。
4. 「ダウンロード」をクリックして、ダウンロード先ロケーションを指定します。
5. 「保存」をクリックします。証明書のコンテンツが、指定したロケーションにダウンロードされます。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🏠 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/generatingCertificateSigningRequests.html

自己署名証明書の生成

手順

1. 「鍵ストア」セクションで「生成 (Generate)」をクリックします。「自己署名証明書の生成 (Generate Self-Signing Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 以下のパラメーターの値を指定します。

別名

共通名 (CN)

組織 (O)

組織単位 (OU)

国 (C)

都道府県 (ST)

ロケール (L)

E メール (EMAILADDRESS)

OID

鍵アルゴリズム

鍵の長さ
有効


3. 「生成 (Generate)」をクリックします。

タスクの結果

自己署名証明書が「鍵ストア」表に表示されます。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/generatingSelfSignedCertificates.html>

証明書のインポート

このタスクについて

IBM® WebSphere® Cast Iron® の鍵ストアに証明書または証明書チェーンをインポートできます。信頼できる認証局証明書 (CA Cert) をトラストストアにインポートすることもできます。

手順

1. 「鍵ストア」または「トラストストア」セクションで「インポート」をクリックします。「証明書のインポート (Import Certificates)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 別名を入力します。この名前は、インポートした証明書または証明書チェーンの識別に使用されます。
3. オプション: 鍵パスワードを入力します。

このパスワードによって、別名に関連付けられた鍵ペアの秘密鍵が保護されます。パスワードを指定しない場合、このパスワードは、デフォルトで鍵ストアを保護するパスワードになります。

4. 信頼できるサイトからの証明書をインポートする場合は、「トラステッド (Trusted)」オプションを選択してください。

「トラステッド (Trusted)」オプションを選択した場合、証明書は、トラストの既存のチェーンを検査せずにインポートされます。「トラステッド (Trusted)」オプションを選択しなかった場合は、「鍵ストア」および「トラストストア」オプションにチェック・マークが付けられ、インポートする証明書に対してトラストのチェーンが存在することが確認されます。

5. ファイルの内容をインポートするか、インポートする証明書または証明書チェーンを含むクリップボードにある内容をインポートするかを選択します。

鍵ストアにインポートする場合のサポートされる形式には、PKCS12 が含まれます。トラストストアにインポートする場合のサポートされる形式には、CER/PEM (RFC 1421)、DER、および PKCS7 が含まれ

ます。


6. 「インポート」をクリックします。

タスクの結果

証明書が「証明書」ページに表示されます。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/importingCertificates.html>

証明書別名の名前変更

手順


1. 「証明書」ページで別名をクリックします。「証明書詳細 (Certificate Details)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「名前変更」をクリックします。
3. 「別名」フィールドに、新規別名を入力します。
4. 「適用」をクリックします。

タスクの結果

「証明書」ページに、更新された別名が表示されます。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/renamingCertificateAlias.html>

証明書のアップロード

1. 「鍵ストア」セクションで別名をクリックします。「証明書詳細 (Certificate Details)」ウィンドウが表示されます。
2. 「アップロード」をクリックします。「証明書の更新 (Update Certificate)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 証明書をトラステッド・サイトにアップロードする場合は、「トラステッド (Trusted)」オプションを選択します。
4. コンテンツをファイルからアップロードするか、クリップボード内のコンテンツからアップロードすることを選択します。
5. 「インポート」をクリックします。

親トピック: [セキュリティ](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)


file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Security/uploadingCertificates.html>

ログの処理

ログの処理のトピックでは、オーケストレーション・ジョブ・ログの管理、システム設定の指定、およびシステム・ログの表示に関する情報を説明します。

- [アーカイブされたログについて](#)
管理コンソールには、統合アプライアンスがアーカイブしたログ・ファイルがリストされます。アーカイブされたこれらのログ・ファイルはダウンロードできます。
- [アーカイブされたログについて](#)
ログは、ローカルにアーカイブするか、FTP サーバーにエクスポートすることができます。WMC から、アーカイブ済みログをローカルにダウンロードできます。「ログ (Logs)」 > 「アーカイブ・ログ (Archive Logs)」とクリックします。
- [オーケストレーション・モニター・ログのページ](#)
オーケストレーション・モニター・ログはページおよびアーカイブが可能です。
- [システム・ログ設定の指定](#)
システム・ログに表示される詳細レベルを指定できます。指定するログ・レベルは、通知ポリシーのアラートに影響します。アラートは、指定したログ・レベルを満たすイベントまたは超過したイベントについてのみ送信されます。
- [システム・ログの表示](#)
システム・ログを管理コンソールで表示し、システム・ログ・フィルターを使用してシステム・ログ・エントリーをソートできます。
- [システム・ログおよびジョブ・ログ内の列のカスタマイズ](#)
システム・ログおよびジョブ・ログに表示される列をカスタマイズできます。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Working_with_Logs/toc_working_with_logs.html

アーカイブされたログについて


管理コンソールには、統合アプライアンスがアーカイブしたログ・ファイルがリストされます。アーカイブされたこれらのログ・ファイルはダウンロードできます。

親トピック: [ログの処理](#)

アーカイブされたログ・ファイルのダウンロード

手順

1. ナビゲーション・ペインで、「ログ (Logs)」 > 「アーカイブされたログ (Archived Logs)」を選択します。統合アプライアンスのログ・ファイルが、ログの最終変更日時を示すタイム・スタンプおよびログ・ファイルのサイズに関する詳細とともに表示されます。
2. 「最新表示」をクリックすると、最新のログ・ファイルが表示されます。
3. ダウンロードするログ・ファイルをクリックします。メッセージが表示されます。
4. 「今すぐダウンロード (Download Now)」をクリックします。
5. 「ファイルの保存 (Save File)」オプションを選択して「OK」をクリックします。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Working_with_Logs/aboutArchivedLogs.html

アーカイブされたログについて

ログは、ローカルにアーカイブするか、FTP サーバーにエクスポートすることができます。WMC から、アーカイブ済みログをローカルにダウンロードできます。「ログ (Logs)」 > 「アーカイブ・ログ (Archive Logs)」をクリックします。

オーケストレーション・モニター・ログはアーカイブまたはパージすることができます。オーケストレーション・モニター・ログ・ファイルをアーカイブするためのパラメーターを構成した場合、統合アプライアンスは、ログ・ファイルをアーカイブした後に、統合アプライアンスが追加のオーケストレーション・モニター・データのパージを起動する条件をポーリングします。オーケストレーション・モニター・データを統合アプラ

インスタ上のローカル・ディスクにアーカイブするか、アーカイブを FTP サーバーにエクスポートすることができます。アーカイブ設定を構成しない場合、統合アプライアンスは、デフォルトのページ・トリガー条件に合致したすべてのオーケストレーション・モニター・データをページします。

ナビゲーション・ページで「ログ (Logs)」 > 「アーカイブ・ログ (Archive Logs)」を選択すると、アーカイブされたログ・ファイルを表示できます。ログをエクスポートすると、統合アプライアンスは、エクスポートされたオーケストレーション・モニター・ログに `orcmon_export_<timestamp>.xml` という規則で命名します。

親トピック: [ログの処理](#)

ローカル環境でのオーケストレーション・モニター・ログのアーカイブ

このタスクについて

「ページされたモニター・データをローカル・ファイルにアーカイブ (Archive Purged Monitor Data to a Local File)」オプションを選択した場合に、いずれかのログ・ページ・トリガー条件が満たされると、統合アプライアンスはオーケストレーション・モニター・ログを統合アプライアンス上のローカル・ディスクにエクスポートします。

注: オーケストレーション・モニター・ログをローカル環境にアーカイブすると、統合アプライアンスで使用可能なディスク・スペースが少なくなります。ディスク・スペースが満杯に近づくにつれて、ページ・トリガー条件によってアーカイブが生成されるまでの時間が短くなります。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「ログ (Logs)」 > 「ジョブ・ログ (Job Log)」を選択します。「結果」ページに、すべてのオーケストレーション・モニター・ログが表示されます。
2. 「設定」をクリックします。「ジョブ・ログの設定 (Job Log Settings)」ダイアログが表示されます。
3. 「アーカイブ」をクリックします。
4. 「アーカイブの設定 (Archive Settings)」セクションで、「ページされたモニター・データをアーカイブしてローカル・ファイルにする (Archive Purged Monitor Data to be a Local File)」を選択します。
5. 以前にエクスポートしたオーケストレーション・モニター・ログを置き換えるには、「エクスポートしたファイルを置き換える (Replace Exported File)」を選択します。このオプションを選択しない場合、統合アプライアンスはオーケストレーション・モニター・ログを累積して保管します。この場合、統合アプライアンスがディスク・スペースを短期間で使い尽くしてしまい、ページが早期に起動される可能性があります。
6. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

統合アプライアンスは、オーケストレーション・モニター・ログをローカル環境にアーカイブします。ローカル環境に格納したアーカイブをダウンロードするには、「アーカイブ」リストからアーカイブを選択して「ダウンロード」をクリックします。

FTP サーバーへのオーケストレーション・モニター・ログのアーカイブ

このタスクについて

「パージされたモニター・データをローカル・ファイルにアーカイブ (Archive Purged Monitor Data to a Local File)」オプションおよび「アーカイブを FTP サーバーに送信 (Transmit Archive to FTP Server)」オプションを選択した場合に、いずれかのログ・パージ・トリガー条件が満たされると、統合アプライアンスはオーケストレーション・モニター・ログを FTP サーバーにエクスポートします。FTP サーバーにエクスポートされたログ・ファイルをすべて保存するか、最新のアーカイブによって以前のアーカイブを置き換えるかを選択できません。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「ログ (Logs)」 > 「ジョブ・ログ (Job Log)」を選択します。「結果」ページに、すべてのオーケストレーション・モニター・ログが表示されます。
2. 「設定」をクリックします。「ジョブ・ログの設定 (Job Log Settings)」ダイアログが表示されます。
3. 「アーカイブ」をクリックします。
4. 「アーカイブの設定 (Archive Settings)」セクションで、「パージされたモニター・データをアーカイブしてローカル・ファイルにする (Archive Purged Monitor Data to be a Local File)」を選択します。
5. 「アーカイブを FTP サーバーに送信 (パージ後) (Transmit Archive to FTP Server (After a Purge))」を選択します。
6. 以前にエクスポートしたログを置き換えるには、「エクスポートしたファイルを置き換える (Replace Exported File)」を選択します。
7. FTP 設定を指定します。FTP 設定の詳細については、以下の表 [表 1](#) を参照してください。
8. 「保存」をクリックします。

FTP サーバーへの使用状況データのアーカイブ

このタスクについて

統合アプライアンスは、ディスク使用状況、メモリー使用状況、ガーベッジ・コレクション、および実行中のジョブの数に関するデータを収集します。このリソース使用状況データは、ランタイムの全体的な正常性を分析し、追加のプロジェクト用に使用可能な容量を計算する上で役立ちます。統合アプライアンスは、このデータを maestro.stat という名前のファイルに保管するとともに、データのスナップショットを FTP サーバーにアーカイブするオプションを提供しています。適切なオプションを選択すると、統合アプライアンス上で使用可能なすべての使用状況データが収集され、指定された FTP サーバーにアーカイブされます。

アーカイブ・ファイルが作成され、FTP サーバーに送信されたら、統合アプライアンスは、引き続き新規使用状況データを履歴的な使用状況データに集約します。アーカイブが FTP サーバーに送信されても、履歴的な使用状況データは統合アプライアンスからパージされません。

「アーカイブを FTP サーバーに送信 (Transmit Archive to FTP Server)」オプションを選択すると、使用状況データのスナップショットが毎日深夜 12 時に送信されます。以下の手順では、このオプションを選択する方法について説明します。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「ログ (Logs)」 > 「ジョブ・ログ (Job Log)」を選択します。「結果」ページに、すべてのオーケストレーション・モニター・ログが表示されます。
2. 「設定」をクリックします。「ジョブ・ログの設定 (Job Log Settings)」ダイアログが表示されます。
3. 「アーカイブ」をクリックします。

4. 「深夜 12 時にアーカイブ使用状況データを FTP サーバーに送信 (Transmit archive utilization data to FTP Server (at midnight))」を選択します。
5. FTP 設定を指定します。FTP 設定の詳細については、以下の表 [表 1](#)を参照してください。
6. 「保存」をクリックします。


FTP 設定

オーケストレーション・モニター・ログおよび使用状況データをアーカイブするための FTP 設定の指定

表 1. ジョブ・ログ FTP 設定

パラメーター	説明
ホスト	エクスポートしたログ・ファイルをアーカイブする FTP サーバーの名前を指定します。
ポート	エクスポートしたログ・ファイルをアーカイブする FTP サーバーのポート番号を指定します。
ユーザー名	エクスポートしたログ・ファイルをアーカイブする FTP サーバーにログインするために統合アプライアンスが使用するユーザー ID を指定します。
ユーザー・パスワード (User Password)	エクスポートしたログ・ファイルをアーカイブする FTP サーバーにログインするために統合アプライアンスが使用するパスワードを指定します。
パスワード・テキストを非表示にする (Hide Password Text)	このオプションをクリアすると、入力したパスワードが平文で表示され、以後暗号化されなくなります。
ディレクトリー	統合アプライアンスがログ・ファイルをエクスポートする FTP ディレクトリーを指定します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Working_with_Logs/archivingJobLogs.html

オーケストレーション・モニター・ログのページ

オーケストレーション・モニター・ログはページおよびアーカイブが可能です。

このタスクについて

統合アプライアンスがオーケストレーション・モニター・データをページするときには、更新後のジョブ数がダッシュボードに表示されるまでに数分かかることがあります。

デフォルトでは、統合アプライアンスは、統合アプライアンスで以下のいずれかの条件が発生した場合に、経過日数が 30 日を超えているオーケストレーション・モニター・ログをパージします。

- 使用可能なディスク・スペースの量が 50% を下回っている。
- 最後のパージから 1 日が経過している。
- 完了したオーケストレーション・ジョブの数が 5,000 件を超えている。
- エラーが含まれたオーケストレーション・ジョブの数が 1,000 件を超えている。

WMC を使用すると、以下を決定する統合アプライアンスのジョブ・ログ・パージ・パラメーターを構成できます。

- **トリガー条件 (Trigger Conditions)** - 統合アプライアンスによるオーケストレーション・モニター・データのパージを起動する条件。
- **頻度 (Frequency)** - オーケストレーション・モニター・データをパージする頻度。
- **ジョブの範囲 (Job Scope)** - パージするオーケストレーション・モニター・データの種類。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「ログ (Logs)」 > 「ジョブ・ログ (Job Log)」を選択します。「結果」ページが表示されます。
2. 「設定」をクリックします。「ジョブ・ログの設定 (Job Log Settings)」ダイアログが表示されます。デフォルトでは「パージ (Purge)」ページが表示されます。
3. 以下の説明に従ってパラメーターを指定します。
4. 「保存」をクリックします。

親トピック: [ログの処理](#)

ジョブ・ログ・パージ・パラメーター

トリガー条件

オーケストレーション・モニター・ログの パージまたはアーカイブを開始できるトリガーは、統合アプライアンスの空きディスク・スペースの量、最後にオーケストレーション・モニター・ログがパージされてからの経過時間、完了したジョブの数、 およびエラーが含まれるジョブの数です。統合アプライアンスは、いずれかのトリガー条件が発生したときに、「OR」ロジックを使用してオーケストレーション・モニター・データをパージします。

パラメーター	説明	デフォルト
--------	----	-------

パラメーター	説明	デフォルト
使用可能なディスク・スペース (Available disk space)	<p>このトリガーは、空きディスク・スペースの割合が指定値未満である場合に発生します。このトリガーが発生すると、統合アプライアンスは、「ジョブの範囲 (Job Scope)」パラメーターで指定されたオーケストレーション・モニター・データをパーズします。</p> <p>空きディスク・スペースの割合がまだ指定の割合に達しない場合、統合アプライアンスは残りのオーケストレーション・モニター・データの 50% をパーズし、指定された値に達するまで同様のパーズを続けます。</p> <p>例えば、パーズ・パラメーターとして以下の値を指定したとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 使用可能なディスク・スペース (Available disk space) = 40% • ジョブ状況 (Job status) = 完了 (completed) • ジョブの経過日数 (Jobs older than) = 30 日 <p>統合アプライアンスのディスクが 10% しか空いていない場合は、使用可能なディスク・スペース (Available disk space) のトリガーが発生し、統合アプライアンスは、経過日数が 30 日を超える完了済みジョブをすべてパーズします。ただし、このデータのパーズによって解放されるディスク・スペースは 10% のみです。空きディスク・スペースの最小量がまだ満たされていないため、統合アプライアンスは、さらに残りのオーケストレーション・モニター・データの 50% をパーズします。統合アプライアンスは、最小の使用可能ディスク・スペースが指定値以上になるまで、残りのオーケストレーション・モニター・データを 50% ずつパーズし続けます。</p> <p>1 から 100 パーセントの値を指定できます。40 から 75 パーセントの範囲を外れた値を指定した場合、統合アプライアンスはデフォルト値 50% を使用します。</p> <p>Note: これは、必須のパラメーターです。</p>	50%

パラメーター	説明	デフォルト
スケジュール	<p>このトリガーは、最後のページからの期間が指定の日数、時間数、分数の値を超えている場合に発生します。</p> <p>「固定 (Fixed)」オプションを選択することにより、ページを正確にスケジュールできます。「スケジュール固定 (Schedule Fixed)」オプションを選択すると、指定したスケジュールによって最後のページからの指定日数、時間数、分数の値がオーバーライドされます。</p> <p>ページをスケジュールするには、以下のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「固定 (Fixed)」オプションを選択します。 2. 日数、週数、または月数を指定します。 3. リストで「日数」、「週数」、または「月数」を選択することにより、値を限定します。 4. 開始日を指定します。 	1 日
完了ジョブ数 (Completed job count)	<p>このトリガーは、完了したジョブの数が指定値より大きい場合に発生します。このパラメーターは、正の整数値である必要があります。</p> <p>Note: 統合アプライアンスがジョブをページした後は、ジョブ数が WMC から不可視になります。</p>	ジョブ 5,000 件
エラー・ジョブ数 (Errored job count)	<p>このトリガーは、エラーが含まれるジョブの数が指定値より大きい場合に発生します。エラー・ジョブ数には、状態が不明、キャンセル、終了、およびエラー終了のオーケストレーション・ジョブが含まれます。このパラメーターは、正の整数値である必要があります。</p> <p>Note: 統合アプライアンスがジョブをページした後は、ジョブ数が WMC から不可視になります。</p>	ジョブ 1,000 件

頻度 (Frequency)

頻度によって、定義されている一連のトリガーがアクションを実行できる条件に該当するかどうかを統合アプライアンスが検査する間隔が決定されます。頻度の間隔は、時間、分、および秒の増分で指定できます。


デフォルトでは、このパラメーターは 10 秒に設定されます。

ジョブの範囲 (Job Scope)

トリガー条件および頻度を指定するとともに、ページするオーケストレーション・ジョブ・データの種類の種類も指定する必要があります。統合アプライアンスは、「ジョブ状況 (Job Status)」パラメーターおよび「ジョブの経過日数 (Jobs older than)」パラメーターに指定した値、または「ジョブ状況 (Job Status)」パラメーターおよび「最近のジョブのうち残す数 (Jobs Older Than the Most Recent)」パラメーターに指定した値を使用して、統合アプライアンスがいつデータをページするかを決定します。

パラメーター	説明	デフォルト
ジョブ状況 (Job status)	このパラメーターは、統合アプライアンスがパージするオーケストレーション・ジョブの種類を指定します。デフォルトでは、このパラメーターは ANY に設定されており、完了したジョブとエラーが含まれるジョブがパージされます。COMPLETED を指定することにより、完了したジョブのみのパージを選択することができます。	Any
ジョブの経過日数 (Jobs older than)	このパラメーターは、パージするオーケストレーション・ジョブの最小経過時間を指定します。統合アプライアンスは、指定された時間より古いものをすべてパージします。オーケストレーション・ジョブの経過時間を、月数、日数、時間数、および分数で指定できます。	7 日
最近のジョブのうち残す数 (Jobs older than the most recent)	このパラメーターは、統合アプライアンスがデータをパージせずに残すオーケストレーション・ジョブを、最新のジョブからの件数で指定します。	ジョブ 1,000 件

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Working_with_Logs/purgingJobLogs.html

システム・ログ設定の指定

システム・ログに表示される詳細レベルを指定できます。指定するログ・レベルは、通知ポリシーのアラートに影響します。アラートは、指定したログ・レベルを満たすイベントまたは超過したイベントについてのみ送信されます。

このタスクについて

以下の表は、システム・ログ・レベルを示しています。「説明」列には、各レベルの説明および対応する Cast Iron 管理 API ログ・レベルの説明があります。

重大度	説明

INFO	通知メッセージ (Cast Iron 管理 API の「INFO」ログ・レベルに対応)。
WARNING	警告メッセージ (Cast Iron 管理 API の「WARNING」ログ・レベルに対応)。
ERROR	ユーザーの注意を必要とする重大なエラー (Cast Iron 管理 API の「SEVERE」ログ・レベルに対応)。
CRITICAL	ユーザーまたは管理者の注意を必要とするクリティカル・エラー (Cast Iron 管理 API の「FATAL」ログ・レベルに対応)。
FINEST	FINEST を超えるレベルのすべてのログを取得します (Cast Iron 管理 API の「ALL」ログ・レベルに対応)。

注: 場合によっては、WMC 内で設定されたログ・レベルが Cast Iron 管理 API 内の設定をオーバーライドすることがあります。例えば、コンポーネントの WMC ロギング・レベルが FINEST に設定されている場合は、Cast Iron 管理 API によって取得されるログも FINEST レベルに設定されます。また、WMC システム・ロギング・レベルが INFO に設定されている場合は、Cast Iron 管理 API によって取得されるログも INFO に設定されます。
注: イベントの通知が受信されない場合は、通知をトリガーするエントリを生成するのに十分な高さにシステム・ログ・レベルを設定していない可能性があります。

手順


1. 「ナビゲーション」ペインで、「ログ (Logs)」 > 「システム・ログ (System Log)」を選択します。「システム・ログ (System Log)」ページが表示されます。
2. 「設定」をクリックします。「システム・ログ設定 (System Log Settings)」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. リストから、各システムのログ・レベルを選択します。
4. 「保存」をクリックします。

タスクの結果

確認メッセージが表示されます。システム・ログは、特定のシステムについて発生した、指定したレベル以上のすべてのイベントをログに記録します。例えば、「デプロイメントに対してエラー・レベル (Error level for Deployment)」を選択した場合は、デプロイメント・システム内で発生した、「エラー」レベルまたは「クリティカル (Critical)」レベルのイベントがすべてログに記録されます。

親トピック: [ログの処理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Working_with_Logs/specifyingSystemLogSettings.html

システム・ログの表示

システム・ログを管理コンソールで表示し、システム・ログ・フィルターを使用してシステム・ログ・エントリーをソートできます。

このタスクについて

アップグレード時に、管理コンソールはシステム・ログを保持しません。システム・ログ情報を保持する場合は、アップグレード前にシステム・ログをエクスポートしてください。

注: 管理コンソールには、最大で 99,999 件のシステム・ログ・エントリーが表示されます。システム・ログ・エントリー数が 99,999 件を超過する場合は、最も古いエントリーがシステム・ログから削除されます。

手順

1. ナビゲーション・ペインから、「ログ (Logs)」 > 「システム・ログ (System Log)」を選択します。「システム・ログ (System Log)」ページが表示されます。
2. 「システム・ログ (System Log)」ページの上部にあるリストからフィルター値を選択します。イベントの重大度のレベル、ログ・イベントを生成した環境システム、日付、および解決の状態によって、ログ・エントリーをフィルターに掛けることができます。フィルターは AND ロジックを使用します。

親トピック: [ログの処理](#)


システム・ログの内容

システム・ログは、以下の情報を提供します。

システム・ログの内容	説明
レベル	ログ・イベントの重大度を以下に示すレベルで識別します。 <ul style="list-style-type: none">• クリティカル (Critical)• エラー• 警告• 情報
システム	ログ・イベントが発生したシステムを識別します。 <ul style="list-style-type: none">• ハードウェア• リソース• ネットワーク• セキュリティー• オーケストレーション• デプロイメント
メッセージ	ログ・イベントの詳細を提供するテキスト・メッセージ。
ジョブ	オーケストレーション・システムで発生したログ・イベントのジョブ ID 情報が表示されます (使用可能な場合)。
時間 (When)	ログ・イベントが発生した時刻を記録します。
解決時刻 (Resolved On)	ログ・イベントが解決されたときのタイム・スタンプを提供します。

システム・ログの内容	説明
解決したユーザー (Resolved By)	ログ・イベントを解決したユーザーを識別します。
解決済み (Resolved)	このチェック・ボックスは、自分がログ・イベントを解決したことを認知する場合に選択します。ユーザーがログ・イベントを解決すると、タイム・スタンプによって、問題が解決された日時が記録されます。ログ・イベントを解決したユーザーに関する情報は、「解決したユーザー (Resolved By)」列で追跡されます。「すべて解決 (Resolve All)」をクリックすることで、システム・ログのすべての問題を解決できます。解決されていないログ・イベントの隣にあるチェック・ボックスをクリアすると、「解決時刻 (Resolved On)」の値および「解決したユーザー (Resolved By)」の値がクリアされます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Working_with_Logs/viewingSystemLogs.html

システム・ログおよびジョブ・ログ内の列のカスタマイズ

システム・ログおよびジョブ・ログに表示される列をカスタマイズできます。


このタスクについて

システム・ログおよびジョブ・ログに表示される列をカスタマイズするには、列表示設定を編集します。ログ・ページの列をカスタマイズするには、以下のステップを実行します。

手順

1. 「ナビゲーション」ペインから、「ログ (Logs)」 > 「システム・ログ (System Log)」または「ジョブ・ログ (Job Log)」を選択します。「システム・ログ (System Log)」ページまたは「ジョブ・ログ (Job Log)」ページが表示されます。
2. 「列の編集 (Edit Columns)」をクリックします。「列の表示 (Display Columns)」ウィンドウが表示されます。
3. 「システム・ログ (System Log)」ページまたは「ジョブ・ログ (Job Log)」ページに表示する必要がある列を選択します。デフォルトでは、「列の表示 (Display Columns)」ウィンドウにはすべての列が選択されます。
4. 「保存」をクリックします。選択した列のみが「システム・ログ (System Log)」ページまたは「ジョブ・ログ (Job Log)」ページに表示されます。

親トピック: [ログの処理](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Working_with_Logs/customizingLogColumns.html


アプライアンスの管理

Web 管理コンソールから他のアプライアンスを管理できるようになりました。このフィーチャーはアプライアンスが複数あるときに役立ちます。1つのコンソールからそれらのアプライアンスを管理することができます。

1つのアプライアンスを、他のアプライアンスを管理するために使用されるマスター・アプライアンスとして指定します。

アプライアンスの管理の一部として以下のフィーチャーを利用できます。

- アプライアンスの登録および登録抹消は、マスター・アプライアンスを使用して行うことができます。
- 各アプライアンスのリソース使用状況詳細を、マスター・アプライアンスから表示することができます。「リソース使用状況 (Resource Utilization)」グラフについて詳しくは、『[「リソース使用状況 \(Resource Utilization\)」グラフについて](#)』を参照してください。
- 公開されるプロジェクト、およびアプライアンスごとの各プロジェクト/オーケストレーションの状況をマスター・アプライアンスから表示することができます。
- 登録された各アプライアンスのアップグレードを、それぞれマスター・アプライアンスから実行することができます。
- 物理アプライアンスと仮想アプライアンスの両方をサポートします。
- 管理とモニターについて Cast Iron® バージョン 7.0 およびこれより前のバージョン (6.0.0.x、6.1.x.x、6.3.x.x、6.4.x.x) をサポートします。このフィーチャーを使用するためには、Cast Iron の旧バージョンが、必要なパッチ・レベルでなければなりません。
- マスター・アプライアンスのユーザーは、このフィーチャーを使用するためには、管理者特権を持っていないければなりません。
- このフィーチャーは、アプライアンスが高可用性で構成されたときにも使用できます。
- [アプライアンスの登録、編集、および登録抹消](#)
- [Cast Iron アプライアンスのアップグレード](#)
このフィーチャーは Cast Iron アプライアンスをアップグレードするために使用されます。その際、アップグレード・ファイル `vcrypt2` および `scrypt2` が使用されます。これらのアップグレード・ファイルは、当該アプライアンスのバージョン (フィックスパック/パッチ/メジャー・リリース) に応じて、Cast Iron ソフトウェアの一部として取得されるか、または Fix Central から取得されます。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

アプライアンスの登録、編集、および登録抹消

このタスクについて

新しいアプライアンスを登録するには、以下のステップを実行します。

手順

1. 管理者として Web 管理コンソールにログオンします。
2. 「管理」 > 「アプライアンス」 を選択します。
3. 「登録」 をクリックして新しいアプライアンスを登録します。「新規アプライアンスの登録 (Register New Appliance)」 ウィンドウが表示されます。
4. 「新規アプライアンスの登録 (Register New Appliance)」 ウィンドウで、以下の詳細情報を入力します。
 - a. 表示名 - リモート・アプライアンスの識別に使用できる表示名を指定します。
 - b. ホスト名 - 登録するリモート・アプライアンスのホスト名または IP アドレスを指定します。
 - c. ユーザー名 - リモート・アプライアンスと通信する、管理者特権を持つユーザー名を指定します。
 - d. パスワード - ユーザー名のパスワードを指定します。
 - e. オプション: 説明 - このアプライアンスの要旨を指定します。
 - f. LDAP - リモート・アプライアンスが LDAP 用に構成された場合は、このオプションを選択します。さらに、「ユーザー名」 および 「パスワード」 フィールドで、このアプライアンスに接続する際に使用する LDAP 資格情報を指定します。
 - g. 使用可能 (Enabled) - このアプライアンスの管理およびモニターを使用可能にしたい場合は、このオプションを選択します。使用不可になっていると、このアプライアンスのデータは表示されません。
5. 「保存」 をクリックします。

注:

- 既にマスターに登録されているアプライアンスをマスター・アプライアンスにすることはできません。
- 既にマスターであるアプライアンスを別のマスター・アプライアンスに登録することはできません。
- 同じアプライアンスを複数のマスター・アプライアンスに登録することができます。
- 管理およびモニターのためにマスター・アプライアンスをそれ自体に登録することができます。

注:

- `masteradmin4ma` という名前のユーザーが、現在のアプライアンスがマスター・アプライアンスであることを示すマスター・アプライアンスに作成されます。
- `slaveadmin4ma` という名前のユーザーが、マスター・アプライアンスに登録されているアプライアンスに作成されます。
- マスター・アプライアンスからアプライアンスを登録抹消したいとき以外はこれらのユーザーを削除しないようにしてください。

タスクの結果

確認メッセージが表示されます。新しいアプライアンスが登録されます。登録が成功すると、そのアプライアンスのバージョンおよびタイプ (物理/仮想) が表示されます。

親トピック: [アプライアンスの管理](#)

登録済みアプライアンスの詳細の編集

このタスクについて

いずれかの登録済みアプライアンスの表示名をクリックすると、「アプライアンス詳細の編集 (Edit Appliance Details)」ダイアログでそのアプライアンスの詳細を編集することができます。以下のフィールドを編集できません。


- 表示名
- ユーザー名
- パスワード
- 説明
- LDAP
- 使用可能 (Enabled)

アプライアンスの登録抹消

手順

1. 登録済みアプライアンスのリストから、登録抹消するアプライアンスを選択します。
2. 「登録抹消 (Unregister)」ボタンをクリックします。「アプライアンスの削除 (Delete Appliances)」確認メッセージが表示されます。
3. 「はい」をクリックすると当該アプライアンスが登録抹消されます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Appliances/registeringAppliances.html

Cast Iron アプライアンスのアップグレード

このフィーチャーは Cast Iron® アプライアンスをアップグレードするために使用されます。その際、アップグレード・ファイル `vcrypt2` および `scrypt2` が使用されます。これらのアップグレード・ファイルは、当該アプライアンスのバージョン (フィックスパック/パッチ/メジャー・リリース) に応じて、Cast Iron ソフトウェアの一部として取得されるか、または Fix Central から取得されます。

このタスクについて

リモート・アプライアンスをアップグレードするには、以下のステップを実行します。

手順

1. `vcrypt2` または `scrypt2` ファイル (あるいはその両方) を、Web 管理コンソールから当該アプライアンスへのアクセスを可能にするワークステーションにコピーします。
2. WMC で、統合アプライアンスにログオンし、「管理」>「アプライアンス」に移動します。
3. 登録済みアプライアンスのリストから、アップグレードするアプライアンスを選択します。
4. 「オペレーティング・システムのアップグレード (Upgrade Operating System)」リンクをクリックします。「アプライアンス・オペレーティング・システムのアップグレード (Upgrade Appliances Operating System)」ウィザードが表示されます。
5. 「仮想アプライアンス・アップグレード・ファイル (Virtual appliance Upgrade File)」フィールドで `.vcrypt2` ファイルを参照して、仮想アプライアンスをアップグレードします。
6. 「物理アプライアンス・アップグレード・ファイル (Physical appliance Upgrade File)」フィールドで `.scrypt2` ファイルを参照して、物理アプライアンスをアップグレードします。
7. 「アップグレード」をクリックします。選択したすべてのアプライアンスが順々に連続してアップグレードされます。

タスクの結果


アプライアンスのアップグレードがすべて完了すると、アップグレードの結果が表示されます。データが更新された後、登録済みアプライアンスのリストでアプライアンスのバージョンも更新されます。

注:

- マスター・アプライアンスがアップグレード・リストに入っている場合は、他のアプライアンスのアップグレードが完了して初めてそのマスター・アプライアンスがアップグレードされます。
- 物理アプライアンスと仮想アプライアンスの両方のファイル (`scrypt2` および `vcrypt2`) が参照されると、アップグレードは、当該アプライアンスが入手可能な表内のタイプ情報 (物理または仮想) に基づいて実行されます。タイプ情報を入手できないと (インテリム・フィックスがない旧バージョンの場合)、これらのアプライアンスはアップグレードから除外されます。
- 1つのファイルのみが参照されると、そのファイルは、選択したすべてのアプライアンス (- によって表される、タイプ情報を持たないアプライアンスを含む) をアップグレードする入力として使用されます。

親トピック: [アプライアンスの管理](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

`file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html`

`http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.appliance.doc/Managing_Appliances/upgradingAppliances.html`

コマンド・ライン・インターフェースについて

管理者は、Cast Iron® のコマンド・ライン・インターフェース (CLI) を使用して、統合アプライアンスの管理、およびその構成情報の保守と更新を行うことができます。

CLI は統合アプライアンスにあらかじめインストールされており、この文書に記載されているコマンドに応答するように設計されています。

注: CLI では大/小文字が区別されます。コマンドとキーワードは、通常、小文字で入力する必要があります。

CLI を使用できるのは、管理者としてログインしたユーザーだけです。統合アプライアンスには、同時に複数の管理者がログインできます。

CLI へのログイン

統合アプライアンスの CLI へのログインは、セキュア・シェル (SSH) セッション、端末エミュレーション、または Telnet を通じて行うことができます。統合アプライアンスではデフォルトでセキュア管理が有効化されており、統合アプライアンスにアクセスするときにはセキュア接続を使用する必要があります。セキュア接続では、統合アプライアンスのインストール時に提供されるデフォルトのホスト・キーを使用します。

SSH クライアントまたは Telnet クライアントを使用して CLI にログインする場合、5 回連続してログインに失敗した場合 (ユーザーの種類や時間間隔に関係なく)、ロックアウトを引き起こします。ロックアウトの特徴は、ユーザーの種類を問わず、1 分あたりのログイン試行が 1 回に制限されることです。ユーザーが正常にログインすると、ユーザーのログイン失敗カウントがリセットされ、ロックアウトが終了します。

CLI からのログアウト

CLI からログアウトするには、コマンド・プロンプトで exit コマンドを実行します。これにより、端末エミュレーションまたは Telnet セッションの接続も閉じられます。

CLI のヘルプの表示

CLI で help または ? と入力すると、コマンド・カテゴリーのリストを表示することができます。特定のカテゴリーに属するコマンドの構文ヘルプを表示するには、「カテゴリー help」と入力します。例えば、net help または net ? と入力すると、ネットワークに関する各コマンドの構文情報が一覧表示されます。

タブ補完を使用する方法でも、CLI の構文を調べることができます。これには、CLI からコマンドの一部を入力して Tab キーを押します。Tab キーを押すことで、コマンドの残りの部分が入力されるか、入力するコマンド構文のオプションの一覧が表示されます。

注: Tab 補完では、CLI 構文内のスペースの有無が認識されます。例えば、CLI で system show と入力して Tab キーを押しても、結果は表示されません。show の後にスペースを追加して Tab キーを押すと、有効なコマンド・パラメーターが表示されます。

コマンド規則

コマンド構文のルールに関する説明では、以下の規則を使用します。


表 1.

規則	説明
キーワード <値>	ほとんどのコマンド・パラメーターは、キーワードと値を組み合わせで指定します。パラメーターによっては、値を指定する必要がない場合もあります。
<値>	パラメーターの値は不等号括弧で囲まれています。多くの場合、示されているテキストは指定する情報のタイプを表しています (<ホスト名> など)。明示的な値 (<yes> など) の場合もあります。
[x]	オプション・パラメーターは大括弧で囲まれています。
{xyz}	必須パラメーターのグループは中括弧で囲まれています。
x/y/z	選択項目はバーで区切られており、この中の 1 つだけを選択します。

規則	説明
x...	複数指定できるパラメーターの後には省略記号が付けられています。

- セキュア・シェル・セッション接続を使用した CLI へのログイン**
 統合アプライアンスではデフォルトでセキュア管理が有効化されており、統合アプライアンスにアクセスするときにはセキュア接続を使用する必要があります。セキュア接続では、統合アプライアンスのインストール時に提供されるデフォルトのホスト・キーを使用します。統合アプライアンスの CLI へは、セキュア・シェル (SSH) セッションを通じてログインすることができます。
- シリアル接続を使用した CLI へのログイン**
 シリアル接続を使用することで、ASCII 端末、または端末エミュレーション・ソフトウェアを実行している PC から、統合アプライアンスに対してモニターとコマンドの発行を実行できます。シリアル接続を確立するには、以下を実行します。
- Telnet 接続を使用した CLI へのログイン**
 統合アプライアンスへのセキュア管理アクセスが無効になっている場合は、Telnet セッション経由のネットワークを通じて統合アプライアンスに接続できます。
- コマンド・ライン・インターフェースのモード**
 統合アプライアンスのモードによって、使用できるコマンド・ライン・インターフェース (CLI) コマンドのタイプが異なります。
- コマンド・ライン・インターフェースのコマンド**
 コマンド・ライン・インターフェース (CLI) で使用できるさまざまなコマンド・カテゴリーの一覧と、各コマンド・カテゴリーの目的に関する説明を示します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_about_CLI.html

セキュア・シェル・セッション接続を使用した CLI へのログイン

統合アプライアンスではデフォルトでセキュア管理が有効化されており、統合アプライアンスにアクセスするときにはセキュア接続を使用する必要があります。セキュア接続では、統合アプライアンスのインストール時に提供されるデフォルトのホスト・キーを使用します。統合アプライアンスの CLI へは、セキュア・シェル (SSH) セッションを通じてログインすることができます。

手順

- Windows, SSH 接続を実行するアプリケーション (PuTTY など) を開始します。
- アプライアンスのホスト名を入力します。
- 必要に応じ、接続プロトコルとして SSH を選択するか、アプリケーションに表示されたその他の接続パラメーターを設定します。
- 接続を開始します。最初のアクセス時にはログイン・プロンプトが表示されます。
- 管理者権限を持つユーザー名とパスワードを使用して統合アプライアンスにログインします。デフォルトのユーザー名とパスワードは以下のとおりです。
 - ログイン: admin

- パスワード: !n0r1t5@C


タスクの結果

ログインすると、プロンプトが統合アプライアンスのホスト名に変更されます。

ホスト名を選択しなかった場合、プロンプトはデフォルトで統合アプライアンスの IP アドレスになります。

親トピック: [コマンド・ライン・インターフェースについて](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_log_SSH.html

シリアル接続を使用した CLI へのログイン

シリアル接続を使用することで、ASCII 端末、または端末エミュレーション・ソフトウェアを実行している PC から、統合アプライアンスに対してモニターとコマンドの発行を実行できます。シリアル接続を確立するには、以下を実行します。

手順

1. コンソールまたはラップトップ・コンピューターをシリアル・ケーブルで統合アプライアンスに接続します。シリアル接続は、ASCII 端末、または端末エミュレーション・ソフトウェアを実行している PC と、統合アプライアンスのシリアル・ポートとの間で行う必要があります。
2. 付属のシリアル・ケーブルを使用して、端末または PC を統合アプライアンスのシリアル・コネクタに接続します。端末または PC にシリアル・ポートがなく、USB ポートのみがある場合は、USB シリアル変換ケーブル (付属していません) を使用してください。
3. 端末または PC を標準の 9600 8N1、フロー制御操作なしで構成します。8N1 は、非同期モードのシリアル構成の表記です。データ・ビットが 8 個あり (8)、パリティ・ビットはなく (N)、ストップ・ビットが 1 個ある (1) ことを示します。端末または PC に推奨される端末エミュレーションは VT100 です。

タスクの結果

統合アプライアンスにログインすると、プロンプトが統合アプライアンスのホスト名に変更されます。

ホスト名を選択しなかった場合、プロンプトはデフォルトで統合アプライアンスの IP アドレスになります。

親トピック: [コマンド・ライン・インターフェースについて](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

Telnet 接続を使用した CLI へのログイン

統合アプライアンスへのセキュア管理アクセスが無効になっている場合は、Telnet セッション経由のネットワークを通じて統合アプライアンスに接続できます。

このタスクについて

注: デフォルトでは、統合アプライアンスへのセキュア管理アクセスが有効になっています。この場合、Telnet 接続を使用して統合アプライアンスに接続することはできません。セキュア管理アクセスの有効化と無効化について詳しくは、`mgmt secure` コマンドに関する説明を参照してください。

手順

1. Windows で、「スタート」 > 「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「telnet アプライアンスのホスト名」と入力します。最初のアクセス時にはログイン・プロンプトが表示されます。
3. 管理者権限を持つユーザー名とパスワードを使用して統合アプライアンスにログインします。デフォルトのユーザー名とパスワードは以下のとおりです。
 - ログイン: admin
 - パスワード: !n0r1t5@C

タスクの結果

ログインすると、プロンプトが統合アプライアンスのホスト名に変更されます。

ホスト名を選択しなかった場合、プロンプトはデフォルトで統合アプライアンスの IP アドレスになります。

親トピック: [コマンド・ライン・インターフェースについて](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

コマンド・ライン・インターフェースのモード

統合アプライアンスのモードによって、使用できるコマンド・ライン・インターフェース (CLI) コマンドのタイプが異なります。

統合アプライアンスは、以下のいずれかのモードで動作します。

アクティブ

高可用性 (HA) ペアを構成する統合アプライアンスのうち、アクティブにデータを処理している統合アプライアンスがアクティブ・モードです。このモードではすべての CLI コマンドを実行できます。アクティブ統合アプライアンスは、以下のいずれかの状態で動作します。

- アクティブ 1 - アクティブ統合アプライアンスが HA ピアと通信していない状態です。ピア統合アプライアンスがリブート中であるか、R1 ケーブルおよび R2 ケーブルが切断されている場合に、この状況になる可能性があります。
- アクティブ 2 - アクティブ統合アプライアンスが HA ピアと通信している状態です。

アイドル

統合アプライアンスがアイドル・モードになるのは、ユーザー処置を必要とするエラーが発生した場合です。この状況は、アクティブでない統合アプライアンスが、アクティブ・モードにもスタンバイ・モードにもなれない状態を示しています。アイドル・モードになるのは、HA ペアを構成する統合アプライアンスだけです。このモードでは、diagnet、ha、netspect、および system の各コマンドを使用できません。

スタンドアロン

すべてのメッセージを処理する単一の統合アプライアンスです。スタンドアロン統合アプライアンスが HA ペアを構成することはできません。このモードでは、HA ペアに関するコマンドを除くすべてのコマンドを実行できます。

スタンバイ

HA ペアを構成する統合アプライアンスのうち、アクティブ統合アプライアンスの処理をモニターする統合アプライアンスがスタンバイ・モードで稼働します。スタンバイ・モードで稼働する統合アプライアンスは、アクティブ・モードで稼働する統合アプライアンスと同期化され、アクティブ統合アプライアンスが停止した場合に処理をテークオーバーできるように待機します。このモードでは、ha および system の各コマンドを実行できます。

不明

HA ペアで、アクティブ統合アプライアンスがスタンバイ統合アプライアンスの状況を認知していない状態を示します。

一般的な HA ペアのモードの組み合わせ

HA ペアの操作時によく見られるモードの組み合わせは以下のとおりです。

- アクティブ 2 とスタンバイ - アクティブ・マシンがピアと通信し、ピアもアクティブ・マシンと通信しています。ペアで高可用性が実現されるのは、スタンバイ・ピアがアクティブ・ピアからすべてのデータを同期化した後だけです。
- アクティブ 2 とアイドル - アクティブ・マシンが (通常はユーザーが ha disconnect コマンドを実行したことによって) ピア・マシンから切断された状態を示します。HA ペアを復元するには、ha connect コマンドを実行します。
- アクティブ 1 と不明 - アクティブ・マシンが (通常はピアがリブート中であるか、パワーダウンされているか、ケーブルが切断されていることによって) ピア・マシンと通信していない状態を示します。

親トピック: [コマンド・ライン・インターフェースについて](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

🕒 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

コマンド・ライン・インターフェースのコマンド


コマンド・ライン・インターフェース (CLI) で使用できるさまざまなコマンド・カテゴリーの一覧と、各コマンド・カテゴリーの目的に関する説明を示します。

表 1.

コマンド・カテゴリー	説明
Auth コマンド	許可コマンドを使用すると、ユーザー・アカウントを管理できます。
Config コマンド	構成コマンドを使用すると、統合アプライアンスの管理構成と統合構成の両方を管理できます。
Debug コマンド	デバッグ・コマンドを使用すると、キューやプロセス・スタックを表示できます。
HA コマンド	高可用性管理コマンドです。これらのコマンドは、統合アプライアンスの高可用性 (HA) ペアに対してのみ使用できます。
Mgmt コマンド	管理コマンドを使用すると、セキュリティ設定の有効化と管理を行うことができます。
Net コマンド	ネットワーク・コマンドを使用すると、ネットワーク構成を管理できます。
Netspect コマンド	ネットワーク・イントロスペクション・コマンドを使用すると、ネットワーク構成を管理できる他、ネットワークで DHCP サーバー、DNS サーバー、ゲートウェイ、および経路情報を照会できます。
Stat コマンド	状況コマンドを使用すると、統合アプライアンスの状況を表示できます。
System コマンド	システム・コマンドを使用すると、統合アプライアンスの運用の管理 (統合アプライアンスおよびコネクターに対するライセンスの管理を含む) を行うことができます。
Time コマンド	時間コマンドを使用すると、統合アプライアンスの日時の設定や同期化を行うことができます。

親トピック: [コマンド・ライン・インターフェースについて](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_commands.html

許可コマンド

許可コマンドを使用すると、ユーザー・アカウントを管理できます。

- [auth set user コマンド](#)
auth set user コマンドは、ユーザーのパスワードを設定します。ユーザーは、Web 管理コンソール (WMC) を使用してパスワードを自分で変更するか、管理者にパスワードの変更を依頼することができます。管理者は WMC またはこのコマンドのどちらでも使用できます。統合アプライアンスでは、管理者がユーザーのパスワードを更新するときに、そのユーザーの旧パスワードを知っておく必要はありません。
- [auth set recovery コマンド](#)
auth set recovery コマンドは、IBM® DataPower® Cast Iron® Appliance のシリアル・コンソールから管理パスワードをリセットできるようにします。デフォルトは on です。
- [auth show recovery コマンド](#)
auth show recovery コマンドは、リカバリーがオンとオフのどちらになっているかを示します。オン状態の場合は、管理パスワードを IBM DataPower Cast Iron Appliance のシリアル・コンソールからリセットできます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_auth_commands.html

auth set user コマンド

auth set user コマンドは、ユーザーのパスワードを設定します。ユーザーは、Web 管理コンソール (WMC) を使用してパスワードを自分で変更するか、管理者にパスワードの変更を依頼することができます。管理者は WMC またはこのコマンドのどちらでも使用できます。統合アプライアンスでは、管理者がユーザーのパスワードを更新するときに、そのユーザーの旧パスワードを知っておく必要はありません。


LDAP ディレクトリー・サーバーによるユーザーおよびグループの許可および認証を有効にしている場合、このコマンドは管理パスワードの変更にのみ使用できます。

構文

```
auth set user <user>
```

親トピック: [許可コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

auth set recovery コマンド

auth set recovery コマンドは、IBM® DataPower® Cast Iron® Appliance のシリアル・コンソールから管理パスワードをリセットできるようにします。デフォルトは on です。


このオプションを有効にすると、シリアル・コンソールへのログイン時にユーザー名に対して `resetpass` と入力し、任意の空でないパスワードを指定できます。ログインするとすぐに、マシンへの物理アクセスを検証するよう求めるメッセージが表示されます。アプライアンスへの物理アクセスがあるかどうか検証するために、アプライアンスの MGMT ポートからイーサネット・ケーブルをいったん抜き、接続し直すよう求められます。これにより、リモート・ポート・レプリケーターを通じてシリアル・コンソールにアクセスしているユーザーがいなかったことが検証されます。アプライアンスへの物理アクセスがない場合は、recovery オプションを off に設定する必要があります。

構文

```
auth set recovery <on|off>
```

親トピック: [許可コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_auth_authsetrecovery.html

auth show recovery コマンド


auth show recovery コマンドは、リカバリーがオンとオフのどちらになっているかを示します。オン状態の場合は、管理パスワードを IBM® DataPower® Cast Iron® Appliance のシリアル・コンソールからリセットできます。

このオプションを有効にすると、シリアル・コンソールへのログイン時にユーザー名に対して `resetpass` と入力し、任意の空でないパスワードを指定できます。ログインするとすぐに、マシンへの物理アクセスを検証するよう求めるメッセージが表示されます。アプライアンスへの物理アクセスがあるかどうか検証するために、アプライアンスの MGMT ポートからイーサネット・ケーブルをいったん抜き、接続し直すよう求められます。これにより、リモート・ポート・レプリケーターを通じてシリアル・コンソールにアクセスしているユーザーがいなかったことが検証されます。アプライアンスへの物理アクセスがない場合は、auth set recovery コマンドを使用して recovery オプションを off に設定する必要があります。

構文

```
auth show recovery
```

親トピック: [許可コマンド](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_auth_authshowrecovery.html

構成コマンド

構成コマンドを使用すると、統合アプライアンスの管理構成と統合構成の両方を管理できます。

- [config load コマンド](#)
config load コマンドは、管理構成ファイルを FTP または SFTP サーバーからロードします。構成ファイルが統合アプライアンスにロードされると、統合アプライアンスは自動的にリブートします。
- [config save コマンド](#)
config save コマンドは、管理構成ファイルを FTP または SFTP サーバーに保存します。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_config_commands.html

config load コマンド

config load コマンドは、管理構成ファイルを FTP または SFTP サーバーからロードします。構成ファイルが統合アプライアンスにロードされると、統合アプライアンスは自動的にリブートします。

ユーザー名、ホスト名、またはファイル名には予約語を使用しないでください。予約語には、ftp、sftp、ibm、port、user、および file があります。

注: SFTP を使用する場合には、ユーザー名を指定する必要があります。SFTP では匿名ログインは許可されていません。

FTP 構文


```
config load system ftp <ホスト> [port <番号>] [user <ユーザー名>] file [<パス>/]<ファイル名>
```

SFTP 構文

```
config load system sftp <ホスト> [port <番号>] user <ユーザー名> file [<パス>/]<ファイル名>
```

親トピック: [構成コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_config_configload.html

config save コマンド

config save コマンドは、管理構成ファイルを FTP または SFTP サーバーに保存します。

注: ユーザー名、ホスト名、またはファイル名には予約語を使用しないでください。予約語には、ftp、sftp、ibm、port、user、および file などがあります。

FTP 構文

構成ファイルを FTP サーバーに保存するときにユーザー名を省略すると、統合アプライアンスによって匿名が使用されます。

```
config save system ftp <ホスト> [port <番号>] [user <ユーザー名>] file [<パス>/]<ファイル名>
```

例: 現在のシステム構成を、ホスト tern 上で稼働する FTP サーバーに old_sys_config.cfg として保存します。FTP ユーザーのログイン名は Joe です。

```
config save system ftp tern user joe file old_sys_config.cfg
```


SFTP 構文

構成ファイルを SFTP サーバーに保存するときには、ユーザー名を指定する必要があります。SFTP では匿名ログインは許可されていません。

```
config save system sftp <ホスト> [port <番号>] user <ユーザー名> file [<パス>/]<ファイル名>
```

親トピック: [構成コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_config_configsave.html

デバッグ・コマンド

デバッグ・コマンドを使用すると、キューやプロセス・スタックを表示できます。

- [debug postmortem export コマンド](#)
debug postmortem export コマンドは、指定した FTP または SFTP サーバーに事後分析アーカイブをエクスポートします。
- [debug postmortem generate all コマンド](#)
debug postmortem generate all コマンドは、統合アプライアンスのログ、オーケストレーション・ログ、およびトランザクション・ストアから収集した情報のアーカイブを生成します。このアーカイブは、統合アプライアンスの問題をデバッグする際に役立つことがあります。
- [debug postmortem generate full logs コマンド](#)
debug postmortem generate full logs コマンドは、統合アプライアンスのすべてのログの事後分析アーカイブを生成します。これには、アーカイブされたログに加え、新規のログと、場合により、前もって debug show stack コマンドを実行したことにより生成される複数のスタックが含まれます。
- [debug postmortem generate new logs コマンド](#)
debug postmortem generate new logs コマンドは、統合アプライアンスのすべての最新ログの事後分析アーカイブと、場合により、前もって debug show stack コマンドを実行したことにより生成される複数のスタックを生成します。
- [debug postmortem generate store コマンド](#)
debug postmortem generate store コマンドは debug postmortem generate all コマンドと似ていますが、統合アプライアンスのすべてのログとトランザクション・ストア内のデータの事後分析アーカイブだけを生成する点が異なります。
- [debug show stacks コマンド](#)
debug show stacks コマンドは、現在の実行時スタック・トレースを表示します。
- [debug system コマンド](#)
debug system コマンドを使用すると、統合アプライアンスのランタイムを開始および停止できます。debug system stop コマンドを実行すると、実行中のオーケストレーション・ジョブがすべて取り消され、統合アプライアンスによって新規オーケストレーション・ジョブが処理されなくなります。
- [debug tail file コマンド](#)
debug tail file コマンドは、ログ・ファイルに内容が追加されたときにその内容を表示します。
- [debug top コマンド](#)
debug top file コマンドは、プロセスの状況を動的に表示します。
- [debug job コマンド](#)
debug job コマンドを使用すると、命令セットと実行中のジョブのログを取り込むことができます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_commands.html

debug postmortem export コマンド

debug postmortem export コマンドは、指定した FTP または SFTP サーバーに事後分析アーカイブをエクスポートします。

統合アプライアンスではエクスポート・ファイル名の指定は必須ではありませんが、ベスト・プラクティスとして、統合アプライアンスの通し番号、日付、およびタイム・スタンプを含む名前を指定することをお勧めします。エクスポート・ファイル名を指定しない場合、統合アプライアンスは postmortem.tar.gz という名前でファイルをエクスポートします。

注: ユーザー名、ホスト名、またはファイル名には予約語を使用しないでください。予約語には、ftp、sftp、postmortem、debug、export、ibm、port、user、および file があります。

FTP 構文

```
debug postmortem export ftp <ホスト名> [port <番号>][user <ユーザー>][file <ファイル名>]
```

ここで、

表 1.

オプション	説明
ホスト名	FTP サーバーの名前を指定します。
番号	FTP サーバーへの接続に使用するポート番号を指定します。
ユーザー	FTP サーバーへのログインに使用するユーザー名を指定します。
ファイル名	事後分析アーカイブを格納するファイルの名前を指定します。

ユーザー入力:

```
debug postmortem export ftp MyFTPserver user user1 file logs/B2XXW56_04152005_172341.tzg
```

SFTP 構文

SSH ファイル転送プロトコルを使用して事後分析をエクスポートする場合は、以下の SFTP 構文を使用します。

注: 事後分析ファイルを SFTP サーバーにエクスポートするときには、ユーザー名を指定する必要があります。SFTP では匿名ログインは許可されていません。

```
debug postmortem export sftp <ホスト名> [port <番号>] user <ユーザー> [file <ファイル名>]
```

ここで、

表 2.

オプション	説明
ホスト名	SFTP サーバーの名前を指定します。
番号	SFTP サーバーへの接続に使用するポート番号を指定します。
ユーザー	SFTP サーバーへのログインに使用するユーザー名を指定します。
ファイル名	事後分析アーカイブを格納するファイルの名前を指定します。

ユーザー入力:

```
debug postmortem export sftp MyFTPserver user user1 file logs/B2XXW56_04152005_172341.tzg
```

IBM サポートへのファイルのエクスポート

IBM サポートに事後分析ファイルをエクスポートします。


```
debug postmortem export ibm pmr <pmr 番号>
```

ここで、各オプションは次のとおりです。

- pmr 番号 - IBM サポートで公開された PMR 番号。

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_postmortemexport.html

debug postmortem generate all コマンド

debug postmortem generate all コマンドは、統合アプライアンスのログ、オーケストレーション・ログ、およびトランザクション・ストアから収集した情報のアーカイブを生成します。このアーカイブは、統合アプライアンスの問題をデバッグする際に役立つことがあります。

事後分析アーカイブは、コマンドを再実行するまで、統合アプライアンス内に保持されます。このコマンドを実行すると、統合アプライアンスは新しいアーカイブを作成し、このアーカイブによって以前の事後分析アーカイブが上書きされます。


統合アプライアンスをリブートして技術サポートを呼び出す前に、このコマンドを発行してください。

構文

```
debug postmortem generate all
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_postmortemgenerateall.html

debug postmortem generate full logs コマンド

debug postmortem generate full logs コマンドは、統合アプライアンスのすべてのログの事後分析アーカイブを生成します。これには、アーカイブされたログに加え、新規のログと、場合により、前もって debug show stack コマンドを実行したことにより生成される複数のスタックが含まれます。

事後分析アーカイブは、コマンドを再実行するまで、統合アプライアンス内に保持されます。このコマンドを実行すると、統合アプライアンスは新しいアーカイブを作成し、このアーカイブによって以前の事後分析アーカイブが上書きされます。

構文

```
debug postmortem generate fulllogs
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_postmortemgeneratefulllogs.html

debug postmortem generate new logs コマンド

debug postmortem generate new logs コマンドは、統合アプライアンスのすべての最新ログの事後分析アーカイブと、場合により、前もって debug show stack コマンドを実行したことにより生成される複数のスタックを生成します。

事後分析アーカイブは、コマンドを再実行するまで、統合アプライアンス内に保持されます。このコマンドを再実行すると、統合アプライアンスは新しいアーカイブを作成し、このアーカイブによって以前の事後分析アーカイブが上書きされます。

構文

```
debug postmortem generate newlogs
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_postmortemgeneratenewlogs.html

debug postmortem generate store コマンド

debug postmortem generate store コマンドは debug postmortem generate all コマンドと似ていますが、統合アプライアンスのすべてのログとトランザクション・ストア内のデータの事後分析アーカイブだけを生成する点が異なります。

事後分析アーカイブは、コマンドを再実行するまで、統合アプライアンス内に保持されます。このコマンドを再実行すると、統合アプライアンスは新しいアーカイブを作成し、このアーカイブによって以前の事後分析アーカイブが上書きされます。

構文

```
debug postmortem generate store
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_postmortemgeneratestore.html

debug show stacks コマンド


debug show stacks コマンドは、現在の実行時スタック・トレースを表示します。

構文

```
debug show stacks
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_showstacks.html

debug system コマンド


debug system コマンドを使用すると、統合アプライアンスのランタイムを開始および停止できます。debug system stop コマンドを実行すると、実行中のオーケストレーション・ジョブがすべて取り消され、統合アプライアンスによって新規オーケストレーション・ジョブが処理されなくなります。

構文

```
debug system {start|stop }
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_system.html

debug tail file コマンド


debug tail file コマンドは、ログ・ファイルに内容が追加されたときにその内容を表示します。

構文

```
debug tail file<ファイル名>
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_tailfile.html

debug top コマンド


debug top file コマンドは、プロセスの状況を動的に表示します。

構文

```
debug top
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_top.html

debug job コマンド

debug job コマンドを使用すると、命令セットと実行中のジョブのログを取り込むことができます。

構文

```
debug job <jobid>
```

親トピック: [デバッグ・コマンド](#)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_debug_job.html


高可用性コマンド

高可用性 (HA) 管理コマンドです。これらのコマンドは、統合アプライアンスの HA ペアに対してのみ使用できます。

- [ha active コマンド](#)
ha active コマンドは、アイドル状態のマシンに対してアクティブになるように指示します。このコマンドは、ピアが存在しないか、ピア・マシンがアイドル状態である場合にのみ実行できます。
- [ha conncheck コマンド](#)
ha conncheck コマンドは、高可用性ペアに関連して発生している可能性のある接続の問題を診断するために役立つ情報を提供します。このコマンドは、アクティブ・モードでのみ使用可能です。
- [ha disconnect コマンド](#)
ha disconnect コマンドは、HA ペアの接続を一時的に切断します。このとき、スタンバイ・マシンがアクティブ・マシンをテークオーバーすることはありません。このコマンドは、アクティブ・モードでのみ使用可能です。
- [ha power off standby コマンド](#)
ha power off standby コマンドは、高可用性ペアのスタンバイ統合アプライアンスをパワーオフします。このコマンドは、アクティブ・モードでのみ使用可能です。
- [ha power on standby コマンド](#)
ha power on standby コマンドは、高可用性ペアのスタンバイ統合アプライアンスをパワーオンします。このコマンドは、アクティブ・モードでのみ使用可能です。
- [ha reboot コマンド](#)
ha reboot コマンドは、指定された統合アプライアンス (アクティブまたはスタンバイ) のシステム・リブートを完了します。ha reboot コマンドは、HA ペアでのみ使用可能です。ha reboot standby コマンドを実行すると、スタンバイ統合アプライアンスがリブートし、一方、アクティブ統合アプライアンスはデータの処理を続行します。ha reboot active コマンドを実行すると、アクティブ統合アプライアンスのすべてのルーティング・サービスがシャットダウンされた後、アクティブ統合アプライアンスがリブートします。スタンバイ統合アプライアンスにはフェイルオーバー機能はなく、アクティブ統合アプライアンスがオンラインに戻るまで、データは処理されません。フェイルオーバー機能をシミュレートするには、ha switch コマンドを使用して、HA ペアの各マシンのモードを切り替えます。これにより、アクティブ統合アプライアンス (A1) がスタンバイ統合アプライアンス (S2) になり、スタンバイ統合アプライアンス (S1) がアクティブ統合アプライアンス (A2) になります。HA ペアの統合アプライアンスのモードを切り替えた後で、ha reboot standby コマンドを実行します。A1 がリブートしている間、S1 がデータの処理を続行します。

- [ha show lastaccess コマンド](#)
ha show lastaccess コマンドは、統合アプライアンスで最近発生した状態遷移を 10 回分表示します。アイドル・モードでのみ使用可能です。
- [ha show pairstatus コマンド](#)
ha show pairstatus コマンドは、高可用性ペアの状況を表示して、どちらの統合アプライアンスがアクティブで、どちらの統合アプライアンスがスタンバイであるかに関する情報を提供します。アクティブ・モードでのみ使用可能です。
- [ha switch コマンド](#)
ha switch コマンドは、高可用性ペアの統合アプライアンスの役割を切り替えます。アクティブ・マシンはスタンバイ・マシンに、スタンバイ・マシンはアクティブになります。アクティブ・モードでのみ使用可能です。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_HA_commands.html

ha active コマンド

ha active コマンドは、アイドル状態のマシンに対してアクティブになるように指示します。このコマンドは、ピアが存在しないか、ピア・マシンがアイドル状態である場合にのみ実行できます。


構文

注: このコマンドを誤って使用すると、データ破損の原因になる場合があります。

ha active

親トピック: [高可用性コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_active.html

ha conncheck コマンド


ha conncheck コマンドは、高可用性ペアに関連して発生している可能性のある接続の問題を診断するために役立つ情報を提供します。このコマンドは、アクティブ・モードでのみ使用可能です。

構文

ha conncheck

親トピック: [高可用性コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_conncheck.html

ha disconnect コマンド

ha disconnect コマンドは、HA ペアの接続を一時的に切断します。このとき、スタンバイ・マシンがアクティブ・マシンをテークオーバーすることはありません。このコマンドは、アクティブ・モードでのみ使用可能です。

このアクションを使用すると、オーケストレーション処理を中断することなく、スタンバイ・マシンに対して必要なハードウェアまたはソフトウェアのメンテナンスを実行できます。

このアクションを選択すると、スタンバイ・マシンがアイドル状態に遷移します。HA ペア間の接続を再確立し、データの同期とフェイルオーバー操作を再開するには、アクティブ・マシンをリブートするか、connect アクションを実行します。


アクティブ・マシンに対してメンテナンスを実行するには、switch アクションを実行します。これにより、アクティブ・マシンがスタンバイ・マシンになるため、disconnect アクションを実行して、オーケストレーション処理を中断せずに統合アプライアンスのメンテナンスを実行できます。

構文

ha disconnect

親トピック: [高可用性コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_disconnect.html

ha power off standby コマンド


ha power off standby コマンドは、高可用性ペアのスタンバイ統合アプライアンスをパワーオフします。このコマンドは、アクティブ・モードでのみ使用可能です。

構文

ha poweroff standby

親トピック: [高可用性コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_poweroffstandby.html

ha power on standby コマンド


ha power on standby コマンドは、高可用性ペアのスタンバイ統合アプライアンスをパワーオンします。このコマンドは、アクティブ・モードでのみ使用可能です。

構文

ha poweron standby

親トピック: [高可用性コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_poweronstandby.html

ha reboot コマンド


ha reboot コマンドは、指定された統合アプライアンス (アクティブまたはスタンバイ) のシステム・リブートを完了します。ha reboot コマンドは、HA ペアでのみ使用可能です。ha reboot standby コマンドを実行すると、スタンバイ統合アプライアンスがリブートし、一方、アクティブ統合アプライアンスはデータの処理を続行します。ha reboot active コマンドを実行すると、アクティブ統合アプライアンスのすべてのルーティング・サービスがシャットダウンされた後、アクティブ統合アプライアンスがリブートします。スタンバイ統合アプライアンスにはフェイルオーバー機能はなく、アクティブ統合アプライアンスがオンラインに戻るまで、データは処理されません。フェイルオーバー機能をシミュレートするには、ha switch コマンドを使用して、HA ペアの各マシンのモードを切り替えます。これにより、アクティブ統合アプライアンス (A1) がスタンバイ統合アプライアンス (S2) になり、スタンバイ統合アプライアンス (S1) がアクティブ統合アプライアンス (A2) になります。HA ペアの統合アプライアンスのモードを切り替えた後で、ha reboot standby コマンドを実行します。A1 がリブートしている間、S1 がデータの処理を続行します。

構文

ha reboot {active|standby}

親トピック: [高可用性コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_reboot.html

ha show lastaccess コマンド

ha show lastaccess コマンドは、統合アプライアンスで最近発生した状態遷移を 10 回分表示します。アイドル・モードでのみ使用可能です。

構文


```
ha show lastaccess
```

統合アプライアンスでアイドルからアクティブへの状態遷移が発生した場合は、以下のような情報が表示されます。

```
[GMT] Jan 10 00:55:50 State changed from 'IDLE' to 'ACTIVE_1'
```

親トピック: [高可用性コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_showlastaccess.html

ha show pairstatus コマンド

ha show pairstatus コマンドは、高可用性ペアの状況を表示して、どちらの統合アプライアンスがアクティブで、どちらの統合アプライアンスがスタンバイであるかに関する情報を提供します。アクティブ・モードでのみ使用可能です。

構文

```
ha show pairstatus
```

親トピック: [高可用性コマンド](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_showpairstatus.html

ha switch コマンド

ha switch コマンドは、高可用性ペアの統合アプライアンスの役割を切り替えます。アクティブ・マシンはスタンバイ・マシンに、スタンバイ・マシンはアクティブになります。アクティブ・モードでのみ使用可能です。

構文

ha switch

親トピック: [高可用性コマンド](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_ha_switch.html

管理コマンド

使用できる管理 (mgmt) コマンドの一覧を示します。

注: 引用符が必要なコミュニティ名を指定する場合は、二重引用符 (“ ”) を使用する必要があります。

表 1.


コマンド名	アクション	構文
mgmt kerberos del config	Kerberos レルムと KDC サーバー構成を削除します。	mgmt kerberos del config

コマンド名	アクション	構文
mgmt kerberos set realm	Kerberos レalm と KDC サーバー構成の設定を指定できます。	<pre>mgmt kerberos set realm<名前> kdc<名前 IP アドレス></pre>
mgmt kerberos show config	Kerberos レalm と KDC サーバー構成の設定を表示します。	<pre>mgmt kerberos show config</pre>
mgmt motd	ユーザーが CLI にログインしたときに表示されるその日のメッセージを設定できます。設定されたその日のメッセージを表示するには、show パラメーターを選択します。clear パラメーターを選択すると、ユーザーが CLI にログインしたときにその日のメッセージが表示されません。	<pre>mgmt motd{set show clear}</pre>
mgmt secure	<p>統合アプライアンスの管理インターフェースへのセキュア・アクセスを有効化または無効化します。デフォルト・オプションは on で、セキュア管理アクセスが有効化されます。セキュア管理アクセスを有効化 (on) した場合、CLI へのアクセスには SSH (セキュア・シェル)、Web 管理コンソール (WMC) へのアクセスには HTTPS を使用する必要があります。off オプションを選択してセキュア管理アクセスを無効化した場合は、CLI へのアクセスに Telnet、WMC へのアクセスに HTTP を使用できます。</p> <p>現在のセキュリティー設定を検証するには、mgmt secure setting コマンドを使用します。</p>	<pre>mgmt secure { on off setting }</pre>
mgmt snmp set	現在の SNMP 構成をセットアップまたは更新できる他、SNMP MIB2 サービスを有効化および無効化することもできます。SNMP コマンドの使用については、 SNMP の基礎 を参照してください。	<pre>1. mgmt snmp set { community description location contact } <value></pre> <pre>2. mgmt snmp set { on off }</pre>

コマンド名	アクション	構文
mgmt snmp show	現在の SNMP 構成の設定を表示します。	<pre>mgmt snmp show { community description location contact all status }</pre>
mgmt ssh add	<p>指定されたホストの公開鍵を統合アプライアンスの SSH ストアに追加します。統合アプライアンスで厳密な SSH キー検査が有効化されている場合は、統合アプライアンスが SFTP を使用して接続するすべての参加エンドポイント・システムの公開鍵が SSH ストアに格納されている必要があります。</p> <p>このコマンドの実行後は、統合アプライアンスを再始動してください。</p> <p>注: 鍵タイプは必須パラメーターです。</p>	<pre>mgmt ssh add<rsa dsa>host<name ipaddr name,ipaddr></pre>
mgmt ssh del	<p>指定されたホストの公開鍵を統合アプライアンスの SSH ストアから削除します。</p> <p>このコマンドの実行後は、統合アプライアンスを再始動してください。</p> <p>注: 鍵タイプは必須パラメーターです。</p>	<pre>mgmt ssh del host<ホスト名> ホストの IP アドレス></pre>
mgmt ssh keycheck	<p>厳密な SSH キー検査を有効化または無効化します。</p> <p>strict モードでは、参加エンドポイント・システムの公開鍵が統合アプライアンスの SSH ストアに格納された公開鍵と一致する場合に限り、SFTP コネクターによってそのシステムへの接続が行われます。</p> <p>easy モードでは、以下のいずれかの条件が満たされれば、SFTP コネクターによって参加エンドポイント・システムへの接続が行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> そのシステムの公開鍵が SSH ストアに格納された公開鍵と一致する場合。 SSH ストアに公開鍵がない場合。鍵が存在しない場合、コネクターは参加エンドポイント・システムから現在の公開鍵を SSH ストアに読み込みます。 	<pre>mgmt ssh keycheck<strict easy></pre>
mgmt ssh list	SSH ストアに公開鍵が格納されているすべてのホストまたは指定されたホストを表示します。SSH ストアの公開鍵は、セキュア接続を確保するために SFTP コネクターで使用されます。	<pre>mgmt ssh list[host<name host IP address>]</pre>
mgmt ssh show keycheck	SSH キー検査の現在の設定 (strict または easy) を表示します。	<pre>mgmt ssh show keycheck</pre>

コマンド名	アクション	構文
mgmt syslog del config	システム・ログ (syslog) の構成を削除できます。	mgmt syslog del config
mgmt syslog set remote host	ログの送信先となるリモート・ホストを指定できます。	mgmt syslog set remote host<name host IP address>
mgmt syslog show config	現在のシステム・ログ (syslog) 構成の設定を表示します。	mgmt syslog show config

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_mgmt_commands.html

ネットワーク・コマンド

ネットワーク構成の管理に使用できるネットワーク・コマンドです。

表 1.

コマンド名	アクション	構文
net add etc hos t	<p>統合アプライアンスの /etc/hosts 構成ファイルにエンタリーを追加します。</p> <p>IP アドレスは通常、そのアプライアンスの管理 IP アドレスです。ベスト・プラクティスは完全修飾ホスト名 (例えば <i>myhost.mydept.mycompany.com</i>) を指定することです。また、別名はオプション・パラメーターではありますが、別名 (例えば <i>myhost</i>) を指定することがベスト・プラクティスです。</p> <p>ここに net add etchost コマンドの例を示します。</p> <pre>net add etchost address 111.222.333.444 hostname myhost.mydept.mycompany.com alias myhost</pre> <p>完全修飾されていないホスト名のエンタリーが以前に追加されていた場合、最初に net del etchost コマンドを使用してそのエンタリーを削除してから、完全修飾ホスト名のエンタリーを追加します。net show etchost コマンドを使用して、そのエンタリーが正しく削除されたことを確認します。</p>	<pre>net add etchost address <IP アドレス> hostname <完全修飾ホスト名> [alias <短縮別名>]</pre>
net add rou te add ress	<p>ルーティング・テーブルに静的ルートを追加します。</p>	<pre>net add route address<宛先>mask<ネットマスク> [gateway<ゲートウェイ>] interface {emgmt edata}</pre>
net del etc hos t	<p>統合アプライアンスの /etc/hosts 構成ファイルから 1 つ以上のエンタリーを削除します。</p> <p>net add etchost コマンドを使用して、エンタリーの追加時に使用されたのと同じパラメーターを指定します。net show etchost コマンドを使用して、詳細を検証できます。</p>	<pre>net del etchost address <IP アドレス> hostname <完全修飾ホスト名> [alias <短縮別名>]</pre>
net del rou te add ress	<p>ルーティング・テーブルから静的ルートを削除します。</p>	<pre>net del route address <IP アドレス> mask <マ スク></pre>
net flus h dhc p	<p>統合アプライアンスからキャッシュされた DHCP 値を消去します。</p>	<pre>net flush dhcp</pre>
net ping	<p>指定したホストに対して照会を行い、そのホストがネットワーク上で応答するかどうかを判断します。</p>	<pre>net ping {<IP アドレス> <ノード名>}</pre>

コマンド名	アクション	構文
net restart	任意の新規ネットワーク設定を保存し、適用します。 net set、net add、または net del の各コマンドの後にこのコマンドを使用して、変更内容を適用する必要があります。	net restart
net restore	メモリーをアクティブまたはバックアップ設定に復元します。	net restore {active backup}
net traceroute	指定したノードへのネットワーク経路をトレースします。	net traceroute <IP アドレス> <ノード名>
net validate	<p>現在のメモリー内設定をテストし、ネットワークが正常に動作しなくなる可能性がある警告またはエラーを表示します。</p> <p>すべてのネットワーク設定が受け入れ可能な場合、このコマンドを発行すると、「Current network settings can be applied.」というステートメントが返されます。</p> <p>無効な設定が入力されているときにこのコマンドを発行すると、該当する警告メッセージまたはエラー・メッセージが返されます。例えば、次のとおりです。</p> <pre>warning: Route to 9.43.79.4 requires static Data IP address</pre> <pre>error: Gateway 9.9.9.9 is not reachable from emgmt</pre> <pre>Current network settings cannot be applied</pre>	net validate

net set コマンドおよび net show コマンドについては、以下のトピックを参照してください。

- [net set コマンド](#)
統合アプライアンス、DNS サーバー、ホスト名、およびデフォルト・ゲートウェイのネットワーク・インターフェースの構成を設定します。統合アプライアンスにホスト名/IP アドレスを自動的に追加するには、net set autohost コマンドを選択します。キャリアが失われた場合にそのことを報告するまでの時間を設定することもできます。
- [net show コマンド](#)
このコマンドは、統合アプライアンスのすべてのネットワーク構成を表示します。このコマンドでは、ネットワーク・インターフェース、DNS サーバー、ホスト名、デフォルト・ゲートウェイ、ルーティング・テーブル、およびソケット接続に関する特定の構成情報も表示できます。net set autohost コマンドを有効にしている場合は、net show autohost を使用すると現在の autohost の設定を表示できます。

net set コマンド

統合アプライアンス、DNS サーバー、ホスト名、およびデフォルト・ゲートウェイのネットワーク・インターフェースの構成を設定します。統合アプライアンスにホスト名/IP アドレスを自動的に追加するには、net set autohost コマンドを選択します。キャリアが失われた場合にそのことを報告するまでの時間を設定することもできます。

DHCP サーバーを含まないネットワークで起動時間を短縮するには、すべての項目を静的な値に設定するか何も設定しないことで、統合アプライアンスが DHCP サーバーを検索しないようにします。

DHCP サーバーを通じていずれかの値を取得するように構成した場合は、使用可能な DHCP サーバーを統合アプライアンスが検索しようとするため、起動時間が遅れる場合があります。

統合アプライアンスのネットワーク・インターフェースには、以下の名前が使用されます。

- edata - すべての統合データを処理するインターフェースの名前
- emgmt - CLI と Web 管理コンソール (WMC) の両方を含む管理トラフィックを処理するインターフェースの名前

表 1.

オプション	説明
autohost	統合アプライアンスが自身のホスト名から IP アドレスを特定できるようにします。このオプションを有効にしているときに、統合アプライアンスが DNS またはユーザーが手動で /etc/hosts ディレクトリーに入力したエントリーのいずれかを通じて自身のホスト名に対応する IP アドレスを見つけない場合、統合アプライアンスは /etc/hosts ディレクトリーに自動的にエントリーを追加し、CIOS が正常に機能するようにします。このオプションを有効化または無効化するには、net set autohost コマンドを使用します。
carrier	失われたイーサネット・リンク・キャリアをエラーとして報告するまでの時間を秒単位で指定します。この値をゼロに設定すると、キャリアのチェックが無効化され、エラーは報告されません。
domain	この統合アプライアンスのドメイン名を設定します。これにより、このドメイン内の名前に対するほとんどの照会で、ローカル・ドメインを基準としたショート・ネームを使用できるようになります。
gateway	ゲートウェイと、そのゲートウェイ用に使用するインターフェースを指定します。統合アプライアンスでは、1つのインターフェースに対して1つのゲートウェイが割り当てられているわけではなく、管理トラフィックとデータ・トラフィックの両方に対して1つのデフォルト・ゲートウェイしかサポートされていませんが、他の経路を個別に追加することができます。

オプション	説明
hostname	統合アプライアンスの名前を設定します。この名前には、ドメイン・ネームを含まないショート・ホスト名を使用する必要があります。
interface	指定したインターフェースの IP アドレス、ネットマスク、およびブロードキャスト・アドレスを設定します。
link	イーサネット・リンクをオートネゴシエーション (デフォルト) または特定の値に設定します。通常はオートネゴシエーションをお勧めしますが、ネットワーク状況が最適でない場合は、特定の値を設定することでスループットを改善できる場合があります。
mtu	68 から 9000 までの範囲で最大伝送単位 (MTU) サイズを設定します。デフォルトの MTU は 1500 です。
nameserver	DNS サーバーのリストを設定します (最大 2)。
ntp	タイム・サーバーを設定します。
search	検索リストを指定します。このオプションを設定しない場合、検索リストはドメイン設定の値と同じになります。

構文 1

```
net set autohost[enable|disable ]
```

構文 2

```
net set carrier timeout<タイムアウト>
```

構文 3

```
net set{domain|search |nameserver |ntp} {dhcp[emgmt| edata]|static<値> |none}
```

例 1: 特定のドメイン・ネームを設定します。

```
net set domain static mydomain.com
```

例 2: 管理 NIC 上の DHCP サーバーに NTP サーバーを要求します。

```
net set ntp dhcp emgmt
```

例 3: 指定されたドメインでホスト名を検索します。

```
net set search static a.mydomain.com b.mydomain.com
```

例 4: 他のドメインにあるホスト名を検索しません。

```
net set search none
```

構文 4

```
net set gateway {dhcp {emgmt|edata}|static <IP アドレス> {emgmt|edata}|none}
```

構文 5

```
net set hostname{dhcp[emgmt |edata]|static <値>}
```

構文 6

```
net set interface {emgmt|edata} {dhcp|address <IP アドレス> mask <マスク> [bcast <bcast>]}
```

構文 7


```
net set link {emgmt|edata} {autonegotiate|speed <速度> duplex {half|full}}
```

構文 8

```
net set mtu {emgmt|edata} <MTU>
```

親トピック: [ネットワーク・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 **最終更新:** 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_network_netset.html

net show コマンド

このコマンドは、統合アプライアンスのすべてのネットワーク構成を表示します。このコマンドでは、ネットワーク・インターフェース、DNS サーバー、ホスト名、デフォルト・ゲートウェイ、ルーティング・テーブル、およびソケット接続に関する特定の構成情報も表示できます。net set autohost コマンドを有効にしている場合は、net show autohost を使用すると現在の autohost の設定を表示できます。

net show コマンドを使用すると、メモリー内のネットワーク設定に対する変更のコレクションを発行できます。統合アプライアンスでは、これらの変更が保持されません。net show コマンドが永続的になるのは、net restart コマンドを実行した後です。

- Active - 現在実行中の統合アプライアンスのネットワーク設定を表示します。
- Memory - net restart コマンドを実行するとアクティブになるステージング段階の統合アプライアンスのネットワーク設定を表示します。
- Backup - 前回の net restart コマンドを実行する前にアクティブであった統合アプライアンスを指定します。

統合アプライアンスのネットワーク・インターフェースには、以下の名前が使用されます。

- edata - すべての統合データを処理するインターフェースの名前
- emgmt - CLI と Web 管理コンソールの両方を含む管理トラフィックを処理するインターフェースの名前

表 1.. 以下の表に、さまざまなコマンド構文で使用可能なオプションに関する説明を示します。

オプション	説明
all	統合アプライアンスのすべてのネットワーク構成情報を表示します。
active	完全なネットワーク構成を表示します。
autohost	統合アプライアンスが自身のホスト名から IP アドレスを特定できるようにします。このオプションを有効にしているときに、統合アプライアンスが DNS またはユーザーが手動で /etc/hosts ディレクトリーに入力したエントリーのいずれかを通じて自身のホスト名に対応する IP アドレスを見つけることができない場合、統合アプライアンスは /etc/hosts ディレクトリーに自動的にエントリーを追加し、ランタイムが正常に機能するようにします。このオプションを有効化または無効化するには、net set autohost コマンドを使用します。
backup	完全なネットワーク構成を表示します。
carrier	失われたイーサネット・リンク・キャリアをエラーとして報告するまでの時間を秒単位で指定します。この値をゼロに設定すると、キャリアのチェックが無効化され、エラーは報告されません。
domain	この統合アプライアンスのドメイン名を表示します。これにより、このドメイン内の名前に対するほとんどの照会で、ローカル・ドメインを基準としたショート・ネームを使用できるようになります。

オプション	説明
et c h o s t	/etc/hosts 内のエントリーを表示します。
g a t e w a y	ゲートウェイと、そのゲートウェイ用に使用するインターフェースを指定します。統合アプライアンスでは、1つのインターフェースに対して1つのゲートウェイが割り当てられているわけではなく、管理トラフィックとデータ・トラフィックの両方に対して1つのデフォルト・ゲートウェイしかサポートされていませんが、他の経路を個別に追加することができます。
h o s t n a m e	統合アプライアンスの名前を表示します。この名前には、ドメイン・ネームを含まないショート・ホスト名を使用する必要があります。
in t e r f a c e	指定したインターフェースの IP アドレス、ネットマスク、およびブロードキャスト・アドレスを表示します。
li n k	イーサネット・リンクをオートネゴシエーション (デフォルト) または特定の値に設定します。通常はオートネゴシエーションをお勧めしますが、ネットワーク状況が最適でない場合は、特定の値を設定することでスループットを改善できる場合があります。
m e m o r y	完全なネットワーク構成を表示します。
m t u	IP パケット内のデータの最大伝送単位 (MTU) サイズを表示します。
n a m e s e r v e r	DNS サーバーのリストを表示します (最大 2)。
n o d e	ノードの IP アドレスを表示します。

オプション	説明
ntp	アプライアンスとネットワークの間のクロック同期のネットワーク・プロトコルを表示します。
route	アクティブな経路を表示します。
検索	検索リストを指定します。このオプションを設定しない場合、検索リストはドメイン設定の値と同じになります。
sockets	ソケット・アドレスのリストを表示します。
status	統合アプライアンスのネットワーク状況を表示します。これには、ネットワーキング開始の最後の試行、ネットワーキングの最終開始時刻、ネットワーキングの最終停止時刻、最後のネットワーキング停止の理由、および現在のネットワーキング・アクティビティーが含まれます。

構文 1

```
net show {active|memory|backup}
```

構文 2

```
net show {hostname|domain|search|nameserver|gateway|ntp}[ all|active|memory|backup]
```

指定しない場合は、最後のパラメーターがデフォルトでアクティブになります。

構文 3

```
net show autohost
```

構文 4

```
net show carrier[all|active |memory|backup]
```

構文 5

```
net show etchost
```

構文 6

```
net show interface{emgmt|edata }[all|active |memory|backup]
```

構文 7

```
net show link[all|active |memory|backup]
```

構文 8

```
net show node{<IP アドレス>|<ホスト名> }
```

構文 9

```
net show route[active|memory |backup]
```

指定しない場合は、最後のパラメーターがデフォルトでアクティブになります。

構文 10


```
net show sockets
```

構文 11

```
net show status
```

親トピック: [ネットワーク・コマンド](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_network_netshow.html

ネットワーク・イントロスペクション・コマンド

ネットワーク・イントロスペクション (Netspect) コマンドを使用すると、ネットワーク構成を管理できる他、ネットワークで DHCP サーバー、DNS サーバー、ゲートウェイ、および経路情報を照会できます。

注: ユーザー名、ホスト名、またはファイル名には予約語を使用しないでください。予約語には、ftp、sftp、export、ibm、port、user、および file などがあります。

表 1.

コマンド名	アクション	構文
net spect arp	指定した IP アドレスの ARP 要求を発行し、ARP 応答の結果を表示するか、ARP キャッシュの内容を表示します。	netspect arp<lookup ipv4-address show cache>

コマンド名	アクション	構文
netspect capture clean	既存のすべてのパケット取り込みファイルを削除します。	netspect capture clean
netspect capture show	取り込まれたパケットを表示します。このコマンドを発行すると、実行中のすべてのパケット取り込みの停止も行われません。	netspect capture show


コマンド名	アクション	構文
netspect capture start	<p>パケット・トレースを開始し、gzip (.gz) ファイルを作成します。パケット・トレースは、ネットワーク接続のエラーをデバッグするのに便利なことがあります。</p> <p>同時に実行できるパケット・トレース取り込みは、1つのみです。取り込みは、ユーザーが <CTRL + C> を使用して停止するか、またはパケットの最大数に達するまで続行されます。</p> <p>注: パケット・サイズ・パラメーターをフルに設定して (pktsize full) 取り込みを開始すると、取り込まれるパケットの数が少なくなることがあります。</p> <p>netspect export コマンドを使用して、別のホストにパケット・トレースを転送できます。</p> <p>注: パケット・トレースを取り込むと、前の取り込みが上書きされます。</p>	<p>netspect capture start [interface <emgmt edata all>] [pktsize <header full>] [find <hostname network>]</p> <p>ここで、</p> <ul style="list-style-type: none"> • hostname - 指定されたホスト (nn.nn.nn.nn) との間で取り込みを行います。 • network - 特定のネットワークとの間で CIDR で取り込みを行います。 <p>注: interface パラメーターに emgmt も edata も指定しない場合、統合アプリケーションはデフォルト値である all を使用するため、両方のインスタンスに対して取り込みが開始されます。</p> <p>例 1: 両方のインターフェースでパケット・ヘッダーを取り込みます。</p> <pre>netspect capture start</pre> <p>例 2: パケット全体を edata で取り込みます。</p> <pre>netspect capture start interface edata pktsize full</pre> <p>例 3 特定のネットワークとの間でパケット・ヘッダーを edata で取り込みます。</p> <pre>netspect capture start interface edata find 123.12.0.0/24</pre> <p>例 4: 特定のホストとの間でパケット全体を emgmt で取り込みます。</p> <pre>netspect capture start interface emgmt pktsize full find 123.12.0.123</pre>

コマンド名	アクション	構文
net spect connect	このコマンドは、指定したプロトコルを使用してネットワーク・ホストのポートへの接続確立を試行し、その接続試行の結果を表示します。接続が確立された場合、その接続はこのコマンドから応答が返される前に閉じられます。	<pre>netspect connect host <host-id> <protocol> portnumber <port- num></pre> <p>ここで、</p> <ul style="list-style-type: none"> • host-id - ネットワーク・ホストの名前または IP アドレスです。 • protocol - 接続に使用するプロトコルです。「tcp」にする必要があります。 • port-num - 任意の有効な tcp ポート番号です。
net spect dhcp	指定したネットワーク・インターフェース上の DHCP サーバーをネットワークで照会します。また、DHCP サーバーが提供するネットワーク構成情報と、指定された IP アドレス、およびそのリース期間も表示します。	<pre>netspect dhcp interface<emgmt edata></pre>
net spect dns	システムで構成された DNS サーバーで、指定したネットワーク・ホストを照会し (指定したホスト名の IP アドレスを返すフォワード・ルックアップを実行するか、指定した IP アドレスのホスト名を返すリバース・ルックアップを実行し)、そのルックアップの結果を表示します。	<pre>netspect dns lookup host<ホスト ID></pre>

コマンド名	アクション	構文
netspect export	<p>パケット取り込みファイルを FTP サーバーにエクスポートします。パケット・トレースの取り込みについては、netspect capture start コマンドを参照してください。</p>	<pre>netspect export <ftp sftp> host <host-id> [port <number>] [user <user>] [file <filename>]</pre> <p>ここで、</p> <ul style="list-style-type: none"> • host-id - ネットワーク・ホストの名前または IP アドレスです。 • port - 接続先となる指定されたネットワーク・ホストの有効なポート。 • user - ホストにログインするために使用されるユーザー名を指定します。 <p>注: sftp を使用する場合には、このパラメーターを指定する必要があります。sftp では匿名ログインは許可されていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • filename - 宛先ホストでのファイル・パス。 <p>例 1: netspect エクスポート ftp。</p> <pre>netspect export ftp host 123.12.12.123</pre> <p>例 2: netspect エクスポート sftp。</p> <pre>netspect export sftp host 123.12.12.123 user myname file /home/myname/mycap.gz</pre>
netspect gateways	<p>指定した IP プロトコル・ファミリーのゲートウェイおよび経路を照会し、そのゲートウェイが照会/ping に応答したかどうか報告します。IP プロトコル・ファミリーには、ipv4 (デフォルト) または ipv6 を指定できます。</p>	<pre>netspect gateways<IP プロトコル></pre>

コマンド名	アクション	構文
net spe ct hel p	指定した netspect コマンドのヘルプ・テキストを表示します。コマンドが指定されない場合、すべての netspect コマンドのヘルプの要約が表示されます。	netspect help <command>
net spe ct ifco nfig	指定したインターフェースのネットワーク・インターフェース構成情報を表示します。ネットワーク・インターフェース名を指定しない場合、すべてのネットワーク・インターフェースのインターフェース構成情報が表示されます。	netspect ifconfig interface<emgmt edata>
net spe ct pin g	指定したネットワーク・ホストの照会を試行し、その照会試行の結果を表示します。	netspect ping host<ホスト ID>
net spe ct rou tes	指定した IP プロトコル・ファミリーに対して現在構成されている経路を表示します。IP プロトコル・ファミリーには、IPv4 (何も指定しない場合のデフォルト) または IPv6 を指定できます。	netspect routes [<IP プロトコル>]
net spe ct su m ma ry	ネットワーク構成情報の要約を表示します。	netspect summary
net spe ct tra cer out e	指定したネットワーク・ホストへの経路の決定を試行し、指定したネットワーク・ホストに到達するために使用した経路パケットを表示します。	netspect traceroute host<ホスト ID>

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_netspect_commands.html


状況コマンド

状況コマンドを使用すると、統合アプライアンスの状況を表示できます。

表 1.

コマンド名	アクション	構文
stat show all	システムの状況情報 (ディスク使用量、メモリー使用量、実行時間、アクティブなプロセスなど) を表示します。	stat show all

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_status_commands.html

システム・コマンド

システム・コマンドを使用すると、統合アプライアンスの運用の管理 (統合アプライアンスおよびコネクタに
対するライセンスの管理を含む) を行うことができます。

注: ユーザー名、ホスト名、またはファイル名には予約語を使用しないでください。予約語には、ftp、sftp、
ibm、port、user、および file があります。

表 1.


コマンド名	アクション	構文
system autoreboot	統合アプライアンスの自動リブートを有効化または無効化できます。 注: Cast Iron® のファームウェア・アップグレード時には、自動リブートが無効になっていても、統合アプライアンスがリブートします。	system autoreboot <on off>
system autoreboot setting	autoreboot 設定を表示するには setting パラメーターを使用します。	system autoreboot setting

コマンド名	アクション	構文
system clean	<p>統合アプライアンスのシステム状態をクリアします。system clean all コマンドを実行すると、IBM® DataPower® Cast Iron® アプライアンスがリブートすることがあります。</p> <p>all オプションを実行すると、高可用性構成を含むすべてのデータおよび構成がディスクから削除されます。これは、アプライアンスの出荷時のデフォルト設定を復元した場合と同じ結果となります。リブート後、アプライアンスの Web 管理コンソールにログインする前に、ご使用条件への同意を求めるプロンプトが出されます。</p>	<pre>system clean{[running][orchmon][deploy]} all</pre> <p>ここで、</p> <ul style="list-style-type: none"> • running - 現在実行中のプロジェクト・データを削除します。 • orchmon - オーケストレーションのモニター・データを削除します。 • deploy - すべてのプロジェクトおよび構成を削除します。 • all - アプライアンスを出荷時のデフォルトの設定値にリセットします。
system persist	<p>統合アプライアンスでのディスク・キャッシュを有効化または無効化します。デフォルトの、推奨される設定は、system persist on です。</p> <p>パーシスタンスが有効になっている場合、要求されたすべてのデータが完全にディスクに書き込まれるようにするために、書き込みが同期化されます。この動作により、特にデータベースなどの外部トランザクション・システムにアクセスするときなどに、データの保全性を保護しやすくなります。</p> <p>この機能をサポートしているアプライアンスでパーシスタンスを無効にすると、パフォーマンスが向上する可能性があります。ただし、ジョブ進行状態が不明になる恐れがあります。</p>	<pre>system persist { on off }</pre>
system persist setting	<p>現在の system persist 設定 (on または off) を表示します。ディスク・キャッシュを有効化または無効化するように指定するには、system persist コマンドを使用します。</p>	<pre>system persist setting</pre>
system poweroff	<p>すべてのルーティング・サービスをシャットダウンしてから、統合アプライアンスをパワーオフします。force パラメーターを使用すると、電源が直ちに切断されます。</p>	<pre>system poweroff</pre>

コマンド名	アクション	構文
system reboot	<p>すべてのルーティング・サービスをシャットダウンしてから、統合アプライアンスをリブートします。</p> <p>注: システムのリブート時に、保存していないネットワーク設定はすべて失われます。ネットワーク設定を統合アプライアンスにコミットするには、net restart コマンドを使用します。</p>	system reboot
system restart	ネットワーク接続に影響を与えずにランタイムと Web 管理コンソールを再始動します。	system restart
system show platform	統合アプライアンスに関する情報 (ROM のバージョン、アプライアンスのプラットフォーム、シリアル番号、および MAC アドレスなど) を表示します。	system show platform
system show status	スタンドアロン統合アプライアンス、および HA ペアのアクティブ統合アプライアンスで使用可能です。システム、ネットワーク、およびランタイムの各コンポーネントが稼働しているかどうかを示します。	system show status 出力例: Appliance Status ----- System: Up Network: Up Runtime: Up
system show version	統合アプライアンスの Cast Iron オペレーティング・システムのバージョンを表示します。	system show version

コマンド名	アクション	構文
system update cios image	FTP サーバー・ベースのファイルまたは SFTP サーバー・ベースのファイルからのイメージを使用して、統合アプライアンスで Cast Iron オペレーティング・システムを更新します。	<pre>system update cios image from<ソース></pre> <p>ここでソースには、FTP サーバーまたは SFTP サーバーを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ftp <ホスト名> [port <番号>] [user <ユーザー>] file <ファイル名> • sftp <ホスト名> [port <番号>] user <ユーザー> file <ファイル名> • http <ホスト名> [port <番号>] [user <ユーザー>] file <ファイル名> • https <ホスト名> [port <番号>] user <ユーザー> file <ファイル名> <p>注: sftp を使用する場合は、user パラメーターを指定する必要があります。sftp では匿名ログインは許可されていません。</p>

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_system_commands.html

時間コマンド

時間コマンドを使用すると、統合アプライアンスの日時の設定や同期化を行うことができます。

注: 仮想アプライアンスでの時間のドリフトを回避するには、ホストおよびゲスト上で NTP を実行します。NTP を実行すると、システム時刻は UTC に設定されます。time set clock コマンドを使用して仮想アプライアンスの時間をリセットすることはしないでください。

表 1.

コマンド名	アクション	構文
time set	<p>選択したタイム・ゾーンを基準として、時間および日付の各コンポーネントを個別に設定します。clock パラメーターを使用してこのコマンドを実行すると、統合アプライアンスが再始動します。</p> <p>特定のタイム・ゾーンの構文がわからない場合は、最後のオプションを選択し、ゾーンの値を指定しないでください。</p>	<pre>time set { { clock<ストリング> } { zone<ゾーン> } { zone} }</pre> <p>例 1:</p> <ul style="list-style-type: none"> time set clock<ストリング> ユーザー入力: time set clock Sat Jan 1 00:00:00 2005 <p>例 2:</p> <ul style="list-style-type: none"> time set zone<ゾーン> ユーザー入力: time set zone America/Los_Angeles
time show	<p>すべての時間設定、または個別の時間コンポーネント (現在時刻、日付、またはタイム・ゾーン) を表示します。</p>	time show

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cli.doc/CLI_time_commands.html

高可用性ペアについて

高可用性 (HA) ペアとは、2つの物理統合アプライアンスを相互接続して、それらの間で自動的にデータを同期化したり、フェイルオーバー操作を実行したりできるようにした、統合アプライアンス構成のことです。HA ペアを構成するマシンは同じ MAC アドレスおよび IP アドレスを共有するため、ネットワーク ID はそれらのマシン全体に対して1つとなります。

HA ペアは、1つのアクティブ統合アプライアンスとスタンバイ統合アプライアンスで構成されます。オーケストレーションをアクティブに処理する統合アプライアンスが、アクティブ・マシンです。自動的にデータを同期化し、フェイルオーバー操作を実行する統合アプライアンスが、スタンバイ・マシンです。HA ペアを構成するマシン同士が最初に接続すると、マシンの間で即時に同期化が行われ、アクティブの役割を果たすマシンとスタンバイの役割を果たすマシンが決定されます。この初期同期化の操作を行っている間、アクティブ・マシ

ンはオーケストレーションを処理できますが、HA ペアが完全に同期化されるまでは、ファイルオーバーは実行できません。HA ペアの同期化が完了すると、HA ペアはデータを保持し、このデータを 2 台のマシン間で自動的に同期化します。

アクティブ・マシンに障害が発生すると、スタンバイ・マシンがテークオーバー手順を開始します。スタンバイ・マシンがアクティブ・マシンになり、障害が発生したマシンでオーケストレーション処理が停止した場所から、オーケストレーション処理を再開します。通常は、テークオーバー・プロセスが完了するまでに 1 分もかかりませんが、DHCP の応答時間によってはテークオーバー・プロセスが長引くことがあります。スタンバイ・マシンは、アクティブ・マシンがオーケストレーションを引き続き処理しないようにするために、テークオーバー手順においてアクティブ・マシンの電源を入れ直します。スタンバイ・マシンがアクティブ・マシンになるのは、障害が発生したアクティブ・マシンの電源の入れ直しが正常に行われた場合のみです。アクティブ・マシンの電源の入れ直しが行えなかった場合、スタンバイ・マシンは IDLE 状態になります。


HA フェイルオーバーが実行される原因になりうる障害には、例えば以下のものがあります。

- CPU、ハード・ディスク、RAM、マザーボード、ネットワーク・インターフェース、電源機構、および RAID コントローラーによって発生したハードウェア障害
- 統合アプライアンスのランタイム障害 (処理中の致命的エラーなど)
- 複製ポート・ネットワーク・インターフェースの問題や複製ケーブルの問題が原因となって発生した、統合アプライアンス間の通信障害

アクティブ・マシンがスタンバイ・マシンとの接続を失うと、アクティブ・マシンは非同期データ・コミットを防ぐためにオーケストレーションの実行を停止し、スタンバイ・マシンがテークオーバー手順を開始するかどうかを確認するために待機します。スタンバイ・マシンがアクティブ・マシンの電源を入れ直さない場合、アクティブ・マシンはオーケストレーションの処理を再開します。スタンバイ・マシンがアクティブ・マシンに再接続できるようになると、スタンバイ・マシンはアクティブ・マシンと同期化します。

WMC から、HA ペアの状況をモニターして、HA ペアを構成する統合アプライアンスの役割を操作できます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.HAOverview.doc/HA_about_HA.html

統合アプライアンスの状態について

高可用性 (HA) ペアを構成する統合アプライアンスは、さまざまな状態のいずれかになります。HA ペアを構成する統合アプライアンスの状態には、以下があります。

HA ペアを構成する統合アプライアンスの状態には、以下があります。

ACTIVE_1

アクティブ・マシンは、スタンバイ・マシンと通信できません。ただし、アクティブ・マシンがデータの処理を続行します。

ACTIVE_2

アクティブ・マシンは正常にデータを処理していて、ピア HA マシンと通信できます。

IDLE

アクティブ・マシンまたはスタンバイ・マシンにハードウェア問題またはソフトウェア問題が発生すると表示されます。IDLE 状態は、HA ペア間のデータ保全性を確保するのに役立ちます。IDLE は、必ずしもエラー状態であるとは限りません。

例えば、アクティブ・マシンで電源の入れ直しが行われると、アクティブ・マシンは IDLE 状態になり、スタンバイ・マシンの状態を確認できるまで、この状態を維持します。

STANDBY

スタンバイ・マシンは、アクティブ・マシンと正常に同期化しています。


TRANSITIONING

リブートの直前または直後にこの状態になる場合があります。一般に、HA ペアを構成するマシンは、リブート後に、初期化、ピアの検出、および適切な状態への遷移を完了するまでの期間、この状態を維持します。

UNKNOWN

ピア・マシンが使用不可の場合にこの状態になります。例えば、スタンバイ・マシンの電源がオフになっていると、アクティブ・マシンはピア・マシン (スタンバイ・マシン) の状態が UNKNOWN であると提示します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.HAOverview.doc/HA_about_IAStates.html

高可用性ペアを構成するための要件

高可用性 (HA) ペアには、詳細に規定された特定のハードウェア構成が必要であり、2 つの統合アプライアンスが特定の要件を満たしていなければなりません。

HA ペアとして動作するには、2 つの統合アプライアンスが以下の要件を満たす必要があります。

- 両方の統合アプライアンスが、同じバージョンの Cast Iron® オペレーティング・システムを使用する必要があります。一方の統合アプライアンスにパッチを適用すると、同じパッチが HA ペアのもう一方の統合アプライアンスに自動的に適用されます。
- 一方のマシンの複製インターフェースが、もう一方のマシンの対応するインターフェースにケーブルで接続されている必要があります。
- それぞれの統合アプライアンスの管理ネットワーク・ポートが、同じサブネットに接続されている必要があります。
- それぞれの統合アプライアンスのデータ・ネットワーク・ポートが、同じサブネットに接続されている必要があります。

注: 高可用性ペアとハイブリッド・クラウド統合 (HCI) のサポートに関する注記 – HCI 機能を使用して 2 つの統合アプライアンスを HA に変換しようとしても、HCI 機能はサポートされなくなります。

フィードバック | 特記事項

高可用性ペアのセットアップ

このタスクについて

高可用性ペアをセットアップするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 9005 アプライアンスを使用して HA ペアをセットアップする場合は、ステップ 1a の手順に従います。9004 アプライアンスを使用する場合は、ステップ 1b の手順に従います。
注: 同種のアプライアンスを接続する場合に限り、高可用性を実現できます。異種のアプライアンス (例えば 9005 アプライアンスと 9004 アプライアンス) を相互に接続して高可用性を実現しようとししないでください。

- a. 9005 アプライアンスの場合 - HA ペアを作成するには、推奨されるシリアル・コンソール・ケーブルに加えて、合計 6 本のイーサネット・ケーブルが必要です。2 つのアプライアンスの複製インターフェースを、2 本のイーサネット・ケーブルで直接接続します。

```
1 x ethernet cable for emgmt of Appliance A
1 x ethernet cable for emgmt of Appliance B
1 x ethernet cable for edata of Appliance A
1 x ethernet cable for edata of Appliance B
1 x ethernet cable for repl1 between Appliance A and Appliance B
1 x ethernet cable for repl2 between Appliance A and Appliance B
```

以下のように接続します。

Appliance 1		Appliance 2
Repl 1	<----->	Repl 1
MGMT		MGMT
Data 1		Data 1
Data 2		Data 2
Data 3		Data 3
Repl 2	<----->	Repl 2

両方のアプライアンスの MGMT および Data 1 を、それぞれ対応する管理ネットワークおよびデータ・ネットワークに接続します。Data 2 および Data 3 は、切断したままにしてください。

- b. 9004 アプライアンスの場合 - Cast Iron アプライアンスのネットワーク・インターフェースは、内部では、外側のラベルとは異なるインターフェースにマップされていることに注意してください。

External Label	Internal designation
MGMT	emgmt
ETH0	r1
ETH2	edata
ETH1	r2

アプライアンスを 2 本のイーサネット・ケーブルで以下のように接続します。

Appliance 1		Appliance 2
MGMT	(internal:emgmt)	MGMT (internal:emgmt)
ETH0	(internal:r1)	-----> ETH0 (internal:r1)

```
ETH1 (internal:r2) -----> ETH1 (internal:r2)
ETH2 (internal:edata)          ETH2 (internal:edata)
```

両方のアプライアンスの MGMT (emgmt) および ETH2 (edata) は、それぞれに対応する管理ネットワークおよびデータ・ネットワークに接続してください。

- 初期のアクティブ・ピアにするアプライアンスを選択します。2 つ目のアプライアンスはスタンバイ・ピアになります。
- 選択した Cast Iron アプライアンスにシリアル・コンソールを接続します。アクティブ・ピア・アプライアンスで、Cast Iron コマンド・ライン・インターフェース (CLI) にユーザー admin としてログインします。デフォルトの管理パスワードは、!n0r1t5@C です。none/Standalone> のようなコマンド・プロンプトが表示されます。
- 静的に割り当てられた IP アドレスを使用するように、管理ネットワークおよびデータ・ネットワークを構成します。それには以下のように、CLI で net set interface コマンドを実行し、続いて net restart コマンドを実行します。

```
appliance name/Standalone> net set interface emgmt address <MGMT IP ADDRESS> mask <MGMT NETMASK> bcast <MGMT BROADCAST>
```

```
appliance name/Standalone> net set interface edata address <DATA IP ADDRESS> mask <DATA NETMASK> bcast <DATA BROADCAST>
appliance name/Standalone> net restart
```

- 問題を防ぐために、Cast Iron アプライアンスをソフトウェアの最新バージョンでアップグレードします。このソフトウェアは、IBM Fix Central Web サイト (<http://www.ibm.com/support/fixcentral/>) にあります。アップグレード対象の Cast Iron アプライアンスからアクセスできるマシンに、このソフトウェアをダウンロードしてください。Cast Iron ソフトウェアをアップグレードするには、Cast Iron Web 管理コンソール (WMC) を使用できます。あるいは、コマンド・ライン・インターフェースでコマンドを実行してアップグレードすることもできます。ソフトウェア・レベルを確認するには、選択した Cast Iron アプライアンスにシリアル・コンソールを接続し、アクティブ・ピア・アプライアンスで Cast Iron コマンド・ライン・インターフェースにユーザー admin としてログインします。デフォルトの管理パスワードは、!n0r1t5@C です。以下のコマンドを実行して、ソフトウェア・レベルを確認します。

```
none/standalone>system show version
```

更新が必要な場合は、ftp ロケーションおよび必要なユーザー資格情報を指定して、更新コマンドを実行します。以下に例を示します。

```
none/standalone>system update cios image from ftp 10.10.17.166 user
billbloggs file Downloads/fixcentral/castiron/myciupdate
```

アップグレード・プロセスの実行中に、アプライアンスがリブートします。

- スタンバイ・アプライアンスで、ステップ 3 とステップ 5 を繰り返します。アップグレード中には、アプライアンスに一時的に 2 つの IP アドレスが必要になるため、スタンバイ・ピアでもステップ 4 の実行が必要になることがあります。

注: HA のセットアップが完了した後は、HA ペアに必要な IP アドレスは 2 つのみ (1 つは管理用で、もう 1 つはデータ用) となります。このステップでスタンバイ・ピアに使用した IP アドレスは、HA のセットアップ完了時に廃棄され、ネットワーク環境の他の場所で使用できるようになります。

- 以下のコマンドを両方のピアで実行し、両方に同じレベルのソフトウェアがインストールされていること、それが必要なソフトウェア・レベルであることを確認します。

```
none/standalone>system show version
```

- アクティブ・アプライアンスを HA として構成します。

```
none/standalone> system haconfig enable active
```

アプライアンスがリブートし、アクティブ・アプライアンスとして再始動します。

9. アクティブ・アプライアンスにログインします。コマンド・プロンプトに、このアプライアンスがアクティブであることが示されます。

```
none/Active>  
or  
appliance name/Active>
```

10. 選択したスタンバイ・アプライアンスにシリアル・コンソールを接続し、スタンバイ・ピアにログインします。以下のコマンドを実行して、スタンバイ・アプライアンスを HA として構成します。

```
none/standalone> system haconfig enable standby
```

11. スタンバイ・アプライアンスに再度ログインします。コマンド・プロンプトに、このアプライアンスがスタンバイであることが示されます。

```
none/Standby>
```

12. アクティブ・アプライアンスで、HA ペアの状況を確認します。

```
appliance name/Active>ha show pairstatus
```

出力に、アプライアンスが高可用性であるかどうかを示されます。以下に例を示します。

```
appliance name/Active>ha show pairstatus
```

```
Pair Status  
-----  
NOT Highly Available  
Local State: ACTIVE_2  
Peer State: STANDBY  
Sync Status: 74%
```

```
Appliance Services  
-----  
Network: Up  
Runtime: Starting
```

```
Command complete
```

この例では、ディスクの同期化が74%しか完了していないため、HA ペアは高可用性ではありません。コマンドを再度実行すると、状況が変わります。

```
appliance name/Active>ha show pairstatus
```

```
Pair Status  
-----  
Highly Available  
Local State: ACTIVE_2  
Peer State: STANDBY  
Sync Status: Synced
```

```
Appliance Services  
-----  
Network: Up  
Runtime: Up
```

```
Command complete
```

13. 同期化が完了した後は、必要に応じて HA ペアが正しく役割を切り替えられることを確認することが重要です。 `ha show pairstatus` を使用して、ペアが高可用性であることと、ネットワークおよびランタ

イム・アプライアンス・サービスが有効であることを確認します。現在アクティブであるアプライアンスのシリアル番号を特定します。

```
appliance name/Active> system show version
```

以下のコマンドを実行して、HA ペアの役割を切り替えます。


```
appliance name/Active> ha switch
```

スタンバイ・ピアがテークオーバーして、アクティブになります。(一般に、このプロセスには約 2 分間かかります)。以前にアクティブであったピアが、スタンバイになります。コマンド `system show version` を使用して、アクティブ・アプライアンスのシリアル番号を表示し、シリアル番号が変化していることを確認します。コマンド `"ha show pairstatus"` を使用して、HA ピアが高可用性の状態に戻っていることを確認します。

14. HA ペアが一方の方向 (例えば、ピア A -> ピア B) で役割を切り替えられることを確認した後は、ステップ 13 を再度実行して、HA ペアが反対方向 (ピア B -> ピア A) でも役割を切り替えられることを確認します。

注: 高可用性ペアとハイブリッド・クラウド統合 (HCI) のサポートに関する注記 – HCI 機能を使用して 2 つの統合アプライアンスを HA に変換しようとしても、HCI 機能はサポートされなくなります。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.HAOverview.doc/HAssetupapair.html>

高可用性ペアの操作

高可用性 (HA) ペアは、2 つの統合アプライアンスで構成されます。これらの統合アプライアンスのうち、一方はアクティブ・マシンで、もう一方はスタンバイ・マシンです。この HA ペアは、単一エンティティとしてオーケストレーションを処理できます。

アクティブ・マシンはアクティブにオーケストレーションを処理します。一方、スタンバイ・マシンはフェイルオーバー操作を実行しなければならない場合に備えて、アクティブ・マシンと自動的にデータを同期化します。該当するシナリオが発生すると、アクティブ・マシンとスタンバイ・マシンは役割を切り替えます。

WMC から、HA ペアを構成する統合アプライアンスの状態または役割を変更できます。

- [高可用性コマンドの実行](#)
ナビゲーション・ペインから、高可用性 (HA) ペアに対してコマンドを実行できます。
- [高可用性コマンド](#)
以下のコマンドを、高可用性 (HA) ペアに対して実行できます。

フィードバック | 特記事項

高可用性コマンドの実行

ナビゲーション・ペインから、高可用性 (HA) ペアに対してコマンドを実行できます。

手順

1. 「システム (System)」 > 「コマンド (Command)」 を選択します。「システム・コマンド (System Commands)」 ページが表示されます。
2. 「コマンドの選択 (Choose Command)」 ドロップダウン・リストからコマンドを選択します。ドロップダウン矢印をクリックすると、コマンドの詳細が表示されます。
3. 「実行」 をクリックします。

親トピック: [高可用性ペアの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

高可用性コマンド

以下のコマンドを、高可用性 (HA) ペアに対して実行できます。


表 1.

システム制御コマンド	説明
------------	----

システム制御コマンド	説明
HAConnect	アクティブ統合アプライアンスとスタンバイ統合アプライアンスを再接続して、フェイルオーバー操作を再開できるようにします。
HADisconnect	スタンバイ・マシンによるアクティブ・マシンのテークオーバーを発生させることなく HA ペアを一時的に切断します。このアクションによって、オーケストレーション処理を中断させずに、必要なハードウェア・メンテナンスまたはソフトウェア・メンテナンスをスタンバイ・マシンで実行できます。このアクションを選択すると、スタンバイ・マシンはアイドル状態に遷移します。アクティブ・マシンをリブートするか、接続アクションを実行すると、HA ペア間の通信が再確立され、データの同期化とフェイルオーバー操作が再開されます。アクティブ・マシンでメンテナンスを実行するには、切り替えアクションを使用します。アクティブ・マシンがスタンバイ・マシンになります。そこで切断アクションを使用し、オーケストレーション処理を中断することなく統合アプライアンスのメンテナンスを実行できます。
HA Switch	HA ペアでの統合アプライアンスの役割を切り替えます。アクティブ・マシンがスタンバイ・マシンになり、スタンバイ・マシンがアクティブ・マシンになります。

親トピック: [高可用性ペアの操作](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.HAOverview.doc/HA_commands.html

高可用性ペアのトラブルシューティング

アクティブ・マシンとスタンバイ・マシンの両方が IDLE 状態になっている場合は、CLI を使用して問題を解決します。

IDLE/IDLE 状態を解決するには、以下のようにします。


1. アクティブ・マシンとスタンバイ・マシンの両方の CLI で、`ha show lastaccess` を実行します。
2. どちらの統合アプライアンスがより有効なデータ・セットを保持しているかを判断します。通常は、現在に最も近い時点でアクティビティを行った統合アプライアンスが、最も新しいタイム・スタンプを生成します。
3. より有効なデータを保持していると判断された統合アプライアンスで、`ha active` を実行します。

タスクの結果

これで、この統合アプライアンスが HA ペアのアクティブ・マシンになります。

高可用性ペアに関する具体的な技術サポートが必要な場合は、IBM 技術サポートにお問い合わせください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.HAOverview.doc/HA_troubleshooting.html

仮想アプライアンスについて

このガイドでは、仮想アプライアンスの作成、構成、バックアップ、およびリカバリーについて説明します。統合アプライアンスが物理マシンであるのに対して、仮想アプライアンスは仮想環境で実行され、ゲスト・オペレーティング・システムおよびオプションのアプリケーション・ソフトウェアとともにパッケージ化されます。

Cast Iron® 製品は、仮想環境と物理環境のどちらでも等しく良好に機能します。Cast Iron オペレーティング・システム (CIOS) は、1 つの統合プロジェクトを実行している単一の仮想マシンにも、データ・センター・インフラストラクチャーを作成するために多数のプロジェクトを実行している複数の仮想マシンにもインストールできます。CIOS をゲスト・オペレーティング・システムとして使用して仮想アプライアンスを作成する方法については、『[OVF テンプレートのデプロイ](#)』を参照してください。

仮想アプライアンス環境を構成するには、以下が必要です。


- ホスト・マシン (デスクトップ・コンピューターまたはサーバー)。
- 仮想化テクノロジーが使用可能である CPU (例えば、Intel® VT-x または AMD®-V)。(場合によっては、仮想化テクノロジーは BIOS を介して使用可能にする必要があります。)
- 60 GB のディスク・スペース。
- 1 個の CPU と 4 GB の RAM、または 2 個の CPU と 8 GB の RAM のいずれかの構成 (これらの構成がサポートされます)。選択した構成が稼働するのに十分な物理 RAM がホストにあることを確認してください。そうでない場合、システム・パフォーマンスが影響を受ける可能性があります。
- VMware® ESX® または ESXi バージョン 4.0.0、164009。(164009 は、Cast Iron Hypervisor Edition の正常な動作に必要な最小パッチ・レベルです。) VMware 製品および ESX について詳しくは、

<http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/microsite.do> に移動し、「VMware ESX and ESXi Comparison」をクリックしてください。

- Cast Iron Hypervisor Edition のインストール・ファイル (OVA フォーマット)。
- VMware vCenter® Server、4.0.0、258672 (オプション)。
- VMware VMotion® アドオンおよび VMware High Availability アドオン (オプション)。VMware アドオンをインストール済み環境に追加すると、複数の仮想マシンにわたってワークロードを管理してバランスを取り、仮想マシンに最適であるデータ・センター・ロケーションを見つけ、OS に関連した障害を管理することができます。アドオンに関する知識を深め、仮想環境のセットアップのヒントを確認するには、VMware の資料を参照してください。

注: SAN などの共有ストレージはオプションです。共有ストレージは、VMware VMotion および VMware High Availability などの VMware 機能を使用可能にするために必要です。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_about_VA.html

IBM WebSphere Cast Iron Hypervisor Edition の概要


このガイドでは、IBM® WebSphere® Cast Iron® Hypervisor Edition (HVE) を紹介し、仮想化テクノロジーの概要を説明します。仮想化とは、仮想アプライアンスが仮想環境で実行され、ゲスト・オペレーティング・システムおよびオプションのアプリケーション・ソフトウェアとともに仮想アプライアンスがパッケージ化されている、ハードウェア仮想化のことを意味します。

仮想化では、オペレーティング・システムの複数のインスタンスを、同じ物理ハードウェア上で同時に実行することができます。仮想化は、ハイパーバイザーというテクノロジーを通じて実現されます。ハイパーバイザーは、同時に実行される多数の異なるオペレーティング・システムが、1つの物理サーバー上の同じ物理リソースのセット (メモリー、CPU、ディスク、およびネットワーク) を共有できるようにします。仮想化ソフトウェアが実行されている物理マシンはホストで、ホスト上で実行されている仮想マシンはゲストです。

Cast Iron 製品は、仮想環境と物理環境のどちらでも等しく良好に機能します。Cast Iron オペレーティング・システム (CIOS) は、1つの統合プロジェクトを実行している単一の仮想マシンにも、データ・センター・インフラストラクチャーを作成するために多数のプロジェクトを実行している複数の仮想マシンにもインストールできます。CIOS をゲスト・オペレーティング・システムとして使用して仮想アプライアンスを作成する方法については、『[OVF テンプレートのデプロイ](#)』を参照してください。

- [要件](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

要件

このセクションでは、仮想アプライアンス環境を確立するために必要な要件およびリソースの概要を説明します。リソース間のマッピングについては、[リソース・マッピング](#)を参照してください。


要件:

- ホスト・マシン (デスクトップ・コンピューターまたはサーバー)。
- 仮想化テクノロジーが使用可能である CPU (例えば、Intel® VT-x または AMD®-V)。(場合によっては、仮想化テクノロジーは BIOS を介して使用可能にする必要があります。)
- 60 GB のディスク・スペース。
- 1 個の CPU と 4 GB の RAM、または 2 個の CPU と 8 GB の RAM のいずれかの構成 (これらの構成がサポートされます)。選択した構成が稼働するのに十分な物理 RAM がホストにあることを確認してください。そうでない場合、システム・パフォーマンスが影響を受ける可能性があります。
- VMware® ESX® または ESXi バージョン 4.0.0、164009。(164009 は、Cast Iron® Hypervisor Edition の正常な動作に必要な最小パッチ・レベルです。) VMware 製品および ESX については、<http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/microsite.do> に移動し、「VMware ESX and ESXi Comparison」をクリックしてください。
- Cast Iron Hypervisor Edition のインストール・ファイル (OVA フォーマット)。
- VMware vCenter® Server、4.0.0、258672 (オプション)。
- VMware VMotion® アドオンおよび VMware High Availability アドオン (オプション)。VMware アドオンをインストール済み環境に追加すると、複数の仮想マシンにわたってワークロードを管理してバランスを取り、仮想マシンに最適であるデータ・センター・ロケーションを見つけ、OS に関連した障害を管理することができます。アドオンに関する知識を深め、仮想環境のセットアップのヒントを確認するには、VMware の資料を参照してください。

注: SAN などの共有ストレージはオプションです。共有ストレージは、VMware VMotion および VMware High Availability などの VMware 機能を使用可能にするために必要です。

親トピック: [IBM WebSphere Cast Iron Hypervisor Edition の概要](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_requirements.html

リソース・マッピング

このセクションでは、仮想マシンをプロビジョニングする際の、仮想リソースと物理リソースの間のマッピングについて説明します。

Cast Iron HVE を実行するための新しい仮想マシンのインスタンスを生成するときには、まず、仮想マシンのサイズを選択する必要があります。[要件](#)に示されているように、サポートされるサイズは以下のとおりです。

- 1 CPU、4GB RAM、最小 60GB のディスク・スペース (標準構成)。
- 2 CPU、8GB RAM、最小 60GB のディスク・スペース (拡張構成)。

前述のリソース・サイズは、実行される仮想マシンで認識可能なリソースの量を示しています。標準構成の「1 CPU」および「60GB のディスク・スペース」は、仮想マシンから認識できる必要がある仮想 CPU の数およびディスク・スペースの量を示しています。仮想化では、さまざまなオペレーティング・システム・インスタンスを実行する多数の異なる仮想マシンが同じ物理リソースを共有できるため、実行する仮想マシンの数を考慮して物理ホスト環境のサイズを決定することが重要です。

メモリー

ホスト環境に加えて、実行されるゲストに必要なメモリーの量を適切に考慮して物理ホストのサイズを決定することが重要です。ベスト・プラクティスでは、同時に実行されるゲストに対してセットアップされるメモリーの合計よりも多くの物理メモリーを、ホストが搭載している必要があります。例えば、標準構成と拡張構成の両方を実行する物理ホストのサイズを決定する場合は、少なくとも $4 + 8 + 2 = 14$ GB の RAM を搭載したホストを選択する必要があります (この追加の 2GB RAM は、ハイパーバイザー・プロセス用に推奨されるメモリーです)。


CPU

仮想 CPU を物理 CPU にマッピングするときは、同時に稼働される仮想 CPU の数に少なくとも 1 コアを加えた数の物理 CPU コアが必要になります。この追加の 1 コアは、ハイパーバイザー・プロセス用にバッファーとして確保するコアです。例えば、標準構成と拡張構成の両方を実行する物理ホストのサイズを決定する場合は、 $1 + 2 + 1 = 4$ つの物理 CPU コアを搭載したホストを選択する必要があります。多くの物理 CPU はマルチコアであるため、この構成を実行するには 1 つのクアッド・コア CPU を搭載した物理ホストで十分です。Cast Iron HVE では 64 ビットのカーネルを使用しているため、仮想化テクノロジーのサポートが提供され、有効になっている物理 CPU (例えば Intel の VT-x や AMD の AMD-V) を、ご使用のホストが搭載している必要があります。場合によっては、仮想化テクノロジーは BIOS を介して使用可能にする必要があります。

ディスク

一般に、ディスクは、仮想化環境の中で最も安価なリソースです。ベスト・プラクティスでは、後でディスクを拡張しようとしたときにパフォーマンスが低下しないように、必要な量のディスク・スペースを仮想マシンが物理ディスク上に事前割り振りする必要があります。ディスクのサイズを決定するときは、多数の中断された仮想マシンを同時に格納して、必要な仮想マシンのみをインスタンス化できるように、要件を大幅に超過したサイズのディスクを用意してください。例えば、標準構成と拡張構成の両方を実行する物理ホストのサイズを決定する場合、ディスク・スペースの最小要件は $60 + 60 + 5 = 125$ GB です (この追加の 5GB のスペースは、ハイパーバイザー・ソフトウェア用です)。しかし、ベスト・プラクティスでは、ニーズの増大につれてより多くのアクティブでない仮想マシンを格納できるように、これよりもかなり大きなディスクを搭載した物理ホストを選択してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAUserguide.doc/VA_resourcemapping.html

アプライアンス・パッチのアップロード

アプライアンス・パッチをアップロードすることで、Cast Iron® オペレーティング・システムの最新バージョンにアップグレードして、最新の機能にアクセスできるようになります。

始める前に

重要: SAP プロジェクトを使用する場合は、SAP 64 ビット・ライブラリーをインストールしている必要があります。すべての SAP 32 ビット・ライブラリーを削除してから、WebSphere® Cast Iron Hypervisor Edition バージョン 7 にアップグレードします。SAP 32 ビット・ライブラリーが 1 つでもインストールされていると、WebSphere Cast Iron Hypervisor Edition バージョン 7 にアップグレードすることはできません。

このタスクについて

Web 管理コンソール (WMC) を使用して、アップグレード・イメージをアプライアンスにアップロードすることで、Cast Iron オペレーティング・システムの最新バージョンにアップグレードします。このアップグレード・プロセスでは、必要なファイルが置換または追加されるだけで、いずれのデータも破棄されません。WMC は、アップグレード手順の間に、実行中のプロジェクトを強制的にアンデプロイし、アプライアンスで実行中のアクティブなオーケストレーション・ジョブを停止することに注意してください。アプライアンスがアップグレードされた後で、元に戻すことや、前のバージョンにロールバックすることはできません。

注: アップグレードは、コマンド・ライン・インターフェース (CLI) を介しても適用できます。詳細については、「*CLI リファレンス・ガイド*」の system update コマンドを参照してください。

手順


1. WebSphere Cast Iron Hypervisor ファームウェア・アップグレード・ファイル (タイプ = vcrypt2) を Fix Central (<http://www.ibm.com/support/fixcentral/>) からダウンロードします。
2. アプライアンス・アップグレード・イメージ・ファイルを、ご使用の Windows ワークステーションからアクセスできるロケーション (例えば、C:¥Desktop) にダウンロードします。
3. WMC を使用して、Cast Iron オペレーティング・システムを実行しているアプライアンスにログインします。
4. WMC で、「セットアップ」 > 「インストール/アップグレード」を選択します。「アプライアンスとライブラリーのインストール/アップグレード (Install/Upgrade Appliance and Libraries)」パネルが表示されます。
5. 「アプライアンスのアップグレード (Upgrade Appliance)」セクションで、「アップグレードのインストール (Install Upgrade)」をクリックします。アップグレード・ウィザードが表示されます。
6. 「次へ」をクリックします。
7. 「次へ」をクリックして、実行中のプロジェクトがないか確認します。アプライアンスでプロジェクトが実行中の場合は、アップグレード・ウィザードが、続行する前にそのプロジェクトの停止の確認を要求します。「続行」をクリックして、操作を続行します。アプライアンスで実行中のプロジェクトがない場合は、緑色のチェック・マークが表示されます。「次へ」をクリックします。
8. テキスト・フィールドで、アプライアンス・アップグレード・イメージ・ファイルのパスを指定するか、参照してアプライアンス・アップグレード・イメージ・ファイルを見つけます。
9. 「次へ」をクリックします。「アップグレード」パネルで、メッセージ「アップロードが進行中です。お待ちください。(Upload in progress. Please wait.)」が表示されます。アップロードの状況が進行状況表示バーに表示されます。アップロードが完了すると、WMC がアップグレードを検証します。
10. パッチ・バージョン番号を確認し、「インストール」をクリックします。

11. 実行中のすべてのオーケストレーションを停止することの確認を求める、一連のダイアログ・ボックスが表示されます。「OK」をクリックし、さらに「OK」をクリックします。「アプライアンスのアップグレード (Upgrade Appliance)」パネルが表示されます。アップグレードが約 5 分で完了した後、アプライアンスがリブートし、「アプライアンスのアップグレード (Upgrade Appliance)」パネルにメッセージ「インストールが成功しました。お待ちください。アプライアンスがリブート中です (Installation Successful! Please wait. The Appliance is rebooting)」が表示されます。アプライアンスへのコンソール・ウィンドウが開いている場合は、「リブート中」のメッセージが表示されます。
12. WMC を使用して、アプライアンスにログインします。ブラウザーの最新表示ボタンをクリックすることが必要な場合があります。

次のタスク

WMC を使用して、このアップグレード手順でアンデプロイされたすべてのプロジェクトを再デプロイします。インストールされている Cast Iron オペレーティング・システムと互換性のある Studio バージョンにアップグレードします。アプライアンスと Studio の互換性について詳しくは、「*Cast Iron Operating System Release Notes*®」または「*Cast Iron Studio Release Notes*」の『Compatibility』セクションを参照してください。Studio のアップグレード手順については、「*Studio のインストール(Installing Studio)*」を参照してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_upgradeOS.html

OVF テンプレートのデプロイ

CIOS および VMware Tools がインストールされている仮想マシンを作成する OVF テンプレートをデプロイできます。OVF テンプレートがデプロイされた後は、CLI を介して物理統合アプライアンスを管理するのと同じように、「vSphere Client コンソール (vSphere Client Console)」タブから仮想アプライアンスを管理できます。

始める前に

注: このセクションで説明する手順は、VMware のみに適用されます。OVF テンプレートのデプロイ後、vSphere Client には VMware Tools の状況が「未インストール」と表示される場合があることにも注意してください。しかし、OVF テンプレートが正常にデプロイされていれば、VMware Tools は仮想マシンにインストールされています。

手順


1. CIOS OVA ファイルのローカル・コピーをダウンロードします。ホスト・マシンによってアクセス可能なストレージ・デバイスに OVA をダウンロードすることをお勧めします。そのホスト・マシンには仮想マシンが常駐することになります。
2. VMware Infrastructure Client のナビゲーション・ペインで、CIOS をインストールする仮想マシンを選択します。

3. 「ファイル」 > 「OVF テンプレートのデプロイ」を選択します。「OVF テンプレートのデプロイ」ウィザードが表示されます。
4. OVF テンプレートをデプロイするためのオプションを選択し、OVF テンプレートのロケーションを指定して、「次へ」をクリックします。
 - ファイルからデプロイ - ソース OVF テンプレートがローカル・ファイル・システムにある場合は、このオプションを選択します。
 - URL からデプロイ - OVF テンプレートをインターネットからダウンロードするには、このオプションを選択し、URL を入力します。
5. 表示されているテンプレートの詳細を確認し、「次へ」をクリックします。
6. デプロイされるテンプレートの名前およびロケーションを指定し、「次へ」をクリックします。
7. 構成オプションを選択し、「次へ」をクリックします。
 - 標準 (Standard) - 1 個の CPU、4 GB の RAM
 - 拡張 (Enhanced) - 2 個の CPU、8 GB の RAM「ホスト/クラスター」ページが表示されます。
8. デプロイされたテンプレートを実行するホストまたはクラスターを選択し、「次へ」をクリックします。
9. リソース・プールを選択し、「次へ」をクリックします。
10. 仮想マシンのファイルを格納するデータ・ストアを選択し、「次へ」をクリックします。
11. 「宛先ネットワーク (Destination Networks)」列のドロップダウン・リストを選択して、OVF テンプレートで使用されるネットワークをインベントリー内のネットワークにマップします。「次へ」をクリックします。
12. 指定したオプションを確認し、「終了」をクリックします。OVF テンプレートが仮想マシンにデプロイされました。

次のタスク

OVF テンプレートのデプロイが正常に終了した後は、ハード・ディスク 1 またはハード・ディスク 2 の設定を変更しないでください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_deployingOVFtemplate.html

Xen の実行

このセクションでは、Xen® Hypervisor 4.0 環境での Cast Iron HVE の実行について説明します。Xen は Linux™ カーネルで使用可能な仮想化テクノロジーであり、新規アップグレードの組み込みとテストを、元のシステムに影響を与えることなく、既存の環境でアップグレードを実行するように行うことができます。

始める前に

注: このセクションの手順を実行するには、事前にご使用のシステムに Xen をインストールして構成しておく必要があります。Red Hat Linux での Xen のインストールについては、http://docs.redhat.com/docs/en-US/Red_Hat_Enterprise_Linux/5/html/Virtualization/sect-Virtualization-Installing_the_virtualization_packages-Installing_Xen_packages_on_an_existing_Red_Hat_Enterprise_Linux_system.html を参照してください。

注: Cast Iron HVE は、64 ビットのゲストであるため、64 ビットのゲストを実行可能なホストを必要とします。これは、ご使用の CPU が Intel VT-x または AMD-V をサポートしていて、64 ビット Linux が実行されている必要があることを意味します。

手順

1. Cast Iron Xen HVE tarball をダウンロードします。(Cast Iron Xen HVE tarball を検索するには、<http://www.ibm.com/software/passportadvantage> にアクセスして、ライセンスに応じた tarball を見つけてください。)
2. tarball を手頃な場所に解凍します。ファイルは `cios-xen-hve` という名前のサブディレクトリーに配置されます。
3. Xen サブディレクトリーに変更して、コマンド `./prepare-xen-hve.sh` を実行します。
4. 仮想マシンを始動します: `xm create -c cios-hve-xen.cfg`
5. Cast Iron の標準の手順でネットワークを構成します。(詳しくは「*Cast Iron* コマンド・ライン・インターフェース・リファレンス」を参照してください。)

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_Xeninstall.html

DHCP アドレス指定を使用するための構成

アドレス指定に DHCP サーバーを使用するように、ネットワーク内の仮想マシンを構成することができます。

手順

1. 仮想マシン・コンソールを使用して、デフォルトのユーザー名およびパスワードで仮想マシンにログインします。
 - ローカル・ホスト・ログイン: `admin`
 - パスワード: `!n0r1t5@C`

次のプロンプトが表示されます。


```
localhost>
```

注: vSphere Client 端末のキーボード・マッピングは US レイアウトを使用しています。ご使用のワークステーションのキーボードが別のレイアウトを使用している場合は、ログイン試行に失敗する可能性があります。

2. DNS サーバーで以下のインターフェースのホスト名および IP アドレスを割り当てます。
 - データ・インターフェースのホスト名および IP アドレス

- 管理インターフェースのホスト名および IP アドレス
- データ・インターフェースは、ネットワーク上のエンドポイント (例えば、データベース・サーバー) に通信するために実行時に統合アプライアンスによって使用されます。管理インターフェースは、WMC から統合アプライアンスと通信するために使用されます。
3. 以下の設定を入力します。
 - データ・インターフェースの MAC アドレス
 - DNS サーバーでデータ・インターフェースに割り当てられたホスト名
 - 管理インターフェースの MAC アドレス
 - DNS サーバーで管理インターフェースに割り当てられたホスト名
 - DNS サーバーで BMC インターフェースに割り当てられたホスト名
 4. ネットワーク設定を適用します。 `localhost> net restart`
 5. 次のコマンドを繰り返し実行して、システムの状況をモニターします。 `localhost> system show status`。ネットワーク設定が適用されると、ネットワーク状況が以下の状態を遷移します。
 - 稼働中
 - 停止中
 - 始動中
 - 稼働中
 6. 次のコマンドを実行して、ネットワーク状況をモニターします。 `localhost> net show status`。「現在のアクティビティ (Current activity)」の状況に「Monitoring network」がリストされると、ネットワーク設定の適用は完了です。
 7. 次のコマンドを使用して、データ・インターフェースおよび管理インターフェースのネットワーク設定を確認します。 `localhost> net show active`
 8. 間違っているアドレスがあれば、再設定します。 `net show all` を実行すると、EData が使用不可として表示されます。
 9. WMC を使用して管理インターフェースへの接続を確認します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_configuringDCHP.html

静的アドレス指定を使用するための構成

静的アドレス指定を使用するように、ネットワーク内の仮想マシンを構成することができます。

このタスクについて

指定したネットワーク設定が統合アプライアンスに対してコミットされるのは、`net restart` コマンドを実行したときのみです。ネットワーク設定をコミットする前にシステムのリブートが発生した場合、指定したネットワーク設定は失われます。

手順

1. 仮想マシン・コンソールを使用して、デフォルトのユーザー名およびパスワードで仮想マシンにログインします。

- ローカル・ホスト・ログイン: admin
- パスワード: !n0r1t5@C

次のプロンプトが表示されます。

```
localhost>
```

2. DNS サーバーで以下のインターフェースのホスト名および IP アドレスを割り当てます。

- データ・インターフェースのホスト名および IP アドレス
- 管理インターフェースのホスト名および IP アドレス

データ・インターフェースは、ネットワーク上のエンドポイント (例えば、データベース・サーバー) に通信するために実行時に統合アプライアンスによって使用されます。管理インターフェースは、WMC から統合アプライアンスと通信するために使用されます。

3. 次のコマンドを実行して、管理インターフェースのホスト名を設定します。localhost> net set hostname static *appliancehostname*。この手順の最後でホスト・マシンが再始動されると、プロンプトは以下の設定に変更されます。

```
hostname>
```

4. 次のコマンドを実行して DNS ドメイン・ネームを設定します。localhost> net set domain static *domain-name*

5. 次のコマンドを実行して DNS ネーム・サーバーを設定します。localhost> net set nameserver static *dns-ipaddress*

6. 次のコマンドを実行してデータ・インターフェースのネットワーク・アドレスを設定します。

```
localhost> net set interface edata address ipaddress mask netmask bcst broadcast
```

7. 次のコマンドを実行して管理インターフェースのネットワーク・アドレスを設定します。localhost>

```
net set interface emgmt address ipaddress mask netmask bcst broadcast
```

8. 次のコマンドを実行してゲートウェイ・アドレスを設定します。localhost> net set gateway

```
static ip-address emgmt
```

9. 次のコマンドを実行してドメイン・リストの検索を使用不可にします。localhost> net set search none

10. ネットワーク・タイム・サーバーをご使用の環境に適した設定値に設定します。

- ネットワーク上にタイム・サーバーがある場合、次のコマンドを実行します。localhost> net set ntp static *ntp-address*
- ネットワーク上にタイム・サーバーがない場合、次のコマンドを実行します。localhost> net set ntp none

11. 次のコマンドを実行して設定を確認します。localhost> net show memory

12. ネットワーク設定を適用します。localhost> net restart

13. 次のコマンドを繰り返し実行して、システムの状況をモニターします: localhost> system show status。ネットワーク設定が適用されると、ネットワーク状況が以下の状態を遷移します。

- 稼働中
- 停止中
- 始動中
- 稼働中

注: ネットワーク設定が適用されると、実行時間が停止されるのを予期できます。


14. ネットワーク状況をモニターします: hostname> net show status。「現在のアクティビティー (Current activity)」の状況に「Monitoring network」がリストされると、ネットワーク設定の適用は完了です。

15. 次のコマンドを使用して、入力した設定を確認します。hostname> net show active

16. 間違っているアドレスがあれば、再設定します。net show all を実行すると、EData が使用不可として表示されます。

17. ログアウトします: hostname> exit。セッションが閉じます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_configuringstatic.html

仮想アプライアンスのバックアップおよびリカバリー

VMware Consolidated Backup アドオンを購入して、仮想環境の災害復旧シナリオに対処することができます。または、仮想アプライアンスのエクスポート/インポート機能を使用できます。

VMware Consolidated Backup について詳しくは、「VMware Consolidated Backup Guide」を参照してください。

以下のトピックでは、仮想アプライアンス・リポジトリをエクスポートおよびインポートする方法について説明し、これらの操作によって影響を受ける仮想アプライアンスのコンポーネントに関する詳細を示します。


- [仮想アプライアンス・リポジトリのエクスポート](#)

仮想アプライアンスのバックアップを作成するために、プロジェクト・リポジトリをエクスポートします。すべてのプロジェクト構成およびユーザー設定を WMC から別のロケーションにエクスポートできます。リポジトリをエクスポートしても、仮想アプライアンスのシステム・ログはエクスポートされません。

- [仮想アプライアンス・リポジトリのインポート](#)

リポジトリをインポートすると、WMC はすべての既存のプロジェクト、プロジェクト構成、およびジョブ履歴を削除します。仮想アプライアンスのシステム・ログはこの影響を受けません。いったんリポジトリをインポートすると、前のリポジトリにロールバックできません。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_backingupVA.html

仮想アプライアンス・リポジトリのエクスポート

仮想アプライアンスのバックアップを作成するために、プロジェクト・リポジトリをエクスポートします。すべてのプロジェクト構成およびユーザー設定を WMC から別のロケーションにエクスポートできます。リポジトリをエクスポートしても、仮想アプライアンスのシステム・ログはエクスポートされません。

このタスクについて

プロジェクト構成を実行しながら、リポジトリをエクスポートできます。ただし、このリポジトリをインポートすると、すべてのプロジェクト構成はアンデプロイされた状態になります。

仮想アプライアンス・リポジトリをエクスポートするには、WMC を使用します。

注: 仮想アプライアンス・ディスクの暗号化には、仮想アプライアンスの VMware に割り当てられた UUID を使用します。その結果、仮想アプライアンスのクローンやコピーを行うと、機能しないクローンやコピーが生成されます。このような操作により新規 UUID が生成されるためです。バックアップ・アプライアンスを作成するには、新規仮想アプライアンスを同じ構成で (例えば、標準か拡張かなど) 作成し、CLI コマンド `config save/load` を使用して、仮想アプライアンスの設定と WMC リポジトリの機能をエクスポート/インポートします。(ただし、これらの操作を行っても、オーケストレーションの処理の一部としてディスク上またはメモリー内に格納されたデータは、変数を含め、エクスポートもインポートもされないことに注意してください。)


注: VMotion は引き続き、仮想アプライアンスを新規ホストにマイグレーションするための有効な操作です。

手順

1. 「デプロイ」タブで、「リポジトリのエクスポート (Export Repository)」を選択します。「ファイルのダウンロード (File Download)」ウィンドウが表示されます。
2. 「保存」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。
3. エクスポートされたリポジトリを保存するロケーションを指定します。
4. 「保存」をクリックします。WMC はリポジトリのコピーを .tar.gz ファイルとしてエクスポートします。

親トピック: [仮想アプライアンスのバックアップおよびリカバリー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_exportingVA.html

仮想アプライアンス・リポジトリのインポート

リポジトリをインポートすると、WMC はすべての既存のプロジェクト、プロジェクト構成、およびジョブ履歴を削除します。仮想アプライアンスのシステム・ログはこの影響を受けません。いったんリポジトリをインポートすると、前のリポジトリにロールバックできません。

始める前に

リポジトリをインポートする前に、WMC ですべてのプロジェクト構成を停止してからアンデプロイする必要があります。WMC が正常にリポジトリをインポートすると、すべてのプロジェクト構成はアンデプロイされた状態になります。CIOS バージョン 3.7.1 から 6.x にリポジトリをインポートできます。

注: ある仮想アプライアンスから別の仮想アプライアンスにリポジトリをインポートする前に、リポジトリのインポート元である仮想アプライアンスの電源をオフにする必要があります。

このタスクについて


この後に示す手順で、すべてのプロジェクトをアンデプロイしてから、WMC を使用して仮想アプライアンス・リポジトリをインポートします。

手順

1. 「デプロイ」タブで、「プロジェクト」を選択します。すべてのプロジェクト構成が表示されます。
2. すべてのプロジェクト構成がアンデプロイされていることを確認します。
3. アンデプロイされた状態でないプロジェクトがある場合は、プロジェクト構成リンクをクリックし、そのプロジェクト構成を停止してからアンデプロイします。
4. 「デプロイ」タブで、「リポジトリのインポート (Import Repository)」を選択します。「リポジトリのインポート (Import Repository)」ページが表示されます。
5. インポートするリポジトリ・ファイルを指定するか、「参照」をクリックしてリポジトリ・ファイルを見つけます。
6. 以下のいずれかのインポート・オプションを選択します。
 - プロジェクトとユーザー設定 (Project & User Settings) - 選択したリポジトリ・ファイルのすべての内容をインポートします。すべてのプロジェクトはアンデプロイされた状態でインポートされます。
 - プロジェクトのみ (Project Only) - 選択したリポジトリ・ファイルからプロジェクト情報のみをインポートします。すべてのプロジェクトはアンデプロイされた状態でインポートされます。
 - ユーザー設定のみ (User Settings Only) - 選択したリポジトリ・ファイルからユーザー設定情報のみをインポートします。ユーザー設定情報には、ネットワーク構成、ユーザーとグループ、ライセンス、ジョブ・ログ・パラメーター、ログ・レベル、通知、ダウン時間のルール、およびパスワードが含まれます。
7. 「インポート」をクリックします。警告が表示されます。
8. 「インポート」をクリックして、インポートを続行することを確認します。インポートが完了すると、仮想アプライアンスが再始動し、「WMC ログイン」ウィンドウが表示されます。
9. 仮想アプライアンスにログインします。
10. 「デプロイ」タブで、「プロジェクト」を選択して、すべての該当するプロジェクト構成をデプロイします。

親トピック: [仮想アプライアンスのバックアップおよびリカバリー](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.VAuserguide.doc/VA_importingVA.html

Integration Appliance Monitoring Options

Overview of monitoring options available on the Integration Appliance.


The Integration Appliance logs system events, such as a fan failing or Standby machine assuming the active role in an HA pair. You can view these system events from the Web Management Console (WMC). When system events occur, individual users as well as network management systems can receive notification alerts from the

Integration Appliance via email and SNMP traps respectively. Using SNMP, network management systems can also poll an Integration Appliance to actively monitor resources such as disk usage, memory usage, and garbage collection cycles. For more information about systems and notification severity levels you can monitor from the WMC, see the management console online help.

While any user can view the systems events log and monitor disk and memory usage from the WMC, you must create a notification policy to receive alerts from the Integration Appliance. Use the WMC to create a notification policy. Notification policies contain details about which systems to monitor, notification levels to monitor, and notification alert recipients. The Integration Appliance only sends alerts when an event meets or exceeds the notification level specified in a notification policy. For more information about creating notification policies and notification levels, see the management console online help.

The Cast Iron Notifications Reference provides details about reading and using Cast Iron SNMP MIB and individual messages from each Cast Iron MIB module. The version of SNMP is SNMPv2c.

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/integration_appliance_monitoring_options.html

About the Cast Iron SNMP MIB

An overview of the Cast Iron SNMP MIB and a list of available MIB modules.


As a network element, the Integration Appliance is able to respond to requests from a network management system. The Integration Appliance is also able to send notifications to the network management system about events that occur on the Integration Appliance. This communication between the Integration Appliance and your network management system allows you to use traps to monitor the Integration Appliance.

Whether you choose to receive notification alerts from the Integration Appliance by enabling SNMP traps or you choose to actively monitor Integration Appliance activities like memory usage by polling the Integration Appliance, the Cast Iron MIB provides data structure and defines content type for the information exchange.

When you use the WMC to download the Cast Iron MIB, you are downloading one file that contains multiple MIB definitions. Some SNMP MIB parsers are unable to read a file that contains multiple MIB modules, so you must separate each MIB module into individual files. For more information about generating separate MIB module files, see [Downloading the Cast Iron SNMP MIB](#).

The Cast Iron MIB contains notification messages for the following modules:

- [Downloading the Cast Iron SNMP MIB](#)
Provides information about downloading each MIB module in the Cast Iron SNMP MIB as a separate file.
- [Reading the Cast Iron SNMP MIB](#)
Provides examples of how to read and organize the content of Cast Iron SNMP MIBs.

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/about_the_castiron_snmp_mib.html

Downloading the Cast Iron SNMP MIB

Provides information about downloading each MIB module in the Cast Iron SNMP MIB as a separate file.

Use the Web Management Console (WMC) to download the Cast Iron SNMP MIB from an Integration Appliance. For more information about how to use the WMC to download the Cast Iron SNMP MIB, see the management console online help.


The WMC downloads the Cast Iron SNMP MIB as a single text file. This text file is comprised of multiple sections, where each section is a full MIB module. For example, the NetSuite Module is defined in one section and the Salesforce Module is defined in another section.

Note: If your SNMP MIB parser is unable to read a file that contains multiple MIB modules, separate each section (MIB module) into individual files. On Linux, you can use the following script to generate a separate file for each MIB module in the Cast Iron SNMP MIB.

```
#!/bin/bash

sed -ne 's/DEFINITIONS ::= BEGIN.*//p' castironsys.mib |
while read mib; do
echo $mib
sed -ne "/^$mib/,/^END/p" castironsys.mib > $mib
done
```

Parent topic: [About the Cast Iron SNMP MIB](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/downloading_the_castiron_mib.html

Reading the Cast Iron SNMP MIB

Provides examples of how to read and organize the content of Cast Iron SNMP MIBs.

Each MIB module has a module-identity, which describes the purpose for the MIB. For example, the NetSuite Module provides access to the NetSuite online service. Each MIB module also contains a comment section that provides a high-level overview of its contents. Content like the Object Summary lists the name and OID of every object in the MIB, much like a table of contents, and allows you to examine the layout and the type of data that is being provided.

In the following example, ciIaProjectSummary is an organizational node that contains general information about projects on the Integration Appliance. Like a directory, the ciIaProjectSummary organizational node contains object types that provide information about the number of projects, number of running orchestrations, number of stopped orchestrations, number of running jobs, number of completed jobs, and number of errored jobs.

```
-- ciIaProjectSummary                ciia.1.1.1
-- ciIaNbrProjects                    ciia.1.1.1.1
-- ciIaNbrRunningOrchs                ciia.1.1.1.2
-- ciIaNbrStoppedOrchs                ciia.1.1.1.3
-- ciIaNbrRunningJobs                 ciia.1.1.1.4
-- ciIaNbrCompletedJobs               ciia.1.1.1.5
-- ciIaNbrErroredJobs                 ciia.1.1.1.6
```

To get more information about the meaning of one of the objects, search the file for the name of the object. For example, searching for ciIaNbrRunningJobs returns the following block of information:

```
ciIaNbrRunningJobs OBJECT-TYPE          -- ciia.1.1.1.4
    SYNTAX Unsigned32
    MAX-ACCESS read-only
    STATUS current
    DESCRIPTION
        "Total number of currently running jobs."
    ::= { ciIaProjectSummary 4 }
```

where:

- **ciIaNbrRunningJobs OBJECT-TYPE** - Defines the name of the object.
Note: Next to the object name, there is a shortened form of the OID (– ciia.1.1.1.4).
- **SYNTAX Unsigned32** - An unsigned integer whose value could go up or down over time.
- **MAX-ACCESS read-only** - A read-only value that the system manager can ask for but cannot change.
- **STATUS** -
- **DESCRIPTION** - Describes the object.

Polling for ProjectSummary information retrieves data that is similar to the following example:

```
$ snmpwalk -v 2c -c public -M "+/home/choller/mibs" -m "+CASTIRON-IA-MIB"
flintstone2 ciIaProjectSummary
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrProjects.0 = Gauge32: 2
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrRunningOrchs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrStoppedOrchs.0 = Gauge32: 14
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrRunningJobs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrCompletedJobs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrErroredJobs.0 = Gauge32: 0
```

ciIaProjectTable is another example of an organizational node that contains information about each project on the Integration Appliance. Like a directory, the ciIaProjectTable organizational node contains object types that provide information like the project name, project version, project configuration, project state, and so on.

```
-- ciIaProjectTable                    ciia.1.1.2
-- ciIaProjectEntry                    ciia.1.1.2.1
-- ciIaProjEntryIndex                  ciia.1.1.2.1.1
-- ciIaProjEntryName                    ciia.1.1.2.1.2
-- ciIaProjEntryVersion                  ciia.1.1.2.1.3
-- ciIaProjEntryConfig                  ciia.1.1.2.1.4
-- ciIaProjEntryState                    ciia.1.1.2.1.5
-- ciIaProjEntryNbrRunning               ciia.1.1.2.1.6
-- ciIaProjEntryNbrCompleted             ciia.1.1.2.1.7
-- ciIaProjEntryNbrErrored               ciia.1.1.2.1.8
-- ciIaProjEntryTimePublished            ciia.1.1.2.1.9
```


Polling for ProjectTable information retrieves data that is similar to the following example:

```
$ snmpwalk -v 2c -c public -M "+/home/choller/mibs" -m "+CASTIRON-IA-MIB"
flintstone2 ciIaProjectSummary
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrProjects.0 = Gauge32: 2
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrRunningOrchs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrStoppedOrchs.0 = Gauge32: 14
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrRunningJobs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrCompletedJobs.0 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaNbrErroredJobs.0 = Gauge32: 0
```

The object types are much like columns in a table that store data generated by events that occur on the Integration Appliance. For example, publishing and cloning projects are events that generate ProjectTable data. You can poll the Integration Appliance to retrieve this data. Data for two events: publishing a project and cloning a project are displayed in the following example:

```
$ snmpwalk -v 2c -c public -M "+/home/choller/mibs" -m "+CASTIRON-IA-MIB"
flintstone2 ciIaProjectTable
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryName.98304 = STRING: OnlineLicensing
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryName.98305 = STRING: OnlineLicensing
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryVersion.98304 = STRING: 1.0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryVersion.98305 = STRING: 1.0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryConfig.98304 = STRING: Default
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryConfig.98305 = STRING: OnlineLicensingClone
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryState.98304 = INTEGER: undeployed(1)
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryState.98305 = INTEGER: undeployed(1)
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrRunning.98304 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrRunning.98305 = Gauge32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrCompleted.98304 = Counter32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrCompleted.98305 = Counter32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrErrored.98304 = Counter32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryNbrErrored.98305 = Counter32: 0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryTimePublished.98304 = STRING: 2009-6-
12,16:36:20.0,+0:0
CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjEntryTimePublished.98305 = STRING: 2009-6-12,16:36
```


As more events occur, the output can become increasingly difficult to read. To generate a more readable output, it is recommended to use the `snmptable` command to display the data in a table format. Data for each event displays as a new row.

```
$ snmptable -v 2c -c public -M "+/home/choller/mibs" -m "+CASTIRON-IA-MIB"
flintstone2 ciIaProjectTable
SNMP table: CASTIRON-IA-MIB::ciIaProjectTable

  ciIaProjEntryName  ciIaProjEntryVersion  ciIaProjEntryConfig  ciIaProjEntryState
ciIaProjEntryNbrRunning  ciIaProjEntryNbrCompleted  ciIaProjEntryNbrErrored
ciIaProjEntryTimePublished
  OnlineLicensing           1.0           Default           undeployed
0                           0                           0 2009-6-12,16:36:20.0,+0:0
  OnlineLicensing           1.0 OnlineLicensingClone  undeployed
0                           0                           0 2009-6-12,16:36:20.0,+0:0
```

Parent topic: [About the Cast Iron SNMP MIB](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


SNMP Items Available Using SNMP Get

Presents a table of OID trees that you can poll using SNMP Get.

Each entry in the table represents many individual items. Use snmpwalk or another SNMP polling utility to see the complete list. You can poll the following OID trees:

OID	SNMP Name	Notes
.1.3.6.1.2.1.1	SNMPv2-MIB::system	
.1.3.6.1.2.1.2	IF-MIB::interfaces	
.1.3.6.1.2.1.4	IP-MIB::ip	
.1.3.6.1.2.1.5	IP-MIB::icmp	
.1.3.6.1.2.1.6	TCP-MIB::tcp	
.1.3.6.1.2.1.7	UDP-MIB::udp	
.1.3.6.1.2.1.1 1	SNMPv2-MIB::snmp	
.1.3.6.1.2.1.2 5.1	HOST-RESOURCES- MIB::hrSystem	Excluding .1.3.6.1.2.1.25.1.3 HOST-RESOURCES- MIB::hrSystemInitialLoadDevice Excluding .1.3.6.1.2.1.25.1.4 HOST-RESOURCES- MIB::hrSystemInitialLoadParameters
.1.3.6.1.2.1.2 5.2	HOST-RESOURCES- MIB::hrStorage	
.1.3.6.1.2.1.2 5.3	HOST-RESOURCES- MIB::hrDevice	
.1.3.6.1.4.1.2 021.4	UCD-SNMP-MIB::memory	
.1.3.6.1.4.1.2 021.10	UCD-SNMP-MIB::laTable	CPU Load Average
.1.3.6.1.4.1.2 021.11	UCD-SNMP-MIB::systemStats	
.1.3.6.1.4.1.1 3336	CASTIRON-REGISTRATIONS- MIB::castironsys	See the Cast Iron MIB, particularly CASTIRON-IA-MIB.

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

Using Traps to Monitor Appliance Health

Recommendations for configuring alerts that monitor appliance health.

When monitoring the health of the Integration Appliance, you can use one or both of the following methods:

- Poll - Actively monitor runtime resource usage including appliance garbage collection cycles, appliance memory usage, and appliance disk usage.
- Trap - Receive notifications indicating hardware situations such as failed fans, high temperatures, or failed disks. For more information about hardware related SNMP traps, see [About the Platform Module](#).

For more information about creating and enabling notification alerts, see the WMC Online Help or the Cast Iron Web Management Console Guide in the IBM WebSphere Cast Iron Information Center.

[Table 1](#) provides recommended thresholds for notifications regarding garbage collection, memory usage, and disk usage.

- **Garbage Collection** - This parameter counts the number of garbage collections that have occurred since the last system restart. Garbage collection that occurs at a rate over the recommended threshold can indicate that the appliance is overworked and might start to experience performance issues.
- **Memory Usage** - This parameter measures the percentage of total memory in use, expressed in hundredths of a percent. This number is updated after each garbage collection.
Note: This value is provided as an integer, but the MIB causes the SNMP Manager to alter its displayed value by a hundredths of a percent. For example: a value of '1234' displays as '12.34'." The SNMP Management tool should handle this automatically, but verify that it does so.
- **Disk Usage** - This parameter measures the percentage of total work-in-progress (WIP) disk space that is in use, expressed in hundredths of a percent. The percentage of disk usage determines job purging activities for the appliance.

Table 1. Recommended Notification Thresholds

Parameters to Monitor	Recommended Thresholds	SNMP Name and OID
Garbage Collection	Create a notification that triggers an alert if this value changes quickly, by more than 6 counts in a 1-minute time period.	CASTIRON-IA-MIB::ciIaResNbrGarbageCollects .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.1.0
Memory Usage	Create a notification that triggers an alert if this value goes over 80% (raw value of 8000).	CASTIRON-IA-MIB::ciIaResPctMemoryUsed .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.2.0
Disk Usage	Create a notifications triggers an alert if this value goes over 75% (raw value of 7500).	CASTIRON-IA-MIB::ciIaResPctWipFull .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.2.3.0

Note: The parameters to monitor, described in the table above, are for SNMP polling only.

Archive Module

The Archive Module provides activities that allow creating and reading compressed archives. This section contains details for the messages delivered from the Archive Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Archive Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Archive Module.


Table 1. Notifications issued by the Archive Module

Notification	Level	System	Description
ArchiveDone	Info	Orchestration	Activity has successfully completed archiving.
ArchiveEntryBlank	Severe	Orchestration	Archive input entry does not have any content.
ArchiverCreated	Info	Orchestration	Activity has successfully created an archiver for archiving.
ErrorIdentifyArchive	Severe	Orchestration	There was an error identifying the archive entry.
ErrorUnZipOperation	Severe	Orchestration	There was an error performing unzip operation.
ErrorZipOperation	Severe	Orchestration	There was an error performing zip operation.
IncorrectParameters	Severe	Orchestration	Parameters provided to the activity are invalid.
InvalidArchiveEntry	Severe	Orchestration	There was an error reading archive entry.
InvalidArchiveFormat	Severe	Orchestration	Activity could not create an archiver for the supplied archiving format. This format might not be supported by the activity.
InvalidBzipEntry	Severe	Orchestration	The bzip entry has more than one entry.
InvalidDateTime	Warning	Orchestration	Error occurred while parsing datetime from archive entries.
InvalidGzipEntry	Severe	Orchestration	The gzip entry has more than one entry.
InvalidNumInArchEntry	Warning	Orchestration	The numeric value in archive entry is not valid.
InvalidUnArchFormat	Severe	Orchestration	Activity could not create an unarchiver for the supplied archiving format. This format might not be supported by the activity.
InvalidUnarchiveInput	Severe	Orchestration	The input to unarchive is invalid.
UnArchiverCreated	Info	Orchestration	Activity has successfully created an unarchiver for unarchiving.

Notification	Level	System	Description
UnarchiveDone	Info	Orchestration	Activity has successfully completed unarchiving.
ValidationError	Severe	Orchestration	The input entries were not successfully validated against the schema.
ValidationFine	Info	Orchestration	The input entries were successfully validated against the schema.

- [Archive Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Archive Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/about_the_archive_module.html

Archive Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Archive Module.

- [ArchiveDone](#)
Activity has successfully completed archiving.
- [ArchiveEntryBlank](#)
Archive input entry does not have any content.
- [ArchiverCreated](#)
Activity has successfully created an archiver for archiving.
- [ErrorIdentifyArchive](#)
There was an error identifying the archive entry.
- [ErrorUnZipOperation](#)
There was an error performing unzip operation.
- [ErrorZipOperation](#)
There was an error performing zip operation.
- [IncorrectParameters](#)
Parameters provided to the activity are invalid.
- [InvalidArchiveEntry](#)
There was an error reading archive entry.
- [InvalidArchiveFormat](#)
Activity could not create an archiver for the supplied archiving format. This format might not be supported by the activity.
- [InvalidBzipEntry](#)
The bzip entry has more than one entry.
- [InvalidDateTime](#)
Error occurred while parsing datetime from archive entries.
- [InvalidGzipEntry](#)
The gzip entry has more than one entry.

- [InvalidNumInArchEntry](#)
The numeric value in archive entry is not valid.
- [InvalidUnArchFormat](#)
Activity could not create an unarchiver for the supplied archiving format. This format might not be supported by the activity.
- [InvalidUnarchiveInput](#)
The input to unarchive is invalid.
- [UnArchiverCreated](#)
Activity has successfully created an unarchiver for unarchiving.
- [UnarchiveDone](#)
Activity has successfully completed unarchiving.
- [ValidationError](#)
The input entries were not successfully validated against the schema.
- [ValidationFine](#)
The input entries were successfully validated against the schema.

Parent topic: [Archive Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_notifications_list.html

ArchiveDone

Activity has successfully completed archiving.

Level : *Info*

Log Message : *Archiving done successfully.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oArchiveDoneEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The ArchiveDone message contains the following variables:

Table 1. ArchiveDone Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String
--

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_archivedone_message.html

ArchiveEntryBlank

Archive input entry does not have any content.

Level : *Severe*

Log Message : *Input entry has no content or it's a blank entry.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oArchiveEntryBlankEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

Variables


The ArchiveEntryBlank message contains the following variables:

Table 1. ArchiveEntryBlank Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_archiveentryblank_message.html

ArchiverCreated

Activity has successfully created an archiver for archiving.

Level : *Info*

Log Message : *Archiver created successfully, now performing archiving.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oArchiverCreatedEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *15*


Variables

The ArchiverCreated message contains the following variables:

Table 1. ArchiverCreated Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_archivercreated_message.html

ErrorIdentifyArchive

There was an error identifying the archive entry.

Level : *Severe*

Log Message : *Error identifying archive. Message is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oErrorIdentifyArchiveEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The ErrorIdentifyArchive message contains the following variables:

Table 1. ErrorIdentifyArchive Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_erroridentifyarchive_message.html

ErrorUnZipOperation

There was an error performing unzip operation.

Level : *Severe*

Log Message : *Error occurred while unzip operation. Message is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oErrorUnZipOperationEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The ErrorUnZipOperation message contains the following variables:

Table 1. ErrorUnZipOperation Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_errorunzipoperation_message.html

ErrorZipOperation

There was an error performing zip operation.

Level : *Severe*

Log Message : *Error occurred while zip operation. Message is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oErrorZipOperationEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The ErrorZipOperation message contains the following variables:

Table 1. ErrorZipOperation Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_errorzipoperation_message.html

IncorrectParameters

Parameters provided to the activity are invalid.

Level : *Severe*

Log Message : *Binding parameters supplied are invalid.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oIncorrectParametersEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The IncorrectParameters message contains the following variables:

Table 1. IncorrectParameters Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_incorrectparameters_message.html

InvalidArchiveEntry

There was an error reading archive entry.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while reading archive entry. Message is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oInvalidArchiveEntryEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The InvalidArchiveEntry message contains the following variables:

Table 1. InvalidArchiveEntry Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_invalidarchiveentry_message.html

InvalidArchiveFormat

Activity could not create an archiver for the supplied archiving format. This format might not be supported by the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not find an Archiver for supplied archive type: {FormatName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oInvalidArchiveFormatEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The InvalidArchiveFormat message contains the following variables:

Table 1. InvalidArchiveFormat Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FormatName

The archive format which is not supported.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oEv2FormatName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2.1.2.1

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_invalidarchiveformat_message.html

InvalidBzipEntry

The bzip entry has more than one entry.

Level : *Severe*

Log Message : *More than one entries found for BZIP2 operation.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oInvalidBzipEntryEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The InvalidBzipEntry message contains the following variables:

Table 1. InvalidBzipEntry Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_invalidbzipentry_message.html

InvalidDateTime

Error occurred while parsing datetime from archive entries.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while parsing datetime from archive entries. Message is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oInvalidDateTimeEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The InvalidDateTime message contains the following variables:

Table 1. InvalidDateTime Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_invaliddatetime_message.html

InvalidGzipEntry

The gzip entry has more than one entry.

Level : *Severe*

Log Message : *More than one entries found for GZIP operation.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oInvalidGzipEntryEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *8*


Variables

The InvalidGzipEntry message contains the following variables:

Table 1. InvalidGzipEntry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_invalidzipentry_message.html

InvalidNumInArchEntry

The numeric value in archive entry is not valid.

Level : *Warning*

Log Message : *Invalid numeric value found in archive entries. Message is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oInvalidNumInArchEntryEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : 5

Variables

The InvalidNumInArchEntry message contains the following variables:

Table 1. InvalidNumInArchEntry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_invalidnuminarchentry_message.html

InvalidUnArchFormat

Activity could not create an unarchiver for the supplied archiving format. This format might not be supported by the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid or unsupported archive format.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oInvalidUnArchFormatEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables


The InvalidUnArchFormat message contains the following variables:

Table 1. InvalidUnArchFormat Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_invalidunarchformat_message.html

InvalidUnarchiveInput

The input to unarchive is invalid.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while reading archive. Message is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oInvalidUnarchiveInputEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *10*


Variables

The InvalidUnarchiveInput message contains the following variables:

Table 1. InvalidUnarchiveInput Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_invalidunarchiveinput_message.html

UnArchiverCreated

Activity has successfully created an unarchiver for unarchiving.

Level : *Info*

Log Message : *Unarchiver created successfully, now performing unarchiving.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oUnArchiverCreatedEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The UnArchiverCreated message contains the following variables:

Table 1. UnArchiverCreated Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_unarchivercreated_message.html

UnarchiveDone

Activity has successfully completed unarchiving.

Level : *Info*

Log Message : *unarchiving done successfully.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oUnarchiveDoneEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The UnarchiveDone message contains the following variables:

Table 1. UnarchiveDone Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_unarchivedone_message.html

ValidationError

The input entries were not successfully validated against the schema.

Level : *Severe*

Log Message : *Input entries do not conform to the schema. Error Message is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oValidationErrorEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

The ValidationError message contains the following variables:

Table 1. ValidationError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_validationerror_message.html

ValidationFine

The input entries were successfully validated against the schema.

Level : *Info*

Log Message : *Input entries successfully validated against schema.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-ARCHIVE-MIB::ciC4oValidationFineEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.4.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The ValidationFine message contains the following variables:


Table 1. ValidationFine Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Archive Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/archive/archive_operation_validationfine_message.html

Crypto Service Module

The Crypto Service Module provides activities that allow encrypting and decrypting the binary content. This section contains details for the messages delivered from the Crypto Service Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Crypto Service Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Crypto Service Module.


Table 1. Notifications issued by the Crypto Service Module

Notification	Level	System	Description
DecryptDone	Info	Orchestration	Activity completed decrypting the content.
DecryptStarted	Info	Orchestration	Activity started decrypting the content.
EncryptDone	Info	Orchestration	Activity completed encrypting the content.
EncryptStarted	Info	Orchestration	Activity started encrypting the content.
FoundPrivateKey	Info	Orchestration	Crypto Service was successfully able to read the private key from the java key store.
FoundPublicKey	Info	Orchestration	Crypto Service was successfully able to read the public key from the java key store.
IOException	Severe	Orchestration	Activity could not read or write to one of the Input / Output files.
InputEntryCount	Info	Orchestration	Activity successfully filtered specified number of entries.
IntegrityCheckFailed	Info	Orchestration	Message failed integrity check.
IntegrityCheckPassed	Info	Orchestration	Message passed integrity check.

Notification	Level	System	Description
InvalidAlgorithm	Severe	Orchestration	Activity could not find key because of invalid algorithm.
InvalidContent	Severe	Orchestration	The input content cannot be empty.
InvalidDateFormat	Severe	Orchestration	The date format is not valid. Enter date in dd-MM-yyyy format
InvalidFormat	Severe	Orchestration	Activity could not complete due invalid crypto format.
InvalidKeyOrPwd	Severe	Orchestration	Activity could not find a specified key handle in the java keystore with provided name and password.
InvalidKeyStore	Severe	Orchestration	Activity could not find a specified entry in key store.
InvalidKeyhandle	Severe	Orchestration	The input keyhandle cannot be empty.
InvalidPassword	Severe	Orchestration	The input password cannot be empty.
KeystoreEntryExpired	Severe	Orchestration	Activity found specified entry in key store, but its expired.
NoIntegrityCheck	Info	Orchestration	No Message integrity check.
PGPException	Severe	Orchestration	PGP Exception.

- [Crypto Service Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Crypto Service Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/about_the_cryptoservice_module.html

Crypto Service Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Crypto Service Module.

- [DecryptDone](#)
Activity completed decrypting the content.
- [DecryptStarted](#)
Activity started decrypting the content.
- [EncryptDone](#)
Activity completed encrypting the content.
- [EncryptStarted](#)
Activity started encrypting the content.
- [FoundPrivateKey](#)
Crypto Service was successfully able to read the private key from the java key store.

- [FoundPublicKey](#)
Crypto Service was successfully able to read the public key from the java key store.
- [IOException](#)
Activity could not read or write to one of the Input / Output files.
- [InputEntryCount](#)
Activity successfully filtered specified number of entries.
- [IntegrityCheckFailed](#)
Message failed integrity check.
- [IntegrityCheckPassed](#)
Message passed integrity check.
- [InvalidAlgorithm](#)
Activity could not find key because of invalid algorithm.
- [InvalidContent](#)
The input content cannot be empty.
- [InvalidDateFormat](#)
The date format is not valid. Enter date in dd-MM-yyyy format
- [InvalidFormat](#)
Activity could not complete due invalid crypto format.
- [InvalidKeyOrPwd](#)
Activity could not find a specified key handle in the java keystore with provided name and password.
- [InvalidKeyStore](#)
Activity could not find a specified entry in key store.
- [InvalidKeyhandle](#)
The input keyhandle cannot be empty.
- [InvalidPassword](#)
The input password cannot be empty.
- [KeystoreEntryExpired](#)
Activity found specified entry in key store, but its expired.
- [NoIntegrityCheck](#)
No Message integrity check.
- [PGPException](#)
PGP Exception.

Parent topic: [Crypto Service Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_notifications_list.html

DecryptDone

Activity completed decrypting the content.

Level : *Info*

Log Message : *Decryption Done.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oDecryptDoneEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The DecryptDone message contains the following variables:

Table 1. DecryptDone Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_decryptdone_message.html

DecryptStarted

Activity started decrypting the content.

Level : *Info*

Log Message : *Decryption Started.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oDecryptStartedEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The DecryptStarted message contains the following variables:


Table 1. DecryptStarted Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_decryptstarted_message.html

EncryptDone

Activity completed encrypting the content.

Level : *Info*

Log Message : *Encryption Done*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oEncryptDoneEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The EncryptDone message contains the following variables:

Table 1. EncryptDone Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_encryptdone_message.html

EncryptStarted

Activity started encrypting the content.

Level : *Info*

Log Message : *Encryption Started.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oEncryptStartedEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The EncryptStarted message contains the following variables:

Table 1. EncryptStarted Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_encryptstarted_message.html

FoundPrivateKey

Crypto Service was successfully able to read the private key from the java key store.

Level : *Info*

Log Message : *Successfully Read Private Key.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oFoundPrivateKeyEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

Variables


The FoundPrivateKey message contains the following variables:

Table 1. FoundPrivateKey Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_foundprivatekey_message.html

FoundPublicKey

Crypto Service was successfully able to read the public key from the java key store.

Level : *Info*

Log Message : *Successfully Read Public Key.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oFoundPublicKeyEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *1*


Variables

The FoundPublicKey message contains the following variables:

Table 1. FoundPublicKey Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_foundpublickey_message.html

IOException

Activity could not read or write to one of the Input / Output files.

Level : *Severe*

Log Message : *InputOutput Exception. {0}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oIOExceptionEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The IOException message contains the following variables:

Table 1. IOException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_ioexception_message.html

InputEntryCount

Activity successfully filtered specified number of entries.

Level : *Info*

Log Message : *Filtered {NumberOfEntries} entries*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInputEntryCountEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The InputEntryCount message contains the following variables:

Table 1. InputEntryCount Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfEntries

Number of entries filtered by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oEv12NumberOfEntries
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2.1.12.1

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_inputentrycount_message.html

IntegrityCheckFailed

Message failed integrity check.

Level : *Info*

Log Message : *Integrity check failed.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oIntegrityCheckFailedEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The IntegrityCheckFailed message contains the following variables:

Table 1. IntegrityCheckFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_integritycheckfailed_message.html

IntegrityCheckPassed

Message passed integrity check.

Level : *Info*

Log Message : *Integrity check passed.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oIntegrityCheckPassedEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The IntegrityCheckPassed message contains the following variables:


Table 1. IntegrityCheckPassed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_integritycheckpassed_message.html

InvalidAlgorithm

Activity could not find key because of invalid algorithm.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid Key Store.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInvalidAlgorithmEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The InvalidAlgorithm message contains the following variables:

Table 1. InvalidAlgorithm Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_invalidalgorithm_message.html

InvalidContent

The input content cannot be empty.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid Content*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInvalidContentEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The InvalidContent message contains the following variables:

Table 1. InvalidContent Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_invalidcontent_message.html

InvalidDateFormat

The date format is not valid. Enter date in dd-MM-yyyy format

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid Date Format*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInvalidDateFormatEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

Variables


The InvalidDateFormat message contains the following variables:

Table 1. InvalidDateFormat Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_invaliddateformat_message.html

InvalidFormat

Activity could not complete due invalid crypto format.

Level : *Severe*

Log Message : *IO Exception.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInvalidFormatEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : 7


Variables

The InvalidFormat message contains the following variables:

Table 1. InvalidFormat Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_invalidformat_message.html

InvalidKeyOrPwd

Activity could not find a specified key handle in the java keystore with provided name and password.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid Key Handle or Password . {KeyHandleName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInvalidKeyOrPwdEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The InvalidKeyOrPwd message contains the following variables:

Table 1. InvalidKeyOrPwd Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. KeyHandleName

KeyHandle Name used to Encrypt / Decrypt the content.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oEv3KeyHandleName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2.1.3.1

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_invalidkeyorpwd_message.html

InvalidKeyStore

Activity could not find a specified entry in key store.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid Key Store. {KeyHandleName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInvalidKeyStoreEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The InvalidKeyStore message contains the following variables:

Table 1. InvalidKeyStore Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. KeyHandleName

KeyHandle Name used to Encrypt / Decrypt the content.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oEv4KeyHandleName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2.1.4.1

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_invalidkeystore_message.html

InvalidKeyhandle

The input keyhandle cannot be empty.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid Keyhandle. {KeyHandleName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInvalidKeyhandleEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The InvalidKeyhandle message contains the following variables:

Table 1. InvalidKeyhandle Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. KeyHandleName

KeyHandle Name used to Encrypt / Decrypt the content.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oEv14KeyHandleName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2.1.14.1

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_invalidkeyhandle_message.html

InvalidPassword

The input password cannot be empty.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid Password.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oInvalidPasswordEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The InvalidPassword message contains the following variables:

Table 1. InvalidPassword Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_invalidpassword_message.html

NoIntegrityCheck

No Message integrity check.

Level : *Info*

Log Message : *No Message integrity check.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oNoIntegrityCheckEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The NoIntegrityCheck message contains the following variables:

Table 1. NoIntegrityCheck Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_nointegritycheck_message.html

PGPException

PGP Exception.

Level : *Severe*

Log Message : *PGP Exception.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-CRYPTOSERVICE-MIB::ciC26oPGPEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.26.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The PGPEv17 message contains the following variables:

Table 1. PGPEv17 Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>

Parent topic: [Crypto Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/cryptoservice/cryptoservice_operation_pgpeception_message.html

Data Module

The Data Module provides activities for serializing and parsing textual and binary data. This section contains details for the messages delivered from the Data Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Data Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-DATA-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.16*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Data Module.


Table 1. Notifications issued by the Data Module

Notification	Level	System	Description
BadEncoding	Severe	Orchestration	Encoding parameter specified is not supported by the activity.
MissingEncParse	Severe	Orchestration	Encoding parameter was not set and there was no value specified in configuration.
MissingEncSerialize	Severe	Orchestration	Encoding parameter was not set and there was no value specified in configuration.
ParsingError	Severe	Orchestration	Error occurred while parsing the error.
SerializeError	Severe	Orchestration	Error occurred while serializing.
SerializeIOError	Severe	Orchestration	IO Error occurred while serializing.

- [Data Operation Notifications](#)

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Data Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/data/about_the_data_module.html


Data Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Data Module.

- [BadEncoding](#)
Encoding parameter specified is not supported by the activity.
- [MissingEncParse](#)
Encoding parameter was not set and there was no value specified in configuration.
- [MissingEncSerialize](#)
Encoding parameter was not set and there was no value specified in configuration.
- [ParsingError](#)
Error occurred while parsing the error.
- [SerializeError](#)
Error occurred while serializing.
- [SerializeIOError](#)
IO Error occurred while serializing.

Parent topic: [Data Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/data/data_operation_notifications_list.html

BadEncoding

Encoding parameter specified is not supported by the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Encoding parameter not supported: {Encoding}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATA-MIB::ciC16oBadEncodingEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.16.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The BadEncoding message contains the following variables:

Table 1. BadEncoding Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Encoding

The encoding parameter not supported by the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATA-MIB::ciC16oEv3Encoding
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.16.1.2.1.3.1

Parent topic: [Data Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/data/data_operation_badencoding_message.html

MissingEncParse

Encoding parameter was not set and there was no value specified in configuration.

Level : *Severe*

Log Message : *Encoding parameter not set and no value specified in configuration*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATA-MIB::ciC16oMissingEncParseEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.16.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables


The MissingEncParse message contains the following variables:

Table 1. MissingEncParse Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>

Parent topic: [Data Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/data/data_operation_missingencparse_message.html

MissingEncSerialize

Encoding parameter was not set and there was no value specified in configuration.

Level : *Severe*

Log Message : *Encoding parameter not set and no value specified in configuration*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATA-MIB::ciC16oMissingEncSerializeEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.16.1.2*

SNMP Trap Number : *6*

Variables

The MissingEncSerialize message contains the following variables:


Table 1. MissingEncSerialize Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Data Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/data/data_operation_missingencserialize_message.html

ParsingError

Error occurred while parsing the error.

Level : *Severe*

Log Message : *Parsing Error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATA-MIB::ciC16oParsingErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.16.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ParsingError message contains the following variables:

Table 1. ParsingError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Data Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/data/data_operation_parsingerror_message.html

SerializeError

Error occurred while serializing.

Level : *Severe*

Log Message : *Serialization Error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATA-MIB::ciC16oSerializeErrorEv4*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.16.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables


The SerializeError message contains the following variables:

Table 1. SerializeError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Data Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SerializeIOError

IO Error occurred while serializing.

Level : *Severe*

Log Message : *Serialization Error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATA-MIB::ciC16oSerializeIOErrorEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.16.1.2*

SNMP Trap Number : 5

Variables

The SerializeIOError message contains the following variables:

Table 1. SerializeIOError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Data Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/data/data_operation_serializeioerror_message.html

Data Quality Module

The Data Quality Module provides activities to validate and cleanse data records. This section contains details for the messages delivered from the Data Quality Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Data Quality Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Data Quality Module.


Table 1. Notifications issued by the Data Quality Module

Notification	Level	System	Description
BadPreloadQuery	Warning	Orchestration	Activity could not execute query to preload lookup cache.
DQLookupFuzzyOnCloud	Severe	Orchestration	Data Quality Lookup activity with Fuzzy option is not supported in cloud
FilterError	Severe	Orchestration	Activity failed to filter data.
InputEntryCount	Info	Orchestration	Activity successfully filtered specified number of entries.
LeftMergeInputEntry	Info	Orchestration	Activity successfully merged specified number of entries.

Notification	Level	System	Description
LookUpEntryCount	Info	Orchestration	Activity successfully looked up specified number of entries.
LookUpError	Severe	Orchestration	Activity failed to perform lookup for data.
MergeError	Severe	Orchestration	Activity failed to merge data.
NoAssetsError	Severe	Orchestration	Failed to perform lookup for data, database assets may not have been created.
NoPreloadedCache	Info	Orchestration	Lookup cache was not preloaded by the activity.
OutputEntryCount	Info	Orchestration	Activity successfully outputted specified number of entries.
PreloadedCache	Info	Orchestration	Lookup cache was preloaded by activity with specified number of entries.
RightMergeInputEntry	Info	Orchestration	Activity successfully merged specified number of entries.
SortError	Severe	Orchestration	Activity failed to sort data.
SortInputEntryCount	Info	Orchestration	Activity successfully sorted specified number of entries.

- [Data Quality Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Data Quality Module.
- [Data Quality Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Data Quality Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/about_the_dq_module.html

Data Quality Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Data Quality Module.

- [BadPreloadQuery](#)
Activity could not execute query to preload lookup cache.
- [FilterError](#)
Activity failed to filter data.
- [InputEntryCount](#)
Activity successfully filtered specified number of entries.
- [LeftMergeInputEntry](#)
Activity successfully merged specified number of entries.

- [LookUpEntryCount](#)
Activity successfully looked up specified number of entries.
- [LookUpError](#)
Activity failed to perform lookup for data.
- [MergeError](#)
Activity failed to merge data.
- [NoAssetsError](#)
Failed to perform lookup for data, database assets may not have been created.
- [NoPreloadedCache](#)
Lookup cache was not preloaded by the activity.
- [OutputEntryCount](#)
Activity successfully outputted specified number of entries.
- [PreloadedCache](#)
Lookup cache was preloaded by activity with specified number of entries.
- [RightMergeInputEntry](#)
Activity successfully merged specified number of entries.
- [SortError](#)
Activity failed to sort data.
- [SortInputEntryCount](#)
Activity successfully sorted specified number of entries.

Parent topic: [Data Quality Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_notifications_list.html

BadPreloadQuery

Activity could not execute query to preload lookup cache.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not execute query to preload lookup cache*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oBadPreloadQueryEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The BadPreloadQuery message contains the following variables:

Table 1. BadPreloadQuery Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_badpreloadquery_message.html

FilterError

Activity failed to filter data.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to filter data, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oFilterErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : *1*


Variables

The FilterError message contains the following variables:

Table 1. FilterError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_filtererror_message.html

InputEntryCount

Activity successfully filtered specified number of entries.

Level : *Info*

Log Message : *Filtered {NumberOfEntries} entries*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oInputEntryCountEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The InputEntryCount message contains the following variables:

Table 1. InputEntryCount Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfEntries

Number of entries filtered by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oEv2NumberOfEntries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2.1.2.1

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_inputentrycount_message.html

LeftMergeInputEntry

Activity successfully merged specified number of entries.

Level : *Info*

Log Message : *Merged {NumberOfEntries} left entries*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oLeftMergeInputEntryEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The LeftMergeInputEntry message contains the following variables:

Table 1. LeftMergeInputEntry Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfEntries

Number of entries merged by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oEv11NumberOfEntries
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2.1.11.1

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_leftmergeinputentry_message.html

LookUpEntryCount

Activity successfully looked up specified number of entries.

Level : *Info*

Log Message : *Looked up {NumberOfEntries} entries*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oLookUpEntryCountEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The LookUpEntryCount message contains the following variables:

Table 1. LookUpEntryCount Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfEntries

Number of entries looked up by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oEv7NumberOfEntries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2.1.7.1

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_lookupentrycount_message.html

LookUpError

Activity failed to perform lookup for data.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to perform lookup for data, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oLookUpErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The LookUpError message contains the following variables:

Table 1. LookUpError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_lookuperror_message.html

MergeError

Activity failed to merge data.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to merge data, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oMergeErrorEv10*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

Variables

The MergeError message contains the following variables:

Table 1. MergeError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

NoAssetsError

Failed to perform lookup for data, database assets may not have been created.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to perform lookup for data, database assets may not have been created*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oNoAssetsErrorEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The NoAssetsError message contains the following variables:

Table 1. NoAssetsError Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_noasseterror_message.html

NoPreloadedCache

Lookup cache was not preloaded by the activity.

Level : *Info*

Log Message : *Lookup cache not preloaded*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oNoPreloadedCacheEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The NoPreloadedCache message contains the following variables:

Table 1. NoPreloadedCache Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_nopreloadedcache_message.html

OutputEntryCount

Activity successfully outputted specified number of entries.

Level : *Info*

Log Message : *Emitted {NumberOfEntries} entries to "{Target}"*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oOutputEntryCountEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The OutputEntryCount message contains the following variables:

Table 1. OutputEntryCount Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfEntries

Number of entries outputted by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oEv3NumberOfEntries
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2.1.3.1

6. Target

Output variable where entries were placed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oEv3Target
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2.1.3.2

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

PreloadedCache

Lookup cache was preloaded by activity with specified number of entries.

Level : *Info*

Log Message : *Lookup cache preloaded with {NumberOfEntries} entries*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oPreloadedCacheEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The PreloadedCache message contains the following variables:

Table 1. PreloadedCache Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfEntries

Number of entries preloaded up by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oEv9NumberOfEntries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2.1.9.1

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_preloadedcache_message.html

RightMergeInputEntry

Activity successfully merged specified number of entries.

Level : *Info*

Log Message : *Merged {NumberOfEntries} right entries*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oRightMergeInputEntryEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The RightMergeInputEntry message contains the following variables:

Table 1. RightMergeInputEntry Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfEntries

Number of entries merged by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oEv12NumberOfEntries
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2.1.12.1

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_rightmergeinputentry_message.html

SortError

Activity failed to sort data.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to sort data, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oSortErrorEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : *13*


Variables

The SortError message contains the following variables:

Table 1. SortError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_sorterror_message.html

SortInputEntryCount

Activity successfully sorted specified number of entries.

Level : *Info*

Log Message : *Sorted {NumberOfEntries} entries*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oSortInputEntryCountEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The SortInputEntryCount message contains the following variables:

Table 1. SortInputEntryCount Message Variables

1. SerialNumber The serial number of the appliance sending the trap. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
2. Severity Severity of the Notification. <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
3. JobID The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfEntries

Number of entries sorted by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14oEv14NumberOfEntries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.2.1.14.1

Parent topic: [Data Quality Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_operation_sortinputentrycount_message.html


Data Quality Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Data Quality Module.

- [DQLookupFuzzyOnCloud](#)
Data Quality Lookup activity with Fuzzy option is not supported in cloud

Parent topic: [Data Quality Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_internal_notifications_list.html

DQLookupFuzzyOnCloud

Data Quality Lookup activity with Fuzzy option is not supported in cloud

Level : *Severe*

Log Message : *Data Quality Lookup activity with Fuzzy option is not supported in cloud*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DQ-MIB::ciC14iDQLookupFuzzyOnCloudEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.14.1.3*

SNMP Trap Number : *1*


Variables

The DQLookupFuzzyOnCloud message contains the following variables:

Table 1. DQLookupFuzzyOnCloud Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/dq/dq_internal_dqlookupfuzzyoncloud_message.html

Database Module

The Database Module provides activities for accessing various SQL databases. This section contains details for the messages delivered from the Database Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Database Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Database Module.

Table 1. Notifications issued by the Database Module

Notification	Level	System	Description
ActivateError	Severe	Orchestration	A problem occurred while activating the activity.
ConnectionError	Warning	Orchestration	An error occurred while connecting to the database endpoint.
ConnectionRetry	Warning	Orchestration	An error occurred while attempting to connect to the database.
DataSourceHashCode	Info	Orchestration	Information regarding the hash code used to register the datasource.
DataSourceRegistered	Info	Orchestration	Information about the datasource name registered with the system.
DateTimeParseError	Severe	Orchestration	Unable to parse the date and time
DeleteRowsError	Severe	Orchestration	An exception occurred while deleting the row from the control table.
DeleteRowsFailure	Severe	Orchestration	Unable to delete rows from the buffer table.
DeleteSQL	Info	Orchestration	The delete query issued to the buffer table.
DeleteSQLWithId	Info	Orchestration	The delete query, with id, issued to the buffer table.
ErrorDeletePost	Severe	Orchestration	An exception occurred while deleting the row from the control table due to a connection error.


Notification	Level	System	Description
ErrorSingleTableJob	Severe	Orchestration	An exception occurred while processing a SingleTableNotification job
InboundOperationError	Severe	Orchestration	An error occurred while executing the inbound job.
InsertTableStatement	Info	Orchestration	An insert statement was issued to the control table.
JDBCConnectionClose	Warning	Orchestration	An error occurred while closing the connection in the exception path.
MaxRowExceeded	Info	Orchestration	The maximum number of rows for one poll on the table was reached. If this happens frequently, it is advisable to alter the threshold
MethodNotFound	Info	Orchestration	Unable to invoke the method specified in the connection properties.
OperationNameAbsent	Severe	Orchestration	The buffer table contains the operation but there is no activity in the orchestration for that operation. This is not a valid configuration.
OutboundActivateError	Severe	Orchestration	A problem occurred while activating the database outbound activity.
ParamQueryActivate	Severe	Orchestration	An exception occurred while activating the parameterized query activity.
ParamQueryError	Severe	Orchestration	An error occurred while processing the message for the parameterized query activity.
ParameterizedQuery	Info	Orchestration	The query for the parameterized query activity.
PollTblActivateError	Severe	Orchestration	A problem occurred while activating the database poll table activity.
QueryString	Info	Orchestration	The query which was issued for buffer table.
RedeliverSkip	Warning	Orchestration	This row is already delivered to the database and will be skipped now.
SelectStatement	Info	Orchestration	A select statement was issued to the control table to check for duplicate rows.
SetQueryTimeout	Warning	Orchestration	Unable to set the query time out for the database.
StoredProcActivate	Severe	Orchestration	An exception occurred while activating the stored procedure activity.
StoredProcException	Severe	Orchestration	A data error occurred while processing an outbound job in the stored procedure activity.
StoredProcQuery	Info	Orchestration	The stored procedure query issued to the database.
UnexpectedEmptyRows	Warning	Orchestration	An unexpected result returned from the buffer table. Expecting rows to present in result, instead the result is empty.
UpdateQuery	Info	Orchestration	The update query issued to the buffer table for marking rows.

- [Database Connection Notifications](#)

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Database Module.

- [Database Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Database Module.
- [Database Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Database Module.

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/about_the_database_module.html


Database Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Database Module.

- [ConnectionError](#)
An error occurred while connecting to the database endpoint.
- [ConnectionRetry](#)
An error occurred while attempting to connect to the database.
- [JDBCConnectionClose](#)
An error occurred while closing the connection in the exception path.
- [SetQueryTimeout](#)
Unable to set the query time out for the database.

Parent topic: [Database Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_connection_notifications_list.html

ConnectionError

An error occurred while connecting to the database endpoint.

Level : *Warning*

Log Message : *An error occurred while connecting to the database. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2cConnectionErrorEv1*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.1

SNMP Trap Number : 1

Variables

The ConnectionError message contains the following variables:

Table 1. ConnectionError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Connection Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/datab
ase_connection_connectionerror_message.html

ConnectionRetry

An error occurred while attempting to connect to the database.

Level : *Warning*

Log Message : *An error occurred while connecting to the database. The exception is {Message} The job is retrying: {RetryAttemptNumber} out of {TotalRetryAttempts} attempts to connect to the database . Another attempt will be made after {IntervalForRetries} secs.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2cConnectionRetryEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.1*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The ConnectionRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectionRetry Message Variables

1. SerialNumber The serial number of the appliance sending the trap. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
2. Severity Severity of the Notification. <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
3. JobID The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

6. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2cEv2RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.1.1.2.2

7. TotalRetryAttempts

The specified number of times to attempt connecting to the database before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2cEv2TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.1.1.2.3


8. IntervalForRetries

The specified amount of time to wait between attempts to connect to the database.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2cEv2IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.1.1.2.4

Parent topic: [Database Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_connection_connectionretry_message.html

JDBCConnectionClose

An error occurred while closing the connection in the exception path.

Level : *Warning*

Log Message : *An error occurred while closing the connection in the exception path. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2cJDBCConnectionCloseEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.1*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The JDBCConnectionClose message contains the following variables:

Table 1. JDBCConnectionClose Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_connection_jdbcconnectionclose_message.html

SetQueryTimeout

Unable to set the query time out for the database.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to set the query time out for database {DBType}. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2cSetQueryTimeoutEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The SetQueryTimeout message contains the following variables:

Table 1. SetQueryTimeout Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. DBType

The type of database

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2cEv3DBType
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.1.1.3.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_connection_setquerytimeout_message.html

Database Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Database Module.

- [ActivateError](#)
A problem occurred while activating the activity.
- [DataSourceHashCode](#)
Information regarding the hash code used to register the datasource.
- [DataSourceRegistered](#)
Information about the datasource name registered with the system.
- [DateTimeParseError](#)
Unable to parse the date and time
- [DeleteRowsError](#)
An exception occurred while deleting the row from the control table.
- [DeleteRowsFailure](#)
Unable to delete rows from the buffer table.
- [DeleteSQL](#)
The delete query issued to the buffer table.
- [DeleteSQLWithId](#)
The delete query, with id, issued to the buffer table.
- [ErrorDeletePost](#)
An exception occurred while deleting the row from the control table due to a connection error.
- [ErrorSingleTableJob](#)
An exception occurred while processing a SingleTableNotification job
- [InboundOperationError](#)
An error occurred while executing the inbound job.
- [InsertTableStatement](#)
An insert statement was issued to the control table.
- [MaxRowExceeded](#)
The maximum number of rows for one poll on the table was reached. If this happens frequently, it is advisable to alter the threshold
- [MethodNotFound](#)
Unable to invoke the method specified in the connection properties.
- [OperationNameAbsent](#)
The buffer table contains the operation but there is no activity in the orchestration for that operation. This is not a valid configuration.
- [OutboundActivateError](#)
A problem occurred while activating the database outbound activity.
- [ParamQueryActivate](#)
An exception occurred while activating the parameterized query activity.
- [ParamQueryError](#)
An error occurred while processing the message for the parameterized query activity.
- [ParameterizedQuery](#)
The query for the parameterized query activity.
- [PollTblActivateError](#)
A problem occurred while activating the database poll table activity.
- [QueryString](#)
The query which was issued for buffer table.
- [RedeliverSkip](#)
This row is already delivered to the database and will be skipped now.
- [SelectStatement](#)
A select statement was issued to the control table to check for duplicate rows.
- [StoredProcException](#)
A data error occurred while processing an outbound job in the stored procedure activity.
- [StoredProcQuery](#)
The stored procedure query issued to the database.

- [UpdateQuery](#)
The update query issued to the buffer table for marking rows.

Parent topic: [Database Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_notifications_list.html

ActivateError

A problem occurred while activating the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while activating the database inbound activity.Exception is : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oActivateErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The ActivateError message contains the following variables:

Table 1. ActivateError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_activateerror_message.html

DataSourceHashCode

Information regarding the hash code used to register the datasource.

Level : *Info*

Log Message : *The datasource with the name {DataSourceName} is registered with hash code: {HashCodeName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oDataSourceHashCodeEv19*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *19*


Variables

The DataSourceHashCode message contains the following variables:

Table 1. DataSourceHashCode Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. DataSourceName</p> <p>The name of the datasource</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv19DataSourceName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.19.1
<p>6. HashCodeName</p> <p>The name of the hash code used to register the datasource.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv19HashCodeName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.19.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/datab
ase_operation_datasourcehashcode_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/datab
ase_operation_datasourcehashcode_message.html)

DataSourceRegistered

Information about the datasource name registered with the system.

Level : *Info*

Log Message : *The following datasource name is registered with the system.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oDataSourceRegisteredEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The DataSourceRegistered message contains the following variables:

Table 1. DataSourceRegistered Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_datasourceregistered_message.html

DateTimeParseError

Unable to parse the date and time

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to parse the date and time: {DateTimeValue} {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oDateTimeParseErrorEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *21*

Variables

The DateTimeParseError message contains the following variables:

Table 1. DateTimeParseError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. DateTimeValue

The value of date and time when the parsing error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv21DateTimeValue
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.21.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_datetimestringerror_message.html

DeleteRowsError

An exception occurred while deleting the row from the control table.

Level : *Severe*

Log Message : *An exception occurred while deleting the row from the control table. The exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oDeleteRowsErrorEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The DeleteRowsError message contains the following variables:


Table 1. DeleteRowsError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_deleterowerror_message.html

DeleteRowsFailure

Unable to delete rows from the buffer table.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to delete rows from buffer table {TableName}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oDeleteRowsFailureEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The DeleteRowsFailure message contains the following variables:

Table 1. DeleteRowsFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TableName

Name of the buffer table.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv9TableName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.9.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_deleterowsfailure_message.html

DeleteSQL

The delete query issued to the buffer table.

Level : *Info*

Log Message : *The delete query issued to the buffer table is {Query}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oDeleteSQLEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables


The DeleteSQL message contains the following variables:

Table 1. DeleteSQL Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Query</p> <p>The query string.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv5Query• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.5.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

DeleteSQLWithId

The delete query, with id, issued to the buffer table.

Level : *Info*

Log Message : *The delete query, with id, issued to the buffer table is {Query}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oDeleteSQLWithIdEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The DeleteSQLWithId message contains the following variables:

Table 1. DeleteSQLWithId Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Query

The query string.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv4Query
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.4.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_deletesqlwithid_message.html

ErrorDeletePost

An exception occurred while deleting the row from the control table due to a connection error.

Level : *Severe*

Log Message : *An exception occurred while deleting the row from the control table. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oErrorDeletePostEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *24*

Variables

The ErrorDeletePost message contains the following variables:

Table 1. ErrorDeletePost Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_errordeletetpost_message.html

ErrorSingleTableJob

An exception occurred while processing a SingleTableNotification job

Level : *Severe*

Log Message : *An exception occurred while processing a SingleTableNotification job. Data error at row number {RowNumber} of table {TableName}. The Error is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oErrorSingleTableJobEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : 23

Variables

The ErrorSingleTableJob message contains the following variables:

Table 1. ErrorSingleTableJob Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. RowNumber</p> <p>The table row number where the error occurred.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv23RowNumber</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.23.1</i>
<p>6. TableName</p>

The table name where the error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv23TableName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.23.2


7. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_errorsingletablejob_message.html

InboundOperationError

An error occurred while executing the inbound job.

Level : *Severe*

Log Message : *An exception occurred while processing the inbound job: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oInboundOperationErrorEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : 22

Variables

The InboundOperationError message contains the following variables:

Table 1. InboundOperationError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_inboundoperationerror_message.html

InsertTableStatement

An insert statement was issued to the control table.

Level : *Info*

Log Message : *An insert statement was issued to the control table. {TableName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oInsertTableStatementEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *10*


Variables

The InsertTableStatement message contains the following variables:

Table 1. InsertTableStatement Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. TableName</p> <p>The control table to which the insert statement was issued.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv10TableName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.10.1

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_inserttablestatement_message.html

MaxRowExceeded

The maximum number of rows for one poll on the table was reached. If this happens frequently, it is advisable to alter the threshold

Level : *Info*

Log Message : *The maximum number of rows for one poll on table {TableName} was reached. If this is a frequent occurrence, then alter the threshold!*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oMaxRowExceededEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The MaxRowExceeded message contains the following variables:

Table 1. MaxRowExceeded Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TableName

The name of the table for which the threshold was reached.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv8TableName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.8.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_maxrowexceeded_message.html

MethodNotFound

Unable to invoke the method specified in the connection properties.

Level : *Info*

Log Message : *Unable to invoke method {MethodName} on the data source object. This might cause unexpected behavior. Please check the connection properties*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oMethodNotFoundEv7*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables


The MethodNotFound message contains the following variables:

Table 1. MethodNotFound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. MethodName</p> <p>Name of the method.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv7MethodName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.7.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

OperationNameAbsent

The buffer table contains the operation but there is no activity in the orchestration for that operation. This is not a valid configuration.

Level : *Severe*

Log Message : *The buffer table contains the {OperationName} operation but there is no activity in the orchestration for that operation. This is not a valid configuration.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oOperationNameAbsentEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The OperationNameAbsent message contains the following variables:

Table 1. OperationNameAbsent Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. OperationName

The name of the operation which was not found

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv1OperationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.1.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_operationnameabsent_message.html

OutboundActivateError

A problem occurred while activating the database outbound activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while activating the database outbound activity.Exception is : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oOutboundActivateErrorEv25*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *25*

Variables

The OutboundActivateError message contains the following variables:

Table 1. OutboundActivateError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_outboundactivateerror_message.html

ParamQueryActivate

An exception occurred while activating the parameterized query activity.

Level : *Severe*

Log Message : *An exception occurred while activating the parameterized query activity. The exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oParamQueryActivateEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *13*


Variables

The ParamQueryActivate message contains the following variables:

Table 1. ParamQueryActivate Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2</i>

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_paramqueryactivate_message.html

ParamQueryError

An error occurred while processing the message for the parameterized query activity.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred while processing the message for the parameterized query activity at row number {RowNumber}. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oParamQueryErrorEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The ParamQueryError message contains the following variables:

Table 1. ParamQueryError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. RowNumber

The row number at which the error occurred.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv15RowNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.15.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_paramqueryerror_message.html

ParameterizedQuery

The query for the parameterized query activity.

Level : *Info*

Log Message : *The query for the parameterized query activity is: {QueryString}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oParameterizedQueryEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

Variables

The ParameterizedQuery message contains the following variables:

Table 1. ParameterizedQuery Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. QueryString</p> <p>The exact query string.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv14QueryString • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.14.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

PollTblActivateError

A problem occurred while activating the database poll table activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while activating the database poll table activity.Exception is : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oPollTblActivateErrorEv26*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *26*

Variables

The PollTblActivateError message contains the following variables:

Table 1. PollTblActivateError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_polltblactivateerror_message.html

QueryString

The query which was issued for buffer table.

Level : *Info*

Log Message : *The select query issued for the buffer table is {Query}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oQueryStringEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The QueryString message contains the following variables:

Table 1. QueryString Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Query

The query string.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv3Query
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.3.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_querystring_message.html

RedeliverSkip

This row is already delivered to the database and will be skipped now.

Level : *Warning*

Log Message : *The row is already delivered to the database. Skipping it.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oRedeliverSkipEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The RedeliverSkip message contains the following variables:

Table 1. RedeliverSkip Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

SelectStatement

A select statement was issued to the control table to check for duplicate rows.

Level : *Info*

Log Message : *A select statement was issued to control table {TableName} to check for duplicate rows.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oSelectStatementEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The SelectStatement message contains the following variables:

Table 1. SelectStatement Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TableName

The control table to which the select statement was issued.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv11TableName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.11.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_selectstatement_message.html

StoredProcException

A data error occurred while processing an outbound job in the stored procedure activity.

Level : *Severe*

Log Message : *An exception occurred while processing an outbound job in the stored procedure activity. Data error at row number: {RowNumber}. The error is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oStoredProcExceptionEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The StoredProcException message contains the following variables:

Table 1. StoredProcException Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. RowNumber

The row number at which the error occurred.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv16RowNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.16.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

StoredProcQuery

The stored procedure query issued to the database.

Level : *Info*

Log Message : *The stored procedure query issued to the database is {QueryString}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oStoredProcQueryEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The StoredProcQuery message contains the following variables:

Table 1. StoredProcQuery Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. QueryString

The exact query string issued to the database.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv17QueryString
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.17.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_storedprocquery_message.html

UpdateQuery

The update query issued to the buffer table for marking rows.

Level : *Info*

Log Message : *The update query issued to the buffer table for marking rows is {Query}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oUpdateQueryEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The UpdateQuery message contains the following variables:

Table 1. UpdateQuery Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Query

The query string.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2oEv6Query
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.2.1.6.1

Parent topic: [Database Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)


 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_operation_updatequery_message.html

Database Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Database Module.

- [StoredProcActivate](#)
An exception occurred while activating the stored procedure activity.
- [UnexpectedEmptyRows](#)
An unexpected result returned from the buffer table. Expecting rows to present in result, instead the result is empty.

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_internal_notifications_list.html

StoredProcActivate

An exception occurred while activating the stored procedure activity.

Level : *Severe*

Log Message : *An exception occurred while activating the stored procedure activity. The exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2iStoredProcActivateEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.3*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The StoredProcActivate message contains the following variables:

Table 1. StoredProcActivate Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Database Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_internal_storedprocactivate_message.html

UnexpectedEmptyRows

An unexpected result returned from the buffer table. Expecting rows to present in result, instead the result is empty.

Level : *Warning*

Log Message : *An unexpected result returned from the buffer table. Expecting rows to be present in the result, instead the result is empty.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DATABASE-MIB::ciC2iUnexpectedEmptyRowsEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.2.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables


The UnexpectedEmptyRows message contains the following variables:

Table 1. UnexpectedEmptyRows Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Database Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/database/database_internal_unexpectedemptyrows_message.html

Domino Module

The Domino Module provides activities for accessing IBM Lotus Domino servers. This section contains details for the messages delivered from the Domino Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Domino Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22*


The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Domino Module.

Table 1. Notifications issued by the Domino Module

Notification	Level	System	Description
ActivateFailureBlank	Severe	Orchestration	The specified activity name is not executed successfully because the activity name was blank.
ActivateSuccess	Info	Orchestration	The specified activity name is activated successfully.
ActivityCreateSuccess	Info	Orchestration	The specified activity name is created successfully and is ready for invocation.
ActivityFailure	Severe	Orchestration	The specified activity name failed to execute.
ActivitySuccessful	Info	Orchestration	The specified activity name is executed successfully. The response parameter is populated successfully.
ConnectError	Severe	Orchestration	An error occurred while processing the connection parameters sent as part of the request in the activity.
InitializationError	Severe	Orchestration	Exception while initializing Lotus Domino connector.
RetryCount	Info	Orchestration	The specified activity re tried the execution so many times specified above.
RunningInfo	Warning	Orchestration	Encountered few warnings or errors while running Domino activity.
RunningMessages	Warning	Orchestration	Received messages while executing the activity.
SchemaInvoke	Info	Orchestration	The specified activity name is generating schemas.
StopSuccess	Info	Orchestration	The specified activity name is successfully stopped.
UnmarshalError	Severe	Orchestration	An error occurred while reading input connection parameters in the activity.

- [Domino Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Domino Module.
- [Domino Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Domino Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/about_the_domino_module.html


Domino Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Domino Module.

- [ActivateFailureBlank](#)
The specified activity name is not executed successfully because the activity name was blank.
- [ActivateSuccess](#)
The specified activity name is activated successfully.
- [ActivityCreateSuccess](#)
The specified activity name is created successfully and is ready for invocation.
- [ActivityFailure](#)
The specified activity name failed to execute.
- [ActivitySuccessful](#)
The specified activity name is executed successfully. The response parameter is populated successfully.
- [RetryCount](#)
The specified activity re tried the execution so many times specified above.
- [RunningInfo](#)
Encountered few warnings or errors while running Domino activity.
- [RunningMessages](#)
Received messages while executing the activity.
- [SchemaInvoke](#)
The specified activity name is generating schemas.
- [StopSuccess](#)
The specified activity name is successfully stopped.

Parent topic: [Domino Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_notifications_list.html

ActivateFailureBlank

The specified activity name is not executed successfully because the activity name was blank.

Level : *Severe*

Log Message : *{ActivityName} activity execution failed due to {Name} property is blank.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oActivateFailureBlankEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*


SNMP Trap Number : *9*

The ActivateFailureBlank message contains the following variables:

Table 1. ActivateFailureBlank Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity name that failed to activate.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv9ActivityName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.9.1
<p>6. Name</p> <p>The blank activity name caused the activation to fail.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv9Name• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.9.2

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_activatefailureblank_message.html

ActivateSuccess

The specified activity name is activated successfully.

Level : *Info*

Log Message : *Activity {ActivityName} activated successfully.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oActivateSuccessEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The ActivateSuccess message contains the following variables:

Table 1. ActivateSuccess Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ActivityName

The activity name that is activated successfully.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv7ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.7.1

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_activatesuccess_message.html

ActivityCreateSuccess

The specified activity name is created successfully and is ready for invocation.

Level : *Info*

Log Message : *{ActivityName} activity created successfully.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oActivityCreateSuccessEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The ActivityCreateSuccess message contains the following variables:

Table 1. ActivityCreateSuccess Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ActivityName

The activity name that is created.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv4ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.4.1

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_activitycreatesuccess_message.html

ActivityFailure

The specified activity name failed to execute.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred while trying to execute activity {ActivityName}. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oActivityFailureEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : *6*

Variables

The ActivityFailure message contains the following variables:

Table 1. ActivityFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The activity name that failed to execute.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv6ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.6.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_activityfailure_message.html

ActivitySuccessful

The specified activity name is executed successfully. The response parameter is populated successfully.

Level : *Info*

Log Message : *{ActivityName} activity executed successfully.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oActivitySuccessfulEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : 5

Variables

The ActivitySuccessful message contains the following variables:

Table 1. ActivitySuccessful Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ActivityName

The activity name that is executed successfully.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv5ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.5.1

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_activitysuccessful_message.html

RetryCount

The specified activity re tried the execution so many times specified above.

Level : *Info*

Log Message : *The Domino {ActivityName} activity re trying {Count} times now.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oRetryCountEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The RetryCount message contains the following variables:

Table 1. RetryCount Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity name.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv11ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.11.1


6. Count

The retry count which activity tried so far.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv11Count
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.11.2

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_retrycount_message.html

RunningInfo

Encountered few warnings or errors while running Domino activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Errors/Warning messages while executing activity: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oRunningInfoEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The RunningInfo message contains the following variables:

Table 1. RunningInfo Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_runninginfo_message.html

RunningMessages

Received messages while executing the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *{MessageType} messages while executing activity: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oRunningMessagesEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The RunningMessages message contains the following variables:

Table 1. RunningMessages Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. MessageType</p> <p>Type of the message received.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv2MessageType</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.2.1</i>
<p>6. Message</p>

The message received while executing the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv2Message
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.2.2

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_runningmessages_message.html

SchemaInvoke

The specified activity name is generating schemas.

Level : *Info*

Log Message : *The required schema for {Name} is missing. The activity {ActivityName} generating schemas.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oSchemaInvokeEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The SchemaInvoke message contains the following variables:

Table 1. SchemaInvoke Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The activity name that invoked the generation of schemas.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv10ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.10.1


6. Name

The name of the schema that is not in the configuration document.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv10Name
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.10.2

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_schemainvoke_message.html

StopSuccess

The specified activity name is successfully stopped.

Level : *Info*

Log Message : *Activity {ActivityName} is stopped successfully.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oStopSuccessEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2*

SNMP Trap Number : 8

Variables


The StopSuccess message contains the following variables:

Table 1. StopSuccess Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity name that is stopped successfully.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22oEv8ActivityName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.2.1.8.1</i>

Parent topic: [Domino Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_operation_stopsuccess_message.html


Domino Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Domino Module.

- [ConnectError](#)
An error occurred while processing the connection parameters sent as part of the request in the activity.
- [InitializationError](#)
Exception while initializing Lotus Domino connector.
- [UnmarshalError](#)
An error occurred while reading input connection parameters in the activity.

Parent topic: [Domino Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_internal_notifications_list.html

ConnectError

An error occurred while processing the connection parameters sent as part of the request in the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while processing the connection parameters sent as part of the request. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22iConnectErrorEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.3*

SNMP Trap Number : *13*

Variables


The ConnectError message contains the following variables:

Table 1. ConnectError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Domino Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

InitializationError

Exception while initializing Lotus Domino connector.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while initializing Lotus Domino connector.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22iInitializationErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The InitializationError message contains the following variables:


Table 1. InitializationError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Domino Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_internal_initializationerror_message.html

UnmarshalError

An error occurred while reading input connection parameters in the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while trying to read optional connection input parameter. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-DOMINO-MIB::ciC22iUnmarshalErrorEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.22.1.3*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The UnmarshalError message contains the following variables:

Table 1. UnmarshalError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Domino Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/domino/domino_internal_unmarshalerror_message.html

Email Module

The Email Module provides connectivity to POP3 and SMTP mail servers. This section contains details for the messages delivered from the Email Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Email Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Email Module.

Table 1. Notifications issued by the Email Module

Notification	Level	System	Description
--------------	-------	--------	-------------


Notification	Level	System	Description
BodyNull	Severe	Orchestration	The 'body' input parameter from the container is null. This is an error condition.
ConPoolReleaseError	Warning	Orchestration	Error while closing the connection pool.
ConnectError	Severe	Orchestration	The email activity operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectErrorRetry	Warning	Orchestration	The email activity operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
ConnectHeaderAbsent	Info	Orchestration	The optional input header - emailConnection - is mapped.
ConnectHeaderPresent	Info	Orchestration	The optional input header - emailConnection - is mapped.
ConnectionPoolReturn	Warning	Orchestration	Error occurred while returning connection to pool.
CouldNotGetHostIP	Warning	Orchestration	Error occurred while getting IP of the router. Continuing activity without the host IP.
DisconnectException	Warning	Orchestration	Error while trying to disconnect from server. Discarding error and continuing the activity.
EmailMatched	Info	Orchestration	Found an email matching From and subject fields specified in configuration.
EmailSent	Info	Orchestration	The activity successfully sent email to the server.
EndpointData	Info	Orchestration	The information regarding the email endpoint data.
IncorrectPort	Warning	Orchestration	The email port needs to be a positive integer. Defaulting to 110 in case its not specified as positive integer.
IncorrectSmtpPort	Warning	Orchestration	The email port needs to be a positive integer. Defaulting to 25 in case its not specified as positive integer.
IncorrectSmtpTimeout	Warning	Orchestration	The connection timeout needs to be a positive integer. Defaulting to 300 seconds in case its not specified as positive integer
IncorrectTimeout	Warning	Orchestration	The connection timeout needs to be a positive integer. Defaulting to 300 seconds in case its not specified as positive integer
InvalidAddressFormat	Warning	Orchestration	The email address in the specified field is in incorrect format.
InvalidEmailID	Warning	Orchestration	The email id specified is not valid.
MailHeaderAbsent	Info	Orchestration	The optional input header - mailheader - is not mapped.
MailHeaderPresent	Info	Orchestration	The optional input header - mailheader - is mapped.
MailsDeleted	Info	Orchestration	The mails processed in the current poll have been deleted from the server.

Notification	Level	System	Description
MailsToBeDeleted	Info	Orchestration	There are some mails to be deleted as they were processed earlier.
MakeConPoolError	Warning	Orchestration	Error while creating the connection.
NewConnectEverytime	Info	Orchestration	The additional property 'smtpNewConnEveryTime' was added to connection pool.
NoEmailMatched	Info	Orchestration	Could not find an email matching From and subject fields specified in configuration.
NoMailOnServer	Info	Orchestration	No mail was found on server.
PatternIncorrect	Severe	Orchestration	Pattern specified in the activity is incorrect.
Pop3ConfigParams	Info	Orchestration	Configuration parameters specified in the activity.
Pop3Connected	Info	Orchestration	The activity was successfully able to connect to the email server.
Pop3DataError	Severe	Orchestration	A pop3 data error occurred while executing the activity.
Pop3InternalError	Severe	Orchestration	Internal error occurred while executing pop3 activity.
Pop3MailSent	Info	Orchestration	Activity has outputted 'mailheader' and 'body' output parameters. Mail marked for deletion from server
Pop3NumMails	Info	Orchestration	Number of mails found on the email server.
Pop3ServerError	Severe	Orchestration	A pop3 command unexpectedly returned an error while executing the activity.
SaveStateError	Warning	Orchestration	Error occurred while trying to save duplist state after disconnect. Will cleanup in next poll.
SetBCCFieldValue	Info	Orchestration	Setting the value of 'BCC' field to specified value
SetCCFieldValue	Info	Orchestration	Setting the value of 'CC' field to specified value
SetFromFieldValue	Info	Orchestration	Setting the value of 'From' field to specified value
SetSubjectFieldValue	Info	Orchestration	Setting the value of the 'Subject' field to the specified value.
SetTimeout	Info	Orchestration	Setting the timeout to specified value.
SetToFieldValue	Info	Orchestration	Setting the value of 'To' field to specified value
SmtpConfigParams	Info	Orchestration	Information regarding configuration parameters specified in email activity.
SmtpConnectFailed	Severe	Orchestration	The email activity operation failed because a connection to the server could not be established.
SmtpConnectRetry	Warning	Orchestration	The email activity operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
SmtpConnected	Info	Orchestration	The activity was successfully able to connect to the email server.
SmtpDataError	Severe	Orchestration	Smtp data error occurred while executing the activity.

Notification	Level	System	Description
SmtpDisconnectError	Warning	Orchestration	Error while trying to disconnect from server. Discarding error and continuing the activity.
SmtpEndpointData	Info	Orchestration	The information regarding the email endpoint data.
SmtpInternalError	Severe	Orchestration	Internal error occurred while executing smtp activity.
SmtpSendEmail	Info	Orchestration	The activity is sending email to the server.
SmtpTimeout	Info	Orchestration	Setting the timeout to specified value.
SubjectPatternError	Severe	Orchestration	Subject pattern specified in the activity is incorrect.
ToAndCCEmpty	Severe	Orchestration	There was no valid To, CC, BCC specified in the activity.

- [Email Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Email Module.
- [Email Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Email Module.
- [Email Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Email Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/about_the_email_module.html

Email Connection Notifications


Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Email Module.

- [ConPoolReleaseError](#)
Error while closing the connection pool.
- [ConnectError](#)
The email activity operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectErrorRetry](#)
The email activity operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [ConnectHeaderAbsent](#)
The optional input header - emailConnection - is mapped.
- [ConnectHeaderPresent](#)
The optional input header - emailConnection - is mapped.
- [ConnectionPoolReturn](#)
Error occurred while returning connection to pool.
- [DisconnectException](#)
Error while trying to disconnect from server. Discarding error and continuing the activity.

- [EndpointData](#)
The information regarding the email endpoint data.
- [IncorrectPort](#)
The email port needs to be a positive integer. Defaulting to 110 in case its not specified as positive integer.
- [IncorrectSmtpPort](#)
The email port needs to be a positive integer. Defaulting to 25 in case its not specified as positive integer.
- [IncorrectSmtpTimeout](#)
The connection timeout needs to be a positive integer. Defaulting to 300 seconds in case its not specified as positive integer
- [IncorrectTimeout](#)
The connection timeout needs to be a positive integer. Defaulting to 300 seconds in case its not specified as positive integer
- [MakeConPoolError](#)
Error while creating the connection.
- [NewConnectEverytime](#)
The additional property 'smtpNewConnEveryTime' was added to connection pool.
- [Pop3Connected](#)
The activity was successfully able to connect to the email server.
- [SetTimeout](#)
Setting the timeout to specified value.
- [SmtpConnectFailed](#)
The email activity operation failed because a connection to the server could not be established.
- [SmtpConnectRetry](#)
The email activity operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [SmtpConnected](#)
The activity was successfully able to connect to the email server.
- [SmtpDisconnectError](#)
Error while trying to disconnect from server. Discarding error and continuing the activity.
- [SmtpEndpointData](#)
The information regarding the email endpoint data.
- [SmtpTimeout](#)
Setting the timeout to specified value.

Parent topic: [Email Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_notifications_list.html

ConPoolReleaseError

Error while closing the connection pool.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while closing the connection pool. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cConPoolReleaseErrorEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *21*


Variables

The ConPoolReleaseError message contains the following variables:

Table 1. ConPoolReleaseError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_conpoolreleaseerror_message.html

ConnectError

The email activity operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cConnectErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The ConnectError message contains the following variables:

Table 1. ConnectError Message Variables

1. SerialNumber The serial number of the appliance sending the trap. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
2. Severity Severity of the Notification. <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
3. JobID The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv4NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.4.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_connecterror_message.html

ConnectErrorRetry

The email activity operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to server. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cConnectErrorRetryEv5*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1

SNMP Trap Number : 5

Variables

The ConnectErrorRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectErrorRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2
<p>6. RetryAttemptNumber</p> <p>The current number of retries.</p>

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv5RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.5.2

7. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv5TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.5.3


8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv5IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.5.4

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_connecterrorretry_message.html

ConnectHeaderAbsent

The optional input header - emailConnection - is mapped.

Level : *Info*

Log Message : *Optional input 'emailConnection' parameter is not mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cConnectHeaderAbsentEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The ConnectHeaderAbsent message contains the following variables:

Table 1. ConnectHeaderAbsent Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_connectheaderabsent_message.html

ConnectHeaderPresent

The optional input header - emailConnection - is mapped.

Level : *Info*

Log Message : *Optional input 'emailConnection' parameter is mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cConnectHeaderPresentEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *12*

Variables


The ConnectHeaderPresent message contains the following variables:

Table 1. ConnectHeaderPresent Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

ConnectionPoolReturn

Error occurred while returning connection to pool.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while returning connection to pool. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cConnectionPoolReturnEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The ConnectionPoolReturn message contains the following variables:

Table 1. ConnectionPoolReturn Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_connectionpoolreturn_message.html

DisconnectException

Error while trying to disconnect from server. Discarding error and continuing the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while trying to disconnect from server. Discarding error: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cDisconnectExceptionEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The DisconnectException message contains the following variables:

Table 1. DisconnectException Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_disconnectexception_message.html

EndpointData

The information regarding the email endpoint data.

Level : *Info*

Log Message : *Endpoint Parameters: Host: "{HostName}", Port: {Port}, User: "{Username}"*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEndpointDataEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The EndpointData message contains the following variables:

Table 1. EndpointData Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. HostName</p> <p>The host name specified in email endpoint.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv6HostName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.6.1</i>
<p>6. Port</p>

The port number specified in email endpoint.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv6Port
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.6.2


7. Username

The user name specified in email endpoint.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv6Username
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.6.3

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_endpointdata_message.html

IncorrectPort

The email port needs to be a positive integer. Defaulting to 110 in case its not specified as positive integer.

Level : *Warning*

Log Message : *Port needs to be positive integer. Specified as: \"{PortNumber}\". Defaulted to 110.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cIncorrectPortEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The IncorrectPort message contains the following variables:

Table 1. IncorrectPort Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. PortNumber

Port number specified for email which caused an error.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv1PortNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.1.1

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_incorrectport_message.html

IncorrectSmtpPort

The email port needs to be a positive integer. Defaulting to 25 in case its not specified as positive integer.

Level : *Warning*

Log Message : *Port needs to be positive integer. Specified as: \"{PortNumber}\". Defaulted to 25.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cIncorrectSmtpPortEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : 9


Variables

The IncorrectSmtpPort message contains the following variables:

Table 1. IncorrectSmtpPort Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. PortNumber</p> <p>Port number specified for email which caused an error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv9PortNumber• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.9.1

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_incorrectsmtpport_message.html

IncorrectSmtpTimeout

The connection timeout needs to be a positive integer. Defaulting to 300 seconds in case its not specified as positive integer

Level : *Warning*

Log Message : *Timeout needs to be positive integer. Specified as: \"{Timeout}\". Defaulted to 300 seconds.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cIncorrectSmtpTimeoutEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The IncorrectSmtpTimeout message contains the following variables:

Table 1. IncorrectSmtpTimeout Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Timeout

Timeout specified for email which caused an error.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv10Timeout
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.10.1

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_incorrectsmtptimeout_message.html

IncorrectTimeout

The connection timeout needs to be a positive integer. Defaulting to 300 seconds in case its not specified as positive integer

Level : *Warning*

Log Message : *Timeout needs to be positive integer. Specified as: \"{Timeout}\". Defaulted to 300 seconds.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cIncorrectTimeoutEv2*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *2*

Variables


The IncorrectTimeout message contains the following variables:

Table 1. IncorrectTimeout Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Timeout</p> <p>Timeout specified for email which caused an error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv2Timeout • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.2.1

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_incorrecttimeout_message.html

MakeConPoolError

Error while creating the connection.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while creating the connection to destination. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cMakeConPoolErrorEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *22*

Variables

The MakeConPoolError message contains the following variables:

Table 1. MakeConPoolError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_makeconpoolerror_message.html

NewConnectEverytime

The additional property 'smtpNewConnEveryTime' was added to connection pool.

Level : *Info*

Log Message : *Additional property {PropertyName} set to {PropertyValue} so setup connection pool.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cNewConnectEverytimeEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The NewConnectEverytime message contains the following variables:

Table 1. NewConnectEverytime Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. PropertyName

The new property added.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv16PropertyName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.16.1


6. PropertyValue

Value of the new property added.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv16PropertyValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.16.2

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_newconnecteverytime_message.html

Pop3Connected

The activity was successfully able to connect to the email server.

Level : *Info*

Log Message : *Connected to the POP3 server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cPop3ConnectedEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The Pop3Connected message contains the following variables:

Table 1. Pop3Connected Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_pop3connected_message.html

SetTimeout

Setting the timeout to specified value.

Level : *Info*

Log Message : *Setting timeout as {Timeout} milliseconds.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cSetTimeoutEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The SetTimeout message contains the following variables:

Table 1. SetTimeout Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Timeout

The timeout value.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv8Timeout
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.8.1

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_settimeout_message.html

SmtConnectFailed

The email activity operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cSmtConnectFailedEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The SmtConnectFailed message contains the following variables:

Table 1. SmtConnectFailed Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv14NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.14.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SmtConnectRetry

The email activity operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to server. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cSmtConnectRetryEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The SmtConnectRetry message contains the following variables:

Table 1. SmtConnectRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

6. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv15RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.15.2

7. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv15TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.15.3


8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv15IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.15.4

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_smtpconnectretry_message.html

Smt Connected

The activity was successfully able to connect to the email server.

Level : *Info*

Log Message : *Connected to the SMTP server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cSntpConnectedEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The SntpConnected message contains the following variables:

Table 1. SntpConnected Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

SntpDisconnectError

Error while trying to disconnect from server. Discarding error and continuing the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while trying to disconnect from server. Discarding error: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cSntpDisconnectErrorEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The SntpDisconnectError message contains the following variables:

Table 1. SntpDisconnectError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_smtpdisconnecterror_message.html

SntpEndpointData

The information regarding the email endpoint data.

Level : *Info*

Log Message : *Endpoint Parameters: Host: \"{HostName}\", Port: {Port}, User: \"{Username}\".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cSntpEndpointDataEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The SntpEndpointData message contains the following variables:

Table 1. SntpEndpointData Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. HostName

The host name specified in email endpoint.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv17HostName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.17.1

6. Port

The port number specified in email endpoint.


- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv17Port
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.17.2

7. Username

The user name specified in email endpoint.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv17Username
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.17.3

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_smtpendpointdata_message.html

Smtptimeout

Setting the timeout to specified value.

Level : *Info*

Log Message : *Setting timeout as {Timeout} milliseconds.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cSmtptimeoutEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The Smtptimeout message contains the following variables:

Table 1. Smtptimeout Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Timeout

The timeout value.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7cEv19Timeout
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.1.1.19.1

Parent topic: [Email Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_connection_smtptimeout_message.html

Email Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Email Module.

- [CouldNotGetHostIP](#)
Error occurred while getting IP of the router. Continuing activity without the host IP.
- [EmailMatched](#)
Found an email matching From and subject fields specified in configuration.
- [EmailSent](#)
The activity successfully sent email to the server.
- [InvalidAddressFormat](#)
The email address in the specified field is in incorrect format.
- [InvalidEmailID](#)
The email id specified is not valid.
- [MailHeaderAbsent](#)
The optional input header - mailheader - is not mapped.
- [MailHeaderPresent](#)
The optional input header - mailheader - is mapped.
- [MailsDeleted](#)
The mails processed in the current poll have been deleted from the server.
- [MailsToBeDeleted](#)
There are some mails to be deleted as they were processed earlier.
- [NoEmailMatched](#)
Could not find an email matching From and subject fields specified in configuration.

- [NoMailOnServer](#)
No mail was found on server.
- [PatternIncorrect](#)
Pattern specified in the activity is incorrect.
- [Pop3ConfigParams](#)
Configuration parameters specified in the activity.
- [Pop3DataError](#)
A pop3 data error occurred while executing the activity.
- [Pop3MailSent](#)
Activity has outputted 'mailheader' and 'body' output parameters. Mail marked for deletion from server
- [Pop3NumMails](#)
Number of mails found on the email server.
- [Pop3ServerError](#)
A pop3 command unexpectedly returned an error while executing the activity.
- [SaveStateError](#)
Error occurred while trying to save duplist state after disconnect. Will cleanup in next poll.
- [SetBCCFieldValue](#)
Setting the value of 'BCC' field to specified value
- [SetCCFieldValue](#)
Setting the value of 'CC' field to specified value
- [SetFromFieldValue](#)
Setting the value of 'From' field to specified value
- [SetSubjectFieldValue](#)
Setting the value of the 'Subject' field to the specified value.
- [SetToFieldValue](#)
Setting the value of 'To' field to specified value
- [SmtpConfigParams](#)
Information regarding configuration parameters specified in email activity.
- [SmtpDataError](#)
Smtp data error occurred while executing the activity.
- [SmtpSendEmail](#)
The activity is sending email to the server.
- [SubjectPatternError](#)
Subject pattern specified in the activity is incorrect.

Parent topic: [Email Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_operation_notifications_list.html

CouldNotGetHostIP

Error occurred while getting IP of the router. Continuing activity without the host IP.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while trying to get IP of router. Error is: {Message}. Continuing without getting IP.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oCouldNotGetHostIPEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *20*


Variables

The CouldNotGetHostIP message contains the following variables:

Table 1. CouldNotGetHostIP Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_operation_couldnotgethostip_message.html

EmailMatched

Found an email matching From and subject fields specified in configuration.

Level : *Info*

Log Message : *Matched email with From: "{FromPattern}" and Subject: "{SubjectPattern}".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEmailMatchedEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The EmailMatched message contains the following variables:

Table 1. EmailMatched Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FromPattern

The value specified for From field.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv5FromPattern
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.5.1


6. SubjectPattern

The value specified for subject field.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv5SubjectPattern
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.5.2

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_emailmatched_message.html

EmailSent

The activity successfully sent email to the server.

Level : *Info*

Log Message : *Email sent to server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEmailSentEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

Variables


The EmailSent message contains the following variables:

Table 1. EmailSent Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_emailsent_message.html

InvalidAddressFormat

The email address in the specified field is in incorrect format.

Level : *Warning*

Log Message : *The {Field} email address {EmailID} specified in optional parameters is not in correct format. Not setting the same.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oInvalidAddressFormatEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The InvalidAddressFormat message contains the following variables:

Table 1. InvalidAddressFormat Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Field

The specified field.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv19Field
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.19.1


6. EmailID

The email ID in incorrect format.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv19EmailID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.19.2

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_operation_invalidaddressformat_message.html

InvalidEmailID

The email id specified is not valid.

Level : *Warning*

Log Message : *Email id is invalid: {EmailID}*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oInvalidEmailIDEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The InvalidEmailID message contains the following variables:

Table 1. InvalidEmailID Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. EmailID

The invalid email id.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv18EmailID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.18.1

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_operation_invalidemailid_message.html

MailHeaderAbsent

The optional input header - mailheader - is not mapped.

Level : *Info*

Log Message : *Optional input 'mailheader' parameter is not mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oMailHeaderAbsentEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The MailHeaderAbsent message contains the following variables:

Table 1. MailHeaderAbsent Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_ operation_mailheaderabsent_message.html

MailHeaderPresent

The optional input header - mailheader - is mapped.

Level : *Info*

Log Message : *Optional input 'mailheader' parameter is mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oMailHeaderPresentEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The MailHeaderPresent message contains the following variables:

Table 1. MailHeaderPresent Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_mailheaderpresent_message.html

MailsDeleted

The mails processed in the current poll have been deleted from the server.

Level : *Info*

Log Message : *Mails processed in this poll deleted from server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oMailsDeletedEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The MailsDeleted message contains the following variables:

Table 1. MailsDeleted Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_mailsdeleted_message.html

MailsToBeDeleted

There are some mails to be deleted as they were processed earlier.

Level : *Info*

Log Message : *{NumberOfEmails} mails to be deleted now as they were processed earlier.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oMailsToBeDeletedEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables


The MailsToBeDeleted message contains the following variables:

Table 1. MailsToBeDeleted Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. NumberOfEmails</p> <p>Number of mails to be deleted from the server.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv11NumberOfEmails • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.11.1

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_ operation_mailstobedeleted_message.html

NoEmailMatched

Could not find an email matching From and subject fields specified in configuration.

Level : *Info*

Log Message : *No emails matched on the server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oNoEmailMatchedEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : 6


Variables

The NoEmailMatched message contains the following variables:

Table 1. NoEmailMatched Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_noemailmatched_message.html

NoMailOnServer

No mail was found on server.

Level : *Info*

Log Message : *No mail found on the server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oNoMailOnServerEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The NoMailOnServer message contains the following variables:

Table 1. NoMailOnServer Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_nomailonserver_message.html

PatternIncorrect

Pattern specified in the activity is incorrect.

Level : *Severe*

Log Message : *From pattern "{FromPattern}" incorrect. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oPatternIncorrectEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The PatternIncorrect message contains the following variables:

Table 1. PatternIncorrect Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FromPattern

From Pattern Specified in the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv2FromPattern
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.2.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_patternincorrect_message.html

Pop3ConfigParams

Configuration parameters specified in the activity.

Level : *Info*

Log Message : *Config parameters: From Pattern: \{"{FromPattern}\", Subject Pattern: \{"{SubjectPattern}\".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oPop3ConfigParamsEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The Pop3ConfigParams message contains the following variables:

Table 1. Pop3ConfigParams Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FromPattern

From Pattern Specified in the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv1FromPattern
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.1.1


6. SubjectPattern

Subject Pattern Specified in the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv1SubjectPattern
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.1.2

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_operation_pop3configparams_message.html

Pop3DataError

A pop3 data error occurred while executing the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Data Error: {Message}*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oPop3DataErrorEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The Pop3DataError message contains the following variables:

Table 1. Pop3DataError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_pop3dataerror_message.html

Pop3MailSent

Activity has outputted 'mailheader' and 'body' output parameters. Mail marked for deletion from server

Level : *Info*

Log Message : *Outputted 'mailheader' and 'body' output parameters. Mail marked for deletion from server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oPop3MailSentEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The Pop3MailSent message contains the following variables:

Table 1. Pop3MailSent Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_ope-
 ration_pop3mailsent_message.html

Pop3NumMails

Number of mails found on the email server.

Level : *Info*

Log Message : *Number of emails on server is {NumberOfMails}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oPop3NumMailsEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The Pop3NumMails message contains the following variables:

Table 1. Pop3NumMails Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfMails

The number of mails found on email server.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv4NumberOfMails
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.4.1

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_pop3nummails_message.html

Pop3ServerError

A pop3 command unexpectedly returned an error while executing the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Unexpected error from server: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oPop3ServerErrorEv27*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *27*

Variables

The Pop3ServerError message contains the following variables:

Table 1. Pop3ServerError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_pop3servererror_message.html

SaveStateError

Error occurred while trying to save duplist state after disconnect. Will cleanup in next poll.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while trying to save duplist state after disconnect. Will cleanup in next poll.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSaveStateErrorEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The SaveStateError message contains the following variables:

Table 1. SaveStateError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_ope-
 ration_savestateerror_message.html

SetBCCFieldValue

Setting the value of 'BCC' field to specified value

Level : *Info*

Log Message : *Setting BCC: |"{Value}|".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSetBCCFieldValueEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *24*

Variables

The SetBCCFieldValue message contains the following variables:

Table 1. SetBCCFieldValue Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Value

The value to which BCC field is set.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv24Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.24.1

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_setbccfieldvalue_message.html

SetCCFieldValue

Setting the value of 'CC' field to specified value

Level : *Info*

Log Message : *Setting CC: |"{Value}|".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSetCCFieldValueEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *23*

Variables

The SetCCFieldValue message contains the following variables:

Table 1. SetCCFieldValue Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.
--

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Value

The value to which CC field is set.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv23Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.23.1

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_setccfieldvalue_message.html

SetFromFieldValue

Setting the value of 'From' field to specified value

Level : *Info*

Log Message : *Setting From: |"{Value}|"*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSetFromFieldValueEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *22*

Variables

The SetFromFieldValue message contains the following variables:


Table 1. SetFromFieldValue Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Value</p> <p>The value to which From field is set.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv22Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.22.1

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_operation_setfromfieldvalue_message.html

SetSubjectFieldValue

Setting the value of the 'Subject' field to the specified value.

Level : *Info*

Log Message : *Setting Subject: \{"{Value}"}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSetSubjectFieldValueEv25*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *25*

Variables

The SetSubjectFieldValue message contains the following variables:

Table 1. SetSubjectFieldValue Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Value

The value to which subject field is set.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv25Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.25.1

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_operation_setsubjectfieldvalue_message.html

SetToFieldValue

Setting the value of 'To' field to specified value

Level : *Info*

Log Message : *Setting To: "{Value}"*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSetToFieldValueEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *21*

Variables


The SetToFieldValue message contains the following variables:

Table 1. SetToFieldValue Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Value</p> <p>The value to which To field is set.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv21Value• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.21.1

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SmtplibConfigParams

Information regarding configuration parameters specified in email activity.

Level : *Info*

Log Message : *Config Parameters: From: \"{From}\", To: \"{To}\", CC: \"{CC}\", BCC: \"{BCC}\", Subject: \"{Subject}\".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSmtplibConfigParamsEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The SmtplibConfigParams message contains the following variables:

Table 1. SmtplibConfigParams Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. From

The value specified for From field.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv13From
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.13.1

6. To

The value specified for To field.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv13To
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.13.2

7. CC

The value specified for CC field.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv13CC
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.13.3

8. BCC

The value specified for BCC field.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv13BCC
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.13.4


9. Subject

The value specified for subject field.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv13Subject
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.13.5

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SntpDataError

Sntp data error occurred while executing the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Data Error: {Message}*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSntpDataErrorEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The SntpDataError message contains the following variables:

Table 1. SntpDataError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_smtpdataerror_message.html

SmtSendEmail

The activity is sending email to the server.

Level : *Info*

Log Message : *Sending email to server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSmtSendEmailEv26*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : 26

Variables

The SmtSendEmail message contains the following variables:

Table 1. SmtSendEmail Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_oration_smtpsendemail_message.html

SubjectPatternError

Subject pattern specified in the activity is incorrect.

Level : *Severe*

Log Message : *Subject pattern \"{SubjectPattern}\" incorrect. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oSubjectPatternErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables


The SubjectPatternError message contains the following variables:

Table 1. SubjectPatternError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. SubjectPattern</p> <p>Subject Pattern Specified in the activity.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7oEv3SubjectPattern• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.2.1.3.1
<p>6. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_operation_subjectpatternerror_message.html


Email Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Email Module.

- [BodyNull](#)
The 'body' input parameter from the container is null. This is an error condition.
- [Pop3InternalError](#)
Internal error occurred while executing pop3 activity.
- [SmtplibInternalError](#)
Internal error occurred while executing smtp activity.
- [ToAndCCEmpty](#)
There was no valid To, CC, BCC specified in the activity.

Parent topic: [Email Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_internal_notifications_list.html

BodyNull

The 'body' input parameter from the container is null. This is an error condition.

Level : *Severe*

Log Message : *Input parameter 'body' from container is NULL.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7iBodyNullEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.3*

SNMP Trap Number : 2


The BodyNull message contains the following variables:

Table 1. BodyNull Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_ternal_bodynull_message.html

Internal error occurred while executing pop3 activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7iPop3InternalErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The Pop3InternalError message contains the following variables:


Table 1. Pop3InternalError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_internal_pop3internalerror_message.html

SmtInternalError

Internal error occurred while executing smtp activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7iSmtInternalErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.3*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The SmtInternalError message contains the following variables:

Table 1. SmtInternalError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Email Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_ternal_smtpinternalerror_message.html

ToAndCCEmpty

There was no valid To, CC, BCC specified in the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *No valid To, CC or BCC email address found.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-EMAIL-MIB::ciC7iToAndCCEmptyEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.7.1.3*

SNMP Trap Number : *4*

Variables


The ToAndCCEmpty message contains the following variables:

Table 1. ToAndCCEmpty Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Email Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/email/email_ternal_toandcempty_message.html

FTP Module

The FTP Module provides connectivity to remote FTP servers. This section contains details for the messages delivered from the FTP Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the FTP Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the FTP Module.


Table 1. Notifications issued by the FTP Module

Notification	Level	System	Description
AppendAfter	Info	Orchestration	Response received after issuing an append command to the file on remote server.
AppendBefore	Info	Orchestration	In process of issuing an append command to the file on remote server.
ConnectionFailure	Severe	Orchestration	The FTP operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectionRetry	Warning	Orchestration	The FTP operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
DeleteAfter	Info	Orchestration	Response received when a file was deleted from the remote server.
DeleteBefore	Info	Orchestration	In process of deleting a file to the remote server.
DeleteDupListEntry	Info	Orchestration	Duplicate list is at maximum capacity. Removing a file from the duplicate list.
DeleteInfoSummary	Info	Orchestration	A complete summary of delete file activity configuration.
DirChangeAfter	Info	Orchestration	Changed to the specified directory on remote server.
DirChangeBefore	Info	Orchestration	Changing directory on the remote server.
DuplicateFile	Info	Orchestration	The file was previously processed by FTP poll activity.
EncodingError	Severe	Orchestration	The data encoding specified is not supported by FTP activity.
EndpointInfoSummary	Info	Orchestration	A complete summary of endpoint information specified.
FileNotMoved	Warning	Orchestration	File was not moved from original location as there is already another file in the destination location and overwrite option is false.
FileProcessed	Info	Orchestration	The file is processed by FTP activity and is left in place.
FileProcessingError	Warning	Orchestration	Error occurred while processing the file.
FtpPatternConversion	Warning	Orchestration	In the versions greater than 3.6 FTP use different style of pattern. If project is published from studio version before that, FTP will automatically change the pattern to new style.
GetAfter	Info	Orchestration	Response received when a file was downloaded to the remote server.

Notification	Level	System	Description
GetBefore	Info	Orchestration	In process of downloading a file to the remote server.
GetInfoSummary	Info	Orchestration	A complete summary of get file activity configuration.
InternalException	Severe	Orchestration	A internal error occurred while executing FTP activity.
ListAfter	Info	Orchestration	Response received when the directory was listed on the remote server.
ListBefore	Info	Orchestration	In process of listing a directory on the remote server.
ListFileSummary	Info	Orchestration	A complete summary of list file activity configuration.
NListAfter	Info	Orchestration	Response received when the directory was name listed on the remote server.
NListBefore	Info	Orchestration	In process of name listing a directory on the remote server.
OperationError	Severe	Orchestration	FTP activity was unable to perform operation on FTP server.
PutAfter	Info	Orchestration	Response received when a file was uploaded to the remote server.
PutBefore	Info	Orchestration	In process of uploading a file to the remote server.
PutDuplicateFileName	Severe	Orchestration	File with same name exists on the specified server location. Configuration specified not to overwrite, so erroring out.
PutEmptyFileName	Severe	Orchestration	The file name specified in put activity is empty.
PutInfoSummary	Info	Orchestration	A complete summary of put file activity configuration.
RenameAfter	Info	Orchestration	Response received when a file was renamed to the remote server.
RenameBefore	Info	Orchestration	In process of renaming a file to the remote server.
RenameDupError	Severe	Orchestration	Rename operation errored as file with same name already exists.
RenameInfoSummary	Info	Orchestration	A complete summary of get file activity configuration.
SshFingerprintInfo	Info	Orchestration	SSH finger print information for communication with FTP server.
SshModeInfo	Info	Orchestration	SSH mode information for communication with FTP server.
TimeStampError	Warning	Orchestration	The timestamp command is not supported by the FTP server. Continuing the FTP activity operation using default timestamp.
TimeStampCommand	Warning	Orchestration	The timestamp command is not supported by the FTP server. Continuing the FTP activity operation.
UnableToDelete	Warning	Orchestration	Error occurred while deleting file from the specified location.
UnableToMove	Warning	Orchestration	Error occurred while moving file to destination location.

- [FTP Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the FTP Module.
- [FTP Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the FTP Module.
- [FTP Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the FTP Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/about_the_ftp_module.html


FTP Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the FTP Module.

- [ConnectionFailure](#)
The FTP operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectionRetry](#)
The FTP operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Parent topic: [FTP Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_connection_notifications_list.html

ConnectionFailure

The FTP operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to the server "{ServerName}" after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6cConnectionFailureEv1*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.1

SNMP Trap Number : 1

Variables

The ConnectionFailure message contains the following variables:

Table 1. ConnectionFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ServerName</p> <p>The server name to which connection failed.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6cEv1ServerName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.1.1.1.1
<p>6. NumberOfRetryAttempts</p> <p>The total number of attempted retries.</p>

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6cEv1NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.1.1.1.2


7. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [FTP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_connection_connectionfailure_message.html

ConnectionRetry

The FTP operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to the server "{ServerName}". Error is: {Message} Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6cConnectionRetryEv2

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.1

SNMP Trap Number : 2

Variables

The ConnectionRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectionRetry Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ServerName

The server name to which connection failed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6cEv2ServerName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.1.1.2.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

7. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6cEv2RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.1.1.2.3

8. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6cEv2TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.1.1.2.4


9. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6cEv2IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.1.1.2.5

Parent topic: [FTP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_connection_connectionretry_message.html

FTP Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the FTP Module.


- [AppendAfter](#)
Response received after issuing an append command to the file on remote server.
- [AppendBefore](#)
In process of issuing an append command to the file on remote server.
- [DeleteAfter](#)
Response received when a file was deleted from the remote server.
- [DeleteBefore](#)
In process of deleting a file to the remote server.
- [DeleteDupListEntry](#)
Duplicate list is at maximum capacity. Removing a file from the duplicate list.
- [DeleteInfoSummary](#)
A complete summary of delete file activity configuration.
- [DirChangeAfter](#)
Changed to the specified directory on remote server.
- [DirChangeBefore](#)
Changing directory on the remote server.
- [DuplicateFile](#)
The file was previously processed by FTP poll activity.
- [EndpointInfoSummary](#)
A complete summary of endpoint information specified.
- [FileNotMoved](#)
File was not moved from original location as there is already another file in the destination location and overwrite option is false.
- [FileProcessed](#)
The file is processed by FTP activity and is left in place.

- [FileProcessingError](#)
Error occurred while processing the file.
- [FtpPatternConversion](#)
In the versions greater than 3.6 FTP use different style of pattern. If project is published from studio version before that, FTP will automatically change the pattern to new style.
- [GetAfter](#)
Response received when a file was downloaded to the remote server.
- [GetBefore](#)
In process of downloading a file to the remote server.
- [GetInfoSummary](#)
A complete summary of get file activity configuration.
- [ListAfter](#)
Response received when the directory was listed on the remote server.
- [ListBefore](#)
In process of listing a directory on the remote server.
- [ListFileSummary](#)
A complete summary of list file activity configuration.
- [NListAfter](#)
Response received when the directory was name listed on the remote server.
- [NListBefore](#)
In process of name listing a directory on the remote server.
- [OperationError](#)
FTP activity was unable to perform operation on FTP server.
- [PutAfter](#)
Response received when a file was uploaded to the remote server.
- [PutBefore](#)
In process of uploading a file to the remote server.
- [PutDuplicateFileName](#)
File with same name exists on the specified server location. Configuration specified not to overwrite, so erroring out.
- [PutEmptyFileName](#)
The file name specified in put activity is empty.
- [PutInfoSummary](#)
A complete summary of put file activity configuration.
- [RenameAfter](#)
Response received when a file was renamed to the remote server.
- [RenameBefore](#)
In process of renaming a file to the remote server.
- [RenameDupError](#)
Rename operation errored as file with same name already exists.
- [RenameInfoSummary](#)
A complete summary of get file activity configuration.
- [SshFingerprintInfo](#)
SSH finger print information for communication with FTP server.
- [SshModeInfo](#)
SSH mode information for communication with FTP server.
- [TimeStampError](#)
The timestamp command is not supported by the FTP server. Continuing the FTP activity operation using default timestamp.
- [TimestampCommand](#)
The timestamp command is not supported by the FTP server. Continuing the FTP activity operation.
- [UnableToDelete](#)
Error occurred while deleting file from the specified location.

- [UnableToMove](#)
Error occurred while moving file to destination location.

Parent topic: [FTP Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_notifications_list.html

AppendAfter

Response received after issuing an append command to the file on remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Append data to file "{FileName}" completed with return code {ResponseCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oAppendAfterEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The AppendAfter message contains the following variables:

Table 1. AppendAfter Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FileName

Name of the file to which append command was issued.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv4FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.4.1


6. ResponseCode

Response code returned by the remote server on the append command.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv4ResponseCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.4.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_appendafter_message.html

AppendBefore

In process of issuing an append command to the file on remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Appending data to file "{FileName}".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oAppendBeforeEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : 3


Variables

The AppendBefore message contains the following variables:

Table 1. AppendBefore Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. FileName</p> <p>Name of the file to which append command is being issued.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv3FileName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.3.1</i>

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_appendbefore_message.html

DeleteAfter

Response received when a file was deleted from the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Deleted file "{FileName}" on server with return code {ResponseCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oDeleteAfterEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The DeleteAfter message contains the following variables:

Table 1. DeleteAfter Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FileName

Name of the file which was deleted.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv12FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.12.1


6. ResponseCode

Response code returned by the remote server when file was deleted.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv12ResponseCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.12.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_deleteafter_message.html

DeleteBefore

In process of deleting a file to the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Deleting file "{FileName}" on server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oDeleteBeforeEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

Variables

The DeleteBefore message contains the following variables:

Table 1. DeleteBefore Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. FileName</p> <p>Name of the file which is being deleted.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv11FileName • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.11.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

DeleteDupLstEntry

Duplicate list is at maximum capacity. Removing a file from the duplicate list.

Level : *Info*

Log Message : *Duplicate list is at capacity, removing file "{FileName}" from duplicate list.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oDeleteDupLstEntryEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The DeleteDupLstEntry message contains the following variables:

Table 1. DeleteDupLstEntry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FileName

File name removed from duplicate list to purge it.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv20FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.20.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_deleteduplistentry_message.html

DeleteInfoSummary

A complete summary of delete file activity configuration.

Level : *Info*

Log Message : *Delete file summary - Directory: {DirName}, Filename: {FileName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oDeleteInfoSummaryEv34*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *34*

Variables

The DeleteInfoSummary message contains the following variables:

Table 1. DeleteInfoSummary Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. DirName

Directory name specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv34DirName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.34.1


6. FileName

File name specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv34FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.34.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

DirChangeAfter

Changed to the specified directory on remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Changed directory to "{DirectoryName}" completed with return code {ResponseCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oDirChangeAfterEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The DirChangeAfter message contains the following variables:

Table 1. DirChangeAfter Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. DirectoryName

Name of the directory on remote server.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv2DirectoryName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.2.1


6. ResponseCode

Response code returned by the remote server on the change directory command.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv2ResponseCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.2.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_dirchangeafter_message.html

DirChangeBefore

Changing directory on the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Changing to directory "{DirectoryName}".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oDirChangeBeforeEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The DirChangeBefore message contains the following variables:

Table 1. DirChangeBefore Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. DirectoryName

Name of the directory on remote server.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv1DirectoryName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.1.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_dirchangebefore_message.html

The file was previously processed by FTP poll activity.

Level : *Info*

Log Message : *File named "{FileName}" has already been processed previously. The previous timestamp was {Timestamp}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oDuplicateFileEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *24*

Variables

The DuplicateFile message contains the following variables:

Table 1. DuplicateFile Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. FileName</p>

The name of the file that was previously processed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv24FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.24.1


6. Timestamp

The time at which file was last processed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv24Timestamp
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.24.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_duplicatefile_message.html

EndpointInfoSummary

A complete summary of endpoint information specified.

Level : *Info*

Log Message : *FTP Endpoint Summary - Host: {HostName}, Port: {PortName}, UserName: {UserName}, Protocol: {Protocol}, Timeout: {Timeout}, FTP Mode: {FtpMode}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEndpointInfoSummaryEv36*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *36*

Variables

The EndpointInfoSummary message contains the following variables:

Table 1. EndpointInfoSummary Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. HostName

Host name specified in the endpoint configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv36HostName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.36.1

6. PortName

Port name specified in the endpoint configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv36PortName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.36.2

7. UserName

User name specified in the endpoint configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv36UserName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.36.3

8. Protocol

Protocol specified in the endpoint configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv36Protocol
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.36.4

9. Timeout

Timeout specified in the endpoint configuration.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv36Timeout
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.36.5


10. FtpMode

Active or Passive mode specified in the endpoint configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv36FtpMode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.36.6

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_endpointinfosummary_message.html

FileNotMoved

File was not moved from original location as there is already another file in the destination location and overwrite option is false.

Level : *Warning*

Log Message : *File "{FileName}" kept in place, will not overwrite.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oFileNotMovedEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *21*

Variables

The FileNotMoved message contains the following variables:

Table 1. FileNotMoved Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FileName

The name of the file which was not moved.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv21FileName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.21.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_filenotmoved_message.html

FileProcessed

The file is processed by FTP activity and is left in place.

Level : *Info*

Log Message : *Processed file "{FileName}". Leaving in place.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oFileProcessedEv25*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *25*

Variables

The FileProcessed message contains the following variables:

Table 1. FileProcessed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FileName

The name of the file that was processed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv25FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.25.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_fileprocessed_message.html

FileProcessingError

Error occurred while processing the file.

Level : *Warning*

Log Message : *Error processing file "{FileName}". Error is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oFileProcessingErrorEv26*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *26*

Variables

The FileProcessingError message contains the following variables:

Table 1. FileProcessingError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FileName

The name of the file that was not processed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv26FileName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.26.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_fileprocessingerror_message.html

FtpPatternConversion

In the versions greater than 3.6 FTP use different style of pattern. If project is published from studio version before that, FTP will automatically change the pattern to new style.

Level : *Warning*

Log Message : *Automatically converting old style FTP filename pattern from "{OldStylePattern}" to "{NewStylePattern}". Please republish project from Studio verison 3.6 or later to eliminate this warning.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oFtpPatternConversionEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The FtpPatternConversion message contains the following variables:

Table 1. FtpPatternConversion Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. OldStylePattern</p> <p>Old style pattern sent to FTP activity.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv17OldStylePattern
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.17.1


6. NewStylePattern

New style pattern automatically generated by FTP activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv17NewStylePattern
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.17.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_ftppatternconversion_message.html

GetAfter

Response received when a file was downloaded to the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Downloaded file "{FileName}" from server with return code {ResponseCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oGetAfterEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The GetAfter message contains the following variables:

Table 1. GetAfter Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FileName

Name of the file which was downloaded.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv8FileName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.8.1


6. ResponseCode

Response code returned by the remote server when file was downloaded.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv8ResponseCode
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.8.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_getafter_message.html

In process of downloading a file to the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Downloading file "{FileName}" from server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oGetBeforeEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The GetBefore message contains the following variables:


Table 1. GetBefore Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. FileName</p> <p>Name of the file which is being downloaded.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv7FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.7.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_getbefore_message.html

GetInfoSummary

A complete summary of get file activity configuration.

Level : *Info*

Log Message : *Get file summary - Directory: {DirName}, Filename: {FileName}, IsBinary? {BinaryOption}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oGetInfoSummaryEv30*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *30*

Variables

The GetInfoSummary message contains the following variables:

Table 1. GetInfoSummary Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. DirName

Directory name specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv30DirName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.30.1

6. FileName

File name specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv30FileName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.30.2


7. BinaryOption

Binary or Text value specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv30BinaryOption
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.30.3

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_getinfosummary_message.html

Response received when the directory was listed on the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Listing completed with a return code {ResponseCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oListAfterEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The ListAfter message contains the following variables:


Table 1. ListAfter Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ResponseCode</p> <p>Response code returned by the remote server when the directory was listed.</p>

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv14ResponseCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.14.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_listafter_message.html

ListBefore

In process of listing a directory on the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Getting a listing for pattern "{Pattern}" for current directory.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oListBeforeEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The ListBefore message contains the following variables:

Table 1. ListBefore Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Pattern

The pattern match used to list the directory.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv13Pattern
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.13.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_listbefore_message.html

ListFileSummary

A complete summary of list file activity configuration.

Level : *Info*

Log Message : *List directory summary - Directory: {DirName}, Pattern: {Pattern}, NLIST? {ListOption}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oListFileSummaryEv35*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *35*

Variables

The ListFileSummary message contains the following variables:

Table 1. ListFileSummary Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. DirName</p> <p>Directory name specified in the configuration.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv35DirName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.35.1
<p>6. Pattern</p> <p>Pattern specified in the configuration.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv35Pattern• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.35.2
<p>7. ListOption</p>

List or NList option specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv35ListOption
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.35.3

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_listfilessummary_message.html

NListAfter

Response received when the directory was name listed on the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Name listing completed with a return code {ResponseCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oNListAfterEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The NListAfter message contains the following variables:

Table 1. NListAfter Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ResponseCode

Response code returned by the remote server when the directory was name listed.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv16ResponseCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.16.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_nlistafter_message.html

NListBefore

In process of name listing a directory on the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Getting a name listing for pattern "{Pattern}" for current directory.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oNListBeforeEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

The NListBefore message contains the following variables:

Table 1. NListBefore Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Pattern</p> <p>The pattern match used to name list the directory.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv15Pattern• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.15.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_nlistbefore_message.html

OperationError

FTP activity was unable to perform operation on FTP server.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to perform operation "{OperationName}". Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oOperationErrorEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The OperationError message contains the following variables:

Table 1. OperationError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. OperationName

Name of the operation that could not be performed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv18OperationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.18.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_operationerror_message.html

PutAfter

Response received when a file was uploaded to the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Uploaded file "{FileName}" to server with return code {ResponseCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oPutAfterEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The PutAfter message contains the following variables:

Table 1. PutAfter Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FileName

Name of the file which was uploaded.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv6FileName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.6.1

6. ResponseCode

Response code returned by the remote server when file was uploaded.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv6ResponseCode
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.6.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

PutBefore

In process of uploading a file to the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Uploading file "{FileName}" to server.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oPutBeforeEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The PutBefore message contains the following variables:

Table 1. PutBefore Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FileName

Name of the file which is being uploaded.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv5FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.5.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_putbefore_message.html

PutDuplicateFileName

File with same name exists on the specified server location. Configuration specified not to overwrite, so erroring out.

Level : *Severe*

Log Message : *{FileName}: File with the same name exists on the FTP server. It is a duplicate!*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oPutDuplicateFileNameEv28*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *28*

Variables

The PutDuplicateFileName message contains the following variables:

Table 1. PutDuplicateFileName Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FileName

The name of file which already existed on the specified location.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv28FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.28.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_putduplicatefilename_message.html

PutEmptyFileName

The file name specified in put activity is empty.

Level : *Severe*

Log Message : *Filename is empty. Please specify valid filename.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oPutEmptyFileNameEv29*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *29*

Variables

The PutEmptyFileName message contains the following variables:

Table 1. PutEmptyFileName Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_putemptyfilename_message.html

PutInfoSummary

A complete summary of put file activity configuration.

Level : *Info*

Log Message : *Put file summary - Directory: {DirName}, Filename: {FileName}, Overwrite? {OverwriteOption}, IsBinary? {BinaryOption}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oPutInfoSummaryEv27*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *27*

Variables

The PutInfoSummary message contains the following variables:

Table 1. PutInfoSummary Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. DirName

Directory name specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv27DirName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.27.1

6. FileName

File name specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv27FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.27.2

7. OverwriteOption

Overwrite Option specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv27OverwriteOption
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.27.3


8. BinaryOption

Binary or Text value specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv27BinaryOption
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.27.4

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_putinfosummary_message.html

RenameAfter

Response received when a file was renamed to the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Renamed file from "{SrcFileName}" to "{DestFileName}" with return code {ResponseCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oRenameAfterEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The RenameAfter message contains the following variables:

Table 1. RenameAfter Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. SrcFileName

Name of the file which was renamed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv10SrcFileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.10.1

6. DestFileName

Name of the file which the file was renamed to.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv10DestFileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.10.2


7. ResponseCode

Response code returned by the remote server when file was renamed.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv10ResponseCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.10.3

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_renameafter_message.html

RenameBefore

In process of renaming a file to the remote server.

Level : *Info*

Log Message : *Renaming file from "{SrcFileName}" to "{DestFileName}".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oRenameBeforeEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *9*


Variables

The RenameBefore message contains the following variables:

Table 1. RenameBefore Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. SrcFileName</p> <p>Name of the file which is being renamed.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv9SrcFileName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.9.1
<p>6. DestFileName</p> <p>Name of the file which the file is being renamed to.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv9DestFileName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.9.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_renamebefore_message.html

RenameDupError

Rename operation errored as file with same name already exists.

Level : *Severe*

Log Message : *{FileName}: File with the same name exists on the FTP server. It is a duplicate!*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oRenameDupErrorEv33*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *33*

Variables

The RenameDupError message contains the following variables:

Table 1. RenameDupError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FileName

The name of file for whihc rename operation failed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv33FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.33.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_renameduperror_message.html

RenameInfoSummary

A complete summary of get file activity configuration.

Level : *Info*

Log Message : *Rename file summary - fromDirectory: {DirName}, fromFilename: {FromFileName}, toPath: {ToPath}, Overwrite: {OverwriteOption}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oRenameInfoSummaryEv32*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : 32

Variables

The RenameInfoSummary message contains the following variables:

Table 1. RenameInfoSummary Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. DirName

Directory name specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv32DirName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.32.1

6. FromFileName

Source file name specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv32FromFileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.32.2

7. ToPath

Destination path specified in the configuration.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv32ToPath
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.32.3


8. OverwriteOption

Overwrite option specified in the configuration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv32OverwriteOption
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.32.4

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_renameinfosummary_message.html

SshFingerprintInfo

SSH finger print information for communication with FTP server.

Level : *Info*

Log Message : *Finger print for host: {HostName} is {FingerprintInfo}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oSshFingerprintInfoEv37*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *37*

Variables

The SshFingerprintInfo message contains the following variables:

Table 1. SshFingerprintInfo Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. HostName

Host name for which finger print information is specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv37HostName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.37.1


6. FingerprintInfo

Finger print information for the specified host.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv37FingerprintInfo
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.37.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_sshfingerprintinfo_message.html

SSH mode information for communication with FTP server.

Level : *Info*

Log Message : *The SFTP key access is: {ModeInformation}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oSshModeInfoEv38*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *38*

Variables

The SshModeInfo message contains the following variables:


Table 1. SshModeInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ModeInformation</p> <p>SSH mode information for the communication with FTP server.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv38ModeInformation
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.38.1

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_sshmodeinfo_message.html

TimeStampError

The timestamp command is not supported by the FTP server. Continuing the FTP activity operation using default timestamp.

Level : *Warning*

Log Message : *MDTM command is not supported by FTP server, using default timestamp of "Jan 1, 1970" instead.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oTimeStampErrorEv31*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *31*

Variables

The TimeStampError message contains the following variables:

Table 1. TimeStampError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_timestamperror_message.html

TimestampCommand

The timestamp command is not supported by the FTP server. Continuing the FTP activity operation.

Level : *Warning*

Log Message : *MDTM command is not supported by FTP server, using timestamp from listing instead. Please consult manual for possible side effects.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oTimestampCommandEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The TimestampCommand message contains the following variables:

Table 1. TimestampCommand Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_timestampcommand_message.html

UnableToDelete

Error occurred while deleting file from the specified location.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not delete file "{FileName}" after processing. Error is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oUnableToDeleteEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : 23

Variables

The UnableToDelete message contains the following variables:

Table 1. UnableToDelete Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. FileName</p> <p>The name of file which was not deleted.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv23FileName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.23.1</i>
<p>6. Message</p>

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_unabletodelete_message.html

UnableToMove

Error occurred while moving file to destination location.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not move file "{FileName}" after processing. Error is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oUnableToMoveEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2*

SNMP Trap Number : *22*

Variables

The UnableToMove message contains the following variables:

Table 1. UnableToMove Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FileName

The name of file which was not moved.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6oEv22FileName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.2.1.22.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [FTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_operation_unabletomove_message.html

FTP Internal Notifications


Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the FTP Module.

- [EncodingError](#)
The data encoding specified is not supported by FTP activity.

- [InternalException](#)
A internal error occurred while executing FTP activity.

Parent topic: [FTP Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_internal_notifications_list.html

EncodingError

The data encoding specified is not supported by FTP activity.

Level : *Severe*

Log Message : *The data encoding specified: "{DataEncoding}" is not supported.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6iEncodingErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.3*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The EncodingError message contains the following variables:

Table 1. EncodingError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. DataEncoding

The data encoding that is not supported by FTP activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6iEv2DataEncoding
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.3.1.2.1

Parent topic: [FTP Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ftp/ftp_internal_encodingerror_message.html

InternalException

A internal error occurred while executing FTP activity.

Level : *Severe*

Log Message : *General FTP module exception. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-FTP-MIB::ciC6iInternalExceptionEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.6.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables


The InternalException message contains the following variables:

Table 1. InternalException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [FTP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

HTTP Module

The HTTP Module provides HTTP/HTTPS client and server facilities. This section contains details for the messages delivered from the HTTP Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the HTTP Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the HTTP Module.


Table 1. Notifications issued by the HTTP Module

Notification	Level	System	Description
AcceptEncodingType	Info	Orchestration	The type of Accept-Encoding in the request-header field.
ClientConMgrTimeout	Info	Orchestration	Setting the client connection manager timeout value. This is configurable on the JConsole.
ClientIdleTimeout	Info	Orchestration	The amount of idle time for the connection after which the connection can be reclaimed. This is configurable from the JConsole.
ClientMaxTotalConn	Info	Orchestration	Setting the client connection manager maximum number of connections from the JConsole.
ClientReclaimPeriod	Info	Orchestration	The number of seconds to wait before the reclaim thread is run to reclaim an idle connection. This is set from the JConsole.
CommonHandlerError	Severe	Orchestration	An error occurred handling the request received by the activity. Possible reasons are I/O or operation exceptions.
CompressFormat	Info	Orchestration	Indicates the type of Content-Encoding in the response from the server.
ConnectionRetry	Warning	Orchestration	The send request operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
ContentEncodingType	Info	Orchestration	The type of Content-Encoding used in the header in the outgoing request.
DecompressedEncoding	Info	Orchestration	Content-Encoding of the incoming request to the receive activity.
EndpointInformation	Info	Orchestration	Request for endpoint information.
GeneralRequestFailed	Severe	Orchestration	The send request failed while executing the activity.
HttpListenerStop	Info	Orchestration	Information regarding the stopping of a listener on a specific port.

Notification	Level	System	Description
HttpLoopBackValues	Info	Orchestration	Loopback port values set by the user, on the JConsole, and persisted in the sysconf.
IdleConTimeoutStart	Info	Orchestration	The idle connection timeout thread is enabled.
IdleConTimeoutStop	Info	Orchestration	The idle connection thread is disabled.
IncomingContentEnc	Info	Orchestration	The Content-Encoding type in the request header received by the receive activity
LoopBackInitialize	Info	Orchestration	Loopback values for initializing the MBean. It is set on the JConsole.
ReadConnectionParam	Info	Orchestration	The input connection parameter is not mapped by the user.
ReadInputHeaders	Info	Orchestration	The input parameter header is not mapped by the user.
ReceiveActivate	Severe	Orchestration	The receive activity failed to activate.
ReceiveDeActivate	Severe	Orchestration	The receive activity failed to stop.
ReceiveIOError	Severe	Orchestration	An I/O error occurred while the receive activity processed the request. Possible cause might be a broken connection.
ReceiveInternalError	Severe	Orchestration	An error occurred while the receive activity processed the request.
ReceiveOperationError	Severe	Orchestration	An error occurred while processing the request received by the receive activity due to an unsupported Accept-Charset encoding.
ReceiveResponseBody	Info	Orchestration	The response sent by the receive activity to a request.
ReceiveSendReplyError	Severe	Orchestration	A connection problem caused an error while sending the response from the receive activity.
ReceiveURIPortInfo	Info	Orchestration	Information regarding the URI and Port where the server is listening.
RegisterKeyStore	Severe	Orchestration	An error occurred while registering the key store.
ReplyCompressFormat	Info	Orchestration	The Content-Encoding used by the send reply activity.
ReplyConnectionError	Severe	Orchestration	An error occurred while sending the response. Probable cause is a connection error.
ReplyGeneralError	Severe	Orchestration	An internal error occurred while sending the reply from the receive activity.
ReplyHandlerNull	Severe	Orchestration	Connection handler stored in the receive activity and retrieved by the reply activity is null. This is an internal error and likely caused by an out of memory error or an appliance reboot while executing an activity.
ReplyUnMarshalHeader	Severe	Orchestration	An error occurred while reading input headers in the reply activity.

Notification	Level	System	Description
ReplyUnknownError	Severe	Orchestration	An unknown exception occurred while sending the response to the client.
RequestActivate	Severe	Orchestration	The request activity failed to activate.
RequestIgnoredHeader	Info	Orchestration	The header was ignored because it is not a supported type. Supported types are gzip, deflate or compress.
RequestParamsDetails	Info	Orchestration	Parameter details, including URL and method, used for the post activity
ResponseBodyBinary	Info	Orchestration	The response body is binary.
ResponseBodyNotBinary	Info	Orchestration	The response body is not binary.
ResponseDefinition	Info	Orchestration	Response definition received from the server for the performed post.
SendRequestConnection	Severe	Orchestration	The send request operation failed because a connection to the server could not be established.
SendRequestOperation	Severe	Orchestration	The Send Request operation failed either while starting the activity or while executing it. Caused by an I/O or operation exception.
ServerResponseCode	Info	Orchestration	Post response code received from the server.
SockCollectorFinish	Info	Orchestration	Information about the completion status of the Socket Janitor. The Socket Janitor is configured on the JConsole.
SockCollectorRunInfo	Info	Orchestration	Information about this run of the Socket Janitor. The Socket Janitor is configured on the JConsole.
SockCollectorSched	Info	Orchestration	Sets the frequency for garbage collection by the Socket Janitor. It is set on the JConsole.
StaleConnectionCheck	Info	Orchestration	Specifies if the stale connection check should be run on the connection manager. This is set (True or False) from the JConsole.
UnsupportedMedia	Warning	Orchestration	Request is an unsupported media type.
UnsolicitedEncoding	Severe	Orchestration	The server reply contains Content-Encoding which is not acceptable by the client.
UnsupportedEncoding	Severe	Orchestration	The Content-Encoding in the request header is not supported by the receive activity.

- [HTTP Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the HTTP Module.
- [HTTP Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the HTTP Module.
- [HTTP Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the HTTP Module.

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/about_the_http_module.html

HTTP Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the HTTP Module.

- [ClientConMgrTimeout](#)
Setting the client connection manager timeout value. This is configurable on the JConsole.
- [ClientIdleTimeout](#)
The amount of idle time for the connection after which the connection can be reclaimed. This is configurable from the JConsole.
- [ClientMaxTotalConn](#)
Setting the client connection manager maximum number of connections from the JConsole.
- [ClientReclaimPeriod](#)
The number of seconds to wait before the reclaim thread is run to reclaim an idle connection. This is set from the JConsole.
- [ConnectionRetry](#)
The send request operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [EndpointInformation](#)
Request for endpoint information.
- [HttpLoopBackValues](#)
Loopback port values set by the user, on the JConsole, and persisted in the sysconf.
- [ReadConnectionParam](#)
The input connection parameter is not mapped by the user.
- [ReceiveActivate](#)
The receive activity failed to activate.
- [ReceiveDeActivate](#)
The receive activity failed to stop.
- [ReceiveIOError](#)
An I/O error occurred while the receive activity processed the request. Possible cause might be a broken connection.
- [ReceiveSendReplyError](#)
A connection problem caused an error while sending the response from the receive activity.
- [ReplyConnectionError](#)
An error occurred while sending the response. Probable cause is a connection error.
- [SendRequestConnection](#)
The send request operation failed because a connection to the server could not be established.
- [StaleConnectionCheck](#)
Specifies if the stale connection check should be run on the connection manager. This is set (True or False) from the JConsole.

Parent topic: [HTTP Module](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_notifications_list.html

ClientConMgrTimeout

Setting the client connection manager timeout value. This is configurable on the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *Setting the client connection manager timeout at {TimeoutValue} seconds.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cClientConMgrTimeoutEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The ClientConMgrTimeout message contains the following variables:

Table 1. ClientConMgrTimeout Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TimeoutValue

The timeout value set for the client connection manager.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv11TimeoutValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.11.1

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_clientconmgrtimeout_message.html

ClientIdleTimeout

The amount of idle time for the connection after which the connection can be reclaimed. This is configurable from the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *Setting the client connection idle timeout at {TimeoutValue} seconds.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cClientIdleTimeoutEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The ClientIdleTimeout message contains the following variables:

Table 1. ClientIdleTimeout Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TimeoutValue

The Idle Timeout value set for a client connection.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv13TimeoutValue
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.13.1

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_clientidletimeout_message.html

ClientMaxTotalConn

Setting the client connection manager maximum number of connections from the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *Setting the client connection manager maximum number of connections at {MaxConnections}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cClientMaxTotalConnEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The ClientMaxTotalConn message contains the following variables:


Table 1. ClientMaxTotalConn Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. MaxConnections</p> <p>The maximum number of connections for the client connection manager.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv12MaxConnections
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.12.1

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_clientmaxtotalconn_message.html

ClientReclaimPeriod

The number of seconds to wait before the reclaim thread is run to reclaim an idle connection. This is set from the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *Setting the client connection reclaim period at {ReclaimPeriodValue} seconds.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cClientReclaimPeriodEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The ClientReclaimPeriod message contains the following variables:

Table 1. ClientReclaimPeriod Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ReclaimPeriodValue

The number of seconds to wait before the reclaim thread is run to reclaim an idle connection.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv14ReclaimPeriodValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.14.1

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_clientreclaimperiod_message.html

ConnectionRetry

The send request operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to the server. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cConnectionRetryEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The ConnectionRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectionRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2
<p>6. RetryAttemptNumber</p> <p>The current number of retries.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv2RetryAttemptNumber• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.2.2
<p>7. TotalRetryAttempts</p>

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv2TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.2.3


8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv2IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.2.4

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_connectionretry_message.html

EndpointInformation

Request for endpoint information.

Level : *Info*

Log Message : *{Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEndpointInformationEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The EndpointInformation message contains the following variables:

Table 1. EndpointInformation Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_endpointinformation_message.html

HttpLoopBackValues

Loopback port values set by the user, on the JConsole, and persisted in the sysconf.

Level : *Info*

Log Message : *The loopback port values persisted in the sysconf: {LoopBackString}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cHttpLoopBackValuesEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : 9


Variables

The HttpLoopBackValues message contains the following variables:

Table 1. HttpLoopBackValues Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. LoopBackString</p> <p>String containing the loopback port values set on the JConsole.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv9LoopBackString• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.9.1

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_httploopbackvalues_message.html

ReadConnectionParam

The input connection parameter is not mapped by the user.

Level : *Info*

Log Message : *The input connection parameter is not mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cReadConnectionParamEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The ReadConnectionParam message contains the following variables:

Table 1. ReadConnectionParam Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_readconnectionparam_message.html

ReceiveActivate

The receive activity failed to activate.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while activating the activity. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cReceiveActivateEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The ReceiveActivate message contains the following variables:

Table 1. ReceiveActivate Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_receiveactivate_message.html

ReceiveDeActivate

The receive activity failed to stop.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while stopping the receive activity. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cReceiveDeActivateEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*


SNMP Trap Number : 6

Variables

The ReceiveDeActivate message contains the following variables:

Table 1. ReceiveDeActivate Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_receivedeactivate_message.html

ReceiveIOError

An I/O error occurred while the receive activity processed the request. Possible cause might be a broken connection.

Level : *Severe*

Log Message : *An I/O error occurred while processing the request. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cReceiveIOErrorEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The ReceiveIOError message contains the following variables:

Table 1. ReceiveIOError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_receiveioerror_message.html

ReceiveSendReplyError

A connection problem caused an error while sending the response from the receive activity.

Level : *Severe*

Log Message : *A connection error occurred while sending the receive activity response. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cReceiveSendReplyErrorEv7*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The ReceiveSendReplyError message contains the following variables:

Table 1. ReceiveSendReplyError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_receivesendreplyerror_message.html

ReplyConnectionError

An error occurred while sending the response. Probable cause is a connection error.

Level : *Severe*

Log Message : *A connection error occurred while sending the response. Error is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cReplyConnectionErrorEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The ReplyConnectionError message contains the following variables:

Table 1. ReplyConnectionError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_replyconnectionerror_message.html

SendRequestConnection

The send request operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cSendRequestConnectionEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The SendRequestConnection message contains the following variables:

Table 1. SendRequestConnection Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv1NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_sendrequestconnection_message.html

StaleConnectionCheck

Specifies if the stale connection check should be run on the connection manager. This is set (True or False) from the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *Setting the stale connection check at {StaleConnection}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cStaleConnectionCheckEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The StaleConnectionCheck message contains the following variables:


Table 1. StaleConnectionCheck Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. StaleConnection</p> <p>Value (True or False) of stale connection check.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Boolean

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1cEv15StaleConnection
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.1.1.15.1

Parent topic: [HTTP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_connection_staleconnectioncheck_message.html

HTTP Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the HTTP Module.

- [AcceptEncodingType](#)
The type of Accept-Encoding in the request-header field.
- [CommonHandlerError](#)
An error occurred handling the request received by the activity. Possible reasons are I/O or operation exceptions.
- [CompressFormat](#)
Indicates the type of Content-Encoding in the response from the server.
- [ContentEncodingType](#)
The type of Content-Encoding used in the header in the outgoing request.
- [DecompressedEncoding](#)
Content-Encoding of the incoming request to the receive activity.
- [HttpListenerStop](#)
Information regarding the stopping of a listener on a specific port.
- [IncomingContentEnc](#)
The Content-Encoding type in the request header received by the receive activity
- [ReadInputHeaders](#)
The input parameter header is not mapped by the user.
- [ReceiveOperationError](#)
An error occurred while processing the request received by the receive activity due to an unsupported Accept-Charset encoding.
- [ReceiveResponseBody](#)
The response sent by the receive activity to a request.
- [ReceiveURIPortInfo](#)
Information regarding the URI and Port where the server is listening.
- [RegisterKeyStore](#)
An error occurred while registering the key store.
- [ReplyCompressFormat](#)
The Content-Encoding used by the send reply activity.
- [ReplyUnMarshalHeader](#)
An error occurred while reading input headers in the reply activity.
- [RequestActivate](#)
The request activity failed to activate.

- [RequestIgnoredHeader](#)
The header was ignored because it is not a supported type. Supported types are gzip, deflate or compress.
- [RequestParamsDetails](#)
Parameter details, including URL and method, used for the post activity
- [ResponseBodyBinary](#)
The response body is binary.
- [ResponseBodyNotBinary](#)
The response body is not binary.
- [ResponseDefinition](#)
Response definition received from the server for the performed post.
- [SendRequestOperation](#)
The Send Request operation failed either while starting the activity or while executing it. Caused by an I/O or operation exception.
- [ServerResponseCode](#)
Post response code received from the server.
- [UnsupportedMedia](#)
Request is an unsupported media type.
- [UnsolicitedEncoding](#)
The server reply contains Content-Encoding which is not acceptable by the client.
- [UnsupportedEncoding](#)
The Content-Encoding in the request header is not supported by the receive activity.

Parent topic: [HTTP Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_notifications_list.html

AcceptEncodingType

The type of Accept-Encoding in the request-header field.

Level : *Info*

Log Message : *The type of Accept-Encoding in the request-header field is {AcceptEncodingValue}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oAcceptEncodingTypeEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables


The AcceptEncodingType message contains the following variables:

Table 1. AcceptEncodingType Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. AcceptEncodingValue</p> <p>The type of Accept-Encoding header.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv12AcceptEncodingValue• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.12.1

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

CommonHandlerError

An error occurred handling the request received by the activity. Possible reasons are I/O or operation exceptions.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred handling a receive request. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oCommonHandlerErrorEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *22*

Variables

The CommonHandlerError message contains the following variables:

Table 1. CommonHandlerError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_commonhandlererror_message.html

CompressFormat

Indicates the type of Content-Encoding in the response from the server.

Level : *Info*

Log Message : *The response Content-Encoding from the server is {ContentEncodingValue}. Decompressing the body.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oCompressFormatEv15

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2

SNMP Trap Number : 15

Variables

The CompressFormat message contains the following variables:

Table 1. CompressFormat Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ContentEncodingValue

The type of Content-Encoding in the response header.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv15ContentEncodingValue
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.15.1

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_compressformat_message.html

ContentEncodingType

The type of Content-Encoding used in the header in the outgoing request.

Level : *Info*

Log Message : *The Content-Encoding header is {ContentEncodingValue}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oContentEncodingTypeEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *11*


Variables

The ContentEncodingType message contains the following variables:

Table 1. ContentEncodingType Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ContentEncodingValue</p> <p>The type of Content-Encoding used in the header.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv11ContentEncodingValue• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.11.1

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_contentencodingtype_message.html

DecompressedEncoding

Content-Encoding of the incoming request to the receive activity.

Level : *Info*

Log Message : *The Content-Encoding of the incoming request is {ContentEncodingValue}. Decompressing the body.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oDecompressedEncodingEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The DecompressedEncoding message contains the following variables:

Table 1. DecompressedEncoding Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ContentEncodingValue

Type of Content-Encoding header.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv13ContentEncodingValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.13.1

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_decompressedencoding_message.html

HttpListenerStop

Information regarding the stopping of a listener on a specific port.

Level : *Info*

Log Message : *There are no more activities to listen for on port {PortNumber}. Stopping the listener on port {PortNumber}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oHttpListenerStopEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *24*

Variables


The HttpListenerStop message contains the following variables:

Table 1. HttpListenerStop Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. PortNumber</p> <p>Port number where the listener is stopped.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv24PortNumber • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.24.1

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_httplistenerstop_message.html

IncomingContentEnc

The Content-Encoding type in the request header received by the receive activity

Level : *Info*

Log Message : *Content-Encoding header received: {ContentEncodingHeader}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oIncomingContentEncEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The IncomingContentEnc message contains the following variables:

Table 1. IncomingContentEnc Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ContentEncodingHeader

The type of Content-Encoding in the request header.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv19ContentEncodingHeader
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.19.1

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_incomingcontentenc_message.html

ReadInputHeaders

The input parameter header is not mapped by the user.

Level : *Info*

Log Message : *The input parameter header is not set.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oReadInputHeadersEv5

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2

SNMP Trap Number : 5

Variables

The ReadInputHeaders message contains the following variables:

Table 1. ReadInputHeaders Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_readinputheaders_message.html

ReceiveOperationError

An error occurred while processing the request received by the receive activity due to an unsupported Accept-Charset encoding.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred while trying to process an unsupported Accept-Charset encoding. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oReceiveOperationErrorEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables


The ReceiveOperationError message contains the following variables:

Table 1. ReceiveOperationError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_receiveoperationerror_message.html

ReceiveResponseBody

The response sent by the receive activity to a request.

Level : *Info*

Log Message : *Response is : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oReceiveResponseBodyEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *21*

Variables

The ReceiveResponseBody message contains the following variables:

Table 1. ReceiveResponseBody Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_receiverresponsebody_message.html

ReceiveURIPortInfo

Information regarding the URI and Port where the server is listening.

Level : *Info*

Log Message : *Parameters: URI: "{URIValue}", Port: {PortValue}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oReceiveURIPortInfoEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *23*

Variables

The ReceiveURIPortInfo message contains the following variables:

Table 1. ReceiveURIPortInfo Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. URIValue

The URI the server is listening on.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv23URIValue
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.23.1


6. PortValue

The port number the server is listening on.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv23PortValue
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.23.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_receiveuriportinfo_message.html

RegisterKeyStore

An error occurred while registering the key store.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred while setting the key store. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oRegisterKeyStoreEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The RegisterKeyStore message contains the following variables:


Table 1. RegisterKeyStore Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_registerkeystore_message.html

ReplyCompressFormat

The Content-Encoding used by the send reply activity.

Level : *Info*

Log Message : *The response Content-Encoding is {ContentEncodingValue}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oReplyCompressFormatEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The ReplyCompressFormat message contains the following variables:

Table 1. ReplyCompressFormat Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ContentEncodingValue

The type of Content-Encoding header.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv14ContentEncodingValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.14.1

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_replycompressformat_message.html

ReplyUnMarshalHeader

An error occurred while reading input headers in the reply activity.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred while reading headers. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oReplyUnMarshalHeaderEv25*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *25*

Variables


The ReplyUnMarshalHeader message contains the following variables:

Table 1. ReplyUnMarshalHeader Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

RequestActivate

The request activity failed to activate.

Level : *Severe*

Log Message : *An exception occurred while activating the activity. The exception is :{Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oRequestActivateEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The RequestActivate message contains the following variables:

Table 1. RequestActivate Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_requestactivate_message.html

RequestIgnoredHeader

The header was ignored because it is not a supported type. Supported types are gzip, deflate or compress.

Level : *Info*

Log Message : *The Value:"{HeaderVal}" set for Http Header:"{HeaderName}" was ignored because the type is not supported.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oRequestIgnoredHeaderEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The RequestIgnoredHeader message contains the following variables:

Table 1. RequestIgnoredHeader Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. HeaderVal

The incorrect type.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv1HeaderVal
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.1.1


6. HeaderName

The header containing the incorrect type.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv1HeaderName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.1.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_requestignoredheader_message.html

RequestParamsDetails

Parameter details, including URL and method, used for the post activity

Level : *Info*

Log Message : *Parameters: URL: "{URL}", Method: "{MethodName}"*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oRequestParamsDetailsEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *6*

Variables

The RequestParamsDetails message contains the following variables:

Table 1. RequestParamsDetails Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. URL</p> <p>The URL used to perform Http post.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv6URL
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.6.1


6. MethodName

Method specified for the post activity

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv6MethodName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.6.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_requestparamsdetails_message.html

ResponseBodyBinary

The response body is binary.

Level : *Info*

Log Message : *The response is binary.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oResponseBodyBinaryEv9

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2

SNMP Trap Number : 9

Variables

The ResponseBodyBinary message contains the following variables:

Table 1. ResponseBodyBinary Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_responsebodybinary_message.html

ResponseBodyNotBinary

The response body is not binary.

Level : *Info*

Log Message : *The response is not binary.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oResponseBodyNotBinaryEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables


The ResponseBodyNotBinary message contains the following variables:

Table 1. ResponseBodyNotBinary Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_responsebodynotbinary_message.html

ResponseDefinition

Response definition received from the server for the performed post.

Level : *Info*

Log Message : *Response definition received from the server: {ResponseDef}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oResponseDefinitionEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The ResponseDefinition message contains the following variables:


Table 1. ResponseDefinition Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ResponseDef</p> <p>Response message received from the server. For example, OK for success.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv8ResponseDef
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.8.1

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_responsedefinition_message.html

SendRequestOperation

The Send Request operation failed either while starting the activity or while executing it. Caused by an I/O or operation exception.

Level : *Severe*

Log Message : *The request operation failed. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oSendRequestOperationEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The SendRequestOperation message contains the following variables:

Table 1. SendRequestOperation Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_sendrequestoperation_message.html

ServerResponseCode

Post response code received from the server.

Level : *Info*

Log Message : *Post response code received from the server: {ResponseCode}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oServerResponseCodeEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables


The ServerResponseCode message contains the following variables:

Table 1. ServerResponseCode Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ResponseCode</p> <p>Response code received from the server. For example, 200 is for success.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv7ResponseCode• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.7.1

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

UnSupportedMedia

Request is an unsupported media type.

Level : *Warning*

Log Message : *Request is an unsupported media type. Response definition: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oUnSupportedMediaEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The UnSupportedMedia message contains the following variables:

Table 1. UnSupportedMedia Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_unsupportedmedia_message.html

UnsolicitedEncoding

The server reply contains Content-Encoding which is not acceptable by the client.

Level : *Severe*

Log Message : *The server response contained an unsolicited Content-Encoding: {ContentEncoding}. Acceptable values are: {AcceptEncoding}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oUnsolicitedEncodingEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The UnsolicitedEncoding message contains the following variables:

Table 1. UnsolicitedEncoding Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ContentEncoding

The Content-Encoding in the server reply.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv2ContentEncoding
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.2.1


6. AcceptEncoding

Encodings which are acceptable by the client.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oEv2AcceptEncoding
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_unsolicitedencoding_message.html

UnsupportedEncoding

The Content-Encoding in the request header is not supported by the receive activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1oUnsupportedEncodingEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The UnsupportedEncoding message contains the following variables:


Table 1. UnsupportedEncoding Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_operation_unsupportedencoding_message.html

HTTP Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the HTTP Module.

- [GeneralRequestFailed](#)
The send request failed while executing the activity.
- [IdleConTimeoutStart](#)
The idle connection timeout thread is enabled.
- [IdleConTimeoutStop](#)
The idle connection thread is disabled.
- [LoopBackInitialize](#)
Loopback values for initializing the MBean. It is set on the JConsole.
- [ReceiveInternalError](#)
An error occurred while the receive activity processed the request.
- [ReplyGeneralError](#)
An internal error occurred while sending the reply from the receive activity.
- [ReplyHandlerNull](#)
Connection handler stored in the receive activity and retrieved by the reply activity is null. This is an internal error and likely caused by an out of memory error or an appliance reboot while executing an activity.
- [ReplyUnknownError](#)
An unknown exception occurred while sending the response to the client.
- [SockCollectorFinish](#)
Information about the completion status of the Socket Janitor. The Socket Janitor is configured on the JConsole.
- [SockCollectorRunInfo](#)
Information about this run of the Socket Janitor. The Socket Janitor is configured on the JConsole.
- [SockCollectorSched](#)
Sets the frequency for garbage collection by the Socket Janitor. It is set on the JConsole.

Parent topic: [HTTP Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

GeneralRequestFailed

The send request failed while executing the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *The send request failed. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iGeneralRequestFailedEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The GeneralRequestFailed message contains the following variables:

Table 1. GeneralRequestFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_generalrequestfailed_message.html

IdleConTimeoutStart

The idle connection timeout thread is enabled.

Level : *Info*

Log Message : *Starting the idle connection timeout thread.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iIdleConTimeoutStartEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The IdleConTimeoutStart message contains the following variables:

Table 1. IdleConTimeoutStart Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_idlecontimeoutstart_message.html

IdleConTimeoutStop

The idle connection thread is disabled.

Level : *Info*

Log Message : *Stopping the idle connection timeout thread.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iIdleConTimeoutStopEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

Variables


The IdleConTimeoutStop message contains the following variables:

Table 1. IdleConTimeoutStop Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_idlecontimeoutstop_message.html

LoopBackInitialize

Loopback values for initializing the MBean. It is set on the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *Initializing the values in the MBean: {LoopBackString}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iLoopBackInitializeEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The LoopBackInitialize message contains the following variables:

Table 1. LoopBackInitialize Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. LoopBackString

String containing the port values set for loopback.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iEv4LoopBackString
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3.1.4.1

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_loopbackinitialize_message.html

ReceiveInternalError

An error occurred while the receive activity processed the request.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred while processing the request. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iReceiveInternalErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The ReceiveInternalError message contains the following variables:

Table 1. ReceiveInternalError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_receiveinternalerror_message.html

ReplyGeneralError

An internal error occurred while sending the reply from the receive activity.

Level : *Severe*

Log Message : *A general error occurred while sending the response. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iReplyGeneralErrorEv2*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

Variables

The ReplyGeneralError message contains the following variables:

Table 1. ReplyGeneralError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

ReplyHandlerNull

Connection handler stored in the receive activity and retrieved by the reply activity is null. This is an internal error and likely caused by an out of memory error or an appliance reboot while executing an activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Connection handler retrieved from the call context is Null!*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iReplyHandlerNullEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The ReplyHandlerNull message contains the following variables:

Table 1. ReplyHandlerNull Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_replyhandlernull_message.html

ReplyUnknownError

An unknown exception occurred while sending the response to the client.

Level : *Severe*

Log Message : *An unknown exception occurred while sending the response to the client. Exception: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iReplyUnknownErrorEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The ReplyUnknownError message contains the following variables:

Table 1. ReplyUnknownError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_inter
nal_replyunknownerror_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_inter
nal_replyunknownerror_message.html)

SockCollectorFinish

Information about the completion status of the Socket Janitor. The Socket Janitor is configured on the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *The Socket Janitor has completed this run.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iSockCollectorFinishEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

Variables


The SockCollectorFinish message contains the following variables:

Table 1. SockCollectorFinish Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_sockcollectorfinish_message.html

SockCollectorRunInfo

Information about this run of the Socket Janitor. The Socket Janitor is configured on the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *Information about this run of the Socket Janitor.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iSockCollectorRunInfoEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

SNMP Trap Number : *8*


Variables

The SockCollectorRunInfo message contains the following variables:

Table 1. SockCollectorRunInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_sockcollectorrinfo_message.html

SockCollectorSched

Sets the frequency for garbage collection by the Socket Janitor. It is set on the JConsole.

Level : *Info*

Log Message : *Schedules the Socket Janitor to run every {TimeInterval}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iSockCollectorSchedEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The SockCollectorSched message contains the following variables:

Table 1. SockCollectorSched Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TimeInterval

The time interval between runs of the Socket Janitor.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-HTTP-MIB::ciC1iEv7TimeInterval
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.1.1.3.1.7.1

Parent topic: [HTTP Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/http/http_internal_sockcollectorsched_message.html

JD Edwards Module

JD Edwards Module. This section contains details for the messages delivered from the JD Edwards Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the JD Edwards Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15*


The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the JD Edwards Module.

Table 1. Notifications issued by the JD Edwards Module

Notification	Level	System	Description
ActivateSuccessful	Info	Orchestration	JDE activity was activated successfully.

Notification	Level	System	Description
ActivateUnSuccessful	Info	Orchestration	The activity which was not activated successfully. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time.
ActivityError	Severe	Orchestration	The specified activity was not successful.
ActivitySuccessful	Info	Orchestration	The specified activity was successful.
ClassesMissing	Severe	Orchestration	JDE is missing classes required to start the activity. Please install the libraries from the WMC.
CloseConnectionError	Severe	Orchestration	Error occurred while closing the connection to JDE.
ConnectException	Warning	Orchestration	Error while connecting to JDE.
ConnectPoolRelease	Warning	Orchestration	There was an error while closing the connection pool.
CreateSchemaError	Severe	Orchestration	Error occurred while creating request schema for the business function.
DataStructureError	Severe	Orchestration	Error occurred while creating a schema for the business function name.
DisconnectException	Warning	Orchestration	Error while disconnecting from JDE.
GetConnectionError	Severe	Orchestration	Error occurred while creating a connection to JDE.
JDEConnectError	Severe	Orchestration	The JDE operation failed because a connection to the server could not be established.
JDEInternalError	Severe	Orchestration	Error occurred while processing the request.
JDERetryError	Warning	Orchestration	The JDE operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
MakeConnectionError	Warning	Orchestration	There was an error while creating a connection to destination.
NumberFormatError	Warning	Orchestration	There was an error due to invalid port number.
ResourceCleanError	Severe	Orchestration	Error occurred while closing the statement or result set in database.
ResponseSchemaError	Severe	Orchestration	Error occurred while creating response schema for the business function.
SetUpInfo	Warning	Orchestration	JDE activity got warning or error messages while setting up the specified activity.
UnsupportedEncoding	Severe	Orchestration	Error while processing unsupported encoding.

- [JD Edwards Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the JD Edwards Module.
- [JD Edwards Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the JD Edwards Module.
- [JD Edwards Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the JD Edwards Module.

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/about_the_jde_module.html

JD Edwards Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the JD Edwards Module.

- [ActivateUnSuccessful](#)
The activity which was not activated successfully. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time.
- [CloseConnectionError](#)
Error occurred while closing the connection to JDE.
- [ConnectException](#)
Error while connecting to JDE.
- [ConnectPoolRelease](#)
There was an error while closing the connection pool.
- [DisconnectException](#)
Error while disconnecting from JDE.
- [GetConnectionError](#)
Error occurred while creating a connection to JDE.
- [JDEConnectError](#)
The JDE operation failed because a connection to the server could not be established.
- [JDERetryError](#)
The JDE operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [MakeConnectionError](#)
There was an error while creating a connection to destination.

Parent topic: [JD Edwards Module](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_notifications_list.html

ActivateUnSuccessful

The activity which was not activated successfully. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time.

Level : *Info*

Log Message : *Error connecting to JDE system while activating activity {ActivityName}, error is: {Message}.
Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cActivateUnSuccessfulEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ActivateUnSuccessful message contains the following variables:

Table 1. ActivateUnSuccessful Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity which was activated successfully.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cEv1ActivityName

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1.1.1.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_activateunsuccessful_message.html

CloseConnectionError

Error occurred while closing the connection to JDE.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while closing connection to JDE. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cCloseConnectionErrorEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The CloseConnectionError message contains the following variables:

Table 1. CloseConnectionError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_closeconnectionerror_message.html

ConnectException

Error while connecting to JDE.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while connecting to JDE. The error is : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cConnectExceptionEv6*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1

SNMP Trap Number : 6

Variables

The ConnectException message contains the following variables:

Table 1. ConnectException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_connectexception_message.html

ConnectPoolRelease

There was an error while closing the connection pool.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while closing the connection pool. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cConnectPoolReleaseEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The ConnectPoolRelease message contains the following variables:

Table 1. ConnectPoolRelease Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_connectpoolrelease_message.html

DisconnectException

Error while disconnecting from JDE.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while disconnecting from JDE. The error is : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cDisconnectExceptionEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The DisconnectException message contains the following variables:

Table 1. DisconnectException Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_disconnectexception_message.html

GetConnectionError

Error occurred while creating a connection to JDE.

Level : Severe

Log Message : Exception while creating connection to JDE. The Exception is {Message}

System : Orchestration

SNMP Name : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cGetConnectionErrorEv9

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1

SNMP Trap Number : 9

Variables

The GetConnectionError message contains the following variables:


Table 1. GetConnectionError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_getconnectionerror_message.html

JDEConnectError

The JDE operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to JDE after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cJDEConnectErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The JDEConnectError message contains the following variables:

Table 1. JDEConnectError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cEv2NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1.1.2.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_jdeconnecterror_message.html

JDERetryError

The JDE operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Connection error while executing activity {ActivityName}. The error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s)*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cJDERetryErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The JDERetryError message contains the following variables:

Table 1. JDERetryError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity which faced errors.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cEv3ActivityName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1.1.3.1</i>
<p>6. Message</p>

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

7. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cEv3RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1.1.3.3

8. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cEv3TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1.1.3.4


9. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cEv3IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1.1.3.5

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_jderetryerror_message.html

MakeConnectionError

There was an error while creating a connection to destination.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while creating the connection to destination. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15cMakeConnectionErrorEv5*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.1

SNMP Trap Number : 5


Variables

The MakeConnectionError message contains the following variables:

Table 1. MakeConnectionError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Connection Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_connection_makeconnectionerror_message.html

JD Edwards Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the JD Edwards Module.

- [ActivateSuccessful](#)
JDE activity was activated successfully.
- [ActivityError](#)
The specified activity was not successful.
- [ActivitySuccessful](#)
The specified activity was successful.
- [ClassesMissing](#)
JDE is missing classes required to start the activity. Please install the libraries from the WMC.
- [CreateSchemaError](#)
Error occurred while creating request schema for the business function.
- [DataStructureError](#)
Error occurred while creating a schema for the business function name.
- [NumberFormatError](#)
There was an error due to invalid port number.
- [ResourceCleanError](#)
Error occurred while closing the statement or result set in database.
- [ResponseSchemaError](#)
Error occurred while creating response schema for the business function.
- [SetUpInfo](#)
JDE activity got warning or error messages while setting up the specified activity.
- [UnsupportedEncoding](#)
Error while processing unsupported encoding.

Parent topic: [JD Edwards Module](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_notifications_list.html

ActivateSuccessful

JDE activity was activated successfully.

Level : *Info*

Log Message : *Activity {ActivityName} activated successfully*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oActivateSuccessfulEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The ActivateSuccessful message contains the following variables:


Table 1. ActivateSuccessful Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity which was activated successfully.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv5ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.5.1

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_activatesuccessful_message.html

ActivityError

The specified activity was not successful.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while trying to execute activity {ActivityName}. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oActivityErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The ActivityError message contains the following variables:

Table 1. ActivityError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The activity which was not successful.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv4ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.4.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_activityerror_message.html

ActivitySuccessful

The specified activity was successful.

Level : *Info*

Log Message : *{ActivityName} executed and outputted response output parameter*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oActivitySuccessfulEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The ActivitySuccessful message contains the following variables:

Table 1. ActivitySuccessful Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity which was successful.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv3ActivityName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.3.1</i>

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_activitysuccessful_message.html

ClassesMissing

JDE is missing classes required to start the activity. Please install the libraries from the WMC.

Level : *Severe*

Log Message : *Missing classes when trying to start activity {ActivityName}. JDE library may need to be installed on the appliance. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oClassesMissingEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ClassesMissing message contains the following variables:

Table 1. ClassesMissing Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The activity name which failed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv1ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.1.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_classesmissing_message.html

CreateSchemaError

Error occurred while creating request schema for the business function.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while creating request schema for the business function {FunctionName}, function code {FunctionCode}, module code {ModuleCode}. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oCreateSchemaErrorEv8*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2

SNMP Trap Number : 8

Variables

The CreateSchemaError message contains the following variables:

Table 1. CreateSchemaError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. FunctionName</p> <p>The name of function for which error occurred.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv8FunctionName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.8.1
<p>6. FunctionCode</p> <p>The code of function for which error occurred.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv8FunctionCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.8.2

7. ModuleCode

The code of module for which error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv8ModuleCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.8.3


8. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_createschemaerror_message.html

DataStructureError

Error occurred while creating a schema for the business function name.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while creating a schema for the business function name {FunctionName}, function code {FunctionCode}, module code {ModuleCode}. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oDataStructureErrorEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The DataStructureError message contains the following variables:

Table 1. DataStructureError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FunctionName

The name of function for which error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv11FunctionName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.11.1

6. FunctionCode

The code of function for which error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv11FunctionCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.11.2

7. ModuleCode

The code of module for which error occurred.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv11ModuleCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.11.3


8. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_datastructureerror_message.html

NumberFormatError

There was an error due to invalid port number.

Level : *Warning*

Log Message : *Invalid port number : {PortNumber}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oNumberFormatErrorEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The NumberFormatError message contains the following variables:

Table 1. NumberFormatError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. PortNumber

The invalid port number which was entered.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv6PortNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.6.1

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_numberformaterror_message.html

ResourceCleanError

Error occurred while closing the statement or result set in database.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while closing the statement or result set. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oResourceCleanErrorEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : *10*


Variables

The ResourceCleanError message contains the following variables:

Table 1. ResourceCleanError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_resourcecleanerror_message.html

ResponseSchemaError

Error occurred while creating response schema for the business function.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while creating request schema for the business function {FunctionName}, function code {FunctionCode}, module code {ModuleCode}. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oResponseSchemaErrorEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The ResponseSchemaError message contains the following variables:

Table 1. ResponseSchemaError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FunctionName

The name of function for which error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv9FunctionName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.9.1

6. FunctionCode

The code of function for which error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv9FunctionCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.9.2

7. ModuleCode

The code of module for which error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv9ModuleCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.9.3


8. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SetUpInfo

JDE activity got warning or error messages while setting up the specified activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Warning/error messages while doing setup for {ActivityName}: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oSetUpInfoEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The SetUpInfo message contains the following variables:

Table 1. SetUpInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The activity name which faced warnings or error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oEv2ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2.1.2.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_setupinfo_message.html

UnsupportedEncoding

Error while processing unsupported encoding.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while processing unsupported encoding. Exception : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15oUnsupportedEncodingEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.2*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The UnsupportedEncoding message contains the following variables:

Table 1. UnsupportedEncoding Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_operation_unsupportedencoding_message.html

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the JD Edwards Module.

- [JDEInternalerror](#)
Error occurred while processing the request.

Parent topic: [JD Edwards Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_internal_notifications_list.html

JDEInternalerror

Error occurred while processing the request.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while processing request. Exception : {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JDE-MIB::ciC15iJDEInternalerrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.15.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The JDEInternalerror message contains the following variables:

Table 1. JDEInternalerror Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JD Edwards Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jde/jde_internal_jdeinternalerror_message.html

JMS Module

JMS Module. This section contains details for the messages delivered from the JMS Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the JMS Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the JMS Module.

Table 1. Notifications issued by the JMS Module


Notification	Level	System	Description
--------------	-------	--------	-------------

Notification	Level	System	Description
ConnectionPoolError	Warning	Orchestration	Error occurred while returning connection to the pool. Continuing the activity.
FactoryUnknownError	Severe	Orchestration	Unknown exception while looking up the connection factory
FirstID	Warning	Orchestration	The appliance is in recovery mode and the first message specified is not matching the id specified of delivered message. Messages in the queue is tampered and will impact the delivery of messages
GetConnectRetry	Warning	Orchestration	The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
GetMarshallError	Severe	Orchestration	Error occurred while marshalling the JMS message.
JMSError	Severe	Orchestration	Error occurred while getting message from the provider.
LibraryNotInstalled	Severe	Orchestration	This error may be due to JMS Provider library being not installed on the appliance. Please install the JMS provider library using Web management console.
MakeConnectError	Severe	Orchestration	Error occurred while creating the connection to destination.
NamingException	Severe	Orchestration	Naming exception occurred while getting message from destination.
NoMessage	Info	Orchestration	There is no message to be retrieved from the destination specified.
PollMessageError	Severe	Orchestration	Error occurred while getting a message from queue.
PollMessageRetry	Warning	Orchestration	The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
PoolFactoryError	Severe	Orchestration	Error occurred while looking up for connection factory.
PoolReleaseError	Severe	Orchestration	Error occurred while closing the connection pool.
PooledConnException	Warning	Orchestration	A JMS Connection exception occurred while the connection was in the idle pool. This can occur if the JMS provider terminates the connection ungracefully.
RecoveryInfo	Info	Orchestration	The activity is recovering and its skipping message with specified id as its already delivered.
RecoveryInfo	Info	Orchestration	The JMS connector is in recovery mode.
RestartError	Severe	Orchestration	Error occurred while trying to restart the subscriber on the specified topic.
SendConnectRerty	Warning	Orchestration	The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
SendMarshallError	Severe	Orchestration	Error occurred while unmarshalling the JMS message.
SendMessageError	Severe	Orchestration	Error occurred while sending message.

Notification	Level	System	Description
SendNamingException	Severe	Orchestration	Naming exception occurred while sending message to destination.
SubscriberConfigError	Severe	Orchestration	Error occurred while configuring the subscriber activity.
SubscriberConnect	Severe	Orchestration	The JMS operation failed while trying to connect to the server.
SubscriberError	Severe	Orchestration	Error occurred while subscribing the message. This message should be re-delivered manually from the Provider.
SubscriberNameError	Severe	Orchestration	Naming exception occurred while configuring the subscriber activity.
SubscriberStartInfo	Info	Orchestration	Subscriber started successfully for the specified topic.
UnsubscribeError	Warning	Orchestration	Error occurred while unsubscribing on the topic.

- [JMS Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the JMS Module.
- [JMS Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the JMS Module.
- [JMS Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the JMS Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/about_the_jms_module.html

JMS Connection Notifications


Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the JMS Module.

- [ConnectionPoolError](#)
Error occurred while returning connection to the pool. Continuing the activity.
- [FactoryUnknownError](#)
Unknown exception while looking up the connection factory
- [GetConnectRetry](#)
The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [MakeConnectError](#)
Error occurred while creating the connection to destination.
- [PollMessageRetry](#)
The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

- [PoolFactoryError](#)
Error occurred while looking up for connection factory.
- [PoolReleaseError](#)
Error occurred while closing the connection pool.
- [PooledConnException](#)
A JMS Connection exception occurred while the connection was in the idle pool. This can occur if the JMS provider terminates the connection ungracefully.
- [RecoveryInfo](#)
The JMS connector is in recovery mode.
- [RestartError](#)
Error occurred while trying to restart the subscriber on the specified topic.
- [SendConnectRerty](#)
The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [SubscriberConnect](#)
The JMS operation failed while trying to connect to the server.

Parent topic: [JMS Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_notifications_list.html

ConnectionPoolError

Error occurred while returning connection to the pool. Continuing the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Exception while returning connection to pool. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cConnectionPoolErrorEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The ConnectionPoolError message contains the following variables:

Table 1. ConnectionPoolError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String
--

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_connectionpoolerror_message.html

FactoryUnknownError

Unknown exception while looking up the connection factory

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while looking up the connection factory {Message}. The exception is unknown error message from Provider.One of the reason for the error is If the provider is ActiveMQ and the binding file name or path is not correct.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cFactoryUnknownErrorEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The FactoryUnknownError message contains the following variables:


Table 1. FactoryUnknownError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_factoryunknownerror_message.html

GetConnectRetry

The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Connection exception while getting message from the provider. The error code is {ErrorCode} and message is {ErrorMessage}. The job is retrying {RetryAttemptNumber}, out of {TotalRetryAttempts} attempts to connect to JMS provider. The next attempt will be after {IntervalForRetries} seconds.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cGetConnectRetryEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The GetConnectRetry message contains the following variables:

Table 1. GetConnectRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ErrorCode

The error code specified in the error message

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv1ErrorCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.1.1

6. ErrorMessage

The error message specified in the error message

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv1ErrorMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.1.2

7. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv1RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.1.3

8. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv1TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.1.4

9. IntervalForRetries


The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv1IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.1.5

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_getconnectretry_message.html

MakeConnectError

Error occurred while creating the connection to destination.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while creating the connection to destination. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cMakeConnectErrorEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The MakeConnectError message contains the following variables:

Table 1. MakeConnectError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_makeconnecterror_message.html

PollMessageRetry

The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Connection exception while polling message. The exception is {Message}. The job is retrying {RetryAttemptNumber} out of {TotalRetryAttempts} attempt to connect to JMS provider. The next attempt will be after {IntervalForRetries} secs.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cPollMessageRetryEv4*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : *4*

The PollMessageRetry message contains the following variables:

Table 1. PollMessageRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2
<p>6. RetryAttemptNumber</p> <p>The current number of retries.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv4RetryAttemptNumber• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.4.2

7. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv4TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.4.3


8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv4IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.4.4

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_pollmessengeretry_message.html

PoolFactoryError

Error occurred while looking up for connection factory.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while looking up the connection factory {FactoryName}. The exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cPoolFactoryErrorEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The PoolFactoryError message contains the following variables:

Table 1. PoolFactoryError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FactoryName

Name of the provider connection factory.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv7FactoryName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.7.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

PoolReleaseError

Error occurred while closing the connection pool.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while closing the connection pool. The Exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cPoolReleaseErrorEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The PoolReleaseError message contains the following variables:

Table 1. PoolReleaseError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_poolreleaseerror_message.html

PooledConnException

A JMS Connection exception occurred while the connection was in the idle pool. This can occur if the JMS provider terminates the connection ungracefully.

Level : *Warning*

Log Message : *Exception received on JMS connection while it was in the idle connections pool. The error code is: {ErrorCode}, and the exception is: {ErrorMessage}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cPooledConnExceptionEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The PooledConnException message contains the following variables:

Table 1. PooledConnException Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ErrorCode

The error code specified in the exception

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv12ErrorCode
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.12.1


6. ErrorMessage

The error message specified in the exception

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv12ErrorMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.12.2

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_pooledconnexception_message.html

RecoveryInfo

The JMS connector is in recovery mode.

Level : *Info*

Log Message : *The jms connector is in recovery mode.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cRecoveryInfoEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*


SNMP Trap Number : 3

Variables

The RecoveryInfo message contains the following variables:

Table 1. RecoveryInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_recoveryinfo_message.html

RestartError

Error occurred while trying to restart the subscriber on the specified topic.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to start the subscriber for the topic {TopicName}. Will try to start the subscriber after {IntervalForRestart} seconds*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cRestartErrorEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The RestartError message contains the following variables:

Table 1. RestartError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. TopicName

The name of specified topic.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv10TopicName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.10.1


6. IntervalForRestart

The specified time interval for restart.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv10IntervalForRestart
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.10.2

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_restartererror_message.html

SendConnectRerty

The JMS operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Connection exception while sending message. The error code is {ErrorCode} and exception is {ErrorMessage}. The job is retrying {RetryAttemptNumber} out of {TotalRetryAttempts} attempt to connect to JMS provider. The next attempt will be after {IntervalForRetries} secs.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cSendConnectRertyEv2*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1

SNMP Trap Number : 2

Variables

The SendConnectRerty message contains the following variables:

Table 1. SendConnectRerty Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ErrorCode</p> <p>The error code specified in the error message</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv2ErrorCode• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.2.1
<p>6. ErrorMessage</p> <p>The error message specified in the error message</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv2ErrorMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.2.2

7. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv2RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.2.3

8. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv2TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.2.4


9. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv2IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.2.5

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_sendconnectrety_message.html

SubscriberConnect

The JMS operation failed while trying to connect to the server.

Level : *Severe*

Log Message : *Connection exception in the subscriber. The exception is {Message}. Going to restart the subscriber after the {IntervalForRestart} secs*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cSubscriberConnectEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1*

Variables

The SubscriberConnect message contains the following variables:


Table 1. SubscriberConnect Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2
<p>6. IntervalForRestart</p> <p>The specified time interval for restart.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8cEv9IntervalForRestart

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.1.1.9.2

Parent topic: [JMS Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_connection_subscriberconnect_message.html


JMS Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the JMS Module.

- [FirstID](#)
The appliance is in recovery mode and the first message specified is not matching the id specified of delivered message. Messages in the queue is tampered and will impact the delivery of messages
- [NamingException](#)
Naming exception occurred while getting message from destination.
- [NoMessage](#)
There is no message to be retrieved from the destination specified.
- [RecoveryInfo](#)
The activity is recovering and its skipping message with specified id as its already delivered.
- [SendMessageError](#)
Error occurred while sending message.
- [SendNamingException](#)
Naming exception occurred while sending message to destination.
- [SubscriberConfigError](#)
Error occurred while configuring the subscriber activity.
- [SubscriberError](#)
Error occurred while subscribing the message. This message should be re-delivered manually from the Provider.
- [SubscriberNameError](#)
Naming exception occurred while configuring the subscriber activity.
- [SubscriberStartInfo](#)
Subscriber started successfully for the specified topic.
- [UnsubscribeError](#)
Error occurred while unsubscribing on the topic.

Parent topic: [JMS Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

FirstID

The appliance is in recovery mode and the first message specified is not matching the id specified of delivered message. Messages in the queue is tampered and will impact the delivery of messages

Level : *Warning*

Log Message : *The appliance is in recovery mode and the first message id {JMSMessageID} is not matching the id {FirstMessageID} of delivered message. Messages in the queue is tampered and will impact the delivery of messages.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oFirstIDEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : *3*

Variables

The FirstID message contains the following variables:

Table 1. FirstID Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. JMSMessageID

JMS message ID specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv3JMSMessageID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.3.1


6. FirstMessageID

First message ID specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv3FirstMessageID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.3.2

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_firstid_message.html

NamingException

Naming exception occurred while getting message from destination.

Level : *Severe*

Log Message : *Naming exception while getting message to destination. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oNamingExceptionEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables


The NamingException message contains the following variables:

Table 1. NamingException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_namingexception_message.html

NoMessage

There is no message to be retrieved from the destination specified.

Level : *Info*

Log Message : *There is no message to be retrieved from the destination {Destination}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oNoMessageEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The NoMessage message contains the following variables:

Table 1. NoMessage Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Destination

The destination from which message was to be retrieved.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv2Destination
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.2.1

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_nomessage_message.html

RecoveryInfo

The activity is recovering and its skipping message with specified id as its already delivered.

Level : *Info*

Log Message : *The activity is recovering and the message with id: {MessageID} is already delivered. Skipping it*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oRecoveryInfoEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : *6*

Variables

The RecoveryInfo message contains the following variables:

Table 1. RecoveryInfo Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. MessageID

The message ID specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv6MessageID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.6.1

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_recoveryinfo_message.html

SendMessageError

Error occurred while sending message.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while sending message. The error code is {ErrorCode} and message is {ErrorMessage}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oSendMessageErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

Variables

The SendMessageError message contains the following variables:


Table 1. SendMessageError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ErrorCode</p> <p>The error code specified in the error message</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv4ErrorCode • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.4.1
<p>6. ErrorMessage</p> <p>The error message specified in the error message</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv4ErrorMessage

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.4.2

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_sendmessageerror_message.html

SendNamingException

Naming exception occurred while sending message to destination.

Level : *Severe*

Log Message : *Naming exception while sending message to destination. The exception is {Message} not found*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oSendNamingExceptionEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The SendNamingException message contains the following variables:

Table 1. SendNamingException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_sendnamingexception_message.html

SubscriberConfigError

Error occurred while configuring the subscriber activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while configuring the subscriber activity. The exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oSubscriberConfigErrorEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables


The SubscriberConfigError message contains the following variables:

Table 1. SubscriberConfigError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SubscriberError

Error occurred while subscribing the message. This message should be re-delivered manually from the Provider.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception in subscribing the message. The Exception is: {Message} for message id: {MessageID}, This message should be re-delivered manually from the Provider.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oSubscriberErrorEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The SubscriberError message contains the following variables:

Table 1. SubscriberError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2


6. MessageID

The message ID specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv7MessageID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.7.2

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_subscribererror_message.html

SubscriberNameError

Naming exception occurred while configuring the subscriber activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Naming exception while configuring the subscriber activity. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oSubscriberNameErrorEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The SubscriberNameError message contains the following variables:

Table 1. SubscriberNameError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_subscribernameerror_message.html

Subscriber started successfully for the specified topic.

Level : *Info*

Log Message : *Subscriber started successfully for the topic {TopicName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oSubscriberStartInfoEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The SubscriberStartInfo message contains the following variables:


Table 1. SubscriberStartInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. TopicName</p> <p>The name of specified topic.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv11TopicName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.11.1

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_subscriberstartinfo_message.html

UnsubscribeError

Error occurred while unsubscribing on the topic.

Level : *Warning*

Log Message : *Exception while unsubscribing on the topic {Topic}. The error code is {ErrorCode} and message is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oUnsubscribeErrorEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The UnsubscribeError message contains the following variables:

Table 1. UnsubscribeError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Topic

Name of the topic destination being unsubscribed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv10Topic
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.10.1

6. ErrorCode

The error code specified in the error message

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8oEv10ErrorCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.2.1.10.2


7. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_operation_unsubscribeerror_message.html


JMS Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the JMS Module.

- [GetMarshallError](#)
Error occurred while marshalling the JMS message.
- [JMSError](#)
Error occurred while getting message from the provider.
- [LibraryNotInstalled](#)
This error may be due to JMS Provider library being not installed on the appliance. Please install the JMS provider library using Web management console.
- [PollMessageError](#)
Error occurred while getting a message from queue.
- [SendMarshallError](#)
Error occurred while unmarshalling the JMS message.

Parent topic: [JMS Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_internal_notifications_list.html

GetMarshallError

Error occurred while marshalling the JMS message.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while marshalling the jms message. The exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8iGetMarshallErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The GetMarshallError message contains the following variables:

Table 1. GetMarshallError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.
--

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_internal_getmarshallerror_message.html

JMSError

Error occurred while getting message from the provider.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while getting message from the provider. The error code is {ErrorCode} and message is {ErrorMessage}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8iJMSErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.3*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The JMSError message contains the following variables:

Table 1. JMSError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ErrorCode</p> <p>The error code specified in the error message</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8iEv2ErrorCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.3.1.2.1


6. ErrorMessage

The error message specified in the error message

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8iEv2ErrorMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.3.1.2.2

Parent topic: [JMS Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_internal_jmserror_message.html

LibraryNotInstalled

This error may be due to JMS Provider library being not installed on the appliance. Please install the JMS provider library using Web management console.

Level : *Severe*

Log Message : *This error may be due to JMS Provider library being not installed on the appliance. Please install the JMS provider library using Web management console. The error is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8iLibraryNotInstalledEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.3*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The LibraryNotInstalled message contains the following variables:

Table 1. LibraryNotInstalled Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_internal_librarynotinstalled_message.html

PollMessageError

Error occurred while getting a message from queue.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while getting the message from the queue. The Exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8iPollMessageErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.3*

SNMP Trap Number : *4*


Variables

The PollMessageError message contains the following variables:

Table 1. PollMessageError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_internal_pollmessageerror_message.html

SendMarshalError

Error occurred while unmarshalling the JMS message.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while unmarshalling the jms message. The exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JMS-MIB::ciC8iSendMarshalErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.8.1.3*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The SendMarshalError message contains the following variables:

Table 1. SendMarshalError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JMS Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/jms/jms_internal_sendmarshallerror_message.html

JSON Module

The JSON Module provides activities for generating and parsing JSON content. This section contains details for the messages delivered from the JSON Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the JSON Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-JSON-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.21*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the JSON Module.


Table 1. Notifications issued by the JSON Module

Notification	Level	System	Description
JSONParseError	Severe	Orchestration	There was an error while parsing the JSON.

Notification	Level	System	Description
JSONSerializeError	Severe	Orchestration	There was an error while serializing the JSON.
TransformError	Severe	Orchestration	There was an error while transforming the JSON.

- [JSON Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the JSON Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/json/about_the_json_module.html


JSON Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the JSON Module.

- [JSONParseError](#)
There was an error while parsing the JSON.
- [JSONSerializeError](#)
There was an error while serializing the JSON.
- [TransformError](#)
There was an error while transforming the JSON.

Parent topic: [JSON Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/json/json_operation_notifications_list.html

JSONParseError

There was an error while parsing the JSON.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to parse JSON, error was: {ErrorMessage}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JSON-MIB::ciC21oJSONParseErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.21.1.2*

SNMP Trap Number : *1*


Variables

The JSONParseError message contains the following variables:

Table 1. JSONParseError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ErrorMessage</p> <p>The error message returned while parsing the JSON.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-JSON-MIB::ciC21oEv1ErrorMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.21.1.2.1.1.1

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/json/json_operation_jsonparseerror_message.html

JSONSerializeError

There was an error while serializing the JSON.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to serialize JSON, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JSON-MIB::ciC21oJSONSerializeErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.21.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The JSONSerializeError message contains the following variables:

Table 1. JSONSerializeError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JSON Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/json/json_operation_jsonserializeerror_message.html

TransformError

There was an error while transforming the JSON.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to transform JSON, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-JSON-MIB::ciC21oTransformErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.21.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The TransformError message contains the following variables:

Table 1. TransformError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [JSON Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/json/json_operation_transformerror_message.html

Log Module

The Log activity allows users to log messages in the orchestration. This section contains details for the messages delivered from the Log Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Log Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-LOGACTIVITY-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.25*


The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Log Module.

Table 1. Notifications issued by the Log Module

Notification	Level	System	Description
FailLogMessage	Severe	Orchestration	The Log activity failed.

- [Log Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Log Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/logactivity/about_the_logactivity_module.html


Log Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Log Module.

- [FailLogMessage](#)
The Log activity failed.

Parent topic: [Log Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/logactivity/logactivity_operation_notifications_list.html

FailLogMessage

The Log activity failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to log message, error was {ErrorMsg}*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-LOGACTIVITY-MIB::ciC25oFailLogMessageEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.25.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The FailLogMessage message contains the following variables:

Table 1. FailLogMessage Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ErrorMsg

The log activity failed due to this error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-LOGACTIVITY-MIB::ciC25oEv1ErrorMsg
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.25.1.2.1.1.1

Parent topic: [Log Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/logactivity/logactivity_operation_faillogmessage_message.html

MIME Module

The MIME Module provides activities for creating and parsing Multipurpose Internet Mail Extensions. This section contains details for the messages delivered from the MIME Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the MIME Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the MIME Module.

Table 1. Notifications issued by the MIME Module

Notification	Level	System	Description
AttachmentNumber	Info	Orchestration	Activity is processing the specified attachment number.
AttachmentsFound	Info	Orchestration	The activity found specified number of attachments.
AutoGeneratedBody	Info	Orchestration	No boundary value was specified for multiple parts attachment. Using auto-generated boundary.
BoundaryAbsent	Info	Orchestration	Boundary attribute not set in input parameter 'mimeheader'. Input body being set as entityBody in first entity of 'parts' output parameter.
BoundaryInfo	Info	Orchestration	Boundary of mime attachment is as specified.
BoundaryMoreThan70	Warning	Orchestration	Boundary delimiters longer than 70 characters. Ignoring the specified boundary value. Using auto-generated boundary.
BoundarySpecified	Info	Orchestration	Activity found boundary in mime message.


Notification	Level	System	Description
DefaultContentType	Info	Orchestration	Activity did not find any content type specified. Setting content type to text/plain.
EmptyParts	Severe	Orchestration	The input parameter - parts - is empty and there is no data to serialize.
FoundBoundary	Info	Orchestration	Activity found boundary parameter in the mime message.
HeaderAbsent	Severe	Orchestration	Empty input parameter 'mimeheader'. was found. Activity cannot parse data.
InputBodyNull	Severe	Orchestration	Input parameter body from container is NULL. This is due to internal exception.
MainAndSubType	Severe	Orchestration	The main and sub type found in content type.
MainType	Info	Orchestration	Main type specified in the serialize activity.
MimeHeaderMapped	Info	Orchestration	Optional input parameter 'mimeheader' is mapped.
MimeHeaderNotMapped	Info	Orchestration	Optional input parameter 'mimeheader' was not mapped in the activity.
NoAttachments	Severe	Orchestration	Activity did not find any attachments to serialize.
NoBoundaryFound	Warning	Orchestration	Boundary was specified in header but no boundary found in the body. Returning single body.
NoPartBody	Info	Orchestration	This part does not have any body. Setting blank body.
NumberOfParts	Info	Orchestration	The number of parts found in the mime message.
ParseActivityDone	Info	Orchestration	The activity has outputted parts output parameter.
ParseException	Severe	Orchestration	Error occurred while parsing the data.
SerialActivityDone	Info	Orchestration	The activity is done outputting mimeheader and body output parameters.
SerializeException	Severe	Orchestration	Error occurred while serializing the data.
SubType	Info	Orchestration	Sub Type found in content type of the message.
TransferEncChanged	Warning	Orchestration	The attachment body has lines greater than 998 characters in length. Changing the Content-Transfer-Encoding to binary.
TransferEncLimit	Severe	Orchestration	Entities of type specified cannot have any other Content-Transfer-Encoding apart from 7bit.
TransferEncMissing	Warning	Orchestration	Content-Transfer-Encoding value is missing for specified attachment number . Guessing based on Content-Type and charset values.
TransferEncodingError	Severe	Orchestration	Content-Transfer-Encoding specified in Composite media type cannot be any other apart from 7bit, 8bit or binary.
TransferEncodingValue	Info	Orchestration	Activity found Content-Transfer-Encoding.

- [MIME Operation Notifications](#)

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the MIME Module.

- [MIME Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the MIME Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/about_the_mime_module.html

MIME Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the MIME Module.

- [AttachmentNumber](#)
Activity is processing the specified attachment number.
- [AttachmentsFound](#)
The activity found specified number of attachments.
- [AutoGeneratedBody](#)
No boundary value was specified for multiple parts attachment. Using auto-generated boundary.
- [BoundaryAbsent](#)
Boundary attribute not set in input parameter 'mimeheader'. Input body being set as entityBody in first entity of 'parts' output parameter.
- [BoundaryInfo](#)
Boundary of mime attachment is as specified.
- [BoundaryMoreThan70](#)
Boundary delimiters longer than 70 characters. Ignoring the specified boundary value. Using auto-generated boundary.
- [BoundarySpecified](#)
Activity found boundary in mime message.
- [DefaultContentType](#)
Activity did not find any content type specified. Setting content type to text/plain.
- [EmptyParts](#)
The input parameter - parts - is empty and there is no data to serialize.
- [FoundBoundary](#)
Activity found boundary parameter in the mime message.
- [HeaderAbsent](#)
Empty input parameter 'mimeheader'. was found. Activity cannot parse data.
- [MainAndSubType](#)
The main and sub type found in content type.
- [MainType](#)
Main type specified in the serialize activity.
- [MimeHeaderMapped](#)
Optional input parameter 'mimeheader' is mapped.
- [MimeHeaderNotMapped](#)
Optional input parameter 'mimeheader' was not mapped in the activity.
- [NoAttachments](#)
Activity did not find any attachments to serialize.

- [NoBoundaryFound](#)
Boundary was specified in header but no boundary found in the body. Returning single body.
- [NoPartBody](#)
This part does not have any body. Setting blank body.
- [NumberOfParts](#)
The number of parts found in the mime message.
- [ParseActivityDone](#)
The activity has outputted parts output parameter.
- [SerialActivityDone](#)
The activity is done outputting mimeheader and body output parameters.
- [SerializeException](#)
Error occurred while serializing the data.
- [SubType](#)
Sub Type found in content type of the message.
- [TransferEncChanged](#)
The attachment body has lines greater than 998 characters in length. Changing the Content-Transfer-Encoding to binary.
- [TransferEncLimit](#)
Entities of type specified cannot have any other Content-Transfer-Encoding apart from 7bit.
- [TransferEncMissing](#)
Content-Transfer-Encoding value is missing for specified attachment number . Guessing based on Content-Type and charset values.
- [TransferEncodingError](#)
Content-Transfer-Encoding specified in Composite media type cannot be any other apart from 7bit, 8bit or binary.
- [TransferEncodingValue](#)
Activity found Content-Transfer-Encoding.

Parent topic: [MIME Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_notifications_list.html

AttachmentNumber

Activity is processing the specified attachment number.

Level : *Info*

Log Message : *Processing attachment number {AttachmentNumber}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oAttachmentNumberEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

Variables

The AttachmentNumber message contains the following variables:

Table 1. AttachmentNumber Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. AttachmentNumber</p> <p>The attachment number activity is currently processing.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv3AttachmentNumber • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.3.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

AttachmentsFound

The activity found specified number of attachments.

Level : *Info*

Log Message : *The number of attachments found is {NumberOfAttach}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oAttachmentsFoundEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The AttachmentsFound message contains the following variables:

Table 1. AttachmentsFound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfAttach

The number of attachments found by the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv10NumberOfAttach
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.10.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_attachmentsfound_message.html

AutoGeneratedBody

No boundary value was specified for multiple parts attachment. Using auto-generated boundary.

Level : *Info*

Log Message : *No boundary value specified for multiple parts attachment. Using auto-generated boundary: {Boundary}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oAutoGeneratedBodyEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The AutoGeneratedBody message contains the following variables:

Table 1. AutoGeneratedBody Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Boundary

The auto generated body which is used.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv19Boundary
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.19.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_autogeneratedbody_message.html

BoundaryAbsent

Boundary attribute not set in input parameter 'mimeheader'. Input body being set as entityBody in first entity of 'parts' output parameter.

Level : *Info*

Log Message : *Boundary attribute not set in input parameter 'mimeheader'. Input body being set as entityBody in first entity of 'parts' output parameter.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oBoundaryAbsentEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The BoundaryAbsent message contains the following variables:

Table 1. BoundaryAbsent Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_ope-
 ration_boundaryabsent_message.html

BoundaryInfo

Boundary of mime attachment is as specified.

Level : *Info*

Log Message : *Boundary is: \{"{Boundary}"*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oBoundaryInfoEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The BoundaryInfo message contains the following variables:

Table 1. BoundaryInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Boundary

The boundary in the mime attachment.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv1Boundary
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.1.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_boundaryinfo_message.html

BoundaryMoreThan70

Boundary delimiters longer than 70 characters. Ignoring the specified boundary value. Using auto-generated boundary.

Level : *Warning*

Log Message : *Boundary delimiters longer than 70 characters. Ignoring the specified boundary value. Using auto-generated boundary.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oBoundaryMoreThan70Ev25*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *25*

Variables

The BoundaryMoreThan70 message contains the following variables:

Table 1. BoundaryMoreThan70 Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_boundarymorethan70_message.html

BoundarySpecified

Activity found boundary in mime message.

Level : *Info*

Log Message : *Got boundary: \"`{Boundary}`\".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oBoundarySpecifiedEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : 23


Variables

The BoundarySpecified message contains the following variables:

Table 1. BoundarySpecified Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Boundary</p> <p>Boundary found in the message.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv23Boundary</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.23.1</i>

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_ope-ration_boundaryspecified_message.html

DefaultContentType

Activity did not find any content type specified. Setting content type to text/plain.

Level : *Info*

Log Message : *Content-type not found. Taking default Content-Type as text/plain.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oDefaultContentTypeEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The DefaultContentType message contains the following variables:

Table 1. DefaultContentType Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_defaultcontenttype_message.html

EmptyParts

The input parameter - parts - is empty and there is no data to serialize.

Level : *Severe*

Log Message : *Empty input parameter 'parts'. No data to serialize.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEmptyPartsEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The EmptyParts message contains the following variables:

Table 1. EmptyParts Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_emptyparts_message.html

FoundBoundary

Activity found boundary parameter in the mime message.

Level : *Info*

Log Message : *Found boundary parameter: "{Boundary}"*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oFoundBoundaryEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables


The FoundBoundary message contains the following variables:

Table 1. FoundBoundary Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Boundary</p> <p>The boundary parameter found in the mime message.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv5Boundary• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.5.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

HeaderAbsent

Empty input parameter 'mimeheader'. was found. Activity cannot parse data.

Level : *Severe*

Log Message : *Empty input parameter 'mimeheader'. Cannot parse data.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oHeaderAbsentEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The HeaderAbsent message contains the following variables:


Table 1. HeaderAbsent Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_oration_headerabsent_message.html

MainAndSubType

The main and sub type found in content type.

Level : *Severe*

Log Message : *Mime-header type: {MainType}; sub-type: {SubType}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oMainAndSubTypeEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The MainAndSubType message contains the following variables:

Table 1. MainAndSubType Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. MainType

The main type found in the content type of message.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv7MainType
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.7.1


6. SubType

The sub type found in the content type of message.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv7SubType
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.7.2

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_oration_mainandsubtype_message.html

MainType

Main type specified in the serialize activity.

Level : *Info*

Log Message : *Got main-type: {MainType}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oMainTypeEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : 22

Variables

The MainType message contains the following variables:

Table 1. MainType Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. MainType</p> <p>Main type specified in the serialize activity.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv22MainType</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.22.1</i>

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_ope-
ration_maintype_message.html

MimeHeaderMapped

Optional input parameter 'mimeheader' is mapped.

Level : *Info*

Log Message : *Optional input parameter 'mimeheader' is mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oMimeHeaderMappedEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *21*

Variables

The MimeHeaderMapped message contains the following variables:

Table 1. MimeHeaderMapped Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_mimeheadermapped_message.html

MimeHeaderNotMapped

Optional input parameter 'mimeheader' was not mapped in the activity.

Level : *Info*

Log Message : *Optional input parameter 'mimeheader' not mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oMimeHeaderNotMappedEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The MimeHeaderNotMapped message contains the following variables:

Table 1. MimeHeaderNotMapped Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_mimeheadernotmapped_message.html

NoAttachments

Activity did not find any attachments to serialize.

Level : *Severe*

Log Message : *No attachments found. Nothing to serialize.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oNoAttachmentsEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables


The NoAttachments message contains the following variables:

Table 1. NoAttachments Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_oration_noattachments_message.html

NoBoundaryFound

Boundary was specified in header but no boundary found in the body. Returning single body.

Level : *Warning*

Log Message : *Boundary specified in header but no boundary found in the body. Returning single body.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oNoBoundaryFoundEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The NoBoundaryFound message contains the following variables:

Table 1. NoBoundaryFound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_ope-
 ration_noboundaryfound_message.html

NoPartBody

This part does not have any body. Setting blank body.

Level : *Info*

Log Message : *This part does not have any body. Setting blank body.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oNoPartBodyEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The NoPartBody message contains the following variables:

Table 1. NoPartBody Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_nopartbody_message.html

NumberOfParts

The number of parts found in the mime message.

Level : *Info*

Log Message : *Number of parts {NumberOfParts}*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oNumberOfPartsEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The NumberOfParts message contains the following variables:

Table 1. NumberOfParts Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NumberOfParts

The number of parts found.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv18NumberOfParts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.18.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_oration_numberofparts_message.html

ParseActivityDone

The activity has outputted parts output parameter.

Level : *Info*

Log Message : *Outputted 'parts' output parameter.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oParseActivityDoneEv11*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2

SNMP Trap Number : 11

Variables


The ParseActivityDone message contains the following variables:

Table 1. ParseActivityDone Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_oration_parseactivitydone_message.html

SerialActivityDone

The activity is done outputting mimeheader and body output parameters.

Level : *Info*

Log Message : *Outputted 'mimeheader' and 'body' output parameters.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oSerialActivityDoneEv27*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *27*


Variables

The SerialActivityDone message contains the following variables:

Table 1. SerialActivityDone Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_ operation_serialactivitydone_message.html

SerializeException

Error occurred while serializing the data.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while serializing data. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oSerializeExceptionEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The SerializeException message contains the following variables:

Table 1. SerializeException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_serializeexception_message.html

SubType

Sub Type found in content type of the message.

Level : *Info*

Log Message : *Sub-type: {SubType}*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oSubTypeEv6*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The SubType message contains the following variables:

Table 1. SubType Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. SubType

The sub type found in the content type of message.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv6SubType
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.6.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_oration_subtype_message.html

TranferEncChanged

The attachment body has lines greater than 998 characters in length. Changing the Content-Transfer-Encoding to binary.

Level : *Warning*

Log Message : *Content-Transfer-Encoding value for attachment {AttachmentNumber} is {EncodingValue} while the attachment body has lines greater than 998 characters in length. Changing the Content-Transfer-Encoding to binary.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oTranferEncChangedEv26*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *26*

Variables

The TranferEncChanged message contains the following variables:

Table 1. TranferEncChanged Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. AttachmentNumber

The attachment number.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv26AttachmentNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.26.1


6. EncodingValue

The content transfer encoding value.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv26EncodingValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.26.2

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_tranferencchanged_message.html

TransferEncLimit

Entities of type specified cannot have any other Content-Transfer-Encoding apart from 7bit.

Level : *Severe*

Log Message : *Entities of type {MainType}/{SubType} cannot have any other Content-Transfer-Encoding apart from 7bit.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oTransferEncLimitEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The TransferEncLimit message contains the following variables:

Table 1. TransferEncLimit Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. MainType

The main type found in the content type of message.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv16MainType
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.16.1

6. SubType

The sub type found in the content type of message.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv16SubType
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.16.2

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

TransferEncMissing

Content-Transfer-Encoding value is missing for specified attachment number . Guessing based on Content-Type and charset values.

Level : *Warning*

Log Message : *Content-Transfer-Encoding value missing for attachment number {AttachmentNumber}. Guessing based on Content-Type and charset values.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oTransferEncMissingEv28*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *28*

Variables

The TransferEncMissing message contains the following variables:

Table 1. TransferEncMissing Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. AttachmentNumber

The attachment number for which content transfer encoding is missing.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv28AttachmentNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.28.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_transferencmissing_message.html

TransferEncodingError

Content-Transfer-Encoding specified in Composite media type cannot be any other apart from 7bit, 8bit or binary.

Level : *Severe*

Log Message : *Composite media type {MediaType} cannot have any other Content-Transfer-Encoding apart from 7bit, 8bit or binary.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oTransferEncodingErrorEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The TransferEncodingError message contains the following variables:

Table 1. TransferEncodingError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. MediaType

Composite Media type specified in the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv15MediaType
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.15.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_transferencodingerror_message.html

TransferEncodingValue

Activity found Content-Transfer-Encoding.

Level : *Info*

Log Message : *Got Content-Transfer-Encoding: {ContentTransfer}*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oTransferEncodingValueEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2*

SNMP Trap Number : *24*

Variables

The TransferEncodingValue message contains the following variables:


Table 1. TransferEncodingValue Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ContentTransfer</p> <p>Content Transfer Encoding found in the message.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10oEv24ContentTransfer
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.2.1.24.1

Parent topic: [MIME Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_operation_transferencodingvalue_message.html


MIME Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the MIME Module.

- [InputBodyNull](#)
Input parameter body from container is NULL. This is due to internal exception.
- [ParseException](#)
Error occurred while parsing the data.

Parent topic: [MIME Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_internal_notifications_list.html

InputBodyNull

Input parameter body from container is NULL. This is due to internal exception.

Level : *Severe*

Log Message : *Input parameter 'body' from container is NULL.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10iInputBodyNullEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.3*

SNMP Trap Number : *1*


The InputBodyNull message contains the following variables:

Table 1. InputBodyNull Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [MIME Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_ternal_inputbodynull_message.html

Error occurred while parsing the data.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while parsing data. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MIME-MIB::ciC10iParseExceptionEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.10.1.3*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The ParseException message contains the following variables:


Table 1. ParseException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [MIME Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mime/mime_ternal_parseexception_message.html

Maestro Module

The Maestro Module represents the internal operation of the Cast Iron runtime. This section contains details for the messages delivered from the Maestro Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Maestro Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Maestro Module.

Table 1. Notifications issued by the Maestro Module

Notification	Level	System	Description
AbandonedJobs	Warning	Orchestration	A timeout occurred while waiting for jobs to stop and some jobs were abandoned.
ActInvalidLicense (Deprecated)	Severe	Orchestration	Deprecated.
ActivityFailedError	Severe	Orchestration	Encountered fault of specified type, please see rest of the log for more information.
AlreadyDeployed	Severe	Orchestration	The specified orchestration is already deployed.
CallContext	Severe	Orchestration	Maestro is not able to create call context.
CallContextDestroy	Info	Orchestration	Call context created but task never started.
CatchExpression	Severe	Orchestration	Unable to parse the catch expression.
CleanUpFailed	Warning	Orchestration	Failed to clean up the activity.
CloseInputStream	Warning	Orchestration	Could not close input stream.
CloseOutputStream	Warning	Orchestration	Could not close output stream.
CloseReader	Warning	Orchestration	Could not close reader.


Notification	Level	System	Description
CloseWriter	Warning	Orchestration	Could not close writer.
DeactivateFailed	Severe	Orchestration	Maestro failed to deactivate the specified activity.
DebugFailed	Severe	Orchestration	Debugger operation failed.
DeleteObject	Warning	Orchestration	Could not clean up object with ID.
DestroyFailed	Severe	Orchestration	Maestro failed to destroy the specified activity.
EnqueueFailed	Severe	Orchestration	Unable to enqueue the orchestration.
EntryPath	Severe	Orchestration	Could not find an entry point for the specified activity in the compiled orchestration.
ErrorMap	Severe	Orchestration	Error in map activity.
ErrorTwoPhase	Severe	Orchestration	Activity could not be converted to Two phase activity.
ExecuteError	Severe	Orchestration	Unable to execute the orchestration.
FaultInfo	Severe	Orchestration	Could not initialize FaultInfo.
ForEach	Severe	Orchestration	Error occurred in for each activity.
IOError	Warning	Orchestration	Internal error occurred because of Input/Output error.
InitializeJobInfo	Severe	Orchestration	Could not initialize job info.
InputMap	Severe	Orchestration	No input maps are there for required input parameter.
InputMapXPath	Severe	Orchestration	Could not perform input map expression.
InputMapXSLT	Severe	Orchestration	Could not perform input map XSLT.
InvokeError	Severe	Orchestration	Error occurred in module.
KeyLog	Info	Orchestration	Logged key with specified name and value.
LargeInputParam	Warning	Orchestration	Specified input parameter is over the limit and is too large to log.
LargeNonpersistentVar	Severe	Orchestration	Specified variable is too large for a non-persistent orchestration.
LargeOutputParam	Warning	Orchestration	Specified output parameter is over the limit and is too large to log.
LargeTotalVarSize	Severe	Orchestration	This job cannot be run during low-memory conditions.
LargeVariable	Warning	Orchestration	Specified variable is over the limit and is too large to log.
LicenseExpireImminent (Deprecated)	Severe	Orchestration	Deprecated.
LicenseExpireSoon (Deprecated)	Warning	Orchestration	Deprecated.
LicenseExpired (Deprecated)	Severe	Orchestration	Deprecated.
LicenseInvalid (Deprecated)	Severe	Orchestration	Deprecated.

Notification	Level	System	Description
LoaderCancel	Severe	Orchestration	Cancel of job with specified ID of specified orchestration.
LoaderDelete	Severe	Orchestration	Delete of specified orchestration failed.
LoaderDeploy	Severe	Orchestration	Deployment of specified orchestration failed.
LoaderPublish	Severe	Orchestration	Publish of specified configuration failed.
LoaderStart	Severe	Orchestration	Start of the specified orchestration failed.
LoaderStop	Severe	Orchestration	Stop of the specified orchestration failed.
LoaderSuspend	Severe	Orchestration	Suspend of the specified orchestration failed.
LoaderunDeploy	Severe	Orchestration	Undeploy of specified orchestration failed.
MBeanRegister	Severe	Orchestration	Could not register specified object with MBean server.
MBeanUnregister	Severe	Orchestration	Could not unregister specified object with MBean server.
MaxSeqNum	Warning	Orchestration	Exceeded maximum number of activity events for a job.
ModuleConfig	Severe	Orchestration	Could not read module configuration.
MonitorQuery	Severe	Orchestration	Could not query for monitor data.
MonitorVariable	Warning	Orchestration	Could not log monitor variable.
MonitorVariables	Warning	Orchestration	Could not log monitor variables.
MontiorEvents	Severe	Orchestration	Could not log monitor events.
MultipleActFactory	Severe	Orchestration	Activity Factory with specified name and version has multiple registrations, and hence not loading it.
NoActivityFactory	Severe	Orchestration	Activity Factory with specified name and version not registered.
NotDeployed	Severe	Orchestration	Orchestration not deployed.
NotDocParameter	Severe	Orchestration	Specified parameter is not an XML document.
NotDocVariable	Severe	Orchestration	Specified variable is not an XML document.
NotStopped	Severe	Orchestration	Could not undeploy as the orchestration is not stopped.
NotSuspend	Severe	Orchestration	Could not suspend as the orchestration is not running.
NullParam	Severe	Orchestration	Specified parameter is null.
NullVariable	Severe	Orchestration	Specified variable is null.
OSGISyntaxError	Severe	Orchestration	Invalid OSGI query syntax provided.
OrchCompileError	Severe	Orchestration	Unable to compile the specified orchestration.
OutputMap	Severe	Orchestration	Could not perform output map.
OutputMapXPath	Severe	Orchestration	Could not perform output map expression.
OutputMapXSLT	Severe	Orchestration	Could not perform output map transform.

Notification	Level	System	Description
ParamIndex	Warning	Orchestration	Parameter at specified index is already set.
ProgramDestroy	Severe	Orchestration	Program in non terminal state being destroyed.
ProgramStart	Severe	Orchestration	Cannot start an orchestration that is in transient state.
SocketNoReply	Warning	Orchestration	Could not receive socket reply.
SplitError	Severe	Orchestration	Error occurred in split activity.
SwitchExpEmpty	Severe	Orchestration	The condition provided for if-then activity and case label is empty.
SwitchExpression	Severe	Orchestration	Unable to parse the if-then expression.
TaskCancelled	Warning	Orchestration	Caught exception while cancelling job.
TaskEnd	Info	Orchestration	Ended job for specified orchestration.
TaskFound	Severe	Orchestration	Found task with specified state on undeploy.
TaskRemove	Severe	Orchestration	Unable to remove the task.
TaskStart	Info	Orchestration	Started job for specified orchestration.
TaskState	Severe	Orchestration	Unable to set the task state.
TaskStateTransition	Severe	Orchestration	Invalid task state transition happened, hence marking the job as faulted.
TaskStatusChanged	Info	Orchestration	Job status changed.
TooManyWaitingJobs	Severe	Orchestration	A job was aborted due to a large number of waiting jobs.
UnCaughtError	Severe	Orchestration	Uncaught Internal error occurred.
UnexpectedError	Severe	Orchestration	Unexpected Internal error occurred.
VariableNull	Warning	Orchestration	Specified variable is null.
WhileExpEmpty	Severe	Orchestration	The condition provided for while activity is empty.
WhileExpression	Severe	Orchestration	Unable to parse while expression with specified condition.
WrongActFactory	Severe	Orchestration	Activity factory with specified name and version returned wrong class.

- [Maestro Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Maestro Module.
- [Maestro Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Maestro Module.

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

Maestro Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Maestro Module.

- [AbandonedJobs](#)
A timeout occurred while waiting for jobs to stop and some jobs were abandoned.
- [ActInvalidLicense \(Deprecated\)](#)
Activity Factory with specified name and version had a licensing failure.
- [ActivityFailedError](#)
Encountered fault of specified type, please see rest of the log for more information.
- [AlreadyDeployed](#)
The specified orchestration is already deployed.
- [CallContext](#)
Maestro is not able to create call context.
- [CallContextDestroy](#)
Call context created but task never started.
- [CatchExpression](#)
Unable to parse the catch expression.
- [CleanUpFailed](#)
Failed to clean up the activity.
- [CloseInputStream](#)
Could not close input stream.
- [CloseOutputStream](#)
Could not close output stream.
- [CloseReader](#)
Could not close reader.
- [CloseWriter](#)
Could not close writer.
- [DeactivateFailed](#)
Maestro failed to deactivate the specified activity.
- [DebugFailed](#)
Debugger operation failed.
- [DeleteObject](#)
Could not clean up object with ID.
- [DestroyFailed](#)
Maestro failed to destroy the specified activity.
- [EnqueueFailed](#)
Unable to enqueue the orchestration.
- [EntryPath](#)
Could not find an entry point for the specified activity in the compiled orchestration.
- [ErrorMap](#)
Error in map activity.
- [ErrorTwoPhase](#)
Activity could not be converted to Two phase activity.
- [ExecuteError](#)
Unable to execute the orchestration.
- [FaultInfo](#)
Could not initialize FaultInfo.


- [ForEach](#)
Error occurred in for each activity.
- [InitializeJobInfo](#)
Could not initialize job info.
- [InputMap](#)
No input maps are there for required input parameter.
- [InputMapXPath](#)
Could not perform input map expression.
- [InputMapXSLT](#)
Could not perform input map XSLT.
- [InvokeError](#)
Error occurred in module.
- [KeyLog](#)
Logged key with specified name and value.
- [LargeInputParam](#)
Specified input parameter is over the limit and is too large to log.
- [LargeNonpersistentVar](#)
Specified variable is too large for a non-persistent orchestration.
- [LargeOutputParam](#)
Specified output parameter is over the limit and is too large to log.
- [LargeTotalVarSize](#)
This job cannot be run during low-memory conditions.
- [LargeVariable](#)
Specified variable is over the limit and is too large to log.
- [LicenseExpireImminent \(Deprecated\)](#)
Imminent license expiration for specified bundle - expires on specified date - Please renew the license now to avoid service interruption.
- [LicenseExpireSoon \(Deprecated\)](#)
License for specified bundle name expires soon. Please renew the license to avoid service interruption.
- [LicenseExpired \(Deprecated\)](#)
License has expired. Please renew the license now to avoid service interruption.
- [LicenseInvalid \(Deprecated\)](#)
License for specified bundle name is invalid.
- [LoaderCancel](#)
Cancel of job with specified ID of specified orchestration.
- [LoaderDelete](#)
Delete of specified orchestration failed.
- [LoaderDeploy](#)
Deployment of specified orchestration failed.
- [LoaderPublish](#)
Publish of specified configuration failed.
- [LoaderStart](#)
Start of the specified orchestration failed.
- [LoaderStop](#)
Stop of the specified orchestration failed.
- [LoaderSuspend](#)
Suspend of the specified orchestration failed.
- [LoaderunDeploy](#)
Undeploy of specified orchestration failed.
- [MBeanRegister](#)
Could not register specified object with MBean server.
- [MBeanUnregister](#)
Could not unregister specified object with MBean server.

- [MaxSeqNum](#)
Exceeded maximum number of activity events for a job.
- [ModuleConfig](#)
Could not read module configuration.
- [MonitorQuery](#)
Could not query for monitor data.
- [MonitorVariable](#)
Could not log monitor variable.
- [MonitorVariables](#)
Could not log monitor variables.
- [MontiorEvents](#)
Could not log monitor events.
- [MultipleActFactory](#)
Activity Factory with specified name and version has multiple registrations, and hence not loading it.
- [NoActivityFactory](#)
Activity Factory with specified name and version not registered.
- [NotDeployed](#)
Orchestration not deployed.
- [NotDocParameter](#)
Specified parameter is not an XML document.
- [NotDocVariable](#)
Specified variable is not an XML document.
- [NotStopped](#)
Could not undeploy as the orchestration is not stopped.
- [NotSuspend](#)
Could not suspend as the orchestration is not running.
- [NullParam](#)
Specified parameter is null.
- [NullVariable](#)
Specified variable is null.
- [OSGISyntaxError](#)
Invalid OSGI query syntax provided.
- [OrchCompileError](#)
Unable to compile the specified orchestration.
- [OutputMap](#)
Could not perform output map.
- [OutputMapXPath](#)
Could not perform output map expression.
- [OutputMapXSLT](#)
Could not perform output map transform.
- [ParamIndex](#)
Parameter at specified index is already set.
- [ProgramDestroy](#)
Program in non terminal state being destroyed.
- [ProgramStart](#)
Cannot start an orchestration that is in transient state.
- [SocketNoReply](#)
Could not receive socket reply.
- [SplitError](#)
Error occurred in split activity.
- [SwitchExpEmpty](#)
The condition provided for if-then activity and case label is empty.

- [SwitchExpression](#)
Unable to parse the if-then expression.
- [TaskCancelled](#)
Caught exception while cancelling job.
- [TaskEnd](#)
Ended job for specified orchestration.
- [TaskFound](#)
Found task with specified state on undeploy.
- [TaskRemove](#)
Unable to remove the task.
- [TaskStart](#)
Started job for specified orchestration.
- [TaskState](#)
Unable to set the task state.
- [TaskStateTransition](#)
Invalid task state transition happened, hence marking the job as faulted.
- [TaskStatusChanged](#)
Job status changed.
- [TooManyWaitingJobs](#)
A job was aborted due to a large number of waiting jobs.
- [VariableNull](#)
Specified variable is null.
- [WhileExpEmpty](#)
The condition provided for while activity is empty.
- [WhileExpression](#)
Unable to parse while expression with specified condition.
- [WrongActFactory](#)
Activity factory with specified name and version returned wrong class.

Parent topic: [Maestro Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_notifications_list.html

AbandonedJobs

A timeout occurred while waiting for jobs to stop and some jobs were abandoned.

Level : *Warning*

Log Message : *Timeout waiting for jobs to stop, number of jobs abandoned: {NumberOfAbandonedJobs}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oAbandonedJobsEv87*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2

SNMP Trap Number : 87

Variables

The AbandonedJobs message contains the following variables:

Table 1. AbandonedJobs Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. NumberOfAbandonedJobs</p> <p>The number of abandoned jobs.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv87NumberOfAbandonedJobs• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.87.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_abandonedjobs_message.html

ActInvalidLicense (Deprecated)

As of Cast Iron version 6.0, this message has been deprecated because connectors are no longer individually licensed.

Activity Factory with specified name and version had a licensing failure.

Level : *Severe*

Log Message : *ActivityFactory (name - {ActivityName},version - {ActivityVersion}) Licensing failure: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oActInvalidLicenseEv35*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *35*

Variables

The ActInvalidLicense message contains the following variables:

Table 1. ActInvalidLicense Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The name of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv35ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.35.1

6. ActivityVersion

The version of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv35ActivityVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.35.2


7. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_actinvalidlicense_message.html

ActivityFailedError

Encountered fault of specified type, please see rest of the log for more information.

Level : *Severe*

Log Message : Encountered fault of type {FaultType}, please see rest of the log for more information

System : Orchestration

SNMP Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oActivityFailedErrorEv3

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2

SNMP Trap Number : 3


Variables

The ActivityFailedError message contains the following variables:

Table 1. ActivityFailedError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. FaultType</p> <p>The fault type encountered.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv3FaultType• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.3.1

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_activityfailederror_message.html

AlreadyDeployed

The specified orchestration is already deployed.

Level : *Severe*

Log Message : *Orchestration already deployed: {OrchName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oAlreadyDeployedEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The AlreadyDeployed message contains the following variables:

Table 1. AlreadyDeployed Message Variables

1. SerialNumber The serial number of the appliance sending the trap. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
2. Severity Severity of the Notification. <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
3. JobID The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. OrchName

The name of the orchestration which is already deployed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv4OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.4.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_alreadydeployed_message.html

CallContext

Maestro is not able to create call context.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to create call context: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oCallContextEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The CallContext message contains the following variables:

Table 1. CallContext Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_callcontext_message.html

CallContextDestroy

Call context created but task never started.

Level : *Info*

Log Message : *Call context created but task never started; destroying task {TaskID}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oCallContextDestroyEv80*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *80*

Variables

The CallContextDestroy message contains the following variables:

Table 1. CallContextDestroy Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TaskID

The task ID.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv80TaskID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.80.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_callcontextdestroy_message.html

CatchExpression

Unable to parse the catch expression.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to parse the catch expression: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oCatchExpressionEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *6*

Variables

The CatchExpression message contains the following variables:

Table 1. CatchExpression Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_catchexpression_message.html

CleanUpFailed

Failed to clean up the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Failed to cleanup activity {ActivityName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oCleanUpFailedEv63*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

Variables

The CleanUpFailed message contains the following variables:

Table 1. CleanUpFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The name of the activity.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv63ActivityName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.63.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

CloseInputStream

Could not close input stream.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not close reader*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oCloseInputStreamEv64*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *64*

Variables

The CloseInputStream message contains the following variables:

Table 1. CloseInputStream Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_closeinputstream_message.html

CloseOutputStream

Could not close output stream.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not close output stream*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oCloseOutputStreamEv65*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *65*

Variables

The CloseOutputStream message contains the following variables:

Table 1. CloseOutputStream Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_closeoutputstream_message.html

CloseReader

Could not close reader.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not close reader*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oCloseReaderEv66*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 66

Variables

The CloseReader message contains the following variables:

Table 1. CloseReader Message Variables

<h3>1. SerialNumber</h3>

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_closerreader_message.html

CloseWriter

Could not close writer.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not close writer*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oCloseWriterEv67*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 67

Variables


The CloseWriter message contains the following variables:

Table 1. CloseWriter Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

DeactivateFailed

Maestro failed to deactivate the specified activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to deactivate activity {ActivityName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oDeactivateFailedEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The DeactivateFailed message contains the following variables:

Table 1. DeactivateFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ActivityName

Name of the activity which caused the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv1ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.1.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_deactivatefailed_message.html

DebugFailed

Debugger operation failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Debugger operation {Value} failed*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oDebugFailedEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The DebugFailed message contains the following variables:

Table 1. DebugFailed Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Value

The operation which failed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv8Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.8.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_debugfailed_message.html

DeleteObject

Could not clean up object with ID.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not clean up object with ID {ObjectID}, will try later*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oDeleteObjectEv68*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 68

Variables

The DeleteObject message contains the following variables:

Table 1. DeleteObject Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. ObjectID</p> <p>The ID of the object.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv68ObjectID</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.68.1</i>

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_deleteobject_message.html

DestroyFailed

Maestro failed to destroy the specified activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to destroy activity {ActivityName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oDestroyFailedEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The DestroyFailed message contains the following variables:

Table 1. DestroyFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ActivityName

Name of the activity which caused the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv2ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.2.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_destroyfailed_message.html

EnqueueFailed

Unable to enqueue the orchestration.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to enqueue to orchestration: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEnqueueFailedEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The EnqueueFailed message contains the following variables:

Table 1. EnqueueFailed Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_enqueuefailed_message.html

Could not find an entry point for the specified activity in the compiled orchestration.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not find an entry point for the activity: [{{ActivityName}}] in the compiled orchestration*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEntryPathEv38*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *38*

Variables

The EntryPath message contains the following variables:


Table 1. EntryPath Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The name of the activity.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv38ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.38.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_entrpath_message.html

ErrorMap

Error in map activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception in map activity: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oErrorMapEv29*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *29*

Variables

The ErrorMap message contains the following variables:

Table 1. ErrorMap Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_errormap_message.html

ErrorTwoPhase

Activity could not be converted to Two phase activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Activity could not be converted into TwoPhase activity*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oErrorTwoPhaseEv59*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *59*

Variables


The ErrorTwoPhase message contains the following variables:

Table 1. ErrorTwoPhase Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_errortwophase_message.html

ExecuteError

Unable to execute the orchestration.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to execute to orchestration: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC2oExecuteErrorEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The ExecuteError message contains the following variables:


Table 1. ExecuteError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_executeerror_message.html

FaultInfo

Could not initialize FaultInfo.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not initialize FaultInfo*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oFaultInfoEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The FaultInfo message contains the following variables:

Table 1. FaultInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_faultinfo_message.html

ForEach

Error occurred in for each activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception in foreach activity: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oForEachEv12*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables


The ForEach message contains the following variables:

Table 1. ForEach Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

InitializeJobInfo

Could not initialize job info.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not initialize JobInfo*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oInitializeJobInfoEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The InitializeJobInfo message contains the following variables:

Table 1. InitializeJobInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_initializejobinfo_message.html

InputMap

No input maps are there for required input parameter.

Level : *Severe*

Log Message : *No input map for required parameter: {ParamName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oInputMapEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The InputMap message contains the following variables:

Table 1. InputMap Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ParamName

The required parameter name for which input maps are missing.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv13ParamName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.13.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_inputmap_message.html

InputMapXPath

Could not perform input map expression.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not perform input map expression: {ExpressionName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oInputMapXPathEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The InputMapXPath message contains the following variables:

Table 1. InputMapXPath Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. ExpressionName</p> <p>The name of the expression.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv14ExpressionName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.14.1</i>

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_inputmapxpath_message.html

InputMapXSLT

Could not perform input map XSLT.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not perform input map transform: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oInputMapXSLTEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The InputMapXSLT message contains the following variables:

Table 1. InputMapXSLT Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_inputmapxslt_message.html

InvokeError

Error occurred in module.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception detected in module, throwing exception {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oInvokeErrorEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The InvokeError message contains the following variables:

Table 1. InvokeError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_invokeerror_message.html

Logged key with specified name and value.

Level : *Info*

Log Message : *Logged key with name "{KeyName}" and value "{KeyValue}"*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oKeyLogEv81*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *81*

Variables

The KeyLog message contains the following variables:

Table 1. KeyLog Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. KeyName</p> <p>The key name.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv81KeyName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.81.1


6. KeyValue

The key value.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv81KeyValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.81.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_keylog_message.html

LargeInputParam

Specified input parameter is over the limit and is too large to log.

Level : *Warning*

Log Message : *Input parameter "{ParamName}" is over {Length} and is too large to log*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLargeInputParamEv71*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *71*

Variables

The LargeInputParam message contains the following variables:

Table 1. LargeInputParam Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ParamName

The parameter name.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv71ParamName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.71.1


6. Length

The limit for the size.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv71Length
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.71.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_largeinputparam_message.html

Specified variable is too large for a non-persistent orchestration.

Level : *Severe*

Log Message : *Variable "{VariableName}" is too large, please turn on persistence for this orchestration*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLargeNonpersistentVarEv86*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *86*

Variables

The LargeNonpersistentVar message contains the following variables:


Table 1. LargeNonpersistentVar Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. VariableName</p> <p>The variable name.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv86VariableName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.86.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_largenonpersistentvar_message.html

LargeOutputParam

Specified output parameter is over the limit and is too large to log.

Level : *Warning*

Log Message : *Output parameter "{ParamName}" is over {Length} and is too large to log*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLargeOutputParamEv72*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *72*

Variables

The LargeOutputParam message contains the following variables:

Table 1. LargeOutputParam Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ParamName

The parameter name.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv72ParamName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.72.1


6. Length

The limit for the size.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv72Length
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.72.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_largeoutputparam_message.html

LargeTotalVarSize

This job cannot be run during low-memory conditions.

Level : *Severe*

Log Message : *Cannot complete this job due to low memory, please try redeploying this orchestration*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLargeTotalVarSizeEv85*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *85*

Variables

The LargeTotalVarSize message contains the following variables:

Table 1. LargeTotalVarSize Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2</i>

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_targettotalvarsize_message.html

LargeVariable

Specified variable is over the limit and is too large to log.

Level : *Warning*

Log Message : *Variable "{VariableName}" is over {Length} and is too large to log*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLargeVariableEv73*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *73*

Variables

The LargeVariable message contains the following variables:

Table 1. LargeVariable Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. VariableName

The variable name.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv73VariableName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.73.1


6. Length

The limit for the size.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv73Length
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.73.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_largevariable_message.html

LicenseExpireImminent (Deprecated)

As of Cast Iron version 6.0, this message has been deprecated because connectors are no longer individually licensed.

Imminent license expiration for specified bundle - expires on specified date - Please renew the license now to avoid service interruption.

Level : *Severe*

Log Message : *Imminent license expiration for {BundleName} - expires: {Date} - Please renew the license now to avoid service interruption*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLicenseExpireImminentEv26*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 26

Variables

The LicenseExpireImminent message contains the following variables:

Table 1. LicenseExpireImminent Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. BundleName</p> <p>The bundle for which license expires.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv26BundleName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.26.1</i>
<p>6. Date</p>

The date on which license expires.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv26Date
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.26.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_licenseexpireimminent_message.html

LicenseExpireSoon (Deprecated)

As of Cast Iron version 6.0, this message has been deprecated because connectors are no longer individually licensed.

License for specified bundle name expires soon. Please renew the license to avoid service interruption.

Level : *Warning*

Log Message : *License for {BundleName} expires soon: {Date} - Please renew the license to avoid service interruption*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLicenseExpireSoonEv69*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *69*

Variables

The LicenseExpireSoon message contains the following variables:

Table 1. LicenseExpireSoon Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. BundleName

The bundle name for which license expires soon.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv69BundleName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.69.1


6. Date

The date at which license expires.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv69Date
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.69.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_licenseexpiresoon_message.html

LicenseExpired (Deprecated)

As of Cast Iron version 6.0, this message has been deprecated because connectors are no longer individually

licensed.

License has expired. Please renew the license now to avoid service interruption.

Level : *Severe*

Log Message : *License for {BundleName} has expired - expired as of: {Date} - Please renew the license now to avoid service interruption*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLicenseExpiredEv27*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *27*

Variables

The LicenseExpired message contains the following variables:

Table 1. LicenseExpired Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. BundleName

The bundle for which license expired.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv27BundleName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.27.1


6. Date

The date on which license expired.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv27Date
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.27.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_licenseexpired_message.html

LicenseInvalid (Deprecated)

As of Cast Iron version 6.0, this message has been deprecated because connectors are no longer individually licensed.

License for specified bundle name is invalid.

Level : *Severe*

Log Message : *License for {BundleName} is invalid: {1}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLicenseInvalidEv28*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *28*

Variables

The LicenseInvalid message contains the following variables:

Table 1. LicenseInvalid Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. BundleName

The bundle for which license is invalid.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv28BundleName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.28.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_licenseinvalid_message.html

LoaderCancel

Cancel of job with specified ID of specified orchestration.

Level : Severe

Log Message : Cancel of job {JobID} of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.

System : Orchestration

SNMP Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC2oLoaderCancelEv25

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2

SNMP Trap Number : 25

Variables

The LoaderCancel message contains the following variables:

Table 1. LoaderCancel Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. JobID</p> <p>The job id which was cancelled.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv25JobID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.25.1

6. OrchName

The orchestration name.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv25OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.25.2


7. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_loadercancel_message.html

LoaderDelete

Delete of specified orchestration failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Delete of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLoaderDeleteEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *24*

Variables

The LoaderDelete message contains the following variables:

Table 1. LoaderDelete Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. OrchName

The orchestration name for which suspend failed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv24OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.24.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

LoaderDeploy

Deployment of specified orchestration failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Deploy of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLoaderDeployEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The LoaderDeploy message contains the following variables:

Table 1. LoaderDeploy Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. OrchName

The orchestration name for which deployment failed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv19OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.19.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_loaderdeploy_message.html

LoaderPublish

Publish of specified configuration failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Publish of Configuration {ConfigName} failed: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLoaderPublishEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The LoaderPublish message contains the following variables:

Table 1. LoaderPublish Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ConfigName</p> <p>The configuration name for which loading failed.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv18ConfigName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.18.1
<p>6. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_loaderpublish_message.html

LoaderStart

Start of the specified orchestration failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Start of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC2oLoaderStartEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The LoaderStart message contains the following variables:

Table 1. LoaderStart Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. OrchName

The orchestration name for which start failed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv20OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.20.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_loaderstart_message.html

LoaderStop

Stop of the specified orchestration failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Stop of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLoaderStopEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 22


Variables

The LoaderStop message contains the following variables:

Table 1. LoaderStop Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. OrchName</p> <p>The orchestration name for which stop failed.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv22OrchName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.22.1
<p>6. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_loaderstop_message.html

LoaderSuspend

Suspend of the specified orchestration failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Suspend of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLoaderSuspendEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *23*

Variables

The LoaderSuspend message contains the following variables:

Table 1. LoaderSuspend Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. OrchName

The orchestration name for which suspend failed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv23OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.23.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_loadersuspend_message.html

LoaderunDeploy

Undeploy of specified orchestration failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Undeploy of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oLoaderunDeployEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

Variables

The LoaderunDeploy message contains the following variables:


Table 1. LoaderunDeploy Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. OrchName</p> <p>The orchestration name for which undeploy failed.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv21OrchName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.21.1
<p>6. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_loaderundeploy_message.html

MBeanRegister

Could not register specified object with MBean server.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not register {ObjectName} with mbean server*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oMBeanRegisterEv30*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *30*

Variables

The MBeanRegister message contains the following variables:

Table 1. MBeanRegister Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ObjectName

The object name which could not be registered with MBean server.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv30ObjectName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.30.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_mbeanregister_message.html

MBeanUnregister

Could not unregister specified object with MBean server.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not unregister {ObjectName} with mbean server*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oMBeanUnregisterEv31*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *31*

Variables


The MBeanUnregister message contains the following variables:

Table 1. MBeanUnregister Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ObjectName</p> <p>The object name which could not be unregistered with MBean server.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv31ObjectName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.31.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

MaxSeqNum

Exceeded maximum number of activity events for a job.

Level : *Warning*

Log Message : *Exceeded maximum number of activity events for a job; logging disabled*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oMaxSeqNumEv74*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *74*

Variables

The MaxSeqNum message contains the following variables:


Table 1. MaxSeqNum Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_maxseqnum_message.html

ModuleConfig

Could not read module configuration.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not read the module configuration: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oModuleConfigEv32*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 32

Variables

The ModuleConfig message contains the following variables:

Table 1. ModuleConfig Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_moduleconfig_message.html

MonitorQuery

Could not query for monitor data.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not query for monitor data*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oMonitorQueryEv34*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *34*

Variables


The MonitorQuery message contains the following variables:

Table 1. MonitorQuery Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_monitorquery_message.html

MonitorVariable

Could not log monitor variable.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not log monitor variable "{VariableName}"*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oMonitorVariableEv75*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *75*

Variables

The MonitorVariable message contains the following variables:


Table 1. MonitorVariable Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. VariableName</p> <p>The variable name.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv75VariableName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.75.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_monitorvariable_message.html

MonitorVariables

Could not log monitor variables.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not log monitor variables*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oMonitorVariablesEv76*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *76*

Variables

The MonitorVariables message contains the following variables:

Table 1. MonitorVariables Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_monitorvariables_message.html

MontiorEvents

Could not log monitor events.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not log monitor events*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oMontiorEventsEv33*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *33*

Variables

The MontiorEvents message contains the following variables:

Table 1. MontiorEvents Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_montiorevents_message.html

MultipleActFactory

Activity Factory with specified name and version has multiple registrations, and hence not loading it.

Level : *Severe*

Log Message : *ActivityFactory (name - {ActivityName},version - {ActivityVersion}) has multiple registrations, not loading*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oMultipleActFactoryEv36*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2

SNMP Trap Number : 36

Variables

The MultipleActFactory message contains the following variables:


Table 1. MultipleActFactory Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The name of the activity.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv36ActivityName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.36.1
<p>6. ActivityVersion</p> <p>The version of the activity.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv36ActivityVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.36.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_multipleactfactory_message.html

NoActivityFactory

Activity Factory with specified name and version not registered.

Level : *Severe*

Log Message : *ActivityFactory (name - {ActivityName}, version - {ActivityVersion}) not registered*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oNoActivityFactoryEv37*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *37*

Variables

The NoActivityFactory message contains the following variables:

Table 1. NoActivityFactory Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The name of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv37ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.37.1


6. ActivityVersion

The version of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv37ActivityVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.37.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_noactivityfactory_message.html

NotDeployed

Orchestration not deployed.

Level : *Severe*

Log Message : *Orchestration not deployed: {OrchName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oNotDeployedEv39*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 39

Variables

The NotDeployed message contains the following variables:

Table 1. NotDeployed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. OrchName</p> <p>The name of the orchestration not deployed.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv39OrchName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.39.1</i>

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_notdeployed_message.html

NotDocParameter

Specified parameter is not an XML document.

Level : *Severe*

Log Message : *Parameter {ParamName} is not an XML document*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oNotDocParameterEv40*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *40*

Variables

The NotDocParameter message contains the following variables:

Table 1. NotDocParameter Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ParamName

The name of the parameter which is not an XML document.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv40ParamName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.40.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_notdocparameter_message.html

NotDocVariable

Specified variable is not an XML document.

Level : *Severe*

Log Message : *Variable {ParamName} is not an XML document*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oNotDocVariableEv41*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *41*

Variables

The NotDocVariable message contains the following variables:

Table 1. NotDocVariable Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ParamName

The name of the variable which is not an XML document.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC2oEv41ParamName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.41.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_notdocvariable_message.html

Could not undeploy as the orchestration is not stopped.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not undeploy, orchestration not stopped, state is {State}: {OrchName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oNotStoppedEv43*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *43*

Variables

The NotStopped message contains the following variables:

Table 1. NotStopped Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. State</p> <p>The current state of the orchestration.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv43State
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.43.1


6. OrchName

The orchestration name that is not running.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv43OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.43.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_notstopped_message.html

NotSuspend

Could not suspend as the orchestration is not running.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not suspend, orchestration not running: {OrchName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oNotSuspendEv42*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *42*

Variables

The NotSuspend message contains the following variables:

Table 1. NotSuspend Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. OrchName

The orchestration name that is not running.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv42OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.42.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_notsuspend_message.html

NullParam

Specified parameter is null.

Level : *Severe*

Log Message : *Parameter {ParamName} is null*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oNullParamEv44*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *44*

Variables

The NullParam message contains the following variables:

Table 1. NullParam Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. ParamName</p> <p>The param name which is null.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv44ParamName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.44.1</i>

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_nullparam_message.html

NullVariable

Specified variable is null.

Level : *Severe*

Log Message : *Variable {VariableName} is null*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC2oNullVariableEv45*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *45*

Variables

The NullVariable message contains the following variables:

Table 1. NullVariable Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. VariableName

The variable name which is null.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv45VariableName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.45.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_nullvariable_message.html

OSGISyntaxError

Invalid OSGI query syntax provided.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid OSGI query syntax: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oOSGISyntaxErrorEv46*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *46*

Variables

The OSGISyntaxError message contains the following variables:

Table 1. OSGISyntaxError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_osgsyntaxerror_message.html

Unable to compile the specified orchestration.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to compile the orchestration {OrchName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oOrchCompileErrorEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The OrchCompileError message contains the following variables:


Table 1. OrchCompileError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. OrchName</p> <p>The name of the orchestration which was not compiled.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv7OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.7.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_orchcompileerror_message.html

OutputMap

Could not perform output map.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not perform output map: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oOutputMapEv47*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *47*

Variables

The OutputMap message contains the following variables:

Table 1. OutputMap Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_outputmap_message.html

OutputMapXPath

Could not perform output map expression.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not perform output map expression: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oOutputMapXPathEv48*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *48*

Variables


The OutputMapXPath message contains the following variables:

Table 1. OutputMapXPath Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

OutputMapXSLT

Could not perform output map transform.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not perform output map transform: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oOutputMapXSLTEv49*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *49*

Variables

The OutputMapXSLT message contains the following variables:

Table 1. OutputMapXSLT Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_outputmapxslt_message.html

ParamIndex

Parameter at specified index is already set.

Level : *Warning*

Log Message : *Parameter at paramIndex {ParamIndex} and varIndex {VariableIndex} already set*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oParamIndexEv78*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *78*

Variables

The ParamIndex message contains the following variables:

Table 1. ParamIndex Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ParamIndex

The parameter index.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv78ParamIndex
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.78.1


6. VariableIndex

The variable index.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv78VariableIndex
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.78.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_paramindex_message.html

Program in non terminal state being destroyed.

Level : *Severe*

Log Message : *Program in non-terminal state being destroyed: {ConfigURI}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oProgramDestroyEv50*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *50*

Variables

The ProgramDestroy message contains the following variables:


Table 1. ProgramDestroy Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ConfigURI</p> <p>The config URI of the program being destroyed.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv50ConfigURL
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.50.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_programdestroy_message.html

ProgramStart

Cannot start an orchestration that is in transient state.

Level : *Severe*

Log Message : *Cannot start an orchestration that is in transient state: {State}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oProgramStartEv51*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *51*

Variables

The ProgramStart message contains the following variables:

Table 1. ProgramStart Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. State

The current state of the orchestration.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv51State
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.51.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_programstart_message.html

SocketNoReply

Could not receive socket reply.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not receive socket reply*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oSocketNoReplyEv70*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *70*

Variables


The SocketNoReply message contains the following variables:

Table 1. SocketNoReply Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_socketnoreply_message.html

SplitError

Error occurred in split activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception in split activity: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oSplitErrorEv52*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *52*

Variables

The SplitError message contains the following variables:


Table 1. SplitError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_spliterror_message.html

SwitchExpEmpty

The condition provided for if-then activity and case label is empty.

Level : *Severe*

Log Message : *The condition provided for if-then activity `{{ActivityName}}` and case label `{{CaseLabel}}` is empty*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oSwitchExpEmptyEv54*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *54*

Variables

The SwitchExpEmpty message contains the following variables:

Table 1. SwitchExpEmpty Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The name of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv54ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.54.1


6. CaseLabel

The name of the label.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv54CaseLabel
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.54.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_switchexpempty_message.html

SwitchExpression

Unable to parse the if-then expression.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to parse the if-then expression: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oSwitchExpressionEv53*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 53


Variables

The SwitchExpression message contains the following variables:

Table 1. SwitchExpression Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2</i>

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_switchexpression_message.html

TaskCancelled

Caught exception while cancelling job.

Level : *Warning*

Log Message : *Caught exception while canceling job: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC2oTaskCancelledEv79*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *79*

Variables

The TaskCancelled message contains the following variables:

Table 1. TaskCancelled Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_taskcancelled_message.html

TaskEnd

Ended job for specified orchestration.

Level : *Info*

Log Message : *Ended job for orchestration "{OrchName}"*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oTaskEndEv84*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *84*

Variables

The TaskEnd message contains the following variables:

Table 1. TaskEnd Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. OrchName

The specified orchestration name.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv84OrchName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.84.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_taskend_message.html

Found task with specified state on undeploy.

Level : *Severe*

Log Message : *On undeploy, found task {TaskName} whose state is {State}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oTaskFoundEv55*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *55*

Variables

The TaskFound message contains the following variables:

Table 1. TaskFound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. TaskName</p> <p>The task name.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv55TaskName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.55.1


6. State

The state of the task.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv55State
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.55.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_taskfound_message.html

TaskRemove

Unable to remove the task.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to remove task {TaskID}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oTaskRemoveEv56*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *56*

Variables

The TaskRemove message contains the following variables:

Table 1. TaskRemove Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TaskID

The task ID for the task which was not removed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv56TaskID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.56.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_taskremove_message.html

TaskStart

Started job for specified orchestration.

Level : *Info*

Log Message : *Started job for orchestration "{OrchName}"*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oTaskStartEv82*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : 82

Variables

The TaskStart message contains the following variables:

Table 1. TaskStart Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. OrchName</p> <p>The specified orchestration name.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv82OrchName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.82.1</i>

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_taskstart_message.html

TaskState

Unable to set the task state.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to set state of task {CurrentState} to {FinalState}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC2oTaskStateEv57*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *57*

Variables

The TaskState message contains the following variables:

Table 1. TaskState Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. CurrentState

The current state of the task.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv57CurrentState
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.57.1


6. FinalState

The final state of the task.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv57FinalState
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.57.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_taskstate_message.html

TaskStateTransition

Invalid task state transition happened, hence marking the job as faulted.

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid task state transition, marked job faulted*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oTaskStateTransitionEv58*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

Variables


The TaskStateTransition message contains the following variables:

Table 1. TaskStateTransition Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_taskstatetransition_message.html

TaskStatusChanged

Job status changed.

Level : *Info*

Log Message : *Job status changed to {Status}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oTaskStatusChangedEv83*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *83*

Variables

The TaskStatusChanged message contains the following variables:

Table 1. TaskStatusChanged Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Status

The new job status.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv83Status
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.83.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_taskstatuschanged_message.html

TooManyWaitingJobs

A job was aborted due to a large number of waiting jobs.

Level : *Severe*

Log Message : *Running of job for orchestration {OrchName} aborted due to large number of waiting jobs*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oTooManyWaitingJobsEv88*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *88*

Variables

The TooManyWaitingJobs message contains the following variables:

Table 1. TooManyWaitingJobs Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. OrchName

The orchestration name.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv88OrchName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.88.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_toomanywaitingjobs_message.html

VariableNull

Specified variable is null.

Level : *Warning*

Log Message : *Variable {VarName} is null*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oVariableNullEv77*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

Variables

The VariableNull message contains the following variables:

Table 1. VariableNull Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. VarName</p> <p>The variable name which is null.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv77VarName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.77.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

WhileExpEmpty

The condition provided for while activity is empty.

Level : *Severe*

Log Message : *The condition provided for while activity [{{ActivityName}}] is empty*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oWhileExpEmptyEv61*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *61*

Variables

The WhileExpEmpty message contains the following variables:

Table 1. WhileExpEmpty Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ActivityName

The name of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv61ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.61.1

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_whileexpempty_message.html

WhileExpression

Unable to parse while expression with specified condition.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to parse the while expression "{ConditionSpecified}": {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oWhileExpressionEv60*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *60*

Variables

The WhileExpression message contains the following variables:

Table 1. WhileExpression Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ConditionSpecified

The condition specified for the while expression.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv60ConditionSpecified
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.60.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

WrongActFactory

Activity factory with specified name and version returned wrong class.

Level : *Severe*

Log Message : *ActivityFactory (name - {ActivityName},version - {ActivityVersion}) returned wrong class {ActivityClass}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oWrongActFactoryEv62*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2*

SNMP Trap Number : *62*

Variables

The WrongActFactory message contains the following variables:

Table 1. WrongActFactory Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The name of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv62ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.62.1

6. ActivityVersion

The version of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv62ActivityVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.62.2


7. ActivityClass

The class of the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20oEv62ActivityClass
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.2.1.62.3

Parent topic: [Maestro Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_operation_wrongactfactory_message.html

Maestro Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Maestro Module.

- [IOError](#)
Internal error occurred because of Input/Output error.
- [UnCaughtError](#)
Uncaught Internal error occurred.
- [UnExpectedError](#)
Unexpected Internal error occurred.

Parent topic: [Maestro Module](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_internal_notifications_list.html

IOError

Internal error occurred because of Input/Output error.

Level : *Warning*

Log Message : *Internal error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20iIOErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.3*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The IOError message contains the following variables:

Table 1. IOError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_internal_ioerror_message.html

UnCaughtError

Uncaught Internal error occurred.

Level : *Severe*

Log Message : *Internal error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20iUnCaughtErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The UnCaughtError message contains the following variables:

Table 1. UnCaughtError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_internal_uncaughterror_message.html

Unexpected Internal error occurred.

Level : *Severe*

Log Message : *Internal error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MAESTRO-MIB::ciC20iUnexpectedErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.20.1.3*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The UnexpectedError message contains the following variables:


Table 1. UnexpectedError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Maestro Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/maestro/maestro_internal_unexpectederror_message.html

NetSuite Module

The NetSuite Module provides access to the NetSuite online service. This section contains details for the messages delivered from the NetSuite Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the NetSuite Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the NetSuite Module.


Table 1. Notifications issued by the NetSuite Module

Notification	Level	System	Description
ConnectionFailed	Severe	Orchestration	The NetSuite operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectionPoolError	Warning	Orchestration	Error occurred while returning connection to pool. Continuing the activity.
ConnectionRetry	Warning	Orchestration	The NetSuite operation failed while trying to connect to the server. The operation will be retried.
CustomFieldError	Severe	Orchestration	Error occurred and returned specified soap fault while getting custom fields for the recordType.
IOError	Severe	Orchestration	Unexpected IO error occurred while performing operation with NetSuite.
SoapError	Severe	Orchestration	Error occurred while creating SOAP message.
StreamError	Severe	Orchestration	Unexpected IO exception occurred while streaming the message.
TransformationError	Severe	Orchestration	An error occurred while processing a message for NetSuite.

Notification	Level	System	Description
UnknownError	Severe	Orchestration	Unknown error while invoking an operation on NetSuite.

- [NetSuite Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the NetSuite Module.
- [NetSuite Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the NetSuite Module.
- [NetSuite Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the NetSuite Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/about_the_netsuite_module.html


NetSuite Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the NetSuite Module.

- [ConnectionFailed](#)
The NetSuite operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectionPoolError](#)
Error occurred while returning connection to pool. Continuing the activity.
- [ConnectionRetry](#)
The NetSuite operation failed while trying to connect to the server. The operation will be retried.

Parent topic: [NetSuite Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_connection_notifications_list.html

ConnectionFailed

The NetSuite operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to NetSuite after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11cConnectionFailedEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.1*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The ConnectionFailed message contains the following variables:

Table 1. ConnectionFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. NumberOfRetryAttempts</p> <p>The total number of attempted retries.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11cEv2NumberOfRetryAttempts• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.1.1.2.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [NetSuite Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_connection_connectionfailed_message.html

ConnectionPoolError

Error occurred while returning connection to pool. Continuing the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Exception while returning connection to pool.Swallowing the exception. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11cConnectionPoolErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The ConnectionPoolError message contains the following variables:

Table 1. ConnectionPoolError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [NetSuite Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_connection_connectionpoolerror_message.html

ConnectionRetry

The NetSuite operation failed while trying to connect to the server. The operation will be retried.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to NetSuite. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11cConnectionRetryEv1*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.1

SNMP Trap Number : 1

Variables

The ConnectionRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectionRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2
<p>6. RetryAttemptNumber</p> <p>The current number of retries.</p>

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11cEv1RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.1.1.1.2

7. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11cEv1TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.1.1.1.3


8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11cEv1IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.1.1.1.4

Parent topic: [NetSuite Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_connection_connectionretry_message.html


NetSuite Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the NetSuite Module.

- [CustomFieldError](#)
Error occurred and returned specified soap fault while getting custom fields for the recordType.
- [TransformationError](#)
An error occurred while processing a message for NetSuite.

Parent topic: [NetSuite Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_operation_notifications_list.html

CustomFieldError

Error occurred and returned specified soap fault while getting custom fields for the recordType.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while getting custom fields for the recordType. The soap fault code is {SoapFaultCode} and fault message is {SoapFaultMessage}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11oCustomFieldErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The CustomFieldError message contains the following variables:

Table 1. CustomFieldError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. SoapFaultCode

The soap fault returned by the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11oEv2SoapFaultCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.2.1.2.1


6. SoapFaultMessage

The soap fault message returned by the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11oEv2SoapFaultMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.2.1.2.2

Parent topic: [NetSuite Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_operation_customfielderror_message.html

TransformationError

An error occurred while processing a message for NetSuite.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while processing a message for NetSuite. Exception is {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11oTransformationErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The TransformationError message contains the following variables:

Table 1. TransformationError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [NetSuite Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_operation_transformationerror_message.html


NetSuite Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the NetSuite Module.

- [IOError](#)
Unexpected IO error occurred while performing operation with NetSuite.
- [SoapError](#)
Error occurred while creating SOAP message.
- [StreamError](#)
Unexpected IO exception occurred while streaming the message.
- [UnknownError](#)
Unknown error while invoking an operation on NetSuite.

Parent topic: [NetSuite Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_internal_notifications_list.html

IOError

Unexpected IO error occurred while performing operation with NetSuite.

Level : *Severe*

Log Message : *Unexpected IO error while performing operation with NetSuite. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11iIOErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The IOError message contains the following variables:

Table 1. IOError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p>

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [NetSuite Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_internal_ioerror_message.html

SoapError

Error occurred while creating SOAP message.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while creating soap message. The exception is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11iSoapErrorEv2*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.3

SNMP Trap Number : 2

Variables

The SoapError message contains the following variables:

Table 1. SoapError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [NetSuite Internal Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_internal_soaperror_message.html

StreamError

Unexpected IO exception occurred while streaming the message.

Level : *Severe*

Log Message : *Unexpected IO exception while streaming the message. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11iStreamErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.3*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The StreamError message contains the following variables:

Table 1. StreamError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [NetSuite Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_internal_streamerror_message.html

UnknownError

Unknown error while invoking an operation on NetSuite.

Level : *Severe*

Log Message : *Unknown exception while invoking an operation on NetSuite. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-NETSUITE-MIB::ciC11iUnknownErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.11.1.3*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The UnknownError message contains the following variables:

Table 1. UnknownError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [NetSuite Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/netsuite/netsuite_internal_unknownerror_message.html

PeopleSoft Module

The PeopleSoft Module provides access to Oracle's PeopleSoft applications. This section contains details for the messages delivered from the PeopleSoft Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the PeopleSoft Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the PeopleSoft Module.


Table 1. Notifications issued by the PeopleSoft Module

Notification	Level	System	Description
ActivateFailureBlank	Severe	Orchestration	Activity could not be started as the specified name was blank.
ActivateSuccess	Info	Orchestration	Activity name specified was successfully activated.
ActivateUnsuccessful	Info	Orchestration	Error occurred while connecting to PeopleSoft system while activating activity. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time.
ActivityFailure	Severe	Orchestration	Activity name specified failed to execute.
ActivitySuccessful	Info	Orchestration	Activity name specified executed successfully. The response output parameter was successfully generated.
ConfigURI	Info	Orchestration	Information regarding the URI and Port where the PeopleSoft Receive is listening.
ConnectionError	Severe	Orchestration	The peoplesoft operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectionPoolError	Warning	Orchestration	Error occurred while returning connection to the pool. Continuing the activity.
ConnectionRetry	Warning	Orchestration	The peoplesoft operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
CreateOnlyKeys	Warning	Orchestration	Only Create Keys was specified and no other properties were specified. Create might not have created the record.
DataLengthMore	Warning	Orchestration	The data set for specified field name has length exceeding the field length. This may cause loss of data.
DeleteFail	Warning	Orchestration	The activity failed to delete specified item number.
GetNoReturn	Info	Orchestration	Activity name specified could not find any record.
ItemNumberBlank	Warning	Orchestration	Item number returned is empty.
MakeConnectError	Warning	Orchestration	Error occurred while creating the connection to destination.
MessageNameVersion	Severe	Orchestration	Message name and version got does not match that set in activity.

Notification	Level	System	Description
MissingLibraries	Severe	Orchestration	Peoplesoft activity is missing required libraries. Please install them from WMC.
NoOperationOnRecord	Warning	Orchestration	Activity could not find any record to do specified operation on it.
OutOfRange	Warning	Orchestration	Activity is trying to delete an item which is out of range.
PoolReleaseError	Warning	Orchestration	Error occurred while closing the connection pool.
ReceiveActivate	Severe	Orchestration	Error occurred while activating PeopleSoft Receive.
ReceiveDeActivate	Severe	Orchestration	Error occurred while deactivating PeopleSoft Receive.
ReceiveError	Severe	Orchestration	Peoplesoft receive activity was unsuccessful in receiving the request.
ReceiveGeneralError	Severe	Orchestration	Error occurred while sending the response from PeopleSoft Receive.
ReceiveIOError	Severe	Orchestration	IO Error occurred while processing request in PeopleSoft Receive.
ReceiveInfo	Info	Orchestration	Got document from specified host with specified name and version.
ReceiveProcess	Severe	Orchestration	Error occurred while processing request in PeopleSoft Receive.
ReceiveSuccessful	Info	Orchestration	Peoplesoft receive activity successfully received the request.
RunningInfo	Warning	Orchestration	Faced few warnings or errors while running Peoplesoft activity.
RunningMessages	Warning	Orchestration	Received messages while executing the activity.
SetupInfo	Warning	Orchestration	Faced few warnings or errors while setting up Peoplesoft activity.

- [PeopleSoft Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the PeopleSoft Module.
- [PeopleSoft Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the PeopleSoft Module.
- [PeopleSoft Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the PeopleSoft Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/about_the_peoplesoft_module.html


PeopleSoft Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the PeopleSoft Module.

- [ActivateUnsuccessful](#)
Error occurred while connecting to PeopleSoft system while activating activity. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time.
- [ConnectionError](#)
The peoplesoft operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectionPoolError](#)
Error occurred while returning connection to the pool. Continuing the activity.
- [ConnectionRetry](#)
The peoplesoft operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [MakeConnectError](#)
Error occurred while creating the connection to destination.
- [PoolReleaseError](#)
Error occurred while closing the connection pool.
- [ReceiveActivate](#)
Error occurred while activating PeopleSoft Receive.
- [ReceiveDeActivate](#)
Error occurred while deactivating PeopleSoft Receive.
- [ReceiveIOError](#)
IO Error occurred while processing request in PeopleSoft Receive.

Parent topic: [PeopleSoft Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_notifications_list.html

ActivateUnsuccessful

Error occurred while connecting to PeopleSoft system while activating activity. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time.

Level : *Info*

Log Message : *Error connecting to PeopleSoft system while activating activity {ActivityName}, error is: {Message}. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cActivateUnsuccessfulEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*


SNMP Trap Number : *1*

The ActivateUnsuccessful message contains the following variables:

Table 1. ActivateUnsuccessful Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity name which failed to connect to Peoplesoft system.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cEv1ActivityName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1.1.1.1
<p>6. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_activateunsuccessful_message.html

ConnectionError

The peoplesoft operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to PeopleSoft after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cConnectionErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The ConnectionError message contains the following variables:

Table 1. ConnectionError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cEv2NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1.1.2.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_connectionerror_message.html

ConnectionPoolError

Error occurred while returning connection to the pool. Continuing the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while returning connection to pool. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cConnectionPoolErrorEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*

Variables

The ConnectionPoolError message contains the following variables:

Table 1. ConnectionPoolError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Connection Notifications](#)

ConnectionRetry

The peoplesoft operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Connection error while executing activity {ActivityName}. The error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s)*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cConnectionRetryEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The ConnectionRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectionRetry Message Variables

1. SerialNumber The serial number of the appliance sending the trap. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
2. Severity Severity of the Notification. <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
3. JobID The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The activity name which failed to connect to Peoplesoft system.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cEv3ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1.1.3.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

7. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cEv3RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1.1.3.3

8. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cEv3TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1.1.3.4


9. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cEv3IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1.1.3.5

Parent topic: [PeopleSoft Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_connectionretry_message.html

MakeConnectError

Error occurred while creating the connection to destination.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while creating the connection to destination. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cMakeConnectErrorEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*

SNMP Trap Number : *9*

Variables

The MakeConnectError message contains the following variables:

Table 1. MakeConnectError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_makeconnecterror_message.html

PoolReleaseError

Error occurred while closing the connection pool.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while closing the connection pool. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cPoolReleaseErrorEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The PoolReleaseError message contains the following variables:

Table 1. PoolReleaseError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_poolreleaseerror_message.html

ReceiveActivate

Error occurred while activating PeopleSoft Receive.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while activating PeopleSoft Receive. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cReceiveActivateEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*

SNMP Trap Number : 5

Variables

The ReceiveActivate message contains the following variables:

Table 1. ReceiveActivate Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2</i>

Parent topic: [PeopleSoft Connection Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_receiveactivate_message.html

ReceiveDeActivate

Error occurred while deactivating PeopleSoft Receive.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while deactivating PeopleSoft Receive. Discarding error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cReceiveDeActivateEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The ReceiveDeActivate message contains the following variables:

Table 1. ReceiveDeActivate Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_receivedeactivate_message.html

ReceiveIOError

IO Error occurred while processing request in PeopleSoft Receive.

Level : *Severe*

Log Message : *IO Error while processing request in PeopleSoft Receive. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9cReceiveIOErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.1*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The ReceiveIOError message contains the following variables:

Table 1. ReceiveIOError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_connection_receiveioerror_message.html


PeopleSoft Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the PeopleSoft Module.

- [ActivateFailureBlank](#)
Activity could not be started as the specified name was blank.
- [ActivateSuccess](#)
Activity name specified was successfully activated.
- [ActivityFailure](#)
Activity name specified failed to execute.
- [ActivitySuccessful](#)
Activity name specified executed successfully. The response output parameter was successfully generated.
- [ConfigURI](#)
Information regarding the URI and Port where the PeopleSoft Receive is listening.
- [CreateOnlyKeys](#)
Only Create Keys was specified and no other properties were specified. Create might not have created the record.
- [DataLengthMore](#)
The data set for specified field name has length exceeding the field length. This may cause loss of data.
- [DeleteFail](#)
The activity failed to delete specified item number.
- [GetNoReturn](#)
Activity name specified could not find any record.
- [ItemNumberBlank](#)
Item number returned is empty.
- [MessageNameVersion](#)
Message name and version got does not match that set in activity.
- [NoOperationOnRecord](#)
Activity could not find any record to do specified operation on it.
- [OutOfRange](#)
Activity is trying to delete an item which is out of range.
- [ReceiveError](#)
Peoplesoft receive activity was unsuccessful in receiving the request.
- [ReceiveGeneralError](#)
Error occurred while sending the response from PeopleSoft Receive.
- [ReceiveInfo](#)
Got document from specified host with specified name and version.
- [ReceiveProcess](#)
Error occurred while processing request in PeopleSoft Receive.
- [ReceiveSuccessful](#)
Peoplesoft receive activity successfully received the request.
- [RunningInfo](#)
Faced few warnings or errors while running Peoplesoft activity.
- [RunningMessages](#)
Received messages while executing the activity.

Parent topic: [PeopleSoft Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

ActivateFailureBlank

Activity could not be started as the specified name was blank.

Level : *Severe*

Log Message : *Activity {ActivityName} not started as {Name} is blank*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oActivateFailureBlankEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The ActivateFailureBlank message contains the following variables:

Table 1. ActivateFailureBlank Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The activity name which failed to activate.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv6ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.6.1


6. Name

The name which was left blank causing activate to fail.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv6Name
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.6.2

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_activatefailureblank_message.html

ActivateSuccess

Activity name specified was successfully activated.

Level : *Info*

Log Message : *Activity {ActivityName} activated successfully*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oActivateSuccessEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The ActivateSuccess message contains the following variables:

Table 1. ActivateSuccess Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ActivityName

The activity name which was activated.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv5ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.5.1

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_activatesuccess_message.html

ActivityFailure

Activity name specified failed to execute.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while trying to execute activity {ActivityName}. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oActivityFailureEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The ActivityFailure message contains the following variables:

Table 1. ActivityFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity name which failed.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv4ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.4.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_activityfailure_message.html

ActivitySuccessful

Activity name specified executed successfully. The response output parameter was successfully generated.

Level : *Info*

Log Message : *{ActivityName} executed and outputted response output parameter*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oActivitySuccessfulEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *3*

Variables

The ActivitySuccessful message contains the following variables:

Table 1. ActivitySuccessful Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ActivityName

The activity name which succeeded.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv3ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.3.1

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_activitysuccessful_message.html

ConfigURI

Information regarding the URI and Port where the PeopleSoft Receive is listening.

Level : *Info*

Log Message : *PeopleSoft Receive listening for events on URI: \"{UriValue}\" and port: \"{PortValue}\"*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oConfigURIEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The ConfigURI message contains the following variables:

Table 1. ConfigURI Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. UriValue</p> <p>The URI the server is listening on.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv19UriValue</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.19.1</i>
<p>6. PortValue</p>

The port number the server is listening on.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv19PortValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.19.2

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_configuri_message.html

CreateOnlyKeys

Only Create Keys was specified and no other properties were specified. Create might not have created the record.

Level : *Warning*

Log Message : *Only Create Keys and no other properties specified. Create might not have created record.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oCreateOnlyKeysEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The CreateOnlyKeys message contains the following variables:

Table 1. CreateOnlyKeys Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_createonlykeys_message.html

DataLengthMore

The data set for specified field name has length exceeding the field length. This may cause loss of data.

Level : *Warning*

Log Message : *Data being set for field named {FieldName} has length {DataLength}, where as field has length {FieldLength}. There may be loss of data.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oDataLengthMoreEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The DataLengthMore message contains the following variables:

Table 1. DataLengthMore Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. FieldName

Name of the field for which data has been set.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv12FieldName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.12.1

6. DataLength

Length of the data which has been set for this field.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv12DataLength
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.12.2

7. FieldLength


Length of the field for which data has been set.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv12FieldLength
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.12.3

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_datalelengthmore_message.html

DeleteFail

The activity failed to delete specified item number.

Level : *Warning*

Log Message : *Delete failed for item {ItemNumber}. Returning false*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oDeleteFailEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The DeleteFail message contains the following variables:

Table 1. DeleteFail Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ItemNumber

Item number which is out of range.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv10ItemNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.10.1

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_deletefail_message.html

GetNoReturn

Activity name specified could not find any record.

Level : *Info*

Log Message : *Activity {ActivityName} could not find any record*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oGetNoReturnEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables


The GetNoReturn message contains the following variables:

Table 1. GetNoReturn Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>The activity name which could not find any record.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv7ActivityName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.7.1

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

ItemNumberBlank

Item number returned is empty.

Level : *Warning*

Log Message : *ITEM_NO is empty. Returning false*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oItemNumberBlankEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The ItemNumberBlank message contains the following variables:


Table 1. ItemNumberBlank Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_itemnumberblank_message.html

MessageNameVersion

Message name and version got does not match that set in activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Message name and version got does not match that set in activity. Set in activity: Message Name: {MessageName}, Message Version: {MessageVersion}. Actually Got: Message Name: {ActualMessageName}, Message Version: {ActualMessageVersion}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oMessageNameVersionEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The MessageNameVersion message contains the following variables:

Table 1. MessageNameVersion Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. MessageName

The message name set in the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv14MessageName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.14.1

6. MessageVersion

The message version set in the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv14MessageVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.14.2

7. ActualMessageName

The message name received in the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv14ActualMessageName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.14.3

8. ActualMessageVersion

The message version received in the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv14ActualMessageVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.14.4

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_messageversion_message.html

NoOperationOnRecord

Activity could not find any record to do specified operation on it.

Level : *Warning*

Log Message : *Not able to get any record to do {OperationName} on. Returning false*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oNoOperationOnRecordEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The NoOperationOnRecord message contains the following variables:

Table 1. NoOperationOnRecord Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. OperationName

Operation name that could not be specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv8OperationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.8.1

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_nooperationonrecord_message.html

OutOfRange

Activity is trying to delete an item which is out of range.

Level : *Warning*

Log Message : *Trying to delete item {ItemNumber} which is out of range. Returning false*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oOutOfRangeEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The OutOfRange message contains the following variables:

Table 1. OutOfRange Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ItemNumber

Item number which is out of range.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv9ItemNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.9.1

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_outofrange_message.html

ReceiveError

Peoplesoft receive activity was unsuccessful in receiving the request.

Level : Severe

Log Message : Error while receiving in PeopleSoft Receive. The error is: {Message}

System : Orchestration

SNMP Name : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oReceiveErrorEv16

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2

SNMP Trap Number : 16

Variables

The ReceiveError message contains the following variables:


Table 1. ReceiveError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_receiveerror_message.html

ReceiveGeneralError

Error occurred while sending the response from PeopleSoft Receive.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while sending the response from PeopleSoft Receive. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oReceiveGeneralErrorEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The ReceiveGeneralError message contains the following variables:

Table 1. ReceiveGeneralError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_receivegeneralerror_message.html

ReceiveInfo

Got document from specified host with specified name and version.

Level : *Info*

Log Message : *Got document from {From} with Message Name: {MessageName}, Message Version: {MessageVersion}, Message Type: {MessageType} and Originating Time Stamp: {TimeStamp}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oReceiveInfoEv13*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The ReceiveInfo message contains the following variables:

Table 1. ReceiveInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. From</p> <p>The name of the host where receive activity got the document.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv13From• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.13.1
<p>6. MessageName</p> <p>The name of the message received by the activity</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv13MessageName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.13.2
<p>7. MessageVersion</p>

The version of the message received by the activity

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv13MessageVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.13.3

8. MessageType

The type of the message received by the activity

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv13MessageType
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.13.4


9. TimeStamp

The originating time stamp of the message received by the activity

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv13TimeStamp
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.13.5

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_receiveinfo_message.html

ReceiveProcess

Error occurred while processing request in PeopleSoft Receive.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while processing request in PeopleSoft Receive. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oReceiveProcessEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables


The ReceiveProcess message contains the following variables:

Table 1. ReceiveProcess Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_receiveprocess_message.html

ReceiveSuccessful

Peoplesoft receive activity successfully received the request.

Level : *Info*

Log Message : *Successfully received request in PeopleSoft Receive and outputted output parameter response*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oReceiveSuccessfulEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *15*


Variables

The ReceiveSuccessful message contains the following variables:

Table 1. ReceiveSuccessful Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_receivesuccessful_message.html

RunningInfo

Faced few warnings or errors while running Peoplesoft activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Errors/Warning messages while executing activity: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oRunningInfoEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The RunningInfo message contains the following variables:

Table 1. RunningInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_runninginfo_message.html

RunningMessages

Received messages while executing the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *{MessageType} messages while executing activity: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oRunningMessagesEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The RunningMessages message contains the following variables:

Table 1. RunningMessages Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. MessageType

Type of the message received.


- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv1MessageType
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.1.1

6. Message

The message received while executing the activity.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9oEv1Message
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.2.1.1.2

Parent topic: [PeopleSoft Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_operation_runningmessages_message.html

PeopleSoft Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the PeopleSoft Module.

- [MissingLibraries](#)
Peoplesoft activity is missing required libraries. Please install them from WMC.
- [SetupInfo](#)
Faced few warnings or errors while setting up Peoplesoft activity.

Parent topic: [PeopleSoft Module](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_internal_notifications_list.html

MissingLibraries

Peoplesoft activity is missing required libraries. Please install them from WMC.

Level : *Severe*

Log Message : *Missing classes when trying to start activity {ActivitName}. PeopleSoft library may need to be installed on the appliance. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9iMissingLibrariesEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The MissingLibraries message contains the following variables:

Table 1. MissingLibraries Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivitName

The activity name which faced the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9iEv1ActivitName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.3.1.1.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

SetupInfo

Faced few warnings or errors while setting up Peoplesoft activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Warning/error messages while initializing {ActivityName}: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9iSetupInfoEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.3*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The SetupInfo message contains the following variables:

Table 1. SetupInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

The activity name which faced the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PEOPLESOFT-MIB::ciC9iEv2ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.9.1.3.1.2.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [PeopleSoft Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/peoplesoft/peoplesoft_internal_setupinfo_message.html

Platform Module

The Platform module provides notifications for elements generally not associated with projects or the runtime such as hardware, network, security, and resources. This section contains details for the messages delivered from the Platform Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Platform Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Platform Module.

Table 1. Notifications issued by the Platform Module

Notification	Level	System	Description
--------------	-------	--------	-------------


Notification	Level	System	Description
AccessViolation	Info	Security	An authenticated user attempted to access a section of the Cast Iron product which would require additional authorization.
AuthFailure	Severe	Security	An attempt to authenticate with the appliance failed.
AuthLogOut	Info	Security	Event showing logging out of the user.
AuthSuccess	Info	Security	Attempt to authenticate with the appliance was successful.
DiskUsageCritOk	Info	Resources	Disk space usage is below the critical threshold.
DiskUsageCritical	Severe	Resources	Disk space usage has exceeded the critical threshold.
DiskUsageWarnOk	Info	Resources	Disk space usage is below the warning threshold.
DiskUsageWarning	Warning	Resources	Disk space usage has exceeded the warning threshold.
FanFailed	Severe	Hardware	A cooling fan is not operating correctly.
FanRestored	Info	Hardware	A cooling fan has resumed proper operation.
GrantRole	Info	Security	grant new role created.
GroupCreated	Info	Security	New group created.
GroupDeleted	Info	Security	Group deleted.
HighAvailFailover	Info	Hardware	The High Availability failover feature has taken effect; failover is complete.
HighAvailNotReady	Warning	Hardware	The HA system is not Highly Available.
HighAvailReady	Info	Hardware	The HA system is Highly Available.
HighAvailVersionError	Severe	Resources	The version of CIOS running on Standby does not match that running on Active.
IntrusionInform	Warning	Hardware	The appliance case has been opened.
IntrusionSevere	Severe	Hardware	The appliance case has been opened, which could result in system failure. Please contact Cast Iron Support.
LargeFileWarning	Warning	Resources	Large file taking up space on heavily loaded disk.
NetworkAutohost	Warning	Network	The Autohost feature has added the appliance's hostname and IP address to /etc/hosts.
NetworkInvalidRoute	Warning	Network	Could not add a requested network route.
NetworkLinkDown	Warning	Network	The network link is down (offline).
NetworkLinkUp	Info	Network	The network link is up (online).
OrcmonArchiveError	Severe	Resources	Job log archive error.
OrcmonDatabaseError	Severe	Resources	Job log database error.
OrcmonDiskFull	Warning	Resources	Normal job log purging did not clear enough disk space. Purging half of all job logs in attempt to recover disk space.

Notification	Level	System	Description
OrcmonDiskFullNoPurge	Severe	Resources	Failed to purge any job logs to recover disk space.
OrcmonDiskTrigger	Info	Resources	Job log purge was initiated due to an available disk space trigger.
OrcmonExportCdError	Severe	Resources	Could not upload the job log archive file to the FTP server: Could not cd to the destination directory.
OrcmonExportError	Severe	Resources	Failure uploading archive file to FTP server.
OrcmonExportFTP	Info	Resources	Exporting archive file to FTP server.
OrcmonExportLocal	Info	Resources	Exporting job log data to a local archive file.
OrcmonExportStoreErr	Severe	Resources	Failure uploading archive file to FTP server: Could not store file.
OrcmonExportedJobs	Info	Resources	Exported jobs from the job log.
OrcmonPurgeByCompl	Info	Resources	Job log purge has been triggered based on the number of stored completed jobs.
OrcmonPurgeByErrored	Info	Resources	Job log purge has been triggered based on the number of stored errored jobs.
OrcmonPurgeByTime	Info	Resources	Job log purge has been triggered based on the amount of time since the last purge.
OrcmonPurgeByTimeNP	Info	Resources	Job log purge has been triggered based on the amount of time since collection began.
OrcmonPurgeFailed	Severe	Resources	Job log purge/archive failed.
PowerInterrupted	Warning	Hardware	A power module has reported that it does not have power.
PowerRestored	Info	Hardware	A power module has reported that power has been restored.
RaidArrayDegraded	Severe	Hardware	The RAID array on the appliance is degraded.
RaidArrayOffline	Severe	Hardware	The RAID array on the appliance is offline. Please contact Cast Iron Support.
RaidArrayOptimal	Info	Hardware	The RAID array on the appliance is optimal.
RaidDiskFailed	Severe	Hardware	A disk on the appliance has failed.
RaidDiskOnline	Info	Hardware	A disk on the appliance is now online and working properly.
RaidDiskRebuilding	Info	Hardware	A disk on the appliance is rebuilding.
RevokeRole	Info	Security	User role revoked.
SwapUsageCritOk	Info	Resources	Swap space usage is below the critical threshold.
SwapUsageCritical	Severe	Resources	Swap space usage has exceeded the critical threshold.
SwapUsageWarnOk	Info	Resources	Swap space usage is below the warning threshold.
SwapUsageWarning	Warning	Resources	Swap space usage has exceeded the warning threshold.

Notification	Level	System	Description
SystemInitComplete	Info	Hardware	The appliance is finished initializing after reboot.
SystemInitStarted	Info	Hardware	The appliance is initializing after being shut down or rebooted.
SystemRecoveryReboot	Warning	Hardware	Operational failure was detected. System is rebooting to recover.
SystemRecoveryRestart	Warning	Hardware	Operational failure was detected. System is restarting to recover.
TemperatureOutOfRange	Severe	Hardware	A monitored temperature within the appliance is too high, which could lead to future failures.
TemperatureRestored	Info	Hardware	A temperature which was previously out of range (too hot) has come back into range
UpdateStatus	Info	Security	Update user status as active or inactive.
UpdateUser	Info	Security	Update display name of a user.
UpgradeComplete	Info	Hardware	The Cast Iron firmware was successfully upgraded.
UpgradeFailed	Severe	Hardware	The attempt to upgrade the Cast Iron firmware has failed.
UserCreated	Info	Security	New user created.
UserDeleted	Info	Security	User deleted.

- [Platform Hardware Notifications](#)
Provides a comprehensive list of hardware notifications sent from the Platform Module.
- [Platform Network Notifications](#)
Provides a comprehensive list of network notifications sent from the Platform Module.
- [Platform Resources Notifications](#)
Provides a comprehensive list of resources notifications sent from the Platform Module.
- [Platform Security Notifications](#)
Provides a comprehensive list of security notifications sent from the Platform Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/about_the_platform_module.html

Platform Hardware Notifications

Provides a comprehensive list of hardware notifications sent from the Platform Module.

- [FanFailed](#)
A cooling fan is not operating correctly.

- [FanRestored](#)
A cooling fan has resumed proper operation.
- [HighAvailFailover](#)
The High Availability failover feature has taken effect; failover is complete.
- [HighAvailNotReady](#)
The HA system is not Highly Available.
- [HighAvailReady](#)
The HA system is Highly Available.
- [IntrusionInform](#)
The appliance case has been opened.
- [IntrusionSevere](#)
The appliance case has been opened, which could result in system failure. Please contact Cast Iron Support.
- [PowerInterrupted](#)
A power module has reported that it does not have power.
- [PowerRestored](#)
A power module has reported that power has been restored.
- [RaidArrayDegraded](#)
The RAID array on the appliance is degraded.
- [RaidArrayOffline](#)
The RAID array on the appliance is offline. Please contact Cast Iron Support.
- [RaidArrayOptimal](#)
The RAID array on the appliance is optimal.
- [RaidDiskFailed](#)
A disk on the appliance has failed.
- [RaidDiskOnline](#)
A disk on the appliance is now online and working properly.
- [RaidDiskRebuilding](#)
A disk on the appliance is rebuilding.
- [SystemInitComplete](#)
The appliance is finished initializing after reboot.
- [SystemInitStarted](#)
The appliance is initializing after being shut down or rebooted.
- [SystemRecoveryReboot](#)
Operational failure was detected. System is rebooting to recover.
- [SystemRecoveryRestart](#)
Operational failure was detected. System is restarting to recover.
- [TemperatureOutOfRange](#)
A monitored temperature within the appliance is too high, which could lead to future failures.
- [TemperatureRestored](#)
A temperature which was previously out of range (too hot) has come back into range
- [UpgradeComplete](#)
The Cast Iron firmware was successfully upgraded.
- [UpgradeFailed](#)
The attempt to upgrade the Cast Iron firmware has failed.

Parent topic: [Platform Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

FanFailed

A cooling fan is not operating correctly.

The most likely cause is that the fan has become disconnected or has failed. The recommended action is to 1) confirm the appliance with the corresponding AffectedAppliance serial number has an indicator LED (usually orange), 2) confirm the fan is properly connected, and 3) contact Cast Iron Support for assistance replacing the fan.

Level : *Severe*

Log Message : *Fan {FanID} on appliance {AffectedAppliance} is not functional. Current={CurrentSpeed} RPM. Minimum={MinimumSpeed} RPM.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hFanFailedEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The FanFailed message contains the following variables:

Table 1. FanFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. FanID</p> <p>Identifier associated with the failed fan.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv1FanID• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.1.1

4. AffectedAppliance

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

5. CurrentSpeed

Current speed of the fan in RPM.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv1CurrentSpeed
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.1.3


6. MinimumSpeed

Minimum speed of the fan in RPM.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv1MinimumSpeed
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.1.4

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo rm_hardware_fanfailed_message.html

FanRestored

A cooling fan has resumed proper operation.

This notification may occur if a fan previously failed, but has since been repaired or reconnected.

Level : *Info*

Log Message : *Fan {FanID} on appliance {AffectedAppliance} is functional. Current={CurrentSpeed} RPM. Minimum={MinimumSpeed} RPM.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hFanRestoredEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

Variables

The FanRestored message contains the following variables:


Table 1. FanRestored Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. FanID</p> <p>Identifier associated with the failed fan.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv2FanID • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.2.1
<p>4. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5
<p>5. CurrentSpeed</p> <p>Current speed of the fan in RPM.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv2CurrentSpeed • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.2.3
<p>6. MinimumSpeed</p> <p>Minimum speed of the fan in RPM.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv2MinimumSpeed

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.2.4

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_fanrestored_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_fanrestored_message.html)

HighAvailFailover

The High Availability failover feature has taken effect; failover is complete.

HA systems may "fail over" to the Standby appliance based on user request or based on the needs of the system. This notification is sent when the procedure has completed, regardless of the reason that the failover occurred.

Level : *Info*

Log Message : *The High Availability peer {AffectedAppliance} has successfully taken over.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hHighAvailFailoverEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The HighAvailFailover message contains the following variables:

Table 1. HighAvailFailover Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1


3. AffectedAppliance

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware_highavailfailover_message.html

HighAvailNotReady

The HA system is not Highly Available.

The Cast Iron HA pair is Highly Available when both Active and Standby appliances are fully operational. That is, when Standby is ready to take over for Active in case of a failure. This notification indicates that the Standby appliance is not currently synchronized with Active and therefore is not ready to take over if necessary.

Level : *Warning*

Log Message : *The HA system is not Highly Available. Active appliance is {AffectedAppliance}.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hHighAvailNotReadyEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *23*

Variables

The HighAvailNotReady message contains the following variables:

Table 1. HighAvailNotReady Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1


3. AffectedAppliance

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_highavailnotready_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_highavailnotready_message.html)

HighAvailReady

The HA system is Highly Available.

The Cast Iron HA pair is Highly Available when both Active and Standby appliances are fully operational. That is, when Standby is ready to take over for Active in case of a failure. This notification indicates that the Standby appliance has synchronized with Active and is ready to take over if necessary.

Level : *Info*

Log Message : *The HA system is Highly Available with appliance {AffectedAppliance} acting as Active.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hHighAvailReadyEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *22*

Variables


The HighAvailReady message contains the following variables:

Table 1. HighAvailReady Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo rm_hardware_highavailready_message.html

IntrusionInform

The appliance case has been opened.

This applies to 7198-type appliances. The appliance has reported that its case was opened. This is an informational message; the intrusion sensor on this appliance does not affect the appliance's behavior. If this message occurs unexpectedly, you may wish to ensure the physical security of your appliance.

Level : *Warning*

Log Message : *The appliance {AffectedAppliance} has been opened.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hIntrusionInformEv7*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4

SNMP Trap Number : 7

Variables


The IntrusionInform message contains the following variables:

Table 1. IntrusionInform Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware_intrusioninform_message.html

IntrusionSevere

The appliance case has been opened, which could result in system failure. Please contact Cast Iron Support.

This applies to 9235-type appliances. The appliance has reported that its case was opened. This is a serious situation requiring immediate attention to avoid downtime.

Level : *Severe*

Log Message : *The appliance {AffectedAppliance} has been opened, possibly leading to system failure. Please contact Cast Iron Support.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hIntrusionSevereEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *8*

Variables


The IntrusionSevere message contains the following variables:

Table 1. IntrusionSevere Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware_intrusionsevere_message.html

PowerInterrupted

A power module has reported that it does not have power.

The most likely cause is that a power cord has been unplugged. Please ensure both power cords are plugged in and that the power modules are operating normally.

Level : *Warning*

Log Message : *Power sensor {PowerID} on appliance {AffectedAppliance} has reported a loss of power.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hPowerInterruptedEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : 5

Variables

The PowerInterrupted message contains the following variables:


Table 1. PowerInterrupted Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. PowerID</p> <p>Identifier associated with the monitored power module.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv5PowerID• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.5.1
<p>4. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo rm_hardware_powerinterrupted_message.html

PowerRestored

A power module has reported that power has been restored.

Level : *Info*

Log Message : *Power sensor {PowerID} on appliance {AffectedAppliance} has reported power is restored.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hPowerRestoredEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The PowerRestored message contains the following variables:

Table 1. PowerRestored Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. PowerID</p>

Identifier associated with the monitored power module.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv6PowerID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.6.1


4. AffectedAppliance

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_powerrestored_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_powerrestored_message.html)

RaidArrayDegraded

The RAID array on the appliance is degraded.

The appliance will continue operating, excepting any additional hard drive failures. The most likely cause of this notification is that one of the hard drives has failed or is rebuilding. If the disk is rebuilding, the RAID state should return to Optimal upon completion.

Level : *Severe*

Log Message : *The RAID array on appliance {AffectedAppliance} is degraded.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hRaidArrayDegradedEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The RaidArrayDegraded message contains the following variables:

Table 1. RaidArrayDegraded Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1


3. AffectedAppliance

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware RAIDarraydegraded_message.html

RaidArrayOffline

The RAID array on the appliance is offline. Please contact Cast Iron Support.

The most likely cause is that both hard drives have failed. Please examine the

Level : *Severe*

Log Message : *The RAID array on appliance {AffectedAppliance} is offline. Please contact Cast Iron Support.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hRaidArrayOfflineEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : 9

Variables


The RaidArrayOffline message contains the following variables:

Table 1. RaidArrayOffline Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware RAIDarrayoffline_message.html

RaidArrayOptimal

The RAID array on the appliance is optimal.

This event occurs when a disk which had previously failed or was rebuilding has been restored to proper operation.

Level : *Info*

Log Message : *The RAID array on appliance {AffectedAppliance} is optimal.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hRaidArrayOptimalEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *11*

Variables


The RaidArrayOptimal message contains the following variables:

Table 1. RaidArrayOptimal Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware RAIDarrayoptimal_message.html

RaidDiskFailed

A disk on the appliance has failed.

Level : *Severe*

Log Message : *The RAID disk {DiskID} on appliance {AffectedAppliance} has failed.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hRaidDiskFailedEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *12*


Variables

The RaidDiskFailed message contains the following variables:

Table 1. RaidDiskFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. DiskID</p> <p>Identifier associated with the associated disk.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv12DiskID• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.12.1
<p>4. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware_raiddiskfailed_message.html

RaidDiskOnline

A disk on the appliance is now online and working properly.

This notification is typically sent when a disk has completed rebuilding and comes online, providing hardware redundancy.

Level : *Info*

Log Message : *The RAID disk {DiskID} on appliance {AffectedAppliance} is online.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hRaidDiskOnlineEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The RaidDiskOnline message contains the following variables:

Table 1. RaidDiskOnline Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. DiskID</p> <p>Identifier associated with the associated disk.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv14DiskID

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.14.1


4. AffectedAppliance

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware_raiddiskonline_message.html

RaidDiskRebuilding

A disk on the appliance is rebuilding.

A rebuilding disk actively copies data from the online disk. While in this state, system performance may be affected and the RAID Array state is usually "Degraded". System performance and the RAID Array state should return to normal when rebuilding has completed.

Level : *Info*

Log Message : *The RAID disk {DiskID} on appliance {AffectedAppliance} is rebuilding.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hRaidDiskRebuildingEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The RaidDiskRebuilding message contains the following variables:

Table 1. RaidDiskRebuilding Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. DiskID

Identifier associated with the associated disk.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv13DiskID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.13.1


4. AffectedAppliance

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_raiddiskrebuilding_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_raiddiskrebuilding_message.html)

SystemInitComplete

The appliance is finished initializing after reboot.

This message indicates that the appliance is fully operational after completing a reboot.

Level : *Info*

Log Message : *The appliance {AffectedAppliance} is finished initializing after reboot.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hSystemInitCompleteEv21*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4

SNMP Trap Number : 21

Variables


The SystemInitComplete message contains the following variables:

Table 1. SystemInitComplete Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware_systeminitcomplete_message.html

SystemInitStarted

The appliance is initializing after being shut down or rebooted.

The appliance sends this message early in the bootup process. This message is intended as informational, indicating that a reboot has occurred.

Level : *Info*

Log Message : *The appliance {AffectedAppliance} is initializing after being shut down or rebooted.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hSystemInitStartedEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *20*

Variables


The SystemInitStarted message contains the following variables:

Table 1. SystemInitStarted Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_systeminitstarted_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_systeminitstarted_message.html)

SystemRecoveryReboot

Operational failure was detected. System is rebooting to recover.

The Cast Iron appliance continually monitors the health of components within the system. If a component has a momentary failure, the system may choose to reboot to recover from the situation. In the case of a recurring error, further reboots are not used until an hour has passed; instead the runtime is restarted. See the CLI command "system autoreboot" for information about controlling this behavior.

Level : *Warning*

Log Message : *Operational failure was detected on appliance {AffectedAppliance}. System is rebooting to recover. Uptime {Days} days, {Hours}:{Minutes}.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hSystemRecoveryRebootEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The SystemRecoveryReboot message contains the following variables:

Table 1. SystemRecoveryReboot Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5
<p>4. Days</p>

The number of days the system has been up since the last reboot.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv18Days
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.18.2

5. Hours

The number of hours the system has been up since the last reboot.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv18Hours
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.18.3


6. Minutes

The number of minutes the system has been up since the last reboot.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv18Minutes
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.18.4

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware_systemrecoveryreboot_message.html

SystemRecoveryRestart

Operational failure was detected. System is restarting to recover.

Level : *Warning*

Log Message : *Operational failure on appliance {AffectedAppliance} was detected. System is restarting to recover.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hSystemRecoveryRestartEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *19*

Variables


The SystemRecoveryRestart message contains the following variables:

Table 1. SystemRecoveryRestart Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_systemrecoveryrestart_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo

rm_hardware_systemrecoveryrestart_message.html)

TemperatureOutOfRange

A monitored temperature within the appliance is too high, which could lead to future failures.

Level : *Severe*

Log Message : *Temperature {TempID} on appliance {AffectedAppliance} is out of range. Current={CurrentTemperature} deg C. Maximum={MaximumTemperature} deg C.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hTemperatureOutOfRangeEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

Variables

The TemperatureOutOfRange message contains the following variables:


Table 1. TemperatureOutOfRange Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. TempID</p> <p>Identifier associated with the monitored temperature.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv3TempID • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.3.1
<p>4. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5
<p>5. CurrentTemperature</p> <p>Current temperature in degrees Celcius.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv3CurrentTemperature • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.3.3
<p>6. MaximumTemperature</p> <p>Maximum allowed temperature in degrees Celcius.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv3MaximumTemperature

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.3.4

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_temperatureoutofrange_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_temperatureoutofrange_message.html)

TemperatureRestored

A temperature which was previously out of range (too hot) has come back into range

Level : *Info*

Log Message : *Temperature {TempID} on appliance {AffectedAppliance} is restored. Current={CurrentTemperature} deg C. Maximum={MaximumTemperature} deg C.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hTemperatureRestoredEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The TemperatureRestored message contains the following variables:

Table 1. TemperatureRestored Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. TempID</p>

Identifier associated with the monitored temperature.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv4TempID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.4.1

4. AffectedAppliance

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

5. CurrentTemperature

Current temperature in degrees Celcius.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv4CurrentTemperature
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.4.3


6. MaximumTemperature

Maximum allowed temperature in degrees Celcius.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv4MaximumTemperature
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.4.4

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_temperaturerestored_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_temperaturerestored_message.html)

UpgradeComplete

The Cast Iron firmware was successfully upgraded.

Level : *Info*

Log Message : *Successfully upgraded Cast Iron firmware on appliance {AffectedAppliance} from version {OldVersion} to version {NewVersion}.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hUpgradeCompleteEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The UpgradeComplete message contains the following variables:

Table 1. UpgradeComplete Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5</i>
<p>4. OldVersion</p> <p>The version of firmware which previously was operating on the Cast Iron appliance.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv16OldVersion</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.16.2</i>
<p>5. NewVersion</p> <p>The version of firmware which is currently operating on the Cast Iron appliance.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv16NewVersion</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.16.3</i>

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_hardware_upgradecomplete_message.html

UpgradeFailed

The attempt to upgrade the Cast Iron firmware has failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Attempt to upgrade Cast Iron firmware on appliance {AffectedAppliance} from version {OldVersion} to version {NewVersion} failed: {Message}.*

System : *Hardware*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hUpgradeFailedEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The UpgradeFailed message contains the following variables:

Table 1. UpgradeFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

4. OldVersion

The version of firmware which is currently operating on the Cast Iron appliance.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv17OldVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.17.2

5. NewVersion

The version of the attempted firmware upgrade.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23hEv17NewVersion
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.4.1.17.3


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Platform Hardware Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_upgradefailed_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_hardware_upgradefailed_message.html)

Platform Network Notifications

Provides a comprehensive list of network notifications sent from the Platform Module.

- [NetworkAutohost](#)
The Autohost feature has added the appliance's hostname and IP address to /etc/hosts.
- [NetworkInvalidRoute](#)
Could not add a requested network route.
- [NetworkLinkDown](#)
The network link is down (offline).
- [NetworkLinkUp](#)
The network link is up (online).

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_network_notifications_list.html

NetworkAutohost

The Autohost feature has added the appliance's hostname and IP address to `/etc/hosts`.

The appliance requires the ability to resolve its own hostname to an IP address. The mapping is validated each time the appliance's network subsystem is started, and may be determined by DNS lookup or from an entry which was manually added via the CLI. If the appliance cannot determine the mapping this way, the autohost feature automatically adds a "best-guess" entry. While this automatic entry may work in many circumstances, it is not guaranteed to allow proper appliance operation in all environments. This notification may indicate a misconfiguration in the network. Therefore it is recommended that the user examine the appliance's network configuration and either enter the appliance's IP address and hostname to DNS, or manually add an entry to `/etc/hosts` by using the CLI command "net add etchost".

Level : *Warning*

Log Message : *Automatically added entry to /etc/hosts with hostname {Hostname} and IP address {IPAddress}.*

System : *Network*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nNetworkAutohostEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5*

SNMP Trap Number : *3*

Variables

The NetworkAutohost message contains the following variables:


Table 1. NetworkAutohost Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p>

<ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Hostname</p> <p>Hostname of the appliance as added to /etc/hosts.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nEv3Hostname • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5.1.3.1
<p>4. IPAddress</p> <p>IP Address of the appliance as added to /etc/hosts.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nEv3IPAddress • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5.1.3.2

Parent topic: [Platform Network Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_network_networkautohost_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo

rm_network_networkautohost_message.html)

NetworkInvalidRoute

Could not add a requested network route.

One of the requested custom routes could not be added. Please check the network configuration, paying particular attention to the gateway IP address and the ethernet link.

Level : *Warning*

Log Message : *Could not add route to {DestinationIP} on {LinkName}.*

System : *Network*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nNetworkInvalidRouteEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5*

SNMP Trap Number : *4*

Variables


The NetworkInvalidRoute message contains the following variables:

Table 1. NetworkInvalidRoute Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. DestinationIP</p> <p>IP address or netmask defining the requested route.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nEv4DestinationIP • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5.1.4.1
<p>4. LinkName</p> <p>Name of the network link.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nEv4LinkName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5.1.4.2

Parent topic: [Platform Network Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_network_networkinvalidroute_message.html

NetworkLinkDown

The network link is down (offline).

The network link could be reported as down because the ethernet cable has been disconnected or the remote host or switch has disabled the port. To adjust or disable network link detection, see the CLI reference guide for the command "net set carrier".

Level : *Warning*

Log Message : *Network link {LinkName} on appliance {AffectedAppliance} is down (offline).*

System : *Network*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nNetworkLinkDownEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The NetworkLinkDown message contains the following variables:

Table 1. NetworkLinkDown Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. LinkName</p> <p>Name of the network link.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nEv2LinkName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5.1.2.1
<p>4. AffectedAppliance</p> <p>Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Network Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
 rm_network_networklinkdown_message.html

NetworkLinkUp

The network link is up (online).

Level : *Info*

Log Message : *Network link {LinkName} on appliance {AffectedAppliance} is up (online).*

System : *Network*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nNetworkLinkUpEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The NetworkLinkUp message contains the following variables:

Table 1. NetworkLinkUp Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. LinkName</p> <p>Name of the network link.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23nEv1LinkName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.5.1.1.1
<p>4. AffectedAppliance</p>

Serial number of the affected appliance. In some cases this could be different than the serial number of the appliance sending a notification, particularly in the case of High Availability pairs where the Active peer could send a notification on behalf of the Standby peer.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvAffectedAppliance
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.5

Parent topic: [Platform Network Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_network_networklinkup_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_network_networklinkup_message.html)

Platform Resources Notifications


Provides a comprehensive list of resources notifications sent from the Platform Module.

- [DiskUsageCritOk](#)
Disk space usage is below the critical threshold.
- [DiskUsageCritical](#)
Disk space usage has exceeded the critical threshold.
- [DiskUsageWarnOk](#)
Disk space usage is below the warning threshold.
- [DiskUsageWarning](#)
Disk space usage has exceeded the warning threshold.
- [HighAvailVersionError](#)
The version of CIOS running on Standby does not match that running on Active.
- [LargeFileWarning](#)
Large file taking up space on heavily loaded disk.
- [OrcmonArchiveError](#)
Job log archive error.
- [OrcmonDatabaseError](#)
Job log database error.
- [OrcmonDiskFull](#)
Normal job log purging did not clear enough disk space. Purging half of all job logs in attempt to recover disk space.
- [OrcmonDiskFullNoPurge](#)
Failed to purge any job logs to recover disk space.
- [OrcmonDiskTrigger](#)
Job log purge was initiated due to an available disk space trigger.
- [OrcmonExportCdError](#)
Could not upload the job log archive file to the FTP server: Could not cd to the destination directory.
- [OrcmonExportError](#)
Failure uploading archive file to FTP server.

- [OrcmonExportFTP](#)
Exporting archive file to FTP server.
- [OrcmonExportLocal](#)
Exporting job log data to a local archive file.
- [OrcmonExportStoreErr](#)
Failure uploading archive file to FTP server: Could not store file.
- [OrcmonExportedJobs](#)
Exported jobs from the job log.
- [OrcmonPurgeByCompl](#)
Job log purge has been triggered based on the number of stored completed jobs.
- [OrcmonPurgeByErrored](#)
Job log purge has been triggered based on the number of stored errored jobs.
- [OrcmonPurgeByTime](#)
Job log purge has been triggered based on the amount of time since the last purge.
- [OrcmonPurgeByTimeNP](#)
Job log purge has been triggered based on the amount of time since collection began.
- [OrcmonPurgeFailed](#)
Job log purge/archive failed.
- [SwapUsageCritOk](#)
Swap space usage is below the critical threshold.
- [SwapUsageCritical](#)
Swap space usage has exceeded the critical threshold.
- [SwapUsageWarnOk](#)
Swap space usage is below the warning threshold.
- [SwapUsageWarning](#)
Swap space usage has exceeded the warning threshold.

Parent topic: [Platform Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_notifications_list.html

DiskUsageCritOk

Disk space usage is below the critical threshold.

Level : *Info*

Log Message : *Disk space usage on {Disk} is now below the {Threshold}% critical threshold - current usage is {Usage}%*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rDiskUsageCritOkEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

Variables


The DiskUsageCritOk message contains the following variables:

Table 1. DiskUsageCritOk Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Disk</p> <p>Name of the disk being monitored</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv6Disk • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.6.1
<p>4. Threshold</p> <p>Disk usage threshold</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv6Threshold • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.6.2
<p>5. Usage</p> <p>Current disk usage</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv6Usage • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.6.3

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_diskusagecritok_message.html

DiskUsageCritical

Disk space usage has exceeded the critical threshold.

Level : *Severe*

Log Message : *Disk space usage on {Disk} has exceeded the {Threshold}% critical threshold - current usage is {Usage}%*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rDiskUsageCriticalEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The DiskUsageCritical message contains the following variables:

Table 1. DiskUsageCritical Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Disk</p> <p>Name of the disk being monitored</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv8Disk• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.8.1
<p>4. Threshold</p> <p>Disk usage threshold</p>

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv8Threshold
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.8.2


5. Usage

Current disk usage

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv8Usage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.8.3

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_diskusagecritical_message.html

DiskUsageWarnOk

Disk space usage is below the warning threshold.

Level : *Info*

Log Message : *Disk space usage on {Disk} is now below the {Threshold}% warning threshold - current usage is {Usage}%*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rDiskUsageWarnOkEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : 5

Variables

The DiskUsageWarnOk message contains the following variables:

Table 1. DiskUsageWarnOk Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. Disk

Name of the disk being monitored

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv5Disk
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.5.1

4. Threshold

Disk usage threshold

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv5Threshold
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.5.2


5. Usage

Current disk usage

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv5Usage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.5.3

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_diskusagewarnok_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_diskusagewarnok_message.html)

DiskUsageWarning

Disk space usage has exceeded the warning threshold.

Level : *Warning*

Log Message : *Disk space usage on {Disk} has exceeded the {Threshold}% warning threshold - current usage is {Usage}%*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rDiskUsageWarningEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : 7


Variables

The DiskUsageWarning message contains the following variables:

Table 1. DiskUsageWarning Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. Disk</p> <p>Name of the disk being monitored</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv7Disk</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.7.1</i>
<p>4. Threshold</p> <p>Disk usage threshold</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv7Threshold</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.7.2</i>
<p>5. Usage</p> <p>Current disk usage</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv7Usage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.7.3</i>

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_diskusagewarning_message.html

HighAvailVersionError

The version of CIOS running on Standby does not match that running on Active.

Level : *Severe*

Log Message : *HA peers are running different versions of CIOS!*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rHighAvailVersionErrorEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *23*

Variables

The HighAvailVersionError message contains the following variables:

Table 1. HighAvailVersionError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

LargeFileWarning

Large file taking up space on heavily loaded disk.

Level : *Warning*

Log Message : *There is an unusually large file, {LargeFile}, of size {FileSize} MB.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rLargeFileWarningEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *24*

Variables

The LargeFileWarning message contains the following variables:


Table 1. LargeFileWarning Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. LargeFile</p> <p>Large file on disk</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv24LargeFile• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.24.1
<p>4. FileSize</p> <p>Size of file in megabytes</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv24FileSize

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.24.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_largefilewarning_message.html

OrcmonArchiveError

Job log archive error.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred while archiving job logs. The error message is: {Message}*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonArchiveErrorEv25*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *25*

Variables

The OrcmonArchiveError message contains the following variables:


Table 1. OrcmonArchiveError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo_rm_resources_orcmonarchiveerror_message.html

OrcmonDatabaseError

Job log database error.

Level : *Severe*

Log Message : *An error occurred while executing a query on the job log database. The error message is: {Message}*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonDatabaseErrorEv26*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *26*

Variables

The OrcmonDatabaseError message contains the following variables:

Table 1. OrcmonDatabaseError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1


3. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo_rm_resources_orcmondatabaseerror_message.html

OrcmonDiskFull

Normal job log purging did not clear enough disk space. Purging half of all job logs in attempt to recover disk space.

Level : *Warning*

Log Message : *Job log purge triggered. Available disk space is {DiskAvailPct}%. Specified trigger is {DiskAvailTrigger}%. Purging using properties failed to clear enough disk space. Purging half of all job logs in attempt to recover disk space.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonDiskFullEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The OrcmonDiskFull message contains the following variables:

Table 1. OrcmonDiskFull Message Variables

1. SerialNumber The serial number of the appliance sending the trap. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. DiskAvailPct

Percentage of disk space which is currently available.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv20DiskAvailPct
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.20.1


4. DiskAvailTrigger

Percentage of available disk space which for triggers a purge.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv20DiskAvailTrigger
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.20.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmondiskfull_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmondiskfull_message.html)

OrcmonDiskFullNoPurge

Failed to purge any job logs to recover disk space.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to purge any job logs to recover disk space. Available disk space is {DiskAvailPct}%.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonDiskFullNoPurgeEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *21*

Variables


The OrcmonDiskFullNoPurge message contains the following variables:

Table 1. OrcmonDiskFullNoPurge Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. DiskAvailPct</p> <p>Percentage of disk space which is currently available.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv21DiskAvailPct • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.21.1

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_orcmondiskfullnopurge_message.html

OrcmonDiskTrigger

Job log purge was initiated due to an available disk space trigger.

Level : *Info*

Log Message : *Job log purge triggered. Available disk space is {DiskAvailPct}%. Specified trigger is {DiskAvailTrigger}%.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonDiskTriggerEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *9*


The OrcmonDiskTrigger message contains the following variables:

Table 1. OrcmonDiskTrigger Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. DiskAvailPct</p> <p>Percentage of disk space which is currently available.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv9DiskAvailPct• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.9.1
<p>4. DiskAvailTrigger</p> <p>Percentage of available disk space which for triggers a purge.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv9DiskAvailTrigger• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.9.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_orcmondisktrigger_message.html

OrcmonExportCdError

Could not upload the job log archive file to the FTP server: Could not cd to the destination directory.

Level : *Severe*

Log Message : *Failure uploading archive file to FTP server: Could not cd to directory "{Directory}".*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonExportCdErrorEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *17*

Variables


The OrcmonExportCdError message contains the following variables:

Table 1. OrcmonExportCdError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Directory</p> <p>Directory on the FTP server where the file would be stored</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv17Directory• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.17.1

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonexportcderror_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonexportcderror_message.html)

OrcmonExportError

Failure uploading archive file to FTP server.

Level : *Severe*

Log Message : *Failure uploading archive file to FTP server: {Message}*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonExportErrorEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *19*

Variables


The OrcmonExportError message contains the following variables:

Table 1. OrcmonExportError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonexporterror_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonexporterror_message.html)

OrcmonExportFTP

Exporting archive file to FTP server.

Level : *Info*

Log Message : *Exporting archive file to FTP server {Host}:{Port}. Placing file "{Filename}" in directory "{Directory}".*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonExportFTPEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The OrcmonExportFTP message contains the following variables:

Table 1. OrcmonExportFTP Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Host</p> <p>Remote FTP host</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv16Host• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.16.1
<p>4. Port</p> <p>TCP Port on the remote FTP host</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv16Port• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.16.2
<p>5. Filename</p>

Name of the file being exported

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv16Filename
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.16.3


6. Directory

Directory on the FTP server where the file is stored

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv16Directory
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.16.4

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_orcmonexportftp_message.html

OrcmonExportLocal

Exporting job log data to a local archive file.

Level : *Info*

Log Message : *Exporting job log data to local archive file "{Filename}".*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonExportLocalEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The OrcmonExportLocal message contains the following variables:

Table 1. OrcmonExportLocal Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1


3. Filename

Name of the local archive file.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv15Filename
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.15.1

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonexportlocal_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonexportlocal_message.html)

OrcmonExportStoreErr

Failure uploading archive file to FTP server: Could not store file.

Level : *Severe*

Log Message : *Failure uploading archive file to FTP server: Could not store file.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonExportStoreErrEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The OrcmonExportStoreErr message contains the following variables:

Table 1. OrcmonExportStoreErr Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3


2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_orcmonexportstoreerr_message.html

OrcmonExportedJobs

Exported jobs from the job log.

Level : *Info*

Log Message : *Job log purged {NumExported} jobs.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonExportedJobsEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The OrcmonExportedJobs message contains the following variables:

Table 1. OrcmonExportedJobs Message Variables

<h3>1. SerialNumber</h3> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<h3>2. Severity</h3>

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1


3. NumExported

Number of jobs exported.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv14NumExported
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.14.1

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_orcmonexportedjobs_message.html

OrcmonPurgeByCompl

Job log purge has been triggered based on the number of stored completed jobs.

Level : *Info*

Log Message : *Job log purge triggered. There are {NumCompleted} completed jobs. Completed jobs threshold is {Threshold}.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonPurgeByComplEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The OrcmonPurgeByCompl message contains the following variables:

Table 1. OrcmonPurgeByCompl Message Variables

1. SerialNumber


The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

<ul style="list-style-type: none"> • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. NumCompleted</p> <p>Number of completed jobs currently stored in the job log.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv12NumCompleted • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.12.1
<p>4. Threshold</p> <p>Number of stored completed jobs which triggered a job purge.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv12Threshold • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.12.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_orcmonpurgebycompl_message.html

OrcmonPurgeByErrored

Job log purge has been triggered based on the number of stored errored jobs.

Level : *Info*

Log Message : *Job log purge triggered. There are {NumErrored} errored jobs. Errored jobs threshold is {Threshold}.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonPurgeByErroredEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *13*


The OrcmonPurgeByErrored message contains the following variables:

Table 1. OrcmonPurgeByErrored Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. NumErrored</p> <p>Number of errored jobs currently stored in the job log.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv13NumErrored• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.13.1
<p>4. Threshold</p> <p>Number of stored errored jobs which triggered a job purge.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv13Threshold• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.13.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonpurgebyerrored_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonpurgebyerrored_message.html)

OrcmonPurgeByTime

Job log purge has been triggered based on the amount of time since the last purge.

Level : *Info*

Log Message : *Job log purge triggered. Time since last purge exceeded {PurgeTime}.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonPurgeByTimeEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *11*

Variables


The OrcmonPurgeByTime message contains the following variables:

Table 1. OrcmonPurgeByTime Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. PurgeTime</p> <p>Scheduled time for the purge.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv11PurgeTime• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.11.1

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonpurgebytime_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonpurgebytime_message.html)

OrcmonPurgeByTimeNP

Job log purge has been triggered based on the amount of time since collection began.

Level : *Info*

Log Message : *Job log purge triggered. Exceeded maximum duration since last purge.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonPurgeByTimeNPEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *10*

Variables


The OrcmonPurgeByTimeNP message contains the following variables:

Table 1. OrcmonPurgeByTimeNP Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonpurgebytimenp_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_orcmonpurgebytimenp_message.html)

OrcmonPurgeFailed

Job log purge/archive failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Job log purge/archive failed: {Message}.*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rOrcmonPurgeFailedEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : 22

Variables


The OrcmonPurgeFailed message contains the following variables:

Table 1. OrcmonPurgeFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_orcmonpurgefailed_message.html

SwapUsageCritOk

Swap space usage is below the critical threshold.

Level : *Info*

Log Message : Swap space usage is now below the {Threshold}% critical threshold - current usage is {Usage}%

System : Resources

SNMP Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rSwapUsageCritOkEv2

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6

SNMP Trap Number : 2

Variables


The SwapUsageCritOk message contains the following variables:

Table 1. SwapUsageCritOk Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Threshold</p> <p>Swap usage threshold</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv2Threshold• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.2.1
<p>4. Usage</p> <p>Current swap usage</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv2Usage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.2.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SwapUsageCritical

Swap space usage has exceeded the critical threshold.

Level : *Severe*

Log Message : *Swap space usage has exceeded the {Threshold}% critical threshold - current usage is {Usage}%*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rSwapUsageCriticalEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The SwapUsageCritical message contains the following variables:


Table 1. SwapUsageCritical Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Threshold</p> <p>Swap usage threshold</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv4Threshold• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.4.1
<p>4. Usage</p> <p>Current swap usage</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv4Usage

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.4.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_swapusagecritical_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_resources_swapusagecritical_message.html)

SwapUsageWarnOk

Swap space usage is below the warning threshold.

Level : *Info*

Log Message : *Swap space usage is now below the {Threshold}% warning threshold - current usage is {Usage}%*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rSwapUsageWarnOkEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The SwapUsageWarnOk message contains the following variables:

Table 1. SwapUsageWarnOk Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Threshold</p> <p>Swap usage threshold</p>

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv1Threshold
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.1.1


4. Usage

Current swap usage

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv1Usage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.1.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_swapusagewarnok_message.html

SwapUsageWarning

Swap space usage has exceeded the warning threshold.

Level : *Warning*

Log Message : *Swap space usage has exceeded the {Threshold}% warning threshold - current usage is {Usage}%*

System : *Resources*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rSwapUsageWarningEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6*

SNMP Trap Number : *3*

Variables

The SwapUsageWarning message contains the following variables:

Table 1. SwapUsageWarning Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. Threshold

Swap usage threshold

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv3Threshold
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.3.1


4. Usage

Current swap usage

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23rEv3Usage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.6.1.3.2

Parent topic: [Platform Resources Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_resources_swapusagewarning_message.html

Platform Security Notifications


Provides a comprehensive list of security notifications sent from the Platform Module.

- [AccessViolation](#)
An authenticated user attempted to access a section of the Cast Iron product which would require additional authorization.
- [AuthFailure](#)
An attempt to authenticate with the appliance failed.
- [AuthLogOut](#)
Event showing logging out of the user.
- [AuthSuccess](#)
Attempt to authenticate with the appliance was successful.
- [GrantRole](#)
grant new role created.
- [GroupCreated](#)
New group created.
- [GroupDeleted](#)
Group deleted.

- [RevokeRole](#)
User role revoked.
- [UpdateStatus](#)
Update user status as active or inactive.
- [UpdateUser](#)
Update display name of a user.
- [UserCreated](#)
New user created.
- [UserDeleted](#)
User deleted.

Parent topic: [Platform Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_security_notifications_list.html

AccessViolation

An authenticated user attempted to access a section of the Cast Iron product which would require additional authorization.

Level : *Info*

Log Message : *Access Violation by user: {Username}. Target: {Target}. Action Performed: {Action}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sAccessViolationEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The AccessViolation message contains the following variables:

Table 1. AccessViolation Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p>

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. Username

The name of the user who failed to log in.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv2Username
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.2.1

4. Target

Section of the product which requires additional authorization.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv2Target
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.2.2


5. Action

Action the user attempted to perform.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv2Action
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.2.3

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_security_accessviolation_message.html

AuthFailure

An attempt to authenticate with the appliance failed.

Level : *Severe*

Log Message : *Authentication failure for user {Username}, from host {Host}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sAuthFailureEv1*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7

SNMP Trap Number : 1

Variables


The AuthFailure message contains the following variables:

Table 1. AuthFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. Username</p> <p>The name of the user who failed to log in.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv1Username• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.1.1
<p>4. Host</p> <p>The name of the host the user attempted to log in from.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv1Host• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.1.2

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_security_authfailure_message.html

AuthLogOut

Event showing logging out of the user.

Level : *Info*

Log Message : *User {UserName} with session id {SessionId} logged out successfully.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sAuthLogOutEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : *12*


Variables

The AuthLogOut message contains the following variables:

Table 1. AuthLogOut Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name of the user.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv12UserName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.12.1
<p>4. SessionId</p> <p>Session ID of the user logging out.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv12SessionId• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.12.2

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_security_authlogout_message.html

AuthSuccess

Attempt to authenticate with the appliance was successful.

Level : *Info*

Log Message : *Authentication success for user {UserName}, from host {Host} with session id {SessionId}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sAuthSuccessEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The AuthSuccess message contains the following variables:

Table 1. AuthSuccess Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name of the user who logged on successfully.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv3UserName

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.3.1

4. Host

The name of the host the user attempted to log in from.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv3Host
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.3.2


5. SessionId

The Session ID of the user who logged on.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv3SessionId
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.3.3

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo rm_security_authsuccess_message.html

GrantRole

grant new role created.

Level : *Info*

Log Message : *User {UserName} has been granted role of {GroupName}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sGrantRoleEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The GrantRole message contains the following variables:

Table 1. GrantRole Message Variables


1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

<ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name of the user whose role is granted.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv9UserName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.9.1
<p>4. GroupName</p> <p>Group name granted to the user.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv9GroupName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.9.2

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_security_grantrole_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo

rm_security_grantrole_message.html)

GroupCreated

New group created.

Level : *Info*

Log Message : *New Group {GroupName} has been created with id {Id}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sGroupCreatedEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

Variables


The GroupCreated message contains the following variables:

Table 1. GroupCreated Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. GroupName</p> <p>Name of group newly created.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv6GroupName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.6.1
<p>4. Id</p> <p>The ID of the group created newly.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv6Id • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.6.2

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo_rm_security_groupcreated_message.html

GroupDeleted

Group deleted.

Level : *Info*

Log Message : *Group {UserName} has been deleted.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sGroupDeletedEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : *7*

Variables


The GroupDeleted message contains the following variables:

Table 1. GroupDeleted Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name of the group deleted.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv7UserName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.7.1

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_security_groupdeleted_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_security_groupdeleted_message.html)

RevokeRole

User role revoked.

Level : *Info*

Log Message : *User {UserName} has been revoked of the role {GroupName}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sRevokeRoleEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : *8*


Variables

The RevokeRole message contains the following variables:

Table 1. RevokeRole Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name of the user whose role is revoked.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv8UserName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.8.1
<p>4. GroupName</p> <p>Group name revoked for the user.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv8GroupName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.8.2

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_security_revokerole_message.html

UpdateStatus

Update user status as active or inactive.

Level : *Info*

Log Message : *User {UserName} status has been changed from {OldValue} to {NewValue}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sUpdateStatusEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The UpdateStatus message contains the following variables:

Table 1. UpdateStatus Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name and Status of the user.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv11UserName

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.11.1

4. OldValue

Old value of status.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv11OldValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.11.2


5. NewValue

New value of status

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv11NewValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.11.3

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_security_updatestatus_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platfo
rm_security_updatestatus_message.html)

UpdateUser

Update display name of a user.

Level : *Info*

Log Message : *User {UserName} displayName has been changed from {OldValue} to {NewValue}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sUpdateUserEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The UpdateUser message contains the following variables:

Table 1. UpdateUser Message Variables


1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

<ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name of the user whose status is changed.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv10UserName • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.10.1
<p>4. OldValue</p> <p>Old value of display name.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv10OldValue • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.10.2
<p>5. NewValue</p> <p>New value of display name.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv10NewValue • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.10.3

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/platform/platform_security_updateuser_message.html

UserCreated

New user created.

Level : *Info*

Log Message : *New User {UserName} has been created with id {Id}.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sUserCreatedEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The UserCreated message contains the following variables:

Table 1. UserCreated Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name of the user newly created.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv4UserName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.4.1
<p>4. Id</p> <p>The ID of the user that was newly created.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv4Id• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.4.2

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

UserDeleted

User deleted.

Level : *Info*

Log Message : *User {UserName} has been deleted.*

System : *Security*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sUserDeletedEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The UserDeleted message contains the following variables:

Table 1. UserDeleted Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. UserName</p> <p>Name of the user deleted.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-PLATFORM-MIB::ciC23sEv5UserName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.23.1.7.1.5.1

Parent topic: [Platform Security Notifications](#)

SAP Module

The SAP Module provides activities to access SAP servers. This section contains details for the messages delivered from the SAP Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the SAP Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the SAP Module.

Table 1. Notifications issued by the SAP Module


Notification	Level	System	Description
AddingServerInfo	Info	Orchestration	Adding server gateway.
BAPIActivationError	Severe	Orchestration	Error occurred while activating the BAPI activity.
BAPIParseError	Severe	Orchestration	Error occurred while parsing schema for the specified BAPI.
BAPIReturnError	Severe	Orchestration	Error returned by specified BAPI in the type field.
CompleteFunctionExec	Info	Orchestration	This is the name of the function which is executed by the BAPI or RFC activity
ConnectError	Severe	Orchestration	The SAP operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectRetry	Warning	Orchestration	The SAP operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
ConnectionPoolError	Severe	Orchestration	Connection Pool returned null connection.
CreateTID	Info	Orchestration	Creating a specified TID in the TID manager.
CreateTrcDirFailed	Warning	Orchestration	Exception while setting the log directory for SAP trace files. The trace files generated by sap will be created on default location.
FuncRetStructNotFound	Info	Orchestration	This is to report that activity is not able to find the return structure for the function
FunctionLookup	Info	Orchestration	This is marking the start of finding the meta data of the BAPI or RFC activity in the SAP Repository
FunctionLookupComp	Info	Orchestration	This is marking the completion of finding the meta data of the BAPI or RFC activity in the SAP Repository
GatewayCommWarning	Warning	Orchestration	Error occurred, while communicating to SAP Gateway.

Notification	Level	System	Description
GatewayRegisterError	Info	Orchestration	Server gateway specified already exists.
GatewayRemoveInfo	Info	Orchestration	Removing server gateway.
IDOCExtensionError	Severe	Orchestration	IDOC contains more than one type of IDOC extension type.
IDOCSentInfo	Info	Orchestration	IDOC with specified TID was sent to SAP.
IDOCTypeError	Severe	Orchestration	Received IDOC contains more than one type of IDOC type.
InitializationError	Severe	Orchestration	Error occurred while initializing the send IDOC activity.
InvalidRFCName	Severe	Orchestration	Unable to find specified RFC name.
InvalidTIDError	Severe	Orchestration	TID was not set in the task context.
ListenerInstanceInfo	Info	Orchestration	SAP listener instance was started for SAP gateway.
ListenerStartInfo	Info	Orchestration	SAP listener started again for specified host.
ListenerStopWarning	Warning	Orchestration	Error occurred while stopping the listener for specified host.
NoHandlerError	Warning	Orchestration	Received an IDOC for specified IDOC type and no activity was registered to process it. Ignoring the IDOC.
NoSegmentWarning	Warning	Orchestration	The specified IDOC number contains no data segment.
NonReturnStruct	Severe	Orchestration	No return structure returned by the specified BAPI.
ParseError	Severe	Orchestration	Error occurred while parsing schema for the RFC.
PoolAddInfo	Info	Orchestration	Adding Connection pool with the specified name.
PoolExistInfo	Info	Orchestration	Connection pool with specified name already exists.
ProcessDocError	Severe	Orchestration	Error occurred while processing the IDOC.
RFCActivationError	Severe	Orchestration	Error occurred while activating the RFC activity.
ReceiveTIDNotFound	Severe	Orchestration	Specified TID was not found in TID manager.
RemoveInfo	Info	Orchestration	Removing connection pool with specified name.
RollbackWarning	Warning	Orchestration	Error occurred while rolling back the transaction. Ignoring and continuing the activity.
SAPActivityError	Severe	Orchestration	Error occurred while processing SAP activity.
SAPValidationError	Severe	Orchestration	Input data was not valid for specified RFC. The items specified were invalid.
SapLibNotFound	Severe	Orchestration	Sap activity is not able to activate because the sap provided libraries are not installed.
SendIDOCActivation	Severe	Orchestration	Error occurred while activating the Send IDOC activity.

Notification	Level	System	Description
SendIDOCCreateInfo	Info	Orchestration	Created the specified TID for starting a transaction in send IDOC activity.
SendIDOCValidation	Severe	Orchestration	Input data was not valid for IDOC. The specified item(s) were invalid.
SerializingError	Severe	Orchestration	Error occurred while creating IDOC from input parameter.
StartFunctionExec	Info	Orchestration	This is the name of the function which is going to be executed by the BAPI or RFC activity
StartWarning	Info	Orchestration	Error occurred while starting the server.
TIDCheck	Info	Orchestration	SAP TIP check for specified ID is requested by SAP.
TIDCommit	Info	Orchestration	SAP TID has been committed by SAP.
TIDCommitUnknown	Severe	Orchestration	SAP attempting to confirm an unknown or uncommitted TID.
TIDCommittedInfo	Info	Orchestration	Specified TID was committed to SAP.
TIDCommittingInfo	Info	Orchestration	Committing TID to SAP.
TIDConfirmed	Info	Orchestration	SAP TID has been confirmed and deleted from the TID manager.
TIDRollback	Info	Orchestration	SAP TID has been rolled back.
TIDSentInfo	Info	Orchestration	Sending the IDOC with specified TID to SAP.
TIDUnknown	Severe	Orchestration	SAP has requested rollback for unknown TID.
TransactionalError	Severe	Orchestration	Unable to find the BAPI transaction RFCs.
UnicodeGateway	Info	Orchestration	The unicode instance property is set through JCONSOLE.
ValidationError	Severe	Orchestration	Error occurred while validating the input data.
ValidationInfo	Info	Orchestration	Validation is on/off for the specified field value.

- [SAP Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the SAP Module.
- [SAP Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the SAP Module.
- [SAP Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the SAP Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


SAP Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the SAP Module.

- [ConnectError](#)
The SAP operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectRetry](#)
The SAP operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [PoolAddInfo](#)
Adding Connection pool with the specified name.
- [PoolExistInfo](#)
Connection pool with specified name already exists.
- [RemoveInfo](#)
Removing connection pool with specified name.

Parent topic: [SAP Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_connection_notifications_list.html

ConnectError

The SAP operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to the SAP server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: Error Group {ErrorGroup}, Error Key {ErrorKey}, Error Message {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cConnectErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ConnectError message contains the following variables:

Table 1. ConnectError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv1NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.1.1

6. ErrorGroup

The group mentioned in the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv1ErrorGroup
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.1.2

7. ErrorKey

The key mentioned in the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv1ErrorKey
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.1.3


8. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_connection_connecterror_message.html

ConnectRetry

The SAP operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to the SAP server. Error is: Error Group: {ErrorGroup} Error Key {ErrorKey} Error Message {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {RetryAttemptNumber} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cConnectRetryEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The ConnectRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectRetry Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ErrorGroup

The group mentioned in the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv2ErrorGroup
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.2.1

6. ErrorKey

The key mentioned in the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv2ErrorKey
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.2.2

7. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

8. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv2RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.2.4

9. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv2TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.2.5


10. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv2IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.2.6

Parent topic: [SAP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_connection_connectretry_message.html

PoolAddInfo

Adding Connection pool with the specified name.

Level : *Info*

Log Message : *Adding Connection Pool with name {PoolName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cPoolAddInfoEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The PoolAddInfo message contains the following variables:

Table 1. PoolAddInfo Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. PoolName

Adding the connection pool .

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv4PoolName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.4.1

Parent topic: [SAP Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_connection_pooladdinfo_message.html

PoolExistInfo

Connection pool with specified name already exists.

Level : *Info*

Log Message : *Connection Pool {PoolName} already exists, Using existing definition.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cPoolExistInfoEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1*

SNMP Trap Number : 3


Variables

The PoolExistInfo message contains the following variables:

Table 1. PoolExistInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. PoolName</p> <p>Connection pool name which already exists.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv3PoolName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.3.1

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_connection_poolexistinfo_message.html

RemoveInfo

Removing connection pool with specified name.

Level : *Info*

Log Message : *Removing Connection Pool with name {PoolName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cRemoveInfoEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1*

SNMP Trap Number : 5

Variables

The RemoveInfo message contains the following variables:

Table 1. RemoveInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. PoolName

Removing the connection pool .

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19cEv5PoolName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.1.1.5.1

Parent topic: [SAP Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_connection_removeinfo_message.html

SAP Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the SAP Module.


- [AddingServerInfo](#)
Adding server gateway.
- [BAPIActivationError](#)
Error occurred while activating the BAPI activity.
- [BAPIParseError](#)
Error occurred while parsing schema for the specified BAPI.
- [BAPIReturnError](#)
Error returned by specified BAPI in the type field.
- [CompleteFunctionExec](#)
This is the name of the function which is executed by the BAPI or RFC activity
- [CreateTID](#)
Creating a specified TID in the TID manager.
- [CreateTrcDirFailed](#)
Exception while setting the log directory for SAP trace files. The trace files generated by sap will be created on default location.

- [FuncRetStructNotFound](#)
This is to report that activity is not able to find the return structure for the function
- [FunctionLookup](#)
This is marking the start of finding the meta data of the BAPI or RFC activity in the SAP Repository
- [FunctionLookupComp](#)
This is marking the completion of finding the meta data of the BAPI or RFC activity in the SAP Repository
- [GatewayCommWarning](#)
Error occurred, while communicating to SAP Gateway.
- [GatewayRegisterError](#)
Server gateway specified already exists.
- [GatewayRemoveInfo](#)
Removing server gateway.
- [IDOCExtensionError](#)
IDOC contains more than one type of IDOC extension type.
- [IDOCSentInfo](#)
IDOC with specified TID was sent to SAP.
- [IDOCTypeError](#)
Received IDOC contains more than one type of IDOC type.
- [InvalidRFCName](#)
Unable to find specified RFC name.
- [ListenerInstanceInfo](#)
SAP listener instance was started for SAP gateway.
- [ListenerStartInfo](#)
SAP listener started again for specified host.
- [ListenerStopWarning](#)
Error occurred while stopping the listener for specified host.
- [NoHandlerError](#)
Received an IDOC for specified IDOC type and no activity was registered to process it. Ignoring the IDOC.
- [NoSegmentWarning](#)
The specified IDOC number contains no data segment.
- [NonReturnStruct](#)
No return structure returned by the specified BAPI.
- [ParseError](#)
Error occurred while parsing schema for the RFC.
- [ProcessDocError](#)
Error occurred while processing the IDOC.
- [RFCActivationError](#)
Error occurred while activating the RFC activity.
- [ReceiveTIDNotFound](#)
Specified TID was not found in TID manager.
- [RollbackWarning](#)
Error occurred while rolling back the transaction. Ignoring and continuing the activity.
- [SAPActivityError](#)
Error occurred while processing SAP activity.
- [SAPValidationError](#)
Input data was not valid for specified RFC. The items specified were invalid.
- [SapLibNotFound](#)
Sap activity is not able to activate because the sap provided libraries are not installed.
- [SendIDOCActivation](#)
Error occurred while activating the Send IDOC activity.
- [SendIDOCCreateInfo](#)
Created the specified TID for starting a transaction in send IDOC activity.

- [SendIDOCValidation](#)
Input data was not valid for IDOC. The specified item(s) were invalid.
- [StartFunctionExec](#)
This is the name of the function which is going to be executed by the BAPI or RFC activity
- [StartWarning](#)
Error occurred while starting the server.
- [TIDCheck](#)
SAP TIP check for specified ID is requested by SAP.
- [TIDCommit](#)
SAP TID has been committed by SAP.
- [TIDCommitUnknown](#)
SAP attempting to confirm an unknown or uncommitted TID.
- [TIDCommittedInfo](#)
Specified TID was committed to SAP.
- [TIDCommittingInfo](#)
Committing TID to SAP.
- [TIDConfirmed](#)
SAP TID has been confirmed and deleted from the TID manager.
- [TIDRollback](#)
SAP TID has been rolled back.
- [TIDSentInfo](#)
Sending the IDOC with specified TID to SAP.
- [TIDUnknown](#)
SAP has requested rollback for unknown TID.
- [TransactionalError](#)
Unable to find the BAPI transaction RFCs.
- [UnicodeGateway](#)
The unicode instance property is set through JCONSOLE.
- [ValidationError](#)
Error occurred while validating the input data.
- [ValidationInfo](#)
Validation is on/off for the specified field value.

Parent topic: [SAP Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_notifications_list.html

AddingServerInfo

Adding server gateway.

Level : *Info*

Log Message : *Adding Server Gateway {GatewayName}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oAddingServerInfoEv30*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : 30


Variables

The AddingServerInfo message contains the following variables:

Table 1. AddingServerInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. GatewayName</p> <p>The gateway name which is being added.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv30GatewayName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.30.1</i>

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_addingserverinfo_message.html

BAPIActivationError

Error occurred while activating the BAPI activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while activating the BAPI Activity. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oBAPIActivationErrorEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The BAPIActivationError message contains the following variables:

Table 1. BAPIActivationError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_bapiactivationerror_message.html

BAPIParseError

Error occurred while parsing schema for the specified BAPI.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while parsing schema for the BAPI {BAPIName}. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oBAPIParseErrorEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The BAPIParseError message contains the following variables:

Table 1. BAPIParseError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. BAPIName

BAPI name for which parsing error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv16BAPIName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.16.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_bapiparseerror_message.html

BAPIReturnError

Error returned by specified BAPI in the type field.

Level : *Severe*

Log Message : *Error returned by BAPI {BAPIName} in the type field. The values returned are TYPE: {Type}, MESSAGE: {Message}, LOGNO: {LogNumber}, LOGMSGNO {LogMessage}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oBAPIReturnErrorEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The BAPIReturnError message contains the following variables:

Table 1. BAPIReturnError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. BAPIName

The name of the BAPI for which the error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv18BAPIName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.18.1

6. Type

The type value returned.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv18Type
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.18.2

7. Message

The message value returned.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv18Message
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.18.3

8. LogNumber

The log number value returned.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv18LogNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.18.4

9. LogMessage

The log message number value returned.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv18LogMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.18.5

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

CompleteFunctionExec

This is the name of the function which is executed by the BAPI or RFC activity

Level : *Info*

Log Message : *Call to function {FunctionName} is complete*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oCompleteFunctionExecEv44*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *44*

Variables

The CompleteFunctionExec message contains the following variables:

Table 1. CompleteFunctionExec Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FunctionName

Name of the BAPI or RFC

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv44FunctionName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.44.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_completetfunctionexec_message.html

CreateTID

Creating a specified TID in the TID manager.

Level : *Info*

Log Message : *Creating a new TID {TID} in the TID Manager.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oCreateTIDev5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The CreateTID message contains the following variables:

Table 1. CreateTID Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TID

Created this TID in specified TID manager.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv5TID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.5.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_createtid_message.html

CreateTrcDirFailed

Exception while setting the log directory for SAP trace files. The trace files generated by sap will be created on default location.

Level : *Warning*

Log Message : *Exception while setting the log directory for SAP trace files.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oCreateTrcDirFailedEv49*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *49*

Variables

The CreateTrcDirFailed message contains the following variables:


Table 1. CreateTrcDirFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. TraceLogDir</p> <p>Path for the trace directory</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv49TraceLogDir
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.49.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_createtrdirfailed_message.html

FuncRetStructNotFound

This is to report that activity is not able to find the return structure for the function

Level : *Info*

Log Message : *Not able to find field Return as structure. {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oFuncRetStructNotFoundEv47*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *47*

Variables

The FuncRetStructNotFound message contains the following variables:

Table 1. FuncRetStructNotFound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_funcretstructnotfound_message.html

FunctionLookup

This is marking the start of finding the meta data of the BAPI or RFC activity in the SAP Repository

Level : *Info*

Log Message : *Looking up function {FunctionName} from SAP Repository*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oFunctionLookupEv45*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *45*

Variables


The FunctionLookup message contains the following variables:

Table 1. FunctionLookup Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. FunctionName</p> <p>Name of the BAPI or RFC</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv45FunctionName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.45.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

FunctionLookupComp

This is marking the completion of finding the meta data of the BAPI or RFC activity in the SAP Repository

Level : *Info*

Log Message : *Looking up function {FunctionName} from SAP Repository (complete)*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oFunctionLookupCompEv46*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *46*

Variables

The FunctionLookupComp message contains the following variables:

Table 1. FunctionLookupComp Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FunctionName

Name of the BAPI or RFC

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv46FunctionName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.46.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_functionlookupcomp_message.html

GatewayCommWarning

Error occurred, while communicating to SAP Gateway.

Level : *Warning*

Log Message : *Error occurred, while communicating to SAP Gateway (host {HostName}, ProgramId {ProgramID}, Service {Service}), trying again in {IntervalForRetries} seconds. \nOriginal SAP error was \n {Message} \nIf the SAP message indicates a retry interval it may not be correct.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oGatewayCommWarningEv35*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *35*

Variables

The GatewayCommWarning message contains the following variables:

Table 1. GatewayCommWarning Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. HostName

The host name for which warning occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv35HostName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.35.1

6. ProgramID

The program ID for which warning occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv35ProgramID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.35.2

7. Service

The service name for which warning occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv35Service
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.35.3

8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv35IntervalForRetries

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.35.4


9. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_gatewaycommwarning_message.html

GatewayRegisterError

Server gateway specified already exists.

Level : *Info*

Log Message : *Server Gateway {GatewayName} already exists, Using the existing definition.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oGatewayRegisterErrorEv29*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : 29

Variables

The GatewayRegisterError message contains the following variables:

Table 1. GatewayRegisterError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. GatewayName

The gateway name which already exists.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv29GatewayName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.29.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_gatewayregistererror_message.html

GatewayRemoveInfo

Removing server gateway.

Level : *Info*

Log Message : *Removing Server Gateway {GatewayName}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oGatewayRemoveInfoEv31*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2

SNMP Trap Number : 31

Variables

The GatewayRemoveInfo message contains the following variables:

Table 1. GatewayRemoveInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. GatewayName</p> <p>The gateway name which is being removed.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv31GatewayName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.31.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_gatewayremoveinfo_message.html

IDOCExtensionError

IDOC contains more than one type of IDOC extension type.

Level : *Severe*

Log Message : *Idoc contains more than one type of IDOC extension type*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oIDOCExtensionErrorEv41*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *41*

Variables

The IDOCExtensionError message contains the following variables:

Table 1. IDOCExtensionError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_idocextensionerror_message.html

IDOCSentInfo

IDOC with specified TID was sent to SAP.

Level : *Info*

Log Message : *Idoc with the TID {TID} is sent successfully to sap.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oIDOCSentInfoEv26*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *26*

Variables

The IDOCSentInfo message contains the following variables:

Table 1. IDOCSentInfo Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TID

The TID which was sent.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv26TID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.26.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_idocsentinfo_message.html

IDOCTypeError

Received IDOC contains more than one type of IDOC type.

Level : *Severe*

Log Message : *Received IDOC contains more than one type of IDOC type*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oIDOCTypeErrorEv40*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2

SNMP Trap Number : 40

Variables


The IDOCTypeError message contains the following variables:

Table 1. IDOCTypeError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_idoctypeerror_message.html

InvalidRFCName

Unable to find specified RFC name.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to find RFC {RFCName}. Invalid RFC name.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oInvalidRFCNameEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The InvalidRFCName message contains the following variables:

Table 1. InvalidRFCName Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. RFCName

RFC name which was not found.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv14RFCName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.14.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_invalidrfcname_message.html

ListenerInstanceInfo

SAP listener instance was started for SAP gateway.

Level : *Info*

Log Message : *SAP Listener instance {InstanceNumber} started for SAP Gateway(host {HostName}, ProgramId {ProgramID}, Service {Service}).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oListenerInstanceInfoEv34*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *34*

Variables

The ListenerInstanceInfo message contains the following variables:

Table 1. ListenerInstanceInfo Message Variables

1. SerialNumber
The serial number of the appliance sending the trap. <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
2. Severity
Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. InstanceNumber

The instance number which was started.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv34InstanceNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.34.1

6. HostName

The host name for which instance was started.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv34HostName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.34.2

7. ProgramID

The program ID for which instance was started.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv34ProgramID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.34.3

8. Service

The service name for which instance was started.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv34Service
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.34.4

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_listenerinstanceinfo_message.html

ListenerStartInfo

SAP listener started again for specified host.

Level : *Info*

Log Message : *SAP listener started again for host{HostName}, programid {ProgramID} and service {Service}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oListenerStartInfoEv37*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *37*

Variables

The ListenerStartInfo message contains the following variables:

Table 1. ListenerStartInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. HostName

The host name for which listener started.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv37HostName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.37.1

6. ProgramID

The program ID for which listener started.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv37ProgramID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.37.2


7. Service

The service name for which listener started.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv37Service
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.37.3

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_listenerstartinfo_message.html

ListenerStopWarning

Error occurred while stopping the listener for specified host.

Level : *Warning*

Log Message : Exception while stopping the listener for host {HostName}, ProgramId {ProgramID} and Service {Service}.The Exception is {Message}

System : Orchestration

SNMP Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oListenerStopWarningEv39

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2

SNMP Trap Number : 39

Variables

The ListenerStopWarning message contains the following variables:

Table 1. ListenerStopWarning Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. HostName</p> <p>The host name for which error occurred.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv39HostName

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.39.1

6. ProgramID

The program ID for which error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv39ProgramID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.39.2

7. Service

The service name for which error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv39Service
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.39.3


8. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_listenerstopwarning_message.html

NoHandlerError

Received an IDOC for specified IDOC type and no activity was registered to process it. Ignoring the IDOC.

Level : *Warning*

Log Message : *Received an IDOC for idoctype {IDOCType} and no activity was registered to process it. Ignoring the IDOC.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oNoHandlerErrorEv42*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *42*

The NoHandlerError message contains the following variables:

Table 1. NoHandlerError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. IDOCType</p> <p>IDOC type received.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv42IDOCType• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.42.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_nohandlererror_message.html

NoSegmentWarning

The specified IDOC number contains no data segment.

Level : *Warning*

Log Message : *The IDOC number {IDOCNumber} contains no data segment.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oNoSegmentWarningEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *22*

Variables

The NoSegmentWarning message contains the following variables:

Table 1. NoSegmentWarning Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. IDOCNumber

The IDOC number.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv22IDOCNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.22.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_nosegmentwarning_message.html

NonReturnStruct

No return structure returned by the specified BAPI.

Level : *Severe*

Log Message : *No return structure returned by BAPI {BAPIName}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oNonReturnStructEv19*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *19*

Variables

The NonReturnStruct message contains the following variables:

Table 1. NonReturnStruct Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. BAPIName

The name of the BAPI for which the error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv19BAPIName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.19.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_nonreturnstruct_message.html

ParseError

Error occurred while parsing schema for the RFC.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while parsing schema for the RFC {RFCName}. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oParseErrorEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The ParseError message contains the following variables:

Table 1. ParseError Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. RFCName</p> <p>RFC name for which error occurred.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv13RFCName</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.13.1</i>
<p>6. Message</p>

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_parseerror_message.html

ProcessDocError

Error occurred while processing the IDOC.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while processing the IDOC. The exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oProcessDocErrorEv33*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : 33

Variables

The ProcessDocError message contains the following variables:

Table 1. ProcessDocError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_processdocerror_message.html

RFCActivationError

Error occurred while activating the RFC activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while activating the RFC Activity. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oRFCActivationErrorEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

The RFCActivationError message contains the following variables:

Table 1. RFCActivationError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_rfcactivationerror_message.html

ReceiveTIDNotFound

Specified TID was not found in TID manager.

Level : *Severe*

Log Message : *Tid {TIDNumber} not found in TID manager.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oReceiveTIDNotFoundEv32*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *32*

Variables

The ReceiveTIDNotFound message contains the following variables:

Table 1. ReceiveTIDNotFound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TIDNumber

TID which was not found.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv32TIDNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.32.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_receiveidnotfound_message.html

RollbackWarning

Error occurred while rolling back the transaction. Ignoring and continuing the activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Exception while rolling back the transaction.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oRollbackWarningEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The RollbackWarning message contains the following variables:

Table 1. RollbackWarning Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_rollbackwarning_message.html

SAPActivityError

Error occurred while processing SAP activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while processing SAP activity. Error Group: {ErrorGroup}, Error Key: {ErrorKey}, Error Message: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oSAPActivityErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The SAPActivityError message contains the following variables:

Table 1. SAPActivityError Message Variables


<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ErrorGroup</p> <p>The group mentioned in the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv1ErrorGroup• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.1.1
<p>6. ErrorKey</p> <p>The key mentioned in the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv1ErrorKey• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.1.2
<p>7. Message</p>

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_sapactivityerror_message.html

SAPValidationError

Input data was not valid for specified RFC. The items specified were invalid.

Level : *Severe*

Log Message : *Input data was not valid for RFC {RFCName}. The following item(s) were invalid: {InvalidItems}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oSAPValidationErrorMessageEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The SAPValidationErrorMessage contains the following variables:

Table 1. SAPValidationErrorMessage Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. RFCName

RFC name for which data was not valid.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv11RFCName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.11.1


6. InvalidItems

The items which were not valid.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv11InvalidItems
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.11.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_sapvalidationerror_message.html

SapLibNotFound

Sap activity is not able to activate because the sap provided libraries are not installed.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while activating the sap. The exception is because the sap libraries are not installed.*
Exception is

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oSapLibNotFoundEv48*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *48*

Variables

The SapLibNotFound message contains the following variables:


Table 1. SapLibNotFound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_saplibnotfound_message.html

SendIDOCActivation

Error occurred while activating the Send IDOC activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while activating the Send IDOC Activity. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oSendIDOCActivationEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *23*

Variables

The SendIDOCActivation message contains the following variables:

Table 1. SendIDOCActivation Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_sendidocactivation_message.html

SendIDOCCreateInfo

Created the specified TID for starting a transaction in send IDOC activity.

Level : *Info*

Log Message : *Created a new TID {TID} for starting a transaction in send IDOC activity.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oSendIDOCCreateInfoEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *24*

Variables


The SendIDOCCreateInfo message contains the following variables:

Table 1. SendIDOCCreateInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. TID</p> <p>The new TID which is created.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv24TID• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.24.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SendIDOCValidation

Input data was not valid for IDOC. The specified item(s) were invalid.

Level : *Severe*

Log Message : *Input data was not valid for IDOC. The following item(s) were invalid: {InvalidItems}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oSendIDOCValidationEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The SendIDOCValidation message contains the following variables:

Table 1. SendIDOCValidation Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. InvalidItems

The invalid items in the input data.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv20InvalidItems
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.20.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_sendidocvalidation_message.html

StartFunctionExec

This is the name of the function which is going to be executed by the BAPI or RFC activity

Level : *Info*

Log Message : *About to execute function {FunctionName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oStartFunctionExecEv43*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *43*

Variables

The StartFunctionExec message contains the following variables:

Table 1. StartFunctionExec Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. FunctionName

Name of the BAPI or RFC

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv43FunctionName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.43.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_startfunctionexec_message.html

StartWarning

Error occurred while starting the server.

Level : *Info*

Log Message : *Exception while starting the server. Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oStartWarningEv38*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : 38

Variables

The StartWarning message contains the following variables:

Table 1. StartWarning Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2</i>

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_startwarning_message.html

TIDCheck

SAP TIP check for specified ID is requested by SAP.

Level : *Info*

Log Message : *SAP TID {TID} check requested by SAP.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDCheckEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The TIDCheck message contains the following variables:

Table 1. TIDCheck Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TID

TID for which check is requested.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv4TID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.4.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_tidcheck_message.html

TIDCommit

SAP TID has been committed by SAP.

Level : *Info*

Log Message : *SAP TID {TID} has been committed by SAP.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDCommitEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The TIDCommit message contains the following variables:

Table 1. TIDCommit Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TID

TID which has been committed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv9TID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.9.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_tidcommit_message.html

SAP attempting to confirm an unknown or uncommitted TID.

Level : *Severe*

Log Message : *SAP attempting to confirm an unknown or uncommitted TID*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDCommitUnknownEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The TIDCommitUnknown message contains the following variables:

Table 1. TIDCommitUnknown Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_tidcommitunknown_message.html

TIDCommittedInfo

Specified TID was committed to SAP.

Level : *Info*

Log Message : *TID {TID} committed succesfully.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDCommittedInfoEv28*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *28*

Variables

The TIDCommittedInfo message contains the following variables:

Table 1. TIDCommittedInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TID

The TID which is committed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv28TID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.28.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_tidcommittedinfo_message.html

TIDCommittingInfo

Committing TID to SAP.

Level : *Info*

Log Message : *Committing TID {TID}*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDCommittingInfoEv27*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *27*

Variables

The TIDCommittingInfo message contains the following variables:

Table 1. TIDCommittingInfo Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TID

The TID which is being committed.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv27TID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.27.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_tidcommittinginfo_message.html

TIDConfirmed

SAP TID has been confirmed and deleted from the TID manager.

Level : *Info*

Log Message : *SAP TID {TID} has been confirmed and deleted from the TID Manager.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDConfirmedEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The TIDConfirmed message contains the following variables:


Table 1. TIDConfirmed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. TID</p> <p>TID which was confirmed and deleted.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv6TID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.6.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_tidconfirmed_message.html

TIDRollback

SAP TID has been rolled back.

Level : *Info*

Log Message : *SAP TID {TID} has been rolled-back by SAP.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDRollbackEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The TIDRollback message contains the following variables:

Table 1. TIDRollback Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TID

TID which was rolled back.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv7TID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.7.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_tidrollback_message.html

TIDSentInfo

Sending the IDOC with specified TID to SAP.

Level : *Info*

Log Message : *Sending IDOC with the TID {TID} to sap.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDSentInfoEv25*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *25*

Variables


The TIDSentInfo message contains the following variables:

Table 1. TIDSentInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. TID</p> <p>The TID which was sent.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv25TID• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.25.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

TIDUnknown

SAP has requested rollback for unknown TID.

Level : *Severe*

Log Message : *SAP has requested rollback for unknown TID {TID}. Cannot rollback.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTIDUnknownEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The TIDUnknown message contains the following variables:

Table 1. TIDUnknown Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. TID

TID which could not be rolled back.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv8TID
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.8.1

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_tidunknown_message.html

TransactionalError

Unable to find the BAPI transaction RFCs.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to find the BAPI transaction RFC's.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oTransactionalErrorEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The TransactionalError message contains the following variables:

Table 1. TransactionalError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_transactionalerror_message.html

UnicodeGateway

The unicode instance property is set through JCONSOLE.

Level : *Info*

Log Message : *The unicode instance property is set through JCONSOLE*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oUnicodeGatewayEv36*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : 36

Variables


The UnicodeGateway message contains the following variables:

Table 1. UnicodeGateway Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_unicodegateway_message.html

ValidationError

Error occurred while validating the input data.

Level : Severe

Log Message : Exception while validating the input data. The Exception is {Message}

System : Orchestration

SNMP Name : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oValidationErrorEv3

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2

SNMP Trap Number : 3

Variables

The ValidationError message contains the following variables:


Table 1. ValidationError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_validationerror_message.html

ValidationInfo

Validation is on/off for the specified field value.

Level : *Info*

Log Message : *Validation is {ValidationStatus} for {Value}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oValidationInfoEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2*

SNMP Trap Number : *21*

Variables

The ValidationInfo message contains the following variables:

Table 1. ValidationInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ValidationStatus

The validation status either on or off.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv21ValidationStatus
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.21.1


6. Value

The value which is validated.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19oEv21Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.2.1.21.2

Parent topic: [SAP Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_operation_validationinfo_message.html

SAP Internal Notifications


Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the SAP Module.

- [ConnectionPoolError](#)
Connection Pool returned null connection.
- [InitializationError](#)
Error occurred while initializing the send IDOC activity.

- [InvalidTIDError](#)
TID was not set in the task context.
- [SerializingError](#)
Error occurred while creating IDOC from input parameter.

Parent topic: [SAP Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_internal_notifications_list.html

ConnectionPoolError

Connection Pool returned null connection.

Level : *Severe*

Log Message : *Null connection return by the connection pool.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19iConnectionPoolErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ConnectionPoolError message contains the following variables:

Table 1. ConnectionPoolError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [SAP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_internal_connectionpoolerror_message.html

InitializationError

Error occurred while initializing the send IDOC activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while intializing the send IDOC activity. The error message is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19iInitializationErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.3*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The InitializationError message contains the following variables:

Table 1. InitializationError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_internal_initializationerror_message.html

InvalidTIDerror

TID was not set in the task context.

Level : *Severe*

Log Message : *TID not set in the task state.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19iInvalidTIDerrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.3*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The InvalidTIDerror message contains the following variables:

Table 1. InvalidTIDerror Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [SAP Internal Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_international_invaltiderror_message.html

SerializingError

Error occurred while creating IDOC from input parameter.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while creating IDOC form input parameter. The Exception is {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SAP-MIB::ciC19iSerializingErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.19.1.3*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The SerializingError message contains the following variables:

Table 1. SerializingError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [SAP Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sap/sap_internal_serializingerror_message.html

STS Module

The SAML STS Module This section contains details for the messages delivered from the STS Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the STS Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-STS-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.27*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the STS Module.


Table 1. Notifications issued by the STS Module

Notification	Level	System	Description
ActivationFailed	Severe	Orchestration	Activation of Get SAML 2.0 token failed
AssertionEmpty	Severe	Orchestration	Received empty response from Security Token Service. Cannot get the SAML Assertion.
InputBodyConsidered	Info	Orchestration	RequestSecuirtyToken from Map Inputs is sent as request body because data sent in Map Inputs holds higher priority than in Configure Panel

Notification	Level	System	Description
RequestLocation	Info	Orchestration	Location of request being sent to Security Token Service
UriDeprecated	Warning	Orchestration	Security Token Service Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.

- [STS Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the STS Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sts/about_the_sts_module.html


STS Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the STS Module.

- [ActivationFailed](#)
Activation of Get SAML 2.0 token failed
- [AssertionEmpty](#)
Received empty response from Security Token Service. Cannot get the SAML Assertion.
- [InputBodyConsidered](#)
RequestSecurityToken from Map Inputs is sent as request body because data sent in Map Inputs holds higher priority than in Configure Panel
- [RequestLocation](#)
Location of request being sent to Security Token Service
- [UriDeprecated](#)
Security Token Service Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.

Parent topic: [STS Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sts/sts_operation_notifications_list.html

ActivationFailed

Activation of Get SAML 2.0 token failed

Level : *Severe*

Log Message : *Activation of Get SAML 2.0 token failed*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-STS-MIB::ciC27oActivationFailedEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.27.1.2*

SNMP Trap Number : *1*


Variables

The ActivationFailed message contains the following variables:

Table 1. ActivationFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sts/sts_operation_activationfailed_message.html

AssertionEmpty

Received empty response from Security Token Service. Cannot get the SAML Assertion.

Level : *Severe*

Log Message : *Response from Security Token Service is empty*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-STIS-MIB::ciC27oAssertionEmptyEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.27.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The AssertionEmpty message contains the following variables:

Table 1. AssertionEmpty Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [STS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sts/sts_operation_assertionempty_message.html

InputBodyConsidered

RequestSecuirtyToken from Map Inputs is sent as request body because data sent in Map Inputs holds higher priority than in Configure Panel

Level : *Info*

Log Message : *RequestSecuirtyToken from Map Inputs is sent as request*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-STIS-MIB::ciC27oInputBodyConsideredEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.27.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The InputBodyConsidered message contains the following variables:

Table 1. InputBodyConsidered Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [STS Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sts/sts_operation_inputbodyconsidered_message.html

RequestLocation

Location of request being sent to Security Token Service

Level : *Info*

Log Message : *Sending request to Security Token Service at location : {Location}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-STIS-MIB::ciC27oRequestLocationEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.27.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

The RequestLocation message contains the following variables:

Table 1. RequestLocation Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Location</p> <p>Request Location</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-STS-MIB::ciC27oEv5Location• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.27.1.2.1.5.1

Parent topic: [STS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sts/sts_operation_requestlocation_message.html

UriDeprecated

Security Token Service Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.

Level : *Warning*

Log Message : *Security Token Service Module has deprecated the input parameter "httpheaders/uri". The value: {Value} will be ignored. Please set the URL at the input parameter "location".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-STIS-MIB::ciC27oUriDeprecatedEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.27.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The UriDeprecated message contains the following variables:

Table 1. UriDeprecated Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Value

The value which will be ignored due to deprecated input parameter.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-STS-MIB::ciC27oEv2Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.27.1.2.1.2.1

Parent topic: [STS Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sts/sts_operation_urideprecated_message.html

Salesforce.com Module

The Salesforce.com Module provides access to the Salesforce.com online service. This section contains details for the messages delivered from the Salesforce.com Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Salesforce.com Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Salesforce.com Module.

Table 1. Notifications issued by the Salesforce.com Module


Notification	Level	System	Description
ActivateError	Severe	Orchestration	There was a problem in activating the activity.
ActivityOutput	Info	Orchestration	The activity has completed its operation and outputted param objects in output parameter.
BatchPollStart	Info	Orchestration	Starting a batch poll for index range specified.

Notification	Level	System	Description
ConnectFailed	Severe	Orchestration	The Salesforce.com operation failed because a connection to the server could not be established. This happened cause of reasons other than connectivity issues.
ConnectionFailed	Severe	Orchestration	The Salesforce.com operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectionRetry	Warning	Orchestration	The Salesforce.com operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
ConnectionTryAgain	Info	Orchestration	Not able to connect to Salesforce endpoint. Trying to establish a new session.
EndpointNull	Severe	Orchestration	The endpoint object provided to Salesforce.com activity is null.
ExecuteError	Severe	Orchestration	An error occurred while executing the activity.
ExecuteProblem	Severe	Orchestration	An error occurred while executing the query.
InitializeProblem	Warning	Orchestration	Error from Salesforce.com while initializing activity. Trying to ignore error and proceed.
InputParamMapped	Info	Orchestration	The optional input parameter in the activity is mapped.
InputParamNotMapped	Info	Orchestration	The optional input parameter in the activity is not mapped.
InvalidQuery	Severe	Orchestration	The query provided to Salesforce.com was invalid.
InvalidSFDCField	Severe	Orchestration	The field is invalid in Salesforce.com.
InvalidSFDCObject	Severe	Orchestration	The object is invalid in Salesforce.com
LargeData	Severe	Orchestration	The activity was not able to get data as id limit has exceeded.
LargeDataError	Severe	Orchestration	An error occurred due to large data which activity cannot handle.
LoginFailure	Severe	Orchestration	Failure while performing a login into Salesforce.com.
MarshalError	Severe	Orchestration	An error occurred while writing output parameters in the activity.
MetadataError	Severe	Orchestration	Unable to obtain meta data from Salesforce.com.
MetadataObjectError	Severe	Orchestration	Unable to obtain meta data for the object from Salesforce.com.
NoDatafound	Info	Orchestration	No data was found by the activity in the interval specified.
OptionalInputError	Severe	Orchestration	Salesforce session timed out. The session was not created as optional connection input parameter was not mapped.
ParameterOutput	Info	Orchestration	The activity has completed its operation and outputted objects in output parameter.

Notification	Level	System	Description
ParameterResults	Info	Orchestration	The activity has completed its operation and outputted result objects in output parameter.
PollActivateError	Severe	Orchestration	The poll activity failed to activate.
PollOutput	Info	Orchestration	The number of objects outputted for a batch poll.
PollReturnedNothing	Info	Orchestration	The poll activity did not return any ids for specified interval.
PollReturnedResults	Info	Orchestration	Poll activity returned these number of ids for interval specified.
SessionInvalid	Info	Orchestration	Salesforce session timed out and activity is establishing a new session.
SfdcErrorInternal	Severe	Orchestration	An internal error occurred in Salesforce.com connector.
ShortPoll	Info	Orchestration	The current time is less than 1 minute past last polling time, so activity is skipping the poll at this interval.
StillRun	Info	Orchestration	There is a problem in connectivity and messages will be picked up from this time when connectivity is established.
TimeTooClose	Info	Orchestration	The end time specified is less than 1 minute past start time. Setting the interval to 1 minute and getting the data.
UnexpectedSFDCFault	Severe	Orchestration	Salesforce.com returned an unexpected fault that is not declared in the method signature.
UnmarshalError	Severe	Orchestration	An error occurred while reading input parameters in the activity.

- [Salesforce.com Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Salesforce.com Module.
- [Salesforce.com Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Salesforce.com Module.
- [Salesforce.com Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Salesforce.com Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/about_the_sfdc_module.html


Salesforce.com Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Salesforce.com Module.

- [ConnectionFailed](#)
The Salesforce.com operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectionRetry](#)
The Salesforce.com operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [ConnectionTryAgain](#)
Not able to connect to Salesforce endpoint. Trying to establish a new session.
- [LoginFailure](#)
Failure while performing a login into Salesforce.com.
- [OptionalInputError](#)
Salesforce session timed out. The session was not created as optional connection input parameter was not mapped.
- [SessionInvalid](#)
Salesforce session timed out and activity is establishing a new session.
- [StillRun](#)
There is a problem in connectivity and messages will be picked up from this time when connectivity is established.

Parent topic: [Salesforce.com Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_connection_notifications_list.html

ConnectionFailed

The Salesforce.com operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to Salesforce.com after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cConnectionFailedEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The ConnectionFailed message contains the following variables:

Table 1. ConnectionFailed Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cEv4NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1.1.4.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Connection Notifications](#)

ConnectionRetry

The Salesforce.com operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to Salesforce.com. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cConnectionRetryEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The ConnectionRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectionRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

6. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cEv3RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1.1.3.2

7. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cEv3TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1.1.3.3


8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cEv3IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1.1.3.4

Parent topic: [Salesforce.com Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_connection_connectionretry_message.html

ConnectionTryAgain

Not able to connect to Salesforce endpoint. Trying to establish a new session.

Level : *Info*

Log Message : *Not able to connect, error is: {Message}. Establishing a new session.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cConnectionTryAgainEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The ConnectionTryAgain message contains the following variables:


Table 1. ConnectionTryAgain Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_connection_connectiontryagain_message.html

LoginFailure

Failure while performing a login into Salesforce.com.

Level : *Severe*

Log Message : *Salesforce.com logon failure. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cLoginFailureEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The LoginFailure message contains the following variables:

Table 1. LoginFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_connection_loginfailure_message.html

OptionalInputError

Salesforce session timed out. The session was not created as optional connection input parameter was not mapped.

Level : *Severe*

Log Message : *Salesforce session timed out. The session was not created as optional connection input parameter was not mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cOptionalInputErrorEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1*

SNMP Trap Number : *5*


The OptionalInputError message contains the following variables:

Table 1. OptionalInputError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Salesforce.com Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_connection_optionalinputerror_message.html

Salesforce session timed out and activity is establishing a new session.

Level : *Info*

Log Message : *Session timed out. Establishing a new session.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cSessionInvalidEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The SessionInvalid message contains the following variables:

Table 1. SessionInvalid Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Salesforce.com Connection Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_connection_sessioninvalid_message.html

StillRun

There is a problem in connectivity and messages will be picked up from this time when connectivity is established.

Level : *Info*

Log Message : *Not able to establish connectivity. Polling will fail till connectivity is established. However when connectivity is established, messages will be picked up from this time onwards.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3cStillRunEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.1*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The StillRun message contains the following variables:

Table 1. StillRun Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Salesforce.com Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_connection_stillrun_message.html

Salesforce.com Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Salesforce.com Module.

- [ActivateError](#)
There was a problem in activating the activity.
- [ActivityOutput](#)
The activity has completed its operation and outputted param objects in output parameter.
- [BatchPollStart](#)
Starting a batch poll for index range specified.
- [ConnectFailed](#)
The Salesforce.com operation failed because a connection to the server could not be established. This happened cause of reasons other than connectivity issues.
- [ExecuteError](#)
An error occurred while executing the activity.
- [ExecuteProblem](#)
An error occurred while executing the query.
- [InitializeProblem](#)
Error from Salesforce.com while initializing activity. Trying to ignore error and proceed.
- [InputParamMapped](#)
The optional input parameter in the activity is mapped.
- [InputParamNotMapped](#)
The optional input parameter in the activity is not mapped.
- [InvalidQuery](#)
The query provided to Salesforce.com was invalid.
- [InvalidSFDCField](#)
The field is invalid in Salesforce.com.
- [InvalidSFDCObject](#)
The object is invalid in Salesforce.com

- [LargeData](#)
The activity was not able to get data as id limit has exceeded.
- [LargeDataError](#)
An error occurred due to large data which activity cannot handle.
- [MetadataError](#)
Unable to obtain meta data from Salesforce.com.
- [MetadataObjectError](#)
Unable to obtain meta data for the object from Salesforce.com.
- [NoDatafound](#)
No data was found by the activity in the interval specified.
- [ParameterOutput](#)
The activity has completed its operation and outputted objects in output parameter.
- [ParameterResults](#)
The activity has completed its operation and outputted result objects in output parameter.
- [PollActivateError](#)
The poll activity failed to activate.
- [PollOutput](#)
The number of objects outputted for a batch poll.
- [PollReturnedNothing](#)
The poll activity did not return any ids for specified interval.
- [PollReturnedResults](#)
Poll activity returned these number of ids for interval specified.
- [ShortPoll](#)
The current time is less than 1 minute past last polling time, so activity is skipping the poll at this interval.
- [TimeTooClose](#)
The end time specified is less than 1 minute past start time. Setting the interval to 1 minute and getting the data.
- [UnexpectedSFDCFault](#)
Salesforce.com returned an unexpected fault that is not declared in the method signature.

Parent topic: [Salesforce.com Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_notifications_list.html

ActivateError

There was a problem in activating the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Activity could not get activated. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oActivateErrorEv24*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : 24

Variables

The ActivateError message contains the following variables:

Table 1. ActivateError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2</i>

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_activateerror_message.html

ActivityOutput

The activity has completed its operation and outputted param objects in output parameter.

Level : *Info*

Log Message : *Completed activity and spewed out sessionInfo and {NameOfOutputParam} output parameter.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oActivityOutputEv23*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *23*

Variables

The ActivityOutput message contains the following variables:

Table 1. ActivityOutput Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. NameOfOutputParam

Name of the output parameter.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv23NameOfOutputParam
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.23.1

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_activityoutput_message.html

BatchPollStart

Starting a batch poll for index range specified.

Level : *Info*

Log Message : *Starting batch of size {BatchSize} for index {StartIndex} through {EndIndex}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oBatchPollStartEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The BatchPollStart message contains the following variables:

Table 1. BatchPollStart Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. BatchSize

The batch size for the poll.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv13BatchSize
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.13.1

6. StartIndex

The start index specified.


- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv13StartIndex
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.13.2

7. EndIndex

The end index specified.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv13EndIndex
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.13.3

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_batchpollstart_message.html

ConnectFailed

The Salesforce.com operation failed because a connection to the server could not be established. This happened cause of reasons other than connectivity issues.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to Salesforce.com. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oConnectFailedEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The ConnectFailed message contains the following variables:

Table 1. ConnectFailed Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_connectfailed_message.html

ExecuteError

An error occurred while executing the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while trying to execute activity. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oExecuteErrorEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The ExecuteError message contains the following variables:

Table 1. ExecuteError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_executeerror_message.html

ExecuteProblem

An error occurred while executing the query.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while trying to execute query. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oExecuteProblemEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The ExecuteProblem message contains the following variables:

Table 1. ExecuteProblem Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_executeproblem_message.html

InitializeProblem

Error from Salesforce.com while initializing activity. Trying to ignore error and proceed.

Level : *Warning*

Log Message : *Error from Salesforce.com while initializing activity. Trying to ignore error and proceed. Error is: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oInitializeProblemEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The InitializeProblem message contains the following variables:

Table 1. InitializeProblem Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_initializeproblem_message.html

InputParamMapped

The optional input parameter in the activity is mapped.

Level : *Info*

Log Message : *Optional input parameter {ParamName} mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oInputParamMappedEv19*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2

SNMP Trap Number : 19


Variables

The InputParamMapped message contains the following variables:

Table 1. InputParamMapped Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ParamName</p> <p>The name of the mapped input parameter.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv19ParamName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.19.1

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_inputparammapped_message.html

InputParamNotMapped

The optional input parameter in the activity is not mapped.

Level : *Info*

Log Message : *Optional input parameter {ParamName} not mapped.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oInputParamNotMappedEv20*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *20*

Variables

The InputParamNotMapped message contains the following variables:

Table 1. InputParamNotMapped Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ParamName

The name of the input parameter not mapped.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv20ParamName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.20.1

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_inputparamnotmapped_message.html

InvalidQuery

The query provided to Salesforce.com was invalid.

Level : *Severe*

Log Message : *Problem with querying. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oInvalidQueryEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The InvalidQuery message contains the following variables:

Table 1. InvalidQuery Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_invalidquery_message.html

InvalidSFDCField

The field is invalid in Salesforce.com.

Level : Severe

Log Message : Invalid Salesforce.com field. Error is: {Message}

System : Orchestration

SNMP Name : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oInvalidSFDCFieldEv2

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2

SNMP Trap Number : 2

Variables

The InvalidSFDCField message contains the following variables:


Table 1. InvalidSFDCField Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_invalidsfdcfield_message.html

InvalidSFDCObject

The object is invalid in Salesforce.com

Level : *Severe*

Log Message : *Invalid Salesforce.com object. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oInvalidSFDCObjectEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The InvalidSFDCObject message contains the following variables:

Table 1. InvalidSFDCObject Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_invalidsfdcobject_message.html

LargeData

The activity was not able to get data as id limit has exceeded.

Level : *Severe*

Log Message : *Could not get data for date range, because id limit exceeded*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oLargeDataEv18*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables


The LargeData message contains the following variables:

Table 1. LargeData Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_largedata_message.html

LargeDataError

An error occurred due to large data which activity cannot handle.

Level : *Severe*

Log Message : *Activity failed as data to get is larger than activity can handle. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oLargeDataErrorEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *7*

Variables

The LargeDataError message contains the following variables:


Table 1. LargeDataError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_largedataerror_message.html

MetadataError

Unable to obtain meta data from Salesforce.com.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to obtain meta data from Salesforce.com. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oMetadataErrorEv25*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *25*

Variables

The MetadataError message contains the following variables:

Table 1. MetadataError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_metadataerror_message.html

MetadataObjectError

Unable to obtain meta data for the object from Salesforce.com.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to obtain meta data from Salesforce.com for {NameOfObject}. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oMetadataObjectErrorEv26*

SNMP Enterprise : *1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : 26

Variables

The MetadataObjectError message contains the following variables:

Table 1. MetadataObjectError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. NameOfObject</p> <p>Name of the object.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv26NameOfObject• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.26.1
<p>6. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_metadataobjecterror_message.html

NoDatafound

No data was found by the activity in the interval specified.

Level : *Info*

Log Message : *No data found in the interval.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oNoDatafoundEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The NoDatafound message contains the following variables:

Table 1. NoDatafound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_nodatafound_message.html

ParameterOutput

The activity has completed its operation and outputted objects in output parameter.

Level : *Info*

Log Message : *Completed activity and spewed out sessionInfo output parameter and {NumberOfObjects} objects in output parameter {NameOfOutputParam}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oParameterOutputEv21*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *21*

Variables

The ParameterOutput message contains the following variables:

Table 1. ParameterOutput Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfObjects

Number of objects outputted by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv21NumberOfObjects
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.21.1


6. NameOfOutputParam

Name of the output parameter.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv21NameOfOutputParam
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.21.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_parameteroutput_message.html

ParameterResults

The activity has completed its operation and outputted result objects in output parameter.

Level : *Info*

Log Message : *Completed activity and spewed out sessionInfo output parameter and {NumberOfResults} result objects in output parameter {NameOfOutputParam}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oParameterResultsEv22*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *22*

Variables

The ParameterResults message contains the following variables:

Table 1. ParameterResults Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfResults

Number of result objects outputted by the activity.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv22NumberOfResults
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.22.1


6. NameOfOutputParam

Name of the output parameter.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv22NameOfOutputParam
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.22.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_parameterresults_message.html

PollActivateError

The poll activity failed to activate.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while trying to activate activity. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oPollActivateErrorEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The PollActivateError message contains the following variables:

Table 1. PollActivateError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_pollactivateerror_message.html

PollOutput

The number of objects outputted for a batch poll.

Level : *Info*

Log Message : *Outputted {OutputSize} objects in 'objects' output parameter.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oPollOutputEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The PollOutput message contains the following variables:


Table 1. PollOutput Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. OutputSize</p> <p>The number of objects in the output.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv14OutputSize
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.14.1

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_polloutput_message.html

PollReturnedNothing

The poll activity did not return any ids for specified interval.

Level : *Info*

Log Message : *Poll did not return any ids for interval starting from {PollStartTime} to {PollEndTime}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oPollReturnedNothingEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The PollReturnedNothing message contains the following variables:

Table 1. PollReturnedNothing Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. PollStartTime

The start time for the poll.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv15PollStartTime
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.15.1


6. PollEndTime

The end time for the poll.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv15PollEndTime
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.15.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_pollreturnednothing_message.html

PollReturnedResults

Poll activity returned these number of ids for interval specified.

Level : *Info*

Log Message : *Poll returned {NumberOfIds} ids for interval starting from {PollStartTime} to {PollEndTime}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oPollReturnedResultsEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The PollReturnedResults message contains the following variables:

Table 1. PollReturnedResults Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. NumberOfIds</p> <p>The number of ids returned by the poll.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv12NumberOfIds</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.12.1</i>
<p>6. PollStartTime</p>

The start time for the poll.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv12PollStartTime
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.12.2


7. PollEndTime

The end time for the poll.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv12PollEndTime
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.12.3

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_pollreturnedresults_message.html

ShortPoll

The current time is less than 1 minute past last polling time, so activity is skipping the poll at this interval.

Level : *Info*

Log Message : *Current time {CurrentTime} is less than 1 minute past last polling time {LastPollingTime}. Skipping this polling interval.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oShortPollEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The ShortPoll message contains the following variables:

Table 1. ShortPoll Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. CurrentTime

The current time.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv11CurrentTime
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.11.1


6. LastPollingTime

The last polling time.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv11LastPollingTime
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.11.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

TimeTooClose

The end time specified is less than 1 minute past start time. Setting the interval to 1 minute and getting the data.

Level : *Info*

Log Message : *End time {StartTime} is less than 1 minute past start time {EndTime}. Setting interval to 1 minute and getting data.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oTimeTooCloseEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The TimeTooClose message contains the following variables:

Table 1. TimeTooClose Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. EndTime

The end time.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv17EndTime
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.17.1


6. StartTime

The start time.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oEv17StartTime
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2.1.17.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_timetoclose_message.html

UnexpectedSFDCFault

Salesforce.com returned an unexpected fault that is not declared in the method signature.

Level : *Severe*

Log Message : *Salesforce.com returned an unexpected error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3oUnexpectedSFDCFaultEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The UnexpectedSFDCFault message contains the following variables:

Table 1. UnexpectedSFDCFault Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_operation_unexpectedsfdcfault_message.html

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Salesforce.com Module.

- [EndpointNull](#)
The endpoint object provided to Salesforce.com activity is null.
- [MarshalError](#)
An error occurred while writing output parameters in the activity.
- [SfdcErrorInternal](#)
An internal error occurred in Salesforce.com connector.
- [UnmarshalError](#)
An error occurred while reading input parameters in the activity.

Parent topic: [Salesforce.com Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_internal_notifications_list.html

EndpointNull

The endpoint object provided to Salesforce.com activity is null.

Level : *Severe*

Log Message : *Endpoint object is null.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3iEndpointNullEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.3*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The EndpointNull message contains the following variables:

Table 1. EndpointNull Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p>

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Salesforce.com Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_internal_endpointnull_message.html

MarshalError

An error occurred while writing output parameters in the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while trying to write output parameter sessionInfo. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3iMarshalErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.3*

SNMP Trap Number : *4*

Variables


The MarshalError message contains the following variables:

Table 1. MarshalError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

SfdcErrorInternal

An internal error occurred in Salesforce.com connector.

Level : *Severe*

Log Message : *Internal error in Salesforce.com connector. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3iSfdcErrorInternalEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The SfdcErrorInternal message contains the following variables:

Table 1. SfdcErrorInternal Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Internal Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_internal_sfdcerrorinternal_message.html

UnmarshalError

An error occurred while reading input parameters in the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while trying to read optional connection input parameter. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SFDC-MIB::ciC3iUnmarshalErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.3.1.3*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The UnmarshalError message contains the following variables:

Table 1. UnmarshalError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Salesforce.com Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/sfdc/sfdc_internal_unmarshalerror_message.html

Scheduler Module

The Scheduler Module allows jobs to be started on a regular basis. This section contains details for the messages delivered from the Scheduler Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Scheduler Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-SCHEDULER-MIB*

MIB OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.5


The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Scheduler Module.

Table 1. Notifications issued by the Scheduler Module

Notification	Level	System	Description
ActivityException	Severe	Orchestration	There was an error running scheduler activity.
SchedulerUnknownType	Warning	Orchestration	The group configured in the activity is unknown.
SchedulerWarning	Warning	Orchestration	There was an error in scheduler activity. Continuing to schedule further jobs.

- [Scheduler Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Scheduler Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/scheduler/about_the_scheduler_module.html


Scheduler Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Scheduler Module.

- [ActivityException](#)
There was an error running scheduler activity.
- [SchedulerUnknownType](#)
The group configured in the activity is unknown.
- [SchedulerWarning](#)
There was an error in scheduler activity. Continuing to schedule further jobs.

Parent topic: [Scheduler Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/scheduler/scheduler_operation_notifications_list.html

ActivityException

There was an error running scheduler activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SCHEDULER-MIB::ciC5oActivityExceptionEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.5.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ActivityException message contains the following variables:


Table 1. ActivityException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Scheduler Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/scheduler/scheduler_operation_activityexception_message.html

SchedulerUnknownType

The group configured in the activity is unknown.

Level : *Warning*

Log Message : *Not a known type of group.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SCHEDULER-MIB::ciC5oSchedulerUnknownTypeEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.5.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The SchedulerUnknownType message contains the following variables:

Table 1. SchedulerUnknownType Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Scheduler Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/scheduler/scheduler_operation_schedulerunknownmessage.html

SchedulerWarning

There was an error in scheduler activity. Continuing to schedule further jobs.

Level : *Warning*

Log Message : *Got exception in "Schedule Job" activity: {Message}. Continuing to schedule jobs.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SCHEDULER-MIB::ciC5oSchedularWarningEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.5.1.2*

SNMP Trap Number : *3*

Variables

The SchedulerWarning message contains the following variables:

Table 1. SchedulerWarning Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Description of error occurred.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SCHEDULER-MIB::ciC5oEv3Message
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.5.1.2.1.3.1

Parent topic: [Scheduler Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/scheduler/scheduler_operation_schedulerwarning_message.html

Siebel Module

The Siebel Module provides access to Oracle's Siebel CRM. This section contains details for the messages delivered from the Siebel Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Siebel Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Siebel Module.


Table 1. Notifications issued by the Siebel Module

Notification	Level	System	Description
ActivateError	Severe	Orchestration	Error occurred while activating the specified activity.
ConfigURI	Severe	Orchestration	Specified activity name is listening on the specified uri and port.
ConnectError	Severe	Orchestration	The invoke operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectionPoolError	Warning	Orchestration	Error occurred while setting up connection pool for specified activity.
ConnectionRetry	Warning	Orchestration	The invoke operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
DataException	Severe	Orchestration	Data error occurred while executing the activity.
GeneralError	Severe	Orchestration	General error occurred while sending the response.
IOError	Severe	Orchestration	IO error occurred while processing request.
InternalError	Severe	Orchestration	Internal error occurred while processing request.
InvokeActivate	Warning	Orchestration	Error in setup of repository/connection-pool in activate of specified activity. Setup will be done at activity execution time.
InvokeDeactivateError	Warning	Orchestration	Error occurred while deactivating the specified activity.
InvokeException	Severe	Orchestration	Error occurred while executing the activity.
InvokeSuccessful	Info	Orchestration	Activity has successfully executed activity and outputted output parameter RESPONSE.
MissingLibraries	Severe	Orchestration	Config file jas.ini needs to be present before the JD Edwards Invoke activity can be run. Please upload jas.ini file and run again.
ReceiveDeactivateErr	Severe	Orchestration	Error occurred while deactivating the specified activity.
ReceiveError	Severe	Orchestration	Error occurred while receiving in the specified activity name.
ReceiveSuccessful	Info	Orchestration	Receive activity successfully received request and outputted output parameter RESPONSE.
RepositoryError	Warning	Orchestration	Error occurred while setting up repository for specified activity.

Notification	Level	System	Description
UnSupportedEncoding	Severe	Orchestration	Error occurred while processing unsupported encoding.

- [Siebel Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Siebel Module.
- [Siebel Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Siebel Module.
- [Siebel Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Siebel Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/about_the_siebel_module.html


Siebel Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Siebel Module.

- [ConnectError](#)
The invoke operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectionRetry](#)
The invoke operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [IOError](#)
IO error occurred while processing request.

Parent topic: [Siebel Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_connection_notifications_list.html

ConnectError

The invoke operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17cConnectErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ConnectError message contains the following variables:

Table 1. ConnectError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. NumberOfRetryAttempts</p> <p>The total number of attempted retries.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17cEv1NumberOfRetryAttempts• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.1.1.1.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_connection_connecterror_message.html

ConnectionRetry

The invoke operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to server. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17cConnectionRetryEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.1*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The ConnectionRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectionRetry Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

6. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17cEv2RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.1.1.2.2

7. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17cEv2TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.1.1.2.3

8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17cEv2IntervalForRetries
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.1.1.2.4

Parent topic: [Siebel Connection Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_connection_connectionretry_message.html

IOError

IO error occurred while processing request.

Level : *Severe*

Log Message : *IO Error while processing request. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17cIOErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The IOError message contains the following variables:

Table 1. IOError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_connection_ioerror_message.html

Siebel Operation Notifications


Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Siebel Module.

- [ActivateError](#)
Error occurred while activating the specified activity.
- [ConfigURI](#)
Specified activity name is listening on the specified uri and port.
- [ConnectionPoolError](#)
Error occurred while setting up connection pool for specified activity.
- [DataException](#)
Data error occurred while executing the activity.
- [InvokeActivate](#)
Error in setup of repository/connection-pool in activate of specified activity. Setup will be done at activity execution time.
- [InvokeDeactivateError](#)
Error occurred while deactivating the specified activity.
- [InvokeException](#)
Error occurred while executing the activity.
- [InvokeSuccessful](#)
Activity has successfully executed activity and outputted output parameter RESPONSE.

- [ReceiveDeactivateErr](#)
Error occurred while deactivating the specified activity.
- [ReceiveError](#)
Error occurred while receiving in the specified activity name.
- [ReceiveSuccessful](#)
Receive activity successfully received request and outputted output parameter RESPONSE.
- [RepositoryError](#)
Error occurred while setting up repository for specified activity.
- [UnsupportedEncoding](#)
Error occurred while processing unsupported encoding.

Parent topic: [Siebel Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_notifications_list.html

ActivateError

Error occurred while activating the specified activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while activating the {ActivityName} activity. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oActivateErrorEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The ActivateError message contains the following variables:

Table 1. ActivateError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p>

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

Activity name which caused the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv11ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.11.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_activateerror_message.html

Specified activity name is listening on the specified uri and port.

Level : *Severe*

Log Message : *{ActivityName} listening for events on URI: "{UriValue}" and port: "{PortValue}"*.

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oConfigURIEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The ConfigURI message contains the following variables:

Table 1. ConfigURI Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>Activity name which is listening on the uri and port specified.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv13ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.13.1

6. UriValue

The URI the server is listening on.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv13UriValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.13.2


7. PortValue

The port number the server is listening on.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv13PortValue
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.13.3

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_configuri_message.html

ConnectionPoolError

Error occurred while setting up connection pool for specified activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while setting up connection pool for {ActivityName} activity. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oConnectionPoolErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The ConnectionPoolError message contains the following variables:

Table 1. ConnectionPoolError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

Activity name which caused the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv2ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.2.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

DataException

Data error occurred while executing the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Data error while executing the activity. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oDataExceptionEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The DataException message contains the following variables:

Table 1. DataException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_dataexception_message.html

InvokeActivate

Error in setup of repository/connection-pool in activate of specified activity. Setup will be done at activity execution time.

Level : *Warning*

Log Message : *Error in setup of repository/connection-pool in activate of {ActivityName}. Setup to be done at activity execution time. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oInvokeActivateEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The InvokeActivate message contains the following variables:

Table 1. InvokeActivate Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

Activity name which caused the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv3ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.3.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

InvokeDeactivateError

Error occurred while deactivating the specified activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while deactivating the {ActivityName} activity. Discarding error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oInvokeDeactivateErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The InvokeDeactivateError message contains the following variables:

Table 1. InvokeDeactivateError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

Activity name which caused the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv4ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.4.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_invokedeactivateerror_message.html

InvokeException

Error occurred while executing the activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while executing the activity. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oInvokeExceptionEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *6*

Variables

The InvokeException message contains the following variables:

Table 1. InvokeException Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_invokeexception_message.html

InvokeSuccessful

Activity has successfully executed activity and outputted output parameter RESPONSE.

Level : *Info*

Log Message : *Successfully executed activity and outputted output parameter RESPONSE.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oInvokeSuccessfulEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The InvokeSuccessful message contains the following variables:

Table 1. InvokeSuccessful Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_invokesuccessful_message.html

ReceiveDeactivateErr

Error occurred while deactivating the specified activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while deactivating the {ActivityName} activity. Discarding error: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oReceiveDeactivateErrEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The ReceiveDeactivateErr message contains the following variables:

Table 1. ReceiveDeactivateErr Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

Activity name which caused the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv12ActivityName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.12.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_receivedeactivateerr_message.html

ReceiveError

Error occurred while receiving in the specified activity name.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while receiving in {ActivityName} activity. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oReceiveErrorEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : 9

Variables

The ReceiveError message contains the following variables:

Table 1. ReceiveError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. ActivityName</p> <p>Activity name which caused the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv9ActivityName• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.9.1
<p>6. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_receiveerror_message.html

ReceiveSuccessful

Receive activity successfully received request and outputted output parameter RESPONSE.

Level : *Info*

Log Message : *Successfully received request and outputted output parameter RESPONSE.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oReceiveSuccessfulEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The ReceiveSuccessful message contains the following variables:

Table 1. ReceiveSuccessful Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_receivesuccessful_message.html

RepositoryError

Error occurred while setting up repository for specified activity.

Level : *Warning*

Log Message : *Error while setting up repository for {ActivityName} activity. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oRepositoryErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The RepositoryError message contains the following variables:

Table 1. RepositoryError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. ActivityName

Activity name which caused the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oEv1ActivityName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2.1.1.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_repositoryerror_message.html

Error occurred while processing unsupported encoding.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while processing unsupported encoding. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17oUnsupportedEncodingEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The UnsupportedEncoding message contains the following variables:


Table 1. UnsupportedEncoding Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_operation_unsupportedencoding_message.html


Siebel Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Siebel Module.

- [GeneralError](#)
General error occurred while sending the response.
- [InternalError](#)
Internal error occurred while processing request.
- [MissingLibraries](#)
Config file jas.ini needs to be present before the JD Edwards Invoke activity can be run. Please upload jas.ini file and run again.

Parent topic: [Siebel Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_internal_notifications_list.html

GeneralError

General error occurred while sending the response.

Level : *Severe*

Log Message : *General error while sending the response. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17iGeneralErrorEv1*

SNMP Enterprise : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.3

SNMP Trap Number : 1

Variables

The GeneralError message contains the following variables:

Table 1. GeneralError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Internal Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_internal_generalerror_message.html

InternalError

Internal error occurred while processing request.

Level : *Severe*

Log Message : *Error while processing request. The error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17iInternalErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.3*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The InternalError message contains the following variables:

Table 1. InternalError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Siebel Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_internal_internalerror_message.html

MissingLibraries

Config file jas.ini needs to be present before the JD Edwards Invoke activity can be run. Please upload jas.ini file and run again.

Level : *Severe*

Log Message : *jas.ini file needs to be present before the JD Edwards Invoke activity can be run. Please upload jas.ini file and run again.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-SIEBEL-MIB::ciC17iMissingLibrariesEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.17.1.3*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The MissingLibraries message contains the following variables:

Table 1. MissingLibraries Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Siebel Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/siebel/siebel_internal_missinglibraries_message.html

Web Service Module

The Web Service Module provides activities to act as a Web Service client or server. This section contains details for the messages delivered from the Web Service Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Web Service Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Web Service Module.

Table 1. Notifications issued by the Web Service Module

Notification	Level	System	Description
AlreadyRegistered	Severe	Orchestration	The URI/port is already registered by the Web Service activity.
CleanUpMessage	Severe	Orchestration	Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.
ConnectFailed	Severe	Orchestration	The webservice operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectRetry	Warning	Orchestration	The webservice operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
DataMessageAccepted	Info	Orchestration	SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.
MissingProtocol	Warning	Orchestration	Please put the protocol used in front of input parameter location.
NotRegistered	Severe	Orchestration	The URI/port has not been registered by the Web Service activity.
OperationNameNull	Severe	Orchestration	Operation name must not be null or empty.
TaskContextError	Severe	Orchestration	Error occurred while processing Web Service activity due to lost task context.
TransportInfo	Info	Orchestration	The provide activity is started on local transport for the URI.
UriDeprecated	Warning	Orchestration	Web Service Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.
WSFaultString	Severe	Orchestration	The fault string returned by the WebService activity.
WebServiceException	Severe	Orchestration	Error occurred while processing Web Service activity.

- [Web Service Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Web Service Module.
- [Web Service Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Web Service Module.
- [Web Service Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Web Service Module.

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/about_the_ws_module.html


Web Service Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Web Service Module.

- [ConnectFailed](#)
The webservice operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectRetry](#)
The webservice operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Parent topic: [Web Service Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_connection_notifications_list.html

ConnectFailed

The webservice operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Error sending SOAP request to location: {LocationName}. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18cConnectFailedEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.1*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The ConnectFailed message contains the following variables:

Table 1. ConnectFailed Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber

- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. LocationName

The specified location which was not being able to connect.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18cEv2LocationName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.1.1.2.1


6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Web Service Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

ConnectRetry

The webservice operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to send the SOAP request to {LocationName}. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will retry again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18cConnectRetryEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ConnectRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p>

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. LocationName

The specified location which was not being able to connect.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18cEv1LocationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.1.1.1.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

7. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18cEv1RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.1.1.1.3

8. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18cEv1TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.1.1.1.4


9. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18cEv1IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.1.1.1.5

Parent topic: [Web Service Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


Web Service Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Web Service Module.

- [AlreadyRegistered](#)
The URI/port is already registered by the Web Service activity.
- [CleanUpMessage](#)
Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.
- [DataMessageAccepted](#)
SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.
- [MissingProtocol](#)
Please put the protocol used in front of input parameter location.
- [NotRegistered](#)
The URI/port has not been registered by the Web Service activity.
- [OperationNameNull](#)
Operation name must not be null or empty.
- [TransportInfo](#)
The provide activity is started on local transport for the URI.
- [UriDeprecated](#)
Web Service Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.
- [WSFaultString](#)
The fault string returned by the WebService activity.
- [WebServiceException](#)
Error occurred while processing Web Service activity.

Parent topic: [Web Service Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_notifications_list.html

AlreadyRegistered

The URI/port is already registered by the Web Service activity.

Level : *Severe*

Log Message : *[URI: {Uri}, Port: {Port}, Operation Name: {OperationName}] Web Service has already been registered. Key: {RegistrationKey}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oAlreadyRegisteredEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The AlreadyRegistered message contains the following variables:

Table 1. AlreadyRegistered Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Uri</p> <p>The URI which is already registered.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv7Uri</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.7.1</i>
<p>6. Port</p>

The port which is already registered.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv7Port
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.7.2

7. OperationName

The operation name which was specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv7OperationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.7.3


8. RegistrationKey

Key used to identify this URI/Port/Operation

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv7RegistrationKey
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.7.4

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_alreadyregistered_message.html

CleanUpMessage

Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oCleanUpMessageEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : *9*

Variables


The CleanUpMessage message contains the following variables:

Table 1. CleanUpMessage Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_cleanupmessage_message.html

DataMessageAccepted

SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.

Level : *Info*

Log Message : *SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oDataMessageAcceptedEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The DataMessageAccepted message contains the following variables:

Table 1. DataMessageAccepted Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_datamessageaccepted_message.html

MissingProtocol

Please put the protocol used in front of input parameter location.

Level : *Warning*

Log Message : *Please put the protocol used (e.g. {Protocol}) in front of the input parameter location: {LocationName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oMissingProtocolEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The MissingProtocol message contains the following variables:

Table 1. MissingProtocol Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Protocol

The protocol value that can be specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv5Protocol
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.5.1


6. LocationName

The location name parameter before which protocol has to be specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv5LocationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.5.2

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_missingprotocol_message.html

NotRegistered

The URI/port has not been registered by the Web Service activity.

Level : *Severe*

Log Message : *[URI: {Uri}, Port: {Port}, Operation Name: {OperationName}] has not been registered. Key: {KeyName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oNotRegisteredEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

The NotRegistered message contains the following variables:

Table 1. NotRegistered Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Uri</p> <p>The URI which is not registered.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv8Uri• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.8.1
<p>6. Port</p> <p>The port which is not registered.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv8Port• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.8.2

7. OperationName

The operation name which was specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv8OperationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.8.3


8. KeyName

The key name which was specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv8KeyName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.8.4

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_notregistered_message.html

OperationNameNull

Operation name must not be null or empty.

Level : *Severe*

Log Message : *Operation name must not be null or empty!*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oOperationNameNullEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The OperationNameNull message contains the following variables:

Table 1. OperationNameNull Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_operationnamemessage.html

TransportInfo

The provide activity is started on local transport for the URI.

Level : *Info*

Log Message : *The provide activity is started on local transport for the URI: {URI}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oTransportInfoEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

Variables

The TransportInfo message contains the following variables:

Table 1. TransportInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. URI</p> <p>URI at which provie activity was started.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv10URI • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.10.1

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

UriDeprecated

Web Service Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.

Level : *Warning*

Log Message : *Web Service Module has deprecated the input parameter "httpheaders/uri". The value: {Value} will be ignored. Please set the URL (e.g. http://www.castiron.com/WebService) at the location in the endpoint panel or at the input parameter "location".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oUriDeprecatedEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The UriDeprecated message contains the following variables:

Table 1. UriDeprecated Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Value

The value which will be ignored due to deprecated input parameter.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv6Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.6.1

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_urideprecated_message.html

WSFaultString

The fault string returned by the WebService activity.

Level : *Severe*

Log Message : *{Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oWSFaultStringEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : *3*

Variables

The WSFaultString message contains the following variables:

Table 1. WSFaultString Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_wsfaultstring_message.html

WebServiceException

Error occurred while processing Web Service activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while processing Web Service activity. Error message: {Message}. Caused by: {Cause}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oWebServiceExceptionEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The `WebServiceException` message contains the following variables:

Table 1. `WebServiceException` Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <code>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</code>• SNMP OID : <code>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</code>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <code>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</code>• SNMP OID : <code>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</code>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <code>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</code>• SNMP OID : <code>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</code>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <code>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</code>• SNMP OID : <code>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</code>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2


6. Cause

The cause of the error message.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18oEv4Cause
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.2.1.4.2

Parent topic: [Web Service Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_operation_webserviceexception_message.html


Web Service Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Web Service Module.

- [TaskContextError](#)
Error occurred while processing Web Service activity due to lost task context.

Parent topic: [Web Service Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_internal_notifications_list.html

TaskContextError

Error occurred while processing Web Service activity due to lost task context.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while processing Web Service activity. Error message: {Message}. The task context is lost. The appliance may have been restarted, losing the task context that cannot be saved on the disk.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WS-MIB::ciC18iTaskContextErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.18.1.3*

SNMP Trap Number : *1*


Variables

The TaskContextError message contains the following variables:

Table 1. TaskContextError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2</i>

Parent topic: [Web Service Internal Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/ws/ws_internal_taskcontexterror_message.html

WebSphere MQ Module

The WebSphere MQ module provides activities for communicating with IBM WebSphere MQ servers. This section contains details for the messages delivered from the WebSphere MQ Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the WebSphere MQ Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB*

MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the WebSphere MQ Module.


Table 1. Notifications issued by the WebSphere MQ Module

Notification	Level	System	Description
ConnectRetry	Warning	Orchestration	The MQ operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
ConnectionError	Severe	Orchestration	The MQ operation failed because a connection to the server could not be established.
DetailsOpen	Info	Orchestration	Opening the queue with set all privileges as specified.
DuplicateFound	Info	Orchestration	Discarding the duplicate message found in get activity.
FormatError	Severe	Orchestration	The message format field specified is invalid. Supported formats are MQSTR, MQHRF2, and no format.
FormatWarning	Warning	Orchestration	Activity expected string data (MQFMT_STRING), but the message is of another format.
GetFailure	Severe	Orchestration	The get activity was not able to get messages from queue.
InputParamNull	Severe	Orchestration	The input parameter specified is of zero length.
InternalFailure	Severe	Orchestration	There was an internal error in MQ activity.
MQConnectionInfo	Info	Orchestration	The complete information about MQ Endpoint details.
MQMDFormatError	Severe	Orchestration	MQMD header input parameter format is incorrect.

Notification	Level	System	Description
MQProtocolWarning	Warning	Orchestration	Received warning from queue manager with specified MQ reason code.
MQPutDetails	Info	Orchestration	Putting in queue with set all privileges as specified.
MQPutFailure	Severe	Orchestration	MQ was unable to put message on queue due to specified error code.
MQRFHHeaderError	Severe	Orchestration	MQRFH2 header input parameter format is incorrect.
MessageDelievered	Info	Orchestration	The MQ message was successfully delivered to the specified queue.
MessageRetrieved	Info	Orchestration	Retrieved a message from the queue.
NoMessage	Info	Orchestration	There is no message available on the queue.
NoMessageFailure	Severe	Orchestration	The MQ operation failed as there was no message on queue on server.
NoMessageRetry	Warning	Orchestration	The MQ operation failed as there was no message on queue on server. This will cause a retry.
PollFailure	Severe	Orchestration	The poll activity was not able to get messages from queue.
RFHFormatError	Severe	Orchestration	Error encountered unmarshaling the MQRFH2 header.
ReasonCode	Info	Orchestration	The reason code for the MQ exception caught.

- [WebSphere MQ Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the WebSphere MQ Module.
- [WebSphere MQ Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the WebSphere MQ Module.
- [WebSphere MQ Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the WebSphere MQ Module.

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/about_the_mq_module.html

WebSphere MQ Connection Notifications


Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the WebSphere MQ Module.

- [ConnectRetry](#)
The MQ operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
- [ConnectionError](#)
The MQ operation failed because a connection to the server could not be established.

- [MQConnectionInfo](#)
The complete information about MQ Endpoint details.

Parent topic: [WebSphere MQ Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_connection_notifications_list.html

ConnectRetry

The MQ operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to connect to the Queue Manager "{QueueManager}". MQ returned error code "{ErrorCode}". Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cConnectRetryEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The ConnectRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. QueueManager

The name of the queue manager which activity was not able to connect.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv2QueueManager
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.2.1

6. ErrorCode

The error code returned by the MQ server.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv2ErrorCode
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.2.2

7. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv2RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.2.3

8. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv2TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.2.4

9. IntervalForRetries


The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv2IntervalForRetries

- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.2.5

Parent topic: [WebSphere MQ Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_connection_connectretry_message.html

ConnectionError

The MQ operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to connect to the Queue Manager "{QueueManager}" after {NumberOfRetryAttempts} attempt(s). MQ returned error code "{ErrorCode}".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cConnectionErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The ConnectionError message contains the following variables:

Table 1. ConnectionError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. QueueManager

The name of the queue manager which activity was not able to connect.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv3QueueManager
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.3.1

6. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv3NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.3.2


7. ErrorCode

The error code returned by the MQ server.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv3ErrorCode
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.3.3

Parent topic: [WebSphere MQ Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_connection_connectionerror_message.html

The complete information about MQ Endpoint details.

Level : *Info*

Log Message : *MQ Endpoint Details: Host: {HostName}, Port: {PortNumber}, User: {UserName}, Queue Manager: {QueueManager}, Channel: {Channel}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cMQConnectionInfoEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The MQConnectionInfo message contains the following variables:

Table 1. MQConnectionInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. HostName</p>

The host name specified in the endpoint.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv1HostName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.1.1

6. PortNumber

The port number specified in the endpoint.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv1PortNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.1.2

7. UserName

The user name specified in the endpoint.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv1UserName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.1.3

8. QueueManager

The queue manager specified in the endpoint.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv1QueueManager
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.1.4


9. Channel

The channel specified in the endpoint.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13cEv1Channel
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.1.1.1.5

Parent topic: [WebSphere MQ Connection Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_connection_mqconnectioninfo_message.html


WebSphere MQ Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the WebSphere MQ Module.

- [DetailsOpen](#)
Opening the queue with set all privileges as specified.
- [DuplicateFound](#)
Discarding the duplicate message found in get activity.
- [FormatError](#)
The message format field specified is invalid. Supported formats are MQSTR, MQHRF2, and no format.
- [FormatWarning](#)
Activity expected string data (MQFMT_STRING), but the message is of another format.
- [GetFailure](#)
The get activity was not able to get messages from queue.
- [MQMDFormatError](#)
MQMD header input parameter format is incorrect.
- [MQProtocolWarning](#)
Received warning from queue manager with specified MQ reason code.
- [MQPutDetails](#)
Putting in queue with set all privileges as specified.
- [MQPutFailure](#)
MQ was unable to put message on queue due to specified error code.
- [MQRFHHeaderError](#)
MQRFH2 header input parameter format is incorrect.
- [MessageDelievered](#)
The MQ message was successfully delivered to the specified queue.
- [MessageRetrieved](#)
Retrieved a message from the queue.
- [NoMessage](#)
There is no message available on the queue.
- [NoMessageFailure](#)
The MQ operation failed as there was no message on queue on server.
- [NoMessageRetry](#)
The MQ operation failed as there was no message on queue on server. This will cause a retry.
- [PollFailure](#)
The poll activity was not able to get messages from queue.
- [RFHFormatError](#)
Error encountered unmarshaling the MQRFH2 header.
- [ReasonCode](#)
The reason code for the MQ exception caught.

Parent topic: [WebSphere MQ Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_notifications_list.html

DetailsOpen

Opening the queue with set all privileges as specified.

Level : *Info*

Log Message : *Opening the queue with set all privileges as {Value}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oDetailsOpenEv18*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *18*

Variables

The DetailsOpen message contains the following variables:


Table 1. DetailsOpen Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Value</p> <p>Value of set all privileges set to true or false.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv18Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.18.1

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_detailsopen_message.html

DuplicateFound

Discarding the duplicate message found in get activity.

Level : *Info*

Log Message : *Duplicate message found, discarding.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oDuplicateFoundEv14*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *14*

Variables

The DuplicateFound message contains the following variables:

Table 1. DuplicateFound Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_duplicatefound_message.html

FormatError

The message format field specified is invalid. Supported formats are MQSTR, MQHRF2, and no format.

Level : *Severe*

Log Message : *The message format field "{Format}" is invalid. Supported formats are MQSTR, MQHRF2, and no format.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oFormatErrorEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

Variables

The FormatError message contains the following variables:

Table 1. FormatError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Format

The invalid format specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv8Format
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.8.1

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_formaterror_message.html

FormatWarning

Activity expected string data (MQFMT_STRING), but the message is of another format.

Level : *Warning*

Log Message : *Activity expected string data (MQFMT_STRING), but the message is of format "{Format}".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oFormatWarningEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *9*

Variables

The FormatWarning message contains the following variables:


Table 1. FormatWarning Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Format</p> <p>The format specified.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv9Format
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.9.1

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_formatwarning_message.html

GetFailure

The get activity was not able to get messages from queue.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to get message from queue {QueueName}. MQ returned error code {ErrorCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oGetFailureEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The GetFailure message contains the following variables:

Table 1. GetFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p>

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. QueueName

The name of the queue.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv7QueueName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.7.1


6. ErrorCode

The error code returned by the MQ server.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv7ErrorCode
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.7.2

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_getfailure_message.html

MQMDFormatError

MQMD header input parameter format is incorrect.

Level : *Severe*

Log Message : *MQMD header input parameter format is incorrect; {Header}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oMQMDFormatErrorEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *10*

Variables

The MQMDFormatError message contains the following variables:

Table 1. MQMDFormatError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Header</p> <p>The header specified.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv10Header</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.10.1</i>

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_mqmdformaterror_message.html

MQProtocolWarning

Received warning from queue manager with specified MQ reason code.

Level : *Warning*

Log Message : *Received warning from queue manager. MQ reason code is {ReasonCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oMQProtocolWarningEv16*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *16*

Variables

The MQProtocolWarning message contains the following variables:

Table 1. MQProtocolWarning Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ReasonCode

The reason code for the MQ exception.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv16ReasonCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.16.1

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operati
on_mqprotocolwarning_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operati
on_mqprotocolwarning_message.html)

MQPutDetails

Putting in queue with set all privileges as specified.

Level : *Info*

Log Message : *Putting in queue with set all privileges as {Value}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oMQPutDetailsEv17*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *17*

Variables

The MQPutDetails message contains the following variables:

Table 1. MQPutDetails Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Value

Value of set all privileges set to true or false.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv17Value
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.17.1

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_mqputdetails_message.html

MQ was unable to put message on queue due to specified error code.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to put message on queue {QueueManager}. MQ returned error code {ErrorCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oMQPutFailureEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *3*

Variables

The MQPutFailure message contains the following variables:

Table 1. MQPutFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. QueueManager</p> <p>The name of the queue manager.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv3QueueManager
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.3.1


6. ErrorCode

The error code returned by the MQ server.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv3ErrorCode
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.3.2

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_mqputfailure_message.html

MQRFHHeaderError

MQRFH2 header input parameter format is incorrect.

Level : *Severe*

Log Message : *MQRFH2 header input parameter format is incorrect.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oMQRFHHeaderErrorEv11*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *11*

Variables

The MQRFHHeaderError message contains the following variables:

Table 1. MQRFHHeaderError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Header

The header specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv11Header
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.11.1

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_mqrfhheadererror_message.html

MessageDelivered

The MQ message was successfully delivered to the specified queue.

Level : *Info*

Log Message : *Message successfully delivered to queue {QueueManager}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oMessageDelieveredEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *4*


Variables

The MessageDelievered message contains the following variables:

Table 1. MessageDelievered Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. QueueManager</p> <p>The name of the queue manager.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv4QueueManager</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.4.1</i>

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_messagedelievered_message.html

MessageRetrieved

Retrieved a message from the queue.

Level : *Info*

Log Message : *Message of {QueueName} bytes retrieved from queue "{NumberOfBytes}".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oMessageRetrievedEv15*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *15*

Variables

The MessageRetrieved message contains the following variables:

Table 1. MessageRetrieved Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. NumberOfBytes

The number of bytes of the message.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv15NumberOfBytes
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.15.1


6. QueueName

The name of the queue.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv15QueueName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.15.2

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_messageretrieved_message.html

NoMessage

There is no message available on the queue.

Level : *Info*

Log Message : *No message available on queue {Queue}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oNoMessageEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

Variables

The NoMessage message contains the following variables:

Table 1. NoMessage Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Queue</p> <p>The name of the queue.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv5Queue • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.5.1

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

NoMessageFailure

The MQ operation failed as there was no message on queue on server.

Level : *Severe*

Log Message : *No message available on queue "{QueueManager}" after {NumberOfRetryAttempts} attempt(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oNoMessageFailureEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The NoMessageFailure message contains the following variables:

Table 1. NoMessageFailure Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. QueueManager

The name of the queue manager which activity was not able to connect.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv2QueueManager
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.2.1


6. NumberOfRetryAttempts

The total number of attempted retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv2NumberOfRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.2.2

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_nomessagefailure_message.html

NoMessageRetry

The MQ operation failed as there was no message on queue on server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *No message available on queue "{QueueManager}". Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oNoMessageRetryEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The NoMessageRetry message contains the following variables:

Table 1. NoMessageRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. QueueManager</p> <p>The name of the queue manager which activity was not able to connect.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv1QueueManager• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.1.1
<p>6. RetryAttemptNumber</p> <p>The current number of retries.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv1RetryAttemptNumber• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.1.2
<p>7. TotalRetryAttempts</p>

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv1TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.1.3


8. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv1IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.1.4

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_nomessageretry_message.html

PollFailure

The poll activity was not able to get messages from queue.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to get message from queue {QueueName}. MQ returned error code {ErrorCode}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oPollFailureEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The PollFailure message contains the following variables:

Table 1. PollFailure Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. QueueName

The name of the queue.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv6QueueName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.6.1


6. ErrorCode

The error code returned by the MQ server.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv6ErrorCode
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.6.2

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_pollfailure_message.html

RFHFormatError

Error encountered unmarshaling the MQRFH2 header.

Level : *Severe*

Log Message : *Error encountered unmarshaling the MQRFH2 header: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oRFHFormatErrorEv12*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *12*

Variables

The RFHFormatError message contains the following variables:

Table 1. RFHFormatError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_rfhformaterror_message.html

ReasonCode

The reason code for the MQ exception caught.

Level : *Info*

Log Message : *MQ Exception caught, reason code is {ReasonCode}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oReasonCodeEv13*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2*

SNMP Trap Number : *13*

Variables

The ReasonCode message contains the following variables:

Table 1. ReasonCode Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ReasonCode

The reason code for the MQ exception.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13oEv13ReasonCode
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.2.1.13.1

Parent topic: [WebSphere MQ Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_operation_reasoncode_message.html

WebSphere MQ Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the WebSphere MQ Module.

- [InputParamNull](#)
The input parameter specified is of zero length.
- [InternalFailure](#)
There was an internal error in MQ activity.

Parent topic: [WebSphere MQ Module](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_internall_notifications_list.html

InputParamNull

The input parameter specified is of zero length.

Level : *Severe*

Log Message : *The input parameter "{InputParam}" is zero length.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13iInputParamNullEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.3*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The InputParamNull message contains the following variables:

Table 1. InputParamNull Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. InputParam

The input parameter that was specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13iEv1InputParam
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.3.1.1.1

Parent topic: [WebSphere MQ Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_internal_inputparamnull_message.html

InternalFailure

There was an internal error in MQ activity.

Level : *Severe*

Log Message : *An internal error occurred: {Message}.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-MQ-MIB::ciC13iInternalFailureEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.13.1.3*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The InternalFailure message contains the following variables:

Table 1. InternalFailure Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [WebSphere MQ Internal Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/mq/mq_internall_failure_message.html

The Workday Module provides activities to act as a Workday client. This section contains details for the messages delivered from the Workday Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the Workday Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB*


MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the Workday Module.

Table 1. Notifications issued by the Workday Module

Notification	Level	System	Description
AlreadyRegistered	Severe	Orchestration	The URI/port is already registered by the Workday activity.
CleanUpMessage	Severe	Orchestration	Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.
ConnectFailed	Severe	Orchestration	The workday operation failed because a connection to the server could not be established.
ConnectRetry	Warning	Orchestration	The workday operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.
DataMessageAccepted	Info	Orchestration	SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.
MissingProtocol	Warning	Orchestration	Please put the protocol used in front of input parameter location.
NotRegistered	Severe	Orchestration	The URI/port has not been registered by the Workday activity.
OperationNameNull	Severe	Orchestration	Operation name must not be null or empty.
TaskContextError	Severe	Orchestration	Error occurred while processing Workday activity due to lost task context.
TransportInfo	Info	Orchestration	The provide activity is started on local transport for the URI.
UriDeprecated	Warning	Orchestration	Workday Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.
WDFaultString	Severe	Orchestration	The fault string returned by the Workday activity.
WorkdayException	Severe	Orchestration	Error occurred while processing Workday activity.

- [Workday Connection Notifications](#)
Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Workday Module.
- [Workday Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Workday Module.
- [Workday Internal Notifications](#)
Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Workday Module.

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/about_the_wd_module.html

Workday Connection Notifications

Provides a comprehensive list of connection notifications sent from the Workday Module.

- [ConnectFailed](#)
The workday operation failed because a connection to the server could not be established.
- [ConnectRetry](#)
The workday operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Parent topic: [Workday Module](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_connection_notifications_list.html

ConnectFailed

The workday operation failed because a connection to the server could not be established.

Level : *Severe*

Log Message : *Error sending SOAP request to location: {LocationName}. Error is: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24cConnectFailedEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.1*

SNMP Trap Number : *2*

Variables

The ConnectFailed message contains the following variables:

Table 1. ConnectFailed Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. LocationName

The specified location which was not being able to connect.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24cEv2LocationName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.1.1.2.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Workday Connection Notifications](#)

ConnectRetry

The workday operation failed while trying to connect to the server. This will cause a retry.

Level : *Warning*

Log Message : *Unable to send the SOAP request to {LocationName}. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will retry again in {IntervalForRetries} second(s).*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24cConnectRetryEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.1*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The ConnectRetry message contains the following variables:

Table 1. ConnectRetry Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p>

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. LocationName

The specified location which was not being able to connect.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24cEv1LocationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.1.1.1.1

6. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

7. RetryAttemptNumber

The current number of retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24cEv1RetryAttemptNumber
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.1.1.1.3

8. TotalRetryAttempts

The specified number of attempts to connect to the server before stopping.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24cEv1TotalRetryAttempts
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.1.1.1.4


9. IntervalForRetries

The specified time interval between retries.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24cEv1IntervalForRetries
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.1.1.1.5

Parent topic: [Workday Connection Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_connection_connectretry_message.html


Workday Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the Workday Module.

- [AlreadyRegistered](#)
The URI/port is already registered by the Workday activity.
- [CleanUpMessage](#)
Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.
- [DataMessageAccepted](#)
SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.
- [MissingProtocol](#)
Please put the protocol used in front of input parameter location.
- [NotRegistered](#)
The URI/port has not been registered by the Workday activity.
- [OperationNameNull](#)
Operation name must not be null or empty.
- [TransportInfo](#)
The provide activity is started on local transport for the URI.
- [UriDeprecated](#)
Workday Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.
- [WDFaultString](#)
The fault string returned by the Workday activity.
- [WorkdayException](#)
Error occurred while processing Workday activity.

Parent topic: [Workday Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_notifications_list.html

AlreadyRegistered

The URI/port is already registered by the Workday activity.

Level : *Severe*

Log Message : *[URI: {Uri}, Port: {Port}, Operation Name: {OperationName}] Workday has already been registered. Key: {RegistrationKey}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oAlreadyRegisteredEv7*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : 7

Variables

The AlreadyRegistered message contains the following variables:

Table 1. AlreadyRegistered Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Uri</p> <p>The URI which is already registered.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv7Uri• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.7.1

6. Port

The port which is already registered.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv7Port
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.7.2

7. OperationName

The operation name which was specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv7OperationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.7.3


8. RegistrationKey

Key used to identify this URI/Port/Operation

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv7RegistrationKey
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.7.4

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_alreadyregistered_message.html

CleanUpMessage

Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.

Level : *Severe*

Log Message : *Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oCleanUpMessageEv9*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : *9*


The CleanUpMessage message contains the following variables:

Table 1. CleanUpMessage Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_cleanupmessage_message.html

SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.

Level : *Info*

Log Message : *SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oDataMessageAcceptedEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The DataMessageAccepted message contains the following variables:

Table 1. DataMessageAccepted Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
 file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operati
 on_datamessageaccepted_message.html

MissingProtocol

Please put the protocol used in front of input parameter location.

Level : *Warning*

Log Message : *Please put the protocol used (e.g. {Protocol}) in front of the input parameter location:
 {LocationName}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oMissingProtocolEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : *5*

Variables

The MissingProtocol message contains the following variables:

Table 1. MissingProtocol Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Protocol

The protocol value that can be specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv5Protocol
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.5.1


6. LocationName

The location name parameter before which protocol has to be specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv5LocationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.5.2

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

[http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operati
on_missingprotocol_message.html](http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operati
on_missingprotocol_message.html)

NotRegistered

The URI/port has not been registered by the Workday activity.

Level : *Severe*

Log Message : [URI: {Uri}, Port: {Port}, Operation Name: {OperationName}] has not been registered. Key: {KeyName}

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oNotRegisteredEv8*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : *8*

The NotRegistered message contains the following variables:

Table 1. NotRegistered Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Uri</p> <p>The URI which is not registered.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv8Uri• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.8.1
<p>6. Port</p> <p>The port which is not registered.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv8Port• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.8.2

7. OperationName

The operation name which was specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv8OperationName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.8.3


8. KeyName

The key name which was specified.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv8KeyName
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.8.4

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_notregistered_message.html

OperationNameNull

Operation name must not be null or empty.

Level : *Severe*

Log Message : *Operation name must not be null or empty!*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oOperationNameNullEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The OperationNameNull message contains the following variables:

Table 1. OperationNameNull Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4


4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_operationnamenui_message.html

TransportInfo

The provide activity is started on local transport for the URI.

Level : *Info*

Log Message : *The provide activity is started on local transport for the URI: {URI}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oTransportInfoEv10*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

Variables

The TransportInfo message contains the following variables:

Table 1. TransportInfo Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : Integer • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : OID • SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration • SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. URI</p> <p>URI at which provie activity was started.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Type : String • SNMP Object Name : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv10URI • SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.10.1

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_transportinfo_message.html

UriDeprecated

Workday Module has deprecated the input parameter httpheaders/uri. The specified value will be ignored.

Level : *Warning*

Log Message : *Workday Module has deprecated the input parameter "httpheaders/uri". The value: {Value} will be ignored. Please set the URL (e.g. <http://www.castiron.com/Workday>) at the location in the endpoint panel or at the input parameter "location".*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oUriDeprecatedEv6*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : 6

Variables

The UriDeprecated message contains the following variables:

Table 1. UriDeprecated Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Value

The value which will be ignored due to deprecated input parameter.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv6Value
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.6.1

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_urideprecated_message.html

WDFaultString

The fault string returned by the Workday activity.

Level : *Severe*

Log Message : *{Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oWDFaultStringEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : *3*

Variables

The WDFaultString message contains the following variables:

Table 1. WDFaultString Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_wdfaultstring_message.html

WorkdayException

Error occurred while processing Workday activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while processing Workday activity. Error message: {Message}. Caused by: {Cause}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oWorkdayExceptionEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The WorkdayException message contains the following variables:

Table 1. WorkdayException Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String

- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2


6. Cause

The cause of the error message.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24oEv4Cause
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.2.1.4.2

Parent topic: [Workday Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_operation_workdayexception_message.html


Workday Internal Notifications

Provides a comprehensive list of internal notifications sent from the Workday Module.

- [TaskContextError](#)
Error occurred while processing Workday activity due to lost task context.

Parent topic: [Workday Module](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_internal_notifications_list.html

TaskContextError

Error occurred while processing Workday activity due to lost task context.

Level : *Severe*

Log Message : *Exception while processing Workday activity. Error message: {Message}. The task context is lost. The appliance may have been restarted, losing the task context that cannot be saved on the disk.*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-WD-MIB::ciC24iTaskContextErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.24.1.3*

SNMP Trap Number : *1*


Variables

The TaskContextError message contains the following variables:

Table 1. TaskContextError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3</i>
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1</i>
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4</i>
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration</i>• SNMP OID : <i>1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3</i>
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : <i>CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage</i>• SNMP OID : <i>.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2</i>

Parent topic: [Workday Internal Notifications](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/wd/wd_internal_taskcontexterror_message.html

XML Module

The XML Module provides activities for generating and parsing XML content. This section contains details for the messages delivered from the XML Module.

This topic provides the MIB Name and MIB OID information, in addition to high-level details about each notification in the XML Module.

MIB Name : *CASTIRON-COMP-XML-MIB*


MIB OID : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.12*

The following table provides an alphabetical list of all notifications that can be issued by the XML Module.

Table 1. Notifications issued by the XML Module

Notification	Level	System	Description
TransformError	Severe	Orchestration	There was an error while transforming the XML.
ValidateInitialize	Severe	Orchestration	There was an error while initializing the validate activity.
XMLParseError	Severe	Orchestration	There was an error while parsing the XML.
XMLQueryError	Severe	Orchestration	There was an error while querying the XML.
XMLSerializeError	Severe	Orchestration	There was an error while serializing the XML.

- [XML Operation Notifications](#)
Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the XML Module.

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/xml/about_the_xml_module.html


XML Operation Notifications

Provides a comprehensive list of operation notifications sent from the XML Module.

- [TransformError](#)
There was an error while transforming the XML.
- [ValidateInitialize](#)
There was an error while initializing the validate activity.
- [XMLParseError](#)
There was an error while parsing the XML.
- [XMLQueryError](#)
There was an error while querying the XML.
- [XMLSerializeError](#)
There was an error while serializing the XML.

Parent topic: [XML Module](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/xml/xml_operation_notifications_list.html

TransformError

There was an error while transforming the XML.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to transform XML, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-XML-MIB::ciC12oTransformErrorEv4*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.12.1.2*

SNMP Trap Number : *4*

Variables

The TransformError message contains the following variables:

Table 1. TransformError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [XML Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/xml/xml_operation_transformerror_message.html

ValidateInitialize

There was an error while initializing the validate activity.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to initialize the Xml Validate Activity: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-XML-MIB::ciC12oValidateInitializeEv5*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.12.1.2*

SNMP Trap Number : *5*


Variables

The ValidateInitialize message contains the following variables:

Table 1. ValidateInitialize Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3
<p>5. Message</p> <p>Textual description of the error.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage• SNMP OID : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/xml/xml_operation_validateinitialize_message.html

XMLParseError

There was an error while parsing the XML.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to parse XML, error was: {ErrorMessage}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-XML-MIB::ciC12oXMLParseErrorEv1*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.12.1.2*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The XMLParseError message contains the following variables:

Table 1. XMLParseError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p>

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. ErrorMessage

The error message returned while parsing the XML.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-COMP-XML-MIB::ciC12oEv1ErrorMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.12.1.2.1.1.1

Parent topic: [XML Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/xml/xml_operation_xmlparseerror_message.html

XMLQueryError

There was an error while querying the XML.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to query XML, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-XML-MIB::ciC12oXMLQueryErrorEv2*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.12.1.2*

SNMP Trap Number : 2

Variables

The XMLQueryError message contains the following variables:

Table 1. XMLQueryError Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [XML Operation Notifications](#)

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/xml/xml_operation_xmlqueryerror_message.html

XMLSerializeError

There was an error while serializing the XML.

Level : *Severe*

Log Message : *Failed to serialize XML, error was: {Message}*

System : *Orchestration*

SNMP Name : *CASTIRON-COMP-XML-MIB::ciC12oXMLSerializeErrorEv3*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.3.12.1.2*

SNMP Trap Number : 3

Variables

The XMLSerializeError message contains the following variables:

Table 1. XMLSerializeError Message Variables

<p>1. SerialNumber</p> <p>The serial number of the appliance sending the trap.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.3.3
<p>2. Severity</p> <p>Severity of the Notification.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : Integer• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1
<p>3. JobID</p> <p>The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : String• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4
<p>4. Orchestration</p> <p>Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.</p> <ul style="list-style-type: none">• Type : OID• SNMP Object Name : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration• SNMP OID : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3


5. Message

Textual description of the error.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : .1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

Parent topic: [XML Operation Notifications](#)

Feedback | Notices

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/xml/xml_operation_xmlserializeerror_message.html

Uncategorized Notifications

This topic provides details about messages that have not formally been categorized in an existing module.

These notifications are used for events which have not yet been assigned their own OID. Use the information specified in the Message variable to identify individual notifications.

SNMP Name : *CASTIRON-IA-MIB::ciIaUncategorizedEv*

SNMP Enterprise : *.1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.1.10*

SNMP Trap Number : *1*

Variables

The uncategorized message contains the following variables:

Table 1. Uncategorized Message Variables

1. SerialNumber

The serial number of the appliance sending the trap.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaPlatSerialNumber
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.3.3

2. Severity

Severity of the Notification.

- **Type** : Integer
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvSeverity
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.1

3. JobID

The ID of the job being run when an error occurred. If the error is unrelated to a specific job, this field is blank.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvJobID
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.4

4. Orchestration

Reference to an entry in the Orchestration table containing information about the orchestration associated with this event.

- **Type** : OID
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvOrchestration
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.3

5. Message

Textual description of the error. See the table below for a list of descriptions.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-REGISTRATIONS-MIB::ciEvMessage
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.1.2.2

6. LoggerName

Name of the logger used to send the notification. See table below.

- **Type** : String
- **SNMP Object Name** : CASTIRON-IA-MIB::ciIaEvLoggerName
- **SNMP OID** : 1.3.6.1.4.1.13336.2.2.2.1.1.10.1.1

Uncategorized Messages

This table lists the most commonly encountered uncategorized notifications. When one of these notifications is categorized, a replacement value is provided and the message remains in the uncategorized messages list for reference purposes.

Table 2. Uncategorized Messages

Severity	System	LoggerName	Message	Replacement
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Fan is not functional. Fan: {0} Current Speed: {1} rpm Min Required Speed: {2} rpm Max Allowed Speed: {3} rpm Machine ID: {4}	FanFailed
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Fan is functional. Fan: {0} Current Speed: {1} rpm Min Required Speed: {2} rpm Max Allowed Speed: {3} rpm Machine ID: {4}	FanRestored
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Temperature is out of range. Temperature sensor: {0} Current temperature: {1} degrees C Minimum: {2} degrees C Maximum: {3} degrees C Machine ID: {4}	TemperatureOutOfRange


Severity	System	LoggerName	Message	Replacement
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Temperature is restored. Temperature sensor: {0} Current temperature: {1} degrees C Minimum: {2} degrees C Maximum: {3} degrees C Machine ID: {4}	TemperatureRestored
Warning	Orchestration	com.approuter.module.platform	Power has been interrupted. Machine ID: {1}	PowerInterrupted
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Power has been restored. Machine ID: {1}	PowerRestored
Warning	Orchestration	com.approuter.module.platform	The Integration Appliance {0} has been opened. Machine ID: {1}	IntrusionInformation
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	RAID Array {0} is offline. Machine ID: {1}	RaidArrayOffline
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	RAID Array {0} is degraded, probably because of a disk failure. Machine ID: {1}	RaidArrayDegraded
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	RAID Array {0} is optimal. Machine ID: {1}	RaidArrayOptimal
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	RAID Disk {0} on array {1} has failed. Machine ID: {2}	RaidDiskFailed
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	RAID disk {0} on array {1} is rebuilding. Do not remove the disk until the rebuild is completed. Machine ID: {2}	RaidDiskRebuilding
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	RAID disk {0} on array {1} is online. Machine ID: {2}	RaidDiskOnline
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	High Availability System Failover successful.	HighAvailFailover
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Network Interface Link Up. Network Interface {0} is now up Machine ID: {1}	NetworkLinkUp
Warning	Orchestration	com.approuter.module.platform	Network Interface Link Down. Network Interface {0} is now down Machine ID: {1}	NetworkLinkDown
Warning	Orchestration	com.approuter.module.platform	Automatically added hostname to /etc/hosts, see "net show etchost".	NetworkAutohost

Severity	System	LoggerName	Message	Replacement
Warning	Orchestration	com.approuter.module.platform	Could not add route to {0} on {1}	NetworkInvalidRoute
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Swap space usage is now below the {0}% warning threshold - current usage is {1}.{2}%	SwapUsageWarnOk
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Swap space usage is now below the {0}% critical threshold - current usage is {1}.{2}%	SwapUsageCriticalOk
Warning	Orchestration	com.approuter.module.platform	Swap space usage has exceeded the {0}% warning threshold - current usage is {1}.{2}%	SwapUsageWarning
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Swap space usage has exceeded the {0}% critical threshold - current usage is {1}.{2}%	SwapUsageCritical
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	{0} disk space usage is now below the {1}% warning threshold - current usage is {2}.{3}%	DiskUsageWarnOk
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	{0} disk space usage is now below the {1}% critical threshold - current usage is {2}.{3}%	DiskUsageCriticalOk
Warning	Orchestration	com.approuter.module.platform	{0} disk space usage has exceeded the {1}% warning threshold - current usage is {2}.{3}%	DiskUsageWarning
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	{0} disk space usage has exceeded the {1}% critical threshold - current usage is {2}.{3}%	DiskUsageCritical
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Job log purge triggered. Available disk space is {0}%. Specified trigger is {1}%.	OrcmonDiskTrigger
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Job log purge triggered. Exceeded maximum duration since last purge.	OrcmonPurgeByTimeNP
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Job log purge triggered. Time since last purge exceeded {0}.	OrcmonPurgeByTime
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Job log purge triggered. There are {0} completed jobs. Completed jobs threshold is {1}.	OrcmonPurgeByCompl
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Job log purge triggered. There are {0} errored jobs. Errored jobs threshold is {1}.	OrcmonPurgeByErrored

Severity	System	LoggerName	Message	Replacement
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Job log purged {0} jobs.	OrcmonExportedJobs
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Exporting job log data to local archive file "{0}".	OrcmonExportLocal
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Exporting archive file to FTP server {0}:{1}. Placing file "{2}" in directory "{3}".	OrcmonExportFTP
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Failure uploading archive file to FTP server: Could not cd to directory "{0}".	OrcmonExportCdError
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Failure uploading archive file to FTP server: Could not store file.	OrcmonExportStoreErr
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Failure uploading archive file to FTP server: {0}	OrcmonExportError
Warning	Orchestration	com.approuter.module.platform	Job log purge triggered. Available disk space is {0}%. Specified trigger is {1}%. Purging using properties failed to clear enough disk space. Purging half of all job logs in attempt to recover disk space.	OrcmonDiskFull
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Failed to purge any job logs to recover disk space. Available disk space is {0}%.	OrcmonDiskFullNoPurge
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Job log purge/archive failed: {0}.	OrcmonPurgeFailed
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	An error occurred while archiving job logs. The error message is: {0}	OrcmonArchiveError
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	An error occurred while executing a query on the job log database. The error message is: {0}	OrcmonDatabaseError
Severe	Orchestration	com.approuter.module.platform	Authentication failure for user {0}, from host {1}.	AuthFailure
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Access Violation by user: {0}. Target: {1}. Action Performed: {2}.	AccessViolation
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Authentication success for user {0}, from host {1} with session id {2}.	AuthSuccess

Severity	System	LoggerName	Message	Replacement
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	New User {0} has been created with id {1}.	UserCreated
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	User {0} has been deleted.	UserDeleted
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	New Group {0} has been created with id {1}.	GroupCreated
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	Group {0} has been deleted.	GroupDeleted
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	User {0} has been revoked of the role {1}.	RevokeRole
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	User {0} has been granted role of {1}.	GrantRole
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	User {0} displayName has been changed from {1} to {2}.	UpdateUser
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	User {0} status has been changed from {1} to {2}.	UpdateStatus
Info	Orchestration	com.approuter.module.platform	User {0} with session id {1} logged out successfully.	AuthLogOut

[Feedback](#) | [Notices](#)

 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/uncategorized_messages.html

Log Message Reference

Alphabetized list of all log messages, with links to the details.

Message	Module	Level	Notification
A connection error occurred while sending the receive activity response. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReceiveSendReplyError
A connection error occurred while sending the response. Error is {Message}	HTTP	Severe	ReplyConnectionError
A general error occurred while sending the response. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReplyGeneralError
A select statement was issued to control table {TableName} to check for duplicate rows.	Database	Info	SelectStatement
About to execute function {FunctionName}	SAP	Info	StartFunctionExec
Access Violation by user: {Username}. Target: {Target}. Action Performed: {Action}.	Platform	Info	AccessViolation
Activation of Get SAML 2.0 token failed	STS	Severe	ActivationFailed
Activity could not be converted into TwoPhase activity	Mastero	Severe	ErrorTwoPhase

Message	Module	Level	Notification
Activity could not get activated. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	ActivationError
Activity expected string data (MQFMT_STRING), but the message is of format "{Format}".	WebSphere MQ	Warning	FormatWarning
Activity failed as data to get is larger than activity can handle. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	LargeDataError
Activity {ActivityName} activated successfully	JDEdwards	Info	ActivationSuccessful
Activity {ActivityName} activated successfully	PeopleSoft	Info	ActivationSuccess
Activity {ActivityName} activated successfully.	Dominator	Info	ActivationSuccess
Activity {ActivityName} could not find any record	PeopleSoft	Info	GetNoReturn
Activity {ActivityName} is stopped successfully.	Dominator	Info	StopSuccess

Message	Module	Level	Notification
Activity {ActivityName} not started as {Name} is blank	PeopleSoft	Severe	ActivateFailureBlank
ActivityFactory (name - {ActivityName}, version - {ActivityVersion}) not registered	Mastero	Severe	NoActivityFactory
ActivityFactory (name - {ActivityName},version - {ActivityVersion}) has multiple registrations, not loading	Mastero	Severe	MultipleActFactory
ActivityFactory (name - {ActivityName},version - {ActivityVersion}) returned wrong class {ActivityClass}	Mastero	Severe	WrongActFactory
Adding Connection Pool with name {PoolName}	SAP	Info	PoolAddInfo
Adding Server Gateway {GatewayName}.	SAP	Info	AddingServerInfo
Additional property {PropertyName} set to {PropertyValue} so setup connection pool.	Email	Info	NewConnectEverytime
An I/O error occurred while processing the request. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReceiveIOError

Message	Module	Level	Notification
An error occurred handling a receive request. Exception: {Message}	HTTP	Severity	CommonHandlerError
An error occurred while archiving job logs. The error message is: {Message}	Platform	Severity	OrcmonArchiveError
An error occurred while closing the connection in the exception path. The exception is {Message}	Database	Warning	JDBCConnectionClose
An error occurred while connecting to the database. The exception is {Message}	Database	Warning	ConnectionError
An error occurred while connecting to the database. The exception is {Message} The job is retrying: {RetryAttemptNumber} out of {TotalRetryAttempts} attempts to connect to the database . Another attempt will be made after {IntervalForRetries} secs.	Database	Warning	ConnectionRetry
An error occurred while executing a query on the job log database. The error message is: {Message}	Platform	Severity	OrcmonDatabaseError

Message	Module	Level	Notification
An error occurred while processing the message for the parameterized query activity at row number {RowNumber}. The error is: {Message}	Database	Severe	Param Query Error
An error occurred while processing the request. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReceiveInternalError
An error occurred while reading headers. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReplyUnmarshHeader
An error occurred while setting the key store. Exception: {Message}	HTTP	Severe	RegisterKeyStore
An error occurred while trying to execute activity {ActivityName}. Error is: {Message}	Domaino	Severe	ActivityFailure
An error occurred while trying to process an unsupported Accept-Charset encoding. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReceiveOperationError
An exception occurred while activating the activity. The exception is :{Message}	HTTP	Severe	RequestActivate

Message	Module	Level	Notification
An exception occurred while activating the parameterized query activity. The exception is: {Message}	Database	Severe	Param Query Activate
An exception occurred while activating the stored procedure activity. The exception is: {Message}	Database	Severe	Stored ProcActivate
An exception occurred while deleting the row from the control table. The exception is {Message}	Database	Severe	ErrorDeletePost
An exception occurred while deleting the row from the control table. The exception is: {Message}	Database	Severe	Delete RowsError
An exception occurred while processing a SingleTableNotification job. Data error at row number {RowNumber} of table {TableName}. The Error is {Message}	Database	Severe	ErrorSingleTableJob
An exception occurred while processing an outbound job in the stored procedure activity. Data error at row number: {RowNumber}. The error is {Message}	Database	Severe	Stored ProcException
An exception occurred while processing the inbound job: {Message}	Database	Severe	InboundOperationError

Message	Module	Level	Notification
An insert statement was issued to the control table. {TableName}	Database	Info	InsertTableStatement
An internal error occurred: {Message}.	WebSphere MQ	Severe	InternalFailure
An unexpected result returned from the buffer table. Expecting rows to be present in the result, instead the result is empty.	Database	Warning	UnexpectedEmptyRows
An unknown exception occurred while sending the response to the client. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReplyUnknownError
Append data to file "{FileName}" completed with return code {ResponseCode}.	FTP	Info	AppendAfter
Appending data to file "{FileName}".	FTP	Info	AppendBefore
Archiver created successfully, now performing archiving.	Archive	Info	ArchiverCreated
Archiving done successfully.	Archive	Info	ArchiveDone

Message	Module	Level	Notification
Attempt to upgrade Cast Iron firmware on appliance {AffectedAppliance} from version {OldVersion} to version {NewVersion} failed: {Message}.	Platform	Severe	UpgradeFailed
Authentication failure for user {Username}, from host {Host}.	Platform	Severe	AuthFailure
Authentication success for user {UserName}, from host {Host} with session id {SessionId}.	Platform	Info	AuthSuccess
Automatically added entry to /etc/hosts with hostname {Hostname} and IP address {IPAddress}.	Platform	Warning	NetworkAutohost
Automatically converting old style FTP filename pattern from "{OldStylePattern}" to "{NewStylePattern}". Please republish project from Studio version 3.6 or later to eliminate this warning.	FTP	Warning	FtpPatternConversion
Binding parameters supplied are invalid.	Archive	Severe	IncorrectParameters
Boundary attribute not set in input parameter 'mimeheader'. Input body being set as entityBody in first entity of 'parts' output parameter.	MIME	Info	BoundaryAbsent

Message	Module	Level	Notification
Boundary delimiters longer than 70 characters. Ignoring the specified boundary value. Using auto-generated boundary.	MI ME	Warning	BoundaryMoreThan70
Boundary is: \"{Boundary}\".	MI ME	Info	BoundaryInfo
Boundary specified in header but no boundary found in the body. Returning single body.	MI ME	Warning	NoBoundaryFound
Call context created but task never started; destroying task {TaskID}	Ma est ro	Info	CallContextDestroy
Call to function {FunctionName} is complete	SA P	Info	CompleteFunctionExec
Cancel of job {JobID} of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.	Ma est ro	Se ve re	LoaderCancel
Cannot complete this job due to low memory, please try redeploying this orchestration	Ma est ro	Se ve re	LargeTotalVarSize
Cannot start an orchestration that is in transient state: {State}	Ma est ro	Se ve re	ProgramStart

Message	Module	Level	Notification
Caught exception while canceling job: {Message}	Mastero	Warning	TaskCancelled
Changed directory to "{DirectoryName}" completed with return code {ResponseCode}.	FTP	Info	DirChangeAfter
Changing to directory "{DirectoryName}".	FTP	Info	DirChangeBefore
Committing TID {TID}.	SAP	Info	TIDCommittingInfo
Completed activity and spewed out sessionInfo and {NameOfOutputParam} output parameter.	Salesforce.com	Info	ActivityOutput
Completed activity and spewed out sessionInfo output parameter and {NumberOfObjects} objects in output parameter {NameOfOutputParam}.	Salesforce.com	Info	ParameterOutput
Completed activity and spewed out sessionInfo output parameter and {NumberOfResults} result objects in output parameter {NameOfOutputParam}.	Salesforce.com	Info	ParameterResults
Composite media type {MediaType} cannot have any other Content-Transfer-Encoding apart from 7bit, 8bit or binary.	MIME	Severe	TransferEncodingError

Message	Module	Level	Notification
Config Parameters: From: \"{From}\", To: \"{To}\", CC: \"{CC}\", BCC: \"{BCC}\", Subject: \"{Subject}\".	Email	Info	SmtPConfigParams
Config parameters: From Pattern: \"{FromPattern}\", Subject Pattern: \"{SubjectPattern}\".	Email	Info	Pop3COnfigParams
Connected to the POP3 server.	Email	Info	Pop3COnnected
Connected to the SMTP server.	Email	Info	SmtPCOnnected
Connection Pool {PoolName} already exists, Using existing definition.	SAP	Info	PoolExistInfo
Connection error while executing activity {ActivityName}. The error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s)	JDEwards	Warning	JDERetryError
Connection error while executing activity {ActivityName}. The error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s)	PeopleSoft	Warning	ConnectionRetry
Connection exception in the subscriber. The exception is {Message}. Going to restart the subscriber after the {IntervalForRestart} secs	JMS	Severe	SubscriberConnect

Message	Module	Level	Notification
Connection exception while getting message from the provider. The error code is {ErrorCode} and message is {ErrorMessage}. The job is retrying {RetryAttemptNumber}, out of {TotalRetryAttempts} attempts to connect to JMS provider. The next attempt will be after {IntervalForRetries} seconds.	JMS	Warning	GetConnectRetry
Connection exception while polling message. The exception is {Message}. The job is retrying {RetryAttemptNumber} out of {TotalRetryAttempts} attempt to connect to JMS provider. The next attempt will be after {IntervalForRetries} secs.	JMS	Warning	PollMessageRetry
Connection exception while sending message. The error code is {ErrorCode} and exception is {ErrorMessage}. The job is retrying {RetryAttemptNumber} out of {TotalRetryAttempts} attempt to connect to JMS provider. The next attempt will be after {IntervalForRetries} secs.	JMS	Warning	SendConnectRerty
Connection handler retrieved from the call context is Null!	HTTP	Severe	ReplyHandlerNull
Content-Encoding header received: {ContentEncodingHeader}	HTTP	Info	IncomingContentEnc
Content-Transfer-Encoding value for attachment {AttachmentNumber} is {EncodingValue} while the attachment body has lines greater than 998 characters in length. Changing the Content-Transfer-Encoding to binary.	MIME	Warning	TransferEncChaged

Message	Module	Level	Notification
Content-Transfer-Encoding value missing for attachment number {AttachmentNumber}. Guessing based on Content-Type and charset values.	MI ME	Warning	TransferEnc Missing
Content-type not found. Taking default Content-Type as text/plain.	MI ME	Info	DefaultContentType
Could not add route to {DestinationIP} on {LinkName}.	Platform	Warning	NetworkInvalidRoute
Could not clean up object with ID {ObjectID}, will try later	Master	Warning	DeleteObject
Could not close output stream	Master	Warning	CloseOutputStream
Could not close reader	Master	Warning	CloseInputStream

Message	Module	Level	Notification
Could not close reader	Mastero	Warning	CloseReader
Could not close writer	Mastero	Warning	CloseWriter
Could not delete file "{FileName}" after processing. Error is {Message}	FTP	Warning	UnableToDelete
Could not execute query to preload lookup cache	Data Quality	Warning	BadPreloadQuery
Could not find an Archiver for supplied archive type: {FormatName}	Archive	Severe	InvalidArchiveFormat
Could not find an entry point for the activity: [{ActivityName}] in the compiled orchestration	Mastero	Severe	EntryPath

Message	Module	Level	Notification
Could not get data for date range, because id limit exceeded	Salesforce.com	Severe	LargeData
Could not initialize FaultInfo	Mastero	Severe	FaultInfo
Could not initialize JobInfo	Mastero	Severe	InitializeJobInfo
Could not log monitor events	Mastero	Severe	MonitorEvents
Could not log monitor variable "{VariableName}"	Mastero	Warning	MonitorVariable
Could not log monitor variables	Mastero	Warning	MonitorVariables

Message	Module	Level	Notification
Could not move file "{FileName}" after processing. Error is {Message}	FTP	Warning	Unable To Move
Could not perform input map expression: {ExpressionName}	Master	Severe	Input MapXP ath
Could not perform input map transform: {Message}	Master	Severe	Input MapXSLT
Could not perform output map expression: {Message}	Master	Severe	Output MapXP ath
Could not perform output map transform: {Message}	Master	Severe	Output MapXSLT
Could not perform output map: {Message}	Master	Severe	Output Map
Could not query for monitor data	Master	Severe	MonitorQuery

Message	Module	Level	Notification
Could not read the module configuration: {Message}	Mastero	Severe	ModuleConfig
Could not receive socket reply	Mastero	Warning	SocketNoReply
Could not register {ObjectName} with mbean server	Mastero	Severe	MBeanRegister
Could not suspend, orchestration not running: {OrchName}	Mastero	Severe	NotSuspend
Could not undeploy, orchestration not stopped, state is {State}: {OrchName}	Mastero	Severe	NotStopped
Could not unregister {ObjectName} with mbean server	Mastero	Severe	MBeanUnregister
Created a new TID {TID} for starting a transaction in send IDOC activity.	SAP	Info	SendIDOCCreateInfo

Message	Module	Level	Notification
Creating a new TID {TID} in the TID Manager.	SAP	Info	Create TID
Current time {CurrentTime} is less than 1 minute past last polling time {LastPollingTime}. Skipping this polling interval.	Salesforce.com	Info	ShortPoll
Data Error: {Message}.	Email	Severe	Pop3DataError
Data Error: {Message}.	Email	Severe	SmtpDataError
Data Quality Lookup activity with Fuzzy option is not supported in cloud	Data Quality	Severe	DQLookupFuzzyOnCloud
Data being set for field named {FieldName} has length {DataLength}, where as field has length {FieldLength}. There may be loss of data.	PeopleSoft	Warning	DataLengthMore
Data error while executing the activity. The error is: {Message}	Siebel	Severe	DataException

Message	Module	Level	Notification
Debugger operation {Value} failed	Maestro	Severe	Debug Failed
Decryption Done.	Crypto Service	Info	DecryptDone
Decryption Started.	Crypto Service	Info	DecryptStarted
Delete failed for item {ItemNumber}. Returning false	PeopleSoft	Warning	Delete Fail
Delete file summary - Directory: {DirName}, Filename: {FileName}	FTP	Info	Delete InfoSummary
Delete of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.	Maestro	Severe	Loader Delete
Deleted file "{FileName}" on server with return code {ResponseCode}.	FTP	Info	Delete After
Deleting file "{FileName}" on server.	FTP	Info	Delete Before

Message	Module	Level	Notification
Deploy of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.	Mastero	Severe	Loader Deploy
Disk space usage on {Disk} has exceeded the {Threshold}% critical threshold - current usage is {Usage}%	Platform	Severe	DiskUsageCritical
Disk space usage on {Disk} has exceeded the {Threshold}% warning threshold - current usage is {Usage}%	Platform	Warning	DiskUsageWarning
Disk space usage on {Disk} is now below the {Threshold}% critical threshold - current usage is {Usage}%	Platform	Info	DiskUsageCriticalOk
Disk space usage on {Disk} is now below the {Threshold}% warning threshold - current usage is {Usage}%	Platform	Info	DiskUsageWarningOk
Downloaded file "{FileName}" from server with return code {ResponseCode}.	FTP	Info	GetAfter
Downloading file "{FileName}" from server.	FTP	Info	GetBefore
Duplicate list is at capacity, removing file "{FileName}" from duplicate list.	FTP	Info	DeleteDupListEntry

Message	Module	Level	Notification
Duplicate message found, discarding.	WebSphere MQ	Info	DuplicateFound
Email id is invalid: {EmailID}.	Email	Warning	InvalidEmailID
Email sent to server.	Email	Info	EmailSent
Emitted {NumberOfEntries} entries to "{Target}"	Data Quality	Info	OutputEntryCount
Empty input parameter 'mimeheader'. Cannot parse data.	MIME	Severe	HeaderAbsent
Empty input parameter 'parts'. No data to serialize.	MIME	Severe	EmptyParts
Encoding parameter not set and no value specified in configuration	Data	Severe	MissingEncParse

Message	Module	Level	Notification
Encoding parameter not set and no value specified in configuration	Data	Severe	MissingEncSerialize
Encoding parameter not supported: {Encoding}	Data	Severe	BadEncoding
Encountered fault of type {FaultType}, please see rest of the log for more information	Mastero	Severe	ActivityFailedError
Encryption Done	CryptoService	Info	EncryptDone
Encryption Started.	CryptoService	Info	EncryptStarted
End time {StartTime} is less than 1 minute past start time {EndTime}. Setting interval to 1 minute and getting data.	SalEsforce.com	Info	TimeTooClose
Ended job for orchestration "{OrchName}"	Mastero	Info	TaskEnded
Endpoint Parameters: Host: \"{HostName}\", Port: {Port}, User: \"{Username}\".	Email	Info	EndpointData

Message	Module	Level	Notification
Endpoint Parameters: Host: \"{HostName}\", Port: {Port}, User: \"{Username}\".	Email	Info	SmtPEndpointData
Endpoint object is null.	Salesforce.com	Severe	EndpointNull
Entities of type {MainType}/{SubType} cannot have any other Content-Transfer-Encoding apart from 7bit.	MI ME	Severe	TransferEncodingLimit
Error connecting to JDE system while activating activity {ActivityName}, error is: {Message}. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time	JDEwards	Info	ActivateUnsuccessful
Error connecting to PeopleSoft system while activating activity {ActivityName}, error is: {Message}. Activity activated, will try to establish connectivity at activity execute time	PeopleSoft	Info	ActivateUnsuccessful
Error encountered unmarshaling the MQRFH2 header: {Message}.	WebSphere MQ	Severe	RFHFormatException
Error from Salesforce.com while initializing activity. Trying to ignore error and proceed. Error is: {Message}.	Salesforce.com	Warning	InitializeProblem
Error identifying archive. Message is: {Message}	Archive	Severe	ErrorIdentifyArchive

Message	Module	Level	Notification
Error in setup of repository/connection-pool in activate of {ActivityName}. Setup to be done at activity execution time. The error is: {Message}	Siebel	Warning	InvokeActivate
Error occurred while unzip operation. Message is: {Message}	Archive	Severe	ErrorUnZipOperation
Error occurred while zip operation. Message is: {Message}	Archive	Severe	ErrorZipOperation
Error occurred, while communicating to SAP Gateway (host {HostName}, ProgramId {ProgramID}, Service {Service}), trying again in {IntervalForRetries} seconds.\nOriginal SAP error was \n {Message} \nIf the SAP message indicates a retry interval it may not be correct.	SAP	Warning	GatewayComWarning
Error processing file "{FileName}". Error is {Message}	FTP	Warning	FileProcessingError
Error returned by BAPI {BAPIName} in the type field. The values returned are TYPE: {Type} , MESSAGE: {Message}, LOGNO: {LogNumber}, LOGMSGNO {LogMessage}	SAP	Severe	BAPIReturnError

Message	Module	Level	Notification
Error sending SOAP request to location: {LocationName}. Error is: {Message}	Workday	Severe	ConnectFailed
Error sending SOAP request to location: {LocationName}. Error is: {Message}	Web Service	Severe	ConnectFailed
Error while activating PeopleSoft Receive. The error is: {Message}	PeopleSoft	Severe	ReceiveActivate
Error while activating the activity. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReceiveActivate
Error while activating the {ActivityName} activity. The error is: {Message}	Siebel	Severe	ActivateError
Error while closing the connection pool. The error is: {Message}	Email	Warning	ConnPoolReleaseError
Error while closing the connection pool. The error is: {Message}	JDEwards	Warning	ConnPoolRelease

Message	Module	Level	Notification
Error while closing the connection pool. The error is: {Message}	PeopleSoft	Warning	PoolReleaseError
Error while connecting to JDE. The error is : {Message}	JDEwards	Warning	ConnectException
Error while creating the connection to destination. The error is: {Message}	Email	Warning	MakeConnectionError
Error while creating the connection to destination. The error is: {Message}	JDEwards	Warning	MakeConnectionError
Error while creating the connection to destination. The error is: {Message}	PeopleSoft	Warning	MakeConnectionError
Error while deactivating PeopleSoft Receive. Discarding error: {Message}	PeopleSoft	Severe	ReceiveDeactivate

Message	Module	Level	Notification
Error while deactivating the {ActivityName} activity. Discarding error: {Message}	Siebel	Warning	InvokeDeactivateError
Error while deactivating the {ActivityName} activity. Discarding error: {Message}	Siebel	Severe	ReceiveDeactivateError
Error while disconnecting from JDE. The error is : {Message}	JDEwards	Warning	DisconnectException
Error while executing the activity. The error is: {Message}	Siebel	Severe	InvokeException
Error while parsing data. Error is: {Message}.	MI ME	Severe	ParseException
Error while parsing datetime from archive entries. Message is: {Message}	Archive	Warning	InvalidDateTime

Message	Module	Level	Notification
Error while processing request in PeopleSoft Receive. The error is: {Message}	PeopleSoft	Severe	ReceiveProcess
Error while processing request. Exception : {Message}	JDEwards	Severe	JDEInternalError
Error while processing request. The error is: {Message}	Siebel	Severe	InternalError
Error while processing the connection parameters sent as part of the request. Error is: {Message}	Domino	Severe	ConnectError
Error while processing unsupported encoding. Exception : {Message}	JDEwards	Severe	UnsupportedEncoding
Error while processing unsupported encoding. The error is: {Message}	Siebel	Severe	UnsupportedEncoding
Error while reading archive entry. Message is: {Message}	Archive	Severe	InvalidArchiveEntry

Message	Module	Level	Notification
Error while reading archive. Message is: {Message}	Archive	Severe	InvalidUnarchiveInput
Error while receiving in PeopleSoft Receive. The error is: {Message}	PeopleSoft	Severe	ReceiveError
Error while receiving in {ActivityName} activity. The error is: {Message}	Siebel	Severe	ReceiveError
Error while returning connection to pool. The error is: {Message}	Email	Warning	ConnectionPoolReturn
Error while returning connection to pool. The error is: {Message}	PeopleSoft	Warning	ConnectionPoolError
Error while sending the response from PeopleSoft Receive. The error is: {Message}	PeopleSoft	Severe	ReceiveGeneralError
Error while serializing data. Error is: {Message}.	MI ME	Severe	SerializeException

Message	Module	Level	Notification
Error while setting up connection pool for {ActivityName} activity. The error is: {Message}	Siebel	Warning	ConnectionPoolError
Error while setting up repository for {ActivityName} activity. The error is: {Message}	Siebel	Warning	RepositoryError
Error while stopping the receive activity. Exception: {Message}	HTTP	Severe	ReceiveDeactivate
Error while trying to activate activity. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	PollActivateError
Error while trying to disconnect from server. Discarding error: {Message}.	Email	Warning	DisconnectException
Error while trying to disconnect from server. Discarding error: {Message}.	Email	Warning	SmtpdDisconnectError

Message	Module	Level	Notification
Error while trying to execute activity {ActivityName}. Error is: {Message}	JD Edwards	Severe	ActivityError
Error while trying to execute activity {ActivityName}. Error is: {Message}	PeopleSoft	Severe	ActivityFailure
Error while trying to execute activity. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	ExecuteError
Error while trying to execute query. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	ExecuteProblem
Error while trying to get IP of router. Error is: {Message}. Continuing without getting IP.	Email	Warning	CouldNotGetHostIP
Error while trying to read optional connection input parameter. Error is: {Message}	Domino	Severe	UnmarshalError
Error while trying to read optional connection input parameter. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	UnmarshalError

Message	Module	Level	Notification
Error while trying to save duplist state after disconnect. Will cleanup in next poll.	Email	Warning	SaveStateError
Error while trying to write output parameter sessionInfo. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	MarshalError
Error: {Message}.	Email	Severe	Pop3InternalError
Error: {Message}.	Email	Severe	SmtptInternalError
Error: {Message}.	Scheduler	Severe	ActivityException
Errors/Warning messages while executing activity: {Message}	Domino	Warning	RunningInfo

Message	Module	Level	Notification
Errors/Warning messages while executing activity: {Message}	PeopleSoft	Warning	RunningInfo
Exceeded maximum number of activity events for a job; logging disabled	Mastero	Warning	MaxSeqNum
Exception : {Message}	HTTP	Severe	UnsupportedEncoding
Exception detected in module, throwing exception {Message}	Mastero	Severe	InvokeError
Exception in foreach activity: {Message}	Mastero	Severe	ForEach
Exception in map activity: {Message}	Mastero	Severe	ErrorMap
Exception in split activity: {Message}	Mastero	Severe	SplitError

Message	Module	Level	Notification
Exception in subscribing the message. The Exception is: {Message} for message id: {MessageID}, This message should be re-delivered manually from the Provider.	JMS	Severe	SubscriberError
Exception received on JMS connection while it was in the idle connections pool. The error code is: {ErrorCode}, and the exception is: {ErrorMessage}	JMS	Warning	PooledConnection
Exception while activating the BAPI Activity. The Exception is {Message}	SAP	Severe	BAPIActivationError
Exception while activating the RFC Activity. The Exception is {Message}	SAP	Severe	RFCActivationError
Exception while activating the Send IDOC Activity. The Exception is {Message}	SAP	Severe	SendIDOCActivation
Exception while activating the database inbound activity.Exception is : {Message}	Database	Severe	ActivateError
Exception while activating the database outbound activity.Exception is : {Message}	Database	Severe	OutboundActivateError

Message	Module	Level	Notification
Exception while activating the database poll table activity.Exception is : {Message}	Database	Severe	PollTblActivat eError
Exception while activating the sap. The exception is because the sap libraries are not installed. Exception is	SAP	Severe	SapLib NotFo und
Exception while closing connection to JDE. The Exception is {Message}	JDEwards	Severe	CloseC onnect ionErr or
Exception while closing the connection pool. The Exception is: {Message}	JMS	Severe	PoolRe leaseE rror
Exception while closing the statement or result set. The exception is {Message}	JDEwards	Severe	Resour ceClea nError
Exception while configuring the subscriber activity. The exception is: {Message}	JMS	Severe	Subscr iberCo nfigErr or
Exception while creating IDOC form input parameter. The Exception is {Message}	SAP	Severe	Seriali zingErr or

Message	Module	Level	Notification
Exception while creating a schema for the business function name {FunctionName}, function code {FunctionCode}, module code {ModuleCode}. The exception is {Message}	JDEwards	Severe	DataStructureError
Exception while creating connection to JDE. The Exception is {Message}	JDEwards	Severe	GetConnectionError
Exception while creating request schema for the business function {FunctionName}, function code {FunctionCode} , module code {ModuleCode}. The exception is {Message}	JDEwards	Severe	CreateSchemaError
Exception while creating request schema for the business function {FunctionName}, function code {FunctionCode} , module code {ModuleCode}. The exception is {Message}	JDEwards	Severe	ResponseSchemaError
Exception while creating soap message. The exception is: {Message}	MSDynamics	Severe	SoapError
Exception while creating soap message. The exception is: {Message}	NetSuite	Severe	SoapError
Exception while creating the connection to destination. The Exception is {Message}	JMS	Severe	MakeConnectError

Message	Module	Level	Notification
Exception while getting custom fields for the recordType. The soap fault code is {SoapFaultCode} and fault message is {SoapFaultMessage}	Net Suite	Severe	CustomField Error
Exception while getting message from the provider. The error code is {ErrorCode} and message is {ErrorMessage}	JMS	Severe	JMSError
Exception while getting the message from the queue. The Exception is: {Message}	JMS	Severe	PollMessageError
Exception while initializing Lotus Domino connector.	Domino	Severe	Initialization Error
Exception while intializing the send IDOC activity. The error message is {Message}	SAP	Severe	Initialization Error
Exception while looking up the connection factory {FactoryName}. The exception is: {Message}	JMS	Severe	PoolFactoryError
Exception while looking up the connection factory {Message}. The exception is unknown error message from Provider.One of the reason for the error is If the provider is ActiveMQ and the binding file name or path is not correct.	JMS	Severe	FactoryUnknownError

Message	Module	Level	Notification
Exception while marshalling the jms message. The exception is: {Message}	JMS	Severe	GetMarshallerError
Exception while parsing schema for the BAPI {BAPIName}. The Exception is {Message}	SAP	Severe	BAPIParseError
Exception while parsing schema for the RFC {RFCName}. The Exception is {Message}	SAP	Severe	ParseError
Exception while processing SAP activity. Error Group: {ErrorGroup}, Error Key: {ErrorKey}, Error Message: {Message}.	SAP	Severe	SAPActivityError
Exception while processing Web Service activity. Error message: {Message}. Caused by: {Cause}	WebService	Severe	WebServiceException
Exception while processing Web Service activity. Error message: {Message}. The task context is lost. The appliance may have been restarted, losing the task context that cannot be saved on the disk.	WebService	Severe	TaskContextError
Exception while processing Workday activity. Error message: {Message}. Caused by: {Cause}	Workday	Severe	WorkdayException

Message	Module	Level	Notification
Exception while processing Workday activity. Error message: {Message}. The task context is lost. The appliance may have been restarted, losing the task context that cannot be saved on the disk.	Workday	Severe	TaskContextError
Exception while processing a message for NetSuite. Exception is {Message}.	NetSuite	Severe	TransformationError
Exception while processing the IDOC. The exception is {Message}	SAP	Severe	ProcessDocError
Exception while returning connection to pool. The Exception is {Message}	JMS	Warning	ConnectionPoolError
Exception while returning connection to pool. Swallowing the exception. The Exception is {Message}	MS Dynamics	Warning	ConnectionPoolError
Exception while returning connection to pool. Swallowing the exception. The Exception is {Message}	NetSuite	Warning	ConnectionPoolError

Message	Module	Level	Notification
Exception while rolling back the transaction.	SAP	Warning	RollbackWarning
Exception while sending message. The error code is {ErrorCode} and message is {ErrorMessage}	JMS	Severe	SendMessageError
Exception while setting the log directory for SAP trace files.	SAP	Warning	CreateTrcDirFailed
Exception while starting the server. Exception is {Message}	SAP	Info	StartWarning
Exception while stopping the listener for host {HostName}, ProgramId {ProgramID} and Service {Service}.The Exception is {Message}	SAP	Warning	ListenerStopWarning
Exception while unmarshalling the jms message. The exception is: {Message}	JMS	Severe	SendMessageError
Exception while unsubscribing on the topic {Topic}. The error code is {ErrorCode} and message is {Message}	JMS	Warning	UnsubscribeError

Message	Module	Level	Notification
Exception while validating the input data. The Exception is {Message}	SAP	Severe	ValidationError
Expired key store entry. {KeyHandleName}	CryptoService	Severe	KeystoreEntryExpired
Exporting archive file to FTP server {Host}:{Port}. Placing file "{Filename}" in directory "{Directory}".	Platform	Info	OrcmonExportFTP
Exporting job log data to local archive file "{Filename}".	Platform	Info	OrcmonExportLocal
FTP Endpoint Summary - Host: {HostName}, Port: {PortName}, UserName: {UserName}, Protocol: {Protocol}, Timeout: {Timeout}, FTP Mode: {FtpMode}	FTP	Info	EndpointInfoSummary
Failed to cleanup activity {ActivityName}	Mastero	Warning	CleanupFailed
Failed to deactivate activity {ActivityName}	Mastero	Severe	DeactivateFailed
Failed to destroy activity {ActivityName}	Mastero	Severe	DestroyFailed

Message	Module	Level	Notification
Failed to filter data, error was: {Message}	Data Quality	Severe	FilterError
Failed to initialize the Xml Validate Activity: {Message}	XML	Severe	ValidateInitialize
Failed to log message, error was {ErrorMsg}.	Log	Severe	FailLogMessage
Failed to merge data, error was: {Message}	Data Quality	Severe	MergeError
Failed to parse JSON, error was: {ErrorMessage}	JSON	Severe	JSONParseError
Failed to parse XML, error was: {ErrorMessage}	XML	Severe	XMLParseError
Failed to perform lookup for data, database assets may not have been created	Data Quality	Severe	NoAssetsError

Message	Module	Level	Notification
Failed to perform lookup for data, error was: {Message}	Data Quality	Severe	LookupError
Failed to purge any job logs to recover disk space. Available disk space is {DiskAvailPct}%.	Platform	Severe	OrcmonDiskFullNoPurge
Failed to query XML, error was: {Message}	XML	Severe	XMLQueryError
Failed to serialize JSON, error was: {Message}	JSON	Severe	JSONSerializeError
Failed to serialize XML, error was: {Message}	XML	Severe	XMLSerializeError
Failed to sort data, error was: {Message}	Data Quality	Severe	SortError
Failed to start the subscriber for the topic {TopicName}. Will try to start the subscriber after {IntervalForRestart} seconds	JMS	Severe	RestartError

Message	Module	Level	Notification
Failed to transform JSON, error was: {Message}	JSON	Severe	TransformError
Failed to transform XML, error was: {Message}	XML	Severe	TransformError
Failure uploading archive file to FTP server: Could not cd to directory "{Directory}".	Platform	Severe	OrcmonExportCdError
Failure uploading archive file to FTP server: Could not store file.	Platform	Severe	OrcmonExportStoreError
Failure uploading archive file to FTP server: {Message}	Platform	Severe	OrcmonExportError
Fan {FanID} on appliance {AffectedAppliance} is functional. Current={CurrentSpeed} RPM. Minimum={MinimumSpeed} RPM.	Platform	Info	FanRestored
Fan {FanID} on appliance {AffectedAppliance} is not functional. Current={CurrentSpeed} RPM. Minimum={MinimumSpeed} RPM.	Platform	Severe	FanFailed

Message	Module	Level	Notification
File "{FileName}" kept in place, will not overwrite.	FTP	Warning	FileNotMoved
File named "{FileName}" has already been processed previously. The previous timestamp was {Timestamp}.	FTP	Info	DuplicateFile
Filename is empty. Please specify valid filename.	FTP	Severe	PutEmptyFileName
Filtered {NumberOfEntries} entries	CryptoService	Info	InputEntryCount
Filtered {NumberOfEntries} entries	DataQuality	Info	InputEntryCount
Finger print for host: {HostName} is {FingerprintInfo}	FTP	Info	SshFingerprintInfo
Found boundary parameter: \"{Boundary}\".	MI ME	Info	FoundBoundary
From pattern \"{FromPattern}\" incorrect. Error is: {Message}.	Email	Severe	PatternIncorrect

Message	Module	Level	Notification
General FTP module exception. Error is: {Message}	FTP	Severe	InternalException
General error while sending the response. The error is: {Message}	Siebel	Severe	GeneralError
Get file summary - Directory: {DirName}, Filename: {FileName}, IsBinary? {BinaryOption}	FTP	Info	GetInfoSummary
Getting a listing for pattern "{Pattern}" for current directory.	FTP	Info	ListBefore
Getting a name listing for pattern "{Pattern}" for current directory.	FTP	Info	NListBefore
Got Content-Transfer-Encoding: {ContentTransfer}.	MI ME	Info	TransferEncodingValue
Got boundary: \"{Boundary}\".	MI ME	Info	BoundarySpecified
Got document from {From} with Message Name: {MessageName}, Message Version: {MessageVersion}, Message Type: {MessageType} and Originating Time Stamp: {TimeStamp}	PeopleSoft	Info	ReceiveInfo
Got exception in "Schedule Job" activity: {Message}. Continuing to schedule jobs.	Scheduler	Warning	SchedulerWarning

Message	Module	Level	Notification
Got main-type: {MainType}.	MI ME	I n f o	MainType
Group {UserName} has been deleted.	Platform	I n f o	Group Deleted
HA peers are running different versions of CIOS!	Platform	S e v e r e	HighAvailabilityVersionError
IO Error while processing request in PeopleSoft Receive. The error is: {Message}	PeopleSoft	S e v e r e	ReceiveIOError
IO Error while processing request. The error is: {Message}	Siebel	S e v e r e	IOError
IO Exception.	CryptoService	S e v e r e	InvalidFormat
ITEM_NO is empty. Returning false	PeopleSoft	W a r n i n g	ItemNumberBlank

Message	Module	Level	Notification
Idoc contains more than one type of IDOC extension type	SAP	Severe	IDOCExtensionError
Idoc with the TID {TID} is sent successfully to sap.	SAP	Info	IDOCSENTINFO
Information about this run of the Socket Janitor.	HTTP	Info	SocketCollectorRunInfo
Initializing the values in the MBean: {LoopBackString}	HTTP	Info	LoopBackInitialize
Input data was not valid for IDOC. The following item(s) were invalid: {InvalidItems}	SAP	Severe	SendIDOCValidation
Input data was not valid for RFC {RFCName}. The following item(s) were invalid: {InvalidItems}	SAP	Severe	SAPValidation Error
Input entries do not conform to the schema. Error Message is: {Message}	Archive	Severe	Validation Error
Input entries successfully validated against schema.	Archive	Info	Validation Fine

Message	Module	Level	Notification
Input entry has no content or it's a blank entry.	Archive	Severe	ArchiveEntryBlank
Input parameter "{ParamName}" is over {Length} and is too large to log	Mastero	Warning	LargeInputParam
Input parameter 'body' from container is NULL.	Email	Severe	BodyNull
Input parameter 'body' from container is NULL.	MI ME	Severe	InputBodyNull
InputOutput Exception. {0}	CryptoService	Severe	IOException
Integrity check failed.	CryptoService	Info	IntegrityCheckFailed
Integrity check passed.	CryptoService	Info	IntegrityCheckPassed

Message	Module	Level	Notification
Internal error in Salesforce.com connector. Error is: {Message}	Salesforce.com	Server	SfdcErrorInternal
Internal error: {Message}	Master	Server	UnCaughtError
Internal error: {Message}	Master	Server	UnexpectedError
Internal error: {Message}	Master	Warning	IOError
Invalid Content	CryptoService	Server	InvalidContent
Invalid Date Format	CryptoService	Server	InvalidDateFormat
Invalid Key Handle or Password . {KeyHandleName}	CryptoService	Server	InvalidKeyOrPwd

Message	Module	Level	Notification
Invalid Key Store.	Crypto Service	Severe	Invalid Algorithm
Invalid Key Store. {KeyHandleName}	Crypto Service	Severe	Invalid KeyStore
Invalid Keyhandle. {KeyHandleName}	Crypto Service	Severe	Invalid Keyhandle
Invalid OSGI query syntax: {Message}	Maestro	Severe	OSGISyntaxError
Invalid Password.	Crypto Service	Severe	Invalid Password
Invalid Salesforce.com field. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	Invalid SFDCF field
Invalid Salesforce.com object. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	Invalid SFDCObject

Message	Module	Level	Notification
Invalid numeric value found in archive entries. Message is: {Message}	Archive	Warning	InvalidNumInArchEntry
Invalid or unsupported archive format.	Archive	Severe	InvalidUnArchFormat
Invalid port number : {PortNumber}	JD Edwards	Warning	NumberFormatError
Invalid task state transition, marked job faulted	Mastero	Severe	TaskStateTransition
Job log purge triggered. Available disk space is {DiskAvailPct}%. Specified trigger is {DiskAvailTrigger}%.	Platform	Info	OrcmonDiskTrigger
Job log purge triggered. Available disk space is {DiskAvailPct}%. Specified trigger is {DiskAvailTrigger}%. Purging using properties failed to clear enough disk space. Purging half of all job logs in attempt to recover disk space.	Platform	Warning	OrcmonDiskFull
Job log purge triggered. Exceeded maximum duration since last purge.	Platform	Info	OrcmonPurgeByTimeNP

Message	Module	Level	Notification
Job log purge triggered. There are {NumCompleted} completed jobs. Completed jobs threshold is {Threshold}.	Platform	Info	OrcmonPurgeByCompl
Job log purge triggered. There are {NumErrored} errored jobs. Errored jobs threshold is {Threshold}.	Platform	Info	OrcmonPurgeByErrored
Job log purge triggered. Time since last purge exceeded {PurgeTime}.	Platform	Info	OrcmonPurgeByTime
Job log purge/archive failed: {Message}.	Platform	Severe	OrcmonPurgeFailed
Job log purged {NumExported} jobs.	Platform	Info	OrcmonExportedJobs
Job status changed to {Status}	Master	Info	TaskStatusChanged
List directory summary - Directory: {DirName}, Pattern: {Pattern}, NLIST? {ListOption}	FTP	Info	ListFileSummary
Listing completed with a return code {ResponseCode}.	FTP	Info	ListAfter
Logged key with name "{KeyName}" and value "{KeyValue}"	Master	Info	KeyLog
Looked up {NumberOfEntries} entries	Data Quality	Info	LookUpEntryCount

Message	Module	Level	Notification
Looking up function {FunctionName} from SAP Repository	SAP	Info	FunctionLookup
Looking up function {FunctionName} from SAP Repository (complete)	SAP	Info	FunctionLookupComplete
Lookup cache not preloaded	Data Quality	Info	NoPreloadedCache
Lookup cache preloaded with {NumberOfEntries} entries	Data Quality	Info	PreloadedCache
MDTM command is not supported by FTP server, using default timestamp of \"Jan 1, 1970\" instead.	FTP	Warning	TimestampError
MDTM command is not supported by FTP server, using timestamp from listing instead. Please consult manual for possible side effects.	FTP	Warning	TimestampCommand
MQ Endpoint Details: Host: {HostName}, Port: {PortNumber}, User: {UserName}, Queue Manager: {QueueManager}, Channel: {Channel}	WebSphere MQ	Info	MQConnectionInfo
MQ Exception caught, reason code is {ReasonCode}	WebSphere MQ	Info	ReasonCode

Message	Module	Level	Notification
MQMD header input parameter format is incorrect; {Header}	WebsphereMQ	Severe	MQMD Format Error
MQRFH2 header input parameter format is incorrect.	WebsphereMQ	Severe	MQRFHHeaderError
Mails processed in this poll deleted from server.	Email	Info	MailsDeleted
Matched email with From: \"{FromPattern}\" and Subject: \"{SubjectPattern}\".	Email	Info	Email Matched
Merged {NumberOfEntries} left entries	Data Quality	Info	LeftMergeInputEntry
Merged {NumberOfEntries} right entries	Data Quality	Info	RightMergeInputEntry
Message name and version got does not match that set in activity. Set in activity: Message Name: {MessageName}, Message Version: {MessageVersion}. Actually Got: Message Name: {ActualMessageName}, Message Version: {ActualMessageVersion}	PeopleSoft	Severe	MessageNameVersion
Message of {QueueName} bytes retrieved from queue \"{NumberOfBytes}\".	WebsphereMQ	Info	MessageRetrieved

Message	Module	Level	Notification
Message successfully delivered to queue {QueueManager}.	WebSphere MQ	Info	MessageDelivered
Mime-header type: {MainType}; sub-type: {SubType}.	MIME	Severe	MainAndSubType
Missing classes when trying to start activity {ActivitName}. PeopleSoft library may need to be installed on the appliance. Error is: {Message}	PeopleSoft	Severe	MissingLibraries
Missing classes when trying to start activity {ActivityName}. JDE library may need to be installed on the appliance. Error is: {Message}	JDEwards	Severe	ClassesMissing
More than one entries found for BZIP2 operation.	Archive	Severe	InvalidBzipEntry
More than one entries found for GZIP operation.	Archive	Severe	InvalidGzipEntry
Name listing completed with a return code {ResponseCode}.	FTP	Info	NListAfter

Message	Module	Level	Notification
Naming exception while configuring the subscriber activity. The exception is {Message}	JMS	Severe	SubscriberNameError
Naming exception while getting message to destination. The exception is {Message}	JMS	Severe	NamingException
Naming exception while sending message to destination. The exception is {Message} not found	JMS	Severe	SendNamingException
Network link {LinkName} on appliance {AffectedAppliance} is down (offline).	Platform	Warning	NetworkLinkDown
Network link {LinkName} on appliance {AffectedAppliance} is up (online).	Platform	Info	NetworkLinkUp
New Group {GroupName} has been created with id {Id}.	Platform	Info	GroupCreated
New User {UserName} has been created with id {Id}.	Platform	Info	UserCreated
No Message integrity check.	CryptoService	Info	NoIntegrityCheck

Message	Module	Level	Notification
No attachments found. Nothing to serialize.	MI ME	S e v e r e	NoAttachments
No boundary value specified for multiple parts attachment. Using auto-generated boundary: {Boundary}.	MI ME	I n f o	AutoGeneratedBody
No data found in the interval.	Sal esf orc e.c om	I n f o	NoDatafound
No emails matched on the server.	Em ail	I n f o	NoEmailMatched
No input map for required parameter: {ParamName}	Ma est ro	S e v e r e	InputMap
No mail found on the server.	Em ail	I n f o	NoMailOnServer
No message available on queue "{QueueManager}" after {NumberOfRetryAttempts} attempt(s).	We bS phe re MQ	S e v e r e	NoMessageFailure
No message available on queue "{QueueManager}". Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	We bS phe re MQ	W a r n i n g	NoMessageRetry

Message	Module	Level	Notification
No message available on queue {Queue}.	WebSphere MQ	Info	NoMessage
No return structure returned by BAPI {BAPIName}.	SAP	Severe	NonReturnStruct
No valid To, CC or BCC email address found.	Email	Severe	ToAndCCEmpty
Not a known type of group.	Scheduler	Warning	SchedulerUnknownType
Not able to connect, error is: {Message}. Establishing a new session.	Salesforce.com	Info	ConnectionTryAgain
Not able to establish connectivity. Polling will fail till connectivity is established. However when connectivity is established, messages will be picked up from this time onwards.	Salesforce.com	Info	StillRun
Not able to find field Return as structure. {Message}	SAP	Info	FuncRetStructNotFound

Message	Module	Level	Notification
Not able to get any record to do {OperationName} on. Returning false	PeopleSoft	Warning	NoOperationOnRecord
Null connection return by the connection pool.	SAP	Severe	ConnectionPoolError
Number of emails on server is {NumberOfMails}.	Email	Info	Pop3NumMails
Number of parts {NumberOfParts}.	MIME	Info	NumberOfParts
On undeploy, found task {TaskName} whose state is {State}	Mastro	Severe	TaskFound
Only Create Keys and no other properties specified. Create might not have created record.	PeopleSoft	Warning	CreateOnlyKeys
Opening the queue with set all privileges as {Value}	WebSphere MQ	Info	DetailsOpen

Message	Module	Level	Notification
Operation name must not be null or empty!	Workday	Severe	OperationNameNull
Operation name must not be null or empty!	WebService	Severe	OperationNameNull
Operational failure on appliance {AffectedAppliance} was detected. System is restarting to recover.	Platform	Warning	SystemRecoveryRestart
Operational failure was detected on appliance {AffectedAppliance}. System is rebooting to recover. Uptime {Days} days, {Hours}:{Minutes}.	Platform	Warning	SystemRecoveryReboot
Optional input 'emailConnection' parameter is mapped.	Email	Info	ConnectHeaderPresent
Optional input 'emailConnection' parameter is not mapped.	Email	Info	ConnectHeaderAbsent
Optional input 'mailheader' parameter is mapped.	Email	Info	MailHeaderPresent
Optional input 'mailheader' parameter is not mapped.	Email	Info	MailHeaderAbsent

Message	Module	Level	Notification
Optional input parameter 'mimeheader' is mapped.	MI ME	I n f o	MimeHeader Mapped
Optional input parameter 'mimeheader' not mapped.	MI ME	I n f o	MimeHeader NotMapped
Optional input parameter {ParamName} mapped.	Sal esf orc e.c om	I n f o	InputParameter Mapped
Optional input parameter {ParamName} not mapped.	Sal esf orc e.c om	I n f o	InputParameter NotMapped
Orchestration already deployed: {OrchName}	Ma est ro	S e v e r e	AlreadyDeployed
Orchestration not deployed: {OrchName}	Ma est ro	S e v e r e	NotDeployed
Output parameter "{ParamName}" is over {Length} and is too large to log	Ma est ro	W a r n i n g	LargeOutputParameter
Outputted 'mailheader' and 'body' output parameters. Mail marked for deletion from server.	Em ail	I n f o	Pop3MailSent

Message	Module	Level	Notification
Outputted 'mimeheader' and 'body' output parameters.	MI ME	I n f o	SerialActivity Done
Outputted 'parts' output parameter.	MI ME	I n f o	ParseActivity Done
Outputted {OutputSize} objects in 'objects' output parameter.	Sal esf orc e.c om	I n f o	PollOutput
PGP Exception.	Cry pto Ser vic e	S e r v e r e	PGPException
Parameter at paramIndex {ParamIndex} and varIndex {VariableIndex} already set	Ma est ro	W a r n i n g	ParamIndex
Parameter {ParamName} is not an XML document	Ma est ro	S e r v e r e	NotDocParameter
Parameter {ParamName} is null	Ma est ro	S e r v e r e	NullParam
Parameters: URI: "{URIValue}", Port: {PortValue}.	HT TP	I n f o	ReceiveURIPortInfo

Message	Module	Level	Notification
Parameters: URL: "{URL}", Method: "{MethodName}".	HTTP	Info	RequestParamsDetails
Parsing Error: {Message}	Data	Severe	ParsingError
PeopleSoft Receive listening for events on URI: \"{UriValue}\" and port: \"{PortValue}\"	PeopleSoft	Info	ConfigURI
Please put the protocol used (e.g. {Protocol}) in front of the input parameter location: {LocationName}	Workday	Warning	MissingProtocol
Please put the protocol used (e.g. {Protocol}) in front of the input parameter location: {LocationName}	WebService	Warning	MissingProtocol
Poll did not return any ids for interval starting from {PollStartTime} to {PollEndTime}.	Salesforce.com	Info	PollReturnedNothing
Poll returned {NumberOfIds} ids for interval starting from {PollStartTime} to {PollEndTime}.	Salesforce.com	Info	PollReturnedResults

Message	Module	Level	Notification
Port needs to be positive integer. Specified as: \"{PortNumber}\". Defaulted to 110.	Email	Warning	IncorrectPort
Port needs to be positive integer. Specified as: \"{PortNumber}\". Defaulted to 25.	Email	Warning	IncorrectSmtppPort
Post response code received from the server: {ResponseCode}	HTTP	Info	ServerResponseCode
Power sensor {PowerID} on appliance {AffectedAppliance} has reported a loss of power.	Platform	Warning	PowerInterrupted
Power sensor {PowerID} on appliance {AffectedAppliance} has reported power is restored.	Platform	Info	PowerRestored
Problem with querying. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	InvalidQuery
Processed file \"{FileName}\". Leaving in place.	FTP	Info	FileProcessed
Processing attachment number {AttachmentNumber}.	MIME	Info	AttachmentNumber

Message	Module	Level	Notification
Program in non-terminal state being destroyed: {ConfigURL}	Mastero	Severe	ProgramDestroy
Publish of Configuration {ConfigName} failed: {Message}.	Mastero	Severe	LoaderPublish
Put file summary - Directory: {DirName}, Filename: {FileName}, Overwrite? {OverwriteOption}, IsBinary? {BinaryOption}	FTP	Info	PutInfoSummary
Putting in queue with set all privileges as {Value}	WebSphereMQ	Info	MQPutDetails
Received IDOC contains more than one type of IDOC type	SAP	Severe	IDOCTypeError
Received an IDOC for idoc type {IDOCType} and no activity was registered to process it. Ignoring the IDOC.	SAP	Warning	NoHandlerError
Received warning from queue manager. MQ reason code is {ReasonCode}.	WebSphereMQ	Warning	MQProtocolWarning

Message	Module	Level	Notification
Removing Connection Pool with name {PoolName}	SAP	Info	RemoveInfo
Removing Server Gateway {GatewayName}.	SAP	Info	GatewayRemoveInfo
Rename file summary - fromDirectory: {DirName}, fromFilename: {FromFileName}, toPath: {ToPath}, Overwrite: {OverwriteOption}	FTP	Info	RenameInfoSummary
Renamed file from "{SrcFileName}" to "{DestFileName}" with return code {ResponseCode}.	FTP	Info	RenameAfter
Renaming file from "{SrcFileName}" to "{DestFileName}".	FTP	Info	RenameBefore
Request is an unsupported media type. Response definition: {Message}	HTTP	Warning	UnsupportedMedia
RequestSecurityToken from Map Inputs is sent as request	STS	Info	InputBodyConsidered
Response definition received from the server: {ResponseDef}	HTTP	Info	ResponseDefinition
Response from Security Token Service is empty	STS	Severe	AssertionEmpty

Message	Module	Level	Notification
Response is : {Message}	HTTP	Info	ReceiveResponseBody
Running of job for orchestration {OrchName} aborted due to large number of waiting jobs	Mastero	Severe	TooManyWaitingJobs
SAP Listener instance {InstanceNumber} started for SAP Gateway(host {HostName}, ProgramId {ProgramID}, Service {Service}).	SAP	Info	ListenerInstanceInfo
SAP TID {TID} check requested by SAP.	SAP	Info	TIDCheck
SAP TID {TID} has been committed by SAP.	SAP	Info	TIDCommit
SAP TID {TID} has been confirmed and deleted from the TID Manager.	SAP	Info	TIDConfirmed
SAP TID {TID} has been rolled-back by SAP.	SAP	Info	TIDRollback
SAP attempting to confirm an unknown or uncommitted TID	SAP	Severe	TIDCommitUnknown
SAP has requested rollback for unknown TID {TID}. Cannot rollback.	SAP	Severe	TIDUnknown

Message	Module	Level	Notification
SAP listener started again for host{HostName}, programid {ProgramID} and service {Service}.	SAP	Info	ListenerStartInfo
SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.	Workday	Info	DataMessageAccepted
SOAP message has been accepted by the Integration Appliance.	WebService	Info	DataMessageAccepted
Salesforce session timed out. The session was not created as optional connection input parameter was not mapped.	Salesforce.com	Error	OptionalInputError
Salesforce.com logon failure. Error is: {Message}	Salesforce.com	Error	LoginFailure
Salesforce.com returned an unexpected error: {Message}	Salesforce.com	Error	UnexpectedSFDCFault
Schedules the Socket Janitor to run every {TimeInterval}	HTP	Info	SocketCollectorSchedule
Security Token Service Module has deprecated the input parameter "httpheaders/uri". The value: {Value} will be ignored. Please set the URL at the input parameter "location".	STS	Warning	UriDeprecated

Message	Module	Level	Notification
Sending IDOC with the TID {TID} to sap.	SAP	Info	TIDSentInfo
Sending email to server.	Email	Info	SmtPEndEmail
Sending request to Security Token Service at location : {Location}	STS	Info	RequestLocation
Serialization Error: {Message}	Data	Severe	SerializeError
Serialization Error: {Message}	Data	Severe	SerializeIOError
Server Gateway {GatewayName} already exists, Using the existing definition.	SAP	Info	GatewayRegisterError
Session timed out. Establishing a new session.	Salesforce.com	Info	SessionInvalid
Setting BCC: \"{Value}\".	Email	Info	SetBCCFieldValue
Setting CC: \"{Value}\".	Email	Info	SetCCFieldValue

Message	Module	Level	Notification
Setting From: \"{Value}\".	Email	Info	SetFromFieldValue
Setting Subject: \"{Value}\".	Email	Info	SetSubjectFieldValue
Setting To: \"{Value}\".	Email	Info	SetToFieldValue
Setting the client connection idle timeout at {TimeoutValue} seconds.	HTTP	Info	ClientIdleTimeout
Setting the client connection manager maximum number of connections at {MaxConnections}.	HTTP	Info	ClientMaxTotalConn
Setting the client connection manager timeout at {TimeoutValue} seconds.	HTTP	Info	ClientConnMgrTimeout
Setting the client connection reclaim period at {ReclaimPeriodValue} seconds.	HTTP	Info	ClientReclaimPeriod
Setting the stale connection check at {StaleConnection}.	HTTP	Info	StaleConnectionCheck
Setting timeout as {Timeout} milliseconds.	Email	Info	SetTimeout
Setting timeout as {Timeout} milliseconds.	Email	Info	Smtptimeout

Message	Module	Level	Notification
Sorted {NumberOfEntries} entries	Data Quality	Info	SortInputEntryCount
Start of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.	Master	Severe	LoaderStart
Started job for orchestration "{OrchName}"	Master	Info	TaskStart
Starting batch of size {BatchSize} for index {StartIndex} through {EndIndex}.	Sal esf orc e.c om	Info	BatchPollStart
Starting the idle connection timeout thread.	HT TP	Info	IdleConnTimeoutStart
Stop of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.	Master	Severe	LoaderStop
Stopping the idle connection timeout thread.	HT TP	Info	IdleConnTimeoutStop
Sub-type: {SubType}.	MI ME	Info	SubType

Message	Module	Level	Notification
Subject pattern \"{SubjectPattern}\" incorrect. Error is: {Message}.	Email	Severe	SubjectPatternError
Subscriber started successfully for the topic {TopicName}	JMS	Info	SubscriberStartInfo
Successfully Read Private Key.	CryptoService	Info	FoundPrivateKey
Successfully Read Public Key.	CryptoService	Info	FoundPublicKey
Successfully executed activity and outputted output parameter RESPONSE.	Siebel	Info	InvokeSuccessful
Successfully received request and outputted output parameter RESPONSE.	Siebel	Info	ReceiveSuccessful
Successfully received request in PeopleSoft Receive and outputted output parameter response	PeopleSoft	Info	ReceiveSuccessful
Successfully upgraded Cast Iron firmware on appliance {AffectedAppliance} from version {OldVersion} to version {NewVersion}.	Platform	Info	UpgradeComplete
Suspend of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.	Maestro	Severe	LoaderSuspend

Message	Module	Level	Notification
Swap space usage has exceeded the {Threshold}% critical threshold - current usage is {Usage}%	Platform	Severe	SwapUsageCritical
Swap space usage has exceeded the {Threshold}% warning threshold - current usage is {Usage}%	Platform	Warning	SwapUsageWarning
Swap space usage is now below the {Threshold}% critical threshold - current usage is {Usage}%	Platform	Info	SwapUsageCriticalOk
Swap space usage is now below the {Threshold}% warning threshold - current usage is {Usage}%	Platform	Info	SwapUsageWarningOk
TID not set in the task state.	SAP	Severe	InvalidTIDerror
TID {TID} committed successfully.	SAP	Info	TIDCommittedInfo
Temperature {TempID} on appliance {AffectedAppliance} is out of range. Current={CurrentTemperature} deg C. Maximum={MaximumTemperature} deg C.	Platform	Severe	TemperatureOutOfRange
Temperature {TempID} on appliance {AffectedAppliance} is restored. Current={CurrentTemperature} deg C. Maximum={MaximumTemperature} deg C.	Platform	Info	TemperatureRestored

Message	Module	Level	Notification
The Content-Encoding header is {ContentEncodingValue}	HTTP	Info	ContentEncodingType
The Content-Encoding of the incoming request is {ContentEncodingValue}. Decompressing the body.	HTTP	Info	DecompressedEncoding
The Domino {ActivityName} activity re trying {Count} times now.	Domino	Info	RetryCount
The HA system is Highly Available with appliance {AffectedAppliance} acting as Active.	Platform	Info	HighAvailabilityReady
The HA system is not Highly Available. Active appliance is {AffectedAppliance}.	Platform	Warning	HighAvailabilityNotReady
The High Availability peer {AffectedAppliance} has successfully taken over.	Platform	Info	HighAvailabilityFailover
The IDOC number {IDOCNumber} contains no data segment.	SAP	Warning	NoSegmentWarning
The RAID array on appliance {AffectedAppliance} is degraded.	Platform	Severe	RaidArrayDegraded

Message	Module	Level	Notification
The RAID array on appliance {AffectedAppliance} is offline. Please contact Cast Iron Support.	Platform	Severe	RaidArrayOffline
The RAID array on appliance {AffectedAppliance} is optimal.	Platform	Info	RaidArrayOptimal
The RAID disk {DiskID} on appliance {AffectedAppliance} has failed.	Platform	Severe	RaidDiskFailed
The RAID disk {DiskID} on appliance {AffectedAppliance} is online.	Platform	Info	RaidDiskOnline
The RAID disk {DiskID} on appliance {AffectedAppliance} is rebuilding.	Platform	Info	RaidDiskRebuilding
The SFTP key access is: {ModeInformation}	FTP	Info	SshModeInfo
The Socket Janitor has completed this run.	HTTP	Info	SocketCollectorFinish
The Value:"{HeaderVal}" set for Http Header:"{HeaderName}" was ignored because the type is not supported.	HTTP	Info	RequestIgnoredHeader
The activity is recovering and the message with id: {MessageID} is already delivered. Skipping it	JMS	Info	RecoveryInfo

Message	Module	Level	Notification
The appliance is in recovery mode and the first message id {JMSMessageID} is not matching the id {FirstMessageID} of delivered message. Messages in the queue is tampered and will impact the delivery of messages.	JMS	Warning	FirstID
The appliance {AffectedAppliance} has been opened, possibly leading to system failure. Please contact Cast Iron Support.	Platform	Severe	IntrusionSevere
The appliance {AffectedAppliance} has been opened.	Platform	Warning	IntrusionInfo
The appliance {AffectedAppliance} is finished initializing after reboot.	Platform	Info	SystemInitComplete
The appliance {AffectedAppliance} is initializing after being shut down or rebooted.	Platform	Info	SystemInitStarted
The buffer table contains the {OperationName} operation but there is no activity in the orchestration for that operation. This is not a valid configuration.	Database	Severe	OperationNameAbsent
The condition provided for if-then activity [{ActivityName}] and case label [{CaseLabel}] is empty	Master	Severe	SwitchExpEmpty

Message	Module	Level	Notification
The condition provided for while activity [{ActivityName}] is empty	Mastero	Severe	WhileExpEmpty
The data encoding specified: \"{DataEncoding}\" is not supported.	FTP	Severe	EncodingError
The datasource with the name {DataSourceName} is registered with hash code: {HashCodeName}	Database	Info	DataSourceHashCode
The delete query issued to the buffer table is {Query}	Database	Info	DeleteSQL
The delete query, with id, issued to the buffer table is {Query}	Database	Info	DeleteSQLWithId
The following datasource name is registered with the system.	Database	Info	DataSourceRegistered
The input connection parameter is not mapped.	HTTP	Info	ReadConnectionParam
The input parameter \"{InputParam}\" is zero length.	WebSphereMQ	Severe	InputParamNull
The input parameter header is not set.	HTTP	Info	ReadInputHeaders

Message	Module	Level	Notification
The jms connector is in recovery mode.	JMS	Info	RecoveryInfo
The loopback port values persisted in the sysconf: {LoopBackString}	HTTP	Info	HttpLoopBackValues
The maximum number of rows for one poll on table {TableName} was reached. If this is a frequent occurrence, then alter the threshold!	Database	Info	MaxRowExceeded
The message format field "{Format}" is invalid. Supported formats are MQSTR, MQHRF2, and no format.	WebSphereMQ	Severity	FormatError
The number of attachments found is {NumberOfAttach}.	MIME	Info	AttachmentsFound
The provide activity is started on local transport for the URI: {URI}	Workday	Info	TransportInfo
The provide activity is started on local transport for the URI: {URI}	WebService	Info	TransportInfo
The query for the parameterized query activity is: {QueryString}	Database	Info	ParameterizedQuery
The request operation failed. Exception: {Message}	HTTP	Severity	SendRequestOperation

Message	Module	Level	Notification
The required schema for {Name} is missing. The activity {ActivityName} generating schemas.	Domain	Info	SchemaInvoke
The response Content-Encoding from the server is {ContentEncodingValue}. Decompressing the body.	HTTP	Info	CompressFormat
The response Content-Encoding is {ContentEncodingValue}.	HTTP	Info	ReplyCompressFormat
The response is binary.	HTTP	Info	ResponseBodyBinary
The response is not binary.	HTTP	Info	ResponseBodyNotBinary
The row is already delivered to the database. Skipping it.	Database	Warning	RedeliverSkip
The select query issued for the buffer table is {Query}	Database	Info	QueryString
The send request failed. Exception: {Message}	HTTP	Severe	GeneralRequestFailed
The server response contained an unsolicited Content-Encoding: {ContentEncoding}. Acceptable values are: {AcceptEncoding}	HTTP	Severe	UnsolicitedEncoding

Message	Module	Level	Notification
The stored procedure query issued to the database is {QueryString}	Database	Info	StoredProcQuery
The type of Accept-Encoding in the request-header field is {AcceptEncodingValue}	HTTP	Info	AcceptEncodingType
The unicode instance property is set through JCONSOLE	SAP	Info	UnicodeGateway
The update query issued to the buffer table for marking rows is {Query}	Database	Info	UpdateQuery
The {Field} email address {EmailID} specified in optional parameters is not in correct format. Not setting the same.	Email	Warning	InvalidAddressFormat
There are no more activities to listen for on port {PortNumber}. Stopping the listener on port {PortNumber}.	HTTP	Info	HttpListenerStop
There is an unusually large file, {LargeFile}, of size {FileSize} MB.	Platform	Warning	LargeFileWarning
There is no message to be retrieved from the destination {Destination}	JMS	Info	NoMessage

Message	Module	Level	Notification
This error may be due to JMS Provider library being not installed on the appliance. Please install the JMS provider library using Web management console. The error is {Message}	JMS	Severe	LibraryNotInstalled
This part does not have any body. Setting blank body.	MIME	Info	NoPartBody
Tid {TIDNumber} not found in TID manager.	SAP	Severe	ReceiveTIDNotFound
Timeout needs to be positive integer. Specified as: \"{Timeout}\". Defaulted to 300 seconds.	Email	Warning	IncorrectTimeout
Timeout needs to be positive integer. Specified as: \"{Timeout}\". Defaulted to 300 seconds.	Email	Warning	IncorrectSMTPTimeout
Timeout waiting for jobs to stop, number of jobs abandoned: {NumberOfAbandonedJobs}	Master	Warning	AbandonedJobs
Trying to delete item {ItemNumber} which is out of range. Returning false	PeopleSoft	Warning	OutOfRange

Message	Module	Level	Notification
Unable to compile the orchestration {OrchName}	Maestro	Severe	OrchCompileError
Unable to connect to JDE after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}	JDEwards	Severe	JDEConnectError
Unable to connect to MSDynamics after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.	MSDynamics	Severe	ConnectionFailed
Unable to connect to MSDynamics. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	MSDynamics	Warning	ConnectionRetry
Unable to connect to NetSuite after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.	NetSuite	Severe	ConnectionFailed
Unable to connect to NetSuite. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	NetSuite	Warning	ConnectionRetry
Unable to connect to PeopleSoft after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}	PeopleSoft	Severe	ConnectionError

Message	Module	Level	Notification
Unable to connect to Salesforce.com after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.	Salesforce.com	Severe	ConnectionFailed
Unable to connect to Salesforce.com. Error is: {Message}.	Salesforce.com	Severe	ConnectFailed
Unable to connect to Salesforce.com. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	Salesforce.com	Warning	ConnectionRetry
Unable to connect to server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.	Email	Severe	ConnectError
Unable to connect to server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.	Email	Severe	SmtpConnectFailed
Unable to connect to server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}.	HTTP	Severe	SendRequestConnection
Unable to connect to server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. The error is: {Message}	Siebel	Severe	ConnectError

Message	Module	Level	Notification
Unable to connect to server. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	Email	Warning	ConnectErrorRetry
Unable to connect to server. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	Email	Warning	SmtpConnectRetry
Unable to connect to server. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	Siebel	Warning	ConnectionRetry
Unable to connect to the Queue Manager "{QueueManager}" after {NumberOfRetryAttempts} attempt(s). MQ returned error code "{ErrorCode}".	WebSphereMQ	Severe	ConnectionError
Unable to connect to the Queue Manager "{QueueManager}". MQ returned error code "{ErrorCode}". Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	WebSphereMQ	Warning	ConnectRetry
Unable to connect to the SAP server after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: Error Group {ErrorGroup}, Error Key {ErrorKey}, Error Message {Message}	SAP	Severe	ConnectError

Message	Module	Level	Notification
Unable to connect to the SAP server. Error is: Error Group: {ErrorGroup} Error Key {ErrorKey} Error Message {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {RetryAttemptNumber} second(s).	SAP	Warning	ConnectRetry
Unable to connect to the server \"{ServerName}\" after {NumberOfRetryAttempts} attempts. Error is: {Message}	FTP	Severe	ConnectionFailure
Unable to connect to the server \"{ServerName}\". Error is: {Message} Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	FTP	Warning	ConnectionRetry
Unable to connect to the server. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will try again in {IntervalForRetries} second(s).	HTTP	Warning	ConnectionRetry
Unable to create call context: {Message}	Mastero	Severe	CallContext
Unable to delete rows from buffer table {TableName}.	Database	Severe	DeleteRowsFailure

Message	Module	Level	Notification
Unable to enqueue to orchestration: {Message}	Maestro	Severe	EnqueueFailed
Unable to execute to orchestration: {Message}	Maestro	Severe	ExecuteError
Unable to find RFC {RFCName}. Invalid RFC name.	SAP	Severe	InvalidRFCName
Unable to find the BAPI transaction RFC's.	SAP	Severe	TransactionalError
Unable to get message from queue {QueueName}. MQ returned error code {ErrorCode}.	WebsphereMQ	Severe	PollFailure
Unable to get message from queue {QueueName}. MQ returned error code {ErrorCode}.	WebsphereMQ	Severe	GetFailure
Unable to invoke method {MethodName} on the data source object. This might cause unexpected behavior. Please check the connection properties	Database	Info	MethodNotFound

Message	Module	Level	Notification
Unable to obtain meta data from Salesforce.com for {NameOfObject}. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	MetadataObjectError
Unable to obtain meta data from Salesforce.com. Error is: {Message}	Salesforce.com	Severe	MetadataError
Unable to parse the catch expression: {Message}	Mastero	Severe	CatchExpression
Unable to parse the date and time: {DateTimeValue} {Message}	Database	Severe	DateTimeParseError
Unable to parse the if-then expression: {Message}	Mastero	Severe	SwitchExpression
Unable to parse the while expression "{ConditionSpecified}": {Message}	Mastero	Severe	WhileExpression
Unable to perform operation \"{OperationName}\". Error is: {Message}	FTP	Severe	OperationError

Message	Module	Level	Notification
Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.	Workday	Severe	CleanUpMessage
Unable to process the request. Additional information about the error can be found on the Web Management Console.	Web Service	Severe	CleanUpMessage
Unable to put message on queue {QueueManager}. MQ returned error code {ErrorCode}.	WebSphere MQ	Severe	MQPutFailure
Unable to remove task {TaskID}	Master	Severe	TaskRemove
Unable to send the SOAP request to {LocationName}. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will retry again in {IntervalForRetries} second(s).	Workday	Warning	ConnectRetry
Unable to send the SOAP request to {LocationName}. Error is: {Message}. Attempt {RetryAttemptNumber} of {TotalRetryAttempts}. Will retry again in {IntervalForRetries} second(s).	Web Service	Warning	ConnectRetry
Unable to set state of task {CurrentState} to {FinalState}	Master	Severe	TaskState

Message	Module	Level	Notification
Unable to set the query time out for database {DBType}. The exception is {Message}	Database	Warning	SetQueryTimeout
Unarchiver created successfully, now performing unarchiving.	Archive	Info	UnArchiverCreated
Undeploy of Orchestration {OrchName} failed: {Message}.	Mastero	Severe	LoaderUnDeploy
Unexpected IO error while performing operation with MSDynamics. The exception is {Message}	MSDynamics	Severe	IOError
Unexpected IO error while performing operation with NetSuite. The exception is {Message}	NetSuite	Severe	IOError
Unexpected IO exception while streaming the message. The exception is {Message}	MSDynamics	Severe	StreamError
Unexpected IO exception while streaming the message. The exception is {Message}	NetSuite	Severe	StreamError

Message	Module	Level	Notification
Unexpected error from server: {Message}.	Email	Severe	Pop3ServerError
Unknown exception while invoking an operation on MSDynamics. The exception is {Message}	MS Dynamics	Severe	UnknownError
Unknown exception while invoking an operation on NetSuite. The exception is {Message}	NetSuite	Severe	UnknownError
Uploaded file "{FileName}" to server with return code {ResponseCode}.	FTP	Info	PutAfter
Uploading file "{FileName}" to server.	FTP	Info	PutBefore
User {UserName} displayName has been changed from {OldValue} to {NewValue}.	Platform	Info	UpdateUser
User {UserName} has been deleted.	Platform	Info	UserDeleted
User {UserName} has been granted role of {GroupName}.	Platform	Info	GrantRole
User {UserName} has been revoked of the role {GroupName}.	Platform	Info	RevokeRole

Message	Module	Level	Notification
User {UserName} status has been changed from {OldValue} to {NewValue}.	Platform	Info	UpdateStatus
User {UserName} with session id {SessionId} logged out successfully.	Platform	Info	AuthLogout
Validation is {ValidationStatus} for {Value}	SAP	Info	ValidationInfo
Variable "{VariableName}" is over {Length} and is too large to log	Master	Warning	LargeVariable
Variable "{VariableName}" is too large, please turn on persistence for this orchestration	Master	Severe	LargeNonpersistentVariable
Variable {ParamName} is not an XML document	Master	Severe	NotDocVariable
Variable {VarName} is null	Master	Warning	VariableNull
Variable {VariableName} is null	Master	Severe	NullVariable


Message	Module	Level	Notification
Warning/error messages while doing setup for {ActivityName}: {Message}	JDEdwards	Warning	SetupInfo
Warning/error messages while initializing {ActivityName}: {Message}	PeopleSoft	Warning	SetupInfo
Web Service Module has deprecated the input parameter "httpheaders/uri". The value: {Value} will be ignored. Please set the URL (e.g. http://www.castiron.com/WebService) at the location in the endpoint panel or at the input parameter "location".	WebService	Warning	UriDeprecated
Workday Module has deprecated the input parameter "httpheaders/uri". The value: {Value} will be ignored. Please set the URL (e.g. http://www.castiron.com/Workday) at the location in the endpoint panel or at the input parameter "location".	Workday	Warning	UriDeprecated
[URI: {Uri}, Port: {Port}, Operation Name: {OperationName}] Web Service has already been registered. Key: {RegistrationKey}	WebService	Severe	AlreadyRegistered
[URI: {Uri}, Port: {Port}, Operation Name: {OperationName}] Workday has already been registered. Key: {RegistrationKey}	Workday	Severe	AlreadyRegistered

Message	Module	Level	Notification
[URI: {Uri}, Port: {Port}, Operation Name: {OperationName}] has not been registered. Key: {KeyName}	Workday	Severe	NotRegistered
[URI: {Uri}, Port: {Port}, Operation Name: {OperationName}] has not been registered. Key: {KeyName}	Web Service	Severe	NotRegistered
jas.ini file needs to be present before the JD Edwards Invoke activity can be run. Please upload jas.ini file and run again.	Siebel	Severe	MissingLibraries
unarchiving done successfully.	Archive	Info	UnarchiveDone
{ActivityName} activity created successfully.	Domino	Info	ActivityCreateSuccess
{ActivityName} activity executed successfully.	Domino	Info	ActivitySuccessful
{ActivityName} activity execution failed due to {Name} property is blank.	Domino	Severe	ActivateFailureBlank
{ActivityName} executed and outputted response output parameter	JD Edwards	Info	ActivitySuccessful

Message	Module	Level	Notification
{ActivityName} executed and outputted response output parameter	PeopleSoft	Info	ActivitySuccessful
{ActivityName} listening for events on URI: \"{UriValue}\" and port: \"{PortValue}\".	Siebel	Severe	ConfigURI
{FileName}: File with the same name exists on the FTP server. It is a duplicate!	FTP	Severe	PutDuplicateFileName
{FileName}: File with the same name exists on the FTP server. It is a duplicate!	FTP	Severe	RenameDuplicateError
{MessageType} messages while executing activity: {Message}	Domino	Warning	RunningMessages
{MessageType} messages while executing activity: {Message}	PeopleSoft	Warning	RunningMessages
{Message}	HTTP	Info	EndpointInformation

Message	Module	Level	Notification
{Message}	Workday	Severe	WDFaultString
{Message}	Web Service	Severe	WSFaultString
{NumberOfEmails} mails to be deleted now as they were processed earlier.	Email	Info	MailsToBeDeleted

[Feedback](#) | [Notices](#)


 Last updated: Thursday, December 17, 2015
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.notifications_reference.doc/log_message_reference.html

WebSphere DataPower Cast Iron 管理 API ガイド

このインフォメーション・センターでは、WebSphere® DataPower® Cast Iron® 管理 API ガイド に関する情報を提供します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00000.html>

概要

このインフォメーション・センターでは、WebSphere® DataPower® Cast Iron® 管理 API ガイド に関する情報を提供します。

WebSphere DataPower Cast Iron 管理 API ガイド について

管理 API ガイドは、アプリケーションまたはスクリプトを使用して、統合アプライアンスおよび Cloud を管理したい開発者および IT 従事者向けに記述されています。

このガイドは、読者が、統合プロジェクトに関する中級レベルの専門知識と IT 環境のサポートおよび管理に関して何らかの経験を持っていることを前提としています。

統合アプライアンスおよび Cloud の資料

PDF 文書を表示するには、Adobe Reader バージョン 5 以上を Adobe Systems Inc., からダウンロードします。
<http://www.adobe.com> を参照してください。

ドキュメンテーション CD から資料にアクセスできます。

ドキュメンテーション・セットには、以下の資料が含まれています。

コマンド・ライン・インターフェース・リファレンス

コマンド・ライン・インターフェース (CLI) から使用可能なコマンドに関する参照情報。

スタートアップ・ガイド

統合アプライアンスおよび Studio の概要、および統合アプライアンス上で実行される統合プロジェクトを作成するための Studio の使用に関するサマリー情報。

HA 概要ガイド (HA Overview Guide)

高可用性 (HA) ペアに関するハイレベル概要。このガイドには、HA ペアの状態、構成要件、コマンド、およびトラブルシューティングの問題に関する情報が記載されています。

管理 API ガイド

Cloud および統合アプライアンス用の管理 API についての情報。

本書の規則

次の表では、本書で使用されている規則を説明します。

規則	説明
<Hostname> command	本書ではコマンドの使用例はこの形式で表示されます。
表示通りに入力してください	手順には、特定のフィールド、プロンプト、またはコマンドへの入力内容の指示がある場合があります。このフォントの情報は表示されているとおりに入力する必要があります。
net set interface dataaddress <port- address>	プレースホルダーが不等号括弧 (<>) の間に表示され、通常はコマンドに指定する必要がある情報のタイプを示します。
「メニュー」 > 「サブメニュー」	メニュー・コマンドを使用する説明では、サブメニューを表すために「より大記号」(>) が使用されます。例: 「「構成」 > 「通知」をクリックします」。

その他のリソース

製品情報に加えて、IBM® は以下のリソースを提供します。

- オンライン・ヘルプ
- インフォメーション・センター
- 知識ベース
- 製品サポート

オンライン・ヘルプ

オンライン・ヘルプは、Studio および Web 管理コンソールからアクセス可能です。

IBM Web サイト

IBM Corporation の Web サイトは <http://www.ibm.com> でアクセスできます。

サイトには、IBM Corporation とその経歴、および製品に関する情報が提供されています。サイトには、営業および技術サポートの連絡先情報も記載されています。

IBM サポートへの連絡


IBM サポートは、製品の障害に対する支援を提供します。IBM サポートにお問い合わせいただくには、以下の条件が満たされている必要があります。

- お客様の会社が現在有効な保守契約をお持ちであること。
- お客様が問題の処理依頼を行う権限をお持ちであること。

以下の 2 つの方法のいずれかで、問題の処理依頼を行ってください。

- サービス要求 (SR) 問題送信ツールを使用して電子的に。IBM ID とパスワードを使用してサインインする必要があります。
- 電話。該当するソフトウェア・サポート連絡先電話番号については、IBM Software Support Handbook 内の Worldwide Contacts の登録簿をご覧ください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00159.html>

管理 API ガイドの概要

管理 API の概要。API は、Cloud および統合アプライアンスの管理機能を提供します。

管理 API は Web サービスとして実装されます。この Web サービスは、アプリケーションまたはスクリプトを通じて WebSphere® DataPower® Cast Iron® Appliance (統合アプライアンス) および WebSphere Cast Iron Cloud (Cloud) プロジェクトを管理する方法を提供します。

API は、以下の領域での統合アプライアンスおよび Cloud の管理を提供します。

デプロイメント

構成、ルール、およびプロジェクトを作成、取得、および削除する操作を提供します。ジョブを開始、一時停止、停止、および取り消すことができます。リポジトリをインポートおよびエクスポートする

ことができます。

セキュリティ

ユーザー、役割、および権限を作成、取得、リスト、および削除する操作を提供します。セキュリティ WSDL を使用してログインおよびログアウトすることができます。

ステージング

ステージング・データベースが開始されたかどうかを確認し、ステージング・データベースを開始または停止します。(アプライアンスにのみ適用。)

システム管理

ネットワーク構成のアプライアンス名を設定または取得します。システム・コマンドを実行したり、システム情報を取得したりすることもできます。(アプライアンスにのみ適用。)

ジョブ・モニター

ジョブを検索し、ジョブ・カウントを取得し、ジョブの詳細を取得します。ジョブ・モニター・プロパティを設定および取得することもできます。

ログと通知

通知ポリシーを保存、取得、および削除します。E メールおよび SNMP のエンドポイントの取得と設定、ログ・レベルの設定と取得、ログ・カウントの取得を行うこともできます。

管理 API は、以下の Web サービス標準に準拠します。

- Web Services Interoperability Organization (WS-I) Basic Profile 1.0
- SOAP 1.1
- Web Services Description Language (WSDL) 1.1
- XML Schema 1.1

統合アプライアンスおよび Cloud プロジェクトを管理およびモニターするための Web サービス操作を呼び出すクライアント・アプリケーションを作成できます。クライアント・アプリケーションと統合アプライアンスまたは Cloud プロジェクトとの間の通信は、HTTP または HTTPS を使用して達成されます。

管理 API は WSDL ファイルに定義されています。クライアント・アプリケーションは、SOAP メッセージを送信することによって Web サービス操作を呼び出します。SOAP メッセージは XML にフォーマット設定されていないため、プログラミング言語中立です。

SOAP メッセージの例

このセクションでは、管理 API - セキュリティ WSDL を使用して、ログインし、ユーザーを取得し、ログアウトする例を提供します。

以下のコードは、ログインするための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header/>
  <soapenv:Body>
    <sec:login>
      <sec:username>webuser@mycompany.com</sec:username>
      <sec:password>D3nu9noB</sec:password>
    </sec:login>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下のコードは、ログインするための要求に対する SOAP 応答の例です。


```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:loginResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03">
      <ns2:sessionId>8F059BEEA3611033D277773A95404641</ns2:sessionId>
    </ns2:loginResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

`sessionId` は、統合アプライアンスまたは Cloud にログインした後で他の SOAP 操作を実行するために必要です。

以下のコードは、ユーザーを取得するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>8F059BEEA3611033D277773A95404641</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getUser>
      <sec:username>webuser</sec:username>
    </sec:getUser>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下のコードは、ユーザーを取得するための要求に対する SOAP 要求の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getUserResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03">
      <ns2:user>
        <ns3:id>8F059BEEA3611033D277773A95404641</ns3:id>
        <ns3:name>webuser</ns3:name>
        <ns3:encPasswd>{SHA}cl020r2ZJMJcDrNwXQzhWB8YcdI=</ns3:encPasswd>
        <ns3:displayName>WebServiceUser</ns3:displayName>
        <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
        <ns3:isMutable>true</ns3:isMutable>
        <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
        <ns3:email>webuser@mycompany.com</ns3:email>
        <ns3:createdTime>2010-03-02T22:11:32.935Z</ns3:createdTime>
        <ns3:failedLoginCount>0</ns3:failedLoginCount>
        <ns3:scopeId>B47EAECF6AD14AA028B4EA038CB742D0</ns3:scopeId>
        <ns3:scopeType>Tenant</ns3:scopeType>
      </ns2:user>
    </ns2:getUserResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

以下のコードは、ログアウトするための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>8F059BEEA3611033D277773A95404641</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:logout/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下の例は、Cloud のみに適用されます。

前の例では、Cloud または統合アプライアンスのテナントで実行された SOAP 操作を使用しました。Cloud のテナント内の環境で操作を実行するには、setCurrentScope 操作を使用して、SOAP 操作を実行する環境にスコープを設定します。

以下の例では、開発環境にスコープを設定し、開発環境に配置されているプロジェクトを開始します。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>63Y93HD6D856EB5812EB71216C3547W7</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:setCurrentScope>
      <sec:scopeName>Development</sec:scopeName>
    </sec:setCurrentScope>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。


```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:setCurrentScopeResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:setCurrentScopeResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

以下の例は、開発環境で構成を開始するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>63Y93HD6D856EB5812EB71216C3547W7</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:start>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:start>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:startResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment/
types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03"
xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:startResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00001.html>

WSDL ファイル

クライアント・サイドのWeb サービスは、WSDL ファイルを使用して、クライアント・サイド・アプリケーションが統合アプライアンスまたは Cloud プロジェクトと対話できるようにするスタブを作成します。

WSDL ファイルは、クライアント・アプリケーションが統合アプライアンスまたは Cloud プロジェクトをインストール、管理、およびモニターするために使用できる操作を指定します。

管理 API は、6 つの WSDL ファイルに定義されています。


- security.wsdl
- staging.wsdl
- deployment.wsdl
- system.wsdl
- orcmon.wsdl
- lognotif.wsdl

統合アプライアンスの場合、WSDL ファイルは以下の場所からダウンロードできます。

- セキュリティー: <https://<appliance>/ws/security?wsdl>
- ステージング: <https://<appliance>/ws/staging?wsdl>
- デプロイメント: <https://<appliance>/ws/deployment?wsdl>
- システム: <https://<appliance>/ws/system?wsdl>
- Orcmon: <https://<appliance>/ws/orcmon?wsdl>
- Lognotif: <https://<appliance>/ws/lognotif?wsdl>

Cloud の場合、WSDL ファイルは以下の場所からダウンロードできます。

- セキュリティー: <https://cloud2.castiron.com/ws/security?wsdl>
- ステージング: <https://cloud2.castiron.com/ws/staging?wsdl>
- デプロイメント: <https://cloud2.castiron.com/ws/deployment?wsdl>
- システム: <https://cloud2.castiron.com/ws/system?wsdl>
- Orcmon: <https://cloud2.castiron.com/ws/orcmon?wsdl>
- Lognotif: <https://cloud2.castiron.com/ws/lognotif?wsdl>

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00003.html>

WebSphere DataPower Cast Iron 管理 API ガイド の用語集

この用語集では、本書で使用される WebSphere® DataPower® Cast Iron® 管理 API ガイド の用語を定義しています。

この用語集には、WebSphere DataPower Cast Iron 管理 API ガイド に固有の用語が収録されています。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

E

環境 (environment)

Cloud では、環境はテナントのサブディビジョンです。典型的なテナントには、開発環境、ステージング環境、および実稼働環境が含まれています。環境は、独自の管理者、ユーザー、役割、および役割グループを保持しています。プロジェクトは「変更」タブで入力された後、デプロイ、テスト、および実行可能な環境に公開されます。環境の管理者役割は、ユーザーを役割および roleGroup に割り当てることができます。さらに、管理者役割は、環境内のプロジェクトおよび構成を作成、デプロイ、実行、複製、および削除することができます。

先頭

R

役割 (role)

役割は、定義済みの権限セットをユーザーに提供する手段です。管理者がユーザーに役割を割り当てると、ユーザーは、役割が権限を持つプロジェクトのすべてにアクセスできます。ユーザーは、役割が権限を持つアクションのすべてを実行することもできます。Cloud では、ユーザーは、役割が権限を持つテナントおよび環境のすべてにアクセスします。

roleGroup

複数の役割を結合して、ユーザーに割り当て可能な単一エンティティにするために使用します。roleGroup に割り当てられたユーザーは、roleGroup 内の役割が付与されているアクセスおよび権限のすべてを継承します。

先頭

S

スコープ (scope)

Cloud では、スコープは、テナント内のテナントまたは環境のいずれかを指します。SOAP 操作を実行するスコープを設定するには、setCurrentScope を使用します。スコープは、Cloud のみに適用されます。


先頭

T

テナント (tenant)

Cloud は、単一テナント・クラウドではなく、複数テナント・クラウドです。各テナントは、開発、ステージング、実稼働などの環境に分類できます。テナントの管理者役割は、ユーザーを環境、役割、および roleGroup に割り当てることができます。さらに、管理者役割は、テナント内のテナントおよび環境内のプロジェクトおよび構成を作成、デプロイ、実行、複製、および削除することができます。

先頭

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00004.html>

セキュリティ

セキュリティ WSDL に関する情報。


セキュリティ WSDL は、ユーザー、役割、および権限を作成、取得、リスト、および削除する操作を提供します。セキュリティ WSDL を使用してログインおよびログアウトします。

このセクションには以下のトピックがあります。

- [addRoleToRoleGroup](#)
- [changePassword](#)
- [clearPrivileges](#)
- [createRole](#)
- [createUser](#)
- [currentScope](#)
- [deleteRole](#)
- [deleteUser](#)
- [disableUser](#)
- [enableUser](#)
- [filterNewUsers](#)
- [filterUsers](#)
- [getGrantedRoles](#)
- [getImpliedRoles](#)
- [getKerberosRealm](#)
- [getKerberosServer](#)
- [getRole](#)
- [getRoleById](#)
- [getRoleGroups](#)
- [getRoles](#)
- [getRolesInRoleGroup](#)
- [getRoleUsers](#)
- [getScope](#)
- [getScopeById](#)
- [getScopesByParentId](#)
- [getUser](#)
- [getUserById](#)
- [getUsers](#)
- [grantPrivilege](#)
- [grantPrivileges](#)
- [grantRole](#)
- [hasPrivilege](#)
- [isRealmUser](#)

- [isUserEnabled](#)
- [listAvailableActions](#)
- [listGrantableRoles](#)
- [listPrivileges](#)
- [listRoles](#)
- [listUsers](#)
- [login](#)
- [logout](#)
- [removeKerberosConfiguration](#)
- [removeRoleFromRoleGroup](#)
- [revokePrivilege](#)
- [revokeRole](#)
- [roleExists](#)
- [setCurrentScope](#)
- [setCurrentScopeById](#)
- [setKerberosConfiguration](#)
- [setLdapConfiguration](#)
- [updateRole](#)
- [updateUser](#)
- [userExists](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00005.html>

addRoleToRoleGroup

メンバーとして指定された役割を、指定されたグループに追加します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

role

役割の名前。

group

役割を追加する先のグループの名前。

戻り:

役割が正常にグループに追加された場合は true。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00006.html

changePassword

指定されたユーザー名のパスワードを変更します。

パラメーター:

username

パスワードが変更されるusername。

oldPassword

username の古いパスワード。

newPassword

username の新規パスワード。

戻り:

パスワードが正常に変更された場合は true。

例:

以下の例は、ユーザーのパスワードを変更するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>B0097A43C5527FA552C3DDBA7EF74CE9</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:changePassword>
      <sec:username>webman</sec:username>
      <sec:oldPassword>Oldpw12g</sec:oldPassword>
      <sec:newPassword>Newpw24e</sec:newPassword>
    </sec:changePassword>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:changePasswordResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:changePasswordResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00007.html

clearPrivileges

指定されたターゲット (ユーザーなど) の特権をクリアします。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

target

指定されたターゲット。

戻り:

指定されたターゲットの特権がクリアされた場合は true。

例:

以下のコードは、ユーザーを作成するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>B87CDEE24C7AE5EE4B1C00158EBC483D</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:clearPrivileges>
      <sec:target>pubuser</sec:target>
    </sec:clearPrivileges>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下のコードは、要求に対する SOAP 応答です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:clearPrivilegesResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <return>true</return>
    </ns2:clearPrivilegesResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```


📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00008.html

createRole

役割を作成します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

role

作成される役割の指定された roleName。

displayName

WMC での表示名。

email

役割の E メール・アドレス。

戻り:

役割が作成された場合は true。

例:

以下の例は、役割を作成するための SOAP 要求です。要求の入力はセッション ID です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>85E3EB542F02449CE3FDC302A25E47F9</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:createRole>
      <sec:role>jobmonitor</sec:role>
      <sec:displayName>jobmonitor</sec:displayName>
      <sec:email>monitor@mycompany.com</sec:email>
    </sec:createRole>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:createRoleResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:createRoleResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00009.html

createUser

ユーザー名を作成します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username
作成するユーザー ID。

password
username のパスワード。

displayName
WMC での表示名。

email
username の E メール・アドレス。

戻り:
username が正常に作成された場合は true。

例:


以下のコードは、ユーザーを作成するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>8F059BEEA3611033D27773A95404641</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:createUser>
      <sec:username>webman</sec:username>
      <sec:password>Connect2WS</sec:password>
      <sec:displayName>WebServiceUser</sec:displayName>
      <sec:email>webman@mycompany.com</sec:email>
    </sec:createUser>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:createUserResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:createUserResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00010.html>

currentScope

このスレッドの現在のスコープを返します。

Cloud のみに適用されます。

戻り:

現在のスコープ。

例:

以下の例は、現在のスコープの SOAP 要求です。要求の入力はセッション ID です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>85F500F8283BBD9E4F31DCE3FD894442</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:currentScope/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:currentScopeResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:scope>
        <active>true</active>
        <category>enterprise</category>
        <displayName>mycompany.com</displayName>
        <id>B47EAECF6AD14AA028B4EA038CB742D0</id>
        <index>0</index>
        <name>mycompany.com</name>
        <parentId>00000000000000000000000000000000</parentId>
      </ns2:scope>
    </ns2:currentScopeResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

```
<type>TENANT</type>
</ns2:scope>
</ns2:currentScopeResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00011.html>

deleteRole

指定された役割を削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

role

指定された、削除する roleName。

戻り:

role が削除された場合は true。

例:

以下の例は、役割を削除するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>B0097A43C5527FA552C3DDBA7EF74CE9</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:deleteRole>
      <sec:role>jobmonitor</sec:role>
    </sec:deleteRole>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:deleteRoleResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:deleteRoleResponse>
```

```
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00012.html>

deleteUser

指定された username を持つユーザーを削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username

テナント、環境、またはプロジェクトから削除するユーザー。

戻り:

ユーザーが正常に削除された場合は true。

例:

以下の例は、ユーザーを削除するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>BAB25F1A2A1ADCC0BB0D455D41354509</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:deleteUser>
      <sec:username>webman</sec:username>
    </sec:deleteUser>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:deleteUserResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:deleteUserResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00013.html

disableUser

username を無効にします。無効な username は認証できません。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username

無効にする username。

戻り:

ユーザーが正常に無効にされた場合は true。


例:

以下の例は、ユーザーを無効にするための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>BAB25F1A2A1ADCC0BB0D455D41354509</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:disableUser>
      <sec:username>webman</sec:username>
    </sec:disableUser>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:disableUserResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:disableUserResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00014.html>

enableUser

ユーザーを有効にします。有効なユーザーは認証できます。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username

有効にするユーザー。

戻り:

ユーザーが正常に有効にされた場合は true。


例:

以下の例は、ユーザーを有効にするための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>BAB25F1A2A1ADCC0BB0D455D41354509</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:enableUser>
      <sec:username>webman</sec:username>
    </sec:enableUser>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:enableUserResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security"
xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:enableUserResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00015.html>

filterNewUsers

新規ユーザーをフィルターに掛けます。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

filter

ユーザーのリストに対して実行するフィルター。


sinceDate

新規ユーザーを判別するのに使用する日付。

戻り:

新規ユーザーを戻します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00016.html>

filterUsers

ユーザーをフィルターに掛けます。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

filter

ユーザーのリストに対して実行するフィルター。

戻り:

ユーザー。

例:


以下の例は、w で始まるユーザーをフィルターに掛けるための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>A5D2F0294EACB36B70622B8EE0E94706</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:filterUsers>
      <sec:filter>w</sec:filter>
    </sec:filterUsers>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:filterUsersResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:users>webman</ns2:users>
    </ns2:filterUsersResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00017.html>

getGrantedRoles

指定されたユーザーに明示的に付与されたすべての役割のリストを返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:


username

指定されたユーザー。

戻り:

指定されたユーザーに付与された役割のリスト。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

getImpliedRoles

指定されたユーザーがメンバーであるすべての役割のリストを返します。リストには、ユーザーに明示的に付与されていない可能性がある役割が含まれていることがあります。グループのメンバーシップによって間接的に暗黙指定されています。


Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username
指定されたユーザー。

戻り:
役割名。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00019.html>

getKerberosRealm

Kerberos レalmを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:
Kerberos レalm。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00020.html>

getKerberosServer


Kerberos サーバーの名前を取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:

Kerberos サーバー名。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00021.html>

getRole

指定された役割を取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

role

指定された、返す役割。

戻り:

指定された役割

例:

以下の例は、役割を取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>BC77BA76E338CFA6B0063218A0AE4656</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getRole>
      <sec:name>publisher@A347B0C49C8CFA462D4F28A4C05B47C2</sec:name>
    </sec:getRole>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getRoleResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03">
      <ns2:group>
        <ns3:id>903273B869AC8CA9D99F4C8448694680</ns3:id>
      </ns2:group>
    </ns2:getRoleResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

```
<ns3:name>publisher@A347B0C49C8CFA462D4F28A4C05B47C2</ns3:name>
<ns3:displayName>Publisher Group</ns3:displayName>
<ns3:isActive>true</ns3:isActive>
<ns3:isMutable>false</ns3:isMutable>
<ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
<ns3:createdTime>2010-04-10T00:08:23Z</ns3:createdTime>
<ns3:scopeId>A347B0C49C8CFA462D4F28A4C05B47C2</ns3:scopeId>
<ns3:scopeType>Environment</ns3:scopeType>
<ns3:groupType>Publisher</ns3:groupType>
</ns2:group>
</ns2:getRoleResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

役割ごとに、以下の情報が返されます。

id

役割の ID。

name

役割の名前。

displayName

WMC での役割の表示名。

isActive

役割がアクティブかどうかによって、true または false になります。

isMutable

true または false。True は、オブジェクトが更新可能なことを意味します。

isVisible

true または false。True は、オブジェクトが WMC に表示されることを意味します。

email

役割の E メール・アドレス。

createdTime

役割が作成された日付および時刻。時刻は ISO 8601 に準拠します。

scopeId

役割が検出されたスコープの ID。(Cloud のみ。)


scopeType

スコープのタイプ (テナントまたは環境のいずれか)。(Cloud のみ。)

groupType

役割が属するグループのタイプ。独自のグループを作成した場合、それはカスタム・グループになります。組み込みグループについては、「WMC ヘルプ」 > 「許可」 > 「組み込みグループについて」を参照してください。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00023.html

getRoleById

指定された役割を取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

id

返される役割の指定された ID。

戻り:

指定された ID の役割。

例:

以下の例は、役割の ID によって役割を取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>A85C21BB99E816D48800C90B2C5547D4</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getRoleById>
      <sec:id>8F52644BBA2491693D440F2FA12A4B3D</sec:id>
    </sec:getRoleById>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getRoleByIdResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security"
xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:group>
        <ns3:id>8F52644BBA2491693D440F2FA12A4B3D</ns3:id>
        <ns3:name>securitymonitor</ns3:name>
        <ns3:displayName>monitor</ns3:displayName>
        <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
        <ns3:isMutable>true</ns3:isMutable>
        <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
        <ns3:email>security@mycompany.com</ns3:email>
        <ns3:createdTime>2010-03-23T19:14:30.066Z</ns3:createdTime>
        <ns3:scopeId>A6EFAF24DB7168A4206F605CA6E14B1D</ns3:scopeId>
        <ns3:scopeType>Tenant</ns3:scopeType>
        <ns3:groupType>Custom</ns3:groupType>
      </ns2:group>
    </ns2:getRoleByIdResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

役割ごとに、以下の情報が返されます。

id

役割の ID。

name

役割の名前。

displayName

WMC での役割の表示名。

isActive

役割がアクティブかどうかによって、true または false になります。

isMutable

true または false。True は、オブジェクトが更新可能なことを意味します。

isVisible

true または false。True は、オブジェクトが WMC に表示されることを意味します。

email

役割の E メール・アドレス。

createdTime

役割が作成された日付および時刻。時刻は ISO 8601 に準拠します。

scopeId

役割が検出されたスコープの ID。(Cloud のみ。)


scopeType

スコープのタイプ (テナントまたは環境のいずれか)。(Cloud のみ。)

groupType

役割が属するグループのタイプ。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00024.html>

getRoleGroups

指定された役割がメンバーであるすべてのグループのリストを返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:


role

指定された役割。

戻り:

グループのリスト。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00025.html>

getRoles

すべての役割のリストを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:

役割。

例:

以下の例は、役割を取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>84076B5B810064272043B5106EEE46C3</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getRoles/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getRolesResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security"
xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:roles>
        <ns3:id>9A8B9ED954A3781D47C6BA88E6B048BA</ns3:id>
        <ns3:name>user@B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns3:name>
        <ns3:displayName>User Group</ns3:displayName>
        <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
        <ns3:isMutable>false</ns3:isMutable>
        <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
        <ns3:createdTime>2010-04-02T22:44:31Z</ns3:createdTime>
        <ns3:scopeId>B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns3:scopeId>
        <ns3:scopeType>Environment</ns3:scopeType>
      </ns2:roles>
    </ns2:getRolesResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

```

    <ns3:groupType>User</ns3:groupType>
  </ns2:roles>
</ns2:roles>
  <ns3:id>A15F37B1499136A2151868DE1E47400F</ns3:id>
  <ns3:name>publisher@B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns3:name>
  <ns3:displayName>Publisher Group</ns3:displayName>
  <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
  <ns3:isMutable>false</ns3:isMutable>
  <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
  <ns3:createdTime>2010-04-02T22:44:31Z</ns3:createdTime>
  <ns3:scopeId>B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns3:scopeId>
  <ns3:scopeType>Environment</ns3:scopeType>
  <ns3:groupType>Publisher</ns3:groupType>
</ns2:roles>
</ns2:roles>
  <ns3:id>B3BED651CA6AC0259BE3B5CBB14D4BF8</ns3:id>
  <ns3:name>admin@B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns3:name>
  <ns3:displayName>Administrator Group</ns3:displayName>
  <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
  <ns3:isMutable>false</ns3:isMutable>
  <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
  <ns3:createdTime>2010-04-02T22:44:31Z</ns3:createdTime>
  <ns3:scopeId>B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns3:scopeId>
  <ns3:scopeType>Environment</ns3:scopeType>
  <ns3:groupType>Admin</ns3:groupType>
</ns2:roles>
</ns2:roles>
  <ns3:id>B7DD994177067F9B6238B08AE6114F2A</ns3:id>
  <ns3:name>monitor</ns3:name>
  <ns3:displayName>Job Monitor</ns3:displayName>
  <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
  <ns3:isMutable>true</ns3:isMutable>
  <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
  <ns3:email>monitor@mycompany.com</ns3:email>
  <ns3:createdTime>2010-04-08T16:57:20.765Z</ns3:createdTime>
  <ns3:scopeId>B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns3:scopeId>
  <ns3:scopeType>Environment</ns3:scopeType>
  <ns3:groupType>Custom</ns3:groupType>
</ns2:roles>
</ns2:getRolesResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>

```

役割ごとに、以下が返されます。

id

役割の ID。

name

役割の名前。

displayName

WMC での役割の表示名。

isActive

役割がアクティブかどうかによって、true または false になります。

isMutable

true または false。True は、オブジェクトが更新可能なことを意味します。

isVisible

true または false。True は、オブジェクトが WMC に表示されることを意味します。

email

役割の E メール・アドレス。

createdTime

役割が作成された日付および時刻。時刻は ISO 8601 に準拠します。

scopeId

役割が検出されたスコープの ID。(Cloud のみ。)


scopeType

スコープのタイプ (テナントまたは環境のいずれか)。(Cloud のみ。)

groupType

役割が属するグループのタイプ。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00026.html>

getRolesInRoleGroup

指定された役割グループ内のすべての役割のリストを返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:


name

指定された役割グループ。

戻り:

指定された役割グループの役割のリスト。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00027.html>

getRoleUsers

指定された役割のメンバーであるすべてのユーザーのリストを返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:


name

指定された役割。

戻り:

指定された役割のユーザーのリスト。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00028.html>

getScope

指定された親スコープ内の指定されたスコープを取得します。

Cloud のみに適用されます。

パラメーター:

scopeType

スコープのタイプ (テナントまたは環境のいずれか)。

name

スコープの名前。

parentScopeId

親スコープの ID。

戻り:

指定されたスコープ。

例:

以下の例は、指定された親スコープ内の指定されたスコープを取得するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>AA91E56114D36B296D82660639B6482F</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getScope>
```

```
<sec:scopeType>ENV</sec:scopeType>
<sec:name>Staging</sec:name>
<sec:parentScopeId>88673D5DF2583806B037576D94F34BBA</
sec:parentScopeId>
</sec:getScope>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getScopeResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:scope>
        <active>true</active>
        <displayName>Staging</displayName>
        <id>A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</id>
        <index>1</index>
        <name>Staging</name>
        <parentId>88673D5DF2583806B037576D94F34BBA</parentId>
        <type>ENV</type>
      </ns2:scope>
    </ns2:getScopeResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00029.html>

getScopeById

ID によって指定されたスコープを取得します。

Cloud のみに適用されます。

パラメーター:

scopeID
スコープの ID。

戻り:
ID によって指定されたスコープ。

例:


以下のコードは、ID によってスコープを取得するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>B60EA6425F8FCB16BB6E96063D09408E</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getScopeById>
      <sec:scopeId>9378E8C3C5E5DCACA77D9F7B6BE24B98</sec:scopeId>
    </sec:getScopeById>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getScopeByIdResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:scope>
        <active>true</active>
        <category>enterprise</category>
        <displayName>mycompany.com</displayName>
        <id>9378E8C3C5E5DCACA77D9F7B6BE24B98</id>
        <index>0</index>
        <name>castiron.com</name>
        <parentId>00000000000000000000000000000000</parentId>
        <type>TENANT</type>
      </ns2:scope>
    </ns2:getScopeByIdResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ci00030.html>

getScopesByParentId

親スコープの ID を使用して、すべての子スコープのリストを返します。

Cloud のみに適用されます。

パラメーター:

parentScopeId

親スコープの ID。

戻り:

子スコープのリスト。

例:

以下の例は、親スコープの ID を使用してスコープを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>B0097A43C5527FA552C3DDBA7EF74CE9</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getScopesByParentId>
      <sec:parentScopeId>BB173AE61484BD7359D8910789EA4E88</
      sec:parentScopeId>
    </sec:getScopesByParentId>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。親スコープはテナントであり、子スコープはテナント内の環境です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getScopesByParentIdResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
    schemas/2008/1/security"
    xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
    router/1000/security/03">
      <ns2:scopes>
        <active>true</active>
        <displayName>Staging</displayName>
        <id>9203C78275503796DB49CB5E6CF34111</id>
        <index>1</index>
        <name>Staging</name>
        <parentId>BB173AE61484BD7359D8910789EA4E88</parentId>
        <type>ENV</type>
      </ns2:scopes>
      <ns2:scopes>
        <active>true</active>
        <displayName>Development</displayName>
        <id>A26D2319BAE05E9513117949CF274A09</id>
        <index>0</index>
        <name>Development</name>
        <parentId>BB173AE61484BD7359D8910789EA4E88</parentId>
        <type>ENV</type>
      </ns2:scopes>
      <ns2:scopes>
        <active>true</active>
        <displayName>Production</displayName>
        <id>B56005332F3E41A3F1456F5F40594A06</id>
        <index>2</index>
        <name>Production</name>
        <parentId>BB173AE61484BD7359D8910789EA4E88</parentId>
        <type>ENV</type>
      </ns2:scopes>
    </ns2:getScopesByParentIdResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```


子スコープごとに、以下の情報が返されます。

active

true または false。true は、スコープがアクティブであることを意味します。

displayName	WMC での役割の表示名。
id	子スコープの ID。
index	子スコープの索引内の位置。
name	子スコープの名前。
parentId	親スコープの ID。
type	スコープのタイプ。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00031.html>

getUser

指定された username のユーザーを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username
指定された username。

戻り:
指定された username に該当するユーザー

例:

以下の例は、指定された username を使用してユーザーを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>BF1E7729085BB066446DF913FAE34596</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getUser>
      <sec:username>webman</sec:username>
    </sec:getUser>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

```
</sec:getUser>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getUserResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03">
      <ns2:user>
        <ns3:id>965AAB3FED8D3CCBBE4DC8EE0E2944EA</ns3:id>
        <ns3:name>webman</ns3:name>
        <ns3:encPasswd>{SHA}clO20r2ZJMJcDrNwXQzhWB8YcdI=</ns3:encPasswd>
        <ns3:displayName>WebServiceUser</ns3:displayName>
        <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
        <ns3:isMutable>true</ns3:isMutable>
        <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
        <ns3:email>webman@mycompany.com</ns3:email>
        <ns3:createdTime>2010-03-02T22:11:32.935Z</ns3:createdTime>
        <ns3:failedLoginCount>0</ns3:failedLoginCount>
        <ns3:scopeId>B47EAECF6AD14AA028B4EA038CB742D0</ns3:scopeId>
        <ns3:scopeType>Tenant</ns3:scopeType>
      </ns2:user>
    </ns2:getUserResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

ユーザーごとに、以下の情報が返されます。

id

ユーザーの ID。

name

ユーザーの名前。

encPasswd

ユーザーの SHA エンコードされたパスワード。

displayName

WMC での役割の表示名。

isActive

ユーザーがログインしている場合は true、ログインしていない場合は false。

isMutable

true または false。true は、オブジェクトが更新可能であることを意味します。更新可能でない場合は false です。

isVisible

true または false。True は、オブジェクトが WMC に表示されることを意味します。WMC に表示されない場合は false です。

email

ユーザーの E メール・アドレス。

createdTime

ユーザーが作成された日付および時刻。

failedLoginCount

この名前を使用してログインを試行して失敗した回数。5 回失敗した後、username は 15 秒間ブロックされます。一連の失敗のたびに、ブロック時間は 2 倍になります (15 - 30 - 60 - 120)。


scopeId

ユーザーが配置されているスコープのスコープ ID。統合アプライアンスには適用しないでください。

scopeType

スコープのタイプ (テナントまたは環境のいずれか)。統合アプライアンスには適用しないでください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00032.html>

getUserById

指定された ID によってユーザーを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

id

ユーザーの指定された ID。

戻り:

指定された ID を持つユーザー。

例:

以下の例は、指定された ID によってユーザーを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>BAB25F1A2A1ADCC0BB0D455D41354509</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getUserById>
      <sec:id>9707B975E42F2B6135D6FB0FA36C4E53</sec:id>
    </sec:getUserById>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getUserByIdResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
```



```
router/1000/security/03">
  <ns2:user>
    <ns3:id>9707B975E42F2B6135D6FB0FA36C4E53</ns3:id>
    <ns3:name>webman</ns3:name>
    <ns3:encPasswd>{SHA}gf/yUAZHWaZFHdCMaxDHVmm4FE=</ns3:encPasswd>
    <ns3:displayName>Webuser</ns3:displayName>
    <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
    <ns3:isMutable>true</ns3:isMutable>
    <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
    <ns3:email>webman@castiron.com</ns3:email>
    <ns3:createdTime>2010-03-11T19:03:46.737Z</ns3:createdTime>
    <ns3:failedLoginCount>0</ns3:failedLoginCount>
    <ns3:scopeId>B47EAECF6AD14AA028B4EA038CB742D0</ns3:scopeId>
    <ns3:scopeType>Tenant</ns3:scopeType>
  </ns2:user>
</ns2:getUserByIdResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

ユーザーごとに、以下の情報が返されます。

id

ユーザーの ID。

name

ユーザーの名前。

encPasswd

ユーザーの SHA エンコードされたパスワード。

displayName

WMC でのユーザーの表示名。

isActive

ユーザーがログインしているどうかによって、true または false になります。

isMutable

true または false。True は、オブジェクトが更新可能なことを意味します。False は、オブジェクトが更新できないことを意味します。

isVisible

true または false。True は、オブジェクトが WMC に表示されることを意味します。

email

ユーザーの E メール・アドレス。

createdTime

ユーザーが作成された日付および時刻。

failedLoginCount

この名前を使用してログインを試行して失敗した回数。5 回失敗した後、username は 15 秒間ブロックされます。一連の失敗のたびに、ブロック時間は 2 倍になります (15 - 30 - 60 - 120)。

scopeId

ユーザーが配置されているスコープの ID。Cloud のみに適用されます。

scopeType

スコープのタイプ (テナントまたは環境のいずれか)。Cloud のみに適用されます。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00033.html

getUsers

セッション ID に基づいてすべてのユーザーのリストを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:

ユーザー

例:

以下の例は、ユーザーを取得するための SOAP 要求です。要求の入力はセッション ID です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>8EB8F17160F7D1E561EC45EFEBF344CF</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:getUsers/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、ユーザーを取得するための要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getUsersResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:users>
        <ns3:id>860DDF6E8DE511EF0EA8E249A1514EA1</ns3:id>
        <ns3:name>foo@mycompany.com</ns3:name>
        <ns3:encPasswd>{SHA}L84w50sj87W4IQUhr2NqKsu08kI=</ns3:encPasswd>
        <ns3:displayName>Foo</ns3:displayName>
        <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
        <ns3:isMutable>true</ns3:isMutable>
        <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
        <ns3:email>foo@mycompany.com</ns3:email>
        <ns3:createdTime>2010-02-24T23:12:10.252Z</ns3:createdTime>
        <ns3:failedLoginCount>0</ns3:failedLoginCount>
        <ns3:scopeId>B47EAECF6AD14AA028B4EA038CB742D0</ns3:scopeId>
        <ns3:scopeType>Tenant</ns3:scopeType>
      </ns2:users>
      <ns2:users>
        <ns3:id>90D63CC6F3A5F90C587B2B478858432D</ns3:id>
        <ns3:name>admin@mycompany.com</ns3:name>
        <ns3:encPasswd>{SHA}8eQYsQgWL3V0sLf7akuJO5wM11c=</ns3:encPasswd>
```

```

<ns3:displayName>admin@mycompany.com</ns3:displayName>
<ns3:isActive>true</ns3:isActive>
<ns3:isMutable>false</ns3:isMutable>
<ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
<ns3:email>admin@mycompany.com</ns3:email>
<ns3:createdTime>2010-02-12T21:50:35Z</ns3:createdTime>
<ns3:lastLoginTime>2010-03-10T17:20:39.774Z</ns3:lastLoginTime>
<ns3:lastFailedLoginTime>2010-03-03T18:25:24.936Z</
ns3:lastFailedLoginTime>
<ns3:failedLoginCount>0</ns3:failedLoginCount>
<ns3:scopeId>B47EAECF6AD14AA028B4EA038CB742D0</ns3:scopeId>
<ns3:scopeType>Tenant</ns3:scopeType>
</ns2:users>
<ns2:users>
  <ns3:id>965AAB3FED8D3CCBBE4DC8EE0E2944EA</ns3:id>
  <ns3:name>webman</ns3:name>
  <ns3:encPasswd>{SHA}c1O20r2ZJMJcDrNwXQzhWB8YcdI=</ns3:encPasswd>
  <ns3:displayName>WebServiceUser</ns3:displayName>
  <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
  <ns3:isMutable>true</ns3:isMutable>
  <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
  <ns3:email>webman@mycompany.com</ns3:email>
  <ns3:createdTime>2010-03-02T22:11:32.935Z</ns3:createdTime>
  <ns3:failedLoginCount>0</ns3:failedLoginCount>
  <ns3:scopeId>B47EAECF6AD14AA028B4EA038CB742D0</ns3:scopeId>
  <ns3:scopeType>Tenant</ns3:scopeType>
</ns2:users>
<ns2:users>
  <ns3:id>B77F69E6D9488E2607B02076B4F848DC</ns3:id>
  <ns3:name>support@mycompany.com</ns3:name>
  <ns3:encPasswd>{SHA}Ek2MpQlE1+fGMEYo1kSF6lpbNIk=</ns3:encPasswd>
  <ns3:displayName>support@mycompany.com</ns3:displayName>
  <ns3:isActive>false</ns3:isActive>
  <ns3:isMutable>false</ns3:isMutable>
  <ns3:isVisible>true</ns3:isVisible>
  <ns3:email>support@mycompany.com</ns3:email>
  <ns3:createdTime>2010-02-12T21:50:35Z</ns3:createdTime>
  <ns3:failedLoginCount>0</ns3:failedLoginCount>
  <ns3:scopeId>B47EAECF6AD14AA028B4EA038CB742D0</ns3:scopeId>
  <ns3:scopeType>Tenant</ns3:scopeType>
</ns2:users>
</ns2:getUsersResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>

```

ユーザーごとに、以下の情報が返されます。

id

ユーザーの ID。

name

ユーザーの名前。

encPasswd

ユーザーの SHA エンコードされたパスワード。

displayName

WMC でのユーザーの表示名。

isActive

ユーザーがログインしているどうかによって、true または false になります。

isMutable

true または false。true は、オブジェクトが更新可能であることを意味します。更新可能でない場合は false です。

isVisible

true または false。True は、オブジェクトが WMC に表示されることを意味します。WMC に表示されない場合は false です。

email

ユーザーの E メール・アドレス。

createdTime

ユーザーが作成された日付および時刻。

failedLoginCount

この名前を使用してテナントへのログインを試行して失敗した回数。5 回失敗した後、username は 15 秒間ブロックされます。一連の失敗のたびに、ブロック時間は 2 倍になります。


scopeId

ユーザーが配置されているスコープの ID。Cloud のみに適用されます。

scopeType

スコープのタイプ (テナントまたは環境のいずれか)。Cloud のみに適用されます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00034.html>

grantPrivilege

指定された特権を付与します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

privilege

付与される、指定された特権。

戻り:

特権が付与された場合は true。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00035.html>

grantPrivileges

指定された特権を付与します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

privileges
付与される、指定された特権。

戻り:
特権が付与された場合は true。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00036.html>

grantRole

指定された役割を指定されたユーザーに付与します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

userName
指定された roleName が付与される、指定されたuserName。

role
指定された userName に付与される、指定された roleName。

戻り:
役割がユーザーに付与された場合は true。

以下の例は、役割を付与するための SOAP 要求です。


```
Request:  
<soapenv:Envelope  
xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/" xmlns:sec="
```

```
http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
<soapenv:Header>
<sec:sessionId>AEED5F4E5F311F0B60F6C12642F0418F</sec:sessionId>
</soapenv:Header>
<soapenv:Body>
<sec:grantRole>
<sec:username>test</sec:username>
<sec:role>user</sec:role>
</sec:grantRole>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

Response:

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
<S:Body>
<ns3:grantRoleResponse xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security"
xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03">
<ns3:success>true</ns3:success>
</ns3:grantRoleResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00037.html>

hasPrivilege

指定されたユーザー、ターゲット、およびアクションに特権が存在する場合は、true を返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username

指定されたユーザー。

target


指定されたターゲット。

action

指定されたアクション。

戻り:

特権が存在する場合は true。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00038.html>

isRealmUser

指定されたユーザーがセッション ID に対応するレルムに属する場合は、true を返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username

指定されたユーザー。

戻り:

ユーザーがレルムに属する場合は true。

例:

以下の例は、指定されたユーザーがレルムに属するかどうかを確認するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>A85C21BB99E816D48800C90B2C5547D4</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:isRealmUser>
      <sec:username>admin@mycompany.com</sec:username>
    </sec:isRealmUser>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:isRealmUserResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:isRealmUser>true</ns2:isRealmUser>
    </ns2:isRealmUserResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00039.html

isUserEnabled

指定された username が有効かどうかを確認します。有効なユーザーは認証されます。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username

確認される username。

戻り:

指定された username が有効である場合は true。

例:

以下の例は、指定されたユーザーが有効かどうかを確認するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>A85C21BB99E816D48800C90B2C5547D4</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:isUserEnabled>
      <sec:username>webman</sec:username>
    </sec:isUserEnabled>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:isUserEnabledResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:isUserEnabled>true</ns2:isUserEnabled>
    </ns2:isUserEnabledResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

listAvailableActions

指定されたターゲットの使用可能なアクションをリストします。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:


target

指定されたターゲット。

戻り:

指定されたターゲットのアクションのリスト。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00041.html>

listGrantableRoles

付与可能な役割のリストを返します (条件付き役割を除く)。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:

役割のリスト。

例:

以下の例は、付与可能な役割をリストするための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>AA91E56114D36B296D82660639B6482F</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:listGrantableRoles/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
```

```
<ns2:listGrantableRolesResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03">
  <ns2:roles>admin@A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</ns2:roles>
  <ns2:roles>user@A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</ns2:roles>
  <ns2:roles>publisher@A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</ns2:roles>
</ns2:listGrantableRolesResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00042.html>

listPrivileges

指定されたターゲットおよびアクションの特権のリストを返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

targets

指定されたターゲット。


action

指定されたアクション。

戻り:

特権のリスト。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00043.html>

listRoles

すべての役割名のリストを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:
役割名。

例:


以下の例は、役割名を取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>84076B5B810064272043B5106EEE46C3</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:listRoles/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:listRolesResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:roles>user@B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns2:roles>
      <ns2:roles>publisher@B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns2:roles>
      <ns2:roles>admin@B74A0FF293331AB2A7E4F21E15D143F3</ns2:roles>
    </ns2:listRolesResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00044.html>

listUsers

すべてのユーザーのリストを戻します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:
すべてのユーザーのリスト。

例:

以下の例は、ユーザーのリストの SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
```

```
<soapenv:Header>
  <sec:sessionId>8F059BEEA3611033D27773A95404641</sec:sessionId>
</soapenv:Header>
<soapenv:Body>
  <sec:listUsers/>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、ユーザーのリストの要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:listUsersResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:users>foo@mycompany.com</ns2:users>
      <ns2:users>httpclient@mycompany.com</ns2:users>
      <ns2:users>admin@mycompany.com</ns2:users>
      <ns2:users>webman@mycompany.com</ns2:users>
      <ns2:users>support@mycompany.com</ns2:users>
    </ns2:listUsersResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00045.html>

login

統合アプライアンスまたは Cloud にログインします。

パラメーター:

username

統合アプライアンスまたは Cloud にログインするために使用するユーザー ID。

password

username のパスワード。

戻り:

セッション ID。

例:

以下のコードは、Web サービスにログインするために使用可能な SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header/>
```

```
<soapenv:Body>
  <sec:login>
    <sec:username>webman@mycompany.com</sec:username>
    <sec:password>My6word3S</sec:password>
  </sec:login>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

パスワードは 8 文字以上で、以下の文字の 3 つの組み合わせが含まれている必要があります。


- 英字
- 大文字の英字
- 数値
- 特殊文字

以下のコードは、正常なログイン要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:loginResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03">
      <ns2:sessionId>8F059BWEA3611033D27773A95404641</ns2:sessionId>
    </ns2:loginResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

ログイン後、管理 API で他の操作を実行するには、セッション ID が必要です。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00046.html>

logout

統合アプライアンスまたは Cloud をログアウトします。

戻り:

統合アプライアンスまたは Cloud をログアウトします。

例:


以下の例は、ログアウトするための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>BB93F99B80AC742BEE3BC81262C2486F</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:logout/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求をログアウトするための SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:logoutResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03">
      <return>true</return>
    </ns2:logoutResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html


<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00047.html>

removeKerberosConfiguration

Kerberos 構成を削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00048.html>

removeRoleFromRoleGroup

指定されたグループのメンバーとして指定された役割を削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

role

役割の名前。

group

役割が削除されるグループの名前。

戻り:

役割が正常にグループから削除された場合は true。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00049.html

revokePrivilege

指定された特権を取り消します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

privilege

取り消される、指定された特権。

戻り:

特権が取り消された場合は true。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00050.html

revokeRole

指定された役割を指定されたユーザーから取り消します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

userName

指定された roleName が取り消される、指定された userName。


role

指定された userName から取り消される、指定された roleName。

戻り:

役割がユーザーから取り消された場合は true。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00051.html

roleExists

指定された役割が存在するかどうかを確認します。役割が存在する場合は true を戻します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

role

存在するかどうかを確認される、指定された役割。

戻り:

指定された役割が存在する場合は true。


例:

以下の例は、役割が存在するかどうかを確認するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>A85C21BB99E816D48800C90B2C5547D4</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:roleExists>
      <sec:name>securitymonitor</sec:name>
    </sec:roleExists>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:roleExistsResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:roleExists>true</ns2:roleExists>
    </ns2:roleExistsResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```


 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00052.html

setCurrentScope

このスレッドの現在のスコープを設定します。

Cloud のみに適用されます。

戻り:

現在のスコープが設定された場合は true。


例:

以下の例は、現在のスコープを設定するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>84B7E4D6D856EB5812EB71896C3547CC</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:setCurrentScope>
      <sec:scopeName>Development</sec:scopeName>
    </sec:setCurrentScope>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:setCurrentScopeResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:setCurrentScopeResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

setCurrentScopeById

このスレッドの現在のスコープを設定します。

Cloud のみに適用されます。

戻り:

現在のスコープが設定された場合は true。

例:


以下の例は、テナントまたは環境の ID によって現在のスコープを設定するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>84B7E4D6D856EB5812EB71896C3547CC</sec:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sec:setCurrentScopeById>
      <sec:scopeId>8DA9ED360FCB9B3F6E867705490D4B9F</sec:scopeId>
    </sec:setCurrentScopeById>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:setCurrentScopeByIdResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:setCurrentScopeByIdResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00054.html>

setKerberosConfiguration

Kerberos 構成を設定します。

Kerberos プロトコルを使用することで、サーバーとCloudまたは統合アプライアンスとの間のセキュアでない通信ネットワークに対してセキュリティーを確立することができます。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:


serverName

Kerberos サーバーの名前。

realm

Kerberos サーバーのレルム。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00055.html>

setLdapConfiguration

LDAP 構成を設定します。


Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

ldapConfig

LDAP 構成。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00056.html>

updateRole

指定された役割を更新します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:


role
更新対象として指定された roleName。

displayName
WMC での表示名。

email
roleName の E メール・アドレス。

戻り:
役割が更新された場合は true。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00057.html>

updateUser

ユーザーを更新します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username
セッション ID に関連付けられたテナントのユーザー名。

displayName
WMC での表示名。

email
username の E メール・アドレス。

戻り:
ユーザーが正常に更新された場合は true。

例:

以下の例は、ユーザーを更新するための SOAP 要求です。要求に対する入力データは、セッション ID と username です。この例では、E メール・アドレスを更新します。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>A85C21BB99E816D48800C90B2C5547D4</sec:sessionId>
```


```
</soapenv:Header>
<soapenv:Body>
  <sec:updateUser>
    <sec:username>webman</sec:username>
    <sec:displayName>?</sec:displayName>
    <sec:email>webman@mycompany.com</sec:email>
  </sec:updateUser>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:updateUserResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:updateUserResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

E メール・アドレスは正常に更新されました。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00058.html>

userExists

指定された username が存在するかどうかを確認します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

username
確認対象の username。

戻り:
username が存在する場合は true。

例:

以下の例は、ユーザーが存在するかどうかを確認するための SOAP 要求です。要求に対する入力データは、セッション ID と username です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sec="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/security">
  <soapenv:Header>
    <sec:sessionId>99E1848F7661D4FC066AD5F97AB44C0C</sec:sessionId>
```

```
</soapenv:Header>
<soapenv:Body>
  <sec:userExists>
    <sec:username>webman</sec:username>
  </sec:userExists>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:userExistsResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/security" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schema/
router/1000/security/03">
      <ns2:userExists>true</ns2:userExists>
    </ns2:userExistsResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00059.html>

デプロイメント

デプロイメント WSDL に関する情報。


デプロイメント WSDL を使用することで、構成、ルール、プロジェクトの作成、取得、削除を行うことができます。ジョブを開始、一時停止、停止、および取り消すことができます。リポジトリをインポートおよびエクスポートすることもできます。

このセクションには以下のトピックがあります。

- [cancelJob](#)
- [cloneConfiguration](#)
- [createAssets](#)
- [createConfiguration](#)
- [createRepeatingRule](#)
- [createRule](#)
- [createUserConfiguration](#)
- [deleteConfiguration](#)
- [deleteProject](#)
- [deleteRule](#)
- [deleteUserConfiguration](#)
- [downloadProject](#)
- [exportRepository](#)
- [getAllProjects](#)
- [getAssetGroupDisplayString](#)

- [getAssetGroupScript](#)
- [getAssetGroupWarnings](#)
- [getAssetProperties](#)
- [getAssetPropertiesBindings](#)
- [getConfiguration](#)
- [getConfigurationGroups](#)
- [getProject](#)
- [getRule](#)
- [getRules](#)
- [getUserConfiguration](#)
- [getUserConfigurations](#)
- [importRepository](#)
- [publishProject](#)
- [resume](#)
- [saveOrchestrationValues](#)
- [saveProperties](#)
- [setConfigurationGroups](#)
- [start](#)
- [stopAndCancel](#)
- [stopAndWait](#)
- [suspend](#)
- [undeploy](#)

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00092.html>

cancelJob

指定されたジョブ・グループをキャンセルします。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

プロジェクトの名前。

Version

プロジェクトのバージョン番号。

configName

構成を特定するために使用される名前 (「デフォルト」など)。

jobId

ジョブの ID。

構成は、projectName、Version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

jobId は、searchJobs 操作 (orcmon.wsdl) を最初に行うことで取得することができます。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00093.html>

cloneConfiguration

指定された構成を複製します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

oldConfigName

複製元の構成名。

newConfigName

複製先の構成名。

戻り:

複製された構成。

例:


以下のコードは、構成を複製するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>855BE295392375C8551C8B98D6EA4774</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:cloneConfiguration>
      <dep:projectName>GenericProject_1_Cloud</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:oldConfigName>GenericProject_2_Cloud</dep:oldConfigName>
      <dep:newConfigName>GenericProject_3_Cloud</dep:newConfigName>
    </dep:cloneConfiguration>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```


以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:cloneConfigurationResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:cloneConfigurationResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00094.html>

createAssets

指定されたスクリプトを使用して資産を作成します。

エンドポイントは、`project-url://Endpoints/TargetDB` のように、プロジェクト URL として指定されます。モジュール ID は通常、`http://www.approuter.com/module/webservice/` または `http://www.approuter.com/module/database/` のいずれかです。

データベース資産は、以下の表に示す記号で囲む必要があります。

データベース	囲み記号
DB2® AS/400®	" "
Informix®	[]
Microsoft SQL	[]
Oracle	" "
Sybase	" "

以下の表は、それぞれのデータベース用に作成できる資産のリストです。

データベース	資産
DB2 As/400、Informix、Microsoft、Sybase	Cloud, 統合アプライアンスに適用されます。バッファー・テーブル、制御テーブル、およびトリガー
ローカル・ステージング・データベース	バッファー・テーブル、制御テーブル、索引テーブル、およびトリガー
Oracle	バッファー・テーブル、制御テーブル、シーケンス、およびトリガー

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。

version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName
指定されたプロジェクトの構成の名前。

ModuleID
資産のモジュール ID。

endpointUrl
資産のエンドポイント URL。

propNames
プロパティ資産の名前。

username
エンドポイントのユーザー ID。

password
エンドポイントのパスワード。

assetType
資産のタイプ。

script
エンドポイントに対して実行するスクリプト。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:
成功または失敗。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00095.html>

createConfiguration

指定された構成を作成します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。

version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName
指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:
指定された構成。

例:


以下の例は、構成を作成するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:createConfiguration>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363W</dep:configName>
    </dep:createConfiguration>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:createConfigurationResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:createConfigurationResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00096.html>

createRepeatingRule

指定された構成に対するダウン時間の繰り返しルールを作成します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

stopDate

構成が停止される日付。

restartDate

構成が再開される日付。

downtimeType

ダウン時間のタイプまたは理由。

repeat

ダウン時間のルールを繰り返すことを指定します。

repeatInterval


ダウン時間のルールを繰り返す時間間隔を指定します。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

指定された構成の新しい繰り返しルール。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00097.html>

createRule

指定された構成に対するダウン時間のルールを作成します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。

version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName
指定されたプロジェクトの構成の名前。

stopDate
構成が停止される日付。

restartDate
構成が再開される日付。

downtimeType
ダウン時間のタイプまたは理由。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:
指定された構成のダウン時間の新しいルール。

例:

以下のコードは、ルールを作成するための SOAP 要求の例です。日付形式は ISO 8601 に準拠する必要があります。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>8FDBC8ED7A014272714D23D14794473A</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:createRule>
      <dep:projectName>GenericProject_1_Cloud</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>Default</dep:configName>
      <dep:stopDate>2010-04-17T07:00:00.066Z</dep:stopDate>
      <dep:restartDate>2010-04-17T08:00:00.066Z</dep:restartDate>
      <dep:downtimeType>stop</dep:downtimeType>
    </dep:createRule>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:createRuleResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:ruleId>2</ns2:ruleId>
    </ns2:createRuleResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00098.html>

createUserConfiguration

指定されたユーザー構成を作成します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。

version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName
指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:
指定されたユーザー構成。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00099.html>

deleteConfiguration

指定された構成を削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

例:


以下のコードは、構成を削除するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>AAC96757B36C2B4582C811197EE43C0</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:deleteConfiguration>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:deleteConfiguration>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:deleteConfigurationResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:deleteConfigurationResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00100.html>

deleteProject

指定されたプロジェクトを削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。

version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

例:


以下のコードは、プロジェクトを削除するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>80C147E844799CA856AF3DB6910C4B63</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:deleteProject>
      <dep:projectName>MIME_Test1</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
    </dep:deleteProject>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:deleteProjectResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:deleteProjectResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00101.html>

deleteRule

指定された ID のルールを削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

ruleId

削除対象として指定されたルールの ID。

例:


以下のコードは、ルールを削除するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>8FDBC8ED7A014272714D23D14794473A</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:deleteRule>
      <dep:ruleId>2</dep:ruleId>
    </dep:deleteRule>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:deleteRuleResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>>true</ns2:success>
    </ns2:deleteRuleResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00102.html>

deleteUserConfiguration

指定されたユーザーの指定された構成を削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

userName

指定されたユーザーの名前。

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

例:


以下の例は、指定された構成を削除するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>AACA96757B36C2B4582C811197EE43C0</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:deleteConfiguration>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:deleteConfiguration>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:deleteConfigurationResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:deleteConfigurationResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00103.html>

downloadProject

指定されたプロジェクトをバイト配列としてダウンロードします。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。


version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName
指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:
圧縮ファイル形式の 指定されたプロジェクト。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ci00104.html>


exportRepository

プロジェクト・リポジトリを XML 形式でエクスポートします。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:
XML 形式のプロジェクト・リポジトリ。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ci00105.html>

getAllProjects

すべてのプロジェクトを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:
すべてのプロジェクト。

例:

以下の例は、すべてのプロジェクトを取得するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:getAllProjects/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getAllProjectsResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:projects>
        <assets/>
        <configurations>
          <configuration>
            <envId>
              <guidString>A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</guidString>
            </envId>
            <lastmodified>2010-04-03T06:28:42.078Z</lastmodified>
            <name>Default</name>
            <orchestrationValues>
              <orchestrationValue>
                <enabled>true</enabled>
                <syncLoggingEnabled>false</syncLoggingEnabled>
                <loggingLevel>errorValues</loggingLevel>
                <maxJobs>1</maxJobs>
                <orchestrationRelativeurl>project-url://
Orchestrations/Receive</orchestrationRelativeurl>
                <state>undeployed</state>
              </orchestrationValue>
              <orchestrationValue>
                <enabled>true</enabled>
                <syncLoggingEnabled>false</syncLoggingEnabled>
                <loggingLevel>errorValues</loggingLevel>
                <maxJobs>1</maxJobs>
                <orchestrationRelativeurl>project-url://
Orchestrations/Post</orchestrationRelativeurl>
                <state>undeployed</state>
              </orchestrationValue>
            </orchestrationValues>
            <projectName>HTTP_363i</projectName>
            <projectVersion>1.0</projectVersion>
            <propertyValues/>
            <state>undeployed</state>
          </configuration>
        </configurations>
        <envId>
          <guidString>A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</guidString>
        </envId>
        <lastpublished>2010-04-03T06:28:41.894Z</lastpublished>
        <name>HTTP_363i</name>
        <orchestrations>
```

```
<orchestration>
  <relativeurl>project-url://Orchestrations/Post</relativeurl>
</orchestration>
<orchestration>
  <relativeurl>project-url://Orchestrations/Receive</
  relativeurl>
</orchestration>
</orchestrations>
<properties/>
<version>1.0</version>
</ns2:projects>
</ns2:getAllProjectsResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00106.html>

getAssetGroupDisplayString

指定された構成、エンドポイント、およびプロパティの名前に対する資産表示ストリングを取得します。

エンドポイントは、`project-url://Endpoints/TargetDB` のように、プロジェクト URL として指定されます。モジュール ID は通常、`http://www.approuter.com/module/webservice/` または `http://www.approuter.com/module/database/` のいずれかです。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

ModuleID

資産のモジュール ID。

endpointUrl

資産のエンドポイント URL。

propNames


プロパティ資産の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

資産表示ストリング。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00107.html>

getAssetGroupScript

指定された構成、エンドポイント、およびプロパティの名前に対する資産スクリプトを取得します。

エンドポイントは、project-url://Endpoints/TargetDB のように、プロジェクト URL として指定されます。モジュール ID は通常、<http://www.approuter.com/module/webservice/> または <http://www.approuter.com/module/database/> のいずれかです。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

ModuleID

資産のモジュール ID。

endpointUrl

資産のエンドポイント URL。


propNames

プロパティ資産の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

資産スクリプト。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00108.html>

getAssetGroupWarnings

指定された構成、エンドポイント、およびプロパティの名前に対する資産の警告を取得します。

エンドポイントは、project-url://Endpoints/TargetDB のように、プロジェクト URL として指定されます。モジュール ID は通常、http://www.approuter.com/module/webservice/ または http://www.approuter.com/module/database/ のいずれかです。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

ModuleID

資産のモジュール ID。

endpointUrl

資産のエンドポイント URL。


propNames

プロパティ資産の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

資産の警告。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00109.html>

getAssetProperties

指定された構成とエンドポイントに対する資産プロパティの値を取得します。

エンドポイントは、project-url://Endpoints/TargetDB のように、プロジェクト URL として指定されます。モジュール ID は通常、http://www.approuter.com/module/webservice/ または http://www.approuter.com/module/database/ のいずれかです。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

ModuleID

資産のモジュール ID。

endpointUrl


資産のエンドポイント URL。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

資産プロパティの値。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00110.html>

getAssetPropertiesBindings

指定された構成、エンドポイント、およびプロパティの名前に対する資産プロパティを取得します。

エンドポイントは、project-url://Endpoints/TargetDB のように、プロジェクト URL として指定されます。モジュール ID は通常、http://www.approuter.com/module/webservice/ または http://www.approuter.com/module/database/ のいずれかです。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。

version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName
指定されたプロジェクトの構成の名前。

ModuleID
資産のモジュール ID。

endpointUrl
資産のエンドポイント URL。

propNames
プロパティ資産の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:
資産プロパティ。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00111.html>

getConfiguration

指定されたプロジェクトを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。

Version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

戻り:
指定されたプロジェクト。

例:

以下の例は、指定されたプロジェクトを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:getConfiguration>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:getConfiguration>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getConfigurationResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:configuration>
        <envId>
          <guidString>A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</guidString>
        </envId>
        <lastmodified>2010-04-08T20:58:49.694Z</lastmodified>
        <name>HTTP_363j</name>
        <orchestrationValues>
          <orchestrationValue>
            <enabled>true</enabled>
            <syncLoggingEnabled>false</syncLoggingEnabled>
            <loggingLevel>errorValues</loggingLevel>
            <maxJobs>1</maxJobs>
            <orchestrationRelativeurl>project-url://Orchestrations/
Post</orchestrationRelativeurl>
            <state>stopped</state>
          </orchestrationValue>
          <orchestrationValue>
            <enabled>true</enabled>
            <syncLoggingEnabled>false</syncLoggingEnabled>
            <loggingLevel>errorValues</loggingLevel>
            <maxJobs>1</maxJobs>
            <orchestrationRelativeurl>project-url://Orchestrations/
Receive</orchestrationRelativeurl>
            <state>stopped</state>
          </orchestrationValue>
        </orchestrationValues>
        <projectName>HTTP_363i</projectName>
        <projectVersion>1.0</projectVersion>
        <propertyValues/>
        <state>stopped</state>
      </ns2:configuration>
    </ns2:getConfigurationResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00112.html

getConfigurationGroups

指定された構成に対するアクセス権を持つグループの表示名を取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

グループ表示名。

例:

以下の例は、指定された構成に対するアクセス権を持つ構成グループを取得するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>AACA96757B36C2B4582C811197EE43C0</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:getConfigurationGroups>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:getConfigurationGroups>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getConfigurationGroupsResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
```

```
<ns2:groupDisplayNames>
  <ns4:id>8D8D61C4EF435FDB63E543509B9F4978</ns4:id>
  <ns4:name>admin@A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</ns4:name>
  <ns4:displayName>Administrator Group</ns4:displayName>
  <ns4:isActive>true</ns4:isActive>
  <ns4:isMutable>false</ns4:isMutable>
  <ns4:isVisible>true</ns4:isVisible>
  <ns4:createdTime>2010-04-02T22:44:46Z</ns4:createdTime>
  <ns4:scopeId>A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</ns4:scopeId>
  <ns4:scopeType>Environment</ns4:scopeType>
  <ns4:groupType>Admin</ns4:groupType>
</ns2:groupDisplayNames>
</ns2:getConfigurationGroupsResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00113.html>

getProject

指定されたプロジェクトを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

Version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

戻り:

指定されたプロジェクト。

例:

以下の例は、指定されたプロジェクトを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
  xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:getProject>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
    </dep:getProject>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

```
</dep:getProject>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Body>
<ns2:getProjectResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
  <ns2:project>
    <assets/>
    <configurations>
      <configuration>
        <envId>
          <guidString>A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</guidString>
        </envId>
        <lastmodified>2010-04-03T06:28:42.078Z</lastmodified>
        <name>Default</name>
        <orchestrationValues>
          <orchestrationValue>
            <enabled>true</enabled>
            <syncLoggingEnabled>false</syncLoggingEnabled>
            <loggingLevel>errorValues</loggingLevel>
            <maxJobs>1</maxJobs>
            <orchestrationRelativeurl>project-url://
Orchestrations/Post</
orchestrationRelativeurl>
            <state>undeployed</state>
          </orchestrationValue>
          <orchestrationValue>
            <enabled>true</enabled>
            <syncLoggingEnabled>false</syncLoggingEnabled>
            <loggingLevel>errorValues</loggingLevel>
            <maxJobs>1</maxJobs>
            <orchestrationRelativeurl>project-url://
Orchestrations/Receive</
orchestrationRelativeurl>
            <state>undeployed</state>
          </orchestrationValue>
        </orchestrationValues>
        <projectName>HTTP_363i</projectName>
        <projectVersion>1.0</projectVersion>
        <propertyValues/>
        <state>undeployed</state>
      </configuration>
    </configurations>
    <envId>
      <guidString>A51EDD44BE6C10B2D1335A9D634D407D</guidString>
    </envId>
    <lastpublished>2010-04-03T06:28:41.894Z</lastpublished>
    <name>HTTP_363i</name>
    <orchestrations>
      <orchestration>
        <relativeurl>project-url://Orchestrations
/Post</relativeurl>
      </orchestration>
      <orchestration>
        <relativeurl>project-url://Orchestrations/Recieve</
relativeurl>
      </orchestration>
    </orchestrations>
    <properties/>
```

```
<version>1.0</version>
</ns2:project>
</ns2:getProjectResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00114.html>

getRule

指定されたダウン時間ルール ID のダウン時間ルールを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

ruleId

指定されたダウン時間ルール ID。

戻り:

ダウン時間ルール。

例:

以下のコードは、ルールを取得するための SOAP 要求の例です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>8FDBC8ED7A014272714D23D14794473A</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:getRule>
      <dep:ruleId>2</dep:ruleId>
    </dep:getRule>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getRuleResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment/
types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03"
xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:rule>
        <ns3:configUrl>config-url://GenericProject_1_Cloud:1.0:Default</
```

```
ns3:configUrl>
<ns3:downtimeType>stop</ns3:downtimeType>
<ns3:envId>
  <guidString>A7FFE81243A1E319FCAED0DFABF9470B</guidString>
</ns3:envId>
<ns3:isActive>true</ns3:isActive>
<ns3:repeatInterval>0</ns3:repeatInterval>
<ns3:repeatType>none</ns3:repeatType>
<ns3:repeatingRule>false</ns3:repeatingRule>
<ns3:restartDate>2010-04-17T08:00:00.066Z</ns3:restartDate>
<ns3:ruleId>2</ns3:ruleId>
<ns3:stopDate>2010-04-17T07:00:00.066Z</ns3:stopDate>
</ns2:rule>
</ns2:getRuleResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00115.html>

getRules

指定された構成に対するダウン時間ルールを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

Version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

指定された構成に対するダウン時間ルール。

例:

以下のコードは、ルールを取得するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
```

```

<soapenv:Header>
  <dep:sessionId>8FDBC8ED7A014272714D23D14794473A</dep:sessionId>
</soapenv:Header>
<soapenv:Body>
  <dep:getRules>
    <dep:projectName>GenericProject_1_Cloud</dep:projectName>
    <dep:version>1.0</dep:version>
    <dep:configName>Default</dep:configName>
  </dep:getRules>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>

```


以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```

<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getRulesResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:rules>
        <ns3:configUrl>config-url://GenericProject_1_Cloud:1.0:Default</
ns3:configUrl>
        <ns3:downtimeType>stop</ns3:downtimeType>
        <ns3:envId>
          <guidString>A7FFE81243A1E319FCAED0DFABF9470B</guidString>
        </ns3:envId>
        <ns3:isActive>true</ns3:isActive>
        <ns3:repeatInterval>0</ns3:repeatInterval>
        <ns3:repeatType>none</ns3:repeatType>
        <ns3:repeatingRule>>false</ns3:repeatingRule>
        <ns3:restartDate>2010-04-17T08:00:00.066Z</ns3:restartDate>
        <ns3:ruleId>2</ns3:ruleId>
        <ns3:stopDate>2010-04-17T07:00:00.066Z</ns3:stopDate>
      </ns2:rules>
    </ns2:getRulesResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>

```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00116.html>

getUserConfiguration

指定されたユーザーの指定された構成を取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

userName

指定されたユーザーの名前。

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName


指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

指定されたユーザーの指定された構成。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00117.html>

getUserConfigurations

指定されたユーザーの構成を取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:


userName

指定されたユーザーの名前。

戻り:

指定されたユーザーの構成。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00118.html>

importRepository

プロジェクト・リポジトリを XML 形式でインポートします。

統合アプライアンス のみに適用されます。

パラメーター:

importType

インポートのタイプ。


data

XML 形式のプロジェクト・リポジトリ。

戻り:

成功または失敗

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00119.html>

publishProject

指定されたプロジェクトを公開し、デフォルト構成を作成します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。


content

圧縮ファイル形式 (.par ファイル) のプロジェクト。

戻り:

成功または失敗。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

resume

指定された構成を再開します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

成功または失敗。

例:

以下の例は、一時停止された構成を再開するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:resume>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:resume>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:resumeResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment/
types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03"
xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>>true</ns2:success>
    </ns2:resumeResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00121.html

saveOrchestrationValues

指定されたオーケストレーションに対して、指定された値を保存します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

values

指定されたオーケストレーションに対する保存対象として指定された値。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

成功または失敗。

例:

以下の例は、指定されたオーケストレーションの値を保存するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>AACA96757B36C2B4582C811197EE43C0</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:saveOrchestrationValues>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
      <dep:values>
        <enabled>>true</enabled>
        <syncLoggingEnabled>>false</syncLoggingEnabled>
        <loggingLevel>errorValues</loggingLevel>
        <maxJobs>1</maxJobs>
        <orchestrationRelativeurl>orchestrationRelativeurl>project-url://
        Orchestrations/
        Receive</orchestrationRelativeurl>
        <state>stopped</state>
      </dep:values>
    </dep:saveOrchestrationValues>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

```
</dep:values>
</dep:saveOrchestrationValues>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:saveOrchestrationValuesResponse xmlns:ns2="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment/types" xmlns:ns4="http://
www.approuter.com/schema/router/1000/security/03" xmlns:ns5="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:saveOrchestrationValuesResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00122.html>

saveProperties

指定された構成に対して、指定されたプロパティを保存します。

Cloud および 統合アライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

Version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

properties

指定された構成に対する保存対象として指定されたプロパティ。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00123.html

setConfigurationGroups

指定されたプロジェクトに対するアクセス権を持つグループを設定します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

groupIds

グループの ID。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

成功または失敗。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00124.html

start

指定された構成を開始します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

成功または失敗。

例:


以下の例は、構成を開始するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:start>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:start>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:startResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment/
types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03"
xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:startResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00125.html>

stopAndCancel

指定された構成のすべてのジョブを停止して取り消します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName
指定されたプロジェクトの名前。

version
指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName
指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:
成功または失敗。

例:


以下の例は、構成を停止してキャンセルするための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:stopAndCancel>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:stopAndCancel>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope></soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:stopAndCancelResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>>true</ns2:success>
    </ns2:stopAndCancelResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00126.html>

stopAndWait

指定された構成のジョブを停止して待機します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

成功または失敗

例:

以下の例は、構成を停止して待機するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:stopAndWait>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:stopAndWait>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:stopAndWaitResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:succcess>true</ns2:succcess>
    </ns2:stopAndWaitResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.doc/ci00127.html

suspend

指定された構成を中断します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

成功または失敗。

例:

以下の例は、指定された構成を中断するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:suspend>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:suspend>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:suspendResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment/
types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/security/03"
xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:suspendResponse>
```

```
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00128.html>

undeploy

指定された構成を撤回します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

指定されたプロジェクトの名前。

version

指定されたプロジェクトのバージョン番号。

configName

指定されたプロジェクトの構成の名前。

構成は、projectName、version、および configName の組み合わせにより一意的に識別されます。

戻り:

成功または失敗。

例:


以下の例は、指定された構成を撤回するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:dep="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/deployment">
  <soapenv:Header>
    <dep:sessionId>85EBDCE6FF0685C296D79CD55D86405F</dep:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <dep:undeploy>
      <dep:projectName>HTTP_363i</dep:projectName>
      <dep:version>1.0</dep:version>
      <dep:configName>HTTP_363j</dep:configName>
    </dep:undeploy>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:undeployResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/deployment" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
deployment/types" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schema/router/1000/
security/03" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:undeployResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00129.html>

Orcmon


Orcmon WSDL に関する情報です。

Orcmon WSDL を使用することで、ジョブを検索し、ジョブ・カウントを取得し、ジョブの詳細を取得することができます。ジョブ・モニター・プロパティを設定および取得することもできます。

このセクションには以下のトピックがあります。

- [getJobCount](#)
- [getJobDetails](#)
- [getMonitoringProperties](#)
- [purgeJobs](#)
- [searchJobs](#)
- [setMonitoringProperties](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00130.html>

getJobCount

指定されたパラメーターに該当するジョブの数を返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

ジョブが実行される構成が含まれているプロジェクトの名前。

version

プロジェクトのバージョン番号。

configName

ジョブが実行されるオーケストレーションが含まれている構成の名前。デフォルトの構成では、この値は「デフォルト」です。

orchName

ジョブが実行されるオーケストレーションの名前。

jobId (オプション)

カウントが返されるジョブの ID。

jobKey (オプション)

カウントが返されるジョブのジョブ・キー。

minStartDate

ジョブが開始された一番古い日付。

maxStartDate

ジョブが開始された一番新しい日付。

status

ジョブの状況。

- status を負の値として設定すると、すべての状況が取得されます。


- 以下に示す特定の status 値を設定すると、その状況のジョブが取得されます。

- 成功 = 0
- エラー = 1
- 実行中 = 2
- キャンセル中 = 3
- 終了済み = 4
- キャンセル済み = 5
- 中断済み = 6
- 異常終了 = 7
- 中断中 = 8
- 不明 = 101

戻り:

ジョブの数。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00131.html

getJobDetails

指定されたパラメーターに該当するジョブの詳細を返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

ジョブが実行される構成が含まれているプロジェクトの名前。

version

プロジェクトのバージョン番号。

configName

ジョブが実行されるオーケストレーションが含まれている構成の名前。

orchName

ジョブが実行されるオーケストレーションの名前。


jobId

詳細が返されるジョブの ID。

戻り:

指定されたパラメーターに該当するジョブの詳細。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00132.html


getMonitoringProperties

オーケストレーション・モニター・データを管理するためのプロパティを取得します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

モニター・プロパティ。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00133.html>

purgeJobs

指定されたパラメーターに該当するジョブを消去します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

パラメーター:

projectName

ジョブが実行される構成が含まれているプロジェクトの名前。

version

プロジェクトのバージョン番号。

configName

ジョブが実行されるオーケストレーションが含まれている構成の名前。

orchName

ジョブが実行されるオーケストレーションの名前。

jobId

消去するジョブの ID。

jobKey

消去するジョブのジョブ・キー。

minStartDate

ジョブが開始された一番古い日付。

maxStartDate

ジョブが開始された一番新しい日付。

status

ジョブの状況。

exportJobs

消去したジョブを返すかどうかを指定します (true または false)。

戻り:

消去したジョブ (exportJobs が true に設定されている場合)。

searchJobs

指定されたパラメーターに該当するジョブを返します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

projectName

ジョブが実行される構成が含まれているプロジェクトの名前。

version

プロジェクトのバージョン番号。

configName

ジョブが実行されるオーケストレーションが含まれている構成の名前。

orchName

ジョブが実行されるオーケストレーションの名前。

jobId

返されるジョブの ID。

jobKey

返されるジョブのジョブ・キー。

minStartDate

ジョブが開始された一番古い日付。

maxStartDate

ジョブが開始された一番新しい日付。

status

ジョブの状況。

page

ゼロを基点としたページ番号付け。

pageSize

ページ当たりの行数。

戻り:

指定されたパラメーターに該当するジョブ。

例:

以下のコードは、ジョブを検索するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"  
xmlns:orc="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/orcmon">
```



```

<soapenv:Header>
  <orc:sessionId>834133D57E9259C94D44E53A5F6B43C2</orc:sessionId>
</soapenv:Header>
<soapenv:Body>
  <orc:searchJobs>
    <orc:projectName>CloudProvideProject_2</orc:projectName>
    <orc:version>1.0</orc:version>
    <orc:configName>Default</orc:configName>
    <orc:orchName>ProvideOnCloud</orc:orchName>
    <orc:jobId></orc:jobId>
    <orc:jobKey></orc:jobKey>
    <orc:minStartDate></orc:minStartDate>
    <orc:maxStartDate></orc:maxStartDate>
    <orc:status>errored</orc:status>
    <orc:page>0</orc:page>
    <orc:pageSize>1</orc:pageSize>
  </orc:searchJobs>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>

```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```

<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns3:searchJobsResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2005/1/monitoringProps/" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/orcmon" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schemas/2004/1/
orcmon/" xmlns:ns5="http://www.approuter.com/schema/router/1000/logging.xsd"
xmlns:ns6="http://www.approuter.com/schemas/2004/1/orcmon">
      <ns3:jobs status="1" startTime="2010-04-15T10:40:02.665Z"
path="CloudProvideProject_2/1.0/Default/Orchestrations/ProvideOnCloud"
id="_dcs_markdown_workspace_Transform_htmlout_0_nl_ja_com.ibm.wci.api.doc_ci00135_AD
CF71CCD81139F8CF16F815998B4B73" endTime="2010-04-15T10:40:38.066Z">
        <ns6:event seqNum="0">
          <ns6:eventType>
            <ns4:taskStartLoggedEvent>
              <ns4:taskId>ADCF71CCD81139F8CF16F815998B4B73</ns4:taskId>
              <ns4:sequenceNumber>0</ns4:sequenceNumber>
              <ns4:time>2010-04-15T10:40:02.665Z</ns4:time>
            </ns4:taskStartLoggedEvent>
          </ns6:eventType>
        </ns6:event>
        <ns6:event seqNum="1">
          <ns6:eventType>
            <ns4:setStatusLoggedEvent>
              <ns4:taskId>ADCF71CCD81139F8CF16F815998B4B73</ns4:taskId>
              <ns4:sequenceNumber>1</ns4:sequenceNumber>
              <ns4:status>2</ns4:status>
            </ns4:setStatusLoggedEvent>
          </ns6:eventType>
        </ns6:event>
      </S:Body>
    </S:Envelope>

```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

setMonitoringProperties

オーケストレーション・モニター・データを管理するためのプロパティを設定します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

パラメーター:


properties

オーケストレーション・モニター・データを管理するためのプロパティ。

戻り:

警告メッセージとエラー・メッセージのリスト。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00136.html>

Lognotif

Lognotif WSDL に関する情報です。

Lognotif WSDL を使用することで、通知ポリシーを保存、取得、削除することができます。EメールおよびSNMPのエンドポイントの取得と設定、ログ・レベルの設定と取得、ログ・カウントの取得を行うこともできます。

このセクションには以下のトピックがあります。

- [createNotificationPolicy](#)
- [deleteNotificationPolicy](#)
- [getEmailEndpoint](#)
- [getLogCount](#)
- [getLogLevel](#)
- [getNotificationPolicies](#)
- [getNotificationPolicy](#)
- [getSnmpEndpoint](#)
- [searchLogs](#)
- [setEmailEndpoint](#)

📄 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00137.html

createNotificationPolicy

通知ポリシーの作成と保存を行います。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

policy

ポリシーの名前。

戻り:

通知ポリシーが正常に作成された場合は、そのポリシーの ID。作成に失敗した場合は、-1 が返されま
す。


例:

以下の例は、通知ポリシーを作成するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>910D9A7B441C97AC2FCC54E3F1274AA7</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:createNotificationPolicy>
      <log:name>TestNotif</log:name>
      <log:logComponent>orchestration</log:logComponent>
      <log:logLevel>error</log:logLevel>
      <log:emailAddresses>user@mydomain.com</log:emailAddresses>
      <log:isSntp>>false</log:isSntp>
    </log:createNotificationPolicy>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:createNotificationPolicyResponse xmlns:ns2="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif" xmlns:ns3="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif/types">
      <ns2:policyId>688128</ns2:policyId>
    </ns2:createNotificationPolicyResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00138.html>

deleteNotificationPolicy

通知ポリシーを削除します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

policyId

削除対象として指定された通知ポリシーの ID。

戻り:

成功または失敗。

例:

以下の例は、指定された ID を持つ通知ポリシーを削除するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>910D9A7B441C97AC2FCC54E3F1274AA7</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:deleteNotificationPolicy>
      <log:policyId>688128</log:policyId>
    </log:deleteNotificationPolicy>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:deleteNotificationPolicyResponse xmlns:ns2="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif" xmlns:ns3="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:deleteNotificationPolicyResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

getEmailEndpoint

セッション ID に基づいて、通知用の E メール・エンドポイントを取得します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

E メール・エンドポイント。

例:

以下の例は、E メール・エンドポイントを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>910D9A7B441C97AC2FCC54E3F1274AA7</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:getEmailEndpoint/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getEmailEndpointResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
lognotif/types">
      <ns2:emailEndpoint>
        <ns3:active>true</ns3:active>
        <ns3:credentials>
          <ns3:password>test</ns3:password>
          <ns3:user>test</ns3:user>
        </ns3:credentials>
        <ns3:host>hq-exch-01</ns3:host>
        <ns3:port>123</ns3:port>
        <ns3:sender>user@mydomain.com</ns3:sender>
        <ns3:subject>Notification</ns3:subject>
      </ns2:emailEndpoint>
    </ns2:getEmailEndpointResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

getLogCount

指定されたパラメーターのログの数を取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

logComponent

ログの生成対象である指定コンポーネント。

logLevel

指定コンポーネントに対して実行されるロギングのレベル。

maxDaysOld

ログ取得のためにさかのぼる最大日数。最大を設定しない場合は、1 を使用します。

status

カウントに含めるログのステータスの指定。デフォルト値は、以下のとおりです。

- All
- Resolved
- Unresolved

戻り:

指定されたパラメーターに一致するログの数。

例:

以下の例は、ログの数を取得するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>910D9A7B441C97AC2FCC54E3F1274AA7</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:getLogCount>
      <log:logComponent>orchestration</log:logComponent>
      <log:logLevel>error</log:logLevel>
      <log:maxDaysOld>3</log:maxDaysOld>
      <log:status>all</log:status>
    </log:getLogCount>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getLogCountResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
lognotif/types">
      <ns2:logCount>8</ns2:logCount>
    </ns2:getLogCountResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

```
</ns2:getLogCountResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00141.html>

getLogLevel

指定されたログ・コンポーネントのログ・レベルを取得します。

デフォルトのログ・レベルは、以下のとおりです。

- All (注: 「All」レベルの場合に取得されるログの実際のレベルは、WMC で設定されているロギング・レベルによって決定されます。詳しくは、WMC の『システム・ログ設定の指定』を参照してください)。
- Fatal
- Severe
- Warning
- Info

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター

logComponent

ログの生成対象である指定コンポーネント。

戻り:

指定されたコンポーネントのログ・レベル。

例


以下の例は、オーケストレーションのログ・レベルを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>AD2E025868AC1392A44E6E27E4594EF9</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:getLogLevel>
      <log:logComponent>orchestration</log:logComponent>
    </log:getLogLevel>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns3:getLogLevelResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif/types" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif">
      <ns3:logLevel>warning</ns3:logLevel>
    </ns3:getLogLevelResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00142.html>

getNotificationPolicies

通知ポリシーを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

戻り:

通知ポリシー。

例:

以下の例は、通知ポリシーを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>910D9A7B441C97AC2FCC54E3F1274AA7</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:getNotificationPolicies/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getNotificationPoliciesResponse xmlns:ns2="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif" xmlns:ns3="http://
www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif/types">
      <ns2:notificationPolicies>
        <emailAddresses>user@mydomain.com</emailAddresses>
        <id>688129</id>
        <logComponent>orchestration</logComponent>
        <logLevel>error</logLevel>
        <name>TestNotif</name>
        <snmp>>false</snmp>
      </ns2:notificationPolicies>
    </ns2:getNotificationPoliciesResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```



```
</ns2:getNotificationPoliciesResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00143.html>

getNotificationPolicy

指定された通知ポリシー ID を使用している通知ポリシーを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

policyId
通知ポリシーの指定された ID。

戻り:
通知ポリシー。

例:

以下の例は、通知を取得するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>910D9A7B441C97AC2FCC54E3F1274AA7</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:getNotificationPolicy>
      <log:policyId>688129</log:policyId>
    </log:getNotificationPolicy>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getNotificationPolicyResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
lognotif/types">
      <ns2:notificationPolicy>
        <emailAddresses>user@mydomain.com</emailAddresses>
        <id>688129</id>
        <logComponent>orchestration</logComponent>
        <logLevel>error</logLevel>
      </ns2:notificationPolicy>
    </ns2:getNotificationPolicyResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

```
<name>TestNotif</name>
<snmp>false</snmp>
</ns2:notificationPolicy>
</ns2:getNotificationPolicyResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00144.html>

getSnmpEndpoint

通知用の SNMP エンドポイントを取得します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

SNMP エンドポイント。

例:

以下の例は、SNMP エンドポイントを取得するための SOAP 要求です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>910D9A7B441C97AC2FCC54E3F1274AA7</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:getSnmpEndpoint/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getSnmpEndpointResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
lognotif/types">
      <ns2:snmpEndpoint>
        <ns3:active>true</ns3:active>
        <ns3:community>Test</ns3:community>
        <ns3:host>hq-exch-01</ns3:host>
      </ns2:snmpEndpoint>
    </ns2:getSnmpEndpointResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00145.html

searchLogs

指定されたパラメーターのログを取得します。

Cloud および 統合アプライアンス に適用されます。

パラメーター:

logComponent

ログの生成対象である指定コンポーネント。 **logComponent** は、以下のいずれかです。

- hardware
- resources
- network
- security
- orchestration
- deployment
- all

logLevel

指定コンポーネントに対して実行されるロギングのレベル。 **logLevel** は、以下のいずれかです。

- critical
- error
- warning
- info
- all

maxDaysOld

ログ取得のためにさかのぼる最大日数。上限を設定しない場合は -1 を使用します。

status

検索に含めるログのステータスの指定。 **status** は、以下のいずれかです。

- resolved
- unresolved
- all

page

ゼロを基点としたページ番号付けを使用します。ログのページ編集はゼロから開始されます。 page の最大サイズは 2,147,483,647 として記述する必要があります。

pageSize

戻されるログ・ページのサイズを指定します。 pageSize の最大サイズは 2,147,483,647 として記述する必要があります。

戻り:

指定されたパラメーターに一致するログ。

例:

以下の例は、指定されたパラメーターに一致するログを検索する SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>AD2E025868AC1392A44E6E27E4594EF9</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <log:searchLogs>
      <log:logComponent>orchestration</log:logComponent>
      <log:logLevel>error</log:logLevel>
      <log:maxDaysOld>6</log:maxDaysOld>
      <log:status>all</log:status>
      <log:page>1</log:page>
      <log:pageSize>5</log:pageSize>
    </log:searchLogs>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns3:searchLogsResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif/types" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif">
      <ns3:logs>
        <ns2:system>orchestration</ns2:system>
        <ns2:message>Internal error: java.lang.RuntimeException: Could
not create the module activity: invoke for module http://www.approuter.com/
module/jde/: com.approuter.maestro.sdk.mpi.ActivityCreationException: Not able
to connect to gateway</ns2:message>
        <ns2:id>10157</ns2:id>
        <ns2:level>error</ns2:level>
        <ns2:timestamp>2010-04-07T09:03:30.155Z</ns2:timestamp>
      </ns3:logs>
      <ns3:logs>
        <ns2:system>orchestration</ns2:system>
        <ns2:message>Unable to compile the orchestration config-url://
JDE_TestCase_101/3.2/Default/Orchestrations/Orchestration</ns2:message>
        <ns2:id>10156</ns2:id>
        <ns2:level>error</ns2:level>
        <ns2:timestamp>2010-04-07T09:03:29.124Z</ns2:timestamp>
      </ns3:logs>
      <ns3:logs>
        <ns2:system>orchestration</ns2:system>
        <ns2:message>Error while trying to call remote operation connect
on gateway for activity com.approuter.module.jde.activity.JdeInvoke and
Secure Connector 2133, error is The Secure Connector name: 2133 is not
correct. Please specify the right agent name</ns2:message>
        <ns2:id>10155</ns2:id>
        <ns2:level>error</ns2:level>
        <ns2:timestamp>2010-04-07T09:03:29.110Z</ns2:timestamp>
      </ns3:logs>
    </ns3:searchLogsResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

```
<ns3:logs>
  <ns2:system>orchestration</ns2:system>
  <ns2:message>Undeploy of Orchestration config-url://
  JDE_TestCase_101/3.2/Default/Orchestrations/Orchestration failed:
  Orchestration not deployed: config-url://JDE_TestCase_101/3.2/Default/
  Orchestrations/Orchestration.</ns2:message>
  <ns2:id>10153</ns2:id>
  <ns2:level>error</ns2:level>
  <ns2:timestamp>2010-04-07T08:48:30.078Z</ns2:timestamp>
</ns3:logs>
<ns3:logs>
  <ns2:system>orchestration</ns2:system>
  <ns2:message>Orchestration not deployed: config-url://
  JDE_TestCase_101/3.2/Default/Orchestrations/Orchestration</ns2:message>
  <ns2:id>10152</ns2:id>
  <ns2:level>error</ns2:level>
  <ns2:timestamp>2010-04-07T08:48:29.059Z</ns2:timestamp>
</ns3:logs>
</ns3:searchLogsResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00146.html>

setEmailEndpoint

通知用の E メール・エンドポイントを設定します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

パラメーター:

emailEndpoint

E メール・エンドポイント。

戻り:

成功または失敗。

例:

以下の例は、E メール・エンドポイントを設定するための SOAP 要求です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/
envelope/" xmlns:log="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif"
xmlns:typ="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/lognotif/types">
  <soapenv:Header>
    <log:sessionId>910D9A7B441C97AC2FCC54E3F1274AA7</log:sessionId>
  </soapenv:Header>
```

```
<soapenv:Body>
  <log:setEmailEndpoint>
    <log:emailEndpoint>
      <typ:active>true</typ:active>
      <typ:credentials>
        <typ:password>test</typ:password>
        <typ:user>test</typ:user>
      </typ:credentials>
      <typ:host>hq-exch-01</typ:host>
      <typ:port>123</typ:port>
      <typ:sender>user@mydomain.com</typ:sender>
      <typ:subject>Notification</typ:subject>
    </log:emailEndpoint>
  </log:setEmailEndpoint>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:setEmailEndpointResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/lognotif" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
lognotif/types">
      <ns2:success>true</ns2:success>
    </ns2:setEmailEndpointResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00147.html>

システム

システム WSDL に関する情報。

システム WSDL は、統合アプライアンスのみに適用されます。システム WSDL を使用して、アプライアンス名またはネットワーク構成を設定または取得できます。システム・コマンドを実行したり、システム情報を取得したりすることもできます。

このセクションには以下のトピックがあります。

- [downloadPostmortem](#)
- [executeCommand](#)
- [getApplianceName](#)
- [getNetworkConfiguration](#)
- [getResourceUtilizationData](#)
- [setApplianceName](#)
- [setNetworkConfiguration](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00148.html>


downloadPostmortem

事後分析ファイルをダウンロードします。

このファイル内の情報を使用して、統合アプライアンスの問題を解決します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:
事後分析ファイル。

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00149.html>

executeCommand

指定されたシステム・コマンドを実行します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

パラメーター:

command
実行が指定されたシステム・コマンド。

戻り:
成功または失敗。


列挙

システム・コマンドは列挙定数として定義されます。

以下の表は、システム・コマンドのリストです。

コマンド	説明
removeJobHistory	統合アプライアンスからジョブ履歴を削除します。
removeProjects	統合アプライアンスからプロジェクトを削除します。
removeRunningJobs	実行中のジョブを停止し、統合アプライアンスから削除します。
generatePostmortem	統合アプライアンスのログ、オーケストレーション・ログ、およびトランザクション・ストアから収集された情報のアーカイブを生成します。この情報を使用して、統合アプライアンスの問題をデバッグします。このコマンドは、統合アプライアンスをリポートする前に実行します。
restart	統合アプライアンスのルーティング・サブシステムを再始動します。
reboot	すべてのルーティング・サービスをシャットダウンし、その後統合アプライアンスをリポートします。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00150.html>

getApplianceName

アプライアンス名を取得します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

アプライアンス名。

例:

以下のコードは、統合アプライアンス名を取得するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sys="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/system">
  <soapenv:Header>
    <sys:sessionId>91997FBCE89093792D40DEF8FDB345DD</sys:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sys:getApplianceName/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```




```
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns3:getApplianceNameResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/router/1000/NetConfig02.xsd" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/system" xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
util/types">
      <ns3:applianceName>TheIntegrator</ns3:applianceName>
    </ns3:getApplianceNameResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00151.html>

getNetworkConfiguration

現在のネットワーク構成の状況に戻します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

ネットワーク状況。

例:

以下のコードは、ネットワーク構成を取得するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sys="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/system">
  <soapenv:Header>
    <sys:sessionId>91997FBCE89093792D40DEF8FDB345DD</sys:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sys:getNetworkConfiguration/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns3:getNetworkConfigurationResponse xmlns:ns2="http://
www.approuter.com/schemas/router/1000/NetConfig02.xsd"
xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/system"
xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns3:networkStatus>
```


```

<ns2:active>true</ns2:active>
<ns2:carrierTimeout>30</ns2:carrierTimeout>
<ns2:emgmt active="true">
  <ns2:ipaddr>10.10.60.23</ns2:ipaddr>
  <ns2:netmask>255.255.255.0</ns2:netmask>
  <ns2:broadcast>10.10.60.255</ns2:broadcast>
  <ns2:MACaddr>00:04:23:cd:e8:b5</ns2:MACaddr>
  <ns2:fromDhcp>true</ns2:fromDhcp>
  <ns2:leaseExp>Sat Apr 24 05:33:10 2010 GMT</ns2:leaseExp>
  <ns2:isVirtual>false</ns2:isVirtual>
  <ns2:linkInfoValid>true</ns2:linkInfoValid>
  <ns2:autoNegotiate>true</ns2:autoNegotiate>
  <ns2:speed>1000</ns2:speed>
  <ns2:fullDuplex>true</ns2:fullDuplex>
</ns2:emgmt>
<ns2:edata active="true">
  <ns2:ipaddr>10.10.50.23</ns2:ipaddr>
  <ns2:netmask>255.255.255.0</ns2:netmask>
  <ns2:broadcast>10.10.50.255</ns2:broadcast>
  <ns2:MACaddr>00:04:23:cd:e9:d9</ns2:MACaddr>
  <ns2:fromDhcp>true</ns2:fromDhcp>
  <ns2:leaseExp>Sat Apr 24 05:33:14 2010 GMT</ns2:leaseExp>
  <ns2:isVirtual>false</ns2:isVirtual>
  <ns2:linkInfoValid>true</ns2:linkInfoValid>
  <ns2:autoNegotiate>true</ns2:autoNegotiate>
  <ns2:speed>1000</ns2:speed>
  <ns2:fullDuplex>true</ns2:fullDuplex>
</ns2:edata>
<ns2:gateway>
  <ns2:value>10.10.70.3</ns2:value>
  <ns2:fromDhcp>true</ns2:fromDhcp>
  <ns2:dhcpSource>emgmt</ns2:dhcpSource>
</ns2:gateway>
<ns2:hostname>
  <ns2:value>myhost</ns2:value>
  <ns2:fromDhcp>true</ns2:fromDhcp>
  <ns2:dhcpSource>emgmt</ns2:dhcpSource>
</ns2:hostname>
<ns2:domain>
  <ns2:value>mycompany.com</ns2:value>
  <ns2:fromDhcp>true</ns2:fromDhcp>
  <ns2:dhcpSource>emgmt</ns2:dhcpSource>
</ns2:domain>
<ns2:search>
  <ns2:value>mycompany.com mycompany.corp</ns2:value>
  <ns2:fromDhcp>true</ns2:fromDhcp>
  <ns2:dhcpSource>emgmt</ns2:dhcpSource>
</ns2:search>
<ns2:dns>
  <ns2:value>10.10.20.21 10.10.10.15</ns2:value>
  <ns2:fromDhcp>true</ns2:fromDhcp>
  <ns2:dhcpSource>emgmt</ns2:dhcpSource>
</ns2:dns>
<ns2:ntp>
  <ns2:value>10.10.20.21</ns2:value>
  <ns2:fromDhcp>true</ns2:fromDhcp>
  <ns2:dhcpSource>emgmt</ns2:dhcpSource>
</ns2:ntp>
<ns2:routes/>
<ns2:httpProxy>
  <ns2:host/>
  <ns2:port/>
  <ns2:user/>
  <ns2:passwd/>

```

```
<ns2:enabled>>false</ns2:enabled>
</ns2:httpProxy>
<ns2:ftpProxy>
  <ns2:host/>
  <ns2:port/>
  <ns2:user/>
  <ns2:passwd/>
  <ns2:enabled>>false</ns2:enabled>
</ns2:ftpProxy>
<ns2:sftpProxy>
  <ns2:host/>
  <ns2:port/>
  <ns2:user/>
  <ns2:passwd/>
  <ns2:enabled>>false</ns2:enabled>
</ns2:sftpProxy>
<ns2:history>
  <ns2:startAttempt>Fri Apr 23 17:33:07 2010 GMT</
ns2:startAttempt>
  <ns2:started>Fri Apr 23 17:33:15 2010 GMT</ns2:started>
  <ns2:stopped/>
  <ns2:stopReason/>
  <ns2:current>Monitoring network</ns2:current>
</ns2:history>
</ns3:networkStatus>
</ns3:getNetworkConfigurationResponse>
</S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00152.html>

getResourceUtilizationData

指定のアプライアンスのリソース使用率データを取得します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

アプライアンス・リソース使用率データ。

例:

次のコードは、統合アプライアンス リソース使用率データを取得するための、SOAP 要求の例です。


```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sys="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/system">
  <soapenv:Header>
    <sys:sessionId>9705D42CDA8D28BA04CEBAB3D9C44B5A</sys:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
```

```
<sys:getResourceUtilizationData/>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns2:getResourceUtilizationDataResponse xmlns:ns4="http://www.approuter.com/
schemas/router/1000/NetConfig02.xsd" xmlns:ns3="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/util/types" xmlns:ns2="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/
system">
      <ns2:applianceUtilization>
        <diskPercentUsed>6</diskPercentUsed>
        <usedMemory>35813024</usedMemory>
        <maxMemory>1509949440</maxMemory>
        <collectionCount>1</collectionCount>
        <totalRunningJobs>0</totalRunningJobs>
        <time>
          <ns3:offset>0</ns3:offset>
          <ns3:time>1379634870597</ns3:time>
        </time>
      </ns2:applianceUtilization>
    </ns2:getResourceUtilizationDataResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00160.html>

setApplianceName

アプライアンス名を設定します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

パラメーター:

applianceName

指定されたアプライアンスの名前。

戻り:

成功または失敗。

例:


以下のコードは、統合アプライアンスに対する SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sys="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/system">
  <soapenv:Header>
    <sys:sessionId>91997FBCE89093792D40DEF8FDB345DD</sys:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <sys:setApplianceName>
      <sys:applianceName>TheIntegrator</sys:applianceName>
    </sys:setApplianceName>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <ns3:setApplianceNameResponse xmlns:ns2="http://www.approuter.com/
schemas/router/1000/NetConfig02.xsd"
xmlns:ns3="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/system"
xmlns:ns4="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/util/types">
      <ns3:success>true</ns3:success>
    </ns3:setApplianceNameResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00153.html>

setNetworkConfiguration

現在のネットワーク構成を設定します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

成功または失敗。

例:

以下のコードは、統合アプライアンスのネットワーク構成を設定するための SOAP 要求の例です。実際のネットワークおよびアプライアンスの値を入力してください。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:sys="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/system"
xmlns:net="http://www.approuter.com/schemas/router/1000/
NetConfig02.xsd">
  <soapenv:Header>
    <sys:sessionId>?</sys:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
```


```

<sys:setNetworkConfiguration>
  <sys:networkType>
    <net:emgmt>
      <net:fallback>
        <net:ipaddr>?</net:ipaddr>
        <net:netmask>?</net:netmask>
        <net:broadcast>?</net:broadcast>
      </net:fallback>
      <net:manual>
        <net:ipaddr>?</net:ipaddr>
        <net:netmask>?</net:netmask>
        <net:broadcast>?</net:broadcast>
      </net:manual>
      <net:useDhcp>?</net:useDhcp>
      <net:useDhcpRoutes>?</net:useDhcpRoutes>
      <net:autoNegotiate>?</net:autoNegotiate>
      <net:speed>?</net:speed>
      <net:fullDuplex>?</net:fullDuplex>
    </net:emgmt>
    <net:edata>
      <net:fallback>
        <net:ipaddr>?</net:ipaddr>
        <net:netmask>?</net:netmask>
        <net:broadcast>?</net:broadcast>
      </net:fallback>
      <net:manual>
        <net:ipaddr>?</net:ipaddr>
        <net:netmask>?</net:netmask>
        <net:broadcast>?</net:broadcast>
      </net:manual>
      <net:useDhcp>?</net:useDhcp>
      <net:useDhcpRoutes>?</net:useDhcpRoutes>
      <net:autoNegotiate>?</net:autoNegotiate>
      <net:speed>?</net:speed>
      <net:fullDuplex>?</net:fullDuplex>
    </net:edata>
    <net:gateway>
      <net:useDhcp>?</net:useDhcp>
      <net:dhcpSource>?</net:dhcpSource>
      <net:manual>?</net:manual>
      <net:fallback>?</net:fallback>
    </net:gateway>
    <net:hostname>
      <net:useDhcp>?</net:useDhcp>
      <net:dhcpSource>?</net:dhcpSource>
      <net:manual>?</net:manual>
      <net:fallback>?</net:fallback>
    </net:hostname>
    <net:domain>
      <net:useDhcp>?</net:useDhcp>
      <net:dhcpSource>?</net:dhcpSource>
      <net:manual>?</net:manual>
      <net:fallback>?</net:fallback>
    </net:domain>
    <net:search>
      <net:useDhcp>?</net:useDhcp>
      <net:dhcpSource>?</net:dhcpSource>
      <net:manual>?</net:manual>
      <net:fallback>?</net:fallback>
    </net:search>
    <net:dns>
      <net:useDhcp>?</net:useDhcp>
      <net:dhcpSource>?</net:dhcpSource>
      <net:manual>?</net:manual>

```

```
<net:fallback?></net:fallback>
</net:dns>
<net:ntp>
  <net:useDhcp?></net:useDhcp>
  <net:dhcpSource?></net:dhcpSource>
  <net>manual?></net>manual>
  <net:fallback?></net:fallback>
</net:ntp>
<net:routes>
  <!--必要に応じて繰り返す:-->
  <net:route>
    <net:destination?></net:destination>
    <net:netmask?></net:netmask>
    <net:router?></net:router>
    <net:interface?></net:interface>
  </net:route>
</net:routes>
<net:httpProxy>
  <net:host?></net:host>
  <net:port?></net:port>
  <net:user?></net:user>
  <net:passwd?></net:passwd>
  <net:enabled?></net:enabled>
  <net:passwdEncoding?></net:passwdEncoding>
</net:httpProxy>
<net:ftpProxy>
  <net:host?></net:host>
  <net:port?></net:port>
  <net:user?></net:user>
  <net:passwd?></net:passwd>
  <net:enabled?></net:enabled>
  <net:passwdEncoding?></net:passwdEncoding>
</net:ftpProxy>
<net:sftpProxy>
  <net:host?></net:host>
  <net:port?></net:port>
  <net:user?></net:user>
  <net:passwd?></net:passwd>
  <net:enabled?></net:enabled>
  <net:passwdEncoding?></net:passwdEncoding>
</net:sftpProxy>
<net:carrierTimeout?></net:carrierTimeout>
<net:enabled?></net:enabled>
</sys:networkType>
</sys:setNetworkConfiguration>
</soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00154.html>

ステージング


ステージング WSDL に関する情報。

ステージング WSDL は、統合アプライアンスのみに適用されます。ステージング WSDL を使用して、ステージング・データベースが開始されているかどうかを確認できます。ステージング・データベースの開始または停止ができます。

このセクションには以下のトピックがあります。

- [isStagingDatabaseStarted](#)
- [startStagingDatabase](#)
- [stopStagingDatabase](#)

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00155.html>

isStagingDatabaseStarted

ステージング・データベースが開始済みかどうかを戻します (True または False)。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

ステージング・データベースが開始済みの場合は True。


例:

以下のコードは、ステージング・データベースが開始済みかどうかを確認する SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:stag="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/staging">
  <soapenv:Header>
    <stag:sessionId>91997FBCE89093792D40DEF8FDB345DD</stag:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <stag:isStagingDatabaseStarted/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <isStagingDatabaseStartedResponse xmlns="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/staging">
      <isStarted>true</isStarted>
    </isStagingDatabaseStartedResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```


 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00156.html>

startStagingDatabase

ステージング・データベースを開始します。データベースが開始された場合は、成功、データベースの開始に失敗した場合は、失敗を戻します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

成功または失敗。


例:

以下のコードは、ステージング・データベースを開始するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:stag="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/staging">
  <soapenv:Header>
    <stag:sessionId>91997FBCE89093792D40DEF8FDB345DD</stag:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <stag:startStagingDatabase/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <startStagingDatabaseResponse xmlns="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/staging">
      <success>true</success>
    </startStagingDatabaseResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00157.html>

stopStagingDatabase

ステージング・データベースを停止します。データベースが停止された場合は、成功、データベースの停止に失敗した場合は、失敗を戻します。

統合アプライアンス のみに適用されます。

戻り:

成功または失敗。

例:


以下のコードは、ステージング・データベースを停止するための SOAP 要求の例です。

```
<soapenv:Envelope xmlns:soapenv="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/"
xmlns:stag="http://www.approuter.com/schemas/2008/1/staging">
  <soapenv:Header>
    <stag:sessionId>91997FBCE89093792D40DEF8FDB345DD</stag:sessionId>
  </soapenv:Header>
  <soapenv:Body>
    <stag:stopStagingDatabase/>
  </soapenv:Body>
</soapenv:Envelope>
```

以下は、要求に対する SOAP 応答の例です。

```
<S:Envelope xmlns:S="http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/">
  <S:Body>
    <stopStagingDatabaseResponse xmlns="http://www.approuter.com/
schemas/2008/1/staging">
      <success>true</success>
    </stopStagingDatabaseResponse>
  </S:Body>
</S:Envelope>
```

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.api.doc/ci00158.html>

概要

IBM® Cast Iron® Connector Development Kit (CDK) 開発者ガイドは、Cast Iron Studio (Studio) 開発プラットフォームを使用して、アプリケーション・システムや他のデータ・ソースからデータを抽出するプラグイン・コネクターの開発とデプロイを行う開発者を対象としています。

コネクターは、外部アプリケーションの API を Cast Iron 開発プラットフォームに公開することで、Studio の中核機能を拡張します。API により、新しいライブラリーとオブジェクト・タイプによってスクリプティング・エンジンが拡張され、外部システムからの通知イベントを Cast Iron の物理統合アプライアンスまたは仮想統合

アプライアンスに公開します。Cast Iron のアプライアンスは、多くのタイプのエンドポイント (FTP、SFTP、HTTP、HTTPS、Eメール (SMTP、POP)、SAP、MQ、Web サービス、多くの商用データベース・システムなど) への接続をサポートしています。

各コネクタには、コネクタを Studio で設計時に使用できるようにするための XML 記述子ファイルが関連付けられています。XML スキーマ定義 (XSD) ファイルでは、XML ファイルの要素と属性が定義されています。

Cast Iron 開発プラットフォームには、開発プロセスの手引きとなる CDK コネクタ・ウィザードが用意されています。Studio は、直観的に使用できるドラッグ・アンド・ドロップ・インターフェースを備えており、これによって開発時間を大幅に短縮できます。

このガイドでは、コネクタの概要を示すと共に、Cast Iron 開発プラットフォームのコンポーネントを紹介し、ユーザー独自のコネクタを開発およびデプロイするために必要な手順を段階を追って示します。


前提条件

コネクタの開発に関連する作業のほとんどは Studio の内部で行われるため、Studio および Cast Iron 製品についての実用的な知識が必要です。また、以下の言語およびファイル・フォーマットについても理解しておく必要があります。

- Extensible Markup Language (XML)
- Web サービス記述言語 (WSDL)
- Extensible Stylesheet Language Transformations (XSLT)

注: Studio では、多くのアクティビティについて、エンドポイントとの間で送受信するパラメーターの構造を判別するために「検出」プロセスがサポートされています。入力アクティビティが設計時に検出されるようにする場合は、抽象型の WSDL エlement またはスキーマ・Element を使用する必要があります。Element を抽象型として宣言する場合は、置換グループを使用する必要があります。抽象バージョンを使用できない場合は、WSDL ファイルまたはスキーマを変更する必要があります。用意した抽象ファイルは、設計時に実際のデータ型に置き換えられます。抽象ファイルについて詳しくは、「[アクティビティの追加](#)」ウィンドウの使用を参照してください。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_intro.html

設計上の考慮事項

Web 経由のサービスとして提供されるアプリケーション指向ソフトウェアが爆発的に増加している昨今では、プロジェクトの効果的なガイドラインを整えることが非常に重要になっています。設計アクティビティを慎重に計画することは、プロジェクトを確実に成功させるために役立ちます。

開発に着手する前に、以下のガイドラインを慎重に検討してください。


- タスクおよびユーザーの分析: プロジェクトを開始する前に、エンド・ユーザーにどのようなタスクを実行させるのかについてよく検討してください。スキーマ・ファイルで指定するエレメントと、XML ファイルの構成プロパティを使用して、Studio およびその機能に対するユーザーのアクセス・レベルを制御できます。例えば、ユーザーのエンドポイントを定義することで、ユーザーがオーケストレーションに追加できるアクティビティの数を制限することや増やすことができます。エンド・ユーザーがタスクを実行する方法を把握しておくことも重要です。ユーザーが必要とする可能性の高い順序で情報を提供することにより、プロジェクトの円滑な統合が促進され、一貫性のあるユーザー・エクスペリエンスを実現できます。
- 命名規則: 期限が差し迫ったプロジェクトの作業では、アプリケーションのコンポーネントにあまり深く考えずにラベルを付ける傾向が見られます。例えば、エンドポイント・パネルの設計時には、より重要な機能タスクに進むために、「タイプ」フィールドの定義を短時間で終わらせたくなくなるかもしれません。しかし、直観的に理解できる命名習慣によるメリットは、恣意的で混乱をきたす命名方式がもたらす問題にユーザーが後で直面する時点になってはつきりします。一度デプロイされたコネクターは繰り返し使用されるため、論理的で一貫性のある、直観的な命名規則を採用してください。

始める前に

プロジェクトに着手する前に、以下の情報を収集してください。これらの情報を利用できるようにしておくと、開発プロセスをより円滑に進めることができます。

- 接続フィールド: エンドポイントへの接続に必要な接続フィールドの詳細 (名前、タイプなど) を指定できるように準備してください。
- 入力アクティビティ: 設計時に動的に検出できるようにする入力アクティビティと、静的に定義する入力アクティビティを判別してください。
- 入出力データの型: 各アクティビティがサポートする入出力データの型を指定できるように準備してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_designconsider.html

本書の構成

本書は、開発プロジェクトに最小限の準備期間で着手できるようにすることを目的としています。第1章では、CDK コネクター・ウィザードについて紹介し、プロジェクトを軌道に乗せるために必要な手順を示します。しかし、開発を始める前に CDK 開発プラットフォームについてよく理解しておきたい場合は、作業を始める前に少し時間を取って、第4章『[CDK のコンポーネント](#)』をお読みください。

本書は、以下のセクションで編成されています。

- [CDK コネクター・ウィザード: 始めに](#)

CDK コネクター・ウィザードについて紹介し、コネクターを作成するための段階的手順を示します。

- [テストとデバッグ](#)

コネクターのテストおよびデバッグを行うための手順を示します。

- [コネクター・プロジェクトのエクスポートとインポート](#)

コネクター・プロジェクトをエクスポートまたはインポートする方法についての情報を示します。

- [Cast Iron CDK のコンポーネント](#)

Studio 開発プラットフォームの概要を示し、CDK のコンポーネントを紹介します。


- [よくある質問](#)

よくある質問に対する回答をいくつか示します。

- [サポートの依頼方法](#)

IBM のリソースに関する情報を示し、支援を得るための方法を紹介します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_docorganized.html

CDK コネクター・ウィザード: 始めに

CDK コネクター・ウィザードでは、開発プロセスを手引きする 3 つのウィンドウが順番に表示されるので、これらのウィンドウにコネクターに関する基本的な詳細情報を入力します。その後、ウィザードによってオーケストレーションが生成されるので、これらのオーケストレーションをテストおよび認定してから Studio にデプロイできます。

手順

1. Studio を開始します。
2. 「ファイル」 > 「新規コネクター・プロジェクト (New Connector Project)」を選択します。

タスクの結果

Studio ワークスペースにウィザードが開き、「コネクター情報」ウィンドウが表示されます。

次のタスク

次のフェーズでは、「コネクター情報」ウィンドウを使用して、コネクターに関する基本的な情報を追加します。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_wizard.html

「コネクター情報」ウィンドウ

このフェーズでは、コネクターに関する一般情報 (名前、バージョン、説明など) を「コネクター情報」ウィンドウに追加し、コネクター・アクティビティーに使用する WSDL ファイルまたはスキーマ・ファイルを追加します。

このタスクについて

「コネクター情報」ウィンドウでは、コネクター・プロジェクトに関する基本的な詳細情報を入力します。「コネクター情報」ウィンドウを以下に示します。

図 1. 「コネクター情報」ウィンドウ

The screenshot shows the 'Connector Information' window. At the top, it says 'Provide Connector Name, Version and Description'. Below that, under 'Provide Basic Connector Detail', there are three input fields: 'Name' with the value 'SampleSalesforceConnector', 'Version' with '1.0.0', and 'Description' with 'Salesforce sample connector'. Below these is a section 'Add WSDL Or Schema Files' which includes a text field 'Add WSDL/Schema' containing 'WSDLs/SalesforceNew' and a 'Browse' button. A callout box at the bottom points to the 'Browse' button and is labeled 'Add Schema or WSDL file'.

手順

1. 「名前」テキスト・フィールドに、コネクターの名前を入力します。
注: NCName の使用上の制限により、「名前」テキスト・フィールドの文字には、:、@、\$、%、&、/、+、,、;、空白文字、各種の括弧などのシンボル文字を含めることはできません。また、「名前」テキスト・フィールドの文字を数字、ドット、または負符号で開始することはできません。ただし、これらの文字は NCName の後続の部分では使用できます。
2. 「説明」テキスト・フィールドに、コネクターの説明を入力します。
3. 「バージョン」テキスト・フィールドに、コネクターのバージョン番号を入力します。
4. WSDL ファイルまたはスキーマ・ファイルを追加するには、「参照」ボタンをクリックして目的のファイルにナビゲートします。選択したファイルが「WSDL/スキーマの追加」フィールドに表示されます。
注: 入力アクティビティーが設計時に検出可能な場合は、このステップで抽象型を含む WSDL またはスキーマを指定する必要があります。抽象ファイルについては、「[アクティビティーの追加](#)」ウィンドウ

- ドウの使用を参照してください。
5. 「次へ」をクリックします。

タスクの結果

「接続フィールドの追加」ウィンドウが表示されます。

次のタスク

次のフェーズでは、「接続フィールドの追加」ウィンドウを使用して、エンドポイントの接続プロパティを指定します。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_connectinfowindow.html

「接続フィールドの追加」ウィンドウの使用

「接続フィールドの追加」ウィンドウでは、ユーザーに公開するエンドポイントの接続パラメーターを指定します。ユーザーは、これらの値を使用してエンドポイントに接続します。

このタスクについて

この設計フェーズでは、エンドポイントへの接続に必要な接続フィールドおよびそれに対応する詳細情報を追加します。「接続フィールドの追加」ウィンドウを以下に示します。

図 1. 「接続フィールドの追加」ウィンドウ

Add Connection Fields

Provide the Endpoint Connection Fields - These fields are used to connect to the endpoint

Double-click table cell to edit the Connection Field Name. Press ENTER to complete editing.

Connection Field Name	Connection Field Default Value
User Name	
Password	

Add/Delete endpoint connection fields.

Double-click table cell to edit the Connection Field Default Value. Press ENTER to complete editing.

Endpoint Connection Fields Details

Name: User Name Format: STRING

Type: STRING

Field Constraints

Enable Constraints

Value Min Length: 0 Field Min Range: 0

Value Max Length: 250 Field Max Range: 250

Provide details for the fields selected in the table shown above.

手順

1. プラス・アイコン (+) をクリックします。「エンドポイント接続フィールドの追加」パネルに空白のテキスト・フィールドが表示されます。
2. 「エンドポイント接続フィールドの追加」パネルに、フィールド・タイプを入力します。例えば、ユーザー名に関連付けられたパスワードを指定する場合は「Password」などとします。編集を開始するには、行内の「接続フィールド名」セルをダブルクリックしてアクティブ化してから、情報を入力します。操作が完了したら、**Enter** キーを押します。フィールド・タイプ情報が「名前」フィールドに表示されます。
3. 「エンドポイント接続フィールドの詳細」パネルで、「タイプ」および「形式」の各ドロップダウン・メニューをクリックし、「エンドポイント接続フィールドの追加」に入力した情報に対応するカテゴリーを選択します。「エンドポイント接続フィールドの追加」パネルに、フィールド・タイプを入力します。例えば、ユーザー名に関連付けられたパスワードを指定する場合は「Password」などとします。
4. 上記のステップを繰り返して、その他の接続フィールドを追加します。追加フィールドを追加した後で、「次へ」をクリックします。


タスクの結果

「アクティビティの追加」ウィンドウが表示されます。

次のタスク

次のフェーズでは、「アクティビティの追加」ウィンドウを使用して、コネクタ・アクティビティを定義します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_addconnectfieldswindow.html

「アクティビティの追加」ウィンドウの使用

「アクティビティの追加」ウィンドウでは、コネクタ・アクティビティを作成および定義し、入出力データの情報を入力します。

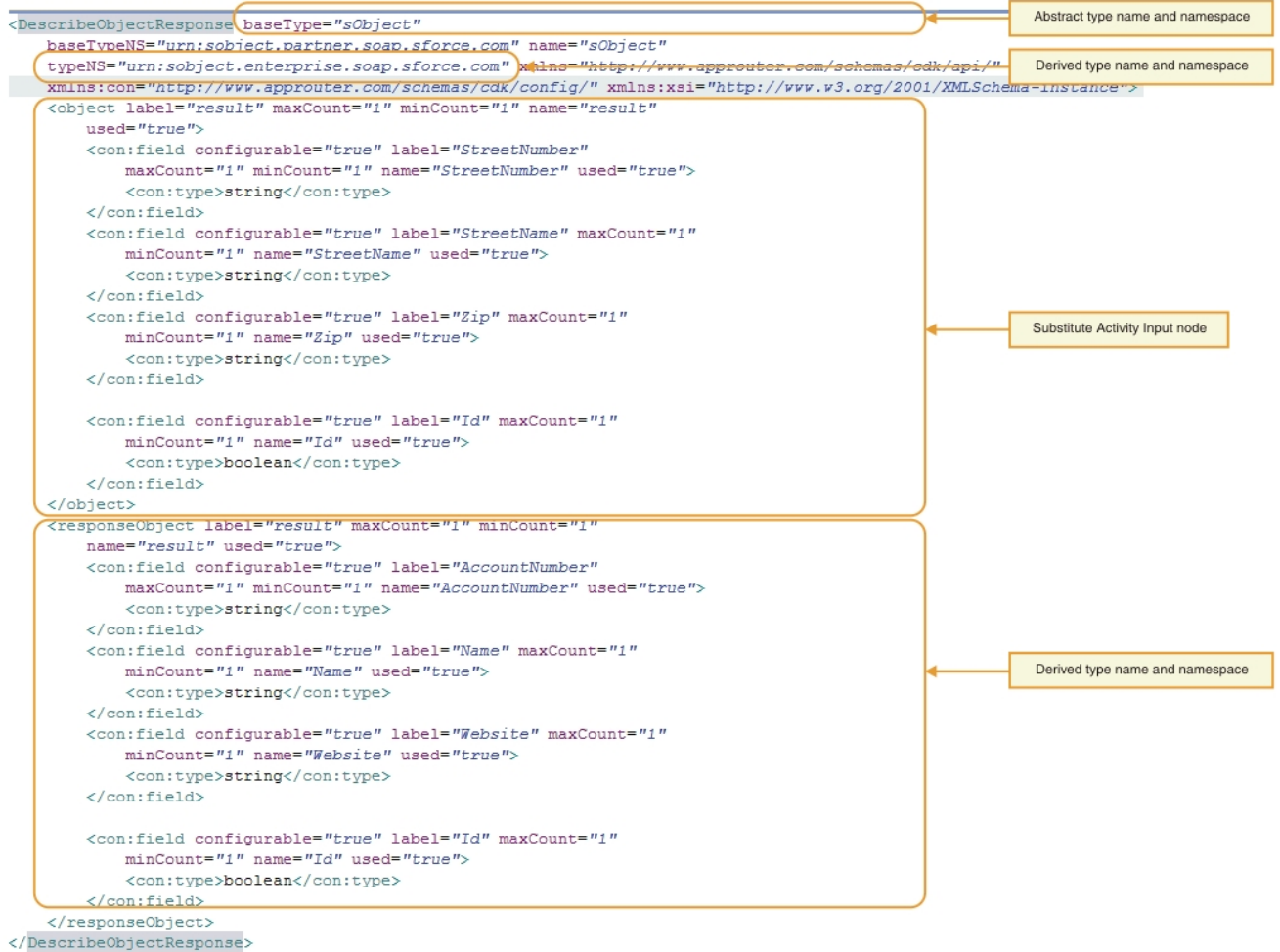
このタスクについて

このフェーズでは、入力データの検出を静的に行うか、設計時に動的に行うかを指定します。例えば、設計時に入力データが検出される場合は、「作成」アクティビティを使用して、アカウント、連絡先、ユーザーなどのさまざまなオブジェクト・タイプを作成できます。「作成」アクティビティに対する入力は、作成するオブジェクトによって異なります。この場合、「作成」は参照可能なアクティビティとして扱われます。このようなアクティビティでは、生成するオブジェクトによって入力が異なります。

注: 入力アクティビティを設計時に検出できるようにするには、抽象 WSDL またはスキーマ・タイプを指定する必要があります。抽象 WSDL またはスキーマ・タイプは、実装に左右されない用語で Web サービスを記述し

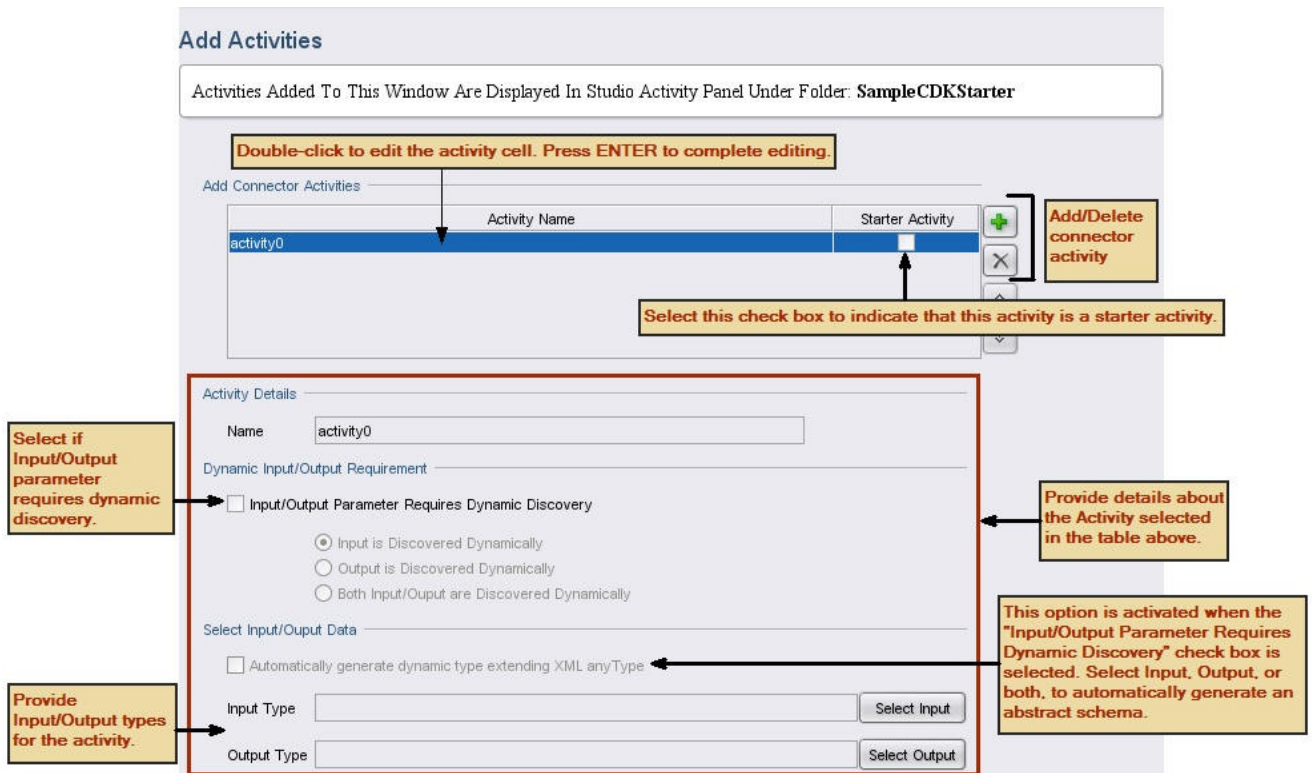
たもので、サービスを実装するエンドポイントのネットワークにおける公開方法を定義する具象 WSDL またはスキーマ・タイプとは異なります。図 1 は、抽象型の定義を含む WSDL の例を示しています。

図 1. 抽象定義を含む WSDL



「アクティビティーの追加」ウィンドウを以下に示します。

図 2. 「アクティビティーの追加」ウィンドウ



手順

1. プラス(+)**・**アイコンをクリックします。「コネクター・アクティビティーの追加」パネルに空白のテキスト・フィールドが表示されます。
2. 「コネクター・アクティビティーの追加」パネルに、新規アクティビティー名を追加します。編集を開始するには、「アクティビティー名」セルの行をダブルクリックしてアクティブ化してから、情報を入力します。操作が完了したら、**Enter** キーを押します。
注: NCName の使用上の制限により、「名前」テキスト・フィールドの文字には、:、@、\$、%、&、/、+、,、;、空白文字、各種の括弧などのシンボル文字を含めることはできません。また、「名前」テキスト・フィールドの文字を数字、ドット、または負符号で開始することはできません。ただし、これらの文字は NCName の後続の部分では使用できます。
3. 「コネクター・アクティビティーの追加」パネルに、スターター・アクティビティーチェック・ボックスを選択して、選択したアクティビティーがスターター・アクティビティーかどうかを示します。
4. 「動的入力/出力要件」パネルで、入力パラメーター、出力パラメーター、またはその両方で動的検出が必要かどうかを指定します。入力アクティビティーを設計時に検出できるようにするには、抽象スキーマ・タイプを指定する必要があります。
5. 1 つ以上のパラメーターで動的検出が必要な場合は、「入力/出力データの選択」パネルで、「入力の選択」ボタンまたは「出力の選択」ボタンを使用して、各アクティビティーの入出力データを選択します。注: 特定の入力データを複数のアクティビティーに割り当てないでください。
注: スターター・アクティビティーには出力タイプのみがあります。したがって、「アクティビティー詳細」セクションで出力タイプのみを選択することが許可されます。
6. 新規アクティビティーごとに上記のステップを繰り返します。
7. 操作が完了したら、「次へ」をクリックします。

タスクの結果

「最終の要約」ウィンドウが表示されます。

次のタスク

「最終の要約」 ウィンドウで結果を確認します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

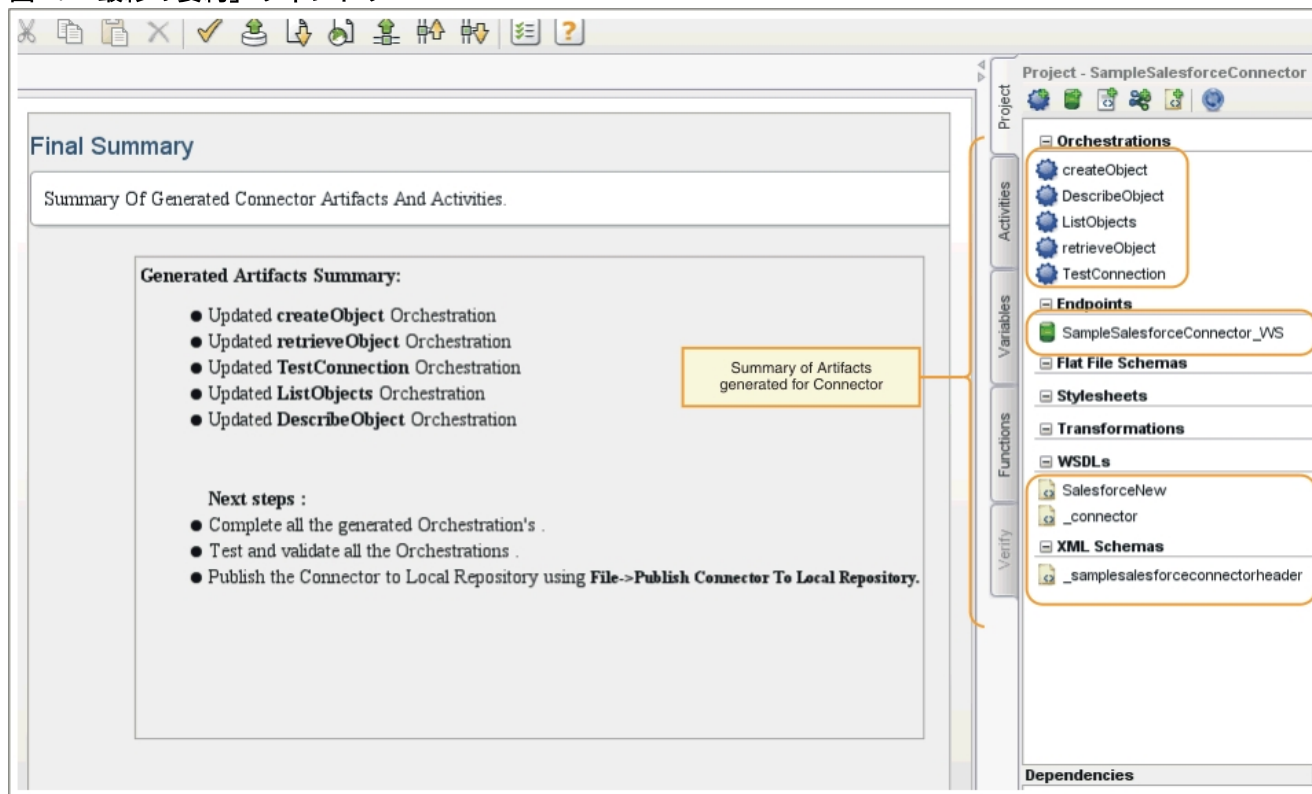
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_addactivitieswindow.html

「最終の要約」 ウィンドウ

開発フェーズの締めくくりとして、「最終の要約」ウィンドウでは、生成したオーケストレーションを完了させ、プロジェクトをコネクタ・リポジトリにエクスポートする準備ができたことを示す通知が表示されます。

「最終の要約」ウィンドウでは、コネクタ・アクティビティが正常に生成されたことが確認されます。「最終の要約」ウィンドウを以下に示します。

図 1. 「最終の要約」ウィンドウ



[フィードバック](#) | [特記事項](#)

オーケストレーションの完了

オーケストレーションを完了させて、Studio にエクスポートできるようにします。コネクターのオーケストレーションだけでなく、Cast Iron のコネクター・インターフェースのオーケストレーションも完了させる必要があります。

このタスクについて

開発作業を完了した後で、以下の手順を実行して、コネクターのオーケストレーションを完了させます。Cast Iron の TestConnection、ListObjects、および DescribeObjects の各コネクター・インターフェースについての説明、およびそれぞれのオーケストレーションを完了させるための手順については、[Cast Iron のコネクター・インターフェース](#)を参照してください。

以下に示すステップでは、Web サービスの「サービスの提供」アクティビティから入力データを読み取り、ロジックを追加して、「応答の送信」出力アクティビティで応答することによって、コネクターのオーケストレーションを完了させます。「サービスの提供」アクティビティは、外部クライアントから開始できる Web サービスを提供します。実行時には、「応答の送信」アクティビティがクライアントに応答を返します。

手順

1. 「プロジェクト」ツールボックス・タブで、オーケストレーション (CreateObjects など) を選択します。オーケストレーションが Studio ワークスペースに表示されます。
2. オーケストレーションで、「サービスの提供」アクティビティをクリックします。「出力のマップ」パネルが表示されます。
3. 「出力のマップ」パネルで、「body」をクリックします。入力データを示すノード・タイプのウィンドウが表示されます。
4. ノード・タイプのウィンドウの情報を使用して body のデータをマップし、そのデータを使用してエンドポイント内にオブジェクトを作成します。
5. 「オーケストレーション」->「妥当性検査」を選択します。

注: 「スターター・アクティビティ」に対して生成されたオーケストレーションには、「サービスの提供」アクティビティおよび「サービスの呼び出し」アクティビティがありません。実装する「スターター・アクティビティ」の一部として、最終的には、必要なデータをフェッチして、値を事前生成された「サービスの呼び出し」アクティビティへ受け渡します。「サービスの呼び出し」アクティビティは、オーケストレーションの最後のアクティビティでなければなりません。また、オプション・パラメーター `location` を事前生成された「サービスの提供」アクティビティの `ConnectionFields` の一部として受け取った `callbackURL` に取り込みます。

タスクの結果

「妥当性検査結果」ウィンドウが開き、妥当性検査の結果が表示されます。

次のタスク

Cast Iron の TestConnection、ListObjects、および DescribeObjects の各コネクタ・インターフェースのオーケストレーションを完了させます。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_completeorchestration.html

Cast Iron のコネクタ・インターフェース

Cast Iron コネクタは、オーケストレーションとして実装される 3 つの標準インターフェース (TestConnection、ListObjects、および DescribeObjects) を使用します。

TestConnection、ListObjects、および DescribeObjects の各インターフェースのオーケストレーション・テンプレートは、「アクティビティの追加」フェーズでウィザードによって自動的に作成されます。オーケストレーションは、個別のコネクタ要件に基づいて完了させる必要があります。このセクションでは、TestConnection、ListObjects、および DescribeObjects の各インターフェースの概要を説明します。[コネクタ・インターフェースのオーケストレーションの完了](#)で、各オーケストレーションを完了させます。

TestConnection

TestConnection インターフェースは、「コネクタ情報」ウィンドウに追加した値を反映しており、コネクタはこのインターフェースを使用してエンドポイントとの接続を確立します。接続が確立されると、接続状況がブール演算子として返されます。

ListObjects

ListObjects インターフェースは、「アクティビティの追加」ウィンドウに追加した値を反映しており、特定のコネクタ・アクティビティがサポートしているすべてのオブジェクトのリストを返します。例えば、Salesforce の作成操作が、オブジェクトの中から、Account、Customer、Contact、Opportunity、および User などのオブジェクトをサポートするというような場合です。返されるリストは、ListObjects の Reply アクティビティのスキーマに対応します。以下は、XML 形式の ListObjects の応答例です。

```
<ListObjectsResponse
xmlns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/">
<objectType
label="Customer"
xmlns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/">Account</objectType>
<objectType
label="Account Object"
xmlns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/">Customer</objectType>
<objectType
label="Customer details"
xmlns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/">Contact</objectType>
<objectType
label="Opportunity details"
xmlns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/">Opportunity</objectType>
<objectType
label="User details"
```

```
xmlns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/">User</objectType>
</ListObjectsResponse>
```

DescribeObjects

DescribeObjects インターフェースは、コネクタ・アクティビティを通じて公開されているオブジェクトをユーザーが正しく操作できるようにするための入出力を提供します。例えば、Salesforce の作成操作を選択した場合、ListObjects から選択したオブジェクトに基づいて入力スキーマが動的に検出されます。DescribeObjects から返される応答は以下のようになります。

```
<DescribeObjectResponse baseType="sObject"
  baseTypeNS="urn:object.partner.soap.sforce.com"
  name="create" typeNS="http://example.com/stockquote"
  xmlns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/"
  xmlns:con="http://www.approuter.com/schemas/cdk/config/"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <object label="createInput" maxCount="1" minCount="1" name="createInput"
    used="true">
    <con:field configurable="true" label="ObjectName" maxCount="1"
      minCount="1" name="ObjectName" used="true">
      <con:type>string</con:type>
    </con:field>
    <con:field configurable="true" label="FirstName" maxCount="1"
      minCount="1" name="FirstName" used="true">
      <con:type>string</con:type>
    </con:field>
    <con:field configurable="true" label="LastName" maxCount="1"
      minCount="1" name="LastName" used="true">
      <con:type>string</con:type>
    </con:field>
    <con:field configurable="true" label="Phone" maxCount="1"
      minCount="1" name="Phone" used="true">
      <con:type>string</con:type>
    </con:field>
  </object>
  <responseObject label="createOutput" maxCount="1"
    minCount="1" name="createOutput" used="true">
    <con:field configurable="true" label="Id" maxCount="1"
      minCount="1" name="Id" used="true">
      <con:type>string</con:type>
    </con:field>
    <con:field configurable="true" label="ObjectName" maxCount="1"
      minCount="1" name="ObjectName" used="true">
      <con:type>string</con:type>
    </con:field>
    <con:field configurable="true" label="Status" maxCount="1"
      minCount="1" name="Status" used="true">
      <con:type>string</con:type>
    </con:field>
  </responseObject>
</DescribeObjectResponse>
```

動的スキーマ検出

DescribeObjects スキーマ検出機能を使用すると、実行時にスキーマを動的に検出できます。コネクタ・アクティビティがスキーマ・エレメントを入力または出力として使用する場合は、スキーマがオーケストレーションにインポートされます。以前にインポートされたスキーマを、complexType QName を使用して検出し、入力または出力アクティビティとして動的に置換する必要がある場合は、以下のスキーマに示すように、DescribeObject 応答内で属性を設定します。


```

< xsd:schema targetNamespace = " urn.sample.stock
" xmlns:xsd = "http://www.w3.org/2001/XMLSchema" >
  < xsd:element name = "TradePriceRequest" >
    < xsd:complexType >
      < xsd:all >
        < xsd:element name = "tickerSymbol" type = "xsd:string" />
      </ xsd:all >
    </ xsd:complexType >
  </ xsd:element >
  < xsd:complexType name = "ciObject" ></ xsd:complexType >
  < xsd:complexType name = " tradingPartner " >
    < xsd:sequence >
      < xsd:element name = "partnerName" type = "xsd:string" />
    </ xsd:sequence >
  </ xsd:complexType >

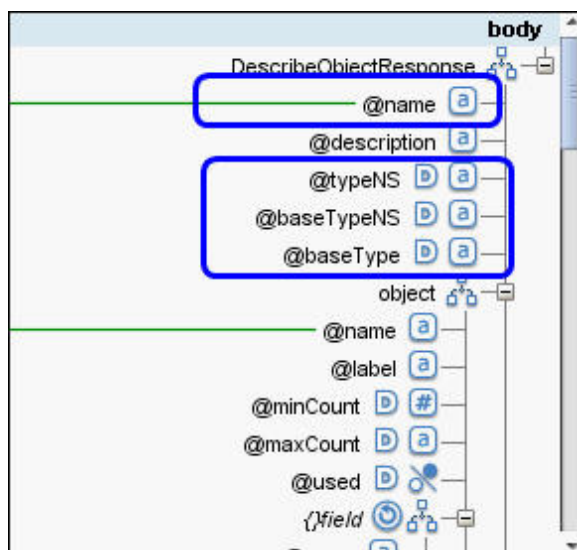
```

例えば、上記のスキーマ内の `complexType tradingPartner` を置換するには、以下の例に示すように、スキーマを検出して動的に置換するための情報を設定します。

```

DescribeObject Response value to
@name -> tradingPartner [complexType name to be discovered]
@typeNS -> url.sample.stock [complexType namespace ]
@baseType -> http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/ [CDK default]
@baseType -> cObject [CDK default]

```



[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_connectorinterfaces.html

コネクタ・インターフェースのオーケストレーションの完了

このフェーズでは、Cast Iron の `TestConnection`、`ListObjects`、および `DescribeObjects` の各オーケストレーションにビジネス・ロジックを追加します。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)
file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_completetestlistdescribe.html

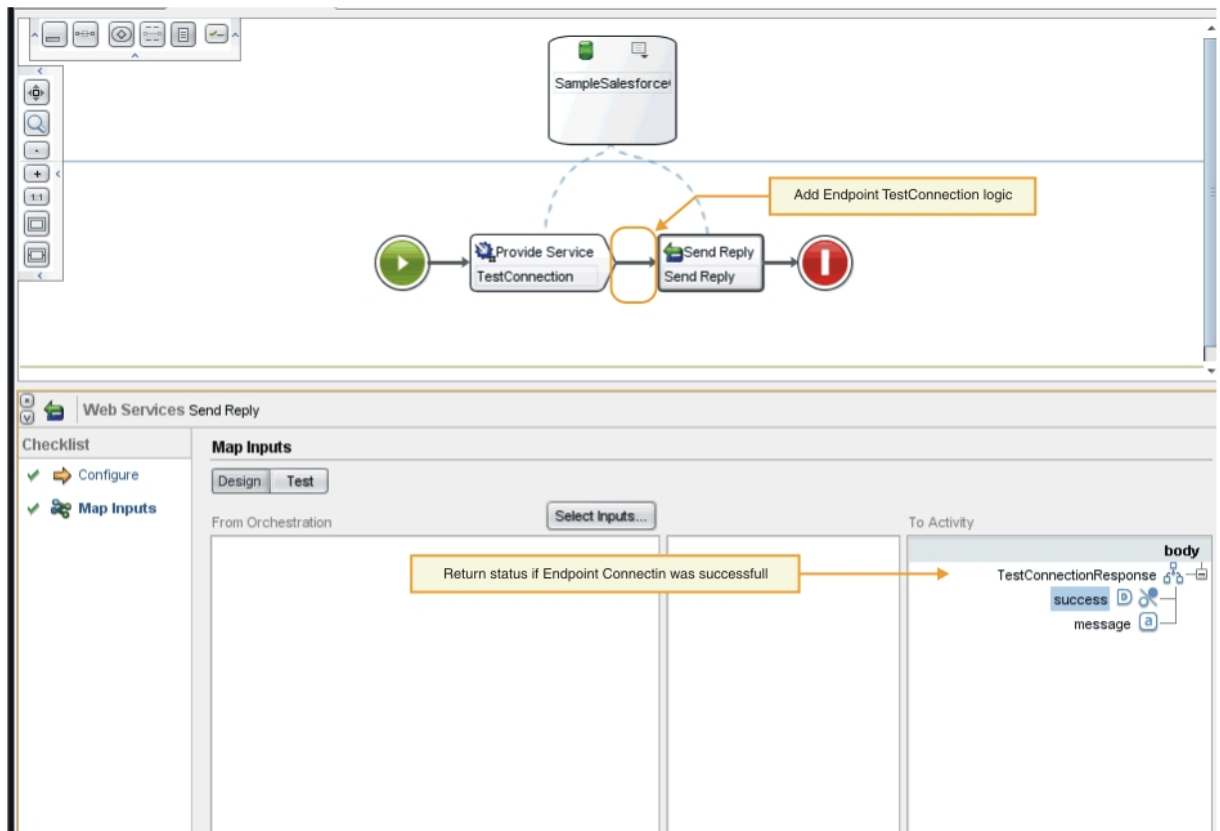
TestConnection オークストレーションの完了

以下の各ステップでは、値をオブジェクト・タイプにマップし、エンドポイント接続のテストのためにオーケストレーション・アクティビティを呼び出します。

手順

1. Studio の「プロジェクト」ツールボックス・タブで、**TestConnection** オークストレーションをクリックします。オーケストレーションが Studio ワークスペースに表示されます。
2. オーケストレーションで、エンドポイントに接続するために必要なロジックを追加します (図 1 参照)。
3. オーケストレーションで、「応答の送信」アクティビティをクリックします。「オーケストレーションから」パネルに入力が表示されます。

図 1. TestConnection




4. 「オーケストレーションから」パネルに表示されている値を、「アクティビティへ」パネルのオブジェクト・タイプにマップします。これでオーケストレーションをテストできるようになります。
5. オーケストレーションで、「サービスの提供」アクティビティを右クリックします。「アクティビティの検査」メニューが表示されます。

6. 「アクティビティーの検査」メニューで、「サービスの呼び出し」を選択します。「サービスの呼び出し」ウィンドウが表示されます。
7. 「サービスの呼び出し」ウィンドウで、ヘッダーおよび本体のデータを入力し、「実行」をクリックしてテストを開始します。テスト・アクティビティーを表示するには、「応答を表示する」ボタンをクリックします。テストが完了すると、「検査」ツールボックス・タブに結果が表示されます。
8. 正常に接続されると、テスト応答に「true」という値が表示されます。オーケストレーションを完了させるには、「アクティビティーへ」パネルの TestConnectionResponse パラメーターの「success」フィールドに「true」をマップします。

次のタスク

コネクター・アクティビティーが設計時に検出可能である場合は、[ListObjects オーケストレーションの完了](#)の手順を実行してください。コネクター・アクティビティーは検出可能でない場合は、[DescribeObjects オーケストレーションの完了](#)に進むことができます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_completingtestconnection.html

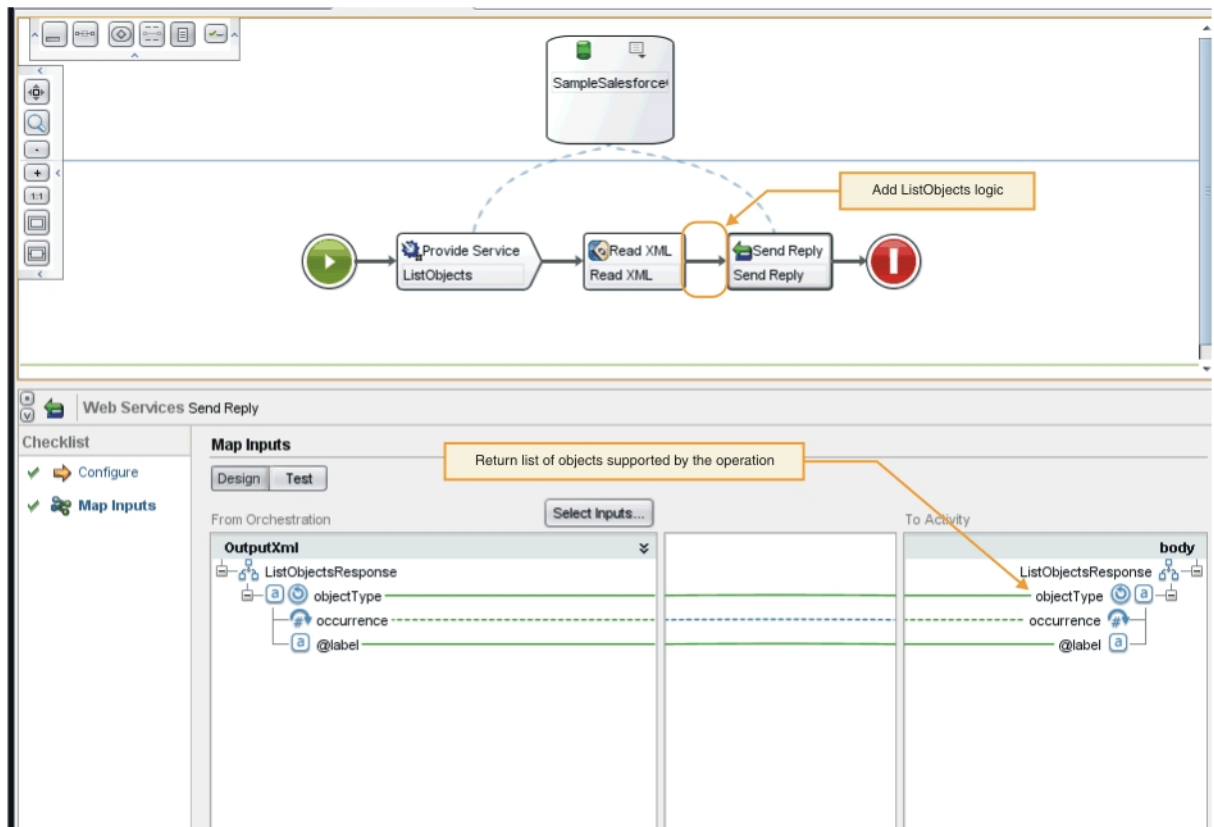
ListObjects オーケストレーションの完了

以下の各ステップでは、ビジネス・ロジックを ListObjects オーケストレーションに追加し、値をオブジェクト・タイプにマップし、エンドポイント接続のテストのためにオーケストレーション・アクティビティーを呼び出します。このセクションの手順は、オーケストレーション・アクティビティーが設計時に検出可能である場合にのみ実行してください。

手順

1. Studio の「プロジェクト」ツールボックス・タブで、**ListObjects** オーケストレーションをクリックします。オーケストレーションが Studio ワークスペースに表示されます。
2. ListObjects オーケストレーションで、[図 1](#) のようにロジックを追加します。指定したエンドポイントに対してコネクターがサポートしているオブジェクトのリストが「アクティビティーへ」パネルに表示されます。

図 1. ListObjects



3. オークストレーションで、「応答の送信」アクティビティーをクリックします。「オークストレーションから」パネルに入力が表示されます。
4. 「オークストレーションから」パネルで、アクティビティーをクリックします。その操作でサポートされているオブジェクトのリストが「アクティビティーへ」パネルに表示されます。
5. 「オークストレーションから」パネルに表示されている値を、「アクティビティーへ」パネルの ListObjectsResponse の下にあるオブジェクト・タイプにマップします (図 1 参照)。これでオークストレーションをテストできるようになります。
6. オークストレーションで、「サービスの提供」アクティビティーを右クリックします。「アクティビティーの検査」メニューが表示されます。
7. 「アクティビティーの検査」メニューで、「サービスの呼び出し」を選択します。「サービスの呼び出し」ウィンドウが表示されます。
8. 「サービスの呼び出し」ウィンドウで、ヘッダーおよび本体のデータを入力し、「実行」をクリックしてテストを開始します。テスト・アクティビティーを表示するには、「応答を表示する」ボタンをクリックします。

タスクの結果

テストが完了すると、「検査」ツールボックス・タブに結果が表示されます。エラーがある場合は、必要な修正を行ってから単体テストを再実行します。

次のタスク

DescribeObjects オークストレーションを完了させます。

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_completetest_describe_list.html

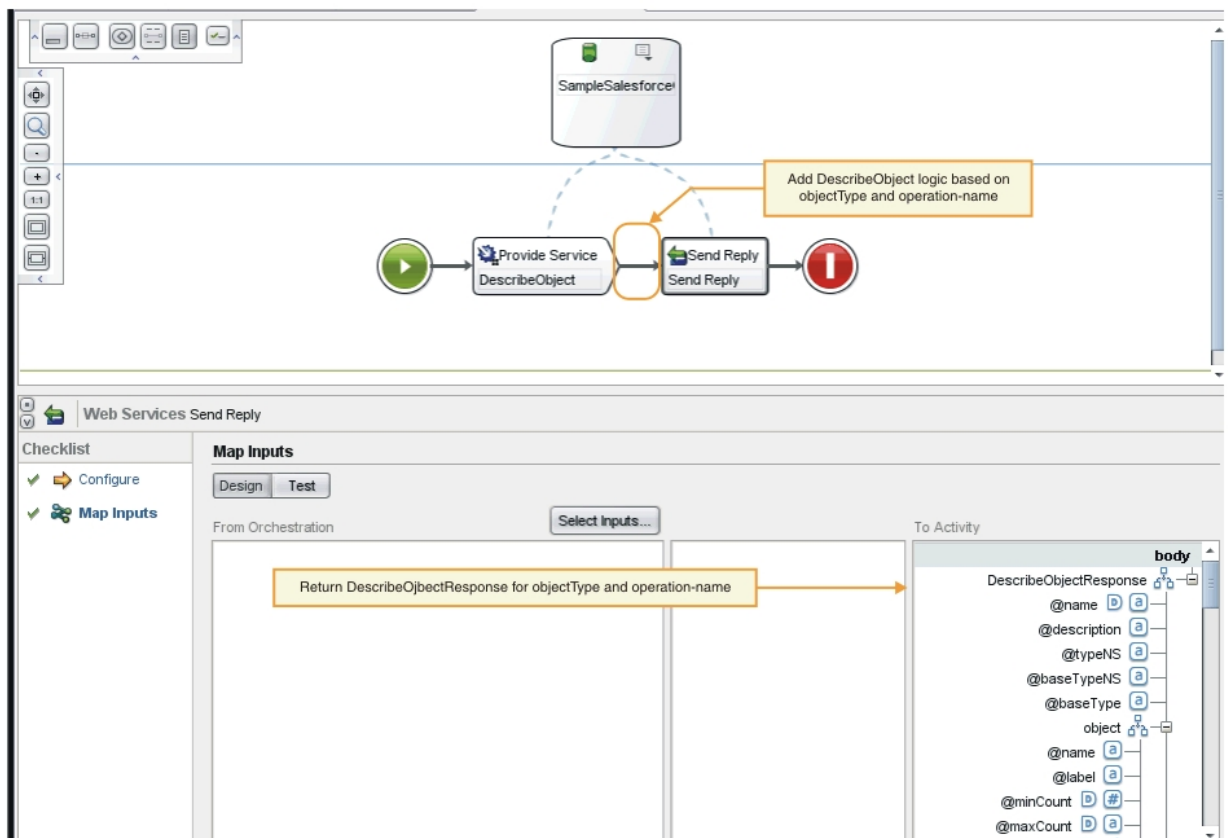
DescribeObjects オークストレーションの完了

DescribeObjects オークストレーションを完了させるには、出力を入力データにマップし、オブジェクトのメタデータを、`ci-connector-api.xsd` ファイルに適合する XML 形式に変換します。その後、オークストレーションをテストします。

手順

1. Studio の「プロジェクト」ツールボックス・タブで、**DescribeObjects** オークストレーションをクリックします。オークストレーションが Studio ワークスペースに表示されます。
2. オークストレーションで、「サービスの提供」アクティビティをクリックします。「出力のマッピング」パネルが表示されます。
3. 「出力のマッピング」パネルで、「body」をクリックします。入力データを示すノード・タイプのウィンドウが表示されます。
4. `object` および `operation_name` に基づき、オブジェクトのメタデータを取得するためのロジックをオークストレーションに追加します (図 1 参照)。

図 1. DescribeObjects



5. オブジェクトのメタデータを、[Cast Iron CDK のスキーマ・ファイル](#)で説明した `ci-connector-api.xsd` ファイルに適合する XML 形式に変換します。メタデータを XML に変換すると、スキーマは以下ようになります。

```

< DescribeObjectResponse
baseType = "sObject"
baseTypeNS = "urn:object.partner.soap.sforce.com"
name = "create"
typeNS = "http://example.com/stockquote"
xmlns = "http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/"
xmlns:con = "http://www.approuter.com/schemas/cdk/config/"
xmlns:xsi = "http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" >
  < object
    label = "createInput"
    maxCount = "1"
    minCount = "1"
    name = "createInput"
    used = "true" >
      < con:field
        configurable = "true"
        label = "ObjectName"
        maxCount = "1"
        minCount = "1"
        name = "ObjectName"
        used = "true" >
        < con:type > string </ con:type >
      </ con:field >
      < con:field
        configurable = "true"
        label = "FirstName"
        maxCount = "1"
        minCount = "1"
        name = "FirstName"
        used = "true" >
        < con:type > string </ con:type >
      </ con:field >
      < con:field
        configurable = "true"
        label = "LastName"
        maxCount = "1"
        minCount = "1"
        name = "LastName"
        used = "true" >
        < con:type > string </ con:type >
      </ con:field >
      < con:field
        configurable = "true"
        label = "Phone"
        maxCount = "1"
        minCount = "1"
        name = "Phone"
        used = "true" >
        < con:type > string </ con:type >
      </ con:field >
    </ object >
    < responseObject
      label = "createOutput"
      maxCount = "1"
      minCount = "1"
      name = "createOutput"
      used = "true" >
        < con:field
          configurable = "true"
          label = "Id"
          maxCount = "1"
          minCount = "1"
          name = "Id"
          used = "true" >

```

```

< con:type > string </ con:type >
</ con:field >
< con:field
configurable = "true"
label = "ObjectName"
maxCount = "1"
minCount = "1"
name = "ObjectName"
used = "true" >
< con:type > string </ con:type >
</ con:field >
< con:field
configurable = "true"
label = "Status"
maxCount = "1"
minCount = "1"
name = "Status"
used = "true" >
< con:type > string </ con:type >
</ con:field >
</ responseObject >
</ DescribeObjectResponse >

```

6. DescribeObjects オークストレーションで、「**応答の送信**」アクティビティをクリックします。「**入力のマップ**」パネルが表示されます。
7. 「**入力のマップ**」パネルで、生成された XML を「**アクティビティへ**」パネルの DescribeObjectResponse パラメーターにマップします。これでオークストレーションをテストできるようになります。
8. オークストレーションで、「**サービスの提供**」アクティビティを右クリックします。「**アクティビティの検査**」メニューが表示されます。
9. 「**アクティビティの検査**」メニューで、「**サービスの呼び出し**」を選択します。「**サービスの呼び出し**」ウィンドウが表示されます。
10. 「**サービスの呼び出し**」ウィンドウで、ヘッダーおよび本体のデータを入力し、「**実行**」をクリックしてテストを開始します。テスト・アクティビティを表示するには、「**応答を表示する**」ボタンをクリックします。


タスクの結果

テストが完了すると、「**検査**」ツールボックス・タブに結果が表示されます。エラーがある場合は、必要な修正を行ってから単体テストを再実行します。

次のタスク

次のフェーズでは、コネクタ・プロジェクトをローカル・リポジトリに公開します。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_completingdescribeobjects.html

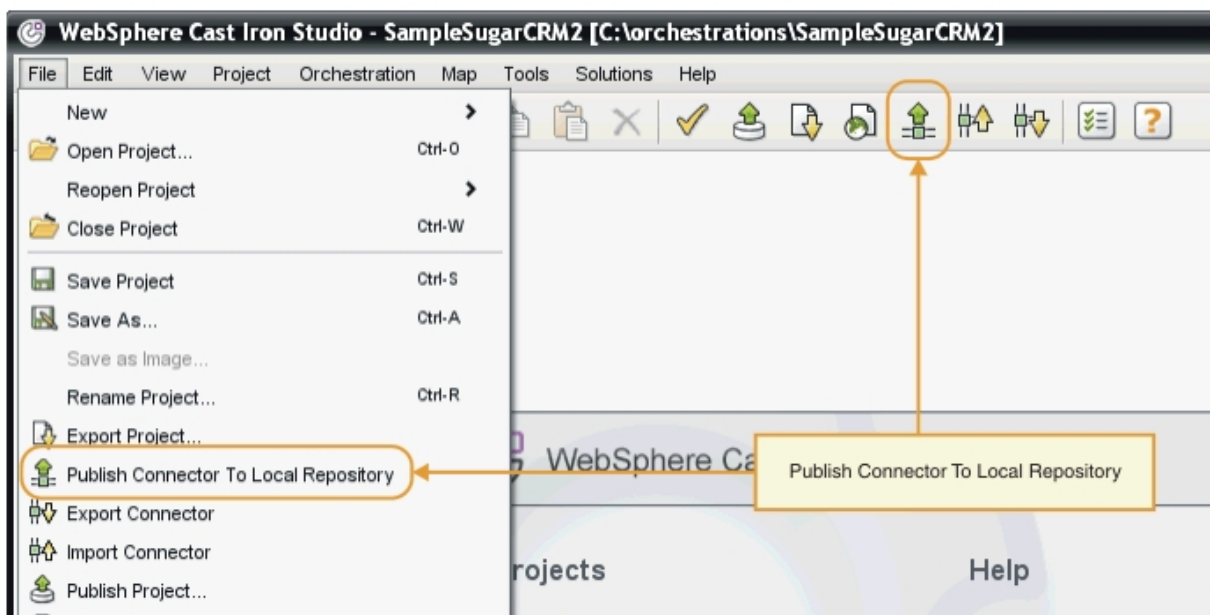
ローカル・リポジトリへの公開

このフェーズでは、Studio によってオーケストレーションの妥当性検査が行われます。妥当性検査が成功した場合は、テストおよびデバッグするために、ローカル・コンピューター上のリポジトリにコネクターを公開できます。

手順

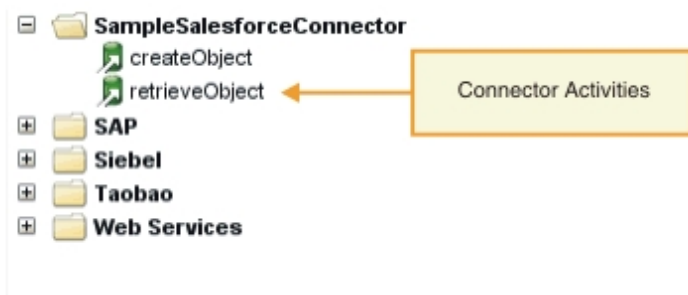
1. 「ファイル」->「コネクターをローカル・リポジトリに公開」を選択するか、「公開」ツールバー・アイコンをクリックします (図 1 参照)。Studio によってオーケストレーションの妥当性検査が行われます。妥当性検査が成功すると、<user_home>/castiron/connector-repository のコネクター・リポジトリにコネクターが公開されます。妥当性検査が失敗すると、エラー・メッセージが表示されます。問題を修正して再公開します。
2. Studio を再始動します。コネクター・アクティビティーが Studio の「アクティビティー」ツールボックス・タブに表示され、使用できるようになっています。

図 1. コネクターのローカル・リポジトリへの公開



開発作業が完了すると、図 2 に示すように、コネクターとコネクター・アクティビティーが Studio の「アクティビティー」ツールボックス・タブに表示されます。

図 2. Studio の「アクティビティー」ツールボックス・タブに表示されたコネクターとコネクター・アクティビティー




注: コネクター・プロジェクトをアプライアンスに直接デプロイするとエラーが発生するため、直接デプロイしないでください。最良の結果を得るには、Studio の内部でエンドポイントとして表示されているコネクター・プロジェクトのみをデプロイしてください。

次のタスク

次のセクションでは、実行時妥当性検査を実行し、エンドポイントをテストします。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_deployconnector.html


テストとデバッグ

Studio には、コネクターのコンポーネントをテストするための機能がいくつか用意されています。テストおよびデバッグのフェーズでは、コネクターをテストする実行時妥当性検査を行い、構成またはデータのエラーを診断します。すべてのアウトバウンド・エンドポイントをテストする必要があります。

コネクターのテスト時には、Studio のビルド・プロセスが、XML ファイルの形式が正しいことをチェックし、ファイルをスキーマ・ファイルと比較してその妥当性を検査します。次に、アウトバウンド・マッピングを生成し、アウトバウンド・メッセージを作成および送信し、応答を受信し、インバウンド・マッピングを実行します。CDK は以下の 2 種類のテストを実行します。

- 単体テスト
- 統合テスト

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_testdebug1.html

コネクター・コンポーネントの単体テスト

単体テストは、すべての開発プロジェクトの成功への鍵となるもので、基本的にはコネクターのコンポーネントが期待どおりに機能するかどうかを検証する合格/不合格テストです。

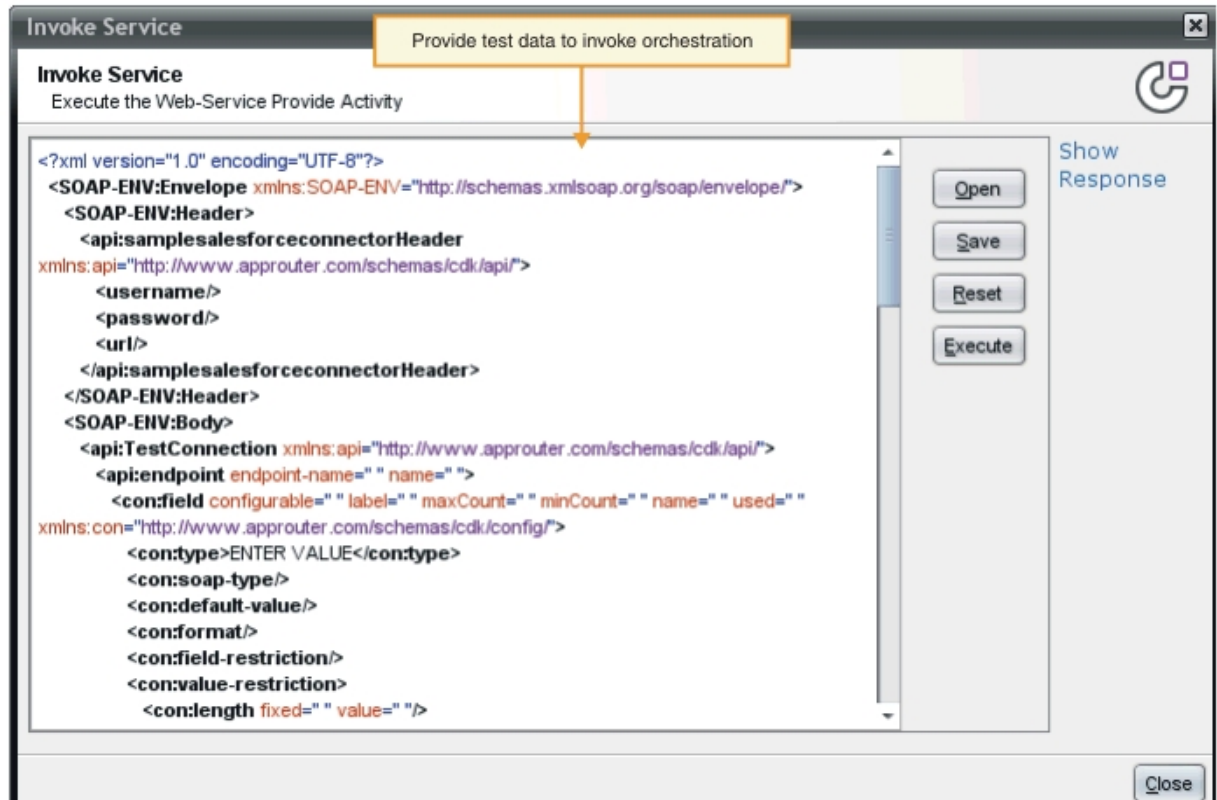
このタスクについて

このフェーズでは、Web サービスの提供アクティビティーとして公開される Web サービスとクライアント間の通信をシミュレートする単体テストを実行します。

手順

1. 「プロジェクト」ツールボックス・タブで、オーケストレーションを選択します。オーケストレーションが Studio ワークスペースに表示されます。
2. オーケストレーションで、「サービスの提供」アクティビティを右クリックします。「アクティビティの検査」メニューが表示されます。
3. 「アクティビティの検査」メニューで、「サービスの呼び出し」を選択します。「サービスの呼び出し」ウィンドウが表示されます (図 1 参照)。
4. 「サービスの呼び出し」ウィンドウで、ヘッダーおよび本体のデータを入力し、「実行」をクリックしてテストを開始します。テスト・アクティビティを表示するには、「応答を表示する」ボタンをクリックします。

図 1. 「サービスの呼び出し」ウィンドウ



注: 「リセット」ボタンを使用するときは注意が必要です。これを使用すると、「サービスの呼び出し」ウィンドウの既存の内容が消去され、Web サービスのテンプレート情報が再度取り込まれます。「リセット」は、単体テストを最初からやり直す場合にのみクリックしてください。

タスクの結果

テストが完了すると、「検査」ツールボックス・タブに結果が表示されます。エラーがある場合は、必要な修正を行ってから単体テストを再実行します。

次のタスク

統合テストを実行して、コネクタ・コンポーネントが適切に動作しているかどうかを判別します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

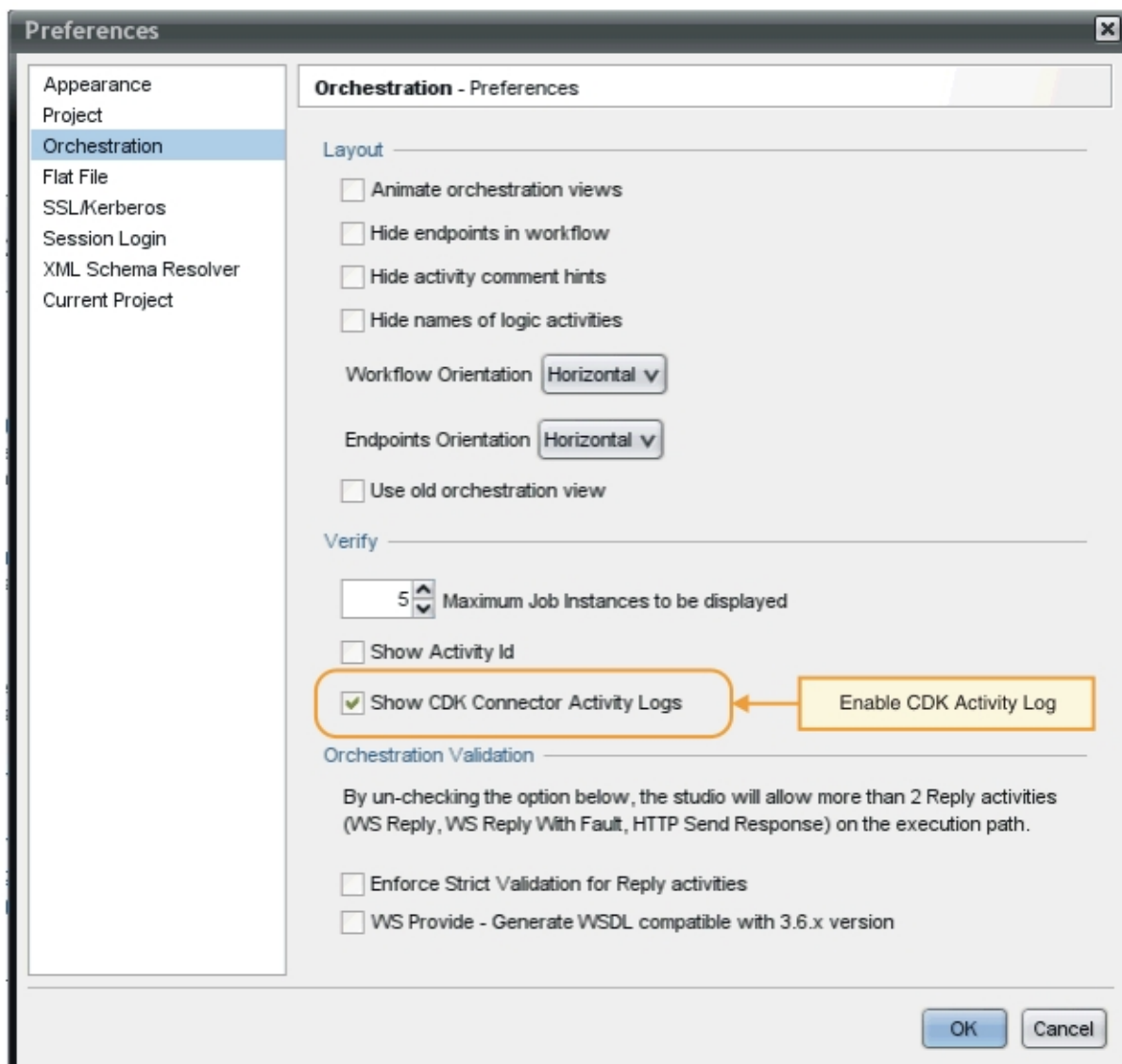
コネクター・サービスとアクティビティーの統合テスト

統合テストでは、コネクター・サービス、メッセージ、およびインターフェースが適切に動作しているかどうかを検証します。

手順

1. 「プロジェクト」ツールボックス・タブで、オーケストレーションを選択します。オーケストレーションが Studio ワークスペースに表示されます。
2. 「アクティビティー」ツールボックス・タブで、アクティビティーを選択し、オーケストレーション内にドラッグ・アンド・ドロップします。
3. Studio ワークスペースで、アクティビティーをクリックします。アクティビティーが強調表示されます。
4. 「チェックリスト」パネルで、「エンドポイントの選出」をクリックします。「エンドポイントの選出」パネルが表示されます。
5. 「エンドポイントの選出」パネルで、「新規作成」をクリックします。「エンドポイントの作成」パネルが表示されます。
6. 「エンドポイントの作成」パネルで、接続情報を入力し、「接続のテスト」をクリックします。
7. 接続が正常に行われたら、「OK」をクリックします。
8. 「チェックリスト」パネルで、「構成」をクリックします。「構成」パネルが表示されます。
9. オプション: 「構成」パネルで「参照」をクリックして、参照可能なアクティビティーを探します。(参照可能でないアクティビティーの場合、このステップは不要です)。「ListObject」ダイアログ・ウィンドウが表示されます。
10. 「ListObjects」ダイアログ・ウィンドウで、選択したアクティビティーの入力になるスキーマを選択します。
11. 入出力のマッピングを実行します。
12. オーケストレーションをテストします。プロセッサ・アクティビティーを表示するには、Studio の「設定」ウィンドウで「CDK コネクター・アクティビティー・ログの表示」オプションにチェック・マークを付けます (図 1 参照)。

図 1. 「設定」ウィンドウ



タスクの結果

プロセッサ・アクティビティと最終のテスト結果が Studio の「検査」ツールボックス・タブに表示されま
す。

次のタスク

次のセクションでは、コネクタ・プロジェクトをエクスポートおよびインポートする方法を説明します。

フィードバック | 特記事項

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_integrationtest.html


コネクター・プロジェクトのエクスポートとインポート

コネクターの作成とテストが完了したら、そのコネクターを外部の場所にエクスポートして、他のユーザーが使用できるようにすることができます。また、コネクターのアーカイブ・ファイルを Studio にインポートすることもできます。

コネクター・プロジェクトのエクスポートとインポートは、Studio のメニューを使用するか、「エクスポート」または「インポート」ツールバー・アイコンをクリックして行います。

注: コネクター・プロジェクトをアプライアンスに直接デプロイするとエラーが発生するため、直接デプロイしないでください。最良の結果を得るには、Studio の内部でエンドポイントとして表示されているコネクター・プロジェクトのみをデプロイしてください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_exporting_importing.html

コネクター・プロジェクトのエクスポート

完成したコネクターを Studio から外部の場所にエクスポートすると、他のユーザーがそのコネクターをロードして使用できるようになります。エクスポートしたコネクターは、標準の .zip ファイルとしてパッケージ化されます。

このタスクについて

コネクターのエクスポートは、Studio のメニュー・オプションまたはツールバーを使用して行います。ディレクトリーを指定しない場合、エクスポートしたコネクター・プロジェクトはプロジェクト・ディレクトリーのサブディレクトリーに保存されます。アーカイブ・ファイルへのエクスポートを選択した場合、プロジェクトは、プロジェクト・ディレクトリーの下で .zip アーカイブとしてパッケージ化されます。

手順

1. 「ファイル」->「コネクターのエクスポート」を選択するか、「コネクターのエクスポート」ツールバー・アイコンをクリックします。「ファイル」ダイアログ・ウィンドウが表示され、使用可能なコネクターのリストが表示されます。
2. 「ファイル」ダイアログ・ウィンドウでコネクターを選択し、「OK」をクリックします。「保存」ダイアログ・ウィンドウが表示されます。
3. 「保存」ダイアログ・ウィンドウでプロジェクトのエクスポート先を参照し、「保存」をクリックします。


タスクの結果

コネクターが標準の .zip アーカイブとしてエクスポートされます。

次のタスク

次のセクションでは、コネクター・プロジェクトをインポートする方法について説明します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_exportyourconnectorproject.html

コネクター・プロジェクトのインポート

Studio を使用して、開発されたコネクター・プロジェクトを標準の圧縮ファイル・アーカイブとしてインポートできます。

このタスクについて

Studio へのコネクターのインポートは、Studio のメニュー・オプションまたはツールバーを使用して行います。

手順

1. 「ファイル」->「コネクターのインポート」を選択するか、「コネクターのインポート」ツールバー・アイコンをクリックします。「ファイル」ダイアログ・ウィンドウが表示されます。
2. 「ファイル」ダイアログ・ウィンドウでコネクターを選択し、「OK」をクリックします。


タスクの結果

コネクターが .zip アーカイブとして Studio にインポートされます。

次のタスク

次のセクションでは、CDK コンポーネントの概要を示します。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

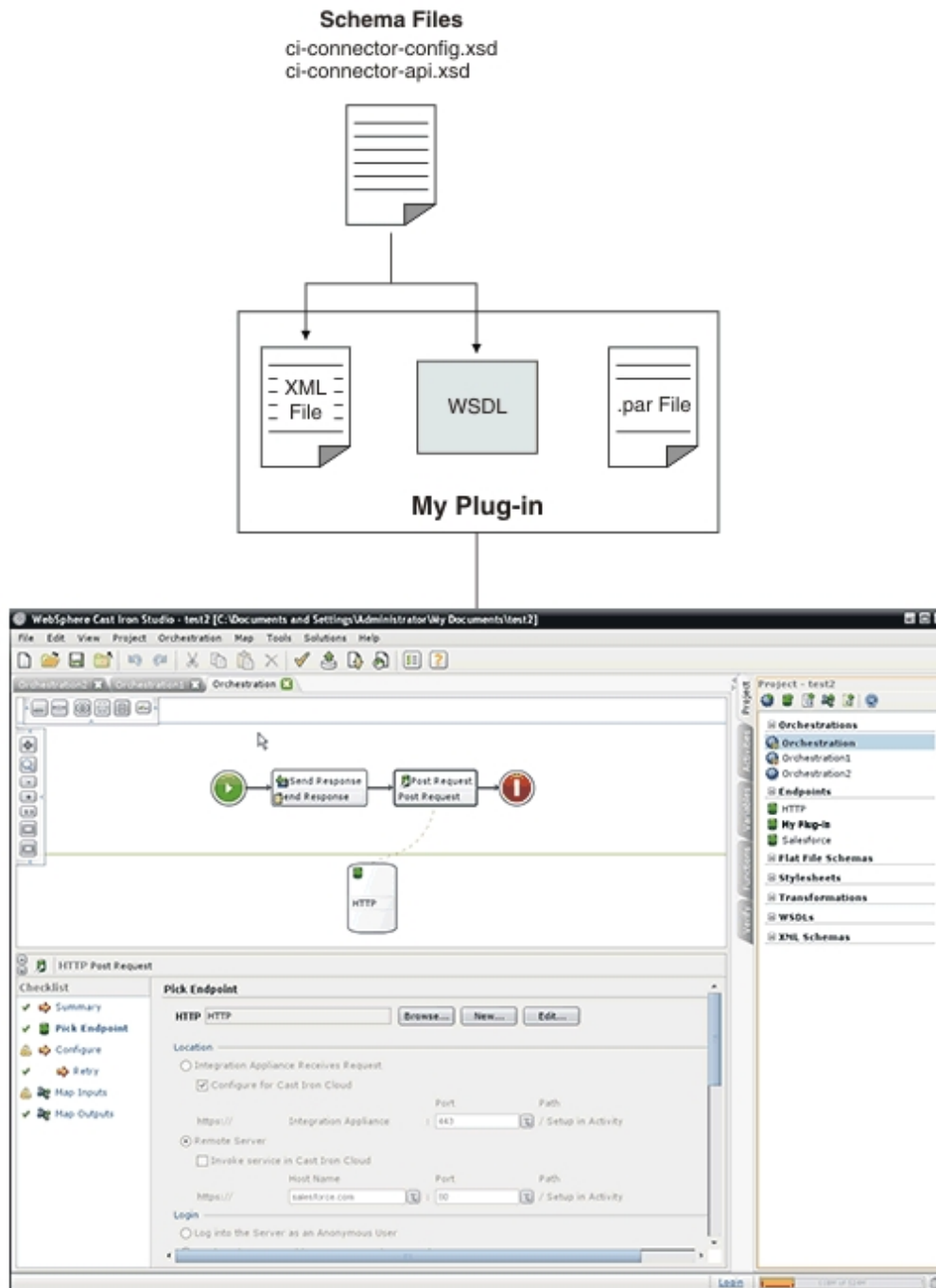
http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_importaconnector.html

Cast Iron CDK のコンポーネント

Connector Developer Kit には 4 つの主要コンポーネントが含まれており、それらの連携によって CDK 開発プラットフォームが構成されています。

図 1 は、これらのコンポーネントと、それらと Studio との関係を示したものです。

図 1. CDK のコンポーネント



Cast Iron CDK のスキーマ・ファイル

XML スキーマ・ファイルは、構文を記載したもので、XML ファイルでのエレメントおよび属性の表現方法を定義しています。Cast Iron CDK のスキーマ・ファイルを Studio 開発環境にインポートした後、「プロジェクト」ツールボックス・タブからスキーマ・エレメントをオーケストレーションにドラッグして、エンドポイントと接続を作成します。

CDK スキーマ・ファイルは以下のとおりです。

ci-connector-config.xsd: このファイルは、Studio とデプロイメント・エンジンが、コネクタで使用できる基本的な構成オプションを定義するために使用します。プラグインのメタデータは XML ファイルにエレメントとして保存され、一度構成すると、エンドポイントのプロパティによってエンド・ユーザーが表示できる内容やエンド・ユーザーに公開するアクティビティが定義されます。以下に ci-connector-config.xsd ファイルを示します。

```
<xs:schema
  id="_dcs_markdown_workspace_Transform_htmlout_0_nl_ja_com.ibm.wci.cdk.doc_cdk_schemas_ci-cdk-config"
  version="1.0"
  targetNamespace="http://www.approuter.com/schemas/cdk/config/"
  xmlns:tns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/config/"
  xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns:jaxb="http://java.sun.com/xml/ns/jaxb"
  xmlns:xjc="http://java.sun.com/xml/ns/jaxb/xjc"
  jaxb:extensionBindingPrefixes="xjc"
  jaxb:version="2.0"
  elementFormDefault="qualified">
  <xs:annotation>
    <xs:appinfo>
      <jaxb:schemaBindings>
        <jaxb:package
  name="com.approuter.studio.connectors.cdk.config" />
        </jaxb:schemaBindings>
        <jaxb:globalBindings>
          <xjc:simple />
        </jaxb:globalBindings>
      </xs:appinfo>
    </xs:annotation>
  <xs:element
    name="connectorConfiguration">
    <xs:complexType>
      <xs:sequence>
        <!-- Connector description -->
        <xs:element
          name="description"
          type="xs:string" />
        <!-- Endpoint form definition -->
        <xs:element
          name="endpoint"
          type="tns:EndpointForm" />
        <!-- Connector activities -->
        <xs:element
```

```

        name="activity-group"
        type="tns:ActivityGroup" />
<xs:element
    name="operations"
    minOccurs="0">
    <xs:complexType>
        <xs:sequence>
            <xs:element
                name="operation"
                type="tns:operationType"
                minOccurs="0"
                maxOccurs="unbounded" />
        </xs:sequence>
    <!--
        default endpoint location
        operations that do not
        define one or are
        not defined
    -->
    <xs:attribute
        name="default-endpoint-
        location"
        type="xs:string"
        use="optional" />
    </xs:complexType>
</xs:element>
<!-- Minimum client version -->
<xs:element
    name="clients"
    minOccurs="0">
    <xs:complexType>
        <xs:sequence>
            <xs:element
                name="client"
                type="tns:CompatibleClient"
                minOccurs="0"
                maxOccurs="unbounded" />
        </xs:sequence>
    </xs:complexType>
</xs:element>
<!-- release documentation -->
<xs:element
    name="release-documentation"
    type="tns:ReleaseDocumentation"
    minOccurs="0"
    maxOccurs="unbounded" />
</xs:sequence>
<!--
    Internal name of the connector. Do not change
    names between releases of the connector
-->
<xs:attribute
    name="name"
    type="xs:string"
    use="required" />
<!-- Readable label for connector -->
<xs:attribute
    name="label"
    type="xs:string"

```

```

        use="required" />
<!--
    Connection namespace. Used to associate
    activities with endpoints within Studio
-->
<xs:attribute
    name="connection-ns"
    type="xs:string"
    use="required" />
<!-- Version of this connector -->
<xs:attribute
    name="version"
    type="xs:string"
    use="required" />
<!-- notes -->
<xs:attribute
    name="notes"
    type="xs:string" />
<!-- release date -->
<xs:attribute
    name="release-date"
    type="xs:dateTime"
    use="optional" />

<!--
    General hint to consumer as to its
    classification
-->
<xs:attribute
    name="category"
    type="tns:ConnectorCategory" />
</xs:complexType>
</xs:element>
<xs:complexType
    name="ReleaseDocumentation">
    <xs:simpleContent>
        <xs:extension
            base="xs:string">
            <!-- corresponding plugin connector version -->
            <xs:attribute
                name="release-version"
                type="xs:string" />
            </xs:extension>
        </xs:simpleContent>
    </xs:complexType>
<xs:complexType
    name="CompatibleClient">
    <xs:attribute
        name="clientName"
        type="xs:string"
        default="castiron-studio" />
    <xs:attribute
        name="minimumClientVersion"
        type="xs:string"
        default="6.0" />
</xs:complexType>
<!--
    Endpoint form. Test connection action required.
-->
<xs:complexType
    name="EndpointForm">
    <xs:complexContent>
        <xs:extension
            base="tns:Form">
            <xs:sequence>

```



```

        <xs:element
            name="test-connection-action"
            type="tns:TestConnectionAction" />
        <!-- Connector description -->
        <xs:element
            name="endpoint-description"
            type="xs:string" />
    </xs:sequence>
    <!--
        Used for Studio menu integration (e.g.
        Endpoints menu-item, default endpoint
        instance name)
    -->
    <xs:attribute
        name="endpoint-name"
        type="xs:string"
        use="required" />
    </xs:extension>
</xs:complexContent>
</xs:complexType>
<xs:complexType
    name="Form">
    <xs:sequence>
        <!-- Form fields -->
        <xs:element
            name="field"
            type="tns:FormField"
            minOccurs="0"
            maxOccurs="unbounded" />
        <!-- Fields can be grouped -->
        <xs:element
            name="field-group"
            type="tns:FieldGroup"
            minOccurs="0"
            maxOccurs="unbounded" />
        <!-- Form actions. -->
        <xs:element
            name="actions"
            type="tns:Actions"
            minOccurs="0"
            maxOccurs="1" />
    </xs:sequence>
    <xs:attribute
        name="name"
        type="xs:string"
        use="required" />
</xs:complexType>

<!-- Fields can be a member of a group -->
<xs:complexType
    name="FieldGroup">
    <xs:sequence>
        <xs:element
            name="field"
            type="tns:FormField"
            minOccurs="0"
            maxOccurs="unbounded" />
        <xs:element
            name="field-group"
            type="tns:FieldGroup"
            minOccurs="0"
            maxOccurs="unbounded" />
    </xs:sequence>
    <xs:attribute

```

```

        name="name"
        type="xs:string"
        use="required" />
<!-- Readable group label -->
<xs:attribute
    name="label"
    type="xs:string"
    use="optional" />
<!--
    Predefined groups. If specified, there is no
    need to specify label, groups, or fields. If
    specified they will be ignored.
-->
<xs:attribute
    name="type"
    use="optional">
    <xs:simpleType>
        <xs:restriction
            base="xs:string">
            <xs:enumeration
                value="connection-timeout" />
            <xs:enumeration
                value="connection-proxy" />
            <!-- TBD others -->
        </xs:restriction>
    </xs:simpleType>
</xs:attribute>
</xs:complexType>
<xs:complexType
    name="FormField">
    <xs:annotation>
        <xs:appinfo>
            <jaxb:bindings
                node="//xs:complexType[@name='FormField']">
                <jaxb:class
implClass="com.aprouter.studio.connectors.cdk.config.ConnectorFormField" />
            </jaxb:bindings>
        </xs:appinfo>
    </xs:annotation>
    <xs:complexContent>
        <xs:extension
            base="tns:FieldDescriptor">
            <xs:sequence>
                <!-- summary description text -->
                <xs:element
                    name="short-description"
                    type="xs:string"
                    minOccurs="0" />
                <!-- detailed description text -->
                <xs:element
                    name="long-description"
                    type="xs:string"
                    minOccurs="0" />
                <!-- hint text -->
                <xs:element
                    name="hint"
                    type="xs:string"
                    minOccurs="0" />
            </xs:sequence>
        </xs:extension>
    </xs:complexContent>
</xs:complexType>
<xs:complexType

```

```

name="Actions">
<xs:sequence>
  <xs:element
    name="action"
    type="tns:Action"
    maxOccurs="unbounded" />
  <!-- summary description text -->
  <xs:element
    name="short-description"
    type="xs:string"
    minOccurs="0" />
</xs:sequence>
<xs:attribute
  name="label"
  type="xs:string"
  use="optional" />
</xs:complexType>
<xs:complexType
  name="Action">
  <xs:simpleContent>
    <xs:extension
      base="xs:string">
      <xs:attribute
        name="label"
        type="xs:string" />
      <!--
        the operation that should be invoked in
        response to the action
      -->
      <xs:attribute
        name="operation-name" />
      <!-- summary description text -->
      <xs:attribute
        name="short-description"
        type="xs:string"
        use="required" />
    </xs:extension>
  </xs:simpleContent>
</xs:complexType>
<xs:complexType
  name="TestConnectionAction">
  <xs:simpleContent>
    <xs:restriction
      base="tns:Action">
      <xs:attribute
        name="operation-name"
        fixed="TestConnection" />
      <xs:attribute
        name="label"
        type="xs:string"
        fixed="Test Connection" />
    </xs:restriction>
  </xs:simpleContent>
</xs:complexType>

<!-- predefined connector categories -->
<!--
  used to indicate the enterprise solution type
-->
<xs:simpleType
  name="ConnectorCategory">
  <xs:restriction
    base="xs:string">

```

```

        <xs:enumeration
            value="CRM" />
        <xs:enumeration
            value="SCM" />
        <xs:enumeration
            value="ERP" />
        <xs:enumeration
            value="ECM" />
        <xs:enumeration
            value="SFA" />
        <xs:enumeration
            value="BPM" />
        <xs:enumeration
            value="IBP" />
        <xs:enumeration
            value="ORM" />
        <xs:enumeration
            value="MIS" />
        <xs:enumeration
            value="SIS" />
        <xs:enumeration
            value="COM" />
        <xs:enumeration
            value="MOM" />
        <xs:enumeration
            value="PIM" />
        <xs:enumeration
            value="Database" />
        <!-- etc -->
    </xs:restriction>
</xs:simpleType>

<!-- activities -->
<xs:complexType
    name="ActivityGroup">
    <xs:sequence>
        <xs:element
            name="activity"
            type="tns:Activity"
            minOccurs="1"
            maxOccurs="unbounded" />
    </xs:sequence>
    <!--
        this is the label of the group under which the
        activities will appear
    -->
    <xs:attribute
        name="label"
        type="xs:string"
        use="optional" />
</xs:complexType>

<!-- activity -->
<xs:complexType
    name="Activity">
    <xs:sequence>
        <!-- wsdl operation -->
        <xs:element
            name="operation-name"
            type="xs:string" />
        <xs:element
            name="description"
            type="xs:string" />
        <xs:element

```

```

        name="task-list"
        type="tns:Tasks" />
</xs:sequence>
<xs:attribute
    name="name"
    type="xs:string"
    use="required" />
<!--
    this is the label of the activity that appears
    under an activity group
-->
<xs:attribute
    name="label"
    type="xs:string"
    use="optional" />
</xs:complexType>

<!-- activity tasks -->
<xs:complexType
    name="Tasks">
    <xs:sequence>
        <xs:element
            name="configure-task"
            type="tns:ConfigureTask" />
    </xs:sequence>
</xs:complexType>
<!--
    possible enhancement: determine "browsability"
    based on if input is an extension of abstract
    type.
-->
<xs:complexType
    name="ConfigureTask">
    <xs:sequence>
        <xs:element
            name="type"
            type="tns:ConfigurationType"
            default="browse" />
        <xs:element
            name="applies-to"
            type="tns:AppliesTo"
            minOccurs="0"
            default="inputs" />
    </xs:sequence>
</xs:complexType>

<!-- browsable or not -->
<!--
    possible enhancement: determine browsability
    based on if input is an extension of abstract
    type.
-->
<xs:simpleType
    name="ConfigurationType">
    <xs:restriction
        base="xs:string">
        <xs:enumeration
            value="none" />
        <xs:enumeration
            value="browse" />
    </xs:restriction>
</xs:simpleType>

<!-- are the inputs or outputs configured? -->

```

```

<!--
    possible enhancement: determine browsability
    based on if input is an extension of abstract
    type.
-->
<xs:simpleType
    name="AppliesTo">
    <xs:restriction
        base="xs:string">
        <xs:enumeration
            value="inputs" />
        <xs:enumeration
            value="outputs" />
        <xs:enumeration
            value="both" />
        </xs:restriction>
    </xs:simpleType>

<!-- ***** -->
<!-- Descriptors... -->
<xs:simpleType
    name="allNNI">
    <xs:annotation>
        <xs:documentation> for maxOccurs
        </xs:documentation>
    </xs:annotation>
    <xs:union
        memberTypes="xs:nonNegativeInteger">
        <xs:simpleType>
            <xs:restriction
                base="xs:NMTOKEN">
                <xs:enumeration
                    value="unbounded" />
                </xs:restriction>
            </xs:simpleType>
        </xs:union>
    </xs:simpleType>
<xs:attributeGroup
    name="counts">
    <xs:attribute
        name="minCount"
        type="xs:nonNegativeInteger"
        use="optional"
        default="1" />
    <xs:attribute
        name="maxCount"
        type="tns:allNNI"
        use="optional"
        default="1" />
</xs:attributeGroup>
<xs:complexType
    name="Descriptor"
    abstract="true">
    <xs:sequence />
    <xs:attribute
        name="name"
        type="xs:string"
        use="required" />
    <!-- readable label text -->
    <xs:attribute
        name="label"
        type="xs:string"
        use="optional" />

```

```

        <xs:attributeGroup
            ref="tns:counts" />
</xs:complexType>
<!--
    child nodes annotated with 'volatile' indicate
    that text node is set externally to the
    connector implementation (e.g. by end-user
    building a project that uses the connector)
-->
<xs:complexType
    name="FieldDescriptor">
    <xs:complexContent>
        <xs:extension
            base="tns:Descriptor">
            <xs:sequence>
                <!-- field type (e.g. string, boolean, ...)
-->
                <xs:element
                    name="type"
                    type="tns:FieldType" />
                <!-- associated xsd type -->
                <xs:element
                    name="soap-type"
                    type="tns:SoapType"
                    minOccurs="0" />
                <!--
                    define a default value for the field
if
                    applicable
-->
                <xs:element
                    name="default-value"
                    type="xs:string"
                    minOccurs="0" />
                <!--
                    define if values are of a particular
format
                    e.g. password etc
-->
                <xs:element
                    name="format"
                    type="tns:FieldFormat"
                    minOccurs="0" />
                <!--
                    define if possible values form a
collection
                    (e.g. a range or set of values)
-->
                <xs:element
                    name="field-restriction"
                    type="tns:FieldRestriction"
                    minOccurs="0" />
                <!--
                    define if values are restricted to
regex
                    pattern
-->
                <xs:element
                    name="value-restriction"
                    type="tns:ValueRestriction"
                    minOccurs="0" />
                <!--
                    volatile: current or set value.
(e.g.

```

```

when
    "posted" value from endpoint panel
Connection'
    end-user presses the 'Test
        button.)
-->
<xs:element
    name="value"
    type="xs:string"
    minOccurs="0">
    <xs:annotation>
</xs:annotation>
</xs:element>
</xs:sequence>
<!--
    <xs:attribute name="readable"
        type="xs:boolean" use="optional"
        default="true"/> <xs:attribute
        name="writable" type="xs:boolean"
        default="true" use="optional"/>
-->
<!-- namespace of this FieldDescriptor -->
<xs:attribute
    name="ns"
    type="xs:anyURI" />
<!--
    can a configuration property be applied to
    this field?
-->
<xs:attribute
    name="configurable"
    type="xs:boolean"
    default="false" />
<!-- internal -->
<xs:attribute
    name="used"
    type="xs:boolean"
    default="true">
    <xs:annotation>
        <xs:appinfo>volatile</xs:appinfo>
    </xs:annotation>
    </xs:attribute>
</xs:extension>
</xs:complexContent>
</xs:complexType>
<!--
    Descriptor allows consumers to obtain detailed
    object description. For instance, this allows
-->
<!--
    Studio's UI generator to produce a user
    interface with various ui-component types and
    behaviors (in a consistent way.)
-->
<!--
    Note: ObjectDescriptor is part of
    DescribeObjectResponse defined in
    ci-connector-api.xsd
-->
<xs:complexType
    name="ObjectDescriptor">
    <xs:complexContent>

```



```

<xs:extension
    base="tns:Descriptor">
    <xs:sequence>
        <xs:element
            name="field"
            type="tns:FieldDescriptor"
            minOccurs="0"
            maxOccurs="unbounded" />
        <xs:element
            name="object"
            type="tns:ObjectDescriptor"
            minOccurs="0"
            maxOccurs="unbounded" />
    </xs:sequence>
    <!-- namespace of this ObjectDescriptor -->
    <xs:attribute
        name="ns"
        type="xs:anyURI" />
    <!-- internal -->
    <xs:attribute
        name="used"
        type="xs:boolean"
        default="true">
        <xs:annotation>
            <xs:appinfo>volatile</xs:appinfo>
        </xs:annotation>
    </xs:attribute>
    </xs:extension>
</xs:complexContent>
</xs:complexType>

<!-- supported types -->
<xs:simpleType
    name="FieldType">
    <xs:restriction
        base="xs:string">
        <xs:enumeration
            value="string" />
        <xs:enumeration
            value="base64" />
        <xs:enumeration
            value="boolean" />
        <xs:enumeration
            value="int" />
        <xs:enumeration
            value="decimal" />
        <xs:enumeration
            value="date" />
        <xs:enumeration
            value="dateTime" />
        <xs:enumeration
            value="anyType" />
        <!-- any of the above (e.g. string, int, etc) -->
    </xs:restriction>
</xs:simpleType>

<!-- cooresponding xsd type -->
<xs:simpleType
    name="SoapType">
    <xs:restriction
        base="xs:string">
        <xs:enumeration
            value="xs:base64Binary" />
        <xs:enumeration

```

```

        value="xs:boolean" />
    <xs:enumeration
        value="xs:decimal" />
    <xs:enumeration
        value="xs:int" />
    <xs:enumeration
        value="xs:string" />
    <xs:enumeration
        value="xs:date" />
    <xs:enumeration
        value="xs:dateTime" />
    <xs:enumeration
        value="xs:anyType" />
    <!--
        can be id, boolean, decimal, int, string,
        date, dateTime
    -->
    </xs:restriction>
</xs:simpleType>

<!-- supported type formats -->
<xs:simpleType
    name="FieldFormat">
    <xs:restriction
        base="xs:string">
        <xs:enumeration
            value="string" />
        <xs:enumeration
            value="password" />
        <xs:enumeration
            value="percent" />
        <xs:enumeration
            value="phone" />
        <!--
            <xsd:enumeration value="date"/> date
            formats???
        -->
        <xs:enumeration
            value="url" />
        <xs:enumeration
            value="email" />
        <xs:enumeration
            value="currency" />
    </xs:restriction>
</xs:simpleType>
<!--
    possible values form a well defined collection
-->
<xs:complexType
    name="FieldRestriction">
    <xs:choice>
        <!-- value is restricted to a range of values -->
        <xs:element
            name="value-range"
            type="tns:ValueRange" />
        <!-- value is restricted to a set of values -->
        <xs:element
            name="value-set"
            type="tns:ValueSet" />
    </xs:choice>
</xs:complexType>

<!-- possible values form a set -->
<xs:complexType

```

```

name="ValueSet">
<xs:sequence>
  <xs:element
    name="entry"
    type="tns:ValueSetEntry"
    maxOccurs="unbounded" />
</xs:sequence>
<!--
  is the set of values open or closed to
  additions
-->
<xs:attribute
  name="restricted"
  type="xs:boolean"
  use="optional"
  default="true" />
</xs:complexType>
<xs:complexType
  name="ValueSetEntry">
  <xs:sequence>
    <xs:element
      name="label"
      type="xs:string"
      minOccurs="0" />
    <!--
      value must be parsable for specified FieldType
    -->
    <xs:element
      name="value"
      type="xs:string" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>
<!--
  possible values are within a defined range
-->
<xs:complexType
  name="ValueRange">
  <xs:sequence>
    <!--
      min and max must be parsable for specified
      FieldType
    -->
    <xs:element
      name="min"
      type="xs:string"
      minOccurs="0" />
    <xs:element
      name="max"
      type="xs:string"
      minOccurs="0" />
    <!--
      e.g. for FieldType 'int' with min=0, max = 4,
      and step=2, the only allowed field values are
      0, 2, and 4
    -->
    <xs:element
      name="step"
      type="xs:string"
      minOccurs="0"
      default="1" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>
<!--
  value is restricted in length or regular

```

```

        expression
-->
<xs:complexType
  name="ValueRestriction">
  <xs:sequence>
    <xs:element
      ref="tns:length"
      minOccurs="0" />
    <xs:element
      ref="tns:min-length"
      minOccurs="0" />
    <xs:element
      ref="tns:max-length"
      minOccurs="0" />
    <xs:element
      ref="tns:pattern"
      minOccurs="0" />
  </xs:sequence>
</xs:complexType>
<xs:complexType
  name="ValueAttrib">
  <xs:complexContent>
    <xs:extension
      base="xs:anyType">
      <xs:attribute
        name="value"
        use="required" />
      <xs:attribute
        name="fixed"
        type="xs:boolean"
        use="optional"
        default="false" />
    </xs:extension>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>
<xs:complexType
  name="NumAttrib">
  <xs:complexContent>
    <xs:restriction
      base="tns:ValueAttrib">
      <xs:attribute
        name="value"
        type="xs:nonNegativeInteger"
        use="required" />
    </xs:restriction>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>

<!-- values conform to a regular expression -->
<xs:complexType
  name="Pattern">
  <xs:complexContent>
    <xs:restriction
      base="tns:ValueAttrib">
      <xs:attribute
        name="value"
        type="xs:string"
        use="required" />
    </xs:restriction>
  </xs:complexContent>
</xs:complexType>
<xs:element
  name="length"

```

```

id="_dcs_markdown_workspace_Transform_htmlout_0_nl_ja_com.ibm.wci.cdk.doc_cdk_schema
s_length"
    type="tns:NumAttrib" />
<xs:element
    name="min-length"

id="_dcs_markdown_workspace_Transform_htmlout_0_nl_ja_com.ibm.wci.cdk.doc_cdk_schema
s_minLength"
    type="tns:NumAttrib" />
<xs:element
    name="max-length"

id="_dcs_markdown_workspace_Transform_htmlout_0_nl_ja_com.ibm.wci.cdk.doc_cdk_schema
s_maxLength"
    type="tns:NumAttrib" />
<xs:element
    name="pattern"

id="_dcs_markdown_workspace_Transform_htmlout_0_nl_ja_com.ibm.wci.cdk.doc_cdk_schema
s_pattern"
    type="tns:Pattern" />

<!--      ...Descriptors -->
<!-- ***** -->
<!--
    operationType allows defining endpoint location
    on a per operations basis.
-->
<xs:complexType
    name="operationType">
    <xs:sequence>
        <xs:element
            name="endpoint-location"
            type="xs:string" />
    </xs:sequence>
    <xs:attribute
        name="name">
        <xs:simpleType>
            <xs:restriction
                base="xs:string">
                <xs:enumeration
                    value="testConnection" />
                <xs:enumeration
                    value="listObjects" />
                <xs:enumeration
                    value="describeObject" />
            </xs:restriction>
        </xs:simpleType>
    </xs:attribute>
</xs:complexType>
</xs:schema>

```

ci-connector-api.xsd: エンドポイントにアクセスする前に、アプリケーションが適切なコネクターの API からの呼び出しを使用してコネクターと対話できるようにしておく必要があります。このファイルは、TestConnection、ListObjects、および DescribeObject の各 API の要求/応答タイプを記載したものです。以下に ci-connector-api.xsd ファイルを示します。

```

<xs:schema

id="_dcs_markdown_workspace_Transform_htmlout_0_nl_ja_com.ibm.wci.cdk.doc_cdk_schema
s_ci-cdk-api"
    version="1.0"

```

```

targetNamespace="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/"
xmlns:tns="http://www.approuter.com/schemas/cdk/api/"
xmlns:ccc="http://www.approuter.com/schemas/cdk/config/"
xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:jaxb="http://java.sun.com/xml/ns/jaxb"
xmlns:xjc="http://java.sun.com/xml/ns/jaxb/xjc"
jaxb:extensionBindingPrefixes="xjc"
jaxb:version="2.0"
elementFormDefault="qualified">
<xs:import
  namespace="http://www.approuter.com/schemas/cdk/config/"
  schemaLocation="ci-connector-config.xsd" />
<xs:annotation>
  <xs:appinfo>
    <jaxb:schemaBindings>
      <jaxb:package
name="com.approuter.studio.connectors.cdk.api" />
      </jaxb:schemaBindings>
    </xs:appinfo>
  </xs:annotation>
<xs:complexType>
  name="TestConnection">
    <xs:sequence>
      <xs:element
        name="endpoint"
        type="ccc:EndpointForm" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
<xs:complexType>
  name="TestConnectionResponse">
    <xs:sequence>
      <xs:element
        name="success"
        type="xs:boolean" />
      <xs:element
        name="message"
        type="xs:string" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
<xs:complexType>
  name="ListObjects">
    <xs:sequence>
      <xs:element
        name="endpoint"
        type="ccc:EndpointForm" />
      <xs:element
        name="operation"
        type="xs:string"
        minOccurs="1" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
<xs:complexType>
  name="ListObjectsResponse">
    <xs:sequence>
      <xs:element
        name="objectType"
        type="tns:ObjectType"
        minOccurs="1"
        maxOccurs="unbounded" />
    </xs:sequence>
  </xs:complexType>
<xs:complexType>
  name="ObjectType">

```

```

        <xs:simpleContent>
            <xs:extension
                base="xs:string">
                <xs:attribute
                    name="label"
                    type="xs:string"
                    use="optional" />
            </xs:extension>
        </xs:simpleContent>
    </xs:complexType>
    <xs:complexType
        name="DescribeObject">
        <xs:sequence>
            <xs:element
                name="endpoint"
                type="ccc:EndpointForm"
                minOccurs="1" />
            <xs:element
                name="objectType"
                type="xs:string"
                minOccurs="1" />
            <xs:element
                name="operation-name"
                type="xs:string" />
        </xs:sequence>
    </xs:complexType>
    <xs:complexType
        name="DescribeObjectResponse">
        <xs:sequence>
            <xs:element
                name="object"
                type="ccc:ObjectDescriptor" />
            <xs:element
                name="responseObject"
                type="ccc:ObjectDescriptor" />
        </xs:sequence>
        <!-- local part name of the derived type -->
        <xs:attribute
            name="name"
            type="xs:string" />
        <xs:attribute
            name="description"
            type="xs:string" />
        <!-- namespace of derived type -->
        <xs:attribute
            name="typeNS"
            type="xs:string" />
        <!-- namespace of base/abstract type -->
        <xs:attribute
            name="baseTypeNS"
            type="xs:string" />
        <!-- local part name of base/abstract type -->
        <xs:attribute
            name="baseType"
            type="xs:string" />
    </xs:complexType>
</xs:schema>

```

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_schemas.html

Cast Iron CDK の XML ファイル

XML ファイルは、プラグインが実行するアクティビティを定義します。XML ファイル内の各アクティビティは、WSDL ファイルで定義された操作にマップされている必要があります。

XML は、構造化されたデータを表現および伝送するための、プログラミング言語やソフトウェア・プラットフォーム、ハードウェアなどに左右されないユニバーサル言語として登場しました。開発プロジェクトでは、任意のテキスト・エディター、または XML 対応のオーサリング・ツールを使用して XML ファイルを作成できます。作成するファイルは、スキーマ・ファイルのルールに従っている必要があります、従っていない場合はプラグインが機能しません。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_xmlfiles.html

Cast Iron CDK の WSDL ファイル

WSDL ファイルは、ネットワーク・サービスを一連のエンドポイントとして定義する XML 形式のファイルです。WSDL ファイルには、Web サービスへのアクセス方法が記述され、そのサービスが実行する操作が指定されています。WSDL は、通常、Web サービス・プロバイダーによって作成され、UDDI (Universal Description, Discovery and Integration) レジストリーを通じて提供できます。

プロジェクトを開始するときに、WS-I (Web Service Interoperability) 準拠の WSDL ファイルを開発プラットフォームにインポートして、開発環境でクライアント Web サービス・アプリケーションをビルドするために必要なオブジェクトを生成できるようにしておく必要があります。Web サービス API には、一連のオブジェクトまたは WSDL の型定義と、一連の Web サービス操作が含まれています。

[フィードバック](#) | [特記事項](#)

📅 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>


http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_wsdl.html

Cast Iron CDK の .par ファイル

プラグインは、.par ファイルとしてパッケージ化されます。.par は標準の .zip ファイルです。このファイルの名前を変更し、Studio にインポートします。

.par ファイルには作成したプラグインが格納されます。これは Studio プロジェクトからエクスポートされ、このファイルに、プラグインに含まれるオブジェクトを識別してインベントリーを作成できるようにするインターフェース操作を実装します。配布された .par は、プラグインのディレクトリーに自動的に解凍されます。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

<file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html>

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/par.html>

よくある質問

ここでは、開発プロセスの途中で発生する可能性のある問題の解決に役立つよくある質問をいくつか示します。

Q. 入力アクティビティーを設計時に検出可能にするかどうかは、どうやって判断すればよいですか。

- **A.** アクティビティーに対する入力がオブジェクト・タイプによって異なる場合は、検出可能にするを選択して、入力に抽象型の WSDL エlement またはスキーマ・Element を使用する必要があります。

Q. スキーマまたは WSDL に抽象型の Element が含まれていません。これをファイルに追加するにはどうすればよいですか。

- **A.** WSDL とスキーマには、特定の Element または型を強制的に置換するメカニズムが用意されています。抽象 Element をファイルに追加するには、「`complexType name="MyObject."`」という `complexType` Element を WSDL またはスキーマに追加します。これは必ず入力の型と同じ名前空間で定義してください。

Q. 既存のコネクターを変更することはできますか。

- **A.** コネクターが CDK コネクター・ウィザードで作成されたものであれば、ウィザードを起動してコネクターに新規アクティビティーを追加するか、既存のアクティビティーを修正するだけで、コネクターを更新できます。


Q. 既存のプロジェクトがあります。このプロジェクトに対してウィザードを実行し、オーケストレーションを使用してコネクター・アクティビティーを公開することはできますか。

- **A.** はい。既存のプロジェクトに対してウィザードを実行することはできますが、アクティビティー名が既存のオーケストレーション名と競合しないようにしてください。

Q. コネクターが Studio に表示されません。なぜでしょうか。

- **A.** 多くのエラーは、エラーを確認するだけで修正できます。Studio_Install_dir にあるログ・ファイルで、エラーが発生していないかどうか確認してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_faq.html

サポートの依頼方法

このセクションでは、IBM と IBM 製品に関する情報を入手する方法、および販売担当者と技術サポート担当者に連絡する方法について説明します。

IBM Corporation の Web サイトへは、<http://www.ibm.com> でアクセスできます。

このサイトには、IBM Corporation、同社の経歴、および製品に関する情報が記載されています。また、このサイトには、販売および技術サポートを受けるための連絡先情報も記載されています。


IBM サポートに連絡する前に、以下の条件を満たしていることを確認してください。

- お客様の会社が現在有効な保守契約をお持ちであること。
- お客様が問題の処理依頼を行う権限をお持ちであること。
- お客様がアプライアンスのシリアル番号をお持ちであること。
- お客様がアプライアンスの購入に使用されたカスタマー番号をお持ちであること。

IBM にソフトウェアの問題報告書を提出するには、以下の 2 つの方法のうちいずれかを使用してください。

1. サービス要求 (SR) の問題処理依頼 Web ページを使用します。IBM のユーザー ID とパスワードを使用してサインインする必要があります。
2. 電話で IBM に連絡します。IBM ソフトウェア・サポート・ハンドブックにある各国の連絡先のディレクトリーで、該当するソフトウェア・サポートの電話番号を確認してください。

フィードバック | 特記事項

 最終更新: 2013年11月7日 (木曜日)

file:///dcs/markdown/workspace/Transform/out.html

http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/wci/v7r0m0/topic/com.ibm.wci.cdk.doc/cdk_gettinghelp.html